

QlikView

リファレンス マニュアル

バージョン 11.20 SR13 (Microsoft Windows® 用)

ルンド (スウェーデン) 2015 年

QlikTech International AB 著

Copyright © 1994-2015 Qlik®Tech International AB. All rights reserved.

Qlik™、QlikView™、QlikTech™ および QlikTech のロゴは、複数の国で登録済みの QlikTech International AB の登録商標です。ここで言及されているその他の商標は、それぞれの所有者の登録商標です。

目次とキーワード

第1部はじめに	21
1 始める前に	23
1.1 規則.....	23
1.2 QlikTech サポート サービス.....	24
2 QlikView 11.20 の新機能	25
2.1 一般的な機能.....	25
3 QlikView の旧バージョンとの互換性の問題	27
3.1 ファイル形式の互換性.....	27
3.2 クライアント/サーバーの混在環境.....	27
4 QlikView Personal Edition	29
第2部インストール	31
5 QlikView のインストール	32
5.1 QlikView インストールパッケージ.....	32
5.2 QlikView デスクトップのインストールプログラムのダウンロードと開始.....	33
5.3 インストールプログラムでの操作.....	33
5.4 シリアル化.....	34
5.5 QlikView のネットワーク配布.....	34
5.6 ライセンス認証ファイル エディタ.....	35
5.7 QlikView のアップデート.....	36
6 OLE DB と ODBC	37
6.1 OLE DB.....	37
6.2 ODBC インターフェースが必要となる場合.....	37
6.3 ODBC データ ソースの作成.....	38
第3部ナビゲーションと基本	39
7 QlikView の起動	40
7.1 コマンド ライン構文.....	40
7.2 スタート ページ.....	41
7.3 サーバーへ接続.....	43
7.4 バッチの実行.....	45
8 新規作成ウィザード	47
9 QlikView ファイル	51
9.1 QlikView プロジェクト ファイル.....	51
9.2 ソース管理.....	52
10 メニュー コマンド	55

10.1 [ファイル]メニュー.....	55
10.2 [編集]メニュー.....	60
10.3 [表示]メニュー.....	62
10.4 [選択]メニュー.....	63
10.5 [レイアウト]メニュー.....	64
10.6 [設定]メニュー.....	65
10.7 [ブックマーク]メニュー.....	66
10.8 [レポート]メニュー.....	67
10.9 [ツール]メニュー.....	67
10.10 [オブジェクト]メニュー.....	68
10.11 [ウィンドウ]メニュー.....	68
10.12 [ヘルプ]メニュー.....	69
11 ツールバーとステータスバー.....	73
11.1 ツールバー.....	73
11.2 標準ツールバー.....	73
11.3 ナビゲーションツールバー.....	75
11.4 デザインツールバー.....	76
11.5 シートツールバー.....	79
11.6 ブックマークツールバー.....	79
11.7 ユーザー設定 (ツールバー).....	79
11.8 ステータスバー.....	83
12 ユーザープロパティ.....	85
12.1 ユーザープロパティ：基本設定.....	85
12.2 ユーザープロパティ：保存.....	89
12.3 ユーザープロパティ：エディタ.....	91
12.4 ユーザープロパティ：デザイン.....	94
12.5 ユーザープロパティ：オブジェクト.....	96
12.6 フォント.....	98
12.7 ユーザープロパティ：エクスポート.....	100
12.8 ユーザープロパティ：印刷.....	103
12.9 ユーザープロパティ：メール.....	104
12.10 ユーザープロパティ：パス.....	105
12.11 ユーザープロパティ：セキュリティ.....	107
12.12 ユーザープロパティ：ライセンス.....	108
13 エクスポートと印刷.....	111
13.1 印刷：基本設定.....	111
13.2 印刷：レイアウト.....	112
13.3 印刷：ヘッダー/フッター.....	114
13.4 日付と時間.....	115

13.5 シートの印刷.....	116
13.6 印刷プレビュー.....	116
13.7 コピー モード.....	117
13.8 エクスポート/内容をエクスポート.....	118
14 ロジックと選択.....	119
14.1 1つの項目値の選択.....	119
14.2 色分け.....	119
14.3 選択スタイル.....	120
14.4 インジケータ.....	121
14.5 項目内の複数選択.....	122
14.6 選択の移動.....	122
14.7 選択されている項目値のロック.....	123
14.8 現在の選択条件.....	124
14.9 他のオブジェクトの選択.....	125
14.10 検索.....	127
14.11 [高度な検索] ダイアログ.....	130
14.12 リストボックスのANDモード.....	132
14.13 循環参照.....	133
14.14 疎結合テーブル.....	135
14.15 並列ステート.....	135
15 ブックマーク.....	139
15.1 ブックマークの種類.....	139
15.2 [ブックマークの追加] ダイアログ.....	139
15.3 [ブックマーク] ダイアログ.....	143
15.4 ブックマークのエクスポート.....	146
15.5 ブックマークのインポート.....	146
15.6 並列ステートとブックマーク.....	148
16 レポート.....	149
16.1 [レポート] メニュー.....	150
16.2 レポート編集.....	150
17 アラート.....	171
17.1 アラートの作成.....	171
17.2 アラートの使用.....	171
17.3 アラート.....	172
17.4 [アラート] ダイアログ.....	173
17.5 アラート ウィザード.....	176
18 変数一覧.....	183
19 数式一覧.....	185
20 内部ファイル.....	187

20.1 QlikView レイアウトでのファイル参照.....	187
20.2 QlikView ドキュメントの内部ファイル.....	187
20.3 QlikView プログラム ファイルの内部ファイル.....	187
20.4 サウンド.....	188
第4部ロード スクリプト.....	191
21 データのロードについて.....	192
21.1 ファイルデータのロード.....	192
21.2 データベースからのデータのロード.....	193
21.3 Direct Discovery.....	193
21.4 Direct Discovery とインメモリ データとの違い.....	200
21.5 QlikView Server と Publisher における Direct Discovery.....	205
22 変数および項目.....	207
22.1 項目.....	207
22.2 入力フィールド.....	208
22.3 変数.....	209
22.4 QlikView の他のエンティティ.....	209
23 [ロード スクリプトの編集] ダイアログ.....	211
23.1 Set ステートメントウィザード.....	220
23.2 検索/置換 (ロード スクリプト).....	221
23.3 隠しスクリプト.....	221
23.4 テーブル ビューアー.....	222
23.5 データ リンク プロパティ.....	226
23.6 データ ソースへの接続.....	229
23.7 Select ステートメントの作成.....	230
23.8 ファイルを開く.....	235
23.9 インターネット ファイル/QlikView ドキュメントを開く.....	235
23.10 インライン データ ウィザード.....	237
23.11 アクセス制限 テーブル ウィザード.....	239
23.12 ファイル ウィザード.....	239
24 スクリプト構文.....	271
24.1 スクリプトのステートメントとキーワード.....	271
24.2 テーブル名.....	345
24.3 スクリプト変数.....	346
24.4 ドル記号展開.....	356
24.5 スクリプトでの引用符.....	358
25 スクリプト式.....	361
25.1 演算子.....	361
25.2 集計関数.....	364

25.3 その他の関数.....	384
26 データ構造.....	459
26.1 データロードのステートメント.....	459
26.2 スクリプトの実行.....	459
26.3 システム項目.....	459
26.4 論理テーブル.....	461
26.5 論理テーブル間の関連付け.....	462
26.6 項目名の変更.....	464
26.7 複数テーブルを1つに連結.....	466
26.8 Join と Keep.....	467
27 ロードされたデータの評価.....	473
27.1 汎用データベース.....	473
27.2 クロス テーブル.....	474
27.3 不連続データと間隔の一致.....	476
27.4 SCD (穏やかに変化する軸) の問題を拡張された IntervalMatch 構文を使用して解決.....	477
27.5 階層構造.....	479
27.6 セマンティックリンク.....	481
27.7 項目値への情報のリンク.....	484
27.8 データ クレンジング.....	485
27.9 データ内のワイルドカード.....	487
27.10 QlikView での Null 値の処理.....	489
27.11 文字セット.....	492
28 QVD ファイル.....	493
28.1 QVD ファイルの使用目的.....	493
28.2 QVD ファイルの作成.....	494
28.3 QVD ファイルからのデータの読み取り.....	494
28.4 QVD ファイルを使用した増分ロード.....	495
29 セキュリティ.....	501
29.1 認証と承認.....	501
29.2 QlikView Publisher によるセキュリティ.....	501
29.3 QlikView ロード スクリプトのセクション アクセスによるセキュリティ.....	501
29.4 ロード スクリプトのセクション.....	502
29.5 セクション アクセスのアクセス レベル.....	502
29.6 セクション アクセスのシステム項目.....	502
29.7 QlikView 機能の制限.....	505
29.8 動的データ削除.....	505
29.9 アクセス制限の継承.....	506
29.10 暗号化.....	506

第5部シートとシート オブジェクト	507
30 ドキュメントプロパティ	508
30.1 ドキュメントプロパティ：基本設定.....	508
30.2 ドキュメントプロパティ：起動画面.....	517
30.3 ドキュメントプロパティ：シート.....	519
30.4 ドキュメントプロパティ：サーバー.....	521
30.5 入力ボックスプロパティ：制約とドキュメントプロパティ：変数.....	525
30.6 ドキュメントプロパティ：セキュリティ.....	528
30.7 ドキュメントプロパティ：トリガー.....	530
30.8 ドキュメントプロパティ：グループ.....	533
30.9 ドキュメントプロパティ：テーブル.....	535
30.10 ドキュメントプロパティ：ソート.....	538
30.11 ドキュメントプロパティ：プレゼンテーション.....	539
30.12 ドキュメントプロパティ：数値書式.....	541
30.13 ドキュメントプロパティ：暗号化.....	543
30.14 ドキュメントプロパティ：拡張機能.....	544
30.15 フォント.....	545
30.16 レイアウト.....	546
30.17 キャプション.....	552
31 シート	555
31.1 作成.....	555
31.2 ナビゲーション.....	555
31.3 シート：[オブジェクト]メニュー.....	556
31.4 シートプロパティ.....	556
31.5 シートプロパティ：基本設定.....	557
31.6 リストボックスの追加/シートプロパティ：項目.....	559
31.7 シートプロパティ：オブジェクト.....	560
31.8 シートプロパティ：セキュリティ.....	562
31.9 シートプロパティ：トリガー.....	563
31.10 タブプロパティ.....	564
32 シート オブジェクト	565
32.1 ローカル オブジェクトとサーバー オブジェクト.....	566
32.2 [オブジェクト]メニュー.....	566
32.3 ノートとコメント.....	566
32.4 Microsoft Office へのドラッグ アンド ドロップ.....	566
33 リスト ボックス	569
33.1 リストボックス：オブジェクトメニュー.....	569
33.2 リストボックスプロパティ：基本設定.....	573

33.3 リストボックスプロパティ：数式	579
33.4 リストボックスプロパティ：ソート	586
33.5 リストボックスプロパティ：プレゼンテーション	587
33.6 プロパティ：数値書式	590
33.7 フォント	592
33.8 レイアウト	593
33.9 キャプション	597
33.10 リストボックスツリー構造	600
33.11 Direct Discovery を使用したリストボックスおよびテーブルボックスの作成方法	601
34 統計ボックス	603
34.1 統計ボックス：オブジェクトメニュー	603
34.2 統計ボックスプロパティ：基本設定	606
34.3 統計ボックスプロパティ：数値書式	609
34.4 フォント	610
34.5 レイアウト	610
34.6 キャプション	610
35 マルチボックス	611
35.1 マルチボックス：オブジェクトメニュー	611
35.2 マルチボックスプロパティ：基本設定	615
35.3 マルチボックスプロパティ：[ソート]	617
35.4 マルチボックスプロパティ：プレゼンテーション	618
35.5 マルチボックスプロパティ：数値書式	623
35.6 フォント	624
35.7 レイアウト	624
35.8 キャプション	624
36 テーブルボックス	625
36.1 テーブルボックスの使用	625
36.2 テーブルボックス：オブジェクトメニュー	625
36.3 テーブルボックスプロパティ：基本設定	631
36.4 テーブルボックスプロパティ：[ソート]	633
36.5 テーブルボックスプロパティ：[プレゼンテーション]	634
36.6 チャートプロパティ：スタイル	636
36.7 テーブルボックスプロパティ：数値書式	637
36.8 フォント	638
36.9 レイアウト	638
36.10 キャプション	639
37 選択表示ボックス	641
37.1 選択表示ボックス：オブジェクトメニュー	641
37.2 選択表示ボックスプロパティ：基本設定	644

37.3 フォント.....	646
37.4 レイアウト.....	646
37.5 キャプション.....	646
38 入力ボックス.....	647
38.1 入力ボックスの使用.....	647
38.2 入力ボックス：オブジェクトメニュー.....	647
38.3 入力ボックスプロパティ：基本設定.....	650
38.4 入力ボックスプロパティ：プレゼンテーション.....	652
38.5 入力ボックスプロパティ：制約とドキュメントプロパティ：変数.....	653
38.6 入力ボックスプロパティ：数値書式.....	655
38.7 フォント.....	656
38.8 レイアウト.....	656
38.9 キャプション.....	656
39 ボタン.....	657
39.1 ボタン：[オブジェクト]メニュー.....	657
39.2 ボタンプロパティ：基本設定.....	659
39.3 アクション.....	661
39.4 フォント.....	671
39.5 レイアウト.....	671
39.6 キャプション.....	671
40 テキストオブジェクト.....	673
40.1 テキストオブジェクト：オブジェクトメニュー.....	673
40.2 テキストオブジェクトプロパティ：基本設定.....	675
40.3 アクション.....	679
40.4 フォント.....	679
40.5 レイアウト.....	679
40.6 キャプション.....	679
41 線/矢印オブジェクト.....	681
41.1 線/矢印オブジェクト：[オブジェクト]メニュー.....	681
41.2 線/矢印オブジェクトプロパティ：基本設定.....	682
41.3 アクション.....	684
41.4 レイアウト.....	684
41.5 キャプション.....	684
42 スライダー/カレンダーオブジェクト.....	685
42.1 スライダー/カレンダーオブジェクトの使用.....	685
42.2 スライダー/カレンダーオブジェクト：オブジェクトメニュー.....	685
42.3 スライダー/カレンダーオブジェクトプロパティ：基本設定.....	687
42.4 スライダー/カレンダーオブジェクトプロパティ：プレゼンテーション(スライダーモード).....	690

42.5 スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ : プレゼンテーション (カレンダー モード)...	692
42.6 ソート.....	692
42.7 数値.....	692
42.8 フォント.....	693
42.9 レイアウト.....	693
42.10 キャプション.....	693
43 ブックマーク オブジェクト.....	695
43.1 並列ステートのブックマーク オブジェクト.....	695
43.2 ブックマーク オブジェクト : [オブジェクト] メニュー.....	695
43.3 ブックマーク オブジェクト プロパティ : 基本設定.....	697
43.4 フォント.....	700
43.5 レイアウト.....	700
43.6 キャプション.....	700
44 検索オブジェクト.....	701
44.1 検索オブジェクト : [オブジェクト] メニュー.....	701
44.2 検索オブジェクト プロパティ : 基本設定.....	703
44.3 検索オブジェクト プロパティ : プレゼンテーション.....	705
44.4 検索オブジェクト プロパティ : ソート.....	706
44.5 フォント.....	707
44.6 レイアウト.....	707
44.7 キャプション.....	707
45 コンテナ.....	709
45.1 コンテナ オブジェクト : オブジェクト メニュー.....	709
45.2 コンテナ オブジェクト プロパティ : 基本設定.....	711
45.3 コンテナ プロパティ : プレゼンテーション.....	714
45.4 フォント.....	715
45.5 レイアウト.....	715
45.6 キャプション.....	716
46 カスタム オブジェクト.....	717
46.1 カスタム オブジェクト : [オブジェクト] メニュー.....	717
46.2 カスタム オブジェクト プロパティ : 基本設定.....	719
46.3 レイアウト.....	720
46.4 キャプション.....	720
47 サーバー オブジェクト パネル.....	721
47.1 パネルの設定.....	721
47.2 共有オブジェクト.....	722
47.3 オブジェクトの追加と共有.....	722
48 レイアウト テーマ.....	725
48.1 QlikView のレイアウト テーマについて.....	725

48.2 レイアウトでのテーマの適用.....	726
48.3 テーマ作成ウィザード.....	727
第6部チャート.....	731
49 はじめに.....	732
49.1 チャートの追加.....	734
49.2 チャートとテーブル内での選択.....	735
49.3 チャートの種類のクイック切り替え.....	736
49.4 チャート コンポーネントのサイズ変更と移動.....	736
49.5 チャート プロパティ.....	737
49.6 チャート プロパティ：基本設定.....	738
50 棒グラフ.....	743
50.1 チャートの追加.....	743
50.2 棒グラフ：オブジェクトメニュー.....	743
50.3 基本設定.....	746
50.4 チャート プロパティ：軸.....	747
50.5 チャート プロパティ：軸の制限.....	753
50.6 チャート プロパティ：数式.....	757
50.7 チャート プロパティ：ソート.....	770
50.8 チャート プロパティ：スタイル.....	771
50.9 チャート プロパティ：プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メック チャー ト).....	774
50.10 チャート プロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メック チャート).....	782
50.11 チャート プロパティ：色.....	785
50.12 チャート プロパティ：数値書式.....	789
50.13 フォント.....	790
50.14 レイアウト.....	790
50.15 キャプション.....	790
51 折れ線グラフ.....	791
51.1 チャートの追加.....	791
51.2 折れ線グラフ：オブジェクトメニュー.....	792
51.3 基本設定.....	794
51.4 軸.....	795
51.5 軸の制限.....	795
51.6 数式.....	795
51.7 ソート.....	795
51.8 スタイル.....	795
51.9 チャート プロパティ：プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メック チャー ト).....	796
51.10 目盛線.....	799

51.11 色.....	799
51.12 数値.....	799
51.13 フォント.....	799
51.14 レイアウト.....	800
51.15 キャプション.....	800
52 コンボ チャート.....	801
52.1 コンボ チャート : オブジェクトメニュー.....	801
52.2 基本設定.....	804
52.3 軸.....	805
52.4 軸の制限.....	805
52.5 数式.....	805
52.6 ソート.....	805
52.7 スタイル.....	805
52.8 チャート プロパティ : プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャー ト).....	806
52.9 目盛線.....	809
52.10 色.....	809
52.11 数値.....	809
52.12 フォント.....	809
52.13 レイアウト.....	810
52.14 キャプション.....	810
53 レーダーチャート.....	811
53.1 レーダーチャート : オブジェクトメニュー.....	811
53.2 基本設定.....	814
53.3 軸.....	815
53.4 軸の制限.....	815
53.5 数式.....	815
53.6 ソート.....	815
53.7 スタイル.....	815
53.8 チャート プロパティ : プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャー ト).....	816
53.9 目盛線.....	819
53.10 色.....	819
53.11 数値.....	819
53.12 フォント.....	819
53.13 レイアウト.....	820
53.14 キャプション.....	820
54 散布図.....	821
54.1 散布図 : オブジェクトメニュー.....	821

54.2 基本設定	824
54.3 軸	825
54.4 軸の制限	825
54.5 チャートプロパティ：数式 (散布図)	825
54.6 ソート	826
54.7 スタイル	826
54.8 チャートプロパティ：プレゼンテーション (散布図 - グリッドチャート)	826
54.9 チャートプロパティ：目盛線 (散布図 - グリッドチャート)	831
54.10 色	833
54.11 数値	834
54.12 フォント	834
54.13 レイアウト	834
54.14 キャプション	834
55 グリッドチャート	835
55.1 グリッドチャート：オブジェクトメニュー	835
55.2 軸	838
55.3 軸の制限	839
55.4 数式	839
55.5 ソート	839
55.6 スタイル	839
55.7 チャートプロパティ：プレゼンテーション (散布図 - グリッドチャート)	839
55.8 目盛線	844
55.9 色	844
55.10 数値	844
55.11 フォント	844
55.12 レイアウト	845
55.13 キャプション	845
56 円グラフ	847
56.1 円グラフ：オブジェクトメニュー	847
56.2 軸	850
56.3 軸の制限	851
56.4 数式	851
56.5 ソート	851
56.6 スタイル	851
56.7 チャートプロパティ：プレゼンテーション (円グラフ)	851
56.8 色	853
56.9 数値	853
56.10 フォント	853
56.11 レイアウト	853

56.12 キャプション.....	853
57 ファネルチャート.....	855
57.1 ファネルチャート：オブジェクトメニュー.....	855
57.2 基本設定.....	858
57.3 軸.....	859
57.4 軸の制限.....	859
57.5 数式.....	859
57.6 ソート.....	859
57.7 スタイル.....	859
57.8 チャートプロパティ：プレゼンテーション(ファネルチャート).....	860
57.9 色.....	862
57.10 数値.....	862
57.11 フォント.....	862
57.12 レイアウト.....	862
57.13 キャプション.....	862
58 ブロックチャート.....	863
58.1 ブロックチャート：オブジェクトメニュー.....	863
58.2 基本設定.....	866
58.3 軸.....	867
58.4 軸の制限.....	867
58.5 数式.....	867
58.6 スタイル.....	867
58.7 チャートプロパティ：プレゼンテーション(ブロックチャート).....	867
58.8 色.....	869
58.9 数値.....	869
58.10 フォント.....	870
58.11 レイアウト.....	870
58.12 キャプション.....	870
59 ゲージチャート.....	871
59.1 ゲージチャート：オブジェクトメニュー.....	871
59.2 基本設定.....	874
59.3 軸.....	874
59.4 数式.....	874
59.5 ソート.....	874
59.6 スタイル.....	874
59.7 チャートプロパティ：プレゼンテーション(ゲージチャート).....	875
59.8 アクション.....	878
59.9 色.....	878
59.10 数値.....	878

59.11	フォント	879
59.12	レイアウト	879
59.13	キャプション	879
60	メッコチャート	881
60.1	メッコチャート：オブジェクトメニュー	881
60.2	基本設定	883
60.3	軸	884
60.4	軸の制限	884
60.5	数式	884
60.6	ソート	884
60.7	スタイル	884
60.8	チャートプロパティ：プレゼンテーション (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)	885
60.9	目盛線	888
60.10	色	888
60.11	数値	888
60.12	フォント	888
60.13	レイアウト	889
60.14	キャプション	889
61	ピボットテーブル	891
61.1	ピボットテーブルの使用	891
61.2	ピボットテーブル：オブジェクトメニュー	895
61.3	基本設定	899
61.4	軸	899
61.5	数式	899
61.6	ソート	899
61.7	チャートプロパティ：プレゼンテーション (ピボットテーブル)	899
61.8	チャートプロパティ：条件付き書式	902
61.9	チャートプロパティ：スタイル	903
61.10	数値	904
61.11	フォント	904
61.12	レイアウト	904
61.13	キャプション	904
62	ストレートテーブル	905
62.1	ストレートテーブルの使用	905
62.2	ストレートテーブル：オブジェクトメニュー	906
62.3	基本設定	909
62.4	軸	909
62.5	軸の制限	909

62.6 数式	909
62.7 チャートプロパティ：ソート(ストレートテーブル)	910
62.8 チャートプロパティ：プレゼンテーション(ストレートテーブル)	911
62.9 チャートプロパティ：条件付き書式	914
62.10 チャートプロパティ：スタイル	915
62.11 数値	916
62.12 フォント	916
62.13 レイアウト	916
62.14 キャプション	916
63 [数式の編集] ダイアログ	917
63.1 [ファイル]メニュー	920
63.2 [編集]メニュー	921
63.3 [設定]メニュー	921
63.4 配色ウィザード	921
64 箱ひげ図ウィザード	925
64.1 箱ひげ図ウィザードによるデータの定義	925
64.2 箱ひげ図ウィザードのプレゼンテーション	926
65 クイックチャートウィザード	927
65.1 クイックチャートウィザードの起動	927
66 タイムチャートウィザード	937
66.1 タイムチャートウィザードの起動	937
67 統計チャートウィザード	945
67.1 統計チャートウィザードの起動	945
67.2 カイ二乗検定	945
67.3 2標本t検定	946
67.4 独立標本t検定	947
68 Direct Discovery を使用したチャート作成方法	949
69 チャートの数式	951
69.1 並列ステートとチャートの数式	952
69.2 テキスト展開変数	953
69.3 演算子	954
69.4 チャート集計関数	957
69.5 合成軸関数	999
69.6 その他の関数	999
70 例	1033
70.1 集計修飾子の例	1033
70.2 concat関数の例	1034
70.3 チャート式における並列ステートの例	1035
70.4 チャートの順位付け関数の例	1037

70.5	チャートのレコード関数の例	1041
71	ネストされた集計と関連事項	1047
72	計算式	1053
72.1	計算式の入力	1053
72.2	エラー メッセージ	1053
72.3	計算式	1053
73	項目グループ	1055
73.1	階層グループ (ドリルダウン)	1055
73.2	非階層グループ (サイクリック)	1056
74	カスタム エラー メッセージ	1059
第7部	数値書式	1061
75	QlikView のデータ型	1062
75.1	QlikView 内のデータ表現	1062
75.2	データ型変換	1062
75.3	日付と時刻	1065
76	変換関数と書式設定関数の書式コード	1069
76.1	数値	1069
76.2	日付	1069
76.3	Times	1070
76.4	日時	1070
第8部	マクロと自動化	1073
77	QlikView でのオートメーションとマクロの使用	1074
77.1	QlikView オートメーション インターフェース	1074
77.2	オートメーションとマクロによる QlikView の制御	1074
78	内部マクロ インタープリタ	1077
78.1	マクロの呼び出し	1077
78.2	JScript の特別なライブラリ関数	1078
78.3	モジュールの編集	1079
78.4	マクロ デバッガ	1082
79	QlikView ドキュメントの取得	1085
79.1	外部からの QlikView ドキュメントへのアクセス	1085
79.2	内部マクロ インタープリタからの QV ドキュメントへのアクセス	1085
80	スクリプトからの VBScript 関数の呼び出し	1087
80.1	パラメータの転送	1088
81	QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用	1089
81.1	QlikView Server 上のマクロ	1089
81.2	マクロ機能の制限	1089

81.3 マクロ トリガーの制限.....	1089
81.4 VBScript 関数.....	1090
81.5 サーバー側エクスポート.....	1090
第9部付録.....	1091
A 制限と要件.....	1092
A.1 ロードされるデータ量の制限.....	1092
A.2 システム要件.....	1092
A.3 必要なダイナミックリンク ライブラリ (DLL).....	1092
B キーボード コマンド ショートカット.....	1093
B.1 [ファイル] メニュー コマンドのショートカット.....	1093
B.2 [編集] メニュー コマンドのショートカット.....	1094
B.3 [表示] メニュー コマンドのショートカット.....	1094
B.4 [選択] メニュー コマンドのショートカット.....	1094
B.5 [設定] メニュー コマンドのショートカット.....	1095
B.6 [ブックマーク] メニュー コマンドのショートカット.....	1095
B.7 [ツール] メニュー コマンドのショートカット.....	1095
B.8 [オブジェクト] メニュー コマンドのショートカット (リスト ボックス、統計ボックス、開 かれているマルチ ボックス).....	1095
B.9 スクリプト用キーボード ショートカット.....	1095
B.10 ファンクション キーのキーボード ショートカット.....	1096
C アプリケーション パフォーマンスの最適化.....	1097
C.1 はじめに.....	1097
C.2 Count (Distinct 'FieldName').....	1097
C.3 If (Condition(Text),.....)	1098
C.4 Sum (If (Condition, 'FieldName'...)).....	1098
C.5 If (Condition, Sum('FieldName')..)	1099
C.6 If (Condition1, Sum('FieldName'), If (Condition2, Sum('FieldName')... ..)	1099
C.7 テキストのソート.....	1100
C.8 動的なキャプションおよびテキスト オブジェクト.....	1101
C.9 マクロのトリガー ("変更時").....	1101
D よくある質問.....	1103
D.1 インストール.....	1103
D.2 QlikView ドキュメント.....	1104
D.3 スクリプトとデータのロード.....	1105
D.4 QlikView ロジック.....	1106
D.5 レイアウト.....	1107
D.6 他のユーザーとの QlikView ドキュメントの共有.....	1108
E データ保護問題.....	1111

E.1 データセキュリティと統合.....	1111
E.2 データを変更する権限.....	1111
E.3 データを表示する権限.....	1111
E.4 データ整合性.....	1112
F 疎結合テーブルの意図的な作成.....	1113
G BNF.....	1115
用語集.....	1117
索引.....	1137

第1部はじめに

1 始める前に

QlikView へようこそ。QlikView は、情報をさまざまなデータ ソースから取得して分析および使用できるデータ アクセス ソリューションです。

QlikView を使用すると、大規模で複雑なデータ セットを処理している場合でも、容易にその全体像を把握したり、関係を見つけることができます。さまざまなソースから情報を取得して統合し、その情報をネットワークを介してすばやく利用することができます。ユーザーが望む適切な情報を取得できます。連想技術を使用して、対話型プレゼンテーションやあらゆる種類の情報の分析に対応する固有のインターフェースを作成できます。

QlikView は、人間の脳の働きに似た方法で情報を管理します。人間の脳と同様に、処理している情報の中に連想関係が次第に作成されていきます。質問事項を決定するのはデータベースではなくユーザー自身です。目的の項目をクリックするだけで、詳細な情報を入手できます。

従来のほとんどの情報検索システムでは、トップダウン方式が要求されますが、QlikView では、データ構造内のデータの場所には関係なく任意のデータから検索を開始できます。

従来のシステムでデータを取得することは、多くの場合、データベースの構造やクエリ言語の構文についての幅広い知識を必要とする複雑なタスクです。このため、事前に定義された検索ルーチンに頼らざるを得ないことがよくあります。QlikView は、この制限を大幅に取り除きました。マウスをクリックするだけで、画面に表示されているデータを自由に選択することができます。

QlikView の用途は多様な分野にわたります。このプログラムの使用方法を決定するのはユーザー自身です。QlikView を使用することで、さまざまなデータベース (独自データベース/外部データベース、中央データベース/ローカルデータベースなど) の統一かつ一貫したデータの全体像を得ることができます。QlikView は、事実上すべてのデータベースに対応しています。

QlikView では、次の操作を実行できます。

- 情報ウェアハウスとの柔軟なエンド ユーザー インターフェースの作成
- データリレーションのスナップショットの取得
- データに基づくプレゼンテーションの作成
- 動的なグラフィカル チャートおよびテーブルの作成
- 統計分析の実行
- データと説明やマルチメディアのリンク
- 独自のエキスパート システムの構築
- 複数のソースの情報をマージした新しいテーブルの作成
- 独自のビジネス インテリジェンス システムの構築

今日、QlikView アプリケーションは、財務システム、人事管理、市場分析、カスタマー サポート、プロジェクト管理、生産管理、在庫棚卸、購買処理などで使用されています。さまざまなアプリケーションを組み合わせ、まったく新しい情報の全体像を得ることもできます。

1.1 規則

QlikView を使用する前に、ドキュメントで使用される用語と表記規則について理解しておくことが重要です。このセクションでは、いくつかの用語について説明します。

一般規則

- "選択" という用語は、ツールバーまたはダイアログのメニュー コマンドを実行する場合に使用します。
- また、ユーザーの次のアクションによって影響されるリスト内またはシート上のオブジェクトを強調表示する場合に使用します。さらに、項目値を強調表示し、データ内で論理的な選択を行う場合にも使用します。
- 番号付きリスト (1、2、3 など) は、2 つ以上の連続する手順を示します。
- このリストのような記号付きリストは、手順以外の情報を提供します。

マウスの規則

- このマニュアルの説明では、マウスの左ボタンを主マウス ボタンとして設定し、マウスの右ボタンを副マウス ボタンとして設定しています (これは、Windows のデフォルトです)。
- "... をポイントする" は、カーソルの先端部分が参照先のオブジェクトを指し示すまでマウス (カーソル) を移動することを意味します。
- "... をクリックする" は、参照先のオブジェクトをポイントしてから、その位置でマウス ボタンを押してすぐに放すことを意味します。
- "... をダブルクリックする" は、マウス ボタンを 2 回続けてすばやくクリックすることを意味します。
- "右クリック" は、マウスの右ボタンをクリックすることを意味します。

キーボードの規則

- キーの名前は頭文字を大文字で表します (例: 「Enter キーを押してください」)。
- QlikView では、return キーと enter キーは同じアクションを実行します。
- 2 つのキー名の間で使用されるプラス記号 (+) は、2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl+S の場合は、Ctrl キーを押しながら s を押します。
- 2 つのキー名の間で使用されるカンマ記号 (,) は、2 つのキーを順番に押すことを示します。

1.2 QlikTech サポート サービス

製品サポートおよびアプリケーション開発に関する特別なトレーニングやご相談については、下記までお問い合わせください。サポート サービスの連絡先に関する最新情報は、当社のホームページを参照してください。ホームページには次のアドレスからアクセスできます。

<http://www.qlikview.com>.

QlikTech International 本社

QlikTech International 電話: +1 (888)-828-9768

150 N. Radnor Chester Road ファックス: 610-975-5987

Suite E220

Radnor, PA 19087

USA

その他の各地域の連絡先については、当社のホームページを参照してください (上記を参照)。

2 QlikView 11.20 の新機能

QlikView 開発チームは前回同様、ユーザー、顧客、およびパートナーの意見や提案を参考にしております。ユーザーから寄せられた意見を参考にして QlikView 11.20 を開発した結果、新機能が追加され、さらなる改良が行われています。

我々は、QlikView がすべてのユーザーにとって優れた製品であると確信しています。新機能の主なものは以下の通りです。

2.1 一般的な機能

Direct Discovery

ビジネスユーザーは QlikView Direct Discovery を利用することで、無限のスケーラビリティのもと、分析に役立つあらゆるデータを活用することができます。また、Business Discovery を実行することで、データの量やサイズに関係なく、データの視覚分析を行うことが可能となります。このユニークなハイブリッドアプローチの採用により、ビッグデータソースに保存されているデータを、QlikView のインメモリモデルに保存されている追加データソースとともに直接関連付けることができるようになりました。

新しいスクリプトステートメント「DIRECT QUERY」が、Direct Discovery フォームのデータに接続するために導入されました。QlikView ではこの特殊なスクリプト構文を用いて、どのデータがインメモリに存在するか、そしてどのデータが Direct Discovery データであるかが特定されます。これにより、スクリプトのリロードプロセスにおいて、スクリプト構文によって指定された特定のデータ要素は QlikView データモデルにロードされなくなりますが、ユーザーインターフェースの QlikView オブジェクトではこれらをクエリ目的で使用できるほか、QlikView インメモリデータセットでの分析用にこれらを組み合わせることも可能です。

Direct Discovery 構造が確立した時点で、Direct Discovery データを、共通する項目名を持つインメモリデータと結合することができるようになります。これで、Direct Discovery とインメモリデータセットの双方において、連想に基づいたナビゲーションが可能となります。

詳細については、*Direct Discovery (193 ページ)* を参照してください。

3 QlikView の旧バージョンとの互換性の問題

開発チームは、以前のバージョンから QlikView 11 への移行をできる限り円滑に進めるため、ありとあらゆる努力を重ねてきました。我々はこの点において成功したと確信し、実際に QlikView 7.52、8、9 および 10 からの移行は円滑に行われると考えています。このドキュメントでは、いくつかの注意点を示します。

3.1 ファイル形式の互換性

QlikView 7、8、9、10 および 11 のファイル形式の互換性

QlikView 7.52 以降は QlikView 11 と同じファイル形式を共有しています。これらのバージョンでは、互換性について実際には考えずに平行して作業できます。もちろん、新しい QlikView 11 のドキュメント機能は QlikView 7.52、8、9 または 10 では機能しませんが、QlikView 11 のドキュメントを旧バージョンで開いたり編集しても、その機能は維持されます。すべての機能は、Microsoft Office のファイルがこれまで機能してきたのと同じように機能します。

以前のバージョンのファイル形式の読み取りの互換性

QlikView 11 は、QlikView 7.52 以降で作成されたすべての QlikView ファイルを開きます。それより前のバージョンの QlikView からファイルを開く必要がある場合は、QlikView 7.52 を経由させる必要があります。プログラムのベンダーから無料の QlikView 7.52 をお取り寄せください。開発チームは、新しいバージョンのドキュメントの外観を可能な限り以前のバージョンと同じようにするために努力しています。ただし、追加された機能によっては、以前のドキュメントの外観が変更されている場合もあります。

QlikView 11 での以前のファイル形式の保存

QlikView 11 では、ドキュメントを QlikView 7.52 よりも前のバージョンのファイル形式で保存することはできません。

3.2 クライアント/サーバーの混在環境

QlikView 11 と QlikView 7/8/9/10

QlikView Server 7.52 以降は QlikView 11 クライアントとシームレスに機能し、QlikView Server 11 は QlikView 7.52 以降のクライアントとシームレスに機能します。ただし、QlikView 11 の特定の機能を使用するためには、バージョン 7.51 のサーバーとクライアントの両方が必要となります。QlikView 11 は、QlikView 7.51 以前のクライアントとは互換性がありません。

以前のバージョン

QlikView Server 11 は、QlikView 6 クライアントとは互換性がありません。QlikView Server 6 は、QlikView 11 クライアントとは互換性がありません。

4 QlikView Personal Edition

QlikTech の提供する QlikView パーソナル エディションは、個人利用を目的とする QlikView の無料バージョンです。個人や学生、または小規模なスタート アップ用となります。QlikView パーソナル エディションは、QlikView デスクトップ製品そのもので、同じインストールパッケージを使用します。唯一の違いは、QlikView パーソナル エディションはライセンス キー無しに起動することになります。QlikView ライセンスの購入を決めた時点で、ソフトウェアの追加や QlikView ドキュメントへの変更を必要とすることなく、インストールされた QlikView パーソナル エディションが自動的に QlikView デスクトップとなります。

QlikView パーソナル エディションを使用するにあたって期間や機能といった制限はありませんが、QlikView ドキュメントの扱いに関しては注意すべき点があります。QlikView パーソナル エディションでは、すべてのドキュメントがそのファイルをファイルが作成されたコンピュータに結びつけるユーザー キーとともに保存されます。これは次のような意味となります。

- QlikView パーソナル エディションは、そのインストールされた QlikView を使用して作成されたファイルのみ開くことができます。これはつまり、QlikView パーソナル エディションでは自分の QlikView ドキュメントを別のコンピュータで使用できないこと、自分の QlikView ドキュメントをライセンスを持たない他のユーザーと共有できないこと、また、他のユーザーの QlikView ドキュメントを開くことができないことを意味します (QlikTech がパーソナル エディション用に用意したドキュメントは除く)。ですが、QlikView パーソナル エディションで作成したドキュメントをライセンスを持った QlikView デスクトップで使用することはできますし、QlikView Server で公開することもできます。
- ドキュメントの全体的なレイアウト (XML 形式のシート/オブジェクト/セキュリティ設定など。データは含まれません) を QlikView パーソナル エディションにインポートすることはできません。

コンピュータを変えた場合、QlikView パーソナル エディションで過去に作成したドキュメントは開くことができなくなります。この場合、ファイルを復元させる選択を行えます。ファイルの復元とは、新しいユーザー キーを生成して古いドキュメントに適用し、その特定のファイルだけでなく続くファイルすべてに使用することを意味します。ファイルの復元後には、そのファイルを作成した元のコンピュータでは使用できなくなります。

QlikView はドキュメントで 4 回までユーザー キーの変更を認めます。その後は、"Key length has reached its maximum" というエラー メッセージが表示され、ドキュメントを開くことができなくなります。初めから作り直すしか方法はありません。

そのため、自分が作成したのではない QlikView ドキュメント (フォーラムで得たものや同僚が作成したものなど) を復元するべきではありません。残る復元施行数を 1 回使用することになります。

QlikView パーソナル エディションのユーザーとしてソフトウェアをいつでも新しいバージョンにアップグレードし、自分のドキュメントで作業を続けることができます。新しいバージョンは **QlikView ダウンロード ページ** からダウンロードでき、既存のコンピュータにインストールできます。

注意！

復元施行数を使い果たした場合、新しいバージョンをダウンロードしても同じバージョンを再度ダウンロードしてもその数はリセットされません。

QlikView パーソナル エディションのユーザーは QlikTech から電話や電子メールによるサポートを受ける資格がありませんが、アクティブなユーザー コミュニティである QlikCommunity を通じて QlikView のサポートを得ることができます。メンバーはすべての内容にアクセスできますが、フォーラムへの質問の投稿、ファイルのダウンロードおよびトレーニングへの参加には **登録** を行う必要があります。QlikCommunity の **Share QlikViews** セクションには数多くの QlikView アプリケーションが提供され、QlikView の新しい、変わった、または楽しい使い方を学ぶ助けとなっています。これらのアプリケーションはすべて QlikView パーソナル エディションで使用できるようになっています。

QlikView の機能について学ぶ最も効果的な方法のひとつとして QlikView チュートリアルがあります。数式の例や、一連のコード、デザインのアドバイスといった役立つヒントが提供されています。チュートリアルやそれに類似するファイルは QlikView ダウンロード ページからダウンロードできます。これらのドキュメントも QlikView パーソナル エディションに適応しています。

第2部インストール

5 QlikView のインストール

QlikView を購入すると、必要なシリアル番号とコントロール番号に関する情報と共にライセンス使用許諾書が電子メールで送られます。

サポートされているオペレーティング システムおよびその他のシステム要件については、付録 (1091 ページ)を参照してください。

5.1 QlikView インストール パッケージ

QlikView インストールパッケージには、次のような種類がありますので、いずれかを選択してください。

QlikView デスクトップ、QlikView Server、QlikView WorkBench、QlikView WebParts といったインストールパッケージが、32 ビットと 64 ビットバージョンで用意されています。

QlikView Server、QlikView WorkBench、QlikView WebParts、QlikView Automation に関する詳細は、それぞれのマニュアルを参照してください。

QlikView Desktop インストール パッケージ

QlikView Desktop インストールパッケージには次のコンポーネントが含まれています。

- QlikView アプリケーション
- QlikView Internet Explorer プラグイン
- QlikView テーマ
- QlikView の例
- ヘルプ ファイルはどの言語バージョンもユーザー インターフェースから選択できます。
- QlikView リファレンス マニュアル(英語)

インストールの際に **[カスタム]** を選択すると、インストールするコンポーネント数を減らすことができます。

QlikView マニュアルとチュートリアル パッケージ

QlikView マニュアルは個別にダウンロードとインストールが可能です。QlikView リファレンス マニュアルに記載されている情報の多くは、QlikView の標準インストールの際に自動的にロードされるヘルプ ファイルにも格納されています。ヘルプ ファイルはあらゆる言語で利用可能で、ユーザー インターフェースから選択できます。

完全なマニュアルとチュートリアルのインストールパッケージには次のコンポーネントが含まれています。

- QlikView Server リファレンス マニュアル
- QlikView WorkBench リファレンス マニュアル
- QlikView WebParts リファレンス マニュアル
- Qlik View Automation リファレンス マニュアル
- QlikView リファレンス マニュアル(あらゆる言語で利用可能で、ユーザー インターフェースから選択可能)

- QlikView チュートリアル(あらゆる言語で利用可能で、ユーザー インターフェースから選択可能)
- API ガイド(COM APIについて説明した QlikView ドキュメント)

完全な QlikView Desktop マニュアルとチュートリアルのインストールパッケージにはは次のコンポーネントが含まれています。

- QlikView リファレンス マニュアル(あらゆる言語で利用可能で、ユーザー インターフェースから選択可能)
- QlikView チュートリアル(あらゆる言語で利用可能で、ユーザー インターフェースから選択可能)
- API ガイド(COM APIについて説明した QlikView ドキュメント)

完全な QlikView Desktop マニュアルとチュートリアルのインストールパッケージにはは次のコンポーネントが含まれています。

- QlikView リファレンス マニュアル(特定の言語で利用可能)
- QlikView チュートリアル(特定の言語で利用可能)

5.2 QlikView デスクトップのインストールプログラムのダウンロードと開始

次の手順を実行します。

1. www.qlikview.com/download に移動して、QlikView Desktop インストールパッケージを選択します。
2. 登録、もしくはログインを行い QlikView のダウンロードを行います。
3. Setup.exe ファイルをダブルクリックし、インストールを開始します。

インストールプログラムが起動します。

5.3 インストールプログラムでの操作

1. 最初に、ドロップダウン リストから希望するインストール 言語を選択し、**[OK]** をクリックします。
2. しばらく待って、インストールの準備が整ったらダイアログが表示されます。
3. **[ようこそ]** ダイアログが開きますので、記載されている情報を読んだら **[次へ]** をクリックします。
4. ソフトウェアのライセンス使用許諾書が開きます。内容を読んで**[ライセンス使用許諾に同意します]** をクリックし(同意する場合) 、**[次へ]** をクリックします。
5. **[ユーザー情報]** ダイアログで、インストールの個人設定を指定します。**次へ** ボタンをクリックして進みます。
6. プログラム インストール用のデフォルト フォルダではない別のフォルダにインストールしたい場合は、**[インストール先フォルダ]** ダイアログで **[変更]** をクリックして、別フォルダを指定します。**[次へ]** をクリックします。
7. **[セットアップの種類]** ダイアログが表示されます。**[すべて]** を選択すると、前の手順で指定したフォルダに、QlikView プログラムとそのヘルプ ファイル、QlikView Internet Explorer プラグイン、QlikView 機能の使用例がインストールされます。**[カスタム]** を選択した場合は、**[次へ]**

をクリックすると、インストールする機能とインストールする場所を指定できるダイアログが表示されます。機能を選択し、**次へ**をクリックします。

8. インストールを開始する準備ができました。[**インストール**]をクリックすると、インストールが開始されます。
9. 最後に表示されるダイアログで **終了** をクリックしてインストール処理を完了します。

注意！

QlikView をインストールしたアカウントで必ず QlikView ライセンスを入力する必要があります。そうしないと、正しく機能しない場合があります。

インストールのログ

Setup.exe を起動させると、ユーザーの temp フォルダにログ ファイルが書き込まれます。ログ ファイルには、x86 バージョンの場合 QlikViewx86.wil、x64 バージョンの場合 QlikViewx64.wil というファイル名が付けられます。インストールをする度に新しいファイルが生成され、古いログ ファイルは上書きされます。

QlikView 設定ファイル

バージョン 10 では、QlikView の設定はすべてレジストリではなくファイルに保存されます。Settings.ini ファイルは、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8 の場合、C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView にあります。それ以前のシステムの場合、ファイルは、C:\Documents and Settings\username\Application Data\QlikTech\QlikView にあります。

QlikView OCX の設定は同じファイルにあります。

5.4 シリアル化

QlikView Server から QlikView ライセンスを取得する場合、または QlikView が Personal Edition の場合は、登録の必要はありません。ただし、製品のライセンス番号を取得して **ユーザー プロパティ : ライセンス** ページで入力することが可能です。登録された QlikView では、Qlikview Server に長期間 (30 日間以上) 接続しなくてもオフラインで作業することが可能です。詳細については、QlikView ベンダーにお問い合わせください。

注意！

シリアル番号の登録の手順にはネットワークへのアクセスが必要ですが、任意で電話による対応も可能です。

いったん QlikView のコピーをインストールし、オプションでシリアル化すると、プログラムの使用を開始できます。

5.5 QlikView のネットワーク配布

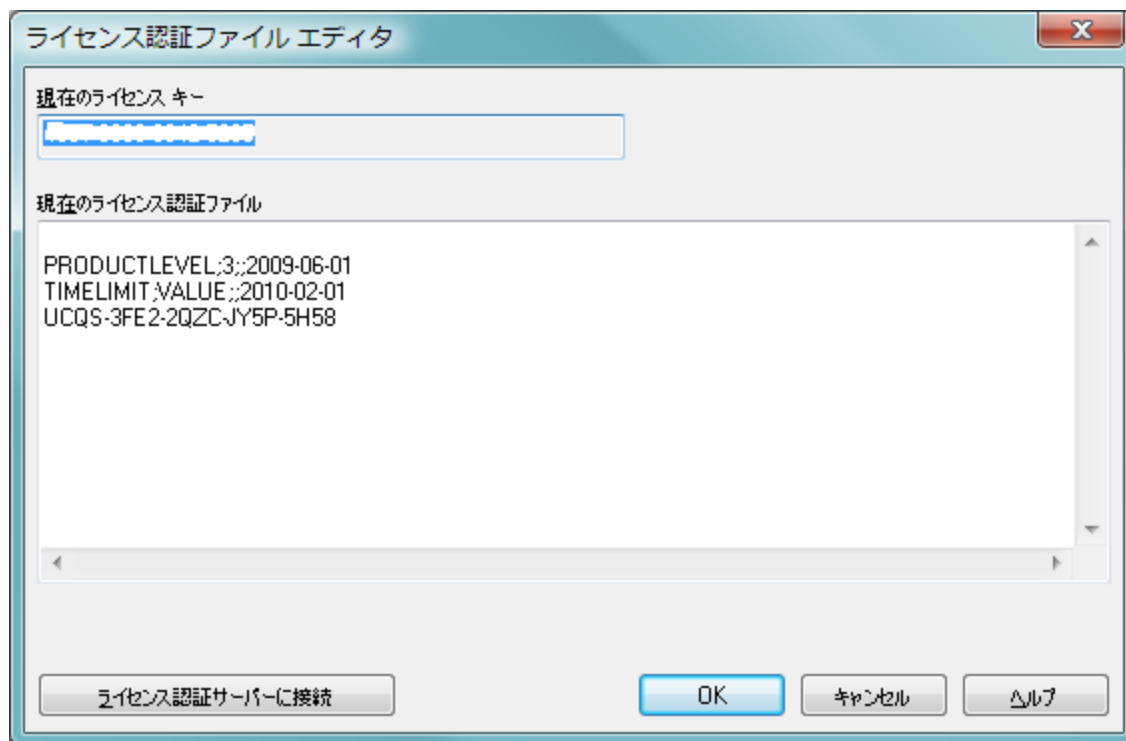
このタイプのインストールは、所有しているライセンス数が多く、すべてのユーザーが同じバージョンの QlikView を実行するようにしたい場合に便利です。この場合でも、各ユーザーは、個別のライセンス番号を持つ必要があります。

QlikView インストールを配布するには、実行可能なインストールファイルが必要です。ライセンスキーとコントロールナンバーが必要になるのは、クライアントコンピュータで QlikView の最初のセッションを開始してからです。

QlikView 11 は Microsoft Windows インストーラーのテクニック(MSI パッケージ) を使用します。MSI パッケージのインストール方法の詳細については、<http://msdn.microsoft.com> で Windows インストーラに関するページを参照してください。

5.6 ライセンス認証ファイル エディタ

[ヘルプ] メニューの [ライセンス更新] からライセンスの更新とライセンス認証ファイルの確認ができます。これにはネットワークアクセスは不要です。



ライセンス認証ファイル エディタ

このダイアログでは、ライセンス認証ファイルを表示または編集できます。

現在のライセンス キー

QlikView ライセンスの **現在のライセンス キー**。通常は、元のプログラムのインストール時に入力します。またインストール後に、**ユーザー プロパティ : ライセンス** ページから入力、編集することができます。ライセンス キーを購入するしないで QlikView を起動することも可能です。この場合、QlikView Server (Named CAL) からライセンスをリースするか、QlikView パーソナル エディションが必要です。

現在のライセンス認証ファイル

ライセンス キーをアクティブ化 (有効化) するために必要な、インストール済みライセンスに関連する情報を含むテキスト ファイル。

ライセンス認証サーバーに接続

上記の **現在のライセンス認証ファイル** テキスト編集ボックスが空の場合、このボタンをクリックして **ライセンス認証サーバー** に接続します。

ライセンス認証ファイルのトラブルシューティング

ライセンス認証ファイル (LEF ファイル) は、QlikView ライセンス キーの有効性を確認するために必要です。ライセンス キーの初期化中に、インターネットを介して QlikTech LEF サーバーに接続します。指定されたライセンス情報がチェックアウトすると、LEF ファイルが自動的にコンピュータに転送されます。通常的环境下では、LEF 手続きはバックグラウンドで実行されるため、その実行に気付くことはほとんどありません。ただし、LEF サーバーに接続できない場合やファイアウォールによって LEF ファイルの転送が妨げられた場合は、この手続きが失敗することがあります。このようなことが起こると、**[ライセンス認証 未完了]** ダイアログが表示され、発生した問題について知らせてくれます。

有効な LEF ファイルを取得する権利があるのに通常の手続きでは取得できない場合は、代わりに QlikTech サポートから直接取得できます。テキスト ファイルを LEF エディタに直接コピーする場合は、テキストの末尾に空白が含まれないようにしてください。

5.7 QlikView のアップデート

QlikView の **ヘルプ** メニューには、**QlikView Update...** オプションがあります。これを選択すると、インターネット上の QlikView アップデート サイトが開き、アップデート可能な QlikView が表示されます。アップデート情報は、お持ちの QlikView ライセンスとご利用の OS によって異なります。

6 OLE DB と ODBC

6.1 OLE DB

QlikView は、外部データソースに接続するための OLE DB インターフェースをサポートしています。ODBC ドライバの Microsoft OLE DB プロバイダを介して数多くの外部データベースにアクセスできます。

6.2 ODBC インターフェースが必要となる場合

一般的なデータベースにアクセスする場合は、ODBC (Open DataBase Connectivity) インターフェースがインストールされている必要があります。また、データベースのデータを QlikView で読み取り可能なファイルにエクスポートする場合にも、ODBC インターフェースが必要です。

通常、オペレーティングシステムには、いくつかの ODBC ドライバがインストールされています。また、ドライバを追加する場合は、ソフトウェア販売店から購入したり、インターネットで見つけたり、DBMS 製造元から配布を受けるなどして入手できます。無料で再配布されているドライバもあります。

ここでは、クライアントコンピュータ上にある ODBC インターフェースについて説明します。ODBC を使用してネットワークサーバー上のマルチユーザー リレーショナルデータベースにアクセスする場合、クライアントがサーバー上のデータベースにアクセスできるようにするには、DBMS ソフトウェアを追加することが必要になる場合があります。必要なソフトウェアの詳細については、DBMS 供給元に問い合わせてください。

QlikView は 32 ビット ODBC ドライバと 64 ビット ODBC ドライバの両方で動作します。ただし、プログラムのバージョンに対応する ODBC ドライバを使用することが重要です。QlikView の 32 ビットバージョンは 32 ビット ODBC ドライバでのみ動作します。ただし、QlikView の 64 ビットバージョンは 32 ビット ODBC ドライバと 64 ビット ODBC ドライバの両方で動作することに注意してください。

正しい ODBC ドライバがインストールされていることの確認

64 ビットプラットフォームでは、32 ビットと 64 ビットの両方のアプリケーションを使用できます。また、32 ビットと 64 ビットの両方の ODBC ドライバを実行できます。

64 ビットバージョンの ODBC と QlikView を使用している場合は、**[管理ツール]** の **[コントロールパネル]** に **[ODBC データソースアドミニストレータ]** があります。

32 ビットバージョンの ODBC と QlikView を使用している場合は、実行可能ファイル odbcad32.exe を使用して 32 ビット用の ODBC アドミニストレータを起動する必要があります。このファイルは、SysWOW64 フォルダ (通常、c:\windows\SysWOW64) にあります。

Microsoft によれば、64 ビットバージョンのオペレーティングシステムでは、system32 フォルダ (通常、c:\windows\system32) には 64 ビットファイルのみが格納されています。32 ビットバージョンのファイルもある場合、ファイルは syswow64 フォルダにあります。詳細については、<http://technet.microsoft.com> を参照してください。

32 ビットのオペレーティングシステムでは、すべてのファイルとドライバが 32 ビットであるため、設定は非常に単純です。

システムには、**ODBC データ ソース アドミニストレータ** がインストールされています。(64 ビットオペレーティング システム上で 32 ビット ODBC を使用する場合は、odbcad32.exe を起動します)。

[**ドライバ**] タブに移動して、インストールされているドライバを確認します。



[**ODBC データ ソース アドミニストレータ**] ダイアログの [**ドライバ**] ページ

[**ドライバ**] ページで必要なドライバが見つからない場合は、ソフトウェア供給元に連絡して正しいドライバを入手してください。

6.3 ODBC データ ソースの作成

アクセスするデータベースの ODBC データ ソースを作成する必要があります。作成は、ODBC インストール時に行うことも、後で行うこともできます。

データ ソースの作成を開始する前に、データ ソースをユーザー データ ソースとシステム データ ソースのどちらにするかを決定する必要があります。ユーザー データ ソースは、正しいユーザー ID でログオンしないとアクセスできません。データ ソースを他のユーザーと共有する場合は、システム データ ソースを作成する必要があります。

1. [**ODBC データ ソース アドミニストレータ**] ダイアログを開きます。
2. ユーザー データ ソースを作成する場合は **ユーザー DSN** タブ、システム データ ソースを作成する場合は **システム DSN** タブに移動します。
3. [**追加**] ボタンをクリックします。[**データ ソースの新規作成**] ダイアログが表示され、インストールされている ODBC ドライバのリストが表示されます。
4. 正しい ODBC ドライバがリストされている場合は、それを選択して [**OK**] ボタンをクリックします。選択したデータベース ドライバに固有のダイアログが表示されます。データ ソースに名前を付け、必要なパラメータを設定します。準備ができれば、[**OK**] ボタンをクリックします。

第3部ナビゲーションと基本

7 QlikView の起動

スタートメニュー、プログラムから、もしくはQlikView ドキュメントをダブルクリックして QlikView を起動します。

コマンドラインから QlikView を起動する場合は、次のセクションで説明するパラメータを使用します。

7.1 コマンドライン構文

QlikView のコマンドライン呼び出しは、次の構文で記述できます (使用される構文表記の説明については、BNF (1115 ページ) を参照)。

```
[ path ]Qv.exe[ { switch } documentfile ]
```

path は、ファイルのパスを現在のディレクトリへの絶対パスまたは相対パスで指定します。

documentfile ::= [path] documentfilename

documentfilename は、ドキュメント ファイルの名前です。

switch は、以下のさまざまなオプションを示すために使用します。

/r

スイッチをリロードします。ドキュメントが開かれ、スクリプトがリロードされます。その後、ドキュメントが保存され、QlikView は自動的に閉じます。

/rp

上記と同じですが、リロードを部分的に行います。

/l

新しいデータをロードします。ドキュメントが開かれ、スクリプトがリロードされます。ドキュメントは保存されず、QlikView は閉じません。

/lp

上記と同じですが、リロードを部分的に行います。

/v

このスイッチが変数名と代入式の直後にある場合、スクリプトの実行を開始する前に、代入された値が変数によって取得されます。

/nodata

変数とテーブル、項目のデータを含まずにドキュメントを開きます。この機能は、スタートページ (41 ページ) の [最近使用したドキュメント] でも使用できます。

/NoSecurity

悪意のあるマクロやスクリプトに対抗するために QlikView ドキュメントに埋め込まれている QlikView セキュリティ対策を無効にします。害を及ぼす可能性があるコードを受け付けるかどうかをユーザーに確認する警告ダイアログは表示されません。このスイッチは、既知のドキュメントに対してのみ慎重に使用してください。

例：

```
qv.exe /r/vMyvar=123 abc.qvw
```


注意!

バッチ モードでスクリプトを実行する際にエラー メッセージが表示されないようにするため、スクリプトのスクリプト変数 `errormode` は必ず 0 に設定してください (エラー変数 (354 ページ) を参照)。

7.2 スタート ページ

スタート ページには、以下のテーブルに記載されている複数のセクションが含まれています。

例	QlikView をさまざまな方法でどのように使用するかを学ぶためにチェックできます。
最近使用	<p>最近開いたドキュメントと Web ページのリストがあります。リストのいずれかをクリックするだけで、再度開くことができます。ドキュメントを右クリックすると、次の便利なコマンドを含むメニューにアクセスできます。</p> <p>データを含まない "document" を開く</p> <p>テーブルと項目データを読み込まずにドキュメントを開きます。すべてのシートとシート オブジェクトが配置されたレイアウトが表示されますが、中身は空です。この機能は、たとえば、破損したドキュメントを開く場合や、サイズの非常に大きいドキュメントのレイアウトを少し変更するだけのために、ドキュメントを開くのに長時間待たされるのを避ける場合に便利です (もちろん、ドキュメントにデータを追加するには、変更を行った後にスクリプトを再実行する必要があります)。これは、コマンドラインスイッチ <code>nodata</code> (コマンドライン構文 (40 ページ)) で行うことができます。</p> <p>"document" を開き、データをリロードする</p> <p>ドキュメントを開き、直ちにリロードを実行します。</p> <p>フォルダ内のドキュメントを参照する</p> <p>ドキュメントが含まれているフォルダをリスト表示で開きます。</p> <p>"document" をお気に入り添加到する</p> <p>ドキュメントまたは Web ページをお気に入りリストに追加します。</p> <p>リストから "document" を削除する</p> <p>最近使用したドキュメントのリストからドキュメントを削除します。実際のドキュメント ファイルは、現在ある場所に変更されずに残ります。</p>

お気に入り

お気に入りリストに以前に追加したドキュメントと Web ページのリストがあります。最近使用したドキュメントのリストと異なり、お気に入りリストは項目を明示的に追加または削除しない限り、変更されません。お気に入りリストのドキュメントまたはページをクリックするだけで、再度開くことができます。ドキュメントを右クリックすると、次の便利なコマンドを含むメニューにアクセスできます。

データを含まない "document" を開く

変数とテーブル、項目データを読み込まずにドキュメントを開きます。すべてのシートとシート オブジェクトが配置されたレイアウトが表示されますが、中身は空です。この機能は、たとえば、破損したドキュメントを開く場合や、サイズの非常に大きいドキュメントのレイアウトを少し変更するだけのために、ドキュメントを開くのに長時間待たされるのを避ける場合に便利です (もちろん、ドキュメントにデータを追加するには、変更を行った後にスクリプトを再実行する必要があります)。これは、コマンドラインスイッチ `nodata` で行うこともできます。

"document" を開き、データをリロードする

ドキュメントを開き、直ちにリロードを実行します。

フォルダ内のドキュメントを参照する

ドキュメントが含まれているフォルダをリスト表示で開きます。

お気に入りから "document" を削除する

お気に入りリストからドキュメントを削除します。実際のドキュメントファイルは、現在ある場所に変更されずに残ります。

追加学習

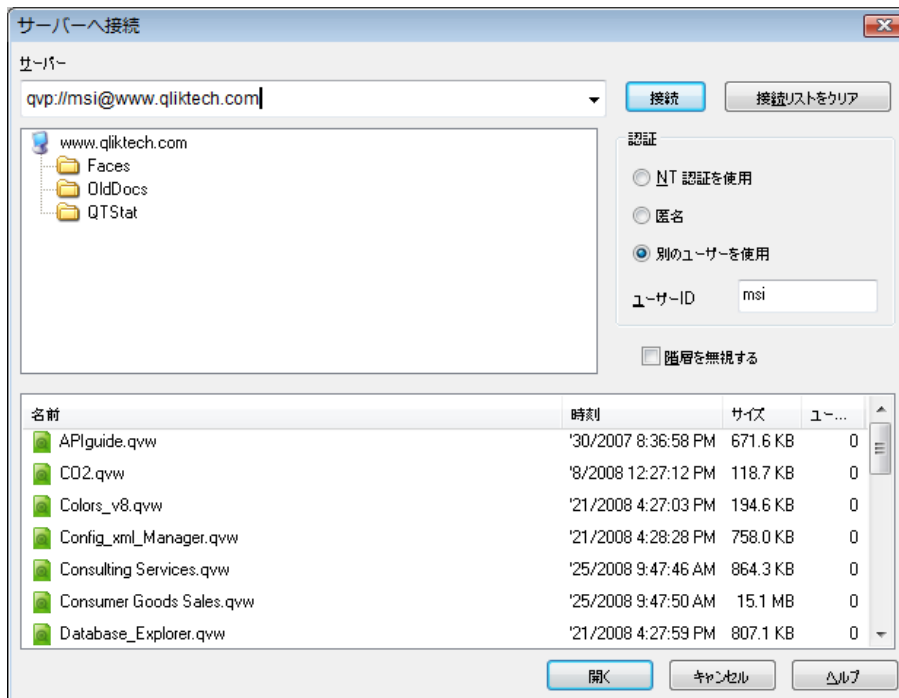
QlikView についてさらに詳しく学ぶためのガイドや他のリソースが含まれています。チュートリアルやオンライントレーニング、QlikView Community などがあります。

新しいドキュメントを作成したい場合は、**新規ドキュメント** ボタンをクリックしてください。

QlikView は、最後に使用したタブを記憶するため、次回 QlikView を起動したときには、そのタブがスタートページに表示されます。プログラムを起動したときにスタートページが表示されない場合、**QlikView の起動時にスタートページを表示する** チェックボックスをオフにします。

スタートページは開いたままにすることができ、その場合、スタートページは**ウィンドウメニューにスタートページ**として表示されます。スタートページを閉じた場合は、**ヘルプメニューからスタートページの表示**を選択して、いつでも再度開くことができます。

7.3 サーバーへ接続



[サーバーへ接続] ダイアログ

このダイアログは、QlikView Server 上の QlikView ドキュメントをリモートで開くために使用します。QlikView Server のクライアントとしてドキュメントを開く場合は、ローカルドキュメントを開く場合に比べて、ドキュメントに対して実行できる操作が制限されます。クライアントは、ドキュメントが共有機能をサポートしているかどうかによって、シートオブジェクトを追加または削除できないことがあります。シートを追加または削除することはできません。さらに、大部分のプロパティダイアログとロードスクリプトにアクセスすること、マクロを変更すること、またはドキュメントを保存することができません。

サーバー に、QlikView Server を実行しているコンピュータの名前またはコンピュータへの URL を入力します。次に **[接続]** をクリックして接続します。最近参照したサーバーをドロップダウンリストから取得できます。URL には、このページの下で説明する **接続用疑似 URL** : (44 ページ) に従って、追加の接続データを挿入できます。

接続すると、ダイアログの中央のパネルに QlikView Server 上の使用できるドキュメントフォルダが表示されます。フォルダをクリックすると、使用できるドキュメントがダイアログの一番下のパネル **名前** に表示されます。ドキュメントを開くには、ドキュメントをダブルクリックするか、ドキュメントを選択して **[開く]** ボタンをクリックします。

接続リストをクリア ボタンは **スタート ページ** の **最近使用したサーバー** にあるリストを削除します。

認証

QlikView Server への認証方法を選択します。
次の 3 つの認証方法が利用できます。

NT 認証を使用

認証されている NT ID を使用します。これは、コンピュータが QlikView Server と同じ Windows NT ドメインに接続している場合にのみ機能します。

匿名

匿名ログインを使用します。QlikView Server が匿名ユーザーを許可するように設定されている場合にのみ接続できます。また、QlikView Server の匿名アカウントに対してファイルの許可を付与したドキュメントのみを参照できます。**[サーバー]** の接続用の疑似 URL には、サーバー名の前に @ を付けて入力する必要があります。

ユーザーを指定

QlikView Server のドメインに登録されている特定の NT ユーザー名を使用します。ユーザー名を **[ユーザーID]** 編集ボックスに入力します。**接続** ボタンを押すと、対応するユーザーのパスワードが求められます。**[サーバー]** の接続用の疑似 URL には、サーバー名の前にユーザー名@ を付けて入力する必要があります。

階層を無視する

このチェックボックスをオンにすると、ダイアログの下部のパネルに、ツリービュー形式を使用せずにすべてのサブフォルダの内容を一度に表示します。

接続用疑似 URL:

サーバーから開く ダイアログまたはリンク ファイルのいずれかを経由して、Windows クライアントから QlikView Server に接続する場合は、疑似 URL をドキュメント アドレスとして使用します。

構文は次のとおりです。

qvp://[[username][@]]hostname[:port|;protocol]/docname

ここで

username は Windows のユーザー ID ですパラメータはオプションです。

hostname は、ホストコンピュータの名前です。パラメータは必須です。

documentname は QlikView ドキュメントの名前 (qvw 拡張子は除く) です。パラメータはオプションです。

port (4749 など) は、サーバーで使用される特定のポートを指定できます

protocol (http など) は、トンネリングプロトコルを指定できますパラメータはオプションです。

username が付かない @ は、匿名 ID を表します。

ユーザー ID を省略すると、ログインした Windows ID が使用されます。

7.4 バッチの実行

QlikView ドキュメントを定期的に (たとえば、毎晩) 更新する必要がある場合は、QlikView Server または QlikView Publisher で実行するのが最適です。

QlikView Server

QlikView は、QlikView の情報をホストし、インターネットやイントラネットを通して共有するプラットフォームを提供します。QlikView Server は、QlikView と強固に統合され、データ分析技術のシームレスなスイートをエンドユーザーに提供します。QlikView Server のサーバー コンポーネントはこの技術の中心として、複数のユーザー、クライアント、ドキュメント、そしてオブジェクトにセキュリティのかかった安全な環境で接続する、しっかり中央管理された QlikView ドキュメントのコミュニティを供給します。

QlikView Publisher

QlikView Publisher は、QlikView 製品ファミリのメンバーでコンテンツとアクセスを管理します。エンドユーザーに最新の情報を表示し、QlikView ドキュメントをパワフルな方法で管理できる QlikView Publisher は、QlikView スイートの付加機能です。

QlikView Publisher は、QlikView ドキュメントに保存されたデータを組織の内外のユーザーに配布します。データを削除することにより、各ユーザーにそのユーザーに関連した情報を表示できます。QlikView Publisher のサービスとユーザー インターフェースは、QlikView Server と QlikView マネージメント コンソール (QMC) に完全に統合されています。

QlikView Server または QlikView Publisher にアクセスがない場合、スタンドアロン アプリケーションにて QlikView ドキュメントをリロードできます。そのためには、コマンドライン構文 (40 ページ) で説明するコマンドラインスイッチを使用します。

スケジュールプログラム

Windows には **タスク スケジューラ** サービスがあります。これらのサービスは、管理ツール (Windows 7 および Windows 8)、コントロールパネルのコンピュータの管理アプレット (Windows Vista) またはコントロールパネル (Windows XP) から直接コントロールします。関連するサービスの **[状態]** が **[開始]** (再起動後に自動起動させるサービスの場合は、さらに **[スタートアップの種類]** が **[自動]**) に設定されていることを確認します。

通常、バッチ ジョブを送信する最も簡単な方法は、関連するコマンドを使用してバッチ ファイルを作成する方法です。たとえば、MyBatch.cmd というファイルに次のようなコマンドを含めることができます。

```
C:\qlikview\qv.exe /r C:\qlikview\example\file.qvw
```

スケジュール サービス

スケジュール サービスは、通常、システム アカウントで実行されるため、いくつかの制限があります。ネットワークリソースにアクセスする必要がある場合は、サービスを再設定して別のアカウントで実行するようにしてください。QlikView ライセンスは、アカウント専用フォルダに格納されているため、使用するアカウントに対してライセンスが正しく登録されるようにする必要があります。それにはインタラクティブ ジョブを送信します。

タスクをスケジュールする詳細については使用しているオペレーティング システムのマニュアルを参照してください。

セクション アクセス

Serial	User	Password	Access
CREATOR			Admin
4600 9999 9999 9999	Joe	ppp789	Admin
*	Joe	qqq456	User
*	User	rrr123	User

セクション アクセスを含む QlikView ファイルを再実行する場合は、バッチを実行するマシン上にインストールされているライセンス シリアル番号が、ユーザー名またはパスワードを入力しなくてもスク립トの実行を許可されるかどうかを確認してください。上記の例を参照してください。section access の詳細については、セキュリティ (501 ページ) を参照してください。

ODBC

ODBC を使用する場合は、再実行を行うアカウントから DSN 定義を使用できるようにしてください。そのための最も簡単な方法は、ODBC コントロール パネルで DSN をシステム DSN として定義することです。

8 新規作成ウィザード

新規作成ウィザードでは、次のステップに従ってデータのロードやチャートの作成を行い、QlikView ドキュメントを作成します。

ステップ 1 - データソースの選択	47 ページ
ステップ 2 - データのプレゼンテーション	47 ページ
ステップ 3 - ファイルの保存	48 ページ
ステップ 4 - チャートの種類の選択	48 ページ
ステップ 5 - チャートの自動入力	48 ページ
ステップ 6 - 選択を行うためにオブジェクトを追加	49 ページ

新規作成ウィザードの起動

QlikView ドキュメントの新規作成を行うと、新規作成ウィザードが起動します。

QlikView ドキュメントの新規作成時にウィザードを表示するかどうかを、ウィザードの最初のページで設定できます。この設定は、**ユーザー プロパティ ダイアログ (設定 メニューから開きます)** でも行えます。

ステップ 1 - データソースの選択

ウィザードで取り扱えるファイルは Excel ファイルのみです。データ ファイルを **参照** します。ロードできるのは Excel ファイルの最初のシートのみとなりますのでご注意ください。データが Excel 形式でない場合、**スクリプト エディタ** を使用してデータを選択する必要があります。

弊社からデータを借りて使用する必要がある場合は、**データを挿入** をクリックしてください。

次のステップ をクリックして続行します。

ステップ 2 - データのプレゼンテーション

データを確認し、Excel シートの 1 行目を列見出しとするか、新規に入力するかを選択します。列のヘッダーは、**項目名** と呼ばれます。

データソースで定義されているヘッダーを使用するには、**ファイルのデータを列見出しとして使用する** を選択します。新規に列のヘッダーを作成する場合、**列見出しを追加する** を選択します。各列には、A、B といった形式のヘッダーが付けられます。新しいヘッダーを入力するには、見出し (例えば、A) をクリックし、新しい見出しを入力します。ヘッダーをそのままにするには Enter をクリックします。

次のステップ をクリックして続行します。

ステップ 3 – ファイルの保存

名前を付けて保存 ダイアログで、QlikView ファイルを保存するフォルダを参照し、ファイル名を入力します。

保存 ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。

ファイルパスを変更するには、**名前をつけて保存** ボタンをクリックし、**名前をつけて保存** ダイアログを再度開きます。

次のステップをクリックして続行し、チャートを作成します。

ステップ 4 – チャートの種類の選択

作成するチャートに対応するアイコンをクリックし、チャートの種類を選択します。QlikView で最もよく使用されるチャートの種類から選択できます。ウィザード終了後、チャートの **チャートプロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類のチャートに変更できます。

次のステップをクリックして続行します。

注意!

このステップで、**戻る** ボタンは無効となります。

ステップ 5 – チャートの自動入力

軸

ドロップダウン ボックスで軸を選択します。

軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義します。軸は、通常、テーブルチャートでは左側、棒グラフなどでは x- 軸に表示されます。

数式

チャートの数式は、チャートの計算値を定義します。数式は、通常、テーブルチャートの右側、棒グラフなどでは y- 軸に表示されます。

QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。このステップでは、3 つのよく使用される数式から選択を行えます。

合計値の計算：

sum(Sales) といった項目の数値合計を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップダウン リストで合計する項目を選択します。

平均値の計算：

avg(Score) といった項目の数値の平均を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップダウン リストで計算する項目を選択します。

数値のカウント：

count(OrderID) といった項目で値の数を表示する場合は、このオプションを選択します。次に、ドロップダウン リストでカウントする値の項目を選択します。

チャートをもうひとつ作成したい場合は、**2 番目のチャートを作成**をクリックします。これによりステップ 4 に戻ります。

次のステップをクリックして続行します。

ステップ 6 – 選択を行うためにオブジェクトを追加

選択を行うために使用したいオブジェクトの種類を選びます。

リスト ボックス：

リストボックスを作成したい項目を選択します。このウィザードでは最高 5 つの項目を選択できますが、ドキュメントの作成後はさらに項目を追加できます。

テーブル ボックス：

このオプションでは、自動的に利用可能な項目をすべて含めて、テーブルに配置します。

作成をクリックしてウィザードを閉じ、ドキュメントを作成します。

ウィザード終了後は、**チャートプロパティ** ダイアログからいつでも軸と数式の追加や変更が可能になります。チャートプロパティを開くには、チャートを右クリックし、**プロパティ**を選択します。

9 QlikView ファイル

QlikView ドキュメントは、データの分析に必要な次のものがすべて含まれたファイルです。

- データそのもの
- QlikView ファイルをデータソースの新しいデータで更新するために必要なスクリプト
- シート、リストボックス、チャートなどのすべてを含むレイアウト情報
- ドキュメントアラート、ドキュメントブックマーク、およびドキュメントレポート
- アクセス制限情報
- マクロモジュール

このため、QlikView ファイルを使用すると情報を簡単に配布できます。分析は、元のデータの場所やネットワークの状態とは無関係に行うことができます。QlikView ドキュメントは、オリジナルのデータソースへのアクセス権の無いユーザーと情報を共有するための手段です。

9.1 QlikView プロジェクト ファイル

QlikView ドキュメントを複数のファイルに保存し、バージョンングに使用することができます。それぞれのファイルが、ドキュメントやシート、オブジェクト、ロードスクリプトなどのプロパティを定義します。

ドキュメントが開かれ、オブジェクトや設定に変更が加えられるたびに、これらの変更は異なるファイルに保存され、ドキュメントの変更履歴を追跡しやすくします。これにより、ドキュメントのどの場所に誰が変更を加えたかを確認することもできます。

これらのプロジェクトファイルを作成するには、QVW ファイルと同じ場所に、QlikView ドキュメントと同じ名前に -prj を追加したフォルダを作成する必要があります。例えば、Finance.qvw ドキュメント用のプロジェクトフォルダは、Finance-prj となります。

注意!

プロジェクトファイルに、ドキュメントファイルのデータが保存されることはありません。

プロジェクトフォルダ内のファイル

QlikViewProject.xml ファイルには、QlikView ドキュメントのすべてのオブジェクトが保存されます。

リスト上、異なるシート名やオブジェクト名はオブジェクト ID から付けられています。プロジェクトファイルは次のとおりです。

- QlikViewProject.xml - プロジェクトに含まれるすべてのファイルのリストが含まれます。
- AllProperties.xml
- DocProperties.xml
- DocInternals.xml
- TopLayout.xml
- LoadScript.txt - ドキュメントのロードスクリプトが含まれます
- Module.txt - ドキュメントのマクロコード (存在する場合) が含まれます
- Module.txt - 各シートごとに一つのファイルが作成されますさらにファイルには、シート上のすべてのシート オブジェクトへの参照が含まれます。

- 各シート オブジェクト用に独立したファイルが作成されます。
 - LB<id>.xml
 - SB<id>.xml
 - MB<id>.xml
 - TB<id>.xml
 - CH<id>.xml
 - IB<id>.xml
 - CS<id>.xml
 - BU<id>.xml
 - TX<id>.xml
 - LA<id>.xml
 - SL<id>.xml
 - SO<id>.xml
 - BM<id>.xml
 - CT<id>.xml
 - RP<id>.xml

DocProperties.xml や AllProperties.xml、DocInternals.xml、TopLayout.xml には、ドキュメントの異なる部分のプロパティ 設定が含まれます。DocBinary.dat には、パスワードといったユーザーの機密情報が含まれます。

9.2 ソース管理

QlikView Desktop はソース管理システムに接続できます。QvMsscciProvider.exe と QvSvnProvider.exe は、この操作で使用されるプロバイダで、QlikView 11 SR1 以降のソース管理機能を Microsoft Team Foundation Server と Subversion の双方に提供します。

いったんソース管理システムに接続されると、QlikView 管理者はソース管理にプロジェクトを追加できます。追加の間に行われるのは以下の通りです。

- QlikView ドキュメントの保存
- プロジェクトフォルダの作成
- プロジェクトフォルダへのプロジェクト ファイルの出力
- ソース管理へのプロジェクト ファイルの追加
- プロジェクト設定ファイルの作成

プロジェクト設定ファイルはローカルプロジェクトフォルダに保存され、プロジェクトがソース管理情報にアクセスするために必要な設定が含まれます。プロジェクト設定ファイルは、ソース管理システムが管理するファイルには含まれません。プロジェクト設定ファイルの存在によって、QlikView にはソース管理システムが管理するドキュメントが分かります。さらに、QlikView は、ドキュメントがソース管理に帰属するものとして処理するために、必要なプロバイダ DLL を検索してロードすることができなければなりません。これは、QlikView でドキュメントが開くたびにチェックされます。QV11 SR1 以降では、ソース管理プロバイダに関する情報とともに設定ファイルがプロジェクト フォルダに表示されます (SourceControlSettings.ini など)。唯一の例外は、下位互換性の問題に関するものです。プロジェクトフォルダ 'abc-prj' に 'SourceControlSettings.ini' が含まれていないものの、abc-prj.scc という名前のファイルが含まれている場合は、これが SR1 ではなく V11 Initial Release (SR1 以降ではなく) を使用して作成されたことを意味します。このようなプロジェクトを開くには、Msscci ソース管理プロバイダを使用しなくてはなりません。

ドキュメントがソース管理に帰属する場合、ドキュメントのステータスを示す情報がステータスバーに表示されます。

ソース管理との統合によって影響を受けるのは QlikView ドキュメントのレイアウトのみです。ソース管理に保存される、もしくはソース管理から取得される QlikView には実際のデータはロードされていません。**ソース管理からプロジェクトを取得**によってロードされるドキュメントにはすべてが含まれますが、データはその例外です。ドキュメントにデータを追加するには、リロードの実行が必要です。

QlikView ドキュメントがソース管理に接続されると、ドキュメントの保存時に変更されたファイルが自動的にチェックアウトされます。QlikView が提供するプロジェクトファイルのチェックアウト方法はこれだけです。ドキュメントの保存を実行中にソース管理システムが使用できない場合、QlikView は「オフライン」での作業を試みます (つまり、変更されたファイルから読み取り専用のフラグを取り除き、最新バージョンを保存します)。次のドキュメント保存でソース管理システムが使用可能になったとき、QlikView はローカルで変更されたすべてのファイルのチェックアウトを実行します。

ドキュメント保存時にプロジェクトファイルはチェックインされません。ソース管理にドキュメントの更新をチェックインするには、**保留中の変更のチェックイン**メニュー項目を使用する必要があります。Microsoft TFS を使用すると、1 回の QlikView チェックイン操作で複数の変更セットを生成できますが、Subversion では 1 つしか生成できません。このため、ランダムに選択された変更セット間のロールバックが Microsoft TFS で行われても、ドキュメントが安定した状態を維持すると保証されるわけではありません。


詳細については、ソース管理白書を参照してください (community.qlikview.com で入手できます)。


10 メニュー コマンド


この章で説明するメニューは、画面の上部のメニューバーにあります。ほとんどのコマンドをツールバーにボタンとして設定することもできます。詳細に関しては、ユーザー設定 (ツールバー) (79 ページ) を参照してください。

10.1 [ファイル] メニュー

ファイル メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。


新規作成 新しい QlikView ウィンドウを開き、新しい *QlikView* ファイル (51 ページ) を作成できます。 

開く 新しい QlikView ウィンドウを開き、QlikView ファイル、またはテーブル ファイルを開きます。テーブル ファイルを開く場合、自動的に **ファイル ウィザード : 種類** (243 ページ) が開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます : CTRL+O。 

サーバーから開く サーバーへ接続 (43 ページ) を開きます。このダイアログで、QlikView Server に接続し、クライアント モードで開くドキュメントを参照できます。 
このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます : CTRL+SHIFT+O。

注意!




QlikView Server のクライアントとしてドキュメントを開く場合は、ローカルドキュメントを開く場合に比べて、ドキュメントに対して実行できる操作が制限されます。クライアントは、ドキュメントが共有機能をサポートしているかどうかによって、シート オブジェクトを追加または削除できないことがあります。シートを追加または削除することはできません。さらに、すべてのプロパティ ダイアログへアクセスできるわけではありません。マクロの変更、スクリプトへのアクセス、データのリロード、またはドキュメントの保存は実行できません。

ドキュメントを最新の情報に更新 このコマンドが有効に機能するのは、ドキュメントが QlikView Server で開かれた状態で、より新しいバージョンのドキュメントがサーバーに存在する場合のみです。更新コマンドを呼び出すと、最新のデータにアクセスできますが、選択条件やレイアウトの状態などのユーザーのセッションは保持されます。 

URL から開く **URL から開く** ダイアログを開きます。このダイアログで、Web ページへの有効な URL を入力します。Web ページは、QlikView 内の別ウィンドウに開かれます。この機能は、例えば、QlikView Publisher AccessPoint や AJAX クライアントを介して QlikView Server のドキュメントを表示するページに使用できます。開かれた Web ページは、標準の QlikView ドキュメントウィンドウと同様に **ウィンドウ** メニューからアクセスできます。

- FTP から開く** 新しい QlikView ウィンドウを開き、FTP サーバーから QlikView ファイルもしくはテーブル ファイルを開きます (インターネット ファイル / QlikView ドキュメントを開く (235 ページ) を参照)。テーブル ファイルを開く場合、自動的に **ファイル ウィザード** が開きます。
- 閉じる** アクティブな QlikView ファイル を閉じます。
- お気に入り** このカスケード メニューを使用すると、**最近使用したファイル** のリスト (以下参照) とは別に、ユーザーの定義したお気に入りドキュメントのリストを管理できます。
- 保存** QlikView ファイルの現在の設定を保存します。データ、スクリプト、およびレイアウトが保存されます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: CTRL+S。
AJAX クライアントを使用している QlikView ドキュメントを共有したい場合、ファイル名にはハッシュ (#) 記号は使用できません。
- 名前を付けて保存** 新しい QlikView ファイルに新しい名前を付けて現在の設定を保存します。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます: F12。
AJAX クライアントを使用している QlikView ドキュメントを共有したい場合、ファイル名にはハッシュ (#) 記号は使用できません。
- サーバー リンクの保存** QlikView Server で開かれているドキュメントへのリンクをローカル マシンにテキスト ファイルとして保存します。ファイルには拡張子 qvw が付きますが、データやレイアウトは含まれません。このようなリンク ドキュメントを開くと、サーバーへの再接続が試みられ、ドキュメントが QlikView Server 上で開かれます。このコマンドはローカル ドキュメントには使用できません。
- 添付ファイルとして電子メールで送信** ローカル ドキュメントで作業している場合にのみ使用できます。現在の qvw ドキュメントのコピーを添付した電子メールを作成します。メール受信者は、QlikView にアクセスしていて、ドキュメントへのアクセス権がある場合 (セクション アクセス セキュリティが使用されている場合)、qvw ドキュメントを開くことができます。このコマンドが機能するには、コンピュータに電子メール クライアントが設定されている必要があります。
- ブックマークのリンクを電子メールで送信** QlikView Server ドキュメントで作業している場合にのみ使用できます。現在のサーバー ドキュメントへの URL リンクを含む電子メールを作成します。レイアウトの状態を含む一時的なサーバー ブックマークが作成され、URL にエンコードされます。メール受信者は、ドキュメントとそのデータへのアクセス権がある場合、URL リンクを使用してサーバー ドキュメントを開き、送信者と同じ内容を確認できます。このコマンドが機能するには、コンピュータに電子メール クライアントが設定されている必要があります。QlikView Server は、サーバー ブックマークを許可する設定になっている必要があります。



印刷	標準の 印刷 ダイアログ (エクスポートと印刷 (111 ページ) を参照) を表示し、現在のシート オブジェクトを印刷できます。このコマンドはリストボックスには使用できません。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます : CTRL+P。	
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で 印刷 ダイアログを開きます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます : CTRL+SHIFT+P。	
絞込値を印刷	標準の 印刷 ダイアログ (エクスポートと印刷 (111 ページ) を参照) が開かれ、現在のリストボックスの絞込値 (選択値と連結値) を印刷できます。このコマンドはリストボックスにのみ使用できます。	
絞込値を PDF として印刷	このコマンドは、リストボックスとマルチボックスを PDF として印刷する場合に使用します。	
シートの印刷	印刷 ダイアログを開き、現在のシートの画像を印刷できます。シートの印刷 (116 ページ) を参照してください。	
印刷プレビュー	印刷可能なシート オブジェクトのプレビューを表示します。印刷プレビュー (116 ページ) を参照してください。	

ソース管理 設定

ソース管理へのプロジェクト追加時、またはソース管理からのプロジェクト取得時に、どの MSSCCI (Microsoft Source Code Control Interface) プロバイダ dll を使用するかを設定します。詳細については、ソース管理 (52 ページ) を参照してください。

ソース管理にプロジェクトを追加

開いている QlikView ドキュメントを保存し、自動的にプロジェクトフォルダとプロジェクトファイルを作成します。ソース管理にプロジェクトを追加するため、ソース管理システムを呼び出します。

ソース管理からプロジェクトを取得

ソース管理からプロジェクトを取得し、プロジェクトファイルから QlikView ドキュメントをビルドし直します。ソース管理に QlikView データは保存されていません。ドキュメントにデータを読み込むには、ビルドし直したドキュメントで Reload コマンドを実行する必要があります。

最新バージョンの取得

ソース管理から最新バージョンのドキュメントを取得し、QlikView ドキュメントをビルドし直します。

保留中の変更のチェック イン

QlikView ドキュメントを保存し、ソース管理システムへのチェックイン操作を実行します。これには、それぞれのダイアログで行われる 4 つの異なるソース管理操作が含まれます。

- 新規作成ファイルを追加
- ソース管理から削除のためにチェックアウトされたファイルを元に戻す
- ソース管理の一部である削除済みのシートやシート オブジェクトに対応するファイルを削除する
- 修正したファイルをチェックイン

保留中の変更のチェックイン操作を行う前のドキュメントが最新でない場合、競合を解消しながら導入されたプロジェクトの変更をロードするためにドキュメントを開き直します。

保留中の変更を元に戻す

変更を元に戻します。ローカルで変更したファイルがソース管理システムでチェックアウトされていない場合、このファイルはチェックアウトを元に戻す操作を実行する前にチェックアウトされます。この操作は、追加されたけれどもチェックインされていないファイルを削除し、保留中の削除ファイルの参照を復元します。

エクスポート 内容をエクスポート

このオプションは、エクスポート可能なシート オブジェクトがアクティブになっている場合のみ使用できます。その場合、シート オブジェクトの**オブジェクト**メニューにあるエクスポート操作を実行します。

シートを画像としてエクスポート

現在のシートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。

ドキュメント レイアウトをエクスポート

ドキュメント レイアウトを XML ファイルとして保存するためのダイアログを開きます。保存される XML ファイルには、ドキュメントのデータは含まれません。

シート レイアウトをエクスポート

現在のシート レイアウトを XML ファイルとして保存するためのダイアログを開きます。保存される XML ファイルには、ドキュメントのデータは含まれません。

インポート ドキュメント レイアウトのインポート

XML として保存された他のドキュメントのドキュメント レイアウトをインポートするためのダイアログを開きます。データはインポートされません。

シート レイアウトのインポート

XML として保存された他のシートのレイアウトをインポートするためのダイアログを開きます。データはインポートされません。

ロード スクリプトの編集

[ロード スクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) を開きます。ここでは、データベースを開いて接続するロード スクリプトを入力、実行することができます。

**リロード**

現在のロード スクリプトを実行し、データをアクティブな QlikView ドキュメントにリロードします。最後のリロード実行以降にデータベースの内容が変更された場合は、この操作を実行する必要があります。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：
CTRL+R。



パーシャルリロード 例えば *Drop Table* (295 ページ) など、すべてのスクリプト コマンドを含む現在のロード スクリプトを実行し、データをアクティブな QlikView ドキュメントにリロードします。けれども、*Replace* (330 ページ) や *追加* (276 ページ) プレフィックスが付く load や select ステートメントを持つテーブルのみがリロードされます。このタイプの load ステートメントまたは select ステートメントの影響を受けないデータ テーブルは、パーシャルリロードの影響を受けません。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+SHIFT+R。



データの削除 次の 2 つのコマンドを含むメニューを開きます。



現在の除外値を削除

除外値をすべて削除することで、QlikView データベースを縮小します。

すべての値を削除

QlikView データベースからすべての値を削除し、データベース構造とレイアウトは保持して、テンプレートを作成します。

テーブルビューアー テーブルビューアー (222 ページ) ダイアログが開かれ、このダイアログで、テーブル、項目、関連付けを視覚的に表示してロードされたデータの構造を調べることができます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+T。



最近使用したドキュメントのリスト 最近使用した QlikView ドキュメントのリスト。表示されるドキュメントの数は、**設定：ユーザー プロパティ** ダイアログで設定できます。デフォルトは 8 です。リストの中からひとつ選択することは、**開く** コマンドを使用するのと同じです。

終了 開いているドキュメントを閉じ、QlikView を終了します。

10.2 [編集] メニュー







[編集] メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

レイアウト変更を元に戻す シート オブジェクトの移動、サイズ変更、削除、およびシート オブジェクト プロパティの変更を含む最後に行ったレイアウト変更を元に戻します。シートの削除、シート プロパティの変更、ドキュメント プロパティの変更も元に戻すことができます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+Z。



レイアウト変更のやり直し 直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+Y。



切り取り	QlikView ドキュメントの他の場所に貼り付けるために、選択したシートオブジェクトを切り取って クリップボード にコピーします。アクティブなシートオブジェクトが1つだけの場合、そのオブジェクトのイメージ (他のプログラムにも貼り付けできる) も クリップボード に格納されます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+X。	
コピー	QlikView ドキュメントの他の場所に貼り付けるために、選択したシートオブジェクトを クリップボード にコピーします。アクティブなシートオブジェクトが1つだけの場合、そのオブジェクトのイメージ (他のプログラムにも貼り付けできる) も クリップボード に格納されます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+C。	
貼り付け	Clipboard から1つ以上のシートオブジェクトを QlikView ドキュメントに貼り付けます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+V。	
書式のコピー/貼り付け	書式のコピー/貼り付け (78 ページ) ツールでは、ひとつのシートオブジェクトから別のシートオブジェクトに書式をコピーすることができます。	
削除	ユーザー プロパティ：オブジェクト (96 ページ) ダイアログの シートオブジェクト削除の確認メッセージ コマンドが有効 (初期設定) の場合、選択表示ボックスが削除される前にこのコマンドの確認メッセージが表示されます。	
すべて選択	シート上にあるすべてのシートオブジェクトをアクティブにします。同様の結果を得るには、アクティブにするシートオブジェクトの周りを四角にクリックアンドドラッグする、もしくはSHIFTキーを押しながらクリックする方法があります。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+A。	
検索	検索可能なシートオブジェクト (リストボックスや開かれているマルチボックス) がアクティブな場合、[テキスト検索] ボックスが開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+F。	
あいまい検索	検索可能なシートオブジェクトがアクティブな場合、[テキスト検索] ボックスを あいまい検索 (128 ページ) で開きます。	



- 高度な検索** リストボックスまたは開かれているマルチボックスがアクティブな場合、*[高度な検索] ダイアログ (130 ページ) ダイアログ*を開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+F。
- コピー モード** 論理モードからコピーモードに切り替えます。コピーモードでは、クリックされた値は、QlikView の論理状態を変更せずに **クリップボード** にコピーされます。コピーモードをオンにすると、**クリップボード コピー リスト (117 ページ) ダイアログ**が開きます。このダイアログでは、コピーされた項目が表示されます。コピーリストの書式もここで設定できます。



10.3 [表示] メニュー





表示 メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。



- シート** 選択すると、カスケードメニューでドキュメントにあるすべてのシートのリストが表示され、それらは左から右に表示されます。
- ツールバー** 選択すると、カスケードメニューが開き、ドキュメントとともに表示したいツールバーを有効にできます。次のツールバーはすべて別々に使用できます：**標準ツールバー**、**ナビゲーション ツールバー**、**デザイン ツールバー**、**シート ツールバー**、**ブックマーク ツールバー**。リストの最後にある **ユーザー設定 (ツールバー) (79 ページ) オプション**では、ユーザーの好みに合わせてツールバーを設定できます。
- 標準、ナビゲーション、デザイン ツールバー**には、それぞれに適切な名前で見えるメニュー コマンドがあらかじめ設定されています。**シート**と**ブックマーク ツールバー**は、ドロップダウンリストとして定義され、それぞれシートとブックマークのナビゲートに使用するオプションを提供します。ツールバーの内容と機能性は、**ユーザー設定** オプションによって色々な方法で設定できます。
- ヒント!**すべてのツールバーや同じくメニューバーの一番左に、縦のドットマークが表示されます。ここをクリックアンドドラッグすると、標準的な Windows 方式でバーをドッキングしたり切り離したりできます。
- ステータス バー** ステータスバーのオン/オフを切り替えます。
- ズーム** 異なる画面解像度により良くフィットするようにシート領域を25% ずつズームできます。他の**ズーム** 倍率は **シートプロパティ：基本設定 (557 ページ) ページ**で指定できます。
- サーバー オブジェクト** **サーバー オブジェクトパネル (721 ページ)**のオン/オフを切り替えます。

ウィンドウ サイズの変更	このオプションでは、QlikView ドキュメントのウィンドウサイズをいくつかの一般的な画面解像度のいずれかに設定できます。	
ウィンドウ サイズにズームを変更	アクティブなシートとシート上のすべての表示サイズを変更し、ウィンドウのサイズに収めます。	
すべてのシートにズームを適用	アクティブなシートを表示する ズーム 設定が、ドキュメント内のすべてのシートに適用されます。	
デザイングリッド	デザイングリッド、アクティブなオブジェクトのシートオブジェクトプレースホルダ、およびレイアウトでオブジェクトのサイズ設定や移動を行うための位置合わせ機能付きグリッドのオン/オフを切替えます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+G。	
WebView モード オン/オフの切り替え	QlikView 内で Web ブラウザを使用してドキュメントを AJAX モードで表示する WebView モードのオンとオフを切り替えます。	
選択表示ウィンドウ	項目名と項目値で選択をリストする 現在の選択条件 (124 ページ) を開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+O。	

10.4 [選択] メニュー






選択 メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。

元に戻す	前の論理状態に戻します。値の選択と [選択] メニューのすべてのコマンドに適用されます。QlikView には、最新の 100 の状態の履歴が保持されます。 元に戻す コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：Shift+左矢印キー。	
やり直し	[元に戻す] 前の論理状態に戻します。 元に戻す と やり直し コマンドを交互に繰り返すことによって、2 つの状態を切り替えます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：Shift+右矢印キー。	
ロック	現在の値の選択をすべてロックします。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+L。	
アンロック	現在のロックされている値の選択をすべて解除します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+U。	

- クリア** QlikView ドキュメントの開始選択条件を適用します。これは、設定することが可能です。以下の **クリア選択状態の設定** を参照してください。
このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+SHIFT+D。 
- すべての選択をクリア** ロックされている条件は除いて、現在の選択条件をすべてクリアします。
- アンロックとクリア** 現在の値の選択をすべてクリアします。 
- クリア選択状態の設定** **クリア選択状態** として現在の選択条件を設定します。
- クリア選択状態の解除** **クリア選択状態** を解除します。

10.5 [レイアウト] メニュー

レイアウト メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

- シートの追加** 新しいシート オブジェクトを表示できるタブ付きシートを追加します。
クライアントとサーバーの両方が QlikView バージョン 9 以降の場合は、QlikView Server でドキュメントを操作している場合でも、新しいシートをレイアウトに追加できます。 
- シートを左へ** 現在のシート (のタブ) を 1 つ左 (前) に移動します。 
- シートを右へ** 現在のシート (のタブ) を 1 つ右 (後ろ) に移動します。 
- シートの削除** アクティブなシートとその上にあるものをすべて削除します。 
- リスト ボックスの追加** **[シート プロパティ]** ダイアログの **[項目]** ページを開きます。リストからひとつ、もしくは複数の項目名を選択できます。選択された項目は、アクティブなシートにデフォルト設定のリストボックスとして表示されます。リスト ボックスに特定のプロパティを設定するには、右クリックして表示されるメニューから (もしくはメインメニューの **[オブジェクト]** から) **プロパティ** を選択します。このコマンドは、QlikView Server でドキュメントを操作している場合は、使用できません。 

シート オブジェクトの追加 カスケードメニューが開かれ、さまざまなシート オブジェクトの作成を選択できます。オブジェクトが作成されると、対応する [プロパティ] ダイアログが表示され、新しいオブジェクトを設定できます。

クライアントとサーバーの両方が QlikView バージョン 8 以降の場合は、QlikView Server でドキュメントを操作している場合でも、新しいシート オブジェクトをレイアウトに追加できる場合があります。それには、

- a) ライセンスが有効であること、
- b) サーバー ドキュメントがサーバー オブジェクトを許可するように設定されていること、
- c) QlikView Server がサーバー オブジェクトを許可するように設定されていることが必要です。

シート オブジェクトの整列 アクティブなシート上にシート オブジェクトを自動的に配置します。



オフ スクリーン オブジェクトを整列する QlikView ウィンドウの表示領域より外側にあるすべてのシート オブジェクトを表示領域の内側に配置し直します。



配置/整列 シート オブジェクトの配置は、**左揃え**、**中央揃え** などいくつかある設定で決定できます。

10.6 [設定] メニュー

設定 メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。

ユーザー プロパティ ユーザー プロパティ (85 ページ) ダイアログが開かれます。このダイアログには、ドキュメントを切り替えても、通常変更されない設定が含まれます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+ALT+U。




ドキュメント プロパティ ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) ダイアログを開きます。このダイアログには、ドキュメント全体に関する設定が含まれます。このダイアログでは、ドキュメントのシート オブジェクトの一般的なプロパティもいくつか設定できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+ALT+D。



シート プロパティ シートプロパティ：基本設定 (557 ページ) ダイアログを開きます。このダイアログには、現在のシートに関する設定が含まれます。このダイアログでは、シートのシート オブジェクトの一般的なプロパティもいくつか設定できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：Ctrl+Alt+S。ページ下部のリンクを参照してください。



変数一覧 変数一覧 (183 ページ) ダイアログを開きます。隠し変数以外のすべての変数とその値が 1 つのリストに表示されます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+ALT+V。 


数式一覧 数式一覧 (185 ページ) ダイアログが開かれ、すべてのドキュメント、シート、シートオブジェクトの数式を 1 つのリストに表示して集中的に管理できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+ALT+E。

10.7 [ブックマーク] メニュー

[ブックマーク] メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。


ドキュメントブックマーク アクティブなドキュメントの最初の 10 つのドキュメントブックマークをリストから取り出します。

ユーザーブックマーク アクティブなドキュメントの最初の 10 つのマイブックマークをリストから取り出します。

ブックマークの追加 [ブックマークの追加] ダイアログ (139 ページ) ダイアログを開き、ブックマーク名を編集できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+B。 

ブックマークの上書き 最初の 10 個のドキュメントブックマークが、最初の 10 個のマイブックマークの上にリスト表示されます。選択したブックマークの選択状態を現在の状態に置き換えます。

ブックマークの削除 最初の 10 個のドキュメントブックマークが、最初の 10 個のマイブックマークの上にリスト表示されます。選択したブックマークを削除します。

詳細 **ブックマーク** ダイアログが開き、ドキュメントで作成したすべてのブックマークを表示します。 

インポート 保存したブックマーク (.qbm) ファイルを参照して選択すると、ブックマークのインポート (146 ページ) ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。

エクスポート ブックマークのエクスポート (146 ページ) ダイアログが開き、選択したブックマークを QlikView bookmark (.qbm) ファイルにエクスポートできます。





10.8 [レポート] メニュー

QlikView の画面上部にある **レポート** メニューには、**レポートの編集** コマンドがあります。レポート編集 (150 ページ) ダイアログが開き、新しいレポートの作成や既存レポートの編集を行えます。このダイアログから、レポートの削除/選択、レポートのレイアウトのデザイン、ページやイメージの追加などを行うこともできます。[レポートの編集] には、使用可能なレポートがすべてリストされ、すばやく選択できます。

レポートには、ドキュメントに保存される **ドキュメント レポート**と、ユーザーのコンピュータに個別に保存される **マイ レポート**があります。を参照してください レポート編集 (150 ページ)。

10.9 [ツール] メニュー

ツール メニューは画面上にあるドロップダウン メニューで、以下のコマンドが含まれます。

モジュールの編集	モジュールの編集 (1079 ページ) ダイアログが開かれ、マクロを作成できます。	
QlikView AccessPoint を開く	QlikView AccessPoint を QlikView 内の HTML ウィンドウに開きます。このコマンドは、 ユーザー プロパティ : パス ページで QlikView AccessPoint の URL が設定されている場合のみ使用できます。	
QlikView マネージメント コンソールを開く	QlikView マネージメント コンソール/QlikView Enterprise マネージメント コンソールを QlikView 内の HTML ウィンドウに開きます。このコマンドは、 ユーザー プロパティ : パス ページで QlikView Management Console/QlikView Enterprise Management Console の URL が設定されている場合のみ使用できます。	
クイック チャート ウィザード	クイックチャートウィザード (927 ページ) が開き、多数のさまざまな設定やオプションに煩わされずに、簡単にすばやくシンプルなチャートを作成できます。	
タイム チャート ウィザード	タイムチャートウィザード (937 ページ) は、特定の計算基準 (数式) を設定して、今年、去年、過去 1 年間など異なる期間で比較を行う、チャートを作成するための共通するタスクを提供します。	
統計チャート ウィザード	統計チャートウィザード (945 ページ) では、QlikView で一般的な統計テストをデータに適用するためのガイダンスが提供されます。	
箱ひげ図ウィザード	箱ひげ図ウィザード (925 ページ) は、統計データの表示によく使用されるコンボチャートを作成します。	
アラート	アラート (172 ページ) ダイアログが開かれ、アラートを定義および編集できます。	

- アラート ウィザード** アラートウィザード (176 ページ) では、アラートを簡単に定義できます。
- テーマ作成ウィザード** テーマ作成ウィザード (727 ページ) を呼び出して、新しいテーマを作成したり、既存のテーマを編集できます。
テーマに関する詳細は、レイアウト テーマ (725 ページ) を参照してください。

10.10 [オブジェクト] メニュー

オブジェクト メニューは、現在アクティブなシート オブジェクト用のメニューです。メニューバーで **オブジェクト** を選択するか、シート オブジェクトをマウスの右ボタンでクリックして開くことができます。

シートにまだシート オブジェクトが含まれていないなどの場合は、シートの **オブジェクト** メニューはメニューバーのオブジェクトメニューとして表示されます。

アクティブなシート オブジェクトが複数ある場合、オブジェクトメニューにはアクティブなオブジェクトに共通するコマンドが含まれます。

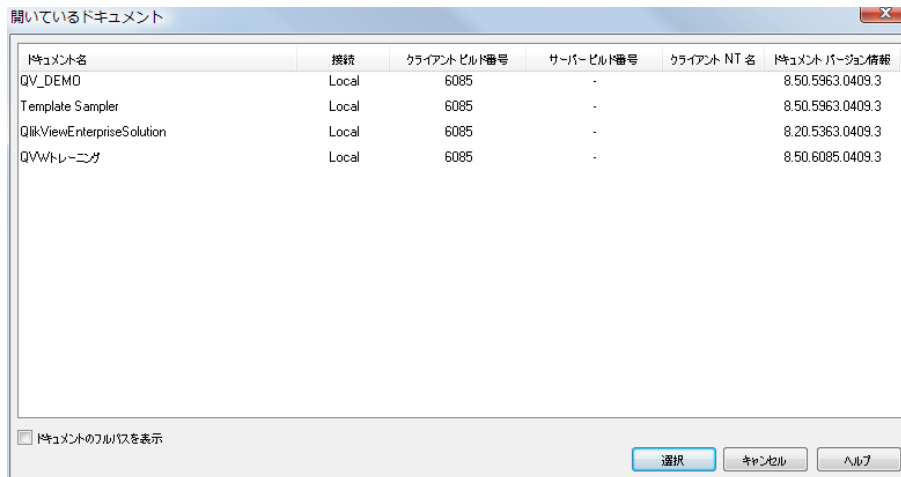
オブジェクトメニューの説明については、オブジェクトごとのセクションを参照してください。

10.11 [ウィンドウ] メニュー

[**ウィンドウ**] メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。

- 重ねて表示** ウィンドウが重なるように配置します。
- 並べて表示** ウィンドウを重ならないように並べて配置します。
- アイコンを整列** ウィンドウの下部にアイコンを配置します。
- 開いているドキュメント** 開いているドキュメント (69 ページ) ダイアログを開き、開いている QlikView ドキュメントの拡張されたリスト(10 を超える) を表示し、そして追加のドキュメント情報を提供します。ドキュメントを選択すると、それがアクティブなウィンドウとなります。

開いているドキュメント



このダイアログは、10 個を超えるドキュメントを同時に開いているときに、アクティブなドキュメントを切り替えるために使用できます。リストでドキュメントを選択し、**[選択]** をクリックすると、そのドキュメントをアクティブなウィンドウにできます。

このダイアログには、特定の QlikView ドキュメントで不具合が生じた場合にレポートが必要な豊富なサポート情報も含まれています。列は次のとおりです。

ドキュメント	qvw ドキュメントの名前。ダイアログの下部にある [ドキュメントのフルパスを表示] チェックボックスがオンの場合、ドキュメント名は完全ファイルパスと共に表示されます。
接続	Local (ローカルコンピュータで開かれているドキュメント) または Remote (QlikView Server で開かれているドキュメント)
クライアントビルド番号	QlikView クライアントのビルド番号。
サーバービルド番号	リモートドキュメントの QlikView Server のビルド番号。
クライアント NT 名	NT 認証に接続するときの、クライアントユーザーの Windows NT 認証 ID。
ドキュメントバージョン情報	ドキュメントを最後に保存した QlikView のバージョンに関する完全な情報 (ローカルドキュメントにのみ使用可能)。

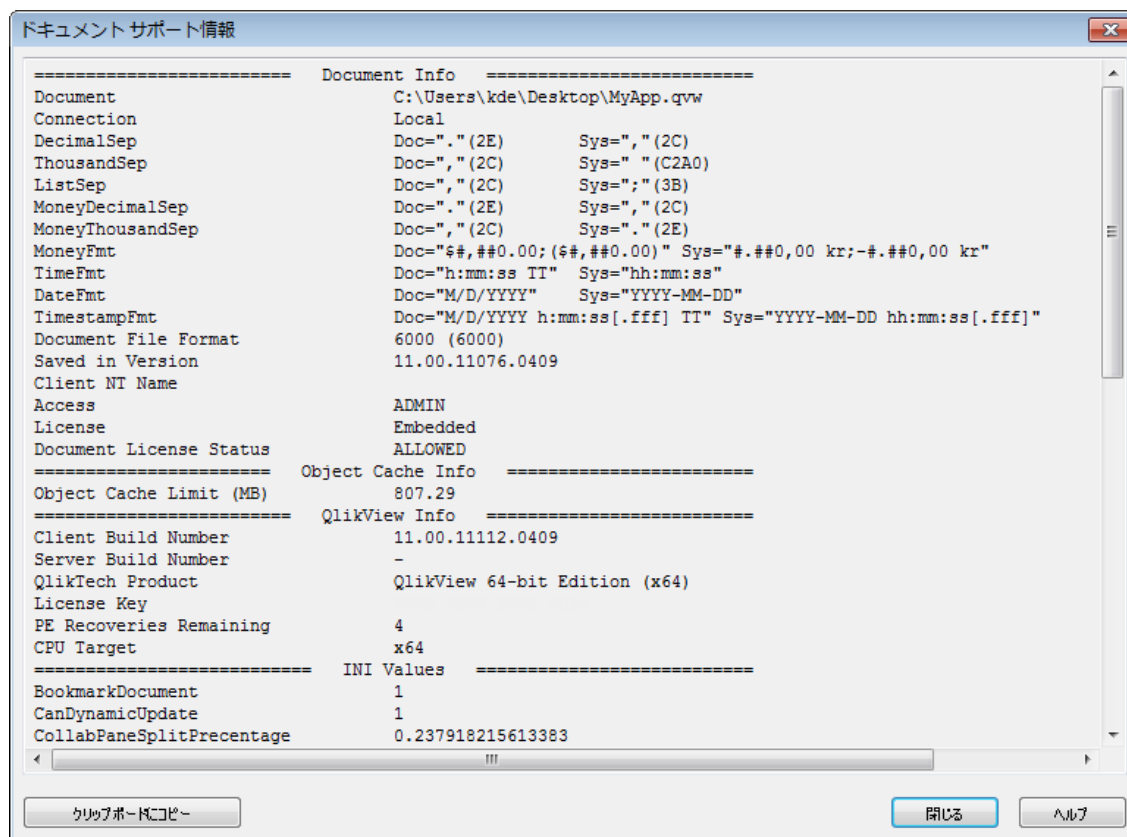
10.12 [ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] メニューは画面上にあるドロップダウンメニューで、以下のコマンドが含まれます。

目次とキーワード	QlikView ヘルプ を開きます。
ヘルプの使い方	ヘルプ ファイルの使い方に関して役立つ情報を表示します。

- スタート ページの表示** QlikView を起動するたびにスタートページを表示します。プログラムを起動したときにスタートページを表示しない場合は、スタートページの左下隅にある **QlikView の起動時にスタートページを表示する** チェックボックスをオフにします。
- QlikTech Web サイト** QlikTech のホームページにリンクするオプションを表示します。
- QlikView Update** **QlikView Update** ダイアログが開かれ、ここから、QlikView を QlikView 更新サーバーに接続して、使用可能なプログラムの更新があるかどうかを確認できます。
- ライセンス更新** **License Enabler File Editor** ダイアログを開き、ライセンス認証ファイルを表示または編集できます。
- ドキュメント サポート情報** アクティブなドキュメントに関するサポートデータのリストを表示する **ドキュメント サポート情報 (70 ページ)** ダイアログを開きます。
- QlikView について** **Qlikview について** ダイアログが開かれ、QlikView のバージョン、シリアル番号、所有者名が表示されます。

ドキュメント サポート情報



このダイアログには、アクティブなドキュメントに関するサポートデータのリストを表示します。特定の QlikView ドキュメントに関連するかも知れない不具合やバグをレポートするときには、この情報を参照する必要があります。ローカルドキュメントにのみ関連している行と、リモートドキュメントについてのみ言及している行がありますのでご注意ください。

クリップボードにコピー ボタンで、ダイアログの内容をコピーし、テキストドキュメントに貼り付けて添付したり、都合が良ければ直接サポートの Eメール に貼り付けたりできます。

11 ツールバーとステータスバー

11.1 ツールバー

QlikView には 5 種類の標準ツールバーとメニューバーがあります。標準ツールバーには QlikView ドキュメントを使用する際に行うタスクのボタンが含まれています。一方、デザインツールバーにはドキュメントのレイアウトを作成したり変更する際に行うタスクのボタンが含まれています。ナビゲーションツールバーには、ドキュメントの論理演算で最もよく使用されるコマンドが含まれています。シートツールバーは、異なるシートを移動するための代替的な手段を提供します。一方、ブックマークツールバーは、ブックマークにアクセスするための代替的な手段を提供します。

各ツールバーは個別に有効化、無効化が可能です。すべてのツールバーはカスタマイズ可能で、使用可能な任意のコマンド ボタンを含めることができます。



各ツールバーは、左端の点線の上にカーソルを配置すると移動できます。マウスの左ボタンを押しながら、任意の位置までドラッグします。ツールバーは、QlikView アプリケーション ウィンドウの任意の側(上下左右)にドッキングできます。







11.2 標準ツールバー









標準ツールバー

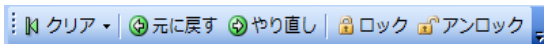
QlikView の標準ツールバーには、最も必要とされる機能のボタンが含まれています。標準ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**表示メニューのツールバー**にある**標準ツールバー**を選択します。上記の図と下記の説明は、標準ツールバーのデフォルトの内容です。

- | | | |
|------------------|--|---|
| ファイルの新規作成 | 新しい QlikView ウィンドウを開き、新しい <i>QlikView</i> ファイル (51 ページ) を作成できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+N。 |  |
| 開く | 新しい QlikView ウィンドウに、 <i>QlikView</i> ファイル (51 ページ) もしくは <i>Table file</i> を開きます。テーブル ファイルを開く場合、自動的にファイルウィザード：種類 (243 ページ) が開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+O。 | |
| 最新の情報に更新 | このコマンドが有効に機能するのは、ドキュメントが QlikView Server で開かれた状態で、より新しいバージョンのドキュメントがサーバーに存在する場合のみです。更新コマンドを呼び出すと、最新のデータにアクセスできますが、選択条件やレイアウトの状態などのユーザーのセッションは保持されます。 |  |

- 保存** アクティブなドキュメントをファイルとして保存します。デフォルトのファイル形式は ユーザー プロパティ：保存 (89 ページ) で設定されます。
- 印刷** [印刷] ボタンをクリックすると、印刷：基本設定 (111 ページ) ページを開かずに、初期設定のプリンタの設定で選択されたシート オブジェクトが直ぐに印刷されます。印刷可能なオブジェクトが選択されていない場合は、ボタンは単色表示になっています。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+P。 
- PDF として印刷** PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で 印刷：基本設定 (111 ページ) を開きます。印刷ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このボタンは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。 
- ロード スクリプトの編集** [ロード スクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) ダイアログを開き、データベースを開いて QlikView にデータを取得する Script を入力、実行できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+E。 
- リロード** 現在の Script を再起動し、前回の実行以降に変更されたソース データを含めるために、連想データベースを更新します。最後に行われたリロードの時間がタイムスタンプとしてステータスバーに表示されます。 
- レイアウト変更を元に戻す** シート オブジェクトの移動、サイズ変更、削除、およびシート オブジェクト プロパティの変更を含む最後に行ったレイアウト変更を元に戻します。シートの削除、シート プロパティの変更、ドキュメント プロパティの変更も元に戻すことができます。QlikView には、最新のレイアウト変更の履歴が保持されます。**レイアウト変更を元に戻す** コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。**リロード** や **データの削除** など一部の操作は **Undo/Redo** バッファを空にします。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+Z。 
- レイアウト変更のやり直し** 直前に元に戻したレイアウト操作をやり直します。**レイアウトの変更のやり直し** コマンドは、「やり直す」ための「元に戻す」アクションがある限り、リストにあるステップを 1 度に 1 つ前に進めます。**リロード** や **データの削除** など一部の操作は **Undo/Redo** バッファを空にします。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+Y。 

検索	アクティブなオブジェクトの 検索 (127 ページ) ボックスを開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+F。	
現在の選択条件	現在の選択条件 ダイアログが開き、アクティブな選択条件を確認できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+O。	
クイックチャートウィザード	クイックチャートウィザード (927 ページ) が開き、多数のさまざまな設定やオプションに煩わされずに、簡単にすばやくチャートを作成できます。	
ブックマークの追加	[ブックマークの追加] ダイアログ (139 ページ) ダイアログを開き、ブックマーク名を編集できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+B。	
ヘルプ トピックス	QlikView ヘルプを開きます。	
コンテキスト ヘルプ	メニュー コマンドなど、選択したオブジェクトに関する特定のヘルプを表示します。このボタンをクリックしたら、ヘルプが必要なオブジェクトの上に疑問符 (?) を移動します。	

11.3 ナビゲーション ツールバー



QlikView のナビゲーション ツールバーには、QlikView を使用してデータを分析する際に最も必要とされる機能のボタンが含まれています。ナビゲーション ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**[表示]** メニューの **[ツールバー]** にある **[ナビゲーション ツールバー]** を選択します。下記の説明は、**ナビゲーション ツールバー** のデフォルトの内容です。

- クリア** このボタンをクリックすると、QlikView ドキュメントの開始選択条件が適用されます。開始選択条件は設定できます。以下の **[クリア選択状態の設定]** を参照してください。ドロップダウンメニューには次の選択肢が提供されています。
- クリア**
QlikView ドキュメントを開始する際の選択条件。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：Ctrl+Shift+D。
- すべての選択をクリア**
ロックされていないすべての選択を解除します。
- アンロックとクリア**
すべての選択のロックと選択を解除します。
- 指定ステートをクリア**
指定ステートの選択をクリアします。
- クリア選択状態の設定**
クリア選択状態 として現在の選択条件を設定します。
- クリア選択状態の解除**
クリア選択状態 に設定されている選択条件を解除します。
- 元に戻す** 前の論理 (選択) 状態に戻します。値の選択と、**編集** メニューの **コピー** と **コピー モード** 以外のすべてのコマンドに適用されます。QlikView には、最新の 100 の状態の履歴が保持されます。**元に戻す** コマンドごとに、履歴を 1 つ前に戻します。
- やり直し** **[元に戻す]** 前の論理状態に戻します。**元に戻す** と **やり直し** コマンドを交互に繰り返すことによって、2 つの状態を切り替えることができます。
- ロック (選択値)** ドキュメント全体の、現在の 値の選択 をすべてロックします。
- アンロック (選択)** ドキュメント全体で 現在ロックされている 値の選択 をすべて解除します。

11.4 デザイン ツールバー



QlikView デザイン ツールバー (上記を参照) には、ドキュメントのレイアウトを作成したり変更する際に行うタスクのボタンが含まれています。このツールバーはデフォルトでは表示されません。デザイン ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**[表示]** メニューの **[ツールバー]** の下にある **[デザイン ツールバー]** を選択します。上記の図と下記の説明は、デザイン ツールバーのデフォルトの内容です。















シートの追加 ドキュメントに新しいシートを追加します。






シートを左へ アクティブなシートを 1 つ左に移動します。

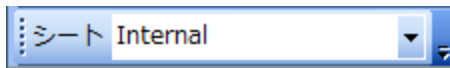


シートを右へ	アクティブなシートを 1 つ右に移動します。	
シートプロパティ	シートプロパティ ダイアログが開かれ、アクティブなシートを編集できます。	
リスト ボックスの追加	データベース テーブルから選択した項目を表示するためのリスト ボックスを作成します。	
統計ボックスの追加	統計ボックスを作成し、項目の絞込値に基づいて統計対象を計算します。	
テーブル ボックスの追加	テーブル ボックスを作成します。レコードに基づいた情報の表示に適しています。	
マルチ ボックスの追加	マルチ ボックスを作成します。さまざまな属性の表示に適しています。	
チャートの追加	項目および計算軸を表示できるチャートを作成します。	
入力ボックスの追加	QlikView 変数へのデータの表示や入力に適した入力ボックスを作成します。	
選択表示ボックスの追加	選択表示ボックスを作成します。現在の選択をレイアウトに直接表示するのに適しています。	
ボタンの追加	たとえばショートカットやエクスポートなど、QlikView で操作を実行するボタン オブジェクトを作成します。	
テキスト オブジェクトの追加	テキスト情報や画像を表示するオブジェクトを作成します。	
線/矢印の追加	線/矢印オブジェクトを作成します。線や矢印をレイアウトに描画するのに適しています。	
スライダー/カレンダー オブジェクトの追加	新しいスライダー/カレンダー オブジェクトを作成します。	
ブックマークの追加	新しいブックマーク オブジェクトを作成します。	
検索オブジェクトを追加する	新しい検索オブジェクトを作成します。	
コンテナの追加	新しいコンテナ オブジェクトを作成します。	
カスタム オブジェクトの追加	新しいカスタム オブジェクトを作成します。	

タイム チャート ウィザード	タイム チャート ウィザード では、特定の計算基準 (数式) を設定し、今年、去年、過去一年間など異なる期間で比較を行うチャートを作成できます。	
書式のコピー/貼り付け	このボタンを使用すると、1つのシート オブジェクトから別の1つまたは複数のシート オブジェクトに書式をコピーできます。1つのオブジェクトに書式をコピーするには、まずコピー元オブジェクトをクリックし、次に [書式のコピー/貼り付け] ボタンを1回クリックした後、コピー先オブジェクトをクリックします。複数のオブジェクトに書式をコピーするには、まずコピー元オブジェクトをクリックし、次に [書式のコピー/貼り付け] ボタンをダブルクリックした後、各コピー先オブジェクトをクリックします。ボタンをもう一度クリックするか、ESC キーを押すとコピーを中止します。種類が異なるシート オブジェクト間でフォーマットをコピーしたり、コピー先オブジェクトのキャプションをクリックすると、枠線/キャプションプロパティだけがコピーされます。同じ種類のシート オブジェクト間でコピーする場合は、オブジェクト タイプ固有のプロパティもコピーされます。	
左揃え	アクティブなシート オブジェクトを左枠線に揃えます。	
左右中央揃え	アクティブなシート オブジェクトを水平軸の中央に揃えます。	
右揃え	アクティブなシート オブジェクトを右枠線に揃えます。	
下揃え	アクティブなシート オブジェクトを下枠線に揃えます。	
上下中央揃え	アクティブなシート オブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。	
上揃え	アクティブなシート オブジェクトを上枠線に揃えます。	
左右に整列	アクティブなシート オブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。	
上下に整列	アクティブなシート オブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。	
左詰め	一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。	
上詰め	一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。	
ドキュメント プロパティ	ドキュメント プロパティ ダイアログを開きます。現在のドキュメントの設定を変更できます。	
ユーザー プロパティ	ユーザー プロパティ ダイアログを開きます。ユーザーの作業方法に関する設定を変更できます。	

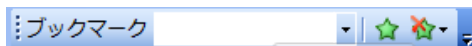
モジュールの編集	[モジュールの編集] ダイアログを開きます。マクロやカスタム定義関数を VBScript や JScript で記述できます。	
テーブルビューアー	[テーブルビューアー] ダイアログが開き、データのテーブル構造が表示されます。	
WebView モード	AJAX ページとして QlikView ドキュメントを表示するため、QlikView 内のブラウザを使用する WebView モードの切り替えを行います。	

11.5 シートツールバー





シートツールバーには、ドキュメント内のすべてのシートのドロップダウンリストが含まれており、シートを変更するための代替的な手段を提供します。アクティブなシートの名前が常にドロップダウンボックスに表示されます。**シート** ツールバーの表示または非表示を切り替えるには、**表示** メニューの [ツールバー] の下にある **シート ツールバー** を選択します。

11.6 ブックマークツールバー



ブックマークツールバーには、ドキュメント内のすべてのブックマークのドロップダウンリストが含まれており、ブックマークを変更するための代替的な手段を提供します。ブックマークを選択すると、選択または変数に変更されるまで、そのブックマークの名前がドロップダウンボックスに表示されます。

- ブックマークの追加** 現在の選択条件をブックマークとして保存します。 
- ブックマークの削除** ドロップダウンメニューで選択したブックマークを削除します。 

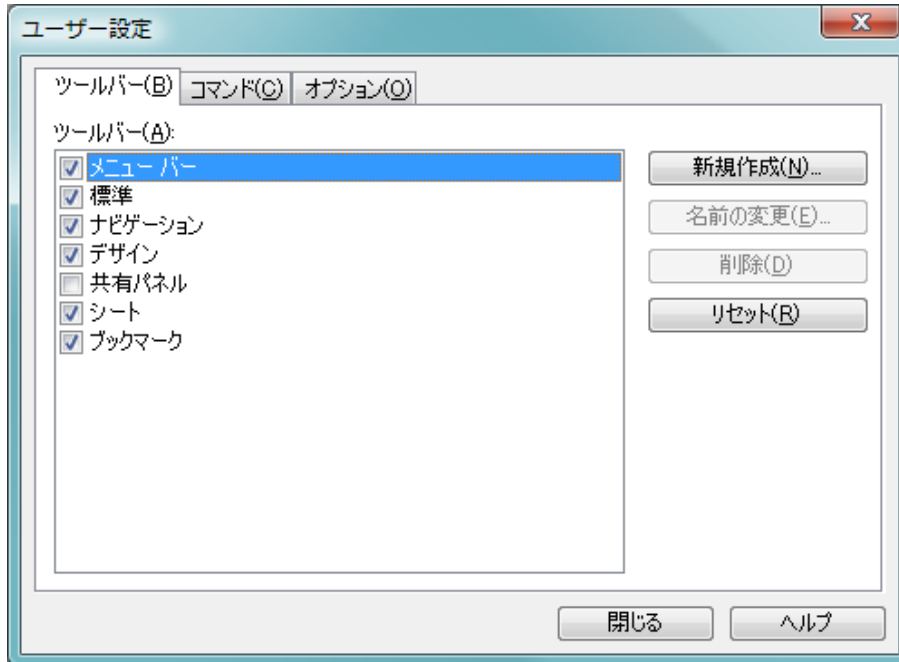
11.7 ユーザー設定 (ツールバー)

ユーザー設定 ダイアログでは、自分の好みに合わせてツールバーを設定できます。(これは一般的にとっても実用的な機能ですが、ドキュメント設計者がドキュメントユーザーすべてに適用するための標準設定を強制したい場合もあります。大規模な導入での *QlikView* ツールバーのカスタマイズ (82 ページ) を参照してください。)

カスタマイズ可能なツールバーには 2 つの種類があります。ひとつは QlikView にすでに定義されているもので、もうひとつは必要に応じて完全にカスタマイズできるものです。

ユーザー設定 ダイアログは、以下に説明する **ツールバー**、**コマンド**、**オプション** の 3 ページで構成されています。

ツールバー

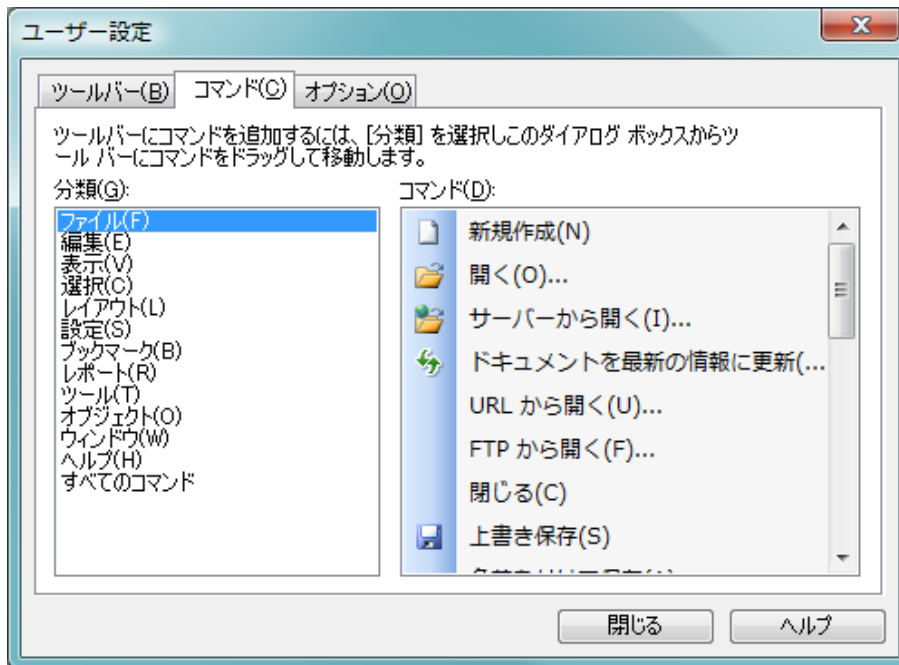


[ユーザー設定] ダイアログ : ツールバー

このページには、使用可能なすべてのツールバーとメニューバーのリストが含まれています。リストのチェックボックスを使用してツールバーの表示を切り替えます。

新規作成	新しいツールバーを作成します。
名前の変更	強調表示されたツールバーの名前を変更します。このコマンドは5つのデフォルトのツールバーでは使用できません。
削除	強調表示されたツールバーを削除します。このコマンドは5つのデフォルトのツールバーでは使用できません。
リセット	強調表示されたツールバーの設定を初期設定にリセットします。

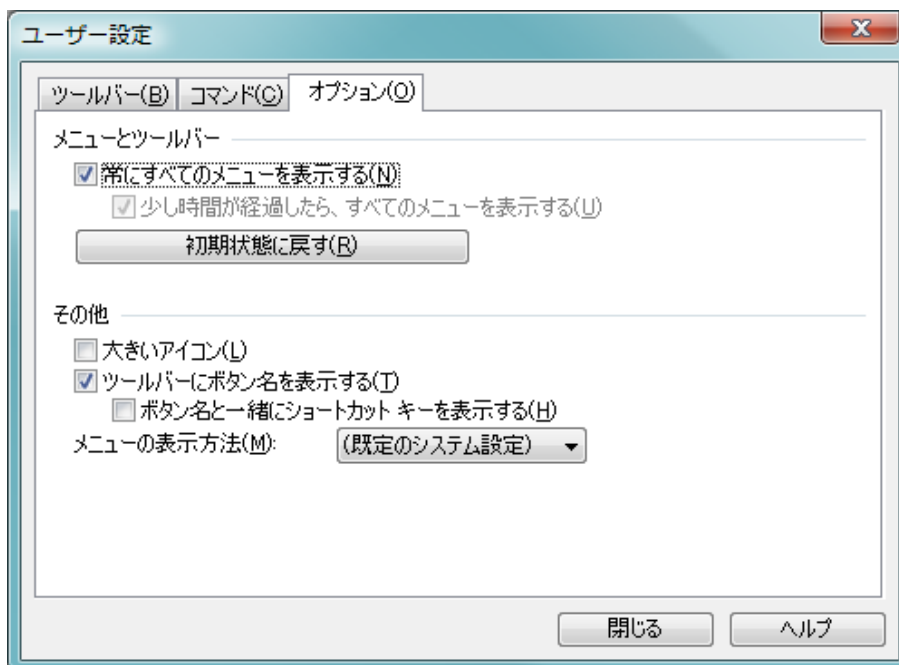
コマンド



[ユーザー設定] ダイアログ : コマンド

コマンド ページの説明にあるように、ツールバーの内容の追加と削除はとても簡単で、**コマンド** パネルから追加したいツールバーにドラッグする、またはその反対を行うだけです。修正するツールバーは、初めに **ツールバー** ページで表示モードに設定されていなければなりません。**分類** パネルを使用し、QlikView メニューごとにリストするコマンドを制限することができます。

オプション



[ユーザー設定] ダイアログ : オプション

オプション ページには、カスタマイズ用の追加設定があります。

メニューとツールバー セクションでは、最も一般的なコマンドだけが含まれたショートメニューを使用できます。

常にすべてのメニューを表示する 最も一般的なコマンドだけが含まれたショートメニューを使用するには、このチェックボックスをオフにします。

少し時間が経過したら、すべてのメニューを表示する

ショートメニューを使用するとき、このチェックボックスをオンすると、メニュー上にポインタを置いてしばらくするとすべてのメニューが表示されます。

[初期状態に戻す] このコマンドは、アプリケーションで使用したコマンドの記録を消去し、メニューとツールバーに表示するコマンドを既定の状態に戻します。ユーザー設定は残ります。

[その他] グループには以下の表示オプションがあります。

[大きいアイコン] 必要であれば、この設定でツールバーのアイコンを2倍表示にし、可視性を向上できます。

ツールバーにツールチップを表示する このオプションは、ボタン名の表示のオン/オフを切り替えます。

ツールチップにショートカットキーを表示する このオプションはポップアップに表示する情報に追加されます。

メニューの表示方法 : この設定は、メニュー(とカスケードメニュー)を開く方法に適用します。[規定のシステム設定] 設定の他に、ドロップダウンリストでいくつかのカスタムアニメーションを利用できます。

大規模な導入での QlikView ツールバーのカスタマイズ

ツールバーの対話型カスタマイズの有効化と無効化

QlikView 7 では完全にカスタマイズ可能なツールバーとメニューを採用しました。対話型カスタマイズは、Settings.ini にある2つの設定によってオン/オフを切り替えられます。

ini ファイルは、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8 の

C:\%Users%\username\AppData\Roaming\QlikTech\productname にあります。それ以前のシステムの場合、ファイルは C:\%Documents and Settings%\username\Application Data\QlikTech\productname にあります。

AllowCustomizeToolbars

と

AllowCustomizeMenubar

この値を 1 に設定すると対話型カスタマイズが有効になり、0 にすると無効になります。

注意!

これらの設定を変更する前に、アプリケーションが終了されていることを確認してください。

多数のコンピュータへのツールバー設定の適用

コンピュータ間でツールバー設定を複製する：

1. 1 台のコンピュータでツールバーをカスタマイズします
 2. Settings.ini ファイルをコピーします。
-

注意!

機能性を 100% 保証するためには、複製元コンピュータと複製先コンピュータの QlikView バージョンが同じである必要があります。

11.8 ステータスバー

ステータスバーはシートの下にあります。**表示 - ステータスバー** を選択して表示/非表示を切り替えます。ここにはいくつかの興味深い情報が表示されます。

ステータスバーの左側にはいくつかの事項が表示されます。**[準備完了]** は QlikView が選択可能なときに表示されます。カーソルがグラフィカルチャートの上に移動すると座標が表示されます。

ステータスバーの左側にヘルプを表示することもできます。コマンドやボタンをマウスボタンで押し放さずにいると、ヘルプが表示されます。マウスボタンを放す前にマウスカーソルをコマンドやボタンの外に移動すると、コマンドは実行されません。

ステータスバーの中央には日付と時刻が表示されます。最後にデータのリロードを実行したときを表示します。

アクティブなオブジェクトが **[And モード]** であれば、**[AND]** インジケータが表示されます。

ステータスバーの右側には、アクティブリストボックス中のユニークな連結値 (または選択値) の数とユニーク値の合計数が、先頭に D を付けて表示されます。

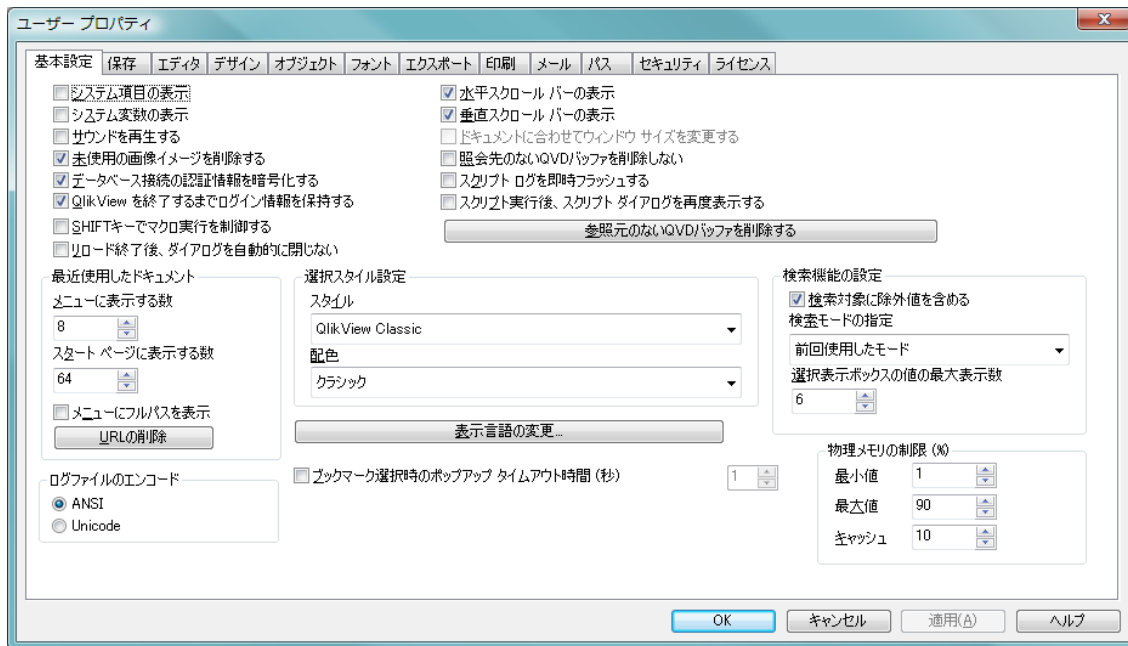
さらに右側には、アクティブ項目の頻度が先頭に F を付けて表示されます。この値は、その項目の連結値 (または選択値) のレコード数と合計レコード数を示します。

最後に、ステータスバーには選択インジケータが表示されます。現在のシートでは表示できない選択が行われると、緑色になります。

12 ユーザー プロパティ

ユーザー プロパティはユーザーの作業方法に関する設定で、ドキュメント ファイルではなく、コンピュータに保存されます。

12.1 ユーザー プロパティ: 基本設定



ユーザー プロパティ：基本設定

- システム項目の表示** 選択すると、システム項目 (459 ページ) が項目名のリストの中にデフォルトで含まれます。
- システム変数の表示** 選択すると、**システム変数** が変数のリストの中にデフォルトで含まれます。
- サウンドを再生する** QlikView に音声効果を組み込みます。
- 未使用の画像イメージを削除する** シートやシート オブジェクトで使用するビットマップは、使用しない設定になっていても、通常はドキュメント内で保持されています。チェックボックスをオンにすると、それらを自動的に削除します。
- データベース接続の認証情報を暗号化する** connect ステートメントウィザードで、ユーザー ID とパスワードを暗号化して **connect** ステートメントをマスクする場合、このチェックボックスをオンにします。

QlikView を終了するまでログイン情報を保持する	QlikView は、ログインする必要のある QlikView ドキュメントがそのセッションを開いている間、ユーザー ID とパスワードをキャッシュします。このチェックボックスをオフにすると、ドキュメントを開くたびにログインが求められます。
リロード終了後、ダイアログを自動的に閉じない	このチェックボックスがオフの場合、スクリプトのリロード終了後に、 ロード スクリプトの進捗 ダイアログを自動的に閉じます。
水平スクロール バーの表示	このチェックボックスがオンの場合、アプリケーション ウィンドウ内でその位置やサイズによって水平方向に全体が収まりきらないシート オブジェクトがあれば、水平スクロールバーがシートに表示されます。
垂直スクロール バーの表示	上記と同じですが、垂直スクロールバーに行きます。
ドキュメントに合わせてウィンドウ サイズを変更する	これにチェックを付けると、QlikView のウィンドウ サイズはドキュメントのサイズによって決定され、ドキュメントが保存されたときの QlikView ウィンドウのサイズとなります。
照会先のない QVD バッファを削除しない	この設定は、作成元のドキュメントに使用されなくなった場合に、自動生成された QVD ファイル (493 ページ) をロード スクリプトの実行後に消去する通常の手順を無視します。この設定は、通常オフにしておきます。
スクリプト ログを即時フラッシュする	性能上の理由から、通常スクリプト ログは個々のステートメントの後にディスクに書き込まれることはありません。このチェックボックスをオンにすると、スクリプト ログの書き込みが行われます。これは、他のプログラムを使用してスクリプトの実行をログ経由で監視する場合に便利です。ただし、この設定を使用すると、スクリプトに大量のステートメントが含まれているような場合にスクリプトの実行時間が著しく増加します。
スクリプト実行後、スクリプト ダイアログを再度表示する	スクリプトが ロード スクリプトの編集 ダイアログから実行され、このチェックボックスがオンであれば、ダイアログはスクリプト実行後にもう一度開かれます。
新規ドキュメント作成時に "新規作成ウィザード" を表示する	新規作成ウィザード を開き、Excel の 1 シートを使用して新しいドキュメントを作成する方法を手順を追って説明します。
参照元のない QVD バッファを削除する	このボタンを押すと、前述の 照会先のない QVD バッファを削除しない を設定することによって保持された孤立した QVD バッファを手動で削除できます。

最近使用したドキュメント	<p>このグループを使用して、ファイル メニューとスタート ページにある最近使用した QlikView ファイルのリストを制御します。</p> <p>メニューに表示する数 では、ファイル メニューにリストされる最近使用したファイルの数を変更できます。デフォルトは 8 です。</p> <p>スタート ページに表示する数 では、スタート ページ メニューにリストされる最近使用したファイルの数を変更できます。デフォルトは 64 です。これらの変更は再起動した後で有効になります。</p> <p>メニューにフルパスを表示 チェックボックスをオンにすると、ファイル メニューの幅が必要に応じて広くなり、最近使用したファイルのリストにフルパスを表示します。</p> <p>URL の削除 ボタンをクリックすると、最近使用したファイルのリストからすべての URL を削除します。</p>
ログ ファイルのエンコード	<p>このグループでは、ログ ファイル用の文字セットを設定できます。初期設定は ANSI ですが、Unicode を選択することも可能です。</p>
選択スタイル設定	<p>スタイル</p> <p>デフォルトの選択スタイルを設定します。QlikView では、リストボックスやマルチ ボックスでデータを表示したり選択したりするためにいくつかの異なる方法をサポートしています。QlikView Classic、コーナータグ、LED、および LED チェック ボックス スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。チェックボックス スタイルと LED チェックボックス スタイルは Windows の標準インターフェイスに類似しており、各値にチェックボックスが付いています。このデフォルトは、ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。選択スタイルの詳細については、QlikView リファレンス マニュアルの 選択スタイル を参照してください。選択スタイルの詳細については、選択スタイル (120 ページ) を参照してください。</p> <p>配色</p> <p>デフォルトの選択配色を設定します。色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。色分け (119 ページ) (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が可能です。このデフォルトは、ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) ページにある対応する設定を変更することにより、そのドキュメントで上書きできます。</p>

表示言語の変更

ボタンを押すと **表示言語の選択** ダイアログが開きます。このダイアログには、コンピュータで使用できる QlikView の表示言語がすべてリストされます。(さまざまな表示言語がインストール時に dll ファイルとして含まれます)。新しい言語を選択した後、変更を反映するには QlikView を再起動する必要があります。この変更は、プログラムのユーザー インターフェイスとオンライン ヘルプ (使用するコンピュータに適切なヘルプ ファイルがある場合) の両方の言語に影響します。表示言語は settings.ini ファイルを変更して設定することもできます (このファイルは C:\Users\username\AppData\Roaming\QlikTech\QlikView にあります)。InterfaceLanguage を編集して、サポートされている言語に設定します。

ブックマーク選択時のポップアップ タイムアウト時間 (秒)

このチェックボックスをオンにして、ブックマークポップアップ ウィンドウを設定した秒数が経過すると自動的に閉じるように遅延時間を入力します。

WebView モードで表示する

QlikView 内で Web ブラウザを使用し AJAX ページとしてドキュメントを表示する **WebView** モードのオンとオフを切り替えます。

検索機能の設定

このグループでの設定はデフォルトの検索モードのために行われます。

検索対象に除外値を含める

テキスト検索には、連結値のみを検索する方法と、すべての値を検索する (検索に除外値が含まれる場合) 方法の 2 つの検索方法があります。このチェックボックスをオンにすると、後者が有効になります。このデフォルト値はシート オブジェクト レベルで上書きできます。

検索モードの指定

このドロップダウン ボックスでは、リスト ボックスやマルチ ボックスなどでのテキスト検索のデフォルトの検索モードを設定できます。デフォルトは、直接入力を開始したときにだけ適用され、検索開始にはメニュー選択もキーボード ショートカットも使用しません。シート オブジェクトで異なる設定を選択し、この設定を上書きすることができます。

前回使用したモード

最後に完了した検索の検索モードが使用されます。

ワイルドカード検索

ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されません。

あいまい検索

あいまい検索を意味するチルダ (~) が初期検索文字列として表示されます。

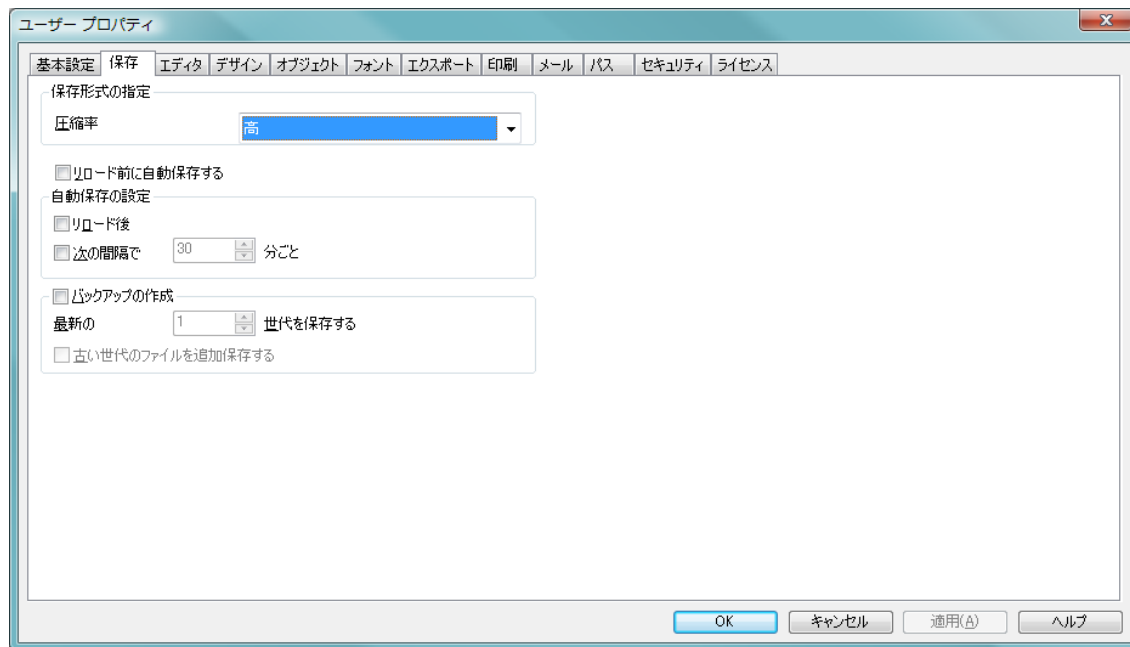
標準検索

初期値としての検索文字列は追加されません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

- 選択表示ボックスの値の最大表示数** ここでは、現在の選択条件ダイアログや印刷の選択スタンプに表示されるユニークな選択値の最大数を指定します。選択する値が多くなると、各々の項目について "x 項目 : y" と表示されます。
- 物理メモリの制限 (%)** このコントロールは、アプリケーションによって使用される RAM の物理的な最小値と最大値を設定します。このようにして、アプリケーションが物理メモリにスワップするかどうかを制御できます。ただし、ここに設定したメモリ量でオペレーティングシステムが処理できるという保証はありません。
- 設定が高すぎると、コンピュータの他の処理のパフォーマンスに影響しますので、コンピュータが QlikView 専用であるのが好ましいとされます。Windows の仮想メモリ マネージャに精通するまでは、これらの設定を変更しないでください。詳細については、Microsoft Windows のドキュメントの作業セットについて参照してください。
- 設定は次の通りです。
- 最小値**
アプリケーション/プロセスに割り当てられるメモリの最小値をパーセンテージで設定します。
- 最大値**
アプリケーション/プロセスに割り当てられるメモリの最大値をパーセンテージで設定します。
- キャッシュ**
アプリケーション/プロセスにキャッシュとして使用されるメモリ量をパーセンテージで設定します。

12.2 ユーザー プロパティ: 保存

このページには QlikView ドキュメントの保存方法の設定が含まれています。



ユーザー プロパティ：保存

保存形式の指定

ここでは、新しいファイル用のデフォルトの保存形式を設定します。現在のドキュメントにのみ影響する変更を行うには、代わりに **ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ)** の **保存形式** を選択します。

圧縮率

このドロップダウン リストは、新規のドキュメントの保存圧縮モードを指定します。圧縮を使用すると、ファイルのサイズは一般的に 60 ~ 80% 小さくなります (実際の結果はドキュメントによって異なります)。圧縮使用時は、ドキュメント保存にかかる時間が多少長くなります。

[標準] 圧縮では、テーブルデータ (QlikView 内で既に圧縮済み) 以外のドキュメントのすべての部分が圧縮されます。

[高] 圧縮 (デフォルト) では、テーブルデータも圧縮されます。多少の容量が節約されますが、保存時間とロード時間はより長くなります。

[なし] を選択すると、すべてのデータを圧縮しないで保存します。

リロード前に自動保存する

このボックスをオンにすると、スクリプトが実行される前にドキュメントを自動的に保存します。

自動保存の設定

ここでは、現在の QlikView ファイルのバックアップを作成するルールを指定できます。この自動保存機能は、システムコマンドはシステムがクラッシュした場合などにとっても便利です。自動保存を一定の間隔 (**_分ごと**) で起きるようにやロード スクリプトを実行する度 (**リロード後**) に起きるように別々に設定できます。

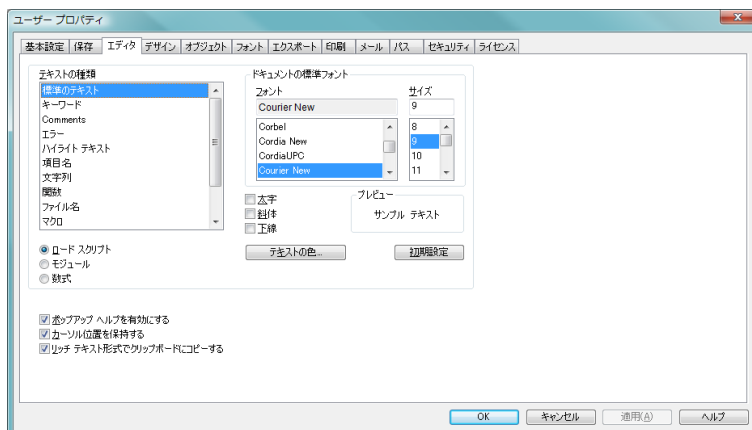
注意!

新規のドキュメントについては、ユーザーがドキュメントに名前を付けて保存した後でないと、**AutoRecover** ファイルは保存されません。

バックアップの作成

ここでは、自動保存機能によって作成されたコピーを保持するルールを指定できます。**バックアップの作成** チェックボックスをオンにすると、ドキュメントのバックアップバージョンを何世代保持 (**最新の _ 世代**) するかを指定でき、またプログラムにも望ましい前のバージョンを選択して保持させる (**古い世代のファイルを追加保存する**) ことができます。

12.3 ユーザー プロパティ:エディタ



ユーザー プロパティ : エディタ

このダイアログでは、QlikView エディタで使用するテキストに自分の好みを設定することができます。これには、[ロード スクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) (**ロード スクリプト**)、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログ (**チャートの数式**) そしてマクロ編集用の モジュールの編集 (1079 ページ) ダイアログ (**モジュール**) のエディタが含まれます。ここではテキスト ボックスでさまざまな **テキストの種類** をアクティブにし、それぞれにフォント、フォント サイズ、テキストの色を設定できます。

ロードスクリプトと数式

標準のテキスト	以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
キーワード	ロードスクリプトで使用するキーワード (スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) で解説)。load、select、directory、semantic などがあります。
コメント	ロードスクリプトまたはチャートに入力されるコメント。
エラー	QlikView が検出するロードスクリプトもしくはチャート式内のエラーです。
ハイライトテキスト	ロードスクリプトの中で、カーソルをかつこの近くに持っていくと、かつことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかつこやカンマが簡単に見つけられます。
項目名	ロードされ、チャートで使用される項目の名前です。
文字列	テキスト文字列としてそのままロードされるテキストです (通常は引用符で囲まれている)。項目名と文字列の違いについては、スクリプトでの引用符 (358 ページ) を参照してください。
関数	スクリプトで使用する関数 (集計関数 (364 ページ) で解説)。div、left、if、num などがあります。
ファイル名	この名前のファイルから項目が取得されます。
マクロ	スクリプトで使用される変数です。変数の詳細については、スクリプト変数 (346 ページ) を参照してください。
集計関数	数式で使用する集計関数 (集計関数 (364 ページ) で解説)。sum、min、max などがあります。
演算子	ロードスクリプトと数式で使用する演算子 (演算子 (954 ページ) で解説)。+、like などがあります。
テーブルラベル	特定のテーブルに割り当てられたラベルです。詳細については、テーブル名 (345 ページ) を参照してください。
Set 分析	数式で使用する SET 分析の識別子、修飾子、演算子 (Set 分析 (992 ページ) で解説)。

モジュール

標準のテキスト	以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
キーワード	Visual Basic Script で予約されたキーワードです。
ハイライト テキスト	ロード スクリプトの中で、カーソルをかつこの近くに持っていくと、かつことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかつこやカンマが簡単に見つけられます。

数式

標準のテキスト	以下のどのカテゴリにも属さないテキストです。
コメント	チャートの数式に入力されるコメント。
エラー	かつこの不足など、QlikView が検出する数式の中のエラーです。
ハイライト テキスト	数式の中で、カーソルをかつこの近くに持っていくと、かつことその中のカンマが強調表示されます。これにより、不足しているかつこやカンマが簡単に見つけられます。
項目名	使用する項目の名前です。
関数	チャートの数式での QlikView の標準関数名です。
ファイル名	この名前のファイルから項目が取得されます。
集計関数	数式で使用する集計関数 (集計関数 (364 ページ) で解説)。sum、min、max などがあります。
演算子	数式で使用する演算子 (演算子 (954 ページ) で解説)。+、like などがあります。
Set 分析	数式で使用する SET 分析の識別子、修飾子、演算子 (Set 分析 (992 ページ) で解説)。

ドキュメントの標準フォント

このグループで選択したフォントとフォント サイズがすべてのテキストタイプに適用されます。太字、斜体、下線などのプロパティはチェックボックスを使用して個別に設定できます。

テキストの色 ボタンをクリックすると、[色の設定] ダイアログが開き所定の色、もしくは色を作成してテキストの色を定義することができます。

値をリセットするには、**初期設定** ボタンをクリックします。

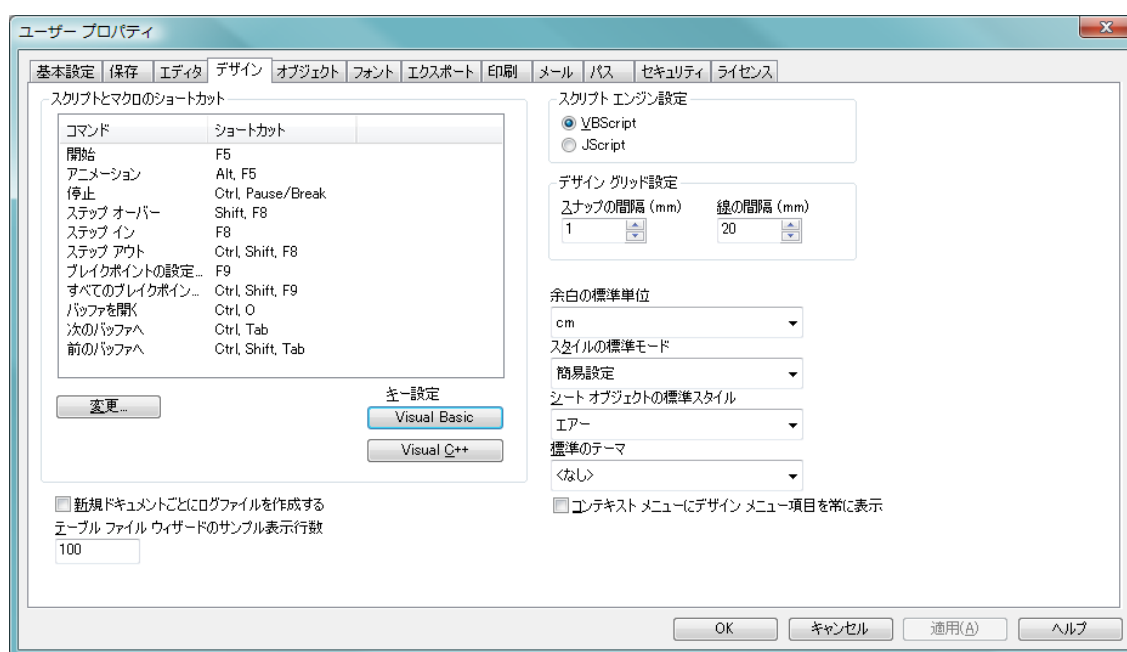
次の機能も同様にエディタで使用できます。

ポップアップ ヘルプを有効にする	関数の入力時に小さなポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。
-------------------------	---

カーソル位置を保持する ロードスクリプトおよびマクロのエディタに、エディタを終了したときのカーソルの位置を記憶させるには、このチェックボックスをオンにします。この機能を使用しない場合、カーソルはマクロモジュールの先頭およびスクリプトの末尾にあります。

リッチテキスト形式でクリップボードにコピーする エディタのウィンドウから **クリップボード** に純粋なテキストとしてだけでなく RTF としてもコピーするには、このチェックボックスをオンにします。これにより RTF 対応のアプリケーションではテキストの書式設定を保持したままでインポートして貼り付けることが可能です。

12.4 ユーザー プロパティ: デザイン



ユーザー プロパティ : デザイン

スクリプトとマクロのショートカット グループでは、スクリプト デバッグ ダイアログでの特定の操作についてキーボードショートカットをカスタマイズできます。

スクリプト内で利用できるキーボードショートカットのリストを生成するには、スクリプト内で CTRL+QS を入力します。

編集 リストからコマンドを選択し、**変更** ボタンをクリックして、そのコマンドのキーボードショートカットをカスタマイズします。

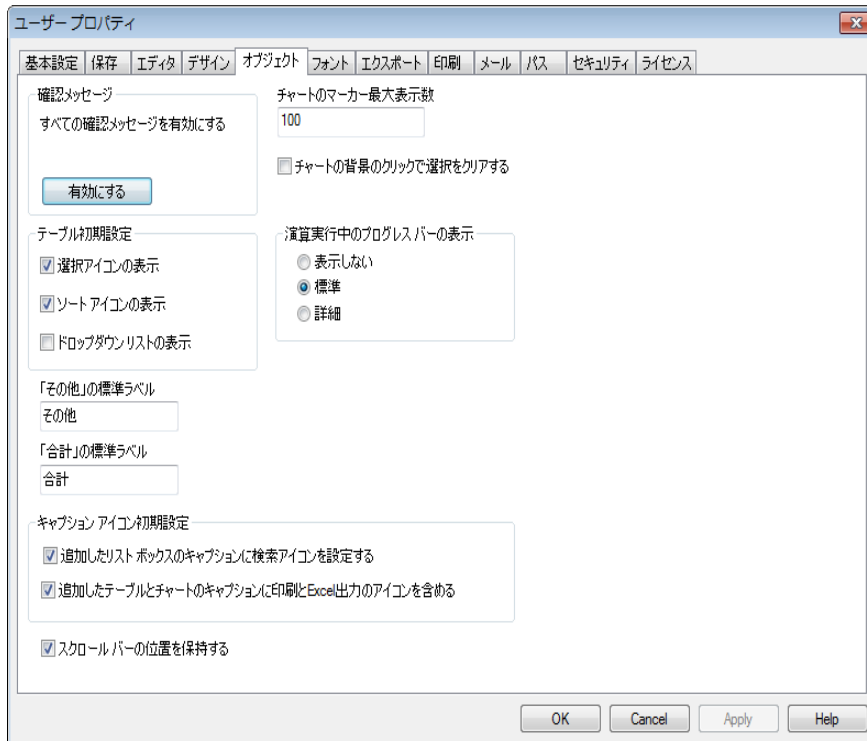
2 つの **キー設定** オプションがあります。

Visual Basic キーボードショートカットを Visual Basic のデバッグ環境に対応したデフォルトに設定します。

Visual C++	キーボードショートカットを Visual C++ のデバッグ環境に対応したデフォルトに設定します。
新規ドキュメントごとにログ ファイルを作成する	スクリプトが実行されると、ログ ファイル (.log) が生成されます。ファイルには、始まりと完了時のタイム スタンプ、実行スクリプトの行数、スクリプトに生成された行の数、そしてスクリプト実行失敗時のエラーメッセージが含まれます。
テーブル ファイル ウィザードのサンプル表示行数	読み込まれるテーブルを分析するために、テーブル ファイル ウィザードに読み取られるレコードの数を指定します。
スクリプト エンジン設定	VBScript または JScript を選択します。
デザイン グリッド設定	スナップの間隔 (mm) デザイン グリッド表示の際のスナップ ポイント間の距離を設定します。 線の間隔 (mm) デザイン グリッド表示の際のグリッド線間の距離を設定します。
余白の標準単位	印刷 : レイアウト ページのデフォルトの余白単位が cm かインチ (inch) をここで選択できます。
スタイルの標準モード	すべてのシート オブジェクトのオブジェクト スタイルに使用するモードを 1 つ選択します。選択したモードは、すべての新規のドキュメントでデフォルトとして使用されます。
シート オブジェクトの標準スタイル	このドロップダウンで、シート オブジェクトのスタイルに使用するスタイルを 1 つ選択します。選択したスタイルは、ドキュメント内のすべてのシート オブジェクトに使用されます。
標準のテーマ	ここでは、新規に作成するドキュメントの標準のテーマとして設定する QlikView のテーマを選択できます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。 テーマのファイルがデフォルトの QlikView テーマ カタログ以外の場所にある場合に備えて、ドロップダウン リストの最下部に 参照 コマンドがあります。標準のテーマが指定されていない場合は、新規に作成されるドキュメントは標準のテーマなしで作成されます。

コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 このチェックボックスをオンにすると、すべてのデザインメニュー オプションがコンテキストメニューで常に使用可能になります。オフの場合、いくつかのデザインメニュー オプションは [表示] メニュー (62 ページ) の **デザイングリッド** コマンドがオンになったとき有効になります。

12.5 ユーザー プロパティ:オブジェクト



ユーザー プロパティ : オブジェクト

ここでは、シート オブジェクトのデフォルト設定が設定されます。

すべての確認メッセージを有効にする QlikView が初めてコンピュータにインストールされたときは、多数の警告ダイアログが有効になっています。これらはそれぞれ、シートやシート オブジェクトを削除したり、メールを送信するなどの特定の操作を実行する前に確認を求めます。それぞれの警告ダイアログには、"**次回からこのメッセージを表示しない**"というチェックボックスが付いています。チェックボックスをオンにすると、それ以降その警告ダイアログは表示されなくなります。過去に無効にした警告ダイアログをすべてオンにするには、このグループの**有効にする**ボタンをクリックします。

テーブル初期設定**選択アイコンの表示**

新規のテーブルボックス、ピボットテーブル、およびストレートテーブルに、列選択インジケータ(ビーコン)をデフォルトで表示したい場合、このチェックボックスをオンにします。

ソートアイコンの表示

新規のテーブルボックスとストレートテーブルに、最優先されるソート列を示すアイコンをデフォルトで表示したい場合、このチェックボックスをオンにします。

ドロップダウン リストの表示

新規のテーブルボックス、ピボットテーブル、およびストレートテーブルの項目列に、ドロップダウン選択アイコンを表示したい場合、このチェックボックスをオンにします。

「その他」の標準ラベル

チャートのいくつかの種類では、**最大値**を設定してプロットするデータ点の数を制限できます。この制限によって外れたすべてのデータ点は、まとめて「その他」としてグループ化されます。「その他」の表示ラベルはここで編集できます。

「合計」の標準ラベル

ここでは、棒グラフ、ピボットテーブル、およびストレートテーブルにおける「合計」の標準ラベルを指定できます。「合計」の表示ラベルはここで編集できます。

**キャプション アイコン
初期設定**

このグループでは、選択したキャプションアイコンに対するデフォルトが設定できます。

追加したリスト ボックスのキャプションに検索アイコンを設定する

このチェックボックスをオンにすると、すべての新規のリストボックスで、作成時に**検索**キャプションアイコンがオンになります。これは、より快適な操作性のために、特にドキュメントを QlikView AJAX クライアントに公開する場合にお勧めします。

追加したテーブルとチャートのキャプションに印刷と Excel 出力のアイコンを含める

このチェックボックスをオンにすると、すべての新規のテーブルおよびチャートで、作成時に**印刷**および**Excel 出力**キャプションアイコンがオンになります。これは、より快適な操作性のために、特にドキュメントを QlikView AJAX クライアントに公開する場合にお勧めします。

**スクロール バーの位置
を保持する**

この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロールバーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。設定は、オブジェクトの**レイアウト** ページでも有効にする必要があります。

ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。

チャートのマーカー最大表示数

マーカー付きで表示できるデータ点の数の上限を指定できます。デフォルトは 100 です。この機能は、折れ線グラフとコンボチャート上で、**線とマーカー付きの数式がオン**になっている場合にのみ有効です。

チャートの背景のクリックで選択をクリアする

このチェックボックスをオンにした場合、チャートのプロットエリアの背景をクリックすると、チャートの軸項目で選択したものはすべてクリアされます。

演算実行中のプログレスバーの表示

このグループでは、シートオブジェクトの計算完了に 1 秒以上かかる場合の、進捗情報を表示するレベルを決められます。

表示しない

進捗情報は表示されません。

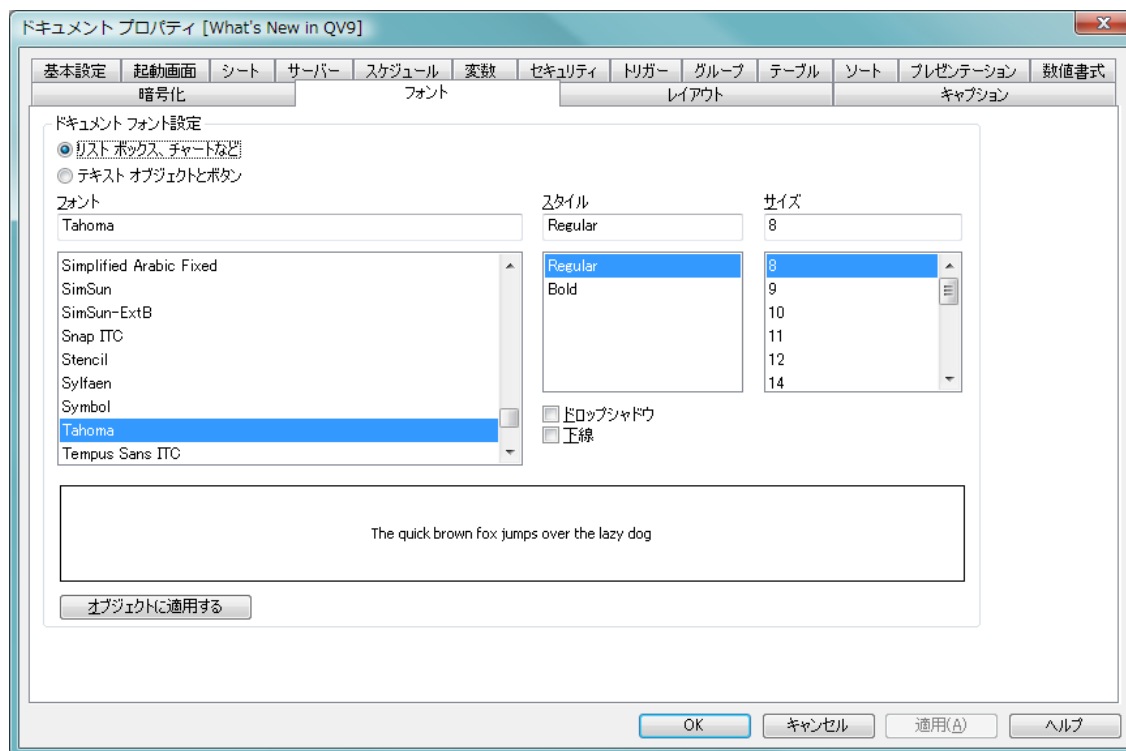
標準

プログレスバーが表示されます。

詳細

プログレスバーと追加のテキスト情報が表示されます。

12.6 フォント



[フォント] ダイアログ

ここでは、**フォント**、**スタイル** および **フォント サイズ** を設定します。

フォントの設定は、ひとつのオブジェクト用には **オブジェクト プロパティ：フォント** ページ、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **ドキュメント プロパティ：フォント** ページの **オブジェクトに適用する** ボタンで行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**ドキュメント プロパティ：フォント** ページで設定できます。2つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リスト ボックス、チャート** など) は、リスト ボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルト フォント (**テキスト オブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキスト ボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**ユーザー プロパティ：フォント** ページで設定できます。

チャート、**ボタン** および **テキスト オブジェクト** (検索オブジェクト以外) には、フォントの **色** も指定できます。色は、**固定** (違う色を指定するには色ボタンをクリックします) もしくは **計算** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数 (453 ページ) を使用して作成されます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

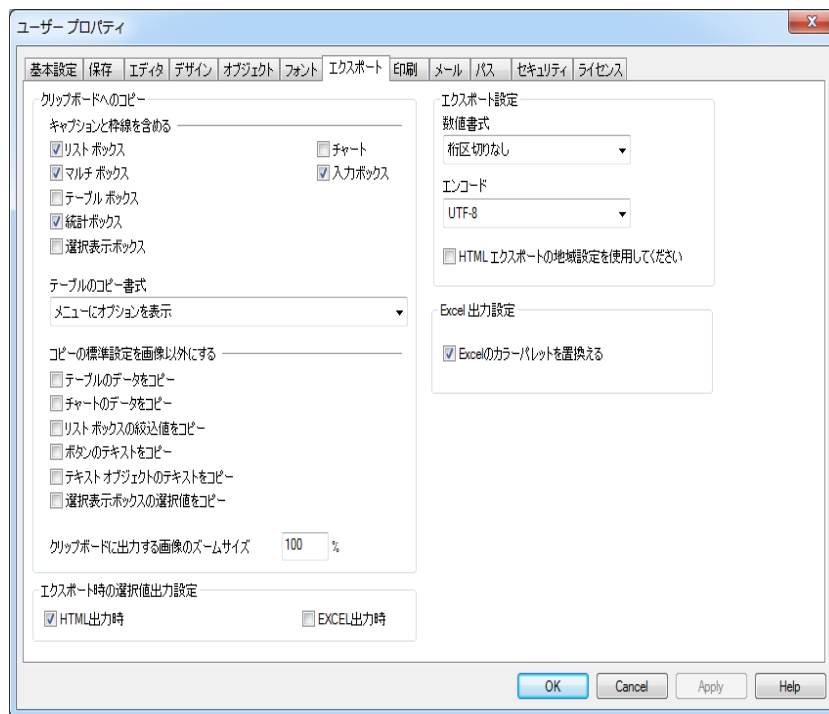
その他の設定は次のとおりです。

ドロップシャドウ このチェック ボックスをオンにすると、テキストにドロップ シャドウが追加されます。

下線 このチェック ボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビュー パネルに表示されます。

12.7 ユーザー プロパティ:エクスポート



ユーザー プロパティ : エクスポート

クリップボードへのコピー グループには、シート オブジェクトをクリップボードにコピーする際のプロパティが含まれています。

キャプションと枠線を含める グループでは、各シート オブジェクト (リストボックス、統計ボックス、マルチボックス、テーブルボックス、入力ボックス、選択表示ボックスとチャート) について、これらのレイアウト構造をコピーに含めるかどうかを個別に設定できます。

テーブルのコピー書式 でテーブルをコピーするための内容を設定できます。QlikView のテーブルの [オブジェクト] メニューにある **クリップボードにコピー** コマンドから、出力に含める情報を選択できます。

テーブル全体をコピー このオプションを選択すると、その選択状態における書式付きのテーブルがクリップボードにコピーされます。この設定が望ましいのは、プレゼンテーション用にコピーする時などです。

テーブルのデータのみをコピー このオプションを選択すると、生データのみがコピーされます。この設定が望ましいのは、ドキュメント間でデータをすばやく移動させたい時などです。

メニューにオプションを表示 このオプションを選択すると、**クリップボードにコピー** コマンドから両方のオプションが常にドロップダウン リストとして使用できます。

コピーの標準設定を画像以外にする グループでは、**切り取り** と **コピー** コマンド (編集 メニュー) が使用されたときに **クリップボード** に何を置くかを指定できます。通常はシートオブジェクトのぶつとマップ画像がクリップボードに入りますが、いくつかのシート オブジェクトには追加のオプションを使用できます。

- | | |
|-----------------------------|--|
| テーブルのデータをコピー | このチェックボックスをオンにすると、テーブル (テーブルボックス、ストレートテーブル、およびピボットテーブル) は画像ではなくテーブル形式でコピーされます。 |
| チャートのデータをコピー | このチェックボックスをオンにすると、チャートは画像ではなく基底となるテーブル値でコピーされます。 |
| リスト ボックスの絞り込まれた値をコピー | このチェックボックスをオンにすると、リストボックスは画像ではなく絞り込み値でコピーされます。 |
| ボタンのテキストをコピー | このチェックボックスをオンにすると、ボタンは画像ではなくテキストでコピーされます。 |
| ボタンのテキストをコピー | このチェックボックスをオンにすると、テキスト オブジェクトは画像ではなくテキストでコピーされます。 |
| 選択表示ボックスの選択値をコピー | このチェックボックスをオンにすると、選択表示オブジェクトは画像ではなくテキストの選択スタンプでコピーされます。 |

クリップボードに出力する画像のズーム サイズ 設定では、シートの現在のズーム倍率とは関係なく、コピーする画像のサイズを決定します。サイズが大きくなりますが、画像を大きくすると画質も上がります。

エクスポート時の選択値出力設定 グループでは、ファイルにエクスポートする際に選択スタンプを含めるかどうかをタイプ別に設定できます。

- | | |
|------------------|--|
| HTML 出力時 | HTML ファイルへのエクスポート時に選択スタンプを含める場合、このチェックボックスをオンにします。 |
| EXCEL 出力時 | BIFF (Excel) ファイルへのエクスポート時に選択スタンプを含める場合、このチェックボックスをオンにします。 |

エクスポート設定 グループでは、デフォルトの出力形式を設定できます。

数値書式

QlikView の数値データの数値書式は、ユーザーが定義した設定などによって、いつも他のプログラムと互換性があるとは限りません。ドロップダウンでは、エクスポートする数値データの**数値書式**に関して3つのオプションを提供します。

書式あり

ドキュメントのシート オブジェクトに表示されるとおりの数字書式を保持したまま数値データをエクスポートします。

桁区切りなし

数値データから桁区切りを削除します。

書式なし

データからすべての数字書式設定を削除し、未処理の数値データとしてエクスポートします。小数点記号は、システム設定 (**コントロール パネル**) で定義されたとおりになります。

エンコード

新規のドキュメントでエクスポートする際のデフォルトの文字セットを設定します。ANSI、Unicode、UTF-8 のいずれかを選択できます。

HTML 出力に地域設定を使用する

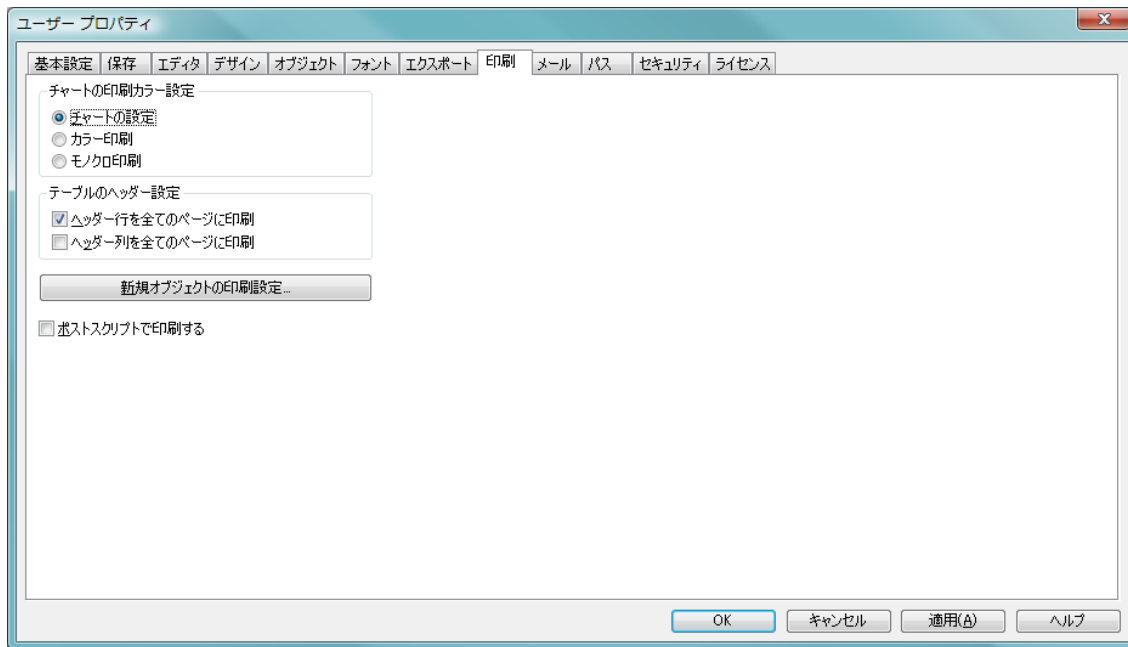
このチェックボックスをオンにすると、HTML 形式に出力する際に、小数点記号に関してオペレーティング システムの地域設定が使用されます。このオプションをオフにすると、地域の設定に関係なく、小数点記号が使用されます。

Excel 出力設定 グループでは、**Excel 出力** メニュー コマンドで使用する書式設定のデフォルトを設定できます。

Excel のカラー パレットを置換える

オフの場合は、Excel パレットの標準色が QlikView で選択した色に取って代わります。元の色は、標準パレットの中の一番近い色によって置き換えられます。

12.8 ユーザー プロパティ:印刷



ユーザー プロパティ、印刷

[チャートの印刷カラー設定] グループでは、チャートからのすべての出力を上書きする設定を指定できます。3つの設定から1つ選択できます。

- | | |
|-------------------|--|
| チャートの設定 | カラーもしくはモノクロに関するチャート固有の設定が常に使用されます。 |
| カラー印刷 | ドキュメントで設定されている 色 の設定に関わりなく、ビットマップチャートはすべてカラーで印刷されます。 |
| 白黒でチャートを印刷 | ドキュメントで設定されている 色 の設定にかかわらず、ビットマップチャートはすべてモノクロで印刷されます。 |

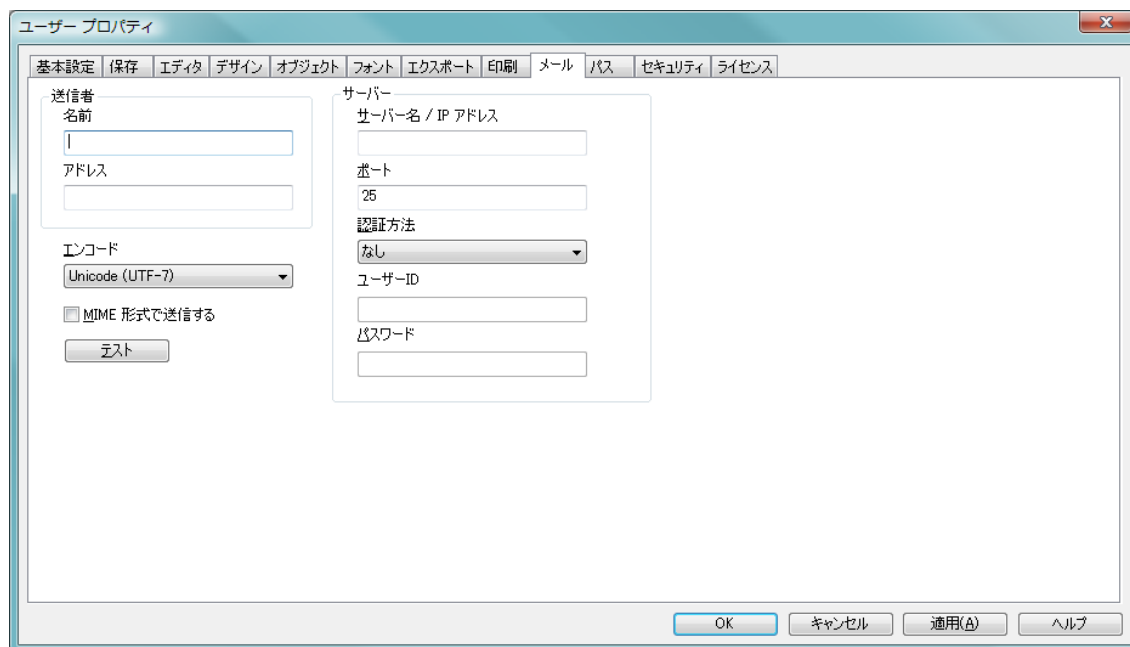
テーブル印刷時、その内容が数ページにまたがっている場合、すべてのページにヘッダー行や列を表示したいことがあります。これについては、下のセクション **[テーブルのヘッダー設定]** グループで決定します。

- | | |
|------------------------|--|
| ヘッダー行を全てのページに印刷 | このオプションを選択すると、すべてのページにヘッダー行が表示されます。 |
| ヘッダー列を全てのページに印刷 | このオプションを選択すると、すべてのページに (ピボットテーブルの) ヘッダー列が表示されます。 |
| 新規オブジェクトの印刷設定 | このボタンは、 [ページ設定] ダイアログを開き、ページの余白や印刷の向きなどを設定できます。 |

ポストスクリプトで印刷する

Microsoft グラフィックス ライブラリは、特定のプリンタのポストスクリプト ドライバと干渉し合うため、**[シートの印刷]** からの印刷が期待していたものよりも鮮明でない場合があります。このチェックボックスをオンにすると、これを避けることができます。ただし、その場合の印刷時間は大幅に長くなる場合がある (最大数分) ため注意してください。

12.9 ユーザー プロパティ:メール



ユーザー プロパティ:メール

ここでは、QlikView からメールを送信するための設定を行えます。この機能を使用するには、SMTP サーバーへのアクセスが必要です。

送信者 グループでは、QlikView によって送信される電子メールに送信者として表示される **名前** と電子メール **アドレス** を指定します。

エンコード では、現在の設定で問題がある場合に、電子メールの送信に使用する文字コードを変更することができます。

電子メールをエンコードするための **[MIME 形式で送信する]** チェックボックスも利用できます。

サーバー グループでは、QlikView から発信するメールで使用する SMTP サーバーを指定します。

Address 使用する SMTP サーバーのアドレスです (URL または IP 番号)。

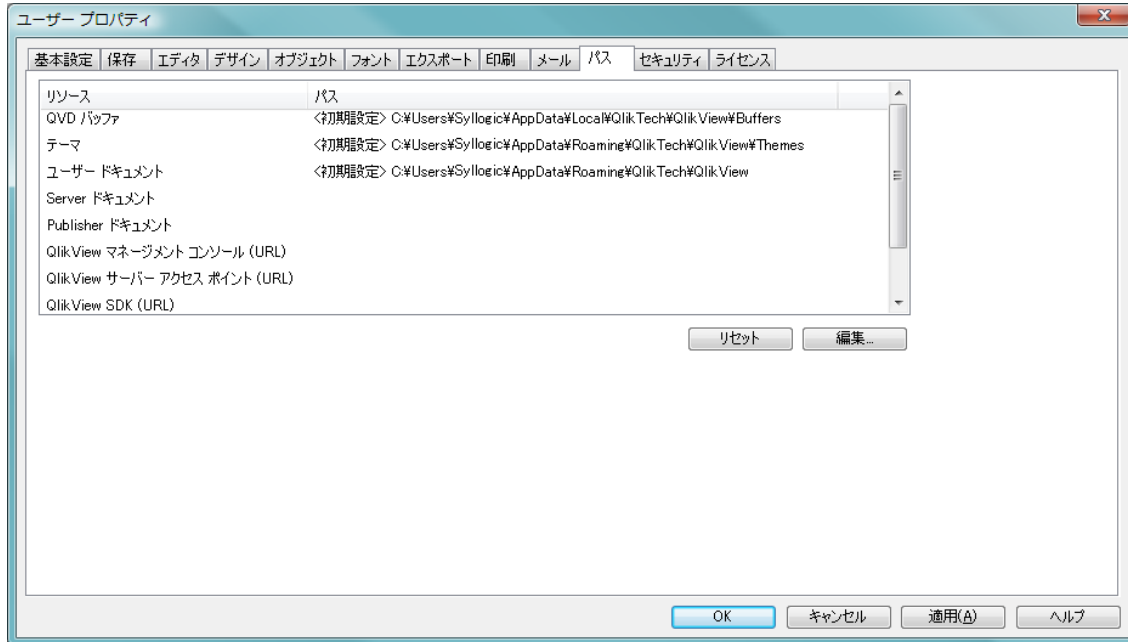
ポート SMTP サーバーによって使用されるポートです。

認証方法 SMTP サーバーから認証を求められる場合に、リストから認証方法を選択します。

ユーザーID 認証に使用されるユーザー ID です。

パスワード 認証に使用されるパスワードです。

12.10 ユーザー プロパティ: パス



ユーザー プロパティ : パス

ここでは、QlikView での作業時に作成される一部のファイルのデフォルトのフォルダの場所を決定できます。また、QlikView Server および QlikView Publisher のドキュメント ファイル フォルダへのショートカットの設定にも使用されます。さらに、QlikView Server、QlikView Publisher、および QlikView AccessPoint のコントロールパネルの URL を指定できます。このページには、変更可能なリソースの場所のリストが含まれています。

ダイアログの上部のパネルには、変更可能なフォルダの場所のリストが含まれています。

リソース

次のリソースの場所を変更可能です。

QVD バッファ

QVD ファイル (493 ページ) のデフォルトの格納場所です。ロードスクリプトの **buffered** プレフィックスを付けた **load** および **select** ステートメントにて生成されます。

テーマ

ユーザー定義のレイアウトテーマのデフォルトの格納場所です。テーマ作成ウィザード (727 ページ) を参照してください。

ユーザー ドキュメント

デフォルトのルートフォルダの場所です。ユーザーブックマーク、マイルポート、およびユーザーアラートが格納されます。フォルダの内容を移動しないでこの場所を変更すると、既存のユーザーブックマーク、マイルポート、およびユーザーアラートが失われるため注意してください。

サーバー ドキュメント

ここでは、QlikView Server ドキュメントフォルダの場所を適宜指定できます。

Publisher ドキュメント

ここでは、QlikView Publisher ソース ドキュメントフォルダの場所を適宜指定できます。

QlikView マネージメント コンソール (URL)

ここでは、QlikView マネージメント コンソール (QMC)、または QlikView Enterprise マネージメント コンソール (QEMC) の URL を適宜指定できます。

QlikView Server AccessPoint (URL)

ここでは、QlikView AccessPoint を示す URL を適宜指定できます。

QlikView SDK (URL)

ここでは、QlikView SDK を示す URL を適宜指定できます。

ライセンス リース サーバー (URL)

ここでは、QlikView のライセンス リース サーバーを示す URL を適宜指定できます。

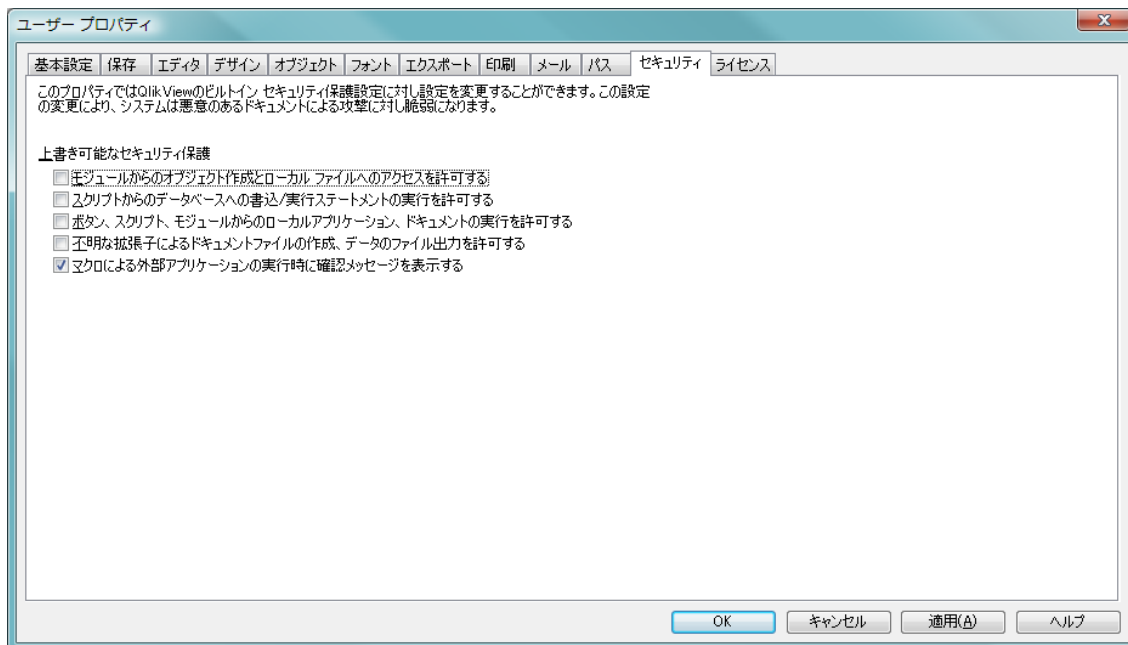
Publisher 認証テーブル (URL)

ここでは、QlikView Publisher で作成されたセクション アクセス認証テー

ブルを示す URL を適宜指定できます。セクション アクセス管理は、QlikView Management Console (QMC) で設定されています。詳細については、QMC のヘルプを参照してください。

パス	それぞれのフォルダーの場所へのパス
リセット	このボタンは、選択したリソースの場所を QlikView のデフォルトにリセットします。リストに表示されたパスの前には <初期設定> というテキストが付きます。
編集	リソース フォルダの変更時は、このボタンによって フォルダの参照 ダイアログが開きます。選択したフォルダをどの場所にするかを参照できます。URL のリソース変更時、このボタンにより開くダイアログで URL を入力できます。

12.11 ユーザー プロパティ: セキュリティ



ユーザー プロパティ : セキュリティ

このページでは、悪意のあるマクロやスクリプトに対抗するために QlikView ドキュメントに埋め込まれている QlikView セキュリティ対策の設定を無効にできます。害を及ぼす可能性があるコードを受け付けるかどうかをユーザーに確認する警告ダイアログは表示されません。これらのオプションは、既知のドキュメントで作業する場合にのみ慎重に使用してください。

モジュールからの CreateObject と ローカル ファイルへのアクセスを許可する	このボックスをオンにすると、 CreateObject 呼び出しが組み込まれたマクロや外部ファイルにアクセスするマクロを探す QlikView のチェックがオフになります。
---	---

スクリプトからのデータベースへの書込/実行ステートメントの実行を許可する

このボックスをオンにすると、**select** ステートメントに **execute** コマンドと **mode is write** 修飾子が組み込まれたスクリプトを探す QlikView のチェックがオフになります。

ボタン、スクリプト、モジュールからのローカルアプリケーション、ドキュメントの実行を許可する

このボックスをオンにすると、外部プログラムを QlikView スクリプト、モジュール、またはボタンから起動する際の QlikView のチェックがオフになります。

不明な拡張子によるドキュメントファイルの作成、データのファイル出力を許可する

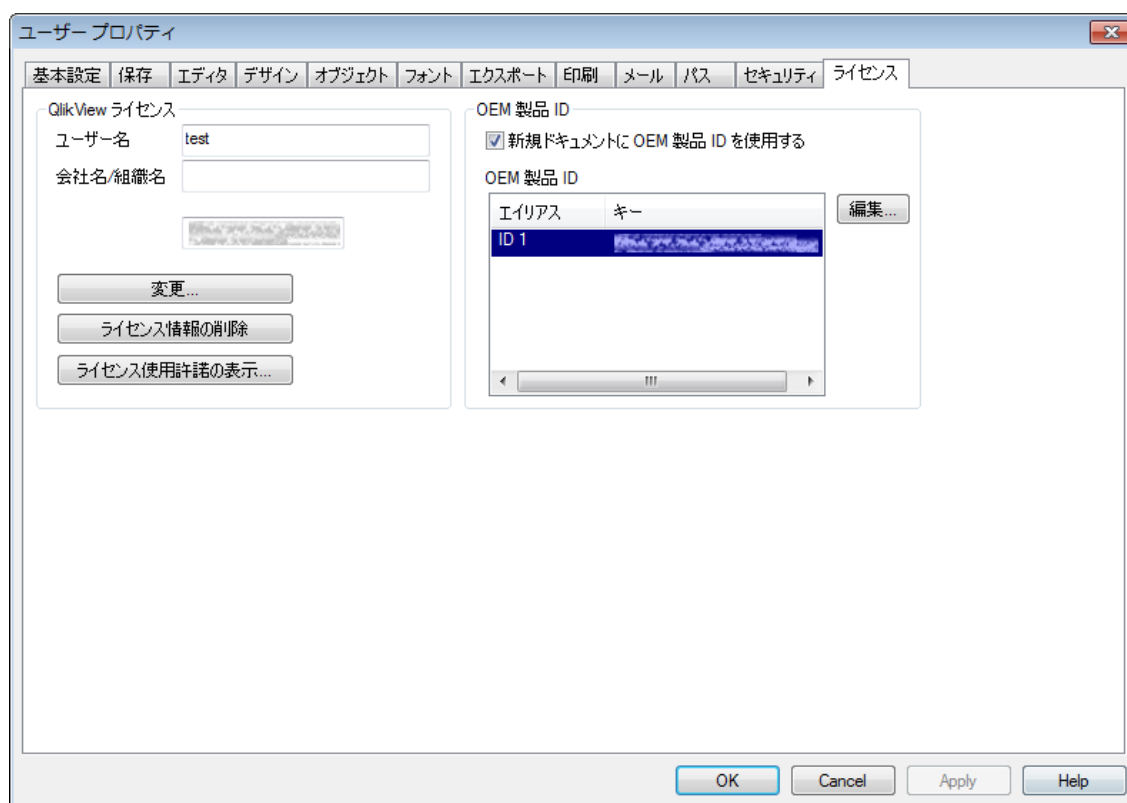
このボックスをオンにすると、疑わしいファイル拡張子が付いたファイルに保存またはエクスポートする際の QlikView のチェックがオフになります。

マクロによる外部アプリケーションの実行時に確認メッセージを表示する

このチェックボックスをオフにしない限り、QlikView は、マクロから他のアプリケーションを起動することを許可するかどうかの確認を求めます。

。

12.12 ユーザー プロパティ: ライセンス



ユーザー プロパティ : ライセンス

QlikView ライセンス

このダイアログは、インストールされている QlikView の現在の登録情報を表示します。

変更

このボタンをクリックすると、ライセンス用の新しいシリアル番号および新しいコントロール ナンバーを入力できます。変更は QlikView を再起動した後で有効になります。

ライセンス情報の削除

このボタンをクリックすると、次回アプリケーションを起動するときにライセンス番号が削除されます。

ライセンス使用許諾の表示

このボタンをクリックすると、ライセンス使用許諾を表示します。

OEM 製品 ID

このオプションは OEM パートナー ライセンスで有効になります。

新規ドキュメントに OEM 製品 ID を使用する 新規ドキュメント作成時に OEM 製品 ID を使用するかどうかを確認するには、このチェックボックスをオンにします。

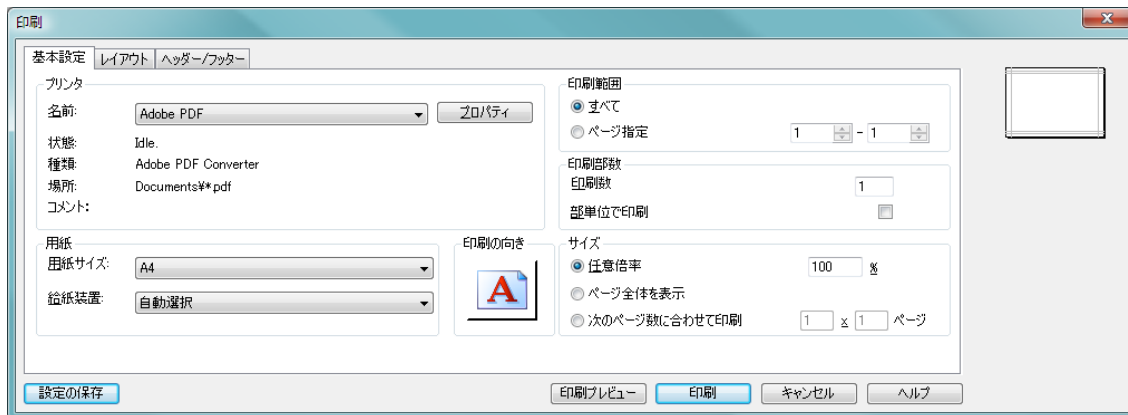
OEM 製品 ID 利用可能な OEM 製品 ID をリストします。

編集 OEM 製品 ID のエイリアスを編集するにはこのボタンをクリックします。

13 エクスポートと印刷

13.1 印刷：基本設定

このページでは、プリンタと用紙に関する設定を指定できます。他の印刷設定は、印刷：レイアウト (112 ページ) と 印刷：ヘッダー/フッター (114 ページ) ページで設定できます。



印刷：基本設定

[プリンタ] グループでは、ドロップダウン リストに使用できるプリンタがリストされます。プリンタの **[プロパティ]** ボタンをクリックしてプロパティにアクセスします。

[用紙] グループでは、使用する用紙の **サイズ** と **給紙装置** を選択します。

この [プロパティ] ページの他のオプションでは、**[印刷の向き]** の変更や、**[印刷範囲]**、**[印刷部数]**、**[部単位で印刷]** の指定を行えます。

[サイズ] グループには、3つの異なる縮尺のオプションがあります。

任意倍率 _ % このチェックボックスをオンにし、印刷の縮尺を増加または減少させるパーセント数を入力します。

ページ全体を表示 このチェックボックスをオンにし、用紙サイズに印刷の縮尺を合わせます。**[印刷の向き]** を変更すると良い結果が得られる場合があります。

次のページ数に合わせて印刷 _ x _ ページ このチェックボックスをオンにし、指定したページ数に印刷の縮尺を合わせます。

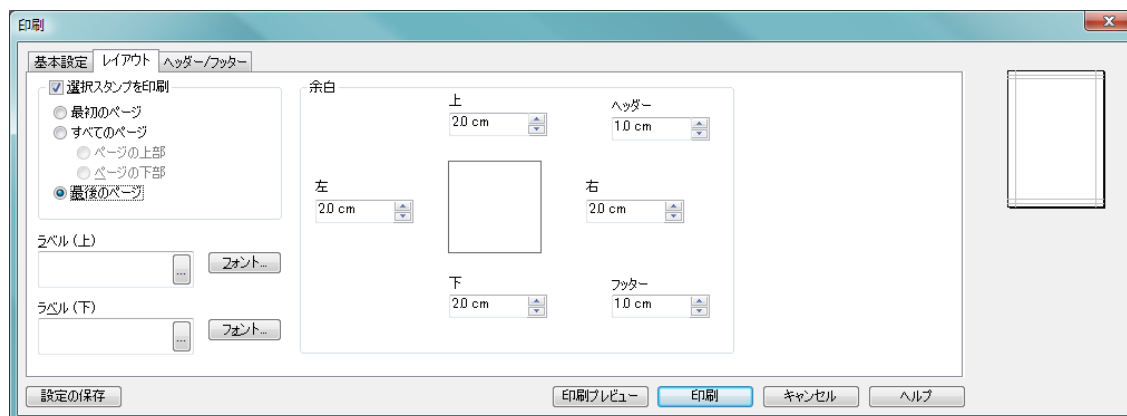
注意！

ファイル：印刷 コマンドから **印刷** ダイアログを開くと、**サイズ** グループは無効になっていますが、代わりに **シートのオプション** グループで **選択したシート** もしくは **すべてのシート** を決定できます。また、**背景を表示** (壁紙) の印刷も設定できます。

次のボタンも使用できます。

- 設定の保存** このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらヘッダーとフッターの設定を保存できます。
- 印刷プレビュー** このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細 印刷プレビュー (116 ページ) を表示するウィンドウを開きます。
- 印刷** このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

13.2 印刷: レイアウト



印刷: レイアウト

このページでは、**選択スタンプを印刷** と **余白** の設定を行えます。他の印刷設定は、印刷: 基本設定 (111 ページ) と 印刷: ヘッダー/フッター (114 ページ) ページで設定できます。

- 選択スタンプを印刷** **[選択スタンプを印刷]** グループでは、印刷に現在の選択 (現在のオブジェクトに影響する現在の選択など) を含めるオプションがあります。印刷には、テキスト"選択の状態"が、項目と項目値のリストの次に表示されます。次のオプションは、どのページに **[現在の選択]** を含めるかを決定します。**[最初のページ]**、**[すべてのページ - ページの上部]**、**[すべてのページ - ページの下部]** そして **[最後のページ]** です。

- ラベル (上)** 印刷されるシート オブジェクトの前に印刷するテキストを編集ボックスで指定します。このテキストを **計算式 (1053 ページ)** にすることも可能です。**[...]** ボタンをクリックすると、長い数式をより簡単に編集できる **数式の編集** ダイアログが開きます。編集ボックスの隣の **フォント** ボタンを使用すると、テキストごとのフォントを選択できます。

- 結び** 印刷されるシート オブジェクトの後ろに印刷するテキストを編集ボックスで指定します。このテキストを **計算式 (1053 ページ)** にすることも可能です。**[...]** ボタンをクリックすると、長い数式をより簡単に編集できる **数式の編集** ダイアログが開きます。編集ボックスの隣の **フォント** ボタンを使用すると、テキストごとのフォントを選択できます。

余白

[余白] グループでは、印刷されるオブジェクトの周りの余白を定義できます。変更は、**[印刷]** ダイアログの右にあるプレビュー パネルで確認できます。mm、cm、または"で指定できます。デフォルトの単位は、**ユーザープロパティ：[デザイン]** ページで設定します。

上

用紙の上端と印刷されるオブジェクトの上の枠線との間の距離を指定します。

ヘッダー

ヘッダー は、用紙の上端とヘッダー テキストの間の距離です。ヘッダー テキストが表示されるためには、この値を **[上]** より小さくする必要があります。

左

用紙の左端と印刷されるオブジェクトの左の枠線との間の距離を指定します。

右

用紙の右端と印刷されるオブジェクトの右の枠線との間の距離を指定します。

下

用紙の下端と印刷されるオブジェクトの下の枠線との間の距離を指定します。

フッター

フッター は、用紙の下端とフッター テキストの間の距離です。フッター テキストが表示されるためには、この値を **[下]** より小さくする必要があります。

次のボタンも使用できます。

設定の保存

このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらレイアウトの設定を保存できます。

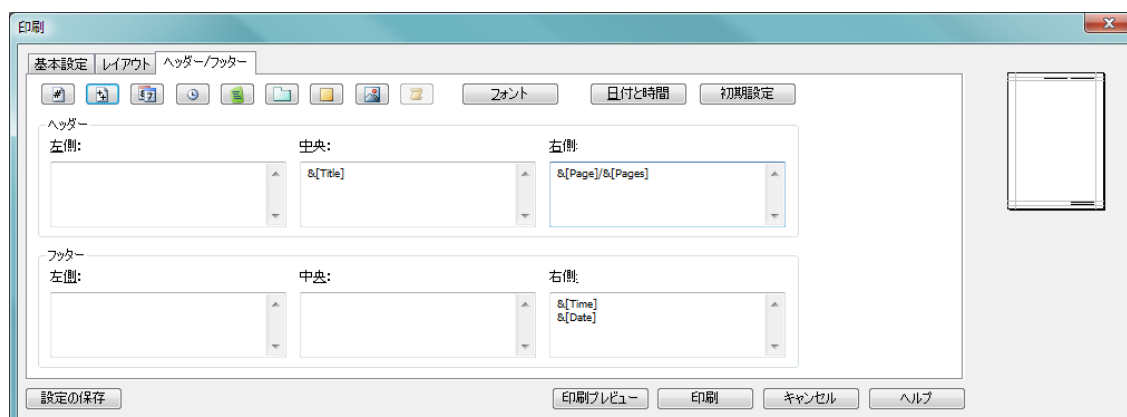
印刷プレビュー

このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細 印刷プレビュー (116 ページ) を表示するウィンドウを開きます。

印刷

このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

13.3 印刷: ヘッダー/フッター



印刷: ヘッダー/フッター

このページでは、**[ヘッダー]**と**[フッター]**の設定を指定できます。他の印刷設定は、印刷: 基本設定 (111 ページ) と印刷: レイアウト (112 ページ) ページで設定できます。

以下のボタンを使用して、特定のシステム情報の制御コードを任意のテキストパネルに挿入します。制御コードは直接入力もできます。

- | | |
|------------------|--|
| ページ番号 | このボタンをクリックするか、コード &[Page] を入力すると、ページ番号が入力されます。 |
| ページ | このボタンをクリックするか、コード &[Pages] を入力すると、ページ総数が入力されます。このオプションを差し込み文書のレポート使用すると、印刷を開始する前に計算のために遅延が生じる可能性があります。この状況が起こる時には、警告されます。 |
| 日付 | このボタンをクリックするか、コード &[Date] を入力すると、現在の日付が入力されます。日付の書式は、 日付と時間 (115 ページ) ダイアログで設定できます。 |
| Time (時刻) | このボタンをクリックするか、コード &[Time] を入力すると、現在の時刻が入力されます。時刻の書式は [日付と時間] ダイアログで設定できます。 |
| ファイル | このボタンをクリックするか、コード &[File] を入力すると、ファイル名が入力されます。 |
| シート | このボタンをクリックするか、コード &[Sheet] を入力すると、シート名が入力されます。このオプションはレポートの印刷時には使用できません。 |
| タイトル | このボタンをクリックするか、コード &[Title] を入力すると、印刷するオブジェクトのキャプションのタイトルが入力されます。このオプションはレポートの印刷時には使用できません。 |

図 **[画像リスト]** ダイアログから画像をインポートには、このボタンをクリックします。画像は、ヘッダーやフッターパネルで画像として印刷されます。手動で、コード `&[Picture=filename]` を入力することもできます。ここで、*filename* は、グラフィックスを含むファイルの完全なファイル名とパスです。

レポート このボタンをクリックするか、コード `&[Report]` を入力すると、印刷されるオブジェクトのタイトルが印刷されます。このオプションはレポートの印刷時にのみ使用できます。

ヘッダー と **フッター** グループでは上記の設定を **左側**、**中央**、**右側** の3つのパネルで行います。表示したいパネルにカーソルを置くためにクリックし、ボタンをクリックするかコードを入力します。

次のボタンも使用できます。

フォント このボタンは、**フォント (592 ページ)** ダイアログを開きます。

日付と時間 このボタンは、**日付と時間 (115 ページ)** ダイアログを開きます。

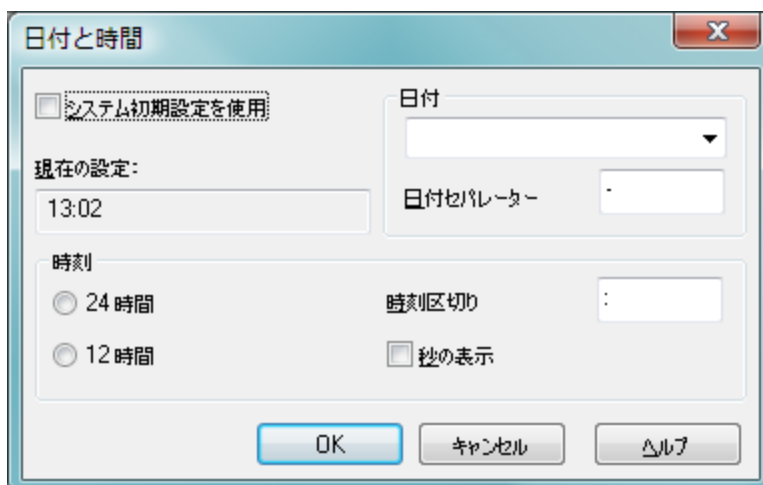
初期設定 このボタンをクリックして、ヘッダーとフッターの設定をデフォルトにリセットします。

設定の保存 このボタンをクリックすると、このダイアログで作業しながらヘッダーとフッターの設定を保存できます。

印刷プレビュー このボタンは、現在の印刷可能なオブジェクトの詳細 **印刷プレビュー (116 ページ)** を表示するウィンドウを開きます。

印刷 このボタンをクリックすると、印刷を行い、このダイアログを閉じます。

13.4 日付と時間



[日付と時間] ダイアログ

ここでは、日付と時間の表示を設定できます。

システム初期設定を使用	このチェックボックスをオンにし、Windows などのシステムの日付と時間の書式を適用します。
現在の設定	現在の日付と時刻の書式が表示されます。
日付	ここでは、日付の書式を設定できます。ドロップダウンリストから書式を選択します。
日付セパレーター	日付の区切りとして使用する文字を選択します。
Time (時刻)	[時刻] グループでは、時刻の書式を設定できます。 24h 24 時間制で時刻を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。 12h 12 時間制で時刻を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。 時刻区切り 時刻の区切りとして使用する文字を選択します。 秒の表示 時刻の書式に秒数を表示するにはこのチェックボックスをオンにします。

13.5 シートの印刷

このダイアログを開くには、[ファイル] メニューから [シートの印刷] を選択します。このダイアログは、**基本設定** ページの **サイズ** グループが **シートのオプション** グループに置き換わっている点以外は、一般的な **印刷** ダイアログと同じです。

シートのオプション

[シートのオプション] グループには次の設定があります。

選択したシート	このオプションを選択すると、現在のシートだけが印刷されます。
すべてのシート	このオプションを選択すると、ドキュメント内のすべてのシートが印刷されます。
背景を表示	印刷時にシートの背景 (壁紙) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。

13.6 印刷プレビュー

印刷可能なシート オブジェクトがどのように印刷されるかを見るために詳細な印刷プレビューを表示するには、プレビュー機能を使用します。拡大鏡で、プレビューのサイズをページ全体とサイズと実際の 100% のサイズを切り替えます。

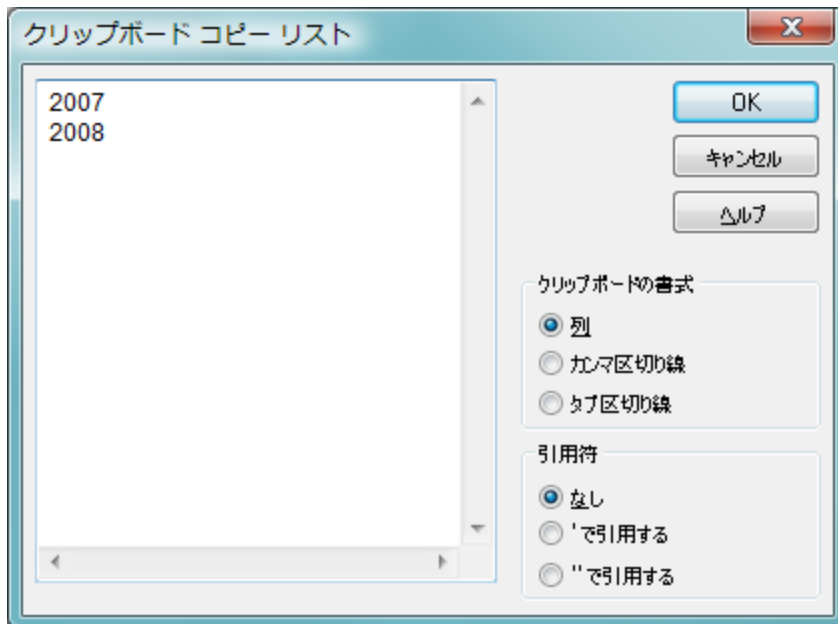
印刷	アクティブなオブジェクトを印刷できる 印刷 : 基本設定 (111 ページ) ダイアログに移動します。
-----------	---

- ページ数** このドロップダウンメニューで、プレビューに表示するページをすばやく変更できます。
- 前のページ** プレビューが複数ページある場合は、このボタンをクリックすると前のページが表示されます。
- Next** プレビューが複数ページある場合は、このボタンをクリックすると次のページが表示されます。
- ページの追加** アクティブなオブジェクトが1ページに収まらない場合に、プレビューを拡張してもう1ページ含めるようにします。
- ページの削除** 現在のプレビューページを削除します。
- 閉じる** このダイアログを閉じます。
- ヘルプ** QlikView ヘルプを開きます。

13.7 コピーモード

論理モードからコピーモードに切り替えます。コピーモードでは、クリックされた値は、QlikView ドキュメントの論理状態を変更せずに **クリップボード** にコピーされます。コピーモードをオンにすると、クリップボードコピーリスト (117ページ) ダイアログが開きます。このダイアログで、コピーするための値のリストを作成できます。

クリップボードコピーリスト



[クリップボードコピーリスト]ダイアログ

編集 メニューの **コピーモード** (117ページ) から開きます。このダイアログにより、クリップボードへのコピーを簡単に行うことができます。ダイアログが開かれている間は、QlikView がコピーモードになり、クリックした値は自動的に **クリップボード コピー リスト** にコピーされます。ドキュメントがコピーモードの間、QlikView のロジックは無効になります。

- クリップボードの書式** このグループでは、コピー リストの書式を設定します。**[列]**、**[カンマ区切り線]**、**[タブ区切り線]** のオプションを選択できます。
- 引用符** このグループでは、選択した要素の引用符を設定できます。
[' で引用する] は、すべての要素をシングルクォートで囲みます。コピーした要素を項目値としてスクリプトに貼り付ける場合に便利です。
[" で引用する] は、すべての要素をダブルクォートで囲みます。コピーした要素を項目名としてスクリプトに貼り付けたり、QlikView マクロなどの Visual Basic スクリプトに貼り付ける場合に便利です。
[なし] は、要素を引用符で囲みません。
- OK** **クリップボード コピー リスト** ダイアログを閉じ、内容を Windows の **クリップボード** に転送します。
- キャンセル** 内容を Windows の **クリップボード** に転送せずに、**クリップボード コピー リスト** ダイアログを閉じます。

13.8 エクスポート/内容をエクスポート

名前を付けて保存 ダイアログを開きます。ここで、出力データの名前、場所、ファイル形式を指定できます。

ファイルはカンマ区切りファイル、セミコロン区切りファイル、タブ区切りファイル、Web ページ (HTML)、XML、Excel(xls) のいずれの形式でも保存できます。デフォルトの形式は、タブ区切りファイル *.qvo (QlikViewOutput) です。

注意!

qvo ファイルに出力すると、QlikView ドキュメントに表示されるデータが出力されます。Excel に出力すると、基底のデータが出力されますが、Excel の書式で表示されます。

14 ロジックと選択

QlikView では選択を行うことが主な操作方法になります。選択により、QlikView にロードされたデータのサブセットがフィルタリングされます。

選択を使用して詳細を知りたいものを指し示すと、QlikView は色分けされた絞込値と除外された値を異なる色で示します。

14.1 1つの項目値の選択

値をクリックするだけで、項目から値を1つ選択できます。一度選択すると、セルが緑になり、新しい状態(選択済み)を示します。選択は現在のシートおよび他のシート上にある別のシート オブジェクトの多数の値の状態に影響を与える可能性があります。

白いセルは、連結された項目値を表し、灰色のセルは選択によって除外された項目値を表します。選択を行うと、関連のあるすべてのテーブル間で自然結合が動的に評価されます。

ほとんどの種類のシート オブジェクトで選択を行うことができます。

以前に選択された値を解除するには、その値をクリックします。また、**[クリア]** を **[オブジェクト]** メニューから選択するか、**[クリア]** コマンドのひとつを **[選択]** メニューから選択することもできます。除外値をクリックすると、この値と競合する選択は取り消され、クリックした値が選択されます。

14.2 色分け

項目値の状態は、セルの色で示されます。

デフォルトで次の配色が使用されます。

- 選択値 緑
- 連結値 白
- 除外値 灰色

特別な状況で使用できる他の色分けもあります。

- 選択肢 白/黄色
- ロック値 青
- 強制除外の結果 赤

デフォルトの配色 (Classic) のデフォルトの色は、**[ドキュメントプロパティ : 基本設定]** ページの **[選択スタイル設定]** グループで別の配色を選択すると変更できます。

選択状態の表示切替 (576 ページ) オプションをオンにすると、対応するリスト ボックス内の選択されていないセルが他の項目の選択によって除外されていない限り、それらのセルは選択肢の値 (白または薄い黄色) として表示されます。ただし、それらのセルは論理的に除外されているため、絞込値 (連結値および選択値) で実行される計算には含まれません。選択状態の表示切替 オプションをオフにすると、選択されていないセルが除外 (灰色) 対象として表示されます。

チェックボックス 選択スタイルには、この配色は使用されません。

14.3 選択スタイル

QlikView では、リストボックスやチャート、その他のオブジェクトで項目値を表示したり選択したりするための数多くの異なる方法をサポートしています。[QlikView Classic]、[コーナー タグ]、および[LED] スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。[チェックボックス] スタイルは Windows の標準インターフェースに類似しており、各々の値にチェックボックスが付いています。LED チェックボックスは、色分けとチェックボックススタイルを組み合わせ使用するスタイルです。

色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。基本色 (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が可能です。

使用するスタイルは、いくつかの異なる方法で管理できます。

- [ドキュメント プロパティ : 基本設定] ページ (ドキュメント プロパティ : 基本設定 (508 ページ))
- [ユーザー プロパティ : 基本設定] ページ (ユーザー プロパティ (85 ページ))
- [リスト ボックス プロパティ : プレゼンテーション] ページ (リスト ボックス プロパティ : プレゼンテーション (587 ページ))


論理状態の表現

QlikView での項目値の論理状態は、[QlikView Classic] スタイルで色分けされており、リストボックスとマルチ ボックスのセル内の背景とテキストの色分けによって表現します。その他のシート オブジェクト内やシート タブに、選択を示す選択ビーコンが表示される場合があります。リストボックスとマルチ ボックスのデータの左に表示されることのある & および ! 文字は、AND 選択と強制除外 (NOT 選択と呼ばれることもあります) を示します。

[チェックボックス] スタイルでは、色分けは、リストボックスとマルチ ボックス内の絞込値と除外値を示すセルの背景の白と灰色だけです。ただし、すべてのセルにデータのアイコン機能があり、論理ステータスを示します。これらのアイコンは、ドキュメントの他の部分の選択ビーコンの場所にも表示されます。

違いを次の表にまとめました。

QlikView の状態	QlikView の色分けスタイル	Windows チェックボックススタイル (アイコン)
絞込値	白/黒	<input type="checkbox"/>
除外値	灰色/ライトグレー	<input type="checkbox"/>
選択値	緑/黒	<input checked="" type="checkbox"/>

QlikView の状態	QlikView の色分けスタイル	Windows チェックボックススタイル (アイコン)
除外値の選択	灰色/ライトグレー	<input checked="" type="checkbox"/>
ロック	青/黄色	
除外値のロック	灰色/ライトグレー	
AND 選択	緑/黒と &	<input checked="" type="checkbox"/> &
強制排除の対象	赤/黒と !	<input checked="" type="checkbox"/> !

論理的な動作

[チェックボックス] スタイルと [LED チェックボックス] スタイルの論理的な動作は、色分けのスタイルと 2 つの点で異なります。

1. **チェックボックス** と **LED チェックボックス** スタイルでの選択はすべて、選択の切り替えと見なされます。つまり、色分けスタイルで Ctrl キーを押しながら選択する場合と同じように動作します。
2. すべてのリストボックスは、プロパティの実際の設定とは関係なく、**[選択状態の表示切替]** オプションが選択されているように処理されます。

14.4 インジケータ

インジケータ (ビーコン) は色の付いたドットで、*tabs* や ステータスバー (83 ページ) の右手角に表示されます。インジケータは、現在表示しているシート上で利用できない項目に実行されている選択について、注意を促すためのものです。QlikView ドキュメントのすべてのシートは常に内部で結合されているため、たとえそれが即座に現れなくても、選択はアクティブなシートの表示に影響します。これが、インジケータを使用する主な理由です。

QlikView テーブル (テーブルボックス、ストレートテーブル、およびピボットテーブル) のデータ項目の右上隅にも選択インジケータが表示されます。テーブルの選択はそれ自身が色分けされていないため、これは便利なオプションです。オプションは、ユーザー プロパティ : オブジェクト (96 ページ) ダイアログで 選択/選択解除 できます。

選択インジケータは、選択表示ボックスと自由に移動できる選択表示ウィンドウにも表示され、選択値とロック値を区別します。

インジケータの配色

インジケータの色は、一般的な配色に従います。

緑	選択値
青	ロック値
赤	強制除外に含まれている AND モードの値

例：

以下は、異なるインジケータが選択表示ボックスでどのように表示されるかを示したものです。



14.5 項目内の複数選択

1つの項目内で複数選択を行うには(1つの項目からの複数の値を許可するなど)、次の方法があります。

- リストボックス内にカーソルを置き、マウスボタンを押しながら複数の項目値の上をドラッグする。
- 選択する最初の項目値をクリックし、Ctrl キーを押しながらその他の選択する項目をそれぞれクリックする。
- 選択する最初の項目値をクリックし、Shift キーを押しながら選択する1番下の項目値をクリックする。これにより、その間にある値すべてが選択されます。ただし、ソート機能がオンになっていると、最初の選択で順序が変更される場合があります、正しく次を選択することが難しくなる場合があります。
- テキスト検索を確認して Enter を押す。これにより、一致するすべての項目値が選択されます。Ctrl キーを押しながら Enter を押すと、テキスト検索による選択が前の選択に追加されません。

選択された項目を選択解除するには、Ctrl キーを押しながらその選択をクリックします。

1つのリストボックスで複数の項目を選択し、他のリストボックスの選択可能な連結値から新しく選択する場合、1つ目のリストボックスの選択値の一部が除外される場合があります。ただし、2つ目のリストボックスの選択を取り消すと、デフォルトでは、以前の選択が元の状態に戻ります。

複数選択は通常、論理和 OR として解釈されます。つまり、QlikView は選択した項目値のいずれかに関連するソリューションを見つけます。

14.6 選択の移動

キーボードのキーを使用すると、アクティブなリストボックスまたは開いているマルチボックス項目の現在の選択を移動できます。

- i 現在の選択をリストボックスの1つ下に移動します。最後の値に届くと、選択は最初の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスはセルを一度に1つ下にスクロールします。

h 現在の選択をリストボックスの1つ上に移動します。最初の値に届くと、選択は最後の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスはセルを一度に1つ上にスクロールします。

Page Up 最も外側にある選択値の間の距離と等しい間隔分、現在の選択をリストボックスの上方に移動します。最初の値に届くと、選択は最後の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスは一度に1ページ上にスクロールします。

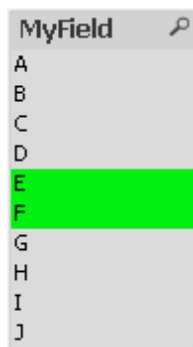
Page Down 最も外側にある選択値の間の距離と等しい間隔分、現在の選択をリストボックスの下方に移動します。最後の値に届くと、選択は最初の項目に戻ります。リストボックスで何も選択されていない場合は、リストボックスは一度に1ページ下にスクロールします。

Home 現在の選択をリストの先頭に移動します。

End 現在の選択をリストの末尾に移動します。

例：

以下のリストボックスでEとFを選択し、異なるキーを使うと以下の結果を得られます。



i FとGが選択されます。

h DとEが選択されます。

Page Up CとDが選択されます。

Page Down GとHが選択されます。

Home AとBが選択されます。

End IとJが選択されます。

14.7 選択されている項目値のロック

除外されている項目値を選択すると、新しい選択と競合する前の選択は取り消されます。このように前の選択が取り消されることを防ぐには、**[オブジェクト]**メニューを開いて**[ロック]**コマンドを選択し、リストボックス内のすべての選択をロックします。

前に設定したロックを解除するには、リストボックスの [**オブジェクト**] メニューを開き、 [**アンロック**] を選択します。すべての選択全体に対する一般的なロックとアンロックは、 [**選択**] メニューから実行できます。

他の項目でロックされている選択と競合する値を選択しようとする、選択は失敗します。

リストボックス、マルチボックス、スライダー オブジェクトの [**ロック項目の上書き**] 設定により、項目内のロックされている選択を特定のシート オブジェクトから上書きできます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。スライダー オブジェクトでは、このオプションは、デフォルトでオンになっています。

14.8 現在の選択条件



選択表示 ウィンドウでは、選択値が項目名と項目値にリストされます。このウィンドウは常にシートの上に配置され、ドキュメントの選択状態を把握するのに役立ちます。**状態** 列で、インジケータ (121 ページ) は、選択値とロック値を区別するために使用されます。**表示** メニューまたはツールバーの **選択表示** ボタンから開きます。

強調表示されている項目がない状態で **選択表示** ウィンドウ内を右クリックすると、次のコマンドを含むフロッタメニューが表示されます。

すべての選択をクリア ドキュメントのすべての選択値を選択解除します。

選択値をすべてロックする ドキュメントのすべての選択値をロックします。

すべてをアンロック ドキュメントのすべてのロックされている値をロック解除します。

データ ドキュメントのすべての選択値の名前と選択されている項目の名前をクリップボードにコピーします。

選択表示 ウィンドウは、サイズ変更可能であるということとドキュメントの作業中に開いたままにできるという点でシート オブジェクトと同じです。現在の QlikView ドキュメントを閉じて、これは開いたままになり、その内容は別のドキュメントが開かれると変更されます。シート オブジェクトと同様に、新しい選択が行われると即座に動的に更新され、現在の選択の概要をいつでも把握できます。

選択表示 ウィンドウに表示されるユニークな選択値の最大数は、**ユーザー プロパティ** ダイアログ (ユーザー プロパティ (85 ページ)) で指定されます。選択する値が多くなると、各々の項目について「x 項目 : y」と表示されます。

[AND] ボックスでの選択では、それが選択か除外かによって & または ! が先頭に表示されます。

注意!

検索により項目内で選択を行った場合は、項目値として検索文字列が表示されます。

14.9 他のオブジェクトの選択

ほとんどのオブジェクトでは項目で直接選択を行うことができます。テーブルでは、セルの色が緑色になり、値が選択されていることを示します。クリックして単一の値を選択するか、マウスでペイントして複数の値を選択します。

また、検索によって選択することも可能です。

次のセクションでは、さまざまなタイプのオブジェクトで選択を行う方法について説明します。以下の説明のようにオブジェクトで選択を行えない場合は、チャートが**分離モード**、もしくは**読み取り専用モード**に設定されている可能性があります。

統計ボックス

統計ボックスでは、**[最小値]**、**[最大値]**、**[中央値]** などいくつかの統計量をクリックし、それに対応する値を選択できます。統計ボックスでは、その選択はマークされませんが、その他のボックスでマークされます。

マルチ ボックス

マルチ ボックスの 1 行は項目を表します。小さな矢印をクリックすると、項目に属する値のリストを表示します。選択と検索は、リストボックスと同様にこのリストでも行うことができます。

テーブル ボックス

任意のセルをクリックするか、1 行以上かつ 1 列以上で構成される領域をペイントすると選択できます。**ドロップダウン リスト** チェックボックスがオンの場合、列のヘッダーに矢印が表示されます。矢印をクリックすると、この項目に属する値のリストを表示します。選択と検索は、リストボックスと同様にこのリストでも行うことができます。

スライダー/カレンダー オブジェクト

スライダーでは、ひとつの項目を基準に、スライダーを目的の位置に合わせて値の選択を行うことができます。スライダーが適宜に設定されている場合、スライダーのサイズをマウスのクリックで変更することが可能です。この場合、複数の値を選択できます。

カレンダー オブジェクトにある小さなカレンダーのアイコンをクリックするとカレンダーが開きます。カレンダー オブジェクトの設定に基づいて、マウスで日付または期間を選択でき、その選択が基底の項目に転送されます。Ctrl+Click を使用すると、異なる月や年であっても複数の期間を選択できます。

棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、グリッド チャート、および散布図

このようなオブジェクトでは、さまざまな方法で選択を行うことができます。

- 単一のデータ点をクリックするか、プロットエリア内で複数のデータ点をペイントできます。ペイントすると、範囲内の領域は緑のラスタがかかって表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。
- チャートの凡例内 (凡例が軸の値でなくチャートの数式を示している場合を除く) をクリックするかペイントできます。

- 軸とそのラベル (散布図を除く) をクリックするかペイントできます。対応する項目値が選択されます。
- 数式の軸とそのラベルをペイントできます。指定された結果領域でデータ点を生成する項目値が選択されます。

ユーザーの要望を反映して、2 軸以上の折れ線グラフと棒グラフでペイントして選択する場合の QlikView の選択ロジックの動作は、他のチャートとは少し異なります。これらのグラフでの選択は、両方の軸に同時には影響を与えません。

折れ線グラフの選択は、主に第 2 軸で行われます。つまり、ある線をペイントすると、x 軸のすべての軸の値の線全体が選択されます。

棒グラフでは、逆が適用されます。選択は、最初に第 1 軸に適用されます。つまり、1 つの棒のセグメントをクリックすると、そのセグメントの x 軸の値が選択され、すべてのスタックやクラスターのセグメントは選択可能のままです。選択で第 1 軸の選択が 1 つの値に絞り込まれた場合、古い選択ロジックが再度適用され、第 2 軸も選択できるようになります。

コンボチャートでは、選択はすべての軸に影響を与えます。

円グラフ

プロットエリア内で 1 つのスライスをクリックするか、複数のスライスをペイントすると選択できます。ペイントすると、範囲内の領域は緑のラスタがかかって表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例をクリックするかペイントして、選択を行うことも可能です。

ブロックチャート

ブロックチャートの各ブロックを選択できます。ドリルダウン機能を使用して、特定の軸を参照します。最初のブロックを選択すると最初の軸が参照され、最初のブロック内で 2 番目のブロックを選択すると、2 番目の軸が参照されます。

領域をペイントして、複数のブロックを選択することもできます。この選択領域は、マウスボタンを放すまで緑色で表示されます。そういった選択は第 1 軸のひとつの値、もしくは複数の値を照会します。ブロックに対応するこれらの値を基準に計算が行われます。選択が第 1 軸に属する複数值のブロック枠をまたがる場合、選択した範囲の値だけではなく、第 2、第 3 軸に属する関連するすべての値にも影響します。

ゲージチャート

ゲージチャートでは軸が定義されていないため、選択を行うことはできません。

ストレートテーブル

1 つのセルをクリックするか、複数のセルをペイントすると、ストレートテーブルの軸の列内で選択できます。この選択領域は、マウスボタンを放すまで緑色で表示されます。

軸を示す列の **ドロップダウン リスト** チェックボックスがオンの場合、小さな矢印が列のヘッダーに表示されます。矢印をクリックすると、項目のすべての値のリストを表示します。このリストでは選択と検索を実行できます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

ピボットテーブル

1つのセルをクリックすると、ピボットテーブルの軸の列/行内で選択できます。選択されたセルは、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

軸を示す列の **ドロップダウン リスト** チェックボックスがオンの場合、小さな矢印が列のヘッダーに表示されます。矢印をクリックすると、項目のすべての値のリストを表示します。このリストでは選択と検索を実行できます。

1つのセル内をクリックすると、数式の列内でも選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

14.10 検索

QlikView オブジェクトで値をクリックして選択を行う代わりに、テキストまたは数値検索を使用して選択することもできます。

検索を使用した選択

次のセクションでは、テキスト検索を使用して選択を行う方法と、QlikView が異なるコマンドに応答する方法について説明します。以下の手順を行ってください。

1. リストボックスのキャプションをクリックして、検索文字列を入力します。文字列では、大文字と小文字が区別されます。

検索文字列がポップアップの検索ボックスに表示されます。検索文字列の条件を満たす選択された項目のすべての値が結果に表示されます。

2. Enter を押すか、結果のセルのひとつをクリックして値を選択します。Ctrl キーを押しながら Enter を押すと、テキスト検索による選択が前の選択に追加されます。

Enter キーまたは Esc キーを押すか、レイアウト内をクリックすると、検索ボックスは自動的に閉じます。検索ボックスの x アイコンをクリックして検索ボックスを閉じることもできます。検索ボックスはサイズ変更可能で、再度開いたときにそのサイズを維持します。

複数のリストボックスでの検索

検索にはアクティブなリストボックスがすべて含まれます。複数のリストボックスを検索するには、Shift を押しながらキャプションをクリックしてリストボックスをアクティブにします。複数のアクティブなリストボックスに連結値がある限り、Enter を押して結果の値を選択することはできません。

すでに選択が行われている場合、検索を解釈できる方法は 2 通りあります。

- 連結値のみを検索
- すべての値を検索 (検索で除外された値を含む)

作業する検索モードを設定するには、**ユーザー プロパティ** ダイアログの **検索対象に除外値を含める** をオンまたはオフにします。このモードで特定の個別のシート オブジェクトも設定できます。

注意：

論理積 (AND) オプションを項目に設定すると、検索された値を複数選択できない場合があります。

テキスト検索

検索の最も簡単な方法は、テキスト検索です。入力したテキスト文字列に一致する項目値が検索されます。

ワイルドカードを使用しない標準検索の場合、QlikView は検索文字列と同じように始まる単語を検索します。検索文字列に空白で区切られた複数の単語が含まれる場合、QlikView はそれを複数の検索文字列と解釈し、いずれかの文字列を含む項目値を表示します。

ワイルドカードが使用されると、検索文字列全体に合致するレコードのみが表示され、空白が論理和 (or) と解釈されることはありません。ワイルドカードは、その位置に関係なく検索文字列に複数回指定することができます。次のワイルドカードを使用できます。

- * 0 個以上の文字。
- ? 任意の 1 文字。
- ^ フィールド値の文字の始め
 このワイルドカードはその他のワ
 イルドカードとあわせて使われます。

Enter を押して検索された値を選択するか、Esc を押して操作をキャンセルします。

例：

選択された検索方法に応じて以下の結果が返されます。

文字列	検索方法	結果
ab	標準	ab で始まる単語を含むすべての値が返されます。
^ab	ワイルドカード	ab で始まる単語を含むすべての値が返されます。 ab の標準検索と同様ですが、ワイルドカードを使ってより複雑な検索ができる点で標準検索とは異なります。SET 分析など、プログラムでの検索でも使用できます。
a*	ワイルドカード	文字 a で始まるすべての値が返されます。
b	ワイルドカード	文字 b を含むすべての値が返されます。

あいまい検索

あいまい検索は、検索文字列への類似度に応じてすべての項目を比較し、ソートする以外は、標準の検索に類似しています。あいまい検索は、スペルミスが問題となるような場合に特に便利です。お互いにほとんど同じ値を複数検索するのにも役立ちます。

あいまい検索が使用されるときは、チルダ記号 (~) が検索文字の前に表示されます。

テキスト検索をチルダ記号で開始すると、あいまい検索モードでテキスト検索ウィンドウが開きます。検索ウィンドウにはチルダ (~) が表示され、その後にカーソルが置かれています。入力すると、すべての値が検索文字列との類似性の高さに基づいてソートされ、最も一致している値がリストの一番上にきます。Enter キーを押すと、リストの最初の値が選択されます。

数値検索

数値検索を使用して選択することもできます。テキスト検索とほぼ同じです。唯一の違いは、検索文字列が以下の関係演算子のいずれかで始まる必要があるという点です。

演算子	説明
>	より大きい
>=	以上
<	未満
<=	以下

例：

>900	900 より大きいすべての値を検索します
<=900	900 以下のすべての値を検索します
>900<1000	900 より大きく、かつ 1000 より小さい値がすべて検索されます
<900>1000	900 より小さい、または 1000 より大きい値がすべて検索されます

初期検索モード

テキストを入力し始める場合の動作は異なる可能性があります。QlikView が検索文字列にワイルドカードを追加して、ワイルドカード検索を行うことがあります。

好みの検索モードは、オブジェクトのプロパティ、もしくは **ユーザー プロパティ** で設定できます。

検索文字列の評価

検索文字列が入力、編集された後、QlikView は上記のどの検索動作を選択するかを評価します。

検索文字列にワイルドカード文字が含まれている場合は、標準検索ではなくワイルドカード検索が行われます。

検索文字列にワイルドカード、より大きい(>)、より小さい(<)といった文字を追加するか削除すると、いつでも検索モードを変更できます。

連想検索

検索ボックスには、右側にシェブロン(>>)が含まれています。これをクリックすると、検索ボックスは右側に拡張され、1つ目の検索結果の横に2つ目の検索結果が表示されます。この2つ目のリストには、他の項目で合致した検索結果が含まれます。2つ目の検索結果をクリックし、一時的な選択を行うことができます。この選択により、1つ目の選択結果がさらに絞り込まれます。2つ目の検索結果で選

択を行うと、最初のリストで選択を行う前に新しい検索文字列を入力することができます。最後に、1つ目の検索結果で選択を行うと、2つ目の検索結果は閉じられます。

高度な検索

複雑な検索式では、**[高度な検索]** ダイアログを使用できます。これはキーボードのショートカット CTRL+SHIFT+F で呼び出せます。等号 (=) を使用してテキスト検索を開始する場合は、関連項目とブール論理の検索条件を含む高度な検索式を入力できます。等号の後には、任意の有効な QlikView レイアウト数式を入力できます (**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ))。この数式は、検索項目の項目値ごとに評価されます。検索式が 0 以外の値を返すすべての値が選択されます。

例：

=MyField like 'A*' or MyField like '*Z'

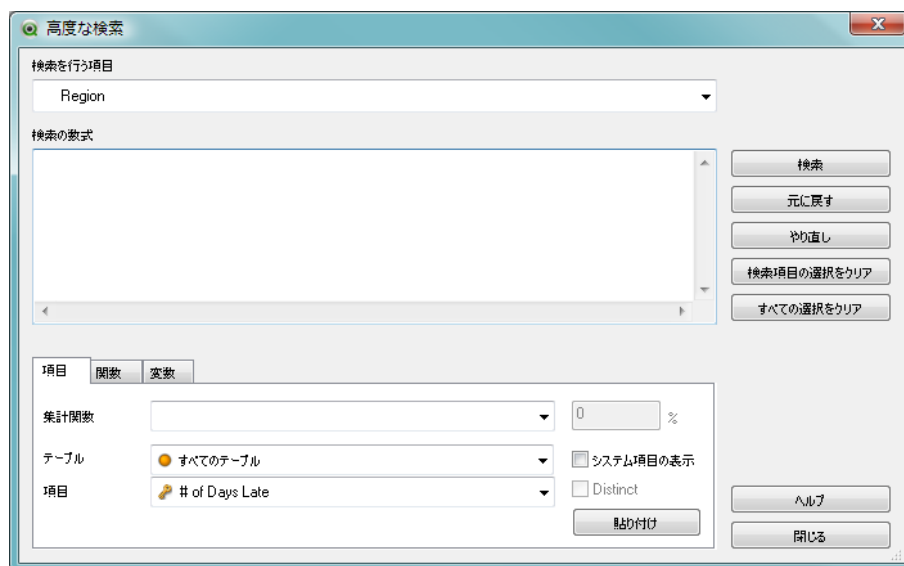
項目 MyField を含むリストボックスから例を呼び出すと、文字 A で始まるか文字 Z で終わるすべての項目値が検索で返されます。

例：

=sum(Sales)>sum(Budget)

項目 Salesman を含むリストボックスから例を呼び出すと、関連付けられている売り上げ値が関連付けられている Budget より大きなすべての営業担当が検索で返されます。

14.11 [高度な検索] ダイアログ



[高度な検索] ダイアログ

[高度な検索] ダイアログを使用すると、QlikView 項目に適用する複雑な検索クエリを作成できます。アクティブなリストボックスに入力して検索を開始するときに表示される標準の **検索** (127 ページ) ボックスとは異なり、検索の結果は、**検索** ボタンを押して検索を実行するまでレイアウトに対話的に表示されません。ダイアログは、QlikView レイアウトでの作業中は開いたままにできます。ダイアログは全面的にサイズ変更可能で、大きく複雑な数式を簡単に編集できます。

検索を行う項目	検索を実行する項目。ダイアログに入力するときにアクティブなリストボックスの項目に設定されます。ドロップダウンを使用していつでも検索項目を変更できます。
検索の数式	検索の数式を入力する場所です。通常の検索ボックスを使用した場合と同じルールが適用されます。
検索	検索を検索項目に適用します。
元に戻す	QlikView は、過去の選択条件を 100 段階まで記憶します。選択条件のリストを 1 つ前に戻すにはこのボタンをクリックします。
やり直し	選択条件のリストを 1 つ次に進めるにはこのボタンをクリックします (直前の 元に戻す コマンドを取り消すのと同じです)。 [元に戻す] コマンドを直前で使用した場合に限り使用できます。
検索項目の選択をクリア	現在の検索項目の選択をクリアします。
すべての選択をクリア	ドキュメント内のすべての選択をクリアします。
ヘルプ	高度な検索の [ヘルプ] ダイアログを開きます。
閉じる	ダイアログを閉じます。

ダイアログの最下部にある 3 つのタブを含むパネルは、高度な検索の数式を構築する際に役立ちます。

項目

[項目] タブを選択すると、QlikView 項目データに関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

集計	このドロップダウンから、QlikView レイアウトで使用できる統計集計関数を選択できます。
テーブル	このドロップダウンで、選択する項目のあるテーブルを選択すると、 項目 のドロップダウンを使用した操作が簡単になります。
項目	このドロップダウンリストには、使用可能なすべての項目がリストされます。上の テーブル ドロップダウンで特定のテーブルを選択すると、リストを絞り込むことができます。
システム項目の表示	このチェックボックスをオンにすると、ドキュメントの項目のリストにシステム項目が表示されます。
Distinct	デフォルトでは、統計関数は、元のテーブル内の出現数に基づいて計算されます。ただし、重複を計算してはならない場合があります。その場合は、このチェックボックスをオンにしてから関数を貼り付けます。
貼り付け	選択した関数または項目そのものを 検索の数式 編集ボックスに貼り付けます。分位数関数を使用する場合には、パーセンテージを使用できます。

関数

[関数] タブを選択すると、QlikView の一般的な関数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

関数の種類 ドロップダウンで関数の種類を選択すると、**関数** のドロップダウンを使用した操作が簡単になります。

関数 QlikView レイアウトで使用できるすべての関数の中から、数式に貼り付ける関数をドロップダウンから選択できます。上記の **[関数の種類]** ドロップダウンで選択し、特定のカテゴリに属する関数のみを表示するようにリストを限定できます。

貼り付け 選択した関数名を **[検索の数式]** 編集ボックスに貼り付けます。

ダイアログの最下部に、**関数** ドロップダウンで選択している関数の引数の構文が表示されるパネルがあります。

変数

[変数] タブを選択すると、QlikView の変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールを使用できます。

変数 ドロップダウンで、ドキュメントで現在定義されているすべての変数を確認できます。

貼り付け

選択した関数を **検索の数式** 編集ボックスに貼り付けます。

システム変数の表示

このチェックボックスをオンにすると、システム変数が **変数** ドロップダウンのリストに表示されます。

ダイアログの最下部に、**変数** ドロップダウンで選択している変数の現在の値を表示するパネルがあります。

14.12 リストボックスの AND モード

項目での複数選択は、初期設定では論理和 (OR) として解釈され、項目の選択値のいずれかに関連づけられているデータが他の項目で表示されます。

ただし、リストボックスで AND モードを設定することが可能です。AND モードに設定されたリストボックスで複数選択を行うと、選択された項目値のすべてに関連するデータのみが他の項目に表示されます。

例：

顧客が異なる品物を購入したことに関する情報がデータソースに含まれています。

初期モードでいくつかの品物を選択すると、選択した品物を購入した顧客が QlikView に表示されます。

AND モードでいくつかの品物を選択すると、選択した品物を購入した顧客が QlikView に表示されません。

AND モードの前提条件

項目のモードは、**リストボックスプロパティ：基本設定** ページで設定します。

And モード がアクティブな場合、選択値の前にアンパサンド("&")が表示されます。

値をクリックしてしばらく保持すると、選択が **(AND)** 選択 (緑) から **NOT** 選択 (赤) に切り替わりま
す。アンパサンドも感嘆符("!") に置き換わります。強制排除や強制排除のマークを持つ **NOT** 選択は、
And モード に設定されているリストボックスでのみ作成できます。

AND モードの基準

項目は、常に論理 AND モード に設定できるとは限りません。関連する項目が他の 1 つの項目のみにリ
ンクされている場合に限り、AND に論理的な意味があるからです。次の条件を満たす必要があります。

- 項目が 1 つの論理テーブルにのみ存在する
- 項目は 2 項目あるうちの 2 列目である
- テーブルに重複するレコードがあってはならない
- その項目のロードには distinct 修飾子を使用する。テーブルのロードに Select ステートメントを
使用する場合、Load distinct * ステートメントで先行する必要があります。

AND モードでのリストボックスの設定

以下の手順は、初期モード (論理和 OR) の代わりに AND モードでリストボックスを設定する方法を説
明しています。以下の手順を行ってください。

1. AND モード基準が満たされていることを確認してください。
2. リストボックスを右クリックして、**[プロパティ]** を選択します。
3. **[基本設定]** タブで **[And モード]** チェックボックスをオンにします。

強制除外

強制除外 (NOT 選択と呼ばれることもあります) は AND 選択に密接に関連しています。強制除外では、
明示的に項目値を除外できます。つまり、QlikView に検出される結果は、除外値に関連付けられませ
ん。

強制除外を行うには、セルをクリックして、セルが赤くなるまでマウス ボタンを押し続けます。この方
法で Ctrl キーを押しながらクリックすると、前の選択/除外に対する追加要求である除外が行われま
す。強制除外は、AND モードの項目でのみ実行できます。

14.13 循環参照

データモデルの少なくとも 3 つのテーブルの間でキーが円を形成する場合は循環参照が作成されます。
これにより、QlikView の連想ロジックにループが生成されます。循環参照を避けるため、QlikView は
1 つ以上のテーブルを疎結合に設定します。この場合、スクリプトをリロードすると警告ダイアログが
表示されます。

[ドキュメントプロパティ] ダイアログの **[テーブル]** タブに疎結合テーブルの概要が示されます。

例：

データは以下を含む 3 つのテーブルからロードされます。

- いくつかの国代表サッカー チームの名前
- いくつかの都市のサッカー クラブ
- いくつかのヨーロッパ諸国の都市

NationalTeams	
Country	Team
Germany	Die Mannschaft
Italy	Azzurri
Spain	La Roja

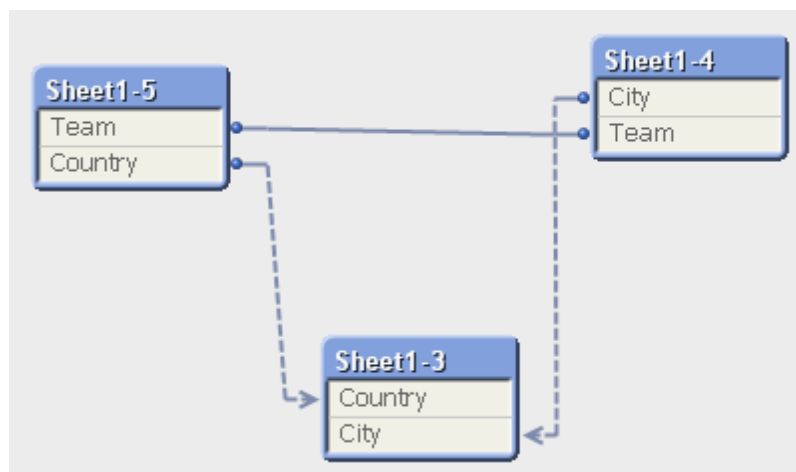
Clubs	
City	Team
Barcelona	Barcelona
Hamburg	Altona
Madrid	Real Madrid
Milano	Milan
Munich	Bayern München
Rome	Lazio
Turin	Juventus

Cities	
Country	City
Germany	Hamburg
Germany	Munich
Italy	Milano
Italy	Rome
Italy	Turin
Spain	Barcelona
Spain	Madrid

このデータ構造はあまりよくありません。項目名 *Team* が国代表チームと地方クラブの2つの異なる目的で使用されているためです。テーブル内のデータで非現実的なロジック状況が発生します。

テーブルを QlikView にロードする際、QlikView はどのデータ接続が最も重要でないかを判定し、このテーブルを疎結合にします。

[ファイル/テーブル ビューアー] を選択して、QlikView がデータ接続の関連性を解釈する方法を確認します。



これで、所在する都市と国が含まれているテーブルが、異なる国の代表チームのテーブルと異なる都市の地方クラブのテーブルに対して疎結合になります。

循環参照を解決する

循環参照が発生した場合は、同一の名前を持つ項目のいずれかに一意の名前を割り当てて、QlikView のスクリプトを編集する必要があります。以下の手順を行ってください。

1. [スクリプト エディタ] を開きます。
2. 重複する項目名のいずれかの LOAD ステートメントを編集します。この例では、地方チームとその都市が含まれているテーブルの LOAD ステートメントに、*Team* の新しい名前が含まれます (例 : *LocalClub*)。更新された LOAD ステートメントは以下のようになります。

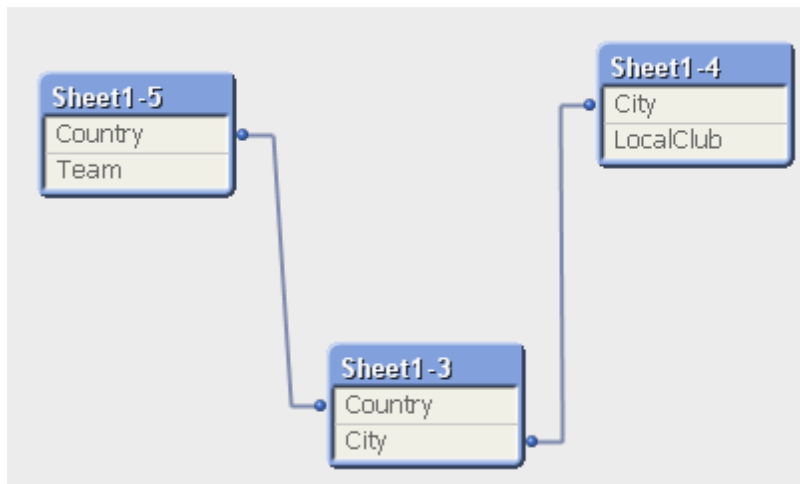
LOAD City, Team as LocalClub

3. スクリプトをリロードしてください。

これですべてのテーブルで機能するロジックができあがりました。この例では、イタリアが選択された場合、イタリア代表チーム、イタリアの都市、各都市の地元クラブが関連付けられます。

Country	Team	City	LocalClub
Germany	Azzurri	Barcelona	Altona
Italy	Die Mannschaft	Hamburg	Barcelona
Spain	La Roja	Madrid	Bayern München
		Milano	Juventus
		Munich	Lazio
		Rome	Milan
		Turin	Real Madrid

[テーブルビューアー]を開くと、疎結合された接続が通常の接続に置き換えられていることがわかります。



14.14 疎結合テーブル

循環参照が含まれているデータを QlikView にロードすると、疎結合テーブルが自動的に作成されます。これにより、循環参照が QlikView 内部ロジックでループを作成することを防ぎます。疎結合テーブルは、予想される理解可能な方法でデータを視覚化できるように取り扱う必要があります。

参照項目:

[循環参照 \(133 ページ\)](#)

[疎結合テーブルの意図的な作成 \(1113 ページ\)](#)

14.15 並列ステート

説明

[並列ステート]を使用して、重複したデータ アイテム間の比較分析(例えば、バスケット解析目的)を行えます。選択状態の場合、選択の組み合わせを保持します。

QlikView デベロッパーは QlikView ドキュメントに複数の状態を作成し、ドキュメントの特定のオブジェクトにこれらの状態を適用できます。エンドユーザーはこれらのオブジェクト (サーバー オブジェクト) のコピーを作成し、それらのオブジェクトに異なる状態を設定することが可能です。

[分離設定]と**[並列ステート]**の最も重要な違いは、特定の状態が設定されたオブジェクトはすべて、その状態で行われた選択の影響を受けるということです。特定のステートが設定されたオブジェクトは、他のステートにおける選択の影響を受けません。

[並列ステート]は、ロード スクリプトでは使用できません。

注意！

[並列ステート]機能は、QlikView デベロッパーによって有効化されて、慎重に使用されなければなりません。なぜなら、並列ステートに、オブジェクトや数式が存在することを示す自動オンスクリーン表示がないため、エンドユーザーに多大な混乱を引き起こす可能性があるからです。QlikView 開発者は **StateName()** 関数を使用してこの情報をエンドユーザーに提供できます。

並列ステートの設定

以下を行い、並列ステートを設定して有効にしてください。

1. **ドキュメントプロパティ：基本設定** タブの**[並列ステート]**をクリックします。
[並列ステート]のダイアログが開きます。
2. **[追加]**をクリックして、ステートを多数作成し、それらに名前を設定します。その名前は、ステートの識別子として参照されます。
3. **[OK]**をクリックしてダイアログを閉じます。

これで、QlikView デベロッパーは、スクリーン オブジェクト内から、新規の**[並列ステート]**を作成することができます。

QlikView Server から QlikView ドキュメントにアクセスするエンドユーザーは、**[並列ステート]**を利用できますが**[並列ステート]**を作成することはできません。

ステートをオブジェクトに割り当てる

以下を行い、ステートをオブジェクトに割り当ててください：

1. **[プロパティ]** ダイアログを開き、**[基本設定]** タブを選択します。
2. オブジェクトに使用したいステートの識別子に**[並列ステート]**を設定します。

他のオブジェクトが同じステートに設定されない限り、オブジェクトは、選択の条件により、そのオブジェクトは、ドキュメントの残りのオブジェクトに影響されません。

[初期ステート]と**[継承済み]**の2つのステートは常に使用できます。**[初期ステート]**は QlikView で最も頻繁に使用されるステートで、\$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**[初期ステート]**にあります。オブジェクトはシートやコンテナといった上位レベルのオブジェクトからステートを継承できます。つまりステートは、ドキュメント - シート - シート オブジェクトの順番で継承されます。シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートになります。

並列ステートの比較

同じオブジェクトの2つのステートを比較することができます。例えば、*Set 分析 (992 ページ)*を使用している数式のステートを割り当てるにことにより、同じ軸を持つデータの両方のステートを表示するために、折れ線グラフを作成することができます。

例：

ステート *Group1* と *Group2* を定義した場合、折れ線グラフで、これら2つの数式を示すことによって、グループのフィールド *Adj.Close* の平均を比較することができます：

```
Avg({ [Group1] } [Adj.Close])
```

```
Avg({ [Group2] } [Adj.Close])
```

並列ステート使用時の論理的な動作

[クリア] ボタンはすべてのステートに影響します。

Inter Explorer プラグインでは、メニュー項目が、特定のステートの選択をクリアすることができる**クリア** ボタンのドロップダウンメニューに追加されます。このメニューは、Ajaxクライアントでは利用できませんが、特定のステートで、クリアのアクションと関連付けられたアクション ボタンを作成することにより、同じ機能を実現できます。

[元に戻す] と **[やり直し]** ボタンはすべてのステートに影響します。特定のステートにおいて、元に戻したりやり直したりする機能はありません。

[ロック] と **[アンロック]** ボタンはすべてのステートに影響します。これらのボタンで特定のステートをロック/アンロックすることはできません。特定のステートにあるリストボックスを右クリックして表示されるメニューを使用し、ステートの特定項目をロックすることが可能です。

[選択] メニューのメニュー項目はすべてのステートに適用されます。このメニューには特定のステートに影響する機能はありません。

注意！

[並列ステート] はリンクオブジェクトで使用できます。オブジェクトのインスタンスすべてにそのステートが適用されます。リンクオブジェクトでは、リンクするオブジェクトのひとつのステートを変更すると、その他のオブジェクトも同じステートになります。

注意！

変数は初期ステートになります。他のステートにおける変更は変数値に影響しません。

注意！

トリガーはすべてのステートで発生します。

注意！

アクションは特定のステートで発生するように設定できます。**[マクロの実行]** アクションは例外となります。特定のステートで起動するように設定できますが、マクロはすべてのステートで発生します。

注意！

存在しないステート (デベロッパーが削除したステート) が設定されたオブジェクトは、**[並列ステート]** ドロップダウンを介して初期ステートに戻ります。ここには以下のような情報が表示されます。

```
AlternateStateName <unavailable>
```

注意!

State 引数のある チャート項目関数 (1023 ページ) は、並列ステートと一緒にのみ使用できます。

15 ブックマーク

15.1 ブックマークの種類

現在の選択条件の状態を後で使用するためにブックマークとして保存できます。ブックマークは、QlikView ドキュメントに定義されたすべてのステートの選択条件を記録します。QlikView バージョン 11 (またはそれ以降) で作成されたブックマークを呼び出すと、すべてのステートの選択条件が適用されます。ブックマークには、次の種類があります。

- | | |
|----------------------|---|
| ドキュメントブックマーク | qvw ドキュメント内に保存されます。ドキュメントがローカルで開かれている場合も、QlikView Server から開かれている場合でも使用できます。 |
| ユーザーブックマーク | ユーザーのコンピュータに別途保存されます。マイブックマークは、作成したユーザーが、作成に使用したコンピュータ上でのみ使用できます。ドキュメントが移動されたり、名前が変更されると、関連する個人用のブックマークはすべて失われます。 |
| 個人用サーバーブックマーク | 認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。 |
| 共有サーバーブックマーク | 認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。個人用サーバーブックマークを作成したユーザーは、これを他のユーザーと共有するためのフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。個人用サーバーブックマークと同様、共有サーバーブックマークはサーバーのリポジトリに保存されます。 |
| 一時ブックマーク | は、一部の機能を使用するときに QlikView によって作成されます。たとえば、 ブックマークをリンクとしてメールで送信 およびドキュメントチェーンなどです。認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。 |

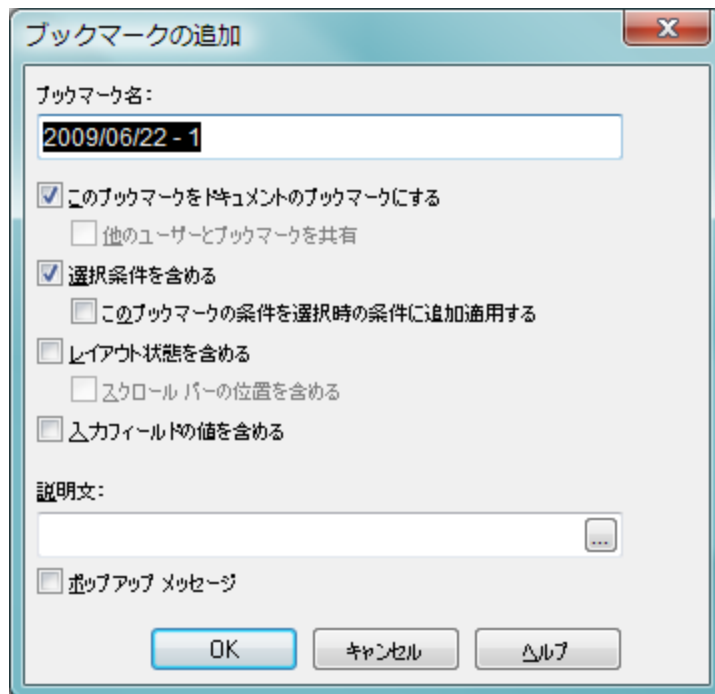
注意!

データモデルに変更を加えると、項目名に変更がなくても既存のブックマークが機能しなくなる可能性があります。

15.2 [ブックマークの追加] ダイアログ

ブックマーク メニューから**ブックマークの追加**を選択するか、Ctrl+B を押すと、現在の選択の状態をブックマークとして保存できます。また、QlikView レイアウトのブックマークオブジェクトからもブックマークは作成できます。これにより、**ブックマークの追加**ダイアログが開きます。

ローカルドキュメントを操作しているか、QlikView Server 上のドキュメントを操作しているかによってダイアログは多少異なります。最初にローカルドキュメントのダイアログについて説明し、次にサーバードキュメントとの違いを説明します。



ローカルドキュメントの [ブックマークの追加] ダイアログ

ブックマーク名

作成されるブックマークのデフォルト名は、現在の日付です。さらに、特定の日に作成された最初のブックマークには、番号 1、2 番目には 2 が付きます。ただし、名前を入力してデフォルト名をよりわかりやすいテキストに変更できます。

このブックマークをドキュメントのブックマークにする

チェックボックスをオンにすると、ブックマークはドキュメントと共に保存されます。このオプションは、ローカルドキュメントでのみ使用できます。チェックボックスをオフにすると、ブックマークはユーザーブックマークとして作成され、コンピュータにローカルで保存されます。

選択条件を含める

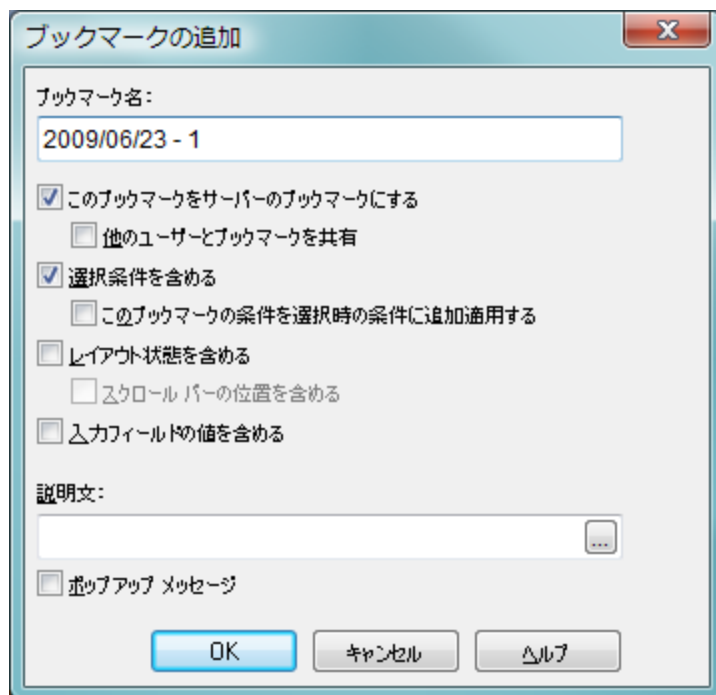
チェックボックスをオンにすると、アプリケーションの選択条件がブックマークに含まれます。

このブックマークの条件を選択時の条件に追加適用する

チェックボックスをオンにすると、ドキュメントの既存の選択を最初にクリアしないでブックマークが適用されます。

レイアウト状態を含める	<p>このチェックボックスをオンにすると、ブックマークの作成時にアクティブだったシート上のすべてのシート オブジェクトのレイアウト状態が保存されます。この中には、チャートのサイクル位置などが含まれます。レイアウト情報を含むブックマークを再度呼び出すと、シートがアクティブにされ、シート オブジェクトがその状態に復元されます。</p> <p>ブックマークのレイアウト状態には、オブジェクトの全体的なプロパティではなく、表示状態 (最小化/最大化) と展開状態のみが含まれます。アクティブなシート上のあらゆるピボット テーブルのレイアウトは、コンテナ オブジェクト内には限り保持されます。ただし、ピボット テーブルの列の位置は保持されません。</p> <p>ピボット テーブルのレイアウトに関してはリセット オプションはありません。ピボット テーブルの元のレイアウトを使用してドキュメントのクリア 選択状態でドキュメント ブックマークを作成することが回避方法になります。</p>
スクロール バーの位置を含める	<p>このチェックボックスをオンにすると、ブックマークのテーブルオブジェクトに、現在の垂直スクロールの位置が含まれます。</p>
入力フィールドの値を含める	<p>このチェックボックスをオンにすると、入力フィールドの値がブックマークに含まれます。</p>
説明文	<p>ブックマークを再度呼び出した場合に表示される、ブックマークを説明するテキストかメッセージを編集ボックスに入力できます。</p>
ポップアップ メッセージ	<p>チェックボックスをオンにすると、ブックマークを再度呼び出すたびにブックマーク情報のテキスト (存在する場合) がポップアップ ウィンドウに表示されます。</p>

サーバー ドキュメントとの違いは次のとおりです。



このブックマークをサーバーのブックマークにする

このチェックボックスをオンにすると、ブックマークは個人用サーバーブックマークとして作成され、サーバーのリポジトリに保存されます。このオプションは認証ユーザーだけが使用でき、QlikView Server とドキュメントでサーバーブックマークを作成できることが前提です。チェックボックスをオフにすると、ブックマークはユーザーブックマークとして作成され、コンピュータにローカルで保存されます。

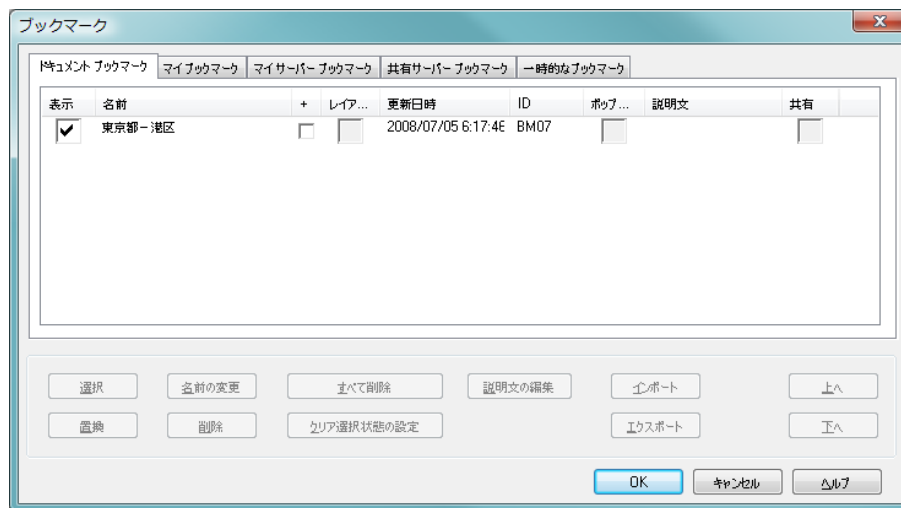
他のユーザーとブックマークを共有

サーバーブックマークを作成できる場合に、このチェックボックスをオンにすると、即座にブックマークを同じサーバードキュメントの認証ユーザーと共有して使用できます。**ブックマーク** ダイアログの**マイサーバーブックマーク** ページで**共有**チェックボックスをオフにすることで、いつでも共有を取り消せます。

注意!

ブックマークにソート順は保存されません。ブックマークを選択すると、**プロパティ**で定義されているソート順に置き換わります。

15.3 [ブックマーク] ダイアログ



サーバードキュメントの操作で表示される5つのタブが表示された [ブックマーク] ダイアログ

[ブックマーク] メニューから [ブックマークの整理] を選択し、[ブックマーク] ダイアログを開きます。[ブックマーク] ダイアログは、2 ページ (ローカルドキュメントの場合) または 5 ページ (サーバードキュメントの場合) に分かれていて、ドキュメントブックマークとマイブックマーク、マイサーバーブックマーク (サーバードキュメントのみ)、他のユーザーとの共有サーバーブックマーク (サーバードキュメントのみ)、一時的なブックマーク (サーバードキュメントのみ) となります。ブックマークの種類の違いに関する詳細は、ブックマークの種類 (139 ページ) を参照してください。

ダイアログの上部に、QlikView ドキュメントで現在定義されているブックマークが表示されます。ブックマークは次の複数の列で表され、ソートすることができます。

- 表示** ブックマークオブジェクトのリストと **ブックマーク** メニューにブックマークを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。チェックボックスをオフのままにすると、ブックマークは表示されませんが、このダイアログからアクセスできます。
- 名前** ブックマークの名前。ブックマークをアルファベット順でソートするには、列のヘッダーをクリックします。2 回クリックすると、ブックマークはアルファベット順の降順でソートされます。
- +** ブックマークのチェックボックスをオンにすると、ドキュメント内の既存の選択を最初にクリアしないでブックマークが適用されます。ドキュメントの既存の選択条件に矛盾しない限り、その選択条件にブックマークが追加適用されます。

レイアウト

ブックマークがレイアウト情報と共に作成されている場合、ブックマークのレイアウト設定をチェックボックスを使用して切り替えることができます。レイアウト設定がオンの場合、プログラムはブックマークが作成されたときに設定されていたレイアウトを再形成しようとします。これには、正しいシートへの切り替えとシート上のシートオブジェクトのレイアウト更新が含まれます。

レイアウト情報なしにブックマークを作成した場合、この設定を使用してレイアウト情報を追加することはできません。

更新日時

ブックマークが作成された日付と時刻の情報。

ID

ブックマークの一意の ID。作成時に、各ブックマークには制御用に 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) から一意の ID が割り当てられます。ドキュメントの最初のブックマーク (種類ごと) には、ID BM01 が割り当てられます。これは、同じ ID のドキュメントブックマークとサーバーブックマークを持つことができることを意味します。

ブックマーク ID は、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) を使用してドキュメントの他のブックマーク、シートまたはシート オブジェクトで現在使用されていない他の文字列に変更できます。ブックマークの名前を変更しても、ブックマーク ID は変更されません。ブックマークをエクスポートしてからインポートすると、新しいブックマーク ID が作成されます。ブックマーク ID の先頭には、その種類 (ドキュメント、ユーザーなど) を説明するプレフィックスが付きます。

ポップアップ

ブックマークに説明文を追加した場合にこのチェックボックスをオンにすると、ポップアップ テキストとして表示します。

説明文

ブックマークに説明文を追加した場合、ここに表示されます。

共有

このチェックボックスは、**[マイ サーバー ブックマーク]** ページでのみ使用できます。マイサーバーブックマークのいずれかでチェックをオンにすると、ブックマークは、**共有サーバーブックマーク** ページで同じサーバードキュメントの他の認証ユーザーからも使用できるようになります。ブックマークは、**マイ サーバー ブックマーク** ページに限られ、**共有サーバーブックマーク** ページには表示されません。チェックボックスをオフにすることで、いつでも共有を取り消せます。

ダイアログの下部に、上のリストで現在選択されているブックマークで操作を実行できるボタンが表示されます。

選択

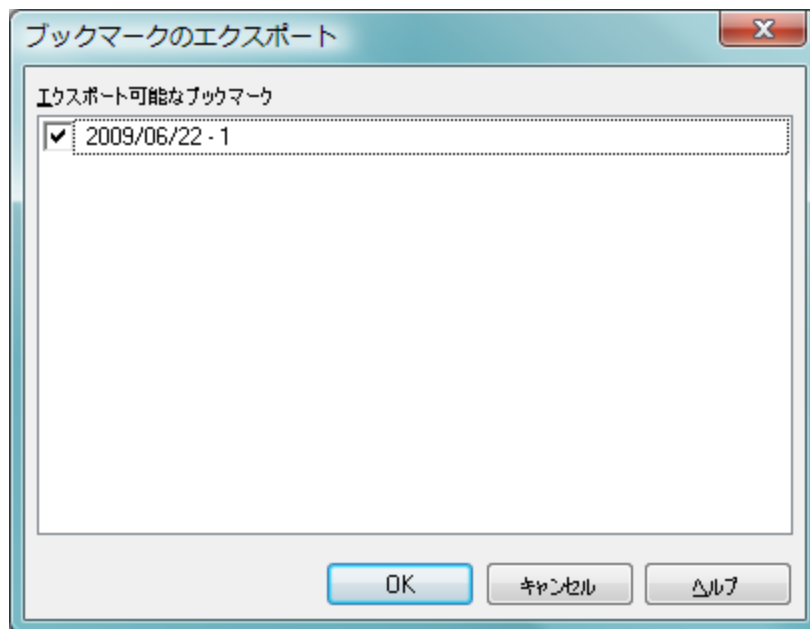
画面に選択されたブックマークを表示します。

Replace

選択したブックマークを現在の選択に置き換えます。自分で作成したブックマークのみ、置換することが可能です。

名前の変更	ブックマークの新しい名前を指定できる ブックマーク名の変更 ダイアログが開きます。自分で作成したブックマークのみ、名前の変更が可能です。
削除	選択したブックマークを削除します。自分で作成したブックマークのみ、削除が可能です。
すべての選択をクリア	ダイアログの現在のパネルにあるすべてのブックマークを削除します。自分で作成したブックマークのみ、削除が可能です。
クリア選択状態の設定	強調表示したブックマークの選択を [クリア選択状態] として使用する場合、このボタンをクリックします。
説明文の編集	ここでは説明文を編集できます。
インポート	保存したブックマーク (.qbm) ファイルを参照して選択すると、ブックマークのインポート (146 ページ) ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。
エクスポート	ブックマークのエクスポート (146 ページ) ダイアログが開き、選択したブックマークを QlikView bookmark (.qbm) ファイルにエクスポートできます。
上へ	選択したブックマークをリストの 1 つ上に移動します。クリックアンドドロップし、リスト内を移動させることも可能です。
下へ	選択したブックマークをリストの 1 つ下に移動します。
ユーザーブックマークをサーバーに転送する	このテキストは、サーバードキュメントの操作中にのみ [マイブックマーク] タブに表示されます。テキストをクリックすると、すべてのローカルユーザーブックマークをサーバーリポジトリに保存されるサーバーブックマークに変換できます。マイサーバーブックマークは、コンピュータを変更したりサーバードキュメントの名前を変更した場合でもサーバーからアクセスできるので、使用することをお勧めします。変換が行われる前に、確認のメッセージが表示されます。転送は、すべてかゼロのどちらかで (アクティブなドキュメント内で) 一方向です。

15.4 ブックマークのエクスポート



[ブックマークのエクスポート] ダイアログ

ブックマークのエクスポート ダイアログでは、現在のドキュメントで定義されているすべてのブックマークがリスト表示されます。チェックされたブックマークのみが、出力されたブックマーク(.qbm)ファイルに含まれます。

OK をクリックすると、ファイル名とブックマーク ファイルの場所を指定するように要求されます。保存すると、ブックマーク ファイルは後で使用したり、同じ QlikView アプリケーションを使用する他のユーザーに配布することができます。

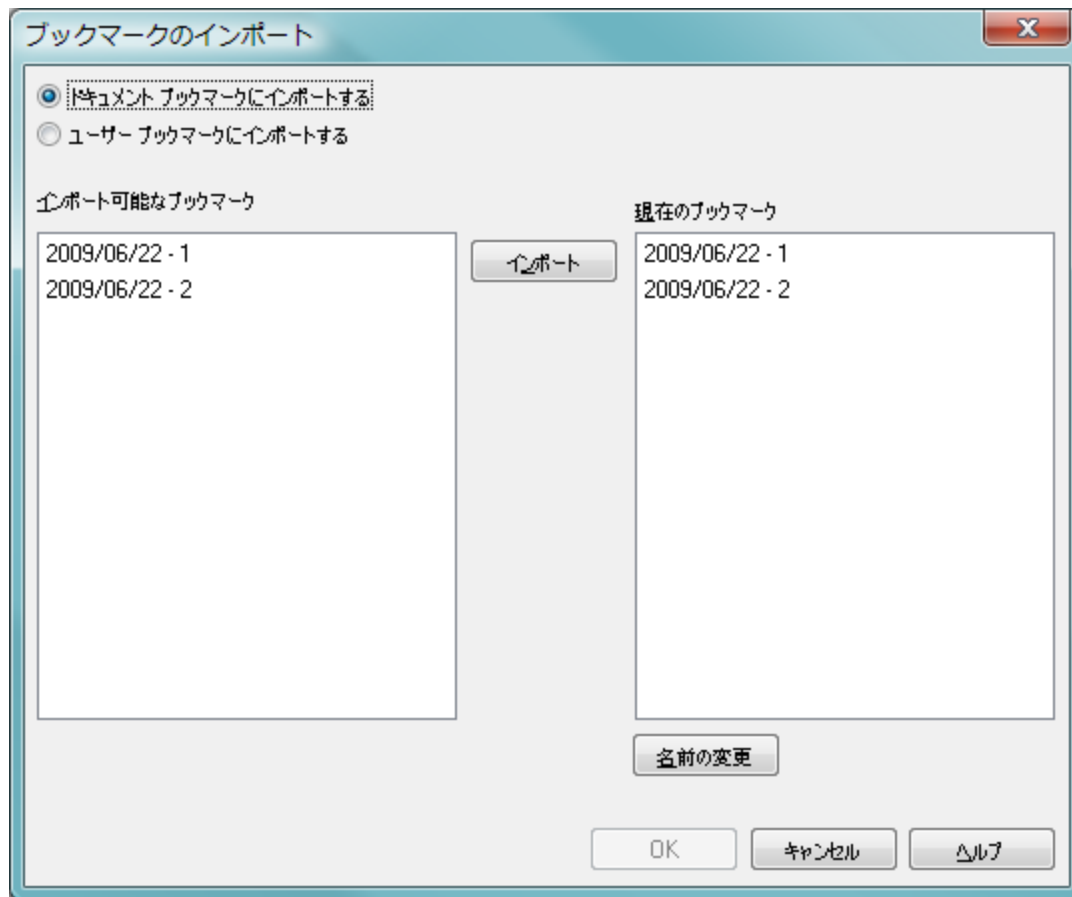
15.5 ブックマークのインポート

ブックマーク メニューから **インポート** を選択すると、ブックマークをブックマーク ファイルにインポートできます。QlikView ブックマーク ファイル (拡張子 .qbm) を選択できるダイアログが開きます。**ブックマークのインポート** ダイアログが開きます。

ブックマークのインポート ダイアログでは、選択したブックマーク ファイルに含まれるすべてのブックマークをリスト表示します。

注意!

ブックマークは、ブックマークが参照する項目と項目値が含まれている QlikView ドキュメントにのみインポートする必要があります。



[ブックマークのインポート]ダイアログ

インポート可能なブックマーク

左側に、ブックマークファイルで定義されているブックマークがすべて表示されます。

現在のブックマーク

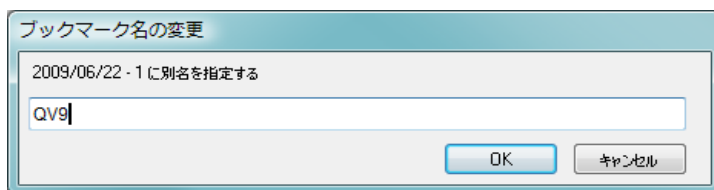
右側に、既存のユーザーブックマークまたはドキュメントのドキュメントブックマークのリストが表示されます。ブックマークは、ユーザーブックマークまたはドキュメントブックマークとしてインポートされる必要があります。ダイアログ上部のラジオボタンによってブックマークのインポート方法が決まります。

インポート

インポート可能なブックマーク リストで1つまたは複数のブックマークを強調表示にし、このボタンを押してインポートします。

名前の変更

ブックマーク名の変更 ダイアログを開き、インポートする前に強調表示したブックマークに新しい名前を指定できます。



15.6 並列ステートとブックマーク

ブックマークは、QlikView ドキュメントに定義されたすべてのステートの選択条件を記録します。QlikView バージョン 11 (またはそれ以降) で作成されたブックマークを呼び出すと、すべてのステートの選択条件が適用されます。

数式でブックマークに含まれた特定のステートを活用することができます。例えば、この数式は「Group 1」ステート用に BM01 ブックマークで定義された選択条件によって生成されたデータセットの売り上げ (Sales) を計算します。

例：

```
sum({[Group 1]::BM01} Sales)
```

注意！

QlikView 11 を使用する場合、バージョン 11 以前に作成された QlikView ドキュメントのブックマークは**デフォルト ステート**が含まれます。バージョン 11 で作成または修正されたブックマークはすべてのステートを含みます。これらのブックマークが QlikView 11 より前のバージョンで使用される場合、追加されたステートは無視されます。

注意!

ブックマークは参照するステートが存在しない場合 (QlikView 開発者がステートを削除)、無効なステートは無視します。

16 レポート

レポートの印刷では、1つのテーブルまたはグラフを印刷することがよくあります。QlikView ではこれを、シートオブジェクトを選択し、メニューまたはツールバーから **[印刷]** を選択することで簡単に行えます。ただし、複数のチャートやテーブルを含む、より複雑なレポートを作成しなければならないこともあります。このような場合、QlikView の **[レポートの編集]** 機能が重要になります。QlikView **レポートエディタ** を使用すると、ヘッダーやフッターなどのページレイアウトを完全に制御しながら、多数の異なるシートオブジェクトを1ページまたは複数のページにまとめることができます。

QlikView レポートは、ドキュメントレポートとマイレポートの2つのエディションに分類されます。

ドキュメントレポート QlikView ドキュメントで作成され、QVW ファイルの一部として保存されます。ローカルでまたは QlikView Server を通して QlikView ドキュメントにアクセスするユーザーは、ドキュメント内のドキュメントレポートにアクセスできます。

マイレポート QlikView Server からドキュメントを操作するユーザーによって作成されます。レポートは、ユーザーブックマークと同様にローカルクライアントマシンに保存されます。ローカルユーザーのみが各自のマイレポートへのアクセス権を保持します。Windows ベースの QlikView クライアントからのみマイレポートを作成できます (AJAX クライアントからは作成できません)。

マイサーバーレポート 認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。

共有サーバーレポート 認証されたユーザーが QlikView Server 上でドキュメントを操作している場合に限り使用できます。マイサーバーレポートを作成したユーザーは、他のユーザーと共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。マイサーバーレポートと同様、共有サーバーレポートはサーバーのリポジトリに保存されます。

注意!

"レポートジェネレータ" という用語を使用する場合、通常はソフトウェア製品の十分に定義されたカテゴリを指します。通常、これらはいくつかの SQL クエリのデータを結合して動作し (グラフィカルインターフェースによってユーザーには隠されます)、それぞれ異なる方法でフォーマットされて印刷されます。QlikView レポートは QlikView シートオブジェクトからデータを取得しますが、SQL クエリからデータを描画できません。QlikView でレポートを作成できるということはまったく正しいですが、QlikView レポートエディタを従来の意味でレポートジェネレータに分類することは正しくありません。

16.1 [レポート] メニュー

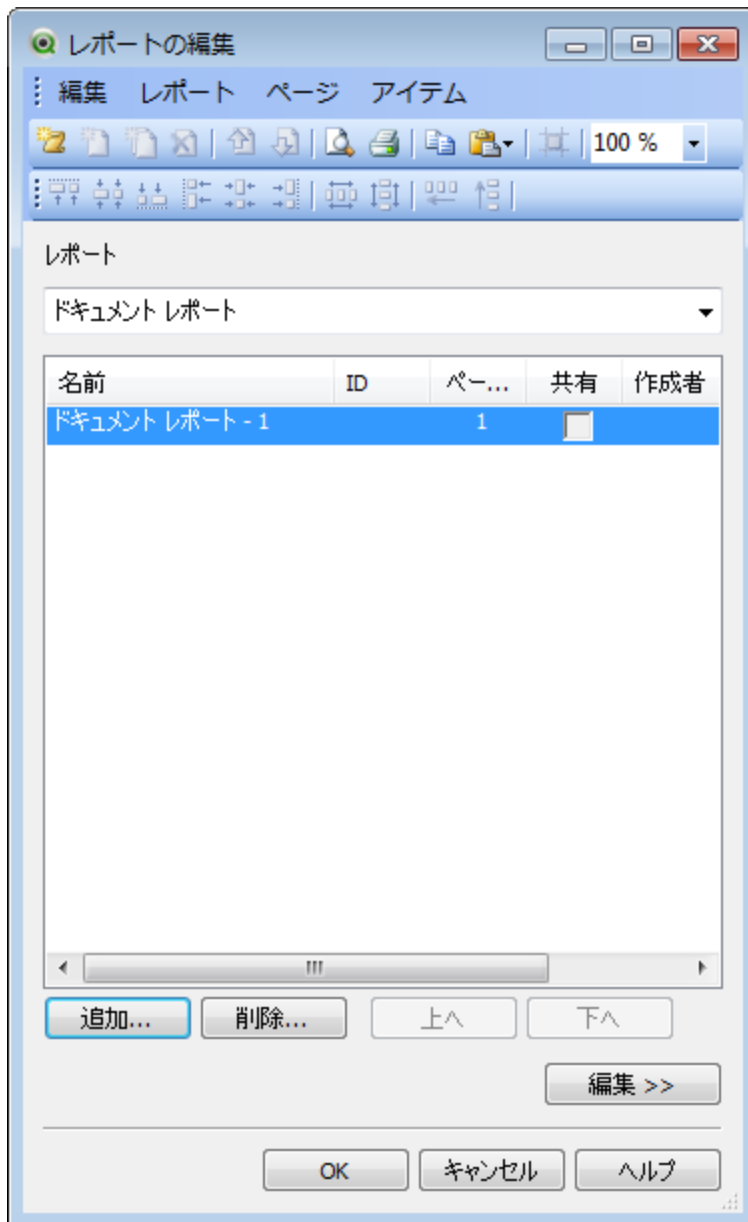
QlikView の画面上部にある **レポート** メニューには、**レポートの編集** コマンドがあります。レポート編集 (150 ページ) ダイアログが開き、新しいレポートの作成や既存レポートの編集を行えます。このダイアログから、レポートの削除/選択、レポートのレイアウトのデザイン、ページやイメージの追加などを行うこともできます。[レポートの編集] には、使用可能なレポートがすべてリストされ、すばやく選択できます。

レポートには、ドキュメントに保存される **ドキュメントレポート**と、ユーザーのコンピュータに個別に保存される **マイレポート**があります。を参照してください レポート編集 (150 ページ)。

16.2 レポート編集

[レポートの編集] ダイアログは、[レポートリスト] と [ページの編集] の2ページで構成されます。初めて [レポートの編集] を開くと、[レポートリスト] が表示されます。

レポートリスト



[レポートの編集] ダイアログの [レポート リスト] ページ

[**レポート リスト**] ページは、レポートを管理するために使用されます。新しいレポートを作成したり、既存のレポートを削除することができます。このページは、**レポート編集**で編集するためのレポートを選択する場所でもあります。ページの上には、ドロップダウンとレポートのリストが表示されます。ドロップダウンメニューは以下のとおりです。

レポート**ドキュメントのレポート**

アクティブなドキュメント内のすべてのドキュメント レポートのリストを開きます。レポート名をクリックすると、レポートを印刷するための **[印刷]** ダイアログが開きます。

マイ レポート

ユーザーのコンピュータに個別に保存されたレポートのリストを開きます。レポート名をクリックすると、レポートを印刷するための **[印刷]** ダイアログが開きます。

マイ サーバー レポート

マイ サーバー レポートは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。

共有サーバー レポート

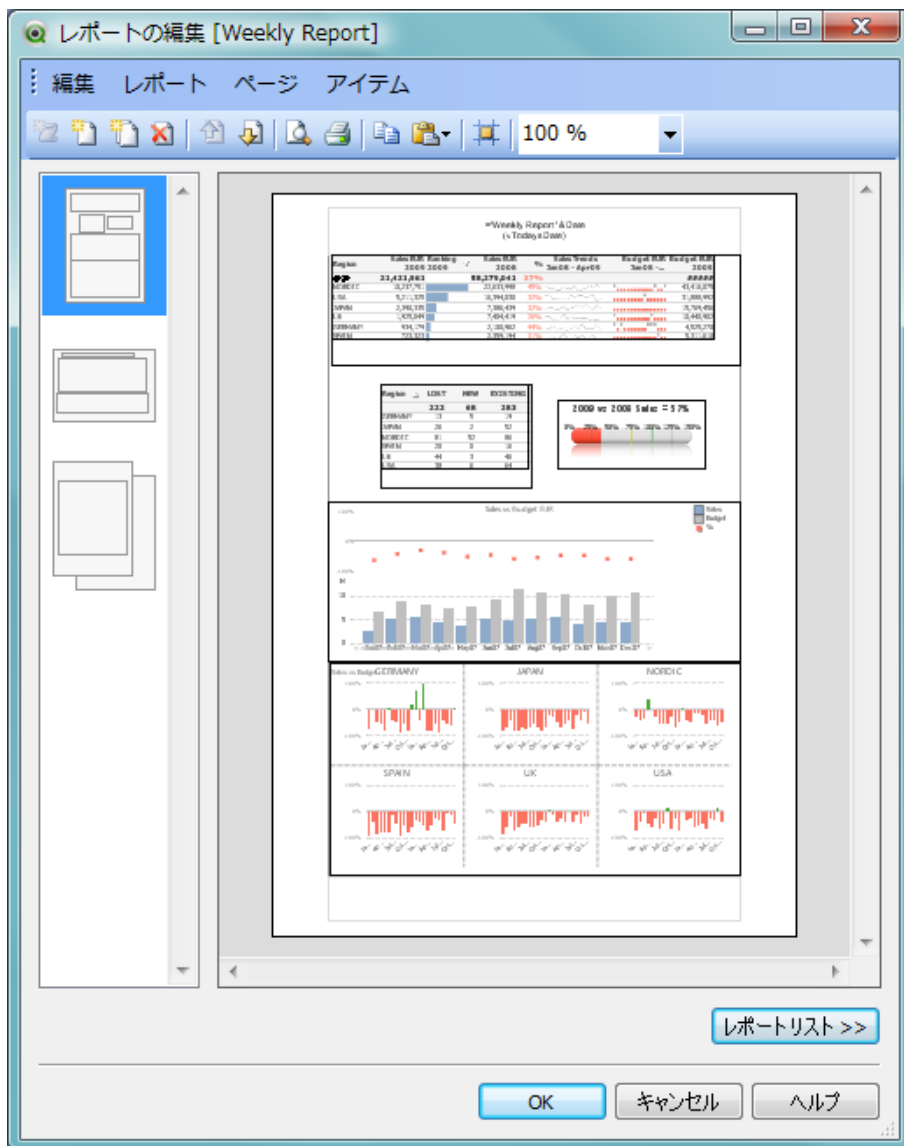
共有サーバー レポートは、認証されたユーザーが QlikView Server ドキュメントを操作している場合に限り使用できます。マイ サーバー レポートを作成したユーザーは、他のユーザーと共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。マイ サーバー レポートと同様、共有サーバー レポートはサーバーのリポジトリに保存されます。

レポートには、ドキュメントに保存される **[ドキュメント レポート]** と、ユーザーのコンピュータに個別に保存される **[マイ レポート]** があります。レポート編集 ダイアログの上部にある **[レポート]** ドロップダウン リストで、表示される **[ドキュメント レポート]** または **[ユーザー レポート]** を選択します。サーバー ドキュメントの場合は、**[マイ サーバー レポート]**、**[共有サーバー レポート]**、または **[マイ レポート]** を選択できます。リスト自体にはいくつかの列が含まれます。

名前	レポートの名前。
ID	一意のレポート ID (以下を参照)。
ページ	レポートで現在定義されているページ数。
共有	このチェックボックスは、 [マイ サーバー レポート] リストでのみ使用できます。マイ サーバー レポートのいずれかでチェックをオンにすると、レポートは、 [共有サーバー レポート] リストで同じサーバー ドキュメントの他の認証ユーザーからも使用できるようになります。レポートは、 [マイ サーバー レポート] リストに限られ、 [共有サーバー レポート] リストには表示されません。共有を取り消すには、いつでもチェックボックスをオフにします。
作成者	レポートの作成者の認証された名前。

追加	新しいレポートを作成するには、このボタンを押します。上部の [レポートのリスト] で [ドキュメントレポート] が選択されている場合、新しいレポートはドキュメントレポートになります。[マイレポート] が選択されている場合、新しいレポートはマイレポートになります。レポートに名前を付けることができるように、[レポートの追加] ダイアログが開きます。[他のレポートからページをコピーする] チェックボックスをオンにし、ページをコピーするための既存のレポートをドロップダウンメニューで選択します。
削除	[レポートのリスト] で現在選択されているレポートを削除するには、このボタンを押します。
上へ	[レポートのリスト] で現在選択されているレポートをリストの1つ上に移動するには、このボタンを押します。
下へ	[レポートのリスト] で現在選択されているレポートをリストの1つ下に移動するには、このボタンを押します。
マイレポートをサーバーに転送する	このテキストは、サーバードキュメントを操作し、リストの上部のドロップダウンで [マイレポート] を選択した場合にのみ表示されます。テキストをクリックすると、すべてのローカルのレポートをサーバーリポジトリに保存されるサーバーのレポートに変換できます。マイサーバーレポートは、コンピュータを変更したりサーバードキュメントの名前を変更した場合でもサーバーからアクセスできるので、使用することをお勧めします。変換が行われる前に、確認のメッセージが表示されます。転送は、すべてかゼロのどちらかで (アクティブなドキュメント内で) 一方方向です。
編集 >>	選択したレポートの [ページの編集] を起動します。このボタンを押す操作は、[レポートのリスト] でレポートをダブルクリックする操作と同じです。

レポート編集



[レポートの編集] ダイアログの [レポート編集] ページ

[ページの編集] は、[レポート リスト] ページで選択したレポートのページを定義するために使用されます。このページには、レポートページの設計を支援する2つのパネルと1つのツールバーがあります。下部には、次のボタンが表示されます。

レポート リスト >> [レポートのリスト] ページに戻ります。

[編集] メニュー

コピー	レポートの現在の選択アイテムとページをコピーします。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
レポートの貼り付け	クリップボードからレポートを貼り付けます。
ページの貼り付け	クリップボードからページを貼り付けます。
アイテムの貼り付け	クリップボードからアイテムを貼り付けます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
グリッド	レポートアイテムの配置を補助するため、レポートにグリッドを表示します。

[レポート] メニュー

追加	レポートを追加します。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
削除	レポートを削除します。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
上へ	選択したレポートをレポートのリストの1つ上に移動します。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
下へ	選択したレポートをレポートのリストの1つ下に移動します。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
エクスポート	XML ドキュメントとしてレポート ファイルを保存します。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
インポート	XML として保存されたレポートをインポートします。[レポート リスト] を表示しているときにのみ有効です。
印刷プレビュー	[印刷プレビュー] ダイアログを開き、QlikView ドキュメントの現在の選択範囲で印刷したときの現在のレポートの外観を確認できます。
印刷	[印刷] ダイアログを開き、現在のレポートを印刷します。
レポート設定	[レポート編集 : [レポート設定] ダイアログ (162 ページ)] ダイアログを開きます。このダイアログでは、レポートのさまざまなプロパティを設定できます。これには、余白、ヘッダー/フッターの設定などが含まれます。

ページメニュー

上へ	現在選択されているページを1つ上に移動します。これは、ページリストパネルでページをドラッグアンドドロップして行うこともできます
下へ	現在選択されているページを1つ下に移動します。これは、ページリストパネルでページをドラッグアンドドロップして行うこともできます
複式ページの追加	現在選択されているページの後に複式ページを追加します。
単式ページの追加	現在選択されているページの後に単式ページを追加します。
削除	現在選択されているページを削除します。
ページ設定	[レポート編集 : [ページ設定] ダイアログ (165 ページ)] ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択したページのさまざまなプロパティを設定できます。

アイテム メニュー

- 左揃え** (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを左に揃えます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 左右中央揃え** 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平中央位置に配置します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 右揃え** (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを右に揃えます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 下揃え** (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを下に揃えます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 上下中央揃え** 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 上揃え** (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを上揃えます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 左右に整列** 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 上下に整列** 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
- 左詰め** 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。

上詰め	印刷オブジェクトが2つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシートオブジェクトを配置します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
幅を揃える	(Shift キーを押しながらクリックして) 2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。現在選択しているアイテムを同じ幅に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
高さを揃える	(Shift キーを押しながらクリックして) 2つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。現在選択しているアイテムを同じ高さに揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
画像の追加	新しいテキストオブジェクトをドキュメントの非表示の場所に作成し、イメージを選択できる [テキストオブジェクトプロパティ] ダイアログを開きます。イメージが通常の印刷アイテムとしてプレビューパネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。
テキストの追加	新しいテキストオブジェクトをドキュメントの非表示の場所にを作成し、[テキストオブジェクトプロパティ] ダイアログを開きます。このダイアログでは、新しいテキストオブジェクトのプロパティを編集できます。テキストオブジェクトが通常の印刷アイテムとしてプレビューパネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。
選択表示ボックスの追加	レポートの選択スタンプオブジェクトを作成します。選択スタンプが通常の印刷アイテムとしてプレビューパネルに表示されます。このパネルでは、他の印刷アイテムと同様に移動およびサイズ変更できます。
削除	現在選択されているアイテムを削除します。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
アイテム設定	[レポート編集: [アイテム設定] ダイアログ (168 ページ)] ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。

2つのパネルの下部には、異なるメニューの機能がアイコンとして表示されています。

ページ設定	[レポート編集 : [ページ設定] ダイアログ (165 ページ)] ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
削除	強調表示されたページを削除します。
追加	現在選択されているページの後に 単式ページ または 複式ページ を追加します。
アイテム設定	[レポート編集 : [アイテム設定] ダイアログ (168 ページ)] ダイアログを開きます。このダイアログでは、選択した印刷アイテムのさまざまなプロパティを設定できます。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。
削除	強調表示されたアイテムを削除します。
追加	新しい画像や新しいテキスト、新しい現在の選択スタンプを追加します。

ページリスト パネル

左側には、レポートのすべてのページのリストが表示されます。QlikView レポートには、単式ページと複式ページの 2 種類の異なるページを含めることができます。レポートには、任意の数のページを追加したり、2 種類のページを任意の組み合わせで混入できます。

単式ページ




単式ページには、任意の数のシート オブジェクトを含めることができます。ページは常に 1 用紙ページ (または PDF ページ) に印刷されますので、シート オブジェクトはページに合わせて拡大または切り捨てる必要があります。ページではシート オブジェクトを重ねることができます。テキストを追加できます。



複式ページ

複式ページには、印刷するデータ量に応じて、複数の用紙ページ (または PDF ページ) に広げることができる 1 つのシート オブジェクトを含めることができます。複式ページは、大きなテーブルを印刷するときの典型的な選択肢です。動的サイズのオブジェクトのほかに、ページの序文やアペンディックス領域には固定サイズのオブジェクトを追加できます。これらの領域は、単式ページと同様に動作します。

ページリストの操作

編集するページを選択するには、リストのそのページをクリックします。ページリストパネルに直接関連付けられた多数のツールバー コマンドがあります。

単式ページの追加	現在選択されているページの後に単式ページを追加します。	
複式ページの追加	現在選択されているページの後に複式ページを追加します。	
ページの削除	現在選択されているページを削除します。	

- | | | |
|---------------|--|---|
| ページを上へ | 選択したページをリストの1つ上に上げます。ページ リストパネルでページをドロップ アンド ダウンすることもできます。 |  |
| ページを下へ | 選択したページをリストの1つ下に下げます。ページ リストパネルでページをドロップ アンド ダウンすることもできます。 |  |

プレビュー パネル

ページリストパネルの右側には、ページリストパネルで現在選択されているページのプレビューが表示されます。

レポートへのシートオブジェクトの追加

レポートページプレビューにアイテムを追加するには、レイアウトからシートオブジェクトをドラッグ、またはダブルクリックするだけです。印刷オブジェクトは、QlikView レイアウトの現在の外観どおりにプレビューに表示されます。当然、レポートのオブジェクトの正確な外観は、選択したデータの変更だけでなく、プロパティの変更についても、印刷時のレイアウトでのシートオブジェクトの外観を動的に反映します。レイアウトの複数のシートオブジェクトを選択し、1つのグループとしてレポートにドラッグできます。複式ページの中央の動的領域には、1つの印刷オブジェクトしか追加できないことに注意してください。




ページでの印刷オブジェクトのサイズ変更と配置

追加されると、シートオブジェクトはプレビューパネルに表示されます。オブジェクトの周囲には境界線が表示され、各角にはオブジェクトが選択されていることを示すプレースホルダが表示されます。マウスでオブジェクトをポイントし、目的の位置に移動します。角のプレースホルダを使用して、サイズを調整します。破線は、現在の余白を示します。この余白の外側には印刷オブジェクトを配置できません。

ページでの印刷オブジェクトの移動と選択

印刷オブジェクトを選択するには、それをクリックします。1つの印刷オブジェクトが選択されると、TAB キーを使用して、選択を次のオブジェクトに移動できます (逆に移動するには SHIFT+TAB キー)。Shift キーを押しながらクリックして、複数のオブジェクトを選択します。複式ページでは、印刷オブジェクトを異なる領域の間でドラッグします。


プレビューパネルでアイテムが強調表示されると、配置/整列ツールバーのコマンドが有効になります。

- | | | |
|---------------|---|---|
| 上揃え | (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを上揃えます。 |  |
| 上下中央揃え | 印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸の中央に揃えます。ページプレビューパネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。 |  |
| 下揃え | (Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを下揃えます。 |  |

左揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを左に揃えます。	
左右中央揃え	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平中央位置に配置します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。	
右揃え	(Shift キーを押しながらクリックして) 2 つ以上の印刷オブジェクトが選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを右に揃えます。	
左右に整列	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを水平軸上に等間隔に整列します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。	
上下に整列	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。選択したオブジェクトを垂直軸上に等間隔に整列します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。	
左詰め	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番左のオブジェクトの左端を基準にして右方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。	
上詰め	印刷オブジェクトが 2 つ以上選択されているときにだけ使用できます。一番上のオブジェクトの上端を基準にして下方向に、最小限の間隔を取ってアクティブなシート オブジェクトを配置します。ページプレビュー パネル内で右クリックして表示されるコマンドにもあります。	

ツールバー コマンド

ページプレビュー パネルに直接関連付けられた 2 つのツールバー コマンドがあります。

デザイン グリッド	デザイングリッドのオンとオフを切り替えます。これは、位置合わせ機能付きグリッドもアクティブにします。デザイングリッドと位置合わせ機能付きグリッドをアクティブにすると、ページのシート オブジェクトを揃えることが簡単になりますが、あまり正確に制御できなくなります。	
------------------	--	---

ズーム このドロップダウンでは、プレビューパネル全体の拡大率を指定します。拡大率を大きくすると、オブジェクトの正確な配置がより簡単になります。

次に、**[レポートの編集]** ダイアログ内からレポートを印刷するために使用するツールバー ボタンがいくつかあります。

印刷プレビュー **[印刷プレビュー]** ダイアログを開き、QlikView ドキュメントの現在の選択範囲で印刷したときの現在のレポートの外観を確認するには、このボタンを押します。このボタンは、**[レポートの編集]** ダイアログの**[レポート編集]** ページにも用意されています。



印刷 **[印刷]** ダイアログを開き、現在のレポートを印刷するには、このボタンを押します。このボタンは、**[レポートの編集]** ダイアログの**[レポート編集]** ページにも用意されています。



コピー 強調表示されたレポート、ページ、アイテムをコピーします。



貼り付け コピーされたレポート、ページ、アイテムを貼り付けます。



最後に、コピーしたレポート、ページ、アイテムを貼り付けるためのツールバー ボタンがあります。

レポート編集: [レポート設定] ダイアログ

このダイアログには、レポートのグローバル (ページ関連以外) 設定が表示されます。ダイアログは、4 ページで構成されます。

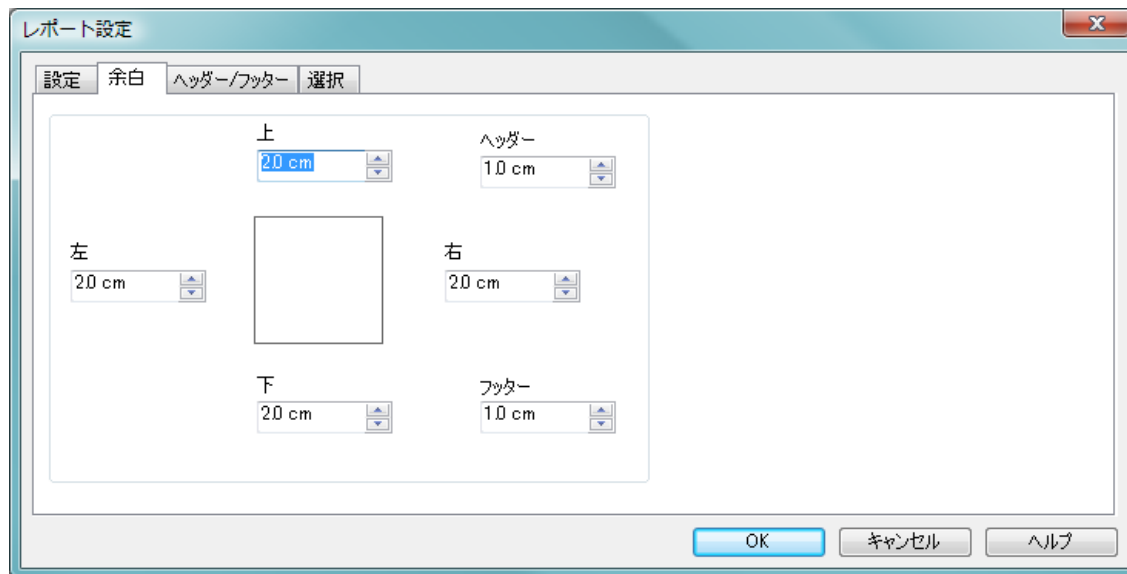
[設定] ページ

レポート設定: [設定] ページ

このページには、レポートの基本的なプロパティが含まれます。

名前	レポートの名前。これには、テキスト文字列を指定できます。動的更新に対応する計算式として名前を指定することもできます。
レポート ID	レポートの一意の ID。作成時に、各レポートを含む QlikView レイアウト エンティティには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。デフォルトで ID は、数値と、エンティティのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のレポートには、ID RP01 が割り当てられます。ID は、ドキュメント内の他のレポート、シートオブジェクト、シート、ブックマーク、またはアラートで現在使用されていない他の文字列に変更できます。
コメント	この項目は、レポートの作成者がレポートの目的またはレポートの詳細を説明できるコメント項目です。これは、このダイアログの外部では使用されません。
用紙サイズの指定	ドロップダウンで、レポートの用紙サイズを指定できます。選択した用紙サイズの縦横比は、ページプレビューパネルに反映されます。最終的に、設計した用紙サイズとは別の用紙サイズでレポートを印刷する場合、QlikView は印刷オブジェクトを新しい用紙サイズに合わせるように拡大または縮小して、レポートの内容を調整しようとします。
条件付き表示	このチェックボックスをオンにすると、右側の編集ボックスに入力した条件式の値に応じて、レポートが動的に表示または非表示にされます。使用可能なレポートのリストが生成されるたびに、条件式が評価されます。条件が真の場合にのみ、レポートが表示されます。ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページにある すべてのシートとシート オブジェクトを表示 をすべての表示条件より優先的に使用できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+S。

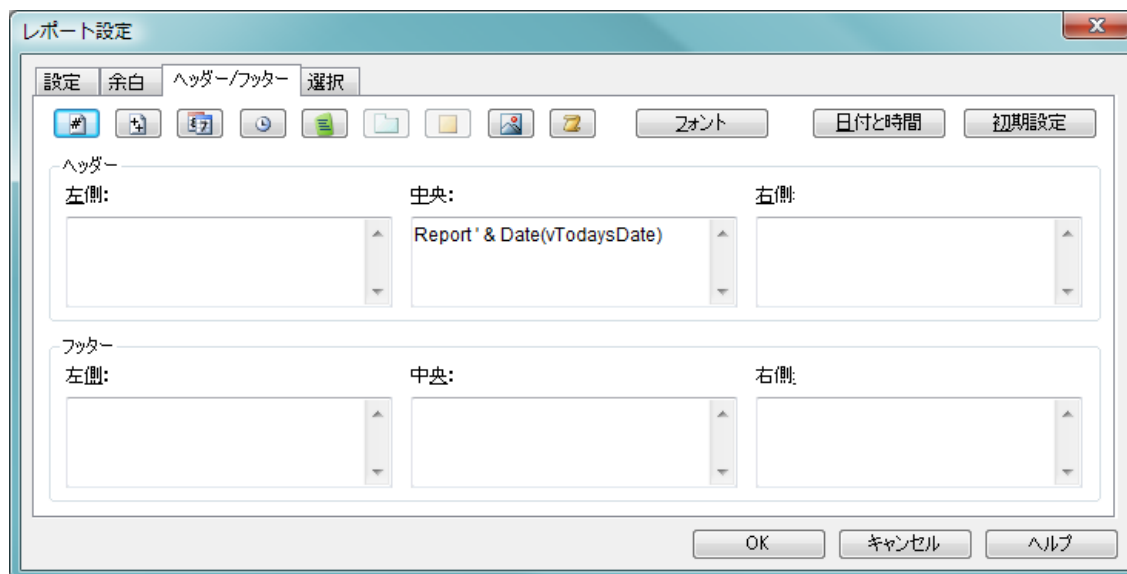
[余白] ページ



レポート設定 : [余白] ページ

このページには、レポートの余白の設定が含まれます。コントロールは、**印刷** ダイアログの Header/Footer ページのコントロールと同じです。

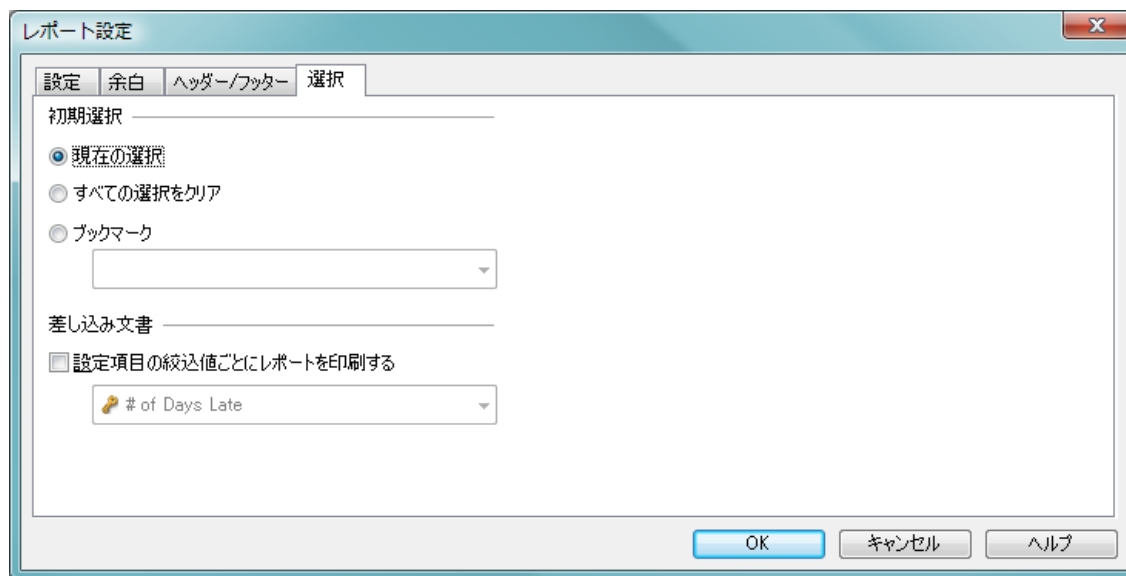
[ヘッダー/フッター] ページ



レポート設定 : [ヘッダー/フッター] ページ

このページには、レポートのヘッダー/フッターの設定が含まれます。コントロールは、**印刷** ダイアログの **印刷 : ヘッダー/フッター (114 ページ)** ページのコントロールと同じです。

[選択] ページ



レポート設定：[選択] ページ

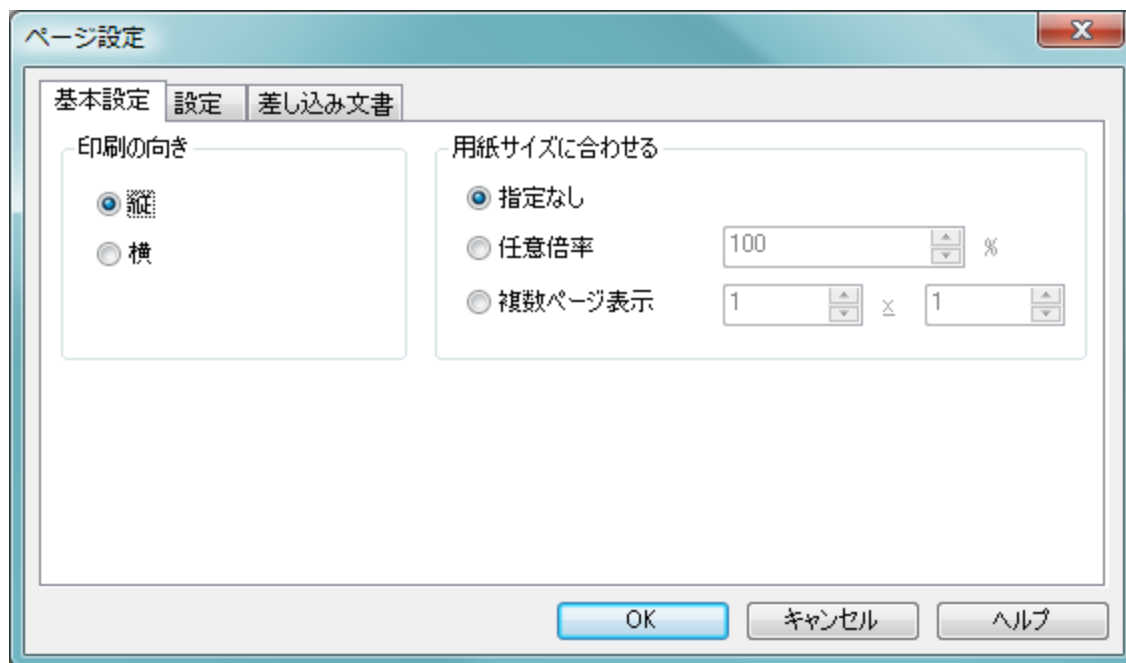
このページには、レポートの印刷時に使用される選択の設定が含まれます。

- | | |
|-----------------------------|--|
| 初期選択 | これらのラジオ ボタンを使用して、レポート印刷に関する最初の選択を指定できます。使用する設定に関係なく、レポート印刷の前に適用されていた選択は、印刷後に再設定されます。 |
| 現在の選択条件 | レポート印刷の基礎として現在の選択を使用します (デフォルト)。 |
| すべての選択をクリア | レポートの印刷前に、ドキュメント内の現在のすべての選択がクリアされます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。 |
| 現在の選択条件 | レポートの印刷前に、ドロップダウン ボックスで選択できるブックマークが適用されます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。 |
| 設定項目の絞込値ごとにレポートを印刷する | このチェック ボックスをオンにすると、下のドロップダウン ボックスで指定された項目で各絞込値を選択しながら、レポート全体が繰り返し印刷されます。指定された項目に絞込値がない場合は、何も印刷されません。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。ページ番号を使用する場合は、印刷されるすべてのページに連続してページ番号が付けられます。 |

レポート編集:[ページ設定] ダイアログ

このダイアログでは、現在選択されているページに関する設定が表示されます。ダイアログは3ページあります。

基本設定

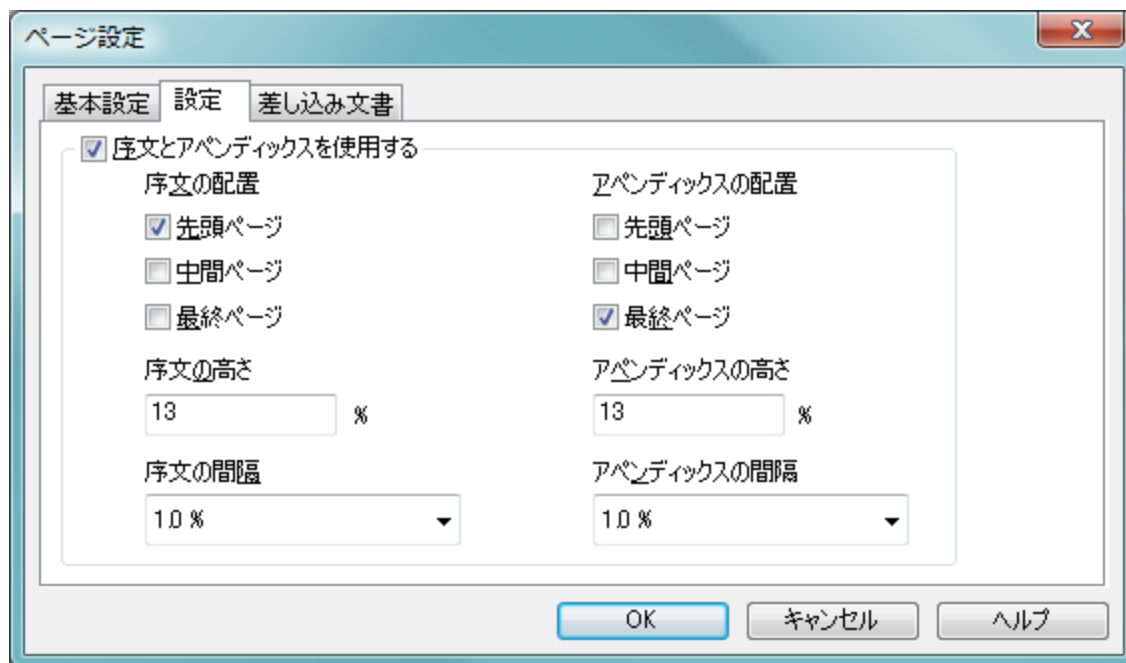


ページ設定：[基本設定] ページ

このページには、ページの基本的なプロパティが含まれます。

- 方向** 各ページで、向きについて個別に設定できます。**縦**と**横**を選択できます。選択は、上のページリストパネルに反映されます。
- ページの種類** レポートを印刷するページの種類を**単式ページ**または**複式ページ**(テーブルデータ用)に設定します。
- 用紙サイズに合わせる** この設定は、複式ページでのみ使用できます。
- 指定なし**
シートオブジェクトの印刷で拡大縮小を行いません。各方向に必要な数のページが使用されます。
- 任意倍率**
シートオブジェクトの印刷が元のサイズの特定のパーセンテージで拡大縮小されます。各方向に必要な数のページが使用されます。
- 複数ページ表示**
シートオブジェクトの印刷が特定のページ数に収まるように拡大縮小されます。

設定



ページ設定：[基本設定] ページ

このページには、複式ページの序文とアペンディックス領域に関する設定が含まれます。単式ページでは使用できません。

序文とアペンディックスを使用する 複式ページで動的サイズの内容のほかに、固定サイズの印刷アイテムを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。しかし、このチェックボックスをオンにすると、バージョン 7.5 より前の QlikView との下位互換性がなくなります。

序文の配置 チェックボックスの 1 つ、2 つ、または 3 つをオンにすると、**[先頭ページ]**、すべての **[中間ページ]**、または **[最終ページ]** の序文領域を印刷できます。

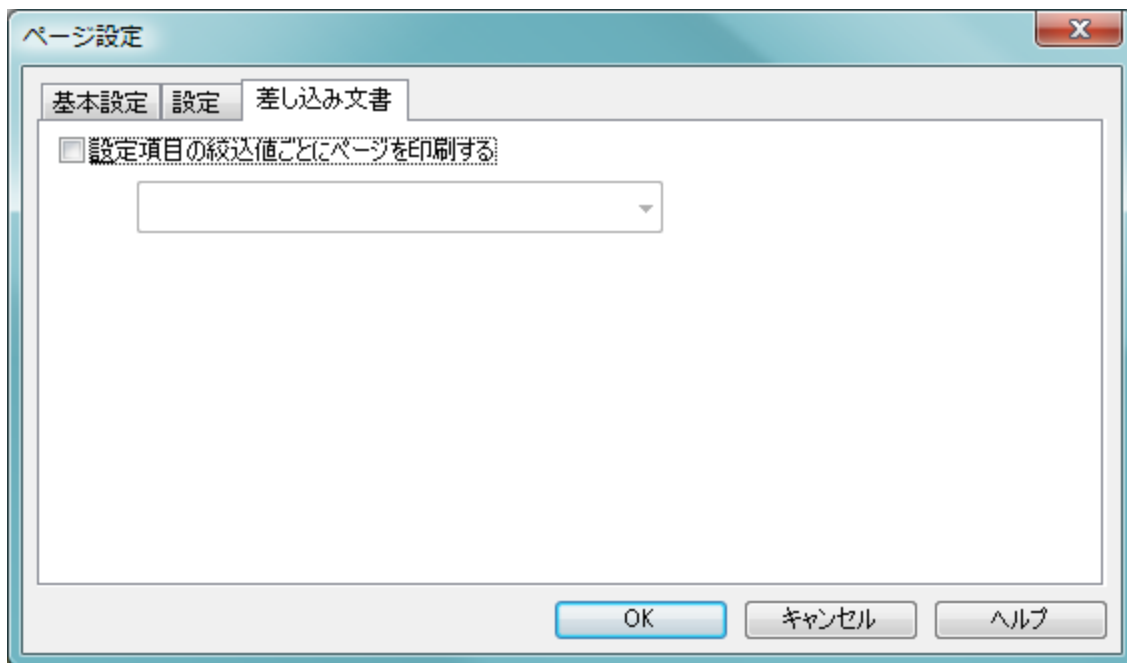
序文の高さ 序文領域の各ページに割り当てられた高さを定義します。数値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。この設定は、ページプレビューパネルで境界線を直接ドラッグして変更することもできます。

序文の間隔 序文領域とメイン領域の間隔を定義します。値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。

アペンディックスの配置 チェックボックスの 1 つ、2 つ、または 3 つをオンにすると、**[先頭ページ]**、すべての **[中間ページ]**、または **[最終ページ]** のアペンディックス領域を印刷できます。

- アペンディックスの高さ** アペンディックス領域の各ページに割り当てられた高さを定義します。数値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。この設定は、ページプレビューパネルで境界線を直接ドラッグして変更することもできます。
- アペンディックスの間隔** 序文領域とメイン領域の間隔を定義します。値は、印刷可能領域 (用紙の高さからヘッダー/フッター領域を引いたサイズ) のパーセント値で指定します。

差し込み文書



ページ設定 : [差し込み文書] ページ

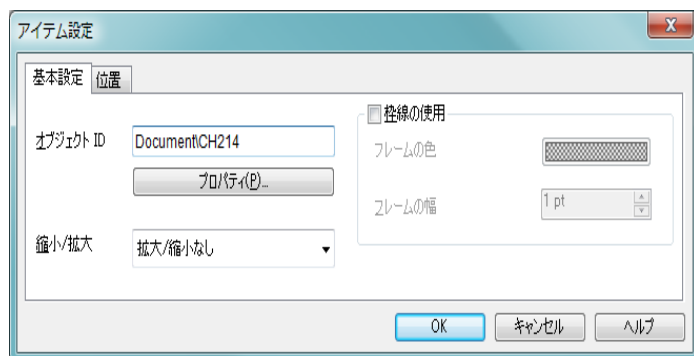
このページには、一連の出力ページのプロパティが含まれます。つまり、指定された項目の絞込値ごとにページが繰り返し印刷されます。

設定項目の絞込値ごとにページを印刷する チェックボックスをオンにすると、下のドロップダウンボックスで指定された項目で各絞込値を選択しながら、ページが繰り返し印刷されます。指定された項目に絞込値がない場合は、何も印刷されません。選択のループがレポートレベルでも指定された場合 ([選択] ページ (165 ページ) を参照)、レポートの選択によってページレベルのループ変数のすべての値が除外されるという状況が発生することがあります。そのレポートループ値のため、ページがスキップされます。印刷の完了後に、元の選択が再度適用されます。ページ番号を使用する場合は、印刷されるすべてのページに連続してページ番号が付けられます。

レポート編集: [アイテム設定] ダイアログ

このダイアログでは、ページプレビューパネルで現在選択されている印刷アイテム (オブジェクト) に関する設定が表示されます。ダイアログは 2 ページあります。

基本設定

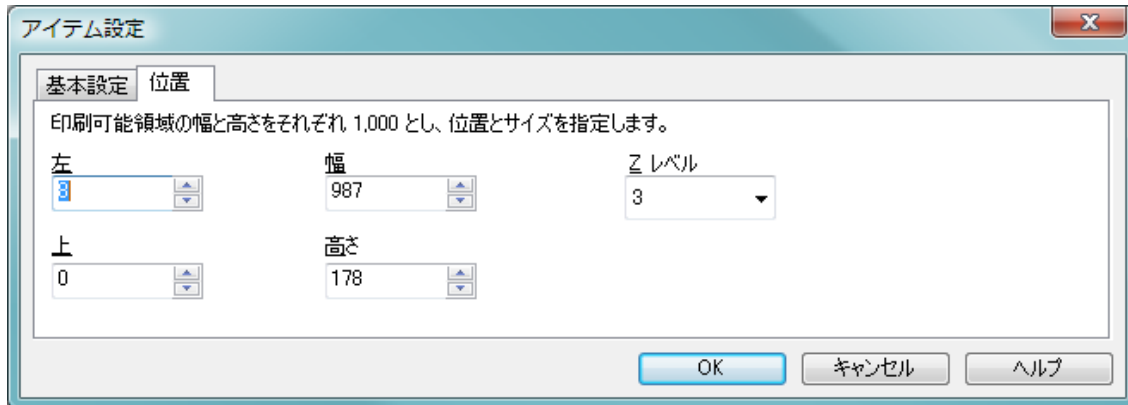


アイテム設定：[基本設定] ページ

基本設定 ページには、ページプレビューパネルで現在選択されている印刷アイテムに関する設定が含まれます

- | | |
|----------------------|--|
| オブジェクト ID | 印刷するシート オブジェクトのシート オブジェクト ID。 |
| プロパティ | 印刷アイテムに関連付けられたシート オブジェクトの [プロパティ] ダイアログを開きます。このダイアログで行った変更は、実際のシート オブジェクトに適用され、レポート印刷の結果に反映されます。 |
| 縮小/拡大 | このコントロールは、単式ページのオブジェクトにのみ使用できます。ここで、印刷オブジェクトをそれに割り当てられた四角形内に収めるためのサイズを選択できます。 |
| 拡大/縮小なし | 印刷オブジェクトのサイズを変更しません。印刷オブジェクトがプレースホルダの四角形に対して大きすぎる場合は、印刷オブジェクトが切り捨てられます。小さすぎる場合は、印刷オブジェクトの周囲が空白になります。 |
| 塗りつぶし | プレースホルダの四角形に合わせるように印刷オブジェクトのサイズを変更します。 |
| 縦横比を固定して塗りつぶし | 元のシート オブジェクトの割合を維持しながら、プレースホルダの四角形に収まるように印刷オブジェクトのサイズを変更します。 |
| 枠線の使用 | 通常、印刷オブジェクトはフレームまたは境界線なしでページに印刷されます。このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの周囲に境界線を付けることができます。 |
| フレームの色 | 境界線の色を選択するには、このボタンを押します。 |
| フレームの幅 | ここで、境界線の幅を指定できます。 |

位置



アイテム設定 : [位置] ページ

位置 ページには、印刷可能領域におけるオブジェクトの位置とサイズの設定が含まれます。

- | | |
|--------------|---|
| Left | 左端に対する現在の選択アイテムの位置を設定します。0 は印刷可能領域の左端を示します。 |
| 上 | 上端に対する現在の選択アイテムの位置を設定します。0 は印刷可能領域の上端を示します。 |
| 幅 | 印刷可能領域の幅を 1000 とした現在の選択アイテムの位置を設定します。 |
| 高さ | 印刷可能領域の高さを 1000 とした現在の選択アイテムの位置を設定します。 |
| Z レベル | 現在選択されているアイテムのレイヤーを設定します。重なる場合、一番低いレベル (1) のアイテムが先に印刷され、次に、次のレイヤーが印刷されます。 |

17 アラート

17.1 アラートの作成

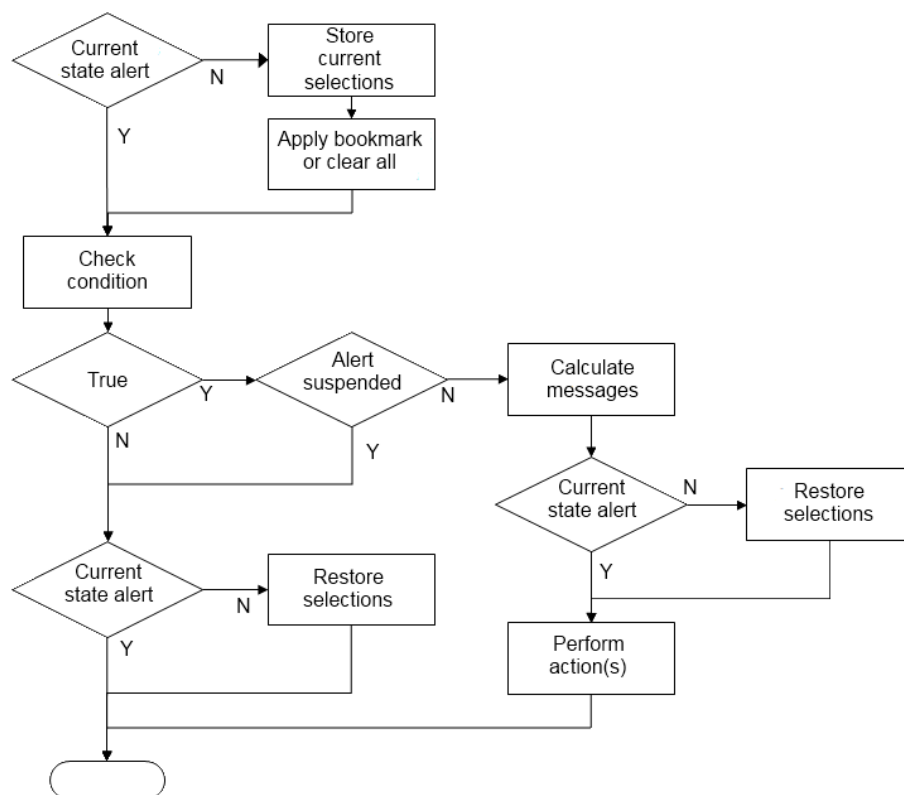
アラートを定義する最も簡単な方法は、**[アラートウィザード]**を使用することです。このウィザードは、**[ツール]**メニューから呼び出すことができます。また、**[アラート]**ダイアログでもアラートを作成および管理できます。このダイアログは、**[ツール]**メニューから開くことができます。アラートは、QlikView ドキュメントの一部として保存されます。アラートは、Windows バージョンの QlikView からのみ作成・トリガー作成できます (AJAX クライアントからはできません)。

17.2 アラートの使用

QlikView アラートチェックは、次の3つの異なる方法でトリガーできます。

1. ドキュメントのデータが変更されている可能性がある場合 (ドキュメントが開いている場合、スクリプトが実行された場合、またはデータの削除操作が実行された場合など)、QlikView レイアウトで自動的にトリガーされます。
2. 特別なオートメーション API を使用してマクロから手動でトリガーできます。詳細については、『QlikView API ガイド』を参照してください。
3. QlikView をバッチ モードで実行する外部プログラムに、発生したアラートのリストを指定されたコンテキストから取得するための特別なオートメーション API がある場合にトリガーできます。

アラートチェックのトリガーの後に続くイベントの連鎖は、次のように表すことができます。



アラートが発生した後に変更が発生するまでアラートを一時停止できます。たとえば、ドキュメントを開くたびに予算目標を達成したことを知らされることがわずらわしいことがあります。その場合は、アラートを一度だけ発生させ、翌月まで一時停止するように設定できます。

フローチャートで示すように、アラートの各トリガーにより、QlikView ドキュメントで論理操作の連鎖が開始されます。通常、QlikView は次の主要な手順を実行する必要があります。

1. アラートに関連する選択を適用する。
2. 条件式の値を計算する。
3. 元の選択を復元する。

アクション 1 と 3 の実行に必要なそれぞれの時間は、選択が対話型で適用された場合の通常の "クリック時間" と等しくなります。手順 2 に必要な時間は、数式がシート オブジェクト内などにあった場合と同じです。合計すると、アラートのチェックに必要な時間は、大きなドキュメントではかなりの時間になります。これは、ファイルのオープンやリロードでトリガーされる単一のアラートではあまり問題ではありませんが、マクロからトリガーされる大量のアラートを使用している場合は、ドキュメントの機能が低下しないように注意する必要があります。

アラート (172 ページ) ダイアログで、すべての QlikView アラートを作成および管理できます。

17.3 アラート

アラートを定義する最も簡単な方法は、アラート ウィザード (176 ページ) を使用することです。このウィザードは、**ツール** メニューから呼び出すことができます。

アラート ダイアログは **ツール** メニューから開きます。このダイアログはアラートの管理に使用し、アラートは、QlikView ドキュメントの一部として保存されます。アラートは、いずれの Windows 版 QlikView (AJAX クライアントを除く) からでもトリガーできます。

アラートは、通常 3 つの基本的な部分で構成される複合エンティティです。

1. 条件。つまり、論理条件 (true または false のいずれか) を形成する QlikView 数式。
2. 論理状態 (ブックマーク、すべての選択をクリア、または現在の選択条件)。条件式の状態をチェックする前に適用する必要があります。
3. 1 つまたは複数のアクション。条件がチェックされ、true と評価された場合に実行されます。典型的なアクションは、ポップアップ ウィンドウでのメッセージの表示や、1 人または複数の受信者への電子メールメッセージの送信などです。マクロを使用して詳細なアクションをプログラムできます。

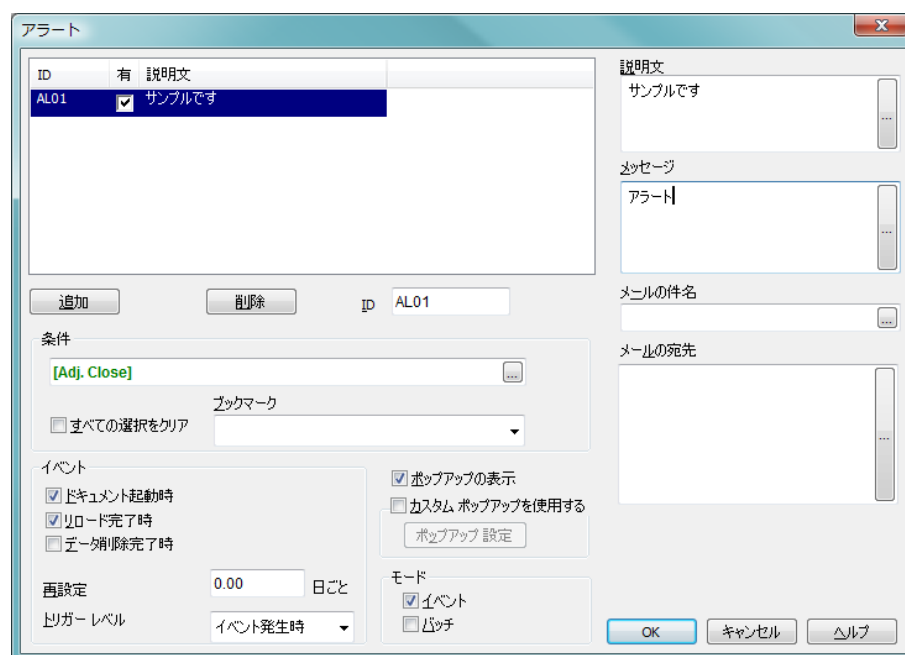
アラートをオンにして、条件が満たされ、アクションが実行された場合、アラートが発生したと言えます。QlikView アラートチェックは、次の 3 つの異なる方法でトリガーできます。

- a. ドキュメントのデータが変更されている可能性がある場合 (ドキュメントが開いている場合、スクリプトが実行された場合、または **データの削除** 操作が実行された場合など)、QlikView レイアウトで自動的にトリガー されます。
- b. 特別なオートメーション API を使用して 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) から手動でトリガーできます。詳細に関しては QlikView ファイルの *APIguide.qvw* (QlikView でマクロ機能を使用する方法を説明する QlikView ファイルで、通常、プログラムと一緒にインストールされています) を参照してください。

- c. QlikView をバッチ モードで実行する外部プログラムに、発生したアラートのリストを指定されたコンテキストから取得するための特別なオートメーション APIがある場合にトリガーできます。

アラートを作成する場合には注意が必要です。マクロからトリガーされる大量のアラートがドキュメントの機能を低下させる可能性があります。

17.4 [アラート] ダイアログ



[アラート] ダイアログ

ダイアログの左上部には、ドキュメントで現在定義されているすべてのアラートのリストが表示されます。リストには、3つの列が含まれます。**ID**、**有効化**そして**説明文**です。

ID アラートの一意の ID は、アラートのリストとともに、**ID** 編集ボックスにも表示されます。作成時に、各アラートを含む QlikView レイアウト エンティティには、制御用に 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) から一意の ID が割り当てられます。ドキュメントの最初のアラートには、ID AL01 が割り当てられます。この ID は **ID** 編集ボックスで後から編集できます。

有効にする アラートを有効/無効にするために、チェック ボックスをオンまたはオフにします。

Description **[説明文]** で定義されるアラートの説明 (以下を参照)。

追加 **追加** ボタンは標準のアラートを編集できるリストに新規追加します。

削除 リストから削除するには、アラートを選択して **削除** ボタンをクリックします。

条件

[条件] グループは、条件式の定義に使用されます。**(条件)**

これはアラートが発生するときに true (ゼロ以外) と評価される QlikView 式です。

すべての選択をクリア

このオプションをオンにすると、アラート条件を評価するときに、すべての選択をクリアする状態が使用されます。

ブックマーク

すべての選択をクリア チェックボックスがオンでない場合は、アラート条件がテストされる前に適用されるブックマークを指定できます。ブックマークは、ブックマーク ID として指定する必要があります。アラートが正しく動作するには、そのブックマークが存在していなければなりません。ブックマークの指定を行わず、**すべての選択をクリア** チェックボックスもオフの場合、アラート条件のテスト時には現在の選択条件 (ドキュメントの論理状態) が使用されます。

イベント

イベントグループは、イベントの自動チェックの定義に使用されます。

ドキュメント起動時

ドキュメントが開いたときにアラートが自動的にチェックされます。

リロード完了時

ドキュメントのロードスクリプトが実行(リロード)された後に、アラートが自動的にチェックされます。また、ドキュメントに保存されている最後のリロード時間が最後にアラートがチェックされた時間より後である場合は、ドキュメントが開いたときにもアラートがチェックされます。

データ削除完了時

ドキュメントのデータ削除(データの削除 コマンド)後に、アラートが自動的にチェックされます。また、ドキュメントに保存されている最後の削除時間が最後にアラートがチェックされた時間より後である場合は、ドキュメントが開いたときにもアラートがチェックされます。

再設定

アラートが発生した後の自動的にチェックされるアラートの再発生を一定の**日数**一時停止できます。1日の一部を指定するには、小数を使用します。値0は、一時停止時間がないことを示します。

トリガーレベル

自動的にチェックされるアラートの再発生は、アラートの発生後にアラートステータスが変更されたかどうかに基づいて一時停止することもできます。このドロップダウンリストでは、3レベルの再発生を選択できます。

イベント発生時

選択すると、トリガー イベントが発生してアラート条件が満たされるたびに、アラートが発生します。

メッセージ変更時

選択すると、アラート **メッセージ** が変更されるまで、アラートの発生が一時停止されます。これは、動的なメッセージテキストの変更を意味します。(評価されるメッセージが変更されるには、アラート条件の状態が必ずしも変更される必要はありません。[メールの件名] (以下を参照してください) は、メッセージの変更と見なされます。)

状態の変更時

選択すると、アラートの状態が変更されるまで(つまり、アラートの条件が少なくとも1回のチェックでは満たされなかったが、その後のチェックでは満たされた状態になる)、アラートの発生が一時停止されます。これは、アラート一時停止の最も強力なタイプです。

ポップアップの表示

アラートが発生したときにアラートメッセージをポップアップで表示する場合は、**ポップアップの表示** チェックボックスをオンにします。

カスタム ポップアウトを使用する	カスタム ポップアウトを使用する グループでは、選択したアラートにカスタム ポップアップ フォーマットを定義できます。このチェックボックスをオンにすると、ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) で定義されている標準の ポップアップ アラート を変更できます。 ポップアップ 設定 ボタンで、ポップアップ ウィンドウ設定 (514 ページ) ダイアログを開きます。
モード	モード グループでは、対話型のアラート (レイアウトの自動トリガー) イベント として、または、バッチ トリガー用のオートメーション API を通して QlikView Publisher など QlikView を バッチ モード (コマンドラインの実行) で実行する外部プログラムに関連するアラートとして定義するために、適切なオプションを選択できます。このグループのチェックボックスがいずれもオフの場合は、マクロを使用してアラートを手動でチェックすることもできます。
Description	アラートの作成者がアラートの目的を説明できるコメント項目です。このダイアログのアラートのリストでのみ使用されます。
メッセージ	メッセージ 編集ボックスに、アラートと共に表示されるメッセージを入力します。ポップアップ アラートの場合、テキストはポップアップで表示されるメッセージとなり、メール アラートの場合、これはメールの本文となります。メッセージのテキストは、動的に更新される 計算式 (1053 ページ) として定義することができます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
メールの件名	[メールの件名] 編集ボックスには、アラートメッセージのメールの件名に使用されるテキストを入力します。テキストは、動的に更新される計算ラベル数式として定義することができます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。空白にした場合、件名には "QlikView アラート" と表示されます。
メールの宛先	メールの宛先 パネルには、セミコロンで区切られたメール アドレスのリストを入力します。アラートが発生するたびに、これらのアドレスに電子メールメッセージが送信されます。リストは、動的に更新される計算文字列式として定義することができます。

17.5 アラート ウィザード

アラート ウィザードでは、アラートを簡単に定義できます。

処理には、次の基本的な手順が含まれます。

手順 1 - アラートに名前を付ける/アラートを説明する

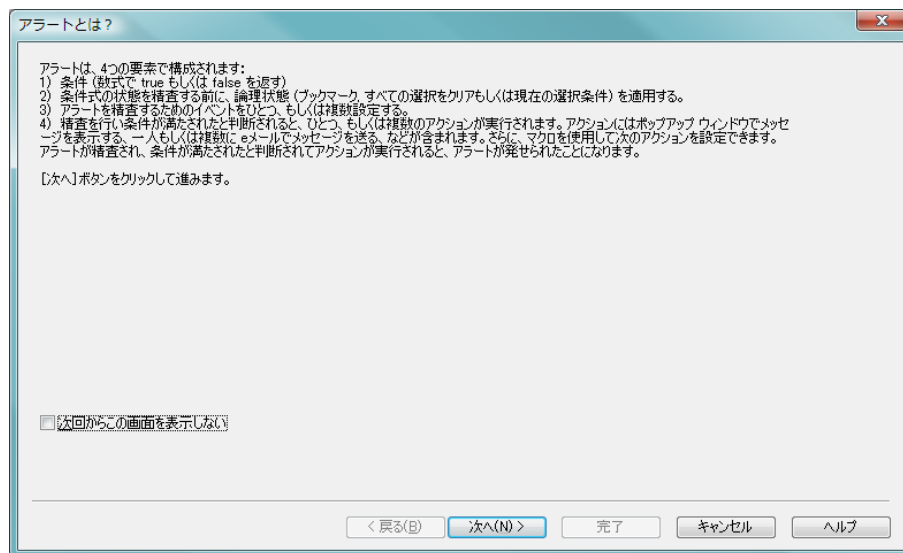
178 ページ

手順 2 - アラート条件を定義する	179 ページ
手順 3 - アラート条件がいつテストされるかを定義する	180 ページ
手順 4 - テストの延期を定義する	181 ページ
手順 5 - アラートが発生したときに実行されるアクションを定義する	182 ページ

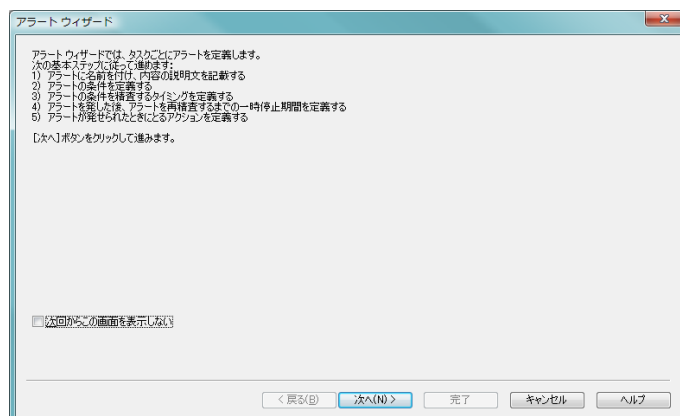
選択によっては、上記の手順の一部がスキップされる場合があります。

アラート ウィザードを起動する

アラート ウィザードを起動するには **ツール** メニューから **アラート ウィザード** を選択します。



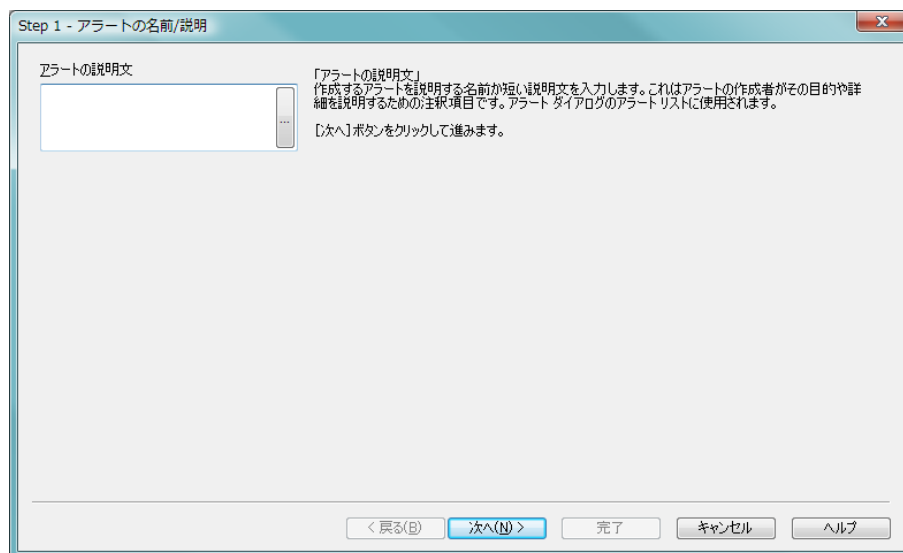
アラート ウィザードの最初のスタート ページ



アラート ウィザードの 2 番目のスタート ページ

初めてウィザードを起動すると、2つのスタートページが表示されます。最初のページでは、アラートの概念が説明され、2番目のページではウィザードの概略および関連する基本的な手順が説明されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、いずれかのページまたは両方のページの **[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

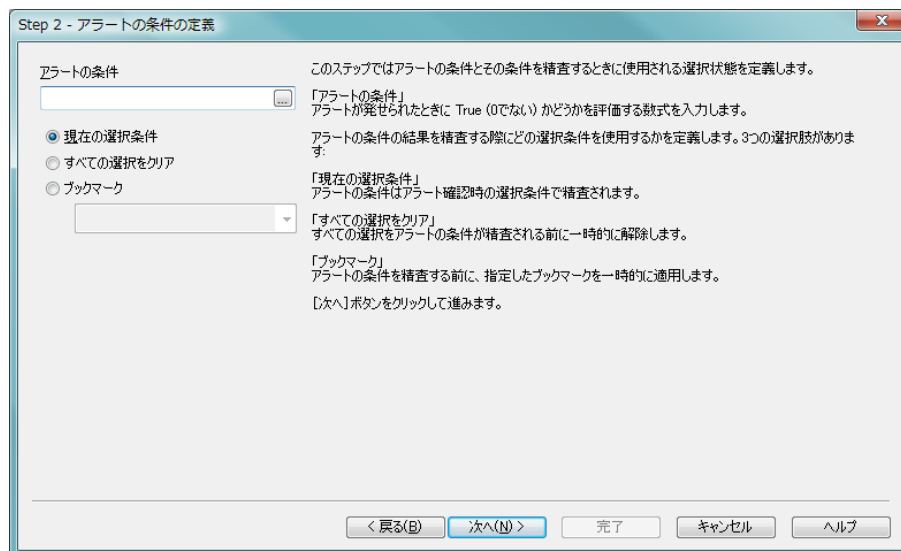
手順 1 - アラートに名前を付ける/アラートを説明する



アラートウィザードの 1 ページ目

アラートの説明文 に名前や簡単なテキストを入力し、作成するアラートを説明します。この項目は、アラートの作成者がアラートの目的またはアラートの詳細を説明できるコメント項目です。**[アラート]** ダイアログのアラートリストでのみ使用されます。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

手順 2 - アラート条件を定義する



アラート ウィザードの 2 ページ目

この手順では、アラート条件とアラート条件がチェックされるときに使用される選択状態を定義します。

アラートの条件 アラートが発生するときに true (ゼロ以外) と評価される QlikView 式を入力します。

[アラートをテストする際の選択条件] ここでは、アラート条件の結果をテストするときに使用される選択状態を決定します。3 つの選択肢があります。

現在の選択条件

アラートの条件はアラート確認時の選択条件で精査されます。

すべての選択をクリア

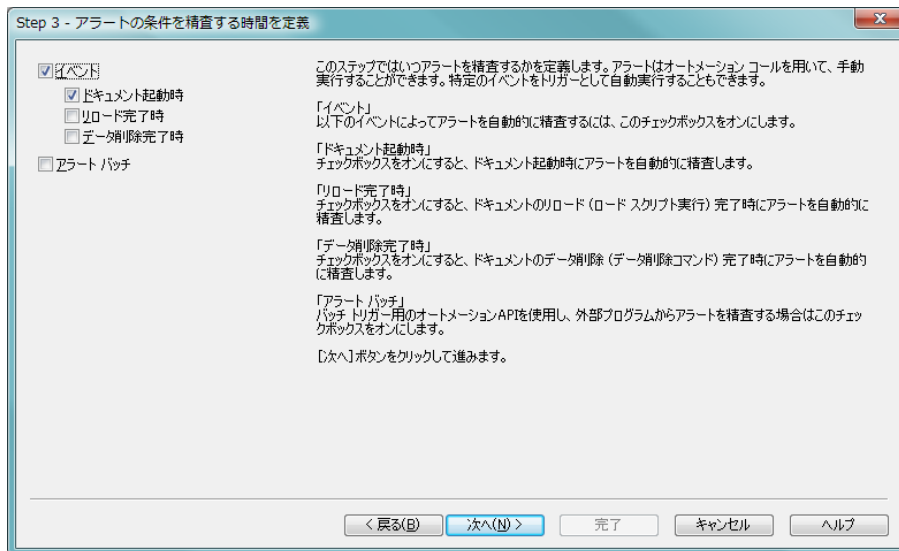
アラートの条件が精査される前に、すべての選択が一時的に解除されます。

ブックマーク

アラートの条件が精査される前に、指定したブックマークが一時的に適用されます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 3 - アラート条件がいつテストされるかを定義する



アラート ウィザードの 3 ページ目

この手順では、アラートがいつチェックされる必要があるかを定義します。オートメーション コールを用いてアラートをいつでも手動実行することができます。関連イベントでの自動チェックは、このページの設定を使用して行うことができます。

イベント

以下のイベント時にアラートが自動的にチェックされるようにする場合は、このチェック ボックスをオンにします。

ドキュメント起動時

ドキュメントを開いたときにアラートを自動的に精査する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

リロード完了時

ドキュメントのリロード (ロード スクリプト実行) 完了時にアラートを自動的に精査する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

データ削除完了時

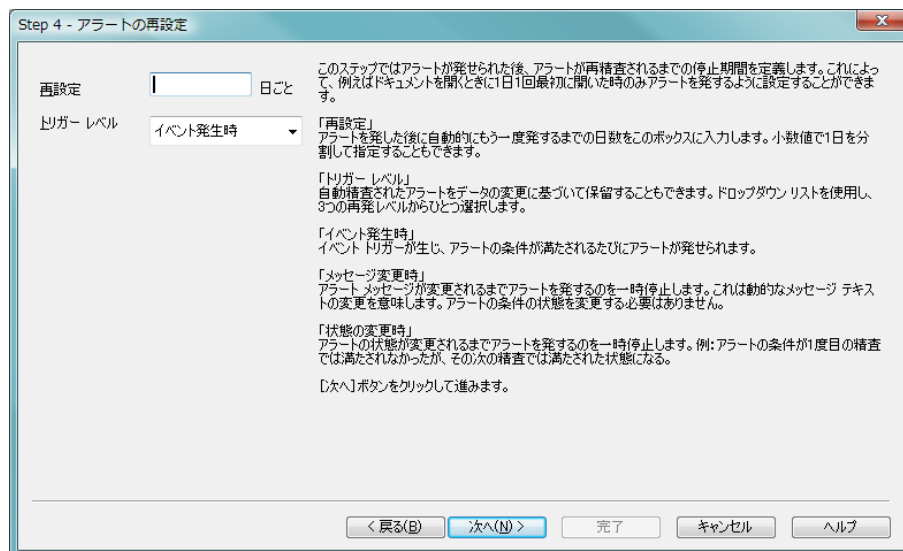
ドキュメントのデータ削除 (データ削除コマンド) 完了時にアラートを自動的に精査する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

アラート バッチ

バッチ トリガー向けの特別なオートメーション API を使用して、外部プログラムからトリガーするようにアラートを設計する場合は、このチェック ボックスをオンにします。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 4 - テストの延期を定義する



アラート ウィザードの 4 ページ目

この手順では、アラートが発生した後の一時停止時間を定義できます。この一時停止時間内はアラートのチェックが禁止されます。これにより、例えば 1 日 1 回ドキュメントを最初に開いたときのみアラートを発する設定が可能になります。

再設定

アラートが発生した後の自動的にチェックされるアラートの再発生を一定の時間一時停止できます。このボックスに日数を入力します。少数値を使用して 1 日を分割して指定できます。

トリガー レベル

自動的にチェックされるアラートの発生は、データ変更に基づいて一時停止することもできます。このドロップダウンでは、3 つの再発レベルから選択できます。

イベント発生時

トリガー イベントが生じてアラート条件が満たされるたびにアラートが発せられます。

メッセージ変更時

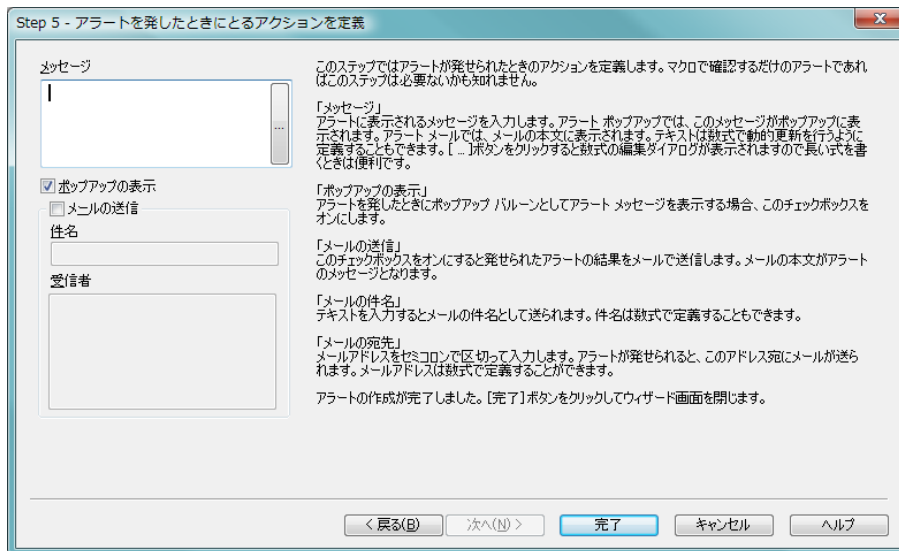
アラートメッセージが変更されるまで、アラートの発生が一時停止されます。これは、動的なメッセージテキストの変更を意味します。評価されたメッセージを変更するために、アラートの条件の状態を変更する必要はありません。

状態の変更時

アラートの状態が変更されるまで (つまり、アラートの条件が少なくとも 1 回の精査では満たされなかったが、その後の精査では満たされた状態になる)、アラートを発するのを一時停止します。これは、アラート一時停止の最も強力なタイプです。

次へ ボタンをクリックして進みます。

手順 5 - アラートが発生したときに実行されるアクションを定義する



アラート ウィザードの 5 ページ目

この最後の手順では、アラートが発生したときに実行されるアクションを決定します。マクロで確認するだけのアラートの場合、このステップは必要ないかも知れません。

メッセージ

ここに、アラートと共に表示されるメッセージを入力します。ポップアップアラートの場合、これはポップアップで表示されるメッセージです。メールアラートの場合、これはメールの本文となります。動的更新に対応する QlikView 式としてテキストを定義することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

ポップアップの表示

アラートが発生したときにアラートメッセージをポップアップで表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

メールの送信

発生しているアラートの結果としてメールを送信するには、このチェックボックスをオンにします。アラートメッセージのテキストがメールの本文となります。

メールの件名

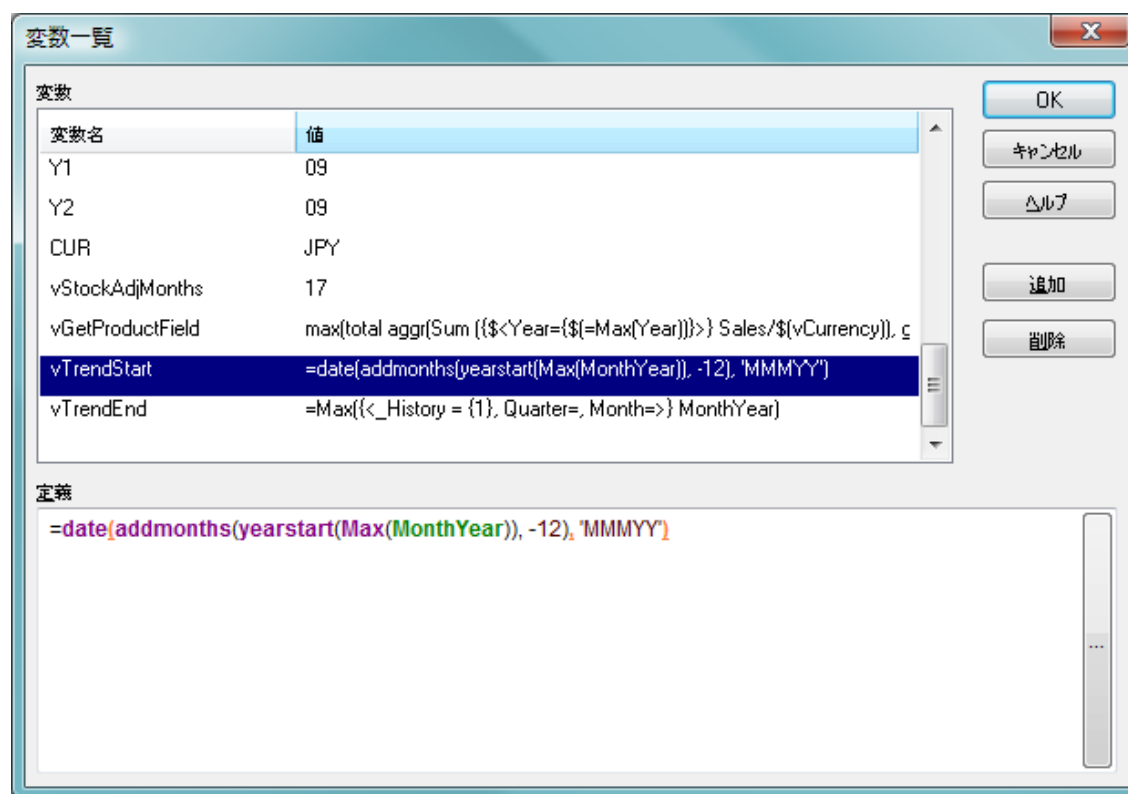
送信メールで件名として使用されるテキストを入力します。件名を QlikView 式として定義できます。

メール受信者

セミコロンで区切られたメールアドレスのリストを入力します。アラートが発せられると、これらのアドレス宛にメールでメッセージが送られます。リストを QlikView 式として定義できます。

新しいアラートの作成を終了するには、**[終了]** をクリックします。

18 変数一覧

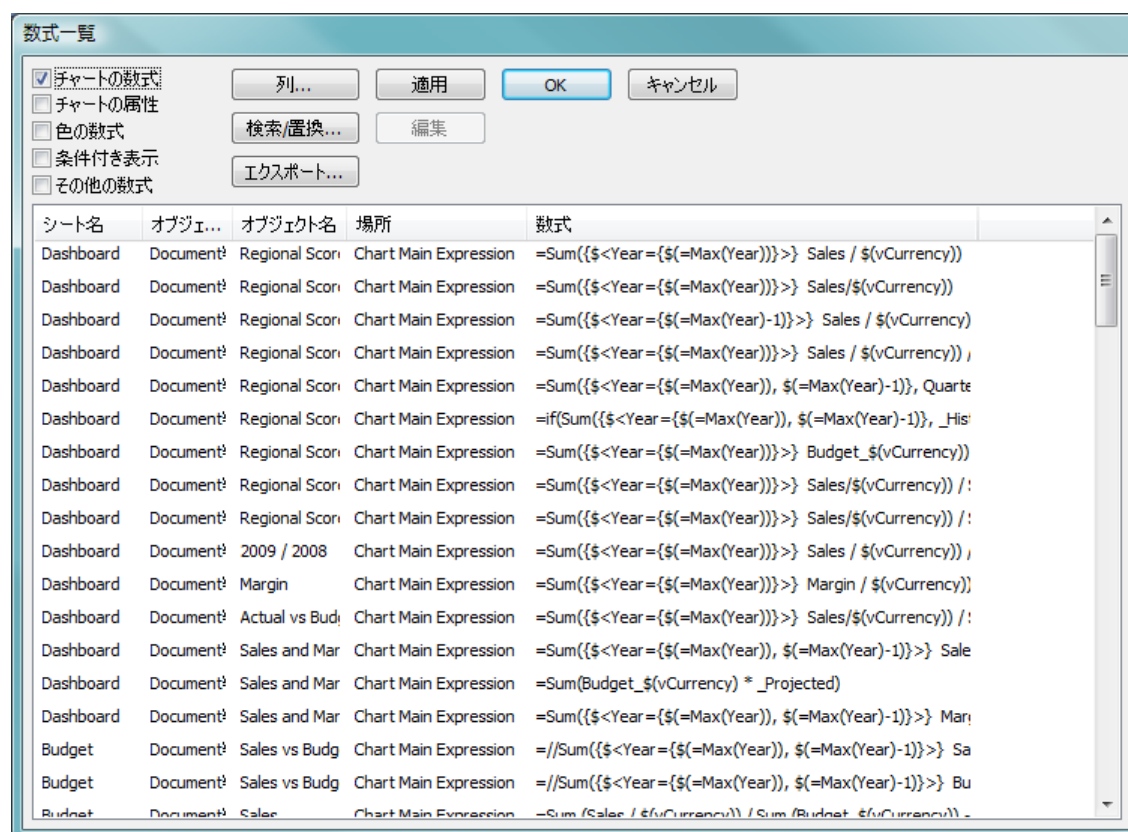


[変数一覧] ダイアログ

変数一覧 ダイアログは、隠し変数以外のすべての変数とその値を1つのリストに表示します。QlikView 式のドル記号展開 (356 ページ) 機能と組み合わせて、変数一覧を未完成式のリポジトリとして使用することもできます。

- 変数** この2列のリストでは、隠し変数以外のすべての変数の名前とそれぞれの値を確認できます。
- 定義** 上記のリストで変数を強調表示し、その定義を表示します。テキストは自由に編集できます。変更内容は、上記リストの **値** 列に直ちに反映されます。[...] ボタンをクリックすると、**数式の編集** ダイアログが開かれます。
- コメント** 変数の作成者が変数の目的と機能を記載するコメント項目です。
- 追加** **[変数の新規作成]** ダイアログを開きます。ここで、新しい変数を定義できます。
- 削除** 変数を削除するには、リスト内で変数を強調表示してこのボタンをクリックします。

19 数式一覧



[数式一覧] ダイアログ

このダイアログは、すべてのドキュメント式、シート式、およびシート オブジェクトの数式を1つのリストに表示します。このリストから、1つの数式を編集したり、複数の数式に対して [検索/置換] を実行することもできます。リストから1つまたは複数の数式を選択します。選択した行は黒で表示されます。最後の数式よりも下の部分をクリックすると、選択が解除されます。

ダイアログの左上では、次のチェックボックスをオンにできます。1つ以上のチェックボックスを選択します。

- チャートの数式
- チャートの属性
- [色の数式]
- [条件付き表示]
- [その他の数式]

[列]

列 ダイアログを開きます。ここでは、**数式一覧** ダイアログにどの列を表示するかをカスタマイズできます。**[数式]** 列をオフにすることはできません。

検索/置換	検索/置換 ダイアログが開きます。このダイアログで、数式の現在のリスト内で特定のテキストを検索して別のテキストに置換します。数式に複数箇所の変更や一括の変更を行うこともできます。
エクスポート	このボタンを使用して、以下の (一覧) テーブルをテキスト ファイルにエクスポートします。
適用	ダイアログを開いたまま、リストに対して加えた変更をドキュメント、シート、およびシート オブジェクトのプロパティに適用します。このコマンドを使用すると、 [キャンセル] を使用してダイアログを閉じても、それまでに行った変更内容は元に戻りません。
編集	リストで 1 つの数式を選択してからこのボタンを使用すると、選択した数式の 数式の編集 ダイアログが開きます。

列 ダイアログ (以下を参照) の設定に基づいて、次の列がダイアログ下側の数式リストに含まれます。

シート ID	数式が出現するシートのシート ID。ドキュメント式の場合は空です。
[シート名]	数式が出現するシートの名前 (タブ タイトル)。ドキュメント式の場合は空です。
オブジェクト ID	数式が出現するシート オブジェクトのシート オブジェクト ID。ドキュメントとシートの数式の場合は空です。
オブジェクト名	数式が出現するオブジェクトの名前。
パス	数式の型を簡潔に説明した "フレンドリな名前" で、プロパティ内の数式の場所を示します。
ラベル	オブジェクトの数式のラベル。
フルパス	プロパティ構造内での数式の正確な場所を示します。表記は、QlikView Automation Interface のオブジェクトプロパティ階層に対応します。QlikView Automation Interface については、「QlikView API ガイド」を参照してください。
数式	数式の定義。

このダイアログから行われた変更は、通常の **元に戻す** コマンドで元に戻すことができます。

20 内部ファイル

20.1 QlikView レイアウトでのファイル参照

QlikView レイアウトでは、多くの場所で外部ファイルを情報や背景イメージなどとして参照できます。外部ファイルは、ローカルパスまたは URL によって参照されます。

場合によっては、外部ファイルを QlikView ドキュメントに含めることが適していることもあります。これについては、*QlikView* ドキュメントの内部ファイル (187 ページ) を参照してください。

標準画像ファイルの小さなセットが QlikView プログラム自体に埋め込まれているため、特別な準備を行うことなく、すべてのドキュメントでこれを使用できます。これについては、*QlikView* プログラムファイルの内部ファイル (187 ページ) を参照してください。

20.2 QlikView ドキュメントの内部ファイル

ロードスクリプトの *Load* (313 ページ) ステートメントと *Load* ステートメントのプレフィックスである **info** に対して、**bundle** プレフィックスをその前に付けたり、置き換えて使用することができます。外部ファイルが読み取られ、QlikView ドキュメントに埋め込まれます。これにより、ファイルの内容を参照するための外部ファイルが不要になるため、QlikView ドキュメントはポータブルドキュメントになります。

[INFO の表示] および *info* 関数では、埋め込みファイルが使用可能であれば自動的に使用します。埋め込みファイルの明示参照を示す構文は次のとおりです。

```
qmem://fieldname/fieldvalue |
qmem://fieldname<index>
```

ここで、*index* は、項目内の値の内部インデックスです。

例：

```
'qmem://Country/Austria'
'qmem://MyField/34'
```

20.3 QlikView プログラム ファイルの内部ファイル

QlikView プログラム ファイルには画像ファイルと音声ファイルが一括埋め込まれており、使用することができます。これらは特別な準備を必要とせず、レイアウトから直接参照できます。参照の構文は次のとおりです。

```
qmem://<builtin>/filename
```

ここで、*filename* は、以下にリストされたファイル名の 1 つです (拡張子を含む)。

例：

```
'qmem://<builtin>/Arrow_N_G.png'
='qmem://<builtin>/Smiley' & if (sum (Result) < 0, 1, 3) & '_Y.png'
```

矢印のイメージ

矢印には、8種類の方向と4種類の色があり、表示できます。ファイル名は、単語 **Arrow** の後に方向が続く形式で示されます。(**_N**、**_NE**、**_E**、**_SE**、**_S**、**_SW**、**_W**、**_NW**)。その後に、緑色を表す **_G**、赤色を表す **_R**、そして黄色を表す **_Y**が続きます。ファイル名に色が指定されていない場合、灰色の矢印となります。

その他のイメージ

セットの中には、その他にも多くの画像が含まれています。これらは、通常複数の色で提供されます。以下に利用できる画像をリストにしました。

Check.png	Check_G.png	Cross.png	Cross_R.png
Minus.png	Minus_R.png	Plus.png	Plus_G.png
Smiley1.png	Smiley1_G.png	Smiley1_Y.png	Smiley2.png
Smiley2_B.png	Smiley2_Y.png	Smiley3.png	Smiley3_R.png
Smiley3_Y.png	Thumb1.png	Thumb2.png	Question.png
Question_G.png	Question_R.png	Question_Y.png	Exclamation.png
Exclamation_G.png	Exclamation_R.png	Exclamation_Y.png	

20.4 サウンド

QlikView 内のバンドルされたリソースとして、次のパスを使用し、多数の音声ファイルを使用できます。

```

qmem://<bundled>/sounds/qv_btn.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_can.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_clear.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_load.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_lock.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_menu.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_ok.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_redo.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_reex.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_save.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_script.wav
qmem://<bundled>/sounds/qv_unlock.wav

```

qmem://<bundled>/sounds/qv_undo.wav

注意!

このリストは QlikView の今後のバージョンで変更される可能性があります。

第4部ロード スクリプト

21 データのロードについて

QlikView がこういったデータソースにどのようにアクセスするのかについての簡単な説明です。このヘルプは、経験の少ないユーザー用に作成されています。すぐに見つけるのが難しいかもしれない他のヘルプに直接飛ぶためのリンクがあります。

QlikView には、数々のデータソースからひとつの QlikView ドキュメントにデータを結合させるというとても強力な能力があります。これには、必要に応じて複数のデータベースから読み込みができることも含まれます。プログラムは、インターネットのソースや他のサーバー、また外部ファイルからもデータを結合することができます。

QlikView は、[ロード スクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) 画面で管理されるロード スクリプトを実行し、さまざまなデータソースに接続してデータ取得します。ロード スクリプトでは、読み込む項目とテーブルを指定します。また、特別なロード スクリプトステートメントや数式を使用してデータ構造を操作することも可能です。ロード スクリプトには特別な スクリプト構文 (271 ページ) が使用されます。

ロード スクリプトは、**リロード** ボタンをクリックすると実行されます。ロード スクリプト実行後に **リスト ボックスの追加** ダイアログが開きます。そこでは、QlikView のシートに表示するリストボックスの項目 (207 ページ) を選択します。

ロード スクリプト実行中に、QlikView は異なるテーブルに共通する項目 (キー項目) を確認し、データを関連付けます。QlikView ドキュメントのデータのデータ構造は、テーブルビューアー (222 ページ) で見ることができ、**ファイル** メニューから開くことができます。項目名の変更 (464 ページ) を行ってテーブル間に異なる関連付けを取得し、データ構造を変更できます。

QlikView にデータがロードされると、データは QlikView ドキュメント (QlikView ファイル (51 ページ)) に保存されます。これがプログラムの機能性の中心となり、無制限のデータ連結方法、膨大な利用可能軸の数、分析スピード、圧縮されたサイズなどで特徴付けられます。QlikView ドキュメントが開かれるとデータは RAM に展開されます。

最後に、QlikView データベースの役割と本質の理由から、QlikView での分析は常にドキュメントがそのデータソースにオフラインにあるときにいきます。そのため、データを更新するには、ロード スクリプトをリロードする必要があります。

21.1 ファイル データのロード

QlikView は、その項目がコンマ、タブ、セミコロンなどで区切られたテーブルを表すファイルからデータを読むことができます。他にも dif ファイル (Data Interchange Format)、固定長レコードファイル、HTML テーブル、Excel ファイル、xml ファイル、および native QVD (QVD ファイル (493 ページ)) と QVX ファイルなどの形式があります。多くの場合、項目の 1 行目には項目名が含まれます。

ファイルは、ロード スクリプトで *Load* (313 ページ) ステートメントを使用してロードされます。

ロード スクリプト エディタでステートメントを入力する代わりに、テーブル ファイル ウィザードを使用して自動的にステートメントを生成できます。詳細に関しては **ファイル ウィザード : ソース** (241 ページ) を参照してください。

load ステートメントでは、スクリプト式 (361 ページ) セットー式が使用できます。

別の QlikView ドキュメントからデータを読み込むには *Binary* (278 ページ) ステートメントを使用します。

データベースからデータをロードする方法については データベースからのデータのロード (193 ページ) を参照してください。

21.2 データベースからのデータのロード

市販のデータベースシステムからデータを Microsoft OLE DB/ ODBC インターフェースを介して QlikView へロードします。そのためには、DBMS に適した *Driver* がインストールされていることと、データベースが ODBC データソースとして設定されている必要があります。

これが完了すると、[ロードスクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) で **接続** ボタンをクリックし、データベースへの接続を設定できます。これにより、ロードスクリプトに *Connect* (283 ページ) ステートメントが生成されます。

その後、*Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントで、読み込むテーブルと項目を定義します。このステートメントを作成するには、**選択** ボタンをクリックします。詳細に関しては *Select* ステートメントの作成 (230 ページ) を参照してください。

Direct Query ステートメントで、読み込む項目とテーブルも定義できます。詳細に関しては *Direct Discovery* (193 ページ) を参照してください。

また、*Direct Discovery* (193 ページ) 機能を使用することで、集約関数クエリ結果を大規模なデータベースから (QlikView データモデルにロードせずに) にロードすることが可能です。

21.3 Direct Discovery

Direct Discovery は、より大きなデータセットとインメモリ データとをシームレスに結び付ける集計されたクエリを通じて、追加のソースデータへアクセスすることにより、QlikView インメモリ データモデルの連想機能を拡張します。Direct Discovery は、ビジネスユーザーがビッグデータソース上で連想分析の制約を受けずに行えるように、その機能を向上させました。インメモリ データと Direct Discovery データ上で選択を行い、QlikView のイメージカラーである緑、グレー、白という同じ色でデータセットの連想結果を見ることができます。チャートは、双方のデータセットから同時にデータを分析します。

特別なスクリプト構文「DIRECT QUERY」を活用して、Direct Discovery のためにデータを選択します。Direct Discovery 構造が確立すると、QlikView オブジェクトを作成するために、インメモリ データと共に Direct Discovery の項目も使用できます。QlikView オブジェクトで Direct Discovery 項目を使用すると、外部データソースで自動的に SQL クエリを実行します。*Direct Discovery* とインメモリ データとの違い (200 ページ) を参照してください。

QlikView Server および Publisher で Direct Discovery を使用するアプリケーションを起動するには、特定の設定が必要です。*QlikView Server* と *Publisher* における *Direct Discovery* (205 ページ) を参照してください。

Direct Discovery 項目の種類

Direct Discovery のデータ項目には、DIMENSION、MEASURE および DETAIL の 3 種類があります。この 3 種類の項目は、ロードスクリプトの **Direct Query** ステートメントを使用して Direct Discovery

の選択が行われた時、データ項目に設定されます。DIMENSION 項目はメモリにロードされて、インメモリデータと Direct Discovery 項目のデータを関連付けるために使用されます。

一方 MEASURE 項目は、「メタレベル」で認識されます。MEASURE 項目はメモリにロードされません(テーブルビューにはMEASURE の項目は表示されません)。その理由は、MEASURE 項目でのデータの集積が、メモリではなく、データベースで起こるようにするためです。しかし、MEASURE 項目は QlikView 式で使用され、数式構文は変更されません。その結果、データベースの Direct Discovery 項目は、エンドユーザーには透過的に使用されます。

注:

Direct Discovery の、双方向的で SQL 特有の性質のため、特定の QlikView オブジェクトのみが MEASURE 項目を使用できます。リストボックス、マルチボックス、統計ボックス、ミニチャートは、MEASURE 項目には対応していません。

DIMENSION 項目は、インメモリデータと Direct Discovery データ間を関連付けるために使用されます。MEASURE 項目とは異なり、DIMENSION 項目は、Direct Discovery データを QlikView ユーザーインターフェースでの選択に利用したい場合に、リストボックスの定義に使用できます。また Direct Discovery の DIMENSION 項目は、チャートの dimension の値を定義する際にも使用されます。

注:

DIMENSION 項目をリストボックスで使用する場合、リストボックスに表示されるデータ値は、直接のクエリで更新されることはありません。Direct Discovery の項目データは、リロードされた場合のみ更新されます。

通常、dimension として使用されることになる、不連続値を含む項目は、DIMENSION キーワードでロードする必要がありますが、集計関数においてのみ使用する数値には、MEASURE 項目としてマークしなければなりません。DIMENSION 項目は、オブジェクト式では使用できません。

DETAIL 項目は、ユーザーが detail データをドリルするテーブルボックスでの表示を望む「コメント」項目といった、情報や detail データを提供します。DETAIL 項目は、チャート式やすべての集計関数において、使用できません。リストボックスでも使用はできません。通常、DETAIL として指定されている項目には、「コメント」のように、実際に集計することができないデータが含まれています。

ただし、どの項目でも DETAIL 項目に指定できます。DETAIL として項目を指定すると、集計関数では使用されず、テーブルボックスにのみ表示されることとなります。

DETACH 項目は DIMENSION 項目と似た振る舞いをします。ただし、リストボックスやチャートで DETACH を選択しているときに、クエリを関連付けないといった場合を除きます (*Direct Discovery* とインメモリデータとの違い (200 ページ) を参照してください)。

以下の 集計関数 (364 ページ) は、MEASURE 項目に使用できます。

- Sum (合計値)
- Avg (平均値)
- Count (値の個数)
- Min (最小値)
- Max (最大値)

以下の表には、Direct Discovery 項目の種類ごとの特性および使用方法が要約されています。

項目の種類	メモリ内ですか？	連想を形成しますか？	リストボックスで使用されますか？	チャートの数式で使用されますか？	テーブルボックスで使用されますか？
DIMENSION	はい	はい	はい	はい	はい
MEASURE	いいえ	いいえ	aggr() 式のみにおいて	はい	はい
DETAIL	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
DETACH	はい	いいえ	はい	はい	はい

Direct Discovery の全項目はテーブルボックスでの使用が可能で、インメモリ項目と組み合わせて使用します。

Direct Discovery のマルチテーブル サポート

Direct Discovery を使用すると、複数のテーブルをロードしたり、ANSI SQL の結合機能を使って表示したりできます。単一チャートでは、すべての数式が QlikView の論理テーブルから取得される必要がありますが、これは結合ステートメントを介してリンクされたソースからの、複数のテーブルの組み合わせの場合もあります。ただし、同じチャートの他のテーブルから取得した軸を使用することもできます。

たとえば、Where 条件式または Join 条件節のいずれかを使用して、Direct Discovery でロードしたテーブルをリンクできます。

Direct Discovery テーブルを Where 条件式でリンクする

このスクリプト例では、AW2012 データベースからデータをロードします。Product テーブルと ProductSubcategory テーブルは、共通の ProductSubCategoryID 項目を使用して Where 条件式でリンクされています。

```
Product_Join:
DIRECT QUERY
DIMENSION
    [ProductID],
    [AW2012].[Production].[Product].[Name] as [Product Name],
```

```

    [AW2012].[Production].[ProductSubcategory].[Name] as [Sub
Category Name],
    Color,
    [AW2012].[Production].[Product].ProductSubcategoryID as
[SubcategoryID]
MEASURE
    [ListPrice]
FROM [AW2012].[Production].[Product],
    [AW2012].[Production].[ProductSubcategory]
WHERE [AW2012].[Production].[Product].ProductSubcategoryID =

[AW2012].[Production].[ProductSubcategory].ProductSubcategoryID ;

```

Direct Discovery テーブルを Join On 条件式でリンクする

Direct Discovery テーブルは、Join On 条件式を使用してリンクすることもできます。このステートメント例では、SalesOrderID 項目を介して SalesOrderHeader テーブルを SalesOrderDetail テーブルに結合し、さらに CustomerID 項目を介して Customer テーブルを SalesOrderHeader テーブルに結合します。

この例では、同じ論理関数テーブルから数式を作成します。つまり、それらの数式を同じチャートに使用します。たとえば、SubTotal と OrderQty を計算基準としてチャートを作成することができます。

```

Sales_Order_Header_Join:
DIRECT QUERY
DIMENSION
    AW2012.Sales.Customer.CustomerID as CustomerID,
    AW2012.Sales.SalesOrderHeader.SalesPersonID as SalesPersonID,
    AW2012.Sales.SalesOrderHeader.SalesOrderID as SalesOrderID,
    ProductID,
    AW2012.Sales.Customer.TerritoryID as TerritoryID,
    OrderDate,
    NATIVE('month([OrderDate])') as OrderMonth,
    NATIVE('year([OrderDate])') as OrderYear
MEASURE
    SubTotal,
    TaxAmt,
    TotalDue,
    OrderQty
DETAIL
    DueDate,
    ShipDate,
    CreditCardApprovalCode,
    PersonID,
    StoreID,
    AccountNumber,
    rowguid,
    ModifiedDate
FROM AW2012.Sales.SalesOrderDetail

```

```

JOIN AW2012.Sales.SalesOrderHeader
ON (AW2012.Sales.SalesOrderDetail.SalesOrderID =
    AW2012.Sales.SalesOrderHeader.SalesOrderID)
JOIN AW2012.Sales.Customer
ON (AW2012.Sales.Customer.CustomerID =
    AW2012.Sales.SalesOrderHeader.CustomerID);

```

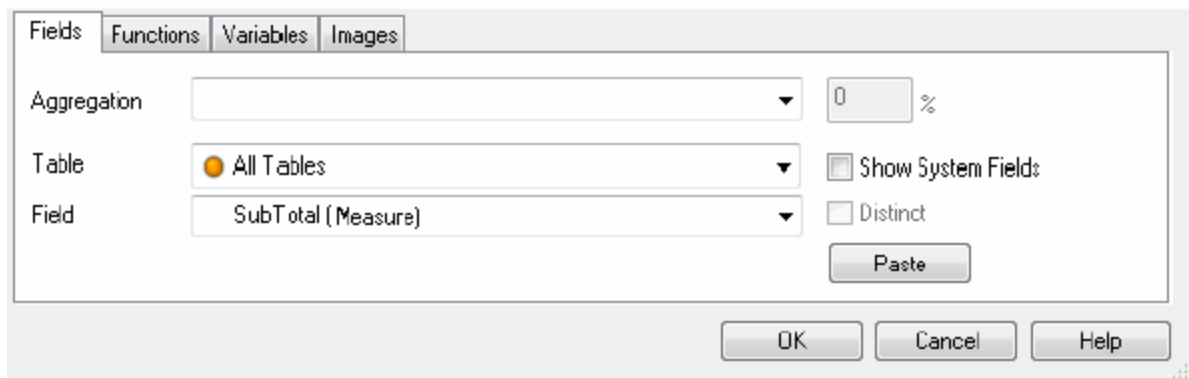
注:

FROM 句の alias ではテーブルを参照できません。完全なテーブル名を使用する必要があります。

QlikView オブジェクトの Direct Discovery 項目

Direct Discovery 構造が設定されると、ソースのテーブルの Direct Discovery 項目がユーザー インターフェイスで利用できるようになります。DIMENSION として指定されている項目は選択条件に利用できるため、インメモリ項目と Direct Discovery 項目間を関連付けることができます。

MEASURE 項目は、ユーザー インターフェイスでは印が付いています。



上記の通り、QlikView オブジェクトの MEASURE 項目の使用には一部制約があります。MEASURE 項目を使用すると軽快な使用感が損なわれる可能性があるので、使用する際にはこの点に注意することが重要です。MEASURE 項目のデータ値はメモリにロードされませんが、QlikView アプリケーションのユーザー インターフェイスで使用すると、メモリや CPU が消費されます。例えば、仮にビッグデータソース内のある項目に、10億単位の値が存在している場合、このような項目を使用すると、パフォーマンスに重大な影響が及びます。

Direct Discovery を使用したリストボックスおよびテーブルボックスの作成方法 (601 ページ) および *Direct Discovery* を使用したチャート作成方法 (949 ページ) を参照してください。

サポートされているデータソース

QlikView Direct Discovery は、以下のデータソースに対して使用できます (32 Bit 接続と 64 Bit 接続の双方に対応) :

- ODBC/OLEDB データソース : SQL Server、Teradata、Oracle をはじめあらゆる ODBC/OLEDB ソースに対応。
- SQL 対応のカスタムコネクタ : SAP SQL コネクタ、SQL 準拠のデータストア用のカスタム QVX コネクタ。

32 ビットおよび 64 ビット接続の両方に対応しています。

SAP の場合、Direct Discovery を使用できるのは、QlikView SAP SQL Connector のみで、SET 変数には以下のパラメータが必要となります。

```
SET DirectFieldColumnDelimiter=' ';
SET DirectIdentifierQuoteChar=' ';
```

SAP は OpenSQL を使用しているため、コンマでなくスペースでカラムを区切ります。そのため、上記の SET ステートメントは、ANSI SQL と OpenSQL の相違に対応するために置き換えられます。

Direct Discovery は Google Big Query での使用も可能で、SET 変数には以下のパラメータが必要となります。

```
SET DirectDistinctSupport=false;
SET DirectIdentifierQuoteChar='[]';
SET DirectIdentifierQuoteStyle='big query'
```

Google Big Query は SELECT DISTINCT や引用符で囲まれた列/テーブル名をサポートしていません。また、'[]' を使用する非ANSI 引用符の設定を採用しています。

対応しているデータ型

Direct Discovery では全てのデータ型がサポートされていますが、特定のソースデータの形式は、QlikView 向けに定義する必要があります。"SET Direct...Format" 構文を使用すると、ロードスクリプトで定義できる場合があります。以下の例は、Direct Discovery のデータベースソースとして使用される、データベースのデータ形式の定義方法を示しています。

例：

```
SET DirectDateFormat='YYYY-MM-DD';
```

生成されたSQLステートメントにおいて、Direct Discovery が通過形式の値を設定する方法を制御するスクリプト変数は2つあります。

```
SET DirectMoneyFormat (default '#.0000')
SET DirectMoneyDecimalSep (default '.')
```

この2つの変数の構文は、MoneyFormat と MoneyDecimalSep とで同じですが、使用の際には異なる重要な点が2つあります。

- これは表示形式ではないので、通貨記号や桁区切りは含まれていません。
- 既定値はロケールによって引き出されるのではなく、値に組み込まれていて変更できません。(ロケール固有の書式設定には通貨記号が含まれています。)

データ型変換変数 (444 ページ) を参照してください。

Direct Discovery は、一部のデータベース(特に SQL Server) で必要とされている場合、拡張された文字列リテラル (N'<extended string>') 向けに SQL 標準形式を使用して、拡張 Unicode データの選択をサポートできます。スクリプト変数 *DirectUnicodeStrings* (291 ページ) を用いると、Direct Discovery でこの構文は有効となります。この変数を "true" に設定すると、文字列リテラルの前で "N" を使用できるようになります。

Teradata クエリのバンド サポート

Teradata クエリのバンドとは、より向上した会計、優先度設定、ワークロード管理を目的として、エンタープライズアプリケーションが、根底にある Teradata データベースと連携して動作することを可能にする機能です。クエリのバンドを使用すると、クエリ周辺のメタデータ (ユーザー認証情報など) をラップすることができます。

以下の 2 つの変数が用意されており、そのいずれも評価の後にデータベースに送信される文字列です。

- `SQLSessionPrefix` はデータベースへの接続が作成されると送信されます。
- `SQLQueryPrefix` はクエリごとに送信されます。

例 :

```
SET SQLSessionPrefix = 'SET QUERY_BAND = ' & Chr(39) & 'Who=' & OSUser() &
';' & Chr(39) & ' FOR SESSION;';
```

たとえば `OSUser()` は **WA¥sbt** を返し、これは **SET QUERY_BAND = 'Who=WA¥sbt;' FOR SESSION;** に照らして評価され、接続が作成されるとデータベースに送信されます。

セキュリティ

以下のセキュリティにおけるベストプラクティスは、Direct Discovery を使用する際に考慮に入れる必要があります。

- Direct Discovery 機能を含む同じ QlikView アプリケーションを使用するすべてのユーザーは、同じ接続を使用します。パススルー認証やユーザーごとの資格認証には、対応していません。
- セクションアクセスはサーバー モードでのみサポートされています。
- NATIVE キーワードの数式で、データベースのカスタム SQL ステートメントを実行できます。ロードスクリプトで設定されているデータベース接続は、データベース読み取り専用のアクセス権を持つアカウントを使用する必要があります。
- Direct Discovery にはログ機能はありませんが、ODBC のトラッキング機能を使用できます。ログ (200 ページ) のセクションを参照してください。
- データベースがクライアントのリクエストであふれることがあります。
- QlikView Server ログファイルに詳細なエラーメッセージが出ることがあります。

サポートしている QlikView 機能

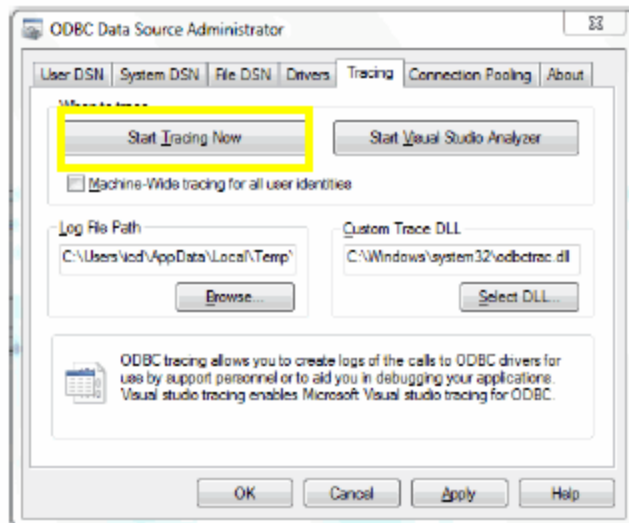
Direct Discovery の双方向的な SQL 構文特有の性質により、一部の QlikView 機能には対応していません。

- 高度な計算 (Set 分析、複雑な数式)
- 計算軸
- Direct Discovery 項目を使用している QlikView オブジェクトの比較分析 (並列ステート)
- Direct Discovery の MEASURE および DETAIL 項目はグローバル検索には対応していません。
- Direct Discovery テーブルを用いた QlikView アプリケーションからのバイナリロード
- ループと分割
- Direct Discovery テーブルの合成キー
- スクリプトでのテーブルの名前付けは、Direct テーブルには適用されません
- ロードスクリプト上の DIRECT QUERY キーワード後にワイルドカード記号 * を使用 (DIRECT QUERY *)

- Oracle の LONG データ型の列を含むデータベースのテーブルはサポートされていません。
- 科学的記数法における大きな桁数の整数は、[-9007199254740990, 9007199254740991]の範囲外の場合、丸め誤差および定義されていない動作を引き起こす可能性があります。

ログ

データソースに渡される Direct Discovery SQL ステートメントは、データベース接続のトレースファイルに記録されます。標準的な ODBC 接続の場合、ODBC データソース管理者がトレースを開始します。

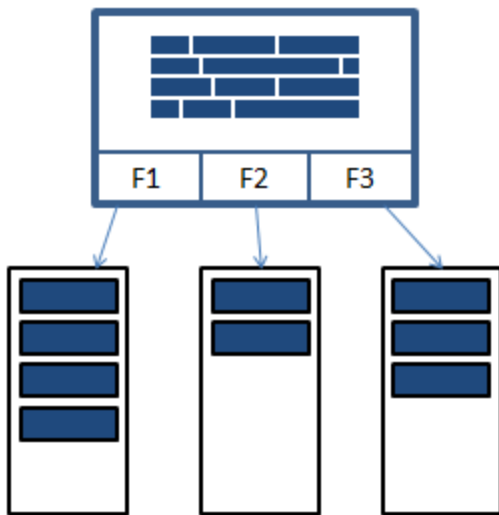


結果のトレースファイルには、ユーザーの選択内容やインタラクションを通じて生成された SQL ステートメントの詳細が記されています。

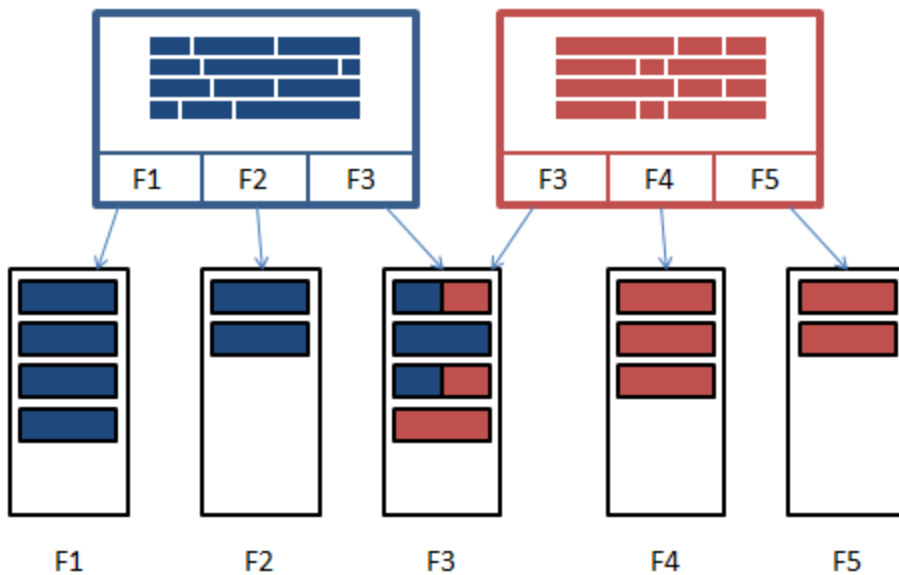
21.4 Direct Discovery とインメモリ データとの違い

インメモリモデル

QlikView のインメモリモデルでは、ロードスクリプトのテーブルから選択された項目のユニーク値はすべて、項目構造にロードされ、同時に、連想データはテーブルにロードされます。項目データおよび連想データはすべて、メモリで保持されています。

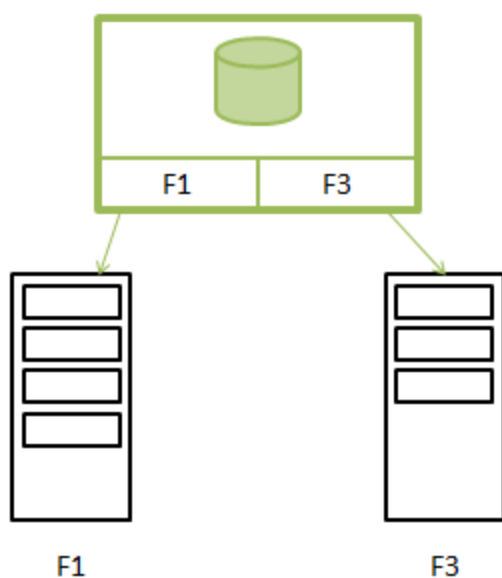


メモリにロードされたもう一つの関連テーブルは、共通の項目を共有することがあります。そしてそのテーブルは、共通の項目に新しいユニーク値を追加したり、既存値を共有したりする場合があります。

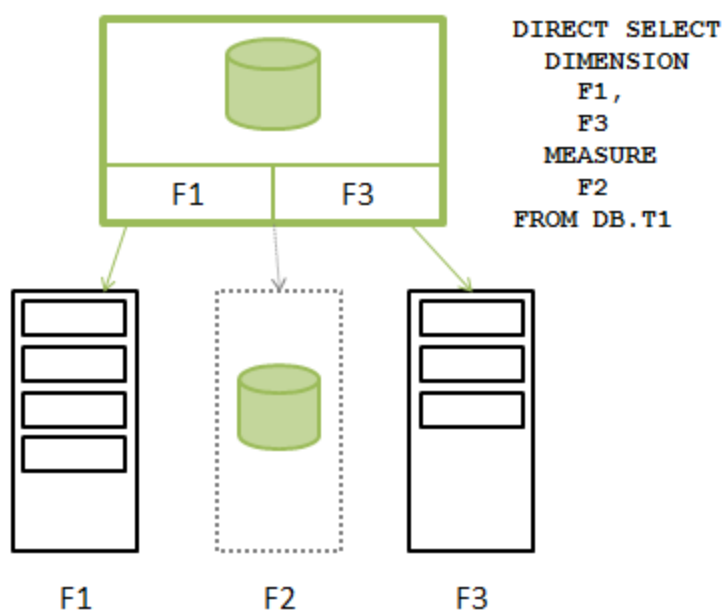


Direct Discovery

Direct Discovery の Load ステートメント (**Direct Query**) でテーブル項目をロードすると、DIMENSION 項目のみで似たテーブルが作成されます。インメモリ項目では、DIMENSION 項目のユニーク値がメモリにロードされます。ただし、項目間の関係性はデータベースに残ります。



MEASURE 項目値もまた、データベースに残ります。



Direct Discovery 構造が確立すると、特定の QlikView オブジェクトと共に Direct Discovery 項目を使用できます (*QlikView* オブジェクトの *Direct Discovery* 項目 (197 ページ) 参照)。そして、インメモリ項目を使った関連付けのためにも Direct Discovery 項目を使用できます。QlikView オブジェクトで Direct Discovery 項目が使用されると、QlikView は、外部のデータ上で実行する適切な SQL クエリを自動生成します。選択を行うと、データベースのクエリの WHERE 条件で Direct Discovery の関連データ値が使用されます。

各選択条件を使って、Direct Discovery の項目を含むチャートは再計算されます。そして、QlikView によって作成された SQL クエリを実行することにより、元のデータベーステーブルに計算結果が表示されます。計算の条件の機能を使い、チャートを再計算するタイミングを指定できます。条件が合わない間は、QlikView はチャートを再計算するクエリを送信しません。

インメモリ項目と Direct Discovery 項目とのパフォーマンスの違い

インメモリでの処理スピードは常に、ソースデータベースでの処理スピードよりも速くなります。Direct Discovery のパフォーマンスは、Direct Discovery クエリを処理するデータベースを稼働しているシステムのパフォーマンスに影響を及ぼします。

Direct Discovery のベストプラクティスを引き出す標準的なデータベースおよびクエリを使用することができます。パフォーマンスの調整はすべて、ソースデータベース上で行われます。Direct Discovery は、QlikView アプリケーションのクエリのパフォーマンス調整には対応していません。しかし、接続プーリング機能を使用することで、データベースへの非同期・同時呼び出しを行うことはできます。プーリング機能を設定するロード スクリプト構文は以下の通りです。

```
SET DirectConnectionMax=10;
```

QlikView キャッシュにより、ユーザー エクスペリエンス全体が改善されます。以下 キャッシュと *Direct Discovery* (204 ページ) を参照してください。

一部項目の関連付けを解除することでも、DIMENSION 項目を含む Direct Discovery のパフォーマンスを改善できます。これは、*Direct Query* 上で DETACH キーワードを用いて実行されました。関連付けを解除された項目では、関連付けのためのクエリは実行されませんが、フィルターの一部として残っているため、選択時間を短縮できます。

QlikView のインメモリ項目と Direct Discovery の DIMENSION 項目の両方の全データがメモリ内に保持されている間、項目へのロード方法の違いは、メモリへのロードのスピードに影響を及ぼします。同じ値を持つ複数のインスタンスが存在する場合、QlikView のインメモリ項目は、項目値のコピーを 1 つだけ保持します。ただし、全項目データをロードして、重複データが抽出されます。

DIMENSION 項目もまた、項目値のコピーを 1 つだけ保持し、重複値はメモリにロードされる前に、データベースで抽出されます。通常の Direct Discovery 使用のように、大量のデータを取り扱う場合、インメモリ項目のために使用される SQL SELECT ロード経由よりも、DIRECT QUERY ロードとしてずっと素早くデータをロードします。

データ インメモリとデータベース データとの違い

QlikView は、インメモリデータで関連付けを行う場合、大文字と小文字を区別します。Direct Discovery は、データベースで大文字と小文字の区別を行って、ソースデータベースからデータを選択します。大文字と小文字の区別をしないデータベースの場合、Direct Discovery のクエリは、インメモリのクエリが返さないデータを返す場合があります。大文字と小文字を区別しないデータベースに以下のデータが存在する場合、値 "Red" の Direct Discovery のクエリは以下の 4 行をすべて返します。

ColumnA	ColumnB
red	one
Red	two
rED	three
RED	four

一方、"Red" のインメモリの選択は、唯一、以下を返します：

Red two

QlikView は、データベースが合致しない選択データで一致する値を生成するまで、データを正規化します。その結果、インメモリクエリは、Direct Discovery クエリよりも一致度が高い値を生成する場合があります。例えば、以下のテーブルでは、前後のスペースの位置により、数値 "1" に対する値が変化します。

ColumnA	ColumnB
'1'	space_before
'1'	no_space
'1 '	space_after
'2'	two

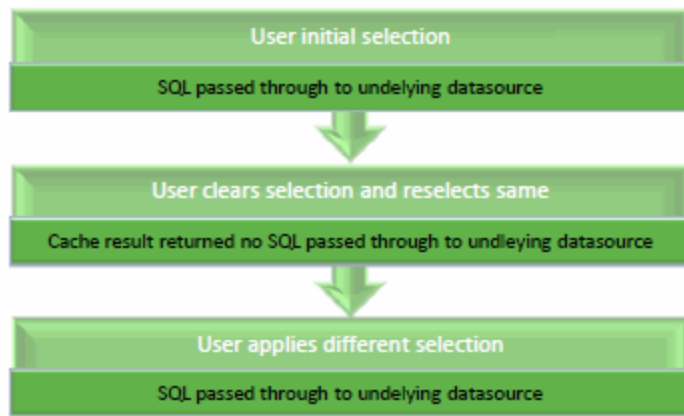
標準的な QlikView インメモリにデータが存在する、ColumnA のリストボックスで "1" を選択すると、QlikView は最初の 3 行を関連付けます。

```
'1' space_before
'1' no_space
'1 ' space_after
```

リストボックスに Direct Discovery のデータが含まれている場合、"1" の選択は、"no_space" にのみ関連付けられます。Direct Discovery のデータに返される一致結果は、データベースによって異なります。"no_space" のみを返すデータベースもあれば、SQL Server のように、"no_space" と "space_after" を返すものもあります。

キャッシュと Direct Discovery

QlikView のキャッシュは、クエリの選択状態をメモリに保存します。同じ種類の選択が行われると、QlikView は、ソースデータのクエリを実行しないで、キャッシュのクエリを利用します。異なる選択を行うと、データソースで SQL クエリを実行します。キャッシュされている結果は、ユーザー間で共有されます。



DirectCacheSeconds (291 ページ) のシステム変数を用いて、キャッシュに時間制限を設けることができます。制限時間に達すると、QlikView Server は、これまでの選択条件で生成された Direct Discovery のクエリ結果のキャッシュをクリアします。そして、QlikView は選択条件のソースデータに照会して、指定の制限時間に達するまで、再度キャッシュを作成します。

Direct Discovery のクエリ結果の既定のキャッシュ時間は、30分間です。ただし、*DirectCacheSeconds* のシステム変数が使用されている場合を除きます。

21.5 QlikView Server と Publisher における Direct Discovery QlikView Server の設定

QlikView アプリケーションで Direct Discovery を使用する場合は、QlikView Server の一部の設定を確認する必要があります。

注意!

これらの設定は、同じ QlikView Server 上に存在するすべての QlikView ドキュメントに影響します。

オブジェクト 演算時間限界 (Object Calculation Time Limit)	Direct Discovery の機能は QlikView から外部システムのクエリを行うため、チャートの計算時間は基本となるシステムのパフォーマンスに応じて異なります。QlikView マネージメントコンソールの [Object Calculation Time Limit] (オブジェクト演算時間限界) の値は、Direct Discovery クエリ結果がデータソースから QlikView チャートに返されるだけの時間が確保されるよう、高めに設定することが推奨されます。この設定は、QlikView Management Console にリストされている QlikView Server の [パフォーマンス] タブで行います。
チャートの マーカー最大 表示数	[Max Symbols in Charts] (チャートのマーカー最大表示数) は、QlikView チャートに表示するデータポイントの数を設定する際に使用します。Direct Discovery クエリは多数の distinct 値を返すことがあるため、適切な数のデータポイントが QlikView チャートに表示されるよう、この設定で確認します。

Config.xml ファイルにおける QVS タイムアウト設定 QlikView Server とは別の外部システムのクエリを実行するのに Direct Discovery を使用する場合、Config.xml ファイルにおけるサーバーのタイムアウト設定は、QlikView がクエリの結果を得られるように、十分な時間を確保できるように調整する必要があります。クエリを完了するのに十分な時間が確保できない場合、AJAX クライアントを使用すると、「サーバーへの接続が見当たりません」というエラーが返されます。既定の設定は 60 秒ですが、設定で最大クエリ時間を延ばす必要があるかもしれません。config.xml ファイルは、C:\ProgramData\QlikTech\WebServer ディレクトリにあります。XML タグは <QvsTimeout> です。アップグレードをする間に、設定の既定値が書き換えられるので、注意してください。

QlikView Publisher

QlikView Publisher は、Direct Discovery が使用するデータベースのテーブルへの読み取りアクセス権を必要とします。Publisher を使う QlikView アプリケーションで Direct Discovery を使用する場合、Publisher を実行するサービス アカウントに必要な読み取りアクセス権があるか確認してください。もしなければ、定期的にデータを最新情報に更新する間、Publisher は Direct Discovery のテーブルを読み取ることができません。

22 変数および項目

この章では、QlikView のさまざまなデータ伝送エンティティの中で特に重要な要素である **項目** と **変数** について説明します。

22.1 項目

項目は、QlikView の主要なデータ伝送エンティティです。項目には通常、項目値と呼ぶいくつかの値が含まれています。データベース用語で、QlikView に処理されたデータはデータ ファイルから読み込むと言います。ファイルは複数の項目から成り、各データ エントリはレコードとなります。ファイル、項目、レコードは、それぞれテーブル、列、行と同等です。QlikView AQL ロジックは、項目とその項目値にのみ働きます。

項目データは、*Load* (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ)、*Direct Query*、*Binary* (278 ページ) ステートメントで取得します。項目 (入力フィールド (208 ページ) 以外) のデータを変更する唯一の方法は、スクリプトを再実行することです。ユーザーは、レイアウトやオートメーションを使用して項目値を操作することはできません。QlikView に読み取られた項目値は、表示、論理的な選択、計算にのみ使用できます。

項目値には、数値データや英数字 (テキスト) データを含めることができます。数値は、実際にはデュアル値、数値とその時点の書式設定されたテキスト表現、を持ちます。シート オブジェクトなどにはテキスト表現が表示されます。

QlikView のレイアウトでは、項目の内容が リスト ボックス (569 ページ) に表示されます。

項目タグ

システム タグには 3 つの異なる種類があり、それは、ユーザーが変更できないスクリプト生成システム タグと、ロード スクリプト内で変更できるスクリプト生成システム タグ、ユーザーが対話式に設定するシステム タグです。システム タグの前には、常に \$ サインが付きます。

次のシステム タグは、スクリプト生成の終わりに自動的に生成されます。ユーザーはこれらを変更することはできません。

- \$system - システム項目であることを示します。
- \$key - キー項目であることを示します。
- \$keypart - 項目が 1 つ以上の複数の合成キーの一部であることを示します。
- \$synthetic - 合成キーであることを示します。

次のシステム タグは、スクリプト生成の終わりに自動的に生成されますが、スクリプト構文を使用して変更または上書きすることが可能です。 *Tag Field* (342 ページ) と *Untag Field* (344 ページ) を参照してください。

- \$hidden - 非表示項目であることを示します。
- \$numeric - 項目内のすべての (null 値以外) 値は数値です。
- \$integer - 項目内のすべての (null 値以外) 値は整数です。
- \$text - 項目内の値は数値ではありません。
- \$ascii - 項目の値には標準の ASCII 文字列のみが含まれます。

- \$date - 項目内のすべての (null 値以外) 値は、日にち (整数) に変換されます。
- \$timestamp - 項目内のすべての (null 値以外) 値は、日時に変換されます。

次のタグは、ドキュメントプロパティ : テーブル (535 ページ) ダイアログで設定されます。ユーザーが、有効と無効を切り替えられます。

- \$dimension - チャートの軸やリストボックスなどでの使用を推奨する項目であることを示します。
- \$measure - 数式での使用を推奨する項目であることを示します。

ユーザーは、カスタム タグを追加することもできます。これらは、スクリプト構文 (271 ページ) を使用してロードスクリプトで追加するか、ドキュメントプロパティ : テーブル (535 ページ) ダイアログで追加します。これらのカスタム タグに、システム タグと同じ名前を使用することはできません。

注意!

ロードスクリプトとドキュメントプロパティ : テーブル (535 ページ) の両方で同じタグが操作される場合、ロードスクリプトの設定が優先されます。

22.2 入力フィールド

項目 (207 ページ) のデータを変更するには、スクリプトを実行する必要があると前述しました。しかし、バージョン 8 以降の QlikView は、スクリプトを実行しなくても変更できる特別な項目の型 (入力フィールド) をサポートしています。

入力フィールドは、QlikView のその他の項目と似ていますが、スクリプトで読み取られた項目の値については、その他の項目とは異なり、スクリプトを再度実行しなくても後で変更することができます。入力フィールドは、あらゆるタイプのシートオブジェクトの他の項目と同じように使用できます。

注意!

入力フィールドにおけるデータの保存効率は、通常の項目と比較すると非常に落ちるため、大量データには向いていません。

入力フィールドを使用する場合、ロードスクリプトは、各項目値のプレースホルダを作成します。これを後で編集して、新しいデータを設定できます。項目を load または select ステートメントに含める前に、ロードスクリプトに *Inputfield* (305 ページ) ステートメントでリストすることで、すべての項目を入力フィールドに変えることができます。

入力フィールドの値は、リストボックスのセル、テーブルボックスのセル、およびテーブルチャートの数式セルで変更できます。入力フィールドが含まれるリストボックスおよびテーブル列のみを編集できます。編集可能なセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、そのセルは入力編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのままセル間を移動できます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されます。

注意!

計算項目を入力フィールドとして使用することはできません。入力フィールドの機能が自動的に無効となります。

テーブルチャートの数式セルには、特別な入力フィールドの集計関数 (990 ページ) を設定し、さらに値を入力する必要があります。変更は、"均等配布" または "比例配布" などの事前定義されたアルゴリズムに基づいて基底の項目値に配布し直されます。

注意!

binary ステートメントを使用してファイルをロードした場合、入力項目として定義された項目は入力項目として扱われません。

Version 9 では、入力フィールドへ相対的変動の指定機能を拡張追加しました。次の構文が適用されます (n は番号です)。

- %+n** 現在の値を $n\%$ 増加します
- %-n** 現在の値を $n\%$ 減少します
- + =n** 現在の値を n 増加します
- =n** 現在の値を n 減少します
- * =n** 現在の値を n 倍します
- / =n** 現在の値を n 分割します

例:

- %+10** 現在の値を 10% 増加します
- + =56** 現在の値を 56 増加します
- * =2** 現在の値を 2 倍します
- / =2** 現在の値を 2 分割します
- / =0** は、変更されません。

プログラムで値を抽出および設定するためのオートメーション API も用意されています。

22.3 変数

QlikView の変数は、エンティティと呼ばれ、1 つのデータ値を含みます。変数は、通常その値を **Let**、**Set** もしくは他の制御ステートメントから Automation 呼び出しやレイアウトの 入力ボックス (647 ページ) を介して取得します。変数の値は通常、ユーザーによっていつでも変更できます。変数には、数値データや英数字データを含めることができます。変数値の最初の文字がイコールサイン (=) の場合、値は式 (QlikView 式) として評価され、式の実際のテキストではなく結果が表示されるか返されます。

注意!

変数と項目には、それぞれ一意の名前を付けることが推奨されます。

22.4 QlikView の他のエンティティ

チャート軸

チャート軸はチャートの値のセットであり、チャートでその数式の値が計算されるときに、繰り返し処理の対象になります。簡単なケースでは、チャート軸は標準の棒グラフの x 軸上に表示されるもので

す。

1つのチャートは、1つ以上の軸を持つことができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大2つ、棒グラフとグリッドチャートは3つの軸を表示できます。レーダーチャートには1つの軸だけが表示され、ゲージチャートには軸は表示されません。

一般的に、チャート軸は、**チャートプロパティ** ダイアログの **軸** ページに指定された項目から値が取得されます。1つの軸は、1つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります (下の「グループ」を参照)。

チャート軸は数式から計算することもできます。

グループ

グループ、またはより正確に言うと項目グループは項目のコレクションであり、チャート軸としての項目の代わりに使用できます。次の2つの型の項目グループがあります。

ドリルダウングループは、チャート内でドリルダウンが可能な項目階層を作成するために使用します。

サイクリックグループは、非階層的であり、通常はユーザーがチャート軸の項目をマウスクリックだけで切り替えるための便利な手段として使用されます。

グループは、**ドキュメントプロパティ : グループ** ページで指定されます。

数式 (計算式)

数式は、特別な構文に基づいて集約される項目、変数、演算子、および関数の組み合わせで構成されます。使用できる関数は、レイアウト内のスクリプト、チャート、および他の部分のどこであるかによって多少異なります。

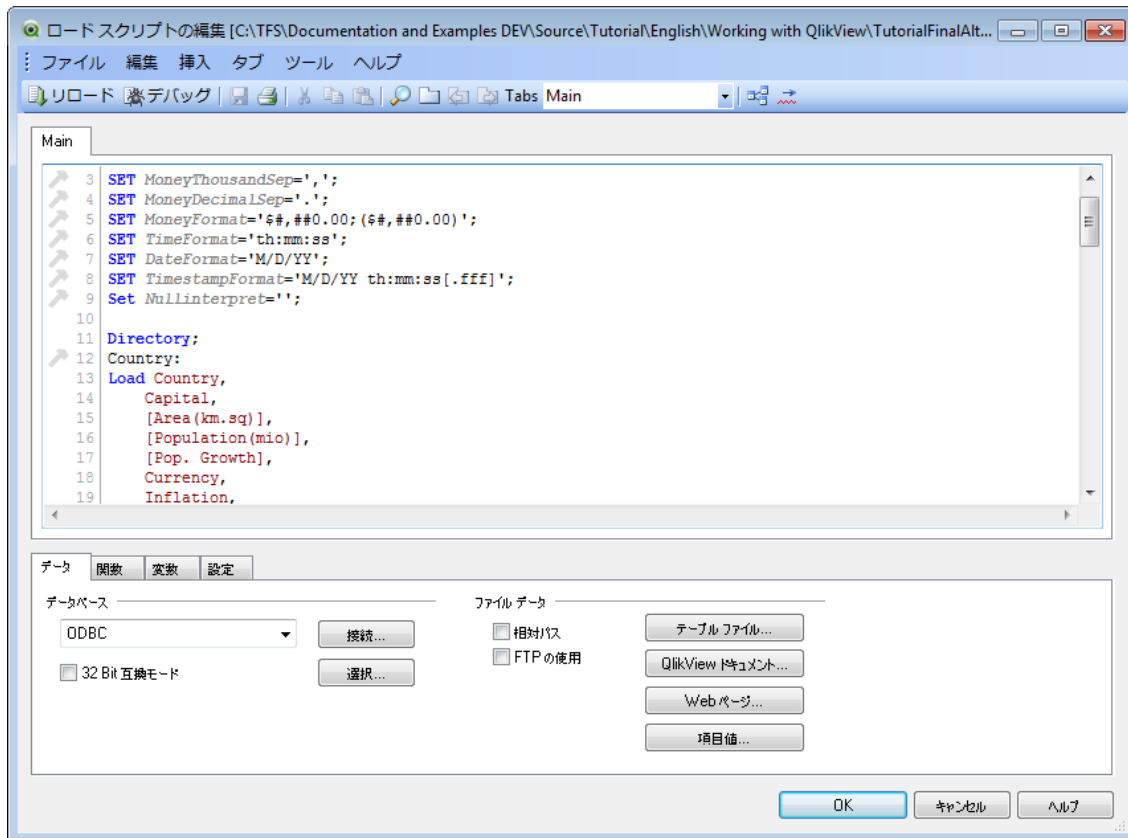
スクリプトでは、スクリプト実行によって数式が渡されるときに数式が評価されます。チャートとその他のレイアウトオブジェクトでは、数式が含む項目、変数、または関数のいずれかで値または論理ステータスが変更されるとき、常に数式が自動的に評価されます。

スクリプト式の詳細については、[スクリプト式 \(361 ページ\)](#) を参照してください。


チャートの数式の詳細については、[チャートの数式 \(951 ページ\)](#) を参照してください。

他のレイアウトオブジェクトで数式を使用する場合の詳細については、[計算式 \(1053 ページ\)](#) を参照してください。

23 [ロードスクリプトの編集] ダイアログ



[ロードスクリプトの編集] ダイアログ

ロードスクリプトの編集 ダイアログは、[ファイル]メニュー (55 ページ) から、もしくはツールバーの **ロードスクリプトの編集** アイコン  をクリックして開きます。

このダイアログでは、スクリプトを入力して実行し、QlikView ドキュメントを ODBC データソースやさまざまなタイプのデータファイルに接続し、要求した情報を取得できます。




スクリプトは、手作業で入力することも自動的に生成することもできます。スクリプトの複雑なステートメントは、少なくとも一部を手作業で入力する必要があります。スクリプトの作成で使用できるステートメント、式、関数などについては、スクリプト構文 (271 ページ) および スクリプト式 (361 ページ) で説明しています。



ロードスクリプトの編集 ダイアログでは、オートコンプリートを採用しているため、入力すると、最後まで入力しなくても入力したい内容をプログラムが予測します。スクリプト構文で使われる単語も予測に含まれます。スクリプトはまた、構文のコンポーネント別に色分けされます。**ツール > エディタ設定** を選択して、カスタマイズできます。

ダイアログの上部には、スクリプトに関連するさまざまなコマンドのメニューバーがあります。最も多く使用されるコマンドは、ツールバーにもあります。ツールバーには、ロードスクリプトのタブを選択できるドロップダウンリストもあります。




[ロードスクリプトの編集] ダイアログのメニュー

[ファイル] メニュー

リロード	スクリプトを実行し、ダイアログを閉じ、[シートプロパティ] ダイアログの [項目] ページを開きます。このコマンドは、 ロードスクリプトの編集 ダイアログのツールバーでも使用できます。	
デバッグ	デバッガでスクリプトの実行を開始します。デバッガは、スクリプト内のエラーの検索に使用します。スクリプトのすべてのステートメントを監視でき、スクリプトを実行しながら変数の値を確認できます。このコマンドは、 ロードスクリプトの編集 ダイアログのツールバーでも使用できます。	
隠しロードスクリプトの編集	隠しスクリプトのスクリプトタブを開きます。ここで、スクリプトの非表示部分を定義できます。この部分は、リロードを実行するとき、一般的なスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトのタブは常に、開いているスクリプトタブの左側に表示されます。隠しスクリプトの作成またはアクセスには、パスワードが必須です。	
隠しロードスクリプト用パスワードの変更	隠しパスワード新規作成 ダイアログを開きます。ここでは、隠しスクリプトにアクセスするための新しいパスワードを設定できます。	
隠しロードスクリプトの作成	隠しロードスクリプト用パスワード新規作成 ダイアログを開き、隠しロードスクリプト用のパスワードを設定します。すると、"Hidden Script" という名前の新しいタブがスクリプト画面に追加されます。ここで、スクリプトの非表示部分を定義できます。この部分は、リロードを実行するとき、一般的なスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトのタブは常に、開いているスクリプトタブの左側に表示されます。	
隠しロードスクリプトの削除	ロードスクリプトの編集 ダイアログボックスから、隠しロードスクリプトを削除します。	
上書き保存	アクティブなドキュメントをファイルに保存します。データ、スクリプト、およびレイアウトが保存されます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：Ctrl+S。このコマンドは、[ロードスクリプトの編集] ダイアログのツールバーでも使用できます。	
名前を付けて保存	アクティブなドキュメントに新しい名前を付けて新しいドキュメントファイルとして保存します。	
外部スクリプト ファイルを開く	スクリプトを含むファイルを参照するダイアログが開き、スクリプトパネルに新しいタブを追加してファイルを開きます。スクリプトパネルでは、QlikView の色分けを使用してスクリプトを編集できます。	

外部スクリプト ファイルの保存	外部スクリプト ファイルを保存します。	
スクリプト ファイルにエクスポート	スクリプト全体をテキスト ファイルに保存します。テキスト ファイルは、表示される スクリプトの保存 ダイアログで指定します。ファイルには、拡張子 .qvs が付きます。	
アクティブな画面の印刷	任意のプリンタでアクティブなロード スクリプト タブを印刷できます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：Ctrl+P。このコマンドは、 [ロード スクリプトの編集] ダイアログのツールバーでも使用できます。	
すべての画面を印刷	任意のプリンタですべてのロード スクリプトを印刷できます。このコマンドからは隠しスクリプトは印刷されません。	
テーブル ビューアー	テーブルビューアー (222 ページ) ダイアログが開かれ、このダイアログで、テーブル、項目、関連付けを視覚的に表示してロードされたデータの構造を調べることができます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+T。	

[編集] メニュー

元に戻す	最後の変更を元に戻します (複数の操作を元に戻せます)。CTRL+Z を押した場合と同じです。	
やり直し	最後の 元に戻す をやり直します。CTRL+Y を押した場合と同じです。	
切り取り	選択されたテキストをクリップボードにエクスポートします。このコマンドは、 [ロード スクリプトの編集] ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+X を押した場合と同じです。	
コピー	選択されたテキストをクリップボードにコピーします。このコマンドは、 ロード スクリプトの編集 ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+C を押した場合と同じです。	
貼り付け	クリップボードの内容をダイアログのカーソルの位置に貼り付けます。このコマンドは、 ロード スクリプトの編集 ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+V を押した場合と同じです。	
削除	選択されたスクリプト テキストを削除します。DEL を押した場合と同じです。	
スクリプト全体を削除	スクリプトをクリアします。つまり、最初に自動生成された set ステートメント以外のすべてのテキストを削除します。	

すべて選択	スクリプトのテキスト全体を選択します。CTRL+A を押した場合と同じです。
検索/置換	ダイアログが開かれ、ロードスクリプト内の数字または文字を検索して置換することができます。このコマンドは、 ロードスクリプトの編集 ダイアログのツールバーでも使用できます。CTRL+F を押した場合と同じです。
行指定	ダイアログが開かれ、ここからスクリプト内の指定した行番号に移動できます。CTRL+G を押した場合と同じです。
大文字に設定	選択されたスクリプトテキストを大文字にします。
小文字に設定	選択されたスクリプトテキストを小文字にします。
大文字小文字を反転	選択されたスクリプトテキストの大文字小文字を逆に変更します。
先頭文字を大文字に設定	選択されたスクリプトテキストの先頭文字を大文字にします。
コメント	スクリプト内のテキスト行をコメントに変換します。 参照項目： <i>Rem</i> (327 ページ)
コメント解除	テキスト行を元のスクリプトテキストに変換します。
インデント設定	ロードスクリプトでハイライトされた行にインデントを設定します。
インデント解除	ロードスクリプトでハイライトされた行のインデントを解除します。

[挿入] メニュー

Set ステートメント	<i>Set</i> ステートメントウィザード (220 ページ) を開き、新しい <i>Set</i> ステートメントの入力や事前定義されたステートメントの選択ができます。
環境変数	オペレーティングシステムのデフォルト設定に基づき、スクリプト内にデータ型変換変数を入力します。
スクリプト ファイル	スクリプトまたはスクリプトの一部が含まれたファイルを参照するダイアログが開き、そのファイルの内容をロードスクリプトのカーソルの位置に挿入します。
Include ステートメント	スクリプト ファイルの挿入 ダイアログを開きます。ここでは、qvs (既に保存されている QlikView スクリプト ファイル)、txt、または sql 形式のスクリプト ファイルを参照できます。
ドメイン SID	スクリプトで使用する NT ドメインセキュリティ ID を取得します。NTDOMAINSID は、NT のセキュリティを管理する予約項目の 1 つとしてセクション アクセスで使用されます。

テスト スクリプト	テストスクリプトを自動生成し、挿入します。
Load ステートメント	ファイル ロード もしくは インライン ロード で、LOAD ステートメントを挿入します。 インライン ロード を選択すると インラインデータウィザード (237 ページ) ダイアログが開かれ、スプレッドシートスタイルのコントロールから load inline ステートメントを作成できます。
セクション アクセス	Publisher 認証テーブル、またはインラインロードで、section access ステートメントを挿入します。 [Publisher 認証] を選択すると、ファイルウィザード : オプション (257 ページ) ダイアログが開きます。 [インラインロード] を選択すると、アクセス制限テーブルウィザード (239 ページ) ダイアログを開きます。
Connect ステートメント	ロードスクリプトに connect ステートメントを挿入します。
Disconnect ステートメント	ロードスクリプトに disconnect ステートメントを挿入します。

タブ メニュー

タブ メニューは、スクリプトの構造を整理するのに役立ちます。

タブの追加	新しいスクリプトタブを追加します。スクリプトは、左から右の順にタブごとに実行されます。現在のスクリプトタブが隠しスクリプトの一部の場合は、新しいタブが隠しスクリプト内にも作成されます。
カーソル位置にタブを挿入	アクティブなタブの後に新しいタブを挿入します。カーソルの後に置かれているアクティブなタブ上のテキストはすべて、新しいタブに移動します。
名前の変更	アクティブなタブの名前を変更するダイアログを開きます。
上へ	アクティブなタブを 1 つ左に移動します。隠しスクリプトタブの左には、タブを移動できません。
下へ	アクティブなタブを 1 つ右に移動します。
前のタブと結合する	アクティブなタブ上のすべてのテキストが前のタブの末尾に移動し、アクティブなタブは削除されます。
削除	アクティブなタブを削除します。最後に残るスクリプトタブは、削除できません。

[ツール] メニュー

ODBC アドミニストレータ 64 bit	64-bit ODBC ドライバ用 [ODBC データソースアドミニストレータ] ダイアログを開きます。
ODBC アドミニストレータ 32 bit	32-bit ODBC ドライバ用 [ODBC データソースアドミニストレータ] ダイアログを開きます。
エディタ設定	ユーザー プロパティ : エディタ (91 ページ) ページが開かれ、ロードスクリプトに表示されるさまざまなテキスト タイプのフォントと色を設定できます。
構文チェック	ロードスクリプトの構文を確認し、初めのエラーで停止します。

[ヘルプ] メニュー

[ヘルプ] は、QlikView の HTML ヘルプ ファイルを開きます。

[ロードスクリプトの編集] ダイアログのパネル

ロードスクリプトの編集 ダイアログには、上にスクリプトパネルと下にツールパネルの2つのパネルがあります。

スクリプト パネル

スクリプトパネルには、実際のスクリプトが含まれます。スクリプトの各行に番号が付けられます。スクリプトは、タブで分けられたページに分割でき、左のタブから右のタブへ順に実行されます。

隠しスクリプトが使用されている場合は、一番左に別のタブで表示されます (パスワードが設定されている場合)。

スクリプトは、構文のコンポーネント別に色分けされます。**ツール** メニューから **エディタ設定** を選択すると、色分けをカスタマイズできます。

ツール パネル

ツールパネルには、スクリプトを生成するための機能を含む4つのタブ ページがあります。

データ ページ

データ ページには、QlikView にデータを取得する基本的なコマンドが含まれます。

データベース グループのコマンドは、データソースへの接続とデータソースから項目を選択するために使用します。市販のDBMSを使用する場合は、QlikView とデータベースとのインターフェースに ODBC または OLE DB を使用できる場合があります。ODBC/OLE DB インターフェースからデータを取得する前に、DBMS をサポートする ODBC ドライバか OLEDB ドライバをコンピュータにインストールする必要があります。適切な ODBC/OLE DB ドライバをインストールしたら、データベースを ODBC データソースとして設定する必要があります。

OLE DB	OLE DB を使用してデータソースへの接続を確立します。
ODBC	ODBC を使用してデータソースへの接続を確立します。

QVAdminDataProvider.dll このカスタム コネクタを使用して QlikView Server に接続し、DMS や共有オブジェクトから情報をロードすることができます。

カスタム カスタム データソースもドロップダウン ボックスに表示され、選択できます。QlikView は、オープン ソースのプラグイン インターフェイスを提供し、従来のファイル、ODBC、または OLE DB インターフェイスではカバーしないさまざまな種類のデータ ソースに対するプログラム カスタム インターフェイスを実現できます。典型的な例は、Web サービスから使用できるデータです。プラグインは、QlikTech のオープン ソースとして (要求したときに) 提供されるテンプレート コードの仕様に従ってプログラムを作成し、dll としてコンパイルする必要があります。次に dll を、QV.EXE ファイルの隣に置き、カスタム ソースを使用できるようにします。

32 Bit 互換モード 通常、QlikView 64 ビットは 64 ビット プロバイダを使用します。32 ビット ドライバのデータソースを使用する場合に、このチェックボックスをオンにして強制的に ODBC/OLEDB connect ステートメントを 32 ビット プロバイダで実行します。

接続 データソースを選択できる **データリンクプロパティ** ダイアログ、または ODBC データソースを選択できる **データソースへの接続 (229 ページ)** ダイアログを開きます。

選択 **Select** ステートメントの作成 (230 ページ) ダイアログを開きます。

ファイル データ グループでは、他のデータソースからのデータ取得が行えます。

相対パス このチェックボックスをオンにすると、絶対パスでなく相対パスがロード スクリプトで使用されます。通常、相対パスは、ドキュメントを異なるコンピュータ間で移動させる場合に必要です。この設定は、[ユーザー プロパティ] ダイアログでも使用できます。そこで変更すると、**ロード スクリプトの編集** および **隠しロード スクリプトの編集** ダイアログで変更されます。

FTP の使用 **テーブル ファイル**、**QlikView ファイル**、または **ファイルの Include** をクリックしたときに FTP サーバーからファイルを選択するにはこのチェックボックスをオンにします。

テーブル ファイル	テーブル ファイル をリスト表示する ファイルを開く (235 ページ) ダイアログ を開きます。1 つまたは複数のファイルを選択し、[OK] を押すと、1 つまたは複数の load ステートメントが生成されます。実行すると、スクリプトによって、対応するファイルからデータがロードされます。 FTP の使用 オプションをオン (上記を参照) にした場合は、リストからサーバーを選択します (または使用するサーバーを入力し、[接続] をクリックします)。サーバーを選択したら、テキスト ファイルを選択します。
QlikView ファイル	QlikView ドキュメントを開く ダイアログを開きます。ファイルを選択すると、 binary ステートメントがロードスクリプトの 1 行目に生成されます。このステートメントは QlikView ファイルからデータがロードしますが、レイアウト設定は使用されません。
Web ページ	ファイルウィザード : ソース (241 ページ) ダイアログ が開かれ、データベーステーブルのソースとして URL を入力できます。
項目値	ファイルウィザード : ソース ダイアログが開かれ、既にロードされた項目の内容をロードできます。

[変数] ページ

変数 ページには、QlikView 変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールがあります。

貼り付け	選択された関数をロードスクリプトに貼り付けます。
システム変数の表示	このチェックボックスをオンにすると、システム変数が 変数 ドロップダウンのリストに表示されます。

QlikView は、オープンソースのプラグイン インターフェイスを提供し、従来のファイル、ODBC、または OLEDB インターフェイスではカバーしないさまざまな種類のデータソースに対するプログラムカスタム インターフェイスを実現できます。典型的な例は、Web サービスから使用できるデータです。プラグインは、QlikTech のオープンソースとして (要求したときに) 提供されるテンプレートコードの仕様に従ってプログラムを作成し、dll としてコンパイルする必要があります。次に dll を、QV.EXE ファイルの隣に置き、カスタムソースを使用できるようにします。選択できるようにドロップダウンボックスに表示されます。

[関数] ページ

[関数] ページには、データの QlikView の標準の関数をナビゲートしたり、貼り付けるためのツールが含まれています。

関数の種類	下にある 関数 リストで対応する関数を表示するには、ドロップダウンリストで関数の種類を選択します。
--------------	--

- 関数** このドロップダウン リストには、QlikView の標準スクリプト関数が含まれています。
- 貼り付け** **関数** リストで関数を選択し、スクリプトのカーソルのある位置に貼り付けます。

[変数] ページ

変数 ページには、QlikView 変数に関連する構文を貼り付けるためのコントロールがあります。

- 貼り付け** 選択された変数をロード スクリプトに貼り付けます。
- システム変数の表示** このチェックボックスをオンにすると、システム変数が **変数** ドロップダウンのリストに表示されます。

[設定] ページ

設定 ページには、QlikView スクリプトのセキュリティ設定が含まれます。

- スクリプト権限の追加** **データベースを R/W モードで開く**
このチェックボックスをオンにすると、select ステートメントで **mode is write** 修飾子が使用できるようになります。
- 外部プログラムを実行する**
このオプションをオンにすると、スクリプト内で execute ステートメントを使用できます。
- 設定** **データベース接続の認証情報を暗号化する**
このチェックボックスをオンにすると、**connect** ステートメントの USERID と PASSWORD がスクリプト内で暗号化されます。

23.1 Set ステートメント ウィザード

Set ステートメントウィザード

現在の Set ステートメント

変数名
新しい変数名の入力、または、下で選択した組込み変数の編集を行います。**貼り付け** をクリックするとここに組込み変数が挿入されます。

変数値

上で新しい変数名を入力した場合、ここで値を定義します。下で組込み変数値を選択した場合、ここで編集することができます。

組込み Set ステートメント

変数グループ
使用する変数の種類を選択します。

変数

使用する変数を選択します。

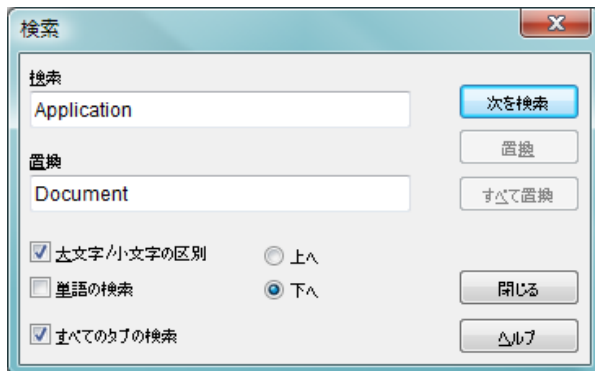
組込み値

変数の組込み値を選択します。

貼り付け

ボタンをクリックすると、組込み値が **現在の Set ステートメント** に貼り付けられ、編集することができます。

23.2 検索/置換 (ロードスクリプト)



[検索/置換] ダイアログ

このダイアログは、ロードスクリプト内で特定のテキスト文字列を検索し、検索結果の複数箇所の変更や一括の変更を行う場合に使用します。**ロードスクリプトの編集** ダイアログの **編集** メニューから開けます。

検索	検索対象のテキスト文字列。
置換	検索対象文字列を置換するテキスト。
次を検索	検索文字列の次の検索結果に選択を移動します。
Replace	選択されている部分の中で置換を行います。
すべて置換	検索文字列が出現するすべての箇所で置換を行います。
大文字/小文字の区別	このチェックボックスをオンにすると、テキスト検索は大文字と小文字を区別します。
単語の検索	このチェックボックスをオンにすると、単語単位 (スペース、またはアルファベット以外の文字による区切り) の検索文字列が出現する箇所だけが検索されます。
すべてのタブの検索	このチェックボックスをオンにすると、すべてのスクリプト タブで検索および置換処理が行われます。
上へ	このラジオ ボタンをオンにすると、ロードスクリプトが上方向に検索されます。
下へ	このラジオ ボタンをオンにすると、ロードスクリプトが下方向に検索されます。

23.3 隠しスクリプト

隠しスクリプトは、スクリプトの特別な部分であり、**リロード** を実行するとき、通常のスクリプトの前に実行されます。隠しスクリプトは、パスワードで保護されています。

ロードスクリプトの編集 ダイアログの **ファイル** メニューから **隠しロードスクリプトの編集** を選択すると、パスワードを入力するように求められます。パスワードは、隠しスクリプトにアクセスする前に入力する必要があります。ドキュメント内の隠しスクリプトに初めてアクセスする場合（つまり隠しスクリプトの作成時）は、新しいパスワードの確認を求められます。この隠しスクリプトタブは、その他のすべてのスクリプトタブの左に表示され、ドキュメントを閉じるまでその場所に存在します。

注意!

隠しスクリプトを使用する場合、**binary** コマンドは通常のスクリプトでは使用できません。

注意!

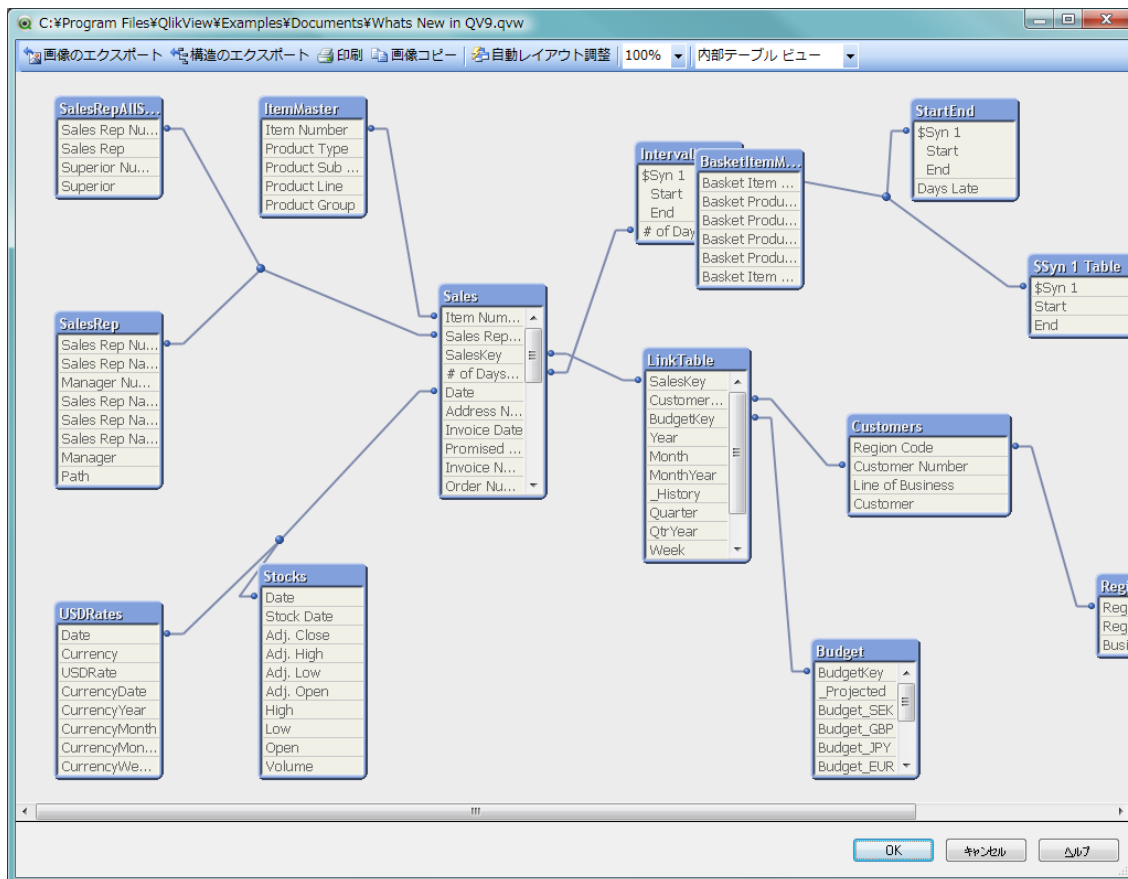
ドキュメントプロパティ : セキュリティ ページで **隠しロードスクリプトの進捗を表示** チェックボックスがオンでなければ、隠しスクリプトの実行中に **ロードスクリプトの進捗** ダイアログは更新されません。隠しスクリプトが使用されている場合、ログファイルにエントリは作成されません。

注意!

隠しスクリプトに **section access** が含まれる場合、そのセクションは、通常のスクリプト内では許可されていません。また、隠しスクリプトが含まれた QlikView ファイルに対する **binary load** で始まるスクリプト内でも許可されません。

23.4 テーブルビューアー

[**テーブルビューアー**] ダイアログは、[**ファイル**] メニューから [**テーブルビューアー**] を選択するか、CTRL+T を押すと開きます。



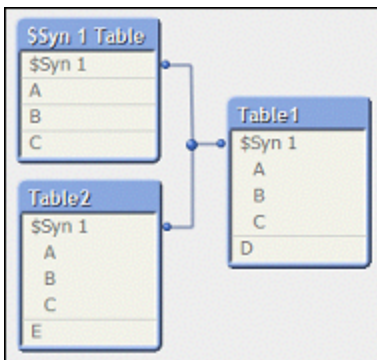
[テーブル ビューアー] ダイアログ

このダイアログは、現在の QlikView ドキュメントのデータテーブル構造を表示するために使用します。テーブルはボックスとして表示され、ボックス内には、テーブルに含まれる項目のリストが表示されます。ボックス間のコネクタ線は関連を表します。3 つ以上の線が交わる場合は、小さな点の形式で接続ポイントが置かれます。

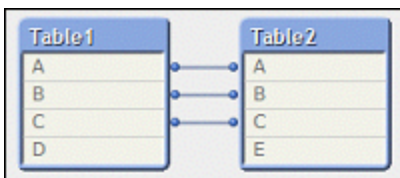
テーブル、コネクタ ポイント、およびコネクタが折れ曲がるすべての点を、マウスのドラッグアンドドロップで移動できます (以下を参照)。レイアウトをこのように再配置した場合、**[キャンセル]** でダイアログを終了しない限り、変更内容はドキュメントと共に保存されます。

ビューには、2 つ種類があります。それぞれのレイアウトは個別に保存されます。2 つのビューは次のとおりです。

- **内部テーブル ビュー** がデフォルトのビューです。QlikView が保存するデータテーブルを表示します。複数の項目を共有するテーブルでは、複合成成キーが作成されます。合成テーブルは、テーブルのリンクに使用されます。このビューは、QlikView ロジックの理解に最適です。また、テーブルの各ペアがテーブル間に最大で 1 つのコネクタを持つ場合に明確なレイアウトを示すこともできます。



- **[ソース テーブル ビュー]** は、QlikView が読み取るデータテーブルを表示します。ここには合成項目や合成テーブルはありません。複合キーは、テーブル間の複数のコネクタで表されます。



カーソルをテーブル内の項目のいずれかの上に置くと、この項目の内容に関する情報のツールヒントがポップアップで表示されます。

- **情報密度** は、テーブルのレコード総数に対する、この項目内で値を持つ (NULL でない) レコードの数の割合です。
- **サブセット割合** は、この項目のユニーク値の合計数 (他のテーブルも) に対する、このテーブル内で検出されたこの項目のユニーク値の数の割合です。
- **テーブルのコメント** がツールヒントに表示されます。
- **項目のコメント** がツールヒントに表示されます。
- ロード スクリプトや **ドキュメント プロパティ : テーブル** ページで追加された **タグ** (システムタグを含む) がツールヒントに表示されます。

テーブルレイアウトでは、次の操作を実行できます。(リストを展開するには

こちらをクリックしてください)。

テーブル キャプションをクリックする テーブル、そのテーブルに論理的に直接関連付けられているすべてのテーブル、およびそれらのテーブル間の接続を強調表示します。

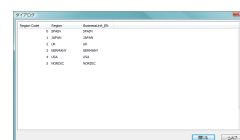
テーブル キャプションをポイントしてドラッグする レイアウト内でテーブルを移動します。

テーブル キャプションにマウスを置く テーブルに関するポップアップ情報を表示します。

テーブル内の項目をクリックする テーブル、項目、その項目を含むすべてのテーブル、およびそれらのテーブル間の接続を強調表示します。

テーブル内の項目にマウスを置く 項目に関するポップアップ情報を表示します。

テーブルを右クリックする **プレビュー** をクリックすると、ロードしたデータのサンプルレコードを表示するダイアログが開きます。



コネクタ ポイントまたはコネクタが折れ曲がる点をポイントしてドラッグする レイアウト内でコネクタ ポイントを移動します。





コネクタ ポイントまたはコネクタが折れ曲がる点を右クリックする コネクタ ポイントを自動配置に戻します。

レイアウトの背景をクリックする テーブル、項目、およびコネクタのすべての強調表示を取り消します。

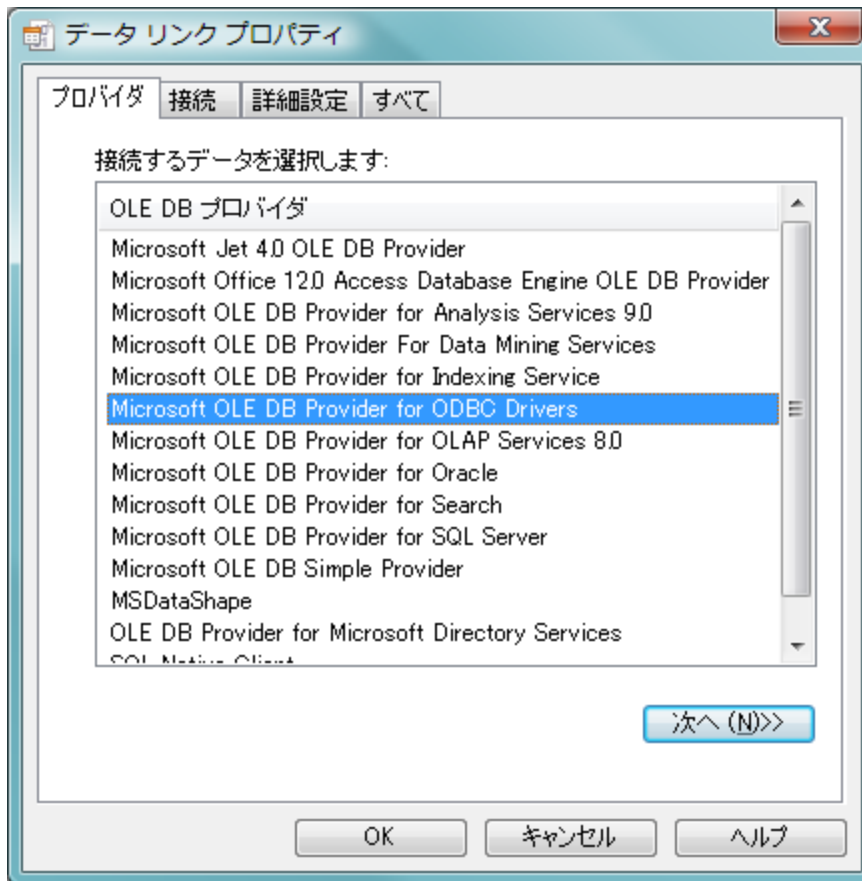
ダイアログのツールバーとボタンでは、次のコマンドを使用できます (リストを展開するにはこちらをクリックしてください)。

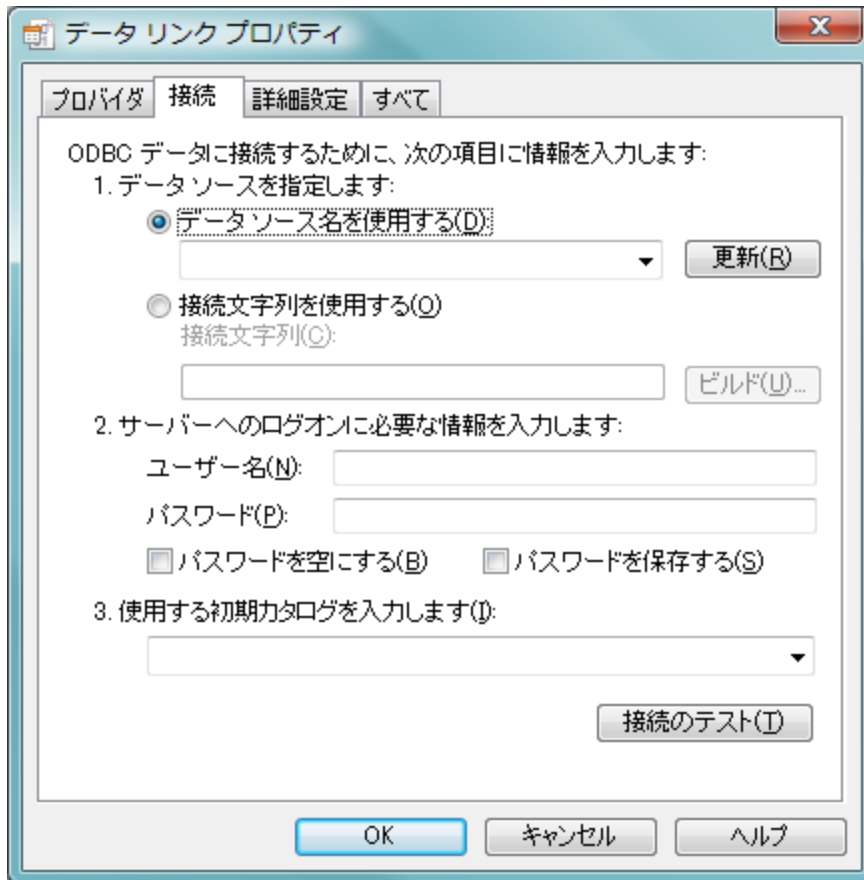
画像のエクスポート ファイルブラウザ ダイアログが開かれ、現在のテーブルビューをビットマップまたは png 画像としてディスク上のファイルに保存できます。



構造のエクスポート	<p>このボタンを押すと、ドキュメントのテーブル構造を一連のテキストファイルにエクスポートできます。</p> <p>これらのテキストファイルはそれぞれ、1つはテーブル用 (<i>filename.Tables.tab</i>)、1つは項目用 (<i>filename.Fields.tab</i>)、1つはマッピング用 (<i>filename.Mappings.tab</i>) に分かれています。QlikView ロジックを活用して詳細な分析を行うために QlikView に簡単に読み取ることができます。エクスポートするターゲットフォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。</p>	
印刷	<p>現在のテーブルビューを印刷できる [印刷] ダイアログを開きます。CTRL+P を押した場合と同じです。</p>	
画像コピー	<p>現在のテーブルビューを画像としてクリップボードにコピーします。CTRL+C を押した場合と同じです。</p>	
自動レイアウト調整	<p>現在のビュー内でテーブルを再配置します。</p>	
ズーム	<p>このドロップダウンボックスで現在のビューのズーム倍率を設定できます。</p>	
ビュー	<p>内部テーブルビュー か ソーステーブルビュー を選択します (上記参照)。</p>	

23.5 データリンクプロパティ





[データリンクプロパティ] ダイアログ

このダイアログは、OLE DB データソースへの接続 (通常は ODBC 経由) の作成に使用します。このダイアログは、**ロードスクリプトの編集** ダイアログの **ツールパネル** の **データ** ページで **接続** ボタンをクリックすると開きます。

最初のページは、OLE DB プロバイダの名前をリストします。ODBC データ接続を作成するには、*OLE DB Provider for ODBC Drivers* を選択し、[次へ>>] をクリックして [接続] ページに移動します。

[接続] ページの [1. データソースを指定します] で、設定済みデータソースの中からデータソースを選択します。問題になる可能性がある ODBC データソースが 2 種類あります。

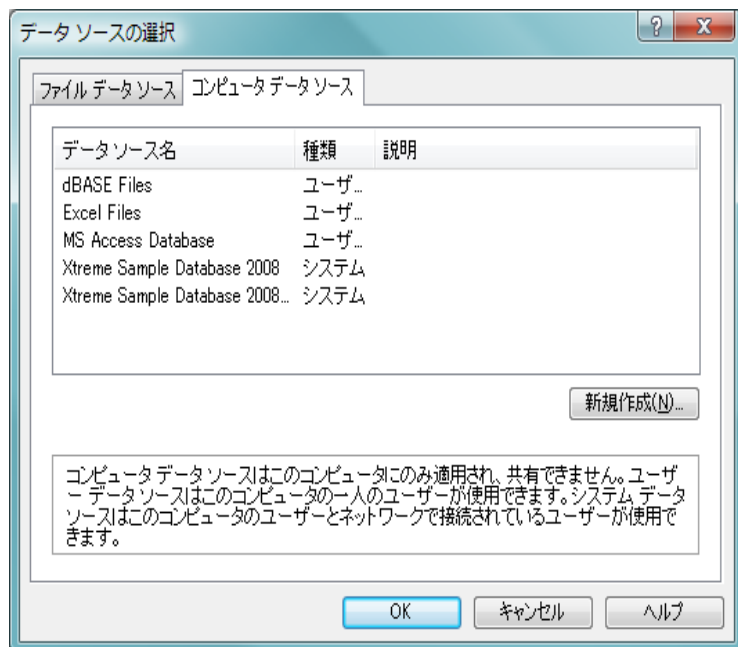
定義済みのデータソース

データソース名を使用する ラジオ ボタンを選択すると、*ODBC データソースの作成 (38 ページ)* で説明されている手順に従って定義済みのデータソースにアクセスできます。ドロップダウン リストには、定義されているすべてのデータソースが含まれます。使用するデータソースを選択します。

必要に応じて、データソースの **ユーザー名** と **パスワード** を指定できます。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。

最後に [OK] ボタンをクリックします。connect ステートメントの準備ができました。

汎用的なデータソース



[データソースの選択] ダイアログ : [コンピュータデータソース] ページ

[データソースの選択] ダイアログの [コンピュータデータソース] ページ

汎用的なデータソースは、データベースファイルなどで使用されます。汎用的なデータソースを使用する場合または新しいソースを作成する場合は、**接続文字列を使用する** ラジオボタンを選択して **ビルド** をクリックします。これにより、**[データソースの選択]** ダイアログが開きます。

データソースは、ファイルデータソースとコンピュータデータソースの2種類を使用できます。コンピュータデータソースは、ローカルマシンおよびユーザー専用で、ファイルデータソースは、ファイル専用です。2つのうちどちらでも使用できます。それぞれが **データソースの選択** ダイアログで個別のページを持ちます。

汎用的なデータソースは、データベースファイルなどで使用されます。汎用的なデータソースを使用する場合または新しいソースを作成する場合は、**[接続文字列を使用する]** ラジオボタンを選択して **[ビルド]** をクリックします。これにより、**[データソースの選択]** ダイアログが開きます。

データソースは、ファイルデータソースとコンピュータデータソースの2種類を使用できます。コンピュータデータソースは、ローカルマシンおよびユーザー専用で、ファイルデータソースは、ファイル専用です。2つのうちのいずれかを使用します。それぞれが **データソースの選択** ダイアログで個別のページを持ちます。

データソースをダブルクリックし、開いたダイアログで適切なデータベースファイルを参照します。

注意!

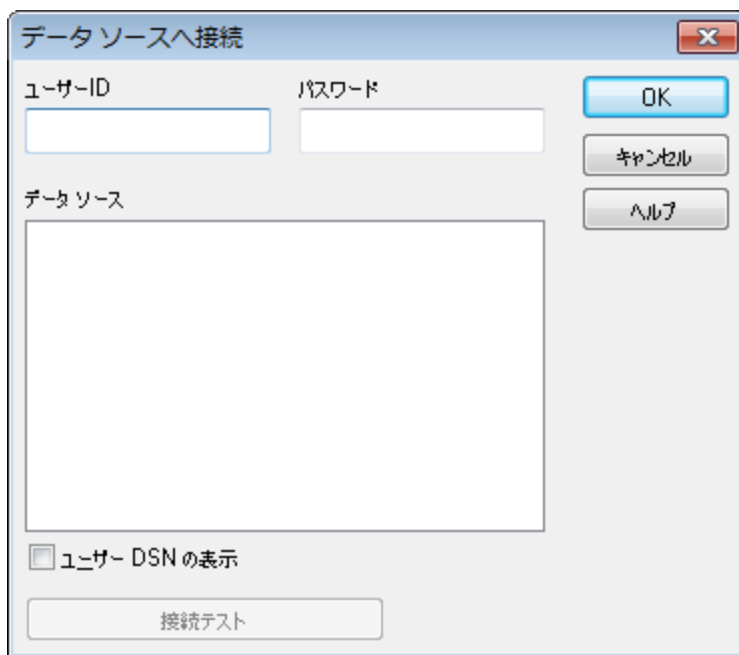
MS Access データソースの場合は、途中で表示されるダイアログで **[データベース]** ボタンをクリックする必要があります。

RETURN キーを押すと、**データリンクプロパティ** ダイアログの2番目のページに戻ります。

必要に応じて、データソースの **ユーザー名** と **パスワード** を指定します。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。

最後に **[OK]** ボタンをクリックします。**connect** ステートメントの準備ができました。

23.6 データソースへの接続

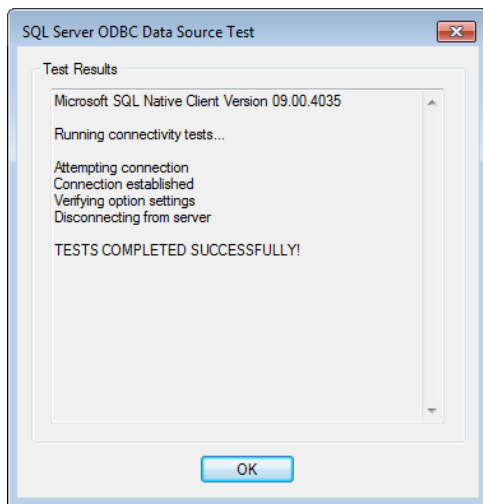


[データソースへ接続] ダイアログ

このダイアログは、ODBC データソースへの接続の作成に使用します。このダイアログは、データベースの ODBC オプションを選択している場合に、[ロードスクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) の **ツール パネル** の **データ** ページで **接続** ボタンをクリックすると開きます。

このページでは、データソースを選択します。初期設定では、システム DSN のみが表示されます。すべての DSN を表示するには、**ユーザー DSN の表示** チェックボックスをオンにします。

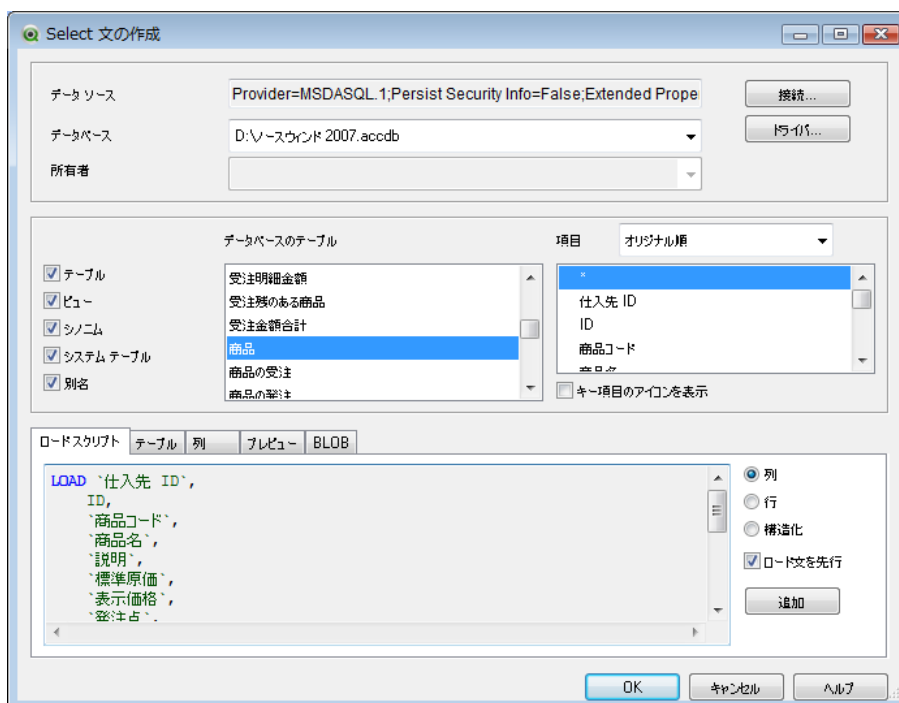
必要に応じて、データソースの **ユーザー名** と **パスワード** を指定できます。**接続のテスト** ボタンを押して、接続をテストすることもできます。



[接続テスト] ダイアログ

最後に [OK] ボタンをクリックします。connect ステートメントの準備ができました。

23.7 Select ステートメントの作成

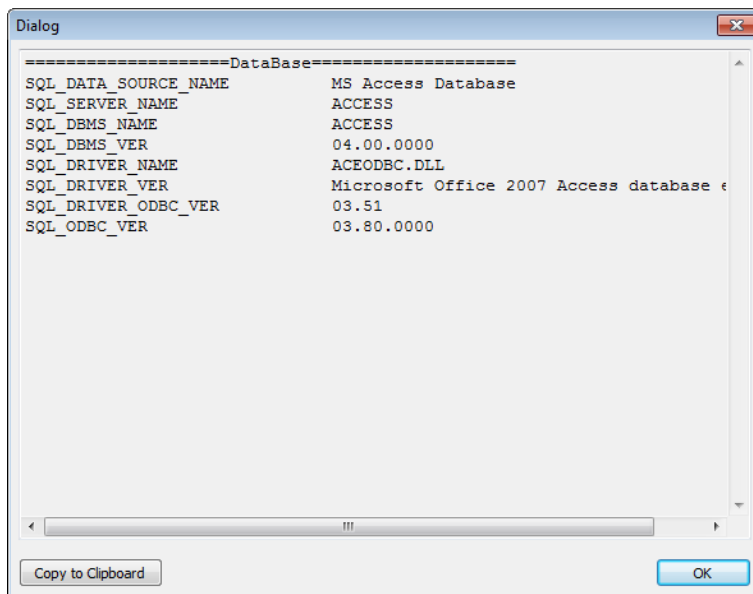


[Select ステートメントの作成] ダイアログ

このダイアログは、[ロードスクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) のツールパネルの **データ** ページで **選択** ボタンをクリックすると開きます。事前を選択したデータソースよりロードするためのテーブルと項目を定義するために使用します。

ダイアログは 3 つのグループで構成されます。ひとつ目のグループには、データソースに関する情報が表示されます。

データソース	現在のODBC/OLE DB データソースの名前です。
データベース	ロップダウン リストの使用できるデータベースから選択できます。
所有者	データベースの所有者の名前がここに表示されます。ドロップダウン リストの使用できる所有者から選択できます。
Connect	このボタンをクリックすると、データソースへの接続 (229 ページ) ダイアログが開きます。
ドライバ	このボタンをクリックすると、 ODBC ドライバ情報 もしくは OLEDB ドライバ情報 ダイアログが開きます。このダイアログでは、現在使用中のドライバのサポート機能に関する情報を確認できます。
サポート	データベースに関するサポート情報を表示するダイアログが開きます。QlikTech サポートに問い合わせを行うときや、QlikView ドキュメントに関する不具合や問題を報告するときは、この情報を使用してください。



[サポート] ダイアログ

2つ目のグループは、テーブルと項目の選択に使用されます。

データベースのテーブル	このリストには、使用できるデータベーステーブルが表示されます。選択するには、テーブル名をクリックします。リストに表示されるテーブルの種類は、右のチェックボックスから制御できます (以下の説明を参照)。
--------------------	--

項目	このリストには、選択したテーブルで使用できるすべての項目が表示されます。 select ステートメントに含める項目をリストから 1 つまたは複数選択します。"*" を使用すると、すべての項目名を一度に選択できます。項目を選択すると、3 つ目のグループの ロードスクリプト ページ (以下の説明を参照) に反映されます。ドロップダウン コントロールで選択すると、データベースの [オリジナル順] またはアルファベットの [テキスト順] で項目をソートできます。
キー項目のアイコンを表示	このチェックボックスをオンにすると、ソースのデータベースでキー項目として定義されている項目は 項目 リストにキー アイコンとともに表示されます。
テーブル	[データベースのテーブル] リストに通常のデータベーステーブルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
ビュー	[データベースのテーブル] リストにデータベースビューを表示する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
シノニム	[データベースのテーブル] リストにデータベーステーブルのシノニムを表示する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
システム テーブル	[データベースのテーブル] リストにデータベースシステム テーブルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
別名	データベースのテーブル リストにデータベースのテーブルの別名を表示する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。

3 つ目のグループには、生成された **select** ステートメントと選択したテーブルと項目に関する情報が表示されます。グループには次のページがあります。

ロードスクリプト



ロードスクリプト ページには、生成される **select** ステートメントのスクリプトの内容が表示されます。

右の 3 つのラジオ ボタンは、スクリプト内の **select** ステートメントの書式設定を制御します。

- 列** スクリプト内の 1 行に 1 項目名を表示する **select** ステートメントを生成するには、このオプションを選択します。
- 行** スクリプト内に全体が 1 行に表示される **select** ステートメントを生成するには、このオプションを生成します。
- 構造化** スクリプト内に構造的な **select** ステートメントを生成するには、このオプションを生成します。
- ロード文を先行** このオプションを選択すると、**select** ステートメントを入力として使用し、**load** ステートメントが先行する **select** ステートメントが生成されます。**select** ステートメント内で * が使用されている場合でも、すべての項目が **load** ステートメントにリストされます。
- 追加** 生成した **select** ステートメントを保存するにはこのボタンをクリックします。ダイアログを閉じることなく **select** ステートメントが生成されます。古いステートメントは、仕切りを隔てた上のプレビュー パネルに表示されます。この手順は、何度も繰り返せます。

テーブル



テーブル ページには、選択したデータベース テーブルに関する詳細な情報が表示されます。

詳細 - テーブル、列 および **プレビュー** ページを拡大ビューにサイズ変更できるダイアログで開きます。

列

列 ページには、現在のテーブルの選択された列 (項目) に関する詳細情報を表示します。

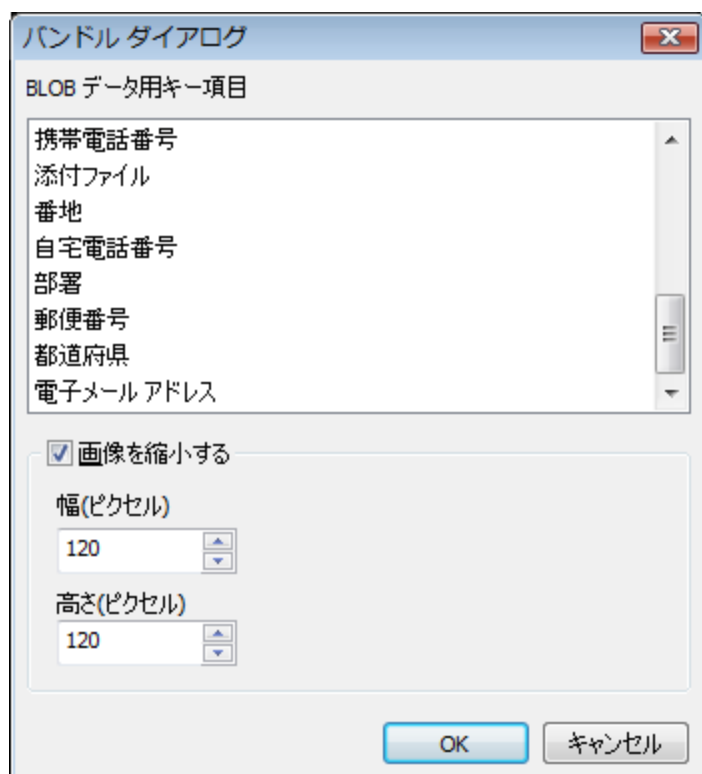
プレビュー

プレビュー ページには、現在の **select** ステートメントで生成される先頭の数行のプレビューが表示されます。

BLOB

BLOB ページでは、BLOB と呼ばれる大きなバイナリー オブジェクトを QlikView ドキュメントにバンドルできます。通常、データベース管理システムでひとつのエントリティとして持つ画像やテキストファイルといったものです。i アイコンが BLOB を含む項目に表示されます。データベースの BLOB は、サイズ (KB) と種類といった情報と共に **BLOB ビューアー** にリストされます。BLOB が画像の場合、リストの横にプレビュー表示されます。QlikView では jpg、png、bmp、pdf、rtf の BLOB をサポートします。

バンドル ボタンで、**バンドル** ダイアログを開きます。



BLOB データ用キー項目 リストでサイズ変更する BLOB を選択します。

画像を縮小する BLOB のサイズ変更を行うためのオプションを有効にします。画像のピクセルサイズ変更用の **幅** と **高さ** を適用します。

縦横比の設定はありません。

注意！

ODBC を使用しているときのみ BLOB をバンドルできます。

テーブルと項目を選択して、**OK** ボタンをクリックすると、生成された **select** ステートメントが QlikView のカーソル位置に挿入されます。**[キャンセル]** ボタンをクリックすると、変更内容は取り消されます。

通常、ODBC ドライバは、このダイアログで生成されるよりも複雑な **select** ステートメントを解釈できます。より複雑な **select** ステートメントを生成する方法には、Microsoft Query などのクエリ ツー

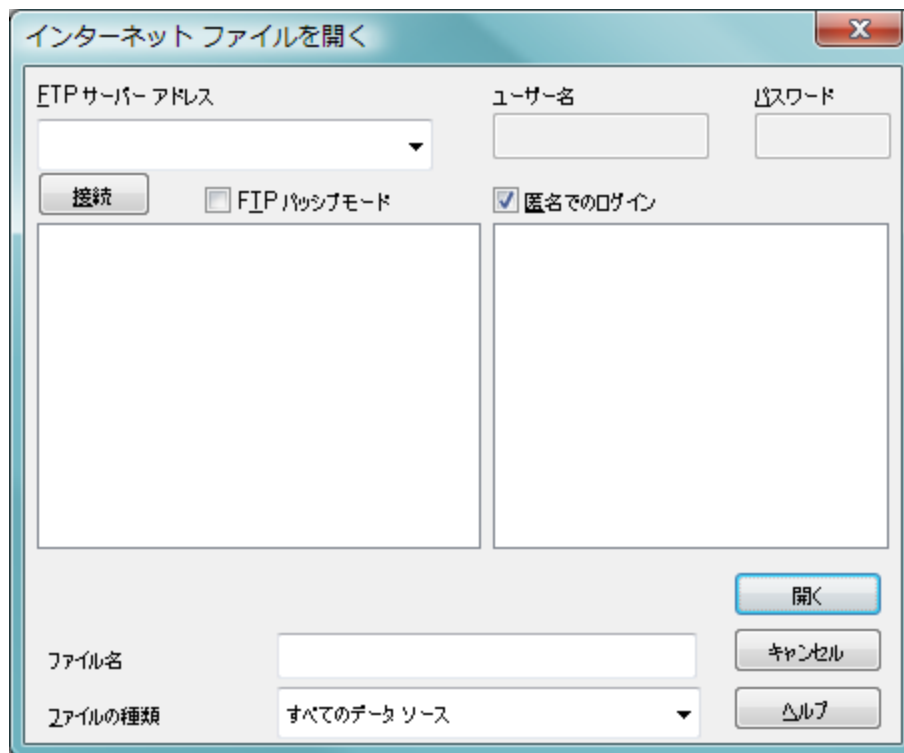
ルがあります。これは、**select** ステートメントをグラフィカルに作成します。他の方法でより複雑なクエリを作成した場合、**select** ステートメントをコピー (CTRL+C) して QlikView ロードスクリプトに貼り付け (CTRL+V) ます。(MS Query では、**SQL** ボタンをクリックします。)

23.8 ファイルを開く

このダイアログは、[ロードスクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) の **テーブル ファイル** ボタンで開きます。

ファイルを開く ダイアログで、ロードする *table files* を指定します。複数のファイルを選択する場合は、Ctrl または Shift キーを押しながらファイルをクリックしてください。**開く** ボタンをクリックすると、選択したファイルが **ファイルウィザード** で読み取られます。

23.9 インターネット ファイル/QlikView ドキュメントを開く



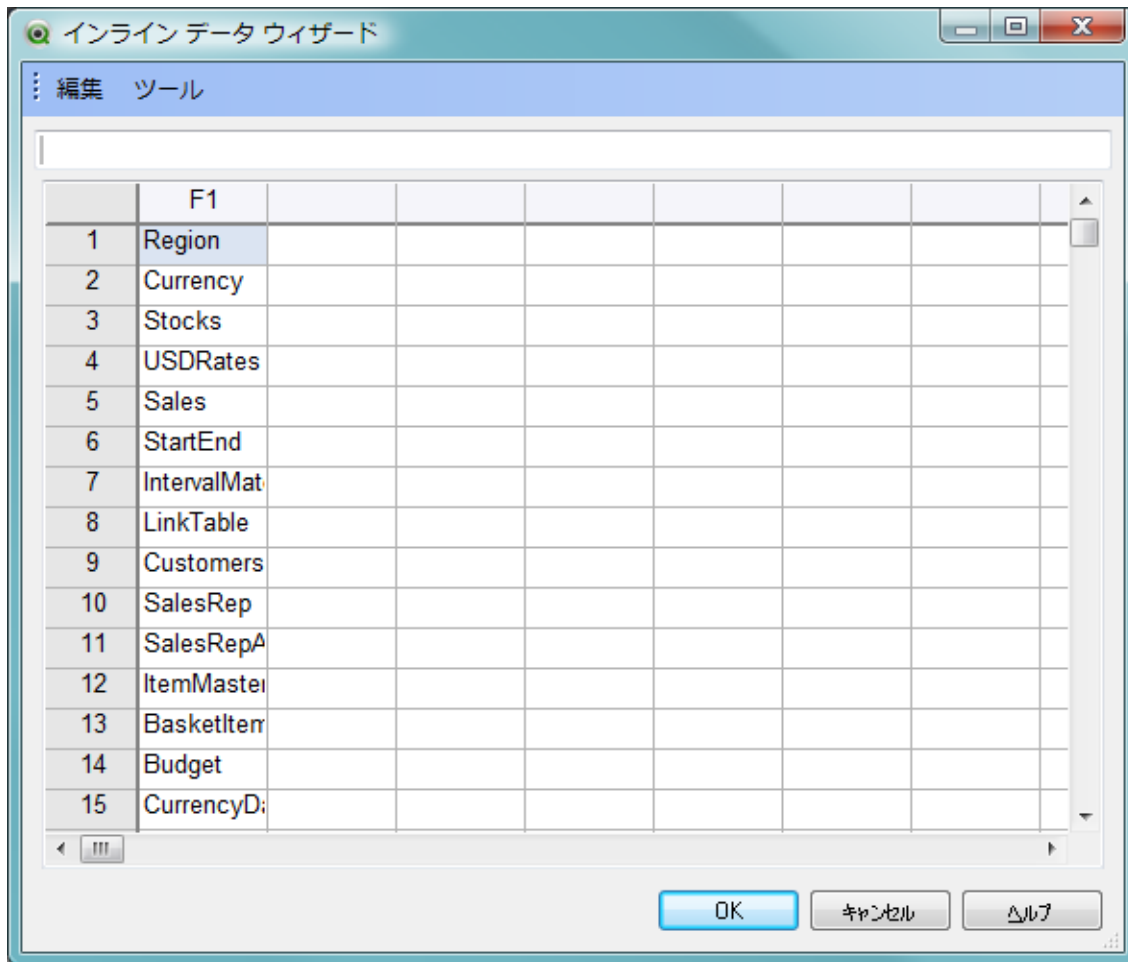
[インターネット ファイルを開く] ダイアログ

このダイアログは、**QlikView ドキュメント** または **テーブル ファイル** ボタンのいずれかを **ロードスクリプトの編集** ダイアログのツールパネルにある **データ** ページで **FTP の使用** チェックボックスがオンの時にクリックすると表示されます。いずれのボタンを押したかによって、**QlikView ドキュメントを開く** または **インターネット ファイルを開く** ダイアログが開かれますが、機能は同じです。このダイアログを使用して QlikView ドキュメントを開くこともできます。これは、[**ファイル**] メニューから [**FTP から開く**] を選択して行います。

ドロップダウン リストボックスから、開くファイルが含まれたサーバーを選択します。サーバーがリストにない場合 (またはリストがない場合) は、サーバー名を入力し、**接続** をクリックします。

FTP サーバー アドレス	FTP サーバーに初めて接続するとき、ここにアドレスを入力する必要があります。
ユーザー名	匿名でのログイン チェックボックスがオフの場合は、ここにユーザー名を入力します。
パスワード	匿名でのログイン チェックボックスがオフの場合は、ここにパスワードを入力します。
Connect	このボタンをクリックして選択したサーバーに接続します。この手順を回避するには、リストから直接サーバーを選択します。
FTP パッシブモード	ファイアウォールを通して接続するには、FTP パッシブ モードを使用する必要の可能性があります。
匿名でのログイン	ユーザー名とパスワードを指定せずにログインできます。
ファイル名	サーバー接続時に、選択したファイルの名前がここに表示されます。
ファイルの種類	表示したいファイルの種類をここに指定します。
開く	このボタンをクリックすると、[ロードスクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) のロード スクリプトに load ステートメントが生成されます。

23.10 インライン データ ウィザード



インライン データ ウィザード

インライン データ ウィザード ダイアログは、挿入 メニューの **Load ステートメント > インラインロード** から開きます。これを使用して、スクリプトに **load inline** ステートメントを作成します。

ダイアログにはスプレッドシートに似たものが含まれており、多くの点でスプレッドシートと同じように機能します。ただし、このスプレッドシートでの計算式は、Microsoft Excel などでの計算式のように評価されないため注意してください。

インライン テーブルで、各列は QlikView にロードされる項目を表します。各行はテーブルのレコードです。データセルを選択するには、それをクリックします。値を入力、もしくはクリップボードからコピーします。Enter キーまたは矢印キーを押すと値が確定し、別のセルに移動します。

最上行 (ラベル) は、項目ラベル用です。ラベル用のセルをダブルクリックし、編集します。ラベル行に値を入力しない場合、項目名は F1、F2 などが使用されます。

[編集] メニュー

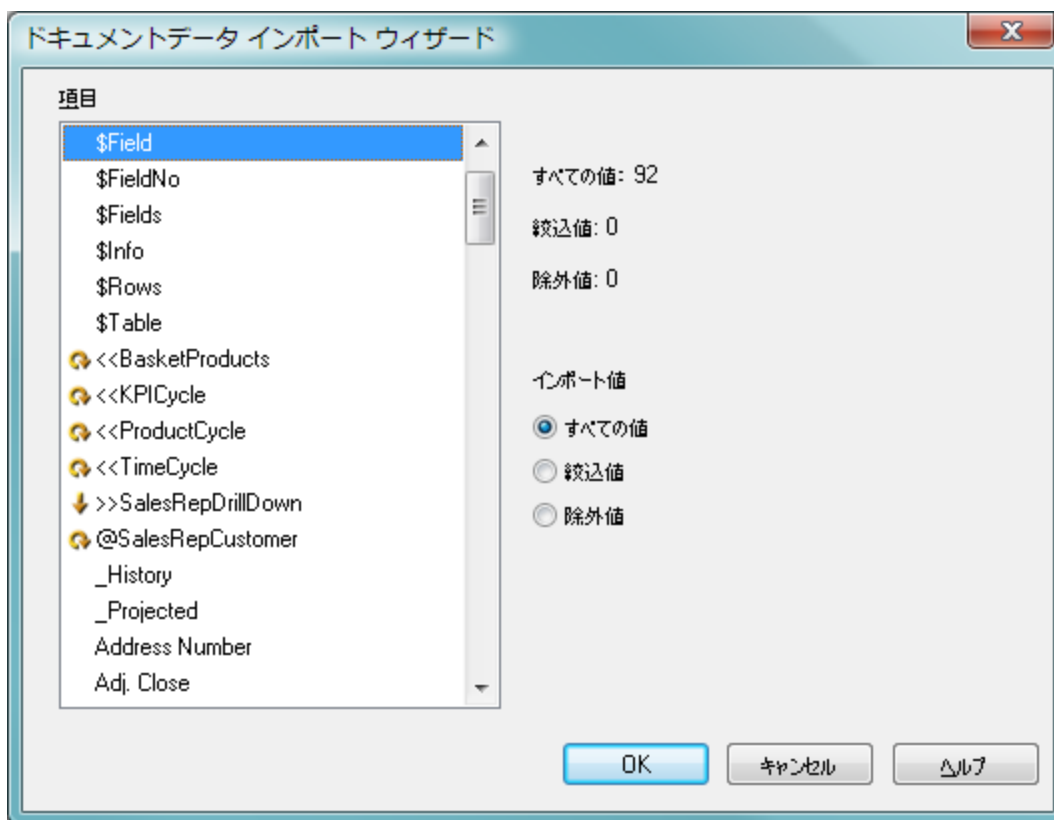
編集 メニューには基本の編集コマンドがあります。

列の挿入	1 つまたは複数の列が選択されている場合、新しい空白の列を挿入します。
列の削除	選択されている列を削除します。
行の挿入	1 つまたは複数の行が選択されている場合、新しい空白の行を挿入します。
行の削除	選択されている行を削除します。

[ツール] メニュー

ツールメニューには、**ドキュメントのデータ**が含まれます。ここから**ドキュメントデータインポートウィザード**を開き、ドキュメントに存在項目から項目値を貼り付けることができます。ダイアログでは、選択した項目に項目値がいくつ存在するかを確認できます。また、すべての値、選択値、または除外値をインラインウィザードに挿入するように選択することもできます。

OK ボタンをクリックするとダイアログが閉じ、ダイアログのテーブルグリッドの内容を反映した **Load inline** ステートメントが生成されます。



ドキュメントデータインポートウィザード

23.11 アクセス制限テーブル ウィザード



アクセス制限テーブルウィザード

アクセス制限テーブル ウィザード ダイアログは、**挿入** メニューの **セクション アクセス > インラインロード** から開きます。これを使用して、QlikView ドキュメントのアクセス制御用 **Load Inline** ステートメントを作成します。セキュリティ (501 ページ) を参照してください。

ダイアログには、次のコマンドが含まれます。

使用項目	リストには QlikView の セクション アクセス 内のすべてのセキュリティ項目が含まれます。含める項目のチェックボックスをオンにします。
基本ユーザーアクセス テーブル	このボタンを押すと、[ACCESS]、[USERID]、および [PASSWORD] がオンになり、その他の項目はオフになります。
Basic NT Security	このボタンを押すと、[ACCESS]、[PASSWORD]、[NTNAME]、および [NTDOMAINSID] がオンになり、その他の項目はオフになります。

OK ボタンでダイアログを閉じると、**インラインデータウィザード** (237 ページ) ダイアログが表示され、選択した項目が列のラベルになっています。このダイアログで **OK** ボタンをクリックすると、**Load Inline** ステートメントが **Section** (332 ページ) ステートメントに続いて作成され、次に **Section Application** ステートメントが作成されます。

23.12 ファイル ウィザード

ファイル ウィザード は、**[ロードスクリプトの編集] ダイアログ** (211 ページ) の **ツール パネル** の **データ** ページで **テーブル ファイル** ボタンを使用してファイルまたは HTML テーブルを開くと自動的に

表示されます。このウィザードは [ファイル] メニューから qvw 以外のファイルを開いたときにも表示されます。

QlikView が認識できるファイルの種類は、区切り記号付きテキストファイル (csv ファイルなど)、固定レコード長のファイル、差分ファイル、Excel ファイル、HTML ファイル、および XML ファイルです。このマニュアルでは、これらの種類のファイルを **テーブル ファイル** と呼びます。

ファイルは、ローカルネットワークまたはインターネットから直接ダウンロードできます。

ローカルネットワークに格納されているファイルをロードするには、**[ロードスクリプトの編集]** ダイアログの **[テーブル ファイル]** ボタンを使用します。ファイル

に、.csv、.txt、.tab、.skv、.fix、.dif、.htm、.html、.shtml、.xhtml、.php、または .asp などのテーブル ファイル拡張子が付いていれば、そのファイルは **[ファイルを開く]** ダイアログに表示されます。別の拡張子が付いている場合でもファイルを開くことは可能です。その場合は、**[ファイルを開く]** で **[ファイルの種類]** を **[すべてのファイル (*.*)]** に設定します。ただし、内容は QlikView で解釈できる必要があります。QlikView が内容を解釈できるかどうかは、ファイルにどの拡張子が付いているかとは別の問題です。

ファイルを直接インターネットからロードするには、FTP 参照ダイアログの **ファイル名** テキストボックスに URL (Web ブラウザからコピーしたもの) を貼り付けて、**開く** をクリックします。

ファイルを既に選択していると、ファイルウィザードが開きます。ウィザードは、**ソース**、**種類**、**変換**、**オプション** そして **スクリプト** の 5 ページから構成されます。**[ソース]** ページでは変更はめったに必要ないため、ウィザードは **[種類]** ページから始まります。**<<前に戻る および 次へ>>** ボタンにより、ページを移動します。

種類 および **オプション** ページには、ファイルのプレビューがあり、QlikView がファイルをどのように解釈しているかを確認できます。**ロードスクリプト** ページでは、**[ロードスクリプトの編集]** ダイアログでのロードスクリプトの表示方法を設定します。

終了 ボタンによりウィザードが閉じ、ロードスクリプトに load ステートメントが生成されます。

ローカルネットワークに格納されているファイルをロードするには、**[ロードスクリプトの編集]** ダイアログの **[テーブル ファイル]** ボタンを使用します。ファイル

に、.csv、.txt、.tab、.skv、.fix、.dif、.htm、.html、.shtml、.xhtml、.php、または .asp などのテーブル ファイル拡張子が付いていれば、そのファイルは **ファイルを開く** ダイアログに表示されます。別の拡張子が付いている場合でもファイルを開くことは可能です。その場合は、**ファイルを開く** で **ファイルの種類** を **すべてのファイル (*.*)** に設定します。ただし、内容は QlikView で解釈できる必要があります。QlikView が内容を解釈できるかどうかは、ファイルにどの拡張子が付いているかとは別の問題です。

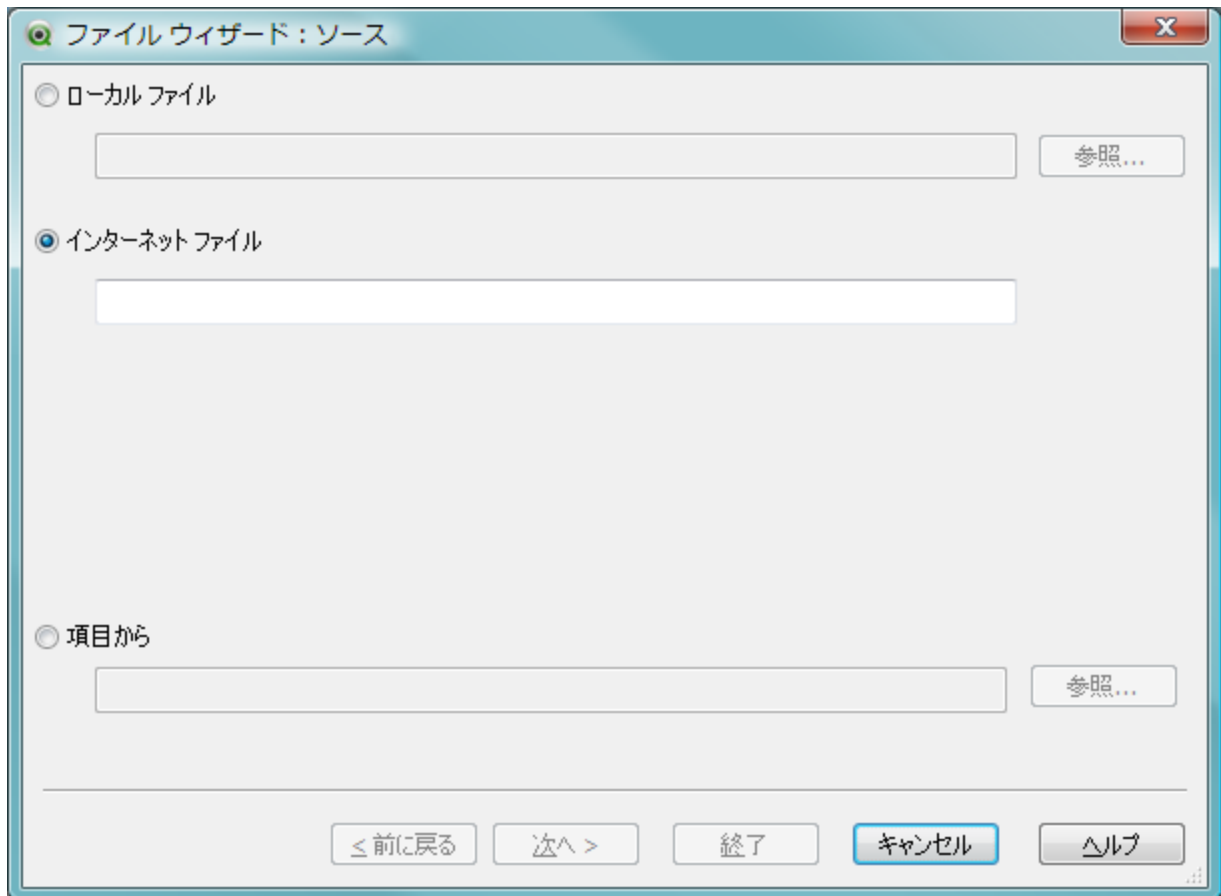
ファイルを直接インターネットからロードするには、FTP 参照ダイアログの **[ファイル名]** テキストボックスに URL (Web ブラウザからコピーしたもの) を貼り付けて、**[開く]** をクリックします。

ファイルを既に選択していると、ファイルウィザードが開きます。ウィザードは、**ソース**、**種類**、**変換**、**オプション** そして **スクリプト** の 5 ページから構成されます。**[ソース]** ページでは変更はめったに必要ないため、ウィザードは **[種類]** ページから始まります。**<<前に戻る および 次へ>>** ボタンにより、ページを移動します。

[種類] および [オプション] ページには、ファイルのプレビューがあり、QlikView がファイルをどのように解釈しているかを確認できます。ロードスクリプト ページでは、ロードスクリプトの編集ダイアログでのロードスクリプトの表示方法を設定します。

終了 ボタンによりウィザードが閉じ、ロードスクリプトに **load** ステートメントが生成されます。

ファイル ウィザード: ソース

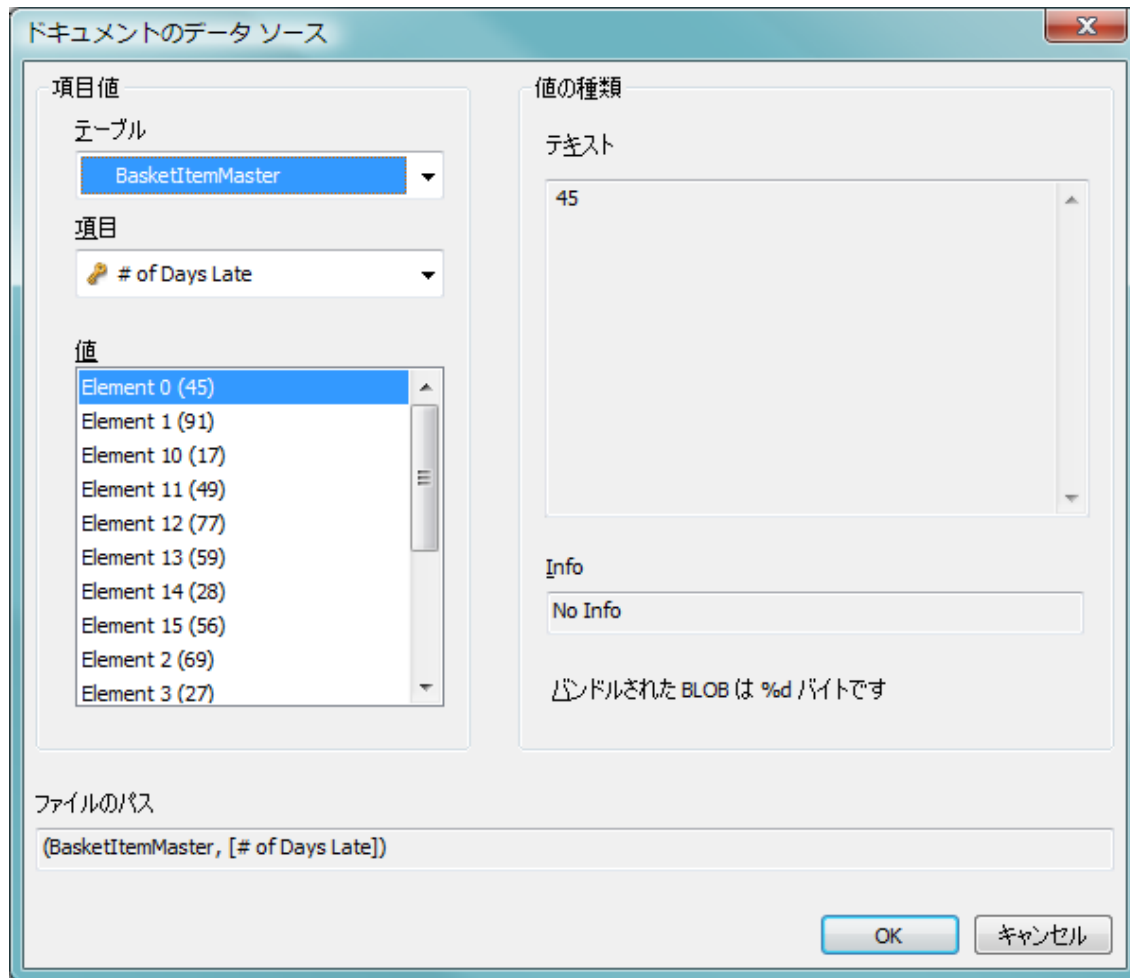


ファイル ウィザード: ソース

このページには、テーブルのソースに関するすべての設定が含まれています。ソースは通常、[ファイルを開く] ダイアログからファイルが選択されると直ちに定義されます。ただし、インターネットのページからテーブルを直接取得した場合など、ソース定義に変更が必要な場合は、ここでそれを行います。種類 ページで < 前に戻る ボタンを押すと、ソース ページが表示されます。

- | | |
|---------------------|--|
| ローカル ファイル | ローカル ファイルへのパスを入力する、もしくは 参照 ボタンをクリックしてエクスプローラで検索します。 |
| インターネット ファイル | インターネット ファイルへのパスを入力します。 |
| 項目から | テーブルと項目を選択するための ドキュメントのデータソース (242 ページ) ダイアログを開きます。 |

ドキュメントのデータソース



[ドキュメントデータソース]ダイアログ

このダイアログは、アクティブなドキュメントのテーブルデータをリスト表示します。データソースとしてロードされている項目の使用を可能にします。

項目値**テーブル**

ドロップダウンメニューでアクティブなドキュメントにロードされたテーブルを表示します。

項目

選択テーブルの項目。

値

選択項目の値。

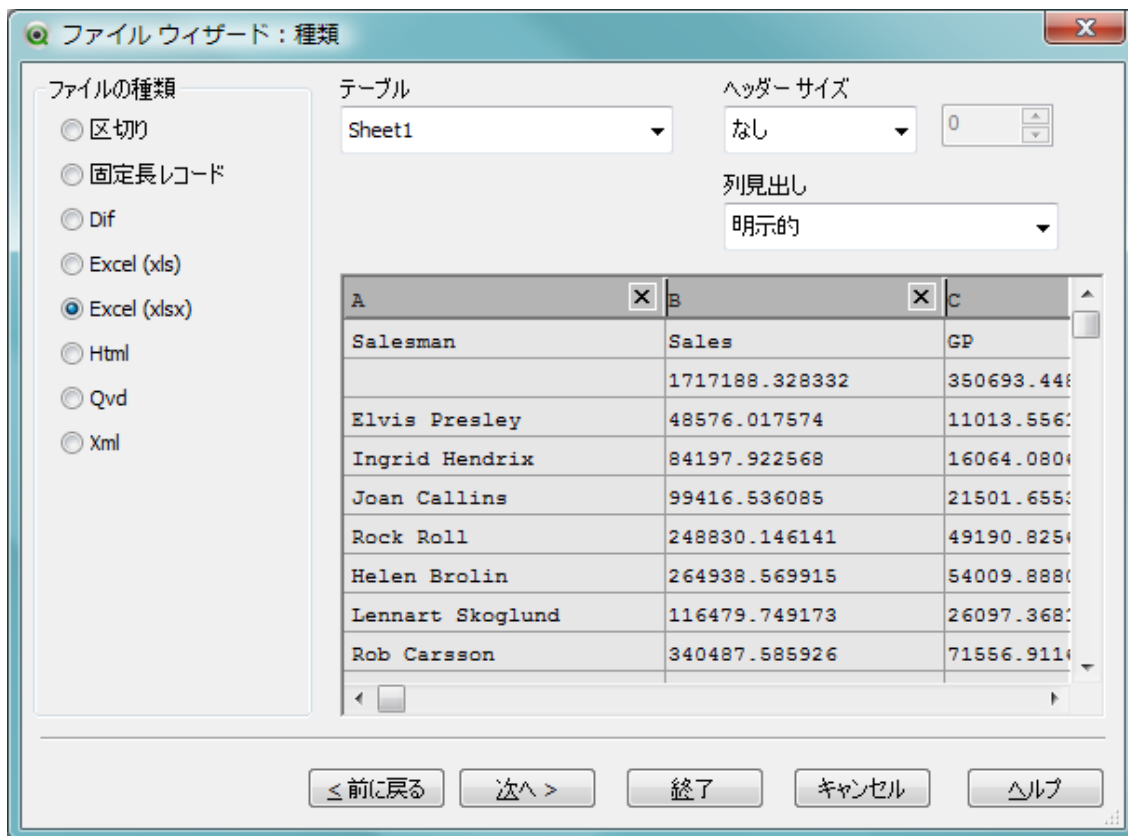
ファイルのパス

選択したテーブルと項目の名前。

- 値の種類** 選択した項目の種類。
- テキスト**
値がテキストの場合、ここに表示されます。
- Info**
項目値に連結された情報がある場合、ここに表示されます。
- Blob**
項目値に連結された BLOB がある場合、ここに表示されます。

ファイルウィザード:種類

このページには、ファイルの種類とテーブルの種類に関する設定が含まれます。設定はファイルの種類によって異なります。



ファイルウィザード:種類

このページには、ファイルの種類とテーブルの種類に関する設定が含まれます。設定はファイルの種類によって異なります。

テーブルファイルを開く際に、プログラムはファイルの内容を解釈しようとします。パラメータの初期値はここで設定されますが、ユーザーは手動で変更することもできます。

- ファイルの種類** 区切り、固定長レコード、DIF、Excel (xls)、Excel (xlsx)、HTML、QVD、XML、QVX といったファイルの種類をここで設定できます。

プレビュー パネル 選択した設定の結果がプレビュー パネル (ダイアログのページの下部) に表示されます。設定を変更すると、プレビュー パネルの内容もそれに応じて変更されます。プレビュー パネルで直接変更することもできます。まず、項目名の右にある [×] ボタンをクリックして項目を省略できます。クロス記号「×」が感嘆符「!」に変わると、その項目は **load** ステートメントに含まれなくなります。この変更を取り消すには、もう一度感嘆符をクリックします。項目の名前を変更する場合は、項目名をクリックして、そのボックスに新しい名前を入力し、Enter キーを押して承認します。as 句が **load** ステートメントに自動的に作成されます。最後に、固定長レコード ファイル (および一部の HTML テーブル) では、プレビュー パネルで直接クリックして、列幅を設定できます。

ファイル ウィザード:種類 - 区切り

区切り記号	引用符
タブ	MSQ
ヘッダー サイズ	コメント
なし	
文字セット	列見出し
Unicode (UTF-8)	先頭行
	<input type="checkbox"/> EOF を無視する

ファイル ウィザード : 種類 - [区切り]

- 区切り記号** 使用する区切り記号の種類を指定します。事前に定義されたもの以外の区切り文字を使用するには、**カスタム**を選択して目的の区切り文字を検索します。**カスタム**を選択すると *Delimiter Selector* ダイアログが開き、コンピュータで利用可能な区切り文字から選択することが可能です。
- ヘッダー サイズ** ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。ヘッダーは省略される場合があります。
- 文字セット** テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウンメニューにない場合、**カスタム**を選択できます。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。
- 引用符** 使用されている クォート (321 ページ) を設定します。**標準**、**なし**、または **MSQ** から選択します。
- コメント** ファイルによっては、レコードの間にコメントを使用しているものがあります。多くの場合、コメント行は、特殊文字や、// などの文字で始まります。ここでは、QlikView がコメントであることを認識するためのコメントの開始を示す文字を指定できます。

- ラベル** テーブルの1行目に項目名(列ヘッダー)が格納されている場合、このコントロールを**先頭行**に設定する必要があります。ここでは、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを**明示的**に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし**を使用する必要があります。
- EOFを無視する** 場合によっては、ファイルの終わりをマークするのに特殊文字が使用されることもあります。この文字がテキストファイルの途中で見られた場合(例: 引用符で囲まれているなど)は、このオプションを有効にして無視することができます。

ファイルウィザード:種類 - 固定長レコード

ファイルウィザード:種類 - [固定長レコード]

- ヘッダー サイズ** ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます(区切りファイル、固定長レコードファイル、および Excel ファイルのみ)。
- レコード サイズ** レコードのサイズに、特定の行数またはバイト数を指定します(固定長レコードファイルのみ)。
- 文字セット** テーブルファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウンメニューに無い場合、**カスタム**を選択します。これによって**コードページの選択**ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。
- EOFを無視する** 場合によっては、ファイルの終わりをマークするのに特殊文字が使用されることもあります。この文字がテキストファイルの途中で見られた場合(例: 引用符で囲まれているなど)は、このオプションを有効にして無視することができます。
- タブ サイズ** タブの長さにスペースを組込みます。
- 先頭行** ラベルを組み込みます。テーブルの1行目に項目名が保存されている場合に使用します。

固定位置を解析 固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブルの列幅を解析して設定します。解析後、プレビュー パネルで列区切り位置の追加や削除を行うことができます。

固定位置を解除 すべての列区切り位置をクリアします (固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブル)。

ファイル ウィザード:種類 - DIF



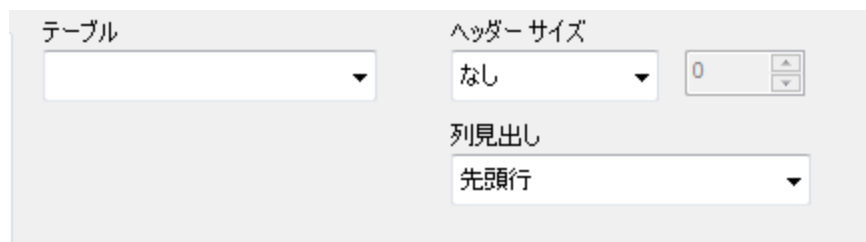
The screenshot shows two dropdown menus. The first is labeled '列見出し' (Column Headers) and has '先頭行' (First Row) selected. The second is labeled '文字セット' (Character Set) and has 'Unicode (UTF-8)' selected.

ファイル ウィザード : 種類 - [Dif]

ラベル テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

文字セット
(492 ページ) テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウン メニューに無い場合、**カスタム** を選択します。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。

ファイル ウィザード:種類 - Excel (XLS)



The screenshot shows three controls. The first is a dropdown menu labeled 'テーブル' (Table) which is empty. The second is a dropdown menu labeled 'ヘッダー サイズ' (Header Size) with 'なし' (None) selected and a numeric input field showing '0'. The third is a dropdown menu labeled '列見出し' (Column Headers) with '先頭行' (First Row) selected.

ファイル ウィザード : 種類 - [Excel (XLS)]

- テーブル** **テーブル**グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。Excel シート名には、&、>、または < を使用できない点に留意してください。シート上の名前付き領域を定義する場合、選択した **[範囲]** は **[ワークブック]** でなくてはならず、**[参照先]** 項目は元の値 (デフォルトで割り当てられた値) を維持する必要があります。これに従わなければ、名前付き領域がテーブルとして表示されない可能性があります。
- ヘッダー サイズ** ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。
- ラベル** テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

ファイル ウィザード: 種類 - Excel (XLSX)

The screenshot shows a dialog box with the following controls:

- テーブル**: A dropdown menu with a downward arrow.
- ヘッダー サイズ**: A dropdown menu set to "なし" (None), followed by a numeric input field containing "0" and up/down arrow buttons.
- 列見出し**: A dropdown menu set to "明示的" (Explicit).

ファイル ウィザード: 種類 - [Excel (XLSX)]

- テーブル** **テーブル**グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。Excel シート名には、&、>、または < を使用できない点に留意してください。シート上の名前付き領域を定義する場合、選択した **[範囲]** は **[ワークブック]** でなくてはならず、**[参照先]** 項目は元の値 (デフォルトで割り当てられた値) を維持する必要があります。これに従わなければ、名前付き領域がテーブルとして表示されない可能性があります。
- ヘッダー サイズ** ここでは、ファイルのヘッダー部分、つまり指定した行数または一定のバイト数を省略するかどうかを選択できます (区切りファイル、固定長レコード ファイル、および Excel ファイルのみ)。

ラベル テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

ファイル ウィザード:種類 - HTML

ファイルウィザード:種類 - [Html]

テーブル **テーブル**グループでは、HTML ファイルや Excel ファイルなど、複数のテーブルが含まれているファイルから読み取る際に特定のテーブルを選択できます。Excel では、ブックのすべてのシートとワークシートのすべての名前付き領域 (名前が付いた複数のセルなど) が、テーブル候補として識別されます。

ラベル テーブルの 1 行目に項目名 (列ヘッダー) が格納されている場合、このコントロールを **先頭行** に設定する必要があります。[DIF] 形式では、項目名を明示的にも指定できます。その場合、このコントロールを **明示的** に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし** を使用する必要があります。

文字セット テーブル ファイルの文字セットはここで設定します。設定したい文字セットがドロップダウンメニューに無い場合、**カスタム** を選択します。これによって **コードページの選択** ダイアログが開き、コンピュータにインストールされた文字セットから選択することが可能です。

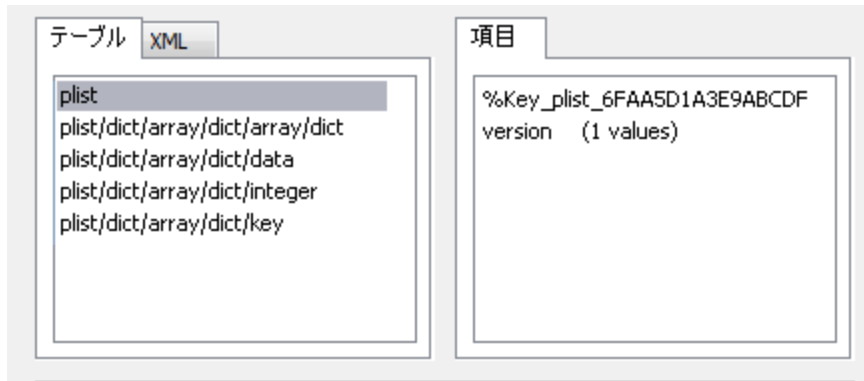
固定位置を解析 固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブルの列幅を解析して設定します。解析後、プレビュー パネルで列区切り位置の追加や削除を行うことができます。

固定位置を解除 すべての列区切り位置をクリアします (固定長レコード ファイルと一部の HTML テーブル)。

ファイルウィザード:種類 - QVD

このファイルの種類に変更できる設定はありません。

ファイルウィザード:種類 - XML



ファイルウィザード:種類 - [Xml]

テーブル 見つかったテーブルがこのリストに表示されます。各テーブルは、XML 構造のどこにあるかを示すパスとして表示されます。テーブルを選択すると、その項目が右側の **[項目]** パネルに表示されます。**終了** ボタンをクリックすると、チェックしたテーブルそれぞれに対して **Load** ステートメントが生成されます。

XML このシートには、解釈された XML 構造が表示されます。

項目 このシートには、選択したテーブルの項目と生成されたキーが表示されます。

ファイルウィザード:種類 - QVX

QVX 形式のファイルには、データテーブルや実際のデータに関する情報がメタデータとして含まれます。QlikView 独自のフォーマットで QlikView 内部での変換の必要性がほとんど無いように最適化された QVD 形式と比べると、QVX 形式は公開用で、従来のデータベースフォーマットからデータを出力する場合にはある程度変換が必要となります。QVX ファイルは、**load** ステートメントを使用してロードスクリプトで読み込みます。

このファイルの種類に変更できる設定はありません。

ファイルウィザード:変換

ファイルウィザード:変換 ダイアログでは、テーブルに対してフィルターしたり、詳細な変換を行うことができます。HTML には一般的に使用される標準的なデータの格納方法がないため、これは HTML ファイルで特に重要になります。そのため、比較的構造化された他のデータ形式と同じように簡単に QlikView に HTML テーブルを読み取らせることは不可能です。

ファイルウィザード：変換 ダイアログを開くには、**変換オプションを有効にする** ボタンをクリックして変換手順を有効にする必要があります。メモリを節約するため、初期設定では手順を無効にしています。



ファイルウィザード、変換オプションを有効にする

ファイルウィザード：変換 ダイアログは、テーブルを QlikView に適したものに変換するための多様なフィルターを提供します。ダイアログには、以下に記載する 6 ページがあります。**ファイルウィザード：変換** ダイアログの左下にあるボタンはすべてのページで使用されます。

- | | |
|-------------|--------------------|
| 元に戻す | 最後に追加した変更を元に戻します。 |
| やり直し | 最後に行った元に戻すをやり直します。 |
| リセット | テーブルを元の状態にリセットします。 |

不要なデータ



ファイルウィザード：変換：不要なデータ

このページでは、不要なデータが含まれた行や列をテーブルから削除できます。HTML ファイルでは、単に読みやすくするためという理由で余分な行や列があることが珍しくありません。これらは、QlikView にデータをロードする前に削除する必要があります。

列や行は両方とも明示的に削除でき、その場合インデックスがスクリプトに格納されます。また、行は条件付き基準を使用して削除できます。

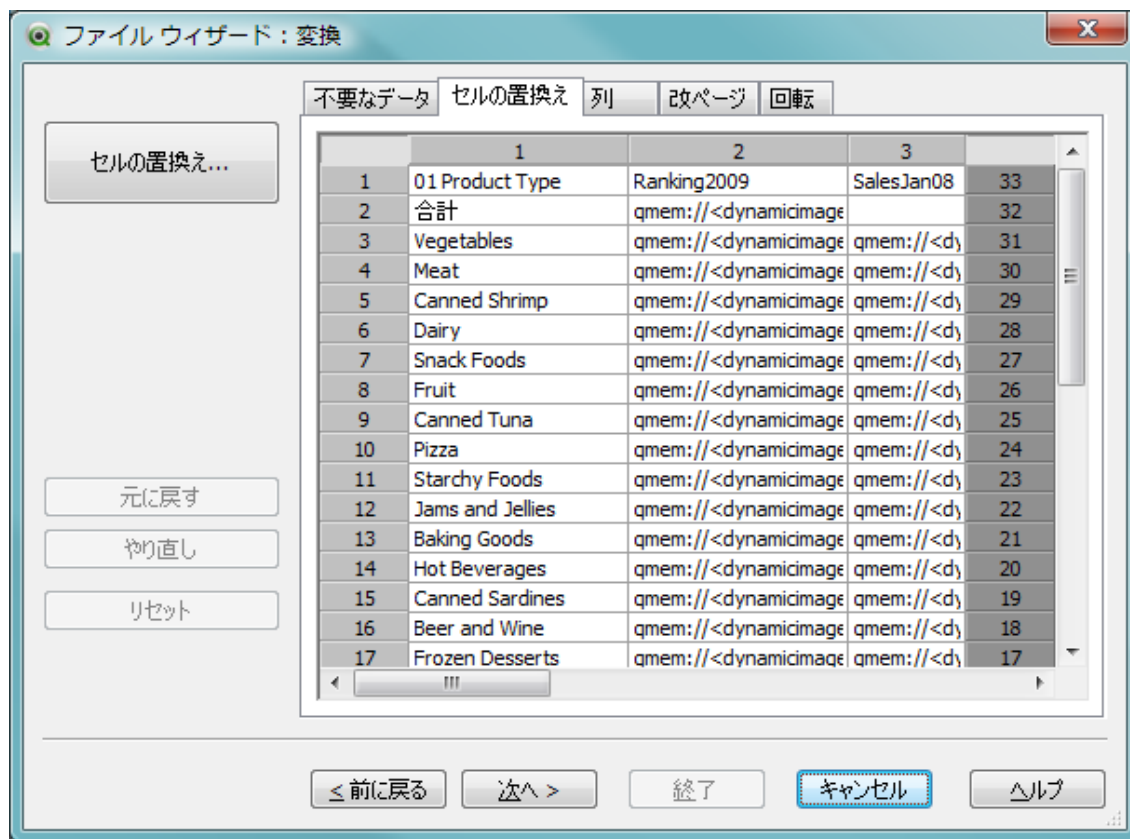
選択分を削除

強調表示された行や列を削除します。

条件付き削除

行の選択条件の指定 (258 ページ) ダイアログが開かれ、行の削除に関する条件付き基準を設定できます。

塗りつぶし



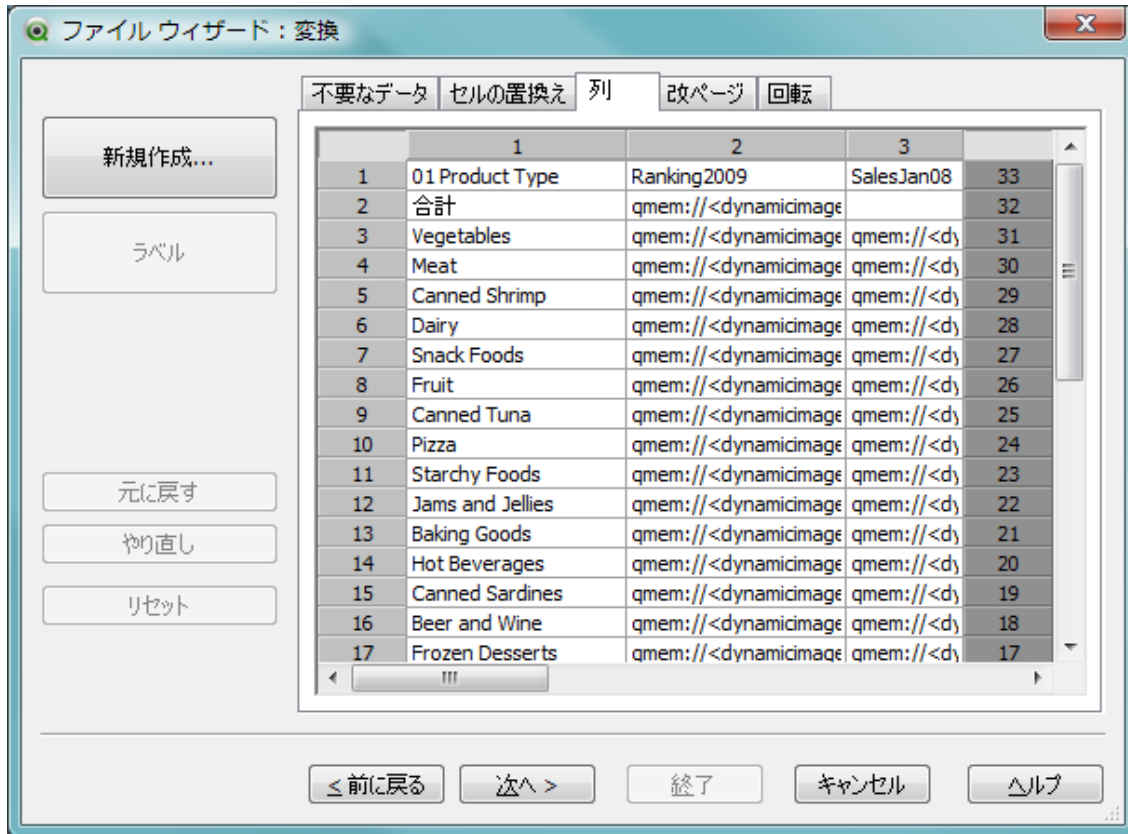
ファイルウィザード：変換：セルの置換え

このページを使用して、セル値を置換できます。ほとんどの場合、特定の記述に一致するセルは同じ列の別の値で置換されます。よくある事例は、空のセルが続き、その直前の空ではないセルに関連性のある値が含まれている場合です。

セルの置換え

セルの置換え (260 ページ) ダイアログを開き、条件や方法を指定できます。

列



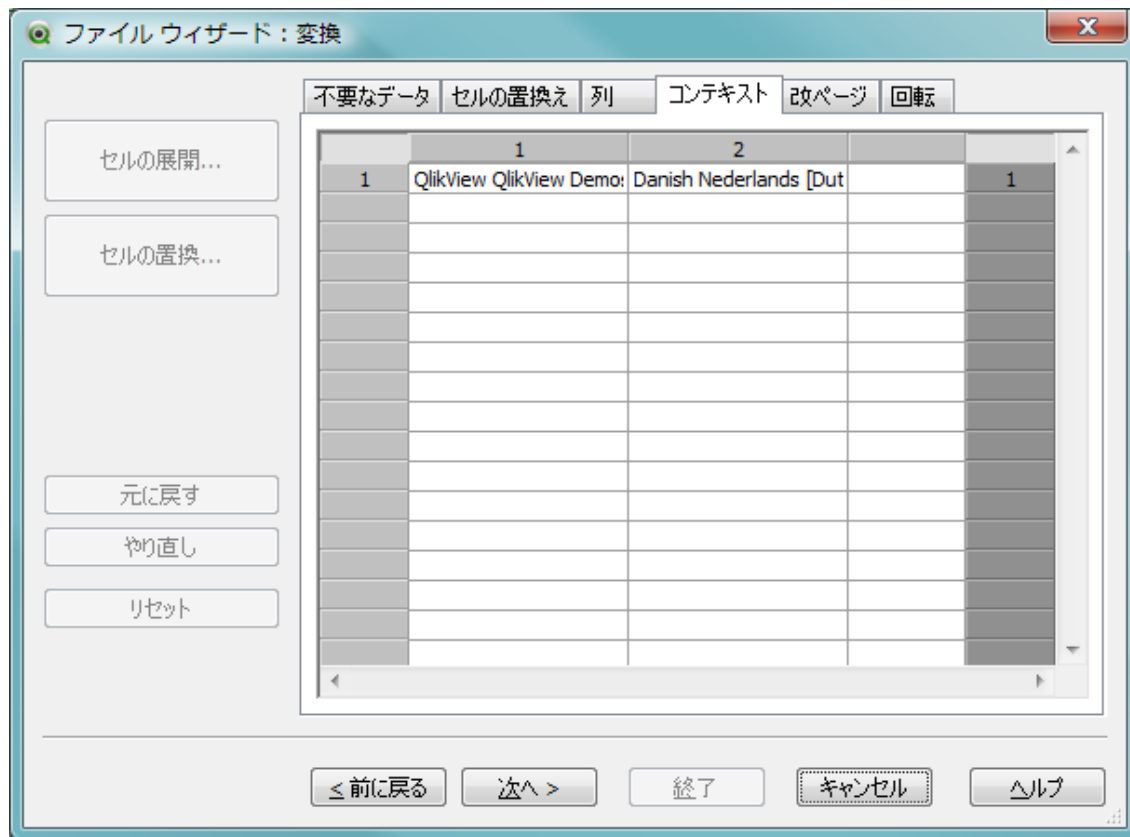
ファイルウィザード：変換：列

[列] ページを使用して、ある列の内容を新しい列にコピーします。新しい列には、コピー元の列のすべてのセルまたは選択したセルが含まれます。この機能は、列に別の種類の値が含まれている場合に便利です。また、HTML リンクが含まれた列を複製するためにも使用できます。これにより、ある列にはリンクのテキストが含まれ、別の列にはその URL が含まれるようになります。

新規作成 新規列用セルの指定 (261 ページ) ダイアログを開きます。ここでは新しい列の作成方法を指定できます。

ラベル 列のラベルを設定します。

コンテキスト



ファイルウィザード：変換：コンテキスト

HTML テーブルでは、表示されるよりも多くの情報を格納できます。たとえば、セルの内容がクリック可能な場合、ブラウザのジャンプ先のアドレスも格納されます。**ファイルウィザード：変換** ページは、セルのテキストを表示しますが、セルに属している追加情報も表示できます。また、この情報を QlikView に読み取ることも可能です。

追加情報は常にタグで囲まれています。タグには名前があり、属性を持っている場合があります、値が含まれていることがあります。セルのコンテキストは次のように見えます。

例：

```
<A href=www.myurl.com/mypage.html name="MyName">
```

```
My link text
```

```
</A>
```

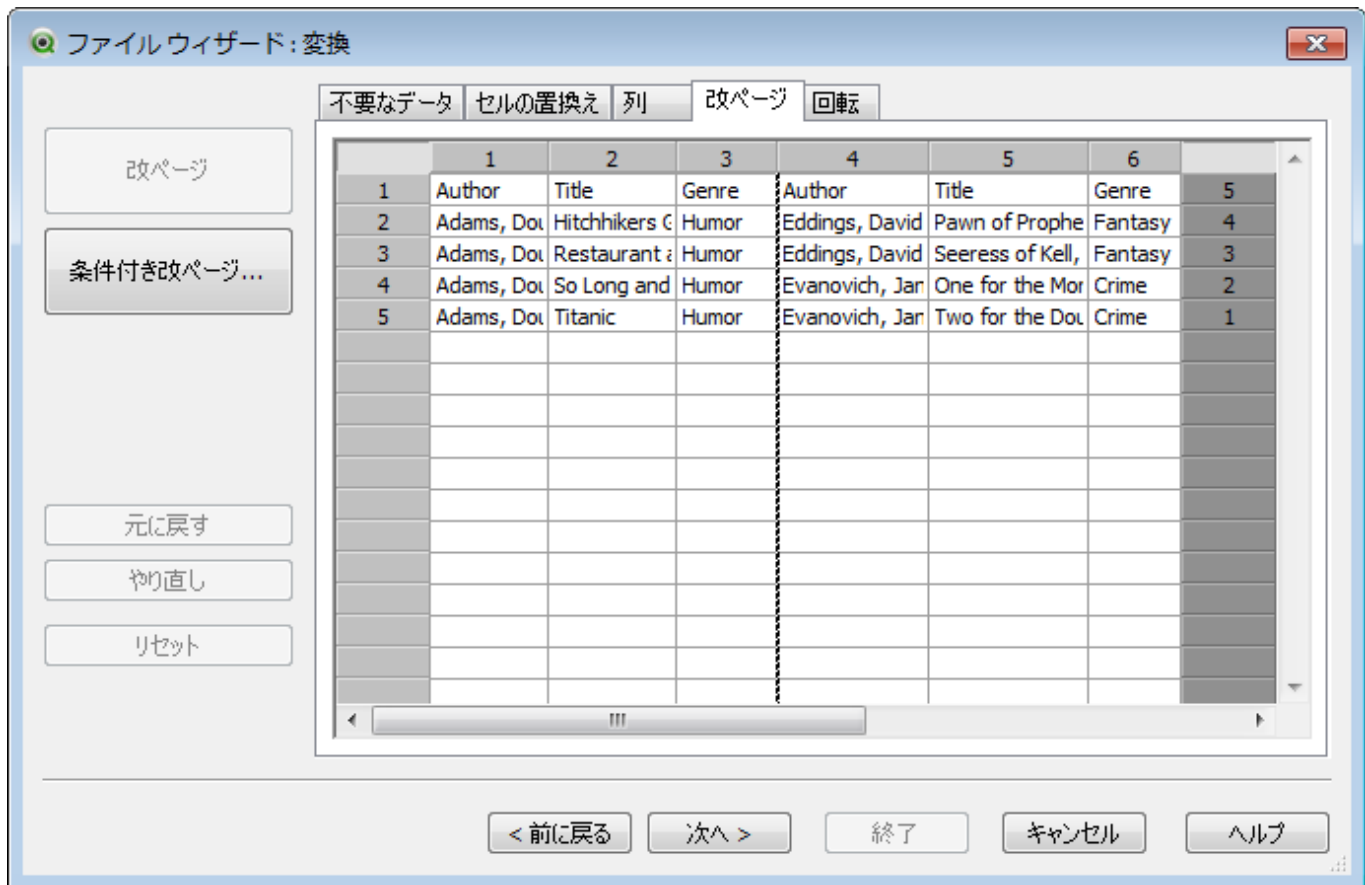
表示されるセルのテキストは *My link text* です。コンテキストには、開始タグと終了タグが含まれています。タグはハイパーテキストリンクを指定しています。開始タグは *href* と *name* という2つの属性を持っています。

コンテキスト ページを使用して、主要文字列ではなく、タグの属性を読み取ることができます。その他の操作も可能です。ウィザードでセルを右クリックし、**コンテキストの表示** を選択すると、セルのコンテキストを表示できます。

セルの展開 コンテキストセルの展開 (262 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、1つのセルの内容を複数のセルに展開することを定義できます。このボタンを有効にするには、列と行の両方を選択する必要があります。ただし、列のすべてのセルが展開されます。

セルの置換 コンテキストの置換 (263 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、セルの内容の置換を定義できます。このボタンを有効にするには、列と行の両方を選択する必要があります。ただし、列のすべてのセルが置き換えられます。

改ページ



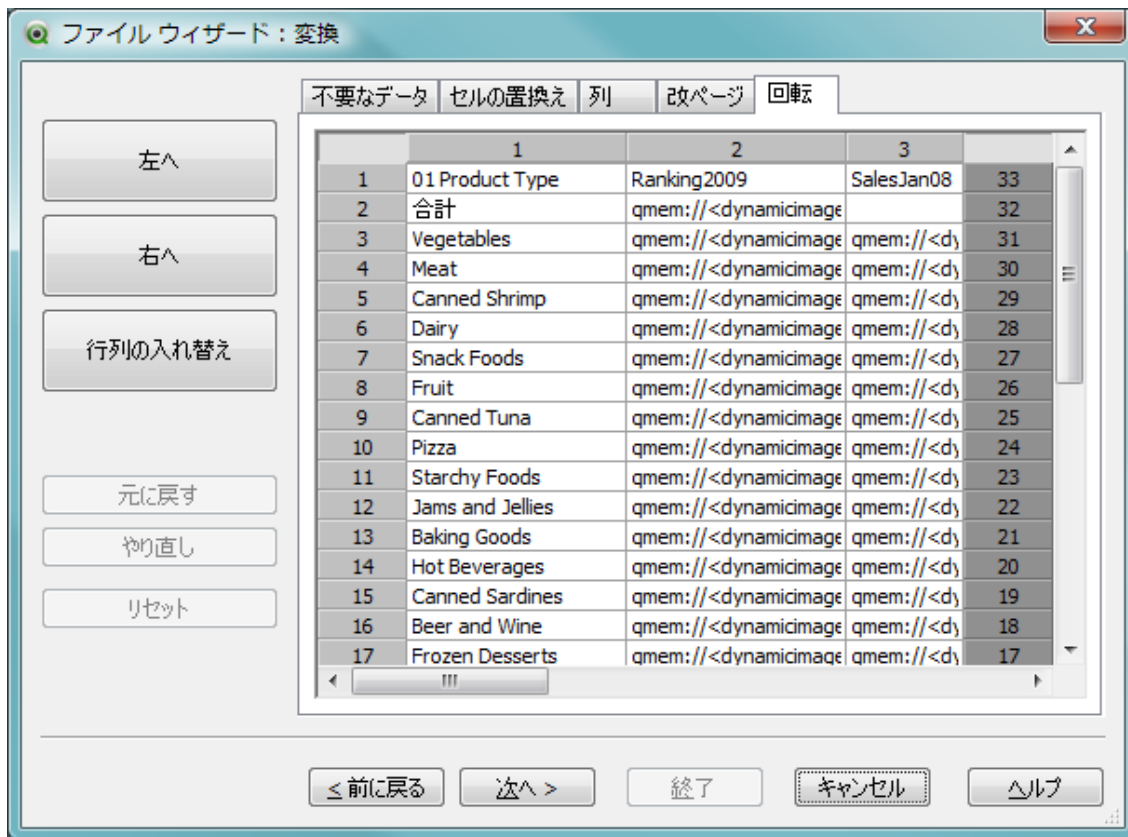
ファイルウィザード : 変換 : 改ページ

ここでは、改行されたテーブルを直すことができます。改行されたとは、テーブルの次の部分が続く際に、下に続くのではなくテーブルの最初の部分の横に続くことです。上記の例では、右半分が移動して左半分の下に配置されます。

改ページ テーブルを改ページします。まず、2つの部分の境界線をカーソルで設定する必要があります。テーブルは垂直にも水平にも分割可能です。

条件付き改ページ テーブルを垂直に分割する場合の条件を定義します。行の選択条件の指定 (258 ページ) ダイアログを開きます。

回転



ファイルウィザード：変換：回転

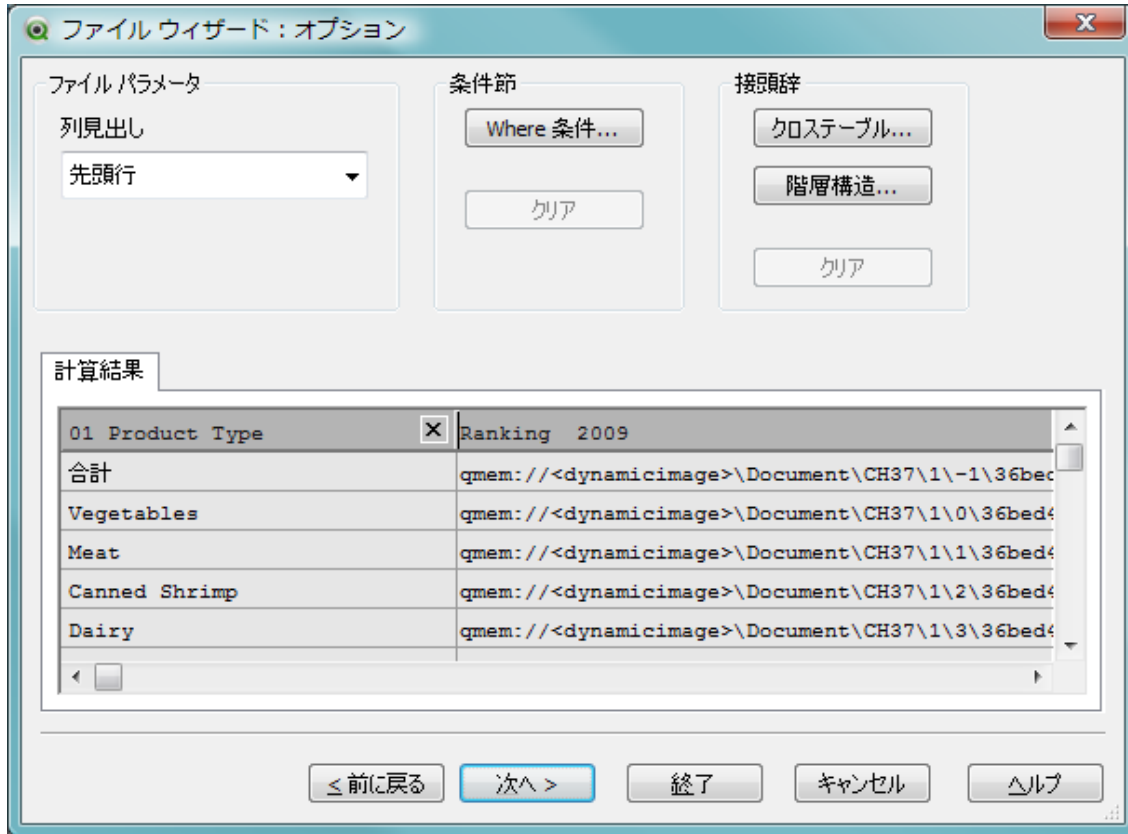
Web デザイナはテーブルを回転させて見栄えをよくします。回転機能の主な目的は、テーブルを "正常な状態" に戻せるようにすること、項目を列、最初の行の項目名などで取得できるようにすることです。

Left テーブルを反時計回りに回転します。

Right テーブルを時計回りに回転します。

行列の入れ替え テーブルの行列を入れ替えます。つまり、対角線軸にテーブルを逆にした形で、右上のセルが左下のセルになり、逆も同様になります。ただし、左上と右下のセルはその場所にとどまります。

ファイルウィザード:オプション



ファイルウィザード:オプション

ファイルパラメータ

ラベル

テーブルの1行目に項目名(列ヘッダー)が格納されている場合、このコントロールを**先頭行**に設定する必要があります。[DIF]形式では、項目名を明示的に指定することもできます。その場合は、このコントロールを明示的に設定する必要があります。テーブルに項目名が含まれていない場合、**なし**を使用する必要があります。

条件節

Where 条件

Where 条件 (264 ページ) ダイアログが開かれ、**load** ステートメントの **where** 句を作成できます。

クリア

クロステーブルの **where** 条件の変換を取り消します。

接頭辞

Crosstable *Crosstable (285 ページ)* ダイアログが開かれ、クロステーブルを 3 列 (またはそれ以上) テーブルに変換するためのパラメータを設定できます。

階層構造 階層パラメータ (266 ページ) ダイアログが開かれ、階層テーブル (パラメータはロードスクリプトに丸括弧で表示されます) のためのパラメータを設定できます。

クリア クロステーブルまたは階層構造テーブルの変換を取り消します。

クロステーブル変換と **where** 句の両方が使用されている場合は、**where** 句が先に評価されます。したがって、クロステーブルから変換後に **where** 句を適用することはできません。ただし、既に変換済みのテーブルに **where** 句を適用する必要がある場合は、一時的なテーブルを持つ構造が問題を解決します。

```
TempTable: Crosstable (...) Load ... from ...;
RealTable: Load ... resident TempTable where ...;
Drop Table TempTable;
```

行の選択条件の指定

[行の選択条件の指定] ダイアログ

このダイアログは、**ファイル ウィザード：変換** ダイアログの **不要なデータ** ページ (**条件付き削除** ボタン)、**列** ページ (**新規作成** ボタン)、または **改ページ** ページ (**条件付き改ページ** ボタン) から開けます。ここでは、1 つもしくは複数の行を選択し、論理条件を定義できます。内容によって、定義された行の削除、新しい列へのコピー、または、テーブルを複数に分割します。

条件 グループでは、列が特定の値や他の列と等しくなる条件、レコード範囲、またはすべてのレコードを指定できます。複数の条件を組み合わせて適用できます。条件を定義したら、**追加** ボタンを押して変換条件に含めます。

値の比較	セルをセル条件と照合し true か false かを評価します。
列の比較	セルを別の列の対応するセルと照合します。
範囲	x 個の行を選択し、次の y 個の行をスキップします。この開始位置と終了位置はインデックスを使用して指定できます。
すべての行	すべての行を選択する場合に、この条件を使用します。
列	条件を適用する列番号を設定します。
最小	[範囲] モードでのみ表示されます。行の削除や別の条件の適用を開始する行番号を設定します。
最大	[範囲] モードでのみ表示されます。行の削除や別の条件の適用を終了する行番号を設定します。
選択	[範囲] モードでのみ表示されます。ここでは、行を周期的に選択するか、スキップを周期的に行うかを設定できます。たとえば、2 行を選択し、次の 1 行をスキップすることを周期的に行います。すべての行を使用する場合は、 選択行数 を 1 に設定し、 スキップ行数 を 0 に設定します。
オプション	このサブグループでは、選択したものに修飾子を指定できます。 大文字/小文字の区別 大文字と小文字の区別を付けて比較する場合、このチェックボックスをオンにします。 NOT 選択条件を反転する場合、このチェックボックスをオンにします。
条件 (AND)	このグループでは、変換に指定された条件や変換に含まれる条件が表示されます。条件は論理 AND 演算子で結合されます。 追加 リストに現在の条件を追加します。 削除 選択された条件をリストから削除します。

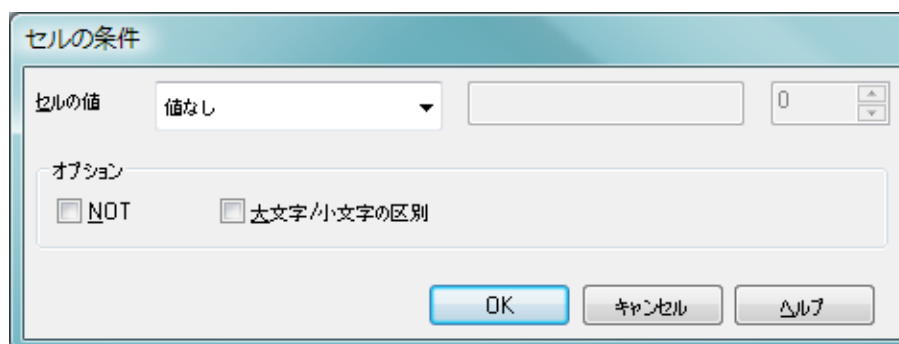
セルの置換え



[セルの置換え] ダイアログ

- 指定** [指定] グループでは、どのような場合にセルを置き換えるかを指定できます。
- データ置換対象列番号** 条件を適用する列番号を設定します。
- セルの条件** セル条件を設定できる [セルの条件 \(260 ページ\)](#) ダイアログを表示します。
- 置換え元データ** セルをどのように置き換えるかについての方針を設定します。[上]、[左隣]、[右隣]、または[下]の値のうち1つを使用します。

セルの条件



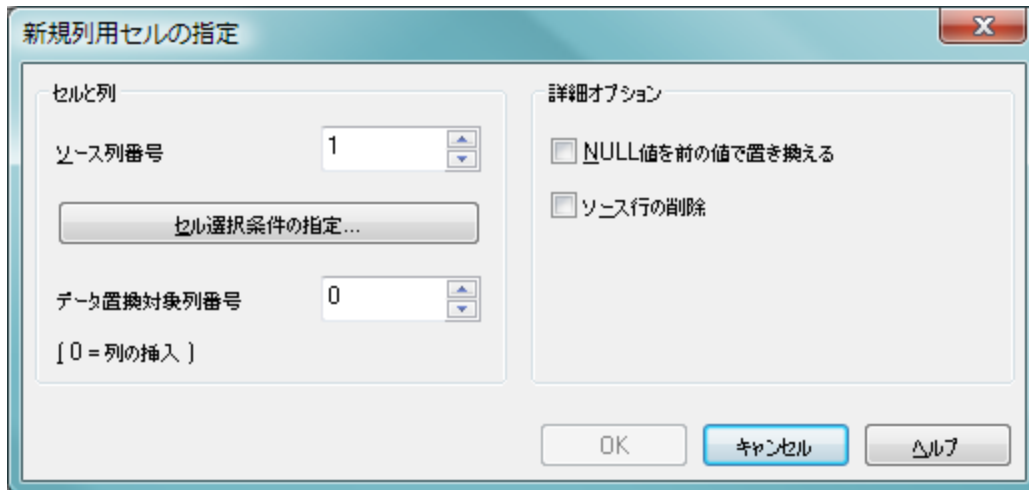
[セルの条件] ダイアログ

このダイアログは、[セルの置換え \(260 ページ\)](#) ダイアログから開きます。セルの内容を照会する論理条件を指定することが可能です。

- セルの値** ドロップダウンメニューにはいくつか論理オプションがあります。文字列を比較するには、比較するための文字列を隣の項目に入力します。セルの内容の長さを比較するには、右端に比較する長さ (数値) を入力します。

- NOT** 論理条件 NOT を使用して条件を反転させる場合、このオプションをオンにします。
- 大文字/小文字の
区別** 値の比較を大文字と小文字を区別して行う場合は、このオプションをオンにします。

新規列用セルの指定

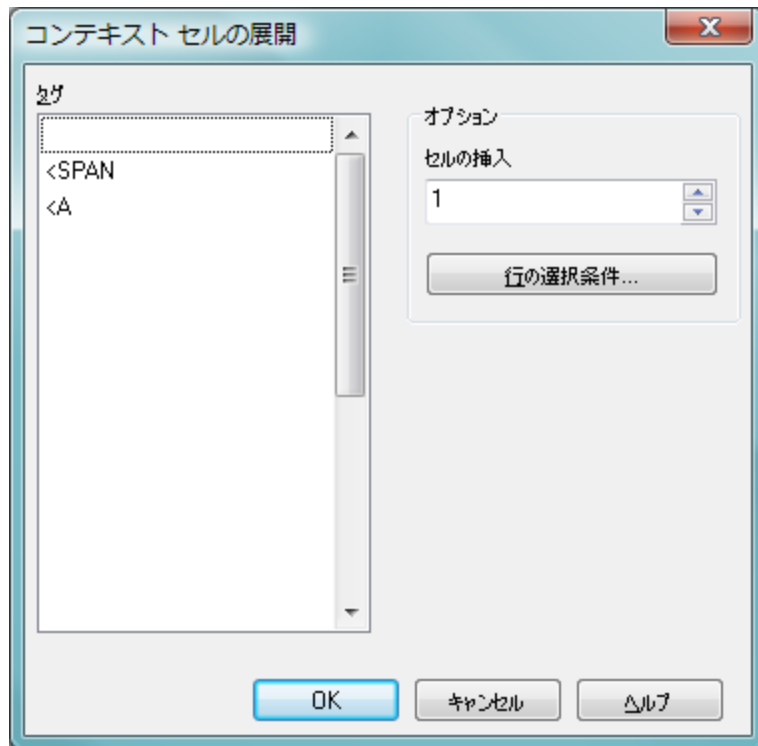


[新規列用セルの指定] ダイアログ

このダイアログは、既存の列から新しい列を自動的に生成するための条件を指定するのに使用します。
ファイル ウィザード : 変換 ダイアログの **列** ページからアクセスします。

- セルと列**
- ソース列番号**
セル値のコピー元になる列番号を設定します。
 - セル選択条件の指定**
行の選択条件の指定 (258 ページ) ダイアログが開かれ、行の選択条件を設定します。
 - データ置換対象列番号**
コピー先の列番号を指定します。
- 詳細オプション**
- NULL値を前の値で置き換える**
空のセルをセル内の直前の値で置き換えます。
 - ソース行の削除**
その内容をコピーした後、コピー元の行を削除します。

コンテキストセルの展開

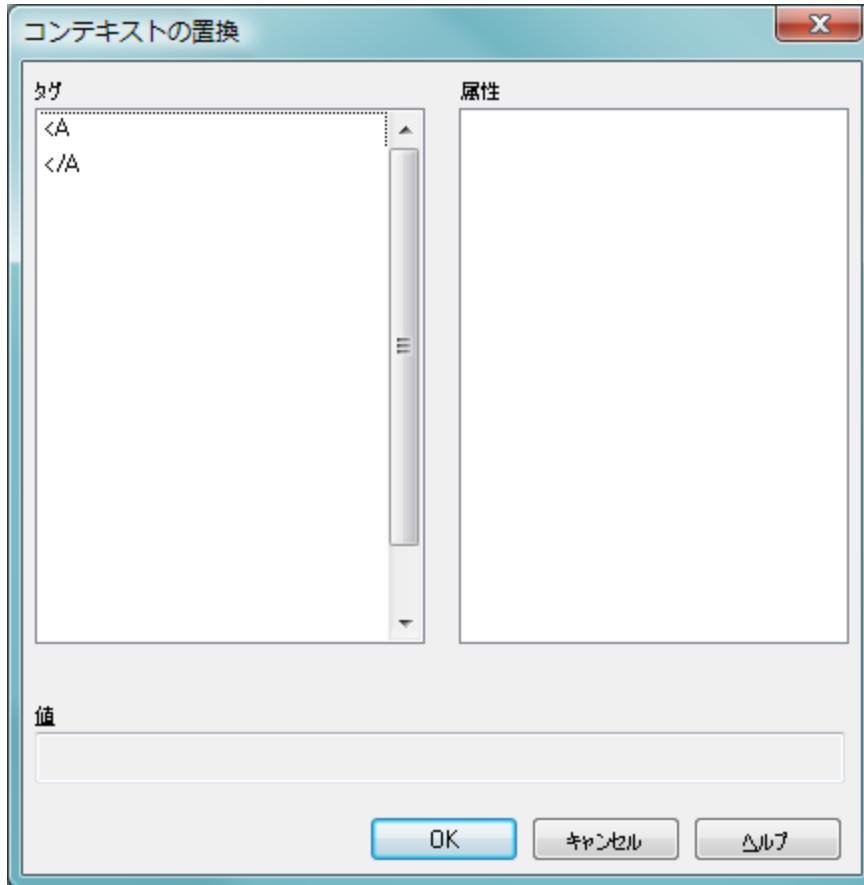


[コンテキストセルの展開] ダイアログ

このダイアログで、1つのセルの内容を複数のセルに展開できます。場合によっては、1つの列内の複数の行が `<TD>` と `</TD>` タグによってHTMLテーブルの1つのセルに格納されていることがあります。このようなセルは列に展開できます。列内の異なる行どうしの区切り記号として使用されているタグをマークします。通常、これは `
` 記号です。

- | | |
|---------------|---|
| セルの挿入 | 挿入するセルの数です。通常、これは1に設定されていますが、行を追加する必要がある場合は、このコントロールを大きな数に設定できます。 |
| 行の選択条件 | 展開する行の条件です。 |

コンテキストの置換



[コンテキストの置換] ダイアログ

このダイアログで、セルの値をセル内の隠し情報と交換できます。

セルは、その他の複数のタグを含むこともできます。それぞれに1つ、場合によっては複数の属性が付きます。適切なタグと属性を選択してから **[OK]** ボタンを押すと、セルの内容がその属性の値に置き換えられます。

- | | |
|-----------|---------------|
| タグ | セル内のタグのリストです。 |
| 属性 | 選択されたタグの属性です。 |
| 値 | 属性の値です。 |

Where 条件

[Where 条件式] ダイアログ

簡易設定 どの **項目** を where 句に含めるのか、どの **演算子/関数** を使用するかを決定します。また、既存の項目値を基準にした **定数** を入力することもできます。各行の左端にあるドロップダウン リストで **AND** または **OR** を選択すると 2 行目や 3 行目がアクティブになります。

詳細設定 自分で条件句を最初から入力する場合に **詳細設定** をオンにします。

全件 このオプションはロード スクリプトに **Where (1=1)** を入力します。そこで更に編集することが可能です。

Crosstable

クロステーブルは、ヘッダー データが直交する 2 つ以上のリストに値のマトリックスを持つ一般的なテーブルの種類です。このうちのひとつは列ヘッダーとして使われます。典型的な例では、1 ヶ月ごとにひとつの列が使用されます。クロス テーブルをストレート テーブルに変換するには、**crosstable** プレフィックスを使用します。その結果、列ヘッダー (月の名前など) がひとつの項目 (属性項目) に保存され、列のデータ (月の数) は 2 番目の項目 (データ項目) に保存されます。

構文は次のとおりです。

```
crosstable (attribute field name, data field name [ , n ] ) (
loadstatement | selectstatement )
```

ここで

attribute field name は、属性値が格納されている項目です。

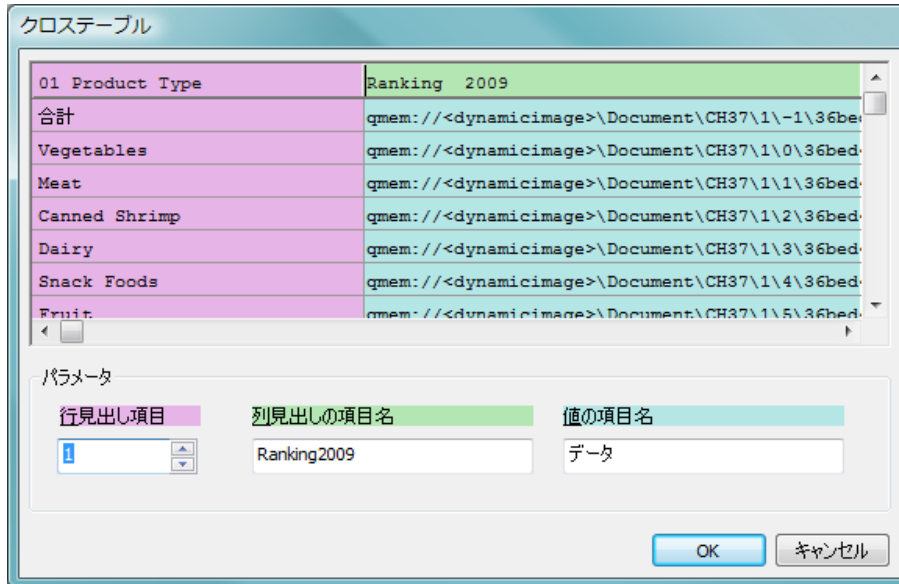
data field name は、データ値が格納されている項目です。

n は、汎用的な形式に変換されるテーブルに先行する修飾子項目の数です。デフォルトは 1。

例:

```
Crosstable (Month, Sales) Load * from ex1.csv;
Crosstable (Month,Sales,2) Load * from ex2.csv;
Crosstable (A,B) Select * from table3;
```

クロステーブルウィザード



クロステーブルウィザード

クロステーブルウィザードは、ダイアログ形式で *crosstable* ステートメントを作成します。このダイアログは、**ファイルウィザード**の**オプション**ページで**クロステーブル**ボタンをクリックすると開きます。クロステーブルウィザードには次のオプションがあります。

- 行見出し項目** 変換後に項目に先行する行見出しとする項目の数。
- 列見出しの項目名** 変換後に列見出しとなる項目 (属性値) すべてを含む新しい項目の名前。
- 値の項目名** 列見出しとなる項目のデータを含む新しい項目の名前。

階層パラメータ

階層構造

ソースパラメータ

ID 項目 親 ID 項目 ノード名項目

階層パラメータ

親項目名 パス項目名 階層レベル項目名

パスソース パス区切り記号

従属パラメータ

先祖 Id 先祖項目名 階層差分レベル項目名

OK キャンセル

[階層パラメータ] ダイアログ

- ソースパラメータ**
- ID 項目 (NodeID)**
ノード ID を含む項目の名前です。
 - 親 ID 項目 (ParentID)**
親ノードのノード ID を含む項目の名前です。
 - ノード名項目 (NodeName)**
ノード名を含む項目の名前です。

階層パラメータ**Parent Name (*ParentName*)**

新しい **ParentName** 項目の名前です。このパラメータはオプションです。

Path Name(*PathName*)

新しい **Path** 項目の名前で、ルートからノードへのパスを含みます。このパラメータはオプションです。

Depth Name (*Depth*)

新しい **Depth** 項目の名前に使われる文字列で、階層のノードのレベルを含みます。このパラメータはオプションです。

Path Source (*PathSource*)

ノードのパスを構築するために使用されるノードの名前を含む項目の名前です。このパラメータはオプションです。省略すると **NodeName** が使用されます。

パス区切り記号 (*PathDelimiter*)

新しい **Path** 項目に区切り文字として使われる文字列です(例: ¥)。このパラメータはオプションです。省略すると "/" が使用されます。

従属パラメータ**先祖 Id (*AncestorID*)**

新しい **ancestor id** 項目の名前で、先祖ノードの ID を含みます。

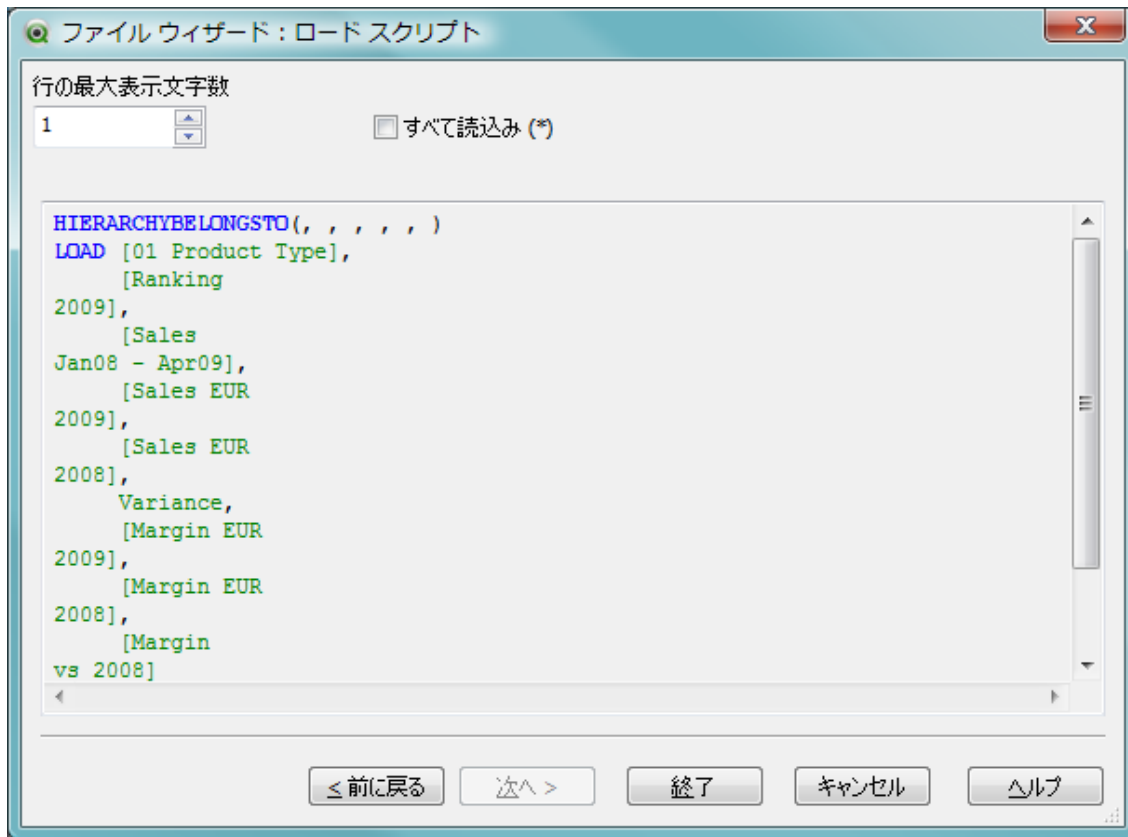
先祖項目名 (*AncestorName*)

新しい **ancestor** 項目の名前で、先祖ノードの名前を含みます。

階層差分レベル項目名 (*DepthDiff*)

新しい **DepthDiff** 項目の名前で、先祖ノードとの関係を示す階層におけるノードのレベルを含みます。このパラメータはオプションです。

ファイルウィザード:ロードスクリプト



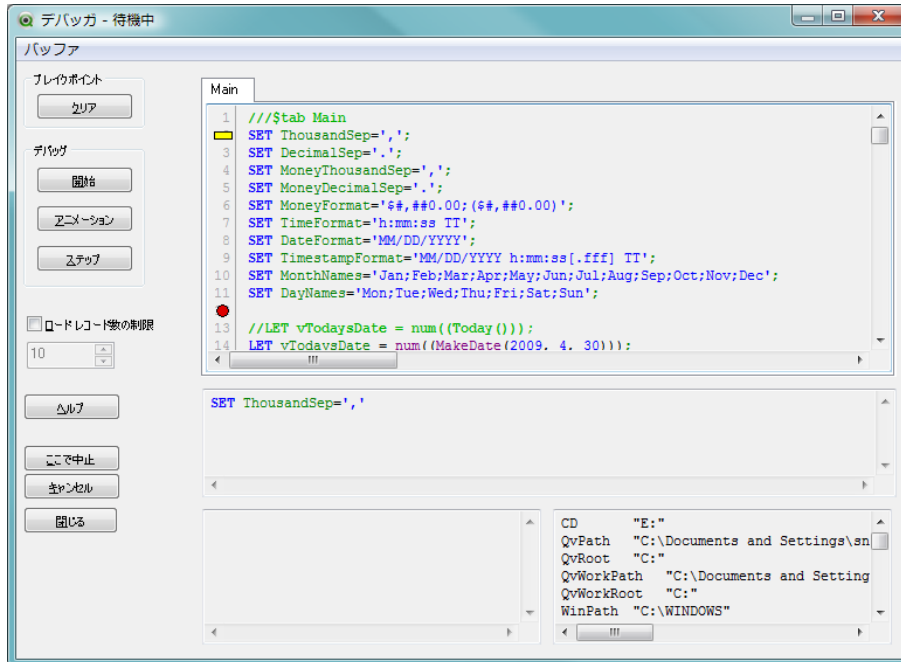
ファイルウィザード:ロードスクリプト

ロードスクリプトページでは、**ロードスクリプトの編集** ダイアログでのロードスクリプトの表示方法を設定します。ここでは、スクリプトの解釈を簡単にするために **行の最大表示文字数** も設定できます。

Load All (*) テーブルのすべての項目をロードします。

完了 ボタンで **load** ステートメントを生成し、ウィザードを閉じます。

デバグ



スクリプト デバグ

デバグでロードスクリプトを実行すると、スクリプトエラーの識別がより簡単になります。デバグでは、すべてのスクリプトステートメントをモニターし、スクリプト実行中に、変数値を確認できます。

デバグの上部にあるパネルにスクリプトが表示されます。スクリプト実行の進捗は黄色いカーソルで示されます。**ブレイクポイント**は、行番号をクリックすると挿入、もう一度クリックすると削除できます。**[クリア]** ボタンをクリックするとすべてのブレイクポイントを削除できます。ブレイクポイントに行き当たると、指示があるまでスクリプトの実行を止めます。

現在実行中のステートメントは、中央のパネルに表示されます。

左下のパネルには、エラーおよびステータスコードが表示されます。これは、基本的にはデバグ以外でスクリプトが実行される時に**[ロードスクリプトの進捗]** ダイアログで表示される情報と同じです。

右下のウィンドウには、すべての変数(209ページ)とそれぞれの値を表示します。変更された変数は赤で示されます。

ブレイクポイント

右側のスクリプトウィンドウで設定されているブレイクポイントはクリアできます。ブレイクポイントは赤い円として表示されます。

クリア

すべてのブレイクポイントをクリアします。

デバッグ	<p>このグループには、デバッガでのスクリプトの実行方法を定める設定が含まれます。</p> <p>開始 これは通常のスクリプト実行です。スクリプトはブレイクポイントに行き当たるまで、または最後まで実行されます。</p> <p>アニメーション スクリプトは上記と同じように実行しますが、各ステートメントの後に一時休止します。この方法では、もう少し詳しくスクリプト実行をモニターできます。</p> <p>ステップ 一度にひとつのスクリプトステートメントを実行します。</p>
ロードレコード数の制限	<p>下のボックスに数値を入力します。入力した数値は、各 load と select ステートメントで許可される最大レコード数です。これは、生データを使用してスクリプトをテストする場合、実行時間を制限するとても有効な手段です。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
ここで中止	<p>デバッガ を閉じます。それまでにロードされたデータは保持されます。</p>
キャンセル	<p>スクリプト実行を中止し、ロードされたすべてのデータを廃棄します。</p>
バッファ	<p>\$ (include) 経由で参照される外部スクリプト ファイルを示すタブを開きます。</p> <p>開く スクリプト ファイルを開くためのダイアログを表示します。ファイルの内容は別のタブの下に表示され、デバッグに使用できます。</p> <p>閉じる 現在のデバッガのスクリプト タブを閉じます。メイン タブを閉じることはできません。</p>

24 スクリプト構文

スクリプトでは、ロジックに含まれるデータソースの名前、テーブルの名前、および項目の名前が定義されます。さらに、アクセス権を定義する項目がスクリプトで定義されます。

スクリプトは、連続して実行される多数のステートメントで構成されます。

これ以降の章で使用する BNF 構文表記の形式記述については、*BNF (1115 ページ)* を参照してください。

24.1 スクリプトのステートメントとキーワード

QlikView のスクリプトは多数のステートメントから構成されます。ステートメントは、一般のスクリプトステートメントもしくは スクリプト制御ステートメント (276 ページ) のいずれかです。先頭にプレフィックスが付くステートメントもあります。

一般に正規ステートメントは、何らかの形でデータの操作に使用されます。これらのステートメントはスクリプト内で何行でも記述できます。常にセミコロン (;) で終了する必要があります。

通常、制御ステートメントはスクリプト実行の流れを制御するために使用されます。制御ステートメントの各句は 1 スクリプト行に収める必要があり、セミコロン (;) または改行コード (end-of-line) で終了する必要があります。

正規ステートメントには必要に応じてプレフィックスを適用できますが、制御ステートメントには適用されることはありません。ただし、**when** および **unless** プレフィックスは数個の特定の制御ステートメント句のサフィックスとして使用できます。

次のセクションでは、スクリプトのすべてのステートメント、制御ステートメント、およびプレフィックスがアルファベット順にリストされています。

スクリプトのすべてのキーワードは、小文字と大文字のどのような組み合わせでも入力できます。ただし、ステートメントで使用されている項目名と変数名は大文字と小文字の区別があります。

スクリプトステートメントは、次の通りです。

追加	276 ページ
Alias	277 ページ
Binary	278 ページ
Buffer	278 ページ
Bundle	279 ページ

Call	280 ページ
	ジ
コメント フィールド	281 ページ
	ジ
コメント テーブル	282 ページ
	ジ
Concatenate	283 ページ
	ジ
Connect	283 ページ
	ジ
Crosstable	285 ページ
	ジ
Direct Query	
Directory	293 ページ
	ジ
Disconnect	293 ページ
	ジ
Do..loop	293 ページ
	ジ
Drop Field	294 ページ
	ジ
Drop Table	295 ページ
	ジ
Execute	295 ページ
	ジ
Exit Script	296 ページ
	ジ
First	296 ページ
	ジ
For..next	296 ページ
	ジ
For each..next	297 ページ
	ジ

Force	299 ページ
	ジ
Generic	300 ページ
	ジ
Hierarchy	300 ページ
	ジ
HierarchyBelongsTo	301 ページ
	ジ
If..then..elseif..else..end if	302 ページ
	ジ
Image_size	303 ページ
	ジ
Info	303 ページ
	ジ
Inner	304 ページ
	ジ
Inputfield	305 ページ
	ジ
IntervalMatch	306 ページ
	ジ
IntervalMatch (拡張構文)	308 ページ
	ジ
Join	309 ページ
	ジ
Keep	309 ページ
	ジ
Left	310 ページ
	ジ
Let	312 ページ
	ジ
Load	313 ページ
	ジ
Loosen Table	321 ページ
	ジ

Mapping	322 ページ
	ジ
Map ... using	323 ページ
	ジ
NoConcatenate	323 ページ
	ジ
NullAsNull	324 ページ
	ジ
NullAsValue	324 ページ
	ジ
Outer	325 ページ
	ジ
Qualify	326 ページ
	ジ
Rem	327 ページ
	ジ
Rename Field	327 ページ
	ジ
Rename Table	328 ページ
	ジ
Replace	330 ページ
	ジ
Right	329 ページ
	ジ
Sample	331 ページ
	ジ
Section	332 ページ
	ジ
Select (SQL)	332 ページ
	ジ
Semantic	334 ページ
	ジ
Set	335 ページ
	ジ

Sleep	335 ページ
	ジ
SQL	335 ページ
	ジ
SQLColumns	336 ページ
	ジ
SQLTables	336 ページ
	ジ
SQLTypes	337 ページ
	ジ
Star	338 ページ
	ジ
Store	339 ページ
	ジ
Sub..end sub	340 ページ
	ジ
Switch..case..default..end switch	341 ページ
	ジ
Tag Field	342 ページ
	ジ
Trace	342 ページ
	ジ
Unless	343 ページ
	ジ
Unmap	343 ページ
	ジ
Unqualify	344 ページ
	ジ
Untag Field	344 ページ
	ジ
When	345 ページ
	ジ

スクリプト制御ステートメント

QlikView のスクリプトは多数のステートメントから構成されます。ステートメントは、スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) またはスクリプト制御ステートメントのどちらかになります。

通常、制御ステートメントはスクリプト実行の流れを制御するために使用されます。制御ステートメントの各句は 1 スクリプト行に収める必要があり、セミコロン (;) または改行コード (end-of-line) で終了する必要があります。

プレフィックスは、制御ステートメントには適用されません。ただし、例外として、**when** および **unless** プレフィックスは、数個の特定の制御ステートメントで使用できます。

スクリプトのすべてのキーワードは、小文字と大文字のどのような組み合わせでも入力できます。

スクリプト制御ステートメントは、次の通りです。

If..then..elseif..else..end if	302 ページ
For..next	296 ページ
For each..next	297 ページ
Do..loop	293 ページ
Switch..case..default..end switch	341 ページ
Exit Script	296 ページ
Sub..end sub	340 ページ
Call	280 ページ

追加

add プレフィックスは、スクリプト内の任意の *Load* (313 ページ)、*Select (SQL)* (332 ページ)、または *Map ... using* (323 ページ) ステートメントに追加できます。*partial reloads* でのみ有効です。パーシャルリロード中に、テーブル名が **add load/add select** ステートメント (テーブルが存在する場合) で生成される QlikView のテーブルは、**add load/add select** ステートメントの結果に追加されます。重複のチェックは実行されません。そのため、通常は **add** プレフィックスを使用するステートメントには、重複を防ぐ **distinct** 修飾子または **where** 句を記述します。**map...using** ステートメントでは、パーシャルスクリプトの実行中にマッピングも発生します。

構文は次のとおりです。

```
add [only] (loadstatement |selectstatement |mapstatement)
```

ここで

only はオプションの修飾子で、通常の (パーシャルでない) リロード中は、ステートメントが無視されることを意味します。

例 :

```
Tab1:
LOAD Name, Number FROM Persons.csv;
ADD LOAD Name, Number FROM newPersons.csv;
```

通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からリロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に保存されます。NewPersons.csv のデータは、同じ QlikView テーブルに連結されます。concatenated を参照してください。

パーシャルリロードでは、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に追加されます。重複のチェックは実行されません。

```
Tab1:
SELECT Name, Number FROM Persons.csv;
ADD LOAD Name, Number FROM NewPersons.csv Where not exists(Name);
```

重複チェックは、*Name* が以前にロードされたテーブルデータに存在するかどうか (*exists(field [, expression])* (412 ページ) の *exists* 関数を参照) を確認することによって行われます。

通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からリロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に保存されます。NewPersons.csv のデータは、同じ QlikView テーブルに連結されます。

パーシャルリロードでは、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に追加されます。重複チェックは、*Name* が以前にロードされたテーブルデータに存在するかどうかを確認することによって行われます。

```
Tab1:
LOAD Name, Number FROM Persons.csv;
ADD ONLY LOAD Name, Number FROM NewPersons.csv Where not exists(Name);
```

通常のリロードでは、データは *Persons.csv* からリロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に保存されます。NewPersons.csv をロードするステートメントは無視されます。

パーシャルリロードでは、データは *NewPersons.csv* からロードされ、QlikView テーブル *Tab1* に追加されます。重複チェックは、*Name* が以前にロードされたテーブルデータに存在するかどうかを確認することによって行われます。

[スクリプトのステートメントとキーワード へ戻る](#)

Alias

alias ステートメントは、エイリアスの設定に使用されます。後続のスクリプトで項目が出現するたびに項目の名前がエイリアスに従って変更されます。構文は次のとおりです。

```
alias fieldname as aliasname{ , fieldname as aliasname }
```

ここで

fieldname と *aliasname* : *fieldname* はソースデータの項目名を示し、*aliasname* はその代わりに使用したい別名を示します。

例 :

```
Alias ID_N as NameID;  
Alias A as Name, B as Number, C as Date;
```

このステートメントで定義された名前の変更は、後続のすべての *Select (SQL)* (332 ページ) および *Load* (313 ページ) ステートメントで使用されます。項目名に定義された新しい **alias** は、これより後のスクリプトの任意の場所で新しい **alias** ステートメントに定義できます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Binary

binary ステートメントは、別の QlikView ドキュメントからのデータをロードする際に使用します (セクション アクセスデータなど)。レイアウト情報や変数はロードされません。スクリプトでは、**binary** ステートメントを 1 つだけ使用でき、スクリプトの最初のステートメントとしてのみ置くことができます。構文は次のとおりです。

```
binary file
```

ここで

```
file ::= [ path ] filename
```

例 :

```
Binary customer.qvw;  
Binary c:\qv\customer.qvw;
```

path は、ファイルのパスをこのスクリプト行を含む qvw ファイルへの絶対パスまたは相対パスで指定します。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Buffer

buffer プレフィックスを使用すると、QVD ファイルを自動的に作成して管理できます。このプレフィックスは、ロードスクリプトのほとんどの *Load* (313 ページ) および *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントで使用できます。ステートメントの結果をキャッシュ/バッファするために QVD ファイル (493 ページ) を使用することを示します。

多くの制限が存在します。最も代表的な制限は、いずれの複雑なステートメントの "基底" にもファイルの **load** または **select** ステートメントが存在する必要があるということです。

QVD ファイルの名前は、計算で求められた名前 (160 ビットの 16 進ハッシュ。後続の **load** または **select** ステートメントとその他の識別情報の全体) であり、通常 Application Data フォルダか、ユーザー プロパティ : パス (105 ページ) ページで指定された別のフォルダに保存されます。つまり、QVD バッファは、後続の **load** または **select** ステートメントの変更によって無効になることを意味します。

通常、QVD バッファが削除されるのは、そのバッファを作成したドキュメントのスクリプト全体の実行でバッファが参照されなくなったとき、そのバッファを作成したドキュメントが存在しなくなったときです。ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) ページの **照会先のない QVD バッファを保持する** オプション (第 1 条件) と ユーザー プロパティ (85 ページ) ダイアログの **照会先のない QVD バッファを削除しない** オプション (第 2 条件) をそれぞれオンにして、削除機能をオフにすることができますが、一般的には推奨しません。

構文は次のとおりです。

```
buffer [ (option [ , option] ) ] ( loadstatement | selectstatement )
```

ここで

option ::= incremental | expiry

expiry ::= stale [after]amount [(days | hours)]

amount は、期間を指定する数字です。10 進数を使用できます。単位が省略されている場合は、**days** と判断されます。

incremental オプションにより、機能は基底のファイルの一部分のみを読み取ることができます。ファイルの以前のサイズは、QVD ファイルの XML ヘッダーに保存されます。これは、ログ ファイルで特に便利です。事前にロードされたすべてのレコードは、QVD ファイルから読み取られ、次の新しいレコードは、元のソースから読み取られ、最後に更新される QVD ファイルが作成されます。**incremental** オプションは **load** ステートメントとテキストファイルでのみ使用でき、古いデータが変更されたり削除されている場合、**incremental load** は使用できませんのでご注意ください。

通常、**stale after** オプションは、元のデータに一般的なタイムスタンプがない DB ソースで使用されません。代わりに、QVD スナップショットを使用できる期間を指定できます。**stale after** 句は、QVD バッファが作成されてから、有効期限切れと判断されるまでの期間を示します。それまでの間、QVD バッファはデータソースとして使用され、その後は元のデータソースが使用されます。次に QVD バッファファイルは、自動的に更新され、新しい期間が始まります。

オプションが使用されない場合は、スクリプトの最初の実行で作成された QVD バッファが無制限に使用されます。

例：

```
buffer SQL SELECT * FROM MyTable;

buffer (stale after 7 days) SQL SELECT * FROM MyTable;

buffer (incremental) LOAD * FROM MyLog.log;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Bundle

Bundle プレフィックスは、画像やサウンドなどの外部ファイル、または項目値に接続されているオブジェクトを *qvw* ファイルに保存するために使われます。

画像やサウンドなどの外部情報を項目値に接続する場合は、テーブルを **Info** プレフィックスでロードします。移植性を保持するには、外部ファイルを *.qvw* ファイル自身に持たせる必要があります。これ

を行うには、**Bundle** プレフィックスを使用します。バンドルされた info ファイルは、その過程で圧縮されますが、それでもファイルと RAM 両方の追加スペースを使用します。そのため、このソリューションを使用する前にバンドルするファイルのサイズと数の両方を考慮する必要があります。

info は、info chart 関数を使用して通常の info としてレイアウトから参照できます。または特殊構文を使用して内部ファイルとして参照できます。構文は、**qmem:// fieldname / fieldvalue** または **qmem:// fieldname / < index >** です。ここで index は、項目値の内部インデックスです。

Bundle を使用する場合は、**Info** プレフィックスを省略できます。

```
Bundle [Info] ( loadstatement | selectstatement )
```

例 :

```
Bundle Info Load * Fom flagoecd.csv;
Bundle SQL Select * From infotable;
```

Call

call 制御ステートメントは、以前の **sub** ステートメントで定義されているサブルーチンを呼び出します。構文は次のとおりです。

```
callname ( [ paramlist ])
```

ここで

name は、サブルーチンの名前です。

paramlist は、サブルーチンに渡す実パラメータのカンマ区切りのリストです。リスト内の各項目は、項目名、変数名、または任意の数式です。

call ステートメントで呼び出されるサブルーチンは、スクリプトの実行中に先に出現する **sub** ステートメントで定義される必要があります。

パラメータはサブルーチンにコピーされます。**call** ステートメントのパラメータが数式ではなく変数の場合、パラメータはサブルーチンが終了したときにコピーして戻されます。

call ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わるため、行をまたぐことはできません。

例 :

```
// 例 1
sub INCR (I,J)
I = I + 1
exit sub when I < 10
J = J + 1
end sub
call INCR (X,Y)

// 例 2 - ディスク上の QV に関連するファイルをすべてリストする
sub DoDir (Root)
for each Ext in 'qvw', 'qvo', 'qvs', 'qvt', 'qvd'
```



```

for each File in filelist (Root&'\'*.' &Ext)
Load '$(File)' as Name, FileSize( '$(File)' ) as
Size, FileTime( '$(File)' ) as FileTime
autogenerate 1;
next File
next Ext
for each Dir in dirlist (Root&'\'*')
call DoDir (Dir)
next Dir
end sub
call DoDir ('C:')

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

コメントフィールド

データベースやスプレッドシートの項目のコメント (metadata) を表示する方法を提供します。ドキュメントに存在しない項目名は無視されます。項目名が何度も発生する場合は、最後の値が使用されます。

次の構文を使用してデータソースからコメントを読むために、キーワードを使用できます。

```
comment *fieldlist using mapname
```

**fieldlist* は、コメントする項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

mapname は、以前に mapping load または mapping select ステートメントで読み取られているマッピングテーブルの名前です (*Mapping* (322 ページ) を参照してください)。

使用するマッピングテーブルは 2 列で構成され、1 列目には項目名が、2 列目にはコメントが含まれます。

個々のコメントを設定するには次の構文を使用します。

```
comment fieldname with comment
```

fieldname は、コメントする項目の名前です。

comment は、項目に追加するコメントです。

例 1:

```

commentmap:
mapping load * inline [
a,b
Alpha,This field contains text values
Num,This field contains numeric values
];

```

```
comment fields using commentmap;
```

例 2:

```
comment field Alpha with AFieldContainingCharacters;  
comment field Num with A field containing numbers';  
comment Gamma with 'Mickey Mouse field';
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

コメントテーブル

データベースやスプレッドシートのテーブルのコメント (メタデータ) を表示する方法を提供します。ドキュメントに存在しないテーブル名は無視されます。テーブル名が何度も発生する場合には、最後の値が使用されます。

次の構文を使用してデータソースからコメントを読むために、キーワードを使用できます。

```
comment tables tablelist using mapname
```

ここで

```
tablelist := (table{,table})
```

mapname は、以前に mapping load または mapping select ステートメントで読み取られているマッピングテーブルの名前です (*Mapping* (322 ページ) を参照してください)。

個々のコメントを設定するには次の構文を使用します。

```
comment tables tablename with comment
```

ここで

tablename は、コメントするテーブルの名前です。

comment は、テーブルに追加するコメントです。

例 1:

```
Commentmap:  
mapping Load * inline [  
  a,b  
  Main,This is the fact table  
  Currencies, Currency helper table  
];  
comment tables using commentmap;
```

例 2:

```
comment table Main with 'Main fact table';
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Concatenate

連結される2つのテーブルに異なる項目(207ページ)のセットが存在する場合に、**Concatenate** プレフィックスを使用すると2つのテーブルを強制的に *concatenation* できます。このステートメントは、既存の指定されたテーブルまたは最後に作成された *logical table* と強制的に連結します。連結は原則的に SQL UNION ステートメントと同じですが、2つの相違点があります。まず、**Concatenate** プレフィックスは、テーブルに同一の項目名が含まれているかどうかに関わらず使用できます。また、同一のレコードは削除されません。LOAD ステートメントに DISTINCT 述語が使用されている場合、生成される表は明確になります。データが連結されているか、結合されているかを問わず、テーブルに追加されたデータも明確になります。

構文は次のとおりです。

```
concatenate、連結 [ (tablename) ] ( loadstatement | selectstatement )
```

例：

```
Concatenate LOAD* FROM file2.csv;
Concatenate SQL SELECT * FROM table3;
tab1:
Load * from file1.csv;
tab2:
load * from file2.csv;
.....
Concatenate (tab1) load * from file3.csv;
```

スクリプトのステートメントとキーワード(271ページ)に戻ります。

Connect

一般的なデータベースには、OLE DB/ODBC インターフェースからアクセスできます。ODBC では、まず、ODBC 管理者を使用してデータソースを指定する必要があります(Windows のコントロールパネルを参照)。どのデータベースを使用するかは、QlikView で **CONNECT** ステートメントによって定義します。構文は次のとおりです。

```
ODBC CONNECT TO connect-string [ ( access_info ) ]
```

```
OLEDB CONNECT TO connect-string [ ( access_info ) ]
```

```
CUSTOM CONNECT TO connect-string
```

ここで

```
connect-string ::= datasourcename { ;conn-spec-item }
```

接続文字列は、データソースの名前と、1つ以上の接続指定アイテムのオプションリストです。データソース名に空白が含まれる場合または接続指定アイテムがリストされる場合は、接続文字列を スクリプトでの引用符(358ページ)で囲む必要があります。

datasourcename は定義された ODBC データソース、あるいは OLE DB プロバイダを定義する文字列でなくてはなりません。

```
conn-spec-item ::= DBQ=database_specifier | DriverID=driver_specifier | UID=userid |
PWD=password
```

使用できる接続指定アイテムは、データベースによって異なります。上記以外のアイテムを使用できるデータベースもあります。OLE DB では一部の接続特有の項目は必須で、オプションではありません。

```
access_info ::= access_item { , access_item }
```

```
access_item ::= ( userid is userid | xuserid isscrambledusername ) | ( password is
password | xpassword isscrambledpassword ) | codepage is codepageID | mode iswrite
```

```
codepageID ::= ansi|oem|unicode| codepagenumber
```

connect ステートメントが付属のウィザードで生成され、ユーザー プロパティ (85 ページ) ページの **データベース接続の認証情報を暗号化する** チェックボックスがオンの場合、ユーザー ID とパスワードは、暗号化された **xuserid is / xpassword is** 構文で生成されます。connect ステートメントを入力する場合は、暗号化されない **userid is / password is** 構文を使用してユーザー ID とパスワードを指定する必要があります。**OLEDB connect** スクリプトの一部が暗号化できないため、現時点では、完全な暗号化は **ODBC connect** ステートメントでのみ使用できます。暗号化は単なる認証情報の曖昧化であり、適切なセキュリティ対策ではない点に留意してください。

codepage is 指定子は、特定の ODBC/OLE DB ドライバで各国語文字の問題が発生する場合に使用できます。

access_info で **mode is write** を指定すると、接続は読み取り/書き込みモードで開かれます。それ以外のすべての場合では、接続は読み取り専用で開かれます。

ODBC を **CONNECT** の前に置くと、ODBC インターフェースが使用され、そうでない場合は、OLE DB が使用されます。

例 :

```
ODBC CONNECT TO 'Nwind;
DBQ=C:\Program Files\Access\Samples\Northwind.mdb' (UserID is sa,
Password is admin);
```

このステートメントで定義されるデータソースは、新しい **CONNECT** ステートメントが実行されるまで、後続の *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントで使用されます。

32 ビットプロバイダを使用するか 64 ビットプロバイダを使用するか、connect ステートメントがデータベースに接続する方法は、起動している Windows と QlikView のバージョンによって決定されます。

Windows	QlikView	Connect ステートメント	結果
64-bit	64-bit	connect	64-bit ODBC 使用
64-bit	64-bit	connect32	32-bit ODBC 使用
64-bit	64-bit	connect64	64-bit ODBC 使用
64-bit	32-bit	connect	32-bit ODBC 使用

64-bit	32-bit	connect32	32-bit ODBC 使用
64-bit	32-bit	connect64	64-bit ODBC 使用
32-bit	32-bit	connect	32-bit ODBC 使用
32-bit	32-bit	connect32	32-bit ODBC 使用
32-bit	32-bit	connect64	スクリプト エラー

Connect32

このステートメントは **Connect** ステートメントと同じ方法で使用されますが、64 ビットシステムを強制して 32 ビット ODBC/OLEDB プロバイダを使用します。カスタム接続には適用されません。

Connect64

このステートメントは **Connect** ステートメントと同じ方法で使用されますが、64 ビットプロバイダを強制的に使用します。カスタム接続には適用されません。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Crosstable

クロステーブルは、ヘッダー データが直交する 2 つ以上のリストに値のマトリックスを持つ一般的なテーブルの種類です。このうちのひとつは列ヘッダーとして使われます。典型的な例では、1 ヶ月ごとにひとつの列が使用されます。クロス テーブルをストレート テーブルに変換するには、**crosstable** プレフィックスを使用します。その結果、列ヘッダー (月の名前など) がひとつの項目 (属性項目) に保存され、列のデータ (月の数) は 2 番目の項目 (データ項目) に保存されます。

構文は次のとおりです。

```
crosstable ( attribute field name, data field name [ , n ] ) (
loadstatement | selectstatement )
```

ここで

attribute field name は、属性値が格納されている項目です。

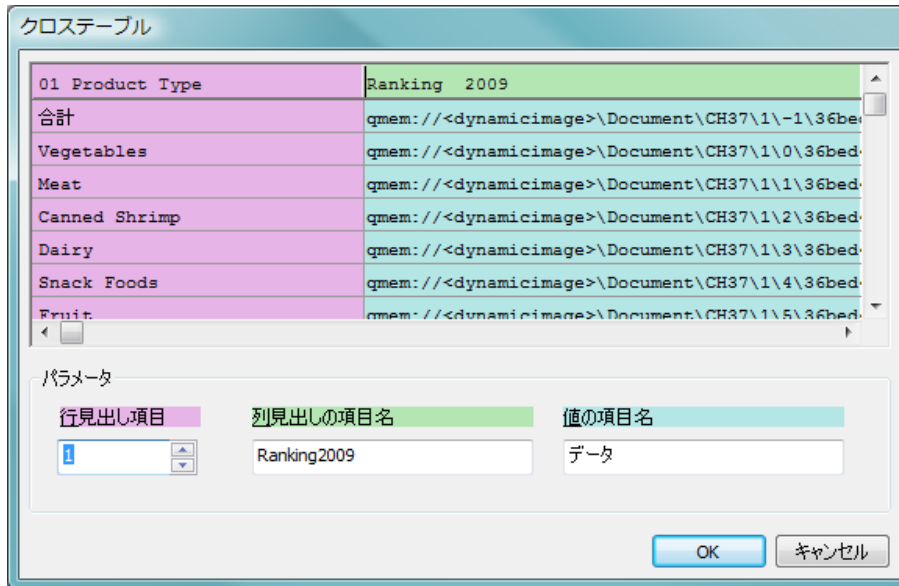
data field name は、データ値が格納されている項目です。

n は、汎用的な形式に変換されるテーブルに先行する修飾子項目の数です。デフォルトは 1。

例:

```
Crosstable (Month, Sales) Load * from ex1.csv;
Crosstable (Month,Sales,2) Load * from ex2.csv;
Crosstable (A,B) Select * from table3;
```

クロステーブルウィザード



クロステーブルウィザード

クロステーブルウィザードは、ダイアログ形式で `crosstable` ステートメントを作成します。このダイアログは、**ファイルウィザード**の**オプション**ページで**クロステーブル**ボタンをクリックすると開きます。クロステーブルウィザードには次のオプションがあります。

- 行見出し項目** 変換後に項目に先行する行見出しとする項目の数。
- 列見出しの項目名** 変換後に列見出しとなる項目 (属性値) すべてを含む新しい項目の名前。
- 値の項目名** 列見出しとなる項目のデータを含む新しい項目の名前。

Direct Query

DIRECT QUERY ステートメントを使用すると、*ODBC* または *Direct Discovery (193 ページ)* 機能を使っている OLE DB 接続を介して、テーブルをリンクできます。

```
DIRECT QUERY DIMENSIONfieldlist [MEASURE fieldlist] [DETAIL fieldlist] ] [DETACH
fieldlist]FROM tablelist
[WHERE where_clause]
```

DIMENSION、MEASURE および DETAIL のキーワードを、任意の順序で使用できます。

DIMENSION および FROM のキーワードの条件節は、すべての DIRECT QUERY ステートメントで必要です。FROM キーワードは DIMENSION キーワードの前に表示する必要があります。

注：STALE キーワードはもう、Direct Query 構文には存在しません。Direct Discovery クエリ結果のキャッシュ制限は、*DirectCacheSeconds (291 ページ)* スクリプト変数によって設定されます。

DIMENSION キーワードの直後に指定されている項目はメモリにロードされて、インメモリデータと Direct Discovery データ間を関連付けるために使用できます。

注：

DIRECT QUERY ステートメントには、**DISTINCT** または **GROUP BY** 条件節には含まれません。

MEASURE キーボードを使用して、**DIMENSION** キーワードの後にリストされているリンクされた項目以外で、QlikView でどの項目を利用するか定義できます。MEASURE 項目は、「メタレベル」で認識されます。MEASURE の項目値は、データベースにのみあります。

tablelist は、データのロード元となるデータベースのテーブル名またはビュー名のリストです。一般的には、データベース上で実行された JOIN が含まれるビューとなります。

通常、dimension として使用されることになる、不連続値を含む項目は、DIMENSION キーワードでロードする必要がありますが、集計関数においてのみ使用する数値は、MEASURE キーワードと一緒に選択する必要があります。

DETAIL 項目は、ユーザーが detail データをドリルするテーブルボックスでの表示を望む「コメント」項目といった、情報や detail データを提供します。DETAIL 項目は、チャート式では使用できません。

DETACH 項目は DIMENSION 項目と似ていますが、リストボックスやチャートで DETACH を選択しているときに、クエリを関連付けないといった場合を除きます。以下に例を挙げます。

```
Direct Query

    DIMENSION A
    MEASURE X, Y, Z
    DETACH B, C

From MySalesTable;
```

この例では、B と C 項目のリストボックスの色は灰色で、これらリストボックスには緑と白の選択は表示されていません。MEASURE A を含むリストボックスとチャートのみが、選択されると更新されます。

例：

この例では、項目 Dim1、Dim2、Num1、Num2 および Num3In を含む TableName と呼ばれるデータベースのテーブルが、使用されています。Dim1 と Dim2 が QlikView のデータセットにロードされます。

```
DIRECT QUERY DIMENSTION Dim1, Dim2 MEASURE Num1, Num2, Num3 FROM TableName
```

Dim1 と Dim2 が dimension として使用できます。Num1、Num2 および Num3 は、集計関数の QlikView で利用できます。Dim1 と Dim2 も集計関数で利用できます。Dim1 と Dim2 の集計関数の種類は、データ型によって異なります。例えば、多くの場合、DIMENSION 項目には、名前やアカウント番号といった文字列データが含まれています。これらデータは合計できませんが、数えることは可能です。count(Dim1)。

注：

DIRECT QUERY ステートメントは、編集スクリプトダイアログボックスに直接書き込まれます。これらステートメントは、SELECT ステートメントのように、SELECT ステートメントの作成のダイアログボックスで生成されません。DIRECT QUERY ステートメントの構文の簡素化のために、SELECT ステートメントの作成のダイアログボックスで SELECT ステートメントを生成して、その生成されたスクリプトを編集して、DIRECT QUERY ステートメントに変更することができます。

例えば、SELECT ステートメントは次の通りです：

```
SQL SELECT
  SalesOrderID、
  RevisionNumber、
  OrderDate、
  SubTotal
  TaxAmt
FROM AdventureWorks.Sales.SalesOrderHeader;
```

は次の DIRECT QUERY ステートメントに変更できます：

```
DIRECT QUERY
  DIMENSION (DIMENSION)
    SalesOrderID、
    RevisionNumber、

  MEASURE
    SubTotal
    TaxAmt

  DETACH
  OrderDate、
FROM AdventureWorks.Sales.SalesOrderHeader
```

項目リスト

項目リストは、項目指定 *fieldname {, fieldname}* のカンマ区切りのリストです。項目指定は項目名で、データベースの列名と QlikView の項目名で同じ名前が使用される場合があります。あるいは、項目指定が「項目エイリアス」の場合があります。この場合、データベースの数式や列名は、QlikView の項目名が与えられます。

項目名は、簡易設定の名前か引用符で囲まれた名前のどちらかになります。簡易設定の名前の場合、アルファベット順の Unicode 文字から始まり、アルファベット、数字、アンダースコアの組み合わせが続きます。引用符で囲まれた名前の場合、二重引用符から始まり、連続した文字が含まれます。引用符で囲まれた名前に、二重引用符が含まれている場合、2 つの隣接する二重引用符を使って引用符を表します。

QlikView の項目名は大文字と小文字の区別をします。しかしデータベースの項目名は、データベースによって大文字と小文字を区別する場合と、そうでない場合とに分かれます。Direct Discovery Query は、項目の識別子や別名のすべての大文字と小文字の区別を保存しています。以下の例では、エイリアスの「MyState」は、データベースの列「STATEID」のデータを保存するために、内部で使用されています。

```
DIRECT QUERY Dimension STATEID as MyState Measure AMOUNT from SALES_TABLE;
```

これは、エイリアスを含む SQL SELECT ステートメントの結果とは異なります。エイリアスが明示的に引用符で囲まれていない場合、結果には、対象のデータベースによって返された列の大文字と小文字の既定の区別が含まれています。以下の例では、Oracle データベースに対する SQL SELECT ステートメントは、大文字と小文字の混合のエイリアスと指定されているにも関わらず、QlikView の内部エイリアス

スとして、すべて大文字の「MYSTATE」を作成します。SQL SELECT ステートメントは、Oracle のケースがすべて大文字に設定されているデータベースによって返される列名を使用します。

```
SQL Select STATEID as MyState, STATENAME from STATE_TABLE;
```

このようなビヘイビアを回避するために、エイリアスを指定する Load ステートメントを使用してください。

```
Load STATEID as MyState, STATENAME;
```

```
SQL Select STATEID, STATEMENT from STATE_TABLE;
```

この例では、「STATEID」列は、「MyState」として QlikView によって内部で保存されています。

ほとんどのデータベースのスカラー式は、項目指定として許可されています。関数呼び出しも、項目指定で使用できます。数式には、一重引用符に囲まれたブール値や数値、文字列である定数が含まれています (埋め込まれた一重引用符は隣接する一重引用符によって表されます)。

例：

```
DIRECT QUERY DIMENSION SalesOrderID, RevisionNumber MEASURE SubTotal AS
"Sub Total" FROM AdventureWorks.Sales.SalesOrderHeader
```

```
DIRECT QUERY DIMENSION "SalesOrderID" AS "Sales Order ID" MEASURE
SubTotal,TaxAmt,(SubTotal-TaxAmt) AS "Net Total" FROM
AdventureWorks.Sales.SalesOrderHeader
```

```
DIRECT QUERY DIMENSION (2*Radius*3.14159) AS Circumference,
Molecules/6.02e23 AS Moles MEASURE Num1 AS numA FROM TableName
```

```
DIRECT QUERY DIMENSION concat(region, 'code') AS region_code MEASURE Num1
AS NumA FROM TableName
```

Direct Discovery は、ロード ステートメントでの集計関数の使用をサポートしていません。集計関数を使用する場合、結果を予測することはできません。以下のようなロード ステートメントを使用しないでください。

```
DIRECT QUERY DIMENSION stateid, SUM(amount*7) AS MultiFirst MEASURE amount
FROM sales_table
```

ロード ステートメントの中に、SUM を入れるべきではありません。

Direct Discovery はまた、Direct Query ステートメントで QlikView 機能をサポートしていません。例えば、以下の DIMENSION 項目の指定は、「Mth (月)」の項目が、チャートの dimension として使用されている場合、失敗となります。

```
month(ModifiedDate) as Mth
```

native のデータソース構文

DIRECT QUERY ステートメントは設計上、SQL をサポートするデータソースにとって中立的なデータソースです。よって、同じ DIRECT QUERY ステートメントは、変更することなく、異なる SQL データベースに使用できます。Direct Discovery は、必要に応じてデータベースに適したクエリを生成します。

native のデータソース構文が使用されるのは、ユーザーがクエリを実行するデータベースを知り、データベース固有の SQL に対する拡張子を有効活用したい場合です。native のデータソース構文は、以下に対応しています。

- DIMENSION および MEASURE の条件節の項目式として
- WHERE 句のコンテンツとして

例：

```
DIRECT QUERY

    DIMENSION Dim1, Dim2
    MEASURE

        NATIVE ('X % Y') AS X_MOD_Y

    FROM TableName

DIRECT QUERY

    DIMENSION Dim1, Dim2
    MEASURE X, Y
    FROM TableName
    WHERE NATIVE ('EMAIL MATCHES "\*.EDU"')
```

テーブル名

FROM キーワードで指定されたデータベースのテーブル名は、ピリオドで区切られた項目名 (複数可) で構成されています。簡易設定の名前および引用符で囲んだ名前の両方が可能です。テーブル名が大文字と小文字の区別をしているか否かは、データベースによって異なります。

Where 条件式

データベースの WHERE 句の全構文はここでは定義されていません。しかしほとんどの SQL 「リレーショナル式」は、関数呼び出し、文字列の LIKE 演算子、IS NULL と IS NOT NULL、および IN を含め、可能です。BETWEEN は含まれていません。

NOT は単項演算子で、特定のキーワードの修飾子とは反対です。

例：

```
WHERE x > 100 AND "Region Code" IN ('south', 'west')
WHERE Code IS NOT NULL and Code LIKE '%prospect'
WHERE NOT X in (1,2,3)
```

この最後の例は、以下のように書くことはできません。

```
WHERE X NOT in (1,2,3)
```

制限されている用語

以下の用語はキーワードとして用いられるので、引用符で囲まないで列や項目名として使用することはできません。

- and
- as
- detach
- detail
- dimension
- distinct
- from
- in
- is
- like

- measure
- native
- not
- or
- where

Direct Discovery システム変数

DirectCacheSeconds

チャートのDirect Discovery のクエリ結果にキャッシュ制限を設定できます。制限時間に達した場合、Direct Discovery の新たなクエリを実行すると、QlikView Server がキャッシュをクリアします。QlikView は選択のためにソースデータのクエリを実行して、指定した時間制限に沿ったキャッシュが再度作成されます。選択の各組み合わせの結果は、個別にキャッシュされます。つまり、キャッシュは個別に各選択に合わせて更新されます。1 番目の選択は、選択された項目のみのキャッシュを更新し、2 番目の選択が関連項目のキャッシュを更新します。2 番目の選択に、最初の選択で更新された項目が含まれている場合、キャッシュ制限に達しなかったときに、再びキャッシュが更新されることはありません。

Direct Discovery のキャッシュは、テーブルボックスには当てはまりません。テーブルボックスの選択は、毎回データソースのクエリを実行します。

制限値は、秒単位で設定する必要があります。既定のキャッシュ制限は、1800 秒 (30 分) です。

DirectCacheSeconds で使用される値は、DIRECT QUERY ステートメントが実行された時に設定された値です。値は、ランタイムで変更できません。

```
SET DirectCacheSeconds=1800
```

DirectConnectionMax

接続プーリング機能を使用することで、データベースへの非同期の同時呼び出しを行うことができます。プール能力を設定するロード スクリプト構文は以下のとおりです。

```
SET DirectConnectionMax=10
```

数値の設定は、シート オブジェクトの更新中に Direct Discovery コードが使用する、データベース接続の最大数を指定します。既定の設定は 1 です。

注：

この変数を設定する場合、注意を要します。1 以上の変数を設定すると、MS SQL Server への接続時に問題が起きることが確認されています。

以前リリースされた Direct Discovery でのこの変数の名前は、「LinkedConnectionMax」で、既定数は 4 です。

DirectUnicodeStrings

Direct Discovery は、一部のデータベース (特に SQL Server) で必要とされている場合、拡張された文字列リテラル向けに SQL 標準形式を使用して拡張 Unicode データの選択をサポートできます。この構文の使用は、スクリプト変数が DirectUnicodeStrings の Direct Discovery で有効にできます。

この変数を true に設定すると、文字列リテラルの前で ANSI の標準ワイド文字マーカー「N」を使用できるようになります。すべてのデータベースがこの標準に対応しているわけではありません。既定の設定は false です。

DirectDistinctSupport

QlikView オブジェクトで DIMENSION の項目値が選択されると、ソースのデータベースのクエリが生成されます (「*Direct Discovery とインメモリデータとの違い (200 ページ)*」を参照してください)。クエリがグループ化を必要としている場合、Direct Discovery は DISTINCT キーワードを使用して、ユニーク値のみを選択します。しかし一部のデータベースは、キーワードによる GROUP を必要としています。DirectDistinctSupport を "false" に設定し、ユニーク値のクエリで、DISTINCT の代わりに GROUP BY を生成します。

```
SET DirectDistinctSupport=false
```

DirectDistinctSupport を true に設定すると、DISTINCT が使用されます。DirectDistinctSupported を設定しない場合、既定の動作は DISTINCT を使用します。

Direct Discovery 文字変数

DirectFieldColumnDelimiter

項目の区切り記号としてカンマ以外の文字を必要とするデータベース向けに、Direct Discovery ステートメントで項目の区切り記号として使用する文字を設定できます。指定された文字は、SET ステートメントで一重引用符によって囲む必要があります。

```
SET DirectFieldColumnDelimiter= '|'
```

DirectStringQuoteChar

生成されたクエリの文字列を引用符で囲むために使用される文字を指定することができます。既定は、一重引用符です。指定された文字は、SET ステートメントで一重引用符によって囲む必要があります。

```
SET DirectStringQuoteChar= '"'
```

DirectIdentifierQuoteStyle

生成したクエリで、識別子の非 ANSI 引用の使用を指定できます。この時、非 ANSI 引用が利用できるのは、GoogleBQ のみです。デフォルトは ANSI です。大文字、小文字、混合ケースが使用できます (ANSI, ansi, Ansi)。

```
SET DirectIdentifierQuoteStyle="GoogleBQ"
```

例えば、下記の SELECT ステートメントで、ANSI 引用が使用されています。

```
SELECT [Quarter] FROM [qvTest].[sales] GROUP BY [Quarter]
```

DirectIdentifierQuoteStyle が "GoogleBQ" に設定されると、SELECT ステートメントが下記のように引用を使用します。

```
SELECT [Quarter] FROM [qvTest.sales] GROUP BY [Quarter]
```

DirectIdentifierQuoteChar

生成されたクエリで、識別子の引用を制御するための文字を指定できます。1文字 (二重引用符など) あるいは2文字 (一組の角括弧など) に設定できます。既定は、二重引用符です。

```
SET DirectIdentifierQuoteChar='YYYY-MM-DD'
```

DirectTableBoxListThreshold

Direct Discovery 項目がテーブルボックスで使用されると、表示される列数の制限を設定するために、閾値が設定されます。既定の閾値は 1000 レコードです。を設定すると、既定の閾値設定を変更できます。ロードスクリプトの **DirectTableBoxListThreshold** 変数以下に例を挙げます。

```
SET DirectTableBoxListThreshold=5000
```

閾値の設定は、Direct Discovery 項目を含むテーブルボックスにのみ適用されます。インメモリ項目のみを含むテーブルボックスは、**DirectTableBoxListThreshold** 設定による制約は受けません。

選択が、閾値の制限より少ないレコード数しかない場合、テーブルボックスにはいずれの項目も表示されません。

Directory

Load (313 ページ) ステートメントでは、ファイルを検索するためのディレクトリを定義する **directory** ステートメントを前に置くことができます。

directory *path*

ここで

path は、ファイルへのパスとして解釈されるテキストで、qvw ファイルへの絶対パスまたは相対パスです。

例 :

```
Directory c:\userfiles\data;
```

このステートメントで定義されるディレクトリは、新しい **directory** ステートメントが実行されるまで、後続の *Load* (313 ページ) ステートメントで使用されます。

[ロード スクリプトの編集] ダイアログで **相対パス** を有効にすると **directory** ステートメントが自動的に生成されます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Disconnect

現在の ODBC/OLEDB/カスタム接続を終了します。このステートメントはオプションです。新しい **connect** ステートメントが実行されるときまたはスクリプトの実行が終了したときに接続は自動的に終了します。構文は次のとおりです。

disconnect

例 :

```
disconnect;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Do..loop

do..loop 制御ステートメントはスクリプト変換構文で、論理条件が満たされるまで、ひとつまたは複数のステートメントを実行します。構文は次のとおりです。

```
do [ ( while | until ) condition ] [statements]  
[exit do [ ( when | unless ) condition ] [statements]  
loop [ ( while | until ) condition ]
```

ここで

condition は、true または false を評価する論理式です。

statements は、1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

while または **until** 条件句は、**do..loop** ステートメントに 1 つだけ置けます。つまり、**do** の後か **loop** の後のいずれかです。各 *condition* は、初めて出現したときのみ解釈されますが、ループ内で出現するたびに評価されます。

exit do 句が loop 内で出現した場合、スクリプトの実行は loop の終了を示す **loop** 句の後の最初のステートメントに移ります。オプションの **when** または **unless** サフィックスを使用すると、**exit do** 句を条件付きにできます。

do..loop ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 3 つの句 (**do**、**exit do**、および **loop**) が、行をまたぐことはできません。

例 :

```
// file1.csv ~ file9.csv のファイルをロードする
Set a=1;
Do while a<10
Load * from file$(a).csv;
Let a=a+1;
ループ
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Drop Field

drop field ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中にいつでもデータ モデルおよびメモリから 1 つ以上の QlikView 項目を削除できます。

構文は次のとおりです。

```
drop field [ s ] fieldname [ , fieldname2 ... ] [ from tablename1 [ , tablename2 ... ] ]
```

drop field と **drop fields** は、どちらも使用でき、結果は同じです。

テーブルが指定されていない場合は、その項目が存在するすべてのテーブルから項目が削除されます。

例 :

```
drop field A;
drop fields A,B;
drop field A from X;
drop fields A,B from X,Y;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Drop Table

drop table ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中にいつでもデータ モデルおよびメモリから1つ以上の QlikView 内部テーブルを削除できます。この結果として削除されるアイテムは以下の通りです。

- 実際のテーブル
- 削除されずに残る テーブルに属さないすべての項目
- 削除されずに残る項目に、削除されるテーブルから排他的に生じた項目値。

構文は次のとおりです。

```
drop table [ s ] tablename [, tablename2 ...]
```

drop table と **drop tables** は、どちらも使用できます。

例 :

```
drop table Orders, Salesmen, T456a;
```

この1行でテーブル3つがメモリから削除されます。

Tab1:

```
SQL SELECT * FROM Trans;  
LOAD Customer, Sum( sales ) resident Tab1 group by Month;  
drop table Tab1;
```

この結果として、メモリには集計値だけが残ります。*Trans* のデータは削除されます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Execute

Execute ステートメントを使用すると、QlikView ロード スクリプトの再実行中、例えば変換が必要な場合に、他のプログラムを実行できます。

構文は次のとおりです。

```
execute commandline
```

ここで

commandline は、オペレーティング システムがコマンドラインとして解釈するテキストです。

例 :

```
Execute C:\Program Files\Office12\Excel.exe;  
Execute winword macro.doc;  
Execute cmd.exe /C C:\BatFiles\Log.bat
```

注意!

/C は cmd.exe のパラメータですので、必ず含めて下さい。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Exit Script

exit script 制御ステートメントは、スクリプトの実行を停止します。スクリプト内の任意の場所に挿入できます。オプションの when または unless 句を使用すると、exit script ステートメントを条件付きにできます。構文は次のとおりです。

```
exit script [ (when | unless) condition ]
```

ここで

condition は、true または false を評価する論理式です。

exit script ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わるため、行をまたぐことはできません。

例 :

```
exit script
exit script;
exit script when a=1
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

First

Load (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの **First** プレフィックスは、レコードの長さに関係なく、設定した最大レコード件数のみをデータソースからロードするために使用されます。

構文は次のとおりです。

```
first n ( loadstatement | selectstatement )
```

ここで

n は、読み取る最大レコード件数を示す整数を評価する任意の数式です。

例 :

```
First 10 LOAD * FROM abc.csv;
First (1) SQL SELECT * FROM Orders; (注意: かっちはオプションです。)
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

For..next

for..next 制御ステートメントは、カウンタ付きのスクリプト反復構文です。**for** と **next** で囲まれたループ内のステートメントは、指定された上限と下限の間のカウンタ変数の各値分実行されます。構文は次のとおりです。

```
forcounter = expr1 to expr2 [ step expr3 ]
```

```
[statements]
```

```
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
```

```
[statements]
```

```
next [counter]
```


ここで

counter は変数名です。 *counter* が **next** の後に指定されている場合は、対応する **for** の後に検出されるものと同じ変数名である必要があります。

expr1 は、ループが実行される *counter* 変数の最初の値を判定する数式です。

expr2 は、ループが実行される *counter* 変数の最後の値を判定する数式です。

expr3 は、ループが実行されるたびに *counter* 変数の増分を示す値を判定する数式です。

condition は、true または false を評価する論理式です。

statements は、1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

数式 *expr1*、*expr2*、および *expr3* は、ループに入る最初のときのみ評価されます。 *counter* 変数の値をループ内のステートメントで変更できますが、これは良いプログラミングとは言えません。

exit for 句が loop 内で出現した場合、スクリプトの実行は loop の終了を示す **next** 句の後の最初のステートメントに移ります。 オプションの **when** または **unless** サフィックスを使用すると、**exit for** 句を条件付きにできます。

for..next ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 3 つの句 (**for..to..step**、**exit for** および **next**) は行をまたぐことはできません。

例 :

```
// file1.csv ~ file9.csv のファイルを読み取る
FOR a=1 to 9
LOAD * FROM file$(a).csv;
NEXT

FOR counter=1 to 9 step 2
SET filename=x$(counter).csv;
IF rand( )<0.5 THEN
EXIT For Unless counter=1
END IF
LOAD a,b FROM $(filename);
NEXT
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

For each..next

for each..next 制御ステートメントは、カンマ区切りリストの各値で 1 つ以上のステートメントを実行するスクリプト反復構文です。 **for** と **next** で囲まれたループ内のステートメントは、リストの各値分実行されます。 特殊構文で現在のディレクトリ内のファイルとディレクトリの名前のリストを生成できます。 構文は次のとおりです。

```
for each var in list
[statements]
[exit for [ ( when | unless ) condition ]
```

```
[statements]
```

```
next [var]
```

ここで

var は、ループの実行のたびに *list* から新しい値を取得するスクリプト変数名です。*var* が **next** の後に指定されている場合は、対応する **for each** の後に検出されるものと同じ変数名である必要があります。

```
list := item { , item }
```

```
item := constant | (expression) | filelistmask | dirlistmask
```

constant は任意の数字または文字列です。スクリプトに直接書き込まれた文字列はシングルクォートで囲む必要がある点に留意してください。シングルクォートのない文字列は変数として解釈され、変数の値が使用されます。数字はシングルクォートで囲む必要はありません。

expression は任意の式です。

mask は、有効なファイル名の文字および標準のワイルドカード文字 * と ? を含むファイル名またはディレクトリ名のマスクです。

注意!

'*.xls' のようにワイルドカードのマスクを使用すると、xls を含む拡張子 (.xls など) を持つファイルもファイルのリストに含まれます。

condition は、true または false を評価する論理式です。

statements は、1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

filelistmask 構文は、ファイル名のマスクに一致する現在のディレクトリのすべてのファイルのカンマ区切りリストを生成します。**dirlistmask** 構文は、ディレクトリ名のマスクに一致する現在のディレクトリのすべてのディレクトリのカンマ区切りリストを生成します。

var 変数の値をループ内のステートメントで変更できますが、これは良いプログラミングとは言えません。

exit for 句が loop 内で出現した場合、スクリプトの実行は loop の終了を示す **next** 句の後の最初のステートメントに移ります。オプションの **when** または **unless** サフィックスを使用すると、**exit for** 句を条件付きにできます。

for each..next ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終了するため、使用可能な 3 つの句 (**for each**、**exit for** および **next**) は行をまたぐことはできません。

例 :

```
FOR Each a in 1,3,7,'xyz'
LOAD * FROM file$(a).csv;
NEXT

// list all QV related files on disk
SUB DoDir (Root)
```

```

FOR Each Ext in 'qvw', 'qva', 'qvo', 'qvs'
    FOR Each File in filelist (Root&' \*.'&Ext)
        LOAD

            '$(File)' as Name,
            FileSize( '$(File)' ) as Size,
            FileTime( '$(File)' ) as FileTime
            autogenerate 1;

    NEXT File
NEXT Ext

FOR Each Dir in dirlist (Root&' \*' )
    call DoDir (Dir)
NEXT Dir

ENDSUB
CALL DoDir ('C:')

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻ります。

Force

force ステートメントによって、QlikView は、後続の *Load* (313 ページ) および *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの項目値を大文字のみ、小文字のみ、常に先頭を大文字化、またはそのまま (混合) として強制的に解釈します。このステートメントを使用すると、異なる表記規則に従って作成されたテーブルの項目値を関連付けられます。

構文は次のとおりです。

```
force ( capitalization | case upper | case lower | case mixed )
```

例 :

```

Force Capitalization;
Force Case Upper;
Force Case Lower;
Force Case Mixed;

```

何も指定されない場合、**force** は大文字と小文字を混在させると見なされます。**force** ステートメントは、新しい **force** ステートメントが実行されるまで有効です。

force ステートメントは、ロードされるすべての項目値で大文字と小文字が区別されるアクセス セクションでは効果がありません。

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Generic

汎用データベースの解凍とロードは、**generic** プレフィックスで実行できます。汎用データベースに関する説明は、QlikView リファレンス マニュアル を参照してください。汎用データベースに関する説明は、ロードされたデータの評価 (473 ページ) の汎用データベース を参照してください。

generic ステートメントでロードされたテーブルは、自動連結できません。

構文は次のとおりです。

```
Generic ( loadstatement | selectstatement )
```

例 :

```
Generic LOAD * FROM abc.csv;  
Generic SQL SELECT * FROM table1;
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Hierarchy

hierarchy プレフィックスは、階層テーブルを QlikView データ モデルで有用なテーブルに変換するために使われます。

Load または **Select** ステートメントの前に入れることができ、ロード ステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

入力テーブルは、隣接ノードテーブルである必要があります。

通常隣接するノードテーブルは、それぞれのレコードがノードと一致し、親ノードへのリファレンスを含む項目を持つテーブルです。このようなテーブルではノードは 1 つのレコードにのみ記録されますが、子供をいくつでも持つことができます。テーブルには、もちろんノードの属性を記述する追加項目が含まれるかもしれません。

プレフィックスにより展開ノードテーブルが作成されます。そのレコード数は通常、入力テーブルと同じですが、階層の各レベルがさらに別個の項目に格納されます。展開されたノード テーブルのレベルは、ピボットテーブルやツリー構造で使用するパス フィールドなどで簡単に使えます。隣接するノードテーブルと展開ノードテーブルに関する詳細は、QlikView リファレンス マニュアルの 階層 を参照してください。隣接するノードテーブルと展開ノードテーブルに関する詳細は、ロードされたデータの評価 (473 ページ) の 階層 を参照してください。

通常、入力テーブルはノードごとにレコードがひとつで、その場合の出力テーブルには同じ数のレコードが含まれます。しかし、時に複数の親を持つノードがあり、1 つのノードが入力テーブルの複数のレコードで表されることがあります。その場合、出力テーブルのレコード数は入力テーブルよりも多くなります。

nodeid 列で見つからない parent id のあるノードはすべて (parent id がいないノードも含まれます)、ルートとみなされます。また、直接でも間接でもルート ノードにつながるノードのみがロードされ、循環参照を回避します。

親ノードのノード名とノードのパス、ノードのレベルを含む追加項目を作成できます。

構文は次のとおりです。

```
Hierarchy (NodeID, ParentID, NodeName, [ParentName], [PathSource],
[PathName], [PathDelimiter], [Depth]) (loadstatement |
selectstatement)
```

ここで

NodeID は node id が含まれている項目名です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

ParentID は、親ノードのノード ID を含む項目の名前です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

NodeName は、ノードの名前を含む項目の名前です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

ParentName は、新しい **ParentName** 項目の名前に使われる文字列です。省略するとこの項目は作成されません。

PathSource は、ノードのパスを構築するために使用されるノードの名前を含む項目の名前です。このパラメータはオプションです。省略すると **NodeName** が使われます。

PathName は、新しい **パス** 項目の名前に使われる文字列で、ルートからノードへのパスを含みます。このパラメータはオプションです。省略するとこの項目は作成されません。

PathDelimiter は、新しい **Path** 項目に区切り文字として使われる文字列です。このパラメータはオプションです。省略すると '/' が使われます。

Depth は、新しい **Depth** 項目の名前に使われる文字列で、階層のノードのレベルを含みます。このパラメータはオプションです。省略するとこの項目は作成されません。

例 :

```
Hierarchy(NodeID, ParentID, NodeName) LOAD
NodeID,
ParentID,
NodeName,
属性
FROM data.xls (biff, embedded labels, table is [Sheet1$]);
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

HierarchyBelongsTo

hierarchybelongsto プレフィックスは、階層テーブルを QlikView データ モデルで有用なテーブルに変換するために使われます。

Load または **Select** ステートメントの前に入れることができ、ロード ステートメントの結果をテーブル変換の入力として使用します。

入力テーブルは、隣接ノードテーブルである必要があります。

通常隣接するノードテーブルは、それぞれのレコードがノードと一致し、親ノードへのリファレンスを含む項目を持つテーブルです。このようなテーブルでノードは 1 つのレコードにのみ記録されますが、子供をいくつでも持つことができます。テーブルには、もちろんノードの属性を記述する追加項目が含まれるかもしれません。隣接するノードテーブルと展開ノードテーブルに関する詳細は、QlikView リ

ファレンス マニュアルの 階層 を参照してください。隣接するノードテーブルと展開ノードテーブルに関する詳細は、ロードされたデータの評価 (473 ページ) の 階層 を参照してください。

プレフィックスは、階層における先祖 (ancestor) と子供の間をすべて含むテーブルを作成します。先祖 (ancestor) 項目は階層のツリー全体を選択するのに使用できます。ほとんどの場合、出力テーブルにはノードごとに複数のレコードが含まれています。

レベルの違うノードを持つ追加項目が作成されます。

構文は次のとおりです。

```
HierarchyBelongsTo (NodeID, ParentID, NodeName, AncestorID, AncestorName, [DepthDiff]) (loadstatement | selectstatement)
```

ここで

NodeID は node id が含まれている項目名です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

ParentID は、親ノードのノード ID を含む項目の名前です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

NodeName は、ノードの名前を含む項目の名前です。この項目は入力テーブルになくてもなりません。

AncestorID は、新しい先祖 ID 項目の名前に使われる文字列で、先祖ノードの ID を含みます。

AncestorName は、新しい先祖項目の名前に使われる文字列で、先祖ノードの名前を含みます。

DepthDiff は、新しい **DepthDiff** 項目の名前に使われる文字列で、先祖ノードとの関係を示す階層におけるノードのレベルを含みます。このパラメータはオプションです。省略するとこの項目は作成されません。

例 :

```
HierarchyBelongsTo (NodeID, ParentID, Node, Tree, ParentName) LOAD
NodeID,
ParentID,
NodeName
FROM data.xls (biff, embedded labels, table is [Sheet1$]);
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

If..then..elseif..else..end if

if..then 制御ステートメントは、1 つ以上の論理条件に応じて異なるパスに従うようスクリプトの実行を強制するスクリプト選択構文です。構文は次のとおりです。

```
if condition then
```

```
[ statements ]
```

```
{ elseif condition then
```

```
[ statements ] }
```

```
[ else
```

```
[ statements ] ]
```

```
end if
```

ここで

condition は、true または false で評価できる論理式です。

statements は、1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

if..then ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 4 つの句 (**if..then**、**elseif..then**、**else**、および **end if**) は行をまたぐことはできません。

例 :

```
if a=1 then
load * from abc.csv;
sql select e, f, g from tab1;
end if

if a=1 then; drop table xyz; end if;

if x>0 then
load * from pos.csv;
elseif x<0 then
load * from neg.csv;
else
load * from zero.txt;
end if
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Image_size

この句は、データベース管理システムからの画像のサイズを変更して項目に合わせるために *Info* (303 ページ) プレフィックスとともに使用します。幅と高さはピクセルで指定します。

例 :

```
Info Image_size(122,122)Select ID, Photo From infotable;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Info

テキスト ファイル、画像、動画などの外部情報を項目値にリンクする場合は、**info** プレフィックスを使用してロードされたテーブルで行います。(qvw ファイル内に情報を保存したい場合は、*Bundle* (279 ページ) プレフィックスを使用します。) テーブルは 2 列だけで構成する必要があります。最初の列には情報のキーとなる項目値、2 つ目の列には画像のファイル名などの情報要素を格納します。

同じことが、例えば、データベース管理システムからの画像にも適用されます。バイナリ項目 BLOB では、**info select** ステートメントで **bundle** されます。つまり、バイナリデータは取得され、QVW ドキュメントの中に保存されます。バイナリデータは **select** 文の 2 つ目の項目であることが必要です。

構文は次のとおりです。

```
info ( loadstatement | selectstatement )
```

例 :

```
Info LOAD * FROM flagoecd.csv;
Info SQL SELECT * FROM infotable;
Info SQL SELECT Key, Picture FROM infotable;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Inner

Join (309 ページ) および *Keep* (309 ページ) プレフィックスの前に、プレフィックス **inner** を置くことができます。

join の前に使用すると、内部結合であることを指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は双方のテーブルに示されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に双方の生データテーブルが共通部分に縮小されます。

```
inner ( join | keep ) [ ( tablename ) ] ( loadstatement | selectstatement )
```

例 :

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
SQL SELECT * FROM table1;
inner join SQL SELECT * FROM table2;
```


QVTable

A	B	C
1	aa	xx

```
QVTab1:
SQL SELECT * FROM Table1;
QVTab2:
inner keep SQL SELECT * FROM Table2;
```

QVTab1

A	B
1	aa

QVTab2

A	C
1	xx

keep の例の 2 つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Inputfield

load または **select** ステートメントで参照される前に項目を **inputfield** ステートメントにリストすると、項目は入力フィールドとしてフラグを付けられます。

入力フィールドの動作は、通常の項目と異なる部分があります。最も重要な違いは、スクリプトを実行せずに対話形式またはプログラムで項目の値を変更できるということです。項目値は、load または select ステートメントで項目にロードする必要があります。スクリプトでロードされる各項目値は、項目値を置き換える値のプレースホルダを作成します。既存の項目値のみを対話形式またはプログラムで変更できます。置き換え値はユーザーによって異なります。たとえば、入力フィールドをサーバーで使用している場合、異なるユーザーには異なる入力フィールド値が表示されます。

入力フィールドでは、すべての項目値は、同じ値を持つ複数の項目がある場合でも **distinct** として処理されます。

構文は次のとおりです。

```
inputfieldfieldlist
```

**fieldlist* は、入力フィールドとしてフラグを付けられる項目のカンマ区切りのリストです。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

例 :

```
Inputfield B;
Inputfield A,B;
Inputfield B??x*;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

IntervalMatch

IntervalMatch プレフィックスを使用すると、不連続数値が 1 つ以上の数値間隔に一致するテーブルを作成できます。

これは、間隔をロードする *Load* (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの前に配置する必要があります。IntervalMatch プレフィックスのあるステートメントの前に、不連続データ点を含む項目 (以下の例では Time) が QlikView にすでにロードされていなくてはなりません。このプレフィックス自体は、データベース テーブルからこの項目を読み取りません。このプレフィックスは、ロードされた間隔テーブルを変換して追加行 (不連続数値データ点) を含むテーブルにします。また、新しいテーブルで不連続データ点と間隔の可能な組み合わせごとにレコードが 1 つ存在するようにレコード数を増やします。

間隔は重複することができ、不連続値は、すべての一致する間隔にリンクされます。

構文は次のとおりです。

```
intervalmatch (matchfield) (loadstatement | selectstatement )
```

matchfield は、間隔にリンクする不連続の数値を含む項目です。

loadstatement または *selectstatement* の結果は、2 列のテーブルである必要があり、1 つ目の項目には各間隔の下限、2 つ目の項目には各間隔の上限が格納されます。間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。数値以外の範囲では間隔が無視されます (未定義のままになります)。

1 つ以上の追加キー項目を含む IntervalMatch の拡張構文もあります。IntervalMatch (拡張構文) (308 ページ) を参照してください。

例 :

以下の 2 つのテーブルのうち、最初のテーブルはさまざまな注文 (Order) の製造の開始 (Start) と終了 (End) 時間を定義します。2 つ目のテーブルは、いくつかの個々のイベントを示します。IntervalMatch プレフィックスを使用すると、どの注文がイベントに影響されたか、どの注文がどのシフトで処理されたかを知るために 2 つのテーブルを論理的に接続することができます。

OrderLog

Start	End	Order
1:00	3:35	A
2:30	7:58	B
3:04	10:27	C

7:23 11:43 D

EventLog

Time	Event	Comment
0:00	0	Start of shift 1
1:18	1	Line stop
2:23	2	Line restart 50%
4:15	3	Line speed 100%
8:00	4	Start of shift 2
11:43	5	End of production

最初に、通常どおりに2つのテーブルをロードします。次に、*Time* 項目を *Start* 項目と *End* 項目で定義される時間の間隔にリンクします。

```
OrderLog:
LOAD * INLINE [
Start, End, Order
01:00, 03:35, A
02:30, 07:58, B
03:04, 10:27, C
07:23, 11:43, D
];
EventLog:
LOAD * INLINE [
Time, Event, Comment
00:00, 0, Start of shift 1
01:18, 1, Line stop
02:23, 2, Line restart 50%
04:15, 3, Line speed 100%
08:00, 4, Start of shift 2
11:43, 5, End of production
];
IntervalMatch (Time) LOAD Start, End Resident OrderLog;
```

QlikView では、次のようなテーブルボックスを作成できるようになりました。

テーブル ボックス

Time	Event	Comment	Order	Start	End
0:00	0	Start of shift 1	-	-	-
1:18	1	Line stop	A	1:00	3:35
2:23	2	Line restart 50%	A	1:00	3:35
4:15	3	Line speed 100%	B	2:30	7:58
4:15	3	Line speed 100%	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	D	7:23	11:43
11:43	5	End of production	D	7:23	11:43

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

IntervalMatch (拡張構文)

拡張された **IntervalMatch** プレフィックスを使うと、不連続数値を 1 つ以上の数値間隔に一致させると同時に 1 つ以上の追加キーの値を一致させるテーブルを作成できます。

これは強力かつ柔軟な機能で、時間の経過に伴って変化する軸 (穏やかに変化する軸) のあるトランザクションを連結するために使用できます。

IntervalMatch プレフィックスは、間隔をロードする *Load* (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの前に配置する必要があります。IntervalMatch プレフィックスのあるステートメントの前に、不連続データ点を含むテーブルと追加キーが QlikView にすでにロードされていなくてはなりません。このプレフィックスは、ロードされた間隔テーブルとキーを変換して追加行 (不連続数値データ点) を含むテーブルにします。また、新しいテーブルで不連続データ点と間隔、キー項目の値の可能な組み合わせごとにレコードが 1 つ存在するようにレコード数を増やします。

構文は次のとおりです。

```
intervalmatch (matchfield,keyfield1 [ , keyfield2, ... keyfield5 ]
) (loadstatement | selectstatement )
```

matchfield は、間隔にリンクする不連続の数値を含む項目です。

keyfield(s) は、変換で一致させる追加属性が含まれた項目です。

loadstatement または *selectstatement* の結果では、最初の 2 つの項目は各間隔の下限と上限を格納し、3 つ目 (およびその後の項目) は *intervalmatch* ステートメントの **キー項目** を格納する必要があります。間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。数値以外の範囲では間隔が無視されます (未定義のままになります)。

未定義の間隔範囲が無視されるのを防ぐためには、間隔の下限または上限を構成する項目に対して NULL 値のマッピングを許可する必要があるかもしれません。これは、**NullAsValue (324 ページ)** ステートメント、または不連続数値データポイントの前後で NULL を数値に置き換える明示的なテストによって対応することができます。

例：

```
Inner Join IntervalMatch (Date,Key) LOAD FirstDate, LastDate, Key
resident Key;
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Join

join プレフィックスは、ロードされたテーブルを既存の指定されたテーブルまたは直前に作成されたデータテーブルと結合します。結合は、すべての共通する *Natural Join* に対して行われる 項目 (207 ページ) です。join プレフィックスの前には、*Inner* (304 ページ)、*Outer* (325 ページ)、*Left* (310 ページ)、または *Right* (329 ページ) のプレフィックスのいずれかを配置することができます。LOAD ステートメントに DISTINCT 述語が使用されている場合、生成される表は明確になります。データが連結されているか、結合されているかを問わず、テーブルに追加されたデータも明確になります。

構文は次のとおりです。

```
[inner | outer | left | right ]join [ (tablename ) ]( loadstatement
| selectstatement )
```

例：

```
Join LOAD * FROM abc.csv;

Join SQL SELECT * FROM table1;

tab1:
LOAD * FROM file1.csv;
tab2:
LOAD * FROM file2.csv;
.....
join (tab1) LOAD * FROM file3.csv;
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) に戻ります。

Keep

keep プレフィックスは *Join* (309 ページ) プレフィックスに類似しています。join プレフィックスと同様に、ロードされたテーブルを既存の指定されたテーブルまたは直前に作成されたデータテーブルに比較します。

ただし、ロードされたテーブルを既存のテーブルに結合する代わりに、2 つのテーブルの片方または両方が QlikView に保存される前に共通するテーブルデータに基づいてテーブルを縮小することができます。

す。実施された比較は、すべての共通項目で行われる自然結合に相当します (対応する結合と同じ方法など)。ただし、2つのテーブルは結合されず、別の名前のテーブルとして QlikView に維持されます。

注意!

QlikView スクリプト言語における明示的な *Join* (309 ページ) プレフィックスは、2つのテーブルの完全な結合を実行します。結果として、1つのテーブルが生成されます。多くの場合、このような結合からは、かなり大きなテーブルが作成されます。QlikView の主な機能の1つは、テーブルを結合する代わりに複数のテーブル間で関連付けを作成できることです。これにより、メモリの使用量が削減され、速度が向上して柔軟性が大幅に高まります。このため、一般的には QlikView スクリプトでの明示的な結合は避けるべきです。**keep** の機能は、明示的な結合の使用回数を減らす目的で設計されています。

keep プレフィックスの前には、*Inner* (304 ページ)、*Left* (310 ページ)、または *Right* (329 ページ) のいずれかのプレフィックスを置く必要があります。構文は次のとおりです。

```
(inner | left | right) keep [ (tablename ) ] ( loadstatement |
selectstatement )
```

例 :

```
Inner Keep LOAD * FROM abc.csv;
Left Keep SQL SELECT * FROM table1;
tab1:
LOAD * FROM file1.csv;
tab2:
LOAD * FROM file2.csv;
.....
Left keep (tab1) LOAD * FROM file3.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Left

Join (309 ページ) および *Keep* (309 ページ) プレフィックスの前に、**left** プレフィックスを置くことができます。

join の前に使用すると、左結合であることを指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は最初のテーブルに示されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に2つ目のテーブルは、1つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

```
left ( join | keep ) [ (tablename ) ] (loadstatement |selectstatement
)
```

例 :

Table1

A	B
---	---

1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
select * from table1;
left join select * from table2;
```

A	B	C
1	aa	xx
2	cc	
3	ee	

```
QVTab1:
select * from Table1;
QVTab2:
left keep select * from Table2;
```

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

A	C
1	xx

keep の例の 2 つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

```
tab1:
Load * from file1.csv;
tab2:
load * from file2.csv;
.....
left keep (tab1) load * from file3.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Let

let ステートメントは、[Set \(335 ページ\)](#) ステートメントの対として作成され、スクリプト変数 ([346 ページ](#)) の定義に使用されます。**let** ステートメントでは、**set** ステートメントとは逆に、変数に代入される前に "=" の右側の数式が評価されます。

let という単語は省略できますが、その場合、ステートメントは制御ステートメントになります。**let** キーワードがないステートメントは、1 つのスクリプト内に収まる必要があり、セミコロン (;) または改行コード (end-of-line) で終了できます。

構文は次のとおりです。

```
let variablename=expression
```

単語 **let** は省略できます。

```
Set x=3+4;
Let y=3+4;
z=$(y)+1;
```

\$(x) は '3+4' として評価されます。

\$(y) は '7' として評価されます。

\$(z) は '8' として評価されます。

例 :

```
Let T=now( );
```

\$(T) には現在の時刻の値が渡されます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Load

load ステートメントは、ファイル、スクリプトで定義されたデータ、前にロードされたテーブル、Web ページ、後続の **select** ステートメントの結果、または自動的に生成されたデータから項目をロードします。load ステートメントの一般的な構文は以下のとおり。

```
load [ distinct ] *fieldlist
[( from file [ format-spec ] |
from_field fieldsource [format-spec]
inline data [ format-spec ] |
resident table-label |
autogenerate size )]
[where criterion | while criterion ]
[group_by groupbyfieldlist ]
[order_by orderbyfieldlist ]
```

ここで

distinct 述語は、重複するレコードのうちの最初のレコードだけをロードする場合に使用します。

**fieldlist* ::= (* | field { , field })

ロードする項目のリスト。* を使用すると、項目リストはテーブルのすべての項目を示します。

field ::= (fieldref | expression) [as aliasname]

項目定義には、常にリテラル、既存項目への参照、または数式を含める必要があります。

fieldref ::= (fieldname | @fieldnumber | @startpos:endpos [**I** | **U** | **R** | **B**])

fieldname は、テーブル内の項目名を指定するテキストです。項目の名前に文字以外の記号やスペースが含まれる場合は、ストレート二重引用符または角かっこで囲む必要があるという点に注意してください。明示的に表現できない項目名もあります。その場合、次のような表記規則を使用します。

@*fieldnumber* は、区切り記号付きテーブル ファイルの項目番号を表します。"@" が前に付いた正の整数である必要があります。常に 1 から項目の数までの番号が付けられます。

@*startpos:endpos* は、固定長レコードのファイル内の項目の先頭と末尾の位置を表します。位置はどちらも正の整数である必要があります。2 つの数の前に "@" を付け、コロン (:) で区切る必要があります。常に 1 から位置の数までの番号が付けられます。@*startpos:endpos* の直後に **I** か **U** の文字が続く場合は、バイトの読み取りは符号付き (**I**) バイナリまたは符号なし (**U**) の整数 (Intel のバイト順) と解釈されます。読み取られる位置の数は、1、2、または 4 である必要があります。@*startpos:endpos* の直後に文字 **R** が続く場合は、読み取られるバイトはバイナリの実数 (IEEE 32 ビットまたは 64 ビットの浮動小数点) として解釈されます。読み取られる位置の数は、4 または 8 である必要があります。@*startpos:endpos* の直後に文字 **B** が続く場合は、読み取られるバイトは COMP-3 標準に従った BCD (Binary Coded Decimal) 数として解釈されます。任意のバイト数を指定できます。

expression は、同じテーブルの 1 つ以上の他の項目に基づいた数値関数または文字列関数です。詳細については、スクリプト式 (361 ページ) の構文を参照してください。

項目に新しい名前を割り当てるには、**as** を使用します。エイリアス名に文字以外の記号やスペースが含まれる場合は、ストレート二重引用符または角かっこで囲む必要があるという点に注意してください。

注意!

テーブルに同じ項目名の項目が 2 つ含まれている場合、通常はテキスト ファイルからロードする際、**as** を使用して項目名が変更されていても項目を 1 つだけロードできます。

from は、データをファイルからロードする必要がある場合に使用します。

file ::= [path] filename

path は、ファイルのパスを QlikView ドキュメント (qvw ファイル) への絶対パスまたは相対パスで指定します。パスを省略すると、*directory* ステートメントで指定されたディレクトリのファイルが検索されます。*directory* ステートメントが存在しない場合は、作業中のディレクトリが検索されます。通常は、このディレクトリは QlikView ファイルが置かれているディレクトリです。パスは、インターネットまたはイントラネット上の位置を示す URL アドレス (HTTP または FTP) にすることもできます。

filename には、標準の DOS ワイルドカード文字 (* および ?) が含まれる場合があります。これにより、指定されたディレクトリ内の一致するすべてのファイルがロードされます。

format-spec ::= (fspec-item { , fspec-item })

この書式指定は、角かっこで囲まれた複数の 書式指定アイテム (317 ページ) のリストで構成されます。

事前にロードされた項目からデータをロードする場合は、**from_field** を使用します。

fieldsource ::= (tablename, fieldname)

項目は、事前にロードされた *tablename* と *fieldname* の名前です。

format-spec ::= (fspec-item { , fspec-item })

この書式指定は、角かっこで囲まれた複数の 書式指定アイテム (317 ページ) のリストで構成されます。

スクリプト内でデータを入力し、ファイルからロードしない場合は、**inline** を使用します。インラインデータウィザード (237 ページ) を使用して **load inline** ステートメントを作成できます。

data ::= [text]

inline 句で入力されるデータは、ダブル スクリプトでの引用符 (358 ページ) または角かっこで囲む必要があります。囲まれているテキストは、ファイルの内容と同じ方法で解釈されます。そのため、テキスト ファイル内に新しい行を挿入するように、**inline** 句のテキストでも、スクリプトを入力しているときに Enter キーを押します。

以前にロードされたテーブルからデータをロードする場合は、**resident** を使用します。

Table label は、元のテーブルを作成した **load** または **select** ステートメントの前に置かれるラベルです。ラベルには最後にコロン (:) を記述します。

データを QlikView で自動的に生成する場合は、**autogenerate** を使用します。

size ::= number

Number は、生成されるレコード数を示す整数です。項目のリストには、データベースからデータを取得する数式を記述できません。数式では、定数とパラメータを使用しない関数 (*rand()* や *recno()* など) のみを使用できます。

where はレコードを選択に含めるかどうかを示す句です。選択が含まれるのは、*criterion* が true の場合に限りです。

while は、レコードを繰り返し読み取るかどうかを示す句です。*criterion* が true の間は同じレコードが読み取られます。有効に利用するために、通常、**while** 句は **IterNo()** 関数を含む必要があります。*criterion* は論理式です。

データを集計 (グループ化) する項目を定義するには、**group by** 句を使用します。集計項目は、ロードされる数式に挿入します。ロードされる数式では、集計項目以外の項目は、集計関数の外部で使用できません。

```
groupbyfieldlist ::= (fieldname { ,fieldname } )
```

order by は、**load** ステートメントで処理される前に常駐しているテーブルのレコードをソートします。1 つ以上の項目の昇順または降順で置かれているテーブルをソートできます。最初に数値、次に各国の ASCII 値の順でソートされます。この句は、データソースが常駐テーブルの場合に限り使用できません。ordering field には、常駐テーブルをソートする項目を指定します。項目は、名前または常駐テーブル内での番号 (最初の項目が番号 1) で指定できます。

```
orderbyfieldlist ::= fieldname [ sortorder ] { , fieldname [ sortorder ] }
```

sortorder は昇順の asc または降順の desc です。*sortorder* を指定しない場合は、asc と見なされます。

fieldname、*path*、*filename*、*aliasname* は、それぞれの名前を示すテキスト文字列です。ソーステーブルのフィールドは *fieldname* として使用できます。ただし、as 句 (*aliasname*) を使用して作成された項目は範囲外になり、同じ load ステートメント内では使用できません。

注意!

from、inline、from field、または autogenerate 句でデータのソースが指定されない場合、データは直後の select または load ステートメントの結果からロードされます。後続のステートメントには、プレフィックスを記述できません。

例 :

さまざまなファイル形式

```
Load * from data1.csv;
Load * from 'c:\userfiles\data1.csv' (ansi, txt, delimiter is ',',
embedded labels);
Load * from 'c:\userfiles\data2.txt' (ansi, txt, delimiter is '\t',
embedded labels);
Load * from file2.dif (ansi, dif, embedded labels);
Load @1:2 as ID, @3:25 as Name, @57:80 as City from data4.fix (ansi,
fix, no labels, header is 0, record is 80);
Load * from C:\qdssamples\xyz.qvx (qvx);
```

特定の項目の選択、項目の計算

```
Load FirstName, LastName, Number from data1.csv;
Load @1as A, @2 as B from data3.txt' (ansi, txt, delimiter is '\t', no
labels);
Load FirstName&' '&LastName as Name from data1.csv;
Load Quantity, Price, Quantity*Price as Value from data1.csv;
```

特定のレコードの選択

```
Load distinct FirstName, LastName, Number from data1.csv;
Load * from Consumption.csv where Litres>0;
```

ファイルにないデータのロード

```
Load * Inline
[CatID, Category
0,Regular
1,Occasional
2,Permanent];
```

```
Load * Inline [UserID, Password, Access
A, ABC456, User
B, VIP789, Admin];
```

```
Load RecNo( ) as A, rand( ) as B autogenerate(10000);(注意 : autogenerate
の後のかっこはオプションです。)
```

事前にロードされているテーブルからのデータのロード

```
tab1:
Select A,B,C,D from transtable;
Load A,B,month(C),A*B+D as E resident tab1;
Load A,A+B+C resident tab1 where A>B;
Load A,B*C as E resident tab1 order by A;
Load A,B*C as E resident tab1 order by 1,2;
Load A,B*C as E resident tab1 order by C desc, B asc, 1 desc;
```

事前にロードされている項目からのデータのロード

```
Load A from_field (Characters, Types);
```

後続のテーブルからのデータのロード

```
Load A, B, if(C>0,'positive','negative') as X, weekday(D) as Y;
Select A,B,C,D from Table1;
```

データのグループ化

```
Load ArtNo, round(Sum(TransAmount),0.05) as ArtNoTotal from table.csv
group by ArtNo;
Load Week, ArtNo, round(Avg(TransAmount),0.05) as WeekArtNoAverages
from table.csv group by Week, ArtNo;
```

1つのレコードの反復読み取り

```
My Tab:
Load Student,
mid(Grades,IterNo( ),1) as Grade,
pick(IterNo( ), 'Math', 'English', 'Science', 'History') as Subject
from Tab1.csv
while mid(Grades,IterNo( ),1)<>' ';
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻ります。

書式指定アイテム

各書式指定アイテムは、次のようなテーブルファイルの特定のプロパティを定義します。

```
fspec-item ::= [ ansi | oem | mac | UTF-8 | Unicode | txt | fix | dif | biff | ooxml | html
| xml | qvd | delimiter is char | no eof | embedded labels | explicit labels | no labels |
table is [ tablename ] | header is n | header is line | header is n lines | comment is string |
record is n | record is line | record is n lines | no quotes | msq | filters (filter specifiers) ]
```

次のプロパティを定義できます。

文字セット	492 ページ
テーブルの書式	318 ページ
区切り記号	319 ページ
No eof	319 ページ
ラベル	319 ページ
ヘッダー サイズ	320 ページ
レコードの長さ	320 ページ
クォート	321 ページ

文字セット

文字セットは、ファイルで使われる文字セットを定義する **Load** ステートメントのファイル指定子です。

次の文字セットを使用できます。

ansi
oem
mac
utf8
unicode
codepage is N

ファイルは、**ansi** (Windows)、**oem** (DOS、OS/2、AS400 など)、**unicode**、**utf8**、**mac** 等の文字セットで書き込めます。**oem** 文字セットからの変換は MacOS では実装されていません。codepage 指定子を使うと、Windows codepage を使用できます。何も指定されない場合、Windows では codepage 1252 と見なされます。

QlikView の旧バージョンで使われていた **ansi**、**oem**、**mac** 指定子もまだ機能します。ただし、新しい QlikView で **Load** ステートメントを作成する際には生成されません。

例：

```
LOAD * FROM a.txt (utf8, txt, delimiter is ',', embedded labels)
```

```
LOAD * FROM a.txt (unicode, txt, delimiter is ',', embedded labels)
```

```
LOAD * FROM a.txt (codepage is 10000, txt, delimiter is ',', no labels)
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

テーブルの書式

テーブルの書式は、**Load** ステートメントのファイル指定子で、ファイルのタイプを定義します。

txt	区切り記号付きテキスト ファイル txt では、テーブル内の列は文字で区切られます。
fix	固定レコード長ファイル .fix では、各列は特定文字数の幅です。
dif	.dif (Data Interchange Format) ファイルでは、テーブルを定義するための特殊な書式が使用されます。
biff	QlikView は、 biff (Binary Interchange File Format) 形式を使用して標準の Excel ファイルを解釈することもできます。
ooxml	QlikView は Excel 2007 ooxml 形式 (OpenOfficeXML) のデータを解釈できます。
html	テーブルが html ページまたはファイルの一部の場合は、 html を使用してください。

- qvd** **qvd** は、QlikView ドキュメントからエクスポートされた独自の QVD ファイル (493 ページ) ファイル 形式を示します。
- qvx** **qvx** は、QlikView へのパフォーマンスの高い出力ファイル/ストリーム形式です。

何も指定されない場合、**txt** ファイルと見なされます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

区切り記号

この指定子は、区切られた **txt** ファイルにのみ対応します。

delimiter is char

区切り記号付きテーブル ファイルでは、**delimiter is** 指定子を使用して (127 ASCII 文字から) 任意の区切り記号を指定できます。ここで *char* は 1 文字です。

いくつか特別なケースがあります。

"**¥t**" は、引用符が付いた、または付いていないタブ記号を表します。

"**¥¥**" は、バックスラッシュ記号 (¥) を表します。

単語 "**spaces**" は、ひとつ以上のスペースの組み合わせをすべて表します。32 より小さい ASCII 値や、CR と LF を例外とする印刷不可能な文字は、スペースとして解釈されま

す。

何も指定されない場合、**区切り記号は ","**と見なされます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

No eof

この指定子は、区切られた **txt** ファイルにのみ対応します。

no eof

このオプションを使用すると、ファイルの終わりを示す ASCII 文字 26 は無視されます。この指定子を使用すると、文字 26 を項目値の一部として使えます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

ラベル

ラベルは、ファイルのどこで項目名が見つけられるか定義する *Load* (313 ページ) ステートメントのファイル指定子です。

可能な選択肢は以下のとおりです。

embedded labels

explicit labels

no labels

項目名は、ファイル内のさまざまな場所に置くことができます。1 件目のレコードに項目名が含まれる場合は、**embedded labels** を使用します。項目名が見つからない場合は、**no labels** を使用します。**DIF** ファイルでは、明示的な項目名の独立したヘッダー セクションが使用される場合があります。その場合、**explicit labels** を使用します。何も指定しない場合は、**explicit labels**、**DIF** ファイルと見なされます。

例 :

```
LOAD * FROM a.txt (unicode, txt, delimiter is ',' , embedded labels)
LOAD * FROM a.txt LOAD * FROM a.txt (unicode, txt, delimiter is ',' ,
embedded labels)
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

ヘッダー サイズ

テーブル ファイルでヘッダーのサイズを指定します。

構文は次のとおりです。

```
header isn
```

```
header is line
```

```
header isnlines
```

header is 指定子で任意のヘッダー長を指定できます。ヘッダーは、QlikView で使用されないテキスト セクションです。ヘッダー長はバイト単位 (**header is** *n*)、または行単位 (**header is line** または **header is** *n* **lines**) で指定できます。この *n* は、ヘッダー長を表す正の整数です。指定されない場合は、**header is 0** と見なされます。**header is** 指定子は、テーブル ファイルにのみ対応します。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

レコードの長さ

固定長レコード ファイルのレコードの長さを指定します。

```
record isn
```

```
record is line
```

```
record isnlines
```

固定レコード長のファイルでは、レコード長を **record is** 指定子で指定する必要があります。レコード長はバイト単位 (**record is** *n*)、または行単位 (**record is line** または **record is** *n* **lines**) で指定できます。この *n* は、レコード長を表す正の整数です。**record is** 指定子は、**fix** ファイルにのみ対応します。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

クオート

クオート は **Load** ステートメントのファイル指定子で、クオートを使用できるかどうか、また、クオートと区切り文字間の優先を定義します。

テキスト ファイルのみで使用できます。利用可能なオプションは次のとおりです。

no quotes

msq

指定子が省略される場合は標準的な引用符 (" または ' など) が使用されますが、項目値の最初と最後の空白でない文字に限ります。

テキスト ファイル内で スクリプトでの引用符 (358 ページ) が受け入れられない場合は、**no quotes** 指定子を使用する必要があります。

msq は新しいスタイルの引用符を指定するために使われ、項目に複数行の内容を含めることができます。改行文字を含む項目は、ダブルクォートで囲む必要があります。

msq 指定子の限界のひとつは、項目の内容の最初または最後の文字としてダブルクォート (") 文字がひとつだけ使われると、複数行の最初または最後として解釈され、ロードされるデータセットで予測できない結果につながる可能性があるという点です。この場合は、標準的な引用符を使用して指定子を省略してください。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

XML (XML ファイルのみ)

xmlsax

xmlsimple

pattern ispath

Xmlsax と **xmlsimple** はお互いに排他的で、XML を使用する場合ひとつだけ指定できます。pattern を使用する場合、ファイルの指定されたタグの初めから終わりまでが読まれます。path にスペースが含まれている場合は、このパスを引用符で囲む必要があります。

注意!

xmlsax を使用するには、Microsoft の xml パーサー MSXML 3.0 以降をコンピュータにインストールする必要があります。MSXML は、Windows XP および MS Internet Explorer 6 に標準装備されています。Microsoft のホームページからもダウンロードできます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Loosen Table

循環参照を含むデータが QlikView にロードされると、QlikView 内部ロジックで循環参照によるループの生成を防ぐため、疎結合テーブルが自動的に作成されます。

Loosen Table ステートメントを使用すると、スクリプトの実行中に 1 つ以上の QlikView 内部データテーブルを明示的に疎結合に宣言できます。

スクリプトで **Loosen Table** ステートメントを 1 度以上使用すると、QlikView はスクリプト実行前に疎結合化されたテーブルの設定を無視します。

構文は次のとおりです。

```
Loosen Table[s] tablename [ , tablename2 ...]
```

Loosen Table と **Loosen Tables** のどちらの構文も使用できます。

例 :

```
Tab1:
Select * from Trans;
Loosen table Tab1;
```

注意 !

対話的にまたはスクリプトで明示的に疎結合を宣言されたテーブルで、分割できないデータ構造の循環参照が検出されると、循環参照がなくなるまで、他のテーブルが 1 つ以上強制的に疎結合にされます。その場合、**ループのアラート** ダイアログで警告が表示されます。

参照項目 :

循環参照 (133 ページ)

疎結合テーブルの意図的な作成 (1113 ページ)

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Mapping

mapping プレフィックスはマッピングテーブルを作成するために使用します。マッピングテーブルは、スクリプト実行中に項目値と項目名を置き換えるといった操作で使用できます。

このプレフィックスは *Load* (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの前に入れることができ、ロードステートメントの結果をマッピングテーブルとして保存します。マッピングテーブルは、2 列で構成され、1 列目は比較の値、2 列目はマッピング値です。マッピングテーブルは一時的にメモリに保存され、スクリプトの実行後に自動的に削除されます。

マッピングテーブルの内容には、**map ... using** ステートメントや **rename field** ステートメント、**Applymap()** 関数、**Mapsubstring()** 関数などを使用してアクセスすることができます。

構文は次のとおりです。

```
mapping ( loadstatement |selectstatement )
```

例 :

```
Mapping LOAD * FROM x.csv
mapping SQL SELECT a, b FROM map1
map1:
mapping LOAD * inline [
x,y
US,USA
```

```
U.S., USA
America, USA ];
```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Map ... using

map ... using ステートメントは、特定の項目値または数式を指定したマッピングテーブルの値にマップします。マッピングテーブルは、*Mapping* (322 ページ) ステートメントで作成します。

自動マッピングは、**map ... using** ステートメントの後、スクリプトが終わるまで、または **unmap** ステートメントが発生するまで、ロードされた項目に対して実行されます。

マッピングは、項目が QlikView の内部テーブルに保存される一連のイベントの最後に実行されます。つまり、マッピングは数式の部分で項目名が出現するたびに行われるのではなく、内部テーブルの項目名に値が保存されるときに実行されます。数式レベルでのマッピングが必要な場合は、**Applymap()** 関数を使用する必要があります。

注意！

最適化モードで QVD ファイルをロードする際、**map ... using** ステートメントは機能しません。

構文は次のとおりです。

```
map *fieldlist usingmapname
```

**fieldlist* は、スクリプト内でここからマップされる項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

mapname は、**mapping load** または **mapping select** ステートメントによって以前に読み取られたマッピングテーブルの名前です。

例：

map Country using Cmap;	マッピングテーブル Cmap を使用して項目 Country のマッピングを有効にします。
map A, B, C using X;	マッピングテーブル X を使用して項目 A、B、および C のマッピングを有効にします。
map * using GenMap;	マッピングテーブル GenMap を使用してすべての項目のマッピングを有効にします。

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

NoConcatenate

NoConcatenate プレフィックスは、同一の項目セットでロードされた 2 つのテーブルを強制的に別個の内部テーブルとして取り扱います (さもなければ、自動的に連結されます)。

構文は次のとおりです。

```
noconcatenate ( loadstatement | selectstatement )
```

例：

```
Load A,B from file1.csv;
noconcatenate load A,B from file2.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

NullAsValue

NullAsValue ステートメントは、発生した NULL をどの項目で値に変換するか指定します。

デフォルトでは、NULL 値は不明または未定義の入力と見なされます。ただし、特定のデータベース コンテキストでは、NULL 値は単なる欠損値ではなく、特殊な値であると見なされます。**NullAsValue** ステートメントでは、通常の NULL 値は他の NULL 値にリンクできないという事実を一時停止できます。

NullAsValue ステートメントはスイッチとして機能し、後続のロード ステートメントで有効になります。*NullAsNull* (324 ページ) ステートメントを使用してそのオン/オフを切り替えることができます。

NullAsValue は、どの文字列を NULL 値として使用するか指定する変数 **NullValue** と組み合わせることができます。変数 **NullValue** を使用していない場合、**NullAsValue** は NULL を空の文字列に置き換えます。

構文は次のとおりです。

```
NullAsValue *fieldlist
```

fieldlist* は、NullAsValue** が有効である項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

例 :

```
NullAsValue A,B;
Set NullValue = 'NULL';
Load A,B from x.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

NullAsNull

NullAsNull ステートメントは、以前に *NullAsValue* (324 ページ) ステートメントで設定された NULL 値の文字列値への変換を無効にします。

NullAsValue ステートメントはスイッチとして機能し、**NullAsValue** または **NullAsNull** ステートメントのいずれかを使用するとスクリプトで複数回オンにしたりオフにしたりできます。

構文は次のとおりです。

```
NullAsNull *fieldlist
```

fieldlist* は、NullAsValue** が無効になっている項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

例 :

```
NullAsNull A,B;
Load A,B from x.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Outer

Join (309 ページ) プレフィックスの前に **outer** プレフィックスを明示的に記述すると、外部結合を指定できます。外部結合では、2つのテーブルのすべての組み合わせが生成されます。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は片方または双方のテーブルに示されます。**outer** プレフィックスはオプションです。

```
outer join [ (tablename ) ] (loadstatement |selectstatement )
```

例 :

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

```
select * from table1;
join select * from table2;
OR
select * from table1;
outer join select * from table2;
```

結合したテーブル

A	B	C
1	aa	xx
2	cc	-

```

3      ee  -
4      -  yy

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Qualify

Qualify ステートメントは、項目名の修飾を切り替えるために使用されます (項目名がプレフィックスとしてテーブル名を取得するなど)。

qualify ステートメントでは、項目名をテーブル名で修飾して、異なるテーブルにある同じ名前の項目の自動的な関連付けを一時停止できます。修飾されると、テーブルで検出された場合に項目名が変更されます。新しい名前は、*tablename.fieldname* の形式になります。*tablename* は現在のテーブルのラベルと同じです。ラベルが存在しない場合は、**load** および **select** ステートメントで **from** の後に記述された名前です。

修飾は、**Qualify** ステートメントの後にロードされたすべての項目で行われます。

注意！

qualify ステートメントは、パーシャルリロードと併せて使用できません。

デフォルトで、スクリプトの実行の開始時、修飾は常に無効です。**qualify** ステートメントを使用し、いつでも項目名の修飾をアクティブにできます。*Unqualify* (344 ページ) ステートメントを使用すると、修飾をいつでも無効にできます。

構文は次のとおりです。

```
qualify *fieldlist
```

**fieldlist* は、修飾が有効である項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

例：

```

Qualify B;
Load A,B from x.csv;
Load A,B from y.csv;

```

2つのテーブル **x.csv** と **y.csv** では、**A** のみが関連付けられます。3つの項目は、A、x.B、y.B という結果になります。

不明なデータベースでは、例に挙げているように、最初は1つまたは2～3の項目を関連付けることから始めると便利です。

```

qualify *;
unqualify TransID;
select * from tab1;
select * from tab2;
select * from tab3;

```

TransID のみが *tab1*、*tab2*、*tab3* テーブル間の関連付けに使用されます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Rem

rem ステートメントは、スクリプト内にコメントを挿入するため、またはスクリプトを削除する代わりに一時的に無効にするために使用します。

rem とその後のセミコロン ; の間にあるすべてがコメントと見なされます。

構文は次のとおりです。

```
rem string
```

ここで

string は任意のテキストです

例 :

```
Rem ** これはコメントです **;
```

ヒント!

スクリプト内でコメント化を行うには他に 2 つの方法があります。

1. /* と */ の間にコメント化したい部分を置くことにより、スクリプトの (2 つの引用文の間以外) どこでもコメントを作成することができます。
コメントのある行はスクリプト エディターの複数の後続タブに拡張できます。ただし、最初のタブにあるコメント行だけが緑色になります。
2. ロード スクリプト内で // を入力すると、同じ行のそれより右にあるテキストはすべてコメントになります。(例外として、//: はインターネット アドレスの一部に使用されます。)

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Rename Field

既存の 1 つ以上の QlikView 項目をロードした後、名前を変更します。

2 つの異なる名前の付いた項目の名前を変更して、同じ名前にすることはできません。スクリプトは支障なく実行できますが、2 番目の項目の名前を変更できなくなります。

構文は次のとおりです。

```
rename field (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

```
rename fields (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

ここで

mapname は、以前にロードされたマッピングテーブルの名前であり、1 つ以上の項目名の古い名前と新しい名前のペアを含みます。

oldname は古い項目名です。

newname は新しい項目名です。

rename field と **rename fields** のどちらの構文も使用できます。

例 :

```
Rename field XAZ0007 to Sales;

FieldMap:
Mapping SQL SELECT oldnames, newnames FROM datadictionary;
Rename fields using FieldMap;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Rename Table

既存の 1 つ以上の QlikView 内部テーブルをロードした後、名前を変更します。

2 つの異なる名前の付いたテーブルの名前を変更して、同じ名前にすることはできません。スクリプトは支障なく実行できますが、2 番目のテーブルの名前を変更できなくなります。

構文は次のとおりです。

```
rename table (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

```
rename tables (using mapname | oldname to newname{ , oldname to newname })
```

ここで

mapname は、以前にロードされたマッピングテーブルの名前であり、1 つ以上のテーブル名の古い名前と新しい名前のペアを含みます。

oldname は古いテーブル名です。

newname は新しいテーブル名です。

rename table と **rename tables** のどちらの構文も使用できます。

例 :

```
Tab1:
Select * from Trans;
Rename table Tab1 to Xyz;

TabMap:
Mapping load oldnames, newnames from tabnames.csv;
Rename tables using TabMap;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Right

Join (309 ページ) および *Keep* (309 ページ) プレフィックスの前に、**right** プレフィックスを置くことができます。

join の前に使用すると、右結合であることを指定します。結果のテーブルには、生データテーブルからの項目値の組み合わせのみが含まれます。連結項目値は 2 番目のテーブルに示されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に 1 つ目のテーブルは、2 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

```
right (join | keep) [(tablename )] (loadstatement | selectstatement )
```

例 :

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

```
QVTable:
select * from table1;
right join select * from table2;
```

QVTable

A	B	C
1	aa	xx
4	-	yy

```
QVTab1:
select * from Table1;
```

```
QVTab2:
  right keep select * from Table2;
```

QVTab1

A	B
1	aa

QVTab2

A	C
1	xx
4	yy

keep の例の 2 つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

```
tab1:
  Load * from file1.csv;
tab2:
  load * from file2.csv;
.....
right keep (tab1) load * from file3.csv;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Replace

replace プレフィックスは、スクリプト内の任意の *Load* (313 ページ)、*Select (SQL)* (332 ページ)、または *Map ... using* (323 ページ) ステートメントに追加できます。**replace load/replace select** ステートメントは、テーブル名が **replace load/replace select** ステートメントで生成された QlikView テーブルを削除し、**replace load/replace select** ステートメントの結果に含まれる新しいテーブルに置き換えます。*partial reload* でも完全なリロードでも効果は同じです。**replace map...using** ステートメントでは、パーシャルスクリプトの実行中にマッピングも発生します。構文は次のとおりです。

```
replace [only] (loadstatement | selectstatement | map...usingstatement)
```

ここで

only はオプションの修飾子で、通常の (パーシャルでない) リロード中は、ステートメントが無視されることを意味します。

例 :

```
Tab1:
```

```
Replace load * from File1.csv;
```

通常のリロードおよびパーシャルリロードでは、最初に QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File1.csv からロードされた新しいデータが Tab 1 に保存されます。

```
Tab1:
```

```
Replace only load * from File1.csv;
```

通常のリロード中には、このステートメントは無視されます。

パーシャルリロードでは、最初に以前に名前が付けられた QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File1.csv からロードされた新しいデータが Tab 1 に保存されます。

```
Tab1:
```

```
Load a,b,c from File1.csv;
```

```
Replace load a,b,c from File2.csv;
```

通常のリロードでは、最初にファイル File1.csv が QlikView テーブル Tab1 に読み取られますが、直ちに削除され、File2.csv の新しいデータに置き換えられます。File1.csv のすべてのデータは失われます。

パーシャルリロードでは、最初に QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File2.csv からロードされた新しいデータに置き換えられます。

```
Tab1:
```

```
Load a,b,c from File1.csv;
```

```
Replace only load a,b,c from File2.csv;
```

通常のリロードでは、データは File1.csv からロードされ、QlikView テーブル Tab1 に保存されます。File2.csv は無視されます。

パーシャルリロードでは、最初に QlikView テーブル Tab1 が削除されます。次に File2.csv からロードされた新しいデータに置き換えられます。File1.csv のすべてのデータは失われます。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Sample

Load (313 ページ) と *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの **sample** プレフィックスは、データソースからランダムなサンプルのレコードをロードするために使用されます。

レコードはすべて読み取られますが、QlikView にロードされるのは一部のみです。

構文は次のとおりです。

```
sample p ( loadstatement | selectstatement )
```

ここで

p は 0 より大きく 1 以下の数を評価する任意の数式です。数は指定したレコードが読み取られる確率を示します。

注：

最適化された QVD ファイルをロードする際は、**sample** プレフィックスを使用できません。

例：

```
Sample 0.15 Select * from Longtable;
Sample(0.15) Load * from Longtab.csv; (注意： かっちはオプションです。)
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Section

section ステートメントでは、後続の *Load* (313 ページ) および *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントをデータと見なすかアクセス権の定義と見なすかを定義できます。

構文は次のとおりです。

```
section (access | application)
```

例：

```
Section access;
```

```
AuthorizationTable:
```

```
SQL SELECT ACCESS, NTNAME, REGION FROM AuthorizationTable ;
```

```
Section application;
```

何も指定されない場合、**section application** と見なされます。**section** 定義は、新しい section ステートメントが実行されるまで有効です。

Semantic (334 ページ) プレフィックスと併せて **section access** ステートメントを使用することはできません。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Select (SQL)

ODBC データ ソースまたは OLE DB プロバイダからの 項目 (207 ページ) の選択は、標準的な SQL **SELECT** ステートメントを使用して実行されます。ただし、使用できる **SELECT** ステートメントの範囲は多くの場合、使用する ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダによって異なります。次に、構文を簡単に説明します。

```
select [all | distinct | distinctrow | top n [percent] ] *fieldlist
from tablelist
[where criterion ]
[group by fieldlist [having criterion ] ]
[order by fieldlist [asc | desc] ]
[ (inner | left | right | full)join tablename on fieldref =
fieldref ]
```

distinct は、選択された項目の重複する値の組み合わせを 1 回だけロードするときに使用する述語です。

distinctrow は、ソーステーブルの重複するレコードを 1 回だけロードするときに使用する述語です。

**fieldlist ::= (* | field) { , field }*

選択する項目のリスト。* を使用すると、項目リストはテーブルのすべての項目を示します。

fieldlist ::= field { , field }

カンマで区切られた 1 つ以上の項目のリスト。

field ::= (fieldref | expression) [as aliasname]

数式には 1 つ以上の他の項目に基づいた数値または文字列の関数を使用できます。通常は、+、-、*、/、& (文字列の連結)、sum(fieldname)、count(fieldname)、avg(fieldname) (平均)、month(fieldname) のような演算子と関数を使用できます。詳細については、ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダのマニュアルを参照してください。

fieldref ::= [tablename .] fieldname

tablename と fieldname は、テキスト文字列です。スペースなどを含む場合は、ストレート二重引用符で囲む必要があります。

項目に新しい名前を割り当てるには、**as** 句を使用します。

tablelist ::= table { , table }

項目が選択されるテーブルのリスト。

table ::= tablename [[as] aliasname]

tablename は、引用符内に置くことも置かないことも可能です。

where はレコードを選択に含めるかどうかを示す句です。

criterion は論理式で、非常に複雑になる場合もあります。使用できる演算子には、数値演算子と関数 =、<> または #(等しくない)、>、>=、<、<=、and、or、not、exists、some、all、in および新しい **SELECT** ステートメントなどがあります。詳細については、使用する ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダのマニュアルを参照してください。

group by は、複数のレコードを 1 つに集計 (グループ化) するために使用される句です。1 つのグループ内の特定の項目は、すべてのレコードが同じ値を持つ必要があります。そうでない場合は、項目は sum または average などの数式内でのみ使用できる必要があります。1 つ以上の項目に基づいた数式は、項目記号の数式内で定義されます。

having は、**where** 句がレコードを修飾するのと同じ方法でグループを修飾します。

order by は、**select** ステートメントの結果のテーブルのソート順を示すために使用される句です。

join は、複数のテーブルを 1 つに結合することを示す修飾子です。項目名とテーブル名にスペースや各国語文字セットが含まれる場合は、引用符で囲む必要があります。スクリプトが QlikView によって自動的に生成される場合は、*Connect* (283 ページ) ステートメントのデータソースのデータソース定義で指定される ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダで推奨される引用符が使用されます。

さらに、**union** 演算子を使用すると、複数の **select** ステートメントを 1 つに連結できます。

selectstatementunionselectstatement

select ステートメントは、ODBC ドライバに解釈されるため、次のような一般的な SQL 構文からの違いが ODBC ドライバの機能によって発生する場合があります。

as は使用できない場合があります。この場合、*aliasname* を *fieldname* の直後に記述する必要があります。

aliasname を使用する場合は、**as** を記述する必要がある場合があります。

distinct、**as**、**where**、**group by**、**order by**、または **union** はサポートされていない場合があります。

ODBC ドライバによっては前述した引用符の一部を使用できない場合があります。

注意！

これは SQL **SELECT** ステートメントのすべてを説明したものではありません。たとえば、**SELECT** ステートメントはネストでき、複数の結合を 1 つの **SELECT** ステートメントで実行でき、数式で非常に多くの関数を使用できる場合があります。

例：

```
SELECT * FROM `Categories`;
```

```
SELECT `Category ID`, `Category Name` FROM `Categories`;
```

```
SELECT `Order ID`, `Product ID`,
`Unit Price` * Quantity * (1-Discount) as NetSales
FROM `Order Details`;
```

```
SELECT `Order Details`.`Order ID`,
Sum(`Order Details`.`Unit Price` * `Order Details`.Quantity) as
`Result`
FROM `Order Details`, Orders
where Orders.`Order ID` = `Order Details`.`Order ID`
group by `Order Details`.`Order ID`;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Semantic

semantic プレフィックスを使用すると、オブジェクト間の関係を含むテーブルをロードできます。

構文は次のとおりです。

```
semantic ( loadstatement | selectstatement )
```

例：

```
Semantic Load * from abc.csv;
Semantic Select Object1, Relation, Object2, InverseRelation from
table1;
```

semantic ステートメントでロードされたテーブルは、concatenated できません。

Section (332 ページ) ステートメントと併せて、**semantic** プレフィックスを使用することはできません。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Set

set ステートメントは、スクリプト変数 (346 ページ) の定義に使用されます。これらは、文字列、パス、ドライバなどを置き換えるために使用されます。

構文は次のとおりです。

```
setvariablename=string
```

例 :

```
Set FileToUse=Data1.csv;
Set Constant="My string";
Set BudgetYear=1997;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Sleep

sleep ステートメントは、スクリプトの実行を n ミリ秒間一時停止します。 n は、3600000 (1 時間待機に相当) 以下の正の整数です。値には数式も使用できます。

構文は次のとおりです。

```
sleepn
```

例 :

```
sleep 10000;
sleep t*1000;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

SQL

SQL ステートメントを使用すると、ODBC または OLE DB 接続から任意の SQL コマンドを送信できます。単純に次のように入力します。

```
SQL
```

コマンドが後に続きます。

例 :

```
SQL leave;
```

SQL Execute <storedProc>

QlikView は、読み取り専用モードで ODBC 接続を開いているため、データベースを更新する SQL ステートメントを送るとエラーが返されます。

構文:

```
SQL SELECT * from tabl;
```

この構文は使用可能で、今後のドキュメントでは、推奨される *Select (SQL)* (332 ページ) の構文です (一貫性のため)。ただし、SQL プレフィックスは、**select** ステートメントではオプションのままです。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

SQLColumns

sqlcolumns ステートメントは、**接続** が実行される ODBC データソースの列を説明する項目のセットを返します。この項目を *SQLTables* (336 ページ) および *SQLTypes* (337 ページ) コマンドで生成される項目と組み合わせるとデータベースの把握に役立ちます。12 の標準項目は次のとおりです。

```
TABLE_QUALIFIER  
TABLE_OWNER  
TABLE_NAME  
COLUMN_NAME  
DATA_TYPE  
TYPE_NAME  
PRECISION  
LENGTH  
SCALE  
RADIX  
NULLABLE  
REMARKS
```

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

構文は次のとおりです。

```
sqlcolumns
```

例 :

```
connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';  
sqlcolumns;
```

注意 !

このコマンドをサポートしていない ODBC *drivers* もあります。

項目追加が生じる ODBC ドライバもあります。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

SQLTables

sqltables ステートメントは、**接続** が実行される ODBC データソースのテーブルを説明する項目のセットを返します。この項目を *SQLColumns* (336 ページ) および *SQLTypes* (337 ページ) コマンドで生成される項目と組み合わせるとデータベースの把握に役立ちます。5 つの標準項目は次のとおりです。

```
TABLE_QUALIFIER
```


TABLE_OWNER
TABLE_NAME
TABLE_TYPE
REMARKS

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

構文は次のとおりです。

sqltables

例：

```
connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';
sqltables;
```

注意！

このコマンドをサポートしていない ODBC ドライバもあります。

項目追加が生じる ODBC ドライバもあります。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

SQLTypes

sqltypes ステートメントは、**接続** が実行される ODBC データ ソースの種類を説明する項目のセットを返します。この項目を *SQLColumns* (336 ページ) および *SQLTables* (336 ページ) コマンドで生成される項目と組み合わせるとデータベースの把握に役立ちます。15 つの標準項目は次のとおりです。

TYPE_NAME
DATA_TYPE
PRECISION
LITERAL_PREFIX
LITERAL_SUFFIX
CREATE_PARAMS
NULLABLE
CASE_SENSITIVE
SEARCHABLE
UNSIGNED_ATTRIBUTE
MONEY
AUTO_INCREMENT
LOCAL_TYPE_NAME
MINIMUM_SCALE
MAXIMUM_SCALE

これらの項目の詳細については、ODBC リファレンスを参照してください。

構文は次のとおりです。

sqltypes

例：

```
connect to 'MS Access 7.0 Database; DBQ=C:\Course3\DataSrc\QWT.mbd';
sqltypes;
```

注意！

このコマンドをサポートしていない ODBC drivers もあります。
項目追加が生じる ODBC ドライバもあります。

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Star

指定された文字列は、NULL 値など項目に表示されるいかなる値も表示するために使用されます。QlikView アプリケーションでは特にワイルドカードとして使用されます。後続の *Load* (313 ページ) および *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントに影響を与えます。構文は次のとおりです。

```
star is [ string ]
```

ここで

string は任意のテキストですアスタリスク (*) といった単一記号の文字であるかもしれません。文字列に空白が含まれる場合は、スクリプトでの引用符 (358 ページ) で囲む必要があります

注意!

スクリプトでは star を使用しないようお勧めします。既存の QlikView アプリケーションを維持するためにサポートされているためです。

制限事項：

- Star の文字は、情報のロード ファイルでは使用できません。
- Star の文字は、キー項目やテーブルをリンクする項目では使用できません。

Star ステートメントの例：

```
Star is *;
Star is %;
Star is;
```

何も指定されない場合は、**star is;** と見なされます。つまり、利用可能な Star の「ワイルドカード」は存在しません。Star 値として指定された文字列は、新しく **star** ステートメントが作成されない限り、有効です。

ロード スクリプトで使用されている Star 文字列の例：

```
Star is ASTERISK;
LOAD *
Inline [
カテゴリ, 場所
国, アメリカ合衆国
都市, ロンドン
国, フランス
```

```

都市, パリ
国, イタリア
都市, ローマ
国, スペイン
都市, マドリッド
ASTERISK, モナコ
ASTERISK, パチカン市
];

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻ります。

Store

スクリプト内で **store** ステートメントを使用して QVD ファイルや CSV ファイルを作成することができます。ステートメントは、明示的に名前を付けられた QVD または CSV ファイルを作成します。ステートメントは、1 つの論理テーブルからのみ項目をエクスポートします。テキストの値は UTF-8 形式で CSV ファイルに出力されます。区切り文字を指定できます。Load (313 ページ) を参照してください。CSV ファイルへの **store** ステートメントは BIFF 出力をサポートしません。

```
store [ *fieldlist from] table into filename [ format-spec ] ;
```

**fieldlist::= (* | *field*) { , *field* }* は、選択する項目のリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。

*field::= *fieldname* [**as** *aliasname*]*

fieldname は、テーブル内の項目名を指定するテキストです。項目の名前にスペースなどが含まれる場合は、ストレート二重 スクリプトでの引用符 (358 ページ) または角かっこで囲む必要があります。

aliasname は、結果の QVD ファイルまたは CSV ファイルで使用される項目の別名です。

table はスクリプトでラベルが付けられ、既にロードされているデータのソースとして使用されるテーブルです。

filename は、ターゲットファイルの名前です。ファイル名の解釈は、**load** ステートメント内の名前と同様です。**directory** ステートメントが適用されます。

*format-spec ::= ((**txt** | **qvd**))*

この書式指定は、テキスト ファイル用にはテキスト **txt** で、qvd ファイル用にはテキスト **qvd** で構成されます。書式指定が省略されている場合は、**qvd** で処理されます。

例 :

```

Store mytable into xyz.qvd (qvd);
Store * from mytable into xyz.qvd;
Store Name, RegNo from mytable into xyz.qvd;
Store Name as a, RegNo as b from mytable into xyz.qvd;
store mytable into myfile.txt (txt);
store * from mytable into myfile.txt (txt);

```

(最初の 2 つの例の機能は同じです。)

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Sub..end sub

sub..end sub 制御ステートメントは、サブルーチンを定義し、**call** ステートメントから呼び出されます。

構文は次のとおりです。

```
sub name [ ( paramlist ) ] statements end sub
```

ここで

name は、サブルーチンの名前です。

paramlist は、サブルーチンの仮パラメータの変数名のカンマ区切りのリストです。これはサブルーチン内の変数として使用できます。

statements は、1つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

引数はサブルーチンにコピーされ、**call** ステートメントで対応する実パラメータが変数名の場合は、サブルーチンの終了後、コピーして戻されます。

サブルーチンに **call** ステートメントで渡される実パラメータよりも仮パラメータが多い場合は、余分なパラメータは NULL に初期化され、サブルーチン内でローカル変数として使用できます。

sub ステートメントは、制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、2つの句それぞれ (**sub** と **end sub**) が、行をまたぐことはできません。

sub ステートメントが別の制御ステートメント内で定義されている場合 (たとえば、**For ... Next** ループや **If ... Then** 構文)、サブルーチンはその制御ステートメントのスコープ内でのみ利用できます。つまり、サブルーチンを別の制御ステートメント外から呼び出す必要がある場合、sub ステートメントはその制御ステートメント内では定義できません。これは、制御ステートメント内で **include** システム変数を使用して含まれたスクリプトファイルでサブルーチンが定義されている場合も同様です。

例 :

```
// 例 1
sub INCR (I,J)
I = I + 1
exit sub when I < 10
J = J + 1
end sub
call INCR (X,Y)

// 例 2 - パラメータ転送
sub ParTrans (A,B,C)
A=A+1
B=B+1
C=C+1
end sub
```

```
A=1
X=1
C=1
call ParTrans (A, (X+1)*2)
```

上記の結果、サブルーチン内でローカルに A は 1 に初期化され、B は 4、C は NULL に初期化されます。

サブルーチンを終了する際、グローバル変数 A は 2 を値として取得します (サブルーチンからコピーして返されます)。2 番目の実パラメータ“(X+1)*2”は変数ではないため、コピーして返されません。最後に、グローバル変数 C はサブルーチン呼び出しの影響を受けません。

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Switch..case..default..end switch

switch 制御ステートメントは、*expression* の値に基づいて異なるパスに従うようスクリプトを実行させるスクリプト選択構文です。

構文は次のとおりです。

```
switch expression { case valuelist [ statements ]} [ default
statements ]end switch
```

ここで

数式 は、任意の式です。

valuelist は、*expression* の比較される値のカンマ区切りのリストです。スクリプトの実行は、*valuelist* の値が *expression* の値と等しい最初のグループのステートメントで続行されます。*valuelist* の各値には任意の数式を使用できます。すべての **case** 句で一致しない場合は、**default** 句 (指定した場合) のステートメントが実行されます。

statements は、1 つ以上の QlikView スクリプトステートメントのグループです。

switch ステートメントは制御ステートメントであり、セミコロンまたは改行コードで終わっているため、使用可能な 4 つの句 (**switch**、**case**、**default**、および **end switch**) は行をまたぐことはできません。

例 :

```
switch I
case 1
load '$(I): CASE 1' as case autogenerate 1;
case 2
load '$(I): CASE 2' as case autogenerate 1;
default
load '$(I): DEFAULT' as case autogenerate 1;
end switch
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Tag Field

項目にタグを適用する方法を提供します。ドキュメントに存在しない項目名は無視されます。項目名やタグ名が何度も発生する場合には、最後の値が使用されます。

dimension タグの付いた項目は、**数式の編集** ダイアログ以外の QlikView の項目選択リストの上部に表示されます。

measure タグの付いた項目は、**数式の編集** ダイアログの項目選択リストの上部に表示されます。

次の構文を使用して項目にタグを追加するために、キーワードを使用できます。

```
tag fields fieldlist using mapname
```

fieldlist は、ロードスクリプト内でここからタグ付けされる項目のカンマ区切りのリストです。

mapname は、*Mapping* (322 ページ) load または *Mapping* (322 ページ) select ステートメントによって以前に読み取られたマッピングテーブルの名前です。

個々のタグを設定するには次の構文を使用します。

```
tag field fieldname with tagname
```

fieldname は、タグを付ける項目の名前です。

tagname は、項目に表示されるタグの名前です。

例 1:

```
tagmap:
mapping Load * inline [
a,b
Alpha,MyTag
Num,MyTag
];
tag fields using tagmap;
```

例 2:

```
tag field Alpha with 'MyTag2';
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Trace

trace ステートメントを使用すると、**[ロード スクリプトの進捗]** ウィンドウとスクリプトのログファイルに *string* が書き込まれます。

これはデバッグの際に非常に有用です。Trace ステートメントの前に計算される変数の \$ 拡張を使用すると、メッセージをカスタマイズできます。

構文は次のとおりです。

```
trace string
```

例 :

```

    trace Main table loaded;
Let MyMessage = NoOfRows('MainTable') & ' rows in Main Table';
    trace $(MyMessage);

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Unless

unless プレフィックスとサフィックスは条件句の作成に使用されます。条件句は、ステートメントまたは `exit` 句を実行するかどうかを決定します。`if..end if` ステートメントの簡単な代替として使用されます。構文は次のとおりです。

```
( unless condition statement | exitstatement unless condition )
```

ここで

condition は、true または false を評価する論理式です。

statement は、制御ステートメントを除く QlikView スクリプト ステートメントです。

exitstatement は、**exit for**、**exit do** または **exit sub** 句、または **exit script** ステートメントです。

statement または *exitstatement* は、*condition* が false で評価される場合に限り実行されます。

unless プレフィックスは、他の **when** や **unless** プレフィックスを含む 1 つ以上の他のステートメントを持つステートメントで使用できます。

例 :

```

    exit script unless A=1;
    unless A=1 load * from myfile.csv;
    unless A=1 when B=2 drop table Tab1;

```

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) へ戻る

Unmap

unmap ステートメントは、その後にロードされる項目向けに前の **map ... using** ステートメントで指定されていた項目値 *Mapping* (322 ページ) を無効にします。

構文は次のとおりです。

```
unmap *fieldlist
```

**fieldlist* は、ロード スクリプト内でこれ以降マップされなくなる項目のカンマ区切りのリストです。* を使用すると、項目リストはすべての項目を示します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。ワイルドカード文字を使用する際、項目名を引用符で囲む必要がある場合があります。

例 :

unmap Country;	項目 Country のマッピングを無効にします。
unmap A, B, C;	項目 A、B、および C のマッピングを無効にします。
unmap * ;	すべての項目のマッピングを無効にします。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Unqualify

unqualify ステートメントは、**qualify** ステートメントで以前に有効にされた項目名の修飾を無効にするために使用します。構文や詳細情報については、[Qualify \(326 ページ\)](#) ステートメントを参照してください。

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

Untag Field

項目からタグを削除する方法を提供します。ドキュメントに存在しない項目名は無視されます。項目名やタグ名が何度も発生する場合には、最後の値が使用されます。

次の構文を使用して項目からタグを削除するために、キーワードを使用できます。

```
untag fields fieldlist >using mapname
```

fieldlist は、タグを削除する項目のカンマ区切りのリストです。

mapname は、[Mapping \(322 ページ\)](#) load または [Mapping \(322 ページ\)](#) select ステートメントによって以前に読み取られたマッピング テーブルの名前です。

個々のコメントを削除するには次の構文を使用します。

```
untag fieldfieldnamewithtagname
```

ここで

fieldname は、タグを削除する項目の名前です。

tagname は、項目から削除されるタグの名前です。

例 1:

```
tagmap:
mapping Load * inline [
  a,b
  Alpha,MyTag
  Num,MyTag
];
untag fields using tagmap;
```

例 2:

```
untag field Alpha with MyTag2;];
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

When

when プレフィックスとサフィックスは条件句の作成に使用されます。条件句は、ステートメントまたは `exit` 句を実行するかどうかを決定します。**if..end if** ステートメントの簡単な代替として使用されます。構文は次のとおりです。

```
( when condition statement | exitstatement when condition )
```

ここで

condition は、true または false を評価する論理式です。

statement は、制御ステートメントを除く QlikView スクリプト ステートメントです。

exitstatement は、**exit for**、**exit do** または **exit sub** 句、または **exit script** ステートメントです。

statement または *exitstatement* は、*condition* が true で評価される場合に限り実行されます。

when プレフィックスは、他の **when** や **unless** プレフィックスを含む 1 つ以上の他のステートメントを持つステートメントで使用できます。

例：

```
exit script when A=1;
when A=1 load * from myfile.csv;
when A=1 unless B=2 drop table Tab1;
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

24.2 テーブル名

テーブルの名前付け

QlikView 内部テーブルは、QlikView 内部データベースに保存されるときに名前が付けられます。テーブル名は、**load...resident**、**peek** などで使用され、レイアウト内の *\$Table* システム項目で確認できます。

テーブルの名前は、次のルールに従って付けられます。

1. ラベルが **load** または **select** ステートメントの直前にある場合は、そのラベルがテーブル名として使用されます。ラベルの後にはコロン (:) が必要です (以下の「テーブルラベル」を参照)。
2. ラベルを指定しない場合、**load** または **select** ステートメント内のキーワード **from** の直後にあるファイル名またはテーブル名が使用されます。最大 32 文字まで使用されます。ファイル名の場合は、拡張子が省略されます。
3. インラインでロードされるテーブルには、*INLINExx* という名前が付けられます。ここで、xx は数値です。最初のインラインテーブルには、*INLINE01* という名前が付けられます。
4. 自動生成されるテーブルには、*AUTOGENERATExx* という名前が付けられます。ここで、x は数値です。最初の自動生成テーブルには、*AUTOGENERATE01* という名前が付けられます。

5. 上のルールに従って生成されたテーブル名が既存のテーブル名と競合する場合は、名前に -x が付けられます。ここで、x は数値です。数値は、競合がなくなるまで増やされます。たとえば、3 つのテーブルに *Budget*、*Budget-1*、および *Budget-2* という名前を付けることができます。

テーブル名に対応する **section access**、**section application**、およびマッピングテーブルという 3 つの個別のドメインがあります。**section access** および **section application** 内で生成されるテーブル名は個別に扱われます。参照されるテーブル名がセクション内がない場合、QlikView は他のセクションも検索します。マッピングテーブルは個別に扱われ、他の 2 つのドメインのテーブル名とは関係ありません。

テーブルラベル

load ステートメントの **resident** 句または **peek** 関数を含む数式が後で参照するために、内部テーブルにラベルを付けることができます。ラベルは、数値および文字で構成される任意の文字列で、内部テーブルを作成する最初の *Load* (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの前に配置します。ラベルの最後にコロン ":" を付ける必要があります。

例：

```
Table1:
Load a,b from c.csv;

Load x,y from d.csv where x=peek("a",y,Table1);
Transactions:
Select * from Transtable;

Load Month, sum(Sales) resident Transactions group by Month;
```

24.3 スクリプト変数

スクリプト変数は、テキストまたは数値を代入できるエンティティです。使用する場合は、変数の代わりにその値が使用されます。マクロ展開用のスクリプトやさまざまな制御ステートメントで変数を使用できます。例えばパスのように、同じ文字列がスクリプト内に何度も繰り返し出てくる場合に便利です。

一部の特別な **システム変数** は、スクリプトの実行開始時にそれらの前の値に関係なく QlikView によって設定されます。

スクリプト変数を定義する場合は、次の構文

```
set variablename = string
```

または

```
let variable = expression
```

これ **Set** コマンドは、イコールサインの右側に、変数にテキストを割り当てるのに対し、**Let** コマンドは数式を評価します。

変数では、大文字と小文字が区別されます。

例：

```
set HidePrefix = $ ; // 変数は文字列 '$' を値として得ます。
```

```
let vToday = Num(Today()); // 今日の日付をシリアル番号で返します。
```

次のスクリプト変数を使用できます。

エラー変数	354 ページ
データ型変換変数	444 ページ
システム変数	347 ページ
値を操作する変数	349 ページ
Direct Discovery システム変数	Direct Discovery (193 ページ)
Direct Discovery 文字変数	Direct Discovery (193 ページ)

システム変数

これらの変数は、QlikView で特別な意味を持ちます。

Floppy

見つかった最初のフロッピー ドライブのドライブ文字を返します。通常は a: です。システム定義変数。

CD

見つかった最初の CD-ROM ドライブのドライブ文字を返します。CD-ROM が見つからない場合は、c: が返されます。システム定義変数。

\$(Include =filename)

\$(Must_Include =filename)

include と **must_include** 変数は、スクリプトに含む必要があるテキストが格納されたファイルを指定します。このため、スクリプト全体をファイルに入れることができます。これは、ユーザーによって定義される変数です。

include と **must_include** の違いは、**include** は、スクリプトのリロード中にファイルが見つからなかった場合にサイレントに失敗して、**must_include** は、ファイルが見つからなかった場合にエラーを返します。

例 :

```
$(Include=abc.txt);
$(Must_Include=def.txt);
```

つまり、**set Include =filename** という構文は、適用できません。

HidePrefix

このテキスト文字列から始まるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。ユーザー定義変数。

例：

```
set HidePrefix='_';
```

このステートメントを使用すると、システム項目が非表示の場合、アンダースコア (_) から始まる項目名が項目名リストに表示されません。

HideSuffix

このテキスト文字列で終わるすべての項目名は、システム項目と同様に非表示になります。ユーザー定義変数。

例：

```
set HideSuffix='%';
```

このステートメントを使用すると、システム項目が非表示の場合、パーセント記号 (%) で終わる項目名が項目名リストに表示されません。

QvPath

QlikView 実行可能ファイルへの参照文字列を返します。システム定義変数。

QvRoot

QlikView 実行可能ファイルのルートディレクトリを返します。システム定義変数。

QvWorkPath

現在の QlikView ドキュメントへの参照文字列を返します。システム定義変数。

QvWorkRoot

現在の QlikView ドキュメントのルートディレクトリを返します。システム定義変数。

StripComments

この変数を 0 に設定すると、スクリプト内の /*..*/ および // コメントを除去することが禁止されます。/*..*/ コメントを使用して **select** ステートメントでヒントを定義する特定のデータベースドライバでは、スクリプトエラーが起こる可能性があります。コメントが必要なステートメントを過ぎたらすぐに、この変数を 1 にリセットすることをお勧めします。この変数が設定されない場合、コメントの除去は常に実行されます。

例：

```
set StripComments=0;
```

Verbatim

通常、QlikView データベースにロードされる前に、すべての項目値から前後の空白文字 (ASCII 32) が自動的に除去されます。この変数を 1 に設定すると、空白文字の除去が一時停止されます。

例 :

```
set Verbatim = 1;
```

OpenUrlTimeout

この変数は、URL ソース (HTML のページなど) からのデータの取得時に QlikView が遵守する必要があるタイムアウトを秒単位で定義します。省略すると、タイムアウトは約 20 分です。

例 :

```
set OpenUrlTimeout=10
```

WinPath

Windows への参照文字列を返します。システム定義変数。

WinRoot

Windows のルートディレクトリを返します。システム定義変数。

値を操作する変数

NullDisplay

定義した記号は、最下位レベルのデータで ODBC から取得されたすべての NULL 値の代わりに使用されます。ユーザー定義変数。

例 :

```
set NullDisplay='<NULL>';
```

NullInterpret

定義した記号は、テキスト ファイル、Excel ファイルおよび inline ステートメント内で見つかった場合、NULL と解釈されます。ユーザー定義変数。

例 :

```
set NullInterpret=' ';  
set NullInterpret =;
```

は Excel の空白値に対して null 値を返しません (csv テキスト ファイルには返します)

```
set NullInterpret ='';
```

は Excel の空白値に対して null 値を返します (csv テキスト ファイルには返しません)

NullValue

定義した記号は、未定義ではなく不明と見なされるすべての NULL 値の代わりに使用されます。影響を受ける NULL 値は、**nullasvalue** ステートメントに含まれる NULL 値だけです。

例：

```
set NullValue='<NULL>';
```

OtherSymbol

load/select ステートメントの前にある "他のすべての値" として扱われる記号を定義します。ユーザー定義変数。

例：

```
set OtherSymbol='+';
```

データ型変換変数

次の変数はシステムに定義されます。新しいドキュメントを作成したときに、現在のオペレーティングシステムの設定に従って、変数は自動的に生成されます。データ型変換変数は、新しい QlikView ドキュメントのロードスクリプトの最上部に含まれ、これらは、スクリプトの実行時に特定の数値書式設定におけるオペレーティングシステムのデフォルトの代わりに使用されます。これらを自由に削除、編集、または複製できます。

ThousandSep

定義した桁区切り記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の桁区切り記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set ThousandSep=','; (例えば、7 百万は 7,000,000,000 として指定する必要があります。)
```

DecimalSep

定義した小数点記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の小数点の記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set DecimalSep='.';
```

MoneyThousandSep

定義した桁区切り記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨の桁区切り記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyThousandSep=', ';
```

MoneyDecimalSep

定義した小数点記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨の小数点の記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyDecimalSep='.';
```

MoneyFormat

定義した記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyFormat='$ #,##0.00; ($ #,##0.00)';
```

DirectMoneyDecimalSep

定義した小数点記号は、*Direct Discovery* (193 ページ) を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで通貨の小数点の記号の代わりに使用されます。この記号は、*DirectMoneyFormat* で使用している記号と一致する必要があります。

デフォルト値は、`[.]` です。

例：

```
Set DirectMoneyDecimalSep='.';
```

DirectMoneyFormat

定義した記号は、*Direct Discovery* (193 ページ) を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで通貨の書式の代わりに使用されます。桁区切りの通貨記号は含めないでください。

デフォルト値は `#[.0000]` です。

例：

```
Set DirectMoneyFormat=' #.0000';
```

TimeFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の時刻の書式の代わりに使用されます。

例：

```
Set TimeFormat='hh:mm:ss';
```

DateFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の日付の書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DateFormat='M/D/YY';
```

DirectTimeFormat

定義した時刻書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで時刻書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DirectTimeFormat='hh:mm:ss';
```

DirectDateFormat

定義した日付書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで、日付書式との代わりに使用されます。

例 :

```
Set DirectDateFormat='MM/DD/YYYY';
```

TimestampFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の日時の書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set TimestampFormat='M/D/YY hh:mm:ss[.fff]';
```

DirectTimeStampFormat

定義した日付と時刻の書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで日付と時刻の書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DirectTimeStampFormat='M/D/YY hh:mm:ss[.fff]';
```

MonthNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の月名の表記規則の代わりに使用されます。

例 :

```
Set MonthNames='1月;2月;3月;4月;5月;6月;7月;8月;9月;10月;11月;12月';
```

LongMonthNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の長い月名の表記規則の代わりに使用されます。

例 :

```
Set LongMonthNames='1月;2月;3月;4月;5月;6月 - -
```

DayNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の曜日の名前の表記規則の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DayNames='月;火;水;木;金;土;日';
```

LongDayNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の長い曜日名の表記規則の代わりに使用されます。

例 :

```
Set LongDayNames='月曜日;火曜日;水曜日;木曜日;金曜日;土曜日;日曜日';
```

ShowCalendarWeek

AJAX と Webview のカレンダーで週番号の表示・非表示を設定します。既定では False に設定されています。

カレンダーは ISO 基準を採用していて、月曜日が週の始まりで、月曜日から木曜日まで (4 日間ルール) を 1 週となります。

設定可能な値は次のとおりです。

'true' (または 1 あるいは '1')

'false' (または 0 あるいは '0')

例 :

```
Set ShowCalendarWeek='true';
```

ExponentNumberNotation

この変数は、指数の数値を含む、ロードされた値の解釈方法を設定します。E と D は、指数のプレフィックスとして使用されます。

設定可能な値は次のとおりです。

0 (1.23E6 と 1.23D6 はいずれも、指数の数値として解釈されません)

1 (1.23D6 ではなく 1.23E6 は、指数の数値で既定値として解釈されます)

2 (1.23E6 と 1.23D6 はいずれも、指数の数値として解釈されます)

例 :

```
Set ExponentNumberNotation=2;
```

その他の関数 (384 ページ) へ戻ります。

エラー変数

以下の変数は、スクリプト内でエラー処理に使用できます。

ErrorMode	354 ページ
ScriptError	354 ページ
ScriptErrorDetails	355 ページ
ScriptErrorCount	356 ページ
ScriptErrorList	356 ページ

5つのすべての変数の値は、スクリプト実行後にも残ります。スクリプト内部のエラー処理に関する最後の4つの変数の値は、ErrorMode=0であることが条件です。

ErrorMode

この変数は、スクリプトの実行中にエラーが発生したときに QlikView によって実行されるアクションを定義します。

デフォルト (**ErrorMode=1**) では、スクリプトの実行が中止され、ユーザーのアクションが要求されます (バッチモード以外)。

ErrorMode =0 を設定すると、QlikView はロードに失敗した際のすべてのエラーメッセージを抑制します。ロードの失敗によりスクリプトの実行が停止している場合、スクリプトは続行されません。

ErrorMode =2 を設定すると、QlikView はユーザーにアクションを要求することなく、エラーの発生直後に「ロード スクリプトの実行がキャンセルされました」というエラーメッセージを表示します。

例 :

```
set ErrorMode=0;
```

ScriptError

最後に実行されたスクリプトステートメントのエラーコードを返します。この変数は、各スクリプトステートメントが正常に実行されるたびに、0 にリセットされます。エラーが発生すると、変数は内部の QlikView エラーコードに設定されます。エラーコードは、数値とテキスト値のデュアル値です。以下のエラーコードがあります。

- 0** エラーなし
- 1** 一般エラー

-
- 2 構文エラー
 - 3 一般 ODBC エラー
 - 4 一般 OLE DB エラー
 - 5 一般カスタム データ
ベース エラー
 - 6 一般 XML エラー
 - 7 一般 HTML エラー
 - 8 ファイルが見つかりま
せん
 - 9 データベースが見つか
りません
 - 10 テーブルが見つかりま
せん
 - 11 項目が見つかりません
 - 12 ファイル形式が正しく
ありません
 - 13 BIFF エラー
 - 14 暗号化された BIFF エ
ラー
 - 15 サポートされていない
バージョンの BIFF エ
ラー
 - 16 セマンティックエラー

例 :

```
set ErrorMode=0;
load * from abc.qvw;
if ScriptError=8 then
exit script;
//no file;
end if
```

ScriptErrorDetails

上のいくつかのエラーコードについて、より詳細なエラーの説明を返します。最も重要なことは、この変数には、エラーコード 3 と 4 について ODBC および OLE DB ドライバによって返されるエラーメッセージが含まれることです。

ScriptErrorCount

現在のスクリプトの実行中にエラーを発生させたステートメントの総数を返します。この変数は、スクリプトの実行開始時に常に 0 にリセットされます。

ScriptErrorList

この変数には、最後のスクリプトの実行中に発生したすべてのスクリプトエラーの連結されたリストが含まれます。各エラーは、改行文字 (LF) で区切られます。

24.4 ドル記号展開

ドル記号展開はロードスクリプトや数式で使用されるテキスト置換の定義です。このプロセスは、たとえ新しいテキストが短くても展開が可能です。置換はロードスクリプトステートメントや数式が評価される直前に行われます。技術的に言えば、これはマクロ展開です。

マクロ展開は常に '\$(' で始まり、 ')' で終わり、かっこの間のコンテンツでテキスト置換をどのように行うかを定義します。スクリプトマクロとの混同を避けるために、これ以降、マクロ展開をドル記号展開と呼びます。

注意!

マクロ展開は、スクリプトマクロ (スクリプトモジュールで定義された VB もしくは Java スクリプト) には関係ありません。

注意!

ドル記号展開は、計算できるマクロ展開の数に制限があります。1,000 以上の展開は演算できません。

変数を使用するドル記号展開

ロードスクリプトや数式でのテキスト置換に変数を使用する場合は、次の構文が使用されます。

`$(variablename)`

`$(variablename)` により、`variablename` 内の値に展開されます。`variablename` が存在しない場合は、空の文字列に展開されます。

数値の変数展開では、構文 `$(variablename)` が地域に適した小数点記号 (多くの国では小数点) を使用して数字を生成します。このような展開は小数点を使用する必要があるため、スクリプト内の数字では使用できません。その代わりに、展開 `$(#variablename)` を使います。(ハッシュ記号に注意してください。)これは、常に `variablename` の数値の有効な少数点値を生成します。非常に大きい/小さい数値の場合は、指数表示が使用されることもあります。`variablename` が存在しない場合、または数値が含まれていない場合は、0 に展開されます。

例:

次のスクリプトを実行すると、

```
SET DecimalSep=',';
LET X = 7/2;
$(X) は 3,5 に展開され、$(#X) は 3.5 に展開されます。
```

例：

```
set MyPath=C:\MyDocs\Files\
...
load * from $(MyPath)abc.csv;
set CurrentYear=1992;
...
select * from table1 where Year=$(CurrentYear);
```

パラメータを使用するドル記号展開

パラメータは変数展開で使用できます。変数には、\$1、\$2、\$3 などの仮パラメータが含まれている必要があります。変数を展開する場合、パラメータをカンマ区切りされたリストに記述します。

例：

```
set MUL='$1*$2';
set X=$(MUL(3,7)); // は X に "3*7" を返します
let X=$(MUL(3,7)); // は X に 21 を返します
```

仮パラメータの数が実パラメータより多い場合は、実パラメータに対応する仮パラメータだけが展開されます。実パラメータの数が仮パラメータの数より多い場合は、余分な実パラメータが無視されます。

例：

```
set MUL='$1*$2';
set X=$(MUL); // は X に "$1*$2" を返します
set X=$(MUL(10)); // は X に "10*$2" を返します
let X=$(MUL(5,7,8)); // は X に 35 を返します
```

パラメータ \$0 は、呼び出しで実際に渡されるパラメータの数を返します。

例：

```
set MUL='$1*$2 $0 par';
set X=$(MUL(3,7)); // は X に "3*7 2 par" を返します
```

数式を使用するドル記号展開

数式はドル記号展開で使用できます。かっこの間のコンテンツは等号で始める必要があります。

```
$(=expression)
```

数式が評価され、値が展開に使用されます。

例：

```
$(=Year(Today())); // は例えば "2008" を返します
$(=Only(Year)-1); // は選択値の前年を返します
```

ファイルの Include ステートメントのドル記号展開

ファイル Include が、ドル記号展開を使用して作成されます。構文は次のとおりです。

```
$( include=filename )
```

上記のテキストはイコールサインの後に指定するファイルの内容で置き換えられます。この機能は、テキストファイルのスクリプト全体、またはその一部を保存する場合にとっても便利です。

例：

```
$(include=C:\Documents\MyScript.qvs);
```

24.5 スクリプトでの引用符

さまざまな方法で、スクリプトのステートメントに引用符を使用することができます。

Load ステートメント内で

Load (313 ページ) ステートメントでは、引用符として次の記号を使用する必要があります。

	Description(説明)	マーカー	ASCII	例:
項目名	二重引用符	" "	34	"string"
	square brackets	[]	91, 93	[string]
	抑音符号	``	96	`string`
文字列リテラル	一重引用符	' '	39	'string'

選択ステートメントで

Select (SQL) (332 ページ) ステートメントが *ODBCdriver* によって解釈される場合、少し異なる可能性があります。通常、項目とテーブル名にはストレート二重引用符 (ALT+0034) を使用し、文字列にはストレート単一引用符 (ALT+0039) を使用し、抑音符号の使用は避ける必要があります。ただし、一部の *ODBC* ドライバでは、引用符として抑音符号を使用できるだけでなく、それらを優先するものもあります。そのような場合、生成される *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントには抑音符号の引用符が含まれます。

Microsoft Access 引用符のサンプル

Microsoft Access *ODBC Driver 3.4* (MS Access 7.0 に付属) では、**select** ステートメントの分析時に次の引用符を使用できます。

項目名およびテーブル名: [] " "

文字列リテラル: ''

その他データベースには、異なる規則がある場合があります。

Load ステートメント外で

Load (313 ページ) ステートメント外の QlikView が数式を期待するところでは、二重引用符は、項目参照ではなく、変数参照を意味します。二重引用符を使用する場合、囲まれた文字列は、変数として解釈されて、その変数値が使用されます。

コンテキスト外での項目参照およびテーブル参照

QlikView の一部のスクリプトの関数は、作成済みの項目を参照しているか、**Exists()** and **Peek()** など *Load* (313 ページ) ステートメントの出力に存在します。これら項目参照は、コンテキスト内の項目を参照するソース項目の参照、つまり、*Load* (313 ページ) ステートメントの入力テーブル内とは異なり、コンテキスト外項目参照と呼ばれます。

コンテキスト外項目参照およびテーブル参照は文字列とみなされ、よって、一重引用符を必要とします。

名前と文字列の違い

次のサンプルを比較すると、名前と文字列の違いがよりはっきりとします。

例 1:

'Sweden' as Country

この数式が **load** または **select** ステートメントの項目リストに含まれる場合は、テキスト文字列 "Sweden" が項目値として QlikView 項目 "Country" にロードされます。

例 2:

"land" as Country

この数式が **load** または **select** ステートメントの項目リストに含まれる場合は、"land" という名前のデータベース項目またはテーブル列の内容が項目値として QlikView 項目 "Country" にロードされます。つまり、land は項目参照として扱われます。

数値と文字列リテラルの違い

次の数式を比較すると、数値と文字列リテラルの違いがよりはっきりします。

例 1:

'12/31/96'

上の文字列は、数式の一部として使用される場合、第一段階では、"12/31/96" というテキスト文字列として解釈されて、次は、日付の形式が MM/DD/YY の場合、日付と解釈されます。このような場合、数値とテキストの両方で表された値が二重で、QlikView に保管されます。

例 2:

12/31/96

上の文字列が数式の一部として使用された場合、 $12 \div 31 \div 96$ のように数字として、解釈されます。

スクリプトのステートメントとキーワード (271 ページ) も参照してください。

25 スクリプト式

数式は、*Load* (313 ページ) ステートメントと *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの両方で使用できます。ここで説明する構文と *functions* は、*select* ステートメントではなく、**load** ステートメントに適用されます。これは、*select* ステートメントが QlikView ではなく、*ODBCdriver* によって解釈されるためです。ただし、ほとんどの ODBC ドライバは、以下で説明する多くの関数を解釈できません。

数式は、*functions*、項目 (207 ページ) と 演算子 (954 ページ) で構成され、スクリプト構文 (271 ページ) に組み込まれます。

QlikView スクリプト内のすべての数式は、数値と文字列のいずれか適切なものを返します。論理関数と演算子 (954 ページ) は、*false* の場合 0、*true* の場合 -1 を返します。数値から文字列への変換およびその逆の変換は、暗黙に行われます。論理演算子と関数は、0 を *false* と解釈し、それ以外のすべてを *true* と解釈します。

数式の一般的な構文は、次のとおりです。

```

expression ::= (constant  constant           |
                fieldref           |
                operator1 expression  |
                expression operator2 expression |
                function           |
                ( expression )       )

```

ここで

constant は、ストレート単一引用符で囲まれた文字列 (テキスト、日付、または時刻) または数値です。定数は、桁区切り記号を使用せずに記述します。定数の小数点記号は小数点を使用します。

fieldref は、ロードされるテーブルの項目名です。

operator1 は、単項演算子 (右側にある 1 つの数式に対して作用する) です。

operator2 は、二項演算子 (両側にある 2 つの数式に対して作用する) です。

function ::= functionname (parameters)

parameters ::= expression { , expression }

パラメータの数と型は、任意ではありません。使用する関数によって異なります。

このように、数式と関数を自由にネストでき、解釈可能な値を式が返す限り、QlikView はエラーメッセージを表示しません。

25.1 演算子

QlikView には、1 つのオペランドのみを使用する単項演算子と、2 つのオペランドを使用する二項演算子という 2 種類の演算子があります。ほとんどの演算子は、二項演算子です。

次の演算子を定義できます。

数値演算子	954 ページ
文字列演算子	954 ページ
論理演算子	955 ページ
関係演算子	955 ページ
ビット演算子	956 ページ

数値演算子

すべての数値演算子はオペランドの数値を使用し、結果として数値を返します。

+	正の数値 (単項演算子) または加算を表す記号。この二項演算子は、2つのオペランドの和を返します。
-	負の数値 (単項演算子) または減算を表す記号。この単項演算子は -1 倍したオペランドを返し、二項演算子は2つのオペランドの差を返します。
*	乗算。この演算子は、2つのオペランドの積を返します。
/	除算。この演算子は、2つのオペランドの割合を返します。

文字列演算子

2つの文字列演算子があります。一方はオペランドの文字列値を使用し、結果として文字列を返します。他方はオペランドを比較し、一致したかどうかを示す論理値を返します。

&	文字列連結。この演算は、2つのオペランド文字列を順に連結したテキスト文字列を返します。
---	---

例：

'abc' & 'xyz' は、"abcxyz" を返します

like	ワイルドカード文字列を使用した文字列比較。演算子の前の文字列が演算子の後の文字列と一致した場合、この演算は論理値 true (-1) を返します。2番目の文字列には、ワイルドカード文字 * (任意の数の任意の文字) または ?(1つの任意の文字) が含まれることがあります。
------	---

例：

'abc' like 'a*' は、true (-1) を返します

'abcd' like 'a?c*' は、true (-1) を返します

'abc' like 'a??bc' は、false (0) を返します

論理演算子

すべての論理演算子は、オペランドを論理的に解釈し、結果として true (-1) または false (0) を返します。

not	論理否定。いくつかの単項演算子の 1 つ。この演算は、オペランドの論理否定を返します。
と	論理積 (and)。この演算は、オペランドの論理積を返します。
または	論理和 (or)。この演算は、オペランドの論理和を返します。
Xor	排他的論理和。この演算は、オペランドの排他的論理和を返します。つまり、論理和と似ていますが、両方のオペランドが true の場合は、結果が false であるという違いがあります。

関係演算子

すべての関係演算子はオペランドの値を比較し、結果として true (-1) または false (0) を返します。すべての関係演算子が二項演算子です。

<	未満	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<=	以下	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>	より大きい	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>=	以上	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
=	等しい	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<>	等しくない	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。

precedes	ASCII 文字順序 でより小さい	< 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが ASCII 比較で右側の値のテキスト表現の前に来る場合は true を返します。 例： ' 11' precedes ' 2' は true を返します これを次の例と比較します。 ' 11' < ' 2' は false を返します
follows	ASCII 文字順序 でより大きい	> 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが ASCII 比較で右側の値のテキスト表現の後ろに来る場合は true を返します。 例： ' 23' follows ' 111' は true を返します これを次の例と比較します。 ' 23' > ' 111' は false を返します

ビット演算子

すべてのビット演算子はオペランドを符号付き整数 (32 ビット) に変換し、同じ方法で結果を返します。すべての操作は、ビット単位で行われます。

bitnot	ビット反転。	単項演算子。この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理否定を返します。
bitand	ビット単位の論理積。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理積を返します。
bitor	ビット単位の論理和。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理和を返します。
bitxor	ビット単位の排他的論理和。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの排他的論理和を返します。
>>	ビット右シフト。	単項演算子。この演算は、1 つ右にシフトしたオペランドを返します。
<<	ビット左シフト。	単項演算子。この演算は、1 つ左にシフトしたオペランドを返します。

25.2 集計関数

これらの関数は、**group by**句を持つ *Load* (313 ページ)ステートメントに対する項目リストでのみ使用できます。

集計関数は次のとおりです。

基本集計関数	365 ページ
文字列集計関数	366 ページ
カウンタ集計関数	367 ページ
高度な集計	368 ページ
ロード スクリプトの統計集計関数	369 ページ
ロード スクリプトの財務集計関数	373 ページ
ロード スクリプトの統計検定関数	374 ページ

注意！

集計関数では、値が見つからない場合 NULL を返しますが、Sum と Count は例外として 0 を返します。

基本集計関数

`sum([distinct]expression)`

group by 句で定義されたレコードでの `expression` の合計を返します。`expression` の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, sum(Sales) as SalesPerMonth
from abc.csv group by month;
```

`min(expression[, rank])`

group by 句で定義されたレコードでの `expression` の数値の最小値を返します。`rank` のデフォルトは 1 で、これが最小値に対応します。`rank` を 2 と指定すると、2 番目に低い値が返されます。`rank` が 3 のときは 3 番目に低い値が返され、以下同様に値が返されます。

例：

```
Load Month, min(Sales) as SmallestSalePerMonth from abc.csv group by
Month;
Load Month, min(Sales, 2) as SecondSmallestSalePerMonth from abc.csv
group by Month;
```

`max(expression[, rank])`

group by 句で定義されたレコードでの **expression** の数値の最大値を返します。rank のデフォルトは 1 で、これが最大値に対応します。rank を 2 と指定すると、2 番目に高い値が返されます。rank が 3 のときは 3 番目に高い値が返され、以下同様に値が返されます。

例 :

```
Load Month, max(Sales) as LargestSalePerMonth from abc.csv group by
Month;
Load Month, max(Sales, 2) as SecondLargestSalePerMonth from abc.csv
group by Month;
```

only (expression)

group by 句で定義されたレコードについて **expression** が持つ数値が 1 つだけの場合、その値が返されます。それ以外の場合は NULL が返されます。

例 :

```
Load Month, only(Price) as OnlyPriceSoldFor from abc.csv group by
Month;
```

mode (expression)

group by 句で定義されたレコードでの **expression** の最頻値 (最もよく現れる値) を返します。複数の値が同じ頻度で現れる場合は、NULL が返されます。**mode** は、数値とテキスト値のどちらも返すことができます。

例 :

```
Load Month, mode( ErrorNumber ) as MostCommonErrorNumber from abc.csv
group by Month;
Load Month, mode( Product ) as ProductMostOftenSold from abc.csv group
by Month;
```

firstsortedvalue ([distinct] expression [, sort-weight [, n]])

expression が **group by** 句の定義によってレコードが反復するときの **sort-weight** でソートされたときの **expression** の最初の値を返します。**sort-weight** は、対応する **expression** の最初にソートされる値に重み付けの最も軽い値が対応するように、数値を返します。**sort-value** 式の前にマイナス記号を入れると、関数は最後の値を返します。数式の複数の値が同じ最低の **sort-order** を持つ場合、関数は NULL を返します。**n** を 1 より大きくすると、**n** 番目の値を返します。**expression** の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例 :

```
Load Customer,
firstsortedvalue(PurchasedArticle, OrderDate) as FirstProductBought
from abc.csv
group by Customer;
```

文字列集計関数

MinString (expression)

group by 句で定義されたレコードでの **expression** の最初のテキスト値を返します。テキスト値が見

つかからない場合は、NULL を返します。

例 :

```
Load Month, MinString(Month) as FirstSalesMonth from abc.csv group by
Year;
```

MaxString(expression)

group by 句で定義されたレコードでの **expression** の最後のテキスト値を返します。テキスト値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

```
Load Month, MaxString(Month) as LastSalesMonth from abc.csv group by
Year;
```

FirstValue(expression)

group by 句で定義されたレコードの **expression** のロード順での最初の値を返します。テキスト値が見つからない場合は、NULL を返します。この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。

例 :

```
Load City, FirstValue(Name), as FirstName from abc.csv group by City;
```

LastValue(expression)

group by 句で定義されたレコードの **expression** のロード順での最後の値を返します。テキスト値が見つからない場合は、NULL を返します。この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。

例 :

```
Load City, LastValue(Name), as FirstName from abc.csv group by City;
```

concat ([distinct] expression [, delimiter [, sort-weight]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する **expression** のすべての値が集計された文字列連結を返します。各値は、**delimiter** の文字列によって区切られます。連結の順序は、**sort-weight** によって決定されます。**sort-weight** は、最初にソートされる項目に重み付けの最も軽い値が対応するように、数値を返します。**expression** の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例 :

```
Load Department, concat(Name, ';') as NameList from abc.csv group by
Department;
```

詳細については、[concat関数の例 \(1034 ページ\)](#)を参照してください。

カウンタ集計関数

count([distinct] expression | *)

group by 句で定義されたレコードでの **expression** の値の個数を返します。**expression** の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例 :

```
Load Month, count(Sales) as NumberOfSalesPerMonth from abc.csv group by Month;
```

```
Load Month, count(distinct Customer) as CustomerBuyingPerMonth from abc.csv group by Month;
```

```
LoadMonth, count(*) as NumberOfRecordsPerMonth from abc.csv group by Month;
```

NumericCount([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の数値の個数を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, NumericCount(Item) as NumberOfNumericItems from abc.csv group by Month;
```

TextCount([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の英数字の個数を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, TextCount(Item) as NumberOfTextItems from abc.csv group by Month;
```

NullCount([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の NULL の個数を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, NullCount(Item) as NumberOfNullItems from abc.csv group by Month;
```

MissingCount([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の欠損値の個数を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, MissingCount(Item) as NumberOfMissingItems from abc.csv group by Month;
```

高度な集計

高度な集計のための特別な関数があります。

```
aggr ([ distinct | nodistinct ] [{set_expression}]expression {, dimension} )
```

dimension に対して計算された *expression* の値のセットを返します。結果は、**aggr** 関数が存在するコンテキストで評価された 'ローカルチャート' の数式列と比較できます。各 *dimension* は、1つの項目にする必要があります。数式 (計算軸) にすることはできません。

expression 引数の前に **nodistinct** 修飾子が配置された場合、軸の値の各組み合わせは、基底のデータ構造に基づいて、複数の戻り値を生成できます。*expression* 引数の前に **distinct** 修飾子が配置されているか、修飾子がまったく使用されていない場合は、軸の値の各組み合わせは 1 つの戻り値しか生成できません。

デフォルトでは、集計関数は選択によって定義されたレコードのセットに対して集計します。Set 分析 (992 ページ) 数式でレコードのセットを定義することも可能です。

計算軸の追加 (749 ページ) にこの関数を使用することで、複数レベルにネストされたチャート集計が可能になります。ネストされた集計と関連事項 (1047 ページ) も参照してください。

チャート式で使用する場合は、ピボットテーブルの行の合計 (1049 ページ) を取得できます。

例：

```
aggr( sum(Sales), Country )
aggr( nodistinct sum(Sales), Country )
aggr( sum(Sales), Country, Region )
count( aggr( sum(Sales), Country ))
```

ロードスクリプトの統計集計関数

fractile(expression, fractile)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の分位数を返します。

例：

```
Load Class, fractile( Grade, 0.75 ) as F from abc.csv group by Class;
```

kurtosis([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の尖度を返します。*expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, kurtosis(Sales) as SalesKurtosis from abc.csv group by
Month;
```

correl(x-expression, y-expression)

group by 句で定義された複数のレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標に関して集計された相関係数を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例：

```
Load Month, correl(X,Y) as CC from abc.csv group by Month;
```

avg([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の平均値を返します。*expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, avg(Sales) as AverageSalesPerMonth from abc.csv group by
Month;
```

stdev([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の標準偏差を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, stdev(Sales) as SalesStandardDeviation from abc.csv group
by Month;
```

skew([distinct] expression)

group by 句で定義されたレコードでの *expression* の歪度を返します。 *expression* の前に **distinct** がある場合、すべての重複は無視されます。

例：

```
Load Month, skew(Sales) as SalesSkew from abc.csv group by Month;
```

median (expression)

group by 句で定義されたレコードについて集計された *expression* の中央値を返します。

例：

```
Load Class, Median(Grade) as MG from abc.csv group by Class;
```

sterr ([distinct] expression)

group by 句で定義されるレコードに対して反復する *expression* で表される一連の値に関して集計された標準誤差 (stdev/sqrt(n)) を返します。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。関数の引数の前に **distinct** という語がある場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。

例：

```
Load Key, sterr(X) as Z from abc.csv group by Key;
```

steyx (y-expression, x-expression)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標について、回帰上の各 *x* 値に対して予想される *y* 値の集計された標準誤差を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例：

```
Load Key, steyx(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_m (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された *m* 値 (傾き) を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となる

データが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_m(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_b (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された b 値 (y 切片) を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_b(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_r2 (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された r^2 値 (決定係数) を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_r2(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_sem (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された m 値の標準誤差を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_sem(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_seb (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された b 値の標準誤差を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_seb(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_sey (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された y 推定値の標準誤差を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_sey(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_df (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する x -expression と y -expression の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された自由度を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 $y0$ を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 $y0$ と $x0$ の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

$y0$ と $x0$ の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 $y0$ と $x0$ が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

例：

```
Load Key, linest_df(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_f (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された F 統計値 ($r^2/(1-r^2)$) を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

例 :

```
Load Key, linest_f(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_ssreg (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された回帰変動を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

例 :

```
Load Key, linest_ssreg(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

linest_ssresid (y-expression, x-expression [, y0 [, x0]])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一対の数で表される一連の座標に対して、等式 $y=mx+b$ で表される直線回帰の集計された残差変動を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

例 :

```
Load Key, linest_ssresid(Y,X) as Z from abc.csv group by Key;
```

ロードスクリプトの財務集計関数**irr(expression)**

group by 句で定義されたレコードに対して反復する expression 内の数で表される一連のキャッシュフローから集計された内部収益率を返します。これらのキャッシュフローは、年金の場合のように均等である必要はありません。ただし、このキャッシュフローは、毎月、毎年のように、定期的に発生する必要があります。内部収益率は、定期的に発生する支払い(負の値)と収入(正の値)からなる投資の利率です。この関数の計算には、正の値と負の値が少なくともそれぞれ1つずつ必要です。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例 :

```
Load Year, irr(Payments) as IRate from abc.csv
group by Year;
```

xirr (valueexpression, dateexpression)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する valueexpression と dateexpression の 1 組の数で表されるキャッシュフロー明細表(定期でなくてもよい)について集計された内部収益率を返します。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例 :

```
Load Year, xirr(Payments, PayDates) as Irate from abc.csv group by
Year;
```

npv (rate, expression)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する expression 内の数として表される割引率、将来の支払い(負の値)、および収入(正の値)に基づく一連の投資について、集計された正味現在価値を返します。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。rate は、期間あたりの利率です。支払および入金は、各期間の最後に発生すると見なされます。テキスト値、null 値、および欠損値は無視されます。

例 :

```
Load Year, npv(0.05, Payments) as PValue from abc.csv group by Year;
```

xnpv (rate, valueexpression, dateexpression)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する valueexpression と dateexpression の 1 組の数で表されるキャッシュフロー明細表(定期でなくてもよい)について集計された正味現在価値を返します。rate は、期間あたりの利率です。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

例 :

```
Load Year, npv(0.05, Payments, PayDates) as PValue from abc.csv group
by Year;
```

ロードスクリプトの統計検定関数

次の3つの関数は、カイ二乗検定に適用されます。

```
chi2test_p (col, row, observed_value [, expected_value])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つまたは 2 つの連続値に対するカイ二乗検定の p 値 (有意) を返します。検定は、指定された *col* と *row* の行列上の変動をテストする *observed_value* の値、または *observed_value* の値と対応する *expected_values* の比較によって実行されます。数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, chi2test_p(Gender,Description,Observed,Expected) as X from
abc.csv group by Year;
```

```
chi2test_df (col, row, observed_value [, expected_value])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つまたは 2 つの連続値に対するカイ二乗検定の df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、*chi2test_p* (*col*, *row*, *observed_value* [, *expected_value*]) (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, chi2test_df(Gender,Description,Observed,Expected) as X from
abc.csv group by Year;
```

```
chi2test_chi2 (col, row, observed_value [, expected_value])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つまたは 2 つの連続値に対するカイ二乗検定の値を返します。引数の記述については、*chi2test_p* (*col*, *row*, *observed_value* [, *expected_value*]) (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, chi2test_chi2(Gender,Description,Observed,Expected) as X
from abc.csv group by Year;
```

次の 8 つの関数は、2 つの独立標本のスチューデント t 検定に適用されます。

```
TTest_t (group, value [, eq_var = true])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計された t 値を返します。これらの値は、*values* によって返され、*group* の 2 つの値によって論理的にグループ分けされます。*eq_var* が偽と指定されている場合は 2 つの標本の個別分散と見なされ、そうでない場合は標本間の等分散と見なされます。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ttest_t(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_df (group, value [, eq_var = true])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計されたスチューデント t 検定 df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、*TTest_t* (*group*, *value* [, *eq_var* = *true*]) (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_df(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_sig (group, value [, eq_var = true])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計されたスチューデント t 検定両側有意水準を返します。引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_sig(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_dif (group, value [, eq_var = true])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差を返します。引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_dif(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_sterr (group, value [, eq_var = true])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差の標準誤差を返します。引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_sterr(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_conf (group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について集計された t 値を返します。両側有意水準は、`sig` で指定します。指定されない場合、`sig` は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_conf(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_lower (group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について、信頼区間の下端に関して集計された値を返します。引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) および `TTest_conf(group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (376 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest_lower(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest_upper (group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 2 つの独立した一連の値について、信頼区間の上端に関して集計された値を返します。引数の記述については、`TTest_t(group, value [, eq_var = true])` (375 ページ) および `TTest_conf(group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (376 ページ) 関数を参照してください。

例 :

Load Year, ttest_upper(Group, Value) as X from abc.csv group by Year;
 次の8つの関数は、入力データ系列が加重2段組で与えられる2つの独立標本スチューデントt検定に適用されます。

TTestw_t (*weight, group, value* [, *eq_var = true*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたt値を返します。これらの値は、*values*によって返され、*group*の2つの値によって論理的にグループ分けされます。*value*の各値は、*weight*の対応する値に従って1回または複数回カウントされます。*eq_var*が偽と指定されている場合は2つの標本の個別分散と見なされ、そうでない場合は標本間の等分散と見なされます。*value*にテキスト値、NULL値、欠損値が含まれていると、関数はNULLを返します。

例：

```
Load Year, ttestw_t(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTestw_df (*weight, group, value* [, *eq_var = true*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたスチューデントt検定df値(自由度)を返します。引数の記述については、*TTestw_t(weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) 関数を参照してください。

例：

```
Load Year, ttestw_df(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTestw_sig (*weight, group, value* [, *eq_var = true*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたスチューデントt検定両側有意水準を返します。引数の記述については、*TTestw_t(weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) 関数を参照してください。

例：

```
Load Year, ttestw_sig(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTestw_dif (*weight, group, value* [, *eq_var = true*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたスチューデントt検定平均差を返します。引数の記述については、*TTestw_t(weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) 関数を参照してください。

例：

```
Load Year, ttestw_dif(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTestw_sterr (*weight, group, value* [, *eq_var = true*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたスチューデントt検定平均差の標準誤差を返します。引数の記述については、*TTestw_t(weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttestw_sterr(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group
by Year;
```

```
TTestw_conf (weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var =
true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について集計されたt値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は0.025に設定され、その結果として信頼区間は95%になります。その他の引数の記述については、*TTestw_t*(*weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttestw_conf(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group
by Year;
```

```
TTestw_lower (weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var =
true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について、信頼区間の下端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTestw_t*(*weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) および *TTest1w_conf*(*weight, value* [, *sig = 0.025*]) (381ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttestw_lower(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group
by Year;
```

```
TTestw_upper (weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var =
true]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する2つの独立した一連の値について、信頼区間の上端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTestw_t*(*weight, group, value* [, *eq_var = true*]) (377ページ) および *TTest1w_conf*(*weight, value* [, *sig = 0.025*]) (381ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttestw_upper(Weight, Group, Value) as X from abc.csv group
by Year;
```

次の8つの関数は、1標本のスチューデントt検定に適用されます。

```
TTest1_t (value)
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたt値を返します。値は、*value* によって返す必要があります。*value* にテキスト値、NULL値、欠損値が含まれていると、関数はNULLを返します。

例 :

```
Load Year, ttest1_t(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

```
TTest1_df (value)
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定 df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_df(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_sig (value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定両側有意水準を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_sig(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_dif (value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_dif(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_sterr (value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差の標準誤差を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_sterr(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_conf (value [, sig = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された t 値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_conf(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_lower (value [, sig = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つの一連の値について、信頼区間の下端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) および *TTest1_conf(value [, sig = 0.025])* (379 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_lower(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1_upper (value [, sig = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つの一連の値について、信頼区間の上端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTest1_t(value)* (378 ページ) および *TTest1_conf(value [, sig = 0.025])* (379 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1_upper(Value) as X from abc.csv group by Year;
```

次の 8 つの関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる 1 標本スチューデント t 検定に適用されます。

TTest1w_t (weight, value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された t 値を返します。値は、*value* によって返す必要があります。*value* の各値は、*weight* の対応する値に従って 1 回または複数回カウントされます。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ttest1w_t(Weight, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1w_df (weight, value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定 df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_df(Weight, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1w_sig (weight, value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定両側有意水準を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_sig(Weight, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1w_dif (weight, value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_dif(Weight, Value) as X from abc.csv group by Year;
```

TTest1w_sterr (weight, value)

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計されたスチューデント t 検定平均差の標準誤差を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_sterr(Weight, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTest1w_conf (*weight*, *value* [, *sig* = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された t 値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_conf(Weight, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTest1w_lower (*weight*, *value* [, *sig* = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つの一連の値について、信頼区間の下端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) および *TTest1w_conf(weight, value [, sig = 0.025])* (381 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_lower(Weight, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

TTest1w_upper (*weight*, *value* [, *sig* = 0.025])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する 1 つの一連の値について、信頼区間の上端に関して集計された値を返します。引数の記述については、*TTest1w_t(weight, value)* (380 ページ) および *TTest1w_conf(weight, value [, sig = 0.025])* (381 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ttest1w_upper(Weight, Value) as X from abc.csv group by
Year;
```

次の 5 つの関数は、z 検定に適用されます。

ZTest_z (*value* [, *sigma*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 値を返します。値は、*value* によって返す必要があります。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。標準偏差が既知の場合は、*sigma* に記述します。*sigma* の記述を省略すると、実際の標本標準偏差が使用されます。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztest_z(Value-TestValue) as X from abc.csv group by Year;
```

ZTest_sig (*value* [, *sigma*])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 検定両側有意水準を返します。引数の記述については、*ZTest_z(value [, sigma])* (381 ページ) 関数を参照してください。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztest_sig(Value-TestValue) as X from abc.csv group by Year;
```

```
ZTest_dif (value [, sigma])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 検定平均差を返します。引数の記述については、*ZTest_z (value [, sigma])* (381 ページ) 関数を参照してください。value にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztest_dif(Value-TestValue) as X from abc.csv group by Year;
```

```
ZTest_sterr (value [, sigma] )
```

group by 句で定義されるレコードに対して反復する一連の値に関して集計された平均の差の z 検定標準誤差を返します。引数の記述については、*ZTest_z (value [, sigma])* (381 ページ) 関数を参照してください。value にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztest_sterr(Value-TestValue) as X from abc.csv group by
Year;
```

```
ZTest_conf (value [, sigma [, sig = 0.025 ]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 値を返します。両側有意水準は、sig で指定します。指定されない場合、sig は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、*ZTest_z (value [, sigma])* (381 ページ) 関数を参照してください。value にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztest_conf(Value-TestValue) as X from abc.csv group by
Year;
```

```
ZTest_lower ([set_expression] [ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、*ZTest_z (value [, sigma])* (381 ページ) および *ロードスクリプトの統計検定関数* (374 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*ロードスクリプトの統計検定関数* (374 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*ロードスクリプトの統計検定関数* (374 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_lower( Group, Value )
ztest_lower( Group, Value, false )
```

```
ZTest_upper ([set_expression] [ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、*ZTest_z (value [, sigma])* (381 ページ) および ロード スクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、ロード スクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、ロード スクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_upper( Group, Value )
ztest_upper( Group, Value, false )
```

次の 5 つの関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

ZTestw_z (weight, value [, sigma])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 値を返します。値は、*value* によって返す必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。*value* の各値は、*weight* の対応する値に従って 1 回または複数回カウントされます。標準偏差が既知の場合は、*sigma* に記述します。*sigma* の記述を省略すると、実際の標本標準偏差が使用されます。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

例 :

```
Load Year, ztestw_z(Weight,Value-TestValue) as X from abc.csv group by
Year;
```

ZTestw_sig (weight, value [, sigma])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 検定両側有意水準を返します。引数の記述については、*ZTestw_z (weight, value [, sigma])* (383 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ztestw_sig(Weight,Value-TestValue) as X from abc.csv group by Year;
```

ZTestw_dif (weight, value [, sigma])

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 検定平均差を返します。引数の記述については、*ZTestw_z (weight, value [, sigma])* (383 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ztestw_dif(Weight,Value-TestValue) as X from abc.csv group
by Year;
```

ZTestw_sterr (weight, value [, sigma])

group by 句で定義されるレコードに対して反復する一連の値に関して集計された平均の差の z 検定標準誤差を返します。引数の記述については、*ZTestw_z (weight, value [, sigma])* (383 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ztestw_sterr(Weight,Value-TestValue) as X from abc.csv
group by Year;
```

```
ZTestw_conf (weight, value [, sigma [, sig = 0.025 ]])
```

group by 句で定義されたレコードに対して反復する一連の値について集計された z 値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、*ZTestw_z* (*weight, value [, sigma]*) (383 ページ) 関数を参照してください。

例 :

```
Load Year, ztestw_conf(Weight,Value-TestValue) as X from abc.csv group
by Year;
```

```
ZTestw_lower ([set_expression] [total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、*ZTestw_z* (*weight, value [, sigma]*) (383 ページ) および ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_lower( Group, Value )
ztestw_lower( Group, Value, false )
```

```
ZTestw_upper ([set_expression] [total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、*ZTestw_z* (*weight, value [, sigma]*) (383 ページ) および ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_upper( Group, Value )
ztestw_upper( Group, Value, false )
```

25.3 その他の関数

集計関数に加え、QlikView では 100 を超える標準関数が次のグループで提供されます。

一般的数値関数	385 ページ
範囲関数 (スクリプト)	391 ページ

指数関数と対数関数	396 ページ
三角関数と双曲線関数	397 ページ
統計的分布関数	397 ページ
財務関数	400 ページ
数学定数とパラメータ フリー関数	402 ページ
統計関数	403 ページ
文字列関数	405 ページ
マップ関数	410 ページ
レコード関数	412 ページ
条件付き関数	414 ページ
論理関数	416 ページ
Null 関数	416 ページ
システム関数	416 ページ
ロード スクリプトのファイル関数	419 ページ
表関数	423 ページ
ドキュメント関数	424 ページ
日付と時間関数	424 ページ
データ型変換変数	444 ページ
書式設定関数	447 ページ
カラー関数	453 ページ

一般的数値関数

次の関数では、パラメータは数式であり、 x は実際の数値と解釈されます。

```
div( $x1$  ,  $x2$ )
```

整数除算です。パラメータは両方とも実数として解釈されます。したがって、パラメータは整数である必要はありません。除算によって得られる実数の整数部分が結果として返されます。

例：

`div(7,2)` は、3 を返します。
`div(9,3)` は、3 を返します。
`div(-4,3)` は、-1 を返します。
`div(4,-3)` は、-1 を返します。
`div(-4,-3)` は、1 を返します。

mod(x1 , x2)

数学的モジユロ関数です。パラメータは両方とも整数値である必要があります。x2 は 0 より大きくなければなりません。結果は、整数除算による負でない余りが返されます。

例：

`mod(7,2)` は、1 を返します。
`mod(7.5,2)` は、NULL を返します。
`mod(9,3)` は、0 を返します。
`mod(-4,3)` は、2 を返します。
`mod(4,-3)` は、NULL を返します。
`mod(-4,-3)` は、NULL を返します。

fmod(x1 , x2)

一般化モジユロ関数です。パラメータは両方とも実数として解釈されます。したがって、パラメータは整数である必要はありません。結果は、整数除算の余りとして得られる実数です。

例：

`fmod(7,2)` は、1 を返します。
`fmod(7.5,2)` は、1.5 を返します。
`fmod(9,3)` は、0 を返します。
`fmod(-4,3)` は、-1 を返します。
`fmod(4,-3)` は、1 を返します。
`fmod(-4,-3)` は、-1 を返します。

ceil(x [, base [, offset]])

端数 x は、offset に合わせて base の一番近い倍数まで切り上げられます。結果は数値です。

例：

`ceil(2.4)` は、3 を返します。

`ceil(2.6)` は、3を返します。
`ceil(3.88 , 0.1)` は、3.9を返します。
`ceil(3.88 , 5)` は、5を返します。
`ceil(1.1 , 1 , 0.5)` は、1.5を返します。

floor(*x* [, *base* [, *offset*]])

端数 *x* は、*offset* に合わせて *base* の一番近い倍数まで切り捨てられます。結果は数値です。

例 :

`floor(2.4)` は、2を返します。
`floor(2.6)` は、2を返します。
`floor(3.88 , 0.1)` は、3.8を返します。
`floor(3.88 , 5)` は、0を返します。
`floor(1.1 , 1 , 0.5)` は、0.5を返します。

frac(*x*)

x の小数部を返します。小数部は、 $\text{frac}(x) + \text{floor}(x) = x$ と定義されます。

例 :

`frac(11.43)` は、0.43を返します。
`frac(-1.4)` は、0.6を返します。

round(*x* [, *step* [, *offset*]])

端数 *x* は、*offset* に合わせて *step* の *n* 値まで切り上げ、もしくは切り捨てられます。結果は数値です。*x* が区間の中心に位置する場合は、切り上げられます。関数は IEEE 標準 64 ビットの浮動小数点数の基準に準拠します。

例 :

`round(2.4)` は、2を返します。
`round(2.6)` は、3を返します。
`round(2.5)` は、3を返します。
`round(3.88 , 0.1)` は、3.9を返します。
`round(3.88 , 5)` は、5を返します。
`round(1.1 , 1 , 0.5)` は、1.5を返します。

fabs(*x*)

x の絶対値です。結果は正の数値です。

例 :

`fabs(2.4)` は、2.4 を返します。

`fabs(-3.8)` は、3.8 を返します。

numsum(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの数値の合計を返します。**numsum** では、+ 演算子とは対照的に、数値でない値はすべて 0 として処理されます。

例 :

`numsum(1,2,4)` は、7 を返します。

`numsum(1, 'xyz')` は、1 を返します。

`numsum(null())` は、0 を返します。

注意!

numsum 関数は、現在サポートされていません。 *rangesum*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (391 ページ) 関数をご使用ください。

numcount(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの数値の個数を返します。

例 :

`numcount(1,2,4,)` は、3 を返します。

`numcount(2,xyz)` は、1 を返します。

`numcount(null())` は、0 を返します。

注意!

numcount 関数は、現在サポートされていません。 *rangecount*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (391 ページ) 関数をご使用ください。

numavg(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの数値の平均を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`numavg(1,2,4)` は、2.33333333 を返します。

`numavg(1, 'xyz')` は、1 を返します。

`numavg(null() 'abc')` は、NULL を返します。

注意!

numavg 関数は、現在サポートされていません。 *rangeavg*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (391 ページ) 関数をご使用ください。

nummin(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの最小値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`nummin(1,2,4)` は、1 を返します。
`nummin(1,'xyz')` は、1 を返します。
`nummin(null() 'abc')` は、NULL を返します。

注意!

nummin 関数は、現在サポートされていません。 *rangemin(expr1 [, expr2, ... exprN])* (391 ページ) 関数をご使用ください。

nummax(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの最大値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`nummax(1,2,4)` は、4 を返します。
`nummax(1,'xyz')` は、1 を返します。
`nummax(null() 'abc')` は、NULL を返します。

注意!

nummax 関数は、現在サポートされていません。 *rangemax(expr1 [, expr2, ... exprN])* (392 ページ) 関数をご使用ください。

fact(n)

正の整数 n の階乗を返します。数 n が整数でない場合は、切り捨てられます。正の数でない場合は、NULL が返されます。

例 :

`fact(1)` は、1 を返します。
`fact(5)` は、120 ($1 * 2 * 3 * 4 * 5 = 120$) を返します。
`fact(-5)` は、NULL を返します。

combin(n1, n2)

$n1$ 項のグループから選択できる $n2$ 項の組み合わせの数を返します。項の選択順は重要ではありません。整数でない項目は切り捨てられます。

例 :

全 35 のロトナンバーから 7 個の数を選ぶ場合の組み合わせは何とおりでしょうか。
`combin(35,7)` は、6 724 520 を返します。

permut(n1, n2)

$n1$ 項のグループから選択できる $n2$ 項の順列の数を返します。項の選択順は 重要 です。整数でない引数は切り捨てられます。

例 :

8 選手による 100m 決勝で、金、銀、銅のメダルの分配方法は何とおりあるでしょうか。

`permut(8, 3)` は、336 を返します。

even(*n*)

n が偶数ならば true、 n が奇数ならば false、また、 n が整数でない場合は NULL を返します。

例 :

`even(3)` は、false を返します。

`even(2 * 10)` は、true を返します。

`even(3.14)` は、NULL を返します。

odd(*n*)

n が奇数ならば true、 n が偶数ならば false、また、 n が整数でない場合は NULL を返します。

例 :

`odd(3)` は、true を返します。

`odd(2 * 10)` は、false を返します。

`odd(3.14)` は、NULL を返します。

sign(*x*)

x が正の数か、0 か、負の数かにより、1、0、または -1 を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`sign(66)` は、1 を返します。

`sign(0)` は、0 を返します。

`sign(234)` は、-1 を返します。

bitcount(*i*)

i に設定されたビット数を返します。最初の 48 ビットだけが意味のあるものとしても i は符号付きの 64 ビットの整数と解釈されます。48 ビットを超える値は NULL を返します。

例 :

`bitcount(3)` は、2 を返します。

`bitcount(100)` は、3 を返します。

`bitcount(-1)` は、32 を返します。

`bitcount(n)+bitcount (bitnot n)` は、64を (n が有効な整数であるならば) 返します。

その他の関数へ戻る

範囲関数(スクリプト)

範囲関数は、一般的数値関数(385ページ):

numsum、**numavg**、**numcount**、**nummin**、**nummax** (もうサポートされません) に置き換わります。

rangesum(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の合計を返します。**rangesum** では、+ 演算子とは対照的に、数値でない値はすべて 0 として処理されます。

例 :

`rangesum (1,2,4)` は、7を返します。
`rangesum (1,'xyz')` は、1を返します。
`rangesum (null())` は、0を返します。

rangeavg(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の平均を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangeavg (1,2,4)` は、2.33333333を返します。
`rangeavg (1,'xyz')` は、1を返します。
`rangeavg (null(), 'abc')` は、NULLを返します。

rangecount(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の値の数を返します。Null 値はカウントされません。

例 :

`rangecount (1,2,4)` は、3を返します。
`rangecount (2,'xyz')` は、2を返します。
`rangecount (null())` は、0を返します。

rangemin(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の最小数値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangemin (1,2,4)` は、1を返します。
`rangemin (1,'xyz')` は、1を返します。

`rangemin (null(), 'abc')` は、NULL を返します。

`rangemax (expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の最大数値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangemax (1,2,4)` は、4 を返します。

`rangemax (1,'xyz')` は、1 を返します。

`rangemax (null(), 'abc')` は、NULL を返します。

`rangestdev (expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の標準偏差を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangestdev (1,2,4)` は、1.5275252316519 を返します。

`rangestdev (null())` は、NULL を返します。

`rangeskew (expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の歪度を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangeskew (1,2,4)` は、0.93521952958283 を返します。

`rangekurtosis (expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の尖度を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

`rangekurtosis (1,2,4,7)` は、-0.28571428571429 を返します。

`rangefractile (fractile, expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の分位数を返します。

例 :

`rangefractile (0.24,1,2,4,6)` は、1 を返します。

`rangefractile (0.5,1,2,3,4,6)` は、3 を返します。

`rangefractile (0.5,1,2,5,6)` は、3.5 を返します。

`rangenumericcount (expr1 [, expr2, ... exprN])`

引数 1 から N までの範囲の数値の個数を返します。

例：

```
rangenumericcount (1,2,4) は、3 を返します。  
rangenumericcount (2,'xyz') は、1 を返します。  
rangenumericcount (null( )) は、0 を返します。
```

rangetextcount(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲のテキスト値の数を返します。

例：

```
rangetextcount (1,2,4) は、0 を返します。  
rangetextcount (2,'xyz') は、1 を返します。  
rangetextcount (null( )) は、0 を返します。
```

rangenullcount(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲のNULL値の数を返します。

例：

```
rangenullcount (1,2,4) は、0 を返します。  
rangenullcount (2,'xyz') は、0 を返します。  
rangenullcount (null( ),null( )) は、2 を返します。
```

rangemissingcount(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までのうち、数値でない値 (NULL値を含む) を返します。

例：

```
rangemissingcount (1,2,4) は、0 を返します。  
rangemissingcount (2,'xyz') は、1 を返します。  
rangemissingcount (null( )) は、1 を返します。
```

rangeminstring(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までのテキストソート順で、最初の位置になるテキスト値を返します。

例：

```
rangeminstring (1,2,4) は、1 を返します。  
rangeminstring ('xyz','abc') は、"abc" を返します。  
rangeminstring (null( )) は、NULL を返します。
```

rangemaxstring(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までのテキストソート順で、最後の位置になるテキスト値を返します。

例 :

```
rangemaxstring (1,2,4) は、4 を返します。  
rangemaxstring ('xyz','abc') は、"xyz" を返します。  
rangemaxstring (null( )) は、NULL を返します。
```

rangemode (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の最頻値、つまり最もよく現れる値を返します。複数の値が同じ最大頻度を持つ場合は、NULL が返されます。

例 :

```
rangemode (1,2,9,2,4) は、2 を返します。  
rangemode ('a',4,'a',4) は、NULL を返します。  
rangemode (null()) は、NULL を返します。
```

rangeonly (expr1 [, expr2, ... exprN])

N 個の数式の値域に NULL でない値が 1 つだけ存在する場合には、その値を返します。それ以外の場合には、NULL を返します。

例 :

```
rangeonly (1,2,4) は、NULL を返します。  
rangeonly (1,'xyz') は、NULL を返します。  
rangeonly (null( ), 'abc') は、"abc" を返します。
```

rangecorrel (x-value , y-value { , x-value , y-value })

一連の座標の相関係数を返します。

X-value と y-value は、1 つの値です。各 y-value は、1 つの x-value に対応する必要があります。この関数の計算には、少なくとも 2 組の座標が必要です。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

例 :

```
rangecorrel (2,3,6,8,9,4) は、0,269 を返します。
```

rangeirr (value { , value })

値の数値で表される一連のキャッシュフローについて、内部収益率を返します。これらのキャッシュフローは、年金の場合のように均等である必要はありません。ただし、このキャッシュフローは、毎月、毎年のように、定期的に発生する必要があります。内部収益率は、定期的に発生する支払い(負の値)と収入(正の値)からなる投資の利率です。

Value は、3番目のオプションパラメータを持つチャートのレコード関数(1013ページ)によって返される単一の値または値域です。この関数の計算には、少なくとも1つの正の値と1つの負の値が必要です。テキスト値、NULL値、欠損値は無視されます。

例：

```
rangeirr(-70000,12000,15000,18000,21000,26000) は、0,0866 を返します。
rangeirr(above(sum(value), 0, 10))
rangeirr(above(total value, 0, rowno(total)))
```

rangenvp (rate, value { ,value })

割引率*rate*、一連の将来の支払い(負の値)、および収入(正の値)に基づいて、投資の正味現在価値を返します。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。

rate は、期間あたりの利率です。

value は、各期末に発生する支払い、または収入です。*value* は、3番目のオプションパラメータを持つチャートのレコード関数(1013ページ)によって返される単一の値または値域です。テキスト値、NULL値、欠損値は無視されます。

例：

```
rangenvp(0.1,-10000,3000,4200,6800) は、1188,44 を返します。
rangenvp(0.05, above(sum(value), 0, 10))
rangenvp(0.05, above(total value, 0, rowno(total)))
```

rangexirr (value, date { ,value, date })

キャッシュフロー明細表に対する内部収益率を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。一連の定期的キャッシュフローに対する内部収益率の計算には、*rangeirr(value { ,value })*(394ページ)関数を使用します。

value は、支払明細表の日付に対応する一連のキャッシュフローまたは単一のキャッシュフローです。*value* は、3番目のオプションパラメータを持つチャートのレコード関数(1013ページ)によって返される単一の値または値域です。テキスト値、NULL値、欠損値は無視されます。すべての支払いは、年365日計算で割り引かれます。一連の値は、少なくとも1つの正の値と1つの負の値を含む必要があります。

date は、キャッシュフローの支払いに対応する支払日または支払期日表です。

例：

```
rangexirr(-2500,'2008-01-01',2750,'2008-09-01') は、0,1532 を返します。
rangexirr (above(sum(value), 0, 10), above(date, 0, 10))
rangexirr(above(total value,0,rowno(total)),
above(total date,0,rowno(total)))
```

rangexpv (rate, value, date { ,value, date })

キャッシュフロー明細表に対する正味現在価値を返します。キャッシュフロー明細表は、定期的である必要はありません。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。一連の定期的キャッシュフローに対する正味現在価値の計算には、`rangexnpv (rate, value {,value})` (395 ページ) 関数を使用します。

`rate` は、期間あたりの利率です。

`value` は、支払明細表の日付に対応する一連のキャッシュフローまたは単一のキャッシュフローです。`value` は、3 番目のオプションパラメータを持つ `チャートのレコード関数 (1013 ページ)` によって返される単一の値または値域です。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。すべての支払いは、年 365 日計算で割り引かれます。一連の値は、少なくとも 1 つの正の値と 1 つの負の値を含む必要があります。

`date` は、キャッシュフローの支払いに対応する支払日または支払期日表です。

例 :

```
rangexnpv(0.1, -2500, '2008-01-01', 2750, '2008-09-01') は、80,25 を返します。
rangexnpv (0.1, above(sum(value), 0, 10), above(date, 0, 10))
rangexnpv(0.1, above(total value,0,rowno(total)),
above(total date,0,rowno(total)))
```

[その他の関数](#) へ戻る

指数関数と対数関数

次の関数では、パラメータは数式であり、 x は実際の数値と解釈されます。

`exp (x)`

自然対数の底 e を底として持つ指数関数です。結果は正の数値です。

`log (x)`

x の自然対数です。この関数は $x > 0$ のときにのみ定義されます。結果は数字になります。

`log10 (x)`

x の常用対数 (10 を底とする対数) です。この関数は、 $x > 0$ のときにのみ定義されます。結果は数になります。

`sqrt (x)`

x の平方根です。この関数は、 $x \geq 0$ のときにのみ定義されます。結果は正の数になります。

`sqr (x)`

x の二乗です。結果は数値になります。

`pow (x, y)`

x の y 乗を返します。結果は数値になります。

[その他の関数](#) へ戻る

三角関数と双曲線関数

次の関数では、パラメータは数式であり、 x は実際の数値と解釈されます。

角度はすべてラジアンで表します。

cos (x)

x の余弦です。結果は、-1 から 1 の間の数になります。

acos (x)

x の逆余弦です。この関数は $-1 \leq x \leq 1$ のときにのみ定義されます。結果は、0 から π の間の数値になります。

sin (x)

x の正弦です。結果は、-1 から 1 の間の数になります。

asin (x)

x の逆正弦です。この関数は $-1 \leq x \leq 1$ のときにのみ定義されます。結果は、 $-\pi/2$ から $\pi/2$ の間の数値になります。

tan (x)

x の正接です。結果は数値になります。

atan (x)

x の逆正接です。結果は、 $-\pi/2$ から $\pi/2$ の間の数値になります。

atan2 (y, x)

逆正接関数の 2 次元一般化です。原点と、 x 座標と y 座標で表される点との間の角度を返します。結果は、 $-\pi$ から $+\pi$ の間の数値になります。

cosh (x)

x の双曲線余弦です。結果は正の数値です。

sinh (x)

x の双曲線正弦です。結果は数値になります。

tanh (x)

x の双曲線正接です。結果は数値になります。

[その他の関数](#) へ戻る

統計的分布関数

下記の統計的分布関数は、すべて Cephес ライブラリを使用して QlikView に実装されます。使用されるアルゴリズム、精度などの詳細な参照文献は、<http://www.netlib.org/cephes/> に掲載されています。

す。Cephes 関数ライブラリの使用には、許可が必要です。

chidist (*value*, *degrees_freedom*)

カイ二乗分布の片側確率の値を返します。カイ二乗分布は、カイ二乗検定に関連付けられます。*value* は、分布を評価する値です。*value* は、負の値でないことが条件です。*degrees_freedom* は、自由度を数値で示す正の整数です。両方の引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *chiinv* 関数に関連します。

`prob = chidist(value,df)` ならば、`chiinv(prob, df) = value` になります。

例 :

`chidist(8, 15)` は、0.9237827 を返します。

chiinv (*prob*, *degrees_freedom*)

カイ二乗分布の片側確率の逆関数の値を返します。*prob* は、カイ二乗分布に関連付けられた確率です。これは、0 から 1 の間の数である必要があります。*degrees_freedom* は、自由度を数値で示す整数です。両方の引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *chidist* (*value*, *degrees_freedom*) (398 ページ) 関数に関連します。

`prob = chidist(value,df)` ならば、`chiinv(prob, df) = value` になります。

例 :

`chiinv(0.9237827, 15)` は、8.0000001 を返します。

normdist (*value*, *mean*, *standard_dev*)

指定された平均と標準偏差について、累積正規分布を返します。*value* は、分布を評価する値です。*Mean* は、分布の算術平均を示す値です。*standard_dev* は、標準偏差を示す正の値です。すべての引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。`mean = 0` かつ `standard_dev = 1` ならば、関数は標準正規分布を返します。この関数は、次のように *norminv* (*prob*, *mean*, *standard_dev*) (398 ページ) 関数に関連します。

`prob = normdist(value, m, sd)` ならば、`norminv(prob, m, sd) = value` です。

例 :

`normdist(0.5, 0, 1)` は、0.6914625 を返します。

norminv (*prob*, *mean*, *standard_dev*)

指定された平均と標準偏差について、累積正規分布の逆関数分布を返します。*prob* は、正規分布に関連付けられた確率です。これは、0 から 1 の間の数である必要があります。*mean* は、分布の算術平均を示す値です。*standard_dev* は、標準偏差を示す正の値です。すべての引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *normdist* (*value*, *mean*, *standard_dev*) (398 ページ) 関数に関連します。

`prob = normdist(value, m, sd)` ならば、`norminv(prob, m, sd) = value` です。

例 :

`norminv(0.6914625, 0, 1)` は、0.4999717 を返します。

tdist (*value*, *degrees_freedom*, *tails*)

スチューデント t 分布における確率を返します。ここでの数値は t の計算値であり、この t に対して確率が計算されます。value は、分布を評価する値です。負の値でないことが条件です。degrees_freedom は、自由度を数値で示す正の整数です。tails は 1 (片側分布) または 2 (両側分布) のどちらかです。すべての引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *tinvs* (prob, degrees_freedom) (399 ページ) 関数に関連します。

prob = tdist(value, df, 2) ならば、*tinvs*(prob, df) = value になります。

例 :

`chdist(1, 30, 2)` は、0.3253086 を返します。

tinvs (prob, degrees_freedom)

スチューデント t 分布の t 値を確率と自由度の関数として返します。prob は、t 分布に関連付けられた両側確率です。これは、0 から 1 の間の数である必要があります。degrees_freedom は、自由度を数値で示す整数です。両方の引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *tdist* (value, degrees_freedom, tails) (398 ページ) 関数に関連します。

prob = tdist(value, df, 2) ならば、*tinvs*(prob, df) = value になります。

例 :

`tinvs(0.3253086, 30)` は、1 を返します。

fdist (value, degrees_freedom1, degrees_freedom2)

F 分布を返します。value は、分布を評価する値です。value は、負の値でないことが条件です。degrees_freedom1 は、分子の自由度を数値で示す正の整数です。Degrees_freedom2 は、分母の自由度を数値で示す正の整数です。すべての引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *finvs* (prob, degrees_freedom1, degrees_freedom2) (399 ページ) 関数に関連します。

prob = fdist(value, df1, df2) ならば、*finvs*(prob, df1, df2) = value です。

例 :

`fdist(15, 8, 6)` は、0.0019369 を返します。

finvs (prob, degrees_freedom1, degrees_freedom2)

F 分布の逆関数を返します。prob は F 分布に関連する確率で、0 から 1 の間の数である必要があります。degrees_freedom は、自由度を数値で示す整数です。すべての引数は数値であることが必要であり、数値でない場合は null が返されます。この関数は、次のように *fdist* (value, degrees_freedom1, degrees_freedom2) (399 ページ) 関数に関連します。

prob = fdist(value, df1, df2) ならば、*finvs*(prob, df1, df2) = value です。

例 :

`finvs(0.0019369, 8, 5)` は、15.0000197 を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

財務関数

注意!

すべての財務関数で、同じ単位を使用して *rate* と *nper* を指定することが重要です。年利 6% の 5 年ローンの月賦には、*rate* に 0.005 (6%/12)、*nper* に 60 (5*12) を使用します。同じローンの年賦の場合は、*rate* に 6%、*nper* に 5 を使用します。

すべての引数で、支払う現金は負の数で表します。受領する現金は正の数で表します。

財務関数に使用される引数をリストします (**range** で始まるもの以外) :

rate は、期間あたりの利率です。

nper は、年金の支払期間の総数です。

pmt は、各期間で行われる支払いです。年金の期間内で変更することはできません。*pmt* が省略されている場合は、引数 *pv* を指定する必要があります。

pv は、現在価値、つまり将来の一連の支払額が現在持つ価値の合計額です。*pv* が省略されている場合は、0 (ゼロ) と見なされるので、引数 *pmt* を指定する必要があります。

fv は、将来価値、または最終支払が行われた後の目標とする現金残高です。*fv* は、省略されると 0 と見なされます。

type は、支払い期限が期末の場合は 0 で、支払い期限が期首の場合は 1 です。*type* は、省略されると 0 と見なされます。

```
fv(rate, nper, pmt [ ,pv [ , type ] ])
```

定期、定額支払、固定金利での投資の将来価値を返します。結果は、通貨 (448 ページ) のデフォルトの数値書式で返されます。

例 :

月々 \$20、年率 6% の月払いで、新しい VCR を 36 回払いで買います。請求書は毎月末に届きます。最終支払が行われた時点での投資総額はいくらでしょうか。

`fv(0.005, 36, -20)` は、\$786.72 を返します。

```
nper(rate, pmt, pv [ ,fv [ , type ] ])
```

定期、定額支払、固定金利での投資の期間数を返します。

例 :

月々 \$20、年率 6% の月払いで、VCR を売ります。請求書は毎月末に届きます。最終支払が行われた後の受領額が \$786.72 になるためには何期必要でしょうか。

`nper(0.005, -20, 0, 800)` は、36 を返します。

```
pmt(rate, nper, pv [ ,fv [ , type ] ])
```

定額支払、固定金利でのローンの支払いを返します。結果は、通貨 (448 ページ) のデフォルトの数値書式で返されます。

ローン期間の支払総額を算出するには、返された *pmt* の値に *nper* を掛けます。

例：

次の公式は、\$20,000 のローンを年率 10 %、8 ヶ月で完済する場合の月々の支払額を返します。

`pmt(0.1/12,8,20000)` は、-\$2,594.66 を返します。

同じローンで、支払期日が期首である場合の支払は次のようになります。

`pmt(0.1/12,8,20000,0,1)` は、-\$2,573.21 を返します。

`pv(rate, nper, pmt [,fv [, type]])`

投資の現在価値を返します。結果は、通貨 (448 ページ) のデフォルトの数値書式で返されます。現在価値は、将来の一連の支払いが現在持っている価値の総額です。たとえば、借金をした場合、その融資額が貸手にとっての現在価値です。

例：

月末ごとに \$100 が 7% の利率で 5 年間にわたって支払われるとすると、その現在価値はいくらでしょうか。

`pv(0.07/12,12*5,100,0,0)` は、-\$5,050.20 を返します。

`rate(nper, pmt , pv [,fv [, type]])`

年金の期間あたりの利率を返します。結果は、**固定**小数点 2 桁と % のデフォルトの数値書式で返されます。

rate は、反復によって計算され、ゼロまたは複数の解を持つことがあります。*rate* を繰り返しても結果が収束しない場合は、NULL 値が返されます。

例：

期間が 5 年の \$10,000 の年金ローンで、月々の支払額が \$300 の場合の利率は何 % でしょうか。

`rate(60,-300,10000)` は、2.18% を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

Black and Schole

ブラック & ショールズ オリジナル方程式は、オプションの理論値を計算します。QlikView における **BlackAndSchole** 関数は、ブラック & ショールズ オリジナル方程式 (ヨーロッパスタイル オプション) に基づいてオプションの理論値を返します。以下 *Black and Schole* 方程式 (402 ページ) を参照してください。構文は次のとおりです。

`BlackAndSchole(strike , time_left , underlying_price , vol , risk_free_rate , type)`

ここで

Strike は、将来の株の購入価格です。

Time_left は、残存期間です。

Underlying_price は、株の時価です。

Vol は、期間あたりの予想変動率 (%) です。

Risk_free_rate は、期間あたりのリスクフリー利回り (%) です。

Type は、コールオプションの場合は "c"、"call"、または任意のゼロでない数値、プットオプションの場合は "p"、"put"、または "0" です。

例:

`BlackAndSchole(130, 4, 68.5, 0.4, 0.04, 'call')` は、11.245... を返します。

(これは、予想変動率を年 40%、リスクフリー利回りを 4% としたとき、時価 68.5 の株を 4 年以内に 1 株あたり価値 130 で購入可能なオプションの理論価格です)

Black and Schole 方程式

For $x \geq 0$

$$\int_{-\infty}^x e^{-u^2/2} du \approx \sqrt{2\pi} - (b_1 k + b_2 k^2 + b_3 k^3) e^{-x^2/2}$$

$$k = \frac{1}{1 + 0.33267x} \quad b = \begin{pmatrix} 0.4361836 \\ -0.1201676 \\ 0.937298 \end{pmatrix}$$

For $x < 0$

$$f(x) = 1 - f(-x).$$

[その他の関数](#) へ戻る

数学定数とパラメータフリー関数

これらにはパラメータがありません。しかし、かっこは必要です。

`e()`

自然対数の底、e です。この関数は、2.71828... を返します。

`pi()`

π この関数は、3.14159... を返します。

`rand()`

0 と 1 の間の乱数を返します。

true ()

数式の中で論理真として使用できるテキスト値 "true" と数値 -1 のデュアル値を返します。

false ()

数式の中で論理偽として使用できるテキスト値 "false" と数値 0 のデュアル値を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

統計関数

これらの関数にはパラメータがありません。しかし、かっこは必要です。

RecNo ()

ソースデータテーブルで現在読み取られている行数を整数で返します。最初のレコードの番号は 1 です。

RowNo ()

結果として得られる QlikView の内部テーブルの現在行の位置を整数で返します。原データ表上のレコード数をカウントする **RecNo ()** とは異なり、**RowNo ()** 関数は **where** 句で除外されたレコードはカウントせず、元のデータテーブルが別のテーブルと連結されてもリセットされません。最初の行の番号は 1 です。

注意!

先行するロード文、つまり、同じテーブルから読み取られた多数の積み上げ **Load** ステートメントを使用する場合は、**Load** ステートメントで **RowNo ()** のみを使用できます。その後の先行 **Load** ステートメントで **RowNo ()** を使用すると、0 が返されます。

例 :

データテーブル :

Tab1.csv

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Tab2.csv

A	B
---	---

```

5      xx
4      yy
6      zz

```

QVTab:

```
Load *, RecNo( ), RowNo( ) from Tab1.csv where A<>2;
```

```
Load *, RecNo( ), RowNo( ) from Tab2.csv where A<>5;
```

結果としてのQlikView 内部テーブル:

QVTab

A	B	RecNo()	RowNo()
1	aa	1	1
3	ee	3	2
4	yy	2	3
6	zz	3	4

IterNo()

この関数は、while 句と共に使用される場合にのみ意味を持ちます。Load (313 ページ) を参照してください。IterNo() は、while 句のある load ステートメントで、1つのレコードが評価された回数を示す整数を返します。最初の反復の番号は1です。

autonumber(expression[, AutoID])

スクリプトの実行中に expression の評価によって発生する個々の値について、一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

autonumber 関数が1つのスクリプト内の複数のキーで使用されている場合に、複数のカウンタインスタンスを作成するには、オプションのパラメータ AutoID を使用して各カウンタに名前を付けることができます。

例:

```

autonumber( Region&Year&Month )
autonumber( Region&Year&Month, 'Ctrl' )

```

autonumberhash128(expression {, expression})

複合入力式の値の 128 ビットハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。

例：

```
autonumberhash128 ( Region, Year, Month )
```

autonumberhash256(expression {, expression})

複合入力式の値の 256 ビットハッシュ値を計算し、スクリプトの実行中に発生する個々のハッシュ値について一意の整数値を返します。この関数は、たとえば複合キーのコンパクトメモリ表示を作成する場合などに使用します。この関数は、スクリプト関数としてのみ使用できます。

例：

```
Autonumberhash256 ( Region, Year, Month )
```

fieldvaluecount(fieldname)

項目内の固有の値の数を返します。*fieldname* は、文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字)。

例：

```
let x = fieldvaluecount('Alfa');
```

[その他の関数](#) へ戻る

文字列関数

次の関数では、パラメータは数式であり、*s* は文字列と解釈されます。

ord(s)

文字列 *s* の最初の文字のアスキー コード。結果は整数になります。

例：

`ord('A')` は、65 を返します。

chr(n)

ASCII (1-127)、ANSI (128-255)、または Unicode (256 以上) で数字 *n* に対応する文字。結果は文字列になります。

例：

`chr(65)` は、文字列 "A" を返します。

len(s)

文字列 *s* の長さです。結果は整数になります。

例：

`len(Name)` は、`Name = 'Peter'` のとき 5 を返します。

left(s , n)

文字列 `s` のサブストリングです。結果は、`s` の最初の `n` 文字からなる文字列になります。

例：

`left('abcdef', 3)` は、`"abc"` を返します。

`left(Date, 4)` は、`Date = 1997-07-14` のとき `1997` を返します。

より複雑な例については、次の **index** 関数を参照してください。

right(s , n)

文字列 `s` のサブストリングです。結果は、`s` の最後の `n` 文字からなる文字列になります。

例：

`right('abcdef', 3)` は、`"def"` を返します。

`right(Date, 2)` は、`Date = 1997-07-14` のとき `14` を返します。

mid(s, n1[, n2])

文字列 `s` のサブストリングです。結果は、`n1` で始まり長さが `n2` 文字の文字列になります。`n2` が省略されていると、この関数は文字 `n1` で始まる文字列の右端の部分の文字列を返します。文字列内での位置は、1 から順に番号が付けられます。

例：

`mid('abcdef', 3)` は、`"cdef"` を返します。

`mid('abcdef', 3, 2)` は、`"cd"` を返します。

`mid(Date, 3)` は、`Date = 970714` のとき `0714` を返します。

`mid(Date, 3, 2)` は、`Date = 970714` のとき `07` を返します。

より複雑な例については、次の **index** 関数を参照してください。

index(s1 , s2[, n])

サブストリングの位置です。この関数は、文字列 `s1` 内のサブストリング `s2` が `n` 番目に発生する開始位置を返します。`n` が省略されている場合は、1 番目のものについて処理されます。`n` が負の場合は、文字列 `s1` の終わりから検索が実行されます。結果は整数になります。文字列内での位置は、1 から順に番号が付けられます。

例：

`index('abcdefg', 'cd')` は、3 を返します。

`index('abcdabcd', 'b', 2)` は、6 を返します。

`index('abcdabcd', 'b', -2)` は、2 を返します。

`left(Date, index(Date, '-') -1)` は、`Date = 1997-07-14` のとき 1997 を返します。

`mid(Date, index(Date, '-', 2) -2, 2)` は、`Date = 1997-07-14` のとき 07 を返します。

upper(textexpression)

数式内のすべてのデータを大文字に変換します。

例 :

`upper('abcD')` は、"ABCD" を返します。

lower(textexpression)

数式内のすべてのデータを小文字に変換します。

例 :

`lower('abcD')` は、"abcd" を返します。

repeat(s, n)

文字列 `s` を `n` 回繰り返すことによって構成される文字列を返します。

例 :

`repeat(' * ', rating)` は、`rating = 4` のとき "****" を返します。

ltrim(s)

文字列 `s` の先頭のスペースを削除して返します。

例 :

`ltrim(' abc')` は、"abc" を返します。

`ltrim('abc ')` は、"abc" を返します。

rtrim(s)

文字列 `s` の末尾のスペースを削除して返します。

例 :

`rtrim(' abc')` は、"abc" を返します。

`rtrim('abc ')` は、"abc" を返します。

trim(s)

文字列 `s` の先頭と末尾のスペースを削除して返します。

例：

```
trim ( ' abc' ) は、"abc" を返します。  
trim ( 'abc ' ) は、"abc" を返します。  
trim ( ' abc ' ) は、"abc" を返します。
```

subfield(s, 'delimiter' [, index])

パラメータが3つの場合、このスクリプト関数は、区切り記号 ("delimiter") を含む長い文字列 *s* から、指定されたサブストリングを返します。*index* は、返すサブストリングを示す任意の整数です。**subfield** が **load** ステートメント内の項目式で使用される場合、*index* が省略されると、**load** ステートメントは **subfield** 関数により、*s* にある各サブストリングの入力データの完全なレコードを自動的に生成します。

パラメータが2つの場合、この **subfield** 関数は、区切り記号 'delimiter' を持つ大きな文字列 *s* の各サブストリングについて1つのレコードを生成します。1つの **load** ステートメントで複数の **subfield** 関数が使用されている場合は、すべての組み合わせのデカルト積が生成されます。

例：

```
(パラメータ3つ)  
subfield(S, ';' ,2) は、Sが'abc;cde;efg'のとき"cde"を返します。  
subfield(S, ';' ,1) は、Sが空の文字列のとき、NULLを返します。  
subfield(S, ';' ,1) は、Sが";"のとき、空の文字列を返します。
```

KeepChar(s1 , s2)

文字列 *s2* に含まれないすべての文字を文字列 *s1* から削除して返します。

例：

```
keepchar ( 'a1b2c3','123' ) は、"123"を返します。
```

PurgeChar(s1, s2)

文字列 *s2* に含まれるすべての文字を文字列 *s1* から削除して返します。

例：

```
purgechar ( 'a1b2c3','123' ) は、"abc"を返します。
```

capitalize(s)

文字列 *s* のすべての単語の頭文字を大文字に変換して返します。

例：

```
capitalize ('my little pony') は、"My Little Pony"を返します。
```


`capitalize ('AA bb cC Dd')` は、`"Aa Bb Cc Dd"` を返します。

evaluate (s)

テキスト文字列 *s* が有効な QlikView 式として評価可能な場合に、評価された数式の結果を返します。 *s* が無効な数式の場合は、NULL を返します。

注意!

これらの文字列関数は、チャート式では使用できません。

例 :

`evaluate (5 * 8)` は、`40` を返します。

TextBetween (s , beforetext , aftertext [, n])

文字列 *s* 内で *n* 番目に現れる *beforetext* と、その後で初めて出現する *aftertext* の間にあるテキストを返します。

例 :

`TextBetween ('<abc>', '<', '>')` は、`"abc"` を返します。

`>TextBetween ('<abc><de>', '<', '>', 2)` は、`"de"` を返します。

Replace (s , fromstring , tostring)

文字列 *s* 内の指定されたすべてのサブストリングを別のサブストリングで置き換えた文字列を返します。この関数は非再帰関数で、左から右へ処理されます。

s は、元の文字列です。

fromstring は、文字列に 1 回以上現れる文字列です。

tostring は、文字列に現れる *fromstring* を置き換える文字列です。

例 :

`replace ('abccde', 'cc', 'xyz')` は、`"abxyzde"` を返します。

FindOneOf (text , characterSet [, n])

文字列 *characterSet* 内のいずれかの文字が文字列 *text* 内で *n* 番目に現れる位置を返します。 *n* が省略されていると、最初に現れる文字の位置を返します。一致する文字列がない場合は、0 が返されます。

例 :

`findoneof ('my example text string', 'et%s')` は、`"4"` を返します。

`findoneof ('my example text string', 'et%s', 3)` は、`"12"` を返します。

`findoneof ('my example text string', 'x%&')` は、`"0"` を返します。

hash128 (expression { , expression })

複合入力式の値の 128 ビットハッシュ値を返します。結果は文字列になります。

例：

```
hash128 ( 'abc', 'xyz', '123' )
hash128 ( Region, Year, Month )
```

hash160(*expression* {, *expression*})

複合入力式の値の 160 ビットハッシュ値を返します。結果は文字列になります。

例：

```
hash160 ( Region, Year, Month )
```

hash256(*expression* {, *expression* })

複合入力式の値の 256 ビットハッシュ値を返します。結果は文字列になります。

例：

```
hash256 ( Region, Year, Month )
```

substringcount(*text* , *substring*)

文字列テキスト内に出現する *substring* 文字列の回数を返します。結果は整数になります。一致するものがない場合は、0 を返します。

例：

```
substringcount ( 'abcdefgdcxyz', 'cd' ) は、2 を返します。
```

applycodepage(*text*, *codepage*)

数式に記載されたテキストや項目に異なるコードページを適用します。コードページの書式は数値である必要があります。

[その他の関数](#) へ戻る

マップ関数

ApplyMap 関数を使用して、事前にロードされたマッピングテーブルに任意の数式をマップできます。構文は次のとおりです。

applymap(*'mapname'*, *expr* [, *defaultexpr*])

ここで

mapname は、以前に **mapping load** または **mapping select** ステートメントで作成されたマッピングテーブルの名前です (*Mapping* (322 ページ) を参照)。名前は一重の直線 スクリプトでの引用符 (358 ページ) で囲む必要があります。

expr は、結果がマップされる数式です。

defaultexpr は、*expr* に一致する値がマッピングテーブルに存在しない場合に、デフォルトのマッピング値として使用されるオプションの数式です。デフォルト値が与えられていない場合は、*expr* がそのまま返されます。

例：

```
// 次のマッピング テーブルを前提とする
map1:
mapping load * inline [
x, y
1, one
2, two
3, three ] ;
```

ApplyMap ('map1', 2) は "two" を返します。

ApplyMap ('map1', 4) は 4 を返します。

ApplyMap ('map1', 5, 'xxx') は "xxx" を返します。

ApplyMap ('map1', 1, 'xxx') は "one" を返します。

ApplyMap ('map1', 5, null()) は NULL を返します。

ApplyMap ('map1', 3, null()) は "three" を返します。

MapSubstring 関数を使用して、事前にロードされたマッピングテーブルに任意の数式の一部をマップできます。マッピングは大文字と小文字を区別し、反復しません。サブストリングは左から右にマップされます。構文は次のとおりです。

```
mapsubstring( 'mapname', expr)
```

この関数を使用して、事前にロードされたマッピングテーブルに任意の数式の一部をマップできます。マッピングは、非再帰で、大文字と小文字は区別されます。サブストリングは左から右にマップされます。*Mapname* は、**mapping load** または **mapping select** ステートメントによって以前に読み取られたマッピングテーブルの名前です (*Mapping* (322 ページ) を参照)。名前は一重の直線引用符で囲む必要があります。*expr* は、結果がサブストリングによってマップされる数式です。

例：

```
// 次のマッピング テーブルを前提とする
map1:
mapping load * inline [
x, y
1, <one>
aa, XYZ
x, b ] ;
```

MapSubstring ('map1', 'A123') は "A<one>23" を返します。

MapSubstring ('map1', 'baaar') は "bXYZar" を返します。

MapSubstring ('map1', 'xaal') は "bXYZ<one>" を返します。

その他の関数 へ戻る

レコード関数

これらの関数は、以前にロードされたデータのレコードの値が現在のレコードの評価に必要な場合に使用します。

exists(*field* [, *expression*])

特定の項目値がこれまでにロードしたデータの指定した項目に存在するかどうかを決定します。*field* は、項目名に評価される名前または文字列数式です。項目は、スクリプトによってこれまでにロードされたデータの中に存在する必要があります。*expr* は、指定された項目内で検索する項目値に評価される数式です。省略されると、現在のレコードの指定された項目の値が使用されます。

例 :

`exists (Month, 'Jan')` は、項目値 'Jan' が項目 'Month' の現在の内容に含まれていれば、-1 (true) を返します。

`exists (IDnr, IDnr)` は、現在のレコード内の項目 IDnr の値が、この項目を含む前に読み取られたレコードに既に存在している場合、-1 (true) を返します。

`exists (IDnr)` は、前の例と同一です。

```
Load Employee, ID, Salary from Employees.csv;
Load FirstName& ' ' &LastName as Employee, Comment from Citizens.csv
where exists (Employee, FirstName& ' ' &LastName);
従業員である人に関するコメントのみが読み取られます。
```

```
Load A, B, C, from Employees.csv where not exists (A);
これは、項目 A に対して distinct load を実行するのと同じです。
```

previous(*expression*)

`previous` の入力レコードのデータを使用して、*expression* の値を返します。内部テーブルの最初のレコードでは、この関数は NULL を返します。**previous** 関数をネストすることで、さらに前のレコードにアクセスすることもできます。データは入力ソースから直接取得されるため、QlikView にまだロードされていない(つまり、その連想データベースに保存されていなくても) 項目を参照することができます。

例 :

```
Load *, Sales / previous(Sales) as Increase from ...;
Load A, previous(previous( A )) as B from ...;
```

peek(*fieldname* [, *row* [, *tablename*]])

内部テーブル *tablename* の *row* で指定されたレコード内の項目 *fieldname* の内容を返します。データは、QlikView の連想データベースから取得されます。

fieldname は、文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字)。

Row は、整数である必要があります。0 は最初のレコード、1 は 2 番目のレコードを示し、以下同様に表されます。負の数は、テーブルの最後から見た順序を表します。-1 は、読み取られた最後のレコードを示します。

row が指定されていない場合は、-1 として処理されます。

tablename はテーブルのラベルで (テーブルラベル (346 ページ) を参照)、末尾にコロンを付けません。*tablename* が指定されていない場合は、現在のテーブルとして処理されます。ロードステートメント以外で使用する、または他のテーブルを参照する場合は、*tablename* を指定する必要があります。

例 :

```
peek( 'Sales' )
```

は、以前に読み取られたレコードの *Sales* の値を返します (**previous(Sales)** と同じです)。

```
peek( 'Sales', 2 )
```

現在の内部テーブルから読み取られた 3 番目のレコードの *Sales* の値を返します。

```
peek( 'Sales', -2 )
```

は、現在の内部テーブルに読み取られた最後から 2 番目のレコードの *Sales* の値を返します。

```
peek( 'Sales', 0, 'Tab1' )
```

は、Tab1 というラベルの内部テーブルに読み取られた最初のレコードの *Sales* の値を返します。

```
Load A, B, numsum( B, peek( 'Bsum' ) ) as Bsum...;
```

は、Bsum に B の累積を作成します。

FieldValue(*fieldname* , *n*)

項目 *fieldname* の *n* の位置にある項目値を返します (ロード順)。*fieldname* は文字列値である必要があります、項目名はシングルクォートで囲みます。*n* = 1 では、最初の項目値が返されます。*n* が項目値より大きい場合は、NULL が返されます。

注意 : この関数は、ユニーク項目値でのみ機能します。

例 :

```
FieldValue( 'HelpText', 5 )
```

FieldIndex(*fieldname* , *value*)

項目 *fieldname* 内の項目値 *value* の位置を返します (ロード順)。*value* が項目値の中にある場合は、0 を返します。*fieldname* は文字列値である必要があります、項目名はシングルクォートで囲みます。

例 :

```
FieldIndex( 'Name', 'John Doe' )
```

lookup(*fieldname*, *matchfieldname*, *matchfieldvalue* [, *tablename*])

項目 *matchfieldname* に最初に値 *matchfieldvalue* が現れたときに対応する *fieldname* の値を返します。

fieldname、*matchfieldname* および *tablename* は、文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字)。

連結などの複雑な操作が行われた結果として作成されたテーブルでは検索順が明確に定義されませんが、それ以外の場合、検索はロード順に実行されます。

fieldname と *matchfieldname* は両方とも、*tablename* で指定された同一のテーブルの項目であることが必要です。*tablename* が省略されている場合は、現在のテーブルとして処理されます。

一致するものがない場合は、`null` が返されます。

例：

```
lookup('Price', 'ProductID', InvoicedProd, 'pricelist')
```

[その他の関数](#) へ戻る

条件付き関数

```
if(condition , then , else)
```

パラメータが3つの *condition*、*then*、および *else* は、すべて数式です。最初の *condition* は論理的に解釈されます。他の2つの *then* と *else* は、任意の型にすることができます。これらは同一の型であることが望まれます。*condition* が真のとき、この関数は数式 *then* の値を返します。*condition* が偽のとき、この関数は数式 *else* の値を返します。

例：

```
if( Amount >= 0, 'OK', 'Alarm' )
```

```
alt(case1[ , case2 , case3 , ...] , else)
```

alt 関数は、有効な数値表現を持つ最初のパラメータを返します。一致するものが見つからない場合は、最後のパラメータを返します。任意の数のパラメータを使用できます。

例：

```
alt( date#( dat , 'YYYY/MM/DD' ),  
    date#( dat , 'MM/DD/YYYY' ),  
    date#( dat , 'MM/DD/YY' ),  
    'No valid date' )
```

は、項目 *date* に含まれる日付が3つの指定された日付の書式のうちのいずれかに従っているかどうかをテストします。従っている場合は、元の文字列と日付の有効な数値表現を返します。一致するものがない場合、"No valid date" というテキストが返されます (有効な数値表現は含まれません)。

```
pick(n, expr1[ , expr2, ...exprN])
```

リストの *n* 番目の数式を返します。*n* は 1 から *N* の間の整数です。

例：

```
pick( N'A'B'4, , , )
    N = 2 のとき 'B' を返します。
    N = 3 のとき 4 を返します。
```

```
match( str, expr1 [ , expr2, ...exprN ] )
```

match 関数は、大文字と小文字を区別して比較を行います。

例：

```
match( M, 'Jan','Feb','Mar')
    M = Feb のとき 2 を返します。
    M = Apr または jan のとき 0 を返します。
```

```
mixmatch( str, expr1 [ , expr2, ...exprN ] )
```

mixmatch 関数は、大文字と小文字を区別せずに比較を行います。

例：

```
mixmatch( M, 'Jan','Feb','Mar')
    M = jan のとき 1 を返します。
```

```
wildmatch( str, expr1 [ , expr2, ...exprN ] )
```

wildmatch 関数は、大文字と小文字を区別せずに比較を行います。比較文字列にはワイルドカード文字 (* と ?) を使用できます。

例：

```
wildmatch( M, 'ja*', 'fe?', 'mar')
    M = January のとき 1 を返します。
    M = fex のとき 2 を返します。
```

```
class( expression, interval [ , label [ , offset ] ] )
```

expressions の分類を作成します。ビン幅は、*interval* によって設定された数によって決まります。結果は、a と b をビンの上限と下限として、 $a \leq x < b$ として示されます。x は、*label* に記述された任意の文字列で置き換えることができます。デフォルトの分類開始点は、通常、0 です。これは、*offset* を追加することによって変更できます。

例：

```
class( var, 10 ) は、var = 23 のとき、"20<=x<30" を返します。
class( var, 5, 'value' ) は、var = 23 のとき、"20<= value <25" を返します。
class( var, 10, 'x', 5 ) は、var = 23 のとき "15<=x<25" を返します。
```

その他の関数 [へ戻る](#)

論理関数

IsNum (*expr*)

数式が数として解釈できる場合は -1 (true)、それ以外の場合は 0 (false) を返します。

IsText (*expr*)

数式がテキスト表現を持つときは -1 (true)、それ以外の場合は 0 (false) を返します。

IsPartialReload ()

現在のリロードが部分的である場合は -1 (true)、それ以外の場合は 0 (false) を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

Null 関数

Null ()

実 NULL 値を返します。

IsNull (*expr*)

expr が NULL を返すときは -1 (true)、それ以外の場合は 0 (false) を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

システム関数

ClientPlatform ()

例えば、`Mobile.iPhone` といったクライアントが使用しているプラットフォームの名前を返します。すべての携帯クライアントは `Mobile` で開始され、ピリオド (.) と携帯デバイスの種類が続きます。Ajax を使用するクライアントでは、`Browser.Firefox` のように `Browser`、ピリオド (.) とブラウザの名前を返します。

注意!

この関数が返すのは、QVPX プロトコルを使用する携帯クライアントと Ajax クライアントのみです。

OSUser ()

オペレーティングシステムによって返される現在のユーザー名を含む文字列を返します。

QVuser ()

`section access` での入力に基づいて、現在の QlikView ユーザーのユーザー名を含む文字列を返します。

ComputerName ()

オペレーティングシステムによって返されるコンピュータ名を含む文字列を返します。

ReloadTime ()

最後に実行が完了したスクリプトのタイムスタンプを返します。

GetActiveSheetID()

アクティブなシートの ID を含む文字列を返します。

GetRegistryString(path, key)

指定されたレジストリの *path* にある指定されたレジストリの *key* の値を返します。この関数は、チャートとロードスクリプトで使用できます。

例：

```
getregistrystring('HKEY_LOCAL_
MACHINE\SOFTWARE\QlikTech\QlikViewServer\Settings
7','EnableSessionLog')
```

qlikviewversion()

QlikView のフルバージョンとビルド番号 (7.52.3797.0409.3 など) を文字列として返します。この関数は、QlikView ビルト 7.52.3795 以降でのみ使用できます。

MsgBox(str msg [, str caption [, mb_buttons [, mb_icons[, mb_defbutton]]])

この関数は、スクリプトでのみ使用でき、スクリプトの実行中にメッセージボックスを開きます。パラメータ *msg* および *caption* は、それぞれメッセージテキストとキャプションテキストとして使用されます。パラメータ *mb_buttons* は、メッセージボックスにどのボタンが表示されるかを下記に従って定義します。

- 0 または 'OK' : [OK] ボタンひとつ
- 1 または 'OKCANCEL' : [OK] と [キャンセル] のボタン 2 つ
- 2 または 'ABORTRETRYIGNORE' : [中止]、[再試行]、[無視する] のボタン 3 つ
- 3 または 'YESNOCANCEL' : [はい]、[いいえ]、[キャンセル] のボタン 3 つ
- 4 または 'YESNO' : [はい] と [いいえ] のボタン 2 つ
- 5 または 'RETRYCANCEL' : [再試行] と [キャンセル] のボタン 2 つ

パラメータ *mb_icons* は、メッセージボックスにどのアイコンが表示されるかを下記に従って定義します。

- 0 もしくは空の文字列 : アイコンなし
- 16 もしくは 'ICONHAND' : 重大なエラーに使用される "X" のついたアイコン
- 32 もしくは 'ICONQUESTION' : 疑問符のついたアイコン
- 48 もしくは 'ICONEXCLAMATION' : 小さなエラー、注意、アラートに対して使用される感嘆符の付いたアイコン
- 64 もしくは 'ICONASTERISK' : 情報メッセージに使用される *i* の付いたアイコン

パラメータ *mb_defbutton* は、メッセージボックスを表示する際に、どのボタンにフォーカスを置くかを下記に従って定義します。

- 0 または 'DEFBUTTON1' : 最初のボタンにフォーカスを置く
- 256 または 'DEFBUTTON2' : 2 番目のボタンにフォーカスを置く
- 512 または 'DEFBUTTON3' : 3 番目のボタンにフォーカスを置く
- 768 または 'DEFBUTTON4' : 4 番目のボタンにフォーカスを置く

この関数は、ユーザーによって押されたボタンを次のように整数値で返します。

- 1 : [OK]
- 2 : [キャンセル]
- 3 : [中止]
- 4 : [再試行]
- 5 : [無視する]
- 6 : [はい]
- 7 : [いいえ]

パラメータ 3、4、および 5 は内部で追加されるため、上記以外の数値が使用された場合、予想外の組み合わせのアイコンとボタンが表示される可能性があります。

このメッセージボックス関数は、ダイアログがキャンセルされたり、閉じられたり、表示できない場合には NULL を返します。

例 :

```
Load
MsgBox('Message 2', 'msgbox', 'OKCANCEL', 'ICONASTERISK') as x, 2 as r
autogenerate 1;
```

Input (*str cue* [, *str caption*])

この関数は、スクリプトでのみ使用でき、スクリプトの実行中にユーザーに値の入力を促す入力ボックスを開きます。パラメータ *cue* および *caption* は、それぞれメッセージテキストとキャプションテキストとして使用されます。この関数は、入力された値を返します。

この入力ボックス関数は、ダイアログがキャンセルされたり、閉じられたり、表示できない場合には NULL を返します。

例 :

```
Load
Input('Enter value', 'Input box') as v,
Recno () as r
autogenerate 3;
```

DocumentName ()

現在の QlikView ドキュメントのファイル名について、パスなしで拡張子を含む文字列を返します。

DocumentPath ()

現在の QlikView ドキュメントについて、フルパスを含む文字列返します。

DocumentTitle ()

現在の QlikView ドキュメントのタイトルを含む文字列返します。

Author ()

現在の QlikView ドキュメントの作成者を含む文字列返します。作成者は [ドキュメントプロパティ] ダイアログの [基本設定] タブで設定します。

GetObjectField ([*index*])

軸の名前を返します。*index* は、返す使用軸を示す任意の整数です。

例 :

```
getobjectfield(2)
StateName ()
```

オブジェクトで使用されているステート名を返します。QlikView 開発者はこの関数を使用し、オブジェクトのステートが変更された場合に動的テキストと動的カラーを機能させることができます。この関数が機能するのはオブジェクト上のみですので注意してください。チャートの数式で、数式が参照するステートを断定するために使用することはできません。次の例は、この関数の使用方法です。

例：

動的テキスト

```
= 'Region - ' & if(StateName() = '$', 'Default', StateName())
```

例：

動的カラー

```
if(StateName() = 'Group 1', rgb(152, 171, 206),
    if(StateName() = 'Group 2', rgb(187, 200, 179),
        rgb(210, 210, 210)
    )
)
```

GetExtendedProperty (name[, objectid])

指定したオブジェクト ID を持つシートオブジェクトに名前の付いた拡張プロパティの値を返します。オブジェクトが指定されていない場合は、シートオブジェクトには使用される数式が含まれます。拡張プロパティは、定義ファイルの拡張オブジェクトで定義されます。

例：

```
GetExtendedProperty ('Greeting')
```

[その他の関数](#) へ戻ります。

ロード スクリプトのファイル関数

ファイル関数 (ロード スクリプト式内でのみ有効) は、現在読み込まれているテーブル ファイルに関する情報を返します。これらの関数は、テーブル ファイル以外のデータソースに関しては NULL を返します。(例外：**ConnectString()**)。

関数をクリックすると、詳細情報が表示されます。

Attribute(filename, attributename)

MP3、WMA、WMV または JPG といった異なるファイル形式のメタ タグの値をテキストで返します。

filename はメディア ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

attributename はメタ情報のタグ名です。

filename ファイルが存在しない、サポートされたファイル形式でない、または *attributename* に記載されたメタのタグが含まれない場合、`null` を返します。

'Artist' や 'Date Picture Taken' など、たくさんのメタタグを使用できます。サポートされたタグは、自動的にスクリプト内に生成されます。生成するためのキーボードショートカットは、jpg ファイル用は CTRL + Q,J,P,G (QJPG をタイプする間 CTRL キーを押し続けま
す)、mp3 ファイル用は CTRL + Q,M,P,3、wma ファイル用は CTRL + Q,W,M,A です。

注意!

関連のある仕様に従って保存されたメタタグのみを読み取れます (MP3 ファイルの ID2v3、JPG ファイルの EXIF など)。Windows File Explorer に保存されたメタ情報は読み取れません。

例 :

```
Attribute('File', 'Title') as X,
```

は、各レコードの項目 X に mp3 タグの "title" を返します。

ConnectionString()

ODBC または OLE DB 接続のアクティブな **接続** 文字列を返します。**connect** ステートメントが実行されていない場合、または **disconnect** ステートメントの後では、空の文字列が返されます。

filebasename()

現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスや拡張子を省略した文字列で返します。

例 :

```
Load *, filebasename( ) as X from  
C:\UserFiles\abc.txt
```

は、各レコードの項目 X に 'abc' を返します。

filedir()

現在読み取り中のテーブル ファイルのディレクトリパスを文字列で返します。

例 :

```
Load *, filedir( ) as X from  
C:\UserFiles\abc.txt
```

は、各レコードの項目 X に 'C:\UserFiles' を返します。

fileextension()

現在読み取り中のテーブル ファイルの拡張子を文字列で返します。

例 :

```
Load *, fileextension( ) as X from  
C:\UserFiles\abc.txt
```

は、各レコードの項目 X に 'txt' を返します。

filename()

現在読み取り中のテーブル ファイルのファイル名を、パスを省略し、拡張子を付けて文字列で返しま

す。

例：

```
Load *, filename( ) as X from
C:\UserFiles\abc.txt
```

は、各レコードの項目 X に 'abc.txt' を返します。

filepath()

現在読み取り中のテーブル ファイルのフルパスを文字列で返します。

例：

```
Load *, filepath( ) as X from
C:\UserFiles\abc.txt
```

は、各レコードの項目 X に 'C:\UserFiles\abc.txt' を返します。

filesize()

ファイル *filename* のサイズをバイト数で表した整数を返します。 *filename* が指定されていない場合は、現在読み取り中のファイルのサイズを返します。

例：

```
filesize( 'xyz.xls' )
```

'xyz.xls' のファイルサイズを返します。

```
Load *, filesize( ) as X from abc.txt ;
```

読み込まれた各レコードの項目 X に、指定されたファイル (abc.txt) のサイズを整数で返します。

filetime([filename])

ファイル *filename* が最後に更新された日付と時間のタイムスタンプを返します。 *filename* が指定されていない場合、この関数は、現在読み取り中のテーブル ファイルを参照します。

例：

```
filetime( 'xyz.xls' )
```

ファイル xyz.xls の最終更新のタイムスタンプを返します。

```
Load *, filetime( ) as X from abc.txt ;
```

読み取られた各レコードの項目 X に、ファイル (abc.txt) が最後に更新された日付と時間をタイムスタンプとして返します。

GetFolderPath()

マイクロソフト ウィンドウズの SHGetFolderPath 関数の値、例えば ミュージック フォルダへのパスなど、を返します。関数はウィンドウズ エクスプローラで見られるスペースを使用しませんので注意してください。

例：

```
GetFolderPath('MyMusic')
```

```
GetFolderPath('MyPictures')
```

```
GetFolderPath('MyVideos')
GetFolderPath('MyReceivedFiles')
GetFolderPath('MyShapes')
GetFolderPath('ProgramFiles')
GetFolderPath('Windows')
```

QvdCreateTime (filename)

QVD ファイルに XML ヘッダーがあれば、その日付と時刻 (ない場合は NULL) を返します。

filename は QVD ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

例 :

```
QvdCreateTime('MyFile.qvd')
QvdCreateTime('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdNoOfRecords (filename)

QVD ファイル内に現在あるレコードの数を返します。

filename は QVD ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

例 :

```
QvdNoOfRecords ('MyFile.qvd')
QvdNoOfRecords ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdNoOfFields (filename)

QVD ファイル内の項目数を返します。

filename は QVD ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

例 :

```
QvdNoOfFields ('MyFile.qvd')
QvdNoOfFields ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

QvdFieldName (filename , fieldno)

項目番号 *fieldno* が QVD ファイル内にあれば、その名前 (ない場合は NULL) を返します。

filename は QVD ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

fieldno は、QVD ファイルに含まれる表内の項目の番号 (0 が基数) です。

例 :

```
QvdFieldName ('MyFile.qvd', 3)
QvdFieldName ('C:\MyDir\MyFile.qvd', 5)
```

QvdTableName (filename)

QVD ファイルに含まれるテーブルの名前を返します。

filename は QVD ファイルのファイル名で、必要に応じてパスを含みます。

例 :

```
QvdTableName ('MyFile.qvd')
QvdTableName ('C:\MyDir\MyFile.qvd')
```

[その他の関数](#) へ戻る

表関数

表関数は前回ロードされたデータ テーブルに関する情報を返します。

```
FieldName (nr , 'TableName')
```

事前にロードされたテーブル内の指定された番号の項目名を返します。

この関数は、**load** ステートメントで使用されている場合、現在ロード中の表を参照することはできません。

例：

```
LET a = FieldName(4, 'tab1');  
T1:  
Load a, b, c, d from abc.csv  
T2:  
Load FieldName (2, 'T1') Autogenerate 1;
```

```
FieldNumber ('field ' , 'TableName')
```

事前にロードされたテーブル内の指定された項目の番号を返します。

この関数は、**load** ステートメントで使用されている場合、現在ロード中の表を参照することはできません。

例：

```
LET a = FieldNumber('Customer', 'tab1');  
T1:  
Load a, b, c, d from abc.csv  
T2:  
Load FieldNumber ('b', 'T1') Autogenerate 1;
```

```
NoOfFields ([ 'TableName ' ])
```

事前にロードされたテーブル内の項目数を返します。

例：

```
LET a = NoOfFields('tab1');  
Load *, NoOfFields( ) from abc.csv;
```

```
NoOfRows ('TableName ' )
```

事前にロードされたテーブル内の行 (レコード) 数を返します。

この関数は、**load** ステートメントで使用されている場合、現在ロード中の表を参照することはできません。

例：

```
LET a = NoOfRows('tab1');
```

```
Load * from abc.csv where NoOfRows( )<30;
```

NoOfTables ()

事前にロードされたテーブルの数を返します。

TableName ('TableName')

指定した番号のテーブル名を返します。

この関数は、**load** ステートメントで使用されている場合、現在ロード中の表を参照することはできません。

TableNumber ('TableName')

指定したテーブルの番号を返します。

この関数は、**load** ステートメントで使用されている場合、現在ロード中の表を参照することはできません。

[その他の関数](#) へ戻る

ドキュメント関数

これらの関数は、チャートとスクリプトで使用できます。

ReportComment (report_number)

アクティブなドキュメントの指定した番号のレポートのコメントを返します。

ReportName (report_number)

アクティブなドキュメントの指定した番号のレポート名を返します。

ReportID (report_number)

アクティブなドキュメントの指定した番号のレポート ID を返します。

ReportNumber (report_id_or_name)

アクティブなドキュメントの指定した ID もしくは名前のレポート番号を返します。

NoOfReports ()

アクティブなドキュメントのレポート数を返します。

[その他の関数](#) へ戻る

日付と時間関数

以下の例では、デフォルトの日付と時間の書式 hh:mm:ss と YYYY-MM-DD (ISO スタンドアード) が仮定されています。

second (expr)

秒です。expr の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、秒を表す整数を返します。

例 :

```
second( '09:14:36' ) は、36 を返します。
```


`second('0.5555')` は、55 を返します。(0.5555 = 13:19:55 であるため)

使用されている時間の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。この問題を解決するには、設定を変更するか、*Time# (1028 ページ)* 変換関数を使用します。

minute(*expr*)

分です。*expr* の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、分を表す整数を返します。

例 :

`minute('09:14:36')` は、14 を返します。

`minute('0.5555')` は、19 を返します。(0.5555 = 13:19:55 であるため)

使用されている時間の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の `second(expr)` (424 ページ) を参照してください。

hour(*expr*)

時間です。*expr* の小数部が標準的な数値の解釈に従って時間と判断される場合に、時間を表す整数を返します。

例 :

`hour('09:14:36')` は、9 を返します。

`hour('0.5555')` は、13 を返します。(0.5555 = 13:19:55 であるため)

使用されている時間の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の `second(expr)` (424 ページ) を参照してください。

day(*date*)

日です。*expr* の小数部が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、日を表す整数を返します。

例 :

`day('1971-10-30')` は 30 を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。この問題を解決するには、設定を変更するか、*Date# (1027 ページ)* 変換関数を使用します。

week(*date*)

週の周期です。*expr* の小数部が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、週を表す整数を返します。

例 :

`week('1971-10-30')` は 43 を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の `day(date)` (425 ページ) を参照してください。

month(*date*)

月です。expr の小数部が書式設定によって数値を指定することができる日付と判断される場合に、月を表す文字列を返します。

例：

month('1971-10-30') は Oct を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の day(date) (425 ページ) を参照してください。

year (date)

年です。expr の小数部が標準的な数値の解釈に従って日付と判断される場合に、年を表す整数を返します。

例：

year('1971-10-30') は、1971 を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の day(date) (425 ページ) を参照してください。

weekyear (date)

週の周期が属している年です。週の周期は 1~52 前後です。年によっては、週 #1 が 12 月 (例: 1997 年 12 月) に始まることもあれば、前年の週 #53 (例: 1999 年 1 月) に始まることもあります。週の周期が別の年に属する場合、year および weekyear の関数はそれぞれ異なる値を返します。

例：

weekyear('1996/12/30') は、1997 を返します。

weekyear('1997-01-02') は、1997 を返します。

weekyear('1997/12/30') は、1997 を返します。

weekyear('1999/01/02') は、1998 を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の day(date) (425 ページ) を参照してください。

weekday (date)

週/日です。0 から 6 の間の整数を返します。

例：

weekday('1971-10-30') は、5 を返します。

使用されている日付の書式が OS で設定されている書式と一致しない場合、QlikView は正しく解釈することができません。上記の day(date) (425 ページ) を参照してください。

now ([timer_mode])

システム時間から現在の時刻のタイムスタンプを返します。timer_mode には、以下の値が含まれることがあります。

0 以前に完了したリロードの時間 (現在継続されているリロード以外)

1 関数の呼び出し時間

2 ドキュメントが開かれた時間

timer_mode のデフォルトは 1 です。*timer_mode* = 1 は、オペレーティングシステムを 1 秒ごとにポーリングし、システムを遅くする可能性があるため、注意して使用する必要があります。

today ([*timer_mode*])

システム時間から現在の日付を返します。*timer_mode* には、以下の値が含まれることがあります。

- 0 スクリプトの実行日付
- 1 関数の呼び出し日付
- 2 ドキュメントが開かれた日付

timer_mode のデフォルトは 2 です。*timer_mode* = 1 は、オペレーティングシステムを 1 秒ごとにポーリングし、システムを遅くする可能性があるため、注意して使用する必要があります。

LocalTime ([*timezone* [, *ignoreDST*]])

指定されたタイムゾーンのシステム時間から得た現在の時間のタイムスタンプを返します。*timezone* は **Windows コントロール パネルの地域と言語のオプションの場所** に示されている任意の地域を含む文字列を指定できるほか、'GMT+hh:mm' または 'UTC+hh:mm' 形式の文字列としても指定できます。*timezone* が指定されていない場合は、現地時間を返します。*ignoreDST* が -1 (true) のとき、夏時間は無視されます。

例 :

```
localtime ('Paris')
localtime ('GMT+01:00')
localtime ('Paris',-1)
localtime()
```

MakeDate (YYYY [, MM [, DD]])

年 YYYY、月 MM、日 DD から算出された日付を返します。
月が定義されていない場合は、1 (1 月) と見なされます。
日が定義されていない場合は、1 (1 日) と見なされます。

例 :

```
makedate (1999) は、1999-01-01 を返します。
makedate (99) は、0099/01/01 を返します。
makedate (1992,12) は、1992/12/01 を返します。
makedate (1999,2,14) は、1999/02/14 を返します。
```

MakeWeekDate (YYYY [, WW [, D]])

年 YYYY、週 WW、曜日 D から算出された日付を返します。
曜日が指定されていない場合は、0 (月曜日) として処理されます。

例 :

```
makeweekdate (1999,6,6) は、1999-02-14 を返します。
makeweekdate (1999,6) は、1999-02-08 を返します。
```

MakeTime (hh [, mm [, ss [.fff]]])

時間 hh、分 mm、秒 ss、ミリ秒 fff から算出された時間を返します。

分が指定されていない場合は、00 として処理されます。

秒が指定されていない場合は、00 として処理されます。

ミリ秒が定義されていない場合は、000 と見なされます。

例 :

`maketime(22)` は、22-00-00 を返します。

`maketime(22, 17)` は、22-17-00 を返します。

`maketime(22, 17, 52)` は、22-17-52 を返します。

AddMonths(*startdate*, *n*, [*, mode*])

startdate の *n* ヶ月後の日付、または *n* が負の場合は *startdate* の *n* ヶ月前の日付を返します。

mode を指定することにより (省略した場合は 0)、指定された月の未修正の日 (*mode*=0)、または月末から算出された日 (*mode*=1) に日付を設定できます。

例 :

`addmonths('2003-01-29', 3)` は、'2003-04-29' を返します。

`addmonths('2003-01-29', 3, 0)` は、'2003-04-29' を返します。

`addmonths('2003-01-29', 3, 1)` は、'2003-04-28' を返します。

`addmonths('2003-01-29', 1, 0)` は、'2003-02-28' を返します。

`addmonths('2003-01-29', 1, 1)` は、'2003-02-26' を返します。

`addmonths('2003-02-28', 1, 0)` は、'2003-03-28' を返します。

`addmonths('2003-02-28', 1, 1)` は、'2003-03-31' を返します。

AddYears(*startdate*, *n*)

startdate の *n* 年後の日付、または *n* が負の場合は *startdate* の *n* 年前の日付を返します。

例 :

`addyears('2009-01-29', 3)` は、'2012-01-29' を返します。

`addyears('2009-01-29', -1)` は、'2008-01-29' を返します。

YearToDate(*date* [*, yearoffset* [*, firstmonth* [*, todaydate*]]])

date が年初から当日までの間に含まれれば true、そうでなければ false を返します。オプションのパラメータがどれも使用されない場合、年初から当日までとは、さかのぼって直近の 1 月 1 日からスクリプトを最後に実行した日付までを含む 1 暦年以内のいずれかの日付を意味します。

yearoffset を指定することにより (省略した場合は 0)、同じ期間の別の年について true を返すように関数を変更することができます。負の *yearoffset* は過去の年を表し、正の値は将来の年を表します。昨年年初から当日までは、*yearoffset* = -1 と指定することによって得ることができます。

firstmonth を 1 から 12 の間で指定することにより (省略した場合は 1)、年の始めを任意の月の 1 日に移動することができます。例えば事業年度を 5 月 1 日から開始する場合に、*firstmonth* = 5 と指定します。

todaydate を指定することにより (省略した場合は最後にスクリプトを実行したタイムスタンプ)、期間の上限として使用する日付を移動できます。

例：

最終リロード日付 = 1999-11-18 と仮定

`yeartodate('1998-11-18')` は、`false` を返します。

`yeartodate('1999-02-01')` は、`true` を返します。

`yeartodate('1999/11/18')` は、`true` を返します。

`yeartodate('1999/11/19')` は、`false` を返します。

`yeartodate('1998-11-18', -1)` は、`true` を返します。

`yeartodate('1999-11-18', -1)` は、`false` を返します。

`yeartodate('1999-04-30', 0, 5)` は、`false` を返します。

`yeartodate('1999-05-01', 0, 5)` は、`true` を返します。

TimeZone ()

Windows で定義されている現在のタイムゾーンの名前を返します。

例：

`timezone()`

GMT ()

システム時間と Windows の時間設定から導かれる現在のグリニッジ標準時を返します。

例：

`gmt()`

UTC ()

現在の協定世界時間を返します。

例：

`utc()`

DaylightSaving ()

夏時間に調整するための現在の時間を Windows での定義に基づいて返します。

例：

`daylightsaving()`

SetDateYear (timestamp, year)

`timestamp` に基づいてタイムスタンプを返します。ただし、年は `year` で置き換えられます。`timestamp` は、QlikView の標準タイムスタンプ (しばしば日付のみ) です。`year` は、4 桁で表される年です。

例：

`setdateyear ('2005-10-29', 2006)` は、`'2006-10-29'` を返します。

`setdateyear ('2005-10-29 04:26', 2006)` は、`'2006-10-29 04:26'` を返します。

SetDateYearMonth (timestamp, year, month)

timestamp に基づいてタイムスタンプを返します。ただし、年は *year* で、月は *month* で置き換えられます。*timestamp* は、QlikView の標準タイムスタンプ (しばしば日付のみ) です。*year* は、4 桁で表される年です。*month* は、1 桁または 2 桁で表される月です。

例 :

```
setdateyearmonth ('2005-10-29', 2006, 3) は、'2006-03-29' を返します。  
setdateyearmonth('2005-10-29 04:26', 2006, 3) は、'2006-03-29 04:26' を返します。
```

InYear (*date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

basedate を含む年の中に *date* があれば、true を返します。年は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む年について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の年を示し、正の値は将来の年を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

```
inyear ( '2006-01-25', '2006-01-01', 0 ) は、true を返します。  
inyear ( '2005-01-25', '2006-01-01', 0 ) は、false を返します。  
inyear ( '2006/01/25', '2006-01-01', -1 ) は、false を返します。  
inyear ( '2005/01/25', '2006-01-01', -1 ) は、true を返します。  
inyear ( '2006-01-25', '2006-07-01', 0, 3 ) は、false を返します。  
inyear ( '2006-03-25', '2006-07-01', 0, 3 ) は、true を返します。
```

InYearToDate (*date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

date が *basedate* の最後の 1000 分の 1 秒まで、*basedate* を含む年の中にある場合は、true を返します。年は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む年について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の年を示し、正の値は将来の年を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

```
inyeartodate ( '2006-01-25', '2006-02-01', 0 ) は、true を返します。  
inyeartodate ( '2006-01-25', '2006-01-01', 0 ) は、false を返します。  
inyeartodate ( '2005/01/25', '2006-02-01', -1 ) は、true を返します。
```

InQuarter (*date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

basedate を含む四半期中に *date* があれば、true を返します。四半期は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む四半期について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の四半期を示し、正の値は将来の四半期を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

```
inquarter ( '2006-01-25', '2006-01-01', 0 ) は、true を返します。  
inquartertodate ( '2006-01-25', '2006-04-01', 0 ) は、false を返します。  
inquartertodate ( '2006-01-25', '2006/01/01', -1 ) は、false を返します。
```

`inquarter ('2005/12/25', '2006-01-01', -1)` は、`true` を返します。
`inquarter ('2006-01-25', '2006-03-01', 0, 3)` は、`false` を返します。
`inquarter ('2006-03-25', '2006-03-01', 0, 3)` は、`true` を返します。

InQuarterToDate (*date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

date が *basedate* の最後の 1000 分の 1 秒まで、*basedate* を含む四半期中にある場合は、`true` を返します。四半期は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む四半期について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の四半期を示し、正の値は将来の四半期を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

`inquartertoday ('2006-01-25', '2006-01-25', 0)` は、`true` を返します。
`inquartertoday ('2006-01-25', '2006-01-24', 0)` は、`false` を返します。
`inquartertoday ('2005/12/25', '2006/02/01', -1)` は、`false` を返します。

InMonth (*date*, *basedate* , *shift*)

basedate を含む月の中に *date* があれば、`true` を返します。月は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む月について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の月を示し、正の値は将来の月を示します。

例 :

`inmonth ('2006-01-25', '2006-01-01', 0)` は、`true` を返します。
`inmonth ('2006-01-25', '2006-04-01', 0)` は、`false` を返します。
`inmonth ('2006-01-25', '2006/01/01', -1)` は、`false` を返します。
`inmonth ('2005/12/25', '2006-01-01', -1)` は、`true` を返します。

InMonthToDate (*date*, *basedate* , *shift*)

date が *basedate* の最後の 1000 分の 1 秒まで、*basedate* を含む月の中にある場合は、`true` を返します。月は、*shift* によって補正することができます。*shift* は、*basedate* を含む月について値が 0 になる整数です。負の値の *shift* は過去の月を示し、正の値は将来の月を示します。

例 :

`inmonthtoday ('2006-01-25', '2006-01-25', 0)` は、`true` を返します。
`inmonthtoday ('2006-01-25', '2006-01-24', 0)` は、`false` を返します。
`inmonthtoday ('2006-01-25', '2006/02/28', -1)` は、`true` を返します。

InMonths (*n*, *date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

date が 基準日 を含む *n* ヶ月の期間 (1 月 1 日から整列) 内にあれば、`true` を返します。*N* は (1)、2、(3)、4、または 6 でなければなりません。期間は *shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む期間を示します。負の値の *shift* は過去の期間を示し、正の値は将来の期間を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

```
inmonths ( 4, '2006-01-25', '2006-01-01', 0 ) は、true を返します。
inmonths ( 4, '2006-01-25', '2006-05-01', 0 ) は、false を返します。
inmonths ( 4, '2006-01-25', '2006/01/01', -1 ) は、false を返します。
inmonths ( 4, '2005/12/25', '2006-01-01', -1 ) は、true を返します。
inmonths ( 4, '2006-01-25', '2006-03-01', 0, 3 ) は、false を返します。
inmonths ( 4, '2006-04-25', '2006-03-01', 0, 3 ) は、true を返します。
```

InMonthsToDate (*n*, *date*, *basedate* , *shift* [, *first_month_of_year* = 1])

date が *basedate* の最後の 1000 分の 1 秒まで、*basedate* を含む *n* ヶ月の期間 (1 月 1 日から整列) 中にある場合は、true を返します。N は (1)、2、(3)、4、または 6 でなければなりません。期間は *shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む期間を示します。負の値の *shift* は過去の期間を示し、正の値は将来の期間を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

```
inmonthstodate ( 4, '2006-01-25', '2006-04-25', 0 ) は、true を返します。
inmonthstodate ( 4, '2006-04-25', '2006-04-24', 0 ) は、false を返します。
inmonthstodate ( 4, '2005/11/25', '2006/02/01', -1 ) は、true を返します。
```

InWeek (*date*, *basedate* , *shift* [, *weekstart*])

basedate を含む週の中に *date* があれば、true を返します。週は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む週を示します。負の値の *shift* は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。週の開始を日曜日と月曜日の間の午前 0 時にしない場合は、*weekstart* を使用して補正値を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

```
inweek ( '2006-01-12', '2006-01-14', 0 ) は、true を返します。
inweek ( '2006-01-12', '2006-01-20', 0 ) は、false を返します。
inweek ( '2006-01-12', '2006/01/14', -1 ) は、false を返します。
inweek ( '2006/01/07', '2006-01-14', -1 ) は、true を返します。
inweek ( '2006-01-12', '2006-01-09', 0, 3 ) は、false を返します。
```

InWeekToDate (*date*, *basedate* , *shift* [, *weekstart*])

date が *basedate* の最後の 1000 分の 1 秒まで、*basedate* を含む週の中にある場合は、true を返します。週は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む週を示します。負の値の *shift* は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。週の開始を日曜日と月曜日の間の午前 0 時にしない場合は、*weekstart* を使用して補正値を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

```
inweektoday ( '2006-01-12', '2006-01-12', 0 ) は、true を返します。
inweektoday ( '2006-01-12', '2006-01-11', 0 ) は、false を返します。
inweektoday ( '2006-01-12', '2006/01/05', -1 ) は、false を返します。
```

InLunarWeek (date, basedate, shift [, weekstart])

basedate を含む週周期 (毎年 1 月 1 日に始まる連続する 7 日間の期間) の中に *date* がある場合は、true を返します。週周期は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む週周期を示します。負の値の *shift* は過去の週周期を示し、正の値は将来の週周期を示します。週周期の開始日を補正する場合は、*weekstart* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

```
inlunarweek ( '2006-01-12', '2006-01-14', 0 ) は、true を返します。
inlunarweek ( '2006-01-12', '2006-01-20', 0 ) は、false を返します。
inlunarweek ( '2006-01-12', '2006/01/14', -1 ) は、false を返します。
inlunarweek ( '2006/01/07', '2006-01-14', -1 ) は、true を返します。
inlunarweek ( '2006-01-11', '2006-01-08', 0, 3 ) は、false を返します。
```

InLunarWeekToDate (date, basedate, shift [, weekstart])

date が *basedate* (*basedate* の最後のミリ秒までを含む) を含む週周期 (各年の 1 月 1 日からの連続する 7 日間) の一部に含まれる場合は、true を返します。週周期は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basedate* を含む週周期を示します。負の値の *shift* は過去の週周期を示し、正の値は将来の週周期を示します。週周期の開始日を補正する場合は、*weekstart* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

```
inlunarweektoday ( '2006-01-12', '2006-01-12', 0 ) は、true を返します。
inlunarweektoday ( '2006-01-12', '2006-01-11', 0 ) は、false を返します。
inlunarweektoday ( '2006-01-12', '2006/01/05', 1 ) は、true を返します。
```

InDay (timestamp, basetimestamp, shift [, daystart])

basetimestamp を含む日の中に *timestamp* がある場合は、true を返します。日は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basetimestamp* を含む日を示します。負の値の *shift* は過去の日を示し、正の値は将来の日を示します。日の開始時刻を深夜 0 時にしない場合は、*daystart* を使用して 1 日未満の長さを補正值として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例 :

```
inday ( '2006-01-12 12:23', '2006-01-12 00:00', 0 ) は、true を返します。
inday ( '2006-01-12 12:23', '2006-01-13 00:00', 0 ) は、false を返します。
inday ( '2006-01-12 12:23', '2006/01/12 00:00', -1 ) は、false を返します。
```

`inday ('2006/01/11 12:23', '2006-01-12 00:00', -1)` は、true を返します。
`inday ('2006-01-12 12:23', '2006-01-12 00:00', 0, 0.5)` は、false を返します。
`inday ('2006-01-12 11:23', '2006-01-12 00:00', 0, 0.5)` は、true を返します。

InDayToTime (*timestamp*, *basetimestamp*, *shift* [, *daystart*])

timestamp が *basetimestamp* の 1000 分の 1 秒まで正確に、*basetimestamp* を含む日の中にある場合は、true を返します。日は、*shift* によって補正することができます。*shift* は整数で、0 は *basetimestamp* を含む日を示します。負の値の *shift* は過去の日を示し、正の値は将来の日を示します。日の開始時刻を深夜 0 時にしない場合は、*daystart* を使用して 1 日未満の長さを補正值として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例 :

`indaytotime ('2006-01-12 12:23', '2006-01-12 23:59', 0)` は、true を返します。
`indaytotime ('2006-01-12 12:23', '2006-01-12 00:00', 0)` は、false を返します。
`indaytotime ('2006/01/11 12:23', '2006-01-12 23:59', -1)` は、true を返します。

YearStart(*date* [, *shift* = 0 [, *first_month_of_year* = 1]])

date を含む年の最初の日付の最初のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む年を示します。負の値の *shift* は過去の年を示し、正の値は将来の年を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2001-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearstart ('2001-10-19')` は、'2001-01-01' を返します。
基底の数値が '2000-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearstart ('2001-10-19', -1)` は、'2000-01-01' を返します。
基底の数値が '2001-04-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearstart ('2001-10-19', 0, 4)` は、'2001-04-01' を返します。

YearEnd(*date* [, *shift* = 0 [, *first_month_of_year* = 1]])

date を含む年の最後の日付の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む年を示します。負の値の *shift* は過去の年を示し、正の値は将来の年を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数值が '2001-12-31 23:59:59.999' に対応するとき、`yearend ('2001-10-19')` は、'2001-12-31' を返します。

基底の数值が '2000-12-31 23:59:59.999' に対応するとき、`yearend ('2001-10-19', -1)` は、'2000-12-31' を返します。

基底の数值が '2002-03-31 23:59:59.999' に対応するとき、`yearend ('2001-10-19', 0, 4)` は、'2002-03-31' を返します。

YearName (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

`date` を含む年の最初の日の最初のミリ秒のタイムスタンプに基底の数值が対応するとき、4桁の年の表示値を返します。`shift` は整数で、0 は `date` を含む年を示します。負の値の `shift` は過去の年を示し、正の値は将来の年を示します。扱う年度 (事業年度) が1月から始まらない場合は、`first_month_of_year` で2から12の間の値を指定します。表示値は、2年を表す文字列になります。

例 :

基底の数值が '2001-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearname ('2001-10-19')` は、'2001' を返します。

基底の数值が '2000-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearname ('2001-10-19', -1)` は、'2000' を返します。

基底の数值が '2001-04-01 00:00:00.000' に対応するとき、`yearname ('2001-10-19', 0, 4)` は、'2001-2002' を返します。

QuarterStart (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

`date` を含む四半期の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。`shift` は整数で、`date` を含む四半期を示します。負の値の `shift` は過去の四半期を示し、正の値は将来の四半期を示します。扱う年度 (事業年度) が1月から始まらない場合は、`first_month_of_year` で2から12の間の値を指定します。

例 :

基底の数值が '2005-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quarterstart ('2005-10-29')` は、'2005-10-01' を返します。

基底の数值が '2005-07-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quarterstart ('2005-10-29', -1)` は、'2005-07-01' を返します。

基底の数值が '2005-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quarterstart ('2005-10-29', 0, 3)` は、'2005-09-01' を返します。

QuarterEnd (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

`date` を含む四半期の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。`shift` は整数で、`date` を含む四半期を示します。負の値の `shift` は過去の四半期を示し、正の値は将来の四半期を示します。扱う年度 (

事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2005-12-31 23:59:59.999' に対応するとき、`quarterend ('2005-10-29')` は、'2005-12-31' を返します。

基底の数値が '2005-09-30 23:59:59.999' に対応するとき、`quarterend ('2005-10-29', -1)` は、'2005-09-30' を返します。

基底の数値が '2005-11-30 23:59:59.999' に対応するとき、`quarterend ('2005-10-29', 0, 3)` は、'2005-11-30' を返します。

QuarterName (date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

四半期の最初の日付の最初のミリ秒を持つタイムスタンプに基底の数値が対応するとき、四半期の月および年の表示値を (MonthNames スクリプト変数に従った書式で) 返します。*shift* は整数で、*date* を含む四半期を示します。負の値の *shift* は過去の四半期を示し、正の値は将来の四半期を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2005-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quartername ('2005-10-29')` は、'Oct-Dec 2005' を返します。

基底の数値が '2005-07-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quartername ('2005-10-29', -1)` は、'Jul-Sep 2005' を返します。

基底の数値が '2005-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`quartername ('2005-10-29', 0, 3)` は、'Sep-Nov 2005' を返します。

MonthStart (date [, shift = 0])

date を含む月の最初の日付の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている DateFormat です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む月を示します。負の値の *shift* は過去の月を示し、正の値は将来の月を示します。

例 :

基底の数値が '2001-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthstart ('2001-10-19')` は、'2001-10-01' を返します。

基底の数値が '2001-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthstart ('2001-10-19', -1)` は、'2001-09-01' を返します。

MonthEnd (date [, shift = 0])

date を含む月の最後の日付の最後のミリ秒のタイムスタンプに相当する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている DateFormat です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む月を示します。負の値の *shift* は過去の月を示し、正の値は将来の月を示します。

例 :

基底の数値が '2001-02-28 23:59:59.999' に対応するとき、`monthend ('2001-02-19')` は、'2001-02-28' を返します。

基底の数値が '2001-01-31 23:59:59.999' に対応するとき、`monthend ('2001-02-19', -1)` は、'2001-01-31' を返します。

MonthName (date [, shift = 0])

月の最初の日のもっとも最初のミリ秒を持つタイムスタンプに基底の数値が対応するとき、月および年の表示値を (MonthNames スクリプト変数に従った書式で) 返します。*shift* は整数で、0 は *date* を含む月を示します。負の値の *shift* は過去の月を示し、正の値は将来の月を示します。

例 :

基底の数値が '2001-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthname ('2001-10-19')` は、'Oct 2001' を返します。

基底の数値が '2001-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthname ('2001-10-19', -1)` は、'Sep 2001' を返します。

MonthsStart (n, date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

date を含む *n* ヶ月の期間 (1月1日から始まる) の最初の 1000 分の 1 秒を含むタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*N* は (1)、2、(3)、4、または 6 でなければなりません。*shift* は整数で、0 は *date* を含む期間を示します。負の値の *shift* は過去の期間を示し、正の値は将来の期間を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2001-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsstart (4, '2001-10-19')` は、'2001-09-01' を返します。

基底の数値が '2001-05-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsstart (4, '2001-10-19', -1)` は、'2001-05-01' を返します。

基底の数値が '2001-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsstart (4, '2001-10-19', 0, 2)` は、'2001-10-01' を返します。

MonthsEnd (n, date [, shift = 0 [, first_month_of_year = 1]])

date を含む *n* ヶ月の期間 (1月1日から始まる) の最後の 1000 分の 1 秒を含むタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*N* は (1)、2、(3)、4、または 6 でなければなりません。*shift* は整数で、0 は *date* を含む期間を示します。負の値の *shift* は過去の期間を示し、正の値は将来の期間を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2001-08-31 23:59:59.999' に対応するとき、`monthsend (4, '2001-07-19')` は、'2001-08-31' を返します。

基底の数値が '2001-08-31 23:59:59.999' に対応するとき、`monthsend (4, '2001-10-19', -1)` は、'2001-08-31' を返します。

基底の数値が '2002-01-31 23:59:59.999' に対応するとき、`monthsend (4, '2001-10-19', 0, 2)` は、'2002-01-31' を返します。

MonthsName(*n*, *date* [, *shift* = 0 [, *first_month_of_year* = 1]])

n ヶ月期間 (1月1日開始) を含む *date* の最初のミリ秒を持つタイムスタンプに基底の数値が対応するとき、期間の月および年の表示値を (MonthNames スクリプト変数に従った書式で) 返します。N は (1)、2、(3)、4、または 6 でなければなりません。*shift* は整数で、0 は *date* を含む期間を示します。負の値の *shift* は過去の期間を示し、正の値は将来の期間を示します。扱う年度 (事業年度) が 1 月から始まらない場合は、*first_month_of_year* で 2 から 12 の間の値を指定します。

例 :

基底の数値が '2001-09-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsname (4, '2001-10-19')` は、'Sep-Dec 2001' を返します。

基底の数値が '2001-05-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsname (4, '2001-10-19', -1)` は、'May-Aug 2001' を返します。

基底の数値が '2001-10-01 00:00:00.000' に対応するとき、`monthsname (4, '2001-10-19', 0, 2)` は、'Oct-Jan 2002' を返します。

WeekStart(*date* [, *shift* = 0 [, *weekoffset* = 0]])

date を含む暦週の最初の日付 (月曜日) の最初の 1000 分の 1 秒を含むタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む週を示します。負の値の *shift* は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。週の開始を日曜日と月曜日との間の午前 0 時にしない場合は、*weekoffset* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

基底の数値が '2006-01-09 00:00:00.000' に対応するとき、`weekstart ('2006-01-12')` は、'2006-01-09' を返します。

基底の数値が '2006-01-02 00:00:00.000' に対応するとき、`weekstart ('2006-01-12', -1)` は、'2006-01-02' を返します。

基底の数値が '2006-01-10 00:00:00.000' に対応するとき、`weekstart ('2006-01-12', 0, 1)` は、'2006-01-10' を返します。

WeekEnd(*date* [, *shift* = 0 [, *weekoffset* = 0]])

date を含む暦週の最後の日付 (日曜日) の最後の 1000 分の 1 秒を含むタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `DateFormat` です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む週を示します。負の値の *shift* は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。週の開始を日曜日と月曜日との間の午前 0 時にしない場合は、*weekoffset* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

基底の数值が '2006-01-15 23:59:59.999' に対応するとき、weekend ('2006-01-12') は、'2006-01-15' を返します。

基底の数值が '2006-01-08 23:59:59.999' に対応するとき、weekend ('2006-01-12', -1) は、'2006-01-08' を返します。

基底の数值が '2006-01-16 23:59:59.999' に対応するとき、weekend ('2006-01-12', 0, 1) は、'2006-01-16' を返します。

WeekName (date [, shift = 0 [, weekoffset = 0]])

date を含む週の最初の日の最初のミリ秒のタイムスタンプに基底の数值が対応するとき、年と週の周期の表示値を返します。*shift* は整数で、0 は *date* を含む週を示します。負の値の *shift* は過去の週を示し、正の値は将来の週を示します。週の開始を日曜日と月曜日の間の午前 0 時にしない場合は、*weekoffset* を使用して補正値を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

基底の数值が '2006-01-09 00:00:00.000' に対応するとき、weekname ('2006-01-12') は、'2006/02' を返します。

基底の数值が '2006-01-02 00:00:00.000' に対応するとき、weekname ('2006-01-12', -1) は、'2006/01' を返します。

基底の数值が '2006-01-10 00:00:00.000' に対応するとき、weekname ('2006-01-12', 0, 1) は、'2006/02' を返します。

LunarweekStart (date [, shift = 0 [, weekoffset = 0]])

date を含む週周期 (毎年 1 月 1 日に始まる連続する 7 日の期間) の最初の 1000 分の 1 秒とタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている *DateFormat* です。*shift* は整数で、値 0 は *date* を含む週周期を示します。負の値の *shift* は過去の週周期を示し、正の値は将来の週周期を示します。週周期の開始日を補正する場合は、*weekoffset* を使用して補正値を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例 :

基底の数值が '2006-01-08 00:00:00.000' に対応するとき、lunarweekstart ('2006-01-12') は、'2006-01-08' を返します。

基底の数值が '2006-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、lunarweekstart ('2006-01-12', -1) は、'2006-01-01' を返します。

基底の数值が '2006-01-09 00:00:00.000' に対応するとき、lunarweekstart ('2006-01-12', 0, 1) は、'2006-01-09' を返します。

LunarweekEnd (date [, shift = 0 [, weekoffset = 0]])

date を含む週周期 (毎年 1 月 1 日に始まる連続する 7 日の期間) の最後の 1000 分の 1 秒とタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている *DateFormat* です。*shift* は整数で、値 0 は日付を含む週周期を示します。負の値の *shift* は過去

の週周期を示し、正の値は将来の週周期を示します。週周期の開始日を補正する場合は、*weekoffset* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例：

基底の数值が '2006-01-14 23:59:59.999' に対応するとき、*lunarweekend* ('2006-01-12') は、'2006-01-14' を返します。

基底の数值が '2006-01-07 23:59:59.999' に対応するとき、*lunarweekend* ('2006-01-12', -1) は、'2006-01-07' を返します。

基底の数值が '2006-01-15 23:59:59.999' に対応するとき、*lunarweekend* ('2006-01-12', 0, 1) は、'2006-01-15' を返します。

LunarWeekName (date [, shift = 0 [, weekoffset = 0]])

date を含む週周期 (毎年 1 月 1 日から始まる連続する 7 日の期間) の最初の日付の 1000 分の 1 秒およびタイムスタンプに対応する数値を基底として、年および週の周期の表示値を返します。*shift* は整数で、値 0 は日付を含む週周期を示します。負の値の *shift* は過去の週周期を示し、正の値は将来の週周期を示します。週周期の開始日を補正する場合は、*weekoffset* を使用して補正值を日数で示します。これは、日数または 1 日未満の長さ、またはその両方を示す実数で指定できます。

例：

基底の数值が '2006-01-08 00:00:00.000' に対応するとき、*lunarweekname* ('2006-01-12') は、'2006/02' を返します。

基底の数值が '2006-01-01 00:00:00.000' に対応するとき、*lunarweekname* ('2006-01-12', -1) は、'2006/01' を返します。

基底の数值が '2006-01-09 00:00:00.000' に対応するとき、*lunarweekname* ('2006-01-12', 0, 1) は、'2006/02' を返します。

DayStart (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])

timestamp を含む日の最初のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている *TimestampFormat* です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む日を示します。負の値の *shift* は過去の日を示し、正の値は将来の日を示します。日の開始時刻を深夜 0 時にしない場合は、*dayoffset* を使用して 1 日未満の長さを補正值として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例：

基底の数值が '2006-01-25 00:00:00' に対応するとき、*daystart* ('2006-01-25 16:45') は、'2006-01-25 00:00:00' を返します。

基底の数值が '2006-01-24 00:00:00' に対応するとき、*daystart* ('2006-01-25 16:45', -1) は、'2006-01-24 00:00:00' を返します。

基底の数值が '2006-01-25 12:00:00' に対応するとき、*daystart* ('2006-01-25 16:45', 0, 0.5) は、'2006-01-25 12:00:00' を返します。

DayEnd (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])

timestamp を含む日の最後のミリ秒のタイムスタンプに対応する値を返します。デフォルトの出力形式は、スクリプトに設定されている `TimestampFormat` です。*shift* は整数で、0 は *date* を含む日を示します。負の値の *shift* は過去の日を示し、正の値は将来の日を示します。日の開始時刻を深夜 0 時にしない場合は、*dayoffset* を使用して 1 日未満の長さを補正值として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

例 :

`dayend ('2006-01-25 16:45')` は、基底の数値が '2006-01-25 23:59:59.999' に対応するとき、'2006-01-25 23:59:59' を返します。

`dayend ('2006-01-25 16:45', -1)` は、基底の数値が '2006-01-24 23:59:59.999' に対応するとき、'2006-01-24 23:59:59' を返します。

`dayend ('2006-01-25 16:45', 0, 0.5)` は、基底の数値が '2006-01-26 11:59:59.999' に対応するとき、'2006-01-26 11:59:59' を返します。

DayName (timestamp [, shift = 0 [, dayoffset = 0]])

timestamp を含む日の最初の 1000 分の 1 秒を持つタイムスタンプに対応する数値を基底として、日付を表示する値を返します。*shift* は整数で、0 は *date* を含む日を示します。負の値の *shift* は過去の日を示し、正の値は将来の日を示します。日の開始時刻を深夜 0 時にしない場合は、*dayoffset* を使用して 1 日未満の長さを補正值として指定します。例えば、0.125 は午前 3 時を意味します。

注 : プロセッサの設定によっては、`DayName()` 関数を使用すると、ロードに要する時間が大幅に増大する可能性があります。この問題は、次の関数を変わりに使用することで解決できます。

```
TimeStamp(Floor(YourTimeStamp), 'YYYY-MM-DD')
```

例 :

`dayname ('2006-01-25 16:45')` は、基底の数値が '2006-01-25 00:00:00.000' に対応するとき、'2006-01-25' を返します。

`dayname ('2006-01-25 16:45', -1)` は、基底の数値が '2006-01-24 00:00:00.000' に対応するとき、'2006-01-24' を返します。

`dayname ('2006-01-25 16:45', 0, 0.5)` は、基底の数値が '2006-01-25 12:00:00.000' に対応するとき、'2006-01-25' を返します。

age(timestamp, date_of_birth)

date_of_birth に生まれた人の *timestamp* 時点での年齢 (満年齢) を返します。

例 :

`age('2007-01-25', '2005-10-29')` は、1 を返します。

`age('2007/10/29', '2005-10-29')` は、2 を返します。

networkdays (start:date, end_date [, holiday])

オプションで示された *holidays* を考慮して、*start_date* と *end_date* の間の当日を含む勤務日数 (月曜日から金曜日) を返します。すべてのパラメータは有効な日付またはタイムスタンプである必要があります。

例：

`networkdays ('2007-02-19', '2007-03-01')` は、9 を返します。
`networkdays ('2006-12-18', '2006-12-31', '2006-12-25', '2006-12-26')`
 は、8 を返します。

firstworkdate (end_date, no_of_workdays {, holiday})

遅くとも `end_date` 以前に終了する場合に、オプションで示された休日 を考慮して、勤務日数を `number_of_workdays` (月曜日 から金曜日) とするために必要な最も遅い開始日 を返します。`end_date` および `holiday` は、有効な日付またはタイムスタンプである必要があります。

例：

`firstworkdate ('2007-03-01', 9)` は、'2007-02-19' を返します。
`firstworkdate ('2006-12-31', 8, '2006-12-25', '2006-12-26')` は、'2006-12-18' を返します。

lastworkdate (start_date, no_of_workdays {, holiday})

開始日が `start_date` である場合に、オプションで示された `holiday` を考慮して、勤務日数を `number_of_workdays` (月曜日 から金曜日) とするために必要な最も早い終了日 を返します。`start_date` および `holiday` は、有効な日付またはタイムスタンプである必要があります。

例：

`lastworkdate ('2007-02-19', 9)` は、'2007-03-01' を返します。
`lastworkdate ('2006-12-18', 8, '2006-12-25', '2006-12-26')` は、'2006-12-29' を返します。

ConvertToLocalTime (timestamp [, place [, ignore_dst=false]])

UTC または GMT タイムスタンプをデュアル値として現地時間に変換します。場所は、世界中の都市、場所、タイムゾーンです。

有効な場所とタイムゾーン：

アブダビ、アデレード、アラスカ、アルマトイ、アムステルダム、アリゾナ、アスタナ、アテネ、大西洋時間 (カナダ)、オークランド、アゾレス、バグダッド、バクー、バンコク、北京、ベオグラード、ベルリン、ベルン、ボゴタ、ブラジリア、ブラティスラバ、ブリスベン、ブリュッセル、ブカレスト、ブダペスト、ブエノスアイレス、カイロ、キャンベラ、カーボベルデ諸島、カラカス、カサブランカ、中央アメリカ、中央時間 (米国およびカナダ)、チェンナイ、チワワ、重慶、コペンハーゲン、ダーウィン、ダッカ、東部時間 (米国およびカナダ)、エジンバラ、エカテリンブルグ、フィジー、ジョージタウン、グリーンランド、グリニッジ標準時間、ダブリン、グアダラハラ、グアム、ハノイ、ハラレ、ハワイ、ヘルシンキ、ホバート、香港、インディアナ (東部)、日付変更線西側、イルクーツク、イスラマバード、イスタンブール、ジャカルタ、エルサレム、カブール、カムチャツカ、カラチ、カトマンズ、カルカッタ、クラスノヤルスク、クアラルンプール、クウェート、キエフ、キエフ、ラパス、リマ、リスボン、リュブリャナ、ロンドン、マドリード、マガダン、マーシャル諸島、マサトラン、メルボルン、メキシコシティ、中部大西洋、ミッドウェー島、ミンスク、モンロビア、モンテレー、モスクワ、山岳部時間 (米国およびカナダ)、ムンバイ、マスカット、ナイロビ、ニューカレドニア、ニューデリー、ニューフ

アンドラント、ノボシビルスク、ヌクアロファ、大阪、太平洋時間 (米国およびカナダ)、パリ、パース、ポートモレスビー、プラハ、プレトリア、キト、ラングーン、リガ、リヤド、ローマ、サモア、サンティアゴ、札幌、サラエボ、サスカチュワン、ソウル、シンガポール、スコピエ、ソフィア、ソロモン諸島、スリジャヤワルダナプラコッテ、サンクトペテルブルク、ストックホルム、シドニー、台北、タリン、タシケント、トビリシ、テヘラン、ティファナ、東京、ウランバートル、ウルムチ、モスクワ、ウェリントン、西中央アフリカ、ウィーン、ビリニュス、ウラジオストク、ボルゴグラード、ヤクーツク、エレバン、ザグレブです。

GMT、GMT-01:00、GMT+04:00 なども場所として有効です。

3 番目のパラメータが 1 または true() に設定されている場合を除き、結果として返される時間は夏時間に調整されます。

例 :

`ConvertToLocalTime('2007-11-10 23:59:00','Paris')` は、'2007-11-11 00:59:00' および対応する内部タイムスタンプ表現を返します。

`ConvertToLocalTime(UTC(), 'GMT-05:00')` は、北米東海岸、例えばニューヨークの時間を返します。

DayNumberOfYear (date[,firstmonth])

`date` を含む年の最初の日付の最初のミリ秒のタイムスタンプに準じたその年の日番号を返します。この関数は、いつも 366 日を基準に年を使用します。

`firstmonth` を 1 から 12 の間で指定することにより (省略した場合は 1)、年の始めを任意の月の 1 日に移動することができます。例えば事業年度を 3 月 1 日から開始する場合、`firstmonth = 3` と指定します。

例 :

`DayNumberOfYear(date)` は、年の初めからカウントした日番号を返します。

`DayNumberOfYear(date,3)` は、3 月の初めからカウントした日番号を返します。

DayNumberOfQuarter (date[,firstmonth])

`date` を含む期の最初の日付の最初のミリ秒のタイムスタンプに準じたその期の日番号を返します。

この関数は、いつも 366 日を基準に年を使用します。

`firstmonth` を 1 から 12 の間で指定することにより (省略した場合は 1)、年の始めを任意の月の 1 日に移動することができます。例えば事業年度を 3 月 1 日から開始する場合、`firstmonth = 3` と指定します。

例 :

`DayNumberOfQuarter(Date)` は、最初の期の最初の日からカウントしたその期の日番号を返します。

`DayNumberOfQuarter(Date,3)` は、3 月の初めからカウントしたその期の日番号を返します。

その他の関数 へ戻ります。

データ型変換変数

次の変数はシステムに定義されます。新しいドキュメントを作成したときに、現在のオペレーティングシステムの設定に従って、変数は自動的に生成されます。データ型変換変数は、新しいQlikViewドキュメントのロードスクリプトの最上部に含まれ、これらは、スクリプトの実行時に特定の数値書式設定におけるオペレーティングシステムのデフォルトの代わりに使用されます。これらを自由に削除、編集、または複製できます。

ThousandSep

定義した桁区切り記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の桁区切り記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set ThousandSep=','; (例えば、7 百万は 7,000,000,000 として指定する必要があります。)
```

DecimalSep

定義した小数点記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の小数点の記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set DecimalSep='.';
```

MoneyThousandSep

定義した桁区切り記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨の桁区切り記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyThousandSep=',';
```

MoneyDecimalSep

定義した小数点記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨の小数点の記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyDecimalSep='.';
```

MoneyFormat

定義した記号は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の通貨記号の代わりに使用されます。

例：

```
Set MoneyFormat='$ #,##0.00; ($ #,##0.00)';
```

DirectMoneyDecimalSep

定義した小数点記号は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで通貨の小数点の記号の代わりに使用されます。この記号は、DirectMoneyFormat で使用している記号と一致する必要があります。
デフォルト値は、[.] です。

例 :

```
Set DirectMoneyDecimalSep='.';
```

DirectMoneyFormat

定義した記号は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで通貨の書式の代わりに使用されます。桁区切りの通貨記号は含めないでください。
デフォルト値は [#.0000] です。

例 :

```
Set DirectMoneyFormat=' #.0000';
```

TimeFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の時刻の書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set TimeFormat='hh:mm:ss';
```

DateFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の日付の書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DateFormat='M/D/YY';
```

DirectTimeFormat

定義した時刻書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで時刻書式の代わりに使用されます。

例 :

```
Set DirectTimeFormat='hh:mm:ss';
```

DirectDateFormat

定義した日付書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで、日付書式との代わりに使用されます。

例：

```
Set DirectDateFormat='MM/DD/YYYY';
```

TimestampFormat

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の日時の書式の代わりに使用されます。

例：

```
Set TimestampFormat='M/D/YY hh:mm:ss[.fff]';
```

DirectTimeStampFormat

定義した日付と時刻の書式は、*Direct Discovery (193 ページ)* を使用してデータをロードするために生成された SQL ステートメントで日付と時刻の書式の代わりに使用されます。

例：

```
Set DirectTimeStampFormat='M/D/YY hh:mm:ss[.fff]';
```

MonthNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の月名の表記規則の代わりに使用されます。

例：

```
Set MonthNames='1月;2月;3月;4月;5月;6月;7月;8月;9月;10月;11月;12月';
```

LongMonthNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の長い月名の表記規則の代わりに使用されます。

例：

```
Set LongMonthNames='1月;2月;3月;4月;5月;6月 - -
```

DayNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の曜日の名前の表記規則の代わりに使用されます。

例：

```
Set DayNames='月;火;水;木;金;土;日';
```

LongDayNames

定義した書式は、オペレーティングシステム (**地域の設定**) の長い曜日名の表記規則の代わりに使用されます。

例：

```
Set LongDayNames='月曜日;火曜日;水曜日;木曜日;金曜日;土曜日;日曜日';
```

ShowCalendarWeek

AJAX と Webview のカレンダーで週番号の表示・非表示を設定します。既定では False に設定されています。

カレンダーは ISO 基準を採用していて、月曜日が週の始まりで、月曜日から木曜日まで (4 日間ルール) を 1 週となります。

設定可能な値は次のとおりです。

'true' (または 1 あるいは '1')

'false' (または 0 あるいは '0')

例：

```
Set ShowCalendarWeek='true';
```

ExponentNumberNotation

この変数は、指数の数値を含む、ロードされた値の解釈方法を設定します。E と D は、指数のプレフィックスとして使用されます。

設定可能な値は次のとおりです。

0 (1.23E6 と 1.23D6 はいずれも、指数の数値として解釈されません)

1 (1.23D6 ではなく 1.23E6 は、指数の数値で既定値として解釈されます)

2 (1.23E6 と 1.23D6 はいずれも、指数の数値として解釈されます)

例：

```
Set ExponentNumberNotation=2;
```

[その他の関数 \(384 ページ\)](#) へ戻ります。

書式設定関数

書式設定関数は、項目や数式の書式表示を決定します。これらの関数を使用して、小数点記号、桁区切り記号などを設定することができます。数値、時間、および日付の書式を設定する最も簡単な方法は、ドキュメントプロパティ：数値書式 (541 ページ) ダイアログを使用する方法です。

注意！

わかりやすくするために、すべての数値表現で小数点記号として小数点を使用しています。

[その他の関数](#) へ戻る

Num

```
num(expression [ , format-code [ , decimal-sep [ , thousands-sep ] ] ] )
```

num 関数は、*format-code* で与えられる文字列に従って数值的に *expression* の書式を設定します。小数点記号および桁区切り記号を 3 番目および 4 番目のパラメータとして設定することができます。2 番目から 4 番目のパラメータが省略されると、データ型変換変数 (444 ページ) で指定された数値書式設定が最初に使用されて、データ型変換変数が設定されていない場合、次にオペレーティングシステムの数値書式設定が使用されます。

例 :

下記の例では、次の 2 つの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

数値書式 ###0,# #,##0.#

num(A, '0.0') は A=35648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	35 648 375	35648.375
数値	35648375	35648.375

num(A, '#,##0.##', ',', ',') は A=35648 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	35,648.00	35,648.00
数値	35648	35648

num(pi(), '0,00') は、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	3,14	003
数値	3.141592653	3.141592653

[その他の関数へ戻る](#)

通貨

```
money(expression [ , format-code [ , decimal-sep [ , thousands-sep ] ] ] )
```


money 関数は、*format-code* で与えられる文字列に従って数値的に *expression* の書式を設定します。小数点記号および桁区切り記号を 3 番目および 4 番目のパラメータとして設定することができます。パラメータ 2~4 が省略されていると、オペレーティングシステムによって設定されている数値書式が使用されます。

例：

この例では、次の 2 つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

通貨の書式 kr # ##0,00 \$ #,##0.00

money(A) は A=35648 のとき、次を返します。

	設定 1	設定 2
文字列	kr 35 648,00	\$ 35,648.00
数値	35648,00	35648,00

money(A, '#,##0 ¥', '.', ',') は A=3564800 のとき、次を返します。

	設定 1	設定 2
文字列	3,564,800 ¥	3,564,800 ¥
数値	3564800	3564800

その他の関数 へ戻る

日付

date (*expression* [, *format-code*])

date 関数は、*format-code* で与えられた文字列に従って、*expression* を日付として書式設定します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されている日付の書式が使用されます。

例：

この例では、次の 2 つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

日付書式 YY-MM-DD M/D/YY

date(A) は、A=35648 の場合、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	97-08-06	8/6/97

数値	35648	35648
----	-------	-------

`date(A, 'YY.MM.DD')` は、 $A=35648$ の場合、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	97-08-06	97-08-06
数値	35648	35648

`date(A, 'DD.MM.YY')` は、 $A=35648.375$ の場合、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	06.08.1997	06.08.1997
数値	35648,375	35648,375

`date(A, 'YY.MM.DD')` は、 $A=8/6/97$ の場合、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	NULL (なし)	97.08.06
数値	NULL	35648

[その他の関数](#) へ戻る

Time (時刻)

`time(expression [, format-code])`

`time` 関数は、`format-code` で与えられた文字列に従って、`expression` を時間として書式設定します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されている時間の書式が使用されます。

例：

この例では、次の2つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

	デフォルト設定 1	デフォルト設定 2
時間書式	hh:mm:ss	hh.mm.ss

`time(A)` は、 $A=0.375$ のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	09:00:00	09.00.00
数値	0,375	0,375

time(A) は、A=35648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	09:00:00	09.00.00
数値	35648,375	35648,375

time(A, 'hh-mm') は、A=0.99999 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	23-59	23-59
数値	0,99999	0,99999

その他の関数 [へ戻る](#)

Dual

dual(s , x)

任意の文字列表現 *s* と、与えられた数値表現 *x* とを関連付けます。QlikView では、1 つの項目に複数のデータが読み取られたとき、その文字列表現が異なっても同じ有効な数値表現を持つ場合、それらはすべて最初に現れた文字列表現を共有します。この関数は、スクリプト式とチャート式で使用できます。

スクリプトでは、dual 関数は、一般的にスクリプトの早い段階、関係する項目に他のデータが読み取られる前に使用され、リストボックスなどで表示される最初の文字列表現を作成します。

注意！

デュアル値が大きすぎて、項目オブジェクトに入りきらない場合、## と示されます。文字列のように ... と省略されることはありません。

例 (スクリプト) :

```
load dual ( string,numrep ) as DayOfWeek inline
[ string,numrep
Monday,0
Tuesday,1
Wednesday,2
Thursday,3
Friday,4
Saturday,5
Sunday,6 ];
load Date, weekday(Date) as DayOfWeek from afile.csv;
```

スクリプトの例は、曜日がプレーンテキストで書かれた項目 *DayOfWeek* を生成します。QlikView は、すべての目的について、項目を数値項目として扱います。

その他の関数 へ戻る

時間間隔

```
interval(expression [ , format-code ])
```

interval 関数は、*format-code* によって与えられる文字列に従って、*expression* を時間間隔として書式設定します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されている時間の書式が使用されます。時間間隔は、時間、日数、または日数と時、分、秒、1秒未満の間隔の組み合わせとして書式を設定できます。

例：

この例では、次のオペレーティングシステムの設定を前提としています。

短い日付の書式: YY-MM-DD

時間書式: hh:mm:ss

小数点記号: 。

interval(A) は、 $A=0.375$ のとき、次のようになります。

文字列	09:00:00
数値	0,375

interval(A) は、 $A=1.375$ のとき、次のようになります。

文字列	33:00:00
数値	1,375

interval(A, 'D hh:mm') は、 $A=1.375$ のとき、次のようになります。

文字列	1 09:00
数値	1,375

interval(A-B, 'D hh:mm') は、 $A=97-08-06 09:00:00$ かつ $B=96-08-06 00:00:00$ のとき、次のようになります。

文字列	365 09:00
数値	365,375

[その他の関数](#) へ戻る

日付と時刻

timestamp(*expression* [, *format-code*])

timestamp 関数は、*format-code* で与えられた文字列に従って、*expression* を時間と日付として書式設定します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されている日付と時間の書式が使用されます。

例：

この例では、次の2つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

	デフォルト設定 1	デフォルト設定 2
日付書式	YY-MM-DD	M/D/YY
時間書式	hh:mm:ss	hh:mm:ss

timestamp(A) は、A=35648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	97-08-06 09:00:00	8/6/97 09:00:00
数値	35648,375	35648,375

timestamp(A, 'YYYY-MM-DD hh.mm') は、A=35648 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	1997-08-06 00.00	1997-08-06 00.00
数値	35648	35648

[その他の関数](#) へ戻る

カラー関数

これらの関数は、画像チャートの計算された色をサポートするシートオブジェクトプロパティの色の数式で使用できます。

RGB、**HSL** および **syscolor** 関数は、255 のアルファ値 (不透明) の色を返します。

任意で、どの色にもアルファ係数のパラメータを指定できます。0の alpha は、完全な透明色に相当します。255の alpha は、完全な不透明色に相当します。

color (n)

この関数は、関連するチャートカラー マップの色番号 *n* の色表現を返します。色表現はデュアル値で構成され、テキスト表現は 'RGB(r, g, b)' 形式で提供されます。r、g、および b は、赤、緑、青の色の値を表す 0 ~ 255 の数値です。数値表現は、Visual Basic で定義されているとおりの赤、緑、青の色要素を表す整数です。チャートプロパティ : 色 (785 ページ) ダイアログの計算された色の数式以外では、この関数は常に黒を返します。

RGB (e1, e2, e3)

この機能は、赤の色要素 *e1*、緑の色要素 *e2*、および青の色要素 *e3* で定義された色の色表現を返します。3つのすべてのパラメータは、0 ~ 255 の範囲で整数に評価される数式にする必要があります。色表現はデュアル値で構成され、テキスト表現は 'RGB(r, g, b)' 形式で提供されます。r、g、および b は、赤、緑、青の色の値を表す 0 ~ 255 の数値です。数値表現は、Visual Basic で定義されているとおりの赤、緑、青の色要素を表す整数です。

ARGB (alpha, e1, e2, e3)

この機能は、alpha のアルファ係数 (不透明度) を使用して赤の色要素 *e1*、緑の色要素 *e2*、および青の色要素 *e3* で定義された色の色表現を返します。4つのすべてのパラメータは、0 ~ 255 の範囲で整数に評価される数式にする必要があります。色表現はデュアル値で構成され、テキスト表現は 'RGB(a, r, g, b)' 形式で提供されます。a、r、g、および b は、アルファ、赤、緑、青の色の値を表す 0 ~ 255 の数値です。数値表現は、Visual Basic で定義されているとおりのアルファ、赤、緑、青の色要素を表す整数です。

HSL (hue, saturation, luminosity)

この関数は、0 ~ 1 の *hue* 値、0 ~ 1 の *saturation* 値、0 ~ 1 の *luminosity* 値で定義されている色の色表現を返します。色表現はデュアル値で構成され、テキスト表現は 'RGB(r, g, b)' 形式で提供されます。r、g、および b は、赤、緑、青の色の値を表す 0 ~ 255 の数値です。数値表現は、Visual Basic で定義されているとおりの赤、緑、青の色要素を表す整数です。

black ()

黒 (RGB 0,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0の alpha は、完全な透明色に相当します。255の alpha は、完全な不透明色に相当します。

darkgray ()

濃い灰色 (RGB 128,128,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0の alpha は、完全な透明色に相当します。255の alpha は、完全な不透明色に相当します。

lightgray ()

明るい灰色 (RGB 192,192,192) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0の alpha は、完全な透明色に相当します。255の alpha は、完全な不透明色に相当します。

white ()

白 (RGB 255,255,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

blue ()

青 (RGB 0,0,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

lightblue ()

明るい青 (RGB 0,0,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

green ()

緑 (RGB 0,128,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

lightgreen ()

明るい緑 (RGB 0,255,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

cyan ()

シアン (RGB 0,128,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

lightcyan ()

明るいシアン (RGB 0,255,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

red ()

赤 (RGB 128,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

lightred ()

明るい赤 (RGB 255,0,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

magenta ()

マゼンタ (RGB 128,0,128) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

lightmagenta ()

明るいマゼンタ (RGB 255,0,255) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

brown ()

茶 (RGB 128,128,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

yellow()

黄 (RGB 255,255,0) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

qliktechblue()

Qliktech の青 (RGB 8,18,90) の RGB カラー表現を返します。任意で、アルファ係数のパラメータを指定できます。0 の *alpha* は、完全な透明色に相当します。255 の *alpha* は、完全な不透明色に相当します。

qliktechgray()

Qliktech の灰色 (RGB 158,148,137) の RGB カラー表現を返します。

Colormix1(Value , ColorZero , ColorOne)

この関数は、0～1の間の値を基準に2色グラデーションのRGBカラー表現を返します。

value = 0 のとき、1つ目の色を返します。

value = 1 のとき、2つ目の色を返します。

0 < *value* < 1 のとき、相当する中間の陰影を持つ色を返します。

value は、0と1の間の実数です。

ColorZero は、色を間隔の下端に関連付ける有効なRGBカラー表現です。

ColorOne は、色を間隔の上端に関連付ける有効なRGBカラー表現です。

例：

```
colormix1(x, black( ) , red( ) )
```

Colormix2(Value , ColorMinusOne , ColorOne[, ColorZero])

この関数は、-1と1の間の値に基づいて2色グラデーションのRGBカラー表現を返します。中心位置に中間色を指定することもできます。

value = -1 のとき、1つ目の色を返します。

value = 1 のとき、2つ目の色を返します。

-1 < *value* < 1 のとき、相当する中間の陰影を持つ色を返します。

value は、-1と1の間の実数です。

ColorMinusOne は、色を間隔の下端に関連付ける有効なRGBカラー表現です。

ColorOne は、色を間隔の上端に関連付ける有効なRGBカラー表現です。

ColorZero は、色を間隔の中間に関連付ける有効なオプションのRGBカラー表現です。

例：

```
colormix2(x, red( ) , green( ) )  
colormix2(x, red( ) , green( ) , black( ) )
```


1つ目の例は、赤から茶色を通して緑までのグラデーションで色を返します。2つ目の例は、赤から黒を通して緑までのグラデーションを返します。

syscolor (nr)

Windows システム色 *nr* の RGB カラー表現を返します。 *nr* は、Windows API 関数 `GetSysColor(nr)` へのパラメータに相当します。 *nr* には次のような値を指定できます。

- 0 は、COLOR_SCROLLBAR に対応します。
- 1 は、COLOR_BACKGROUND に対応します。
- 2 は、COLOR_ACTIVECAPTION に対応します。
- 3 は、COLOR_INACTIVECAPTION に対応します。
- 4 は、COLOR_MENU に対応します。
- 5 は、COLOR_WINDOW に対応します。
- 6 は、COLOR_WINDOWFRAME に対応します。
- 7 は、COLOR_MENUTEXT に対応します。
- 8 は、COLOR_WINDOWTEXT に対応します。
- 9 は、COLOR_CAPTIONTEXT に対応します。
- 10 は、COLOR_ACTIVEBORDER に対応します。
- 11 は、COLOR_INACTIVEBORDER に対応します。
- 12 は、COLOR_APPWORKSPACE に対応します。
- 13 は、COLOR_HIGHLIGHT に対応します。
- 14 は、COLOR_HIGHLIGHTTEXT に対応します。
- 15 は、COLOR_BTNFACE に対応します。
- 16 は、COLOR_BTNSHADOW に対応します。
- 17 は、COLOR_GRAYTEXT に対応します。
- 18 は、COLOR_BTNTEXT に対応します。
- 19 は、COLOR_INACTIVECAPTIONTEXT に対応します。
- 20 は、COLOR_BTNHIGHLIGHT に対応します。
- 21 は、COLOR_3DDKSHADOW に対応します。
- 22 は、COLOR_3DLIGHT に対応します。
- 23 は、COLOR_INFOTEXT に対応します。
- 24 は、COLOR_INFOBK に対応します。
- 26 は、COLOR_HOTLIGHT (Win2000) に対応します。
- 27 は、COLOR_GRADIENTACTIVECAPTION (Win2000) に対応します。
- 28 は、COLOR_GRADIENTINACTIVECAPTION (Win2000) に対応します。

ColorMapHue (x)

この関数は、HSV カラー モデルの色相コンポーネントを制御する colormap から取得した色のカラー表現を返します。colormap は赤で始まり、黄色、緑、シアン、青、マゼンダを経て赤に戻ります。x には 0~1 の値を指定しなければなりません。

ColorMapJet (x)

この関数は、青で始まり、シアン、黄色、オレンジを経て赤に戻る colormap から取得した色のカラー表現を返します。x には 0~1 の値を指定しなければなりません。

その他の関数 へ戻ります。

26 データ構造

26.1 データロードのステートメント

データは、**load** または **select** ステートメントを使用してロードされます。各ステートメントは、1つの内部テーブルを生成します。テーブルは常にリストとして表示されます。各レコード(行)には、オブジェクトタイプの新しいインスタンス、各項目(列)には、オブジェクトの特定の属性またはプロパティが含まれます。

規則

以下の規則はデータを QlikView にロードする際に適用されます。

- QlikView では、**load** ステートメントで生成されるテーブルと **select** ステートメントで生成されるテーブルに違いはありません。つまり、複数のテーブルがロードされる場合、テーブルが **load** ステートメント、**select** ステートメント、またはその2つの組み合わせのどれによってロードされたかは意味を持ちません。
- QlikView ロジックでは、ステートメント内またはデータベース内の元のテーブルの項目の順序は任意です。
- 項目名は、項目を識別したり、関連付けを作成する処理で使用されます。これは大文字と小文字を区別するため、スクリプトでは頻繁に項目名を変更する必要があります。項目名の変更(464ページ)を参照してください。

26.2 スクリプトの実行

典型的な **load** または **select** ステートメントでは、イベントの順序はおおよそ次のようになります。

1. 数式の評価
2. **as** による項目の名前変更
3. **alias** による項目の名前変更
4. 項目名の修飾
5. 項目名が一致する場合はデータのマッピング
6. 内部テーブルのデータのソート

26.3 システム項目

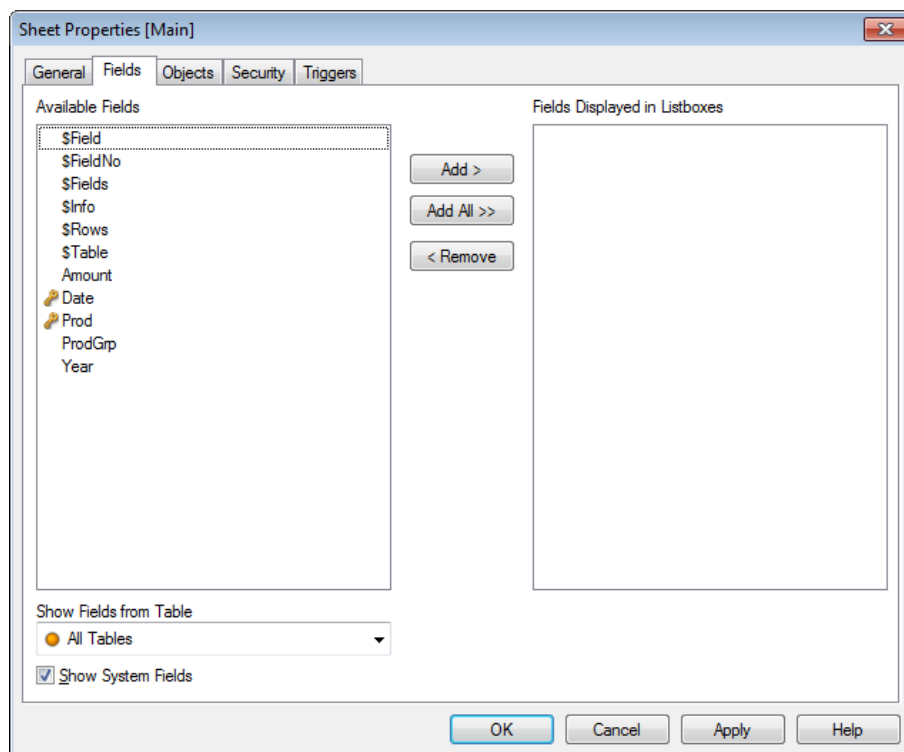
データソースから抽出された項目に加えて、QlikView はシステム項目も生成します。これらはすべて "\$" で始まり、通常の項目と同様にシートに表示できます。スクリプト項目は通常、*script* の実行中に作成され、主にドキュメント設計の支援に使用されます。

システム項目の表示

以下の手順を行ってください。

1. シートを右クリックして、**[システム項目]** を選択します。
2. **[システム項目の表示]** チェックボックスをオンにします。

システム項目は、他の項目としても利用できます。



利用可能なシステム項目

次のシステム項目は表示できます。

- \$Table*** スクリプトによってロードされたすべての内部テーブルを表示します。1つのテーブルが選択されると、そのリストボックスのキャプションに info シンボルが表示されます。これをクリックすると、テーブルがファイルから読み込まれている場合、そのテーブルを表示できます。
- \$Field*** テーブルから読み取られた項目を表示します。**リストボックスプロパティ：基本設定** ページで、このリストボックスに **レコード数の表示** を設定すると、複数の内部テーブルにあるキー項目を簡単に確認できます。
- \$Fields*** リストボックスの数値は、さまざまなテーブルの項目数を表示します。
- \$FieldNo*** リストボックスは、テーブルの項目の位置を表示します。
- \$Rows*** リストボックスは、テーブルの行数を表示します。
- \$Info*** ドキュメントに info テーブルが含まれる場合、その名前がここに表示されます。

システム テーブル

QlikView は自動的にピボットテーブルを作成して、システム項目を使用します。このテーブルは**システム テーブル**と呼ばれ、*\$Field* と *\$Table* の2つの軸と数式 `only([$Field])` が含まれています。デフォルトで、システム テーブルは頻度に基づいてソートされます。システム テーブルオブジェクトは QlikView Server クライアント (AJAX およびプラグイン クライアント) では利用できません。

システム テーブルの作成

以下の手順を行ってください。

1. シートを右クリックして、[シート オブジェクトの追加] を選択します。
2. [システム テーブル] を選択します。

26.4 論理テーブル

load ステートメントまたは **select** ステートメントは、それぞれ 1 つのテーブルを生成します。通常、QlikView は、各ステートメントの結果を 1 つの論理テーブルとして処理します。ただし、この規則にはいくつかの例外があります。

- 2 つ以上のステートメントにより、同一の項目名を持つテーブルが生成された場合は、これらのテーブルが連結されて 1 つの論理テーブルとして処理されます。
- **load** または **select** ステートメントの前に次のいずれかの修飾子がある場合は、データが変更されるか、別々に処理されます。

concatenate	このテーブルは別の名前のテーブルに連結(追加)されるか、最後に作成された論理テーブルに連結されます。
crosstable	このテーブルは、クロス テーブル形式から列形式に変換されます。
generic	このテーブルは、他のいくつかの論理テーブルに分割されます。
info	このテーブルは、論理テーブルとしてではなく、ファイル、サウンド、URL などの外部情報へのリンクを含む情報テーブルとしてロードされます。
intervalmatch	このテーブル(厳密に 2 つの列を含む)は、数値間隔として解釈されます。これらは、指定された項目内の離散数値に関連付けられます。
join	このテーブルは、QlikView により別の名前のテーブル、または最後に作成された論理テーブルと結合され、共通する項目が結合されます。
keep	このテーブルは別の名前のテーブル、または最後に作成された論理テーブルにより共通する項目に限定されます。
mapping	このテーブル(厳密に 2 つの列を含む)は、マッピングテーブルとして読み取られます。これらは他のテーブルに関連付けられることはありません。
semantic	このテーブルは、論理テーブルとしてではなく、結合されない関係(プレデセッサ、サクセッサのほか、同じタイプの他のオブジェクトに対するその他の参照)を含むセマンティックテーブルとしてロードされます。

データがロードされると、論理テーブルが関連付けられます。論理テーブルとその関連は [テーブルビューアー] ダイアログで見ることができます。テーブルビューアー (222 ページ) を参照してください。

26.5 論理テーブル間の関連付け

データの関連付け

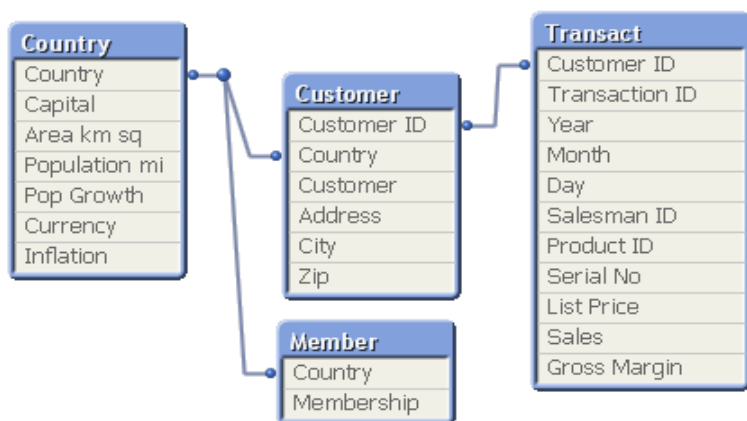
1つのデータベースに多くのテーブルを含めることができます。各テーブルはリストと見なすことができます。つまり、リスト内の各レコードは、特定のタイプのオブジェクトのインスタンスを表します。

例：

2つのテーブルが異なる対象を扱うリストの場合（たとえば、1つは顧客のリストで、もう1つが請求書のリスト）、この2つのテーブルに顧客番号などの共通する項目があると、通常、この2つのテーブルの間には関係が存在することを示唆します。標準のSQLクエリツールでは、ほとんどの場合、この2つのテーブルは結合されます。

QlikView スクリプトで定義されたテーブルは、論理テーブルと呼ばれます。QlikView は、項目名に基づいてテーブル間の関連付けを作成し、選択が行われると（たとえば、リストボックスの項目値を選択すると）、結合を実行します。

つまり、QlikView の関連付けは、QlikView の結合とほとんど同じです。唯一の違いは、結合はスクリプトが実行されるときに実行されます。論理テーブルは、この結合の結果です。それに対して、関連付けは、論理テーブルの作成後に行われます。関連付けは、常に論理テーブル間で行われます。



4つのテーブル: 国 (Country) のリスト、顧客 (Customer) のリスト、取引 (Transaction) のリスト、およびメンバーシップ (Membership) のリストは、Country および CustomerID 項目によって互いに関連付けられています。

QlikView の関連付けと SQL 自然外部結合の比較

QlikView の関連付けと SQL 自然外部結合はよく似ています。ただし、QlikView の関連付けの方がより一般的です。通常、SQL の外部結合は、1つのテーブルから別のテーブルへの一方向の投影です。QlikView の関連付けは、常に完全な (双方向) 自然外部結合です。

関連付け項目のレコード数情報

ほとんどの関連付け項目 (2つ以上のテーブル間に共通する項目) の使用には、いくつかの制限があります。項目が複数のテーブルに存在する場合、QlikView は、データのレコード数の計算に使用するテーブルを特定することは困難です。

QlikView は、データを分析することにより、計算に含めるメイン テーブルを特定するための確実な方法が存在するかどうかを確認しますが (存在する場合もあります)、ほとんどの場合は推測することしかできません。間違った推測は致命的な結果を引き起こす可能性があるため (QlikView が計算ミスをしたように見えます)、関連付け項目のデータ解釈があいまいな場合、プログラムは特定の操作が許可されないように設計されています。

項目関連付けの制限

1. 項目を表示するリスト ボックスで、レコード数情報を表示することはできません。**リスト ボックス プロパティ : 基本設定** ページの **レコード数の表示** オプションは淡色表示されます。
2. 項目の統計ボックスでは、ほとんどの統計エントリに n/a が表示されます。
3. チャートでは、**Distinct** 修飾子をアクティブにしない限り、項目のレコード数情報に基づく関数 (sum、count、average 関数など) を含む数式を作成することはできません。リロードするたびに、QlikView はすべてのチャート式をスキャンして、データ構造が変更された結果としてあいまいさが存在しているかどうかを確認します。あいまいな数式が見つかった場合は、警告ダイアログが表示され、その数式は無効になります。問題が修正されるまで、その数式を有効にすることはできません。ログ ファイルが有効にされている場合は、すべてのあいまいな数式がログにリストされます。

回避方法

これらの制限に対しては、簡単な対処方法があります。レコードの個数が作成されるテーブルから、項目を新しい名前でも分にロードします。次に、レコード数を含むリスト ボックス、統計ボックス、またはチャートの計算で、その新しい項目を使用します。

合成キー

複数の内部テーブル間に複数の項目が共通して含まれている場合は、複合キーの関係が存在することを示します。QlikView は、合成キーを使用してこの関係を処理します。このキーは、複合キーのすべての存在する組み合わせを表す匿名項目です。データ量、テーブル構造、その他の要因により、複合キーの数が増加すると QlikView はそれらの複合キーを効率的に処理できない場合があります。そのため、QlikView が大量の時間とメモリを消費することがあります。残念ながら実際の制限は予測不可能であり、制限を決定するための実用的な方法は、試行錯誤の繰り返し以外にありません。

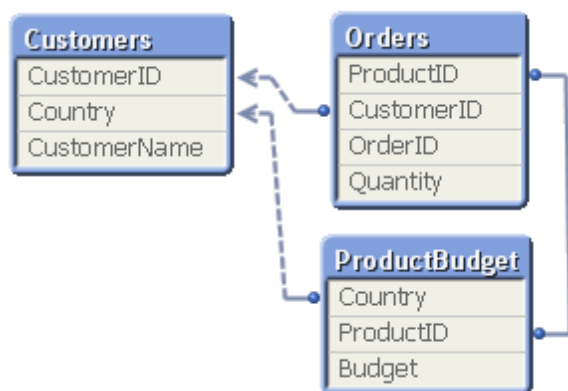
アプリケーションのデザイナーが意図しているテーブル構造を全体的に分析するようお勧めします。この中には以下が含まれます。

- 独自の非複合キーを作成します。通常は、**AutoNumber** スクリプト関数内で文字列連結を使用します。
- 必要な項目だけが連結されていることを確認。たとえば、日付をキーとして使用する場合は、*year*、*month*、または *day_of_month* などを複数の内部テーブルからロードしないでください。

循環参照

データ構造に循環参照 ("ループ") が存在する場合、テーブルは、2 つの項目間に複数の関連付けのパスが存在するように関連付けられます。

通常、このようなデータ構造は、データの解釈にあいまいさが生じるため、できる限り避ける必要があります。



循環参照のある3つのテーブル

QlikView は、疎結合テーブルを使用してループを壊すことにより、循環参照の問題を解決します。QlikView がロードスクリプトの実行中に循環データ構造を見つけると、警告ダイアログが表示され、1つ以上のテーブルが疎結合として設定されます。通常、QlikView は、ループ内の最も長いテーブルを疎結合しようとしています。多くの場合、これはトランザクションテーブルなので、通常はこのテーブルを疎結合します。

疎結合テーブルの自動調整

QlikView のデフォルトの選択とは別のテーブルを疎結合したい場合は、2つの異なる方法で変更できます。

- スクリプトの **loosen table** ステートメントで特定のテーブルを疎結合として宣言します。このステートメントの詳細については、*Loosen Table (321 ページ)* を参照してください。
- スクリプトの実行後、**[ドキュメントプロパティ : テーブル]** を選択し、疎結合テーブルの設定を変更します。循環参照と疎結合テーブルの詳細については、*循環参照 (133 ページ)* を参照してください。

26.6 項目名の変更

スクリプトの項目名の変更は、テーブル間のリンクを構築するだけでなく、時に不可解なデータベースの項目名を、ユーザーにも理解可能な名前にするために、QlikView の全デベロッパーが行うことです。

項目名を変更する理由

項目名を変更する必要がある状況の一部を、下記の例が説明しています。

例 1:

2つの項目は同じことを意味しているにも関わらず、異なる名前が付けられています。

- *Customers* テーブルの項目 *ID*
- *Orders* テーブルの項目 *CustomerID*

2つの項目は特定の顧客 ID コードを示しており、双方に同じ名前 (*CustomerID* など) を付ける必要があります。

例 2:

2つの項目は同じ名前ですが、実際には異なるものを表しています。

- *Invoices* テーブルの項目 *Date*
- *Orders* テーブルの項目 *Date*

この2つの項目は、*InvoiceDate* と *OrderDate* などに名前を変更した方がよいでしょう。

例 3:

データベース内に単純なスペルミスが存在したり、大文字と小文字に関する規則が異なっている可能性があります。QlikView では大文字と小文字が区別されるため、大文字と小文字に関しても修正する必要があります。

異なる方法を使用した項目名の変更

項目名はスクリプト内で変更できるため、元のデータを変更する必要はありません。項目名の変更については、さまざまな方法があります。

As 指定子の使用

as 指定子の使用することにより、*Select (SQL)* (332 ページ) または *Select (SQL)* (page 1) ステートメント内部で、別名を作成する方法が、最も典型的な方法です。

例 :

```
Load ID as CustomerID, Name, Address, Zip, City, State from
Customer.csv;
```

この方法の利点は、他のデベロッパーにも理解しやすいスクリプトを作成できることです。変更する項目名が多い場合は、この方法を使用しない方がいいかもしれません。なぜなら、スクリプトに新しい項目名をすべて手動で入力する必要があるからです。

ヒント!ファイル ウィザードを使用してデータをロードする場合、プレビュー パネルで直接、項目名を変更できます。このウィザードにより、自動的に、**as** 指定子がスクリプトに追加されます。ファイル ウィザード : 種類 (243 ページ) を参照してください。

Alias または Qualify ステートメントの使用

Load (313 ページ) または *Select (SQL)* (332 ページ) ステートメントの前に、*Alias* (277 ページ) または *Qualify* (326 ページ) ステートメントを使用します。この2つのステートメントは似ています。なぜなら、**Load** または **Select** ステートメントの出力で、項目名を「サイレントに」変更するからです。

例 :

```
Alias ID as CustomerID;
Load * from Customer.csv;
```

しかし、**Alias** または **Qualify** ステートメントを使用した結果、オリジナルの項目名を参照する常駐ロードを使用することはできません。その代わりに、**Alias** または **Qualify** ステートメントで定義されている項目名を参照する必要があります。特に、**Alias** または **Qualify** ステートメントが、**Load** ステートメントよりもはるか以前に、スクリプトに書かれていた場合、紛らわしい時があります。**Alias** または **Qualify** ステートメントのせいで、あなたのスクリプトが、他のデベロッパーにはより理解しづらいものとなります。

項目名の変更ステートメントの使用

スクリプト実行の終わりで、全てのまたは一部の項目名を変更したい場合、これは非常によい方法です。最もよい方法は、新旧の項目名でマッピングテーブルを使用することで、下記のようにこの方法を使用します。

例：

```
FieldNameMap;  
Mapping Load OldFieldName, NewFieldName From FieldNames ;  
FieldMap を使用した項目名の変更
```

管理しやすいように、お使いのデータベースまたは Excel シートに、そのマッピングテーブルを保管することができます。

as 指定子の使用と、**項目名の変更** ステートメントの使用を組み合わせる利用するのが、よい解決策かもしれません。**as** 指定子は、データモデルを定義するために使用され、**項目名の変更** ステートメントは、ユーザーにとって扱いやすい項目にするために使用されます。詳細については、*Rename Field* (327 ページ) と *Mapping* (322 ページ) を参照してください。

シートオブジェクトの名前変更

項目名で定義された論理的な関連付けを変更しないで、リストボックスやその他のシートオブジェクトの名前を変更することができます。シートオブジェクトのオブジェクトメニューから、**[プロパティ]** を選択して名前を変更します。

26.7 複数テーブルを 1 つに連結

自動連結

2 つ以上のロードされたテーブルの項目名と項目数が完全に一致する場合、QlikView は、さまざまなステートメントのコンテンツを 1 つのテーブルに自動連結します。

例：

```
load a, b, c from table1.csv;  
load a, c, b from table2.csv;
```

生成される内部テーブルには、項目 a、b、および c が含まれます。レコード数は、テーブル 1 とテーブル 2 のレコード数の合計になります。

規則：

- 項目の数と名前は、完全に同じである必要があります。
- 2 つのステートメントの順序は任意に指定できます。

強制連結

2 つ以上のテーブルにまったく同じ項目のセットが存在しない場合でも、QlikView は 2 つのテーブルを強制的に連結することができます。それには、ロードスクリプトで **concatenate** プレフィックスを使用します。このプレフィックスは、テーブルを別の名前前のテーブルまたは最後に作成されたテーブルに連結します。

例：

```
load a, b, c from table1.csv;
concatenate load a, c from table2.csv;
```

生成される内部テーブルには、項目 a、b、および c が含まれます。生成されるテーブルのレコード数は、テーブル 1 とテーブル 2 のレコード数の合計です。テーブル 2 から挿入されるレコードの項目 b の値は、NULL になります。

規則：

- 項目の名前は、完全に同じである必要があります。
- **concatenate** ステートメントで、先にロードされたテーブルの名前が指定されていない限り、**concatenate** プレフィックスは最後に作成された内部テーブルを使用します。2 つのステートメントの順序は任意に指定することはできません。

連結の防止

2 つ以上のロードされたテーブルの項目名と項目数が完全に一致する場合、QlikView は、さまざまなステートメントのコンテンツを 1 つのテーブルに自動連結します。**nonconcatenate** ステートメントを使用するとこれを防止することができます。そのため **load** または **select** ステートメントでロードされたテーブルは、既存のテーブルに連結されません。

例：

```
load a, b, c from table1.csv;
nonconcatenate load a, b, c from table2.csv
```

26.8 Join と Keep

スクリプトでテーブルを結合することができます。その場合、QlikView ロジックは、個々のテーブルではなく、結合の結果である 1 つの内部テーブルを扱うようになります。これが必要な場合もありますが、欠点があります。

- ロードされたテーブルのサイズが大きくなり、QlikView の動作が遅くなることがあります。
- 元のテーブル内のレコード数を取得できなくなり、情報の一部が失われる可能性があります。

keep 機能は、QlikView にテーブルが格納される前に、2 つのテーブルの 1 つまたは両方をテーブルデータの共通部分に縮小する効果があり、明示的な結合の使用回数を減らす目的で設計されています。

注意！

このマニュアルでは、結合という用語は、内部テーブルが作成される前に行われる結合という意味で使用します。ただし、実質的には、内部テーブルが作成された後で行われる関連付けも結合に含まれます。

SQL の Select ステートメント内での結合

いくつかの ODBC ドライバを使用して、**select** ステートメント内で結合を作成することができます。これは、**join** プレフィックスを使用して結合を作成することと、ほぼ同じです。

ただし、ほとんどの ODBC ドライバは、完全な (双方向) 外部結合を作成できません。これらのドライバで作成できるのは、左または右外部結合だけです。左 (右) 外部結合には、左 (右) テーブルに結合

キーが存在する組み合わせだけが含まれます。完全な外部結合には、すべての組み合わせが含まれます。QlikView は、自動的に完全な外部結合を作成します。

また、**select** ステートメントで結合を作成することは、QlikView で結合を作成することよりもかなり複雑です。

例：

```
SELECT DISTINCTROW
  [Order Details].ProductID, [Order Details].
  UnitPrice, Orders.OrderID, Orders.OrderDate, Orders.CustomerID
FROM Orders
RIGHT JOIN [Order Details] ON Orders.OrderID = [Order
  Details].OrderID;
```

この **select** ステートメントは、架空の会社への注文 (Orders) を含むテーブルを注文詳細 (Order Details) を含むテーブルに結合します。これは、右外部結合です。つまり、OrderDetails のすべてのレコードが含まれ、Orders テーブルには存在しない OrderID を持つレコードも含まれます。ただし、Orders に存在しても、OrderDetails に存在しない注文は含まれません。

Join

結合を作成する最も簡単な方法は、スクリプトで join プレフィックスを使用することです。これは、内部テーブルを別の名前のテーブルまたは最後に作成されたテーブルに結合します。この結合は、外部結合になり、2つのテーブルからのすべての可能な値の組み合わせを作成します。

例：

```
load a, b, c from table1.csv;
join load a, d from table2.csv;
```

生成される内部テーブルには、項目 a、b、c、および d が含まれます。レコード数は、2つのテーブルの項目値によって異なります。

規則：

- ジョインされる項目の名前は、完全に同じである必要があります。
- ジョインされる項目数は任意です。通常、テーブルには1つまたはいくつかの共通する項目があります。項目が何も共通しない場合、テーブルのデカルト積は生成されません。すべての項目が共通することも考えられますが、通常これは意味がありません。
- **join** ステートメントで、先にロードされたテーブルの名前が指定されていない限り、**join** プレフィックスは最後に作成されたテーブルを使用します。2つのステートメントの順序は任意に指定することはできません。

Keep

QlikView スクリプト言語における明示的な **join** プレフィックスは、2つのテーブルの完全な結合を実行します。結果として、1つのテーブルが生成されます。多くの場合、このような結合からは、かなり大きなテーブルが作成されます。QlikView の主な機能の1つは、テーブルを結合する代わりにテーブル間に関連付けを作成できることです。これにより、メモリの使用量が削減され、速度が向上し、柔軟性が大幅に高まります。keep の機能は、明示的な結合の使用回数を減らす目的で設計されています。

2つの **load** または **select** ステートメントの間の **keep** プレフィックスは、2つのテーブルの片方または両方が QlikView に保存される前に、それらのテーブルを共通するテーブルデータに基づいて縮小します。**keep** プレフィックスの前には、キーワード **inner**、**left**、または **right** のいずれかを置く必要があります。テーブルからのレコードの選択は、対応する join と同じ方法で行われます。ただし、2つのテーブルは結合されず、別の名前のテーブルとして QlikView に保存されます。

Inner

QlikView スクリプト言語内の **join** および **keep** プレフィックスの前に、プレフィックス **inner** を置くことができます。

join の前に使用すると、2つのテーブル間の結合が内部結合であることを指定します。結果のテーブルには、両方のテーブルのすべてのデータセットの中で2つのテーブル間で連結するもののみが格納されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に2つのテーブルは、共通部分に縮小されます。

例：

Table1		Table2	
A	B	A	C
1	aa	1	xx
2	cc		
3	ee	4	yy

```
QVTable:
Select * from Table1;
inner join select * from Table2;
```

QVTable		
A	B	C
1	aa	xx

```
QVTab1:
Select * from Table1;
QVTab2:
inner keep select * from Table2;
```

QVTab1		QVTab2	
A	B	A	C
1	aa	1	xx

keep の例の 2 つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

Left

QlikView スクリプト言語内の **join** および **keep** プレフィックスの前に、**left** プレフィックス を置くことができます。

join の前に使用すると、2 つのテーブル間の結合が左結合であることを指定します。結果のテーブルには、1 つ目のテーブルのすべてのデータと 2 つのテーブルが連結するもののみが格納されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に 2 つ目のテーブルは、1 つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

例：

Table1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

Table2

A	C
1	xx
4	yy

QVTable:

```
Select * from Table1;
left join select * from Table2;
```

QVTable

A	B	C
1	aa	xx
2	cc	—
3	ee	—

QVTab1:

```
Select * from Table1;
```

QVTab2:

```
left keep select * from Table2;
```

QVTab1

A	B
1	aa
2	cc
3	ee

QVTab2

A	C
1	xx

keep の例の 2 つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

Right

QlikView スクリプト言語内の **join** および **keep** プレフィックスの前に、**right** プレフィックスを置くことができます。

join の前に使用すると、2つのテーブル間の結合が右結合であることを指定します。結果のテーブルには、2つ目のテーブルのすべてのデータと2つのテーブルが連結するもののみが格納されます。

keep の前に使用すると、QlikView に保存される前に1つ目のテーブルは、2つ目のテーブルとの共通部分に縮小されます。

例：

Table1		Table2	
A	B	A	C
1	aa	1	xx
2	cc	4	yy
3	ee		

```
QVTable:
Select * from Table1;
right join select * from Table2;
```

QVTable

A	B	C
1	aa	xx
4	—	yy

```
QVTab1:
Select * from Table1;
QVTab2:
right keep select * from Table2;
```

QVTab1		QVTab2	
A	B	A	C
1	aa	1	xx
		4	yy

keep の例の2つのテーブルは、項目 A を介して関連付けられます。

27 ロードされたデータの評価

27.1 汎用データベース

汎用データベースは、項目名が項目値として1列に、項目値が2番目の列に保存されるテーブルです。通常、汎用データベースは、さまざまなオブジェクトの属性に対して使用されます。

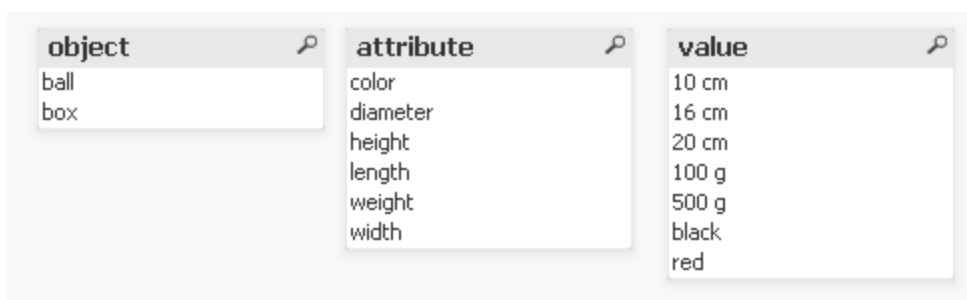
次の例を見てください。これは、ballとboxの2つのオブジェクトを含む汎用データベースです。color、およびweight属性は両方のオブジェクトに共通していますが、diameter、height、length、およびwidth属性は共通ではありません。

オブジェクト	属性	値
ball	color	red
ball	diameter	10 cm
ball	weight	100 g
box	color	black
box	height	16 cm
box	length	20 cm
box	weight	500 g
box	width	10 cm

属性の多くは特定のオブジェクトに関連していないため、それぞれの属性が固有の列を持つような方法でデータを保存することは不適切であると考えられます。

一方、length、color、およびweight属性を混在させて表示すると、混乱を招く可能性があります。

このデータベースが標準の方法でQlikViewにロードされた場合は、画面に3種類のリストボックスが表示されます。



ただし、このテーブルが汎用データベースとしてロードされた場合、2列目と3列目は別のリストボックスとして分割されます。次に、2列目の一意の値1つに対して1つの項目が生成されます。

object ball box	color black red	weight 100 g 500 g	length 20 cm
diameter 10 cm	width 10 cm	height 16 cm	

この場合は、次のような単純な構文が使用されます。

例：

```
Generic select * from GenericTable;
```

汎用データベースのロードで、**load** ステートメントを使用するか **select** ステートメントを使用するかは問題ではありません。

27.2 クロス テーブル

クロス テーブルは、ヘッダー データが直交する 2 つのリストに値のマトリックスを持つ一般的なテーブルの種類です。次のようなテーブルになります。

例 1:

ex1.xlsx

Year(年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2008	45	65	78	12	78	22
2009	11	23	22	22	45	85
2010	65	56	22	79	12	56
2011	45	24	32	78	55	15
2012	45	56	35	78	68	82

このテーブルを QlikView にそのままロードすると、年 (Year) の 1 つの項目と、それぞれの月ごとに 1 つの項目が生成されます。ただし、通常はこのようなテーブルが必要になることはありません。たとえば、各ヘッダー カテゴリ (年 (Year) および月 (Month)) に対して 1 つの項目、およびマトリックス内のデータ値用に 1 つの項目を生成し、合計 3 つの項目を生成することが考えられます。

この場合は、**load** または **select** ステートメントに **crosstable** プレフィックスを追加します。

このクロス テーブルをロードするためのステートメントは、次のようになります。

```
crosstable (Month, Sales) load * from ex1.xlsx ;
```

QlikView では、次のように表示されます。

Year	Month	Sales
2008	Jan	11
2009	Feb	12
2010	Mar	15
2011	Apr	22
2012	May	23
	Jun	24
		32
		35
		45
		55
		56
		65
		68
		78
		79
		82
		85

クロステーブルでは、いくつか行見出しとなる列を表示することがあります。これらの列は、直接的な方法で読み取ります。例 2 は、このようなテーブルの例です。

例 2:

ex2.xlsx

販売員	Year(年)	1月	2月	3月	4月	5月	6月
A	2008	45	65	78	12	78	22
A	2009	11	23	22	22	45	85
A	2010	65	56	22	79	12	56
A	2011	45	24	32	78	55	15
A	2012	45	56	35	78	68	82
B	2008	57	77	90	24	90	34
B	2009	23	35	34	34	57	97
B	2010	77	68	34	91	24	68
B	2011	57	36	44	90	67	27
B	2012	57	68	47	90	80	94

この場合は、左側に2つの行見出し列があり、その後にマトリックス列が続きます。行見出し列の数は、次のように、**crosstable** プレフィックスの3番目のパラメータとして指定できます。

```
crosstable (Month, Sales, 2) load * from ex2.xlsx ;
```

QlikView では、次のように表示されます。

The screenshot shows a QlikView dashboard with a Crosstable table. The table has four columns: Salesman, Year, Month, and Sales. The Salesman column has two rows labeled A and B. The Year column has five rows labeled 2008, 2009, 2010, 2011, and 2012. The Month column has five rows labeled Apr, Feb, Jan, Jun, and Mar. The Sales column has 15 rows labeled 11, 12, 15, 22, 23, 24, 27, 32, 34, 35, 36, 44, 45, 47, 55, 56, 57, and 65. The table is displayed in a grid layout with search icons next to the column headers.

構文の説明については、*Crosstable* (285 ページ) を参照してください。

27.3 不連続データと間隔の一致

load または select ステートメントで *intervalmatch* プレフィックスを使用すると、不連続の数値が 1 つ以上の数値間隔にリンクされます。これはとても強力な機能であり、次の例のような実稼働環境などで使用できます。

例：

次の 2 つのテーブルを見てください。最初のテーブルは、さまざまな注文 (Order) の製造の開始 (Start) と終了 (End) を示します。2 つ目のテーブルは、いくつかの個々のイベントを示します。どの注文がイベントに影響されたか、どの注文がどのシフトで処理されたかを知るためには、どのように個々のイベントを注文に関連付ければよいでしょうか。

Table OrderLog

Start	End	Order
01:00	03:35	A
02:30	07:58	B
03:04	10:27	C
07:23	11:43	D

Table EventLog

Time	Event	Comment
00:00	0	Start of shift 1
01:18	1	Line stop
02:23	2	Line restart 50%
04:15	3	Line speed 100%
08:00	4	Start of shift 2
11:43	5	End of production

最初に、通常どおりに2つのテーブルをロードします。次に、Time 項目を *Start* 項目と *End* 項目で定義される間隔にリンクします。

```
Select * from OrderLog;
Select * from EventLog;
Intervalmatch (Time) select Start,End from OrderLog;
```

QlikView では、次のようなテーブルボックスが作成されます。

Time	Event	Comment	Order	Start	End
0:00	0	Start of shift 1	-	-	-
1:18	1	Line stop	A	1:00	3:35
2:23	2	Line restart 50%	A	1:00	3:35
4:15	3	Line speed 100%	B	2:30	7:58
4:15	3	Line speed 100%	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	C	3:04	10:27
8:00	4	Start of shift 2	D	7:23	11:43
11:43	5	End of production	D	7:23	11:43

主に注文 A がラインストップ (Line stop) の影響を受けた一方で、ラインスピード (Line speed) の減少は注文 B および C にも影響を与えたことが容易に理解できます。注文 C および D だけは、一部がシフト 2 で処理されました。

intervalmatch を使用する場合は、次の点に注意してください。

- **intervalmatch** ステートメントの前に、不連続データ点を含む項目 (上の例の Time) が QlikView に読み取られている必要があります。**intervalmatch** ステートメントは、データベーステーブルからこの項目を読み取りません。
- **intervalmatch load** または **select** ステートメントで読み取られたテーブルは、厳密に2つの項目 (上記の例では、Start と End) を含む必要があります。他の項目へのリンクを確立するためには、間隔項目と共に、個別の **load** または **select** ステートメント (上記の例では最初の select ステートメント) で他の項目を読み取る必要があります。
- 間隔は常に閉じているので、終端は間隔に含まれます。NULL の範囲は間隔を無限に拡張しますが、数値以外の範囲は間隔を無視します。
- 間隔は重複することができ、不連続値は、すべての一致する間隔にリンクされます。

27.4 SCD (穏やかに変化する軸) の問題を拡張された IntervalMatch 構文を使用して解決

拡張された **intervalmatch** 構文を使用して、ソースデータ内で SCD (穏やかに変化する軸) の既知の問題を処理できます。

サンプルスクリプト:

```

SET NullInterpret='';
IntervalTable:
Load Key, ValidFrom, Team from IntervalTable.xls;
NullAsValue FirstDate,LastDate;
Key:
Load
Key,
ValidFrom as FirstDate,
date(if(Key=previous(Key),
previous(ValidFrom) - 1)) as LastDate,
Team
resident IntervalTable order by Key, ValidFrom desc;
drop table IntervalTable;
Transact:
Load Key, Name, Date, Sales from Transact.xls;
inner join intervalmatch (Date,Key) load FirstDate, LastDate, Key
resident Key;

```

上記の例に関するコメント:

次のステートメント

```
SET NullInterpret='';
```

は、テーブルファイルからデータを読み取る際にのみ必要になります。欠損値は null 値ではなく、空の文字列として定義されるからです。

IntervalTable からデータをロードすると、次のテーブルが生成されます。

Key	FirstDate	Team
000110	2011-01-21	Southwest
000120	2013-01-06	Southwest
000120	2013-03-05	Northwest
000120	2013-03-05	Southwest
000110	-	Northwest
000120	-	Northwest

nullasvalue ステートメントでは、リストされている項目に null 値をマップできます。

previous および **order by** を使用して *Key*、*FirstDate*、*LastDate* (属性項目) を作成し、その後、このキーテーブルで置き換えた IntervalTable をドロップします。

Transact からデータをロードすると、次のテーブルが生成されます。

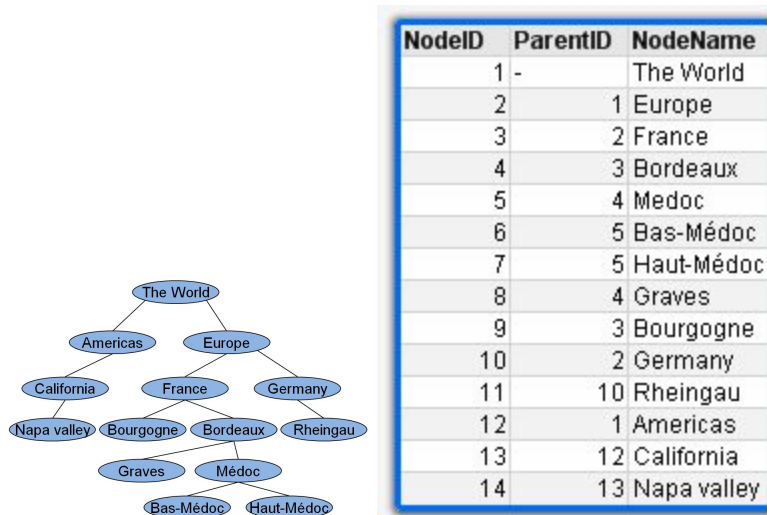
Key	Name	Date	Sales
000110	Spengler Aaron	2009-08-18	100
000110	Spengler Aaron	2009-12-25	200
000110	Spengler Aaron	2011-02-03	300
000110	Spengler Aaron	2011-05-05	400
000120	Ballard John	2011-06-04	500
000120	Ballard John	2013-01-20	600
000120	Ballard John	2013-03-10	700
000120	Ballard John	2013-03-13	800
000120	Ballard John	2013-09-21	900

inner join に続く **intervalmatch** ステートメントは、Transact テーブルに接続する合成キーを使用して、上のキーを置き換えます。次のテーブルが生成されます。

Key	Team	Name	FirstDate	LastDate	TransactDate	Sales
000110	Northwest	Spengler Aaron	-	2011-01-20	2009-08-18	100
000110	Northwest	Spengler Aaron	-	2011-01-20	2009-12-25	200
000110	Southwest	Spengler Aaron	2011-01-21	-	2011-02-03	300
000110	Southwest	Spengler Aaron	2011-01-21	-	2011-05-05	400
000120	Northwest	Ballard John	-	2013-01-05	2011-06-04	500
000120	Southwest	Ballard John	2013-01-06	2013-03-04	2013-01-20	600
000120	Northwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-03-10	700
000120	Northwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-03-13	800
000120	Northwest	Ballard John	2013-03-05	-	2013-09-21	900

27.5 階層構造

不平衡の n - レベル階層は、例えば地理的もしくは組織的次元をデータで表すのによく使用されます。これらの種類の階層は、通常隣接するノードテーブルに記録されます。つまりテーブルでは、それぞれのレコードはノードと一致し、親ノードへのリファレンスを含む項目を持っています。



このようなテーブルでノードは1つのレコードにのみ記録されますが、子供をいくつでも持つことができます。テーブルには、もちろんノードの属性を記述する追加項目が含まれるかもしれません。パフ

オーマンスと構造上の理由から、階層全体をリンクする単一のトップノードを使用するようお勧めします(この例では「The World」)。

隣接するノードテーブルは、メンテナンスには最適ですが、毎日の仕事で使用するのは困難です。代わりに、クエリと分析では他の表現が使用されます。展開されたノードテーブルは一般的な表示の1つで、階層のそれぞれのレベルは別個の項目に記録されます。展開されたノードテーブルのレベルは、ピボットテーブルやツリー構造で簡単に使えます。**hierarchy** キーワードは、QlikView スクリプトで隣接するノードテーブルから展開ノードテーブルへの変換に使用されます。詳細に関しては *Hierarchy* (300 ページ) を参照してください。

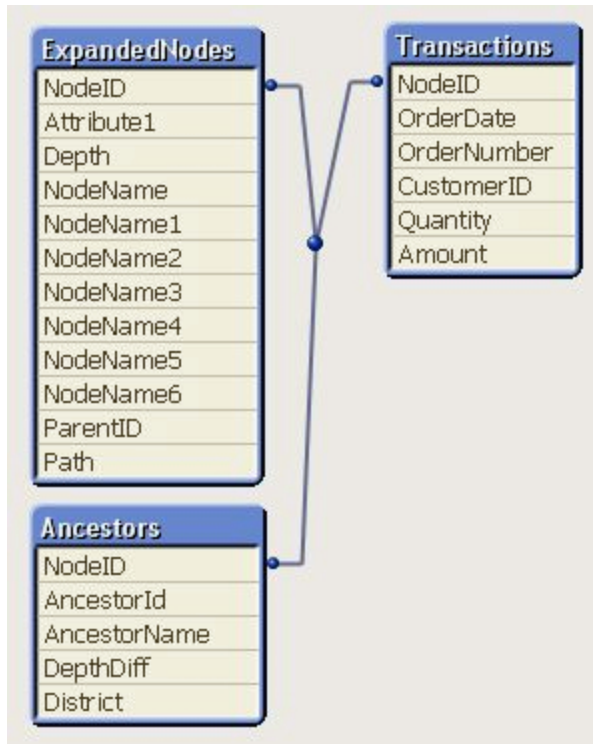
NodeID	ParentID	NodeName	Level0	Level1	Level2	Level3	Level4	Level5
1	-	The World	The World	-	-	-	-	-
2	1	Europe	The World	Europe	-	-	-	-
3	2	France	The World	Europe	France	-	-	-
4	3	Bordeaux	The World	Europe	France	Bordeaux	-	-
5	4	Medoc	The World	Europe	France	Bordeaux	Medoc	-
6	5	Bas-Médoc	The World	Europe	France	Bordeaux	Medoc	Bas-Médoc
7	5	Haut-Médoc	The World	Europe	France	Bordeaux	Medoc	Haut-Médoc
8	4	Graves	The World	Europe	France	Bordeaux	Graves	-
9	3	Bourgogne	The World	Europe	France	Bourgogne	-	-
10	2	Germany	The World	Europe	Germany	-	-	-
11	10	Rheingau	The World	Europe	Germany	Rheingau	-	-
12	1	Americas	The World	Americas	-	-	-	-
13	12	California	The World	Americas	California	-	-	-
14	13	Napa valley	The World	Americas	California	Napa valley	-	-

展開ノードテーブルの問題は、どのレベルで検索/選択するかといった既知の知識を必要とするため、検索や選択にレベル項目を簡単に使用できないことです。先祖テーブルは、この問題を解決する別の表現です。この表現はブリッジテーブルとも呼ばれます。

NodeID	NodeName	AncestorID	AncestorName
1	The World	1	The World
2	Europe	1	The World
2	Europe	2	Europe
3	France	1	The World
3	France	2	Europe
3	France	3	France
4	Bordeaux	1	The World
4	Bordeaux	2	Europe
4	Bordeaux	3	France
4	Bordeaux	4	Bordeaux
5	Medoc	1	The World
5	Medoc	2	Europe
5	Medoc	3	France
5	Medoc	4	Bordeaux

先祖テーブルには、データで見つかった子供と先祖の関係をすべて記録する1つのレコードがあります。子供と先祖のキーと名前を含みます。つまり、すべてのレコードは特定のノードがどのノードに属するかを示します。**hierarchybelongsto** キーワードは、QlikView スクリプトで隣接するノードテーブルから先祖テーブルへの変換に使用されます。詳細に関しては *階層パラメータ* (266 ページ) を参照してください。

階層の QlikView ソリューションには展開ノードテーブルと先祖テーブルの両方が必要です。前者はピボットテーブルの作成と一般にノードの説明に必要で、後者はツリー全体の選択を可能にします。両者は **NodeID** などのノードキーでリンクします。また、トランザクションテーブルにもリンクします。



27.6 セマンティックリンク

通常は、目的の項目値をクリックすることで、明示的に選択を行います。一方、セマンティックリンクを使用して、間接的に選択を行う方法もあります。セマンティックリンクは、項目値に似ていますが、オブジェクト自体ではなく、オブジェクト間の関係を記述する点が異なります。セマンティックリンクは、ボタンのリストとして表示されます。

セマンティックリンクをクリックすると、他の項目で選択が行われます。

セマンティックテーブルの規則

セマンティックリンクは、オブジェクト間のリレーションを含むテーブルをロードすることで作成されます。

- このテーブルは、厳密に 3 つまたは 4 つの列を含む必要があります。
- セマンティックテーブルには、異なる項目の項目値間のリレーション、または同じ項目の項目値間のリレーションのいずれかが含まれる必要があります。この 2 つを混在させることはできません。
- セマンティックテーブルをロードする **load** または **select** ステートメントは、その前に **semantic** 修飾子を使用して、論理テーブルでないことを示す必要があります。

通常は、4 つの列が使用されます。1 列目には、他の項目値へのリレーションを持つ項目値が含まれ、3 列目には、関連付けられた項目値が含まれます。2 列目には、リレーションの名前が含まれる必要があります。4 列目には、逆リレーションの名前が含まれる必要があります。

3つの列を使用する場合は、逆リレーションの明示的な名前は指定できません。2列目に提供された名前がリレーションと逆リレーションの両方で使用されます。この名前の前または後に矢印が付けられません。

Relation
<- Next
Next ->

同じ項目内の項目値間にリレーションが存在する場合、1列目と3列目は同じ名前にする必要があります。また、2列目と4列目の名前 (リレーションのタイプ) も同じにする必要があります。ただし、リレーションが異なる項目の項目値間のものである場合は、すべての列は相互に異なる名前である必要があります。

例: データからのセマンティック テーブルの抽出

セマンティックテーブルは、必ずしも QlikView の外部のテーブルとして存在する必要はありません。個別の **load** ステートメントを使用して、オブジェクトの既存のテーブルからこのテーブルを抽出する方が柔軟性は高くなります。

Relation
Predecessor
Successor

QlikView のサンプルディレクトリに含まれる *presidents* の例では、前任者 (*Predecessor*) および後任者 (*Successor*) リンクを生成するためのスクリプトは次のようになります。

```
Directory presidents;
Load * from presdnts.csv (ansi, txt, delimiter
is ',', embedded labels);
Semantic Load
No -1 as No,
'Successor' as Relation,
No,
'Predecessor' as Relation
from presdnts.csv (ansi, txt, delimiter is ',',
embedded labels) where No > 1;
```

2つ目の **load** ステートメントは、右の図のようなテーブルを生成します。このテーブルはセマンティックテーブルとしてロードされます。最初のレコードでは、存在しない0番目の社長に最初の社長がリンクされるため、**where** 句を使用して最初のレコードを取り除きます。

Semantic table			
No	Relation	No	Relation
1	Successor	2	Predecessor
2	Successor	3	Predecessor
3	Successor	4	Predecessor
4	Successor	5	Predecessor
5	Successor	6	Predecessor
6	Successor	7	Predecessor
7	Successor	8	Predecessor
8	Successor	9	Predecessor
9	Successor	10	Predecessor
10	Successor	11	Predecessor

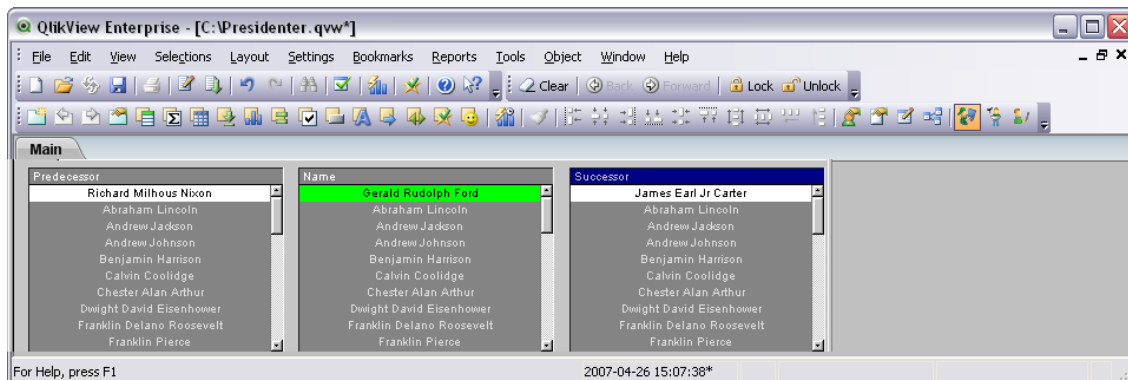
この **load** ステートメントには、No というラベルの 2 つの項目と Relation というラベルの 2 つの項目が含まれることにも注目してください。このような **load** ステートメントを使用して内部テーブルをロードすると、スクリプト実行エラーが発生します。1 つの内部テーブルのロード手順では、同じ名前の項目が存在していないことが要求されるためです。同様に、このような **select** ステートメントも、ほとんどの ODBC ドライバの要件に合わせるため、使用できません。代わりに、presidents テーブルがデータベース内に存在する場合は、次の構造を使用してください。

```
Connect to DataBase;
Select * from presdnts;
Alias No2 as No, Relation2 as Relation;
Semantic Select
No -1 as No,
'Successor' as Relation,
No as No2,
'Predecessor' as Relation2
from presdnts where No > 1;
```

presidents の例は、セマンティックリンクを使用するための 1 つの単純な例です。これらのセマンティックリンクは、家系図でも使用できます。この場合、セマンティックリンクは、いとこ (cousin)、兄弟姉妹 (sibling)、祖母 (grandmother) などになります。会社における社員の場合、セマンティックリンクは、上役 (*superior*)、直属の上司 (*reports to*)、秘書 (*secretary*) などになります。

例: 関連する値をリレーション名として使用する

関連する項目値をリレーションの名前として使用すると、よりわかりやすくなる場合があります。社長 (presidents) の例では、すべての前任者 (predecessor) を 1 つの列に含め、すべての後任者 (successor) を別の列に含めることができます。



これらのリンクを作成するには次のロードスクリプトが必要です。

```
Load
No as DuplicateOfNo,
FirstName & ' ' & LastName as Name,
*
from presdnts.csv;
Semantic Load
No -1 as No,
```

```
FirstName & ' ' & LastName as Successor,  
No as DuplicateOfNo,  
'Dummy1'  
from presdnts.csv where No > 1;  
Semantic Load  
No +1 as No,  
FirstName & ' ' & LastName as Predecessor,  
No as DuplicateOfNo,  
'Dummy2'  
from presdnts.csv;
```

セマンティックリンクをクリックすると、3列目の項目 *DuplicateOfNo* が選択されます。これは常に、セマンティックテーブルでセマンティックリンクに表示される社長の数です。

最初は明確に認識することができない可能性があります。上記のコンストラクション内の逆リレーションはほとんど役にたちません。これらは社長の名前を表示し、クリックされると、表示されている社長の前任者/後継者が選択されます。これが *Dummy1* および *Dummy2* と呼ばれている理由であり、最初のリレーション (2列目) だけが使用されます。

リストボックスにダミー リレーションが表示されるのを避けるために、2列目と4列目を異なるタイプのリレーションとして処理する必要があります。つまり、1列目と3列目を異なる項目名にする必要があります。そのために、社長の数を含む *No* と *DuplicateOfNo* の2つの列を使用しています。

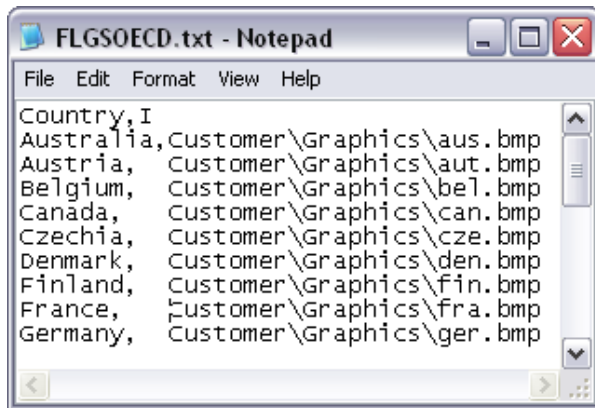
リレーションを含む2つの異なるリストボックスが必要なので、2つの異なる **semantic** ステートメントが必要です。

この例は、3列のセマンティックテーブルでも実行できますが、ほとんどの場合、逆リレーションを含むリストボックスは、ユーザーを混乱させる可能性があります。

27.7 項目値への情報のリンク

テキストファイル、イメージ、または外部アプリケーションファイルの形式の情報を QlikView ドキュメントのデータに関連付けることができます。この機能を使用するには、どの情報ファイルをどの項目値にリンクするかを記述するテーブルを作成し、そのテーブルを情報テーブルとして使用することを QlikView に伝える必要があります。次に、この手順について説明します。


情報テーブルには2つの列が必要です。最初の列は、項目名が付けられ、その項目に属する値のリストが含まれます。2列目は、任意の名前が付けられ、情報 (テキストの場合) または情報を含むファイル (イメージ、アプリケーション) への参照が含まれます。次の図を参照してください。



特定の項目値にリンクされたファイルを定義する情報テーブル

このテーブルを情報テーブルとしてロードするためのステートメントは、次のとおりです。

```
Info Load Country, I from Flagsoecd.csv (ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
```

情報にリンクされているリストボックスまたはマルチボックス項目が選択されると、項目名の横に情報アイコン  が表示されます。このアイコンは、その情報にアクセスできることを示します。このアイコンをクリックすると、情報が表示されたり、アプリケーションファイルがロードされます。**[リストボックスプロパティ]** ダイアログの **[レイアウト]** ページで、情報アイコンをオフにすることができます。

2列目にテキストが入力されると、そのテキストが内部テキストビューアーに表示されます。

このテキスト内では、新しい行を示すために改行を使用することはできません。代わりに、情報ファイル内ではシンボル "%n" を使用します。

- 2列目に画像ファイル (bmp 拡張子) の名前を入力すると、そのイメージが内部イメージビューアーに表示されます。
- 2列目にサウンドファイル (wav 拡張子) を入力すると、そのサウンドが再生されます。
- 2列目に実行可能ファイルの名前を入力すると、そのファイルが実行されます。
- 2列目にその他のファイルの名前を入力すると、そのファイルに関連付けられているプログラムでファイルが開かれます。
- 2列目に URL (インターネットアドレスなど) を入力すると、登録されているインターネットブラウザを使用してそのアドレスがアクセスされます。

情報 (info) ファイルには、スターマークを含めることはできません。ただし、**OtherSymbol** (*OtherSymbol* (488 ページ) を参照) として定義されているシンボルは使用できます。

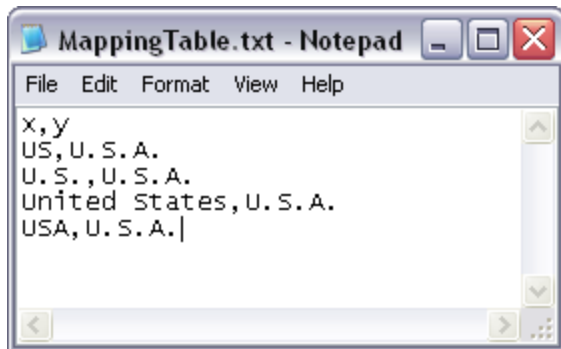
bundle info load を使用すると、外部データを QlikView ドキュメントにバンドルできます。詳細については *Bundle* (279 ページ) を参照してください。

27.8 データ クレンジング

さまざまなテーブルからデータをロードする場合は、同じ情報を示す項目値に必ずしも一貫して名前が付けられているとは限らないことに注意してください。この一貫性の欠如は手間がかかるだけでなく、関連付けの妨げにもなるため、この問題を解決する必要があります。これは、項目値を比較するためのマッピングテーブルを作成して、洗練された方法で解決できます。

マッピング テーブル

mapping load または **mapping select** からロードされたテーブルは、他のテーブルとは異なる方法で処理されます。メモリの別の領域に保存され、スクリプトの実行中にマッピングテーブルとしてのみ使用されます。スクリプトの実行後は、自動的に削除されます。



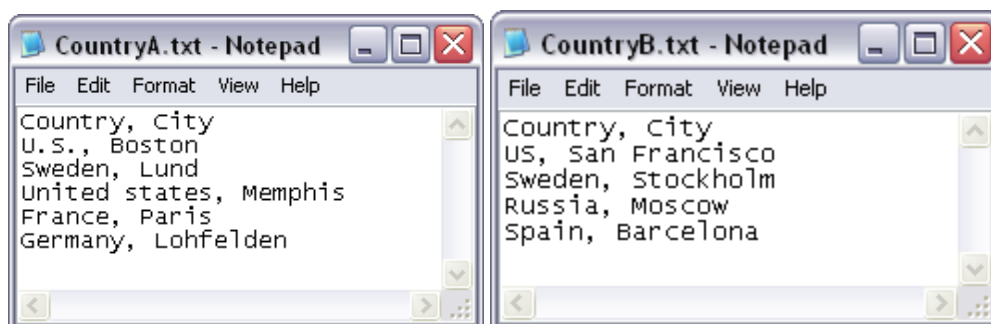
マッピング テーブルの例

規則:

- マッピング テーブルは、2列で構成される必要があります。1列目は比較の値、2列目はマッピング値です。
- 2つの列に名前を付ける必要がありますが、名前には関連性はありません。列の名前と通常の内蔵テーブルの項目名との関係はありません。

マッピング テーブルの使用

国をリストする複数のテーブルをロードすると、1つの国の名前が複数の異なる名前で表示されることがあります。この例では、「U.S.A.」が「US」、「U.S.」、「United States」としてリストされています。



連結されたテーブル内で、United States を示す3つの異なるレコードが存在しないようにするために、表示されたものに似たテーブルを作成し、それをマッピング テーブルとしてロードできます。

スクリプト全体は、次のようになります。

```
CountryMap:
Mapping Load x,y from MappingTable.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded
labels);
```

```
Map Country using CountryMap;
Load Country, City from CountryA.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
Load Country, City from CountryB.txt
(ansi, txt, delimiter is ',', embedded labels);
```

mapping ステートメント (この構文の詳細については、*Mapping* (322 ページ) を参照) は、ファイル *MappingTable.txt* を *CountryMap* ラベルのマッピングテーブルとしてロードします。

map ステートメント (この構文の詳細については、*Map ... using* (323 ページ) を参照) は、以前にロードされたマッピングテーブル *CountryMap* を使用して、項目 *Country* のマッピングを有効にします。

load ステートメントは、テーブル *CountryA* および *CountryB* をロードします。これらのテーブルは同じ項目のセットを含むため、連結され (複数テーブルを 1 つに連結 (466 ページ) を参照)、どちらも項目 *Country* を含みます。この項目値がマッピングテーブルの 1 列目の項目値と比較されます。項目値 *U.S.*、*United States*、および *US* が検出され、マッピングテーブルの 2 列目の値 (*USA*) に置き換えられます。

自動マッピングは、項目が QlikView テーブルに保存される一連のイベントの最後に実行されます。典型的な **load** または **select** ステートメントでは、イベントの順序はおおよそ次のようになります。

1. 数式の評価
2. as による項目の名前変更
3. alias による項目の名前変更
4. テーブル名の修飾 (適用できる場合)
5. 項目名が一致する場合はデータのマッピング

つまり、マッピングは数式の部分で項目名が出現するたびに行われるのではなく、QlikView テーブルの項目名に値が保存されるときに実行されます。

マッピングを無効にするには、**unmap** ステートメント (*Unmap* (343 ページ) を参照) を使用します。

数式レベルのマッピングの場合は、**applymap** 関数 (マップ関数 (410 ページ) を参照) を使用します。

サブストリングレベルのマッピングの場合は、**mapsubstring** 関数 (マップ関数 (410 ページ) を参照) を使用します。

27.9 データ内のワイルドカード

データ内でワイルドカードを使用することもできます。ワイルドカードは 2 種類あります。この項目のすべての値として解釈されるスター マークと、この項目の残りのすべての値として解釈されるオプションのシンボルです。

スター マーク

スター マークは、この項目内のすべての値 (リストされている値)、つまりこのテーブル内の任意の場所にリストされている値として解釈されます。ロード スクリプトのアクセス セクションでロードされたテーブルのシステム項目 (*USERID*、*PASSWORD*、*NTNAME*、または *SERIAL*) の 1 つで使用される場合は、この項目のすべての絞込値 (リストされていない値も含む) として解釈されます。

スター マークは、情報ファイルでは使用できません。また、キー項目 (テーブルを結合するために使用される項目) でも使用できません。

明示的に指定しない限り、スター マークは使用されません。ロード スクリプトで **star** ステートメントを作成する方法については、*Star* (338 ページ) を参照してください。

OtherSymbol

テーブル内のその他のすべての値、つまりロードされたテーブルで明示的に検出されなかったすべての値を表す方法が必要になることがよくあります。これは、**OtherSymbol** と呼ばれる特別な変数を使用して表します。"その他のすべての値" として処理される **OtherSymbol** を定義するには、load/select ステートメントの前に次の構文を使用します。

```
SET OTHERSYMBOL=<sym>;
```

load/select ステートメントの前。<sym> には任意の文字列を指定できます。

定義されたシンボルが内部テーブル内に出現すると、QlikView は、値が検出された項目にそれまでロードされていないすべての値として、そのシンボルを定義します。OtherSymbol の出現後に項目で検出された値は無視されます。

この機能をリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET OTHERSYMBOL=;
```

例 :

Table Customers

CustomerID 名前

1	ABC Inc.
2	XYZ Inc.
3	ACME INC
+	未定義

Table Orders

CustomerID 名前

1	1234
3	1243
5	1248
7	1299

スクリプト内で、上記の最初のテーブルがロードされる前の場所に、次のステートメントを挿入します。


```
SET OTHERSYMBOL=+;
```

1、2、または3以外の CustomerID へのすべての参照、たとえば *OrderID 1299* をクリックすると、*Name* は *Undefined* になります。

注意!

OtherSymbol は、テーブル間の外部結合の作成での使用を意図していません。

27.10 QlikView での Null 値の処理

データベース クエリまたはテーブル間の結合の結果、特定の項目にデータが生成されない場合、通常、結果は NULL 値になります。

QlikView ロジックは、次の NULL 値を実数として処理します。

- ODBC 接続から返された NULL 値
- QlikView スクリプトのテーブルの強制連結の結果として作成された NULL 値
- QlikView スクリプトの join ステートメントの結果として作成された NULL 値
- テーブルボックスに表示される項目値の組み合わせ、またはエクスポート ボタンによってエクスポートされる項目値の組み合わせを生成した結果として作成された NULL 値

通常は、これらの NULL 値を関連付けや選択で使用することはできません。ただし、**nullasvalue** ステートメントを使用することにより、項目レベルで NULL 値を処理することができます。*NullAsValue* (324 ページ) を参照してください。さらに、ODBC からの NULL 値は、**nulldisplay** を使用して処理できます (以下を参照)。

定義用のテキスト ファイルに NULL 値を含めることはできません。

ODBC からの NULL 値の関連付け/選択

ODBC データ ソースから NULL 値を関連付けまたは選択することができます。この目的のために、スクリプト変数が定義されています。次の構文を使用する場合:

```
SET NULLDISPLAY=<sym>;
```

シンボル <sym> が、データ入力の最下位レベルにある ODBC データ ソースからのすべての NULL 値の代わりに使用されます。<sym> には任意の文字列を指定できます。

この機能をデフォルト解釈にリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET NULLDISPLAY=;
```

注意!

NULLDISPLAY の使用は、ODBC データ ソースからのデータにのみ影響します。

ODBC からの NULL 値を空の文字列として QlikView ロジックにもたせるには、空の文字列を **NULLDISPLAY** 変数に次のように割り当てます (二重引用符を使用)。

```
SET NULLDISPLAY="";
```

この割り当ては、スクリプト内のすべての **select** ステートメントの前で行う必要があります。空の文字列は、その他の任意の値として処理され、NULL 値の関連付けおよび選択が可能です。

テキストファイルからの NULL 値の作成

シンボルを定義することができます。このシンボルがテキストファイルまたは **inline** 句に存在する場合は、実 NULL 値として解釈されます。次のステートメントを使用します。

```
SET NULLINTERPRET=<sym>;
```

シンボル <sym> は、NULL として解釈されます。<sym> には任意の文字列を指定できます。

この機能をデフォルト解釈にリセットするには、次の構文を使用します。

```
SET NULLINTERPRET=;
```

注意!

NULLINTERPRET の使用は、テキストファイルおよび inline 句のデータのみに影響します。

数式における NULL 値の伝達

NULL 値は、いくつかの論理的および妥当な規則に基づいて、数式を介して伝達されます。

関数

一般的な規則としては、関数が定義されている範囲外にパラメータが指定されると、関数は NULL を返します。

例：

asin(2) 次のようになります。 NULL

log(-5) 次のようになります。 NULL

round(A,0) 次のようになります。 NULL

上記の結果として、評価に必要なパラメータのいずれかが NULL である場合、関数は原則として NULL を返します。

例：

sin(NULL) 次のようになります。 NULL

chr(NULL) 次のようになります。 NULL

if(NULL, A, B) 次のようになります。 B

if(TRUE, NULL, A) 次のようになります。 NULL

if(TRUE, A, NULL) 次のようになります。 A

2 番目の規則の例外には、型をテストするための論理関数があります。

例：

isnull(NULL) 次のようになります。 TRUE (-1)

isnum(NULL) 次のようになります。 FALSE (0)

算術および文字列演算子

文字列連結の場合を除き、NULLがこれらの演算子のどちらの側で発生しても、NULLが返されます。

例：

A + NULL 次のようになります。 NULL

A - NULL 次のようになります。 NULL

A / NULL 次のようになります。 NULL

A * NULL 次のようになります。 NULL

NULL / A 次のようになります。 NULL

0 / NULL 次のようになります。 NULL

0 * NULL 次のようになります。 NULL

A&NULL 次のようになります。 A

関係演算子

関係演算子のいずれかの側に NULLが発生した場合は、特別な規則が適用されます。

例：

NULL rel.op.NULL 次のようになります。 NULL

A <> NULL 次のようになります。 TRUE (-1)

A < NULL 次のようになります。 FALSE (0)

A <= NULL 次のようになります。 FALSE (0)

A = NULL 次のようになります。 FALSE (0)

A >= NULL 次のようになります。 FALSE (0)

A > NULL 次のようになります。 FALSE (0)

27.11 文字セット

文字セットは、ファイルで使われる文字セットを定義する **Load** ステートメントのファイル指定子です。

次の文字セットを使用できます。

ansi

oem

mac

utf8

unicode

codepage is N

ファイルは、**ansi** (Windows)、**oem** (DOS、OS/2、AS400 など)、**unicode**、**utf8**、**mac** 等の文字セットで書き込めます。**oem** 文字セットからの変換は MacOS では実装されていません。codepage 指定子を使うと、Windows codepage を使用できます。何も指定されない場合、Windows では codepage 1252 と見なされます。

QlikView の旧バージョンで使われていた **ansi**、**oem**、**mac** 指定子もまだ機能します。ただし、新しい QlikView で **Load** ステートメントを作成する際には生成されません。

例：

```
LOAD * FROM a.txt (utf8, txt, delimiter is ',', embedded labels)
```

```
LOAD * FROM a.txt (unicode, txt, delimiter is ',', embedded labels)
```

```
LOAD * FROM a.txt (codepage is 10000, txt, delimiter is ',', no labels)
```

[スクリプトのステートメントとキーワード \(271 ページ\) へ戻る](#)

28 QVD ファイル

QVD (QlikView Data) ファイルは、QlikView からエクスポートされたデータのテーブルを含むファイルです。QVD は、ネイティブ QlikView ファイルで、QlikView でのみ読み書きすることができます。ファイル形式は、QlikView スクリプトからデータを高速に読み取れるように最適化され、サイズもコンパクトです。QVD ファイルからのデータの読み取りは、他のデータソースから読み取る場合よりも一般に 10 ~ 100 倍高速になります。

QVD ファイルは、標準 (高速) と最適化 (超高速) の 2 つのモードで読み取ることができます。選択モードは、QlikView スクリプト エンジンによって自動的に決定されます。最適化モードは、ロードされたすべての項目が変換 (項目に対して実行される式) なしに読み取られる場合にのみ使用できます。ただし、項目名は変更することができます。QlikView にレコードを解冻させる WHERE 句は、最適化されたロードを無効にします。項目変換が実行されると、標準の Extract-Transform-Load (ETL) に従って、最適化された .qvd が抽出および処理されます。これによって、パフォーマンスが低下します。指定した形式は維持されず、代わりに、基となる未加工の数値形式が使用および認識されます。.qvd にある項目は変換できます。変換すると、以前の「最適化された」.qvd は、標準の最適化されていない .qvd になります。

QVD ファイルは、厳密に 1 つのデータ テーブルを保持し、3 つの部分で構成されます。

1. テーブル内の項目や、後続情報およびその他のメタデータのレイアウトを記述する整形 XML ヘッダー (UTF-8 文字セット)。
2. バイト埋め込み形式のシンボル テーブル。
3. ビット埋め込み形式の実際のテーブル データ。

28.1 QVD ファイルの使用目的

QVD ファイルは、多くの目的で使用することができます。少なくとも 4 つの重要な利点が考えられます。複数がどんな状況にでも当てはまります。

ロード速度の向上

QVD ファイルの入力データの変更されない部分または変化が遅い部分をバッファリングすることで、大きなデータセットに対するスクリプトの実行が大幅に高速化します。

データベース サーバーの負荷の減少

外部データソースから取得するデータ量を大幅に削減もできます。これにより、外部データベースおよびネットワークトラフィックの負荷が減少します。さらに、複数の QlikView スクリプトが同じデータを共有する場合は、ソースデータベースからデータを一度 QVD ファイルにロードするだけで済みます。他のアプリケーションは、この QVD ファイルから同じデータを使用できます。

複数の QlikView アプリケーションからのデータの統合

Binary (278 ページ) スクリプトのステートメントでは、1 つの QlikView アプリケーションから別のアプリケーションにデータをロードできます。しかし、QVD ファイルを使用すると、QlikView スクリプ

トは任意の数の QlikView アプリケーションからのデータを統合できます。これにより、アプリケーションの可能性が広がり、たとえば、さまざまな部署からの類似するデータを統合することができます。

増分/差分ロード

多くの一般的な状況で、QVD 機能を使用することにより、増大するデータベースから新しいレコードを排他的にロードする増分ロードを簡単に実行できます。

QVD ファイルの使用と増分ロードについての詳細は次のリンクを参照してください。

[QVD ファイルを使用した増分ロード \(495 ページ\)](#)

28.2 QVD ファイルの作成

3つの異なる方法から1つを使用して QVD ファイルを作成できます。

1. QlikView スクリプトで `Store` (339 ページ) コマンドを使用した明示的な作成と命名。スクリプトでは、選択した場所にある明示的に名前が付けられたファイルに、事前に読み取られたテーブルまたはその一部をエクスポートするように記述します。
2. スクリプトからの自動作成とメンテナンス。`load` または `select` ステートメントの前に `Buffer` (278 ページ) プレフィックスを指定すると、QlikView は自動的に QVD ファイルを作成します。QVD ファイルは、一定の条件下でデータのリロード時に元のデータソースの代わりに使用できます。
3. レイアウトまたは 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) から明示的に作成されて名前が付けられます。データは、GUI コマンドまたはオートメーションマクロを使用して、QlikView レイアウトからエクスポートされます。GUI では、ほとんどのシートオブジェクトのオブジェクトメニューにある **[エクスポート]** コマンドに、使用可能なエクスポート形式の1つとして QVD が含まれています。

読み込み時間など、結果の QVD ファイルに違いはありません。

28.3 QVD ファイルからのデータの読み取り

QlikView は、次の方法で QVD ファイルの読み込み、またはアクセスを行います。

1. 明示的なデータソースとしての QVD ファイルのロード。QVD ファイルは、他の種類のテキストファイル (csv、fix、dif、biff など) と同様に、QlikView スクリプトの `load` ステートメントで参照できます。ファイルウィザード：種類 (243 ページ) では、同じ原則で QVD ファイルを扱います。

例：

```
load * from xyz.qvd (qvd);
```

```
load Name, RegNo from xyz.qvd (qvd);
```

```
load Name as a, RegNo as b from xyz.qvd (qvd);
```

2. バッファ QVD ファイルの自動ロード。`load` または `select` ステートメントで `Buffer` (278 ページ) プレフィックスを使用する場合は、読み取り用の明示的なステートメントは

必要ありません。QlikView が、QVD ファイルからデータを使用するか、元の **load** または **select** ステートメントを使用してデータを取得するか、その範囲を決定します。

3. スクリプトによる QVD ファイルへのアクセス。 **qvd** で始まるたくさんのスクリプト関数を使用して、QVD ファイルの XML ヘッダーにあるデータのさまざまな情報を取得できます。これらの関数の詳細については、ロードスクリプトのファイル関数 (419 ページ) を参照してください。

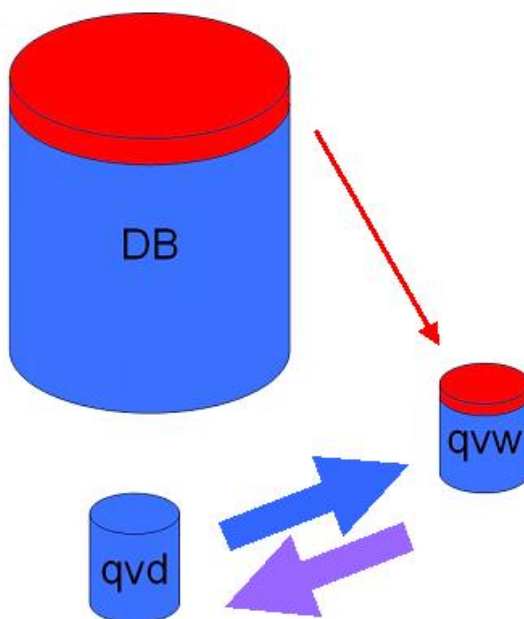
11.20 以降、QVD のインポートはサポートされていません。

28.4 QVD ファイルを使用した増分ロード

増分ロードは、データベースではきわめて一般的なタスクです。増分ロードとは、データベースから新しいレコードまたは変更されたレコードだけをロードすることを指します。残りのデータは、既に何らかの方法でアクセス可能になっています。QVD ファイル (493 ページ) で、ほとんどの場合増分ロードを実行できます。

基本手順を以下に説明します。

1. データベーステーブルからの **新しいデータ** をロードします (時間がかかるが、限定されたレコード数をロードします)。
2. QVD ファイルからの **古いデータ** をロードします (ロードするレコード数は多いが短時間)。
3. 新しい QVD ファイルを作成します。
4. ロードされるテーブルごとに手順の繰り返します。



このソリューションの実際の複雑さはソースデータベースの条件によって異なりますが、以下に示す基本的なケースを確認できます。

- 1) ケース 1: 追加のみ (496 ページ) (通常はログ ファイル)
- 2) ケース 2: 挿入のみ (更新または削除なし) (496 ページ)
- 3) ケース 3: 挿入および更新 (削除なし) (497 ページ)

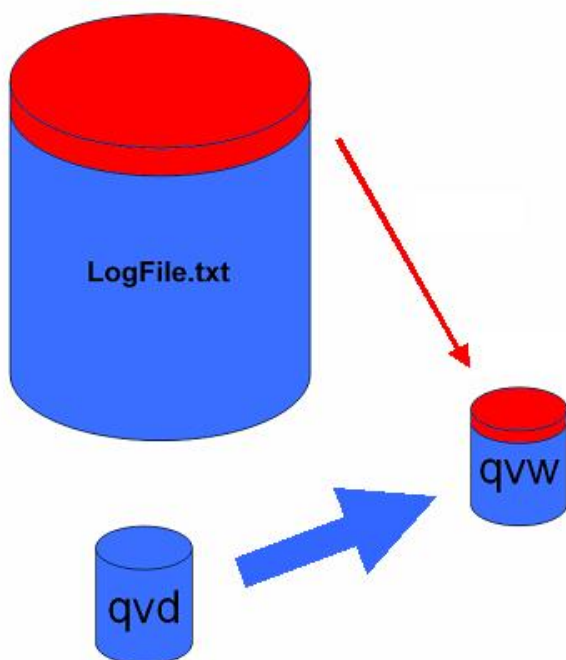
4) ケース 4: 挿入、更新、および削除 (498 ページ)

次に、それぞれのケースごとのソリューションについて簡単に説明します。QVD ファイルは、最適化と標準のどちらかのモードで読み取ることができます。(使用されるモードは、オペレーションの複雑さによって QlikView スクリプト エンジンが自動的に選択します。) 最適化モードは、(概算で) 標準モードの約 10 倍、データベースからのロードは普通の方法で約 100 倍の速度です。

ケース 1: 追加のみ

最も単純なケースはログ ファイルです。このようなファイルではレコードが追加されるだけで、削除されることはありません。次の条件が適用されます。

- データベースは、テキスト ファイル (ODBC/OLE DB 以外) に含まれているログ ファイル (またはレコードが挿入または削除ではなく追加される他のファイル) でなくてはなりません。
- QlikView は、以前に読み取られたレコード数を常に記録し、ファイルの末尾に追加されたレコードだけをロードします。



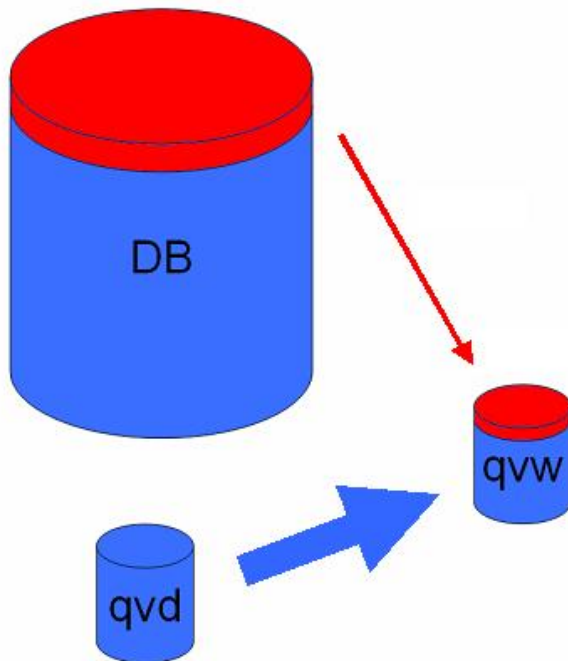
スクリプトの例:

```
Buffer (Incremental) Load * From LogFile.txt (ansi, txt, delimiter is
'\t', embedded labels);
```

ケース 2: 挿入のみ (更新または削除なし)

単純なログ ファイル以外のデータベースにデータが存在する場合は、ケース 1 の方法は機能しません。ただし、少しの作業を追加するだけで問題を解決できます。次の条件が適用されます。

- データ ソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコードをロードします。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。



スクリプトの例:

```

QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#
AND ModificationTime < #$(BeginningThisExecTime)#;

Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD;
STORE QV_Table INTO File.QVD;

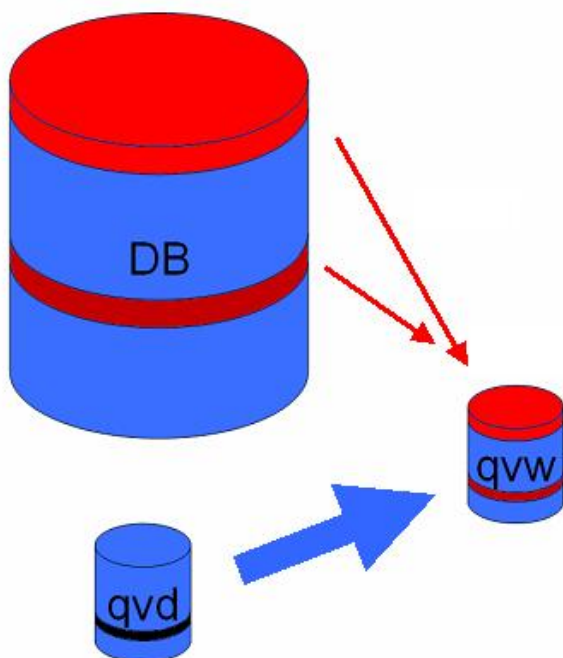
```

(SQL WHERE 句のハッシュ記号は日付の開始と終了を定義します。ご使用中のデータベースの適正な日付構文については、データベース マニュアルを確認してください。)

ケース 3: 挿入および更新 (削除なし)

次のケースは、以前にロードされたレコード内のデータがスクリプト実行時に変更されている場合に適用可能です。次の条件が適用されます。

- データソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコード、またはデータベースで更新されたレコードをロードします。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。
- QlikView が QVD ファイルから更新されたレコードをソートするためには、プライマリ キー項目が必要です。
- このソリューションでは、QVD ファイルの読み取りは (最適化モードではなく) 標準モードで行われます。標準モードはデータベース全体をロードするよりも、かなり高速です。



スクリプトの例:

```
QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#;

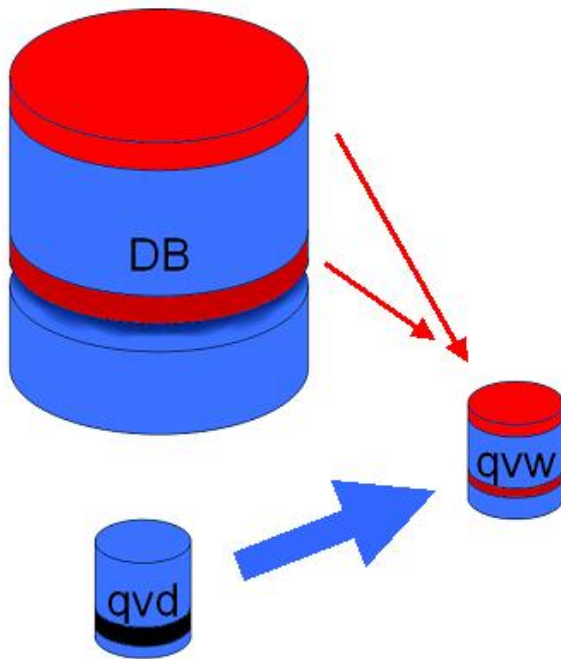
Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD
WHERE NOT Exists(PrimaryKey);

STORE QV_Table INTO File.QVD;
```

ケース 4: 挿入、更新、および削除

最も処理が難しいケースは、スクリプト実行時にソースデータベースからレコードが実際に削除されている場合です。次の条件が適用されます。

- データソースには、任意のデータベースを使用できます。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースに挿入されたレコード、またはデータベースで更新されたレコードをロードします。
- QlikView は、最後のスクリプト実行後にデータベースから削除されたレコードを削除します。
- 項目 ModificationDate (または同様の項目) は、どのレコードが新しいかを QlikView が認識するために必要です。
- QlikView が QVD ファイルから更新されたレコードをソートするためには、プライマリキー項目が必要です。
- このソリューションでは、QVD ファイルの読み取りは (最適化モードではなく) 標準モードで行われます。標準モードはデータベース全体をロードするよりも、かなり高速です。



スクリプトの例:

```
Let ThisExecTime = Now( );

QV_Table:
SQL SELECT PrimaryKey, X, Y FROM DB_TABLE
WHERE ModificationTime >= #$(LastExecTime)#
AND ModificationTime < #$(ThisExecTime)#;

Concatenate LOAD PrimaryKey, X, Y FROM File.QVD
WHERE NOT EXISTS(PriamryKey);

Inner Join SQL SELECT PrimaryKey FROM DB_TABLE;

If ScriptErrorCount = 0 then
STORE QV_Table INTO File.QVD;
Let LastExecTime = ThisExecTime;
End If
```


29 セキュリティ

QlikView におけるセキュリティのメカニズムは、2つの異なる方法で設定できます。QlikView ドキュメントのロード スクリプトに組み込むか、QlikView Publisher を使用して設定します。

29.1 認証と承認

認証は、承認を求めている人が本人であることを検証するためのプロセスです。QlikView では、Windows オペレーティングシステムに認証を任せるか、ユーザー ID とパスワード (Windows のユーザー ID とパスワードとは異なるもの) を要求するか、QlikView ライセンス キーを簡単な認証方法として使用することができます。

承認は、識別された人がリソースを持つことを許可されているかどうかを判断することです。QlikView は、Windows オペレーティングシステムに承認を任せるか、自身で承認を行うことができます。後者の場合は、セキュリティ テーブルをロード スクリプトに組み込む必要があります。

29.2 QlikView Publisher によるセキュリティ

QlikView Publisher でセキュリティを処理するように設定すると、各 QlikView ファイルがいくつかのファイルに分割され、関連ユーザーまたはユーザー グループに関するデータが各ファイルに格納されます。これらのファイルは、正しい OS セキュリティ設定を含むフォルダに格納されます。つまり、QlikView はオペレーティングシステムに認証と承認を処理させます。

ただし、ファイル自体に組み込まれたセキュリティがないので、ダウンロードしたファイルは保護されません。

1つのファイルがいくつかに分割され、ユーザーは自分のデータを含むファイルを開くだけなので、通常はファイルサイズが小さくなります。ただし、これにより、同じデータを含む複数のファイルがロードされることがあるので、1つのファイルにすべてのデータを保持する場合に比べて、QlikView Server が使用するメモリが増える可能性もあります。

詳細については、QlikView Publisher のドキュメントを参照してください。

29.3 QlikView ロード スクリプトのセクション アクセスによるセキュリティ

QlikView ロード スクリプトのセクション アクセスでセキュリティを処理するように設定すると、1つのファイルで多数のユーザーやユーザー グループのデータを保持できます。QlikView は、セクション アクセス内の情報を使用することにより、認証と承認を行い、ユーザーが自分のデータのみアクセスするようにデータを動的に削減します。

ファイル自体にセキュリティが組み込まれるので、ダウンロードしたファイルもある程度まで保護されます。ただし、セキュリティの必要性が高い場合は、ファイルのダウンロードとオフライン使用を禁止する必要があります。ファイルは、QlikView Server でのみ公開する必要があります。

1つのファイルにすべてのデータが保持されるので、このファイルはサイズが非常に大きくなる可能性があります。

この後のすべての情報は、QlikView ロード スクリプトのセクション アクセスによるセキュリティ方法に関連します。

29.4 ロード スクリプトのセクション

アクセス制御は、QlikView による通常のデータのロード方法と同様にロードされる 1 つまたはいくつかのセキュリティ テーブルを使用して管理されます。このため、これらのテーブルは通常のデータベースに格納できます。セキュリティ テーブルを管理するスクリプト ステートメントは、スクリプト内の **section access** で開始されるアクセス セクション内に指定します。

ロード スクリプトにアクセス セクションを定義する場合は、"通常の" データをロードする部分のスクリプトを **section application** で開始される別のセクション内に配置する必要があります。

例 :

```
Section Access;  
Load * inline  
  [ACCESS, USERID, PASSWORD  
  ADMIN, A, X  
  USER, U, Y ];  
Section Application;  
Load..... from.....
```

29.5 セクション アクセスのアクセス レベル

指定したユーザーまたはユーザーのグループに対して、QlikView ドキュメントへのアクセスを承認できます。セキュリティ テーブルでは、アクセス レベルの ADMIN または USER をユーザーに割り当てることができます。アクセス レベルが割り当てられていないユーザーは、QlikView ドキュメントを開くことができません。

管理者 ("ADMIN") アクセス権限を持つ人は、ドキュメントのすべての項目を変更できます。管理者アクセス権限 ("ADMIN") を与えられた人は、**[ドキュメントプロパティ]** ダイアログと **[シートプロパティ]** ダイアログの **[セキュリティ]** ページを使用して、ユーザーがドキュメントを変更する可能性を制限できます。ユーザー権限 ("USER") を与えられた人は、**[セキュリティ]** ページにアクセスできません。

注意!

管理者アクセス権 (ADMIN) はローカル ドキュメントにのみ当てはまります。サーバー上で開かれたドキュメントには、常にユーザー権限 (USER) でアクセスされます。

29.6 セクション アクセスのシステム項目

アクセス レベルは、section access 内にロードされる 1 つまたはいくつかのテーブル内のユーザーに割り当てられます。これらのテーブルには、さまざまなユーザー固有のシステム項目を含めることができます。通常は、"USERID" と "PASSWORD"、およびアクセス レベルを定義する項目の "ACCESS" です。**セクション アクセス** のすべてのシステム項目が認証と承認に使用されます。**section access** のすべてのシステム項目を以下に説明します。

セキュリティ項目は、すべてまたは任意の組み合わせをアクセス セクションにロードできます。また、何もロードしないこともできます。このため、"USERID" を使用する必要がありません。シリアル番号のみなど、他の項目を使用して承認を行うことができます。

ACCESS	対応するユーザーに与えられるアクセス権限を定義する項目。
USERID	許可されるユーザー ID を含む項目。QlikView がユーザー ID の入力を要求し、この項目の値と比較します。このユーザー ID は、Windows のユーザー ID と同じではありません。
PASSWORD	許可されるパスワードを含む項目。QlikView がパスワードの入力を要求し、この項目の値と比較します。このパスワードは、Windows のパスワードと同じではありません。
SERIAL	QlikView のシリアル番号に対応する番号を含む項目。 例：4900 2394 7113 7304。 QlikView がユーザーのシリアル番号を確認し、それをこの項目の値と比較します。
NTNAME	Windows NT のドメイン ユーザー名またはグループ名に対応する文字列を含む項目。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
NTDOMAINSID	Windows NT ドメインの SID に対応する文字列を含む項目。 例：S-1-5-21-125976590-4672381061092489882。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
NTSID	Windows NT の SID を含む項目。 例：S-15-21-125976590-467238106-1092489882-1378。 QlikView が OS からログオン情報を取得し、それをこの項目の値と比較します。
OMIT	この特定のユーザーに対して省略する項目を含む項目。ワイルドカードを使用したり、項目を空にしたりできます。これを手軽に行うには、サブフィールドを使用します。

注意！

基底のデータ構造を変更してしまうので、主要な項目で OMIT を適用すべきではありません。論理的な複数のアイランドや計算上の矛盾を引き起こす場合があります。

QlikView は、QlikView のシリアル番号を *SERIAL* 項目と、Windows NT ユーザー名およびグループを *NTNAME* と、Windows NT ドメインの SID を *NTDOMAINSID* と、Windows NT の SID を *NTSID* と比較します。さらに、ユーザー ID とパスワードの入力を要求し、それらを *USERID* および *PASSWORD* 項目と比較します。

ユーザー ID、パスワード、および環境プロパティの見つかった組み合わせが **section access** テーブルでも見つかり、対応するアクセスレベルでドキュメントが開きます。見つからない場合、QlikView はドキュメントへのユーザー アクセスを拒否します。ユーザー ID やパスワードが正しく入力されない場合は、ログオン手順全体を繰り返す必要があります。

QlikView の特徴である同じ内部ロジックがアクセス セクションでも使用されているので、セキュリティ項目をさまざまなテーブルに配置できます。このため、システム管理者はセキュリティ テーブルから

QlikView ドキュメントを作成できます。この場合は、対応する項目値をクリックすることで、正しいシリアル番号、パスワードなどがシミュレートされます。)

ログオン手順では、QlikView は最初に *SERIAL*、*NTNAME*、*NTDOMAINSID*、*NTSID* をチェックして、この情報がドキュメントへのユーザー アクセスを許可するために十分であるかどうかを確認します。十分である場合、QlikView はユーザー ID とパスワードの入力を要求せずに、ドキュメントを開きます。

アクセス項目の一部のみがロードされる場合は、上の要件のうちの対応する部分を使用されます。

section access 内の **Load** または **Select** ステートメントにリストされるすべての項目は、大文字で記述する必要があります。データベース内の小文字を含む項目名は、**Load** または **Select** ステートメントで読み取られる前に、**upper** 関数を使用して大文字に変換する必要があります。

upper(textexpression) (407 ページ) を参照してください。ただし、QlikView ドキュメントを開くエンドユーザーが入力するユーザー ID とパスワードは、大文字と小文字は区別されません。

ワイルドカード (*) は、この項目内のすべての値 (リストされている値)、つまりこのテーブル内の任意の場所にリストされている値として解釈されます。ロードスクリプトのアクセスセクションでロードされたテーブルのシステム項目 (*USERID*、*PASSWORD*、*NTNAME*、または *SERIAL*) の 1 つで使用される場合は、この項目のすべての絞込値 (リストされていない値も含む) として解釈されます。

注意!

QVD ファイルからデータをロードする場合に **upper** 関数を使用すると、ロードスピードが遅くなります。

注意!

inline ステートメントでアクセステーブルを生成するには、アクセス制限テーブルウィザード (239 ページ) を使用します。

注意!

セクションアクセスを有効にしている場合は、ここに記載されているセクションアクセスシステム項目名をデータモデルの項目名として使用できません。

例 1:

シリアル番号のみがチェックされます。特定の 1 台のコンピュータに管理者アクセス権限が与えられます。それ以外のすべてにユーザーアクセス権限が与えられます。このとき、スターを使用して "任意のシリアル番号" を示すことができます。

ACCESS	SERIAL
ADMIN	4900 2394 7113 7304
USER	*

例 2:

管理者と、QlikView がバッチジョブとして実行されているサーバーに、管理者アクセス権が与えられます。ドメインのその他の人は、ユーザー ID とパスワードとして "USER" と入力することにより、ユーザーアクセス権が与えられます。

ACCESS SERIAL	NTDOMAINSID	USERID	PASSWORD
ADMIN *	S-1-5-21-125976590-467238106-1092489882	ADMIN	ADMIN
ADMIN 4900 2394 7113 7304	*	*	*
USER *	S-1-5-21-125976590-467238106-1092489882	USER	USER

29.7 QlikView 機能の制限

ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページと シートプロパティ：セキュリティ (562 ページ) ページにあるコントロールを使用すると、特定のメニュー項目へのアクセスを拒否したり、レイアウトの変更を禁止することができます。これらの設定を本格的な保護の手段として使用する場合は、ドキュメントユーザーがユーザーとしてログインすることが重要です。管理者としてログインした人は、いつでもセキュリティ設定を変更できます。

ユーザー権限でドキュメントを開いたユーザーには、[プロパティ] ダイアログの [セキュリティ] ページが表示されません。

29.8 動的データ削除

QlikView と QlikView Server は、**section access** ログインに基づいてドキュメントの一部のデータをユーザーに表示しない機能をサポートします。

第 1 に、システム項目の **OMIT** を使用して項目 (列) を非表示にできます。

第 2 に、**Section Access** のデータを実際のデータにリンクして、レコード (行) を非表示にできます。表示/除外する値の選択は、1 つ以上の項目に **section access** と **section application** で共通の名前を付けて制御します。ユーザー ログイン後、QlikView は、**section access** での項目内の選択を **section application** の完全に同じ名前 (項目名は大文字で記述) の項目にコピーしようとします。選択が行われると、QlikView は選択によって除外されたすべてのデータをユーザーに表示しなくなります。

この処理が行われるには、**ドキュメントプロパティ：起動画面** ページで **セクションアクセスによる初期データ削除** オプションを選択する必要があります。QlikView Server を使用する以外の方法で配布されるドキュメントでこの機能を使用する場合は、[ドキュメントプロパティ] の同じページで **バイナリロード禁止** オプションを選択して、データ保護を維持する必要があります。

注意!

section access では、すべての項目名と項目値がデフォルトで大文字に変換されるので、上で説明した転送で使用するすべての項目名とそれらの項目のすべての項目値が大文字にする必要があります。

例：

```
section access;
load * inline [
ACCESS, USERID, REDUCTION, OMIT
ADMIN, ADMIN, *,
```

```
USER, A, 1
USER, B, 2, NUM
USER, C, 3, ALPHA
];
section application;
T1:
load *,
NUM AS REDUCTION;
load
Chr( RecNo()+ord('A')-1) AS ALPHA,
RechNo() AS NUM
AUTOGENERATE 3;
```

現在、項目 REDUCTION (大文字) が **section access** と **section application** の両方にあります (全ての項目値も大文字)。通常、2つの項目はまったく異なり、区別されますが、**[セクションアクセスによる初期データ削除]** オプションを選択した場合、それらはリンクされ、ユーザーに表示されるレコード数は減少します。

section access の項目 OMIT で、ユーザーから隠すべき項目を定義します。

結果は次のようになります。

User A は全ての項目を見ることができますが、REDUCTION=1 に接続されたレコードのみとなります。

User B は NUM 以外の全ての項目を見ることができますが、REDUCTION=2 に接続されたレコードのみとなります。

User C は ALPHA 以外の全ての項目を見ることができますが、REDUCTION=3 に接続されたレコードのみとなります。

29.9 アクセス制限の継承

バイナリロードを使用すると、新しい QlikView ドキュメントによってアクセス制限が継承されます。この新しいドキュメントへの管理者権限を持つ人は、新しい **access section** を追加して、この新しいドキュメントのアクセス権を変更できます。ユーザー権限を与えられた人は、スクリプトを実行したり、スクリプトを変更できるので、バイナリロードされたファイルに独自のデータを追加できます。ユーザー権限を与えられた人は、アクセス権を変更できません。これにより、データベース管理者はバイナリロードされた QlikView ドキュメントに対してもユーザーアクセスを制御できます。

29.10 暗号化

QlikView Server と QlikView Windows クライアントの間の通信は暗号化されます。ただし、AJAX クライアントを使用する場合、通信は暗号化されません。

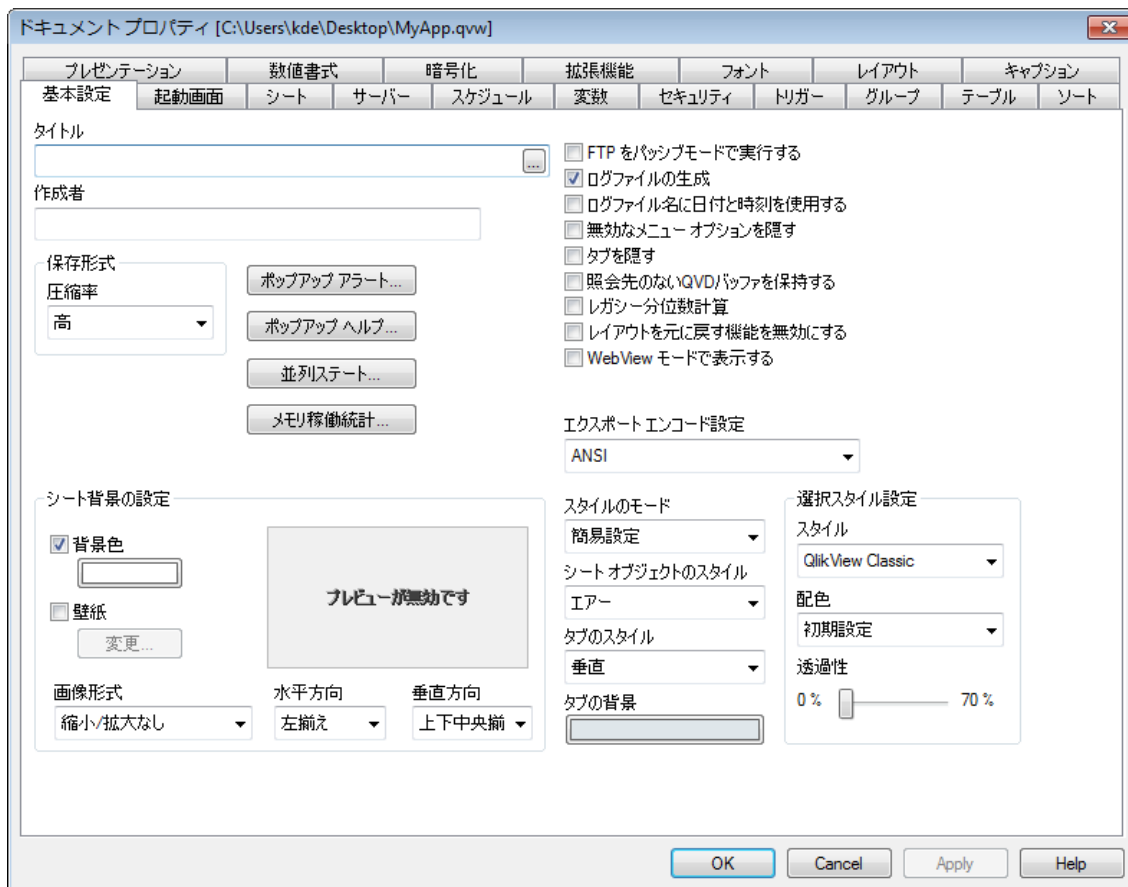
さらに、すべての QlikView ドキュメントが暗号化されるので、ビューアー、デバッガなどで情報を読み取ることはできません。

第5部シートとシートオブジェクト

30 ドキュメントプロパティ

ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) ページを開きます。ここで、起動画面や音、デフォルトのフォント、ソート順など、ドキュメント固有のパラメータを特定のドキュメントに指定できます。

30.1 ドキュメントプロパティ: 基本設定



ドキュメントプロパティ：基本設定

タイトル

ここでは、ウィンドウのキャプションに表示されるタイトルを入力できます。初期設定では、ドキュメントのファイル名が使用されます。変更するには、**タイトル** 編集ボックスにその内容を入力します。

作成者

作成者 編集ボックスでは、QlikView ファイルの作成者を指定します。

保存形式	<p>このグループでは、QlikView ファイルの圧縮レベルを設定します。</p> <p>圧縮率</p> <p>標準 と 高 オプションは、ロードや保存スピードに多少影響がでますが、QlikView ファイルのサイズを大幅に減少させます。ドキュメントプロパティ の圧縮率オプションの設定は、現在のドキュメントに作用します。ユーザー プロパティ の圧縮率オプションの設定は、新規作成のドキュメントに作用します。圧縮率と新規作成ファイルに対する圧縮率のデフォルト設定方法の詳細に関しては、ユーザー プロパティ ダイアログの ユーザー プロパティ：保存 (89 ページ) を参照してください。</p>
ポップアップ アラート	<p>このボタンはポップアップ アラート メッセージを定義する ポップアップ ウィンドウ設定 ダイアログを開きます。</p>
ポップアップ ヘルプ	<p>このボタンはポップアップ ヘルプ メッセージを定義する ポップアップ ウィンドウ設定 (514 ページ) ダイアログを開きます。</p>
並列ステート	<p>並列ステート機能は QlikView 開発者によって有効化されます。開発者はこのボタンをクリックして 並列ステート ダイアログを開きます。詳細については、並列ステート (135 ページ) を参照してください。</p> <hr/> <p>注意！</p> <p>この機能が QlikView ドキュメントで本当に必要でない限り有効にしないでください。</p> <hr/>
メモリ稼働統計	<p>現在の QlikView ドキュメントのメモリ使用量統計を含むテーブル ファイルを保存するには、このボタンをクリックします。このファイルは、たとえば、ドキュメントのさまざまな部分の必要メモリ量を分析するために QlikView で読み取ることができます。</p>

シート背景の設定

ドキュメントウィンドウの **シート背景の設定** の **背景色** は、このチェックボックスをオンにするとカスタマイズできます。色は、ボタンをクリックすると表示される **色** の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。また、**壁紙** チェックボックスをオンにして **変更** ボタンをクリックし、背景にする画像を指定できます。**画像の挿入** ダイアログが開き、画像ファイルを選択できます。背景の画像は次のオプションで変更できます。

画像形式 :**縮小/拡大なし :**

画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。

塗りつぶし :

画像は、縦横比を無視して、シート全体を覆うように拡大されます。

縦横比を固定する :

画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。

縦横比を固定して塗りつぶし :

画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。

並べて表示 :

このオプションを選択した場合、画像は、スペースがあるだけ繰り返し並べて表示されます。

水平方向 と 垂直方向 :**水平方向**

画像は水平方向に整列できます : **左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え**。

垂直方向

画像は垂直方向に整列できます : **上揃え**、**上下中央揃え**、または **下揃え**。

FTP をパッシブモードで実行する

FTP をパッシブモードで実行する チェックボックスをオンにすると、パッシブ FTP が有効になります。FTP は、 **インターネット ファイル/QlikView** ドキュメントを開く (235 ページ) ダイアログで起動します。FTP パッシブモード オプションは、ファイアーウォールを通してサーバーに接続する場合に使用します。

ログ ファイルの生成

ロードスクリプトの実行を追跡するには、**ログ ファイルの生成** を選択します。ロードスクリプト実行中に **ロードスクリプトの進捗** ウィンドウに表示される情報が、qv.log として保存されます。

ログファイル名に日付と時刻を使用する

タイムスタンプを使用してログファイルに名前を付けます。(例 : sales.qvw.2009_02_26_12_09_50.log)。設定は、**ログ ファイルの生成** チェックボックスをオンにすると有効になります。

無効なメニュー オプションを隠す	無効なメニュー オプションを隠す は、セキュリティ設定と併せて使用されます。通常は灰色表示になるメニュー オプションが、ユーザーから完全に隠されます。
タブを隠す	タブを隠す チェックボックスをオンにすると、QlikView のシート タブが取り除かれます。シート間を移動するには、アクション (661 ページ)(機能 : シートを右へ / シートを右へ) もしくは [表示] メニュー (62 ページ) の シート ツールバー を使用する必要があります。オートメーション制御を使用して、ユーザーにシートの移動や選択を一定の順序で行わせることもできます。
照会先のない QVD バッファを保持する	照会先のない QVD バッファを保持する 設定は、作成元のドキュメントに使用されなくなった場合に、自動生成された QVD ファイル (493 ページ) をロードスクリプトの実行後に消去する通常の手順を無視します。この設定は、通常オフにしておきます。
レガシー分位数計算	レガシー分位数計算 チェックボックスをオンにすると、Qlikview は分位数集計関数の結果として不連続値を使用します。チェックボックスをオフにすると、QlikView は、Microsoft Excel の Percentile 関数のように補間値を使用します。7.5 以前のバージョンの QlikView では、不連続値アルゴリズムしかサポートされていません。
レイアウトを元に戻す機能を無効にする	レイアウトを元に戻す機能を無効にする チェックボックスをオンにすると、レイアウトを元に戻すためのバッファが一時停止されます。特定の QlikView ドキュメントを配布するときに不必要なメモリ消費を避ける場合に便利な機能です。ユーザーまたはマクロがレイアウトを変更するたびに、通常、データのチャンクがレイアウトを元に戻すためのバッファに追加されます。極端な場合は、QlikView Server でドキュメントを配布するときに、蓄積されたバッファ データによって問題が発生することがあります。
WebView モードで表示する	QlikView 内で Web ブラウザを使用し AJAX ページとしてドキュメントを表示する WebView モードのオンとオフを切り替えます。
エクスポート エンコード設定	エクスポート エンコード設定 を使用し、新規のドキュメントでエクスポートする際のデフォルトの文字セットを設定します。ANSI、Unicode、UTF-8 のいずれかを選択できます。

- スタイルのモード** **スタイルのモード** ドロップダウン メニューで、すべてのシート オブジェクトのオブジェクトスタイルを選択できます。
- 詳細設定** では、**シート オブジェクトのスタイル** やオブジェクトの**レイアウト** ページで設定/使用される枠線の種類などを設定できます。
- 簡易設定** でも、**シート オブジェクトのスタイル** を選択することができますが、ほとんどは自動的に設定されます。**スクロールのスタイル** や枠線などが設定されます。設定のいくつかは、オブジェクトの **レイアウト (593 ページ)** ページで変更することができます。
- シート オブジェクトのスタイル** **シート オブジェクトのスタイル** ドロップダウンで、シート オブジェクトのキャプションのスタイルを選択します。選択したスタイルは、ドキュメント内のすべてのキャプション付きのシート オブジェクトに使用されます。
- タブのスタイル** **タブのスタイル** のドロップダウンから、タブの表示スタイルを 1 つ選択します。選択したスタイルは、ドキュメントのすべてのタブに使用されます。

選択スタイル設定

QlikView では、リストボックスやマルチ ボックスでデータを表示したり選択したりするためにいくつかの異なる方法をサポートしています。**QlikView Classic**、**コーナー タグ**、**LED**、および **LED チェック ボックス** スタイルはすべて、選択値、絞込値、および除外値を示すために色分けを使用しています。**チェックボックス** スタイルと **LED チェックボックス** スタイルは Windows の標準インターフェースに類似しており、各値にチェックボックスが付いています。このコントロールで個別のスタイルを選択すると、ドキュメントをどこで開いても個別のスタイルで表示できます。選択スタイルの詳細については、**ユーザー プロパティ (85 ページ)** と **リストボックスプロパティ : プレゼンテーション (587 ページ)** を参照してください。色に基づいた選択スタイルを使用する場合、多数の異なる配色が使用可能です。基本となる色の配色 (選択されていれば緑、ロックされていれば青など) は変更できませんが、さまざまな色調と強度が利用できます。

スタイル

ドキュメントの選択のスタイルを設定します。ドロップダウン リストにある使用可能な選択肢から選択してください。**<初期設定>** を選択すると、ドキュメントは、常に、ドキュメントが開かれているコンピュータ上でユーザーが **ユーザー プロパティ** で指定したスタイルで開かれます。

配色

ドキュメントの選択の配色を設定します。ドロップダウン リストにある使用可能な選択肢から選択してください。**<初期設定>** を選択すると、ドキュメントは、常に、ドキュメントが開かれているコンピュータ上でユーザーが **ユーザー プロパティ** で指定した配色で開かれます。

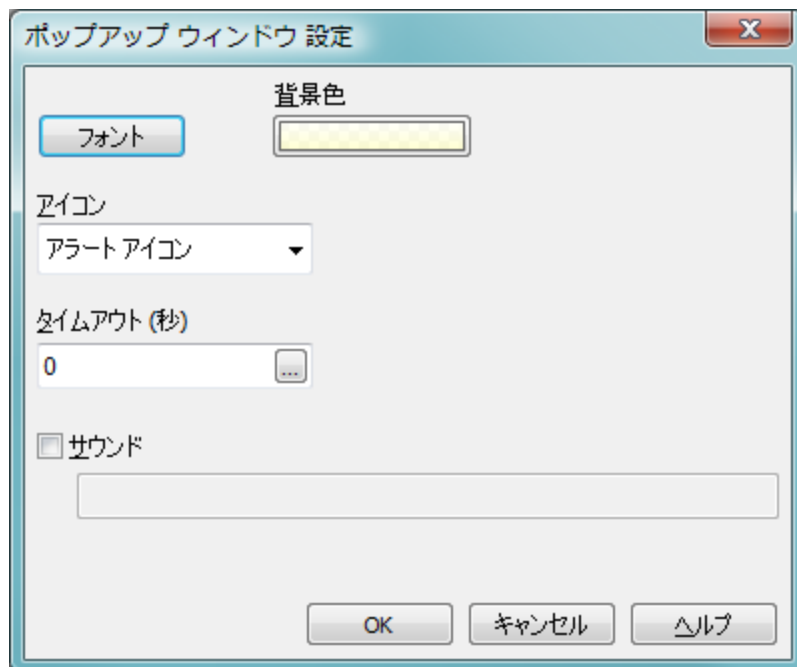
透過性

リストボックスやマルチ ボックスで選択した色の透過性を設定します。

タブの背景

タブの背景 ボタンをクリックし、タブ行の背景にカスタム カラーを指定します。

ポップアップ ウィンドウ設定



[ポップアップ ウィンドウ設定] ダイアログ

このダイアログは、**[設定]** メニューにある **ドキュメントプロパティ: [基本設定]** ページまたは **[アラート]** ダイアログからアクセスできます。**[ポップアップ ヘルプ]** や **[アラート ポップアップ]** のプロパティ設定に使用されます。

ダイアログでは、次のプロパティが設定できます。

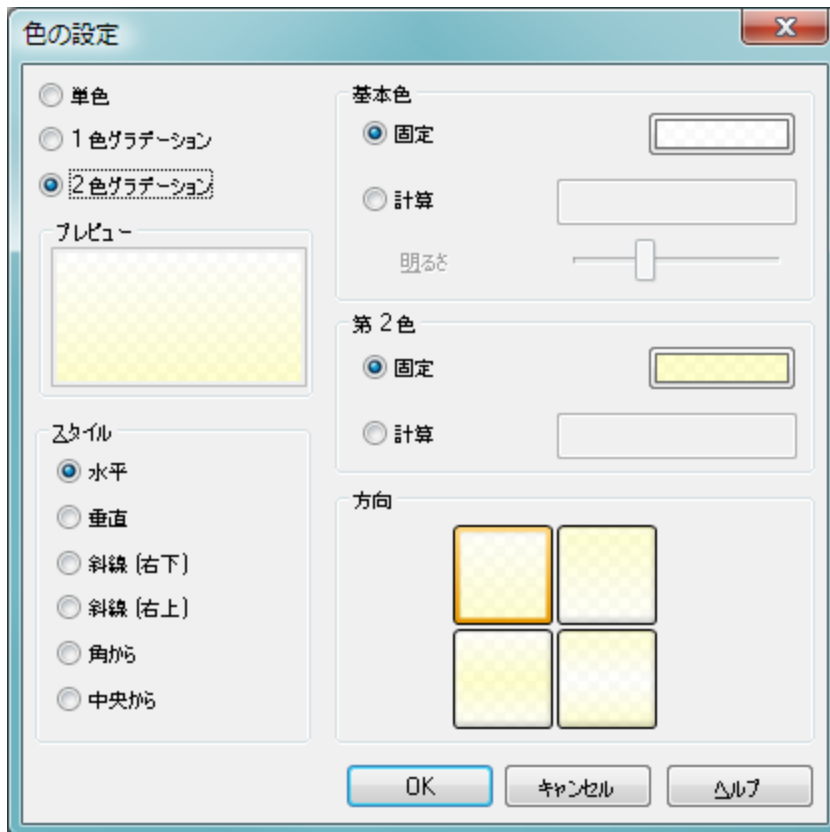
フォント ボタンをクリックすると、標準の フォント (592 ページ) ダイアログが開き、ポップアップ テキストのフォント設定を変更できます。

ポップアップ ウィンドウの **背景色** は、色のボタンをクリックすると表示される 色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

ポップアップ用のデフォルト **アイコン** は、それぞれ **[ポップアップ ヘルプ]** は **クエスチョン マーク** として **[アラート ポップアップ]** は **アラート アイコン** です。他のオプションを選択する、もしくは **アイコンなし** を選択します。

設定した経過時間が過ぎた後自動的にポップアップ ウィンドウを閉じるには、**[タイムアウト]** 編集ボックスに経過時間を入力します。(この経過時間はミリ秒で表します。タイムアウトを 0 に設定すると、ポップアップは、ユーザーが別の場所をクリックして移動しない限り画面に表示されたままになります。) ポップアップに音をリンクするには、**サウンド** チェックボックスをオンにします。項目値への情報のリンク (484 ページ) を参照してください。下の編集ボックスには、.wav サウンド ファイルの有効なパスを指定します。外部パス (例: c:\mysound.wav)、バンドル されている QlikView サウンド (内部ファイル (187 ページ)) へのパス (例: qmem://<bundled>/sounds/qv_ok.wav) などを指定できます。

色の設定



[色の設定] ダイアログ

QlikView レイアウトの色を使うほとんどの面は、**色の設定** ダイアログで設定できます。領域全体をカバーする単色やグラデーション効果を指定します。下に記述されたグラデーションのオプションは、テキストの色などいくつかの目的には利用できず、ダイアログで灰色表示されます。

- | | |
|------------------|--|
| 単色 | 一律の [基本色] を使用する基本オプション。 |
| 1色グラデーション | このオプションでは、 明るさ の変化を使用して1色グラデーション効果を作成します。 |
| 2色グラデーション | 色のグラデーション効果は、 [基本色] と指定した [第2色] の間で作成されます。 |

色は、**基本色** グループと **第2色** グループで、固定もしくは計算に指定できます。

ダイアログでは、いずれの色設定もプレビュー表示されます。

基本色 グループでは、単色およびグラデーションの基本色を決定します。

固定 ひとつの基本色を指定します。色を変更するには、色付きボタンをクリックします。

計算 色は数式から動的に計算することもできます。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数 (453 ページ) を使用して作成します。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。

明るさ **1 色グラデーション** を使用する場合、このスライダでグラデーションの対極における色の相対的な影 / 明るさを決定します。このスライダー設定は、暗い (左) から明るい (右) となります。設定の中央位置は、同一色と解釈されます。

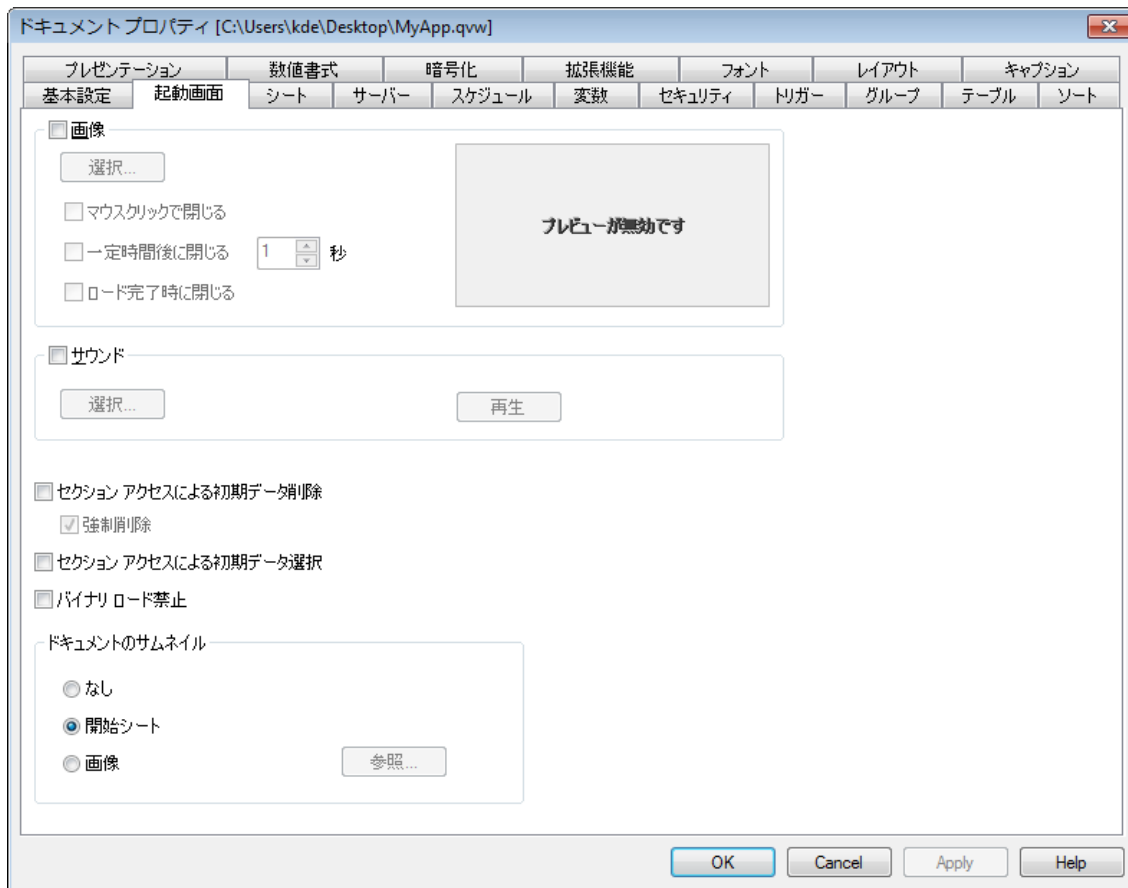
第 2 色 グループでは、2 色グラデーションの 2 つ目の色を決定します。

固定 ひとつの基本色を指定します。色を変更するには、色付きボタンをクリックします。

計算 色は カラー関数 (453 ページ) を使用して、数式から動的に計算することもできます。

[1 色グラデーション] または **[2 色グラデーション]** が選択されている場合、グラデーション効果の方向は **[グラデーション スタイル]** グループの設定に基づいて決定されます。**水平**、**垂直** などのスタイルとグラデーションの方向を示す 4 つのボタン エリアとを組み合わせると異なる結果を実現します。

30.2 ドキュメントプロパティ: 起動画面



ドキュメントプロパティ：起動画面

このページでは、ドキュメントの起動画面をカスタマイズできます。

- | | |
|---------------------|--|
| 画像 | ドキュメントに起動画面の画像を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| 選択 | このボタンをクリックすると 画像の挿入 ダイアログが開き、画像 (bmp、jpg、jpeg または png) を選択できます。 |
| マウス クリックで閉じる | 起動画面の画像をユーザーがクリックすると、画像が閉じます。このチェックボックスと下のチェックボックスのいずれかをオンにする必要があります。 |
| 一定時間後に閉じる | 起動画面の画像を自動的に閉じます。このチェックボックスと上のチェックボックスのいずれかをオンにする必要があります。 |
| ロード完了時に閉じる | ファイルのロードが完了すると、起動画面の画像が閉じます。 |
| サウンド | ドキュメントに起動音を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。これにより、 選択 ボタンが有効になります。 |

選択	このボタンは 音声ファイル選択 ダイアログを開き、音声ファイルを参照できます。
再生	このボタンをクリックして、選択したサウンドを再生します。
セクション アクセスによる初期データ削除	セキュリティ (501 ページ) オプションを選択した場合、ドキュメントを開くときに (または QlikView Server で新しい接続を確立するときに)、ドキュメントへのログオンに使用された認証に基づいてユーザーに特定のデータをまったく表示しないようにするための処理が実行されます。 QlikView Server 上で排他的に実行されていないドキュメントに対してこの機能を使用する場合は、データアクセスセキュリティを維持するために、必ず バイナリ ロード禁止 オプション (以下を参照) と組み合わせてください。この設定は、 [セクション アクセスによる初期選択] と互いに矛盾します。
強制削除	このチェックボックスが セクション アクセスによる初期データ削除 と共に選択されている場合は、データを削除する際に強制排除が使用されます。つまり、セクション アクセス削除項目の項目値が、対応するセクション アプリケーション項目で一致しない場合、ドキュメントへのアクセスは拒否されます。ただし、この機能は管理者ステータスを持つユーザーには適用されず、一致がない場合、これらのユーザーには削除されていないデータセットが表示されます。この設定は、QlikView 7.02 以降で作成されたドキュメントではデフォルトでオンになっており、最大限のアクセスセキュリティを得るためにオンにすることをお勧めします。
セクション アクセスによる初期選択	このオプションを選択した場合は、ドキュメントを開くときに (または QlikView Server で新しい接続を確立するときに)、ドキュメントへのログオンに使用されたユーザー認証に基づいて選択されたデータを表示するための処理が実行されます。QlikView Server 上で排他的に実行されていないドキュメントに対してこの機能を使用する場合は、データアクセスセキュリティを維持するために、必ず バイナリ ロード禁止 オプション (以下を参照) と組み合わせてください。この設定は、 [セクション アクセスによる初期データ削除] と互いに矛盾します。
バイナリ ロード禁止	このオプションが選択されている場合、別の QlikView ドキュメント内の <i>Binary</i> (278 ページ) ステートメントを使用してドキュメントの qvw ファイルからデータをロードすることはできません。

ドキュメントのサムネイル サムネイル オプションを選択している場合の、アクセスポイントでのドキュメントの表示方法を設定します。

なし

Missing Image と書かれたサムネイルがアクセスポイントに表示されます。

開始シート

ドキュメントの開始シートがアクセスポイントに表示されます。

画像

参照ボタンをクリックし、アクセスポイントに表示する画像を選択します。

30.3 ドキュメントプロパティ:シート



ドキュメントプロパティ : シート

ドキュメントプロパティ : シート ページは、QlikView ドキュメントのすべてのシートやシート オブジェクトを把握するのに役立ちます。このページには、**シート** と **シート オブジェクト** の2つのリストがあります。

どちらのテーブルも、列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートできます。

シート リストには以下の情報が含まれています。

#	0で始まるシート番号(位置)。
シート ID	シートの一意の ID。
タイトル	シート タブに現在表示されているテキスト。
状態	シートの状態が「標準」、「隠す」、「条件付き」のどれであることを示します。
オブジェクト数	シートにある現在のシート オブジェクト数。

リストのシートをクリックし、下にある **削除** ボタンを使用する、また、このメニューから直接その **プロパティ** ダイアログを開きます。ここでは、ボタンを使用してシートを **左へ/右へ** 動かすこともできます。

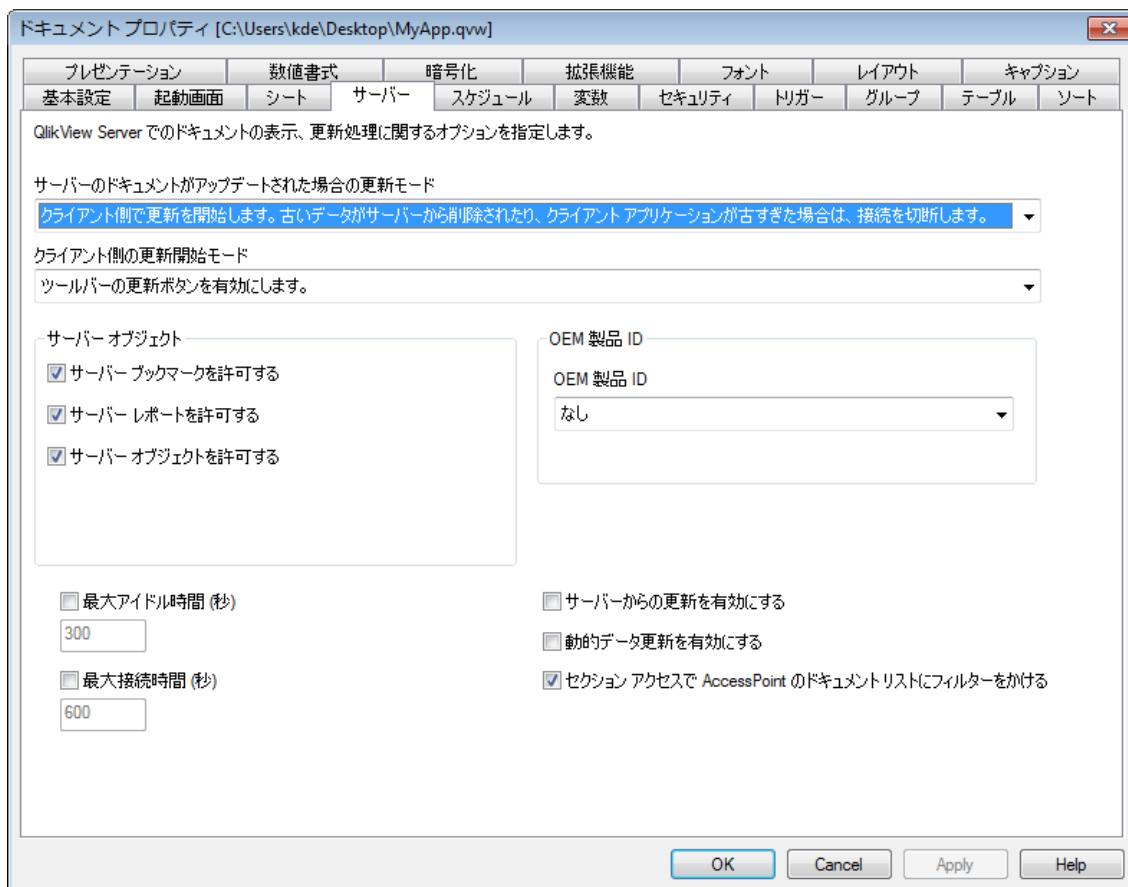
シート オブジェクト リストには以下の情報が含まれています。

シート ID	シートの一意の ID。
オブジェクトID	既存のシート オブジェクトの一意の オブジェクトID をリスト表示します。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。
種類	オブジェクトの種類を明確に記載します。
キャプション	シート オブジェクトのキャプションに現在表示されているテキスト。
表示モード	オブジェクトの状態が「標準」、「最小化」、「最大化」、「隠す」、「条件付き」のどれであることを示します。
演算時間	オブジェクトの内容の前の演算にかかったミリ秒単位の時間。この情報は、チャート、テーブルボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
レイヤー	シート オブジェクトのプロパティ ダイアログの レイアウト ページで設定されレイヤーで、 背面 、 標準位置 、 前面 は、リストに表示される番号 -1、0、1 に対応します。(ただし、シート オブジェクトのレイヤーは、オートメーション API によって -128 ~ +127 の任意の番号に設定できます。)
メモリ	オブジェクトの内容の前の再演算にかかった一時メモリ量 (KB)。この情報は、チャート、テーブルボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
左、上、右、下	シート オブジェクトの端の、ドキュメント ウィンドウの端との相対的な現在位置 (ピクセル単位)。
幅、高さ	シート オブジェクトのサイズ・寸法 (ピクセル単位)。

左(最小化)、上(最小化)、右(最小化)、下(最小化)	アイコン化 (最小化) 時のシート オブジェクトの現在位置 (ピクセル単位)。
幅	シート オブジェクトの最小化アイコンの現在の幅 (ピクセル単位)。
高さ	シート オブジェクトの最小化アイコンの現在の高さ (ピクセル単位)。
構造のエクスポート	このボタンを押すと、ドキュメントのシートおよびシート オブジェクト構造を一連のテキスト ファイルにエクスポートできます。シート用のテキスト ファイル (<i>filename.Sheets.tab</i>) と、シート オブジェクト用のテキスト ファイル (<i>filename.Objects.tab</i>) が生成されますが、これらは、QlikView で簡単に読み取ることができ、QlikView のロジックを十分に活用して詳細に分析できます。エクスポートするターゲット フォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。

リストのオブジェクトをクリックし、下にある **削除** ボタンを使用する、また、このメニューから直接その **プロパティ** ダイアログを開きます。Ctrl キーを押しながらクリックすると複数のオブジェクトを選択できます。

30.4 ドキュメントプロパティ: サーバー



ドキュメントプロパティ：サーバー

このページでは、QlikView Server 上で実行されるドキュメントの動作の一部を定義します。

サーバーのドキュメントがアップデートされた場合の更新モード

この設定は、QlikView Server の更新されたドキュメントの処理方法を定義します。

クライアント側で更新を開始します。古いデータがサーバーから削除されたり、クライアントアプリケーションが古すぎた場合は、接続を切断します。 サーバーがクライアントのデータの更新を自動的に開始しないようにする場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントは、以下の **クライアント側の更新開始モード** の設定に従って更新を行うよう促されます。クライアントが古すぎるか (バージョン 8 以前)、QlikView Server コントロールパネルで **Allow only one copy of document in memory** がサーバーで有効に設定されており、クライアントが更新を実行できない場合は、接続が切断されます。

クライアント側で更新を開始します。古いデータがサーバーから削除されたり、クライアントアプリケーションが古すぎた場合は、自動的に更新されます。 可能な場合はクライアント側でデータの更新を開始し、必要に応じてサーバーが自動的に更新を開始することを許可する場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントは、以下の **クライアント側の更新開始モード** の設定に従って更新を行うよう促されます。クライアントが古すぎるか (バージョン 8 以前)、QlikView Server コントロールパネルの **Allow only one copy of document in memory** がサーバーで有効に設定されており、クライアントが更新を実行できない場合は、サーバーが更新を自動的に実行します。

クライアント側の動作なしにサーバー側で自動的に更新を開始します。 サーバーがクライアントのデータの更新を常に自動的に開始するようにする場合は、このオプションを選択します。サーバーでドキュメントの新しいバージョンが使用可能になると、クライアントのデータが更新されます。

クライアント側の更新開始モード

この設定は、サーバーに新しいデータがあることをクライアントがどのように通知され、更新を開始するかを定義します。この設定は、上記の **サーバーのドキュメントがアップデートされた場合の更新モード** でクライアント側での更新開始を選択した場合にのみ有効です。

ツールバーの更新ボタンを有効にします。 新しいデータがあることは、ツールバーの **[最新の情報に更新]** ボタンが緑色に変わって有効になることで示されます。対応する **[ファイル]** メニューコマンドも有効になります。ツールバーのボタンをクリックするか、**[ファイル]** メニューの **[最新の情報に更新]** コマンドを使用して更新を選択すると、更新が実行されます。

ツールバーの更新ボタンを有効にし、ダイアログを表示して知らせます。 ツールバーの **[最新の情報に更新]** ボタンが緑色に変わるほか、プロンプトダイアログが表示されて、新しいデータがあることが示されます。ダイアログでは、すぐに更新するか後で更新するかを選択できます。後で更新する場合は、ツールバーのボタンをクリックするか、**[ファイル]** メニューの **[最新の情報に更新]** コマンドを使用して更新を選択すれば、いつでも更新を実行できます。

自動的に更新を開始し、ダイアログに表示して知らせます。 サーバーに新しいデータがあることがわかると、すぐに更新が開始されます。更新が実行中であることを示すダイアログが表示されます。

自動的に更新を開始します。 サーバーに新しいデータがあることがわかると、すぐに更新が開始されます。更新が実行中であることを示すダイアログは表示されません。サーバーの設定やドキュメントのサイズによっては、わずかの間、場合によっては数分間、ドキュメントが「フリーズ」する場合があります。

サーバー オブジェクト

このグループの設定により、ドキュメントを QlikView Server で実行しているときに、クライアントが特定の要素を作成したり共有できないようにすることができます。QlikView Server コントロールパネルで **[QlikView Server での共有を許可する]** の設定を無効にすると、サーバー上のすべてのドキュメントのあらゆる種類の共有オブジェクトを無効にできます。この設定は、以下の設定より優先します。

サーバーブックマークを許可する リモートクライアントが QlikView Server 上のドキュメントにブックマークを作成および共有することを許可する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。また、**サーバー オブジェクトを許可 (Allow Server Objects)** を有効にする必要があります。

サーバー オブジェクトを許可 (Allow Server Objects) リモートクライアントが QlikView Server 上のドキュメントにシートオブジェクトを作成および共有することを許可する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。

サーバー レポートを許可する リモートクライアントが QlikView Server 上のドキュメントにレポートを作成および共有することを許可する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。

OEM 製品 ID

このグループの設定では、OEM 製品 ID をドキュメントに追加することができます。OEM 製品 ID は、OEM の顧客のみがドキュメントを開けるように設定する上で役立ちます。詳細については、*Add OEM Product ID* を参照してください。このオプションは OEM パートナー ライセンスで有効になります。

OEM 製品 ID ドロップダウン リストから **OEM 製品 ID** 選択します。

QlikView Server タイムアウト

ドキュメントを QlikView Server で公開する場合は、セキュリティ強化のため、最大接続時間を設定して、アクティブでない接続や長すぎる接続をサーバーが切断するようにすることをお勧めします。この

ページの下部にある設定を使用すると、これをドキュメントレベルで設定できます。したがって、機密データを含むドキュメントに対する制限をそれ以外のドキュメントに対する制限より厳しくすることができます。

対応する設定はサーバー側にもあり、サーバー側の設定は、公開されたすべてのドキュメントに対して有効です。この2つの設定のうち、より制限の厳しい設定が使用されます。

最大アイドル時間 (秒) このチェックボックスは、非アクティブな接続のタイムアウトを有効にします。つまり、サーバーは、指定された時間ユーザーがクリック操作を行っていない接続を切断します。非アクティブな接続がタイムアウトするまでの時間は、秒単位で設定します。

最大接続時間 (秒) このチェックボックスは、合計接続時間によるタイムアウトを有効にします。つまり、サーバーは、指定された時間が経過すると、ユーザーがクリックしたかどうかに関係なく、接続を切断します。接続がタイムアウトするまでの合計接続時間は、秒単位で設定します。

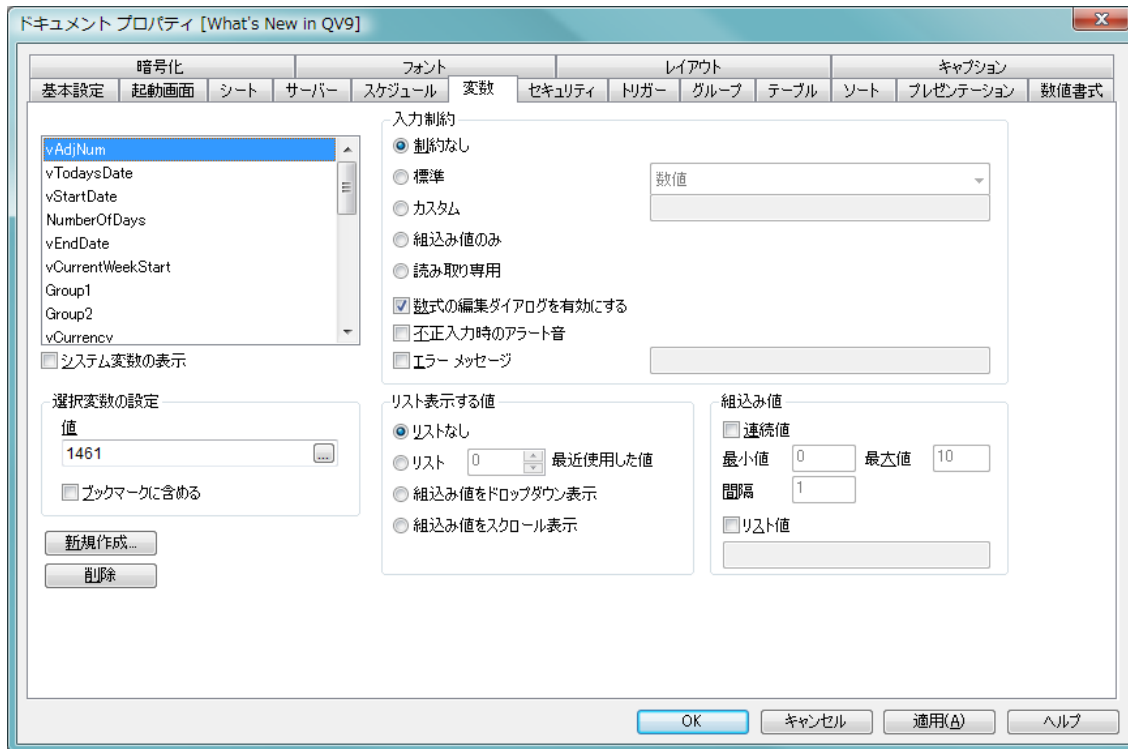
サーバーからの更新を有効にする サーバーでのドキュメントの更新を許可する場合には、このチェックボックスをオンにします。

動的データ更新を有効にする サーバーでのドキュメントのダイナミック更新を許可する場合には、このチェックボックスをオンにします。

セクション アクセスで AccessPoint のドキュメント リストにフィルターをかける このチェックボックスを有効にすると、AccessPoint や [サーバーから開く] でユーザーに表示されるドキュメントは、セクション アクセス、もしくは他のアクセス権でアクセスできるドキュメントのみとなります。セクション アクセスの NTNAME 列に示される名前は、qvw ファイルにプレーン テキストで保存されますが、パスワードは保存されません。

注意：このオプションが有効な場合、AccessPoint は、一部のケースで、セクション アクセスに基づきユーザーにはアクセス権のないドキュメントをリストアップします。なぜなら、セクション アクセスの機能が作動するからです。しかし、ユーザーはこれらドキュメントを閲覧できますが、開くことはできません。

30.5 入力ボックスプロパティ:制約とドキュメントプロパティ:変数



入力ボックスプロパティ：制約とドキュメントプロパティ：変数

入力ボックスプロパティ：制約 ページは、入力ボックスを右クリックし、フロートメニューから**プロパティ**を選択して開きます。変数(209ページ)ページの**表示変数**に追加された入力ボックスプロパティ：基本設定(650ページ)は、**制約**ページの**変数**にリストされ、修正することができます。

ドキュメントプロパティ：変数 ページは、**設定 - ドキュメントプロパティ：変数** から開けます。変数のリストは、**システム変数の表示** チェックボックスで変更できます。**新規作成** ボタンで、ドキュメントに新しい変数を追加できます。**削除** ボタンは、選択された変数を削除します。

選択変数の設定 グループでは、選択された変数の現在の**値**が編集ボックスに表示されます。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ(917ページ)ダイアログが開かれます。

変数は、通常ブックマークには含めませんが、ここで**ブックマークに含める** チェックボックスをオンにできます。

入力制約 グループでは、入力ボックスの変数にユーザーが入力したすべての値をチェックするための制約を指定できます。値が指定された制約を満たさない場合、その値は拒否され、エラーメッセージを表示できます。次の選択肢を使用できます。

制約なし

入力値はいかなる制約に対してもチェックされません。

標準	入力値は、ドロップダウン ボックスで選択した一般的な標準制約のいずれかに対してチェックされます。デフォルトでは、何も制約が選択されておらず、任意の値を変数に入力できます。 標準 、 カスタム 、 組込み値のみ 、 読み取り専用 から 1 つだけを選択できます。
カスタム	ユーザー指定の制約に関して入力値がチェックされます。制約は編集ボックスに入力し、入力値が有効な場合に TRUE (0 以外の値) を返す QlikView 式として表す必要があります。数式では、入力値はドル記号「\$」で参照します 例： \$>0 を指定した場合、入力ボックスは、選択した変数に正の数のみを受け付けます 変数の前の値は、変数名で参照できます。 例： 変数 abc に対する制約として \$>=abc+1 を指定した場合、入力ボックスは「前の値 + 1」以上の値の数値エントリのみを受け付けます。
組込み値のみ	入力値は、 組込み値 グループで定義されている値のリストに対してチェックされます。リストにある入力値だけが受け付けられます。
読み取り専用	変数を読み取り専用としてマークします。値は入力できません。
数式の編集ダイアログを有効にする	このチェックボックスをオンにすると、 数式の編集 ダイアログで変数値を編集することができます。このダイアログは、値をクリックすると表示される [...] ボタンから開けます。
不正入力時のアラート音	このチェックボックスをオンにした場合、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとする、警告のアラート音が鳴ります。
エラー メッセージ	通常、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとする、その値は拒否され、現在の変数値が入力されたままになります。このチェックボックスをオンにすると、不正な入力があった場合にユーザーに提示する カスタムエラー メッセージ (1059 ページ) を指定できます。エラー メッセージを編集ボックスに入力します。動的に更新する 計算式 (1053 ページ) として指定することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

リスト表示する値 グループでは、入力ボックスに値をリスト表示する方法や表示するかどうかを設定できます。

リストなし 以前に変数で使用された値のリストは保持されません。

最近使用した値のリスト 選択した変数の入力ボックスに、最近使用した値のドロップダウン リストが提供されます。以前の値をいくつ保存するかを **入力** ボックスで設定できます。

組込み値をドロップダウン表示 選択した変数の入力ボックスに、**組込み値**のドロップダウン リストが提供されます。

組込み値をスクロール表示 選択した変数の入力ボックスに、スクロールコントロールが提供されます。**組込み値**の間でスクロールが行われます。

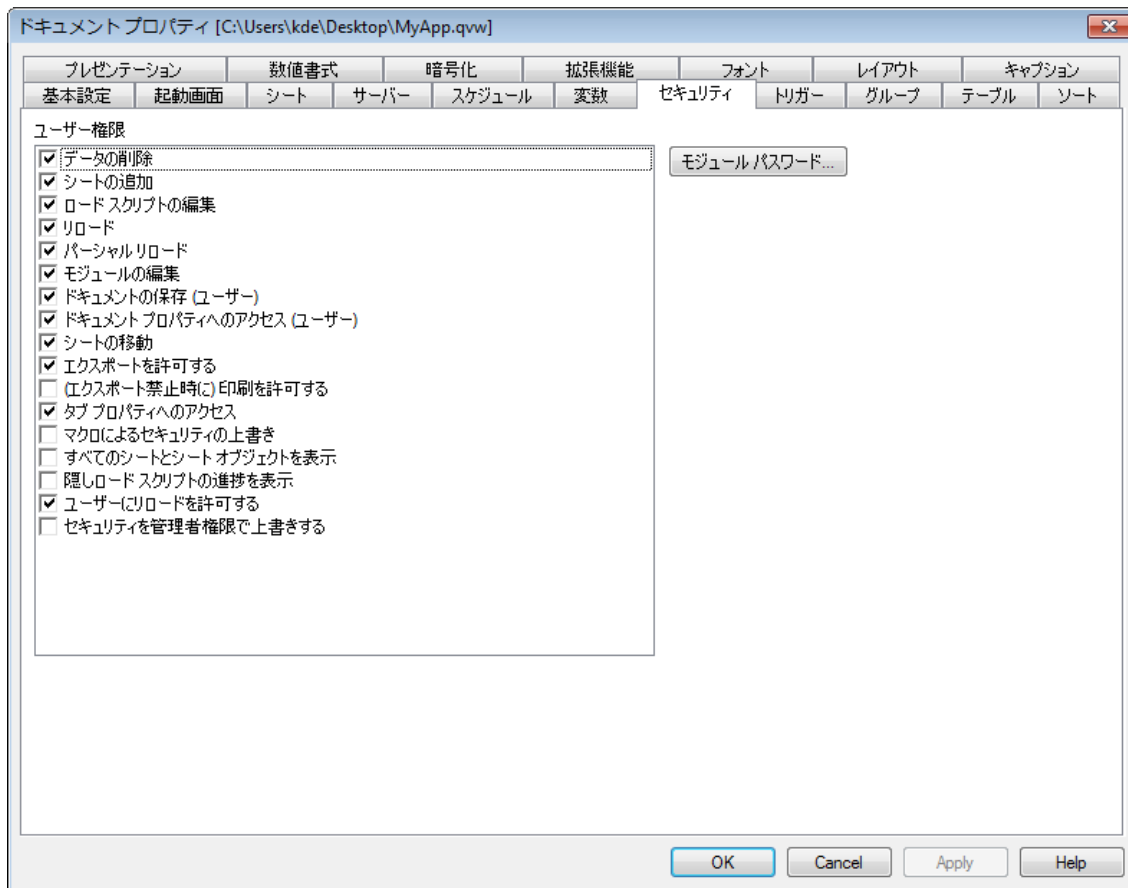
組込み値 グループでは、ドロップダウン リストでユーザーに提示したり、有効な変数値の定義に使用できる組込み値のリストを指定できます。

連続値 このチェックボックスをオンにすると、下限値、(**最小値**)、上限値(**最大値**)、**間隔値**に基づいて、組込みの数値リストが生成されます。このオプションは、単独で使用することも、**リスト値**と組み合わせて使用することもできます。

リスト値 このチェックボックスをオンにすると、任意の組込み値のリストを指定できます。値には、数値またはアルファベットを使用できます。英数値は引用符で囲む必要があります(例: 'abc')。複数の値はセミコロン (;) で区切ります(例: 'abc';45;14.3;'xyz')。このオプションは、単独で使用することも、**連続値**と組み合わせて使用することもできます。

コメント この項目は、変数の作成者がその機能や目的を説明できるコメント項目です。

30.6 ドキュメントプロパティ:セキュリティ



ドキュメントプロパティ : セキュリティ

このプロパティ ページでは、ドキュメントレベルの **ユーザー権限** を設定できます。初期設定では、すべてのオプションのチェックボックスがオンに設定されています。管理者権限を持つユーザーは、いつでもこのダイアログにアクセスして設定を変更できます。設定はさまざまな方法で、普通のユーザーがドキュメントの変更を行うのを防ぎます。オプションは次のとおりです。

データの削除 データの削除 (60 ページ) コマンドの使用を許可します。

シートの追加 ドキュメントへの新しいシートの追加を許可します。

ロード スクリプトの編集 [ロード スクリプトの編集] ダイアログ (211 ページ) ダイアログ へのアクセスを許可します。

リロード ロード スクリプトの実行を許可します。

注意 !

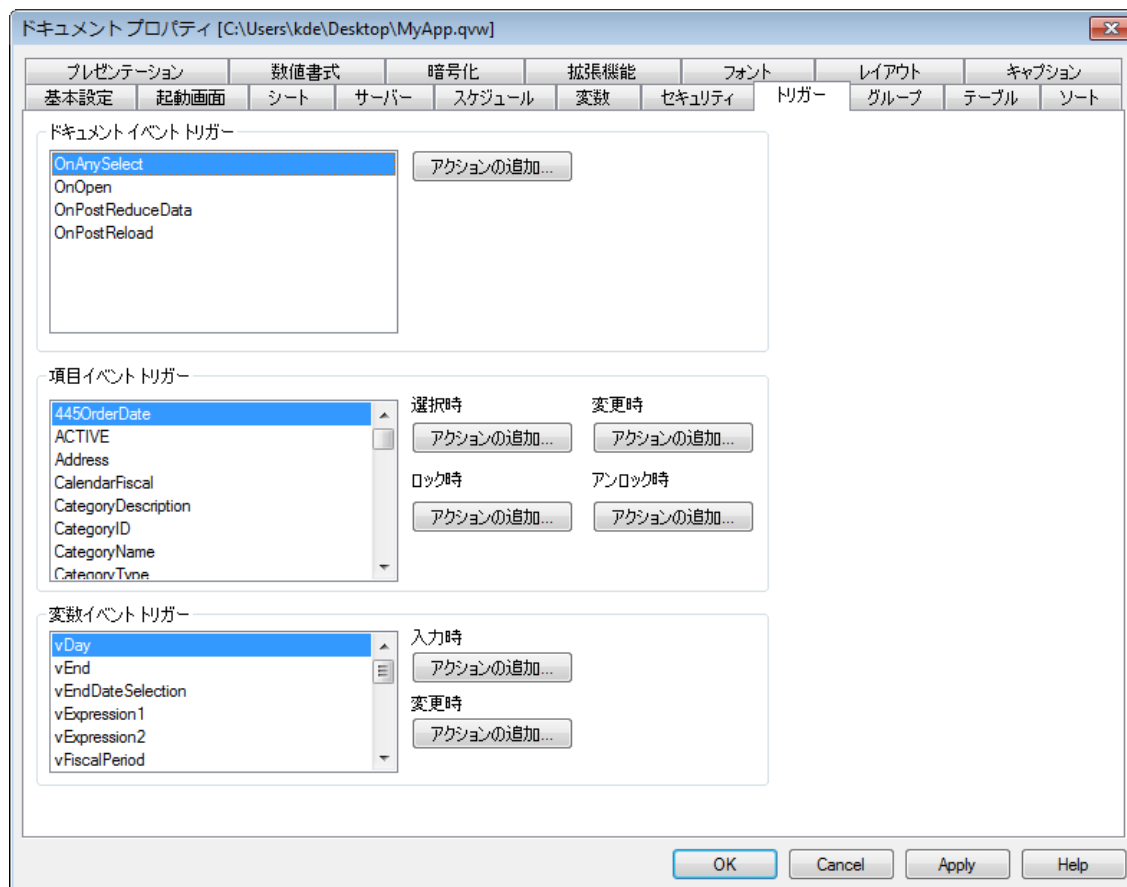
データの **リロード** と **パーシャル リロード** (以下を参照) への許可は、**ファイル** メニューから起動できる **データの削除 - 現在の除外値を削除** を実行すると自動的に無効となります。

パーシャル リロード パーシャルリロード (60 ページ) の実行を許可します。

モジュールの編集	モジュールの編集 (1079 ページ) ダイアログ へのアクセスを許可します。
ドキュメントの保存 (ユーザー)	ユーザー権限でのドキュメントの保存を許可します。
ドキュメントプロパティへのアクセス (ユーザー)	ユーザー権限での [設定: ドキュメントプロパティ] へのアクセスを許可します。
シートの移動	シートを左へ と シートを右へ コマンドの使用を許可します。
エクスポートを許可する	エクスポート、印刷 もしくは クリップボードにコピー コマンドの使用を許可します。
(エクスポート禁止時に) 印刷を許可する	印刷の目的のために [エクスポートを許可する] 設定を無視します。
タブプロパティへのアクセス	[タブプロパティへ] へのアクセスを許可します。
マクロによるセキュリティの上書き	オートメーションによるマクロとコマンドを使用して、すべてのセキュリティ設定を上書きします。
すべてのシートとシートオブジェクトを表示	シートやシートオブジェクトの表示条件が無視され、すべて表示されます。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。
隠しロードスクリプトの進捗を表示	隠しスクリプトの実行中も、ダイアログにスクリプトの進捗状況を表示します。
ユーザーにリロードを許可する	ユーザーモードでドキュメントが開かれている場合に、ロードスクリプトのリロードを許可します。無効にすると、上記の リロード チェックボックスがオンでもリロードできなくなります。
セキュリティを管理者権限で上書きする	管理者としてログインした場合に、ドキュメントやシートレベルのすべてのセキュリティ設定を上書きします。
モジュールパスワード	モジュールの編集 (1079 ページ) ダイアログを開くためのパスワードを設定します。パスワードを変更するには、[モジュールパスワード] ボタンを再度クリックします。

シートプロパティ: セキュリティ (562 ページ) ページで、さらにシートオブジェクトなどへの権限を設定できます。

30.7 ドキュメントプロパティ:トリガー



ドキュメントプロパティ：トリガー

トリガー ページでは、ドキュメント イベント、変数 イベント、項目 イベントで呼び出すアクション (マクロ アクションを含む) を設定できます。マクロの詳細については、モジュールの編集 (1079 ページ) を参照してください。

すべてのアクションが次のイベント トリガーから呼び出せるわけではありません。アクションについては [アクションの追加] ダイアログ (662 ページ) を参照してください。

注意!

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。マクロ トリガーを含むサーバー ドキュメントを作成する前に、QlikView リファレンス マニュアルの QV-Server の QV ドキュメントでのマクロの使用のセクションを参照してください。マクロ トリガーを含むサーバー ドキュメントを作成する前に、QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用 (1089 ページ) のセクションを参照してください。で

ドキュメント イベント トリガー このグループでは、ドキュメント内の選択したイベントで起動するアクションを設定します。リストでイベントを選択してから、そのイベントにアクションまたはマクロを割り当てます。

OnAnySelect

QlikView ドキュメントの任意の項目で選択が行われるたびに実行するアクションを割り当てる場合は、このイベントを選択します。

OnOpen

QlikView ドキュメントが開かれるたびに実行するアクションを割り当てる場合は、このイベントを選択します。AJAX クライアントで実行した場合、このイベントはサポートされません。

OnPostReduceData

[データの削除] コマンドが実行されるたびに実行するアクションを割り当てる場合は、このイベントを選択します。

OnPostReload

ロードクリプトが再実行されるたびに実行するアクションを割り当てる場合は、このイベントを選択します。

アクションの追加

このボタンをクリックすると **アクション (661 ページ)** ページが開きます。このページでは、トリガーにアクションを追加します。アクションに **マクロ** を選択して既存のマクロ名を選択するか、任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **モジュールの編集 (1079 ページ)** ダイアログでマクロを作成します。

選択したドキュメント イベントが発生するたびに、アクションが実行されます。イベントにアクションが適用されると、ボタンが **アクションの編集** に変更され、イベントのアクションを変更できます。

項目イベント トリガー このグループでは、ドキュメント内の指定された項目の論理状態が変化すると起動するようにアクションを設定します。リストから項目を選択し、ボタンのひとつを押して、その項目にアクションを適用します。ボタンをクリックすると **アクション (661 ページ)** ページが開きます。ここでアクションを適用します。アクションには既存のマクロ名、または任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **モジュールの編集 (1079 ページ)** ダイアログでマクロを作成します。アクションの追加に関する詳細については、**アクション (661 ページ)** を参照してください。アクションが項目に適用されると、ボタンが **アクションの編集** に変更されます。次の **項目イベント トリガー** があります。

OnSelect

指定した項目で選択が行われるたびに、アクションが実行されます。

OnLock

項目がロックされるたびに、アクションを実行します。

OnChange

指定した項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるたびに、アクションが実行されます。

OnUnlock

項目がアンロックされるたびに、アクションが実行されます。

変数イベント トリガー このグループでは、ドキュメント内の指定された変数の内容が変化すると起動するようにアクションを設定できます。

リストから変数を選択し、ボタンのひとつを押して、その変数にアクションを適用します。ボタンをクリックすると **アクション (661 ページ)** ページが開きます。このページでは、トリガーにアクションを追加します。マクロの実行を選択して、既存のマクロ名を適用するか、任意の名前を入力できます。名前を入力した場合は、後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成します。アクションの追加に関する詳細については、**アクション (661 ページ)** を参照してください。

変数にアクションが適用されると、ボタンが **アクションの編集** に変更され、イベントのアクションを変更できます。次の **変数イベント トリガー** があります。

OnInput

選択した変数に新しい値が直接入力されるたびに、アクションが実行されます。

OnChange

他の変数またはドキュメントの論理状態が変化した結果として、選択した変数の値が変化するたびに、アクションが実行されます。これは、通常、変数に式が含まれる場合に該当します。

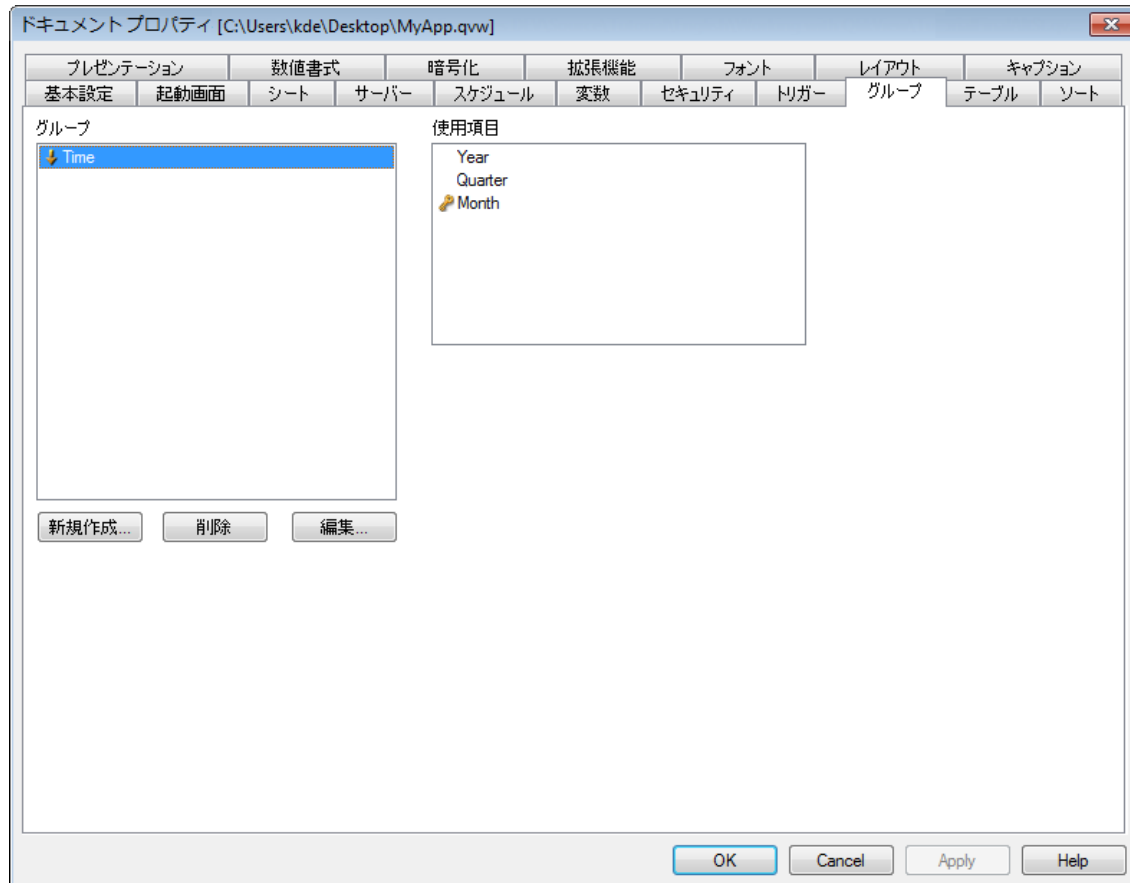
注意！

以前のバージョンの QlikView との互換性を保つには、アクションをマクロアクションで構成する必要があります。ひとつのマクロで構成されるアクションは、保存時に古い形式に変換されます。

注意!

他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があるためサポートされていません。

30.8 ドキュメントプロパティ:グループ



ドキュメントプロパティ : グループ

注意!

グループ タブを有効にするには、ロードスクリプトを一度実行し、ドキュメントにデータが含まれている必要があります。

このページでは、ドリルダウン項目グループまたはサイクリック項目グループを作成できます。グループの使用方法については、非階層グループ (サイクリック) (1056 ページ) と 階層グループ (ドリルダウン) (1055 ページ) を参照してください。

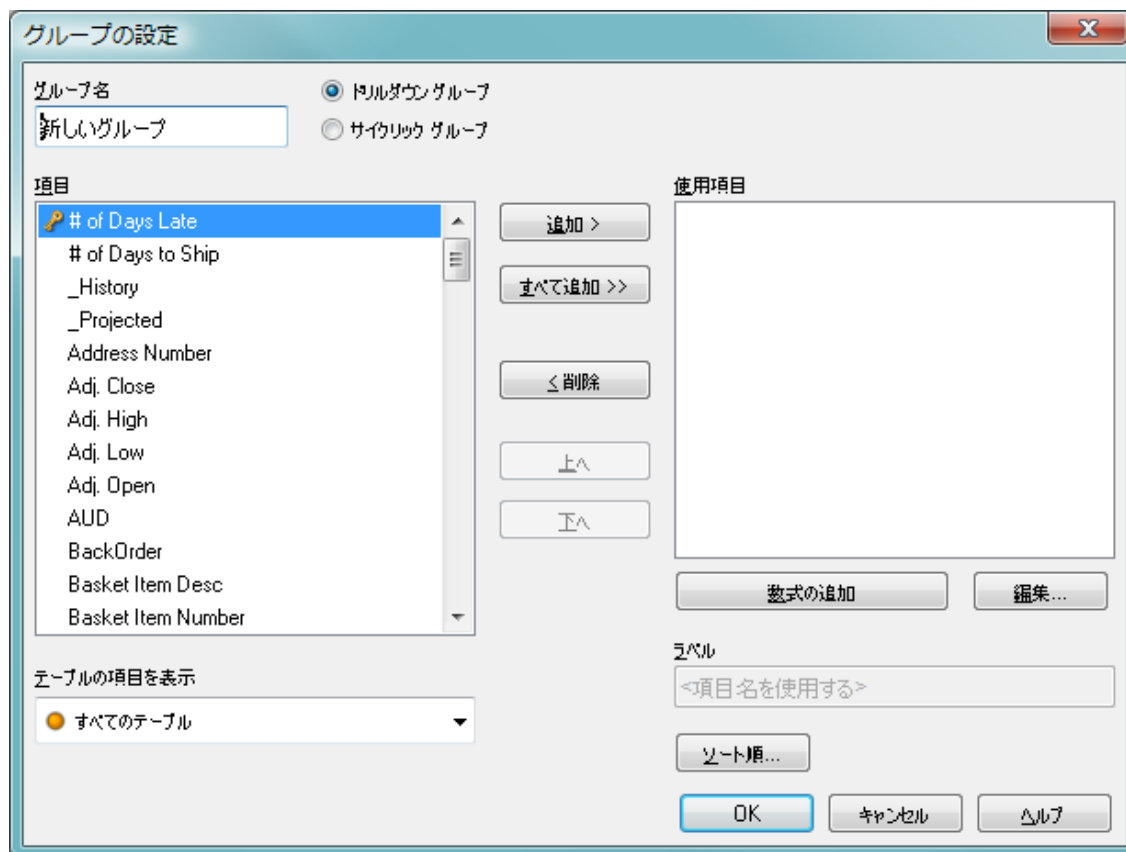
ドキュメントのすべてのグループがリストに表示されます。各グループ名の左にあるアイコンは、それがドリルダウングループか、サイクリックグループかを示します。グループを選択するには、リスト内でグループをクリックします。選択されたグループが、**[使用項目]** 領域に表示されます。

新規作成

このボタンをクリックすると、グループの設定 (534 ページ) ダイアログが開き、新しい項目グループを定義できます。

削除	選択したグループを削除します。
編集	選択したグループの グループの設定 (534 ページ) ダイアログが開きます。このページを使用して、項目グループにアクセスします。

グループの設定



[グループの設定] ダイアログ

ドキュメントプロパティ : グループ (533 ページ) ページの **新規作成** もしくは **編集** ボタンをクリックするとこのダイアログが開きます。

グループ名 グループの名前を入力し、**ドリルダウングループ** もしくは **サイクリックグループ** のいずれかを選択します。

注 : グループで使用されている項目の名前と同じ名前は使わないでください。

項目 この列には、有効な項目がリストされます。グループに含める項目を選択します。

テーブルの項目を表示 テーブルを選択します。

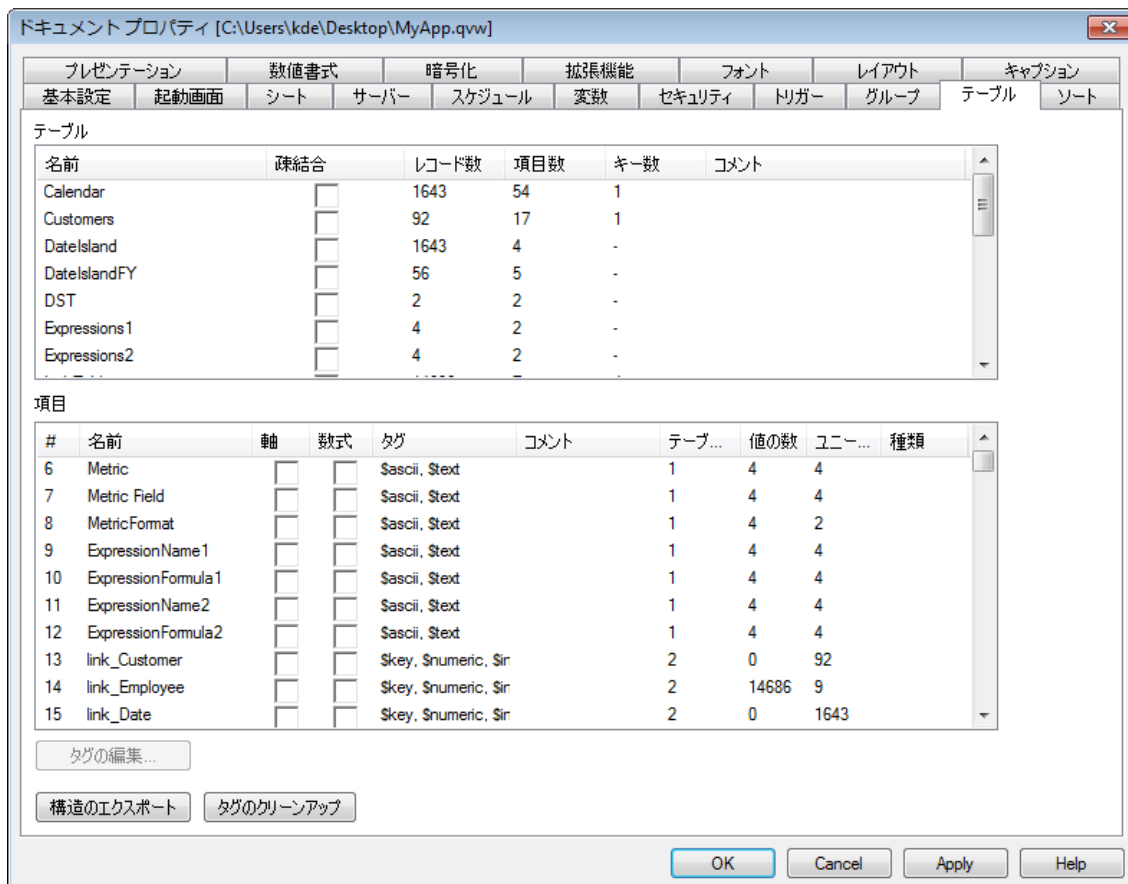
追加 **項目** 列で選択した項目を **使用項目** 列に移動します。

すべて追加 すべての項目を **項目** 列から **使用項目** 列に移動します。

削除 **使用項目** 列で選択した項目を **項目** 列に移動します。

- 上へ** 選択した項目を **使用項目** リスト内で 1 つ上に移動します。
- 下へ** 選択した項目を **使用項目** リスト内で 1 つ下に移動します。
- 使用項目** この列には、現在のグループに含まれている項目がリストされます。最初、列は空です。
- 数式の追加** 長い数式を簡単に編集できる **[数式の編集] ダイアログ (917 ページ)** ダイアログを開きます。
- 編集** **使用項目** 領域で選択した式を編集するために **[数式の編集] ダイアログ (917 ページ)** ダイアログを開きます。
- ラベル** ここには、表示される項目の別名を入力できます。この名前は、チャートで軸の名前として使用されます。動的に更新する **計算式 (1053 ページ)** としてラベルを指定することもできます。
- ソート順** このボタンをクリックすると、**グループのソート順** ダイアログが開き、グループの項目ごとに個別のソート順を設定できます。

30.9 ドキュメントプロパティ:テーブル



ドキュメントプロパティ：テーブル

循環参照を含むデータが QlikView にロードされると、QlikView 内部ロジックで循環参照によるループの生成を防ぐため、疎結合テーブルが自動的に作成されます。疎結合テーブルは、予想される理解可能な方法でデータを視覚化できるように取り扱う必要があります。詳細については、[循環参照 \(133 ページ\)](#)を参照してください。

どのテーブルでも、このダイアログまたはマクロを使用して対話形式で疎結合にすることができます。加えて、ロードスクリプトの中で *Loosen Table (321 ページ)* ステートメントを使用して明示的に疎結合テーブルを宣言できます。

通常の QlikView 連結ロジックは、疎結合テーブルでは内部で切断されます。つまり、ある項目での選択は、同じテーブル内の他の項目には反映されません。これは、データ構造内の循環参照を避けるためなど、多くの状況でとても役立ちます。この機能の使用例については、[QlikView リファレンス マニュアルの付録「疎結合テーブルの意図的な作成」セクション](#)を参照してください。この機能の使用例については、[疎結合テーブルの意図的な作成 \(1113 ページ\)](#) セクションを参照してください。

注意！

1 つ以上のテーブルを疎結合にすると、ドキュメントの動作が大きく変わる場合があります。この機能は、十分に理解したうえで使用してください。

このページには、**テーブル**と**項目**の2つのリストがあります。

どちらのテーブルも、列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートできます。

テーブル リストには以下の情報が含まれています。

名前	内部テーブルの名前。
疎結合	チェックボックスがオンの場合、テーブルは疎結合されています。ここで意図的に、テーブルに疎結合を設定できます。
レコード数	テーブル内のレコード (行) の数。
項目数	テーブル内の項目 (列) の数。
キー数	テーブル内のキー (接続) 項目 (列) の数。
コメント	データソースから読み込んだコメントや項目に付けた コメントフィールド (281 ページ) を表示します。

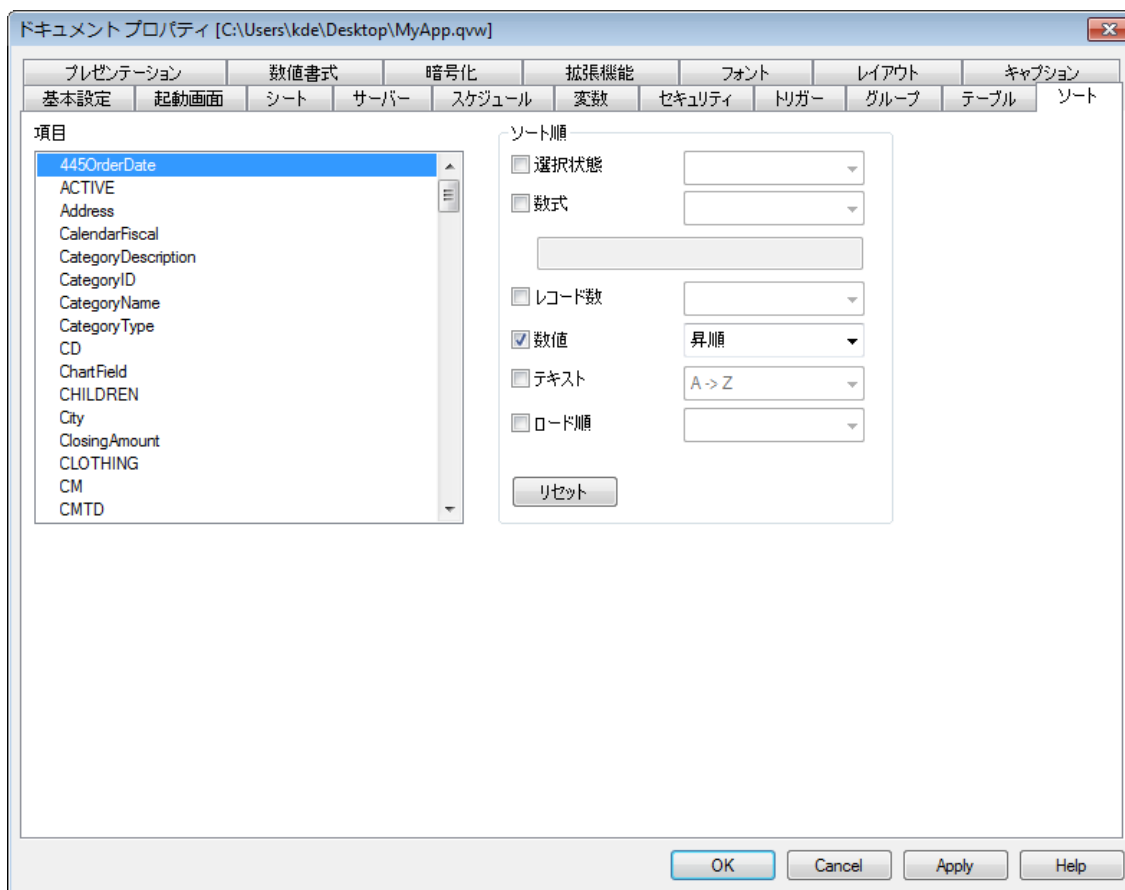
ページ下部にある **項目** リストには、QlikView ドキュメントのすべての項目が表示されます。また、上のリストで 1 つの内部テーブルを選択した場合は、そのテーブルの項目が表示されます。列は次のとおりです。

#	項目の内部番号。0 ~ 5 の番号は QlikView システム項目で使用され、このリストには表示されません。
----------	---

名前	項目の名前。
軸	項目にシステム タグ \$dimension を追加するには、項目名の横のチェックボックスをオンにします。このタグは、チャートの軸やリストボックスなどでの使用を推奨する項目であることを示します。dimension タグの付いた項目は、 数式の編集 ダイアログ以外の QlikView の項目選択リストの上部に表示されます。
計算	項目にシステム タグ \$measure を追加するには、項目名の横のチェックボックスをオンにします。このタグは、数式での使用を推奨する項目であることを示します。measure タグの付いた項目は、 数式の編集 ダイアログの項目選択リストの上部に表示されます。
タグ	項目タグ (207 ページ) を表示します。\$ は、システム タグであることを示します。
コメント	データソースから読み込んだコメントや、 Semantic (セマンティック) 、 AndMode (And モード) 、 AlwaysOneSelected (常に 1 つの選択値) 、 Info (情報) 、 Locked (ロック) または Hidden (非表示) など、項目の特別な状態のインジケータが表示されます。
テーブル数	その項目が存在するテーブルの数。
値の数	選択条件に関わらない、項目値の合計数。この情報は、キー (接続) 項目では使用できません。
ユニークなレコード数	選択条件に関わらない、distinct 項目値の合計数。
種類	Semantic (セマンティック) 、 AndMode (And モード) 、 AlwaysOneSelected (常に 1 つの選択値) 、 Locked (ロック) 、 Hidden (非表示) など、項目の特別な状態のインジケータが表示されます。参照項目：システム変数 (347 ページ)。
タグの編集	タグの追加や削除が可能なダイアログを開きます。ここで、システム タグの削除はできません。追加タグにシステム タグが使用する名前を付けることはできません。
構造のエクスポート	このボタンを押すと、ドキュメントのテーブル構造を一連のテキストファイルにエクスポートできます。これらのテキストファイルはそれぞれ、1 つはテーブル用 (filename.Tables.tab)、1 つは項目用 (filename.Fields.tab)、1 つはマッピング用 (filename.Mappings.tab) に分かれています。QlikView ロジックを活用して詳細な分析を行うために QlikView に簡単に読み取ることができます。エクスポートするターゲットフォルダを選択できるダイアログが表示されます。デフォルトでは、ファイルは QlikView ドキュメントと同じフォルダに保存されます。

タグのクリーンアップ 項目が QlikView ドキュメントから削除された後に残ったタグを削除するには、このボタンをクリックします。

30.10 ドキュメントプロパティ:ソート



ドキュメントプロパティ:ソート

このプロパティ ページでは、ドキュメントの項目値のソート順を設定できます。(項目のソート順は リストボックスプロパティ:ソート (586 ページ) でも設定できます。)

左にある **[項目]** リストから項目を選択し、右にあるオプションを 1 つ以上選択します。オプションを以下に説明します。

ソート順 グループでは、シート オブジェクトの項目値の標準ソート順を設定できます。このグループで行った変更は、変更後に作成したシート オブジェクトの項目に影響します。以前に作成したシート オブジェクトは影響を受けません。

選択状態

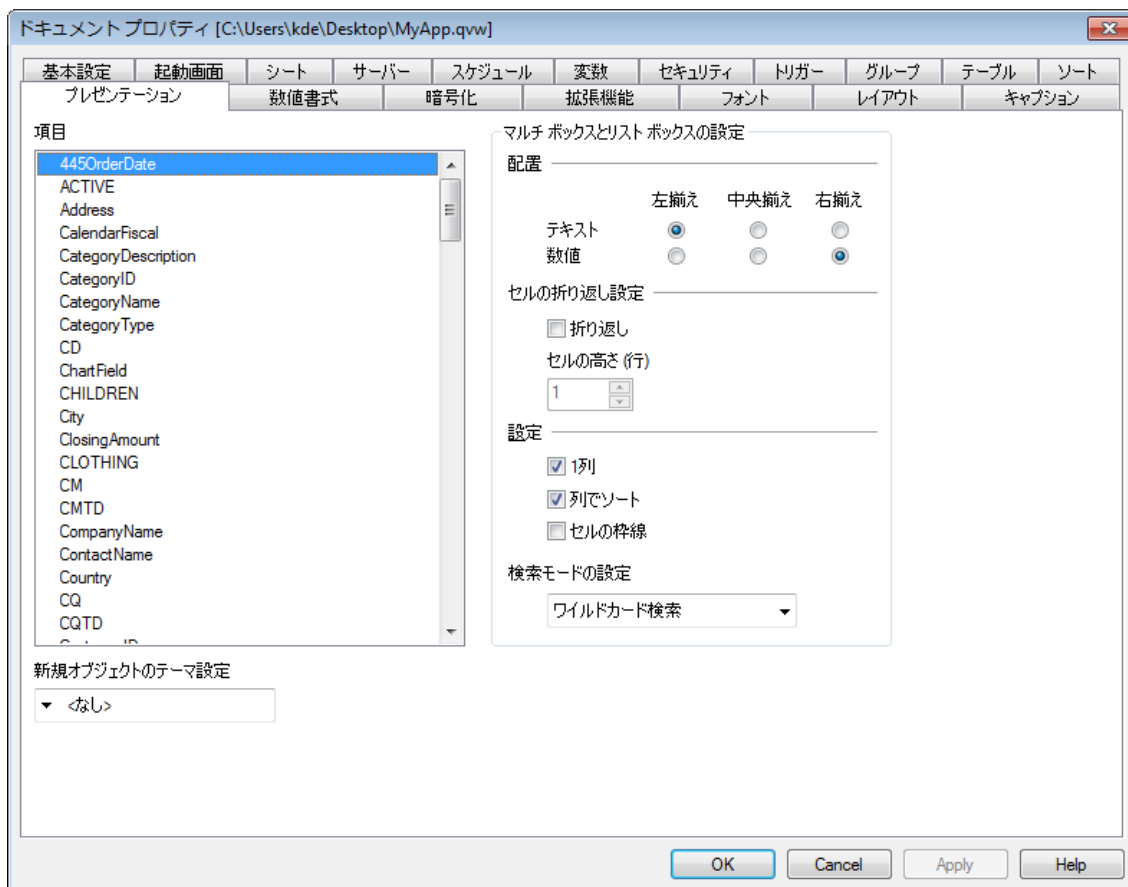
選択状態によって値のソートを行うどうかを切り替えます。このオプションを設定すると選択値がリストの上部に表示されます。ソート順は、**選択値**、**絞込値**、**除外値** (昇順) です。

数式

項目値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した任意の数式に基づいてソートされます。

- レコード数** レコード数によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
- 数値** 数値によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
- テキスト** 標準 ASCII によるアルファベット順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。
- ロード順** ロード順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。
- リセット** ボタンで、選択状態 (昇順)、テキスト (A --> Z) のソート順が設定されます。複数のソート順が指定されている場合の優先順位は、選択状態、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。

30.11 ドキュメントプロパティ:プレゼンテーション



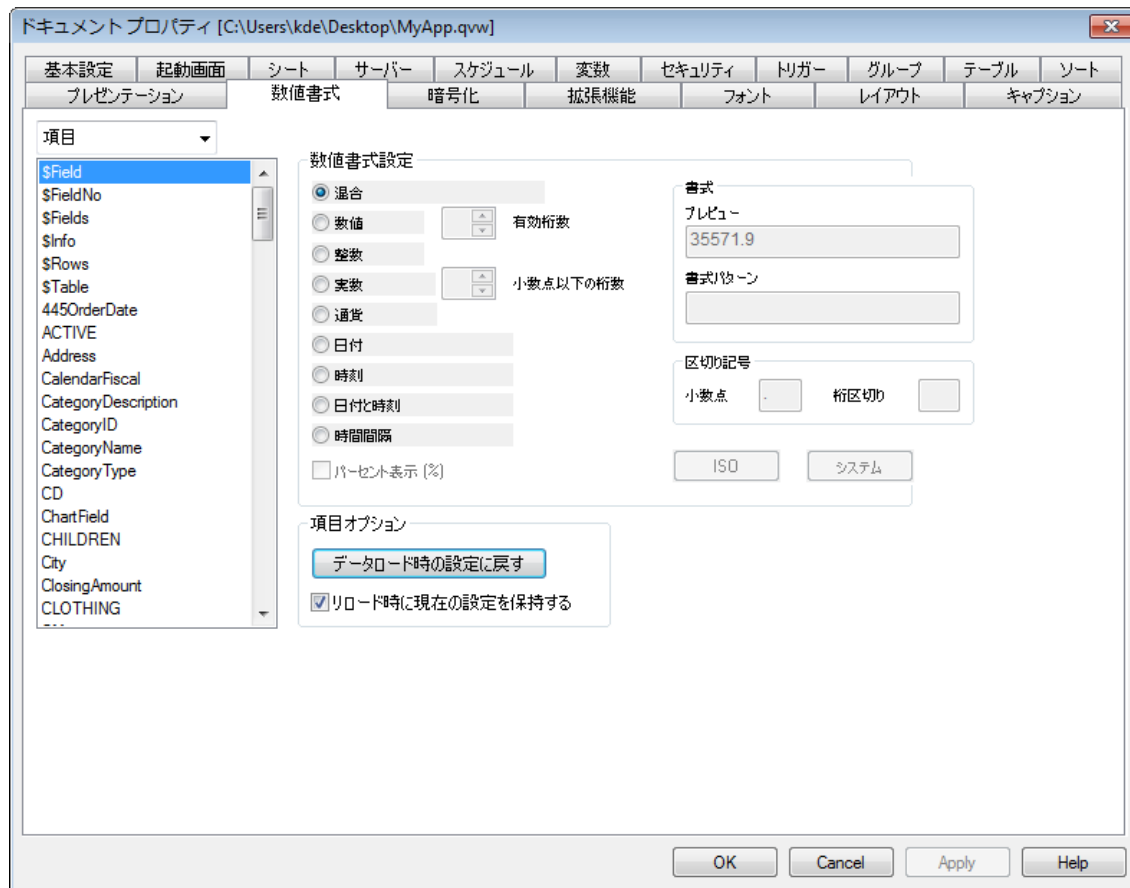
ドキュメントプロパティ:プレゼンテーション

このプロパティ ページでは、リスト ボックスやマルチ ボックスの作成時に使用される項目値のデフォルトの表示設定を指定できます。有効な項目が、**[項目]** グループに表示されます。

マルチ ボックスとリスト ボックスの設定 グループには、サブグループの **配置**、**セルの折り返し設定** および **設定** があります。**検索モードの設定** では、テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。

新規オブジェクトの テーマ設定	<p>ここでは、QlikView のテーマを選択でき、ドキュメント内で新規に作成するすべてのシートとシート オブジェクトに適用されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。</p> <p>テーマのファイルがデフォルトの QlikView テーマ カタログ以外の場所にある場合に備えて、ドロップダウン リストの最下部に [参照...] コマンドがあります。デフォルトのテーマを使用しない場合は、新規のシート オブジェクトは最後に作成または変更されたオブジェクトのプロパティを継承します。</p>
配置	<p>項目値の初期配置は、テキスト と 数値 を別々に設定できます。初期設定では、テキスト値は左揃えに、数値は右揃えに設定されています。</p>
セルの折り返し設定	<p>折り返し チェック ボックスをオンにすると、セル (項目値) の内容 (テキスト) は 2 行以上に折り返されます。</p> <p>セルの高さ (行) 編集ボックスで、セルの行数を設定します。</p>
設定	<p>1 行 このチェックボックスをオンにすると 1 列モードになります。</p> <p>列でソート 複数列で表示する項目値を行ではなく列でソートします。</p> <p>セルの枠線 このチェックボックスをオンにすると、項目値の間に横線を入れます。</p>
検索モードの設定	<p>前回使用したモード 最後に完了した検索の検索モードが使用されます。</p> <p>ワイルドカード検索 ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されます。</p> <p>標準検索 初期値としての検索文字列は追加されません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。</p>

30.12 ドキュメントプロパティ: 数値書式



ドキュメントプロパティ：数値書式

このプロパティ ページは、ドキュメントの項目と変数すべての数値書式設定を提供します。左側にあるリストは、ドキュメントの **[項目]** もしくは **[変数]** を表示するために設定されます。

[項目オプション] グループは、**[項目]** にのみ使用されます。

データロード時の設定に戻す ボタンは、書式設定をデータロード時に設定します。

リロード時に現在の設定を保持する チェックボックスをオンにすると、書式設定は永久にドキュメントに適用されます。

書式設定用に次のコントロールを使用できます。

- 混合** 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
- 数値** **有効桁数** ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
- 整数** 数値を整数で表示します。

実数	小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	プレビュー テキスト ボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

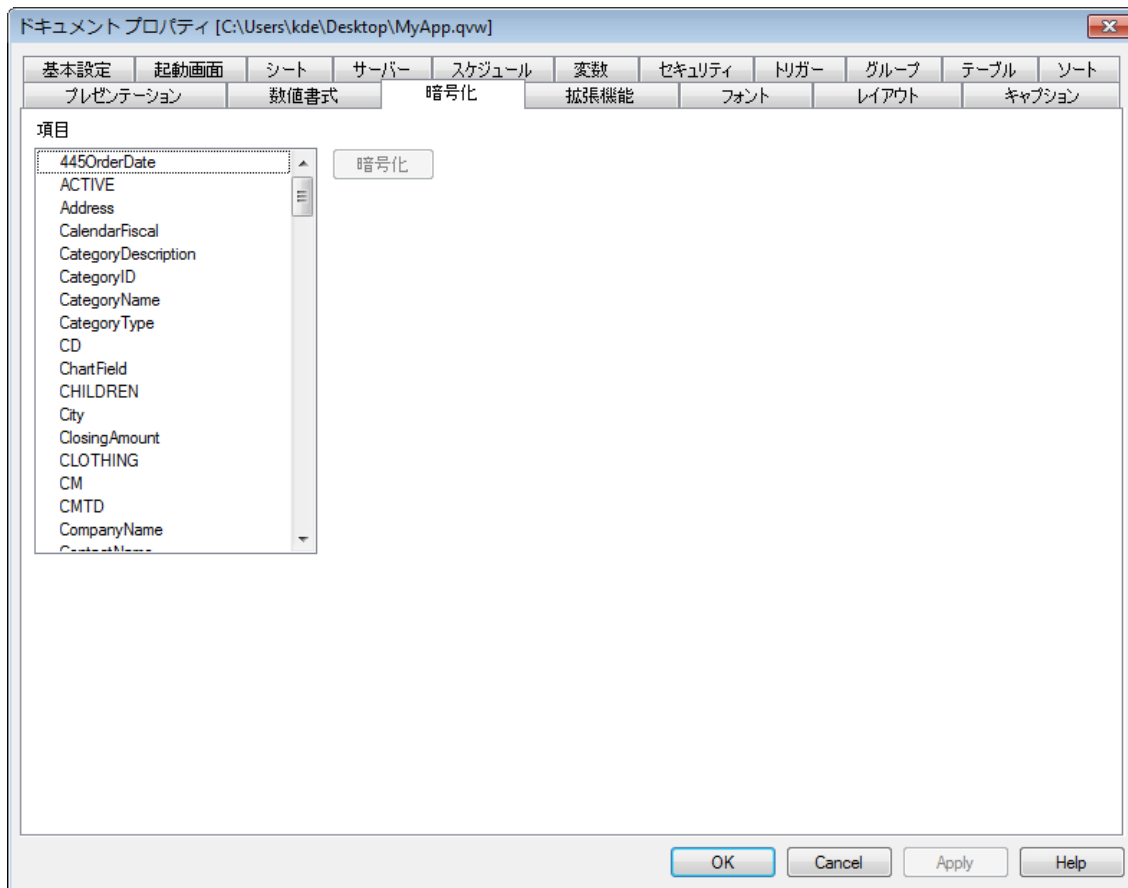
パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します : **数値、整数、実数**。

小数点 と 桁区切り 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 ISO を使用します。

[システム] ボタンは、書式設定にシステム設定を使用します。

30.13 ドキュメントプロパティ:暗号化



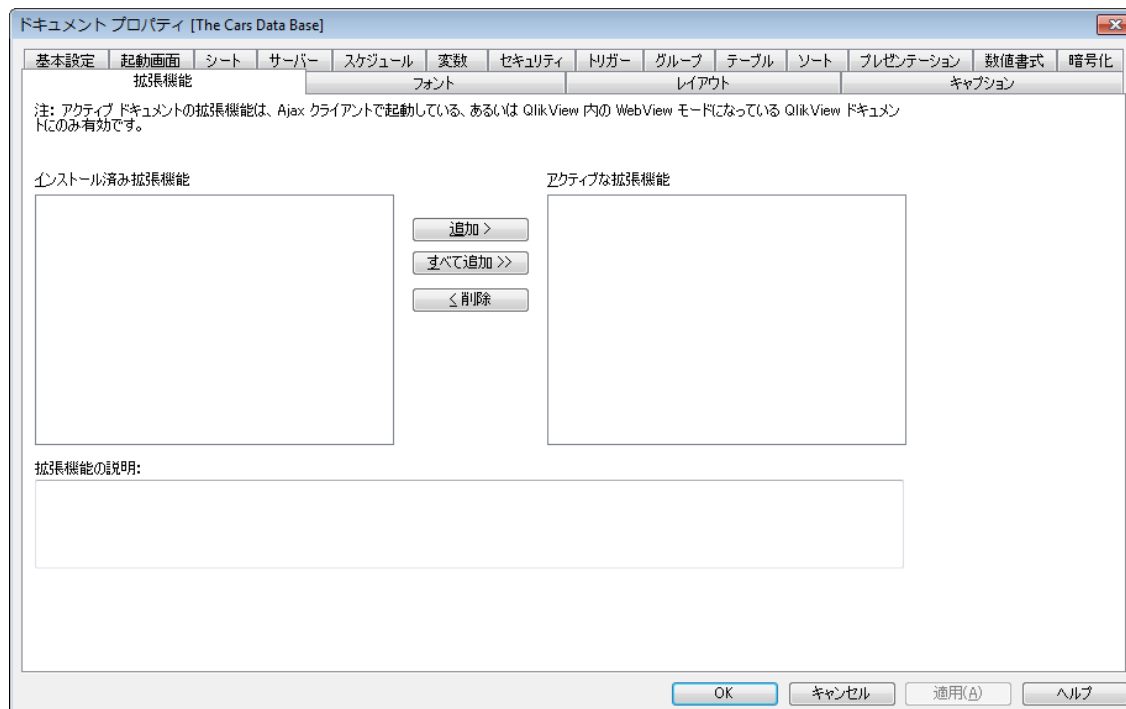
ドキュメントプロパティ：暗号化

このページは、管理者権限モードで QlikView ドキュメントを操作する場合にのみ使用できます。1つ以上の項目のデータを暗号化できます。

項目 ドキュメント内のすべての項目のリストです。暗号化する項目を1つ以上選択します。

暗号化 このボタンをクリックすると、選択した項目の内容のランダム暗号化が実行されます。数値は数値に暗号化され、テキストはテキストに暗号化されます(スペースは保持されます)。一度暗号化すると、QlikTech またはその他の誰であろうと、そのデータを元の形式で再作成することはできません。ただし、ロードスクリプトを再実行すると、暗号化は失われます。

30.14 ドキュメントプロパティ: 拡張機能



ドキュメントプロパティ：拡張機能

このページでは、拡張機能を選択し、ドキュメントのスタイルを改正することができます。

Note!

アクティブなドキュメントの拡張機能は AJAX クライアントもしくは QlikView の WebView モードで開かれている QlikView ドキュメントでのみ有効です。

Note!

ドキュメントの拡張機能はアプリケーション設計者/開発者によって作成されます。ドキュメントの拡張機能は AJAX クライアントを通して QlikView アプリケーションに JavaScript コードを導入する機能を提供します。拡張機能のバリエーションは Web ブラウザのさまざまな JavaScript エンジンによります。

インストール済み拡張機能 リストはインストールされた拡張機能をすべて表示します。リスト内でクリックして拡張機能を選択します。選択した拡張機能は **アクティブな拡張機能** 領域に表示されます。

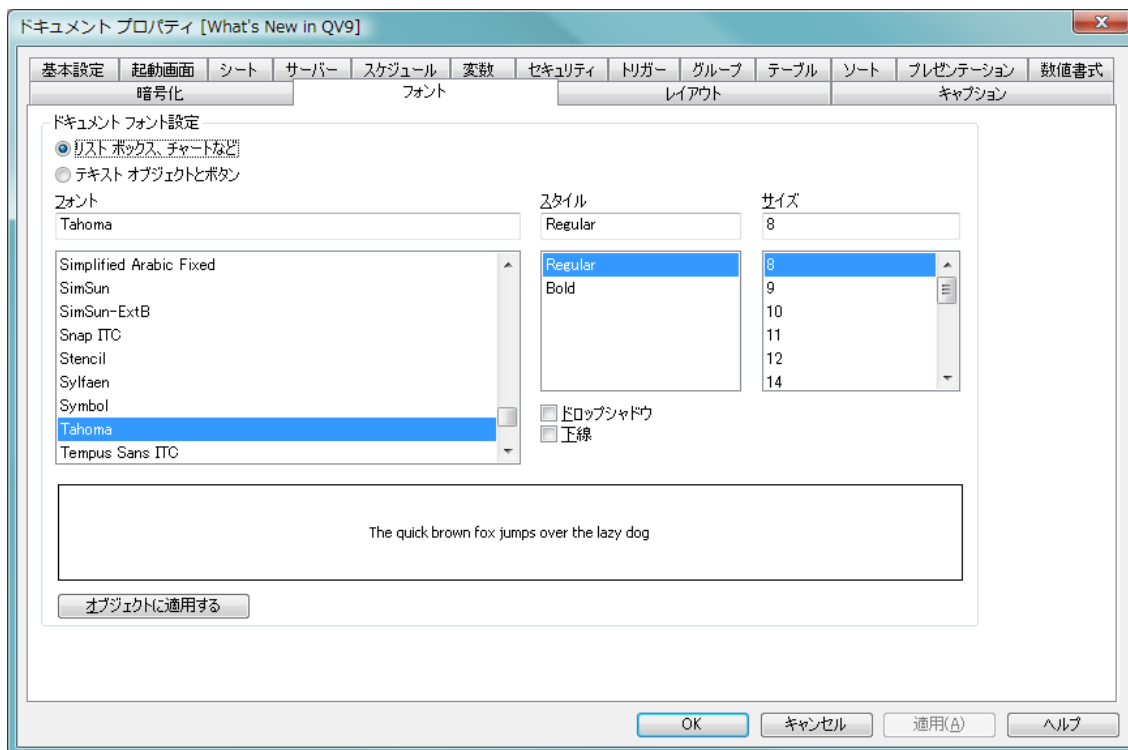
インストール済み拡張機能 インストールされた拡張機能のリストがここに表示されます。

追加 **インストール済み拡張機能** 列で選択した項目を **アクティブな拡張機能** 列へ移動します。

すべて追加 **インストール済み拡張機能** 列のすべての項目を **アクティブな拡張機能** 列へ移動します。

- 削除** アクティブな拡張機能列で選択した項目を **インストール済み拡張機能** 列へ移動します。
- アクティブな拡張機能** アクティブな拡張機能のリストがここに表示されます。これらは **インストール済み拡張機能** 列から追加された拡張機能です。
- 拡張機能の説明** どちらかの列で強調表示された拡張機能に関する説明がここに表示されます。

30.15 フォント



[フォント]ダイアログ

ここでは、**フォント**、**スタイル**および**フォントサイズ**を設定します。

フォントの設定は、ひとつのオブジェクト用には**オブジェクトプロパティ：フォント**ページ、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には**ドキュメントプロパティ：フォント**ページの**オブジェクトに適用する**ボタンで行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**ドキュメントプロパティ：フォント**ページで設定できます。2つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント(**リストボックス、チャートなど**)は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント(**テキストオブジェクトとボタン**)は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**ユーザープロパティ：フォント**ページで設定できます。

チャート、ボタン および テキストオブジェクト (検索オブジェクト以外) には、フォントの **色** も指定できます。色は、**固定** (違う色を指定するには色ボタンをクリックします) もしくは **計算** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数 (453 ページ) を使用して作成されます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

ドロップシャドウ このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。

下線 このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

30.16 レイアウト

[レイアウト] ページ

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティ ページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。

レイアウトの設定をドキュメントのプロパティ ページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

影の強度 **影の強度** ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし** の選択肢もあります。

枠線のスタイル	定義されている枠線は次のとおりです。 固定 単色の固定の枠線です。 くぼみ シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。 浮き彫り シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。 壁 シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。 画像 カスタム画像が指定された枠線。
画像の変更	枠線の種類に 画像 を選択した場合は、このボタンをクリックして、使用する画像を設定できます。
縮小/拡大	枠線の種類に画像を使用する場合、このチェックボックスをオンにすると、4つの角で囲まれた領域全体を覆うように画像パターンが引き伸ばされます。オフにした場合は、画像パターンのコピーが必要なだけ並べて表示されます。
枠線の幅	このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。画像枠線の幅を設定する場合は、その幅を画像に定義されている角の幅と同じにしてください。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、docunits (du、docunit) で指定できます。
色	このボタンをクリックするとダイアログが開き、 画像 以外のすべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
カラフル	画像 以外のすべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。
ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) の スタイルのモード で 簡易設定 が選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは、 影の強度 のドロップダウンメニューと 枠線の幅 のみとなります。	
角を丸くする 角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) で 詳細設定 、 スタイルのモード とせたくしている場合、 角を丸くする のみが使用できます。	
角を丸くする	このオプションをオンにすると、角の形を丸くすることができます。
角の位置	チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。

鋭度 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には通常、鋭度 2 から 5 が最適な数値です。

角の丸み この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値 (%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

下 **背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上のみ配置できます。

標準 シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。

上 **前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと**背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。

カスタム **前面**、**標準位置**、および**背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザード (727 ページ) を開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。詳細に関しては **レイアウト テーマ** (725 ページ) を参照してください。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

常に表示 シート オブジェクトは常に表示されます。

条件付き表示 シート オブジェクトは、選択することで継続的に評価される **条件付き関数** (414 ページ) に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトはその条件が真を返したときにだけ表示されます。

注意!

ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページの**すべてのシートとシート オブジェクトを表示**ですべての表示条件を上書きできます。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。

オプション

オプショングループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **ドキュメントプロパティ：レイアウト** と **シートプロパティ：セキュリティ** でオンの場合にのみ有効です。

- | | |
|----------------------|---|
| 移動/サイズ変更を許可する | このチェックボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。 |
| コピー/複製を許可する | このチェックボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。 |
| INFO を許可する | <i>Info</i> (303 ページ) 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に info アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。 |
| データにサイズを合わせる | 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブルシート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。 |

スクロール バー

スクロール バーグループには、スクロールバーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- | | |
|-------------------------|---|
| スクロール バーの位置を保持する | この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロールバーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。ユーザー プロパティ：オブジェクト (96 ページ) ダイアログでも、この設定が有効になっている必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。 |
| スクロール ボタン | スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロールバーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。 |
| スクロール バーの幅 | このコントロールは、スクロールバーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。 |

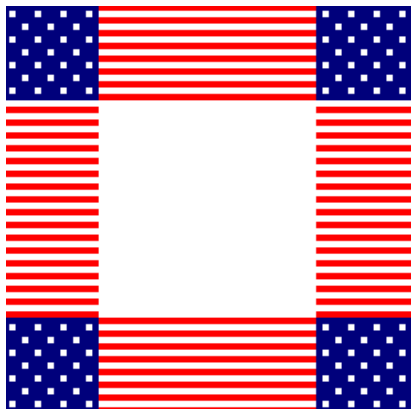
スクロールのスタイル スクロールバーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロールバー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロールバーに対応します。**標準** スクロールバー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト** は細く、ライトなスクロールバーです。

適用するオブジェクト **キャプションと枠線のプロパティ** ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

画像枠線定義ファイルの例

画像枠線は、次の要素を含む 1 つの画像ファイルで定義されます。

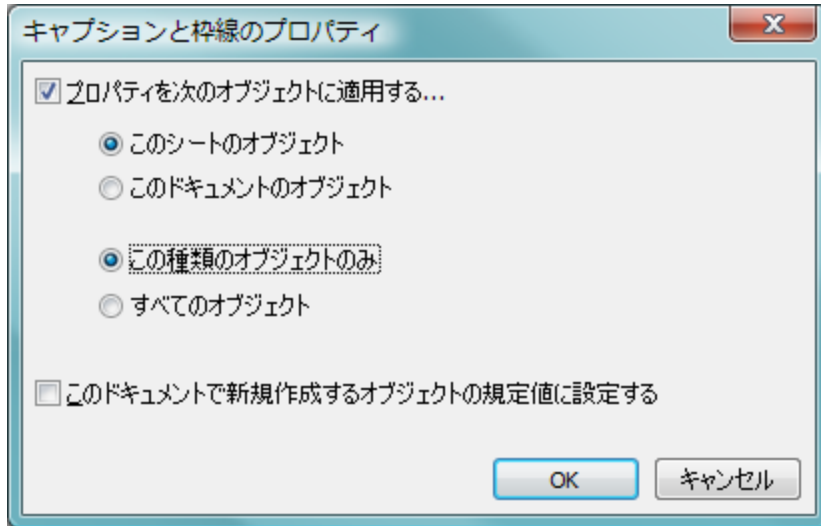
1. 4 つの角は、正方形のピクセルで構成されている必要があります。下の例では、それぞれの角が 15 × 15 ピクセルになっています。4 つの角は同じでも違ってかまいませんが、すべて個別に描画する必要があります。
2. 角と角の間の領域は、角と角の間の上下左右の枠線を表します。最小限のピクセルを定義すれば、そのパターンを引き伸ばしたり繰り返すことで、必要な領域全体が埋められます。縮小/拡大 (594 ページ) を参照してください。
3. 中央の領域に機能はなく、何かを入れても、空にしておくこともできます。



[枠線の幅] ボックス

枠線を正しく表示するには、角の正方形のピクセル数を **枠線の幅** ボックスで正しく指定する必要があります。ファイルには、StarsStripes_15_stretch.bmp のように、パラメータが識別できるような名前を付けるとわかりやすいでしょう。

キャプションと枠線のプロパティ



[キャプションと枠線]プロパティ

このダイアログでは、キャプションと枠線を適用するドキュメントのオブジェクトを設定します。

プロパティを次のオブジェクトに適用する

選択オブジェクト以外のオブジェクトにその設定を適用するには、このチェックボックスをオンにします。

1. オプションのひとつを選択します。

このシートのオブジェクト

このシートにあるオブジェクトにのみ設定を適用します。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

このドキュメントのオブジェクト

ドキュメント全体のオブジェクトに設定を適用します。

2. オプションのひとつを選択します

この種類のオブジェクトのみ

この種類の全てのオブジェクトに適用を設定します。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

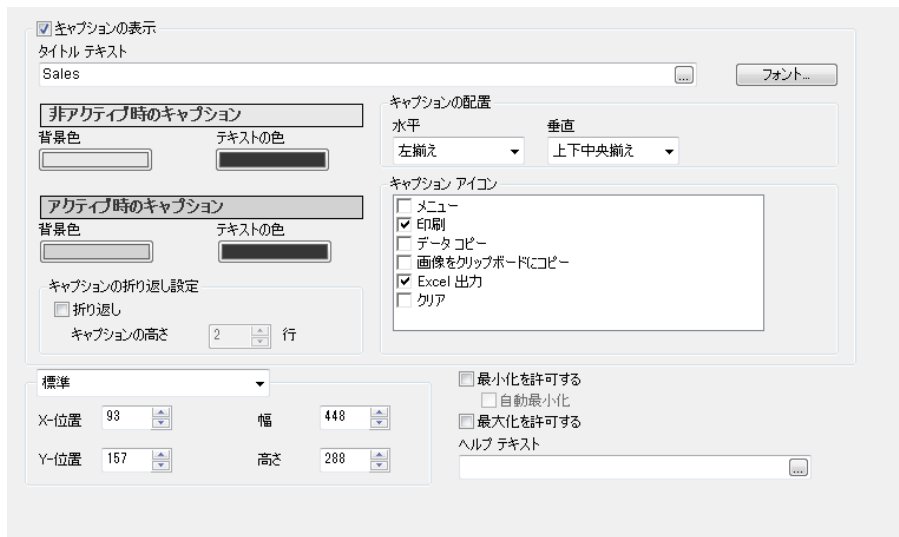
すべてのオブジェクト

すべてのオブジェクトに設定を適用します。

このドキュメントで新規作成するオブジェクトの規定値に設定する

現在のドキュメントの新規作成オブジェクトのデフォルトとして設定を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

30.17 キャプション



[キャプション] ページ

キャプションの設定が [オブジェクト プロパティ] ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。

キャプションの設定が [ドキュメント プロパティ] ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

キャプションの表示

このチェックボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。

タイトル テキスト

テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色** と **非アクティブ時の色** は別々に設定できます。

背景色 や **テキストの色** ボタンをクリックし、色の設定 (515 ページ) ダイアログを開きます。**背景色** は、**色の設定** ダイアログで、**単色** または **グラデーション** として定義できます。**テキストの色** は、**固定** または **計算** 色として **カラー関数** (453 ページ) を使用して定義できます。

折り返し

このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されます。

キャプションの高さ (行) 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準** もしくは **最小化** 時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

X- 位置 シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。

Y- 位置 シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。

幅 QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。

高さ QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

水平 キャプションのラベルは水平方向に整列できます：**左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え**。

垂直 キャプションのラベルは垂直方向に整列できます：**[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または **[下揃え]**。

キャプション アイコン

シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェックボックスをオンにします。

注意！

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

最小化を許可する このチェックボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化できるようになります。

自動最小化 このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

最大化を許可する

このチェックボックスをオンにすると、シートオブジェクトのキャプションウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]**と**[最大化を許可する]**の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。

ヘルプ テキスト

ここには、ポップアップウィンドウに表示するヘルプテキストを入力できます。ヘルプテキストは、計算式 (1053 ページ) として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

シートオブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウキャプションにヘルプアイコンが追加されます。マウスポインターをアイコンに移動させると、ポップアップウィンドウにテキストが表示されます。

31 シート

QlikView ドキュメントは1つ以上のシートを持つことができます。シート上にはシート オブジェクトが配置されます。各シートには多くのシート オブジェクトを入れることができます。シートはロジックとは無関係です。2つの項目が論理的に関連しているとして、それらは同じシートにあっても別のシートにあってもかまいません。選択を行った場合の論理的な結果は同じです。

31.1 作成

新しいシートは、[レイアウト] メニューから [シートの追加] を選択するか、ツールバーの [シートの追加] ボタンをクリックして作成します。

31.2 ナビゲーション

すべてのシートには、シート名が表示されたタブが付いています。タブ上でクリックすると、そのシートがアクティブになります。[シート] ツールバーがアクティブな場合は、ツールバー ドロップダウンでシートを選択することで、シートをアクティブにすることもできます。

タブ上で右クリックすると、次のコマンドが入ったコンテキストメニューが表示されます。

- | | |
|------------------|--|
| タブ プロパティ | タブのフォントを選択するためのダイアログが表示されます。使用できるのは TrueType フォントのみです。タブ プロパティ (564 ページ) を参照してください。 |
| シート プロパティ | シートを選択し、[シート プロパティ] ダイアログを表示します。ここで、シートの背景、表示する項目、デフォルトのフォント、オブジェクトの外観など、シート固有のパラメータを指定できます。この選択肢は、現在アクティブなシートのタブをクリックした場合にのみあります。 |
| シートのコピー | シート オブジェクトがすべて入ったシート全体の完全なコピーを作成します。コピーには "シート名のコピー" という名前が付けられ、ドキュメントの最後のシートとして配置されます。 |
| シートを左へ | シートを1つ左に移動します。 |
| シートを右へ | シートを1つ右に移動します。 |
| ヘルプ | コンテキスト特定ヘルプを開きます。 |
| 削除 | シートをアクティブにし、次にそれを削除します。 |

アクティブなシートのタブをクリックすると、コンテキストメニューには **リスト ボックスの追加** や **シート オブジェクトの追加** コマンドも含まれます。このコマンドの説明については、下を参照してください。

シートタブには、選択内容があることを示す選択インジケータ (小さなビーコン) が付いている場合があります。これらは、アクティブなシートには表示されていない選択内容が表示される非表示シートのタブに表示されます。

31.3 シート:[オブジェクト]メニュー

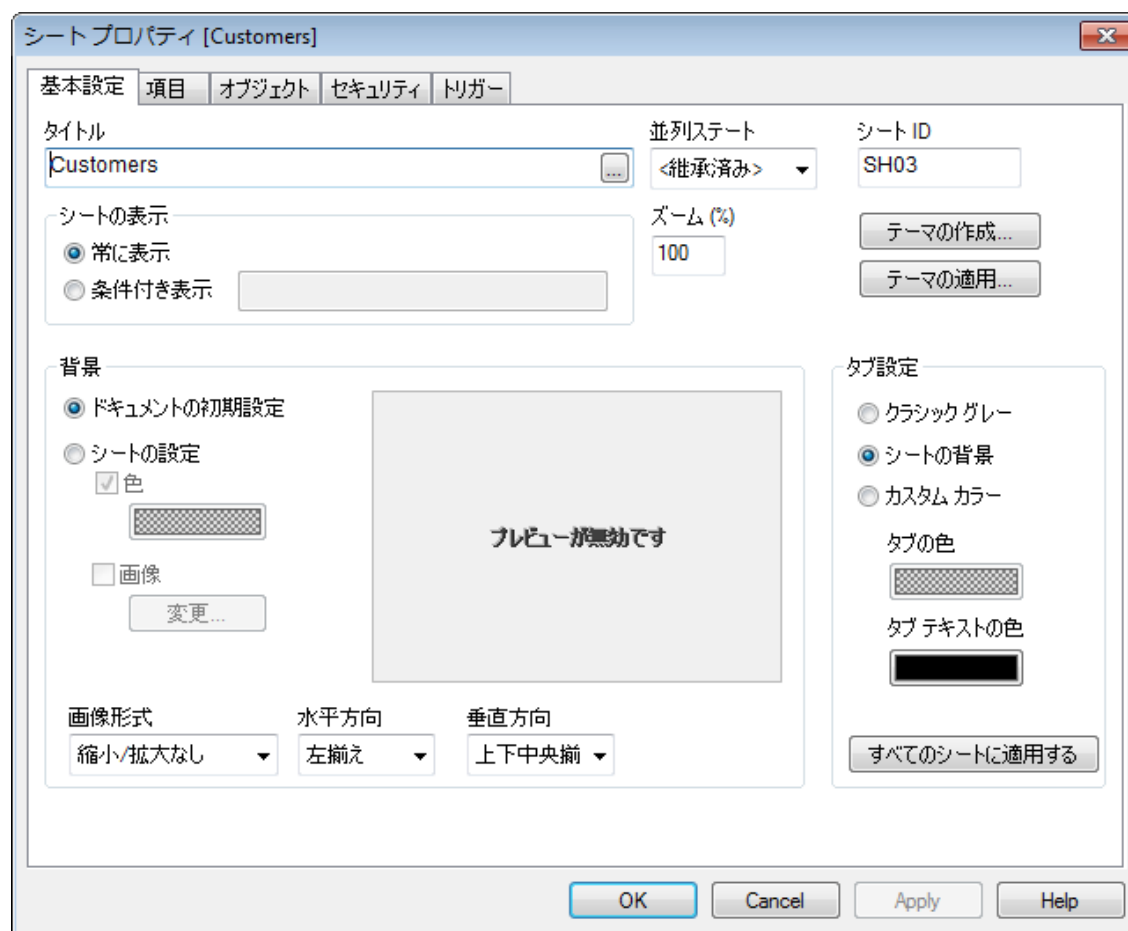
プロパティ	シートプロパティ ダイアログを開きます。ここから、シートを定義する要素を設定できます。
リスト ボックスの追加	シートプロパティ : 項目 ページを表示します。シートにリスト ボックスとして表示する項目などを選択できます。
シート オブジェクトの追加	シート オブジェクトをリストするサブ メニューを開きます。
シートのコピー	シート オブジェクトがすべて入ったシート全体の完全なコピーを作成します。コピーには "シート名のコピー" という名前が付けられ、ドキュメントの最後のシートとして配置されます。
シート オブジェクトの貼り付け	クリップボードにコピーされたシート オブジェクトをシートに貼り付けます。このコマンドは、次のキーボード ショートカットで呼び出すこともできます : CTRL+V。
リンク オブジェクトの貼り付け	クリップボードにコピーされたリンク オブジェクトをシートに貼り付けます。オブジェクトは直接オリジナルのオブジェクトにリンクされ、すべての属性とオブジェクト ID を共有します。
印刷	印刷 は、シート オブジェクトを含むシート領域の画像を印刷します。
画像をクリップボードにコピー	シート領域 (のみ) のビットマップ画像を クリップボード にコピーします。
画像をファイルにエクスポート	現在のシートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートとそのすべてのシート オブジェクトを削除します。

31.4 シートプロパティ

シートプロパティ : 基本設定 (557 ページ) ダイアログを開き、シートの背景、表示する項目、デフォルトのフォント、オブジェクトのレイアウトなど、シート固有のパラメータを指定できます。

シートのプロパティは [シートプロパティ] ダイアログで設定します。これは、シートの [オブジェクト] メニューから [プロパティ] を選択するか、[設定] メニューから [シートプロパティ] を選択すると表示されます。プロパティ コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません (シートプロパティ : セキュリティ (562 ページ) を参照)。

31.5 シートプロパティ: 基本設定



シートプロパティ：基本設定

シートに名前を付けるには、**タイトル** 編集ボックスにテキストを入力します。名前はシートのタブに表示されます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**初期ステート**にあります。

シート ID

これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートには、一意の ID が SH01 から割り当てられます。この ID 番号は後で編集することが可能です。

シートの表示 グループでは、シートを表示する条件を指定できます。

- 常に表示** シートは常に表示されます。
- 条件付き表示** シートは、選択などで断続的に評価される **条件式** に基づいて表示/非表示にされます。シートはその条件が真を返したときにだけ表示されます。**シートの表示** の制限によってドキュメント内のすべてのシートが無効な場合は、"シートはありません" というメッセージが表示されます。ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページにある **すべてのシートとシート オブジェクトを表示** をオンにしてこの条件を無効にできます。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。

ズーム (%) オプションでは、アクティブなシートとシート上のすべての表示サイズを変更できます。

背景 グループでは、シートの背景色を定義します。**ドキュメントの初期設定** は、**ドキュメントプロパティ** ダイアログで定義された背景色を適用します。**シートの設定** をクリックし、**色** チェックボックスをオンにしてボタンをクリックすると、背景色を定義できます。**色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

また、シートの背景は、**画像** をオンにして **変更** ボタンをクリックするとカスタマイズできます。**画像の挿入** ダイアログが開き、使用する画像ファイルを選択できます。

画像形式:

- 縮小/拡大なし** 画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。
- 塗りつぶし** 画像は、縦横比を無視して、シート全体を覆うように拡大されます。
- 縦横比を固定する** 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。
- 縦横比を固定して塗りつぶし** 画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。
- 並べて表示** このオプションを選択した場合、画像は、スペースがあるだけ繰り返し並べて表示されます。

水平方向 と 垂直方向:

- 水平** 画像は水平方向に整列できます：**左揃え**、**中央揃え**、または **右揃え**。
- 垂直** 画像は垂直方向に整列できます：**上揃え**、**上下中央揃え**、または **下揃え**。
- テーマの作成** テーマ作成ウィザード (727 ページ) が開き、新しいテーマを作成したり、既存のテーマを編集できます。詳細に関しては **レイアウト テーマ** (725 ページ) を参照してください。

テーマの適用 シートオブジェクトに適用するレイアウトテーマファイルを選択するためのファイルブラウザダイアログが開きます。詳細に関しては **レイアウトテーマ (725 ページ)** を参照してください。

タブ設定 グループでは、シートのタブの背景色を定義します。

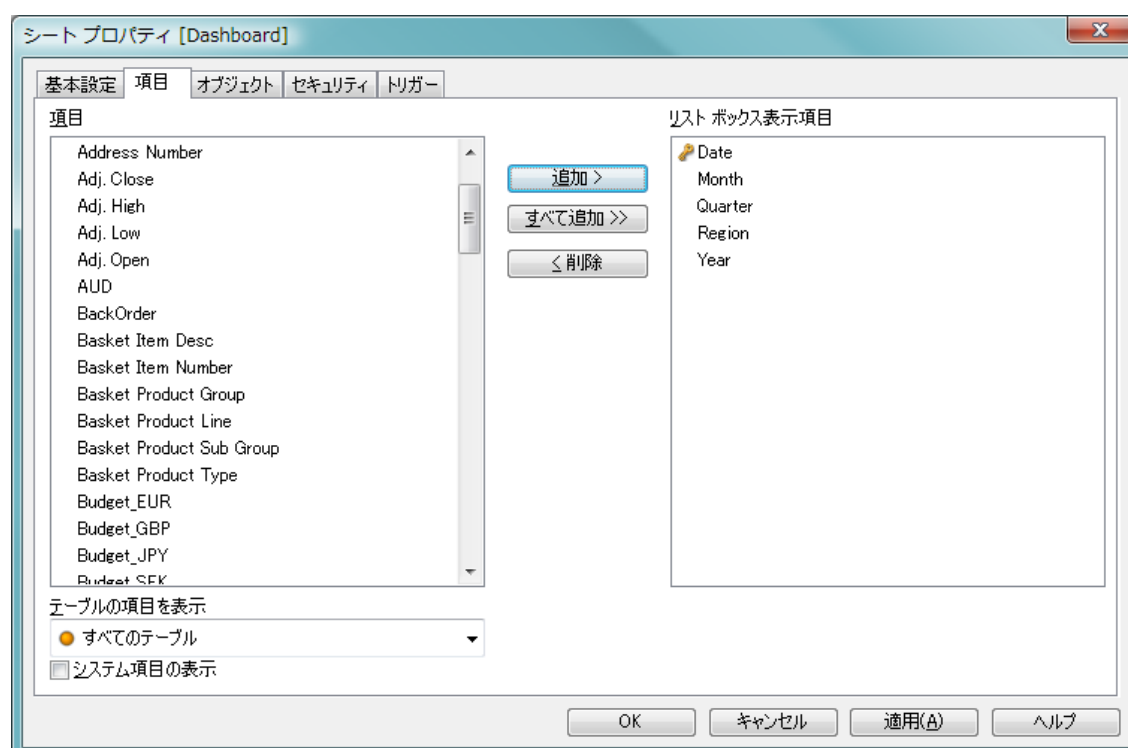
クラシック グレー グレーのタブ配色と黒いテキストを使用する場合は、このオプションを選択します。

シートの背景 タブの色をシートの色に設定します。

カスタム カラー この設定では、それぞれのボタンをクリックして **タブの色** と **タブ テキストの色** を指定できます。

すべてに適用 ドキュメントのすべてのシートにタブの色の設定を適用します。

31.6 リストボックスの追加/シートプロパティ: 項目



シートプロパティ : 項目

ここでは、シートに表示する **項目 (207 ページ)** を **項目** リストから選択します。使用/削除する項目をクリックして選択します。[**追加 >**] ボタンまたは [**< 削除**] ボタンを使用して、目的の列に移動します。

選択された項目は、アクティブなシートにデフォルト設定のリストボックスとして表示されます。リストボックスに特定のプロパティを設定するには、右クリックして表示されるメニューから (もしくは **メインメニューのオブジェクト** から) **プロパティ** を選択します。

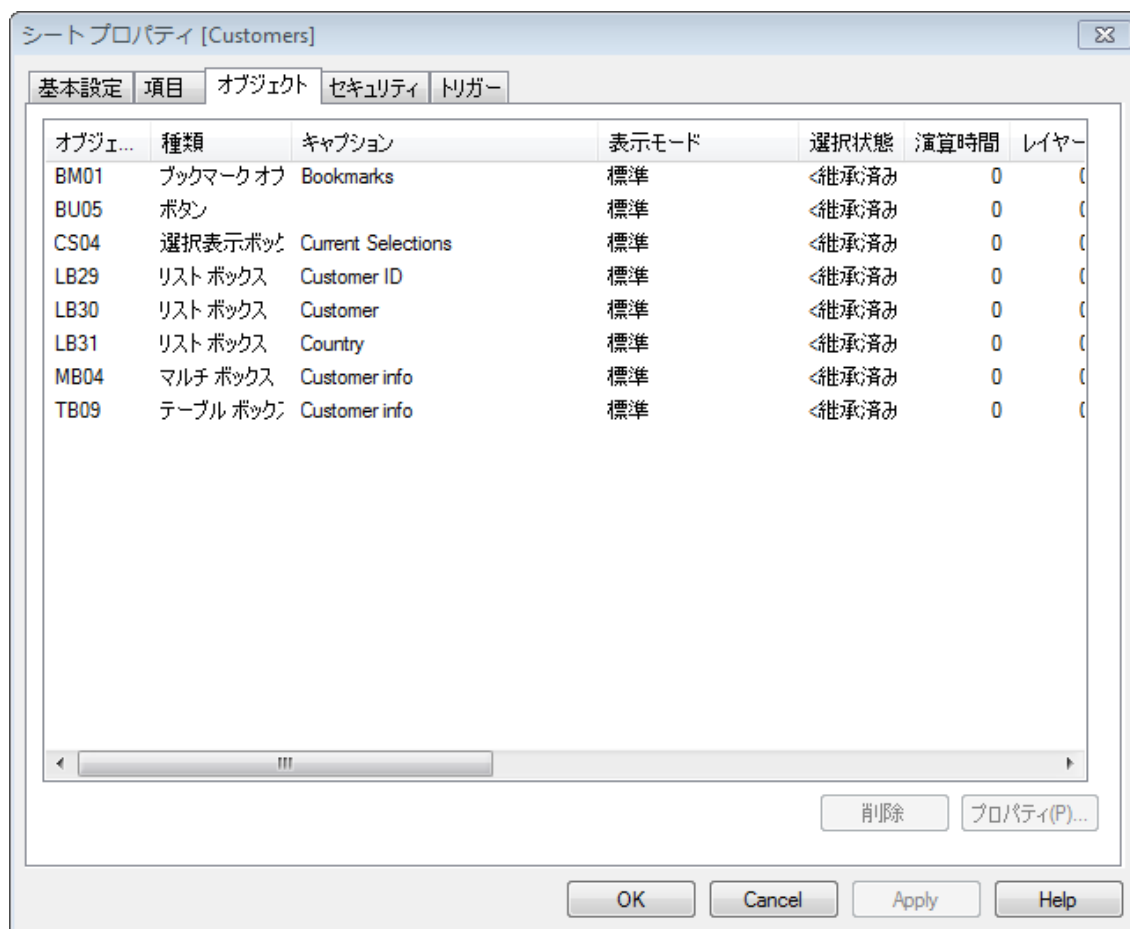
システム項目を選択可能にするには、**システム項目の表示** チェックボックスをオンにします。

テーブルの項目を表示 ここで、**項目** リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで**すべてのテーブル**を表示します。

すべてのテーブル (テーブル名表示) は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は、1度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロードスクリプトの *Qualify* (326 ページ) とは関係ありません。)

一度に1つのテーブルの項目を見ることもできます。

31.7 シートプロパティ:オブジェクト



シートプロパティ : オブジェクト

シートプロパティ : オブジェクト ページは、現在のシート上にあるすべてのシート オブジェクトを把握するのに役立ちます。これによって、オブジェクトが隠されているか、表示条件を設定されているかを把握するのが簡単になります。

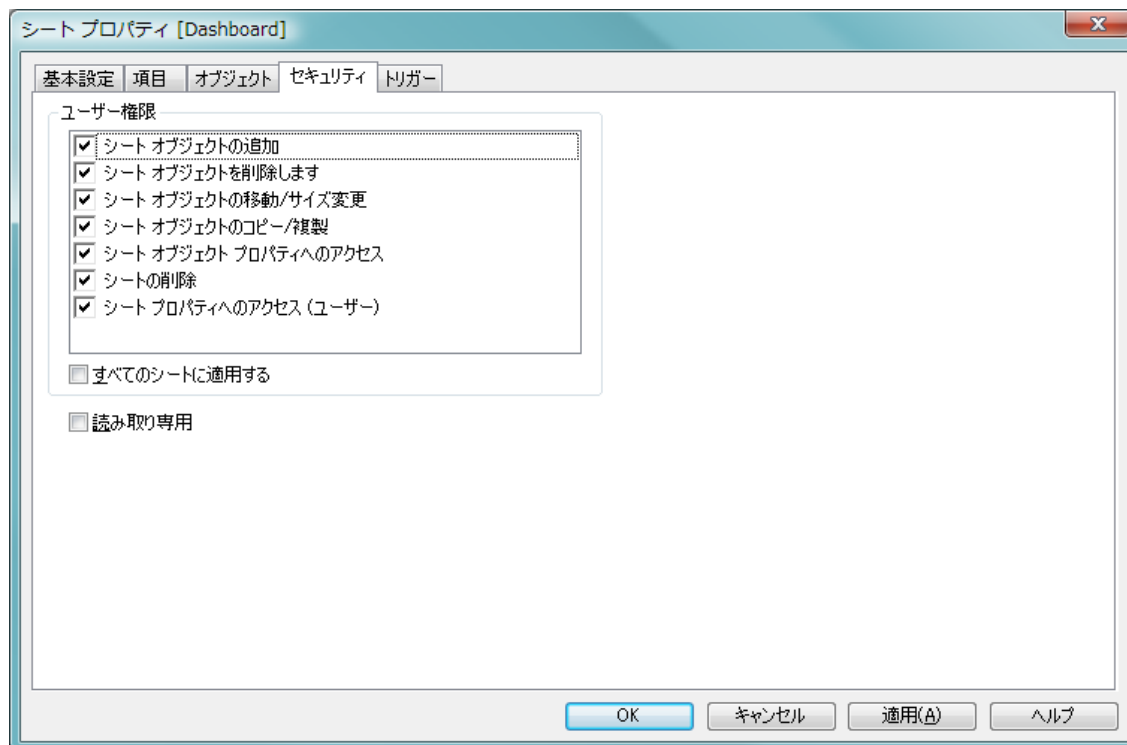
テーブルの列ヘッダーをクリックして、任意の列でソートします。列には次の情報が含まれています。

オブジェクト ID 既存のシート オブジェクトの一意の **オブジェクトID** をリスト表示します。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。

種類	オブジェクトの種類を明確に記載します。
キャプション	オブジェクトのキャプションに (もしあれば) 表示されるテキスト。
表示モード	オブジェクトの状態が「標準」、「最小化」、「最大化」、「隠す」、「条件付き」のどれであることを示します。
選択状態	オブジェクトの状態を表示します。詳細は、 <i>並列ステート (135 ページ)</i> を参照してください。
演算時間	オブジェクトの内容の前の演算にかかったミリ秒単位の時間。この情報は、チャート、テーブルボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
レイヤー	レイヤーは シート オブジェクト プロパティ : レイアウト ページで設定され、 背面 、 標準位置 、 前面 が、番号 -1、0、1 に対応します。任意の値を入力するには、 カスタム を選択します。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
メモリ	オブジェクトの内容の前の再演算にかかった一時メモリ量。この情報は、チャート、テーブルボックス、または式を含むオブジェクトなど、実際に演算するオブジェクトにのみ関係します。
左、上、右、 下	シート オブジェクトの端の、ドキュメント ウィンドウの端との相対的な現在位置 (ピクセル単位)。
幅、高さ	シート オブジェクトのサイズ・寸法 (ピクセル単位)。
左(最小化)、上(最小化)、 右(最小化)、 下(最小化)	アイコン化 (最小化) 時のシート オブジェクトの現在位置。
幅 (最小化)、高さ (最小化)	オブジェクトのアイコンのサイズ。

リストのオブジェクトをクリックすると、**削除** ボタンを使用できるようになり、また、このメニューから直接その **プロパティ** ダイアログを開くことができます。Ctrl キーを押しながらクリックすると複数のオブジェクトを選択できます。

31.8 シートプロパティ:セキュリティ



シートプロパティ : セキュリティ

このプロパティ ページでは、シートレベルの **[ユーザー権限]** を設定できます。初期設定では、すべてのオプションのチェックボックスがオンに設定されています。管理者権限を持つユーザーは、いつでもこのダイアログにアクセスして設定を変更できます。設定はさまざまな方法で、普通のユーザーがドシートのレイアウトを変更するのを防ぎます。オプションは次のとおりです。

シート オブジェクトの追加 新しいシート オブジェクトの追加を許可します。

シート オブジェクトの削除 シート オブジェクトの削除を許可します。

シート オブジェクトの移動/サイズ変更 既存のシート オブジェクトのレイアウト変更を許可します。

シート オブジェクトのコピー/複製 既存のシート オブジェクトのコピーの追加を許可します。

シート オブジェクト プロパティにアクセスします シートプロパティ ダイアログへのアクセスを許可します。

シートの削除 シートの削除を許可します。

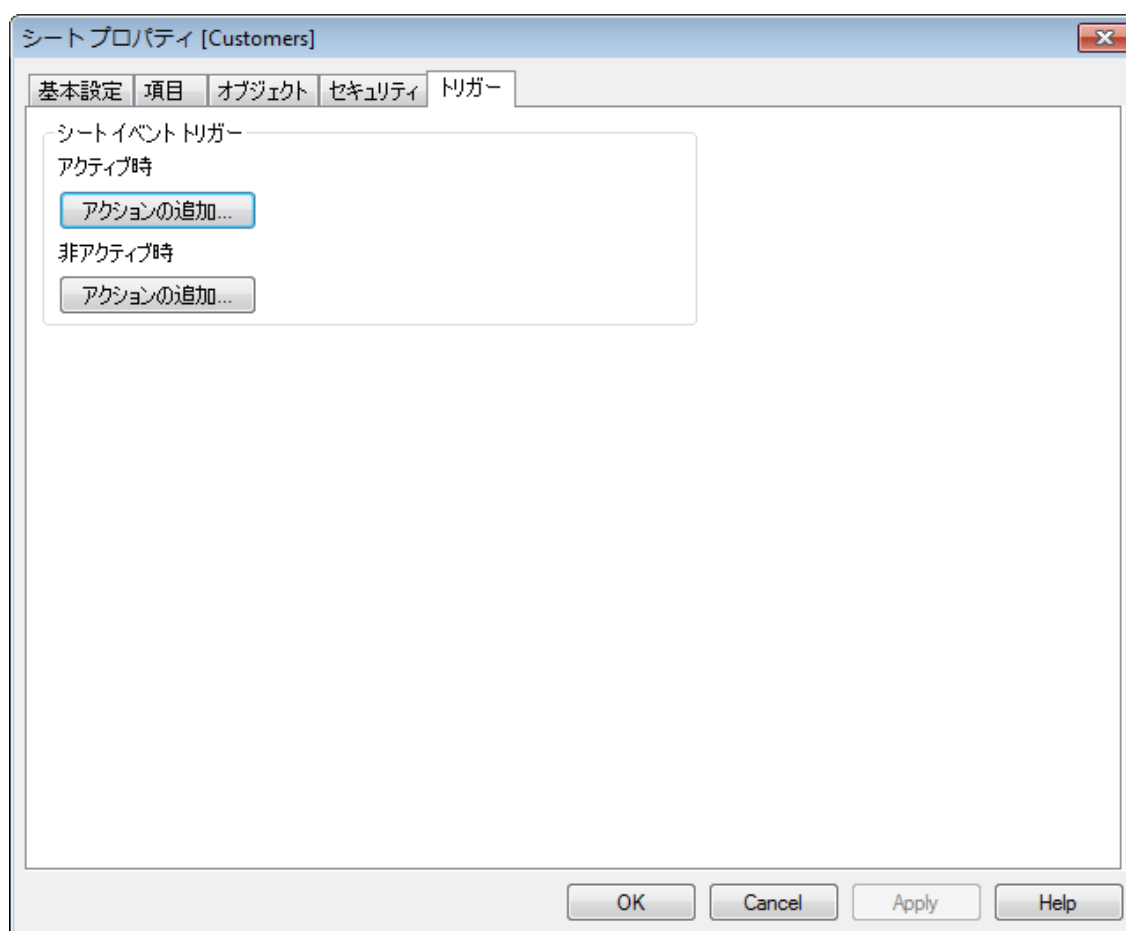
シートプロパティにアクセスする (ユーザー) シート オブジェクトの [プロパティ] ページへのアクセスを許可します。

すべてのシートに適用する チェックボックスをオンにすると、上記のオプションをドキュメントのすべてのシートに適用します。

読み取り専用 このチェックボックスをオンにすると、このシート上のすべてのシート オブジェクトの選択をロックします。これは、シート オブジェクトにできるのは、他のシート上にあるオブジェクトでの選択の結果を表示することだけであることを意味します。

ドキュメントレベルのユーザー権限は、ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページで設定できます。

31.9 シートプロパティ: トリガー



シートプロパティ：トリガー

このページでは、シート イベントで呼び出される、マクロを含むアクションを指定できます。マクロの詳細については、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) を参照してください。

すべてのアクションが次のイベント トリガーから呼び出せるわけではありません。アクションについては [アクションの追加] ダイアログ (662 ページ) を参照してください。

注意！

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロ トリガーは動作が制限されます。マクロ トリガーを含むサーバー ドキュメントを作成する前に、QlikView リファレンス マニュアルの QV-Server の QV ドキュメントでのマクロの使用のセクションを参照してください。マクロ トリガーを含むサーバー ドキュメントを作成する前に、QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用 (1089 ページ) のセクションを参照してください。で

注意！

他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があります。そのためサポートされていません。

**シート イベント トリ
ガー**

このグループでは、アクティブなシートの変更で起動するようにマクロを設定できます。**アクションの追加** ボタンをクリックし、どちらかのイベントの アクション (661 ページ) ページを開きます。このページでは、イベントにアクションを追加します。アクションに **マクロの実行** を選択して既存のマクロ名を選択するか、任意の名前を入力できます。任意の名前を入力した場合は、後で **モジュールの編集** ダイアログでマクロを作成します。イベントにアクションが適用されると、ボタンが **アクションの編集** に変更され、イベントのアクションを変更できます。次の **シート イベント トリガー** を設定できます。

OnActivateSheet

シートがアクティブになるたびに、アクションが実行されます。

OnLeaveSheet

シートが非アクティブになるたびに、アクションが実行されます。

31.10 タブ プロパティ

タブのプロパティは、タブを右クリックすると表示される **[タブ プロパティ]** ダイアログで設定されます。

フォント

フォント (592 ページ) を参照してください。ここでは、タブのテキストのフォントを変更できます。

テキストのフォント、スタイル、およびサイズを指定します。選択したフォントはすべてのタブのテキストに適用されます。

32 シートオブジェクト

シートオブジェクトには次の種類があります。

リスト ボックス	569 ページ
統計ボックス	603 ページ
マルチ ボックス	611 ページ
テーブル ボックス	625 ページ
チャート	731 ページ
入力ボックス	647 ページ
選択表示ボックス	641 ページ
ボタン	657 ページ
テキスト オブジェクト	673 ページ
線/矢印オブジェクト	681 ページ
スライダー/カレンダー オブジェクト	685 ページ
カスタム オブジェクト	717 ページ
検索オブジェクト	701 ページ
ブックマーク オブジェクト	695 ページ
コンテナ	709 ページ

32.1 ローカルオブジェクトとサーバーオブジェクト

シートオブジェクトには3種類あります。

ドキュメントシートオブジェクトは、qvwドキュメント内に保存されます。ドキュメントがローカルで開かれている場合も、QlikView Serverから開かれている場合でも使用できます。

個人用サーバーオブジェクトは、認証されたユーザーがQlikView Serverドキュメントを操作している場合に限り使用できます。サーバーのリポジトリに保存され、認証されたコンピュータのユーザーがアクセスできます。お使いの個人用サーバーオブジェクトは、**[表示]**メニューからアクセスできるサーバーオブジェクトパネル(721ページ)ウィンドウから管理できます。

共有サーバーオブジェクトは、認証されたユーザーがQlikView Serverドキュメントを操作している場合に限り使用できます。個人用サーバーオブジェクトを作成したユーザーは、共有するフラグを付けられます。これで他のユーザーが使用できるようになります。個人用サーバーオブジェクトと同様、共有サーバーシートオブジェクトはサーバーのリポジトリに保存されます。利用可能な共有サーバーオブジェクトは、**[表示]**メニューからアクセスできるサーバーオブジェクトパネル(721ページ)から管理できます。

32.2 [オブジェクト]メニュー

オブジェクトメニューは、現在アクティブなシートオブジェクト用のメニューです。メニューバーで**オブジェクト**を選択するか、シートオブジェクトをマウスの右ボタンでクリックして開くことができます。

シートにまだシートオブジェクトが含まれていないなどの場合は、シートの**オブジェクト**メニューはメニューバーのオブジェクトメニューとして表示されます。

アクティブなシートオブジェクトが複数ある場合、オブジェクトメニューにはアクティブなオブジェクトに共通するコマンドが含まれます。

オブジェクトメニューの説明については、オブジェクトごとのセクションを参照してください。

32.3 ノートとコメント

QlikView Serverに接続しているときは、すべてのオブジェクトにノートとコメントを追加することが可能で、ユーザーは現在のオブジェクトに関するノートを作成し、共有できます。

ノートは他のQlikViewユーザーと共有され、他のユーザーはノートに対するコメントを残すことができます。また、ノートが付いたデータのスナップショット(ブックマーク)を保存することも可能です。オブジェクトを右クリックしてコンテンツメニューから**[ノート]**を選択し、新しいノートの追加や既存のノートの表示ができます。**[新しいノートの追加]**あるいは**[既存のノートの表示]**を選択すると、現在のドキュメントのすべてのオブジェクトに添付されている既存のノートが、左上角に表示されます。各オブジェクトに添付されているノートの数も表示されます。

32.4 Microsoft Office へのドラッグアンドドロップ

QlikViewのシートオブジェクトをMicrosoft Word、Excel、PowerPointに直接ドラッグアンドドロップできます。この機能はローカルやサーバにあるQlikViewドキュメントで、インストールされたQlikViewもしくはQlikView IEプラグインから同様に使用できます。オブジェクトはその双方向性を維

持しますので、例えば PowerPoint の中で QlikView 分析を行うことが可能です。オブジェクトを選択し、それを Office アプリケーションにドラッグするだけで QlikView 以外で使用できます。

注意！

Microsoft Office のドキュメントを使用するコンピュータに QlikView IE プラグインがインストールされている必要があります。

33 リストボックス

Country	
Argentina	3
Austria	2
Belgium	2
Brazil	9
Canada	3
Denmark	2
Finland	2
France	11

リストボックスは、最も基本的なシートオブジェクトです。特定の項目のすべての絞込値のリストが含まれています。リストボックスの各行は、ロードしたテーブルで全く同じ値を持つ複数のレコードを表します。ひとつの値を選択することは、ロードしたテーブルの複数のレコードを選択していることとなります。

リストボックスには、サイクリックグループやドリルダウングループが含まれていることもあります。ドリルダウングループが使用されている場合は、リストボックスで1つの値を選択すると、リストボックスがドリルダウンしてグループ内の基底の項目に切り替わります。ドリルアップして戻るには、リストボックスのキャプションにあるドリルアップアイコンをクリックします。

リストボックスにサイクリックグループが割り当てられている場合は、リストボックスのキャプションに表示されているサイクリックアイコンをクリックすると、グループ内の次の項目を表示できます。また、リストボックスのオブジェクトメニューの**サイクリック** オプションを使用して、グループ内の任意の項目に直接移動することもできます。

リストボックスを右クリックすると、**リストボックス：オブジェクトメニュー** (569 ページ) が表示されます。リストボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

33.1 リストボックス：オブジェクトメニュー

リストボックスを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、リストボックスがアクティブな場合に、メインメニューの**オブジェクト**でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **リストボックスプロパティ** ダイアログを開くと、リストボックスプロパティ：基本設定 (573 ページ)、リストボックスプロパティ：数式 (579 ページ)、リストボックスプロパティ：ソート (586 ページ)、リストボックスプロパティ：プレゼンテーション (587 ページ)、プロパティ：数値書式 (590 ページ)、フォント (592 ページ)、レイアウト (593 ページ) そしてキャプション (597 ページ) を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ)を参照してください。

- サイクリック** リストボックスが 非階層グループ (サイクリック) (1056 ページ) を表示する設定になっている場合にのみ使用できます。カスケードメニューを開きます。リストボックス内に表示されるグループ内の項目を直接選択できます。
- 検索** 検索 (127 ページ) ボックスを開きます。
- あいまい検索** テキスト検索 ボックスを あいまい検索 (128 ページ) モードで開きます。
- 高度な検索** [高度な検索] ダイアログ (130 ページ) を開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+SHIFT+F。
- 順序** このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
- 最前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- 最背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- 前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- 背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- 値の変更** 入力フィールドを表示しているリストボックスでのみ使用できます。クリックされたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。

値を元に戻す	入力フィールドを表示しているリストボックスでのみ使用できます。オプションが3つ入ったカスケードメニューを開きます。 ひとつの値を元に戻す クリックされた項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 絞り込値を元に戻す 絞り込まれたすべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 すべての値を元に戻す すべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。
絞り込値の選択	リストボックスの除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	リストボックスの除外値をすべて選択します。
すべて選択	リストボックスのすべての値を選択します。
クリア	アクティブなリストボックスの現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	現在のリストボックスの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	アクティブなリストボックスの選択値をロックします。(選択が行われていない場合はグレー表示となります。)
アンロック	アクティブなリストボックスのロックされた値を解除します。(選択がロックされている場合に ロック の代わりに表示されます。)
クイックチャートウィザード	クイックチャートウィザード (927ページ) が開き、チャートをすばやく簡単に作成できます。
タイムチャートウィザード	タイムチャートウィザード (937ページ) が開き、特定の計算基準 (数式) を設定し、さまざまな期間で比較を行うチャートを作成できます。
統計ボックスの追加	項目 (サンプル) の選択値に関するさまざまな統計上の計算を行ない、統計ボックス (603ページ) に結果を表示します。
絞り込値を印刷	プリンタ設定を指定できる 印刷 : 基本設定 (111ページ) ダイアログを開きます。アクティブなリストボックスの除外値以外をすべて印刷します。
絞り込値を PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で印刷ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。

Excel 出力

絞込値 (選択値と連結値) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。出力された値は、新しい Excel ワークシートに 1 つの列として表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。

注意!

Excel に出力する場合、ミニチャートは表示されません。

エクスポート

名前を付けて保存 ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。

クリップボードにコピー

このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

絞込値

絞込値 (選択値と連結値) をクリップボードにコピーします。

セルの値

(オブジェクトメニューを呼び出すときに) 右クリックしたリストボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。

画像

シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト

リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。


リンク オブジェクトを整列する



すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。

オブジェクトのリンクを解除する

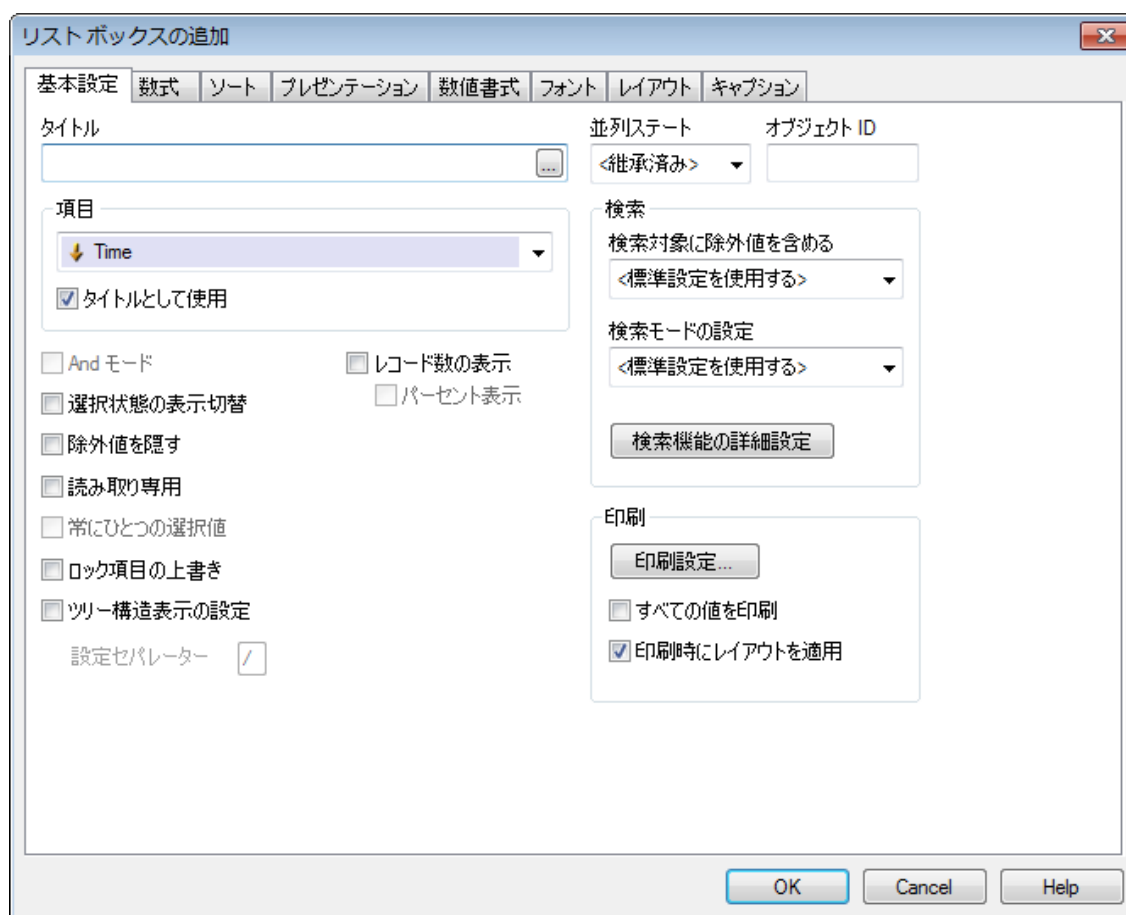
オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**オブジェクトプロパティ** ダイアログのキャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

- 最大化** オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**オブジェクトプロパティ** ダイアログの キャプション (597ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
- 元のサイズに戻す** 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- ヘルプ** QlikView ヘルプを開きます。
- 削除** シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。

33.2 リストボックス プロパティ: 基本設定



リストボックスプロパティ: 基本設定

リストボックスプロパティ: 基本設定 ページは、リストボックスを右クリックし、フローメニューから**プロパティ**を選択して開きます。ここでは、リストボックスの基本要素を設定できます。

タイトル

リストボックスのキャプションに表示するテキスト。デフォルトのテキストは選択項目の名前です。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算式 (1053 ページ) としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

項目

リストから項目を選択します。リストボックスには、選択項目の値が含まれます。

リストボックスは、サイクリックグループやドリルダウングループも表示します。ただし、一度に表示される項目は1つのみです。グループは、ドキュメントプロパティ：グループ (533 ページ) ページで作成でき、項目リストに表示されます。

階層グループ (ドリルダウン) (1055 ページ) が使用されている場合は、リストボックスで1つの値を選択すると、リストボックスがドリルダウンしてグループ内の基底の項目に切り替わります。ドリルアップして戻するには、リストボックスのキャプションにあるドリルアップアイコンをクリックします。

リストボックスに非階層グループ (サイクリック) (1056 ページ) が割り当てられている場合は、リストボックスのキャプションに表示されているサイクリックアイコンをクリックすると、グループ内の次の項目に表示を切り替えます。また、リストボックスのオブジェクトメニューの **サイクリック** オプションを使用して、グループ内の任意の項目に直接移動することもできます。

さらに、リストボックスには計算項目を表示できます。計算項目はスクリプトの実行によって生成されるのではなく、数式によって定義されます。

計算軸 に適用される同様のルールに関しては **計算軸の追加** (749 ページ) を参照してください。リストボックスで計算項目を使用する場合、ドロップダウンで <数式> を選択します。**数式の編集** ダイアログが開き、計算項目を記述する数式を定義できます。

タイトルとして使用**注意**

計算項目を使用する場合は、リストボックスの一部の機能が正規の項目リストボックスとは異なります。プロパティ オプションの一部は使用できません (以下を参照)。さらに、このようなリストボックスから統計ボックスは作成できません。

注意！

計算項目は常に1つ以上の通常の項目を使用する必要があります。**valuelist** および **valueloop** 関数から作成された純粋な合成計算項目は許可されていません。計算項目で選択を行うときは、実際は基底の通常の項目から選択することになります。複数の項目を計算項目の基準として使用する場合は、基準となる項目や計算項目での選択による論理的結果が非常に複雑になる場合があります。

注意！

リストボックスで計算項目を使用する場合は、大規模データセットでパフォーマンス上の問題が生じる場合があります。

注意！

リストボックスの *Direct Discovery* (193 ページ) 機能を用いて定義した MEASURE 項目を使用することはできません。

編集ボックスに表示されます。

編集...

このボタンは <数式> が項目として選択されている場合にのみ使用できます。これにより、**数式の編集** ダイアログが開かれ、計算項目を記述する数式を定義します。

注意

計算項目を使用する場合は、リストボックスの一部の機能が正規の項目リストボックスとは異なります。プロパティ オプションの一部は使用できません (以下を参照)。さらに、このようなリストボックスから統計ボックスは作成できません。

注意!

計算項目は常に 1 つ以上の通常の項目を使用する必要があります。**valuelist** および **valueloop** 関数から作成された純粋な合成計算項目は許可されていません。計算項目で選択を行うときは、実際は基底の通常の項目から選択することになります。複数の項目を計算項目の基準として使用する場合は、基準となる項目や計算項目での選択による論理的結果が非常に複雑になる場合があります。

注意!

リストボックスで計算項目を使用する場合は、大規模データセットでパフォーマンス上の問題が生じる場合があります。

注意!

リストボックスの *Direct Discovery* (193 ページ) 機能を用いて定義した MEASURE 項目を使用することはできません。

And モード

項目内の複数選択 (122 ページ) を **AND** もしくは **OR** どちらかのタイプで行います。デフォルトでの選択は **OR** タイプです。このコマンドは、複数の値を選択する場合の論理モードを切り替えます。項目がある条件を満たさない場合、このメニュー オプションは無効です。リストボックスの **AND モード** (132 ページ) を参照してください。このオプションは計算項目には使用できません。

選択状態の表示切替

アクティブなリストボックスの項目で直接選択を行うことにより、その項目の他の値を除外値とすることが切替えます。**選択状態の表示切り替え** チェックボックスをオンにすると、選択値以外のすべての値は連結値として表示されます。ですが、他の項目の選択によっては除外されます。デフォルトでは、すべての他の値は除外値として表示されます。このオプションは計算項目には使用できません。

除外値を隠す

項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。

読み取り専用

このチェックボックスをオンにすると、リストボックスで選択を行えなくなります。ですが、ドキュメントの他の場所での選択は反映されます。

常にひとつの選択値	このチェックボックスをオンにすると、1つの値のみを選択できる状態になります。これは、通貨交換率などのように1つの値を選択するとデータが意味を持つドキュメントで便利です。このオプションは、リストボックスで1つの値が選択されると有効になります。このオプションは計算項目には使用できません。
ロック項目の上書き	このチェックボックスをオンにすると、ロックされているリストボックスで選択ができるようになります。選択がドキュメントの他の場所で行われると、リストボックスはロック状態のままです。
ツリー構造表示の設定	リストボックスを リストボックス ツリー構造 (600 ページ) で表示します。この機能は、項目に階層構造におけるノードのパスが含まれる場合にのみ有効です。そういった項目は、 Path パラメータ (Hierarchy プレフィックス) を使用して生成することができます。
設定セパレーター	ツリー構造 に使用されるパスでセパレーターとして解釈される文字セットを設定します。
レコード数の表示	項目値の頻度を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組み合わせの数を意味します。このオプションは計算項目には使用できません。
パーセント表示	レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかについてのステータスを切り替えます。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 継承済み シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 初期ステート QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。
オブジェクト ID	これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、リストボックスであれば LB01 から割り当てられます。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
検索対象に除外値を含める	ドロップダウンリストで はい 、 いいえ もしくは ユーザー プロパティ : 基本設定 ページで指定された標準設定が適用される <標準設定を使用する> を選択します。

検索モードの設定

テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。次の選択肢を使用できます。

<初期設定を使用する>

ユーザー プロパティ (85 ページ) で指定されたデフォルトが適用されます

ワイルドカード検索

ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されます。

あいまい検索

あいまい検索を意味するチルダ (~) が初期検索文字列として表示されます。

標準検索

初期値としての検索文字列は追加されません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

連想検索

連想検索が検索ボックスで使用されます。連想検索に関する詳細については、[検索 \(127 ページ\)](#) を参照してください。

印刷設定

ここでは、印刷ジョブの印刷設定を設定できます。

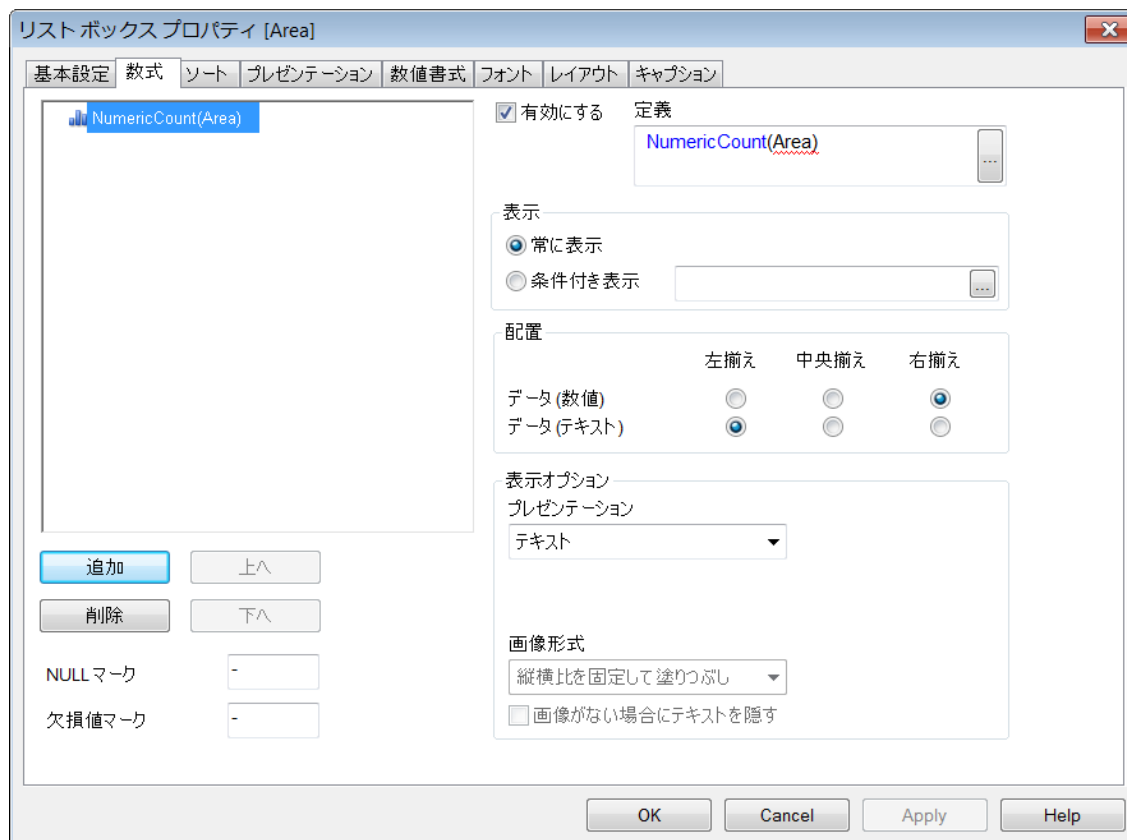
すべての値を印刷

リストボックスの通常の印刷動作は、絞込値のみの印刷です。このチェックボックスをオンにすると、すべての値が (除外値も) 印刷されます。

印刷時にレイアウトを適用

このチェックボックスをオンにすると、複数列、セルの選択色分けなどについてリストボックスは画面に表示されたとおりに印刷されます。これは、リストボックスをレポートに含む場合などに便利です。

33.3 リストボックスプロパティ: 数式



リストボックスプロパティ: 数式

数式 ページでは、リストボックスに表示する数式を定義します。各数式がリストボックスの新しい列に追加されます。ダイアログの左上隅には数式が表示されます。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。数式の属性式を表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。

特定の基本の数式では、任意の数および任意の組み合わせの属性式を使用できます。属性式で定義された書式は、色などについてデータプロットのデフォルトの書式に優先します。

追加

このボタンをクリックすると、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが表示されます。ここでは、新しい数式を作成できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでも有効です。

削除

選択した数式を削除します。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでも有効です。

- コピー** このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。その後、この数式を同じオブジェクトや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView オブジェクトに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。
- エクスポート** このオプションは、数式のリスト内でメイン式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポートファイルの保存先を選択できます。ファイルには、xml のような拡張子が付きます。
- 貼り付け** このオプションは、数式がクリップボードにコピーされている場合に、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。
- インポート** このオプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートされた数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しいメイン式としてチャートに表示されます。
- 上へ** 選択した数式をリストの 1 つ上に上げます。このボタンを使用するのは、数式の順序を変更する場合です。
- 下へ** 選択した数式をリストの 1 つ下に下げます。このボタンを使用するのは、数式の順序を変更する場合です。
- NULL マーク** ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。
- 欠損値マーク** ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されません。

有効にする	このチェックボックスをオンにすると、選択した数式が有効になります。ボックスがオンにされていない場合は、数式を使用できません。
定義	選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開きます。
表示	常に表示 を選択すると、数式は、リストボックスに追加された列に常に表示されます。 条件付き表示 を選択すると、右側の編集ボックスに入力した条件式の値に応じて、数式が動的に表示または非常時にされます。
配置	このグループでは、数式のデフォルトの配置を設定できます。テキスト、数値をそれぞれ、左揃え、中央揃え、または右揃えに設定できます。
表示オプション	このグループは、リストボックス式のセルに何を記述するかを定義します。

プレゼンテーション

次のオプションがあります。

テキスト

このオプションを選択すると、数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションを選択すると、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\¥Mypic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。

円形ゲージ

このオプションを選択した場合、数式の値が円形スタイルのゲージで表示されます。ゲージチャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。

線形ゲージ

このオプションを選択した場合、数式の値が水平方向の線形スタイルのゲージで表示されます。ゲージチャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。

信号機ゲージ

このオプションを選択した場合、数式の値が水平方向の信号機スタイルのゲージで表示されます。ゲージチャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。

LED ゲージ

このオプションを選択した場合、数式の値が LED スタイルのゲージで表示されます。ゲージチャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ゲージの視覚的な設定は **ゲージ設定** ボタンで変更できます。

ミニチャート

このオプションを選択した場合、QlikView は追加軸で集計された数式の値をミニチャートで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。ミニチャートの軸を定義することができ、チャートの視覚的な設定は **ミニチャートの設置** ボタンから設定できます (以下参照)。

注意!

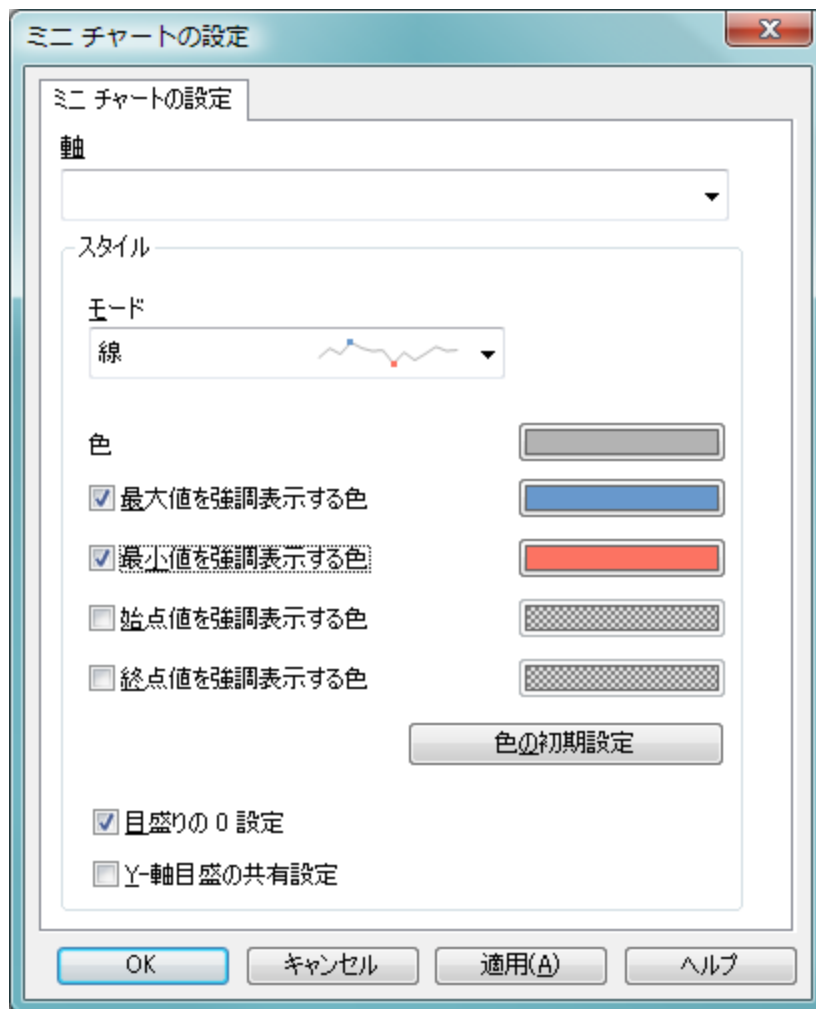
Excel に出力する場合、ミニチャートは表示されません。

ゲージ設定

上でゲージオプションの 1 つが選択されている場合にのみ使用できます。ゲージのプロパティを設定するためのダイアログを開きます。このダイアログは、基本的に、ゲージチャートの **チャートプロパティ: プレゼンテーション (ゲージチャート)** (875 ページ) ページと同じです。

- ミニ チャートの設定** テーブルの数式用の **表示オプション** で **ミニ チャート** が選択されているときにのみ有効です。ミニ チャートのプロパティを設定するためのダイアログ **ミニ チャートの設定** (584 ページ) を開きます。
- 画像形式** 上記で [画像] オプションを選択した場合のみ使用できます。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。
- 縮小/拡大なし**
このオプションを選択した場合、画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。
- 塗りつぶし**
このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。
- 縦横比を固定する**
このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。
- 縦横比を固定して塗りつぶし**
このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。
- 画像がない場合にテキストを隠す**
このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikView は項目値のテキストを表示しません。この場合、セルは空白のままです。

ミニチャートの設定



[ミニチャートの設定] ダイアログ

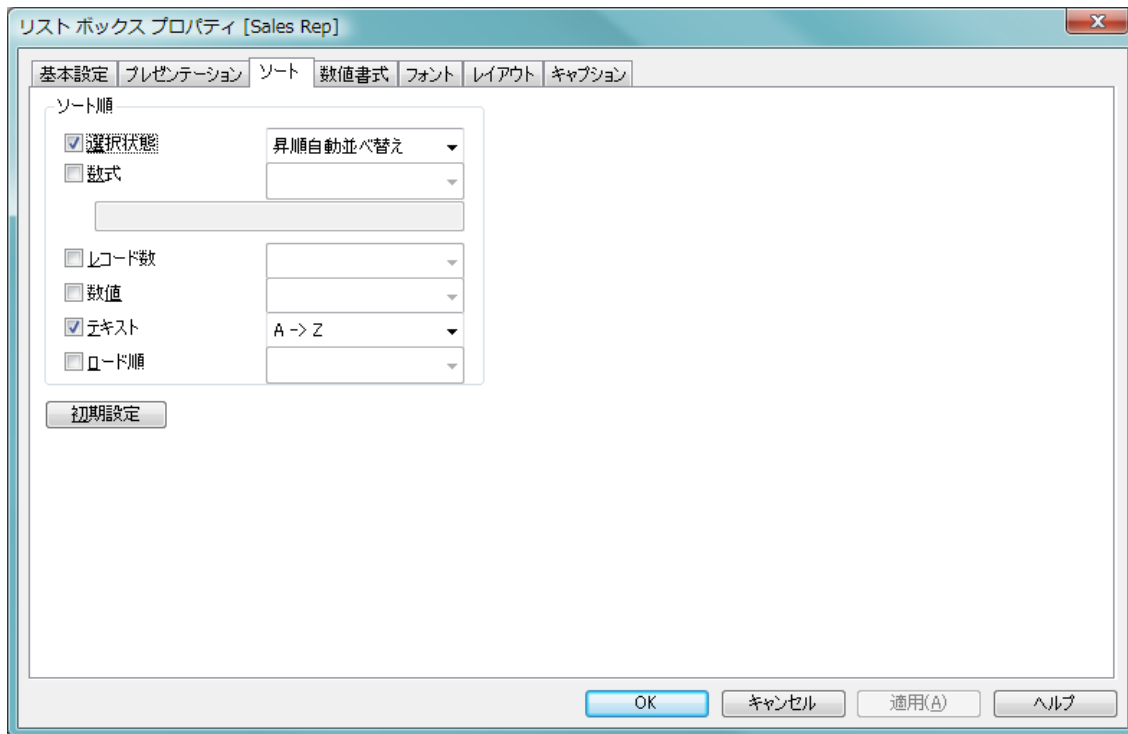
ミニチャートが、ストレートテーブルのプロパティ ダイアログの **数式** ページで選択されているときにのみ利用可能です。ミニチャートのプロパティを設定するためのダイアログを開きます。

軸 数式を描画するための軸を選択します。

スタイル

モード	折れ線、折れ線とマーカー、マーカー、棒、勝敗としてミニチャートを設定します。
色	色の設定 (515 ページ) ダイアログを開きます。このダイアログでは、ミニチャートの色を設定できます。
最大値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、 [色の設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、最大値の色を設定できます。
最小値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、 [色の設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、最小値の色を設定できます。
始点値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、 [色の設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、始点値の色を設定できます。 棒 と 勝敗 モードでは無効です。
終点値を強調表示する色	チェックボックスをオンにして色ボタンをクリックすると、 [色の設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、終点値の色を設定できます。 棒 と 勝敗 モードでは無効です。
色の初期設定	QlikView に設定された色の初期値を強調設定する色に設定します。
目盛りの 0 設定	チャートの下端を軸の 0 に固定します。 勝敗 モードでは無効です。
Y-軸目盛の共有設定	列の全てのセルに同じ Y-軸目盛を使用します。

33.4 リストボックス プロパティ:ソート



リストボックスプロパティ、ソート

ソート ページは、シートオブジェクト (リストボックス、マルチボックス、テーブルボックス、チャートまたはスライダー/カレンダーオブジェクト) を右クリックし、フロートメニューから**プロパティ**を選択するか、メインメニューの**オブジェクト > プロパティ**を選択して開きます。シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

ソート順:

選択状態

項目値を論理状態 (選択値、連結値、または除外値) に従ってソートします。

昇順自動並べ替え設定は、リストボックスが垂直スクロールバーを表示するときのみ、リストボックス (または、マルチボックスの項目値を含むドロップダウンリスト) を**選択状態**に従ってソートします。リストボックスを拡大してすべての値を表示させると、**選択状態**によるソート順は解除されます。

注意!コンテナオブジェクト内のリストボックスで、**昇順自動並べ替え**を使用しないでください。

数式

このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいて項目値をソートします。数式によるソートを使用すると、設定式でレコードのセットを定義することも可能です。なぜなら、数式はリストの選択値/絞込値で計算されて、ソートはリストの選択値/絞込値にのみ適用されるからです。

注意!数式によるソートは、数値項目でのみ機能し、テキスト項目では機能しないので、注意してください。

Set 分析 (992 ページ) も参照してください。

レコード数

項目値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。

数値

項目値を数値順にソートします。

テキスト

項目値をアルファベット順にソートします。

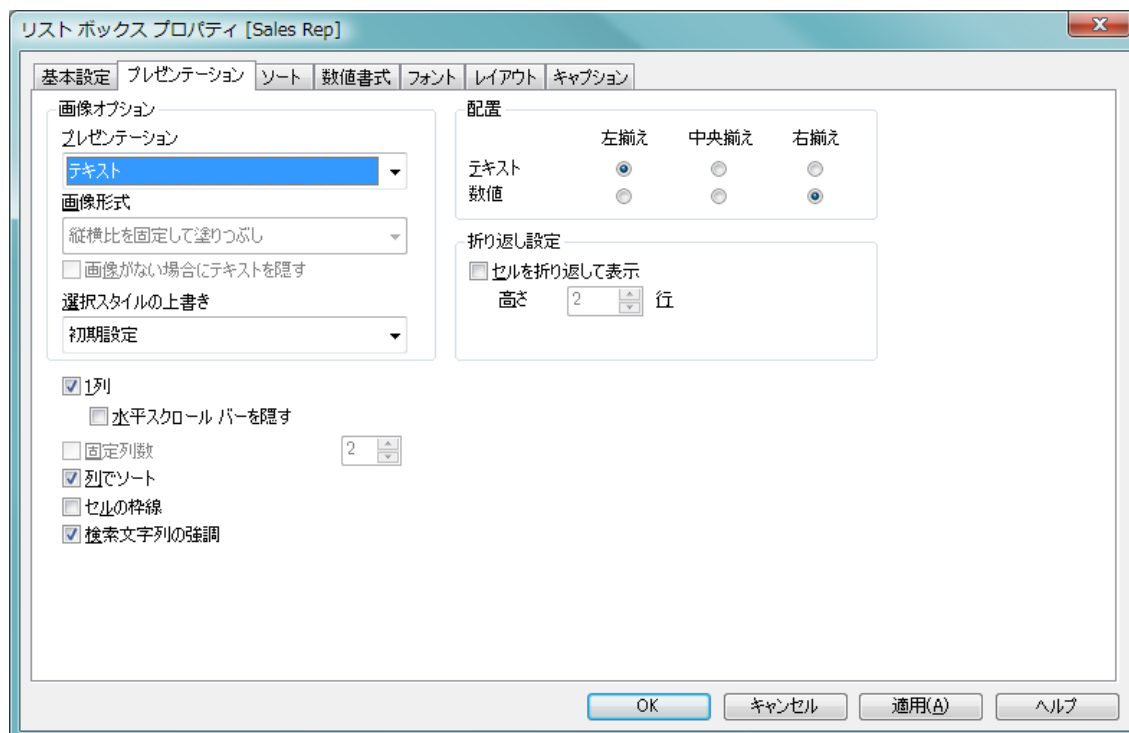
ロード順

項目値を最初のロード順でソートします。

初期設定ボタンは、ソート順を初期設定値に設定します。

優先順位は、**選択状態**、**数式**、**レコード数**、**数値**、**テキスト**、**ロード順**の順です。これらのソート条件はそれぞれ、**昇順**または**降順**に設定できます。

33.5 リストボックスプロパティ:プレゼンテーション



リストボックスプロパティ : プレゼンテーション

リストボックスプロパティ : **プレゼンテーション** ページは、リストボックスを右クリックし、フロートメニューから **プロパティ** を選択して開きます。ここでは、リストボックスのセルのレイアウトを調整できます。

画像オプション グループでは、メモリあるいはディスク上の画像へのリファレンスを構成する項目値をそのイメージとして解釈させることができます。

プレゼンテーション で、**テキスト** (初期値)、**画像** または **画像INFO** のいずれかを選択します。

画像 選択すると、QlikView は各項目値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\Myopic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が項目値を有効な画像参照として解釈できない場合は、**画像がない場合にテキストを隠す** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

画像INFO を選択すると、ロードスクリプトの **info load/info select** を使用して、QlikView が項目値にリンクした画像情報を表示します。項目値に対する有効な画像がない場合は、**画像がない場合にテキストを隠す** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

どちらかの画像オプションが選択されている場合、セルに画像を合わせるための **画像形式** の設定を使用できます。

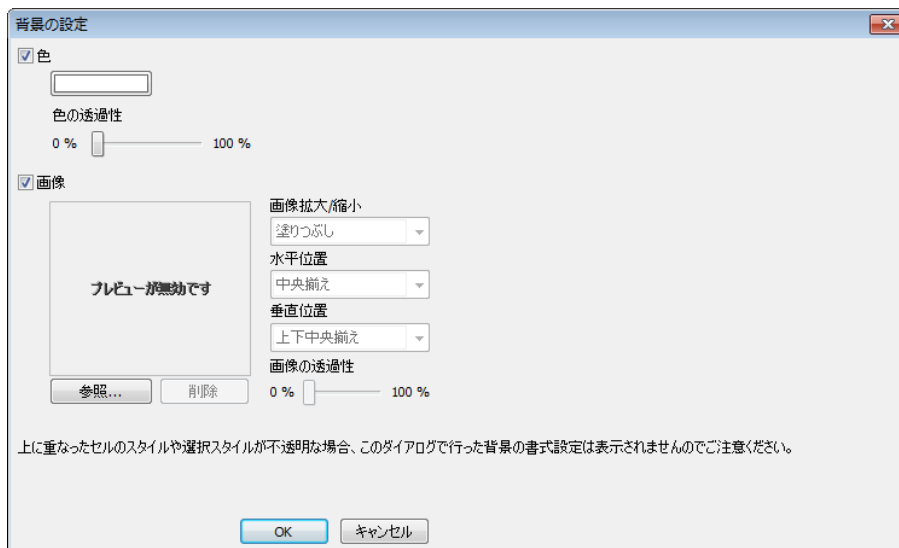
縮小/拡大なし	画像はそのままのサイズで表示され、覆い隠すことが出来ない可能性があります。
塗りつぶし	画像は、縦横比を無視して、セル全体を覆うように拡大されます。
縦横比を固定する	画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。
縦横比を固定して塗りつぶし	画像は、縦横比を維持したまま、できる限り拡大されます。覆われなかった領域は切り取られた画像で塗りつぶされます。

テキストの代わりに画像を表示する場合、項目値の論理状態を表示するためには、ドキュメントのデフォルトではなく別の選択スタイルを使用する必要があるかもしれません。**選択スタイルの上書き** のドロップダウン リストを使用して、**コーナー タグ** などの適切な選択スタイルを選択します。

1 列	このチェックボックスをオンにすると、リストボックスの項目値は常に 1 列に表示されます。
水平スクロールバーを隠す	このチェックボックスをオンにすると、指定した幅が広すぎるときに通常表示されるリストボックスの水平スクロールバーが非表示になります。代わりに、項目値は必要に応じて省略されます。
固定列数	このチェックボックスをオンにすると、リストボックスの固定列数を設定できます。このチェックボックスは、 1 列 がオンの場合使用できません。
列でソート	リストボックスが 2 列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。 列でソート はそれを列型の表示に切替えます。

セルの枠線	項目値は、テーブルの行のように水平の線で区切られます。 セルの枠線 は、 セルを折り返して表示 チェックボックスをオンにすると自動的にオンになりますが、後で選択を解除できます。
検索文字列の強調	検索オブジェクトに入力された検索文字列と合致する文字列を強調表示します。
背景	[背景の設定] ダイアログを開きます。
配置	リストボックスの項目値の配置を設定します。 テキスト と 数値 の配置は別々に設定します。
折り返し設定	このグループでは、リストボックスのセルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。 セルを折り返して表示 このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。 高さ n 行 ここでは、セルの行数を指定できます。

背景の設定



[背景の設定] ダイアログ

色	この設定が有効の場合、オブジェクトに背景色が設定されます。 色 ボタンをクリックして色を選択します。
色の透過性	色のオプションが有効な場合にのみ使用できます。背景色の透過性を設定します。
画像	この設定が有効の場合、オブジェクトの背景に画像が設定できます。 参照 ボタンをクリックして画像を選択します。背景から画像を削除する場合、 削除 ボタンをクリックします。

画像拡大/縮小

画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。設定は、画像を適合させるための QlikView の書式設定方法を表します。

縮小/拡大なし

画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、背景の一部が画像で覆われない場合があります。

塗りつぶし

画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、背景全体を覆うように拡大されます。

縦横比を固定する

画像は、縦横比を維持したまま、背景全体をできるだけ広く覆うように拡大されます。

縦横比を固定して塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、背景全体(上下/左右とも)を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

水平位置

画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。画像を **左**、**中央** または **右** に揃えます。

垂直位置

画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。画像を **上**、**上下中央** または **下** に揃えます。

画像の透過性

画像のオプションが有効な場合にのみ使用できます。背景画像の透過性を設定します。

33.6 プロパティ: 数値書式

The screenshot shows the 'Override Document Settings' dialog box. On the left, under 'Precision', the 'Number' radio button is selected with a value of 4. Under 'Decimals', the 'Fixed to' radio button is selected with a value of 2. The 'Format' section on the right shows a 'Preview' of '3,557e+004' and a 'Format Pattern' of '#####'. The 'Separators' section shows 'Decimal' as a comma and 'Thousand' as empty. At the bottom, the 'System' button is highlighted.

[数値書式] ページ

プロパティ：数値書式 ページは、シート オブジェクトを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ** を選択して開きます。

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、ドキュメントプロパティ：数値書式 (541 ページ) ダイアログで設定できます。ただし、シート オブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **ドキュメント初期設定を上書きする** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	書式パターン 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00))。
パーセント表示 (%)	チェックボックスは、次の書式で機能します： 数値、整数、実数 。

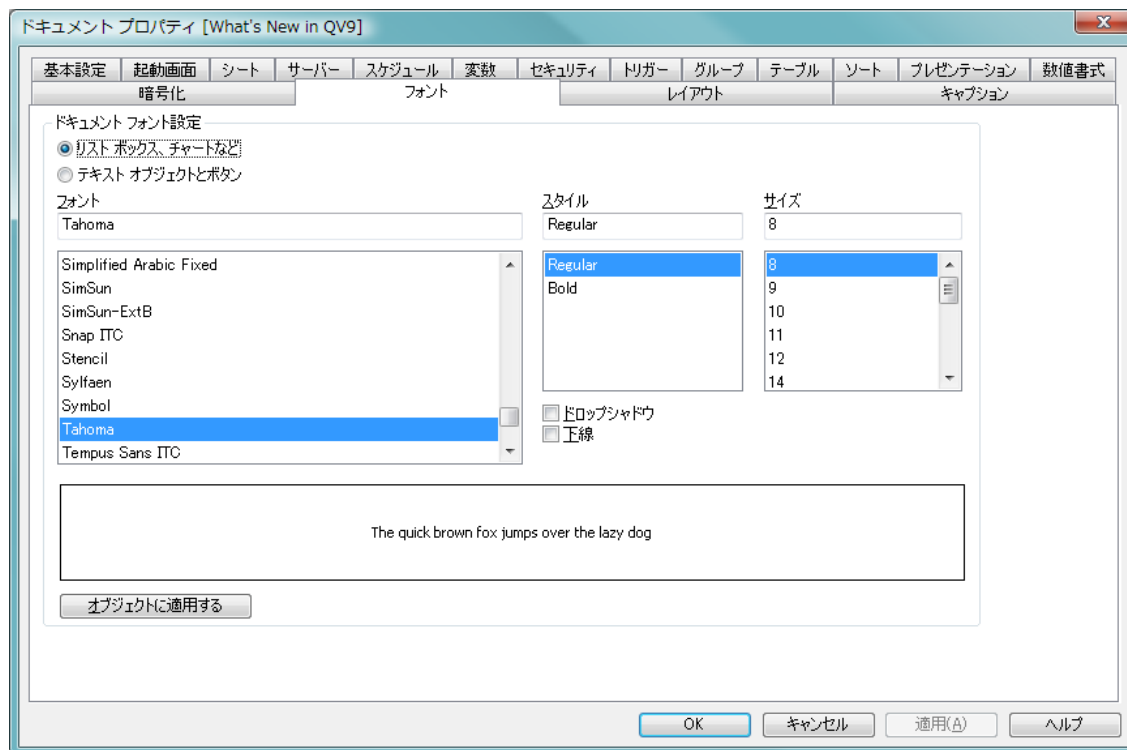
小数点と桁区切り 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

ドキュメント初期設定の変更 ボタンから **ドキュメントプロパティ：数値書式 (541 ページ)** ページを開き、項目のデフォルトの数値書式を変更できます。

33.7 フォント



[フォント] ダイアログ

ここでは、**フォント**、**スタイル** および **フォント サイズ** を設定します。

フォントの設定は、ひとつのオブジェクト用には **オブジェクトプロパティ：フォント** ページ、ドキュメント上のすべてのオブジェクト用には **ドキュメントプロパティ：フォント** ページの **オブジェクトに適用する** ボタンで行うことができます。

さらに、新しいオブジェクト用のドキュメントのフォント初期設定は、**ドキュメントプロパティ：フォント** ページで設定できます。2つの初期フォントがあります。

1. 最初のデフォルトフォント (**リストボックス、チャートなど**) は、リストボックスやチャートなどのほとんどのオブジェクトで使用されます。
2. 次のデフォルトフォント (**テキストオブジェクトとボタン**) は、一般的に大きなフォントを必要とするボタンやテキストボックスに使用されます。

最後に、新しいドキュメントのフォント初期設定は、**ユーザープロパティ：フォント** ページで設定できます。

チャート、**ボタン** および **テキストオブジェクト** (検索オブジェクト以外) には、フォントの**色**も指定できます。色は、**固定** (違う色を指定するには色ボタンをクリックします) もしくは**計算** (数式で動的に計算します) を選択します。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数 (453 ページ) を使用して作成されます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、フォントの色はデフォルトで黒になります。

その他の設定は次のとおりです。

ドロップシャドウ このチェックボックスをオンにすると、テキストにドロップシャドウが追加されます。

下線 このチェックボックスをオンにすると、テキストに下線が引かれます。

選択したフォントのサンプルが、プレビューパネルに表示されます。

33.8 レイアウト

[レイアウト] ページ

レイアウトの設定をオブジェクトのプロパティ ページから行うと、そのオブジェクトにのみ適用されます。

レイアウトの設定をドキュメントのプロパティ ページから行うと、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

枠線の使用

シートオブジェクトの周囲に枠線を表示するには、このチェックボックスをオンにします。ドロップダウンメニューから選択して、枠線の種類を指定します。

影の強度 **影の強度** ドロップダウンメニューで、シートオブジェクトの周りの影の強度を設定できます。**影なし**の選択肢もあります。

枠線のスタイル	定義されている枠線は次のとおりです。 固定 単色の固定の枠線です。 くぼみ シートオブジェクトが背景からくぼんでいるように見える枠線。 浮き彫り シートオブジェクトが背景から浮き上がっているように見える枠線。 壁 シートオブジェクトの周囲に壁があるように見える枠線。 画像 カスタム画像が指定された枠線。
画像の変更	枠線の種類に 画像 を選択した場合は、このボタンをクリックして、使用する画像を設定できます。
縮小/拡大	枠線の種類に画像を使用する場合、このチェックボックスをオンにすると、4つの角で囲まれた領域全体を覆うように画像パターンが引き伸ばされます。オフにした場合は、画像パターンのコピーが必要なだけ並べて表示されます。
枠線の幅	このオプションは、すべての種類の枠線で有効です。画像枠線の幅を設定する場合は、その幅を画像に定義されている角の幅と同じにしてください。幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル(px、pxl、pixel)、ポイント(pt、pts、point)、docunits (du、docunit) で指定できます。
色	このボタンをクリックするとダイアログが開き、 画像 以外のすべての種類の枠線に適用される基本色をカラーパレットから選択できます。
カラフル	画像 以外のすべての種類の枠線を虹色の枠線にします。虹は、シートオブジェクトの上部で選択した基本色で始まります。
ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) の スタイルのモード で 簡易設定 が選択されている場合、枠線の種類は選択できません。設定できるのは、 影の強度 のドロップダウンメニューと 枠線の幅 のみとなります。	
角を丸くする 角を丸くする グループでは、シートオブジェクトの基本の形を設定できます。これらの設定により、シートオブジェクトを円形/楕円形から長方形までの範囲で描くことができます。ドキュメントプロパティ：基本設定 (508 ページ) で 詳細設定 、 スタイルのモード とせtたくしている場合、 角を丸くする のみが使用できます。	
角を丸くする	このオプションをオンにすると、角の形を丸くすることができます。
角の位置	チェックボックスをオフにした角は直角に描画されます。

鋭度 2 から 100 の間の数値を設定でき、数値 100 を定義すると直角、数値 2 は完全な楕円 (縦横比が 1:1 の場合は円) に相当します。丸い角には通常、鋭度 2 から 5 が最適な数値です。

角の丸み この設定は、固定の距離 (**固定**) または四分円全体に対するパーセンテージ (**相対値(%)**) で、角の半径を決定します。この設定により、**鋭度** で設定した基になる基本図形が角に影響を与える程度を制御できます。距離は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

レイヤー

レイヤー グループでは、オブジェクトを 3 つのレイヤーのいずれかを割り当てることができます。

下 **背面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと **前面** レイヤーにあるシート オブジェクトを覆うことはできません。**背面** レイヤーにある他のシート オブジェクトの上のみ配置できます。

標準 シート オブジェクトは、作成されると、**標準位置** (中央) のレイヤーに置かれます。**標準位置** レイヤーにあるシート オブジェクトは、**背面** レイヤーのシート オブジェクトで覆われることはありませんし、**前面** レイヤーのシート オブジェクトを覆うこともできません。

上 **前面** レイヤー プロパティのシート オブジェクトは、**標準位置** レイヤーと **背面** レイヤーにあるシート オブジェクトによって覆われることはありません。その上に配置できるのは、**前面** レイヤーにある他のシート オブジェクトだけです。

カスタム **前面**、**標準位置**、および **背面** レイヤーは、内部的に番号が振られたレイヤー 1、0、-1 にそれぞれ対応しています。実際には、-128 ~ 127 の間のすべての値が使用できます。選択した値を入力する場合は、このオプションを選択します。

テーマの作成

テーマ作成ウィザード (727 ページ) を開くと、レイアウト テーマを作成できます。

テーマの適用

オブジェクト、シート、ドキュメントにレイアウト テーマを適用できます。詳細に関しては **レイアウト テーマ (725 ページ)** を参照してください。

表示

表示 グループでは、シート オブジェクトを表示する条件を指定できます。

常に表示 シート オブジェクトは常に表示されます。

条件付き表示 シート オブジェクトは、選択することで継続的に評価される **条件付き関数 (414 ページ)** に基づいて表示/非表示にされます。シート オブジェクトはその条件が真を返したときにだけ表示されます。

注意!

ドキュメントの管理権限を持つユーザーは、ドキュメントプロパティ：セキュリティ (528 ページ) ページの**すべてのシートとシート オブジェクトを表示**ですべての表示条件を上書きできます。CTRL+SHIFT+S を押して、この機能を切り替えることができます。

オプション

オプショングループでは、シート オブジェクトの移動/サイズ変更を禁止できます。このグループの設定は、対応するチェックボックスが **ドキュメントプロパティ：レイアウト** と **シートプロパティ：セキュリティ** でオンの場合にのみ有効です。

- | | |
|----------------------|---|
| 移動/サイズ変更を許可する | このチェックボックスをオフにすると、シート オブジェクトを移動またはサイズ変更できなくなります。 |
| コピー/複製を許可する | このチェックボックスをオフにすると、シート オブジェクトのコピーを作成できなくなります。 |
| INFO を許可する | <i>Info</i> (303 ページ) 関数が使用されると、項目値がそれに連結する情報を持っている場合に info アイコンがウィンドウのキャプションに表示されます。キャプションに INFO アイコンを表示したくない場合は、このチェックボックスをオフにします。 |
| データにサイズを合わせる | 通常、選択によってテーブルのサイズがシート オブジェクトに割り当てられたサイズより小さくなった場合は、QlikView のすべてのテーブルシート オブジェクトを囲む枠線が縮小します。このチェックボックスをオフにすると、このサイズの自動調整はオフになり、余分な領域は空白のままになります。 |

スクロール バー

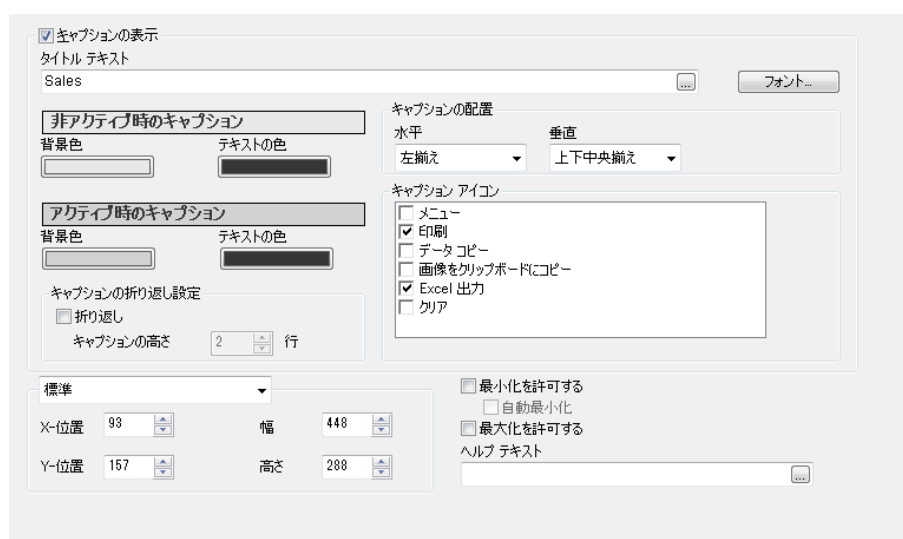
スクロール バーグループには、スクロールバーのレイアウトを変更するコントロールがあります。

- | | |
|-------------------------|---|
| スクロール バーの位置を保持する | この設定が有効の場合、QlikView は、他のオブジェクトで選択が行われたときに、スクロールバーが設定されているテーブルやチャートのスクロールの位置を保持しようとします。ユーザー プロパティ：オブジェクト (96 ページ) ダイアログでも、この設定が有効になっている必要があります。ドキュメントを閉じると、スクロールの位置は保持されません。 |
| スクロール ボタン | スクロール ボタンの色を設定します。ボタンをクリックして色を選択します。スクロールバーは、薄い灰色で描画するとよい結果が得られます。色は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。 |
| スクロール バーの幅 | このコントロールは、スクロールバーのシンボルの幅と相対的なサイズの両方に影響します。 |

スクロールのスタイル スクロールバーのスタイルを設定します。ドロップダウン コントロールでスタイルを選択します。**クラシック** スクロールバー スタイルは、QlikView の 4/5 スクロールバーに対応します。**標準** スクロールバー スタイルは、最新の外観になります。3 つ目のスタイル、**ライト** は細く、ライトなスクロールバーです。

適用するオブジェクト **キャプションと枠線のプロパティ** ダイアログを開きます。ここでは、**レイアウト** ページで設定されたプロパティを適用する場所を設定できます。

33.9 キャプション



[キャプション] ページ

キャプションの設定が [**オブジェクト プロパティ**] ページで行われた場合は、そのオブジェクトにのみ適用されます。

キャプションの設定が [**ドキュメント プロパティ**] ページで行われた場合は、ドキュメントで指定された種類のオブジェクトすべてに適用されます。

キャプション ページでは、オブジェクトの基本的なレイアウトとは全く違うレイアウト オプションを指定できます。

キャプションの表示 このチェックボックスをオンにすると、シート オブジェクトの最上部にキャプションが表示されます。リスト ボックスなどの「ボックス オブジェクト」は、デフォルトでキャプションの表示がオンになっていますが、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトはオフになっています。

タイトル テキスト テキスト ボックスで、シート オブジェクトのキャプションに表示するタイトルを入力します。キャプションのフォントを変更するには **フォント** ボタンを使用します。

異なる状態のキャプションの色を設定します。**アクティブ時の色**と**非アクティブ時の色**は別々に設定できます。

背景色や**テキストの色** ボタンをクリックし 色の設定 (515 ページ) ダイアログを開きます。**背景色**は、**色の設定** ダイアログで、**単色**または**グラデーション**として定義できます。**テキストの色**は、**固定**または**計算**色として カラー関数 (453 ページ) を使用して定義できます。

折り返し このオプションを選択した場合、キャプションは、2 行以上で表示されません。

キャプションの高さ (行) 編集ボックスで、キャプションの行数を設定します。

QlikView のシート オブジェクトの正確なサイズと位置を設定できます。**標準**もしくは**最小化**時のサイズ/位置設定で調整します。これらの設定は、ピクセル単位で行います。

X- 位置 シートの左端に対するシート オブジェクトの左辺の水平方向の位置を設定します。

Y- 位置 シートの上端に対するシート オブジェクトの上辺の垂直方向の位置を設定します。

幅 QlikView シート オブジェクトの幅を設定します。

高さ QlikView シート オブジェクトの高さを設定します。

キャプションのラベルの方向は、**[キャプションの配置]** オプションで変更できます。

水平 キャプションのラベルは水平方向に整列できます：**左揃え**、**中央揃え**、または**右揃え**。

垂直 キャプションのラベルは垂直方向に整列できます：**[上揃え]**、**[上下中央揃え]**、または**[下揃え]**。

キャプション アイコン

シート オブジェクトのオブジェクト メニュー コマンドの多くをキャプション アイコンとして設定できます。キャプション アイコンとして表示するコマンドを選択するには、リスト内の各コマンドの左にあるチェックボックスをオンにします。

注意！

キャプション アイコンは注意して使用してください。アイコンが多すぎると邪魔になる可能性があります。

最小化を許可する このチェックボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最小化アイコンが表示され、オブジェクトを最小化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最小化することができるようになります。

自動最小化

このオプションは、**[最小化を許可する]** をオンにしている場合にのみ有効です。同じシート上にある複数のシート オブジェクトで **[自動最小化]** がオンにされている場合、1つを除くすべてが自動的に最小化されるようになります。これは、同じシート上に複数のグラフを交互に表示するのに便利です。

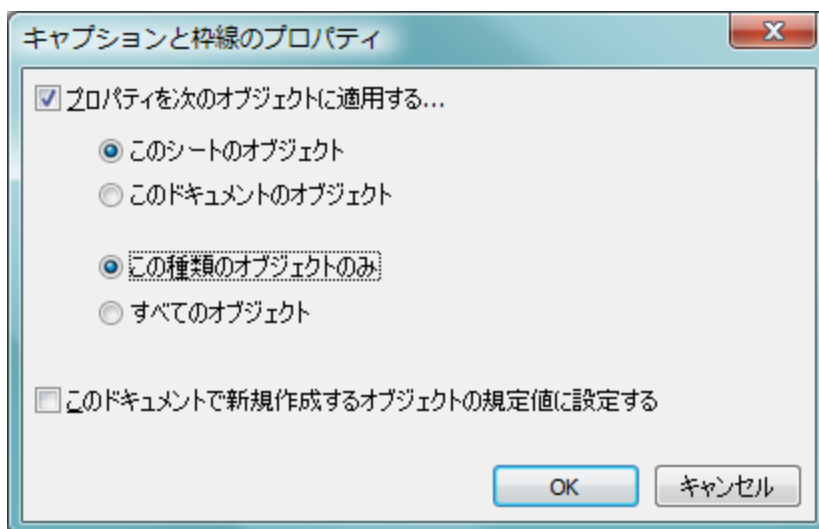
最大化を許可する

このチェックボックスをオンにすると、シート オブジェクトのキャプション ウィンドウに最大化アイコンが表示され、オブジェクトを最大化することができます。さらに、キャプションをダブルクリックしてもオブジェクトを最大化することができるようになります。**[最小化を許可する]** と **[最大化を許可する]** の両方がオンの場合、ダブルクリックするとオブジェクトは最小化されます。

ヘルプ テキスト

ここでは、ポップアップ ウィンドウに表示するヘルプ テキストを入力できます。ヘルプ テキストは、**計算式 (1053 ページ)** として指定できます。このオプションはドキュメントレベルでは使用できません。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

シート オブジェクトの説明などを入力します。オブジェクトのウィンドウ キャプションにヘルプ アイコンが追加されます。マウス ポインターをアイコンに移動させると、ポップアップ ウィンドウにテキストが表示されます。

キャプションと枠線のプロパティ**[キャプションと枠線] プロパティ**

このダイアログでは、キャプションと枠線を適用するドキュメントのオブジェクトを設定します。

プロパティを次のオブジェクトに適用する

選択オブジェクト以外のオブジェクトにその設定を適用するには、このチェックボックスをオンにします。

1. オプションのひとつを選択します。

このシートのオブジェクト

このシートにあるオブジェクトにのみ設定を適用します。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

このドキュメントのオブジェクト

ドキュメント全体のオブジェクトに設定を適用します。

2. オプションのひとつを選択します

この種類のオブジェクトのみ

この種類の全てのオブジェクトに適用を設定します。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

すべてのオブジェクト

すべてのオブジェクトに設定を適用します。

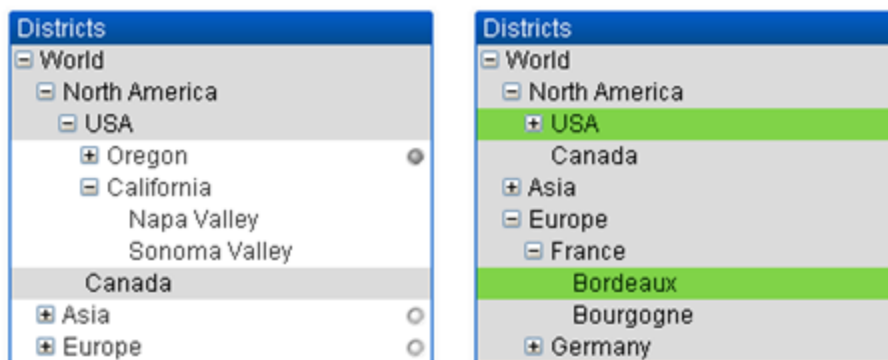
このドキュメントで新規作成するオブジェクトの規定値に設定する

現在のドキュメントの新規作成オブジェクトのデフォルトとして設定を使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。シート オブジェクトの [レイアウト] ページからこのダイアログを開いたときにのみ有効です。

33.10 リストボックス ツリー構造

項目が、例えば *World/North America/USA/California/NapaValley* のように階層でノードのパスを含む場合、リストボックスをツリー構造で表示できます。ツリー構造では、操作を容易にするために段差をつけてノードを表示します。ノードを折りたたむと個々のノードがリストボックスで 1 行の階層の枝として表示されます。

選択は、通常の操作で行えます。階層における異なるレベルでの複数選択もサポートされています。



リストボックスのツリー構造表示

展開されたノードと葉 (子を持たないノード) には、QlikView 標準の色分けが使用されます。折りたたまれたノードでは、異なる状態が混在する可能性があります。その場合、ノードは、すべての値が選択

されている場合は緑、すべての値が除外されている場合はグレー、そのほかの場合は白に表示されます。また、小さいインジケータが表示され、隠れたノードの状態を示します。

33.11 Direct Discovery を使用したリストボックスおよびテーブルボックスの作成方法

リストボックス

DIMENSION 項目と MEASURE 項目を用いて、リストボックスを作成できます。リストボックスの数式で MEASURE 項目を使用する場合、`aggr()` 関数を使用し、DIMENSION 項目で MEASURE 項目の集計値を表示する必要があります。リストボックスの DIMENSION 項目を用いて作成された選択は、メモリ内で関連テーブルを作成するために、データベース上に SQL クエリを生成します。Direct Discovery の連想の作成方法に関する説明については、*Direct Discovery* とインメモリデータとの違い(200 ページ)を参照してください。

リストボックスでは、DETAIL 項目を使用できません。

注：

リストボックスは DIMENSION 項目のユニーク値のみを表示するので、リストボックスのデータを表示するために QlikView が生成するクエリは、DISTINCT キーワードを使用して、データベースからデータを取得します。ただし一部のデータベースは、クエリに DISTINCT キーワードの代わりに GROUP BY のクラスが含まれている必要があります。GROUP BY を必要とするデータベース由来の Direct Discovery の場合、*DirectDistinctSupport* (291 ページ) の変数を使用して、DIMENSION クエリの既定の動作を変更します。

テーブルボックス

テーブルボックスは Direct Discovery の全項目を表示して、する方法を提供します Direct Discovery 項目を含むレコードのdetailをドリルします。テーブルボックスは、*Direct Query* の Load ステートメントで DETAIL に指定されている項目を使用できる、QlikView オブジェクトのみです。

Direct Discovery 項目がテーブルボックスで使用されると、表示される列数の制限を設定するために、閾値が設定されます。既定の閾値は 1000 レコードです。を設定すると、既定の閾値設定を変更できます。ロードスクリプトの **DirectTableBoxListThreshold** 変数例を挙げます。

```
SET DirectTableBoxListThreshold=5000
```

閾値の設定は、Direct Discovery 項目を含むテーブルボックスにのみ適用されます。インメモリ項目のみを含むテーブルボックスは、**DirectTableBoxListThreshold** 設定による制約は受けません。

選択が、閾値の制限より少ないレコード数しかない場合、テーブルボックスにはいずれの項目も表示されません。

Direct Discovery 項目とテーブルボックスのインメモリ項目は、混在させることができます。Direct Discovery 項目のみを含むテーブルボックスには、DIMENSION 項目が含まれている必要があります。Direct Discovery データを用いたテーブルボックスは、選択した行が同一データを含んでいる場合でも、その選択行をすべて表示します。一方インメモリのデータを用いたテーブルボックスは、選択した行に同一データが含まれている場合、その選択行の 1 行のみを表示します。

34 統計ボックス

統計ボックス	
レコード数	2,072
合計値	\$1,717,188.33
平均値	\$828.76
最小値	\$2.12
最大値	\$43,755.12

統計ボックスは、レコードの合計値や平均値など興味深い数値項目を表示する簡潔な方法です。選抜された統計関数を使用できます。特定の値域が選択されていない場合、QlikView は、対応する項目のリストボックスにリストされたすべての値 (連結値) を統計サンプルとして処理します。

統計ボックスのデフォルト名は選択値が属している項目の名前と同じです。



統計ボックスを右クリックすると、統計ボックス : オブジェクト メニュー (603 ページ) が表示されます。統計ボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

34.1 統計ボックス : オブジェクト メニュー


統計ボックス上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。次のコマンドが含まれます:

- プロパティ**
 - 統計ボックス プロパティ : 基本設定 (606 ページ) ページを開きます。ここでは、統計ボックスに表示する統計を選択できます。
 - 統計ボックス プロパティ : 数値書式 (609 ページ)、フォント (592 ページ)、レイアウト (593 ページ) および キャプションと枠線のプロパティ (599 ページ) ページもこのコマンドから開けます。ここでは、フォントや枠線のパラメータを設定できます。
- 注 :**
 - 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
絞込値の選択	対応するリストボックスの除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	対応するリストボックスの除外値をすべて選択します。
すべて選択	対応するリストボックスのすべての値を選択します。
クリア	対応するリストボックスの現在の選択をすべて解除します。
他項目の選択のクリア	対応するリストボックスの選択を保持しながら、他のシートオブジェクトの選択をすべて解除します。
ロック	対応するリストボックスの選択値をロックします。
アンロック	対応するリストボックスのロックされた値を解除します。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、統計ボックスの内容を印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。

Excel 出力	絞込値 (選択値を含む) を Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	名前を付けて保存 ダイアログが開き、出力されたデータを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 データ 統計ボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。 セルの値 ([オブジェクト] メニューを呼び出すときに) 右クリックした統計ボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、 ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。 オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 リンク オブジェクトを整理する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。 オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

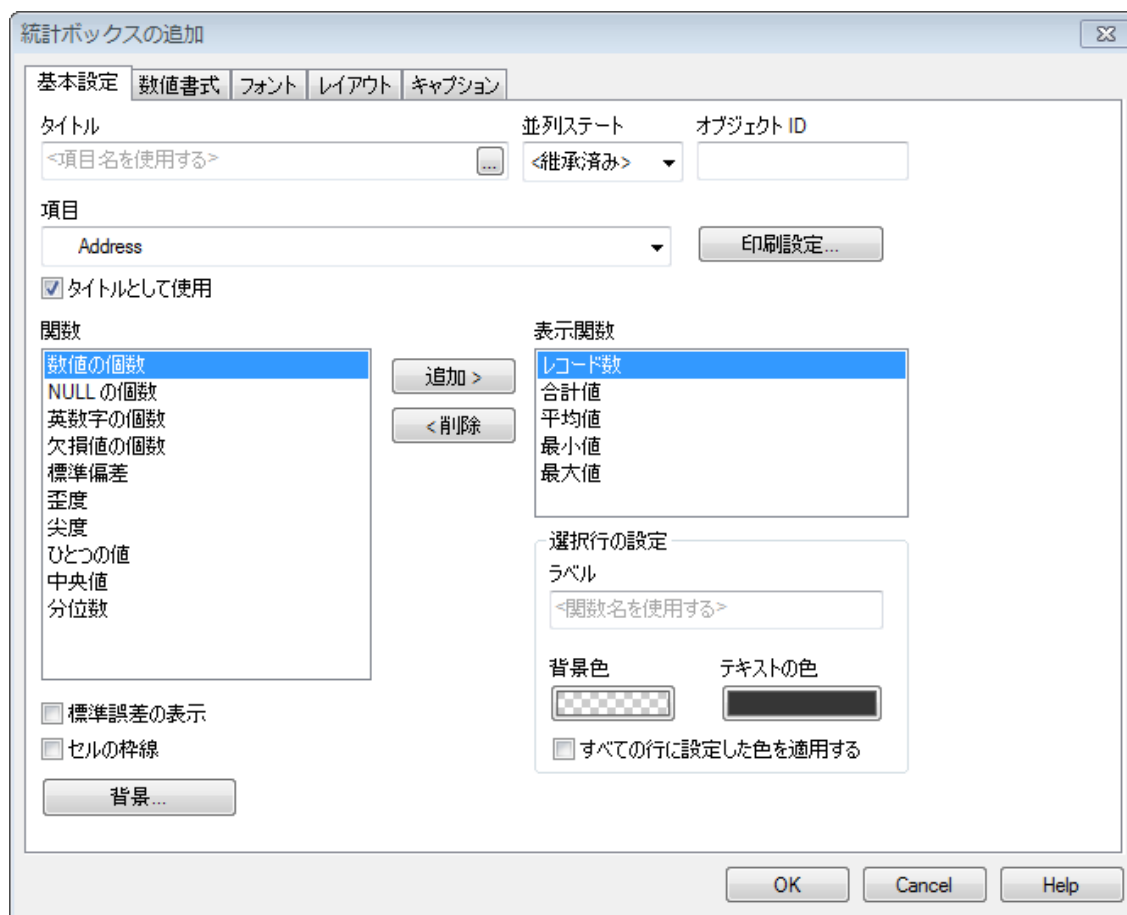
QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートオブジェクトを削除します。

34.2 統計ボックスプロパティ: 基本設定

このプロパティ ページは、**レイアウト** メニューの **シート オブジェクトの追加** から **統計ボックス** を選択する、もしくは統計ボックスを右クリックして表示されるフロードメニューから **プロパティ** を選択すると開けます。ここでは、計算して統計ボックスに表示するための統計を選択できます。



統計ボックスの追加

基本設定 | 数値書式 | フォント | レイアウト | キャプション

タイトル: <項目名を使用する> ...

並列ステート: <継承済み>

オブジェクト ID:

項目: Address

印刷設定...

タイトルとして使用

関数

- 数値の個数
- NULL の個数
- 英数字の個数
- 欠損値の個数
- 標準偏差
- 歪度
- 尖度
- ひとつの値
- 中央値
- 分位数

追加 >


< 削除


表示関数

- レコード数
- 合計値
- 平均値
- 最小値
- 最大値

選択行の設定

ラベル: <関数名を使用する>

背景色: 

テキストの色: 

標準誤差の表示

セルの枠線

背景...

OK Cancel Help

統計ボックス プロパティ : 基本設定

タイトル

ここには、シートオブジェクトのタイトルとして表示されるテキストを入力します。

並列ステート	<p>ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。</p> <p>継承済み</p> <p>シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。</p> <p>初期ステート</p> <p>QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。</p>
オブジェクト ID	<p>オブジェクト ID は 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が適用され、統計ボックスであれば SB01 から割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。</p>
項目	<p>項目 リストから使用する値を含む項目を選択します。</p>
タイトルとして使用	<p>タイトルとして使用 チェックボックスをオンにすると、ボックスのタイトルとして項目名を表示できます。 タイトル 編集ボックスにタイトルを入力することもできます。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式 (1053 ページ) としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。</p>
関数	<p>関数 パネルのリストから使用したい統計関数を選択し、ダブルクリック、もしくは 追加 ボタンをクリックして 表示関数 パネルに移動させます。</p>
標準誤差の表示	<p>[平均値] と [標準偏差] の計算に標準誤差の値を表示するには、[標準誤差の表示] チェックボックスをオンにします。</p>
セルの枠線	<p>セルの枠線 チェックボックスをオンにすると、テーブルの行のように水平の線による区切りが表示されます。</p>
背景	<p>背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。</p>
表示関数	<p>統計ボックスで使用される統計関数をリスト表示します。</p>
選択行の設定	<p>統計ボックスの外観は、 選択行の設定 グループでさらに修正できます。</p>
ラベル	<p>ここにラベルを入力し、初期値として設定されている関数名を置換えます。</p>
背景色	<p>選択した行の背景色を指定します。[背景色] は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。</p>
テキストの色	<p>選択行のテキストの色を選択します。</p>

すべての行に設定した色を適用する このチェックボックスをオンにしてから **適用** または **OK** をクリックすると、選択した色が統計ボックスのすべての行に適用されます。

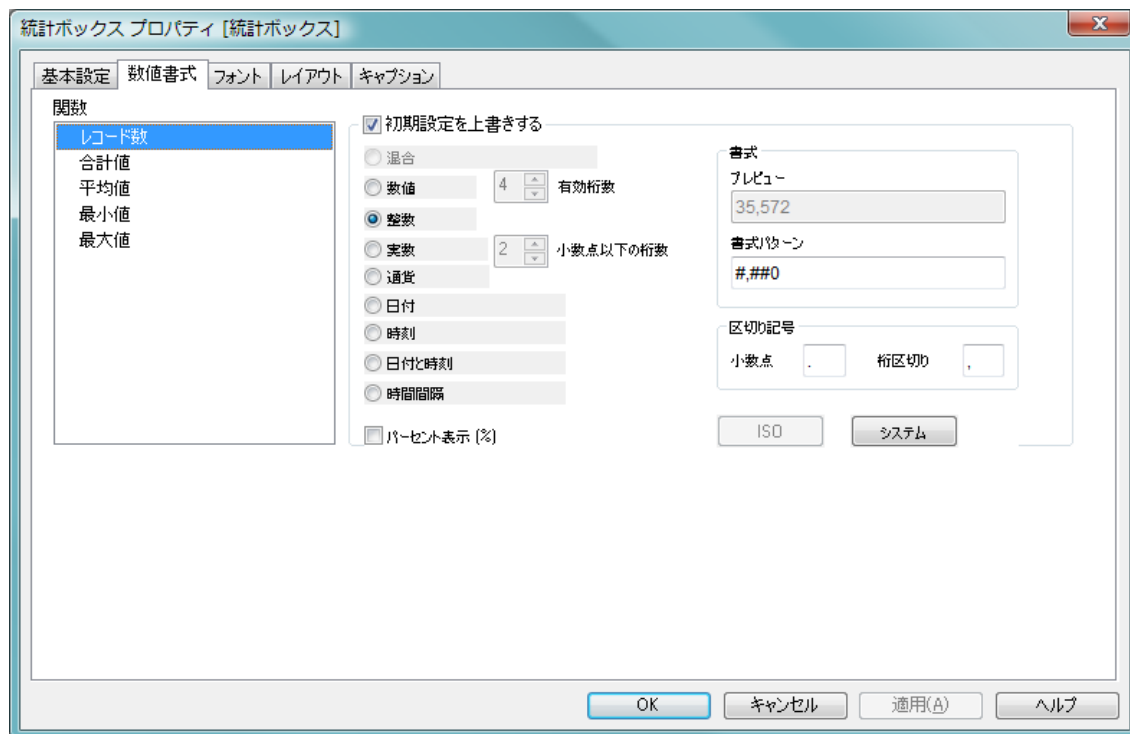
利用できる統計関数は次のとおりです。

Numeric count (数値の個数)	サンプルのサイズです絞込値の中の数値の数です。
Null count (NULLの個数)	絞込値の中の空の項目値の数です。
Text count (英数字の個数)	絞込値の中の文字数字の数です。
Total count (レコード数)	絞込値の合計数です。リスト ボックスで表示できるレコード数と同じ数字です。 (<i>Numeric count</i> (数値の個数) と <i>Text count</i> (英数字の個数) の合計)。
Missing count (欠損値の個数)	絞込値の中の数値以外の数です。 (<i>Null count</i> (NULLの個数) と <i>Text count</i> (英数字の個数) の合計)
Sum (合計値)	サンプルの合計です。
平均値	サンプルの算術平均 (平均値) です。
Std dev (標準偏差)	サンプルの標準偏差値
Skewness (歪度)	サンプルの歪度
Kurtosis (尖度)	サンプルの尖度
Min (最小値)	サンプルの最小値
最大値	サンプルの最大値
Only value (ひとつの値)	唯一の絞込数値です。
Median	サンプルの中央値
Fractile	サンプルの分位数

サンプルは、項目の除外値以外 (選択値 + 連結値) をすべて含みます。

最小値 や **最大値** のように見分けの付く項目値を表示する値をクリックすると、対応する項目値が選択されます。

34.3 統計ボックス プロパティ: 数値書式



統計ボックス プロパティ: 数値書式

統計ボックス プロパティ: 数値書式 ページは、統計ボックスを右クリックし、フロートメニューから**プロパティ**を選択して開きます。

統計ボックスのさまざまな統計関数の統計的に正しい数値書式が、基準となる項目のデータおよび数値書式から自動的に導き出されます。ここでは、それぞれの関数に数値書式を上書き設定することができます。このためには、**[関数]** リストから統計関数を選択し、この**[初期設定を上書きする]** チェックボックスをオンにして、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- | | |
|-----------|--|
| 数値 | 有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。 |
| 整数 | 数値を整数で表示します。 |
| 実数 | 小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。 |
| 通貨 | 書式パターン 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。 |
| 日付 | 書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。 |

Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します：**数値、整数、実数。**

小数点と桁区切り 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

34.4 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

34.5 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

34.6 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

35 マルチボックス

OrderID	▼	○
OrderDate	▼	○
SalesPerson	▼	○
Customer	▼	○
Country	▼	○
Shipper	▼	○

適用性によって表示項目をソートするそのユニークなオプションによって、(この **[適用順にソート]** チェックボックスは マルチボックスプロパティ：基本設定 (615 ページ) ページにあります)、マルチボックスは、同じシート上にたくさんのリストボックスを表示することの問題点を根本的に解決します。マルチボックスを右クリックすると、マルチボックス：オブジェクトメニュー (611 ページ) が表示されます。マルチボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

35.1 マルチボックス：オブジェクトメニュー

マルチボックスの **オブジェクト** メニューには3つのバージョンがあります。キャプション領域をクリックして表示されるフロートメニューには、ボックス全体に適用できるコマンドが含まれ、特定の項目がポインターの下にあった場合、その項目に適用されるコマンドもメニューに含まれます。最後に、最初にファイルを開けると、フロートメニューにはさらにもう1つのレイアウトが含まれます。すべてを含めたメニュー コマンド：

プロパティ




マルチボックスプロパティ ダイアログを開くと、マルチボックスプロパティ：基本設定 (615 ページ)、マルチボックスプロパティ：[ソート] (617 ページ)、マルチボックスプロパティ：プレゼンテーション (618 ページ)、マルチボックスプロパティ：数値書式 (623 ページ)、フォント (592 ページ) そして レイアウト (593 ページ) を設定できます。

注：

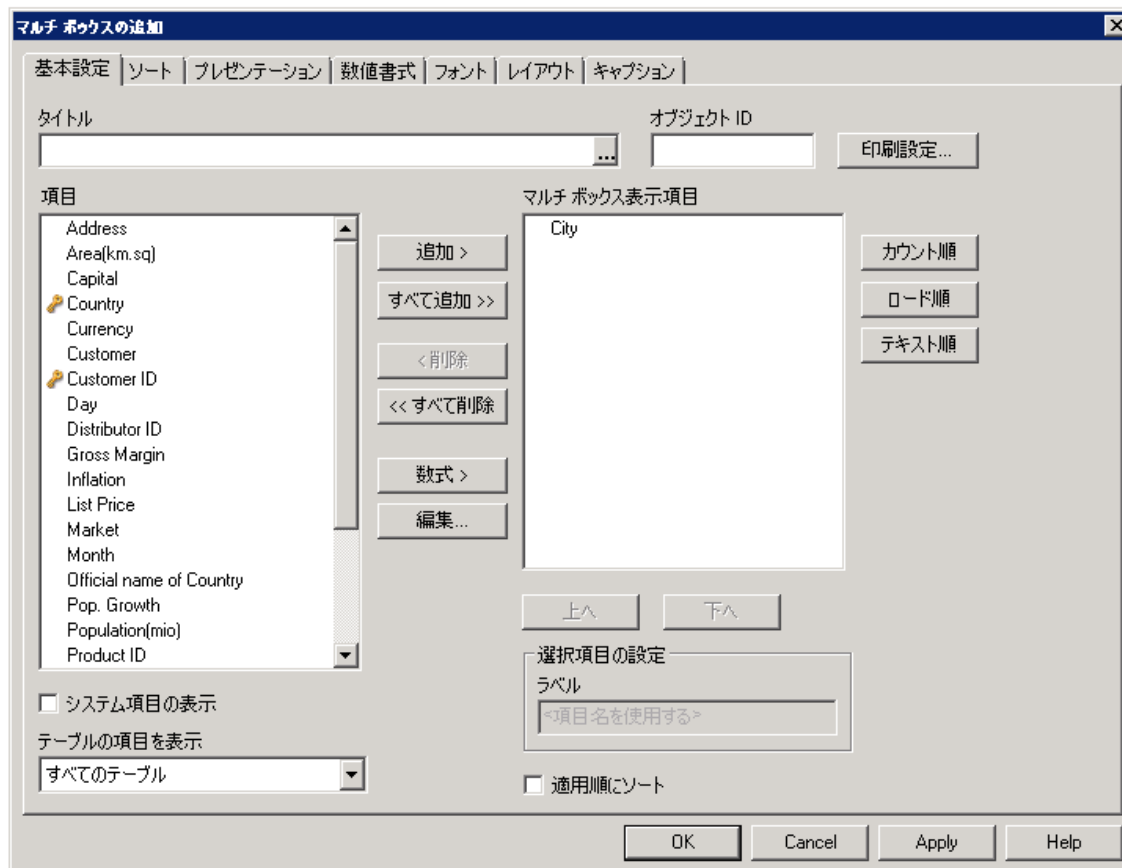
現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
検索	開いた項目で検索用の <i>Text Search Box</i> を開きます。
あいまい検索	開いた項目で検索用にテキスト検索ボックスを <i>あいまい検索</i> (128 ページ) モードで開きます。
高度な検索	開いた項目で検索用の [高度な検索] ダイアログ (130 ページ) を開きます。このダイアログで、詳細な検索式を入力できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+SHIFT+F。
絞込値の選択	その項目の除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	その項目の <i>Excluded</i> をすべて選択します。
すべて選択	その項目のすべての値を選択します。
すべての選択をクリア	マルチボックスの現在の選択をすべてクリアします。
クリア	項目の現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	マルチボックスの指定項目の選択を保持しながら、マルチボックスの他の項目の選択も含めて、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	その項目の選択値をロックします。
選択値をすべてロックする	そのマルチボックスの選択値をロックします。

アンロック	その項目のロックされた値を解除します。
すべてをアンロック	マルチボックスのロックされた値を解除します。
印刷	プリンタ設定を指定できる 印刷 ：基本設定 (111 ページ) ダイアログを開きます。マルチボックスの印刷は、各項目が 1 つの値を表示する場合にのみ意味を持ちます。これは、それが唯一の選択値であり、唯一の連結値だからです。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。
Excel 出力	項目リストが閉じられている場合、マルチボックスの目に見える部分を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。出力された値は、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。この操作は、各項目が 1 つの値を表示する場合にのみ意味を持ちます。なぜなら、それが唯一の選択値であり、唯一の連結値だからです。
エクスポート	ダイアログが開かれ、マルチボックスをテーブルとして、選択したファイルにエクスポートできます。提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキスト ファイル形式、HTML、XML、BIFF (Excel ネイティブ形式)、および QVD ファイル (493 ページ) があります。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 データ マルチボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。 セルの値 ([オブジェクト]メニューを呼び出すときに) 右クリックしたマルチボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。 画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、 ユーザープロパティ ダイアログの エクスポート ページの設定に従います。 オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シート オブジェクトを削除します。</p>

35.2 マルチボックスプロパティ: 基本設定



マルチボックスプロパティ: 基本設定

タイトル

マルチボックスの**タイトル**ウィンドウには、ウィンドウキャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される計算式(1053 ページ)としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な**[数式の編集]**ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシートオブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

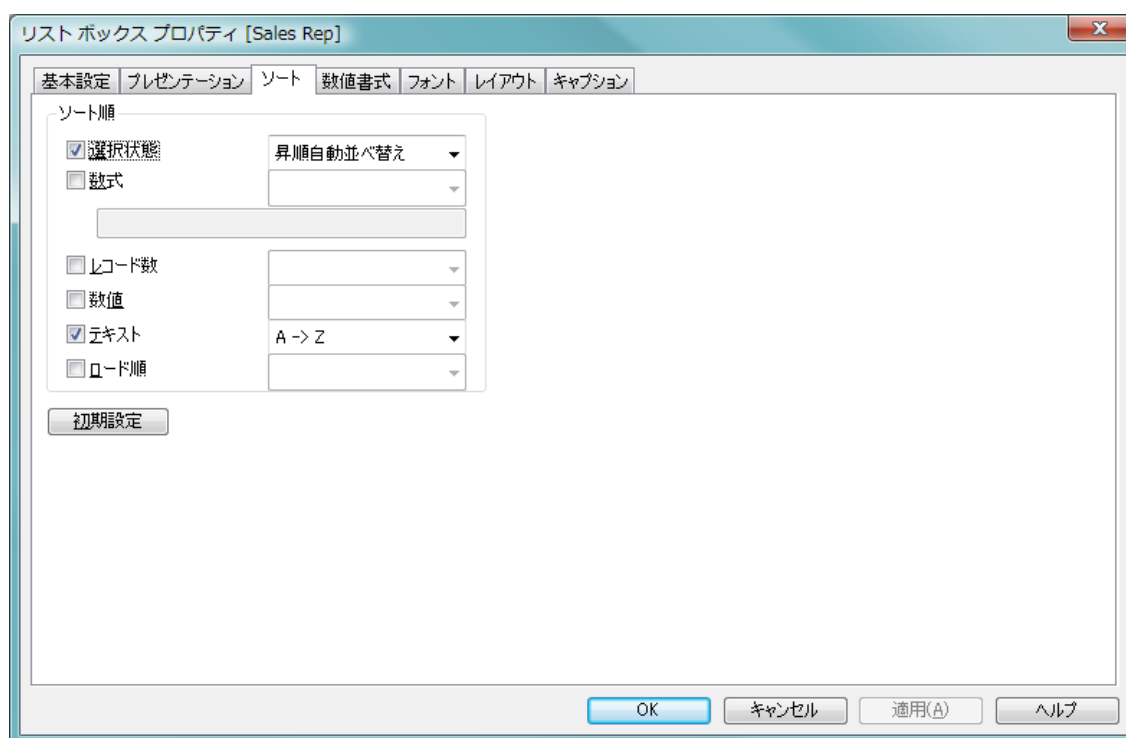
初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**初期ステート**にあります。

項目	<p>この列にはデータソース項目の名前が表示されます。初めは、すべての項目 (システム項目以外) がこの列に表示されます。システム項目 (459 ページ) を表示するには、システム項目の表示 チェックボックスをオンにします。</p> <p>キー項目は、キー シンボルで示されます。使用/削除する項目をクリックして選択します。[追加 >] ボタンまたは [< 削除] ボタンを使用して、目的の列に移動します。</p>
マルチ ボックス表示項目	<p>この列には、マルチ ボックスに表示するために 項目 リストから選択された項目名が表示されます。初めは、この列に表示される項目はありません。このリストで項目を選択すると、編集ボックスで ラベル を付けることができます。</p>
テーブルの項目を表示	<p>ここで、項目 リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで すべてのテーブル を表示します。</p> <p>すべてのテーブル (テーブル名表示) は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は、1 度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの <i>Qualify</i> (326 ページ) とは関係ありません。)</p> <p>一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。</p>
数式	<p>[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログを開き、マルチ ボックスに表示項目として使用する数式を作成できます。</p>
編集	<p>マルチ ボックス表示項目 列で選択した項目を [数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログで開きます。</p>
上へ	<p>項目の表示される順番を 1 つ上に移動します。</p>
下へ	<p>項目の表示される順番を 1 つ下に移動します。</p>
カウント順	<p>マルチ ボックス表示項目 列の項目を番号順にソートします。</p>
ロード順	<p>マルチ ボックス表示項目 列をロード順 (データベースから読み込まれた順) にソートします。</p>
テキスト順	<p>マルチ ボックス表示項目 列の項目をアルファベット順にソートします。</p>
適用順にソート	<p>このチェックボックスをオンにすると、マルチ ボックス表示項目 のソート順は選択時に動的に更新され、除外値でない値を含む項目がリストの上方へ移動し、絞込値のない項目が下方へ移動します。このオプションにより、ひとつのマルチ ボックスで文字通り 100 項目でも使用できるようになります。</p>

オブジェクト ID これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、マルチボックスであれば MB01 から割り当てられます。リンクされたシートオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。

35.3 マルチボックスプロパティ: [ソート]



リストボックスプロパティ : ソート

ソート ページは、シートオブジェクト (リストボックス、マルチボックス、テーブルボックス、チャートまたはスライダー/カレンダーオブジェクト) を右クリックし、フロートメニューから **プロパティ** を選択する、もしくはメインメニューの **オブジェクト > プロパティ** を選択して開きます。シートオブジェクトの値のソート順を設定します。シートオブジェクトによっては、ソートのオプションが無いものもあります。

ソート順 :

選択状態

項目値を論理状態 (選択値、連結値、または除外値) に従ってソートします。

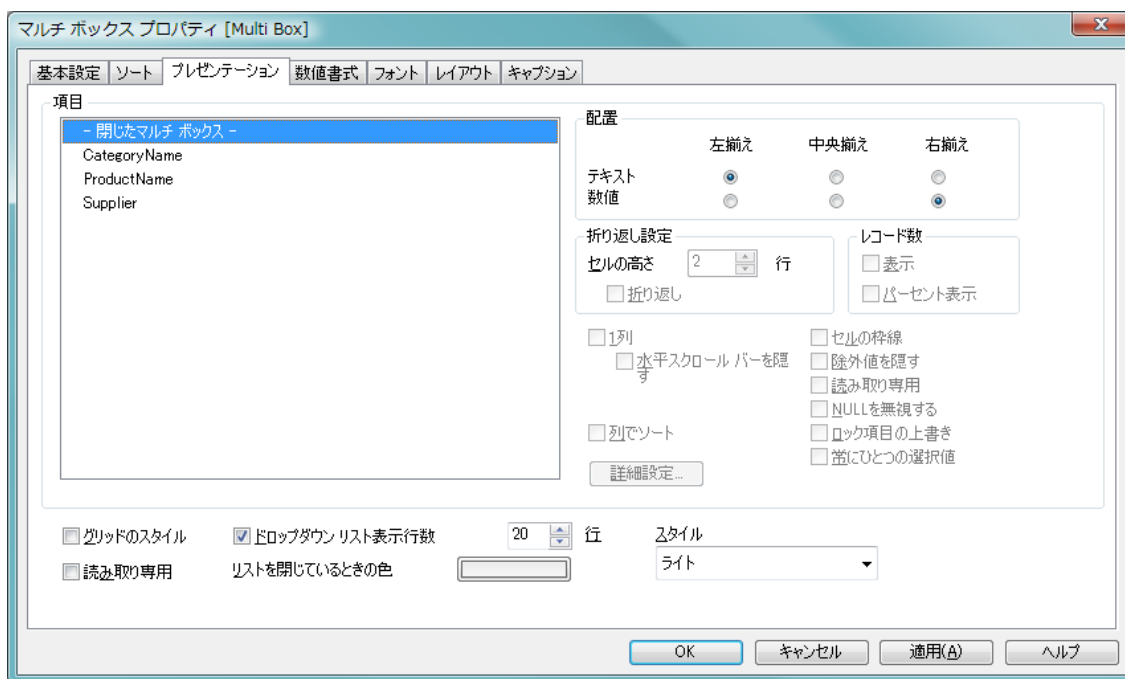
昇順自動並べ替え 設定は、リストボックスが垂直スクロールバーを表示するときのみ、リストボックス (または、マルチボックスの項目値を含むドロップダウンリスト) を **選択状態** に従ってソートします。リストボックスを拡大してすべての値を表示させると、**選択状態** によるソート順は解除されます。

- 数式** このソートオプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいて項目値をソートします。しかし、ソート順に数式を使用する場合、SET 数式でレコードのセットを定義する必要があります。ここでの数式によるソートは、数値項目でのみ機能し、テキスト項目では機能しないので、注意してください。Set 分析 (992 ページ) も参照してください。
- レコード数** 項目値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。
- 数値** 項目値を数値順にソートします。
- テキスト** 項目値をアルファベット順にソートします。
- ロード順** 項目値を最初のロード順でソートします。

初期設定 ボタンは、ソート順を初期設定値に設定します。

優先順位は、**選択状態**、**数式**、**レコード数**、**数値**、**テキスト**、**ロード順** の順です。これらのソート条件はそれぞれ、**昇順** または **降順** に設定できます。

35.4 マルチボックスプロパティ: プレゼンテーション



マルチボックスプロパティ: プレゼンテーション

マルチボックスプロパティ: プレゼンテーション ページは、マルチボックスを右クリックし、**オブジェクト** メニューから **プロパティ** コマンドを選択します。ここでは、マルチボックスのセルのレイアウトを調整できます。マルチボックスの項目ごとにそれぞれ配置を設定します。- 閉じたマルチボックス - のレイアウトも調整できます。

- 配置** 項目値の配置を設定します。**テキスト** と **数値** の配置は別々に設定します。

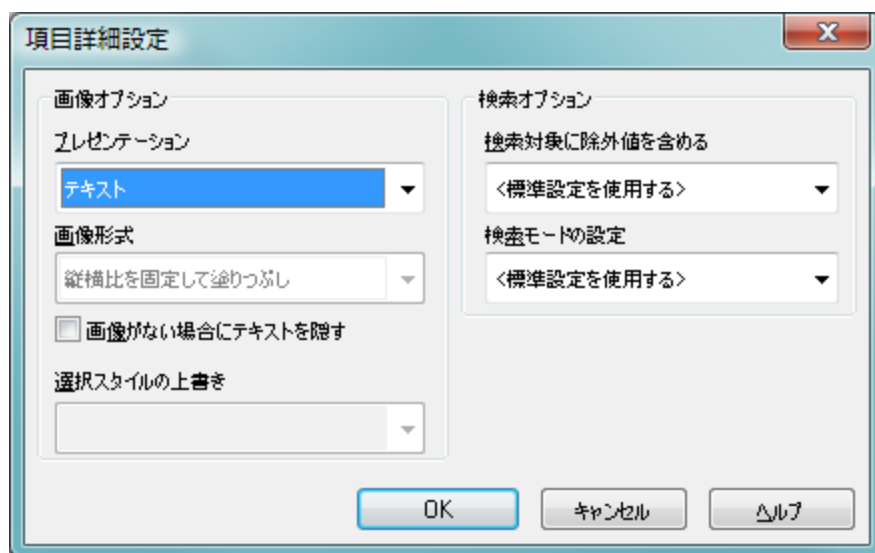
折り返し設定	<p>このグループでは、マルチボックスの項目セルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。</p> <p>折り返し</p> <p>このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。</p> <p>セルの高さn行</p> <p>ここでは、セルの行数を指定できます。</p>
レコード数	<p>表示</p> <p>選択された項目値のレコード数を表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。レコード数は、選択可能な値の組み合わせの数を意味します。</p> <p>パーセント表示</p> <p>レコード数を絶対数で表示するか、合計入力数に対するパーセンテージで表示するかどうかについてのステータスを切り替えます。</p>
詳細設定	<p>このボタンは、項目詳細設定 (620 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。</p>
1 列	<p>このチェックボックスをオンにすると、マルチボックスの項目値は常に 1 列に表示されます。</p>
水平スクロールバーを隠す	<p>このチェックボックスをオンにすると、指定した幅が広すぎるときに通常表示されるマルチボックスの水平スクロールバーが非表示になります。代わりに、項目値は必要に応じて省略されます。</p>
列でソート	<p>マルチボックスが 2 列以上のとき、値は行型に指定されたソート順で表示されます。列でソート はそれを列型の表示に切替えます。</p>
セルの枠線	<p>項目値は、テーブルの行のように水平の線で区切られます。セルの枠線 は、セルを折り返して表示 チェックボックスをオンにすると自動的にオンになりますが、後で選択を解除できます。</p>
除外値を隠す	<p>項目の除外値を表示するかどうかを切り替えます。除外値は選択もできなくなります。</p>
読み取り専用	<p>このチェックボックスをオンにすると、マルチボックスのこの項目での選択が無効にされ、表示する機能のみとなります。</p>
NULL を無視する	<p>NULL 値は、指定した項目の絞込値として表示されません。</p>

注意 !

このオプションを正しく使用しない場合は、相関関係のないデータがマルチボックスに表示されることがあります。

ロック項目の上書き	このチェックボックスをオンにすると、項目がロックされている場合でも、マルチボックスのその項目で選択を行うことができます。選択がドキュメントの他の場所で行われると、リストボックスはロック状態のままとなります。
グリッドのスタイル	このチェックボックスはマルチボックスのレイアウトを変更し、ラベルがそれに対応する項目の上にそれぞれ配置されます。
読み取り専用	このチェックボックスをオンにすると、このマルチボックスでの選択が無効にされ、表示する機能のみとなります。
リストを閉じているときの色	閉じたマルチボックスのデータ列セルの色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
ドロップダウン リスト表示行数 n 行	マルチボックスに表示されるドロップダウン リストボックスの長さを制限できます。編集ボックスに表示する値の最大数を入力します。
スタイル	VBScript および JScript から選択できます。
背景	背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。

項目詳細設定



項目詳細設定

このダイアログは、マルチボックスプロパティ：プレゼンテーション (618 ページ)、テーブルボックスプロパティ：[プレゼンテーション] (634 ページ) および チャートプロパティ：軸 (747 ページ) から開けます。以下に説明する画像オプションはビットマップチャートでは使用できません。

画像オプション

プレゼンテーション

次のオプションがあります。

テキスト

このオプションを選択すると、数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションを選択すると、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとします。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\¥Mypic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式値を有効な画像参照として解釈できない場合は、値自体が表示されます。

画像 INFO

このオプションを選択すると、QlikView は、項目値にリンクした画像 info を **info load/select** を使用してスクリプトに表示できます。項目値に対する有効な画像がない場合は、**画像がない場合にテキストを隠す** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。ビットマップチャートに、このオプションはありません。

画像形式

上記で [画像] オプションを選択した場合のみ使用できます。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

縮小/拡大なし

このオプションを選択した場合、画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。

塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。

縦横比を固定する

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。

縦横比を固定して塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体 (上下/左右とも) を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

画像がない場合にテキストを隠す

このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikView は項目値テキストを表示しません。この場合、セルは空白のままです。

選択スタイルの上書き テキストの代わりに画像を表示する場合、項目値の論理状態を表示するためには、ドキュメントのデフォルトではなく別の選択スタイルを使用する必要があるかもしれません。**選択スタイルの上書き** のドロップダウン リストを使用して、**コーナー タグ** などの適切な選択スタイルを選択します。

検索オプション

このグループを使用すると、開かれているマルチボックスとテーブルのドロップダウン リストに適用できるテキスト検索の特定の操作を制御できます。

検索対象に除外値を含める テキスト検索に除外値を含めるかどうかを指定します。以下の方法から選んで実行します。

<use default>

ユーザー プロパティ (85 ページ) で指定したデフォルトが適用されます。

はい

除外値をテキスト検索に常に含みます。

いいえ

連結値は通常通り含みますが、除外値をテキスト検索に含みません。

検索モードの設定

テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。以下の方法から選んで実行します。

<use default>

ユーザー プロパティ (85 ページ) で指定したデフォルトが適用されます。

ワイルドカード検索

ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されます。

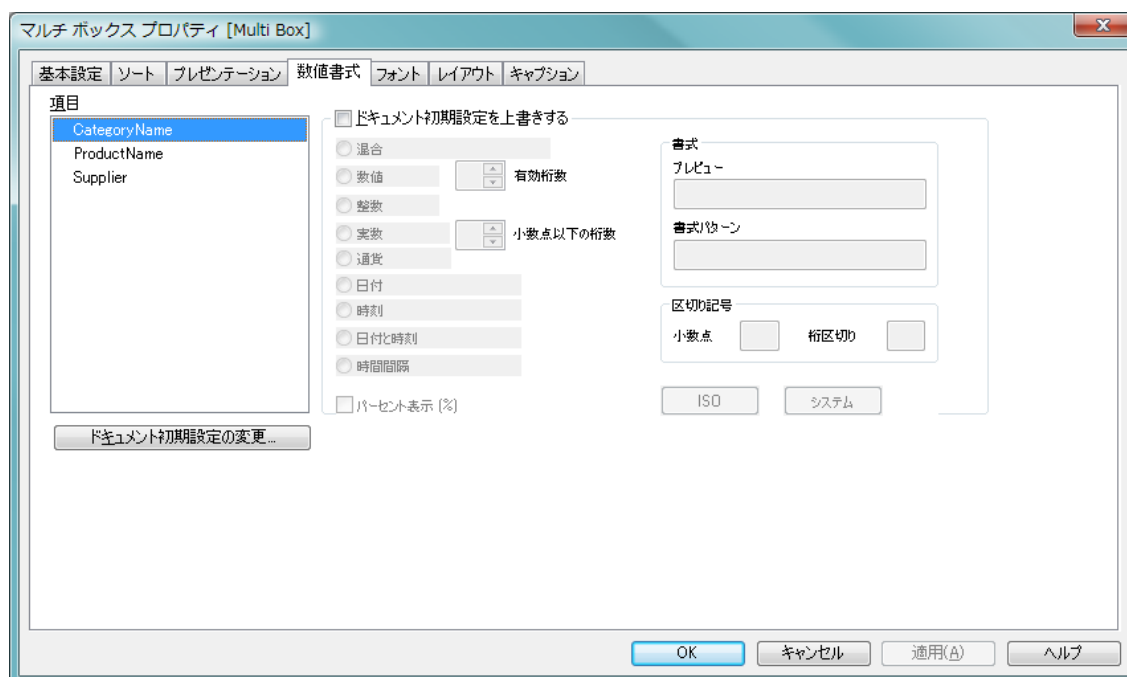
あいまい検索

あいまい検索を意味するチルダ (~) が初期検索文字列として表示されます。

通常検索

検索文字列に追加される文字はありません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。

35.5 マルチボックスプロパティ: 数値書式



マルチボックスプロパティ: 数値書式

マルチボックスプロパティ: 数値書式 ページは、マルチボックスを右クリックし、フロートメニューから**プロパティ** を選択して開きます。

このプロパティ ページは、マルチボックスのすべての項目の書式設定を提供します。数値書式は、**[項目]** リストからひとつ選択する、または複数選択することにより (Shift もしくは Ctrl キーを押しなままクリック) 個々に設定できます。

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、ドキュメントプロパティ: 数値書式 (541 ページ) ダイアログで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **ドキュメント初期設定を上書きする** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- | | |
|-----------|--|
| 混合 | 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。 |
| 数値 | 有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。 |
| 整数 | 数値を整数で表示します。 |
| 実数 | 小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。 |
| 通貨 | 書式パターン 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。 |

日付	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00))。

パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します：**数値、整数、実数**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

ドキュメント初期設定の変更 ボタンから ドキュメントプロパティ：数値書式 (541 ページ) ページを開き、項目のデフォルトの数値書式を変更できます。

35.6 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

35.7 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

35.8 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

36 テーブルボックス

Suppliers		
Supplier	Category	Product
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Napp
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Skor
ABC	Baby Clothes	Mehmet-Tröja
Asin Fashion Ltd Co	Swimwear	Summer Shorts
Asin Fashion Ltd Co	Women's Clothes	Okkaba Skin Jackets
Asin Fashion Ltd Co	Women's Footwear	Walking Shoes
Austerlich	Children's Clothes	RDL Suit
Austerlich	Men's Clothes	Bow tie
Austerlich	Men's Footwear	Davenport Shoes

テーブルボックスは、複数の項目を同時に表示するシートオブジェクトです。すべての行の内容は、論理的に結合されます。行は、異なる内部テーブルから取得することも可能性で、項目の可能な組み合わせでテーブルを作成します。

統計ボックスを右クリックすると、テーブルボックス：オブジェクトメニュー (625 ページ) が表示されます。テーブルボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト**メニューからもアクセスできます。

注意!

リンクが解除されたデータテーブルからテーブルボックスに大量のフィールドデータを追加する場合、QlikView は要求されるリンクを解決するデカルト積を作成しますが、これによって高いメモリ使用や他のパフォーマンスの問題が生じる可能性があります。

36.1 テーブルボックスの使用

ソート

任意の列でテーブルボックスをソートできます。列を右クリックし、コンテキストメニューから [**ソート**] を選択するだけです。列のキャプションをダブルクリックしてもソートできます。コンテキストメニューから **ソート** を選択する、または同じ列のタイトルをダブルクリックすると、ソート順が反転します。

列の順序の変更




ドラッグアンドドロップを使用して、列の順序を変更できます。列のタイトルをポイントし、マウスボタンを押しながら、新しい位置に列をドラッグします。この機能を無効にするには、**テーブルボックスプロパティ：プレゼンテーション** ページにある **ドラッグアンドドロップを許可する** チェックボックスをオフにします。

36.2 テーブルボックス：オブジェクトメニュー

テーブルボックスの**オブジェクト**メニューには2つのバージョンがあります。キャプション領域をクリックして表示されるフロートメニューには、ボックス全体に適用できるコマンドが含まれ、特定の項目がポインターの下にあった場合、その項目に適用されるコマンドもメニューに含まれます。すべてを含めたメニューコマンド：

プロパティ	テーブルボックスプロパティ ダイアログを開くと、テーブルボックスプロパティ：基本設定 (631 ページ)、テーブルボックスプロパティ：[ソート] (633 ページ)、テーブルボックスプロパティ：[プレゼンテーション] (634 ページ)、チャートプロパティ：スタイル (915 ページ)、テーブルボックスプロパティ：数値書式 (637 ページ)、フォント (592 ページ) そして レイアウト (593 ページ) を設定できます。
注：	現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。
データに列幅を合わせる	テーブルのすべての列の幅を各列の最も広いデータに調整します。ヘッダーを計算に含めます。
列幅を同じにする	テーブルの列幅を、クリックした列の幅と同じに設定します。
ソート	クリックした項目でレコードをソートします。
カスタム セル書式	[カスタムセル書式] ダイアログ (629 ページ) を開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケードメニューは、 デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合にのみ使用できます。
順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
値の変更	入力フィールドを表示しているテーブルボックス列でのみ使用できます。クリックされたセルを入力モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。

値を元に戻す	入力フィールドを表示しているテーブルボックス列でのみ使用できます。オプションが3つあったカスケードメニューを開きます。 ひとつの値を元に戻す クリックされた項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 絞込値を元に戻す 絞り込まれたすべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 すべての値を元に戻す すべての項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。
絞込値の選択	その項目の 除外値 以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	その項目の除外値をすべて選択します。
すべて選択	その項目のすべての値を選択します。
すべての選択をクリア	テーブルボックスに表示されているすべての項目の選択をクリアします。
クリア	項目の現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	現在の項目の絞込値をすべて選択し、他のすべての項目の選択をクリアします。
ロック	その項目の選択値をロックします。
アンロック	その項目のロックされた値を解除します。
印刷	標準の印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、テーブルを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で 印刷 ダイアログを開きます。 OK ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	選択したファイルにテーブルの内容をエクスポートします。提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキストファイル形式、HTML、XML、BIFF (Excel ネイティブ形式)、および QVD (QlikView データファイル) があります。 HTML 形式にエクスポートする場合、テーブルボックスの画像は含まれません。

- クリップボードにコピー** このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。
- テーブル全体をコピー**
ヘッダーと選択条件を含め、テーブルをクリップボードにコピーします。
- テーブルのデータのみをコピー**
テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。
- セルの値**
(オブジェクトメニューを呼び出すときに) 右クリックしたリストボックスのセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。
- 画像**
シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ: エクスポート** ページの設定に従います。スクリプトの非表示部分によって生成されたテーブルは、*\$Table* システム項目には名前が表示されません。
- オブジェクト**
シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
- リンク オブジェクト** リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。
- リンク オブジェクトを整理する**
すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。
- オブジェクトのリンクを解除する**
オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
- 最小化** オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**オブジェクトプロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
- 最大化** オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**オブジェクトプロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
- 元のサイズに戻す** 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- ヘルプ** QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。

[カスタム セル書式] ダイアログ**カスタム セル書式**

このダイアログを使用すると、1つ以上のグループのテーブルセルにカスタム書式を適用できます。[表示]メニュー (62 ページ)の**デザイングリッド**をアクティブにするか、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ)チェックボックスをオンにした場合、テーブルボックス、ストレートテーブル、またはピボットテーブルのオブジェクトメニューからこのダイアログを呼び出すことができます。

書式設定で影響を受けるセルのグループは、コマンドを呼び出すために右クリックしたテーブル内の場所によって決定されます。書式設定するセルの最も小さいグループの単位は、テーブルボックスの1項目 (通常は列) か、テーブルチャートの1数式/軸です。ストライプを使用する場合は、各ストライプが個別に書式設定されます。

このダイアログをテーブルの任意の部分のカスタム書式に使用すると、テーブルの**[プロパティ]**ダイアログの**[スタイル]**ページで設定されている**[スタイル]**が**[カスタム]**に設定されます。定義済みのスタイルの1つに**[スタイル]**設定を戻すと、カスタム書式が失われます。

注意!

一般的なテーブルスタイルは、属性式から生成される書式に置き換えられます。

[テーブルプレビュー] パネル	<p>プレビュー パネルは、テーブルセルのグループに行われた書式変更を表示します。右側にある小さいプレビューの [サンプル テキスト] とは異なり、プレビュー パネルには、実行中の変更と、条件付き書式や属性式書式の適用後の変更が表示されます。</p> <p>このパネルでは、テーブルの周囲を自由に移動したり、さまざまなセルのグループに書式を適用することができます。書式のフォーカスを移動するには、セル内をクリックするだけです。</p>
元に戻す	<p>[元に戻す] ボタンは、[カスタム セル書式] ダイアログ内で行われた変更を段階的に元に戻すために使用されます。</p> <p>[カスタム セル書式] ダイアログを閉じた後に、メイン ツールバーの [元に戻す] ボタンを 1 回クリックすると、そのダイアログで行われたすべての変更がそのクリックだけで元に戻ります。</p>
やり直し	<p>やり直し ボタンは、カスタム セル書式 ダイアログ内で 元に戻す ボタンを使用して以前元に戻した変更を段階的に再適用するために使用されます。</p>
サンプル テキスト	<p>これは、行われた設定を表示するプレビュー セルです。</p>
背景色	<p>セルの背景色を定義します。</p>
テキストの色	<p>セルのテキストの色を定義します。</p>
上罫線	<p>ここでは、セルの前の罫線を定義します。罫線のスタイルを設定するためのドロップダウンと罫線の色を設定するためのボタンがあります。セルの罫線はセルとセルの間で結合されるので、テーブルの実際の罫線がプレビューと異なることがあります。</p>
下罫線	<p>ここでは、セルの後の罫線を定義します。罫線のスタイルを設定するためのドロップダウンと罫線の色を設定するためのボタンがあります。セルの罫線はセルとセルの間で結合されるので、テーブルの実際の罫線がプレビューと異なることがあります。</p>
テキストの設定	<p>このグループでは、セルに適用できるテキスト修飾子の数を定義します。</p> <p>テキスト サイズ</p> <p>ドロップダウンを使用して、テーブルで使用される通常のフォントにサイズ変更を適用します。</p> <p>太字</p> <p>太字テキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。</p> <p>斜体</p> <p>斜体テキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。</p> <p>下線</p> <p>下線付きテキストにする場合にこのチェック ボックスをオンにします。</p> <p>ドロップシャドウ</p> <p>テキストに影を付ける場合にこのチェック ボックスをオンにします。</p>

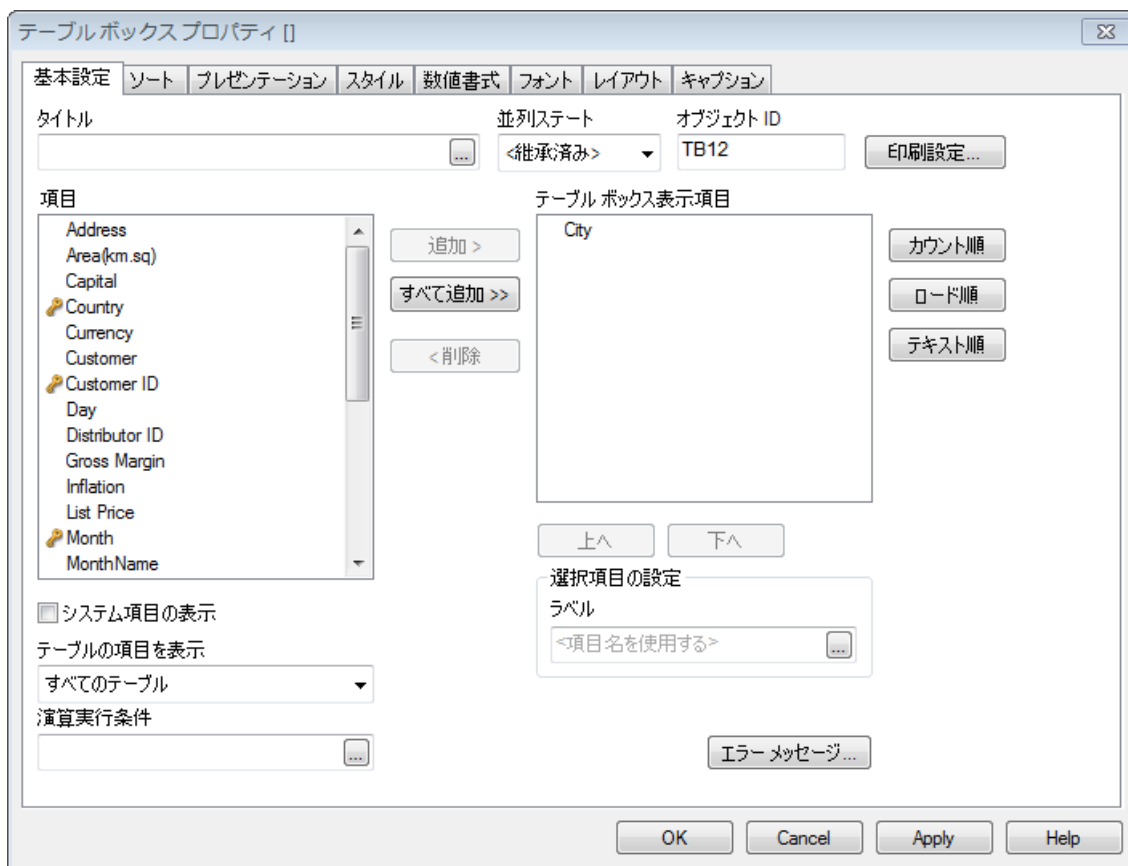
設定対象

通常は、ダイアログにアクセスするために右クリックした対象の数式、軸、または項目 (テーブルボックス) にのみ変更が適用されます。このドロップダウンを使用すると、他の数式、軸、または項目に同じ書式を適用できます。

36.3 テーブルボックスプロパティ: 基本設定

テーブルボックスプロパティ: 基本設定 ページは、テーブルボックスを右クリックし、フロートメニューから **プロパティ** を選択して開く、もしくはテーブルボックスがアクティブな場合は **オブジェクトメニュー** の **プロパティ** を選択して開きます。

テーブルボックスの **タイトル** ウィンドウには、ウィンドウキャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される **計算式 (1053 ページ)** としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

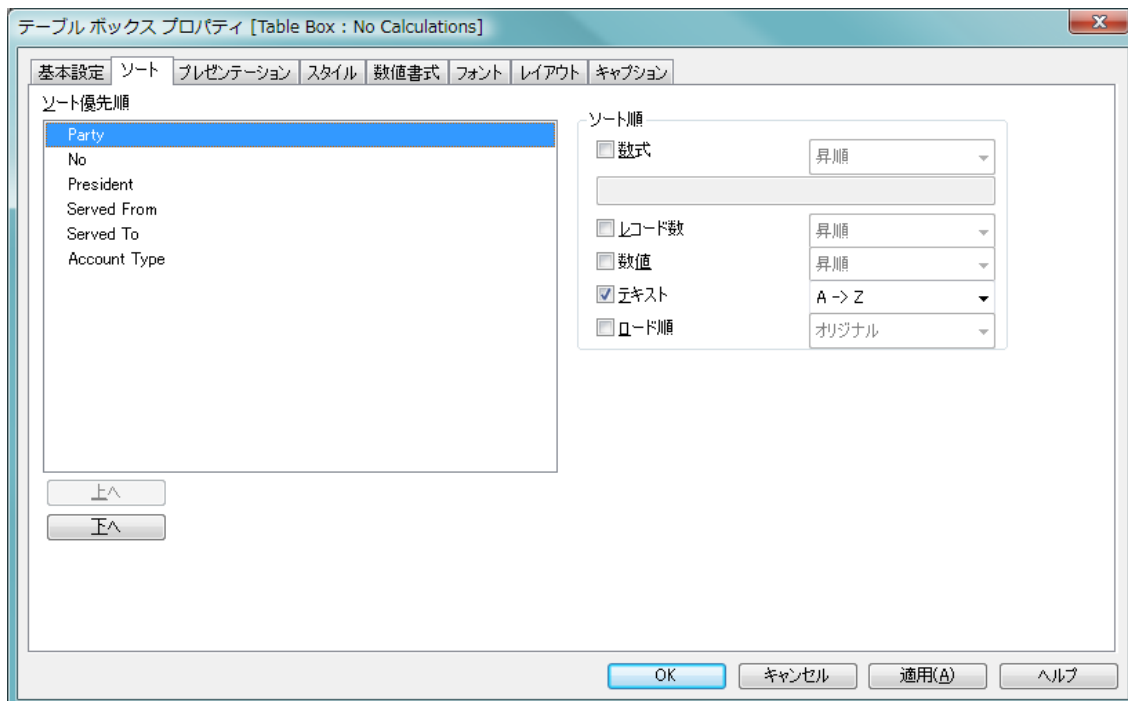


テーブルボックスプロパティ: 基本設定

項目	<p>この列にはデータソース項目の名前が表示されます。初めは、すべての項目 (システム項目以外) がこの列に表示されます。システム項目を表示するには、[システム項目の表示] チェックボックスをオンにします。使用/削除する項目をクリックして選択します。[追加 >] ボタンまたは [< 削除] ボタンを使用して、目的の列に移動します。</p> <p>スクリプトを QlikView バージョン 5.03 以降で実行している場合、キー項目は、キー シンボルで示されます。</p>
テーブル ボックス表示項目	<p>この列には、テーブルボックスに表示するために 項目 リストから選択された項目名が表示されます。初めは、この列に表示される項目はありません。</p> <p>このリストで項目を選択すると、編集ボックスで ラベル を付けることができます。</p>
システム項目の表示	<p>このボックスをオンにすると、システム項目が 項目 列に表示されます。</p>
テーブルの項目を表示	<p>ここで、項目 リストにどの項目を表示するかを制御します。ドロップダウンリストは、デフォルトで すべてのテーブル を表示します。リストボックスで特定のテーブルの項目を表示する場合、ドロップダウンリストでテーブル名を選択します。</p> <p>すべてのテーブル (テーブル名表示) は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は、1 度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの <i>Qualify</i> (326 ページ) とは関係ありません。)</p>
上へ	<p>項目の表示される順番を 1 つ上に移動します。</p>
下へ	<p>項目の表示される順番を 1 つ下に移動します。</p>
カウント順	<p>テーブル ボックス表示項目 列の項目を番号順にソートします。</p>
ロード順	<p>テーブル ボックス表示項目 列をロード順 (データベースから読み込まれた順) にソートします。</p>
テキスト順	<p>テーブル ボックス表示項目 列の項目をアルファベット順にソートします。</p>
並列ステート	<p>ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。</p> <p>継承済み</p> <p>シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。</p> <p>初期ステート</p> <p>QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。</p>

- オブジェクト ID** これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、テーブルボックスであれば TB01 から割り当てられます。共有シートオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。
- 演算実行条件** テーブルボックスを表示するために満たされなければならない **演算実行条件** を指定します。条件が満たされない限り、"演算実行条件が満たされていません" というメッセージが表示されます。
- エラー メッセージ** テーブルボックス (とチャート) の標準エラー メッセージは、**エラー メッセージ** ボタンから開く **カスタムエラー メッセージ (1059 ページ)** ダイアログでカスタマイズできます。

36.4 テーブルボックスプロパティ: [ソート]



テーブルボックスプロパティ: ソート

テーブルボックスプロパティ: ソート ページは、テーブルボックスを右クリックし、フロードメニューから **プロパティ** を選択して開きます。

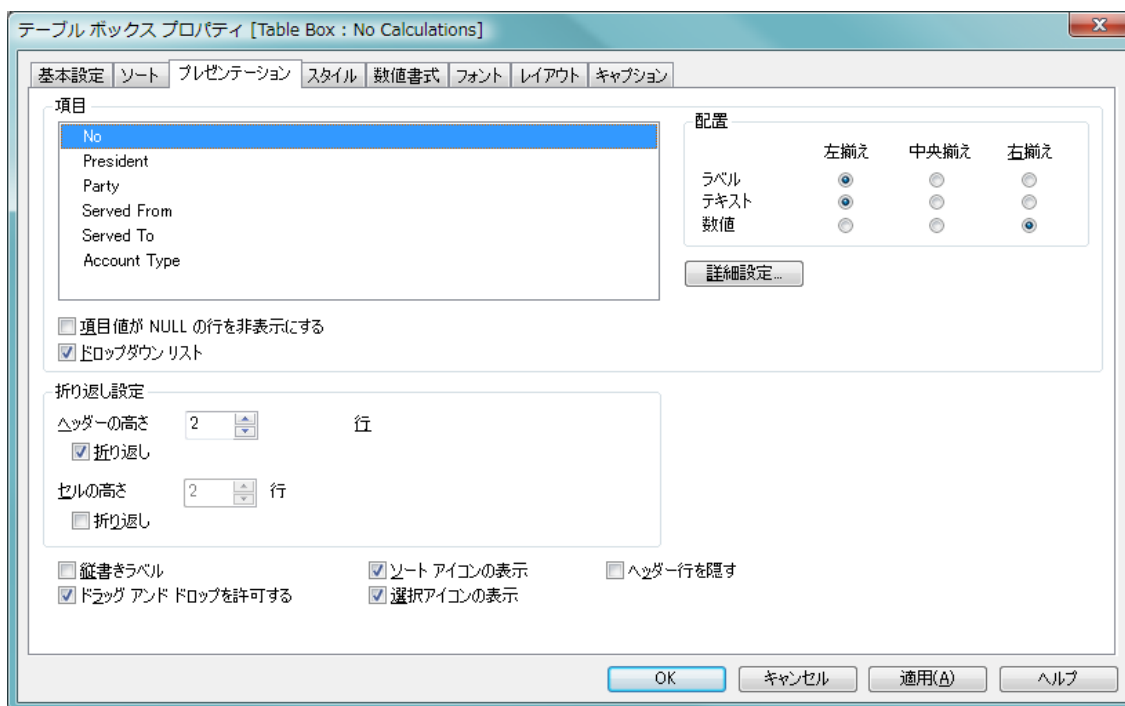
ソート優先順 にテーブルボックスの項目リストを表示します。項目の順番は、**ソート** コマンドが実行される時の適用されるソート順を決定します。項目の順番は、**[上へ]** と **[下へ]** ボタンを使用して変更できます。リスト内の各項目には、ソートの手順に使用される基準を指定できます。ソート基準を以下に説明します。

ソート順:

数式	項目値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した任意の数式に基づいてソートされます。
レコード数	レコード数によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
数値	数値によって値のソートを行うどうかを切り替えます。
テキスト	標準 ASCII によるアルファベット順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。
ロード順	ロード順によって値のソートを行うかどうかを切り替えます。

1 つ以上のソート順が指定されている場合の優先順位は、数式、レコード数、数値、テキスト、ロード順となります。

36.5 テーブル ボックス プロパティ: [プレゼンテーション]



テーブル ボックス プロパティ : プレゼンテーション

テーブル ボックス プロパティ : プレゼンテーション ページは、テーブル ボックスを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ** を選択して開きます。

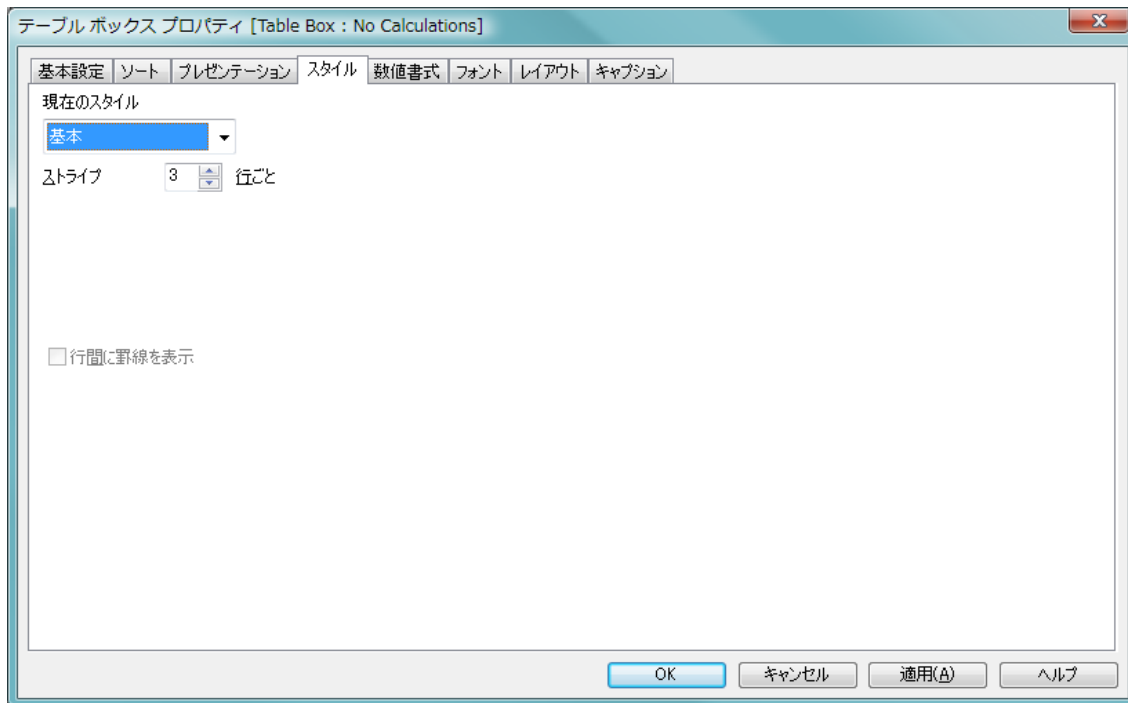
このダイアログでは、テーブル ボックスのレイアウトを決定します。

配置 項目値の初期配置は、**[項目]** リストの項目と **[配置]** グループの適当なオプションを選択し、**[テキスト]** と **[数値]** を別々に設定できます。初期設定では、テキスト値は左揃えに、数値は右揃えに設定されています。

項目値が NULL の行を非表示にする チェックボックスがオンの場合、NULL の項目値を含む行を選択した項目から削除します。NULL は、値なしと判断されます。

- ドロップダウン リスト** チェックボックスをオンにすると、選択した項目列のヘッダの左側にドロップダウン矢印アイコンを追加します。アイコンをクリックして、ドロップダウン項目リストから項目値にアクセスできます。これは、マルチボックスで選択するのとほぼ同じです。
- 詳細設定** このボタンは、項目詳細設定 (620 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。
- 折り返し設定** このグループでは、テーブルのヘッダーとデータセルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。
- 折り返しヘッダーの高さ n (行)**
このオプションを選択すると、ヘッダーの内容を複数行で表示します。ここでは、ヘッダーの行数を指定できます。
- 折り返しセルの高さ n (行)**
このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。ここでは、セルの行数を指定できます。
- 縦書きラベル** チェックボックスをオンにすると、すべての項目ラベルが縦位置に回転します。
- ドラッグ アンド ドロップを許可する** チェックボックスをオンにすると、ヘッダーをドラッグアンドドロップしてテーブルボックスの項目順をソートできます。
- ソート アイコンの表示** チェックボックスをオンにすると、テーブルボックスで現在ソートされている項目の列ヘッダーの右側にソートアイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
- 選択アイコンの表示** チェックボックスをオンにすると、テーブルボックスで現在ソートされている項目の列ヘッダーの右側にソートアイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
- ヘッダー行を隠す** チェックボックスをオンにすると、ヘッダー (ラベル) 行がないテーブルが表示されます。

36.6 チャートプロパティ:スタイル



チャートプロパティ : スタイル

この[スタイル]ページは、テーブルボックス、ストレートテーブル、ピボットテーブルのQlikViewテーブルすべてに適用されます。ここでは、テーブル書式スタイルの設定を行います。

現在のスタイル ドロップダウン リストから適切なテーブルスタイルを選択します。ドロップダウン コントロールに値 **[カスタム]** が表示される場合は、テーブルにカスタムスタイルが適用されています。定義済みのスタイルの1つに設定を戻すと、カスタム書式が失われます。

ストライプ N 行ごと ここでは、影付きストライプを表示するかどうか、およびそれを表示する間隔を指定できます。

インデント モード この設定は、ピボットテーブルでのみ有効です。このチェックボックスをオンにすると、限定されたテーブル幅にいくつもの軸を置く場合に特に有用な少し異なるテーブルスタイルを設定できます。

第 1 軸のラベルのみを使用

この設定は、ピボットテーブルが **インデント モード** の場合のみ有効で、ピボットテーブルのスタイルをさらに修正できます。

軸項目に縦の罫線を表示 この設定は、縦のセルの境界線を軸列に表示するかどうかを決定します。

数式項目に縦の罫線を表示 上記と同じで、数式列に適用します。

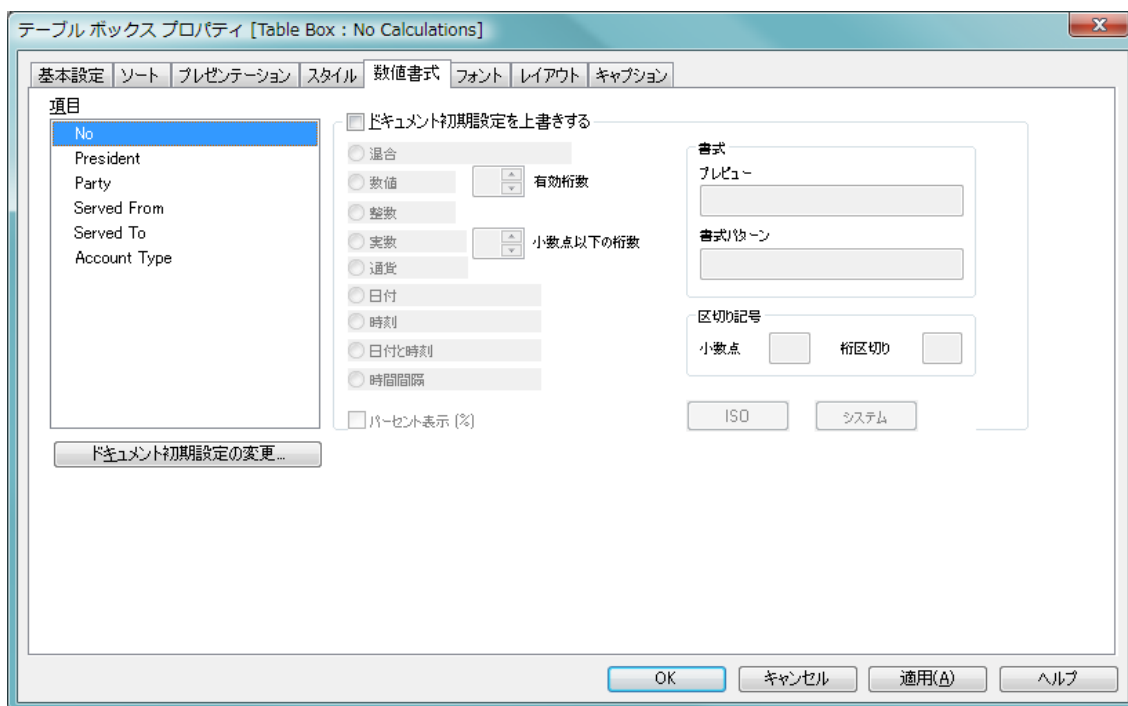
行間に罫線を表示 項目詳細設定 (620 ページ) ダイアログで **段落後の行間** チェックボックスがオンの場合、このチェックボックスをオンにしてテーブルのスタイルをさらに変更することができます。

背景 背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。

セル背景色の透過性 色、または画像が **背景の設定** ダイアログで適用されている場合、ここでセルの背景の色、または画像の透過性を調整できます。

セルの枠線の透過性 セルの枠線をどのように表示するを設定します。

36.7 テーブルボックスプロパティ: 数値書式



テーブルボックスプロパティ: 数値書式

テーブルボックスプロパティ: 数値書式 ページは、テーブルボックスを右クリックし、フロートメニューから **プロパティ** を選択して開きます。

このプロパティ ページは、テーブルボックスのすべての項目の書式設定を提供します。数値書式は、[**項目**] リストからひとつ選択する、または複数選択することにより (Shift もしくは Ctrl キーを押しなためまクリック) 個々に設定できます。

各項目は、デフォルトの数値書式を持ち、ドキュメントプロパティ: 数値書式 (541 ページ) ダイアログで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この **ドキュメント初期設定を上書きする** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

混合 数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。

数値	有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。
通貨	書式パターン 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキスト ボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00))。

パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します：**数値**、**整数**、**実数**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

ドキュメント初期設定の変更 ボタンから **ドキュメント プロパティ**：数値書式 (541 ページ) ページを開き、項目のデフォルトの数値書式を変更できます。

36.8 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

36.9 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

36.10 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

37 選択表示ボックス

現在の選択条件	
項目	値
Country	<input checked="" type="radio"/> Germany
City	<input checked="" type="radio"/> Berlin

選択表示ボックスでは、選択値が項目名と項目値にリストされます。このオブジェクトは、移動可能な現在の選択条件 (124 ページ) と同じ情報を表示しますが、他のシート オブジェクトと同様にシートの上に配置されます。インジケータ (121 ページ) は、選択値とロック値を区別するために使用されません。

選択表示ボックスを右クリックすると、**選択表示ボックス：オブジェクトメニュー** (641 ページ) が表示されます。選択表示ボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

注意!

検索により項目内で選択を行った場合は、項目値として検索文字列が表示されます。



37.1 選択表示ボックス：オブジェクトメニュー

選択表示ボックスの**オブジェクト**メニューには2つのバージョンがあります。キャプション領域をクリックして表示されるフロートメニューには、ボックス全体に適用できるコマンドが含まれ、特定の項目がポインターの下にあった場合、その項目に適用されるコマンドもメニューに含まれます。コマンドは次の通りです。


プロパティ **選択表示ボックスのプロパティ** ダイアログを開くと、選択表示ボックスプロパティ：基本設定 (644 ページ)、フォント (592 ページ) そしてレイアウト (593 ページ) を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ)を参照してください。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
絞込値の選択	その項目の除外値以外の値をすべて選択します。
除外値の選択	その項目の除外値をすべて選択します。
すべて選択	その項目のすべての値を選択します。
クリア	項目の現在の選択をすべてクリアします。
他項目の選択のクリア	選択表示ボックスの指定項目の選択を保持しながら、選択表示ボックスの他の項目の選択も含めて、他のシートオブジェクトの選択をすべてクリアします。
ロック	その項目の選択値をロックします。
アンロック	その項目のロックされた値を解除します。
印刷	プリンタ設定を指定できる 印刷 ：基本設定 (111 ページ) ダイアログを開きます。選択表示ボックスのすべての値がプリンターに送られます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。

Excel 出力	テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テキストは、新しい Excel ワークシートのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	ダイアログが開かれ、現在の選択の内容を、選択したファイルにエクスポートできます。提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキストファイル形式、HTML、XML、BIFF (Excel ネイティブ形式)、および QVD (QlikView データ ファイル) があります。
クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>データ 選択した選択表示ボックスのデータ (選択) をクリップボードにコピーします。</p> <p>セルの値 (オブジェクトメニューを呼び出すときに) 右クリックした選択表示ボックスセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 選択表示ボックスの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザープロパティ ダイアログのエクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整理する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

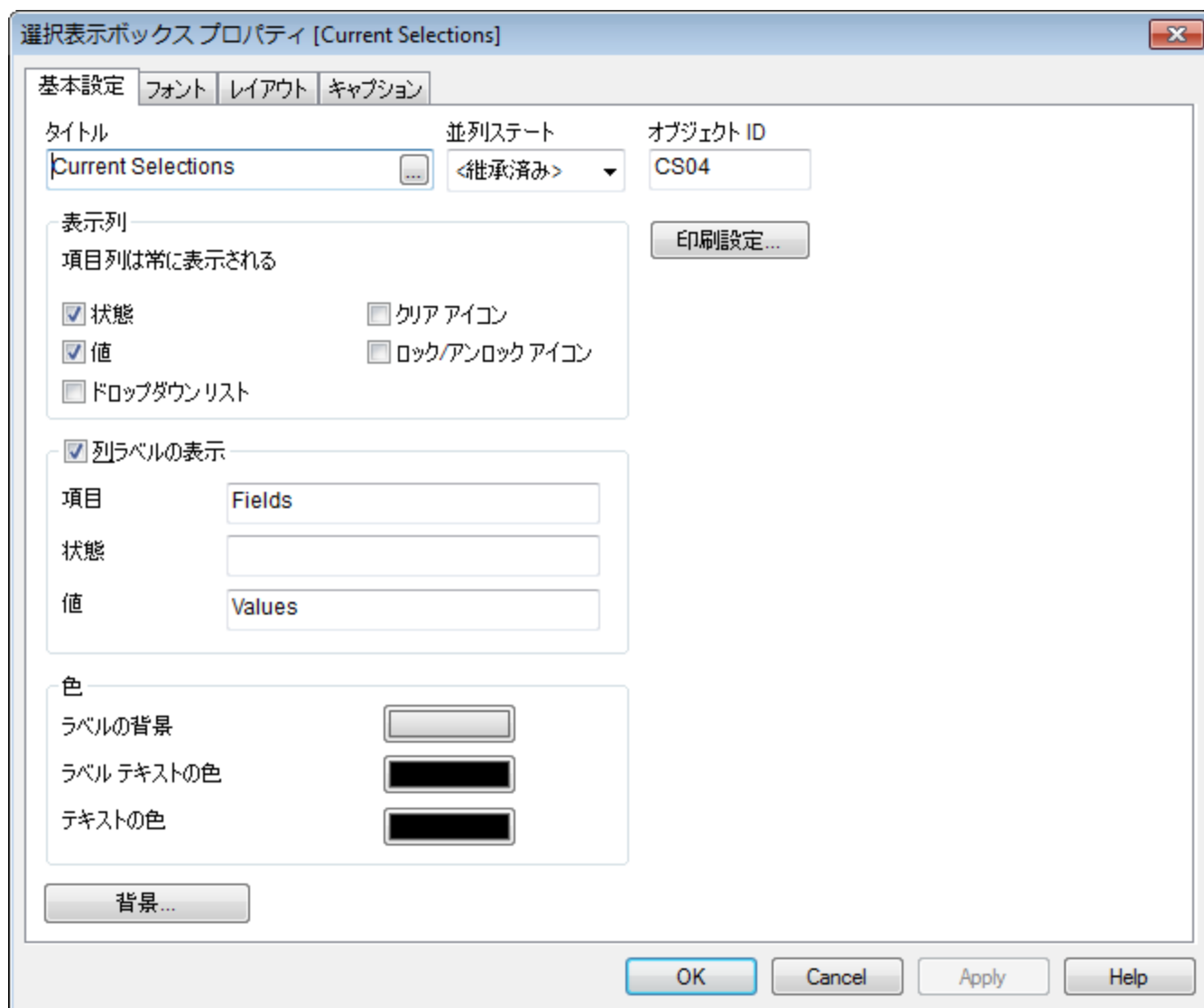
QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートオブジェクトを削除します。

37.2 選択表示ボックス プロパティ: 基本設定

選択表示ボックス プロパティ: 基本設定 ページは、選択表示ボックスを右クリックし、フロートメニューの **プロパティ** コマンドを選択して開きます。ここでは、選択表示ボックスの基本要素を設定できます。



選択表示ボックス プロパティ: 基本設定

タイトル 選択表示ボックスのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算式 (1053 ページ) としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

並列ステート ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

オブジェクト ID これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、選択表示ボックスには CS01 から割り当てられます。共有オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。

表示列 グループでは、選択表示ボックスにその状態や値を表示するかどうかを決定します。

状態 このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスに **状態** 列をインジケータとともに表示します。

値 このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスに **値** 列を表示し、選択された項目値をリストします。

ドロップダウン リスト この設定を有効にすると、選択表示ボックスの各項目にドロップダウンアイコンを表示し、オブジェクト内で選択値の修正を行うことが可能になります。

クリア アイコン このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスの各項目行には、小さいクリアアイコンが表示されます。クリアアイコンをクリックすると、項目内の選択がクリアされます。ロック項目には、クリアアイコンは表示されません。

ロック/アンロック アイコン このチェックボックスをオンにすると、選択表示ボックスの各項目行には、小さいロックまたはアンロックアイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、項目内の選択がロックまたはアンロックされます。

列ラベルの表示 のチェックボックスをオンにすると以下の設定が可能になります。

項目 **項目** 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。

状態	状態 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。
値	値 列の上に表示されるラベルは、テキストボックスで編集できます。

[色] グループでは、選択表示ボックスのコンポーネントの色を設定できます。

ラベルの背景	ラベル行の背景色を定義します。
ラベル テキストの色	ラベル行のテキストの色を定義します。
テキストの色	表示領域のテキストの色を定義します。
背景	背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。

37.3 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

37.4 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

37.5 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

38 入力ボックス



Exchange Rate \$ -> € = 0.761

入力ボックスは、QlikView 変数にデータを入力したり、それらの値を表示するために使用するシートオブジェクトです。

統計ボックスを右クリックすると、入力ボックス：オブジェクトメニュー (647 ページ) が表示されます。入力ボックスがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

38.1 入力ボックスの使用

入力ボックスは、マルチボックスのようなレイアウトの 3 つの列で構成されます。最初の列には、変数のリストが表示されます。2 列目には、イコールサイン (=)、3 列目には変数の値が表示されます。このボックスには、1 つまたは複数の変数を含めることができます。行ごとに 1 つの変数を含めることができます。

QlikView の変数は、1 つのデータ値を含む名前付きのエンティティであり、複数值を含めることができる項目とは異なります。また、項目は、スクリプト内の **load** または **select** ステートメントから値を取得しますが、変数は、自動呼び出しを実行するか、レイアウトの入力ボックスを使用して、スクリプト内の **let** または **set** ステートメントから値を取得します。変数および項目の詳細については、項目 (207 ページ) 章を参照してください。

変数には、数値データや英数字データを含めることができます。変数値の最初の文字がイコールサイン (=) の場合、値は式 (QlikView 式) として評価され、式の実際のテキストではなく結果が表示されるか返されます。

入力ボックスには、変数の現在の値が表示されます。入力ボックスの値をクリックすると、セルが編集モードに変わります。これにより、新しい値を入力したり、古い値を編集することができます。変数に式が含まれる場合は、式の結果ではなく、その式自体が表示されます。通常、編集モードのセルには **[...]** ボタンが含まれます。このボタンは、高度な式を簡単に作成できる完全なエディタウィンドウを表示します。入力ボックスの変数値のセルの機能は、スプレッドシートのセルの機能に似ています。




入力ボックスの変数値のセルに、ドロップダウンアイコンが含まれる場合があります。このアイコンを使用して、最近使用した値や組込み値にすばやくアクセスできます。変数には入力制約が加えられ、特定の条件を満たさないすべての値の入力が禁止される場合があります。入力ボックスの変数は、読み取り専用になっている場合があります。この場合は編集モードに入ることはできません。

38.2 入力ボックス：オブジェクトメニュー

入力ボックス上でマウスの右ボタンをクリックすると、フローティングメニューが表示されます。このメニューは、入力ボックスがアクティブな場合に、メインメニューの **オブジェクト** でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

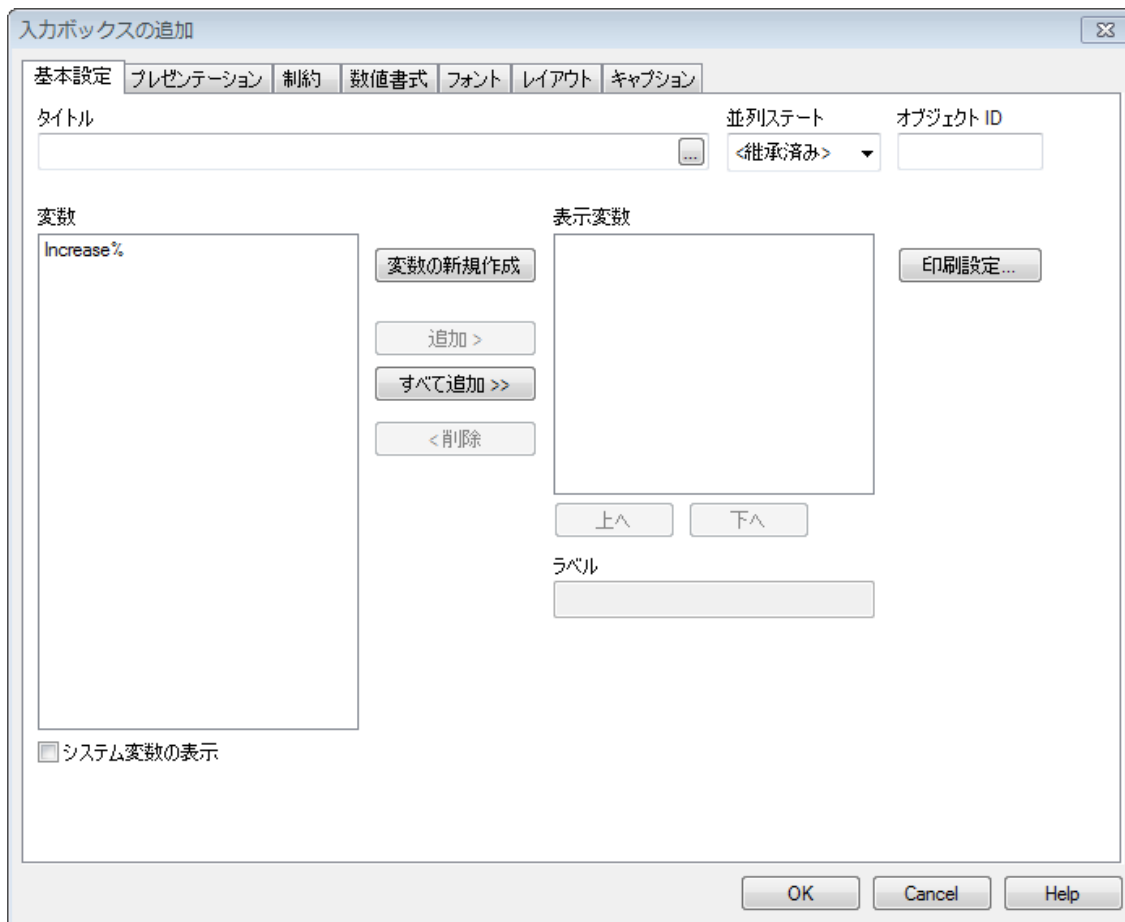
プロパティ パラメータを設定する **入力ボックス プロパティ** ページを開きます。

- 注：** 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント(566ページ)を参照してください。
- 順序** このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー(62ページ)でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示(96ページ)チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが4つ含まれています。有効なレイヤー番号は-128から127です。
- 最前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- 最背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- 前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを1つ増やします。最大値は127です。
- 背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを1つ減らします。最小値は-128です。
- 印刷** プリンタ設定を指定できる 印刷：基本設定(111ページ)ダイアログを開きます。選択表示ボックスのすべての値がプリンターに送られます。
- PDFとして印刷** PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で**印刷**ダイアログを開きます。
印刷ボタンをクリックすると、PDF出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
- Excel出力** 入力ボックスの値をMicrosoft Excelにエクスポートします。このときExcelが実行していなければ自動的に起動されます。QlikViewはBIFF形式(ネイティブExcel形式)でエクスポートします。出力された値は、新しいExcelワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータにMicrosoft Excel 97以降がインストールされている必要があります。
- エクスポート** ダイアログが開かれ、入力ボックスの内容を、選択したファイルにエクスポートできます。提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキストファイル形式、HTML、XML、BIFF(Excelネイティブ形式)、およびQVD(QlikViewデータファイル)があります。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。</p> <p>データ 入力ボックスのデータ行をクリップボードにコピーします。</p> <p>セルの値 ([オブジェクト]メニューを呼び出すときに)右クリックした入力ボックスセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザープロパティ:エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikViewの現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンクオブジェクト	<p>リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンクオブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)でをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクトプロパティダイアログのキャプション(597ページ)で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)でをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクトプロパティダイアログのキャプション(597ページ)で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)でをクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikViewヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートオブジェクトを削除します。</p>

38.3 入力ボックス プロパティ: 基本設定

入力ボックス プロパティ: 基本設定 ページは、入力ボックスを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ** を選択して開きます。ここでは、入力ボックスの基本要素を設定できます。



入力ボックス プロパティ: 基本設定

タイトル

入力ボックスのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算式 (1053 ページ) として定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

変数

この列には有効な変数がすべてリストされます。システム変数を表示するには、**システム変数の表示** チェックボックスをオンにします。使用/削除する項目をクリックして選択します。**[追加 >]** ボタンまたは **[< 削除]** ボタンを使用して、目的の列に移動します。

システム変数の表示

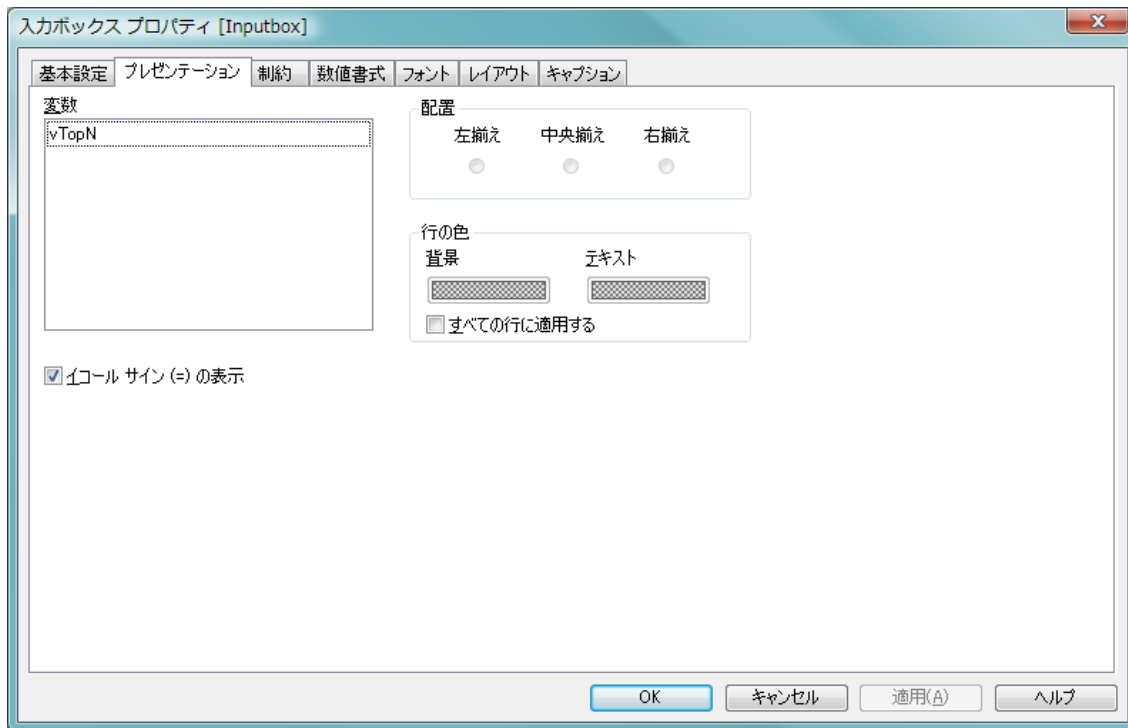
システム変数を **変数** にリスト表示します。

変数の新規作成

変数の新規作成 ダイアログを開きます。ここで、新しい変数を定義できます。

表示変数	この列には、入力ボックスに表示される変数がリストされます。最初、列は空です。
上へ	変数の表示される順番を 1 つ上に移動します。
下へ	変数の表示される順番を 1 つ下に移動します。
ラベル	入力ボックス内の変数タイトルとして使用する名前を、ここに入力できます。動的に更新する 計算式 (1053 ページ) としてラベルを指定することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
並列ステート	<p>ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。</p> <p>継承済み</p> <p>シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。</p> <p>初期ステート</p> <p>QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。</p>
オブジェクト ID	これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、入力ボックスであれば IB01 から割り当てられます。リンクされたシートオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。

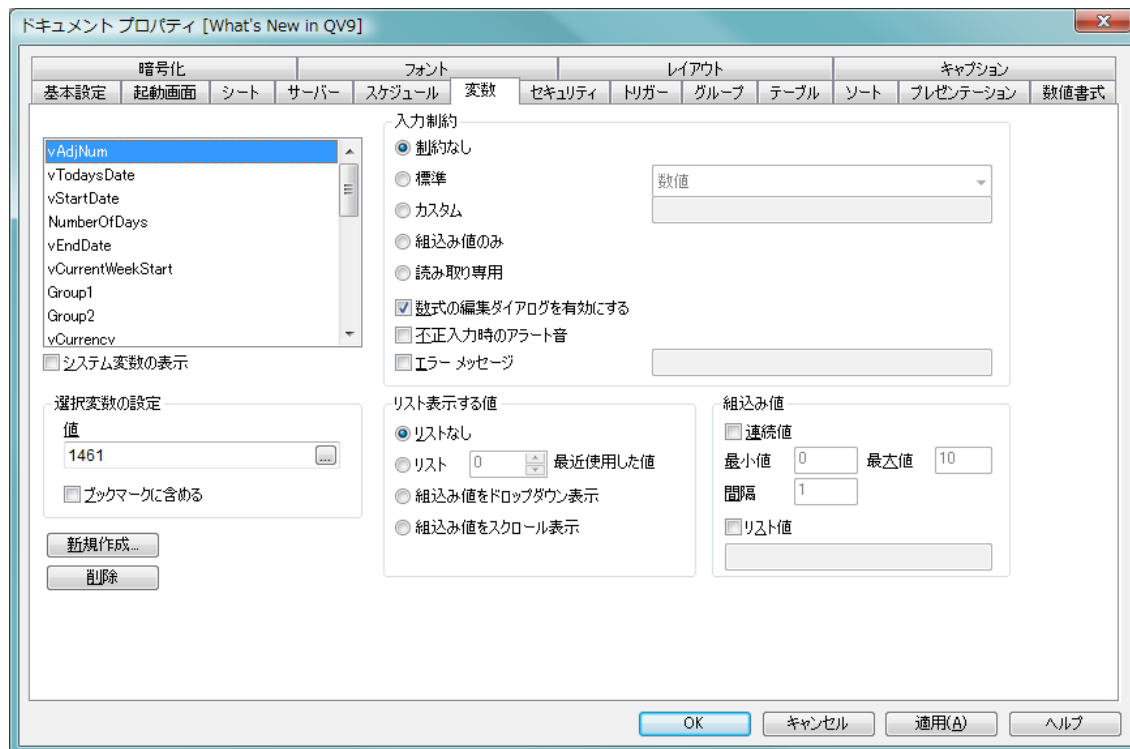
38.4 入力ボックスプロパティ: プレゼンテーション



入力ボックスプロパティ : プレゼンテーション

- 変数** 現在の入力ボックスに含まれるすべての変数のリストが表示されます。リストで変数名を選択すると、その変数のプロパティを変更できます。
- イコールサイン (=) の表示** Input Box にイコールサインを表示しない場合は、このチェックボックスをオフにします。この設定は、すべての変数に適用されます。
- 背景** 背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。
- 配置** 変数の配置は設定できます。変数はそれぞれ、左揃え、中央揃え、または右揃えに設定できます。
- 行の色** このグループでは、左の **[変数]** リストで選択した行に対して個別の色設定ができます。
- 背景** 選択した行の背景色を指定します。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
- テキスト** 選択した行のテキスト色を指定します。
- すべての行に適用する** このチェックボックスをオンにしてから **適用** または **OK** をクリックすると、選択した色が入力ボックスのすべての行に適用されます。

38.5 入力ボックスプロパティ:制約とドキュメントプロパティ:変数



入力ボックスプロパティ：制約とドキュメントプロパティ：変数

入力ボックスプロパティ：制約 ページは、入力ボックスを右クリックし、フローメニューから**プロパティ**を選択して開きます。変数(209ページ)ページの**表示変数**に追加された入力ボックスプロパティ：基本設定(650ページ)は、**制約**ページの**変数**にリストされ、修正することができます。

ドキュメントプロパティ：変数 ページは、**設定 - ドキュメントプロパティ：変数** から開けます。変数のリストは、**システム変数の表示** チェックボックスで変更できます。**新規作成** ボタンで、ドキュメントに新しい変数を追加できます。**削除** ボタンは、選択された変数を削除します。

選択変数の設定 グループでは、選択された変数の現在の**値**が編集ボックスに表示されます。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ(917ページ)ダイアログが開かれます。

変数は、通常ブックマークには含めませんが、ここで**ブックマークに含める** チェックボックスをオンにできます。

入力制約 グループでは、入力ボックスの変数にユーザーが入力したすべての値をチェックするための制約を指定できます。値が指定された制約を満たさない場合、その値は拒否され、エラーメッセージを表示できます。次の選択肢を使用できます。

制約なし 入力値はいかなる制約に対してもチェックされません。

- 標準** 入力値は、ドロップダウン ボックスで選択した一般的な標準制約のいずれかに対してチェックされます。デフォルトでは、何も制約が選択されておらず、任意の値を変数に入力できます。**標準**、**カスタム**、**組込み値のみ**、**読み取り専用** から 1 つだけを選択できます。
- カスタム** ユーザー指定の制約に関して入力値がチェックされます。制約は編集ボックスに入力し、入力値が有効な場合に TRUE (0 以外の値) を返す QlikView 式として表す必要があります。数式では、入力値はドル記号「\$」で参照します
例：
\$>0 を指定した場合、入力ボックスは、選択した変数に正の数のみを受け付けます
変数の前の値は、変数名で参照できます。
例：
変数 abc に対する制約として \$>=abc+1 を指定した場合、入力ボックスは「前の値 + 1」以上の値の数値エントリのみを受け付けます。
- 組込み値のみ** 入力値は、**組込み値** グループで定義されている値のリストに対してチェックされます。リストにある入力値だけが受け付けられます。
- 読み取り専用** 変数を読み取り専用としてマークします。値は入力できません。
- 数式の編集ダイアログを有効にする** このチェックボックスをオンにすると、**数式の編集** ダイアログで変数値を編集することができます。このダイアログは、値をクリックすると表示される [...] ボタンから開けます。
- 不正入力時のアラート音** このチェックボックスをオンにした場合、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとする時、警告のアラート音が鳴ります。
- エラー メッセージ** 通常、ユーザーが制約を満たさない値を入力しようとする時、その値は拒否され、現在の変数値が入力されたままになります。このチェックボックスをオンにすると、不正な入力があった場合にユーザーに提示する **カスタムエラー メッセージ (1059 ページ)** を指定できます。エラーメッセージを編集ボックスに入力します。動的に更新する **計算式 (1053 ページ)** として指定することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
- リスト表示する値** グループでは、入力ボックスに値をリスト表示する方法や表示するかどうかを設定できます。
- リストなし** 以前に変数で使用された値のリストは保持されません。
- 最近使用した値のリスト** 選択した変数の入力ボックスに、最近使用した値のドロップダウン リストが提供されます。以前の値をいくつ保存するかを **入力** ボックスで設定できます。

組込み値をドロップダウン表示	選択した変数の入力ボックスに、 組込み値 のドロップダウン リストが提供されます。
組込み値をスクロール表示	選択した変数の入力ボックスに、スクロールコントロールが提供されます。 組込み値 の間でスクロールが行われます。

組込み値 グループでは、ドロップダウン リストでユーザーに提示したり、有効な変数値の定義に使用できる組込み値のリストを指定できます。

連続値	このチェックボックスをオンにすると、下限値、(最小値)、上限値(最大値)、 間隔値 に基づいて、組込みの数値リストが生成されます。このオプションは、単独で使用することも、 リスト値 と組み合わせて使用することもできます。
リスト値	このチェックボックスをオンにすると、任意の組込み値のリストを指定できます。値には、数値またはアルファベットを使用できます。英数値は引用符で囲む必要があります(例: 'abc')。複数の値はセミコロン(;)で区切ります(例: 'abc';45;14.3;'xyz')。このオプションは、単独で使用することも、 連続値 と組み合わせて使用することもできます。
コメント	この項目は、変数の作成者がその機能や目的を説明できるコメント項目です。

38.6 入力ボックスプロパティ: 数値書式

入力ボックスプロパティ: 数値書式 ページは、入力ボックスを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ**を選択して開きます。

このプロパティ ページは、入力ボックスのすべての変数の書式設定を提供します。数値書式は、**変数**リストからひとつ選択する、または複数選択することにより(クリック、Shift-クリックもしくはCtrl-クリック)個々に設定できます。

各変数は、デフォルトの数値書式を持ち、**ドキュメントプロパティ: 数値書式 (541 ページ)** ページで設定できます。ただし、シートオブジェクトごとに別の数値書式を使用することもできます。このためには、この**ドキュメント初期設定を上書きする** チェックボックスをオンにし、下のグループコントロールで数値書式を指定します。このページは、アクティブなオブジェクトに適用されます。また、変数値を設定する次のコントロールが含まれます。

混合	数値とテキストの両方。数値は元の書式で表示されます。
数値	有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。
整数	数値を整数で表示します。
実数	小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。

通貨	書式パターン 編集ボックスに設定された書式で値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。
日付	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00))。

パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します：**数値**、**整数**、**実数**。

小数点 と **桁区切り** 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 **ISO** を使用します。

システム ボタンは、書式設定にシステム設定を適用します。

38.7 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

38.8 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

38.9 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

39 ボタン






ボタンを作成し、QlikView でコマンドやアクションの実行を定義できます。ボタンには、**起動/エクスポート** ボタン、**ショートカット** ボタン、**マクロ** ボタンの 3 つの種類があります。

オブジェクトを右クリックすると、ボタン: [オブジェクト] メニュー (657 ページ) が表示されます。ボタンがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

39.1 ボタン: [オブジェクト] メニュー

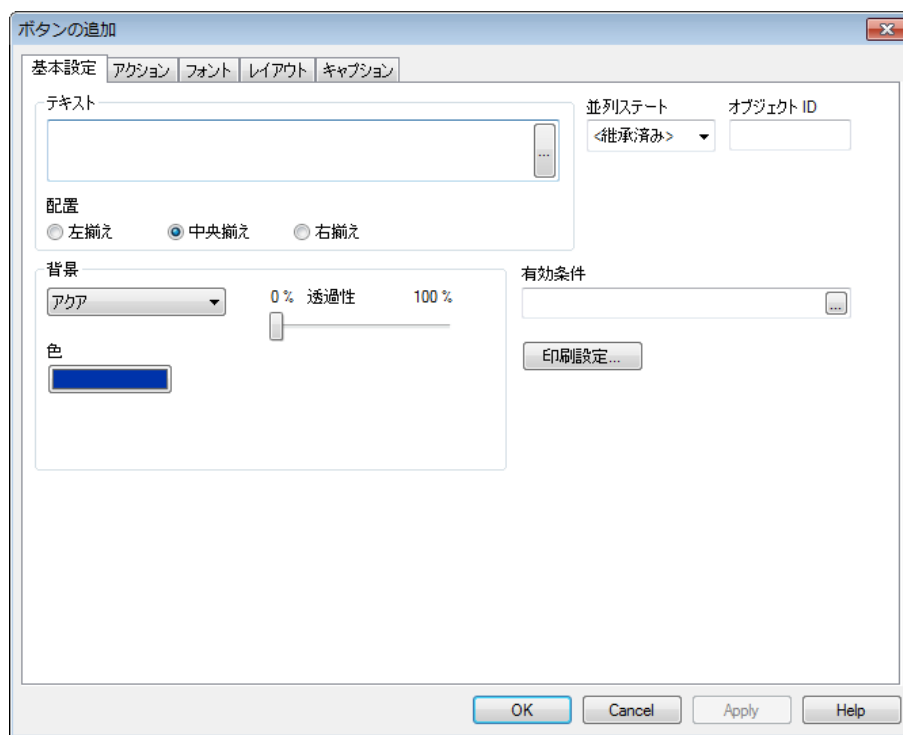
ボタンの **オブジェクト** メニューは、ボタンを右クリックして開きます。メニュー コマンドは次の通りです。

- プロパティ** ボタンプロパティ: 基本設定 (659 ページ) ページを開きます。ここから、ボタンを定義するパラメータを設定できます。
- 注:** 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。
- 配置** このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
- 最前面へ移動**
シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- 最背面へ移動**
シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- 前面へ移動**
シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- 背面へ移動**
シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

Excel 出力	テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テキストは、新しい Excel ワークシートの 1 つのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>テキスト ボタンに表示されているテキストをクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ ダイアログの エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。

削除 シートオブジェクトを削除します。

39.2 ボタンプロパティ: 基本設定



ボタンプロパティ：基本設定

[テキスト] グループでは、ボタンに表示されるテキストのプロパティを設定できます。

テキスト テキスト項目に入力されたテキストが、ラベルとしてボタンに表示されます。テキストを 計算式 (1053 ページ) として定義できます。テキストは、複数行にわたることができ、Enter を押すと改行されます。

配置 ボタンテキストを左揃え、中央揃え、右揃えで配置できます。

[背景] グループでは、ボタンの背景を指定できます。ドロップダウンでは、3つの基本的なボタンスタイルを選択できます。

アクア 新しいボタンの初期設定です。透き通った 3D の丸いボタンを生成します。

無地 従来の無地の QlikView ボタンを生成します。

システム初期設定

オペレーティングシステムでボタン用に定義されている単色の背景を提供します。

画像	<p>画像ボタンを生成します。この画像は、静的画像または動的画像 (ボタンのアクティブ、非アクティブ、くぼみ状態を示す 3 つの部分で構成される画像) のいずれかを使用できます。</p>
	<p>動的画像</p> <p>3 つの状態画像をボタンに割り当てるには、このラジオ ボタンを選択し 画像の挿入 ボタンを使用して、画像ファイルを参照します。この画像ファイルは、横並びの 3 つの画像で構成される必要があります。最初の画像はアクティブ ボタン、2 番目の画像はくぼみボタン、3 番目の画像は淡色 (非アクティブ) ボタンになります。</p>
	<p>静的画像</p> <p>1 つの状態画像をボタンに割り当てるには、このラジオ ボタンを選択し、画像の挿入 ボタンを使用して、画像ファイルを参照します。サポートされる画像タイプには、jpg、png、bmp、gif、およびアニメーション gif があります。</p>
色	<p>ボタンを色付きの背景で表示する場合は、このラジオ ボタンを選択します (画像を設定する場合は利用できません)。色は、[色] ボタンをクリックすると表示される [色の設定] ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。</p>
透過性	<p>ボタンの背景の透過性を設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。</p>
並列ステート	<p>ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。</p> <p>継承済み</p> <p>シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。</p>
	<p>初期ステート</p> <p>QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。</p>
オブジェクト ID	<p>現在のボタンの一意の ID。作成時に、各シートオブジェクトには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のボタンは、ID BU01 に割り当てられます。共有オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシートオブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。</p>

有効条件	ここに入力された数式は、ボタンの状態を決定します。数式が 0 を返す場合、ボタンは無効にされます。数式が 1 を返す場合、ボタンは有効にされます。数式が入力されない場合は、1 が使用されます。基底の状態のために無効にされているボタンは、条件を使用して有効にすることはできません。
印刷設定	このボタンを押すと [印刷設定] ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。 印刷設定 ダイアログには 印刷：レイアウト (112 ページ) と 印刷：ヘッダー/フッター (114 ページ) の 2 ページがあり、 印刷 ダイアログの最後の 2 ページと同じです。

39.3 アクション

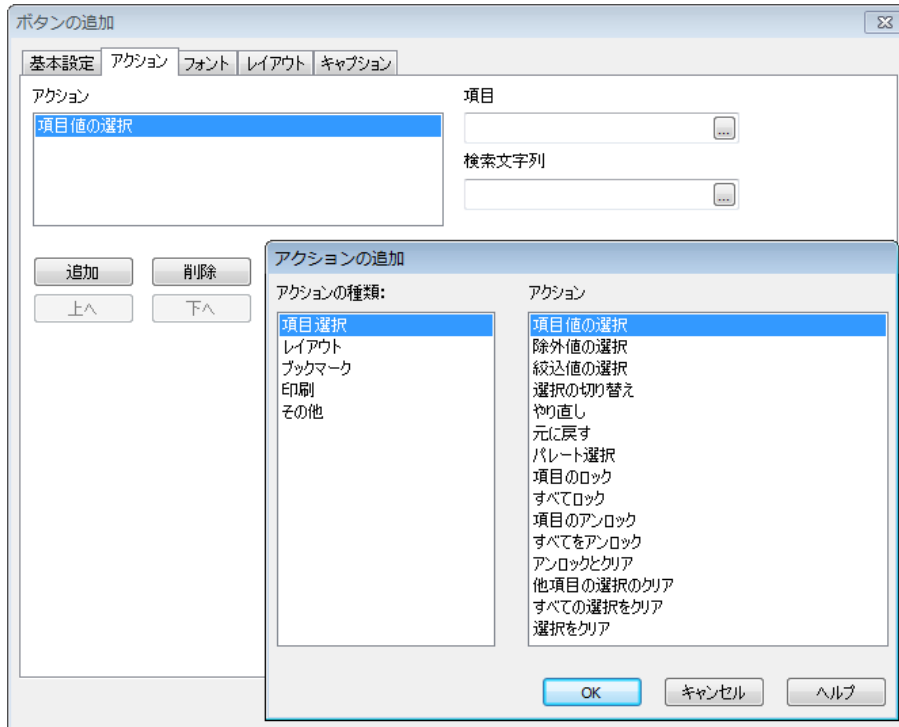
このページでは、特定のオブジェクトにアクション設定を行うことができます。

- ボタン
- テキスト オブジェクト
- ゲージ
- 線/矢印オブジェクト

アクションには、外部アプリケーションの起動や QlikView データのエクスポートが含まれます。

追加	[アクションの追加] ダイアログ (662 ページ) を開き、そのオブジェクトへのアクションを選択します。アクションの種類をリストから選択します。アクションに応じて異なるパラメータが アクション ページに表示されます。アクションは、リストの表示順に実行されます。
削除	オブジェクトからアクションを削除します。
上へ	選択したアクションをリストの上に移動します。
並列ステート	アクションが参照するステートを設定します。この設定は、選択またはブックマークに関係のあるアクションにのみ関連します。

[アクションの追加] ダイアログ



[アクション] ページ

[アクションの追加] ダイアログから次のアクションを追加できます。[...] ボタンの付いているすべての項目で、計算式を入力することが可能です。計算式 (1053 ページ) を参照してください。

項目選択

項目値の選択	指定された項目の指定された値を選択します。 検索文字列 では、検索マスクを指定できます。例：(A B)はAとBの両方を選択します。
除外値の選択	指定された項目の除外値を選択します。
絞込値の選択	指定された項目の絞込値を選択します。
選択の切り替え	現在の選択値と指定した 項目 と 検索文字列 で選択を切り替えます。 検索文字列 では、検索マスクを指定できます。例：(A B)はAとBの両方を選択します。
やり直し	選択条件のリストを1つ次に進めます。
元に戻す	選択条件のリストを1つ前に戻します。
パレート選択	数式とパーセントを基準に指定した項目でパレートの選択を行います。この種類の選択は、一般的に80/20ルール上での評価基準で主要な要因を選択するために使用されます。例えば、売上高の80%に貢献したトップの顧客を見つけるためには、顧客を項目として使用してsum(売上高)を数式と使用し、また80をパーセントとして使用します。
項目のロック	指定した項目の選択をロックします。
すべてロック	すべての項目のすべての値をロックします。
項目のアンロック	指定した項目の選択のロックを解除します。
すべてをアンロック	すべての項目のすべての値のロックを解除します。
アンロックとクリア	すべての項目のすべての選択のロックと選択を解除します。
他項目の選択のクリア	指定した項目以外のすべての関連項目の選択を解除します。
すべての選択をクリア	ロックされていないすべての選択を解除します。
検索項目の選択をクリア	特定の項目をクリアします。
状態内容のコピー	ソース状態 から ターゲット状態 へ選択条件をコピーします。別の状態が定義されている場合にのみ利用できます。
状態内容の切り替え	状態1 と 状態2 の選択を切り替えます。定義された並列状態が存在する場合にのみ有効です。

レイアウト

オブジェクトを選択する	指定した オブジェクト ID のオブジェクトをアクティブにします。この機能は Ajax クライアントでは利用できません。
シートを選択する	指定した シート ID のシートをアクティブにします。
次のシートに進む	ドキュメントの次のシートを開きます。
前のシートに戻る	ドキュメントの前のシートを開きます。
オブジェクトを最小化する	指定した オブジェクト ID のオブジェクトを最小化します。
オブジェクトを最大化する	指定した オブジェクト ID のオブジェクトを最大化します。
オブジェクトを元のサイズに戻す	指定した オブジェクト ID のオブジェクトを元のサイズに戻します。
ステート名の設定	指定した オブジェクト ID のオブジェクトに指定した ステート を適用します。定義された並列ステートが存在する場合にのみ有効です。

ブックマーク

ブックマークの適用	指定した ブックマーク ID のブックマークを適用します。2つのブックマークが同じ ID を持つ場合、ドキュメントブックマークが適用されます。サーバーブックマークを適用するには、サーバー¥ブックマーク ID を指定します。
ブックマークを作成します	現在の選択でブックマークを作成します。 ブックマーク ID と ブックマーク名 を指定します。非表示のブックマークを作成するには、[非表示] を選択します。
ブックマークの上書き	指定した ブックマーク ID のブックマークを現在の選択に置き換えます。

印刷

- オブジェクトの印刷** 指定した **オブジェクト ID** のオブジェクトを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でオブジェクトを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)
- シートの印刷** 指定した **シート ID** のシートを印刷します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です) この機能は AJAX クライアントでは機能しません。
- レポートの印刷** 指定した **レポート ID** のレポートを印刷します。既定に設定されたプリンタ以外でレポートを印刷する場合、**プリンタ名** を指定します。ウィンドウズの [印刷] ダイアログを表示する場合、**[印刷] ダイアログを表示する** チェックボックスをオンにします。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

その他

エクスポート

特定の項目セットを含むテーブルをエクスポートします。選択条件に当てはまるレコードのみがエクスポートされます。**設定** ボタンを **アクション** ページでクリックすると、**エクスポート アクションの設定** ダイアログが開きます。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

起動

外部プログラムを起動します。以下の設定は、**アクション** ダイアログで設定できます。

アプリケーション

ブラウズ... をクリックし、起動するアプリケーションを検索します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

ファイル名

上で指定したアプリケーションで開くファイルへのパスを入力します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

パラメータ

アプリケーションを起動するコマンドラインのパラメータを指定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

作業ディレクトリ

起動するアプリケーションの作業ディレクトリを設定します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

QlikView 終了時にアプリケーションを終了する

QlikView 終了時にアプリケーションを強制的に終了します。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

この機能は AJAX クライアントでは機能しません。

URL から開く

既定の WEB ブラウザで URL を開きます。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

QlikView ドキュメントを開く

指定したドキュメントを開きます。ファイル拡張子を付ける必要があります。(ドキュメントトリガーとシートトリガーでは無効です)

開きたいドキュメントに元のドキュメントの選択条件を適用するには **現在の選択条件を適用する** チェックボックスをオンにします。開かれたドキュメントの既存の選択条件は、最初に解除されます。

次に開くドキュメントの選択条件を維持して元のドキュメントの選択条件を追加適用するには **現在の選択条件を追加適用する** チェックボックスをオンにします。

注意! **現在の選択条件を追加適用する** は、慎重に使用してください。2つのドキュメントの選択条件が紛らわしいと、思わぬ結果となる場合があります。ほとんどのケースで、**現在の選択条件を適用する** を使用するだけで十分です。

同じウィンドウで開く AJAX ZFC クライアントを使用している場合に同じブラウザ タブに新しいドキュメントを開きます。

注意! [QlikView ドキュメントを開く] のアクションは、Internet Explorer ブラウザを使用中、ドメイン ユーザー以外にはサポートされません。

マクロの実行	実行するマクロのパスとマクロ名を入力します。任意の名前を入力して後で モジュールの編集 ダイアログでマクロを作成する、もしくは動的に更新される 計算式 を入力できます。
変数の設定	指定した変数に値を適用します。
INFO の表示	指定された 項目 に関連付けられたテキストファイルや画像といった情報を表示します。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。
ドキュメントを閉じる	QlikView ドキュメントを閉じます
リロード	現在のドキュメントのリロードを行います。この機能は AJAX クライアントでは利用できません。

ダイナミック更新

現在ロードされているドキュメントでデータを動的に更新します。ダイナミック更新へのステートメントは**ステートメント** フィールドに入力してください。ダイナミック更新の用途では、QlikView 管理者はドキュメントのリロードを実行しなくても、単一のソースから限定的な量のデータを QlikView ドキュメントにフィードすることができます。その後、QlikView Server に接続している複数のクライアントが分析を実行できます。

注意! アップロードされた情報は RAM のみで保存されるため、ドキュメントのリロードを行うと、ダイナミック更新を使用して追加または更新されたデータは失われます。

以下の規則は、ダイナミック更新機能で使用できるステートメントとそのコンポーネントについて説明したものです。

- statements ::= statement {"," statement }
- statement ::= insert_statement | update_statement | delete_statement | begin_transaction_statement | commit_transaction_statement
- insert_statement ::= "INSERT" "INTO" ("*" | table_name) field_list "VALUES" value_list {"," value_list} [{"KEY" ["AUTO" | (" (" field_list ")")]} [{"REPLACE" (["WITH" "ONE"] | "EACH")}]]]
- update_statement ::= "UPDATE" ("*" | table_name) set_clause {"," | set_clause} "WHERE" condition [{"AUTO" "INSERT"}]
- delete_statement ::= "DELETE" "FROM" ("*" | table_name] "WHERE" condition
- begin_transaction_statement ::= "BEGIN" ("TRANSACTION" | "TRAN") [trans_name]
- commit_transaction_statement ::= "COMMIT" ["TRANSACTION" | "TRAN"] [trans_name]
- table_name ::= identifier | quoted_name
- field_list ::= "(" field_name {"," field_name} ")"
- value_list ::= "(" value {"," value} ")"
- set_clause ::= "SET" field_name "=" any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- field_name ::= identifier | quoted string
- value ::= identifier | any_qlikview_number | quoted string
- condition ::= any_valid_non_aggregated_qlikview_expression
- identifier ::= any_qlikview_identifier
- quoted_string ::= "[" [^]]+ "]"

例 :

```
UPDATE AbcTable SET Discount = 123 WHERE AbcField=1
```

注意! この機能を使用するには、ドキュメントとサーバーの双方でダイナミック更新を許可しておかなくてはなりません。

注意!

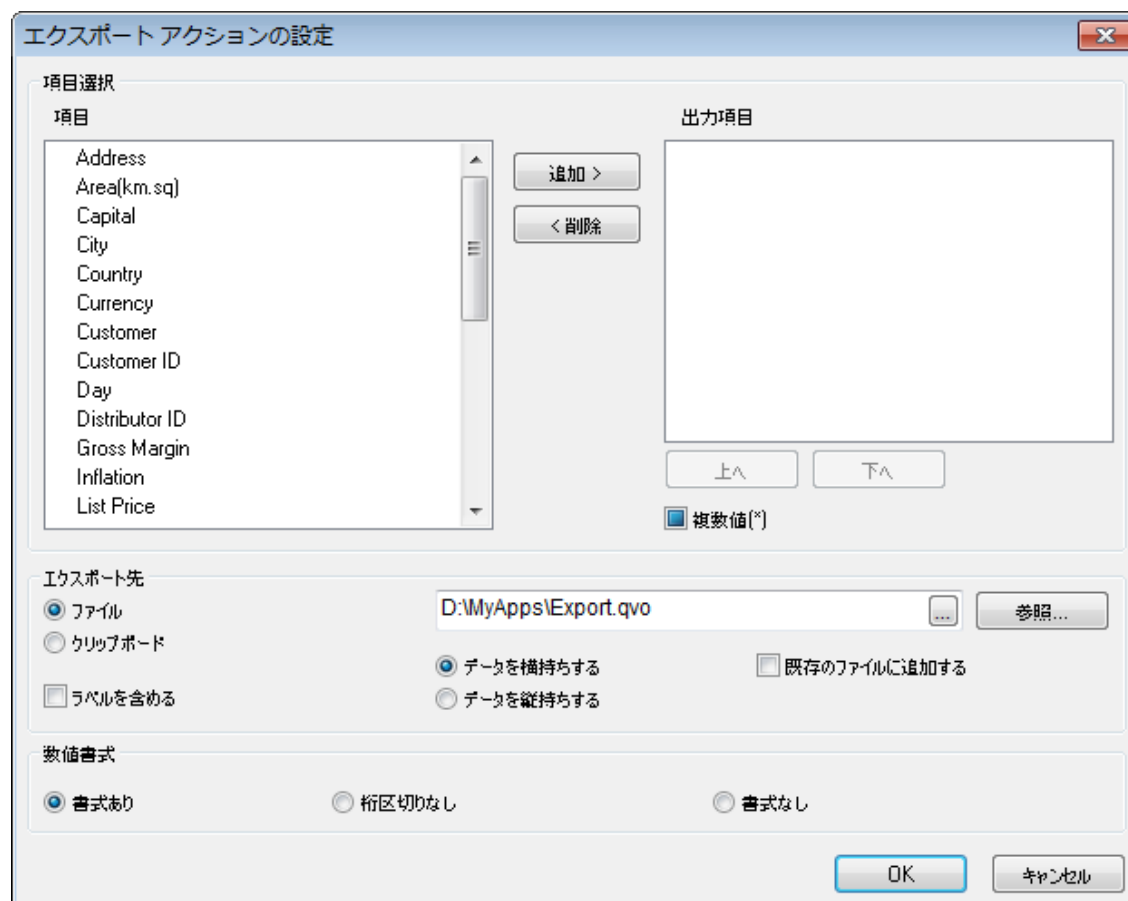
他のアクションのトリガーとなるアクションは、連鎖アクションと呼ばれ、不測の結果を引き起こす可能性があるためサポートされていません。

注意!

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロトリガーは動作が制限されます。

マクロトリガーを含むサーバードキュメントを作成する前に、QlikView リファレンス マニュアルの QV-Server の QV ドキュメントでのマクロの使用のセクションを参照してください。マクロトリガーを含むサーバードキュメントを作成する前に、QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用 (1089 ページ) のセクションを参照してください。で

[エクスポートアクションの設定] ダイアログ



[エクスポートアクションの設定] ページ

項目選択

このグループでは、エクスポートで選択される項目を設定します。

- | | |
|----------------|---|
| 項目 | 項目 (207 ページ) ボックスでは、有効な項目のリストが表示されます。 |
| 出力項目 | このボックスでは、エクスポート用に選択した項目が表示されます。複数値を許可した項目にはアスタリスクが表示されます。 |
| 追加 > | 項目を 出力項目 ボックスに追加します。 |
| < 削除 | 出力項目 ボックスから項目を削除します。 |
| 上へ | 選択した項目を 1 つ上に移動します。つまり、エクスポートテーブルでは 1 つ左に移動します。 |

- 下へ** 選択した項目を 1 つ下に移動します。つまり、エクスポートテーブルでは 1 つ右に移動します。
- 複数値 (*)** **出力項目**ボックスの項目を選択し、このコントロールをオンにすることで、項目のエクスポートリストに複数値を追加できます。

エクスポート先

このグループでは、値をファイルにエクスポートするか、クリップボードにエクスポートするかを選択できます。

- ファイル** ファイルへエクスポートする場合は、このチェックボックスをオンにして、ファイル名を入力します。ファイル名を入力しないと、値はクリップボードにエクスポートされます。ファイル名は、**計算式 (1053 ページ)** として入力できます。
- 参照** **ファイルのエクスポート** ダイアログを開きます。このダイアログでは、値をエクスポートするファイルを参照できます。
- クリップボード** デフォルト設定です。上のボックスでファイルを指定しないと、値はクリップボードにエクスポートされます。
- データを横持ちする** このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、選択した各項目のすべての絞込値がタブで区切られて 1 行に表示されます。
- ラベルを含める** このコントロールをオンにすると、行の最初の位置 (**データを横持ちする** が設定されている場合)、または最初のレコード (**データを縦持ちする** が設定されている場合) に、項目名が含まれます。
- データを縦持ちする** このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、選択した各項目がタブで区切られて 1 列に表示されます。
- 既存のファイルに追加する** このコントロールをオンにすると、エクスポートファイルは、既存のエクスポートファイル (存在する場合) に追加されます。既存のファイルに追加する場合、ラベルはエクスポートされません。エクスポートファイルが存在しない場合、このフラグは意味がありません。

数値書式

プログラムによっては、書式設定付きの数字を適切に処理することが困難な場合があります。QlikView は、ファイルまたはクリップボードにエクスポートする数値データの数字書式設定に関して 3 つのオプションを提供します。

新しいエクスポートボタンは、**ユーザー プロパティ : エクスポート** ページから初期設定を継承します。ですが設定は、エクスポートボタンごとに個別に設定可能です。

- 書式あり** QlikView ドキュメントのシート オブジェクトに表示されるとおりの数字書式を保持したまま数値データをエクスポートします。
- 桁区切りなし** 数値データから桁区切りを削除します。

書式なし

データからすべての数字書式設定を削除し、未処理の数値データとしてエクスポートします。小数点記号は、システム設定 (コントロールパネル) で定義されたとおりになります。

注意!

QlikView Server でドキュメントを操作している場合、一部のマクロトリガーは動作が制限されます。マクロトリガーを含むサーバードキュメントを作成する前に、QlikView リファレンス マニュアルの「QVサーバー上のQVドキュメントでのマクロの使用」セクションを参照してください。マクロトリガーを含むサーバードキュメントを作成する前に、「QVサーバー上のQVドキュメントでのマクロの使用 (1089 ページ)」セクションを参照してください。

39.4 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

39.5 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

39.6 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

40 テキストオブジェクト

テキストオブジェクトは、ラベルなどのようにドキュメントに情報を追加するために使用できます。他のシートオブジェクトに覆われている領域でも、シート領域であればどこにでも移動して配置できます。

テキストオブジェクトを右クリックすると **テキストオブジェクト:オブジェクトメニュー** (673 ページ) が表示されます。テキストオブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

40.1 テキストオブジェクト:オブジェクトメニュー

テキストオブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。このメニューは、テキストオブジェクトがアクティブな場合に、メインメニューの**オブジェクト**でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ テキストオブジェクトプロパティ: 基本設定 (675 ページ) ダイアログを開きます。ここから、テキストオブジェクトを定義するパラメータを設定できます。

注: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

順序 このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが **[表示]** メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、**コンテキストメニュー** にデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。



前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。


背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

印刷 印刷: 基本設定 (111 ページ) ダイアログを開き、テキストオブジェクトの画像を印刷できます。

- PDF として印刷** PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択されている状態で**印刷**ダイアログを開きます。**印刷**ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように要求されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- Excel 出力** テキストを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テキストは、新しい Excel ワークシートの 1 つのセルに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
- クリップボードにコピー** このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。
- テキスト**
テキスト オブジェクトに表示されているテキストをクリップボードにコピーします。
- 画像**
シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ : エクスポート** ページの設定に従います。
- オブジェクト**
シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
- リンク オブジェクト** リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。
- リンク オブジェクトを整理する**
すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。
- オブジェクトのリンクを解除する**
オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
- 最小化** オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**オブジェクト プロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
- 最大化** オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**オブジェクト プロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す

最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ

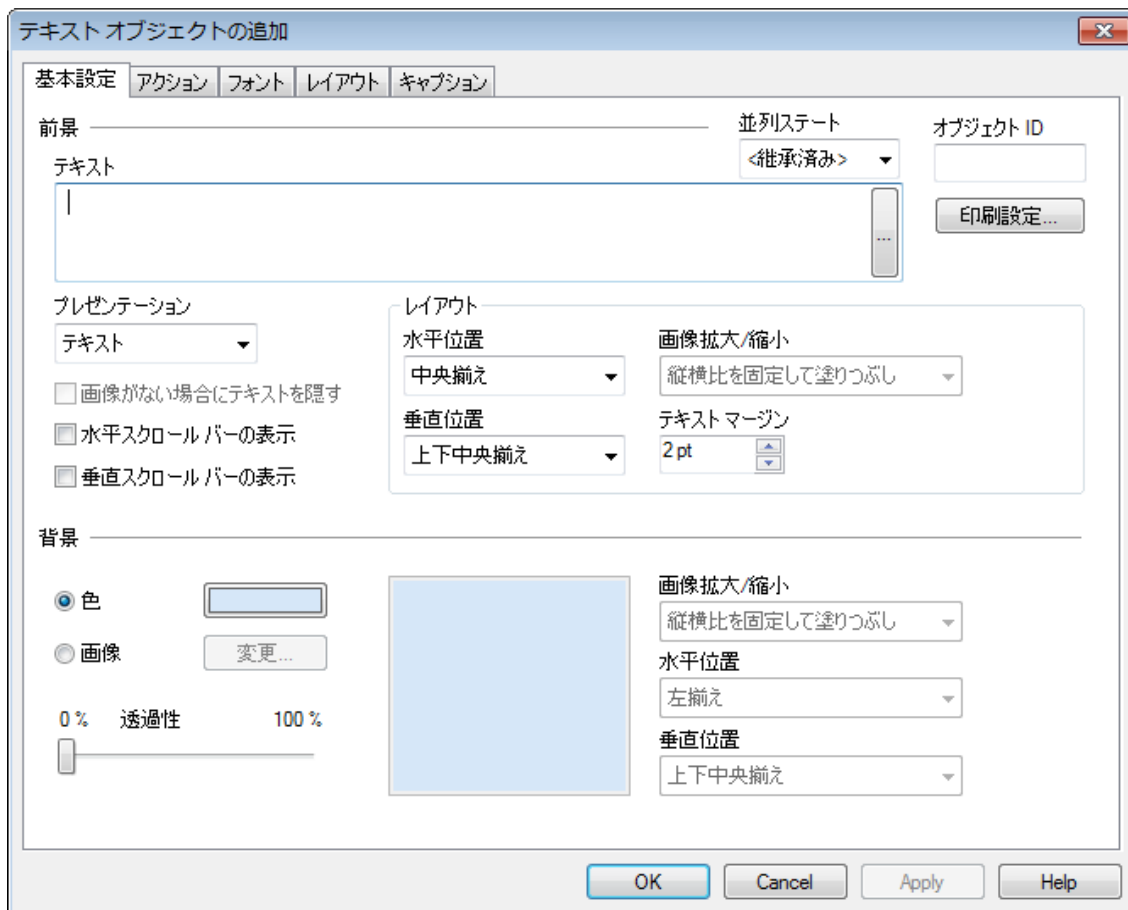
QlikView ヘルプを開きます。

削除

シートオブジェクトを削除します。

40.2 テキストオブジェクトプロパティ: 基本設定

テキストオブジェクトプロパティ: 基本設定 ページは、テキストオブジェクトを右クリックし、フロートメニューから **プロパティ** を選択して開く、もしくはテキストオブジェクトがアクティブな場合は **オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択して開きます。ここでは、テキスト、その背景、配置などを設定できます。



テキストオブジェクトプロパティ: 基本設定

前景

ここで、テキストオブジェクトの前景を指定できます。この前景は、通常はテキスト自体で構成されますが、画像になる場合もあります。

テキスト

ここに、表示されるテキストを入力します。動的に更新する 計算式 (1053 ページ) としてテキストを指定することもできます。

プレゼンテーション

テキスト オブジェクト内のテキストは、メモリ内またはディスク上の画像への参照として解釈される場合があります。**テキスト** を選択すると、テキスト オブジェクトの内容は常にテキストとして解釈されて表示されます。**画像** を選択すると、QlikView はテキストの内容を画像への参照として解釈しようとしています。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\MyPic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。また、画像情報 (=info(MyField) など) を含む項目にリンクされた info 関数を使用することもできます。QlikView がテキストの内容を有効な画像への参照として解釈できない場合は、テキスト自体が表示されます。

画像がない場合にテキストを隠す

このオプションをオンにすると、画像参照としての解釈に何らかの理由で失敗した場合、QlikView はテキスト オブジェクトにテキストを表示しません。この場合、テキスト オブジェクトは空白のままです。

水平スクロール バーの表示

このチェックボックスをオンにすると、テキストの内容が横に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、水平スクロールバーがテキスト オブジェクトに追加されます。

垂直スクロール バーの表示

このチェックボックスをオンにすると、テキストの内容が縦に長すぎて指定された領域内に表示できない場合に、垂直スクロールバーがテキスト オブジェクトに追加されます。

レイアウト

このグループでは、テキストオブジェクト領域内にテキストまたは前景画像を表示する方法を定義します。

水平位置

テキストは、テキストオブジェクト内で水平方向に左揃え、中央揃え、右揃えすることができます。

垂直位置

テキストは、テキストオブジェクト内で垂直方向に上揃え、中央揃え、下揃えすることができます。

画像拡大/縮小

この設定は、前景画像をテキストオブジェクト領域に合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の 4 つの選択肢があります。

縮小/拡大なし

このオプションを選択した場合、画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、テキストオブジェクトの一部が画像で覆われない場合があります。

塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、テキストオブジェクト領域全体を覆うように拡大されます。

縦横比を固定する

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、テキストオブジェクト領域をできるだけ広く覆うように拡大されます。したがって、通常は、画像の左右または上下に画像で覆われない領域ができます。

縦横比を固定して塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、テキストオブジェクト領域全体(上下/左右とも)を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

テキスト マージン

この設定では、テキストオブジェクトの外枠とテキスト自体の間の余白を作成できます。マージンの幅は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

背景

背景 グループでは、テキスト オブジェクトの背景を指定できます。現在の設定は、右のプレビュー パネルに反映されます。

色

テキストを色付きの背景で表示する場合は、このラジオ ボタンを選択します。色は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

画像

画像を背景として表示する場合は、このラジオ ボタンを選択します。現在の画像を変更するには、**変更** ボタンをクリックします。**テキスト** 項目にテキストを入力しない場合は、このテキスト オブジェクトを使用して、レイアウトにシート オブジェクトとして静的画像を表示できます。サポートされる画像タイプには、jpg、png、bmp、gif、およびアニメーション gif があります。

透過性

テキスト オブジェクトの背景の透過性を設定します。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。

画像拡大/縮小

この設定は、背景画像をテキスト オブジェクト領域に合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。オプションの詳細については、上記 **画像拡大/縮小** を参照してください。

配置

背景は水平位置または垂直位置に配置できます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

オブジェクト ID 現在のテキスト オブジェクトの一意の ID です。作成時に、各シート オブジェクトには、制御用に 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) から一意の ID が割り当てられます。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のテキスト オブジェクトには、ID TX01 が割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシート オブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。

印刷設定 このボタンを押すと **印刷設定** ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。**印刷設定** ダイアログには **レイアウト** と **ヘッダー/フッター** の 2 ページがあり、印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログの最後の 2 ページと同じです。

40.3 アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタン オブジェクトの [アクション] ページと同じです。アクション (661 ページ) を参照してください。

40.4 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

40.5 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

40.6 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

41 線/矢印オブジェクト

線/矢印 オブジェクトは、レイアウトに線または矢印を追加するために使用されます。他のシート オブジェクトに覆われている領域でも、シート領域であればどこにでも移動して配置できます。

線/矢印 オブジェクトを右クリックすると 線/矢印オブジェクト: [オブジェクト] メニュー (681 ページ) が表示されます。線/矢印 オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、[オブジェクト] メニューからもアクセスできます。

41.1 線/矢印オブジェクト: [オブジェクト] メニュー

線/矢印 オブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。このメニューは、線/矢印 オブジェクトがアクティブな場合に、メインメニューの [オブジェクト] でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ 線/矢印オブジェクトプロパティ: 基本設定 (682 ページ) ダイアログを開きます。ここから線/矢印 オブジェクトを定義する要素を設定できます。

注: 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。

配置 このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動




シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

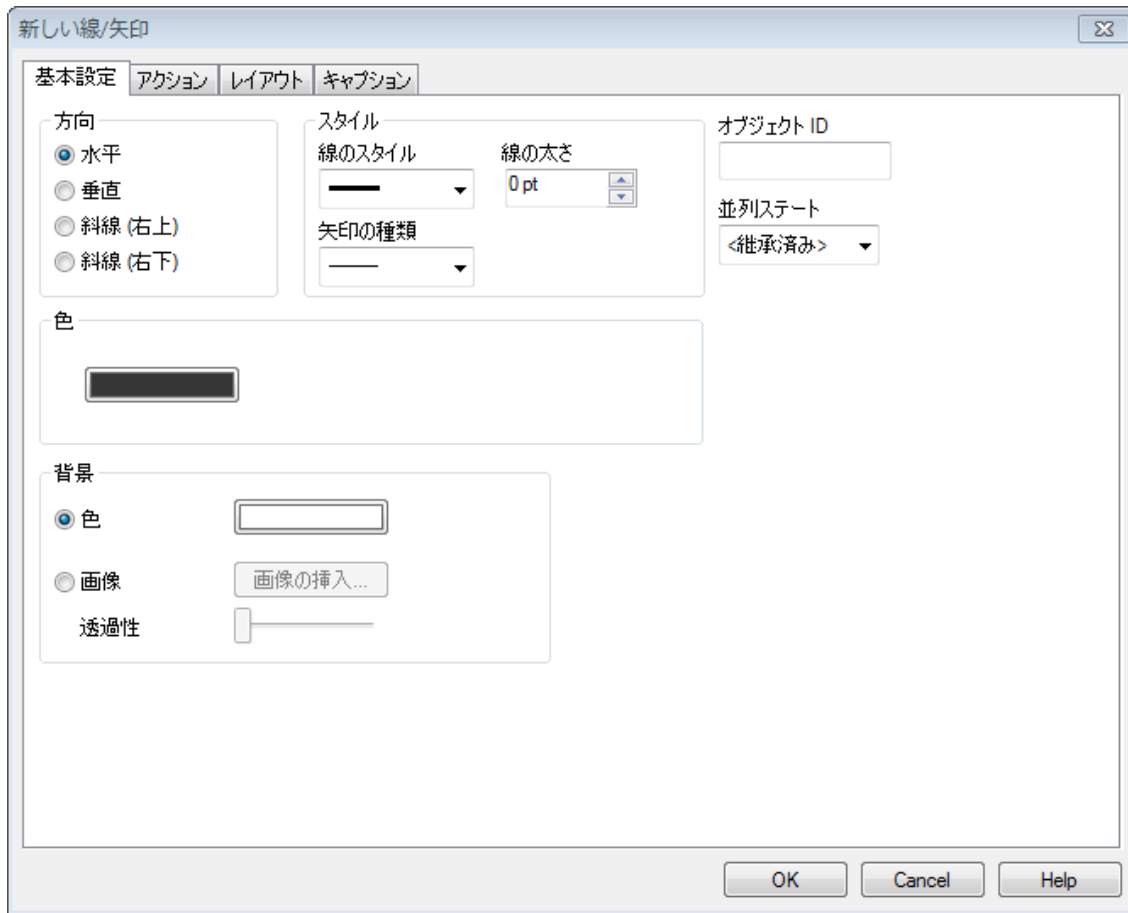
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、 ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。 オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。 オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトを削除します。

41.2 線/矢印オブジェクト プロパティ: 基本設定

このページは線/矢印 オブジェクトを右クリックする、または線/矢印 オブジェクトがアクティブな場合 **オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択すると開きます。

[方向] グループでは、線/矢印オブジェクトの方向を **[水平]**、**[垂直]**、**[斜線 (右上)]** もしくは **[斜線 (右下)]** から選択して設定します。

スタイル グループでは、線/矢印 オブジェクトに使用するスタイルを変更できます。



線/矢印オブジェクトプロパティ：基本設定

線のスタイル 実線、または何種類かある破線/点線の中から選択します。

線の太さ 線の厚さを設定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

矢印の種類 方向や種類の違う矢印の選択肢があります。

色 グループでは、線/矢印 オブジェクトの色を色ボタンをクリックして開く **色の設定** (515 ページ) ダイアログで設定できます。

背景 グループでは、線/矢印オブジェクトの背景を定義できます。

色 オブジェクトの背景色を表示する場合は、このオプションを選択します。色は、ラジオ ボタンの右にある色のボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色としてまたは数式から動的に計算して定義できます。

画像 このオプションを選択すると、**画像の挿入** ボタンをクリックして画像をインポートする必要があります。

- 透過性** オブジェクトの背景の透過性を設定します。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。透過性は、背景で色または画像が使用されているかどうかに関係なく適用されます。
- オブジェクト ID** **オブジェクト ID** は 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が適用され、線/矢印 オブジェクトであれば LA01 から割り当てられます。リンクされたシート オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID は後で編集できます。
- 並列ステート** ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
- 継承済み**
シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
- 初期ステート**
QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

41.3 アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタン オブジェクトの [アクション] ページと同じです。アクション (661 ページ) を参照してください。

41.4 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

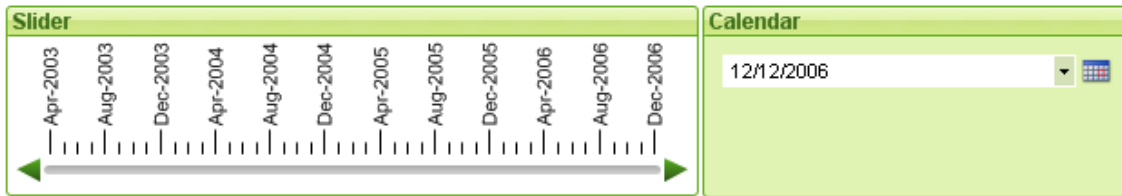
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

41.5 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

42 スライダー/カレンダー オブジェクト



スライダー/カレンダー オブジェクトは、QlikView で項目値を選択するための異なる手段を提供します。QlikView 変数 (209 ページ) に値を入力するのにも使用できます。名前が示すように、スライダー/カレンダー オブジェクトには、2 つの完全に異なるモードが存在します。この 2 つのモードは、ユーザーインターフェースなどの外観は異なりますが、内部ではほとんど同じように機能します。

スライダー/カレンダー オブジェクトを右クリックすると、スライダー/カレンダー オブジェクト: オブジェクト メニュー (685 ページ) が表示されます。スライダー/カレンダー オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

42.1 スライダー/カレンダー オブジェクトの使用

スライダー モード

スライダー背景に沿ってスライダーをドラッグすることで、1 つの値、2 つの値、または値域 (オブジェクトのプロパティに基づく) が項目で選択されるか、1 つまたは 2 つの変数に挿入されます。スライダーは、矢印スクロールを使用して移動することもできます。スライダーによっては、ナビゲーション用の目盛および目盛マークが組み込まれている場合があります。スライダーの各部分の説明については、以下の図 (690 ページ) を参照してください。

カレンダー モード

カレンダー モードのスライダー/カレンダー オブジェクトは、右側にカレンダー アイコンを含むドロップダウンボックスとしてレイアウトに表示されます。カレンダー アイコンをクリックすると、カレンダー コントロールが展開されます。矢印ボタンまたは月および年のドロップダウン コントロールを使用して、月および年を移動できます。カレンダー コントロールで日付または日付の範囲 (オブジェクトのプロパティに基づく) を選択すると、その選択範囲が基底の項目または変数に適用されます。

オブジェクトが項目に接続されている場合、リストボックスと同じ選択カラー コード (選択値の緑など) を使用して、その項目の選択範囲が展開されたカレンダー コントロールに反映されます。オブジェクトで複数値が設定されている場合は、リストボックスと同様に、複数値をペイントできます。Ctrl キーを押すことで、別の月または年に表示されている場合でも、複数値の範囲を選択することができます。選択後にカレンダー コントロールを閉じると、ドロップダウン ボックスは、基本的にマルチ ボックスの項目ドロップダウンとして機能します。

42.2 スライダー/カレンダー オブジェクト: オブジェクト メニュー

スライダー/カレンダー オブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロート メニューが表示されます。このメニューは、スライダー/カレンダー オブジェクトがアクティブな場合に、メイン メニ

ユーの **オブジェクト** でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ** ダイアログを開くと、スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ：基本設定 (687 ページ)、スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ：プレゼンテーション (スライダー モード) (690 ページ)、スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ：プレゼンテーション (カレンダー モード) (692 ページ)、リストボックス プロパティ：ソート (586 ページ)、プロパティ：数値書式 (590 ページ)、フォント (592 ページ)、レイアウト (593 ページ) そして キャプション (597 ページ) を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。

配置 このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。




クリップボードにコピー このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。

画像

シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ：エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

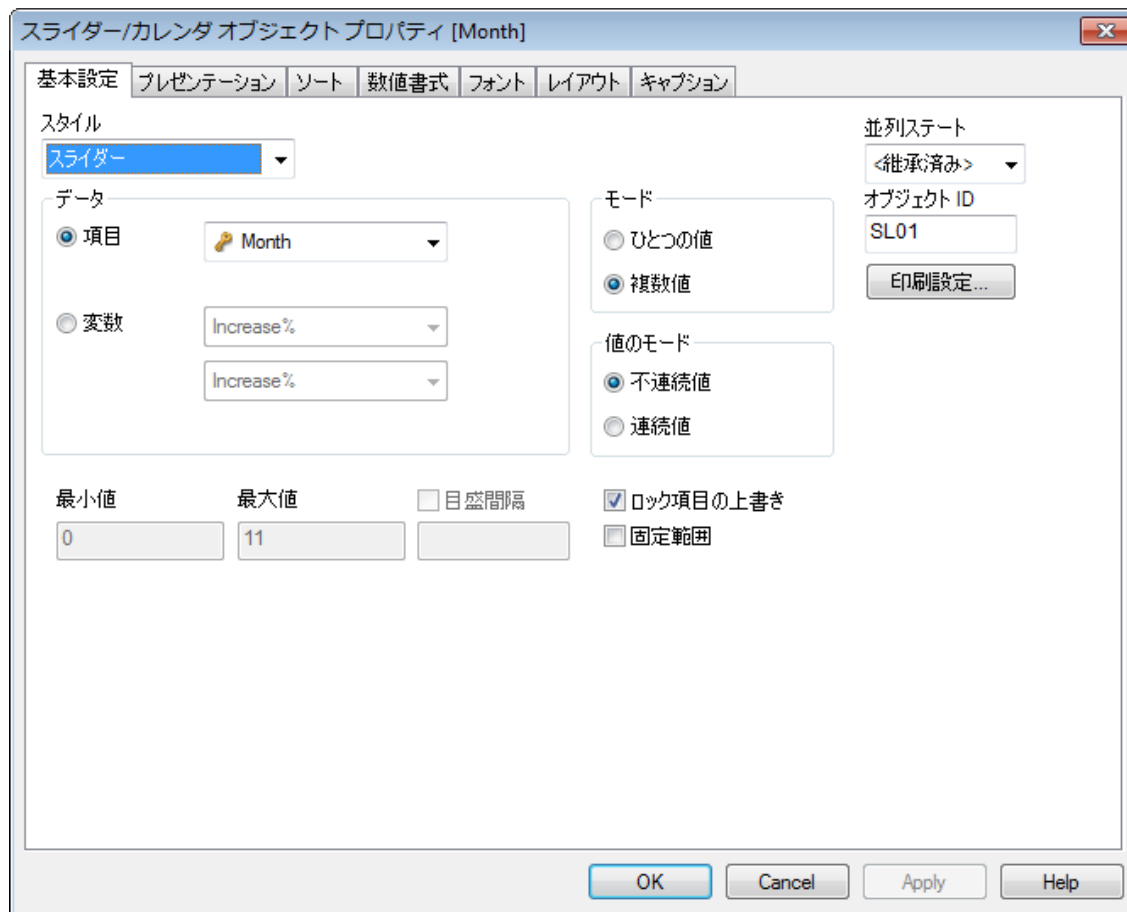
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整理する</p> <p>すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する</p> <p>オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

42.3 スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ: 基本設定

スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ: [基本設定] ページは、スライダー/カレンダー オブジェクトを右クリックし、フロートメニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダー オブジェクトによって操作されるデータの基本設定を行います。この情報は **[スライダー/カレンダー オブジェクトの追加]** ダイアログからも開けます。

[スタイル] では、スライダー/カレンダー オブジェクトの基本モードを選択します。ドロップダウンを使用して、オブジェクトの表示スタイルを **[スライダー]** コントロール もしくは **[カレンダー]** 入力コントロールから選択します。

[データ] グループでは、スライダー/カレンダー オブジェクトの接続先のデータ オブジェクトを定義します。スライダー/カレンダー オブジェクトは、1つの項目または1つまたは1組の変数のいずれかに接続できます。



スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ：基本設定

- 項目** スライダー/カレンダー オブジェクトを1つの項目もしくは数式に接続する場合は、このラジオ ボタンを選択します。ドロップダウン ボックスで項目を選択します。ドロップダウンで **[数式]** 選択すると、**[数式の編集]** ダイアログが開きます。
- 編集** ドロップダウン リストで選択した数式を **[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログで開きます。
- 変数** ラジオ ボタンを選択し、ドロップダウン リストで、変数を選択します。2 番目の変数は、**[モード]** で **[複数値]** を選択した場合にだけ使用できます(以下を参照してください)。

[モード] グループでは、スライダー/カレンダー オブジェクトを使用して、**[ひとつの値]** または値域 - **[複数値]** を選択するかどうかを指定します。

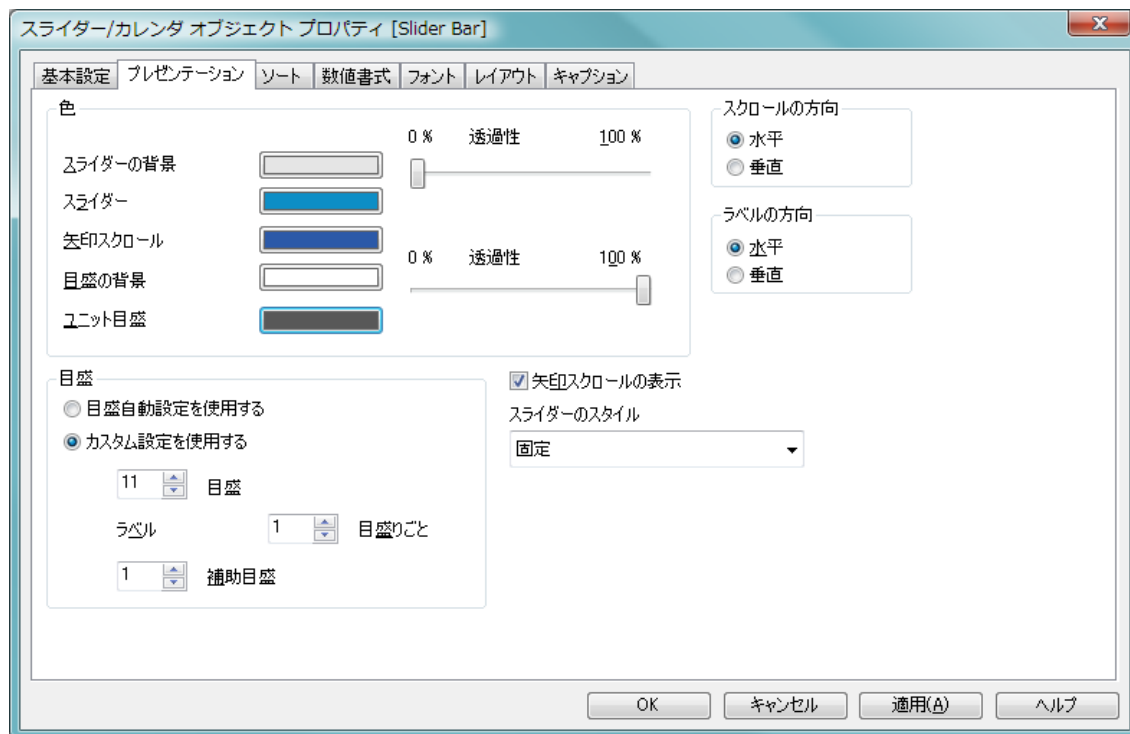
[値のモード] グループでは、スライダー/カレンダー オブジェクトを使用して、**[不連続値]** (**[複数値]** モードでは無効) を選択するのか、または 値域の **[連続値]** (**[項目]** データの **[ひとつの値]** モードでは無効) を定義するのかを指定します。このグループは、**[カレンダー]** モードでは使用できません。**[カレンダー]** モードでは、常に不連続値と見なされます。

最小値	値のモード [連続値] のスライダー/カレンダー オブジェクトの最小値を設定します。
最大値	値のモード [連続値] のスライダー/カレンダー オブジェクトの最大値を設定します。
目盛間隔	値のモード [連続値] のスライダー/カレンダー オブジェクト値の目盛間隔を指定する場合は、このチェックボックスをオンにし、編集ボックスに値を入力します。
値 1	スライダー/カレンダー オブジェクトが [ひとつの値] の場合に、値のモード [連続値] のスライダーの現在の値を表示します。 [複数値] モードでは、小さい値が表示されます。
値 2	値のモード [連続値] のスライダー/カレンダー オブジェクトの現在の大きい値が表示されます。 [複数値] モードにのみ関連します。
ロック項目の上書き	このチェックボックスをオンにすると、項目がロックされている場合でも、スライダー/カレンダー オブジェクトからその項目内の選択を行うことができます。その項目は、他の項目での選択による論理的な変更に対してはロックされます。スライダー/カレンダー オブジェクトでは、このオプションは、デフォルトでオンになっています。
固定範囲	このチェックボックスをオンにすると、スライダーの端をドラッグして、範囲を広げたり狭めたりできなくなります。
並列ステート	ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。 継承済み シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に 継承済み ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。 初期ステート QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に 初期ステート にあります。
オブジェクト ID	これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が適用され、スライダー オブジェクトであれば SL01 から割り当てられます。リンクされたシート オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。

印刷設定

このボタンから **[印刷設定]** ダイアログにアクセスし、余白やヘッダー/フッターの書式を定義できます。**[印刷設定]** ダイアログには 印刷：レイアウト (112 ページ) と 印刷：ヘッダー/フッター (114 ページ) の 2 ページがあり、**[印刷]** ダイアログの最後の 2 ページと同じです。

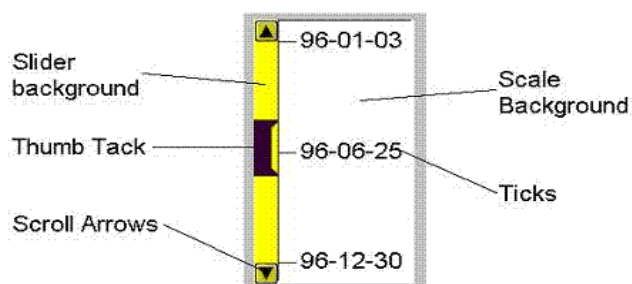
42.4 スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ: プレゼンテーション (スライダー モード)



スライダー オブジェクト プロパティ、プレゼンテーション

[スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ: プレゼンテーション] ページは、**[スライダー/カレンダー]** オブジェクトを右クリックし、フロートメニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダー オブジェクトの視覚プロパティを設定できます。

[色] グループでは、この図にあるように、スライダー/カレンダーのさまざまな部分の色を定義できます。



[スライダーの背景] と **[目盛の背景]** の色は、それぞれのボタンをクリックすると表示される **[色の設定 (515 ページ)]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。スライダー背景の透

過性は、ボタンの右側にある [透過性] コントロールを使用して設定できます。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

[スライダー]、[矢印スクロール]、[ユニット目盛] の色は、それぞれのボタンをクリックすると表示される [色の設定] ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。

[スクロールの方向] グループでは、スライダーを [水平] または [垂直] 方向に表示できます。

[ラベルの方向] では、目盛のテキストの表示を [水平] または [垂直] 方向に決定できます。

[目盛] グループではスライダーの目盛を定義できます。[目盛自動設定を使用する] を選択すると、目盛は、スライダーのサイズおよび基底の値に基づいて自動的に生成されます。[カスタム設定を使用する] では、目盛の数を指定できます。

- | | |
|---------------------------------|-------------------------|
| 目盛 | スライダーの目盛の数を定義します。 |
| ラベル n 目盛りごと | 目盛のラベルテキストの間隔を定義します。 |
| 補助目盛 | スライダーの目盛間の補助目盛の数を定義します。 |

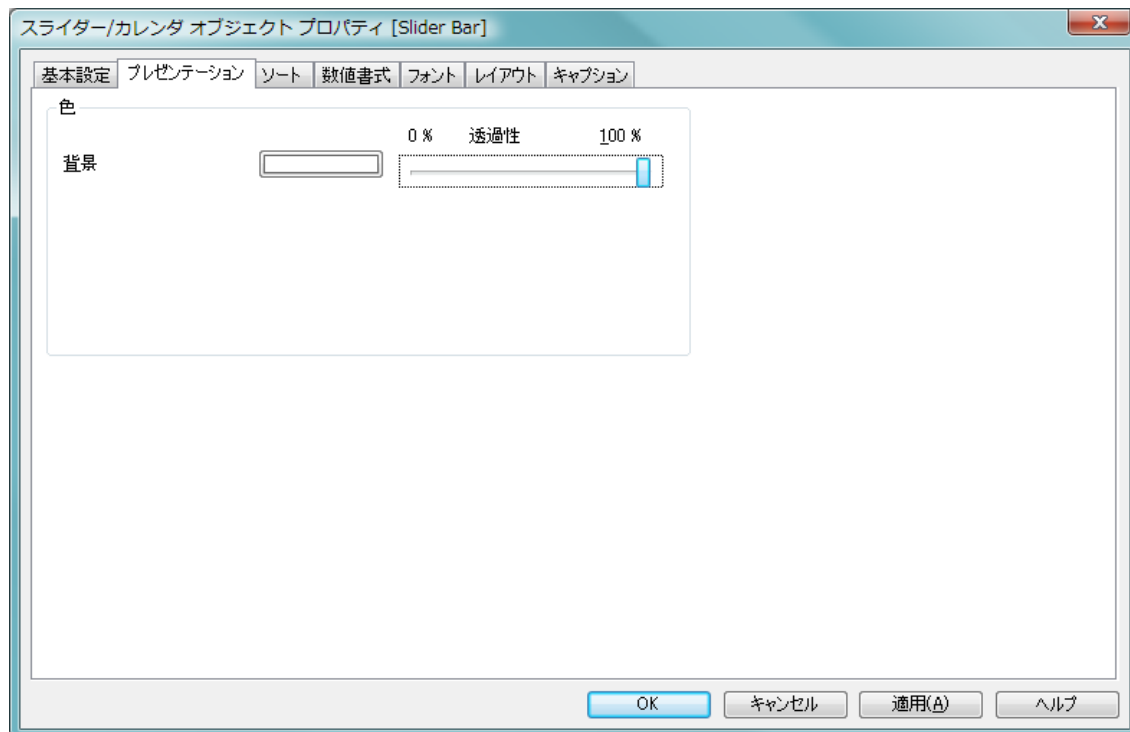
スクロールの矢印は、[矢印スクロールの表示] チェックボックスで表示/非表示を切替えられます。

[スライダーのスタイル] は、[固定] または [光彩] に設定できます。

注意！

AJAX/WebView モードでは、目盛自動設定やラベルの垂直方向関数には制限があります。可能であれば、目盛設定を定義するために、[カスタム設定を使用する] の使用が推奨されます。

42.5 スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ:プレゼンテーション(カレンダー モード)



カレンダー オブジェクト プロパティ : プレゼンテーション

[スライダー/カレンダー オブジェクト プロパティ : プレゼンテーション] ページは、**[スライダー/カレンダー]** オブジェクトを右クリックし、フロードメニューから**[プロパティ]**を選択して開きます。ここでは、スライダー/カレンダー オブジェクトの視覚プロパティを設定できます。

[色] グループでは、カレンダー コントロールの背景の色を定義します。**[背景色]** は、ボタンをクリックすると表示される**[色の設定]** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。カレンダー コントロールの背景の透過性は、ボタンの右側にある**[透過性]** コントロールを使用して設定できます。0% の場合、背景は完全に不透明になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

42.6 ソート

ソート ページでは、スライダーのデータのソート順を設定できます。このダイアログは、**[ドキュメントプロパティ]**の対応するページ(ドキュメントプロパティ:ソート(538ページ)を参照)とほぼ同じです。

42.7 数値

数値書式 ページでは、スライダーの目盛の数値書式を設定できます。このダイアログは、**[ドキュメントプロパティ]**の対応するページとほぼ同じです(ドキュメントプロパティ:数値書式(541ページ)を参照)。

42.8 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

42.9 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

42.10 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

43 ブックマークオブジェクト

ブックマークオブジェクトは、選択用のブックマークを表示するために使用されるシートオブジェクトです。設定によっては、新しいブックマークを追加したり、古いブックマークを削除するために使用することもできます。ブックマークオブジェクトは、基本的に [ブックマーク] メニュー (66 ページ) のオプションを提供します。

オブジェクトを右クリックすると、ブックマークオブジェクト: [オブジェクト] メニュー (695 ページ) が表示されます。ブックマークオブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、[オブジェクト] メニューからもアクセスできます。

43.1 並列ステートのブックマークオブジェクト

ブックマークオブジェクトに並列ステートを設定できます。ですが、そのオブジェクトで作成され、呼び出されたブックマークはすべてのステートに適用されます。ブックマークには特定のステートで処理される機能はありません。つまり、ブックマークのステート設定は無視されます。

43.2 ブックマークオブジェクト: [オブジェクト] メニュー

ブックマークオブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。このメニューは、ブックマークオブジェクトがアクティブな場合に、メインメニューの [オブジェクト] でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ ブックマークオブジェクトプロパティ: 基本設定 (697 ページ) ダイアログを開きます。ここから、ブックマークオブジェクトを定義するパラメータを設定できます。

注: 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。

配置

このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

ブックマークの追加

ブックマークの追加 ダイアログを開き、ブックマーク名を編集できます。

ブックマークの上書き

現在ドキュメントで定義されているブックマークのうち、最近使用した 10 個を含むカスケードメニューを開きます。ブックマークの 1 つを選択すると、そのブックマークの内容が現在の選択条件の内容と変数値に置き換えられます。

ブックマークの削除




現在ドキュメントで定義されているブックマークのうち、最近使用した 10 個を含むカスケードメニューを開きます。これらのうち 1 つを選択し、ドキュメントから削除します。

ブックマークのインポート

保存したブックマーク (.qbm) ファイルを参照して選択すると、ブックマークのインポート (146 ページ) ダイアログが開き、ブックマークをインポートできます。

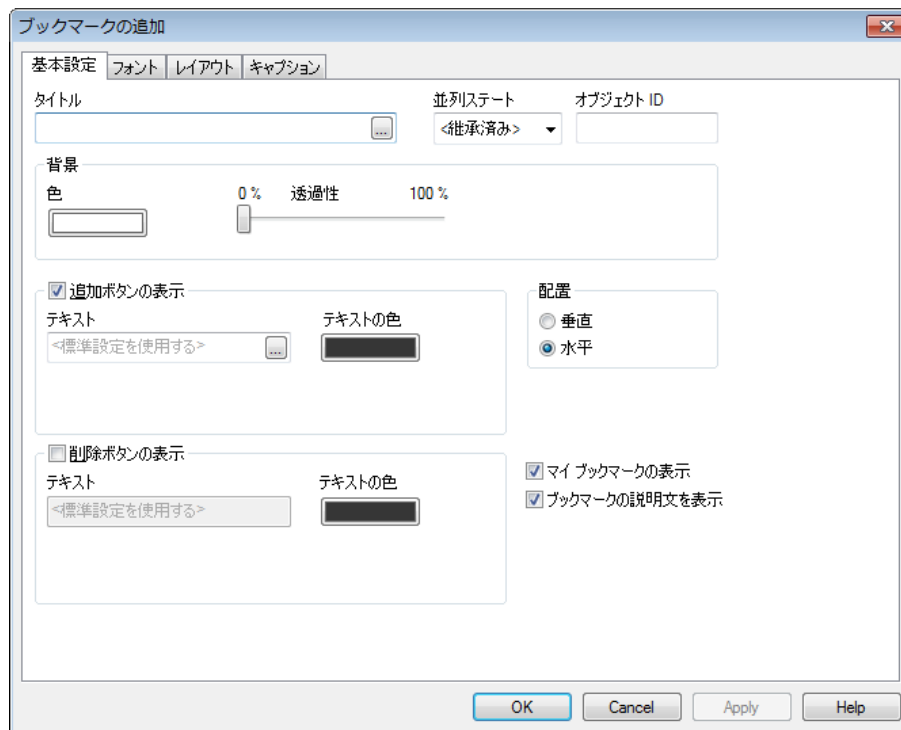
ブックマークのエクスポート

ブックマークのエクスポート (146 ページ) ダイアログが開き、選択したブックマークを QlikView bookmark (.qbm) ファイルにエクスポートできます。

クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、 ユーザー プロパティ ダイアログの エクスポート ページの設定に従います。 オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 リンク オブジェクトを整理する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。 オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートオブジェクトを削除します。

43.3 ブックマークオブジェクト プロパティ: 基本設定

ブックマーク オブジェクト プロパティ : 基本設定 ページは、ブックマーク オブジェクトを右クリックし、フローメニューの **プロパティ** コマンドを選択して開きます。ここでは、ブックマーク オブジェクトの基本要素を設定できます。



ブックマークオブジェクトプロパティ：基本設定

タイトル

ブックマークオブジェクトのキャプションに表示するテキスト。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算式 (1053 ページ) として定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシートオブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

オブジェクト ID

これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シートオブジェクトには一意の ID が適用され、ブックマークオブジェクトであれば BM01 から割り当てられます。リンクオブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。

背景	色 ボタンをクリックすると表示される 色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。 透過性 ブックマーク オブジェクトの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の [背景色] で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。
追加ボタンの表示	チェックボックスをオンにすると、ブックマークオブジェクトに [ブックマークの追加] ボタンが表示されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。 テキスト ここでは、 ブックマークの追加 ボタンに表示するテキストを入力します。これは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算式 (1053 ページ) として定義することができます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。テキストを入力しない場合、編集ボックスには <初期設定を使用する> と表示され、ボタンには「ブックマークの追加」のテキストが表示されます。 テキストの色 ブックマークの追加 ボタンのテキストの色を設定します。
配置	ここでは、 追加 ボタンと 削除 ボタンが両方とも表示される場合の、相互の位置関係を、 水平 (横並び) または 垂直 (積み上げ) のどちらかを選択して設定します。
削除ボタンの表示	チェックボックスをオンにすると、ブックマークオブジェクトに [ブックマークの削除] ボタンが表示されます。このオプションは、デフォルトでオフになっています。 テキスト ここでは、 ブックマークの削除 ボタンに表示するテキストを入力します。これは、ラベルのテキストの動的に更新される 計算ラベル数式 として定義することができます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。テキストを入力しない場合、編集ボックスには <初期設定を使用する> と表示され、ボタンには「ブックマークの削除」のテキストが表示されます。 テキストの色 ブックマークの削除 ボタンのテキストの色を設定します。
マイブックマークの表示	ブックマークオブジェクトのブックマークリストに個人用ブックマークを表示するには、このチェックボックスをオンにします。個人用ブックマークは、ドキュメントブックマークと個人用ブックマークを分ける仕切りで区切られて、リストの最後に表示されます。

ブックマークの説明文を表示 **説明文の編集** に入力されたテキストを表示するには、このチェックボックスをオンにします。

43.4 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

43.5 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

43.6 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

44 検索オブジェクト

検索オブジェクトはドキュメント内にあるあらゆる情報の検索に使用できます。

新しい**検索オブジェクト**を作成するには、メインメニューから**レイアウト - シートオブジェクトの追加 - 検索オブジェクト**を選択する、シート領域を右クリックして**シートオブジェクトの追加 - 検索オブジェクト**を選択する、もしくは、ツールバーの**検索オブジェクトの追加**ボタン(ツールバーが表示されている場合)をクリックします。

検索オブジェクトを右クリックすると **検索オブジェクト:[オブジェクト]メニュー (701 ページ)**が表示されます。検索オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]**メニューからもアクセスできます。

44.1 検索オブジェクト:[オブジェクト]メニュー

検索オブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。このメニューは、検索オブジェクトがアクティブな場合に、メインメニューの**[オブジェクト]**にも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ 検索オブジェクトプロパティ: 基本設定 (703 ページ) ダイアログを開きます。ここから、検索オブジェクトを定義するパラメータを設定できます。

注: 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント (566 ページ)**を参照してください。

配置

このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

クリップボードにコピー

このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

画像

シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ** ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンクオブジェクト

リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。


リンクオブジェクトを整列する


すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。


オブジェクトのリンクを解除する

オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **オブジェクトプロパティ** ダイアログの **キャプション** (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

最大化 オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **オブジェクト プロパティ** ダイアログの **キャプション** (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

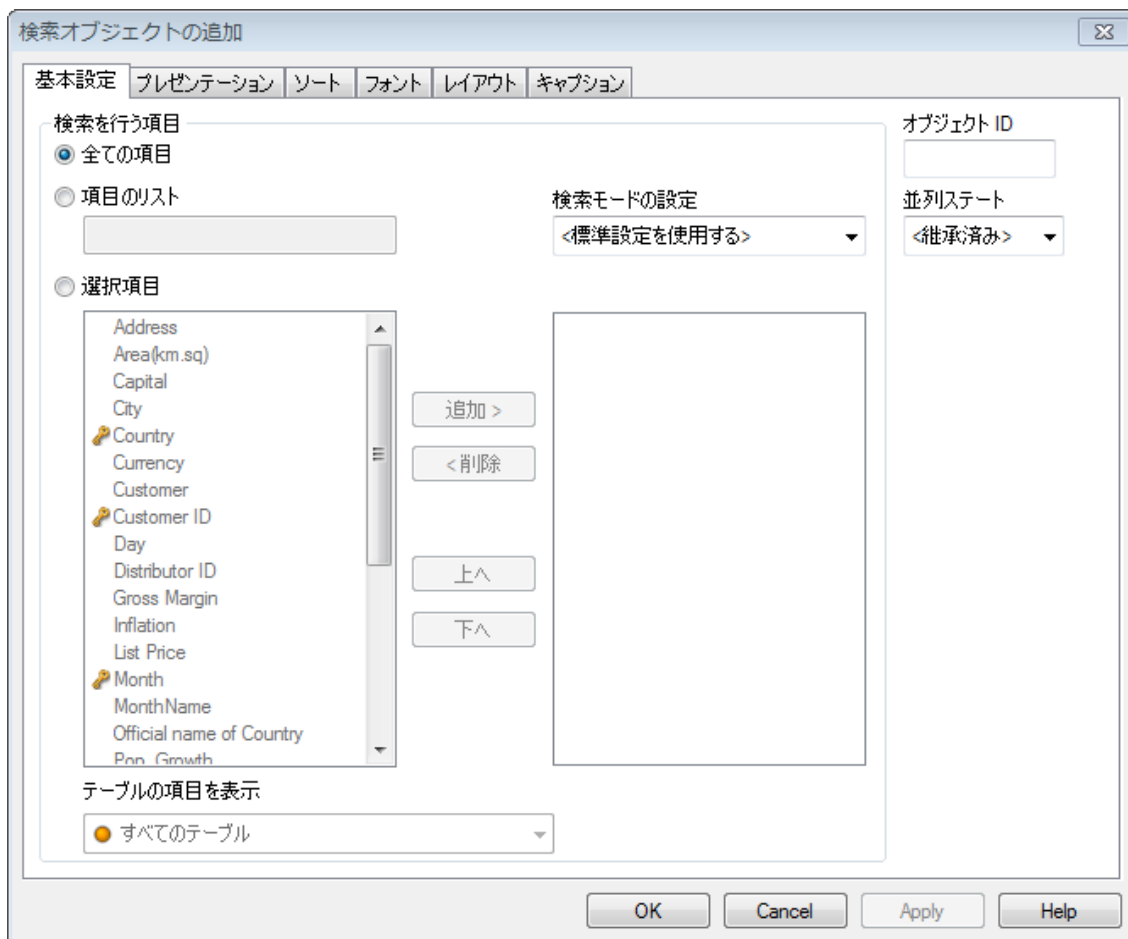
元のサイズに戻す 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ QlikView ヘルプを開きます。

削除 シート オブジェクトを削除します。

44.2 検索オブジェクト プロパティ: 基本設定

基本設定 ページでは検索オプションの設定を行えます。



検索オブジェクト プロパティ : 基本設定

全ての項目	検索オブジェクトでドキュメント内の全ての項目を検索する場合は、このラジオ ボタンをオンにします。
項目のリスト	このラジオ ボタンをオンにし、下の項目に項目をリストして検索する項目を設定します。セミコロン (;) を項目間の区切り文字として使用します。項目名にはワイルドカード文字の * および ? を使用できます。動的更新に対応する 計算式 としてリストを指定することもできます。
選択項目	このラジオ ボタンをオンにし、検索を行う項目を選択します。
テーブルの項目を表示	このドロップダウン メニューが表示する値 すべてのテーブル には、ドキュメントのすべての項目が含まれます。ドロップダウン リストの特定のテーブル名を選択して、 項目 リストをそのテーブルの項目に制限できます。最後に、 すべてのテーブル (テーブル名表示) を選択できます。これは、それらのテーブル名で限定されたドキュメントのすべての項目を表示します。項目は、属するテーブルごとに 1 回表示されます。
検索モードの設定	<p>テキスト検索で使用するデフォルトの検索モードを指定します。モードは常に、検索文字列の一部として * や ~ を入力することによってその場で変更できます。次の選択肢を使用できます。</p> <p><初期設定を使用する></p> <p>ユーザー プロパティ (85 ページ) で指定されたデフォルトが適用されます</p> <p>ワイルドカード検索</p> <p>ワイルドカード検索を容易にするため、カーソルを間に置いた 2 つのワイルドカードが初期検索文字列として表示されます。</p> <p>あいまい検索</p> <p>あいまい検索を意味するチルダ (~) が初期検索文字列として表示されます。</p> <p>標準検索</p> <p>初期値としての検索文字列は追加されません。ワイルドカードなしに通常の検索が行われます。</p> <p>連想検索</p> <p>連想検索を使用する検索ボックスが開きます。</p>
オブジェクト ID	現在の検索オブジェクトの一意の ID です。作成時に、各シートオブジェクトには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初の検索オブジェクトには、ID S001 が割り当てられます。リンクされたシート オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシートオブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

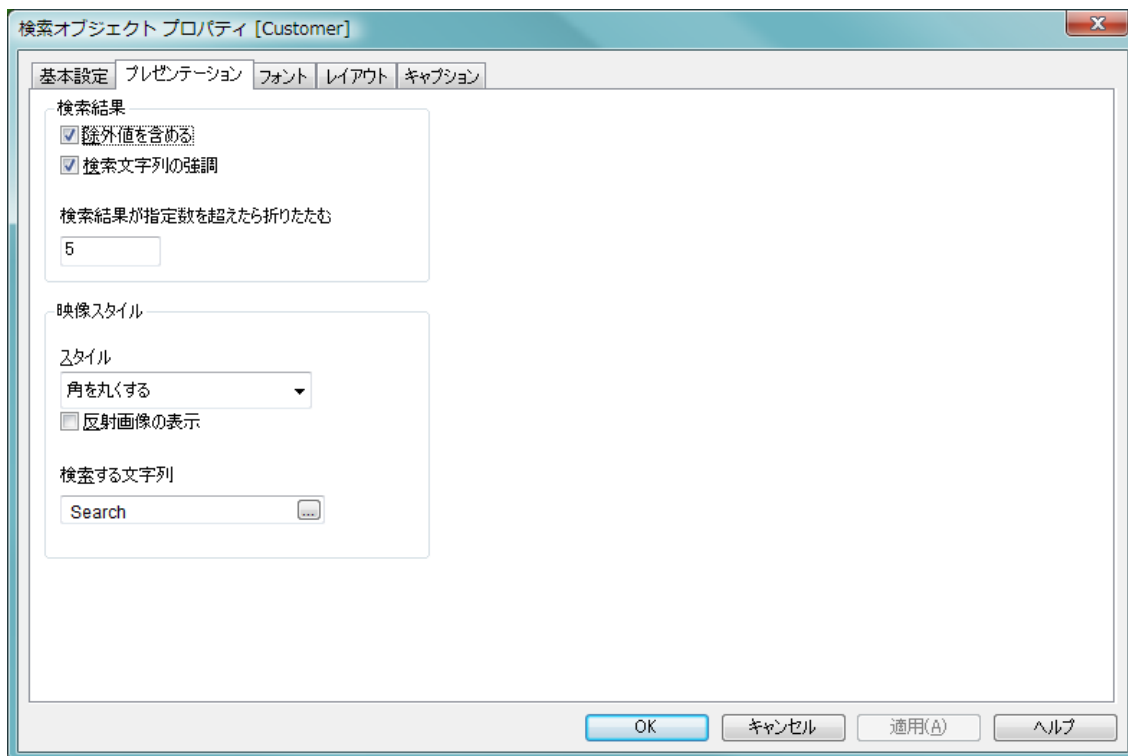
継承済み

シートとシートオブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に**継承済み**ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に**初期ステート**にあります。

44.3 検索オブジェクトプロパティ:プレゼンテーション



検索オブジェクトプロパティ：プレゼンテーション

検索結果

除外値を含める

このチェックボックスをオンにすると、選択によって除外された値が検索に含まれます。

検索文字列の強調

合致する検索文字列が強調表示されます。

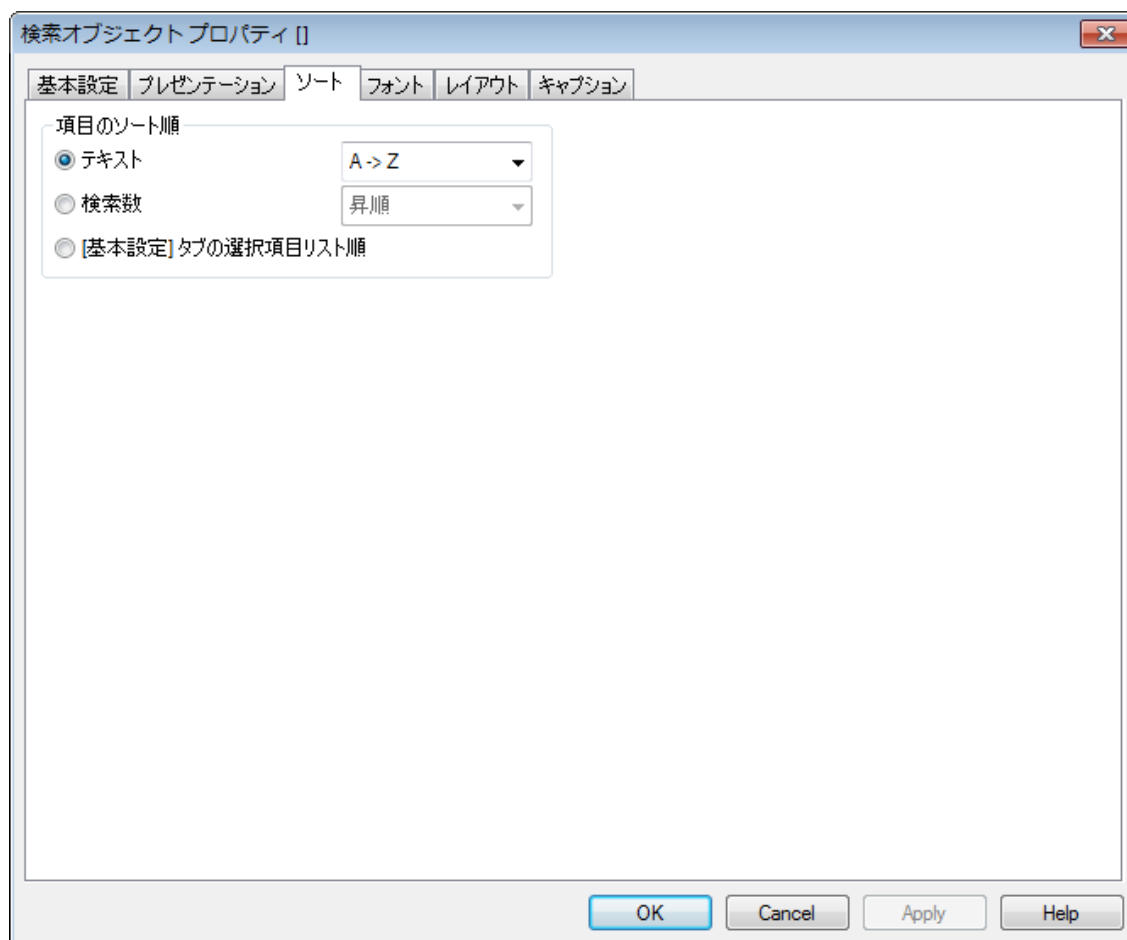
検索結果が指定数を超えたら折りたたむ

各項目での合致する値を表示する数を制限します。

映像スタイル

- スタイル** [角を丸くする] と [角を四角くする] のどちらかを選択します。
- 反射画像の表示** レイアウトに、検索オブジェクトの反射画像が表示されます。
- 検索オブジェクトの表示テキスト** 検索文字列を入力する前に検索オブジェクトに表示するテキストを入力します。 [...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

44.4 検索オブジェクト プロパティ: ソート



検索オブジェクト プロパティ : ソート

項目値のソート順 グループでは、検索オブジェクトの項目値のソート順を設定できます。

- テキスト** 検索結果をアルファベット順にソートします。
- 検索数** 各項目における検索数に応じて検索結果をソートします。
- [基本設定] タブの選択項目リスト順** [基本設定] タブでリストされた項目順に検索結果をソートします。

44.5 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

44.6 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

44.7 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

45 コンテナ



Author	Title
Adams, Douglas	Hitchhikers Guide to the Galaxy, The
Adams, Douglas	Restaurant at the End of the Universe,...
Adams, Douglas	So Long and Thanks for the Fish
Adams, Douglas	Titanic
Benson, Amber	Death's Daughter
Briggs, Patricia	Blood Bound
Briggs, Patricia	Bone Crossed
Briggs, Patricia	Iron Kissed
Briggs, Patricia	Moon Called
Eddings, David	Pawn of Prophecy
Eddings, David	Redemption of Althalus, The
Eddings, David	Seeress of Kell, The
Eddings, David	Wizard's Endgame
Evanovich, Janet	Four to Score
Evanovich, Janet	One for the Money

コンテナ オブジェクトは、他のオブジェクトを格納するオブジェクトです。コンテナ オブジェクトは、他のすべてのシート オブジェクトを格納できます。オブジェクトはグループ化され、フォントとレイアウト、キャプションの設定を共有します。

コンテナ オブジェクトを右クリックすると、コンテナ オブジェクト: オブジェクトメニュー (709 ページ) が表示されます。コンテナ オブジェクトがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト**メニューからもアクセスできます。

45.1 コンテナ オブジェクト: オブジェクトメニュー

オブジェクトメニューは、オブジェクトがアクティブな場合に、オブジェクトメニューとして表示されます。オブジェクトを右クリックして、コンテキストメニューとして開くこともできます。

次のコマンドを使用できます。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを表示します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：ALT+ENTER。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント (566 ページ)**を参照してください。

配置

このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

クリップボードにコピー

このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。

画像

シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザープロパティ** ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンクオブジェクト

リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。


リンクオブジェクトを整列する



すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。

オブジェクトのリンクを解除する

オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **オブジェクトプロパティ** ダイアログの **キャプション** (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

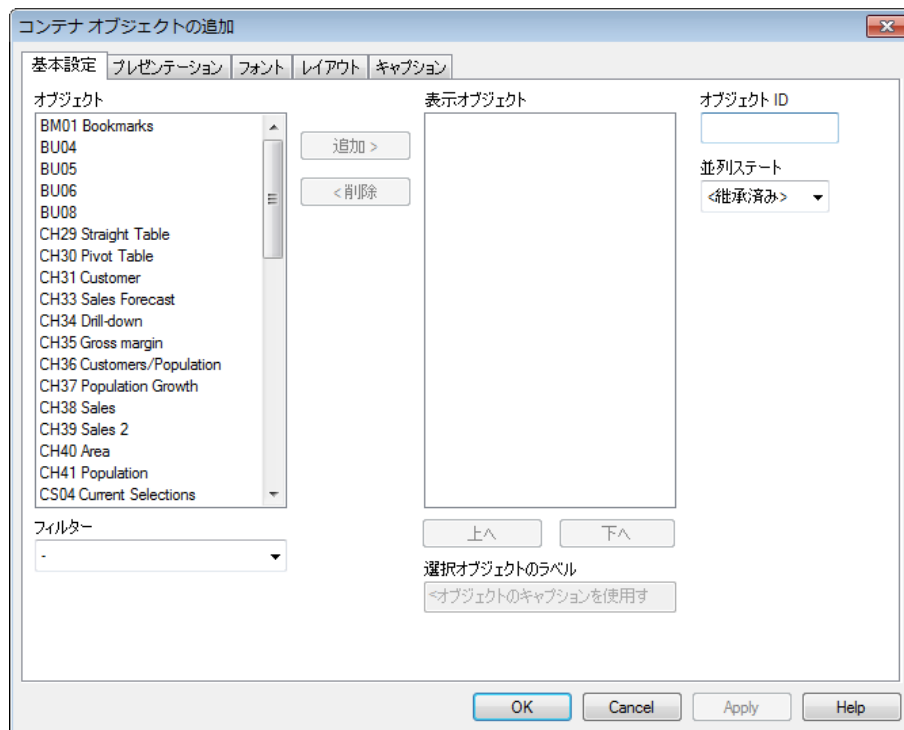
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シート オブジェクトを削除します。

45.2 コンテナ オブジェクト プロパティ: 基本設定

コンテナ オブジェクト: 基本設定 ページは、コンテナ オブジェクトを右クリックし、**プロパティ** を選択すると開きます。**プロパティ** コマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません。

必要なプロパティを設定したら、**[OK]** または **[適用]** ボタンを使用して実装できます。**[OK]** ボタンではダイアログが閉じますが、**[適用]** ボタンでは閉じません。

コンテナ オブジェクトの **タイトル** ウィンドウには、ウィンドウ キャプションに表示される名前を入力します。タイトルは、ラベルのテキストの動的に更新される **計算式** (1053 ページ) としても定義できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。



コンテナ オブジェクトプロパティ：基本設定

- オブジェクト** ドキュメント内のオブジェクトのリストです。使用/削除する項目をクリックして選択します。[追加 >] ボタンまたは [< 削除] ボタンを使用して、目的の列に移動します。
- フィルター** この設定では、オブジェクトの種類などで **オブジェクト** のリストにフィルターをかけることができます。
- 表示オブジェクト** コンテナ オブジェクトに表示されるオブジェクトのリストです。
- 上へ** 選択オブジェクトを1つ上に移動します。
- 下へ** 選択オブジェクトを1つ下に移動します。
- オブジェクト ID** 現在のコンテナ オブジェクトの一意の ID。作成時に、各シート オブジェクトには、制御用にオートメーションから一意の ID が割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。ID は、数値と、オブジェクトのタイプを定義する文字の組み合わせで構成されます。ドキュメントの最初のコンテナ オブジェクトには、ID CT01 が割り当てられます。オブジェクト ID は、ドキュメント内の他のシート オブジェクト、シート、またはブックマークで現在使用されていない他の文字列に変更できます。

並列ステート

ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。

継承済み

シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。

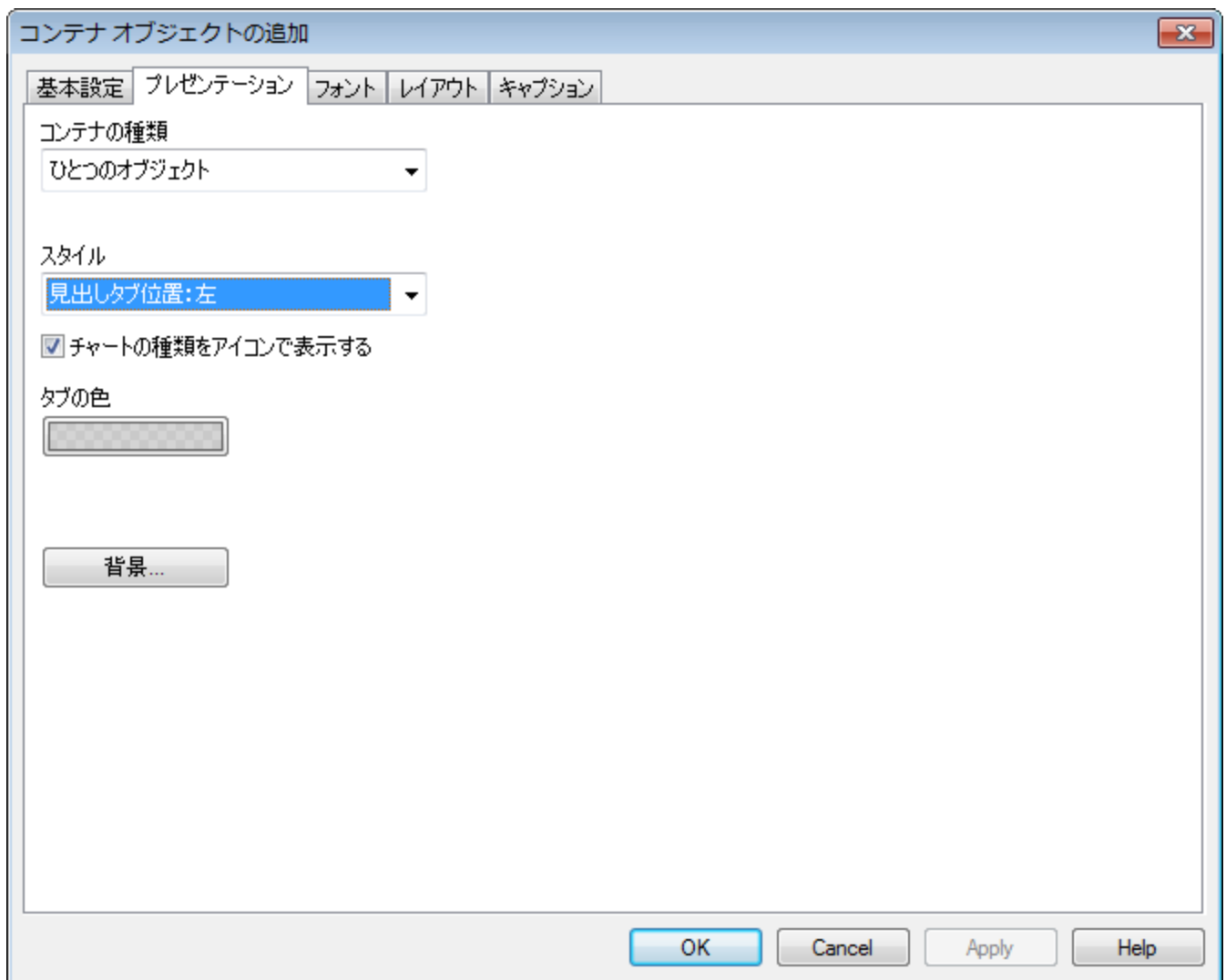
初期ステート

QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

選択オブジェクトのラベル

ここでは、表示されるオブジェクトの別名を入力できます。動的に更新する 計算式 (1053 ページ) としてラベルを指定することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

45.3 コンテナ プロパティ: プレゼンテーション



コンテナ プロパティ;[ひとつのオブジェクト]モードのプレゼンテーション

ここでは、コンテナ オブジェクトの外観に関するプロパティを設定できます。

コンテナの種類 ドロップダウン リストにあるコンテナの種類を選択します。

スタイル	<p>ここでは、コンテナ内の異なるオブジェクトを表示する方法を設定します。[シングル オブジェクト] モードでのみ有効です。</p> <p>見出しタブ位置 : 上 コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最上部にタブ表示されます。</p> <p>見出しタブ位置 : 左 コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの左端にタブ表示されます。</p> <p>見出しタブ位置 : 右 コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの右端にタブ表示されます。</p> <p>見出しタブ位置 : 下 コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最下部にタブ表示されます。</p> <p>ドロップダウン見出し : 上 コンテナ内のすべてのオブジェクトは、コンテナの最上部にドロップダウンメニュー表示されます。</p>
チャートの種類をアイコンで表示する	この設定を有効にすると、タブに異なるオブジェクトを示すアイコンが表示されます。シングル オブジェクト モードでのみ有効です。
タブの色	タブの色を指定します。色は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。シングル オブジェクト モードでのみ有効です。
列	列の数を選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
行	行の数を選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
段落後の行間	行間のサイズを選択します。[グリッド] モードでのみ有効です。
背景	背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。

45.4 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

45.5 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

45.6 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

46 カスタムオブジェクト

カスタムオブジェクトは、カスタム定義された OCX 代替コントロールを保持することを目的としたシートオブジェクトです。

カスタムオブジェクト：[オブジェクト]メニュー (717 ページ) は、カスタムオブジェクトがアクティブな場合、**オブジェクト**メニューからアクセスできます。

代替コントロールは、QlikTech、ユーザー自身、またはサードパーティベンダーによってプログラムされ、QlikView 代替 OCX コントロールの仕様に準拠するウィンドウなしの OCX コントロールです。OCX コントロールは、基底のカスタムオブジェクトで輪郭が囲まれた四角形でシート上に描画されます。OCX コントロールと QlikView ドキュメント間の通信は、内部マクロインタープリタ (1077 ページ) によって保持されます。

QlikView インストールには、OCX 代替コントロールのサンプルがいくつか収められています。これらは「現状のまま」、完全な VB ソースコードとして提供されています。そのまま使用することも、必要に応じてソースコードを変更することもできます。これらのサンプルコントロールについては、弊社はサポートを提供していません。

46.1 カスタムオブジェクト：[オブジェクト]メニュー

カスタムオブジェクト上でマウスの右ボタンをクリックすると、フロートメニューが表示されます。このメニューは、カスタムオブジェクトがアクティブな場合に、メインメニューの**オブジェクト**でも表示されます。メニューには以下のコマンドがあります。

- | | |
|-------------------|--|
| OCX のプロパティ | 使用されている OCX 代替コントロールの [プロパティ] ダイアログを開きます。このダイアログは、OCX 代替コントロールとともに提供されているため無い場合があります。 |
| プロパティ | カスタムオブジェクトプロパティ：基本設定 (719 ページ) ダイアログを開きます。 |

配置

このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。

最前面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。

最背面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシート オブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。

前面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。

背面へ移動

シート オブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。

クリップボードにコピー

このメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。

画像

カスタム オブジェクトのビットマップ画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ** ダイアログの **エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。

リンク オブジェクト

リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。


リンク オブジェクトを整理する



すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。

オブジェクトのリンクを解除する

オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

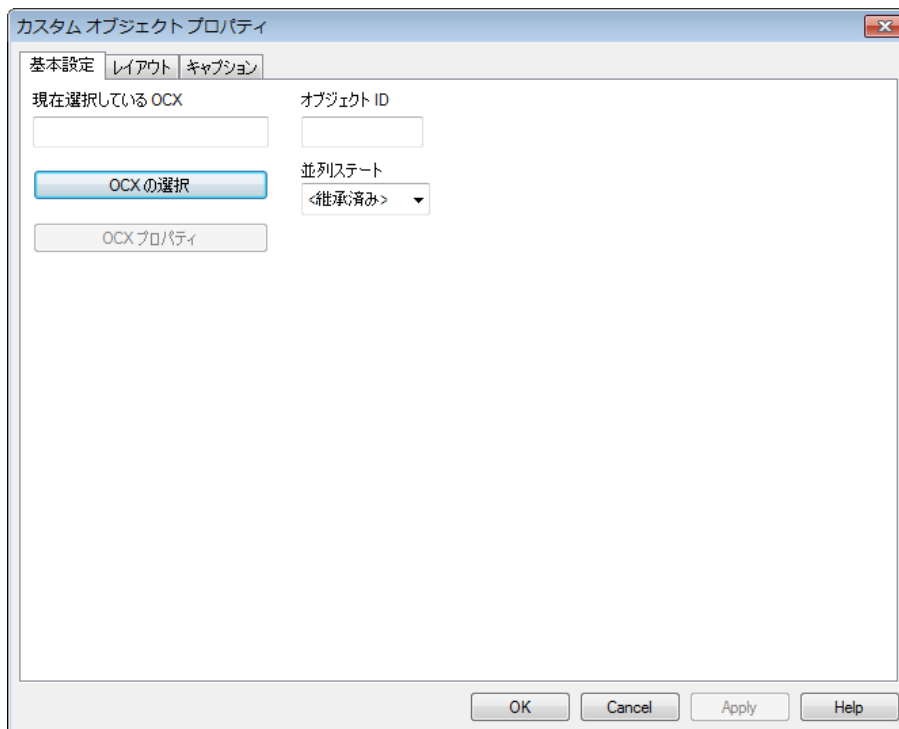
最小化

オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が **オブジェクト プロパティ** ダイアログの **キャプション** (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

- 最大化** オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が **オブジェクトプロパティ** ダイアログの **キャプション** (597ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
- 元のサイズに戻す** 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
- ヘルプ** QlikView ヘルプを開きます。
- 削除** シートオブジェクトを削除します。

46.2 カスタム オブジェクト プロパティ: 基本設定

カスタム オブジェクト プロパティ : 基本設定 ページは、カスタム オブジェクトを右クリックし、フーフトメニューの **プロパティ** コマンドを選択して開きます。このページでは、カスタム オブジェクトのタイトルと設定を行うことができます。



カスタム オブジェクト プロパティ : 基本設定

現在選択している OCX 現在選択されている OCX の代替の名前です。

- オブジェクト ID** これは、内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が適用され、カスタム オブジェクトであれば C001 から割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。
- OCX の選択** このボタンをクリックすると、**[オブジェクトの挿入]** ダイアログが開き、OCX 代替コントロールを選択または変更できます。
- OCX プロパティ** 使用されている OCX 代替コントロールの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。このダイアログは、OCX 代替コントロールのプロバイダによってプログラムされており、プロバイダごとに外観や機能が異なります。また、一部の代替コントロールでは使用できません。
- 並列ステート** ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。
- 継承済み**
シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に **継承済み** ステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。
- 初期ステート**
QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に **初期ステート** にあります。

46.3 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

46.4 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

47 サーバー オブジェクトパネル

サーバー オブジェクト パネルでは、エンドユーザーは自分のサーバー シート オブジェクトの管理や、他のユーザーの共有オブジェクトへのアクセスが簡単にできます。



[サーバー オブジェクト] パネル

47.1 パネルの設定

サーバー オブジェクト パネルは、表示メニューの**サーバー オブジェクト**コマンドを使用するか、F2 キーを押して、表示/非表示を切り替えることができます。パネルは、QlikView アプリケーション ウィンドウの任意の側面 (上下左右の側面) に移動し、ドッキングできます。また、QlikView のウィンドウの隣に移動可能な浮動ウィンドウとして開いておくこともできます。

サーバー オブジェクト パネルは、ローカル ドキュメント (サーバー ベースでない) の操作中も開いたままにできますが、機能は働きません。

サーバー オブジェクト パネルには2つの領域があります。**[マイ オブジェクト]**領域には、アクティブなサーバー ドキュメントのユーザー自身の個人用サーバー オブジェクトがリストされます。**[共有オブジェクト]**領域には、現在のサーバー ドキュメントにリンクされているすべての共有シート オブジェクト (ユーザー自身の共有オブジェクトも含む) がリストされます。

QlikView アプリケーション ウィンドウでオブジェクトを非表示にするには、オブジェクトを右クリックして**削除**を選択します。レイアウトにオブジェクトを再度表示するには、**サーバー オブジェクト**パネルからオブジェクトをドラッグします。

オブジェクトにカーソルを合わせると、オブジェクト名、オブジェクトの種類、所有者、最終更新日などの情報がポップアップに表示されます。

47.2 共有オブジェクト

ここでは、共有オブジェクトが表示されます。共有オブジェクトは、**[種類]**、**[所有者]**、**[日付]**に基づいて異なる方法でグループ化できます。**共有オブジェクト**の隣の矢印をクリックすると、グループ化を変更できます。リストは、展開して各オブジェクトについてさらに多くの情報を表示することも、折りたたんで場所を節約することもできます。オブジェクトの隣の矢印をクリックすると展開し、もう一度クリックすると折りたたまれます。

レイアウトに表示されているオブジェクトは、**[マイ オブジェクト]**領域と**[共有オブジェクト]**領域でチェックマークが付けられます。

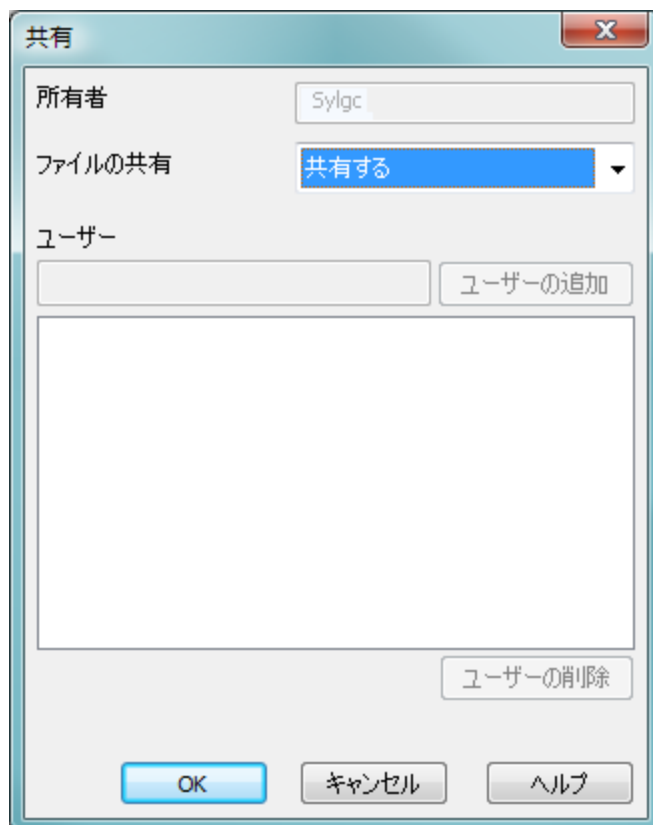
他のユーザーの共有オブジェクトを使用するには、そのオブジェクトをアプリケーション ウィンドウにドラッグします。

47.3 オブジェクトの追加と共有

新しいサーバー シート オブジェクトを作成すると、自動的に**[マイ オブジェクト]**リストに追加されます。

自分のサーバー オブジェクトを他のユーザーと共有するには、**マイ オブジェクト**領域からオブジェクトを右クリックし、**共有する**または**ファイルの共有**を選択します。これは、**[共有]**ダイアログを開きます。

共有



[サーバー オブジェクトパネル]の [共有] ダイアログ

このダイアログでは、オブジェクトの共有方法を設定できます。オブジェクトを共有するには、**ファイルの共有**のドロップダウンメニューからオプションを1つ選択します。

- 共有しない** オブジェクトはどのユーザーとも共有されません。
- 共有する** オブジェクトはすべてのユーザーに共有されます。
- ユーザーを指定して共有する** オブジェクトは下にリストされるユーザーに共有されます。

オブジェクトは、**[共有オブジェクト]**領域に表示されますが、**[マイ オブジェクト]**領域にも引き続き表示され、共有状態であることを示す小さい手のマークが付けられます。

いったん共有したオブジェクトの共有を解除するには、**マイ オブジェクト**領域からオブジェクトを右クリックし、**共有しない**または**ファイルの共有**を選択して**共有**ダイアログを開き、**ファイルの共有**ドロップダウンで**共有しない**を選択します。オブジェクトが**[共有オブジェクト]**リストから消え、他のユーザーは使用できなくなります。ただし、他のユーザーのアクティブなセッションには表示されたままになります。

48 レイアウトテーマ

48.1 QlikView のレイアウトテーマについて

テーマの基本

QlikView のレイアウトテーマは、QlikView のレイアウト全体またはその一部に適用できる書式設定プロパティのセットです。テーマファイルは、XML でコーディングされ、通常、アクティブなユーザーの Windows の Application Data フォルダにある特別な QlikView テーマフォルダに格納されます。

テーマを使用すると、QlikView のレイアウトを見栄えのする一貫性のあるものするために必要な時間と労力を大幅に削減できます。また、社内で特定のグラフィカルなデザインが使用されるようにすることもできます。

テーマトポロジ

QlikView のテーマファイルは、レイアウトオブジェクト(ドキュメント、シート、すべての種類のシートオブジェクト)の種類ごとの個別のセクションで構成されています。各セクションには、オブジェクトの種類固有のプロパティ用、枠線/キャプションのプロパティ用、および印刷設定プロパティ用(印刷可能なオブジェクトの種類のみ)の3つのサブセクションがあります。各セクションおよびサブセクションは、テーマ作成ウィザード(727ページ)を使用して個別に作成または置換でき、テーマファイル内の他のセクションが影響を受けることはありません。

テーマセクションは次のようにして作成します。

1. 特定のオブジェクトに書式を設定します。
2. テーマ作成ウィザード(727ページ)を使用して、そのオブジェクトから選択したプロパティを抽出し、テーマファイルに挿入します。

汎用テーマ

汎用テーマとは、さまざまなオブジェクトの種類すべてに対してセクションが定義されているテーマです。このようなテーマは QlikView インストールパッケージで数多く提供されています。

汎用テーマを自分で作成する場合は、次の手順を実行します。

1. **[ドキュメントプロパティ]**を設定します。
2. シートの **[シートプロパティ]**を設定します。
3. 必要に応じて各種のシートオブジェクトを作成して設定します。キャプション/枠線のプロパティは、通常、標準でキャプションを使用するシートオブジェクトの種類(リストボックス、チャートなど)と、標準ではキャプションを使用しないシートオブジェクトの種類(テキストオブジェクト、ボタンなど)に対してそれぞれ一度設定するだけで済みます。
4. **テーマ作成ウィザード**を実行して新しいテーマを作成し、前述した設定済みエンティティの最初のエンティティからプロパティを挿入します(順序は関係ありません)。
5. 前述した設定済みエンティティの残りのエンティティごとに一度 **テーマ作成ウィザード**を繰り返し実行します。

限定目的テーマ

特定の使用目的でテーマを作成することができます。使用目的によっては、使用可能なテーマセクションおよびサブセクションの小さなサブセットを定義するだけでよい場合があります。たとえば、チャートオブジェクトを特定のサイズとシート上の位置に設定するだけのテーマを定義できます。それには、チャートに対してのみ、キャプション/枠線グループの1つのプロパティを持つテーマ、つまりサブセクションが1つだけあるテーマを定義します。

48.2 レイアウトでのテーマの適用

QlikView のレイアウトテーマは、任意の時点で手動で適用することも、新しいレイアウトオブジェクトが作成されるたびに自動的に適用することもできます。テーマは以下のものに適用できます。

- 個々のシートオブジェクト
- シートオブジェクトグループ
- シート
- ドキュメント全体

個々のオブジェクトへのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. シートオブジェクトをクリックしてアクティブにします。
2. コンテキストメニューからシートオブジェクトの **[プロパティ]** ダイアログを開きます。
3. **[レイアウト]** ページに移動します。
4. **[テーマの適用]** ボタンをクリックします。
5. 開かれたブラウザダイアログでテーマを選択します。
6. **[OK]** をクリックします

選択したシートオブジェクトに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。シートオブジェクトのグループにテーマを適用するには、はじめにすべてのシートをアクティブにする必要があります。これを行うには、Shift を押しながらかlickするか、選択項目を三角で囲みます (左マウスボタンを押しながらかlickを描き、三角形内にあるすべてのオブジェクトを選択します)。

シートへのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. シートのタブをクリックしてシートをアクティブにします。
2. **[設定]** メニューから **[シートプロパティ]** ダイアログを開きます。
3. **基本設定** ページに移動します。
4. **[テーマの適用]** ボタンをクリックします。
5. 開かれたブラウザダイアログでテーマを選択します。
6. **[OK]** をクリックします。

選択したシートに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。また、テーマは、シート上のすべてのシートオブジェクトにも適用されます。

ドキュメント全体へのテーマの適用

次の手順を実行します。

1. ドキュメントを開くか、アクティブにします。
2. [設定] メニューから [ドキュメント プロパティ] ダイアログを開きます。
3. [レイアウト] ページに移動します。
4. [テーマの適用] ボタンをクリックします。
5. 開かれたブラウザ ダイアログでテーマを選択します。
6. [OK] をクリックします。

ドキュメントに適用できるテーマ内のすべてのプロパティが適用されます。また、テーマは、ドキュメント内のすべてのシートとシート オブジェクトにも適用されます。

48.3 テーマ作成ウィザード

Step 1 - テーマ ファイルの選択	727 ページ
Step 2 - ソース選択	728 ページ
Step 3 - 個別のプロパティの選択	729 ページ
Step 4 - テーマへプロパティの挿入	729 ページ
Step 5 - テーマの保存	730 ページ

テーマ作成ウィザードを開始するには、**テーマ作成ウィザード** コマンドを **ツール** メニューから選択します。

初めて起動すると、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタート ページが表示されます。最初のページを次回からスキップする場合は、**次回からこの画面を表示しない** チェック ボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。

Step 1 - テーマ ファイルの選択

新しいテーマを 1 から作成する、既存のテーマに基づいて新しいテーマを作成する、既存のテーマを変更する、のいずれかを選択します。

テーマの新規作成

新しいテーマを作成する場合は、このオプションを選択します。

テンプレート

新しいテーマを既存のテーマに基づいて作成する場合は、このドロップダウンで基本のテーマを選択します。ドロップダウンには、デフォルトの QlikView テーマフォルダにあるすべての既存のテーマがリストされます。リストの最後には、**参照** オプションがあり、他の場所にあるテーマファイルを参照できます。

既存テーマの編集

既存のテーマを変更する場合は、このオプションを選択します。ドロップダウンでテーマを選択します。ドロップダウンには、デフォルトの QlikView テーマフォルダにあるすべての既存のテーマがリストされます。リストの最後には、**参照** オプションがあり、他の場所にあるテーマファイルを参照できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。新しいテーマを作成する場合、**名前を付けて保存** ダイアログが表示されます。

Step 2 - ソース選択

テーマを作成する際は、既存のオブジェクトから書式設定プロパティのグループを 1 つまたは複数取得します。ソース オブジェクトには、任意のシート オブジェクト、シート、またはドキュメントそのものを指定できます。

ソース

ドロップダウンのリストからソース オブジェクトを選択します。ドロップダウン リストには、ドキュメント内の使用可能なすべてのオブジェクトのリストが含まれます。アクティブなオブジェクトがあらかじめ選択されています。

プロパティのグループ レイアウト オブジェクトから抽出してテーマに挿入できる書式設定プロパティは、3つの主要グループに分かれています。以下の3つのチェックボックスの1つまたは複数オンにして、ソース オブジェクトからテーマに抽出するグループを選択します。

オブジェクトの種類別

オブジェクトの種類に固有のプロパティをソース オブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。オブジェクトの種類に固有のプロパティとは、特定のオブジェクトの種類(チャートなど)にのみ存在するプロパティです。この種類のプロパティは、ソース オブジェクトの種類と同じ種類のオブジェクトにのみコピーできます。

キャプションと枠線

キャプションと枠線のプロパティをソース オブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。この種類のプロパティは、ソース オブジェクトの種類以外の種類のオブジェクトにコピーできます。

印刷設定

印刷設定プロパティをソース オブジェクトから抽出してテーマに含める場合は、このチェックボックスをオンにします。この種類のプロパティは、ソース オブジェクトの種類以外の種類のオブジェクトにコピーできます。ウィザードの次の手順では、上記で選択したグループごとに、特定のプロパティをテーマに含めるか、テーマから除外するかを選択できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 3 – 個別のプロパティの選択

Step 3 では、ソース オブジェクトから抽出してテーマに含めるプロパティをさらに細かく選択します。ウィザードのこの手順は、Step 2 で選択した3つの主要プロパティ グループのそれぞれについて、繰り返し実行します。

リストの各項目は、テーマに含める、またはテーマから除外することができる1つのプロパティまたはプロパティ グループを示します。含める項目にチェック マークを付けます。

既存のテーマを変更している場合、この手順を開始したときにマークが付けられている項目は、現在テーマに含まれている項目です。選択の変更によって、テーマの設定はすべて上書きされます。

新しいテーマを最初から作成している場合、この手順を開始したときにマークが付けられている項目は、通常、汎用テーマに含めるのに適した項目です。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 4 – テーマへプロパティの挿入

ウィザードの4番目の手順では、テーマのどのセクションまたはサブセクションを抽出されたオブジェクトのプロパティと共にテーマに書き出すかを決定します。チェックボックスがある列が3つあり、それぞれのチェックボックスはテーマの1つのサブセクションを表します。ウィザードのStep 2 と3の選択に基づいて、一部のチェックボックスだけが選択でき、残りは淡色表示されます。

これらの緑色の枠で囲まれたチェックボックスは、現在テーマで定義されているサブセクションであることを示します (既存のテーマを変更する場合のみ適用されます)。

チェックボックスがある列は、Step 2 の 3 つのチェックボックスに対応しています。Step 2 で対応するチェックボックスをオンにし、その後 Step 3 で該当する選択を行った場合のみ列内のチェックボックスを選択できます。

オブジェクトの種類に固有のサブセクションは、Step 2 でその種類のソース オブジェクトを選択した場合のみ選択できます。キャプション/枠線の設定と印刷設定は、オブジェクトの種類すべてで設定できません。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 5 – テーマの保存

テーマを新規のドキュメントやオブジェクトのデフォルトとして保存する場合、次の 2 つのオプションを選択できます。

このドキュメントの テーマとして設定する

テーマを現在のドキュメント内のデフォルトのテーマとして使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。テーマは、ドキュメント内に新しく作成されるすべてのシートおよびシート オブジェクトに適用されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。標準のテーマは、いつでも **ドキュメントプロパティ : プレゼンテーション** ページから設定できます。

新規ドキュメントに テーマとして設定する

テーマを新規ドキュメントのデフォルトのテーマとして使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。テーマは、新規に作成されるドキュメントのデフォルトのテーマとして設定されます。選択したテーマを使用するためには、選択したテーマが常にディスクからアクセスできる必要があります。使用するテーマが、QlikView ドキュメントで発生する可能性のあるすべてのタイプのオブジェクトに対して定義されていることも重要です。新規ドキュメントのデフォルトのテーマは、**[ユーザー プロパティ]** ダイアログの **[デザイン]** ページからいつでも設定できます。

[終了] をクリックしてテーマを保存しレイアウトに戻ります。

第6部チャート

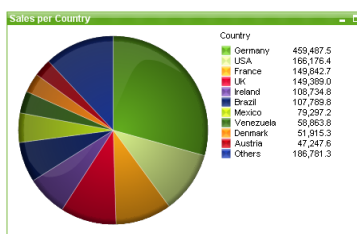
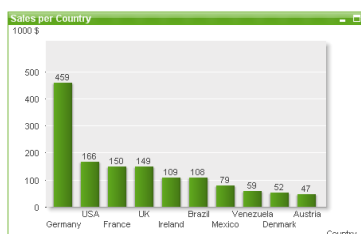
49 はじめに

チャートとテーブルは、数値を簡潔に表示できるシートオブジェクトです。たとえば、年、月、口座番号などのさまざまな項目に配置された金額の合計を表示できます。

チャートやテーブルは、1つの項目のさまざまな値のレコード数か、1つの計算値(1つの項目の絞込値の合計など)を表示するように設定できます。どちらの場合でも、特定の項目をX軸として選択する必要があります。つまり、この項目を使用して、円グラフのスライス、棒グラフのさまざまな棒、およびピボットテーブルの行にそれぞれラベルを付けることができます。

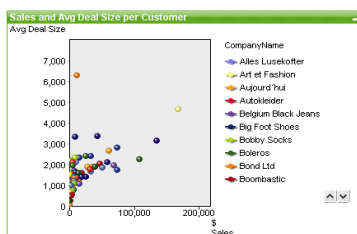
用意されているさまざまなチャートの種類

選択できるチャートの種類は、棒グラフ、円グラフ、コンボチャート、散布図、折れ線グラフ、レーダーチャート、グリッドチャート、ゲージチャート、ブロックチャート、ファネルチャート、ピボットテーブル、ストレートテーブル、およびメッコチャートです。



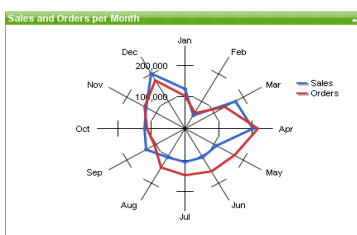
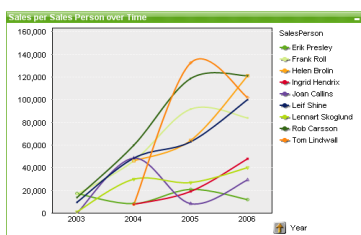
棒グラフ

円グラフ



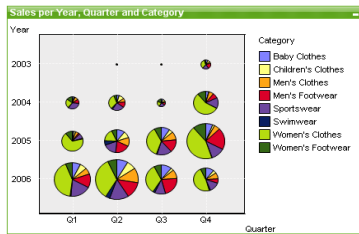
コンボチャート

散布図



折れ線グラフ

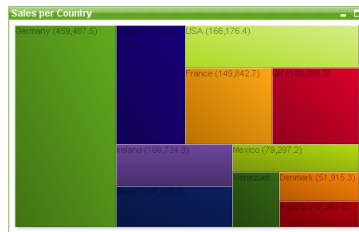
レーダーチャート



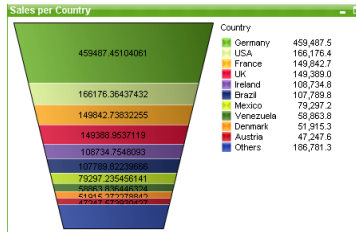
グリッドチャート



ゲージチャート



ブロックチャート



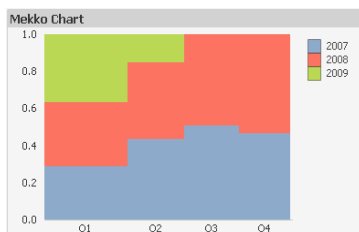
ファネルチャート

CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
Men's Clothes	Altes Lussekofta	\$30,126.55	1057
	Bow tie	\$9,534.57	1315
	Desperado Jeans	\$18,240.68	706
	Lenin_jeansshorts	\$14,930.64	828
	M2_Trousers	\$17,944.48	1067
	O-Man Underwear	\$1,849.87	298
	Rossi Bermuda Shorts	\$10,947.25	1397
	Samba Soccer Socks	\$4,941.14	1175
	US-Master Jeans	\$21,764.94	817
Total	\$130,050.12	8668	
Women's Clothes	Charlell Shirt	\$7,504.70	388
	Halter Dress	\$389,096.85	981
	Jack Flash Dress	\$42,638.00	722
	Langoste Shirt	\$4,433.35	246
	Lie Baby Dress	\$42,571.88	523
	Mirreki Päls	\$10,472.71	184
	Oklaba Skin Jackets	\$42,258.78	601
	Oyali Kimono	\$9,084.42	806

ピボットテーブル

CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
		\$1,665,626.31	51952
Men's Clothes	Altes Lussekofta	\$30,126.55	1057
Men's Clothes	Bow tie	\$9,534.57	1315
Men's Clothes	Desperado Jeans	\$18,240.68	706
Men's Clothes	Lenin_jeansshorts	\$14,930.64	828
Men's Clothes	M2_Trousers	\$17,944.48	1067
Men's Clothes	O-Man Underwear	\$1,849.87	298
Men's Clothes	Rossi Bermuda Shorts	\$10,947.25	1397
Men's Clothes	Samba Soccer Socks	\$4,941.14	1175
Men's Clothes	US-Master Jeans	\$21,764.94	817
Women's Clothes	Charlell Shirt	\$7,504.70	388
Women's Clothes	Halter Dress	\$389,096.85	981
Women's Clothes	Jack Flash Dress	\$42,638.00	722
Women's Clothes	Langoste Shirt	\$4,433.35	246
Women's Clothes	Lie Baby Dress	\$42,571.88	523
Women's Clothes	Mirreki Päls	\$10,472.71	184
Women's Clothes	Oklaba Skin Jackets	\$42,258.78	601
Women's Clothes	Oyali Kimono	\$9,084.42	806

ストレートテーブル

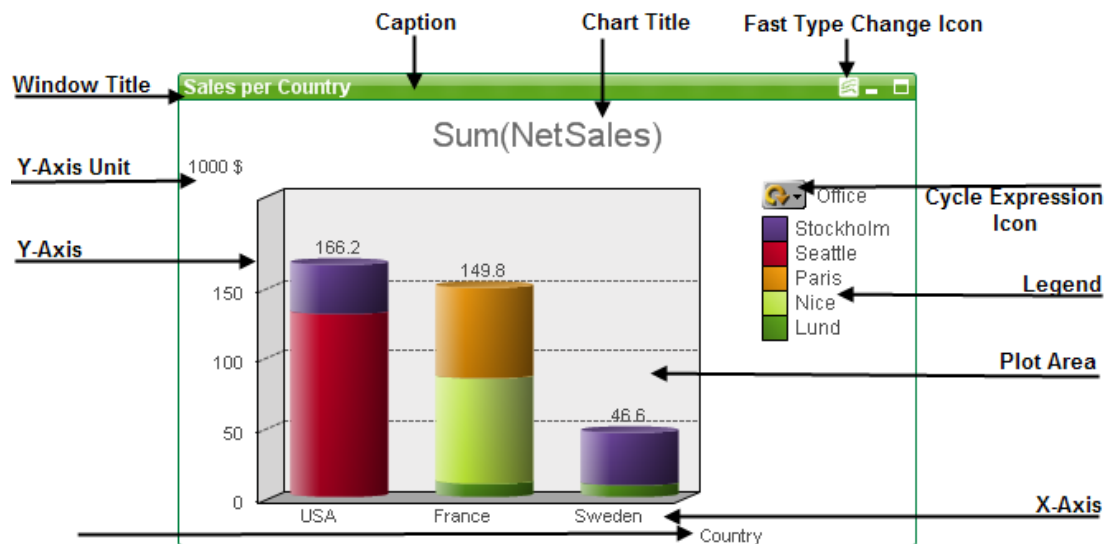


メッコチャート

QlikView チャートは、主要な 2 つのカテゴリに分類できます。1 つ目のグラフチャートは、棒、折れ線、コンボ、円、散布図、レーダー、グリッド、ブロック、メッコおよびゲージチャートで構成されます。2 つ目のカテゴリのテーブルチャートは、ストレートテーブルとピボットテーブルで構成されます。これらのチャートの種類は、列と行のセルを含むテーブルとして描画されます。テーブルボックスは、多くの点でテーブルチャートに似ていますが、チャートではなく、シートオブジェクトの別の種類であることに注意してください。

グラフチャート

以下の棒グラフには、QlikView グラフチャートの一般的なコンポーネントのいくつかを示します。



多くの場合、さまざまなコンポーネントの位置は、ユーザーが変更できます。詳細については、チャートコンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

テーブルチャート

Account Group	Account Description	Cash Flow Drill	Forecast (as is)	Budget	Variance	Forecast (Simulation)	Budget
6520	Postage	Cash Flow aus B...	46.552	35.370	-32%	46.552	35.370
6540	Promotion and entertain...	Cash Flow aus B...	197.817	77.522	-155%	197.817	77.522
6560	Rent, office	Cash Flow aus B...	149.109	375.707	60%	149.109	375.707
6580	Repairs and maintenance	Cash Flow aus B...	44.299	26.229	-69%	44.299	26.229
6600	Shipping supplies	Cash Flow aus B...	81.024	51.793	-56%	81.024	51.793
6620	Shop supplies	Cash Flow aus B...	51.986	24.110	-116%	51.986	24.110
6640	Subcontract costs	Cash Flow aus B...	22.280	16.895	-32%	22.280	16.895
6660	Traveling expenses	Cash Flow aus B...	84.115	54.996	-53%	84.115	54.996
6680	Telephone, telex, fax	Cash Flow aus B...	112.998	96.362	-17%	112.998	96.362
6700	Utilities	Cash Flow aus B...	57.442	37.086	-55%	57.442	37.086
6720	Wages & benefits, direct	Cash Flow aus B...	280.136	839.682	67%	280.136	839.682
6740	Wages & benefits, indirect	Cash Flow aus B...	51.659	123.326	58%	51.659	123.326
6760	Wages casual, direct	Cash Flow aus B...	40.848	115.299	65%	40.848	115.299
	Total		2,051,337	3,031,724	32%	2,051,337	3,031,724
Cost of Sales			1,285,848	1,405,568	9%	1,285,848	1,405,568
Other Inco...			-2,001,455	522,694	483%	-2,001,455	522,694
Provision f...			14,789	42,048	65%	14,789	42,048
Revenue			-3,374,727	-4,035,386	16%	-3,374,727	-4,035,386
Total			-2,024,208	866,648	309%	-2,024,208	866,648

上のピボットテーブルには、QlikView テーブルチャートの一般的なコンポーネントのいくつかを示します。

49.1 チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **チャートの追加** ボタンをクリックする、シートの領域を右クリックし、シートの **オブジェクト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択する、または、**レイアウト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル(オプション)を設定します。[次へ] ボタンをクリックすると 2 番目のページが表示されます。十分な情報が入力されると、[次へ] もしくは [完了] ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして **プロパティ** を選択する、もしくは (キャプションの部分をクリックして) アクティブにして **オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択して、修正することができます。

49.2 チャートとテーブル内での選択

チャートやテーブルでの選択の手順は、できる限り直感的に行えるように設計されています。多くの場合、チャートのプロットエリアで個々の値(棒など)をクリックしたり、大きな範囲をペイントしたりして、直接選択できることがわかります。

チャートで直接選択を行えない場合は、チャートが **分離** モード、もしくは **読み取り専用** モードに設定されている可能性があります (チャートプロパティ: 基本設定 (738 ページ) を参照)。

棒グラフ、折れ線グラフ、コンボ チャート、レーダー チャート、グリッド チャート、および散布図での選択

プロットエリア内で 1 つのデータ点をクリックするか、複数のデータ点をペイントすると選択できます。ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例内 (凡例が軸の値でなくチャートの数式を示している場合を除く) をクリックするかペイントすると選択できます。

軸とそのラベル (散布図を除く) をクリックするかペイントすると選択できます。対応する項目値が選択されます。

数式の軸とそのラベルをペイントすると選択できます。指定された結果領域でデータ点を生成する項目値が選択されます。

注意!

複数軸を表示する **折れ線グラフ** と **棒グラフ** (**コンボ チャート** ではありません) で直接行われた選択は、最初に 1 つの軸に適用されます。折れ線グラフの選択は、最初に第 2 軸に適用されますので、ある線をペイントすると x 軸のすべての軸値で線全体が選択されます。棒グラフでは逆に、最初に第 1 軸に選択が適用されます。

円グラフでの選択

プロットエリア内で 1 つのスライスをクリックするか、複数のスライスをペイントすると選択できます。ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。

チャートの凡例をクリックするかペイントすると選択できます。

ブロック チャートでの選択

プロットエリア内で 1 つのブロックをクリックするか、複数のブロックをペイントすると選択できます。クリックすると選択はドリルダウン機能で行われますので、最初のクリックは、第 1 軸の 1 つの値を選択します。2 度目 (選択内) のクリックは、第 2 軸の 1 つの値を選択します。

ペイント中は、選択範囲がマウス ボタンを放すまで緑色に表示されます。選択したデータ点の計算に使用される軸の値が選択されます。第 1 軸のいくつかの値の範囲を超えてペイントすると、選択によってペイントされたものだけでなく、これらの値に属している第 2 軸と第 3 軸のすべての値が選択されます。

ゲージ チャートでの選択

ゲージ チャートでは選択できません。

ストレート テーブルでの選択

1 つのセルをクリックするか、複数のセルをペイントすると軸の列内で選択できます。選択した領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

ピボット テーブルでの選択

1 つのセルをクリックすると、軸の列/行内で選択できます。選択したセルは、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

1 つのセル内をクリックすると、数式の列/行内で選択できます。選択した数式のセルの計算に使用される軸の値が選択されます。

テーブル ボックスでの選択

任意のセルをクリックするか、1 行以上かつ 1 列以上で構成される領域をペイントすると選択できます。選択した領域は、マウス ボタンを放すまで緑色で表示されます。

49.3 チャートの種類のクイック切り替え

[**チャート プロパティ : 基本設定**] ページで [**クイック切替**] オプションを選択すると、ユーザーは [**チャート プロパティ**] ダイアログを介さずにチャートの種類を変更できます。

次に使用可能なチャートの種類 (クイック切り替えのために選択した [**表示する種類**]) を示すアイコンがチャートに表示されます。アイコンを左クリックすると、指定した種類にチャートが変更されます。アイコンを右クリックすると、選択したすべての種類を含むドロップダウン メニューが表示されます。

アプリケーションのデザイナーは、クイック切り替えアイコンの [**アイコンの表示位置の指定**] を選択できます。 [**キャプション**] を選択すると、キャプションが表示されている場合は、アイコンがチャートのキャプションに表示されます。 [**チャート**] を選択すると、チャートがピボットテーブルやストレートテーブルでない場合は、アイコンがチャート内に表示されます。表示位置の指定が有効でない場合、QlikView は他のオプションを使用しようとします。キャプションを含まないテーブルチャートでは、アイコンは表示されません。



49.4 チャート コンポーネントのサイズ変更と移動

個々のチャート コンポーネントの多くを必要に応じてサイズ変更または移動できます。

チャートがアクティブなときに Shift キーと Ctrl キーを押し続けると、チャートレイアウトの編集モードに切り替わります。編集モードでは、赤色の細い枠線の四角形がチャートのコンポーネントの周囲に表示され、サイズの変更や移動を行うことができます。マウスをドラッグアンドドロップして、コンポーネントを任意に移動します。

次のコンポーネントを編集できます。

チャートのタイトルと**チャートの凡例**は、移動とサイズ変更の両方を行うことができます。それらは、チャートの上下左右の枠線にドッキングしたり、チャート内の任意の場所にフロート配置することもできます。

自由に移動できるチャートのテキストは、チャート内の任意の場所に配置できます。輪郭の長方形は長いテキストや複数行のテキストに合わせてサイズを変更できます。

チャートの軸とその**ラベル**で占められる領域は、サイズ変更できます。

数式のサイクリックアイコンと**チャートのクイック切り替えアイコン**は、チャート内の任意の場所にフロート配置できます。

プロットエリア自体は編集モードでサイズ変更したり、移動することができませんが、ドッキングした凡例およびタイトルと軸の間の残りのスペースに描画されます。

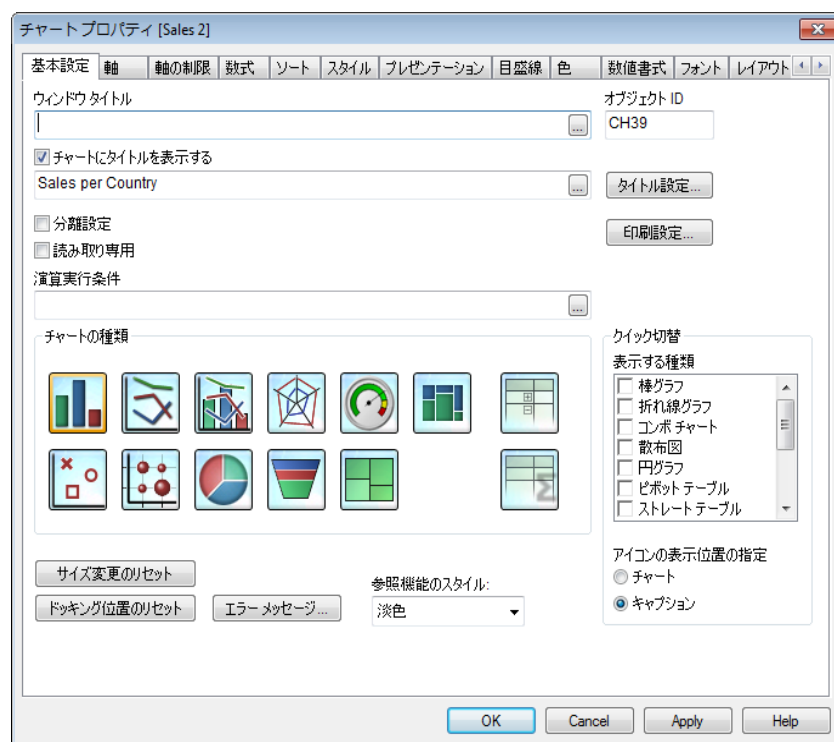
49.5 チャートプロパティ

ツールバーの**[チャートの追加]** ボタンをクリックすると、**[チャートプロパティ]** ダイアログが開きます。ここでは、チャートの種類、軸、タイトルなどチャートのプロパティを設定できます。

チャートを作成すると、いつでもそのプロパティを変更できます。**[チャートプロパティ]** ダイアログを開くには、チャートの**[オブジェクト]** メニューから**[プロパティ]** を選択します。プロパティコマンドが淡色表示されている場合は、プロパティの変更を行うために必要な権限がありません (シートプロパティ: セキュリティ (562 ページ) を参照)。

チャートプロパティ ダイアログのさまざまなプロパティ ページにある設定は、最初のページ (**基本設定** ページ) で選択したチャートの種類によって異なります。**[チャートプロパティ]** ダイアログのさまざまなページ (以下で説明する **[基本設定]** ページを除く) については、それぞれのチャートの章を参照してください。

49.6 チャートプロパティ: 基本設定



チャートプロパティ：基本設定

基本設定 ページでは、タイトルやチャートの種類と言った属性を変更できます。これは、**クイックチャートウィザード** または **チャートプロパティ** ダイアログの最初のページです。

ウィンドウタイトル ウィンドウヘッダーに表示されるタイトル。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

チャートにタイトルを表示する デフォルトでは、定義する最初の数式のラベルがチャートタイトルとして設定されます。チャートタイトルを表示しない場合は、チェックボックスをオフにします。元のタイトルを表示するには、チェックボックスをオンにするだけです。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。ピボットテーブルやストレートテーブルでは、チャートタイトルは表示されません。

タイトル設定 **タイトル設定** ボタンをクリックして、チャートタイトルに詳細設定を定義します。

印刷設定 **印刷設定** ボタンをクリックすると **印刷設定** ダイアログが開き、余白やヘッダー/フッターを定義できます。**印刷設定** ダイアログは、印刷：レイアウト (112 ページ) と 印刷：ヘッダー/フッター (114 ページ) の 2 ページで構成されます。

並列ステート	<p>ドロップダウンの選択肢の中から種類をひとつ選択します。次の並列ステートはいつでも使用できます。</p> <p>継承済み</p> <p>シートとシート オブジェクトは、QlikView 開発者が無効にしない限り、常に継承済みステートにあります。この設定はひとつ上のレベルにあるオブジェクトから継承され、これを選択するとシート内のチャートにはシートと同様の設定が適用されます。</p> <p>初期ステート</p> <p>QlikView で最も使用されるステートで \$ で表現されます。QlikView ドキュメントは常に初期ステートにあります。</p>
オブジェクト ID	<p>オブジェクト ID は 内部マクロ インタープリタ (1077 ページ) で使用されます。各シート オブジェクトには一意の ID が適用され、チャートには CH01 から割り当てられます。リンク オブジェクトは、同じオブジェクト ID を共有します。この ID 番号は後で編集することが可能です。</p>
分離設定	<p>有効にするとチャートは分離されます。これにより、選択されても動的に更新されなくなります。</p>
読み取り専用	<p>有効にするとチャートは読み取り専用になります。これにより、チャート内でマウスを使用してクリックまたはペイントしても選択できなくなります。</p>
演算実行条件	<p>このテキスト ボックスに数式を入力して、チャートが表示されるために満たす必要がある条件を設定します。条件が満たされない場合は、「演算実行条件が満たされていません」というテキストがチャートに表示されます。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。</p>
チャートの種類	<p>チャートの種類 グループでは、チャートの基本レイアウトを選択します。各チャートの種類に関しては、チャートの種類 (740 ページ) を参照してください。</p>
クイック切替	<p>このグループでは、チャート内のアイコンを有効にして、チャートプロパティ ダイアログを使用せずにチャートの種類を変更できます。</p> <p>表示する種類</p> <p>このリストでは、ドロップダウンに表示するチャートの種類を選択します。クイック切替を有効にするために、2 つ以上の種類を選択する必要があります。</p> <p>アイコンの表示位置の指定</p> <p>グラフィカル チャートでは、クイック切替アイコンをチャート内部とシート オブジェクト キャプション内のいずれかに配置できます。テーブル チャートでは、キャプションが唯一の選択肢です。</p>

サイズ変更のリセット	このボタンを押すと、グラフィカルチャート内の凡例、タイトルなどのサイズ変更がリセットされます。個々の項目のドッキングは、影響を受けません。
ドッキング位置のリセット	このボタンを押すと、グラフィカルチャート内の凡例、タイトルなどのドッキング位置がリセットされます。
エラー メッセージ	カスタムエラー メッセージ (1059 ページ) ダイアログを開きます。
参照機能のスタイル	チャートのコンテキストメニューから 参照設定 オプションを使用したときの参照の背景の描画方法。この設定は、いくつかのチャートでのみ有効に働きます。

チャートの種類

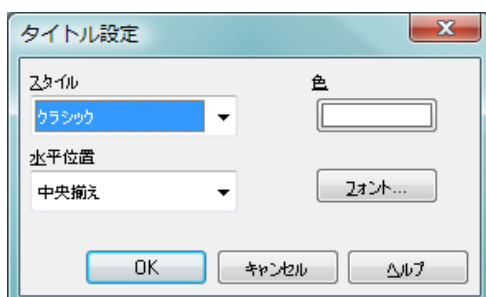
チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。選択できるチャートの種類は、**棒グラフ**、**折れ線グラフ**、**コンボチャート**、**散布図**、**円グラフ**、**レーダーチャート**、**グリッドチャート**、**ブロックチャート**、**ゲージチャート**、**ファネルチャート**、**ピボットテーブル**、および**ストレートテーブル**です。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

チャートの種類の簡単な紹介：

棒グラフ	最も基本的なチャートの種類です。各 x-軸の値は棒に対応し、棒の高さは、Y-軸の数値に対応しています。
折れ線グラフ	折れ線グラフは、本質的には棒グラフと同じ方法で定義されます。棒の代わりに、データを値の点の間を結ぶ線、点だけ、または線と値の点の両方で表示できます (チャートプロパティ：数式 (757 ページ) を参照)。
コンボチャート	コンボチャートを使用すると、棒グラフの機能と折れ線グラフの機能を組み合わせることができます。1つの数式を線またはマーカーで表示しながら、他の数式を棒で表示できます。
レーダーチャート	レーダーチャートは、x-軸がチャートの周りを一周するように配置された一種の折れ線グラフで、結果は、レーダー画面やくもの巣に似ています。
散布図	散布図は、1つ以上の軸で反復する数式の組み合わせを表現するデータ点を描きます。両方の軸は継続的で、それぞれ1つの数式を表しています。
グリッドチャート	グリッドチャートは散布図に似ていますが、軸に軸の値を表し、プロットマーカーを決定する数式を使用します。プロットマーカーとして、第3軸を小さい円グラフ形式で表示することもできます。

- 円グラフ** 1つの項目 (207ページ) (第1軸) と1つの数式の関係を表示します。第2軸を設定すると、変形したチャートの種類が表示されます。1つ以上の数式が **チャートプロパティ: [数式]** ページにある場合、数式リストの1つ目が表示されます。数式を切り替えるには **[数式]** プロパティ ページの **[上へ]/[下へ]** ボタンを使用します。
- ブロックチャート** ブロックチャートは、数式の値と値の関係を大きさが異なる領域ブロックで表示します。1軸から最大3軸まで使用でき、各軸のブロックがサブブロックに細分化されます。ブロックチャートの領域の合計は、常に絞り込まれた数式の値の100%になります。「ヒートチャート」と呼ばれるチャートを作成するのに **カラー関数 (453ページ)** が使用される場合があります。
- ファネルチャート** ファネルチャートは通常、データをフローおよびプロセスで表示するために使用します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフと関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データポイントを無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。
- ゲージチャート** ゲージチャートは、軸のない単一の数式の値を表示するために使用されます。
- メッコチャート** メッコチャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2軸のチャートでは、データを最大3レベルまで表示できます。メッコチャートは、マーケット分析などの領域で有効です。
- ピボットテーブル** ピボットテーブルは、軸と数式をテーブル形式で表示します。可能な軸や数式の数に、正式な制限はありません。ピボットテーブルは、数式を使用せずに、軸レベルを移動するためのツリービューの生成を定義できます。
- ストレートテーブル** ストレートテーブルのピボットテーブルとの違いは、小計を表示できないことと、軸のグループがレコード形式で表示されるためテーブルの各行に項目と数式の値が含まれることです。

タイトル設定

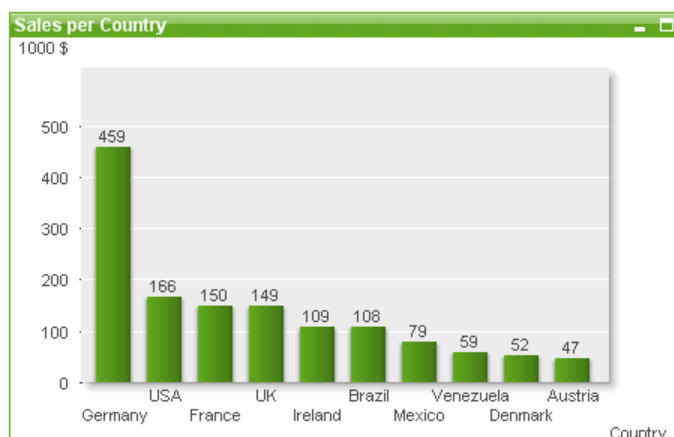


[タイトル設定] ダイアログ

チャートのタイトルのレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

- | | |
|-------------|---|
| スタイル | タイトルの基本的なスタイルを設定します。 |
| 背景色 | タイトルの背景の色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される 色の設定 ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。 |
| 水平位置 | タイトルテキストをプロットエリアに対してどのように配置するかを指定します。 |
| フォント | チャートタイトルのフォントを設定します。ボタンをクリックすると、標準の [フォント] ダイアログが開きます。 |

50 棒グラフ



棒グラフは、最も基本的なチャートの種類です。

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しい棒グラフをすばやく作成することができます。

オブジェクトを右クリックすると、**棒グラフ：オブジェクトメニュー** (743 ページ) が表示されます。棒グラフがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

50.1 チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **チャートの追加** ボタンをクリックする、シートの領域を右クリックし、シートの **オブジェクト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択する、または、**レイアウト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル (オプション) を設定します。**[次へ]** ボタンをクリックすると 2 番目のページが表示されます。十分な情報が入力されると、**[次へ]** もしくは **[完了]** ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして **プロパティ** を選択する、もしくは (キャプションの部分をクリックして) アクティブにして **オブジェクト** メニューの **プロパティ** を選択して、修正することができます。




50.2 棒グラフ:オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフローティングメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ	プロパティ ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
注：	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ：基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドリルダウンやサイクリックグループを含むチャートでは [参照設定] は利用できません。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

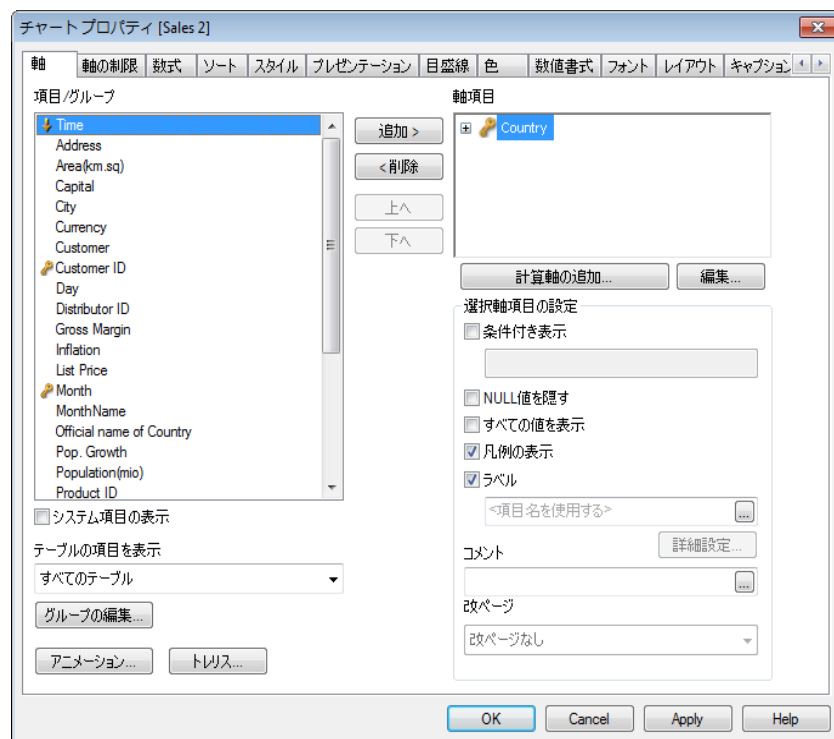
クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザープロパティ：エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikViewの現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンクオブジェクト	<p>リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンクオブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクトIDを付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクトプロパティ ダイアログのキャプション(597ページ)で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクトプロパティ ダイアログのキャプション(597ページ)で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション(表示されている場合)で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートオブジェクトを削除します。</p>

50.3 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ：基本設定(738ページ)を

参照してください。

50.4 チャートプロパティ:軸



チャートプロパティ：軸

[チャートプロパティ：軸] ページは、チャートを右クリックして **[プロパティ]** を選択するか、チャートがアクティブな場合は **[オブジェクト]** メニューから **[プロパティ]** を選択して開きます。

チャートを作成する場合、まず次の2つの事項を確認します。

- 表示する対象は?棒グラフの棒のサイズに対応する対象は?答えは、sum of sales (売り上げの合計) やそれと同類のものであります。これは、**数式** ページで設定します。
- チャートをグループ化する基準は?棒グラフの棒のラベルとして使用する項目値は?答えは、country (国) 別やそれと同類のものであります。これは、**軸** ページで設定します。

1つのチャートは、1つ以上の軸を表示することができます。上限は、チャートタイプ、データの複雑さ、およびメモリ使用量によって異なります。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、最大2つ、棒グラフ、ブロック、およびグリッドチャートは3つの軸を表示できます。レーダーチャートとファネルチャートは軸を1つだけ表示でき、ゲージチャートは軸を表示できません。それ以外の軸は無視されます。

チャート軸は、**チャートプロパティ：軸** ページに指定された項目からその値を取得します。1つの軸は、1つの項目ではなく項目のグループで構成されることもあります(下の「**グループ**」を参照)。

項目、グループ、数式(計算軸)を軸にできます。作成した合成軸も使用できます、合成軸関数(999ページ)を参照してください。

(クリックやCTRL+クリックで) 選択した項目を **[追加>]** や **[<削除]** ボタンを使用する、または選択項目をダブルクリックして移動させます。

チャート軸は数式から計算することもできます。

このプロパティ ページは、軸の定義に使用されます。

項目/グループ

軸として使用できる項目と項目グループのリスト (標準的な棒グラフの x-軸など)。項目グループは、階層グループ (ドリルダウン) (1055 ページ) には垂直矢印が、非階層グループ (サイクリック) (1056 ページ) にはカーブした矢印が前に表示されます。グループは、ドキュメント プロパティ : グループ (533 ページ) ページで定義します。使用/削除する項目をクリックして選択します。[追加 >] ボタンまたは [< 削除] ボタンを使用して、目的の列に移動します。

使用できる軸の数は、チャート プロパティ : 基本設定 (738 ページ) ページで説明しているように、チャートの種類によって異なります。

複数の内部テーブルに存在する項目にはすべて、キー シンボルが付けられます。円グラフ、折れ線グラフ、および散布図は、3 つ以上の軸を表示できません。棒グラフでは、最大 3 つの軸を表示できます。

システム項目の表示

このボックスをオンにすると、システム項目 (459 ページ) が **項目/グループ** に表示されます。

テーブルの項目を表示

ここで、**[項目/グループ]** リストにどの項目とグループを表示するかを制御します。ドロップダウン リストは、デフォルトで **すべてのテーブル** を表示します。

すべてのテーブル (テーブル名表示) は、項目をテーブル名とともに表示します。このため、キー項目は、1 度以上リスト表示されます。(これは表示目的にのみ使用できます。ロード スクリプトの *Qualify* (326 ページ) とは関係ありません。)

一度に 1 つのテーブルの項目を見ることもできます。利用できるグループは常にリストされます。

グループの編集

このボタンは、軸として使用するための項目グループを定義する ドキュメント プロパティ : グループ (533 ページ) ページを直接開きます。

アニメーション

[アニメーション] ダイアログ (751 ページ) を開きます。ここでは、チャートの第 1 軸をアニメーションに使用できます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップ チャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。

トレリス

トレリスの設定 (753 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、第 1 軸を基準としたチャートの配列表示を設定できます。どの種類のビットマップチャートもトレリス表示にできます。

軸項目

このリストには、チャートで軸として使用するために現在選択されている項目が含まれます。使用できる軸の数は、チャートの種類によって異なります。指定した種類に不要な軸は無視されます。軸データセルは、テーブルで使用する場合は、属性式で動的に書式設定できます。軸に属性式を入力すると、アイコンの色が灰色からカラーに変わり、**テキスト書式**の場合は灰色から黒に変わります。これらの設定は、チャートの設定に優先します。プレースホルダまたは軸の属性式を表示するには、軸の前にある「+」展開アイコンをクリックします。

背景色

属性式を入力して、軸項目のセルの背景色を計算するには、**[背景色]**をダブルクリックします。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別なカラー関数 (453 ページ) のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。

テキストの色

属性式を入力して、軸項目のセルのテキスト色を計算するには、**[テキストの色]**をダブルクリックします。使用される数式は、有効な色表現 (Visual Basic で定義された赤、緑、青の色要素を表す数値) を返します。これには、特別な カラー関数 (453 ページ) のいずれかを使用します。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。

テキスト書式

属性式を入力して、各軸項目のテーブルセル内のテキストのフォントスタイルを計算するには、**[テキスト書式]**をダブルクリックします。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す ''、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。

[上へ] と **[下へ]** ボタンで、**[軸項目]** リストの軸をソートできます。

計算軸の追加

新しい軸を追加して編集するための **[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログを開きます。チャート軸は 1 つの項目であることが多いですが、動的に計算することもできます。計算軸は、1 つ以上の項目を含む数式で構成されます。すべての標準の関数を使用できます。集計関数は使用できませんが、ネストされた集計を行うために 高度な集計 (368 ページ) 関数を含めることができます。

編集

[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログで編集するために軸を開きます。計算軸の詳細については、上の **[計算軸の追加]** を参照してください。

選択軸項目の設定

このグループには、個々の軸の設定が表示されます。

有効条件

このチェックボックスを使って軸を動的に表示/非表示にするには、入力した条件式の値に応じて下の編集ボックスの ... ボタンをクリックします。

NULL値を隠す

このチェックボックスをオンにすると、上の **軸項目** で選択した軸項目の値が NULL の場合、チャートにその項目は表示されません。

すべての値を表示

選択条件に関係なくすべての軸項目値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。数式の値は 0 の場合に除外される軸値となるため、**すべての値を表示** を機能させるには **プレゼンテーション** ページの **0 値を隠す** オプションをオフにする必要があります。軸として数式を使用する場合、**[すべての値を表示]** は適用されません。

凡例を表示

[凡例を表示] をオンにすると、X 軸に沿ってフィールド値の名前が表示されます。

ラベル

[ラベル] チェックボックスをオンにすると、項目の名前が表示されます。ラベルは、下のテキストボックスで編集できます。ラベルは、計算ラベル数式として定義することもできます、ラベルのテキストの動的更新については **計算式** (1053 ページ) を参照してください。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) が開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

詳細設定

このボタンは、**項目詳細設定** (620 ページ) ダイアログを開きます。ここでは、項目値の画像表現の設定と特別なテキスト検索オプションを提供します。

コメント

コメントフィールドでは、選択した軸についての説明を入力できます。コメントは、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

改ページ

この設定は、ピボットテーブルやストレートテーブルからの印刷時の改ページの使用にのみ適用します。3つのモードが以下の効果で利用できます。

改ページなし

必要な場合にのみ、各ページの終わりに改ページを挿入します。

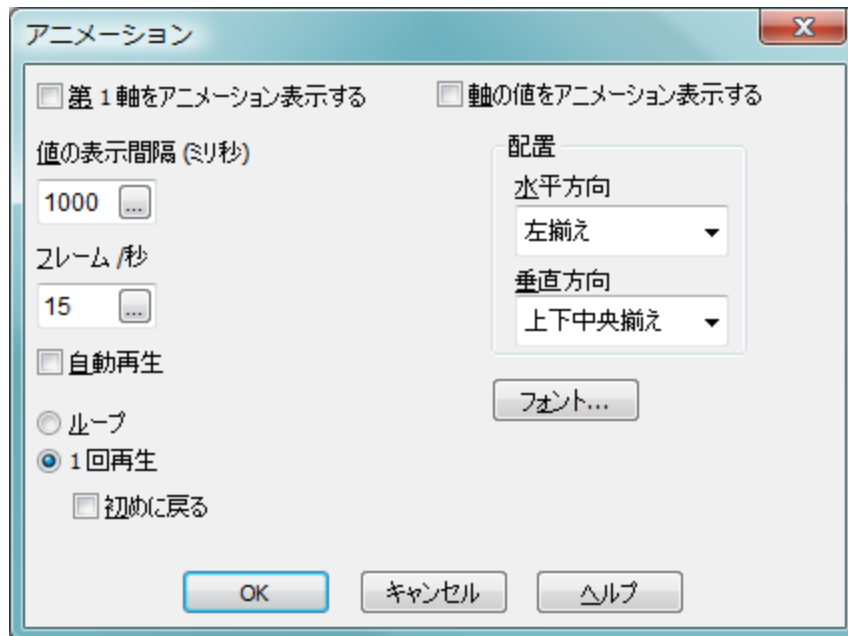
条件付き改ページ

軸の次の値を持つすべての行が現在のページにすべて印刷できる場合以外、改ページを挿入します。

軸の値による改ページ

軸の値が変更する度に改ページを挿入します。

[アニメーション] ダイアログ



Ajax/WebView クライアントの使用中には、チャートのアニメーション表示はサポートされません。

第 1 軸をアニメーション表示する

このチェックボックスをオンにすると、チャートの第 1 軸がチャートのアニメーションに使用されます。アニメーションは、円グラフ以外のビットマップチャートでのみ使用できます。アニメーションを使用する場合は、一部の機能が制限されます。たとえば、アニメーション表示されたチャートでは、ペイントまたはクリックで選択できません。すう勢線は、アニメーション表示されたチャートに描画されません。アニメーション軸に複数の絞込値がある場合にのみ、アニメーションが可能です。

チャートがアニメーション表示されるときには、チャートのプロットエリアの下部に **アニメーションバー** が表示されます。[**アニメーションバー**] には、アニメーションを開始する [**再生**] ボタンがあります。アニメーションが実行されているときは、[**再生**] ボタンは [**一時停止**] ボタンに置き換わります。これらのコントロールを使用して、いつでもアニメーションを開始または停止できます。[**進捗表示バー**] には、アニメーションの進捗が表示されます。マウスで進捗表示バーのハンドルをポイントし、マウスの左ボタンを押しながら任意の位置にドラッグして、手動でアニメーション表示できます。手動アニメーションは、通常、補間フレームをスキップ (以下の [**フレーム / 秒**] 設定を参照) し、アニメーション軸の実際の値の間のみを移動します。キーボードで CTRL キーを押しながらドラッグすると、補間フレームの上をドラッグできます。プログレスバーの上側には、現在のフレームのアニメーション軸の値 (補間フレームの場合は、前の実際のアニメーション軸値) が表示されます。



値の表示間隔 (ミリ秒)

アニメーション軸の各値の表示間隔をミリ秒単位で設定します。この値は、計算式 (1053 ページ) として指定できます。

フレーム / 秒

1 秒あたりのフレームの数を設定します。QlikView は、アニメーション軸の実際の値の間のプロットを補間します。値には、1 ~ 30 の整数を指定する必要があります。この値を 計算式 (1053 ページ) として指定することが可能です。

自動再生

ドキュメントで選択が行われるたびに、アニメーションを自動的に開始させる場合は、このチェックボックスをオンにします。

ループ

アニメーションバー の **一時停止** ボタンで停止されるまでアニメーションを繰り返し再生する場合は、このオプションを選択します。

1 回再生

アニメーションが開始されるたびに、アニメーションの実行を最初から最後まで 1 回だけ行う場合は、このオプションを有効にします。

初めに戻る

アニメーションの終了後に最初のフレームに戻す場合は、このチェックボックスをオンにします。

軸の値をアニメーション表示する このチェックボックスをオンにすると、アニメーション時のデータの値がチャートに表示されます。

配置

表示する値の配置を設定します。

水平方向

値を右、中央、左に揃えます。

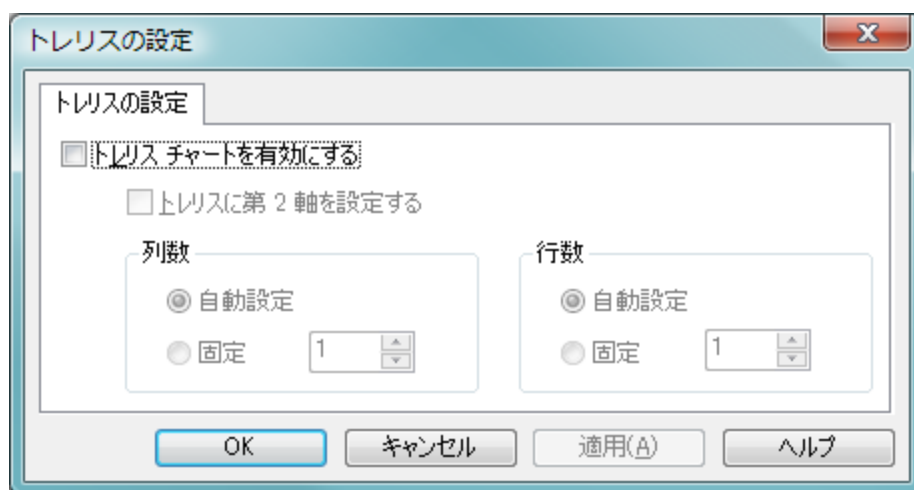
垂直方向

値を上、上下中央、下に揃えます。

フォント

表示する値のフォントとテキストの色を設定します。

トレリスの設定



[トレリスの設定] ダイアログ

トレリス チャートを有効にする 第1軸を基準としたチャートの配列表示を設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。

トレリスに第2軸を設定する トレリスチャートに第2軸を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。第2軸を設定する場合、第1軸の値はトレリス行列の列として表示され、第2軸の値はトレリス行列の行として表示されます。

列数 **自動設定** を選択すると QlikView が自動的に表示列数を設定し、**固定** を選択すると表示列数を指定できます。

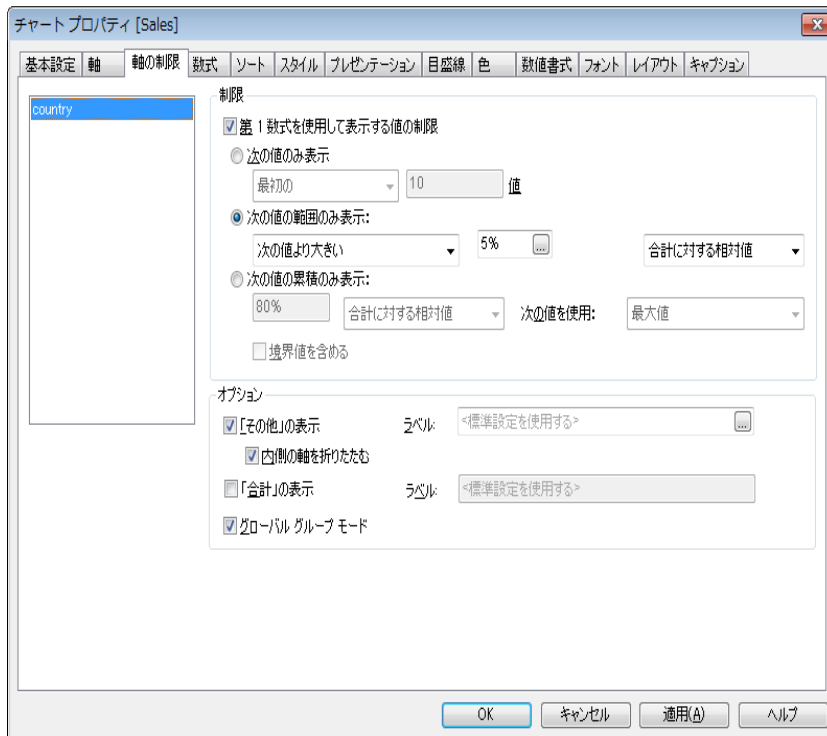
行数 **自動設定** を選択すると QlikView が自動的に表示行数を設定し、**固定** を選択すると表示行数を指定できます。

50.5 チャートプロパティ: 軸の制限

軸の制限はゲージチャートとピボットテーブルを除くあらゆる種類のチャートで設定できます。

[軸の制限] タブではチャートに表示される軸の値の数を管理します。

まずはじめに、これら3つのオプションがドロップダウンの作成時にどのように機能するかについて説明します。ドロップダウンには**[最初]**、**[最大]**、**[最小]**の3つの値があります。計算エンジンはこれらの値に基づいてソートを実行し、チャートエンジンに値を返します。軸の制限を設定する場合、これらのオプションのいずれかを選択する必要があります。ソートは、最優先されるソートが第1軸のソートを上書きする可能性がある場合、ピボットテーブルを除いて最初の数式においてのみ実行されます。



チャートプロパティ：軸の制限

このプロパティ ページは、軸の制限の定義に使用されます。チャートの軸は個別に設定されます。

制限

最初の数式を使った表示値の制限

これらのプロパティは、下で行った設定に応じて、チャートに表示される軸値の数を決定するために使用します。

表示のみ

このオプションは、**[最初]** あるいは **[最大]**、**[最小]** の値をいくつ (x 個) 表示させたいかによって選択します。このオプションを 5 に設定すると、5 つの値が表示されます。軸の **[「その他」の表示]** が有効になっている場合、**[その他]** セグメントには 5 つの値のいずれかひとつが表示されます。

[最初] オプションは、プロパティ ダイアログの **[ソート]** タブで選択したオプションに基づき、行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、列はその時の第 1 ソート順に基づいて返されます。言い換えれば、ユーザーは列ヘッダーをダブルクリックし最優先されるソート列を設定して、値の表示を変更することが可能です。

[最大] オプションは、チャートの最初の数式に基づいて、降順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。

[最小] オプションは、チャートの最初の数式に基づいて、昇順で行を返します。チャートがストレートテーブルの場合は、数式をソートしながらも、表示される軸の値は一貫しています。数式の順序が変更されると、軸の値も変更されます (変更される可能性があります)。

表示する値の数を入力します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

次の値のみ表示

このオプションを選択すると、このオプションで指定した条件に合うすべての軸の値を表示します。合計値のパーセンテージ、または正確な値に基づいて値を表示するのに使用します。**[合計と比較]** オプションは、**[プロパティ]** ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にします。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

次に累積する値のみ表示

このオプションを選択すると、現在の行まですべての行を累積し、その値をオプションで設定した値と比較します。**[合計と比較]** オプションは、**[プロパティ]** ダイアログの **[数式]** タブにある **[相対]** オプションに類似した相対モードを有効にし、累積値 (最初の値または最大値、最小値に基づく) と全体の合計値を比較します。値は、計算式として入力できます。**[...]** ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。**[境界値を含める]** を選択すると、比較値を含有する軸の値が含まれます。

注意！

累積制限の合計を計算する際、負の値は含まれません。負の値を含む可能性がある項目の相対制限は使用しないようお勧めします。

注意！

計算軸に制限を加え、データが同じ計算軸でソートされる場合は、ソート順の適用前に軸の制限が適用されます。

オプション**「その他」の表示**

このオプションを有効にすると、チャートに[その他]セグメントを作成できます。表示を制限する比較基準を満たさない軸の値は、すべて[その他]セグメントにまとめられます。選択した軸の後に軸がある場合は、**[内部軸の折りたたみ]**によりチャートに後続の軸や内部の軸の個別の値を表示するか決定します。

ラベル

チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

「合計」の表示

このオプションを有効にすると、チャートには選択した軸の合計が表示されます。この合計値は[プロパティ] ダイアログの**[数式]** タブで設定されますが、数式の合計とは異なります。

ラベル

チャートに表示する名前を入力します。テキストを入力しない場合は、自動的にラベルが数式のテキストに設定されます。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、**[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

グローバルグループモード

このオプションは内部軸にのみ適用されます。このオプションを有効にすると、制限は選択した軸に基づいてのみ計算されます。前の軸はすべて無視されます。このオプションを無効にすると、制限は前のすべての軸に基づいて計算されます。

軸の合計値と数式の合計値

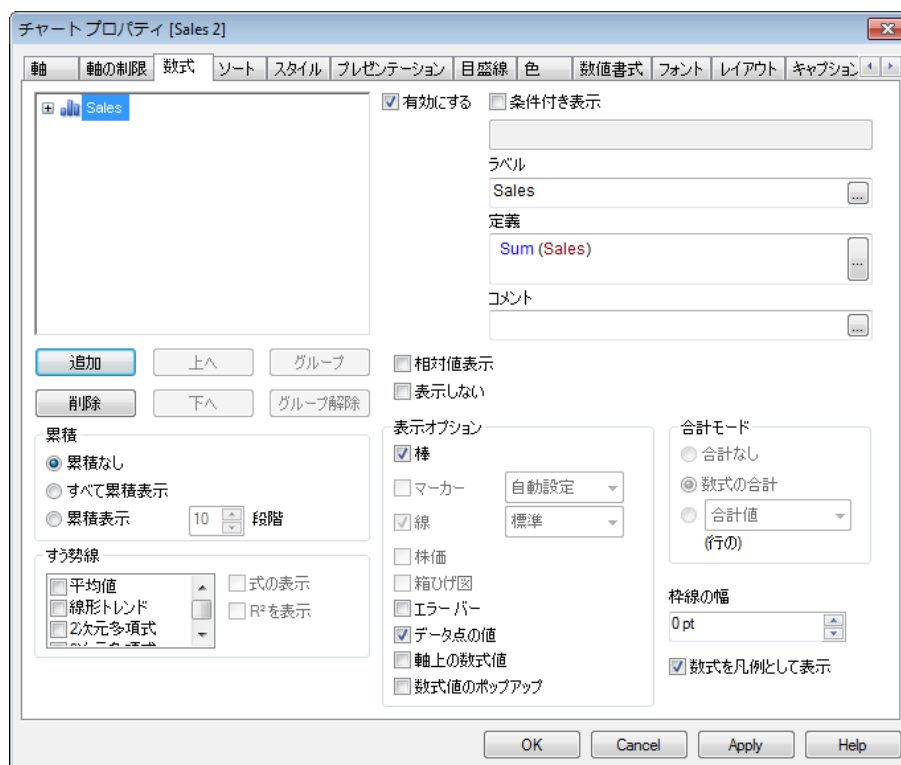
計算エンジンで計算された軸の合計値は、個別の行 (または軸項目値) としてチャートエンジンに返されます。これにより[その他]の行の値も変化します。数式の合計値を使用した場合と軸項目値の合計を使用した場合の相違点は以下のとおりです。

Expression Total			Dimension Total		
Region	Product Family	Sales	Region	Product Family	Sales
		12,250,605	Overall Total		12,250,605
Europe	Women's Clothes	3,138,666	Europe	Total	7,753,390
Europe	Men's Footwear	1,280,513	Europe	Women's Clothes	3,138,666
Europe	Sportswear	1,187,870	Europe	Men's Footwear	1,280,513
Europe	Men's Clothes	582,220	Europe	Sportswear	1,187,870
Europe	Women's Footwear	566,168	Europe	Men's Clothes	582,220
Europe	Baby Clothes	563,183	Europe	Women's Footwear	566,168
Europe	Children's Clothes	315,448	Europe	Baby Clothes	563,183
Europe	Swimwear	119,322	Europe	Children's Clothes	315,448
Europe	Swimwear	119,322	Europe	Swimwear	119,322
North America	Women's Clothes	707,181	North America Total		2,329,970
North America	Sportswear	423,914	North America	Women's Clothes	707,181
North America	Women's Footwear	333,858	North America	Sportswear	423,914
North America	Men's Footwear	307,859	North America	Women's Footwear	333,858
North America	Men's Clothes	217,669	North America	Men's Footwear	307,859
North America	Children's Clothes	153,353	North America	Men's Clothes	217,669
North America	Baby Clothes	142,239	North America	Children's Clothes	153,353
North America	Swimwear	43,896	North America	Baby Clothes	142,239
Scandinavia	Women's Clothes	286,116	North America	Swimwear	43,896
Scandinavia	Sportswear	164,486			

数式の合計値と軸の合計値

軸の合計値を使用すると、ストレートテーブルに小計を表示できます。

50.6 チャートプロパティ: 数式



チャートプロパティ: 数式

チャートプロパティ: 数式 ページは、チャートまたはテーブルを右クリックし、**オブジェクトメニュー**の**プロパティ**を選択して開きます。

チャートを作成する場合、次の2つの事項を確認します。

- 棒グラフの棒の大きさを表すのは何か。これらは、**数式** (売上高の合計 など) です。
- データをどのようにグループ化するのか。これらは、**軸** (国別など) です。

注意！

数式 ページはチャートやテーブルの種類によって異なります。特定のチャートやテーブルでオプションが利用できない場合、それらのオプションはグレー表示されています。

数式リスト

左上のパネルの式リストは、実際は完全なツリー コントロールで多数のコントロール オプションを含みます。

各数式 (または数式グループ) の前には展開アイコン (「+」の付いた箱) が表示されます。展開アイコンをクリックすると、下にある補助数式または属性式が開きます。アイコンは同時に折りたたみアイコン (「-」) に置き換えられます。特定のプロット オプションは、組み合わせてプロット マーカーを定義する 2 つ以上の数式のセットといった サブ数式を使用します (例: 以下に説明する **株価** や **箱ひげ図**)。

数式データは、属性式を使用して動的に書式も設定できます。軸の属性式のプレースホルダを表示するには、数式の前にある展開アイコンをクリックします。有効な属性式の種類を次に示します。

背景色

データ点のプロットの色を計算する属性式を作成するには、デフォルトの **背景色** 数式を編集します。計算された色は、デフォルトの QlikView の色の選択に優先します。そして、有効な色表現でなければなりません。これは、カラー関数 (453 ページ) を使用して行います。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。 **テキストの色** の補助数式は同じ方法を使用して作成できます。

テキストの色

テキストの色 の補助数式は、背景色と同じ方法を使用して作成できます (上記を参照してください)。

テキスト書式

データ点に関連付けられたテキストのフォント スタイルを計算するには、属性式を入力して **テキスト書式** 数式を編集します。(テーブル: 各軸項目のテーブルセル内のテキスト。計算されたテキスト書式は、チャートプロパティ: スタイル (915 ページ) で定義されたテーブルスタイルに優先します。テキスト書式の数式として使用される数式は、太字を表す ''、斜体を表す '<I>'、下線付きテキストを表す '<U>' を含む文字列を返します。文字列の前に = が必要です。注意してください。

分割円

属性式を入力して、データ点に関連付けられたスライスを、抽出された "分割" 位置に描画するかどうかを計算するには、 **分割円** をクリックします。この種類の属性式は、円グラフにのみ有効です。

補正

属性式を入力して、データポイントに関連付けられた棒または棒のセグメ

ントの間隔を適切に計算するには、**補正** をクリックします。補正は正にも負にも設定でき、棒やセグメントに応じて動かされます。これは、ウォーターフォールグラフと呼ばれるチャートの作成時に便利です。この種類の属性式は、棒グラフにのみ有効です。

線のスタイル

属性式を入力して、データ点に関連付けられた線または線分の線のスタイルを計算するには、**線のスタイル** をクリックします。この種類の属性式は、折れ線グラフ、コンボチャート、およびレーダーチャートにのみ有効です。

線の相対的な幅は、**<Wn>** タグを含めることで制御できます。ここで、*n* はチャートのデフォルトの線の幅に適用される倍率です。数値 *n* は、0.5 ~ 8 の実数でなければなりません。例：**<W2.5>**。線のスタイルは、**<Sn>** タグを含めることで制御できます。ここで、*n* は、使用するスタイルを示す 1 ~ 4 の整数 (1 = 実線、2 = 破線、3 = 点線、4 = 破線/点線) です。例：**<S3>**。**<Wn>** および **<Sn>** タグは自由に組み合わせることができ、それぞれ最初に表示されるもののみが有効と見なされます。タグは単一引用符で囲む必要があります。

値の表示

メイン数式で **データ点の値** をオンにしていなくても、属性式を入力して、データ点のプロットを "データ点の値" の値で補足するかどうかを計算するには、**値の表示** をクリックします。メイン数式で **データ点の値** をオンにした場合、属性式は無視されます。この種類の属性式は、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートにのみ有効です。

- 追加** 新しい数式と補助数式は、**追加** ボタンで [数式の編集] ダイアログ (917 ページ) を開き作成します。このオプションは、数式のリスト内で右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでも有効です。
- 削除** **削除** ボタンで、リストから前に作成した数式を削除できます。このオプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでも有効です。
- コピー** **コピー** オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン数式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml としてクリップボードにコピーされます。その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートに貼り付け直すことができます。このコマンドを属性式で使用する場合は、属性式定義だけがコピーされます。属性式はその後、同じチャートまたは別のチャートの任意のメイン数式に貼り付けることができます。

- エクスポート** **エクスポート** オプションは、数式のリスト内で数式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式でこのコマンドを使用すると、その数式に関連付けられたすべてのデータと設定 (ラベルを含む) が xml ファイルにエクスポートされます。その後、この数式を同じチャートや、同じドキュメントまたは別のドキュメントのその他の QlikView チャートにインポートし直すことができます。このコマンドにより、**数式をエクスポート** ダイアログが開きます。ここでは、エクスポートファイルの保存先を選択できます。ファイルには、拡張子 Ex.xml が付きます。
- 貼り付け** **貼り付け** オプションは、数式のリスト内で数式またはサブ/属性式を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。メイン式がクリップボードにコピーされている場合は、数式のリスト内の空白領域にそれを貼り付けて、コピー元と同一の新しい数式を作成できます。属性式がコピーされている場合は、メイン数式にそれを貼り付けることができます。
- インポート** **インポート** オプションは、数式のリスト内で空白領域を右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューでのみ有効です。このコマンドにより、以前にエクスポートされた数式を参照できるダイアログが開きます。インポートされた数式は、新しい数式としてチャートに表示されます。
- 上へ**
下へ 複数の数式が表示される場合、**上へ** と **下へ** ボタンを使用して順番を変更できます。これは、チャートに表示される列などの順番に影響します。
- グループ** **グループ** ボタンは、有効な数式が 2 つ以上ある場合に、数式を併せてサイクルグループにするのに使用できます。QlikView のレイアウトでは、チャートに表示されるサイクルアイコンをクリックすると、グループに属する数式を切り替えることができます。**(サイクルグループ)**。サイクルアイコンを右クリックすると、そのグループに属する有効な数式を直接選択できるポップアップリストが表示されます。
-
- 注意!**
[サイクルグループ] と 非階層グループ (サイクリック) (1056 ページ) は同じではありません!
-
- グループ解除** グループに属する数式を選択し、**グループ解除** ボタンをクリックすると、数式をグループから解除できます。解除後のサイクルグループに数式が 1 つしか残らない場合、その数式も解除されて、サイクルグループは存在しなくなります。
- 有効にする** このチェックボックスをオフにすると、チャートからその数式が省略されるよう設定されます。

相対値表示	このチェックボックスをオンにすると、絶対数ではなくパーセントで結果を表示するようにチャートを設定します。このオプションは、ピボットテーブルでは使用できません。
表示しない	このチェックボックスをオンにすると、この数式に割り当てられたスペースを残しつつ非表示にします。
条件付き表示	このチェックボックスを有効にすると、現在の選択に基づいて条件を定義できます。これによって、数式を表示するかどうかが決まります。条件の評価が TRUE の場合、数式は表示されます。条件の評価が FALSE の場合、数式は表示されません。
ラベル	数式のラベルの前のアイコンは、使用する チャートの種類 (740 ページ) および 数式に設定された 表示オプション を示すために使用されます (以下を参照してください)。
定義	選択された数式の構成内容を表示します。このボックスで数式を直接編集できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な 数式の編集 ダイアログが開きます。
コメント	この項目は、数式の作成者が数式の機能や目的を説明できるコメント項目です。

表示オプション

このグループは、データ点の表示方法やチャートテーブルの数式セルに何を表示するかを修正するために使用されます。一部のオプションは、特定のチャートの種類でのみ有効ですのでご注意ください。また、組み合わせることができないオプションや、複雑なプロットを作成するために1つ以上の数式を追加して使用するオプションなどもあります。

棒

選択された数式の値を棒で表示します。このオプションは、棒グラフおよびコンボチャートでのみ有効です。

マーカー

選択された数式の値をマーカーで表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボチャートでのみ有効です。ドロップダウンメニューにあるいくつかの異なるマーカーから選択します。

線

選択された数式の値を線で表示します。このオプションは、線グラフおよびコンボチャートでのみ有効です。ドロップダウンメニューの[標準]、[なめらか]、または3種の[水平]から選択します。

株価

数式を株価マーカーとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。[数式]リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、4つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。最初のサブ数式は、株価マーカーの高値ポイントをプロットするために使用されます。2つ目のサブ数式は、安値ポイントをプロットするために使用されます。株価マーカーが描画されるには、この2つのサブ数式に有効な定義が含まれている必要があります。3つ目のサブ数式はオプションですが、使用する場合は株価マーカーの終値ポイントのために使用されます。4つ目のサブ数式もオプションですが、使用する場合は株価マーカーの始値ポイントのために使用されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **株価** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**箱ひげ図**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **株価** チェックボックスをオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

箱ひげ図

数式を箱ひげ図 (統計データの表示に使用されることが多い) としてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。数式リスト内の数式は、前にアイコンが置かれ、5つのサブ数式を含む空のプレースホルダとして表示されます。最初のサブ数式は、箱ひげ図の「箱(上)」ポイントをプロットするために使用されます。2つ目のサブ数式は、「箱(下)」ポイントをプロットするために使用されます。箱ひげ図が描画されるには、この2つの数式に有効な定義が含まれている必要があります。3～5つ目のサブ数式は、オプションです。これらの数式は、それぞれ「箱(中)」、「上ひげ」および「下ひげ」を定義します。**箱ひげ図**の拡張部分は、いわゆる極値のアウトライナーです。これらは、個別の数式をマーカーとしてプロットすることで実現できます。メイン数式で **箱ひげ図** をオンにすると、新しい空のサブ数式が自動的に作成されます。数式で **箱ひげ図** チェックボックスをオンにしている場合は、同じ数式で **棒**、**線**、**マーカー**、**株価**、または **エラーバー** チェックボックスをオンにできません。数式でそれらのオプションのいずれかが既にオンになっている場合は、その数式で **箱ひげ図** をオンにできません。このオプションは、コンボチャートでのみ有効です。

エラーバー

メイン式のデータ点の上にプロットされるエラーバーのために補助数式として選択した数式に続いて、1つまたは2つの数式を使用するには、このチェックボックスをオンにします。両方向を選択する場合は、補助数式が1つだけ使用され、データ点の周囲に対称にプロットされます。非対称を選択する場合は、補助数式が2つ使用され、それぞれデータ点の上側と下側にプロットされます。エラーバー数式は、正の数を返します。エラーバーに使用される補助数式には、数式リストでそれぞれ「両方向」、「正方向」または「負方向」アイコンが前に置かれます。補助数式は、チャートのそれ以外のものには使用できません。選択された数式の後に定義済みの数式がない場合は、新しいダミーの補助数式が自動的に作成されます。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

データ点の値

数式の結果をデータ点の上側にテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、および円グラフでのみ有効です。円グラフで使用する場合は、スライスの横に値が表示されます。

軸上の数式値

数式の結果を各 x- 軸値、軸、および軸ラベルにテキストとしてプロットするには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、棒グ

ラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでのみ有効です。

数式値のポップアップ

レイアウトでチャート内のデータ点にポインタを置いたときに表示されるポップアップバレーンメッセージに数式の結果を表示するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションは、他の表示オプションの使用に関係なく使用できます。このため、数式をチャート自体には表示せず、ポインタを置いたときに表示されるポップアップにのみ表示することができます。

表示オプション

プレゼンテーション

このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。

テキスト

数式値は常にテキストとして解釈および表示されます。

画像

このオプションでは、QlikView は各数式値を画像への参照として解釈しようとしています。参照は、ディスク上の画像ファイルへのパス (たとえば、C:\¥Mypic.jpg) または qvw ドキュメント内の画像ファイルへのパス (たとえば、qmem://<Name>/<Peter>) になります。QlikView が数式を有効な画像参照として解釈できない場合は、**[画像がない場合にテキストを隠す]** チェックボックスがオンでない限り、値自体が表示されます。

円形ゲージ、線形ゲージ、信号機ゲージ、LED ゲージ

いずれかのゲージオプションで、ゲージチャートは画像として使用可能なテーブルセルに表示されます。ゲージのレイアウトは、チャートプロパティ: **プレゼンテーション (ゲージチャート)** (875 ページ) ページで変更できます。**ゲージの設定** ボタンから開きます。

ミニチャート

このオプションでは、数式の値を棒グラフや折れ線グラフで表示します。チャートは使用可能なテーブルセルに内接して表示されます。チャートの視覚的な設定は **ミニチャートの設置** ボタンで **ミニチャートの設定** (584 ページ) ダイアログを開き設定できます。このオプションは、ストレートテーブルでのみ有効です。

注意!

Excel に出力する場合、ミニチャートは表示されません。

リンク

テーブルセルをクリック可能なリンクを作成する数式を、**定義** 項目に入力するにはこのオプションを選択します。数式

は、*DisplayText*<url>*LinkText* と解釈されるテキストを返します。

DisplayText は、テーブルセルに表示されるテキストで、*LinkText*

は、新しいブラウザウィンドウを開くリンクです。リンクが定義されると、

テーブルセルの値に下線が引かれます。リンクが定義されない場合は、

値に下線は引かれませんが、表示モードでは、リンクを表示するセルでの

選択は行えませんのでご注意ください。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開きます。

Examples:

=Name & '<url>' & Link

=Name & '<url>www.qlikview.com'

ここで *Name* と *Link* はロード スクリプトでロードされたテーブル項目です。

画像形式

上記の**画像**オプションが選択されている場合にのみ使用できます。このオプションは、ストレートテーブルとピボットテーブルでのみ有効です。この設定は、画像をセルに合わせるための QlikView の書式設定方法を表します。次の4つの選択肢があります。

縮小/拡大なし

このオプションを選択した場合、画像は、拡大縮小されずにそのままのサイズで表示されます。したがって、画像の一部が表示されない場合や、セルの一部が画像で覆われない場合があります。

塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、画像の縦横比の維持を考慮せずに、セル全体を覆うように拡大されます。

縦横比を固定する

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セルをできるだけ広く覆うように拡大されます。

縦横比を固定して塗りつぶし

このオプションを選択した場合、画像は、縦横比を維持したまま、セル全体(上下/左右とも)を覆うように拡大されます。したがって、通常は、どちらかの方向で画像が切り詰められます。

累積

このグループの設定から選択して、チャートの値を累積するかどうかを決定します。累積チャートでは、各 y 値が後続する x 値の y 値に加算されます。累積棒チャートには、年ごとの売上の合計が表示されます。たとえば、1996 年の値は 1997 年の値に追加されます。チャートに複数の数式が含まれている場合、累積する値のある数式を [数式] リストで選択します。累積は、ピボットテーブルでは使用できません。

累積なし

このオプションを選択すると、選択したチャート式の y 値は累積されません。

すべて累積表示

このオプションを選択すると、各 y 値が数式の前の y 値をすべて累積します。上記の「累積」を参照してください。すべて累積表示は Null 値や 0 値を含む複数軸では機能しません。

累積表示 n 段階

ボックスに数値を入力して、数式の y 値の累積される回数を設定します。上記の「累積」を参照してください。

合計モード

このグループは、ストレートテーブルのチャート オブジェクトにのみ選択した数式に有効です。3 つの設定があります。

合計なし

選択した数式で合計は計算されません。

数式の合計

次のレベルで評価される数式の合計。例えば、数式が社員の月収の平均値を生成する場合、**数式の合計** はすべてのサラリーの全体の平均を生成します。

行の (集計関数)

このオプションを選択すると、選択した数式の各データ点の個々の値 (棒グラフの各棒、ストレートテーブルの各行など) が、ドロップダウンリストから選択した集計関数 (通常は合計) を使用して合計されます。**行の (集計関数)** は、ピボットテーブルでは使用できません。

枠線の幅

棒グラフとコンボチャートで、数式によって表示される棒の周囲の枠線の幅を指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

数式を凡例として表示

複数の数式を使用する場合、数式と対応する色を表示する凡例をチャートの隣に表示できます。

すう勢線

選択した QlikView チャートの数式では、プロットが統計すう勢線で補完されたり、置き換えられます。すう勢線は、散布図、折れ線グラフ、および棒として最大 1 つの軸と 1 つの数式だけを持つ棒グラフとコンボチャートにのみ表示できます。他の種類のチャートでは、**すう勢線**グループの設定は無効で効果がありません。散布図では、データ点が $y=f(x)$ のように扱われます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートでは、**表示オプション**のすべてのオプションをオフにした場合でも、すう勢線を追加できます。これにより、すう勢線は基底のデータ点なしで表示されます。棒グラフ、折れ線グラフ、およびコンボチャートのすう勢線は、フォーキャストまたはバックキャストを指定 (**[目盛線]** ページ) して外挿することができます。外挿線は点線で表示されます。不連続な x- 軸を含むチャートのすう勢線は、マーカー付きの線で表示されます。連続軸では、線のみが表示されます。

平均値

平均は、直線で描画されます。

線形トレンド

直線回帰線が描画されます。

2次元多項式

2次元多項式のすう勢線が描画されます。

3次元多項式

3次元多項式のすう勢線が描画されます。

4次元多項式

4次元多項式のすう勢線が描画されます。

指数関数

指数関数のすう勢線が描画されます。

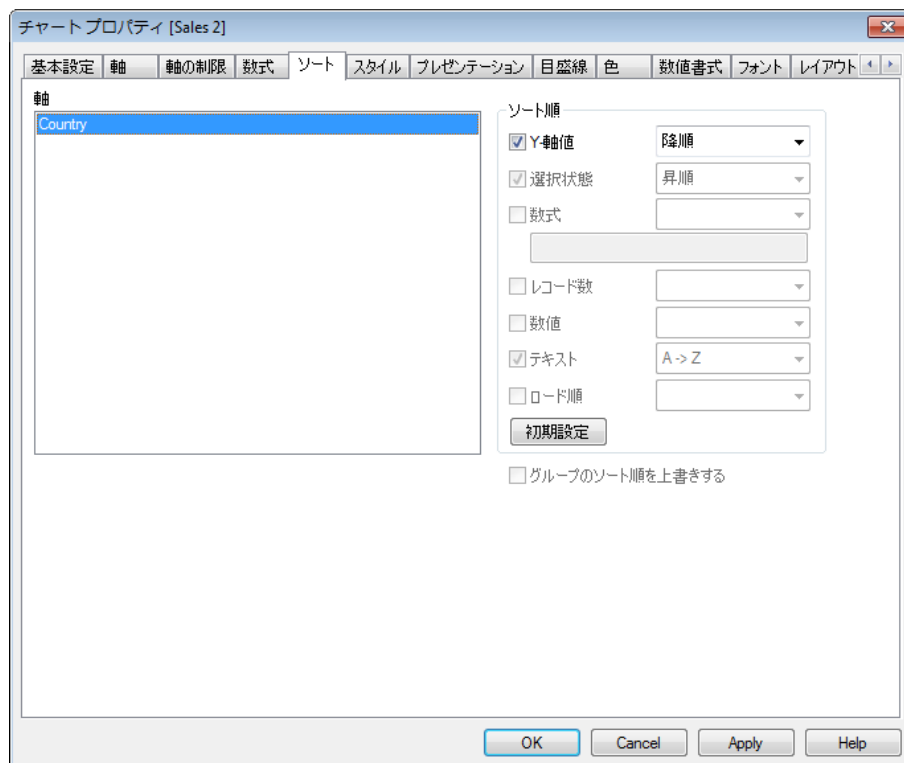
式の表示

特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示されるすう勢線の方程式で補完されます。

R² を表示

特定の数式でこのチェックボックスをオンにすると、その数式のすう勢線はチャートにテキストで表示される決定係数で補完されます。

50.7 チャートプロパティ: ソート



チャートプロパティ : ソート

チャートプロパティ : ソート ページは、チャートを右クリックし、**オブジェクト** メニューの**プロパティ** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

軸 リストにはチャートの軸が含まれます。ソート順を適用するには、軸を強調表示して右側にあるソート順を選択します。

Y-軸値	軸の値は、y-軸の数値でソートされます。このオプションは計算軸には使用できません。
選択状態	軸の値を選択値、連結値、除外値の順にその論理状態に従ってソートします。
数式	軸の値は、このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいてソートされます。
レコード数	軸の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。
数値	軸の値をその数値でソートします。
テキスト	軸の値をそのアルファベット順でソートします。
ロード順	軸の値をその最初のロード順でソートします。

グループ内での優先順位は上から下になり、矛盾するソート順が選択されると、最初に出くわしたものが優先されます。選択したソート順は、**昇順**と**降順**または**A -> Z**と**Z -> A**を切替えて反転できます。

初期設定 ボタンをクリックすると、軸の値は ドキュメント プロパティ : ソート (538 ページ) ページで定義された初期値に設定されます。

グループのソート順を上書きする チェックボックスは、**軸** リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループ プロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループ レベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

50.8 チャート プロパティ: スタイル

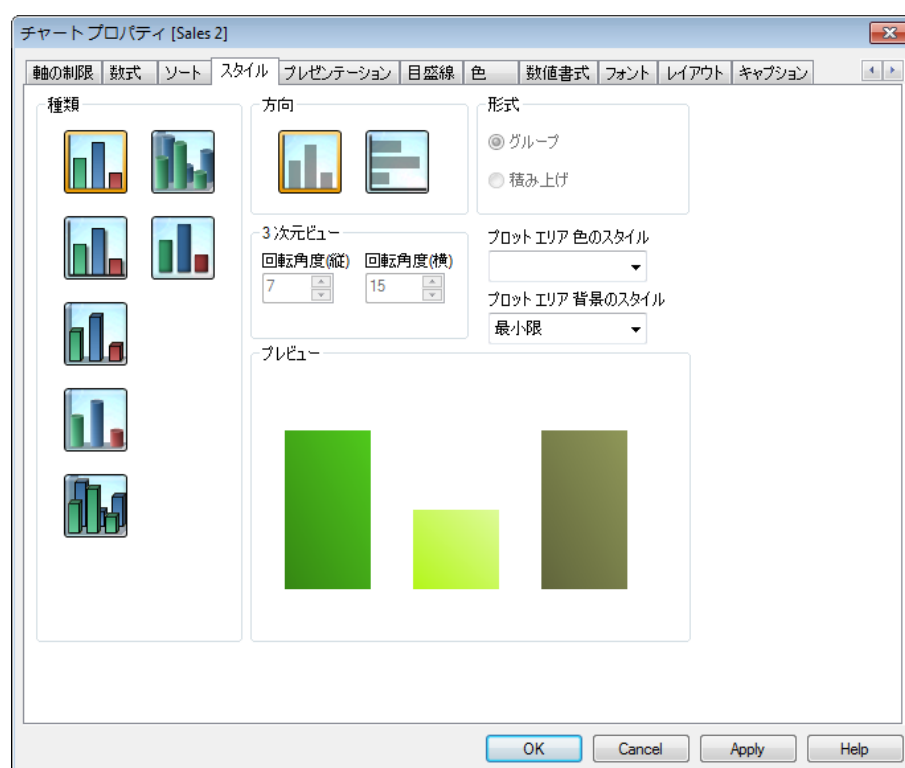


チャート プロパティ : スタイル

このページでは、チャートの基本的なスタイルを選択します。リストとされた機能はすべて、すべてのチャートの種類で有効です。

種類 有効なスタイルの1つを選択します。これは、いくつかの場合には、チャートの外観だけではなくその機能性にも影響するかもしれません。

方向 チャートの方向を水平または垂直に設定します。

形式

このグループでは、棒のモードを **グループ** または **積み上げ** (レーダーチャートでは **オーバーレイ** または **積み上げ**) に設定できます。この設定はチャートが2つの軸を表示する、もしくは1つの軸と2つ以上の数式を表示する場合にのみ機能します。積み上げ棒グラフの負の値は、個別に x- 軸の下側で下方向に積み上げられます。

複数の軸と数式をもつ棒グラフの表示には、次の原則が適用されます。

- X-軸に表示できるのは最大2軸です。
- 第3軸は、要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- テーブルチャートのみ3つ以上の軸を表示することができます。
- 2つ以上の数式が有効な場合、最初の2つの軸が X-軸として表示され、数式は要素を塗り分けた積み上げ棒として表示されます。
- 2つ以上の数式が有効で、サブグループが積み上げに設定されている場合、1つの積み上げ内にあるすべての数式は、1つの軸に応じて計算されます (デフォルトでは左)。これは、左の軸に応じて1つの数式を計算し、別の数式を右の軸に応じて計算するように設定する場合にもあてはまりません。

軸	数式	形式
1	1	単一の棒
1	2つ以上	数式はグループもしくは積み上げ
2	1	軸はグループもしくは積み上げ
2	2つ以上	軸はグループ
3	1	第1、第2軸はグループ、第3軸は積み上げ
3	2つ以上	第1、第2軸はグループ、数式は積み上げ
4	1	第1、第2軸はグループ、第3軸は積み上げ
4	2つ以上	第1、第2軸はグループ、数式は積み上げ

3次元ビュー

このグループの設定では、チャートを3次元モードで表示する角度を定義します。

回転角度(縦)

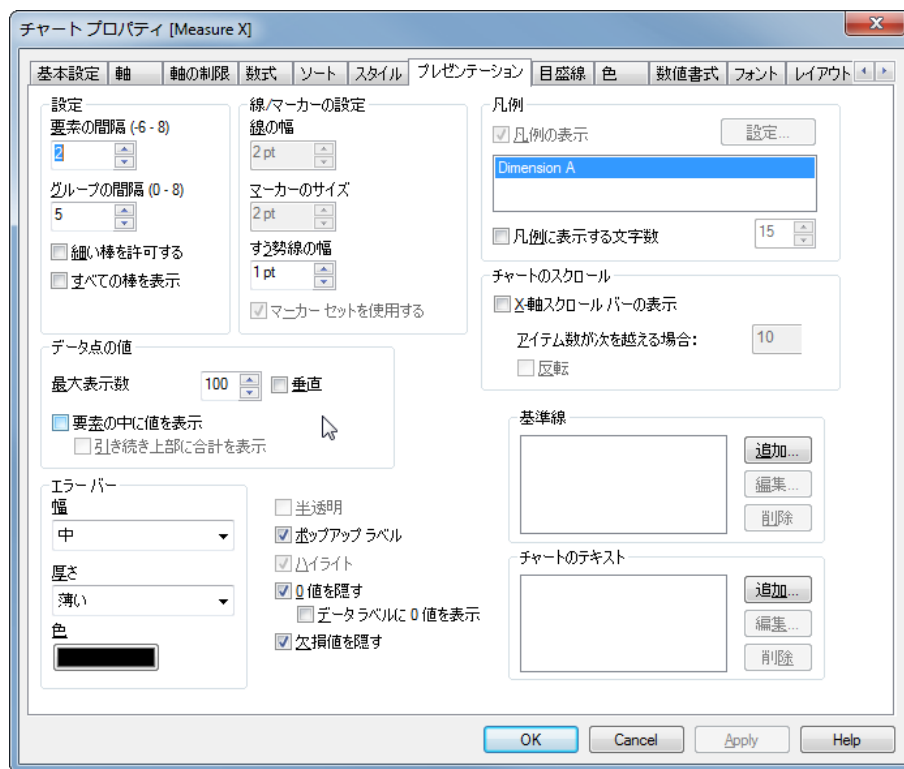
3次元ビューの縦の角度を定義します。値は0～30の整数です。

回転角度(横)

3次元ビューの横の角度を定義します。値は0～45の整数です。

プロット エリア 色のスタイル	<p>このコントロールは、チャートのすべてのプロットの色に色のスタイルを適用する場合に使用できます。ドロップダウン リストでスタイルを選択すると、[色] ページの [カラー マップ] のすべての色が選択したスタイルに変更されます。スタイルは即座に変更されますが、設定自体は、ダイアログのこのページを次に表示するまで保存されません。カラー マップの実際の基本色は、影響を受けません。[プロット エリア 色のスタイル] 設定は、すべてのチャートの種類で有用な訳ではありません。次のオプションを使用できます。</p> <p>単色 カラー マップのすべての色を単色に設定します。</p> <p>暗いグラデーション カラー マップのすべての色を黒へ移行する 1 色のグラデーションに設定します。</p> <p>明るいグラデーション カラー マップのすべての色を暗い色調へ移行する 1 色のグラデーションに設定します。</p> <p>光沢 すべての棒を光沢ある色調に設定します。</p>
プロット エリア 背景のスタイル	<p>このコントロールは、プロットエリアの背景の表示を変更するのに使用できます。この設定は、プロットエリアのあるチャートでのみ使用できます。次のオプションが使用できます。</p> <p>フレーム フレームがプロットエリアの周囲に描かれます。</p> <p>影付き このオプションは、プロットエリアの背景に影の効果を追加します。</p> <p>最小限 このオプションは、プロットエリアの背景を削除します。</p>
プレビュー	<p>チャートの基本的な視覚プロパティのプレビューを提供します。</p>

50.9 チャートプロパティ:プレゼンテーション(棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)



チャートプロパティ:プレゼンテーション

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、メッコチャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボチャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

- 棒の間隔 (-6 - 8)** クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。
- グループの間隔 (0 - 8)** クラスター化された棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。
- 細い棒を許可する** 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。

すべての棒を表示 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータ ポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

データ点の値 グループでは、in チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

最大表示数 このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。

垂直 値を縦に表示します。

要素の中に値を表示 このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。

引き続き上部に合計を表示 このチェックボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラー バーの表示オプションを決定します。

幅 エラー バーの幅を指定します。

厚さ エラー バーの厚さを指定します。

色 エラー バーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線の幅 線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

マーカーのサイズ マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

すう勢線の幅 ここでは、すう勢線の幅を決定します。

マーカー セットを使用する このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

半透明 線を半透明に表示する場合は、このオプションをオンにします。

ポップアップ ラベル マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。

ハイライト このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。

0 値を隠す このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。

データラベルに0値を表示

このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェックボックスがオンで、チャートプロパティ: 数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** でチャート式の **データポイントの値** がオンの場合は、0 値がデータ点の上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、0 値が隠されます。

欠損値を隠す このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

凡例グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の表示 チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。設定ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。

凡例に表示する文字数 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

X- 軸スクロールバーの有効化 X- 軸の場所にスクロールコントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロールバーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。

反転 このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

追加 チャートに新しい基準線を作成するための **基準線 (778 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

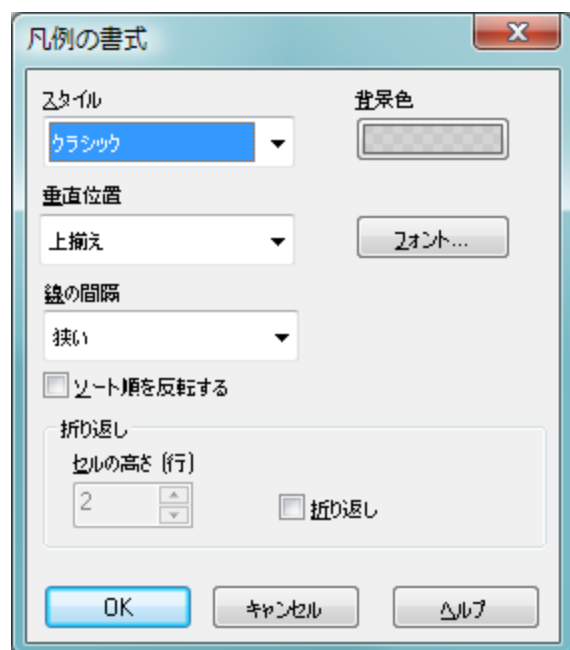
追加 新しいチャートテキストを作成するための チャートテキスト (780 ページ) ダイアログを開きます。

編集 チャートテキスト (780 ページ) ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャート コンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

凡例の書式



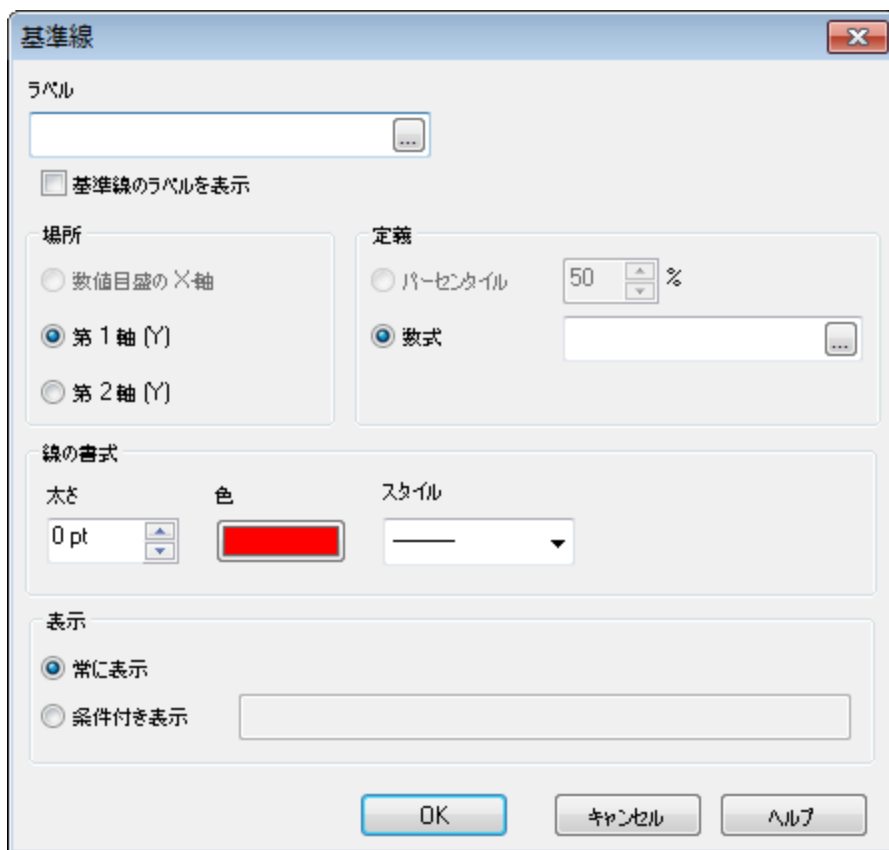
[凡例の書式] ダイアログ

チャートの凡例のレイアウトは、このダイアログのさまざまな設定でコントロールできます。

スタイル 凡例の基本的なスタイルを設定します。複数のスタイルから選択します。

背景色	凡例の背景の色を設定します。色は、ボタンをクリックすると表示される色の設定 (515 ページ) ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。
垂直位置	凡例に必要な垂直方向の領域がプロットエリアより狭い場合、凡例をプロットエリアに対してどのように配置するかを指定します。
フォント	フォント (592 ページ) ダイアログが開き、凡例のフォントを指定できます。
線の間隔	凡例内の項目の間の距離を指定します。
ソート順を反転する	凡例のソート順を反転します。
折り返し	凡例の項目の折り返しオプションを設定します。 折り返し 凡例の項目のテキストを 2 行以上に折り返します。 セルの高さ (行) 折り返し チェックボックスがオンの場合、この設定で各項目に何行使用するかを指定します。

基準線

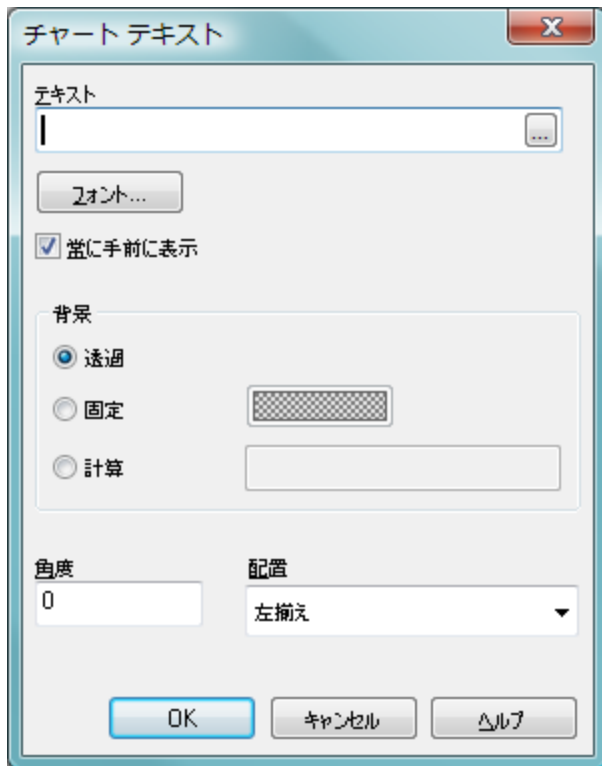


棒グラフの [基準線] ダイアログ

ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロットエリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャートデータのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

ラベル	基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。
基準線のラベルを表示	基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。
パス	<p>基準線の始点の軸を設定します。</p> <p>数値目盛の X- 軸 基準線を x- 軸から開始します。このオプションは、チャートに数値目盛の X- 軸が含まれている場合にのみ有効です (チャートプロパティ: 目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ) を参照)。</p> <p>第 1 軸 (Y) 基準線を第 1 軸 (y) (左/下) から開始します。</p> <p>第 2 軸 (Y) 基準線を第 2 軸 (y) (右/上) から開始します。</p>
定義	基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャートデータの固定 パーセンタイル (編集ボックスに 1 と 100 の間の数値を入力) または任意の数値の 数式 を指定できます。
線の書式	<p>基準線のレイアウトを定義します。</p> <p>太さ 基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。</p> <p>色 基準線の色を設定します。</p> <p>スタイル 実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。</p>
表示	<p>基準線を表示する条件を指定します。</p> <p>常に表示 基準線は常に表示されます。</p> <p>条件付き表示 基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が true を返す場合にのみ表示されます。</p>

チャートテキスト



[チャートテキスト]ダイアログ

テキスト

チャートに表示するテキストを入力します。入力されるテキストは、動的に更新される 計算式 (1053 ページ) として定義することもできます。[...] ボタンをクリックすると、完全な **数式の編集** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集したり、複数行のテキストを入力したりできます。

フォント

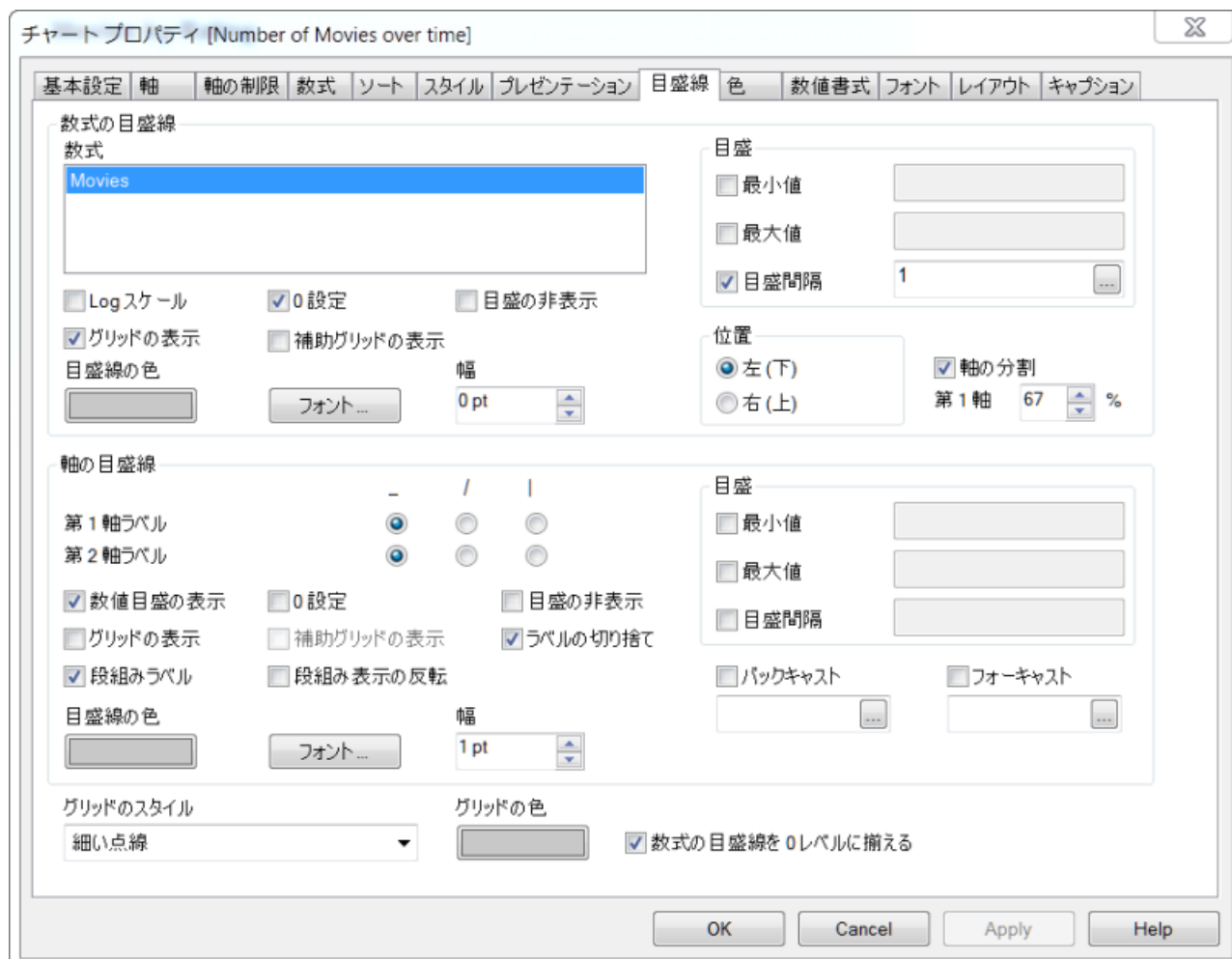
フォント (592 ページ) ダイアログが開き、テキストのフォントを指定できます。

常に手前に表示

チャートの描画時に、テキストを前面に表示します。

背景	<p>テキストの背景を定義します。</p> <p>透過</p> <p>この設定では、テキストのみが表示されます。テキストに覆われたシートオブジェクトも完全に見えます。</p> <p>固定</p> <p>この設定では、ラジオ ボタンの右にある 色 ボタンをクリックして背景色を設定します。</p> <p>計算</p> <p>背景色は数式から動的に計算することもできます。数式は有効な色表現でなければなりません。カラー関数 (453 ページ) を使用して作成します。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。数式の結果が有効な色表現でない場合は、プログラムはデフォルトで黒を使用します。</p>
角度	<p>テキストの角度を指定します。0 ~ 360 度に指定でき、初期値は 0 です。</p>
配置	<p>テキストの水平方向の配置をその背景内で設定します。</p>

50.10 チャートプロパティ: 目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコ チャート)



チャートプロパティ：目盛線

このダイアログは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャートの **チャートプロパティ** ダイアログから開きます。

このダイアログでは、チャートの軸や Y-軸として表現される数式が目盛線を設定できます。Y-軸の目盛は 1 つ、もしくは 2 つ定義できます。x 軸が数値を表示する場合、**[数値目盛表示]** を設定できます (以下を参照してください)。

ダイアログの内容：

数式が目盛線

数式

ここに表示される利用可能な数式は、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ダイアログで定義されます。

y-軸の **目盛線の色** と **幅** は、目盛りの数値 **フォント** と同様に、適応するオプションをクリックして個々に設定します。

Log スケール	Log スケールは、チャートのすべてのデータ点が正の数 (>0) である場合に使用できます。
0 設定	x 軸は、 $y = 0$ に交差します。このオプションは、Log スケールが使用されている場合は使用できません。
目盛の非表示	選択した数式の目盛を非表示にします。
ラベルの切り捨て	バーの上部に文字列をすべて表示できない場合、文字列は切り捨てられます。この設定はデフォルトでオンになっています。
グリッドの表示 / 補助 グリッドの表示	y 軸の目盛マークは、水平 (y 軸 位置 が 左 もしくは 右 に設定されます) と垂直 (y 軸 位置 が 上 もしくは 下 に設定されます) グリッド線の表示に使用されます。
目盛	<p>最小値</p> <p>y 軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックス内の y 軸の最小値を固定値として設定できます。</p> <p>最大値</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、y 軸の最大値を固定値として設定できます。</p> <p>目盛間隔</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、y 軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。</p>
目盛 グループで入力する値は、計算式 (1053 ページ) として指定できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。	
位置	2 つの数式が利用可能な場合、それらに異なる位置を設定し、1 つを 左(下) に、その他を 右(上) に表示できます。この場合、y 軸は数式のために異なる目盛りを表示します。
軸の分割	y 軸を 2 カ所に分けることにより、x 軸を共有する 2 つのチャートがあるように見えます。 第 1 軸 n (%) は、軸の主要部分に使用される軸の長さのパーセントを定義します。

軸の目盛線

第 1 軸ラベル	第 1 軸のラベル表示を、水平、傾斜、垂直に設定します。
第 2 軸ラベル	第 2 軸のラベル表示を、水平、傾斜、垂直に設定します。
数値目盛の表示	(順序正しい) 連続数値の目盛り軸。
0 設定	y 軸は、 $x = 0$ に交差します。
目盛の非表示	x 軸は表示されません。
グリッドの表示	x 軸の目盛マークがグリッド線に拡張されます。グリッド線は、 [グリッドスタイル] と [グリッド色] 設定を使用して書式設定できます (ページの最後を参照)。
補助グリッドの表示	補助グリッドを有効にします。
段組みラベル	x-軸のすべての値を表示するのに十分なスペースがない場合、ラベルを段組みにします。このオプションがオフの場合、表示されるラベル数は少なくなる可能性があります。この設定は水平表示時のラベルでのみ有効です。通常、x-軸ラベルは左から右に段組みにされます。 [段組み表示の反転] チェックボックスをオンにすると、段組みが右から左へと反転します。

x-軸の **目盛線の色** と **幅** は、目盛りの数値 **フォント** と同様に、適応するオプションをクリックして個々に設定します。

目盛

最小値

x-軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスで x 軸の最小値を固定値として設定できます。

最大値

このチェックボックスをオンにすると、x-軸の最大値を固定値として設定できます。

目盛間隔

このチェックボックスをオンにすると、x-軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。

目盛 グループで入力する値は、計算式 (1053 ページ) として指定できます。**[...]** ボタンをクリックすると、完全な **[数式の編集]** ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

- バックキャスト** この機能はすう勢線に作用します。見積もり用のすう勢線をどれだけ後ろに表示したいかをテキストの編集ボックスに入力します。チャートプロパティ：数式 (757 ページ) を参照してください。すう勢線のバックキャスト部分は点線で表示されます。
- フォーキャスト** 予測用のすう勢線をどれだけ表示したいかをテキストの編集ボックスに入力します。チャートプロパティ：数式 (757 ページ) を参照してください。すう勢線のフォーキャスト部分は点線で表示されます。
- グリッドのスタイル** **[グリッドのスタイル]** をオンにし、ドロップダウン リストの有効なグリッドスタイルから選択できます。
- グリッドの色** グリッドの色を選択します。
- 数式の目盛線を 0 レベルに揃える** 2 つの y 軸を表示している場合、この設定はそれらを 0 レベルに同期させるのに使用されます。

50.11 チャート プロパティ: 色

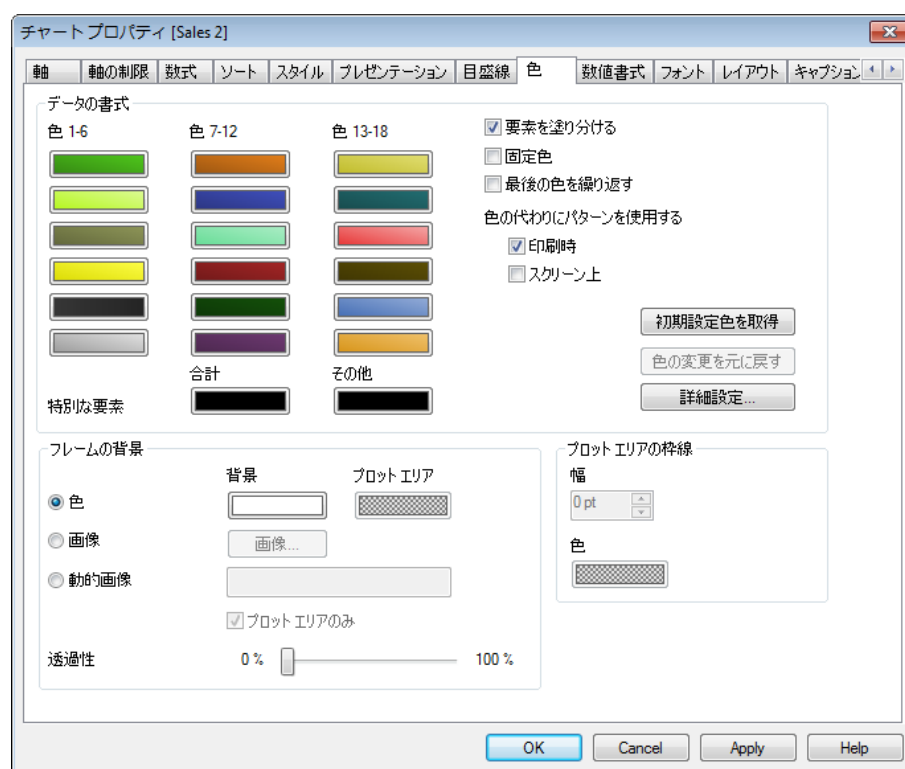


チャート プロパティ : 色

チャート プロパティ : 色 ページは、チャート ウィンドウ を右クリックし、**オブジェクト メニュー の プロパティ** を選択して開きます。

データの書式 グループでは、チャートの軸項目値に 18 の異なる色を配置することができます。

色 1 - 18

色は、単色またはグラデーションとして定義できます。色をカスタマイズするには、ボタンをクリックして **色の設定 (515 ページ)** ダイアログを開きます。

初期設定色を取得 ボタンは、カラー マップを QlikView のデフォルトの設定にリセットします。

色の変更を元に戻す ボタンは、このダイアログを開いたときに適用されていた色の設定に戻します。

詳細設定 ボタンは、**カラー マップ詳細設定 (787 ページ)** ダイアログを開きます。ここでは、カラー マップを設定し、シート、ドキュメント、ユーザー、QlikView の初期設定を取得できます。

要素を塗り分ける

このチェックボックスをオフにすると、すべての要素が同じ色になります。

固定色

このチェックボックスをオンにすると、カラー マップがロックされ、永久に同じ色をそれぞれの値に適用します。

最後の色を繰り返す

このチェックボックスをオンにすると、18 番目の以降の値にはすべてカラー マップ の 18 番目の色が適用されます。オフの場合、1 から 18 の色を順番に繰り返し使用します。

色の代わりにパターンを使用する**印刷時**

チャートは、白黒の塗りつぶしパターンで印刷されます。オフの場合、白黒プリンターがグレー スケールを使用します。

スクリーン上

チャートは塗りつぶしパターンで表示されます。

フレームの背景 グループでは、プロットエリアの背景とプロットエリアの周囲の領域の背景に色を設定します。

色

色付きの背景でチャートがプロットされます。プロットエリアと周囲の領域に異なる色を設定できます。

どちらのボタンもクリックすると **色の設定 (515 ページ)** ダイアログを開きます。

ヒント!背景色 設定は、**画像**や**プロット エリアのみ**と組み合わせることができます。

背景

プロット エリアの周囲の背景またはチャートの場合はチャート全体の背景に使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、白です。

プロット エリア

チャートのプロット エリアに使用される色。色は、ボタンをクリックすると表示される **色の設定** ダイアログで、単色またはグラデーションとして定義できます。デフォルトの色は、ライトグレーです。この設定は、円グラフとファネルチャート、レーダー チャートでは使用できません。

- 画像** 画像を選択して **画像** ボタンをクリックすると **画像の挿入** ダイアログが開き、背景画像をインポートできます。
プロットエリアのみ チェックボックスをオンにすると、インポートした画像がプロットエリアのみに制限されます。
- 動的画像** 計算式を入力し、選択によって動的に変化する画像を背景に表示します。棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、散布図およびグリッドチャートで有効です。
- 透過性** チャートの背景の透過性を設定します。0% を指定すると背景は完全に不透明になり、上の **[背景]** で定義した色になります。100% の場合、背景は完全に透明になります。

プロットエリアの枠線 グループでは、プロットエリアの周囲に描画される四角形の枠線の **幅** と **色** を設定できます。

カラー マップ詳細設定



[カラー マップ詳細設定] ダイアログ

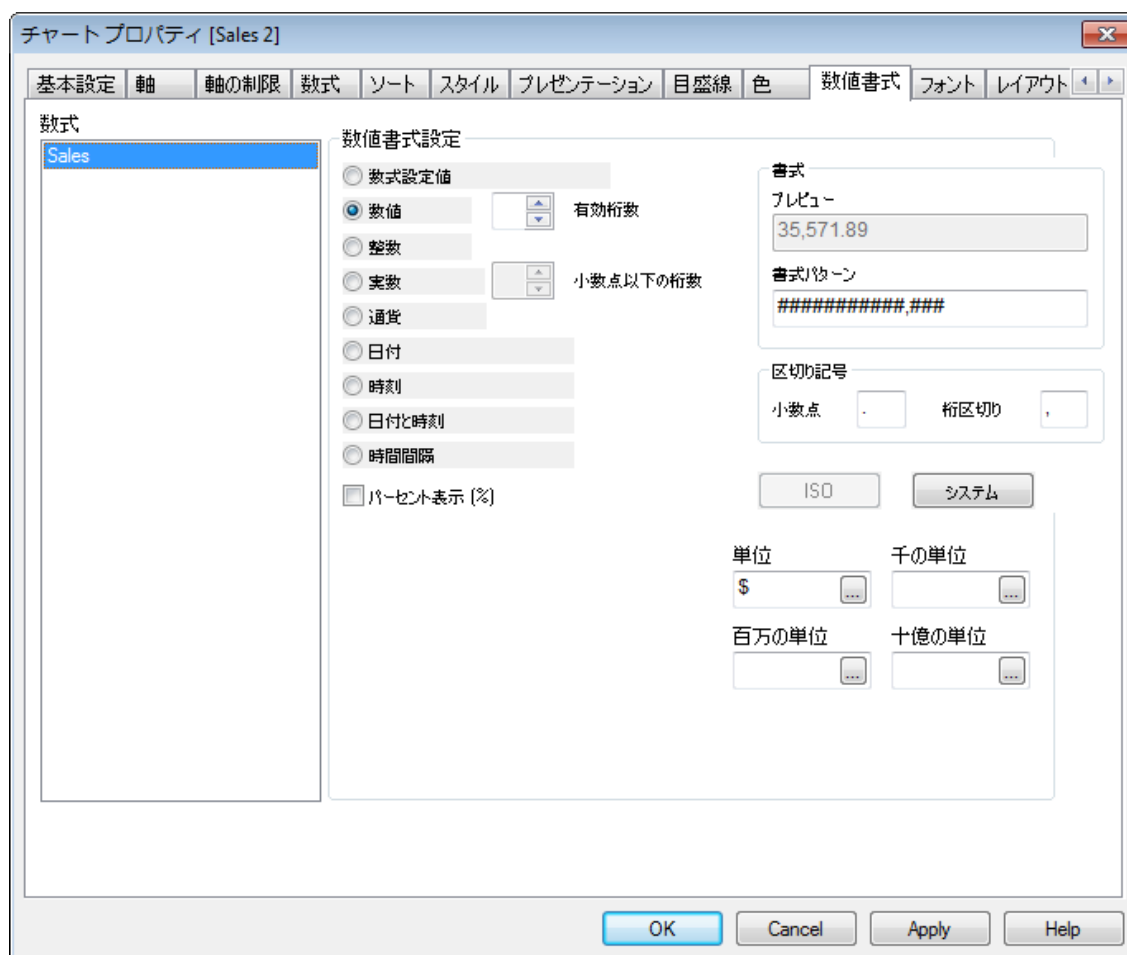
このダイアログでは、いくつか異なるレベルの色の設定を取得、設定、またはクリアできます。

- 現在のカラー マップ** ダイアログを開くと、現在のチャートのカラー マップが表示されます。個々の色をクリックするか、**シートの初期設定**、**ドキュメントの初期設定**、**ユーザーの初期設定**、または **QlikView の初期設定** の **取得** ボタンを押して、カラー マップを変更します。

- シートの初期設定** 現在のシートのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。現在のシートのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはシートのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをシートのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。現在のシートのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはシートのデフォルトがある場合にのみ有効)。

- ドキュメントの初期設定** 現在のドキュメントのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。現在のドキュメントのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはドキュメントのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをドキュメントのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。現在のドキュメントのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはドキュメントのデフォルトがある場合にのみ有効)。
- ユーザーの初期設定** ユーザーのデフォルトのカラー マップを設定、取得、またはクリアします。ユーザーのデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します (このオプションはユーザーのデフォルトがある場合にのみ有効)。現在のカラー マップをユーザーのデフォルトとして適用するには、**[更新]** を押します。ユーザーのデフォルトをクリアするには、**削除** を押します (このオプションはユーザーのデフォルトがある場合にのみ有効)。
- QlikView の初期設定** QlikView のデフォルトのカラー マップを取得するには、**取得** ボタンを押します。このデフォルトは、変更できません。

50.12 チャートプロパティ: 数値書式



チャートプロパティ：数値書式

このページは、アクティブなチャートに適用されます。また、項目値を設定する次のコントロールが含まれます。

- | | |
|--------------|---|
| 初期設定値 | 初期設定値の数値書式を使用して数値を表示します。 |
| 数値 | 有効桁数 ボックスで設定した桁数で数値を表示します。 |
| 整数 | 数値を整数で表示します。 |
| 実数 | 小数点以下の桁数 ボックスで設定した桁数の小数点値で数値を表示します。 |
| 通貨 | プレビュー テキストボックスに表示される書式で数値を表示します。デフォルトの書式は Windows の通貨設定です。 |
| 日付 | 書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。 |

Time (時刻)	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
日付と時刻	書式パターン 編集ボックスに設定される書式で日付 + 時刻として変換した値を表示します。この書式のサンプルは、 プレビュー テキストボックスに表示されます。
時間間隔	シーケンシャルな時間増分で時間を表示します (例 書式 = <i>mm</i> では、値をカレンダーが始まってからの分の数で表示します (1899:12:30:24:00)。

パーセント表示 (%) チェックボックスは、次の書式で機能します：**数値、整数、実数。**

小数点と桁区切り 区切り記号は、**区切り記号** グループの編集ボックスで設定できます。

単位 では、編集ボックスに単位、千の単位、百万の単位、十億の単位を入力できます。

ISO ボタンは、日付、時刻、日付と時刻の書式に標準 ISO を使用します。

システム ボタンは、書式設定をシステム設定に設定します。

50.13 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

50.14 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

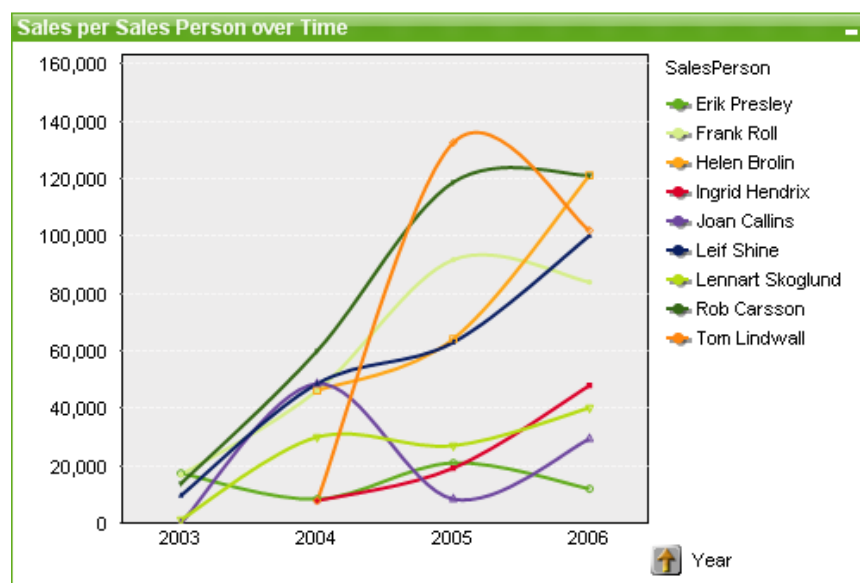
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

50.15 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

51 折れ線グラフ



折れ線グラフの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

折れ線グラフは、値ポイント間の線、値ポイントのみ、または線と値ポイントの両方でデータを表します。折れ線グラフは、変更や傾向を表示する場合に便利です。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しい折れ線グラフをすばやく作成することができます。

折れ線グラフを右クリックすると、**折れ線グラフ：オブジェクトメニュー** (792 ページ) が表示されます。折れ線グラフがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

51.1 チャートの追加

チャートを新規作成するには、ツールバーの **チャートの追加** ボタンをクリックする、シートの領域を右クリックし、シートの **オブジェクト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択する、または、**レイアウト** メニューから **[シート オブジェクトの追加] - [チャート]** を選択します。チャートプロパティのページが順番に開きます。

最初に表示されるページでは、名前とグラフの種類、タイトル(オプション)を設定します。[次へ] ボタンをクリックすると2番目のページが表示されます。十分な情報が入力されると、[次へ] もしくは[完了] ボタンが有効になり、次のページへ順番に進む、もしくは完了させることができます。

一度チャートがシート上に表示されると、右クリックして**プロパティ**を選択する、もしくは(キャプションの部分をクリックして)アクティブにして**オブジェクト**メニューの**プロパティ**を選択して、修正することができます。




51.2 折れ線グラフ:オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト**メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ	プロパティ ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。
注:	現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ: 基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。

複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	<p>PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で印刷ダイアログを開きます。</p> <p>印刷ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。</p>
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

51.3 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を参照してください。

51.4 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャートプロパティ：軸** (747 ページ) と同じです。

51.5 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、**チャートプロパティ：軸の制限** (753 ページ) と同じです。

51.6 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、**チャートプロパティ：数式** (757 ページ) と同じです。

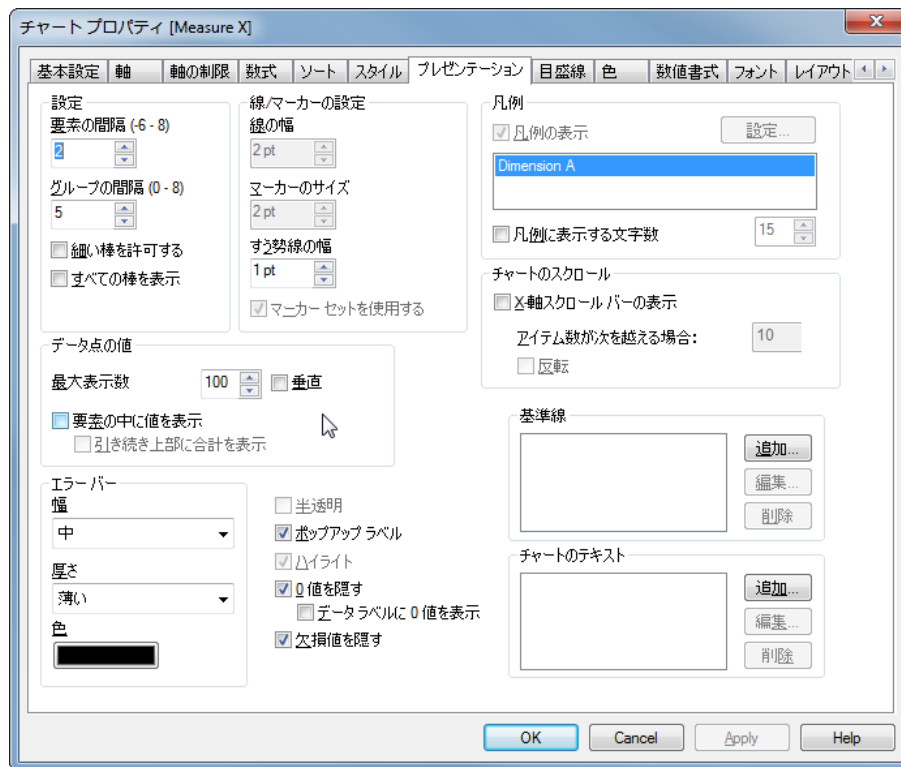
51.7 ソート

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの **ソート** ページと同じです。**チャートプロパティ：ソート** (770 ページ) を参照してください。

51.8 スタイル

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、**チャートプロパティ：スタイル** (771 ページ) と同じです。

51.9 チャートプロパティ:プレゼンテーション(棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)



チャートプロパティ:プレゼンテーション

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、メッコチャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボチャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒の間隔 (-6 - 8) クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。

グループの間隔 (0 - 8) クラスター化された棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。

細い棒を許可する 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。

すべての棒を表示 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

データ点の値 グループでは、in チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

最大表示数 このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。

垂直 値を縦に表示します。

要素の中に値を表示 このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。

引き続き上部に合計を表示 このチェックボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラーバーの表示オプションを決定します。

幅 エラーバーの幅を指定します。

厚さ エラーバーの厚さを指定します。

色 エラーバーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボチャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線の幅 線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

マーカーのサイズ マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

すう勢線の幅 ここでは、すう勢線の幅を決定します。

マーカー セットを使用する このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

半透明 線を半透明に表示する場合は、このオプションをオンにします。

ポップアップ ラベル マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。

- ハイライト** このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
- 0 値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- データラベルに0値を表示**
このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェックボックスがオンで、チャートプロパティ: 数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** でチャート式の **データポイントの値** がオンの場合は、0 値がデータ点の上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、0 値が隠されます。
- 欠損値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- 凡例グループ** では、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。
- 凡例の表示** チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。設定ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
- 凡例に表示する文字数** 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。
- [チャートのスクロール]** グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。
- X- 軸スクロールバーの有効化** X- 軸の場所にスクロールコントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロールバーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
- 反転** このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。
- 基準線** グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。
- 追加** チャートに新しい基準線を作成するための **基準線 (778 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

追加 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャート コンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

51.10 目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

このページは、**チャートプロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ)** と同じです。

51.11 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、**チャートプロパティ：色 (785 ページ)** と同じです。

51.12 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

51.13 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

51.14 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

51.15 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。


52 コンボチャート



コンボチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

コンボチャートを使用すると、棒グラフの機能と折れ線グラフの機能を組み合わせることができます。つまり、1つの数式の値を棒で表示しながら、他の数式の値を線またはマーカーで表示できます。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいコンボチャートを簡単に作成することができます。

コンボチャートを右クリックすると、コンボチャート：オブジェクトメニュー (801 ページ) が表示されます。コンボチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

52.1 コンボチャート：オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ：基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピーオプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザープロパティ：エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンクオブジェクト	<p>リンクオブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンクオブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンクオブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクトプロパティ ダイアログのキャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクトプロパティ ダイアログのキャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシートオブジェクトを削除します。</p>

52.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) を参照してください。

52.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャートプロパティ：軸** (747 ページ) と同じです。

52.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、**チャートプロパティ：軸の制限** (753 ページ) と同じです。

52.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、**チャートプロパティ：数式** (757 ページ) と同じです。

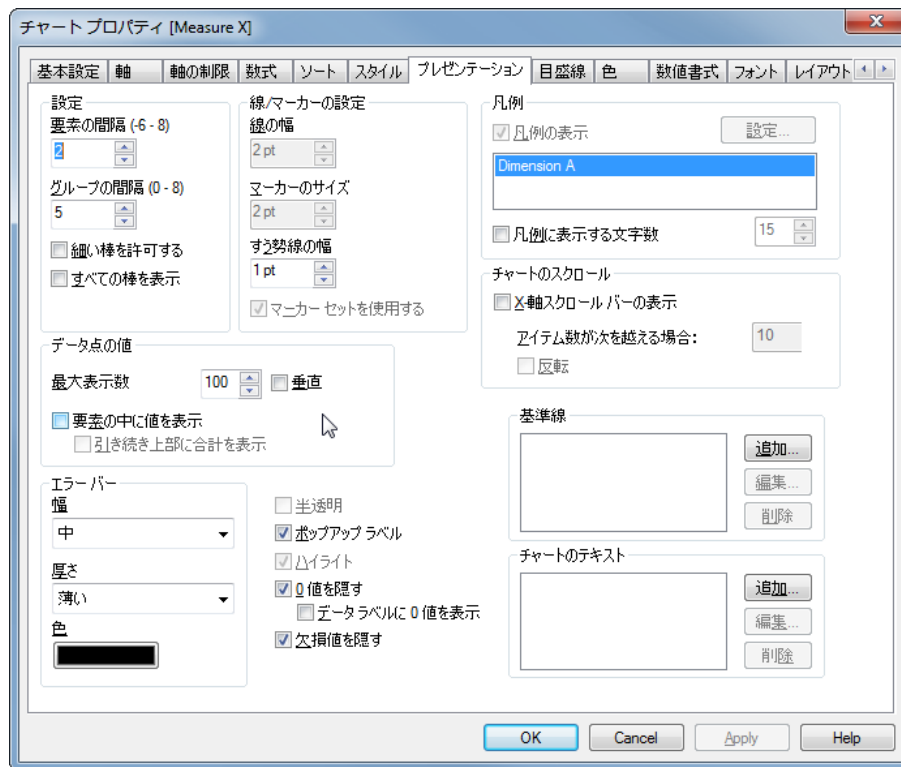
52.6 ソート

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの**ソート** ページと同じです。**チャートプロパティ：ソート** (770 ページ) を参照してください。

52.7 スタイル

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、**チャートプロパティ：スタイル** (771 ページ) と同じです。

52.8 チャートプロパティ:プレゼンテーション(棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)



チャートプロパティ:プレゼンテーション

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、メッコチャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボチャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒の間隔 (-6 - 8) クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。

グループの間隔 (0 - 8) クラスター化された棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。

細い棒を許可する 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。

すべての棒を表示 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

データ点の値 グループでは、in チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

最大表示数 このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。

垂直 値を縦に表示します。

要素の中に値を表示 このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。

引き続き上部に合計を表示 このチェックボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラーバーの表示オプションを決定します。

幅 エラーバーの幅を指定します。

厚さ エラーバーの厚さを指定します。

色 エラーバーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボチャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線の幅 線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

マーカーのサイズ マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

すう勢線の幅 ここでは、すう勢線の幅を決定します。

マーカー セットを使用する このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

半透明 線を半透明に表示する場合は、このオプションをオンにします。

ポップアップ ラベル マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。

- ハイライト** このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
- 0 値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- データラベルに0値を表示**
このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェックボックスがオンで、チャートプロパティ: 数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** でチャート式の **データポイントの値** がオンの場合は、0 値がデータ点の上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、0 値が隠されます。
- 欠損値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- 凡例グループ** では、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。
- 凡例の表示** チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。設定ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
- 凡例に表示する文字数** 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。
- [チャートのスクロール]** グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。
- X- 軸スクロールバーの有効化** X- 軸の場所にスクロールコントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロールバーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
- 反転** このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。
- 基準線** グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。
- 追加** チャートに新しい基準線を作成するための **基準線 (778 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

追加 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャート コンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

52.9 目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

このページは、**チャートプロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ)** と同じです。

52.10 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、**チャートプロパティ：色 (785 ページ)** と同じです。

52.11 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

52.12 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

52.13 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

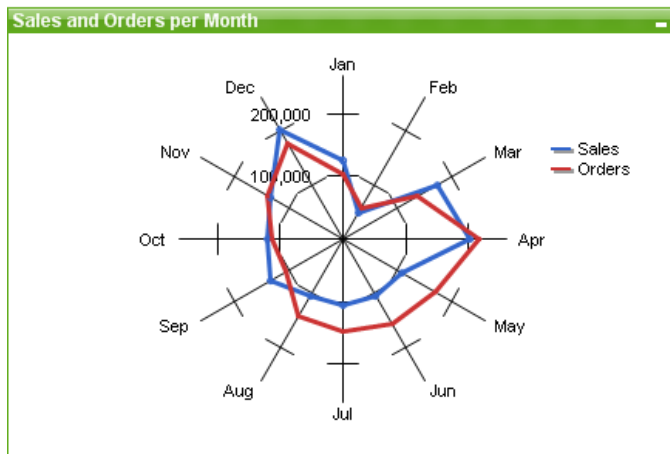
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

52.14 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。


キャプション (597 ページ) を参照してください。

53 レーダーチャート



レーダーチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ: 基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。レーダーチャートは、x-軸が360度を一周するように配置され、x値ごとに1つのy-軸がある折れ線グラフです。結果は、くもの巣やレーダー画面に似ています。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいレーダーチャートを簡単に作成できます。

レーダーチャートを右クリックすると、レーダーチャート: オブジェクトメニュー (811 ページ) が表示されます。レーダーチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

注意!

レーダーチャートでは正値か負値どちらか一方のみを持つデータセットだけが表示できます。データセットが混合値や正値と負値どちらも含む場合はエラーメッセージが表示されます。

53.1 レーダーチャート: オブジェクトメニュー




チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

- 注：** 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、[ノートとコメント \(566 ページ\)](#)を参照してください。
- 分離設定** チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
- 分離解除** 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
- 参照設定** このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**チャートプロパティ：基本設定** ページにある **参照機能のスタイル** 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
- 参照解除** 参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
- 複製** チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

53.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を参照してください。

53.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャートプロパティ：軸** (747 ページ) と同じです。

53.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、**チャートプロパティ：軸の制限** (753 ページ) と同じです。

53.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、**チャートプロパティ：数式** (757 ページ) と同じです。

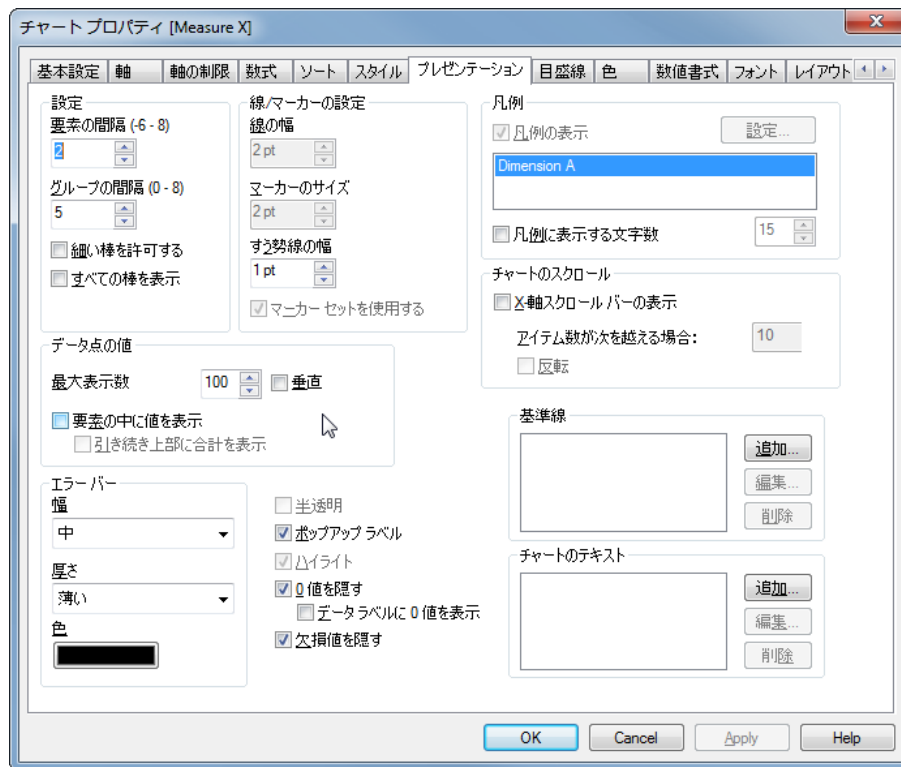
53.6 ソート

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの**ソート** ページと同じです。**チャートプロパティ：ソート** (770 ページ) を参照してください。

53.7 スタイル

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、**チャートプロパティ：スタイル** (771 ページ) と同じです。

53.8 チャートプロパティ:プレゼンテーション(棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)



チャートプロパティ : プレゼンテーション

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、メッコチャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボチャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒の間隔 (-6 - 8) クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。

グループの間隔 (0 - 8) クラスター化された棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。

細い棒を許可する 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。

すべての棒を表示 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

データ点の値 グループでは、in チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

最大表示数 このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。

垂直 値を縦に表示します。

要素の中に値を表示 このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。

引き続き上部に合計を表示 このチェックボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラーバーの表示オプションを決定します。

幅 エラーバーの幅を指定します。

厚さ エラーバーの厚さを指定します。

色 エラーバーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボ チャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線の幅 線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

マーカーのサイズ マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

すう勢線の幅 ここでは、すう勢線の幅を決定します。

マーカー セットを使用する このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

半透明 線を半透明に表示する場合は、このオプションをオンにします。

ポップアップ ラベル マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。

- ハイライト** このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。
- 0 値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
データラベルに0値を表示
このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェックボックスがオンで、チャートプロパティ: 数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** でチャート式の **データポイントの値** がオンの場合は、0 値がデータ点の上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、0 値が隠されます。
- 欠損値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

凡例グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

- 凡例の表示** チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。設定ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
- 凡例に表示する文字数** 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

- X- 軸スクロールバーの有効化** X-軸の場所にスクロールコントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロールバーを使用して、表示された X-軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。
- 反転** このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

- 追加** チャートに新しい基準線を作成するための **基準線 (778 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

追加 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャート コンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

53.9 目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

このページは、**チャートプロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ)** と同じです。

53.10 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、**チャートプロパティ：色 (785 ページ)** と同じです。

53.11 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

53.12 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

53.13 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

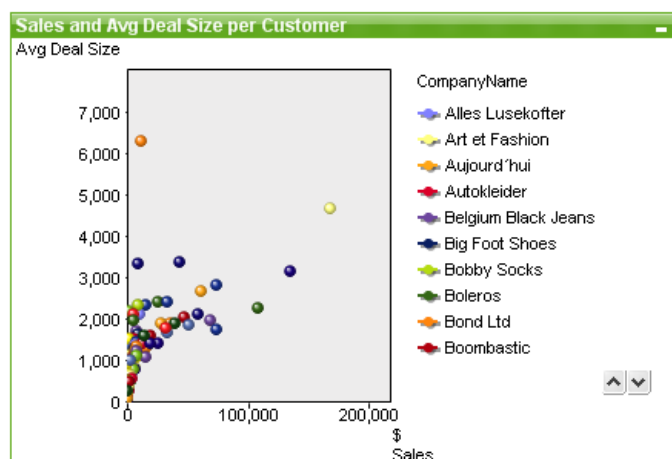
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

53.14 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。


54 散布図



散布図の例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

散布図は、2つの数式の値の組み合わせを表示します。これは、各例に2つの数値がある場合に便利です (国の人口と人口増加など)。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しい散布図を簡単に作成することができます。

散布図を右クリックすると、**散布図：オブジェクトメニュー** (821 ページ) が表示されます。散布図がアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

54.1 散布図：オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ：基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整理する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

54.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を参照してください。

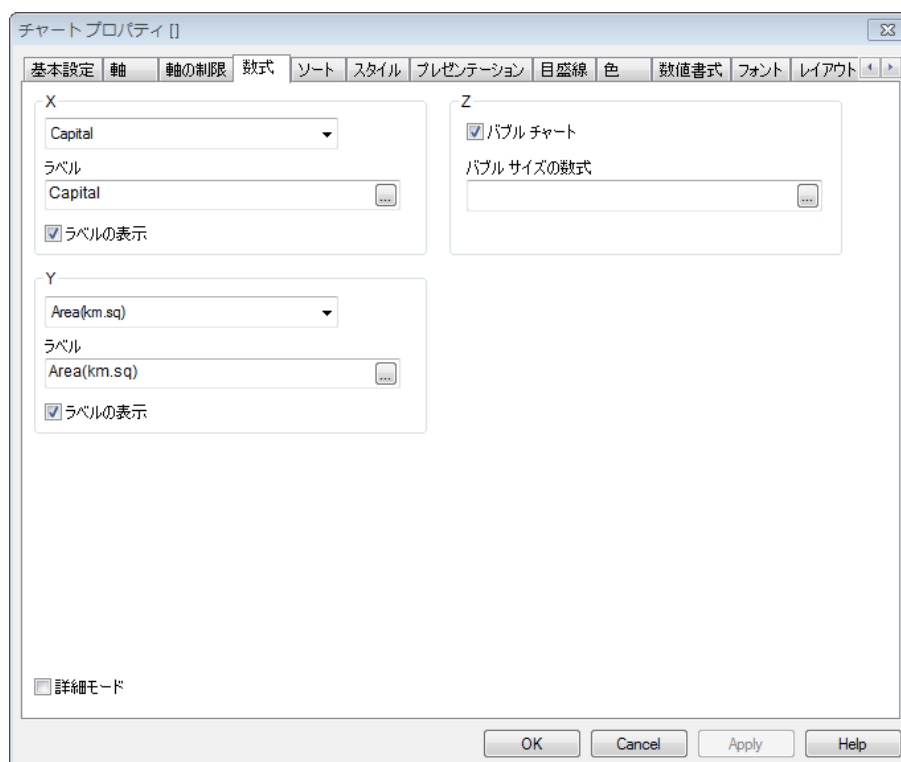
54.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、チャートプロパティ：軸 (747 ページ) と同じです。

54.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、チャートプロパティ：軸の制限 (753 ページ) と同じです。

54.5 チャートプロパティ：数式 (散布図)



チャートプロパティ：数式 (散布図)

チャートプロパティ：[数式] ページは、散布図を右クリックし、[オブジェクト] メニューの [プロパティ] を選択して開きます。これは、簡易モードの [数式] ページで、[詳細モード] チェックボックスがオフの時のみ表示されます。

X グループは、X 軸を決めるために使用されます。同様に、**Y** グループで Y 軸を作成します。この簡易モードの **数式** ダイアログでは、X 軸と Y 軸はすべて **Avg(FieldName)** と定義されます。Avg (平均値) は、有効な散布図を作成する可能性が最も高い関数であるため、デフォルトとして使用されます。どちらの軸にも、[ラベル] を指定できます。このラベルは、計算式 (1053 ページ) としても定義できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

[Z] グループでは、散布図にプロットされる各データポイントのサイズを計算するために使用するオプションの数式を指定します。

バブル チャート このオプションをオンにすると、3番目のチャート式 (Z) を使用して散布点の相対的なサイズが計算されます。数式の値により、プロットされるバブルの面積が決まります。

バブル サイズの数式 ここには、各散布点に描画されるバブルの相対的なサイズを決定する数式を入力します。[...] ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

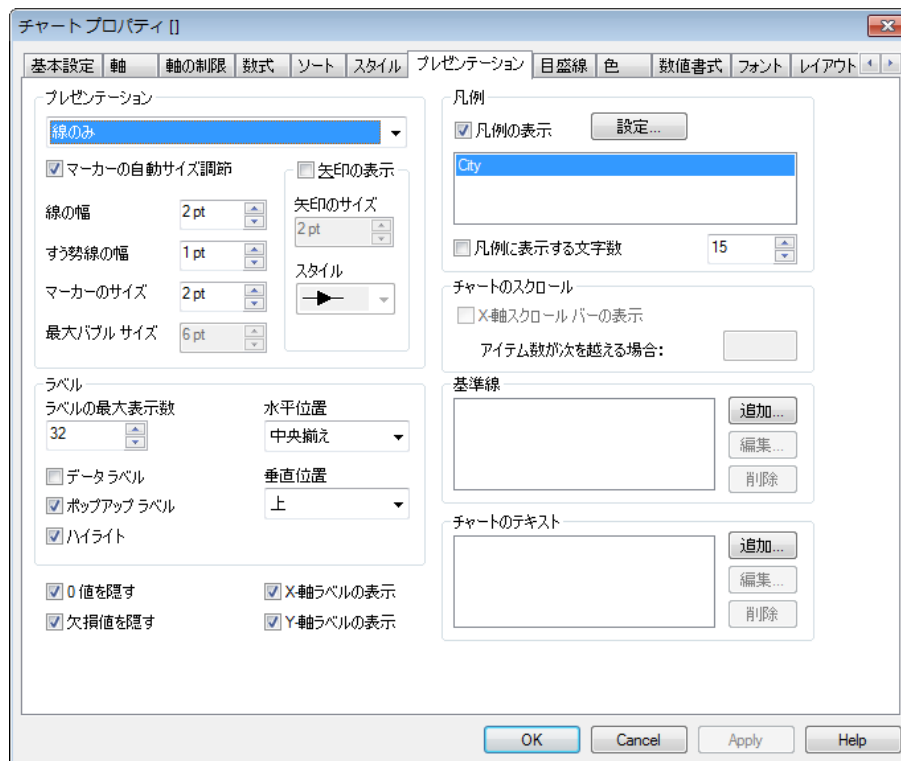
54.6 ソート

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフのソートページと同じです。チャートプロパティ: ソート (770 ページ) を参照してください。

54.7 スタイル

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、チャートプロパティ: スタイル (771 ページ) と同じです。

54.8 チャートプロパティ: プレゼンテーション (散布図 - グリッド チャート)



チャートプロパティ: プレゼンテーション (散布図 - グリッド チャート)

このプロパティ ページでは、散布図とグリッド チャートを総合的に使用できます。いくつかのオプションはいずれか 1 つに対してのみ使用できます。軸 ページで散布図に 1 つではなく 2 つの軸を定義した場合、第 1 軸の各値と、第 2 軸の関連付けられている各値から 1 つの散布データ ポイントが生成されます。生成されたデータ ポイントは、線で接続することができます。次の表示オプションが、**プレゼンテーション** グループで使用できます。

線のみ	データは、データ点を線で表示します。
マーカーのみ	データは、データ点をマーカーで表示します。
線とマーカー	上記オプションの組み合わせ
マーカーの自動サイズ調節	最大バブル サイズを散布図のサイズ/グリッド チャートの値に合わせます。
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
最大バブル サイズ	チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。 [表示] グループの [マーカーのみ] または [線とマーカー] との組み合わせにより一部 ([スタイル] タブで選択した) の表示、ならびに [マーカーの自動サイズ調節] の選択が解除されている場合のみ使用できます。
矢印の表示	接続線に矢印の表示オプションを設定します (上記の プレゼンテーション グループを参照してください)。矢印は、第 2 軸のソート順で定義された順序で、次の散布点の方向を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線に矢印を表示します。
矢印のサイズ	矢印のサイズをここで編集できます。
スタイル	ドロップダウン リストにあるスタイルから選択します。
バブル スケール	グリッド チャートのバブルを次のどの方法に基づいて拡大縮小するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 半径 バブルがこの半径に基づいて拡大縮小されます。 ● 領域 バブルがこの領域に基づいて拡大縮小されます。これがグリッド チャートのデフォルトのオプションです。ほとんどの場合、このオプションでデータが最適に表示されます。

ラベル グループでは、ラベルとデータ ポイントの表示オプションを設定できます。プロットされるラベルは、凡例と同じです。

ラベルの最大表示数	表示するラベルの数を制限します。設定した数値が大きすぎると、チャートが分かりにくくなります。
データ ラベル	チェックボックスをオンにすると、ラベルを表示します。
ポップアップ ラベル	チャートでマウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から 1 つの値を同様にハイライト表示できます。
水平位置	ドロップダウンリストから水平方向 左揃え 、 中央揃え または 右揃え を選択します。
垂直位置	ドロップダウン リストから垂直方向 上 、 上下中央揃え または 下 を選択します。

0 値を隠す チェック ボックスと **欠損値を隠す** チェック ボックスをオンにすると、空値や 0 値の軸がテーブルから排除されます。

X- 軸ラベルの表示	チャートプロパティ：数式 (散布図) (825 ページ) ページの X グループで指定した x- 軸のラベルを x- 軸の終端に表示します。
Y- 軸ラベルの表示	チャートプロパティ：数式 (散布図) (825 ページ) ページの Y グループで指定した y- 軸のラベルを y- 軸の終端に表示します。

凡例グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。 設定 ボタンをクリックし、 凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[**チャートのスクロール**] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

X- 軸スクロール バーの有効化	X- 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、 [アイテム数が次を越える場合:] で設定した数になります。
-------------------------	---

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

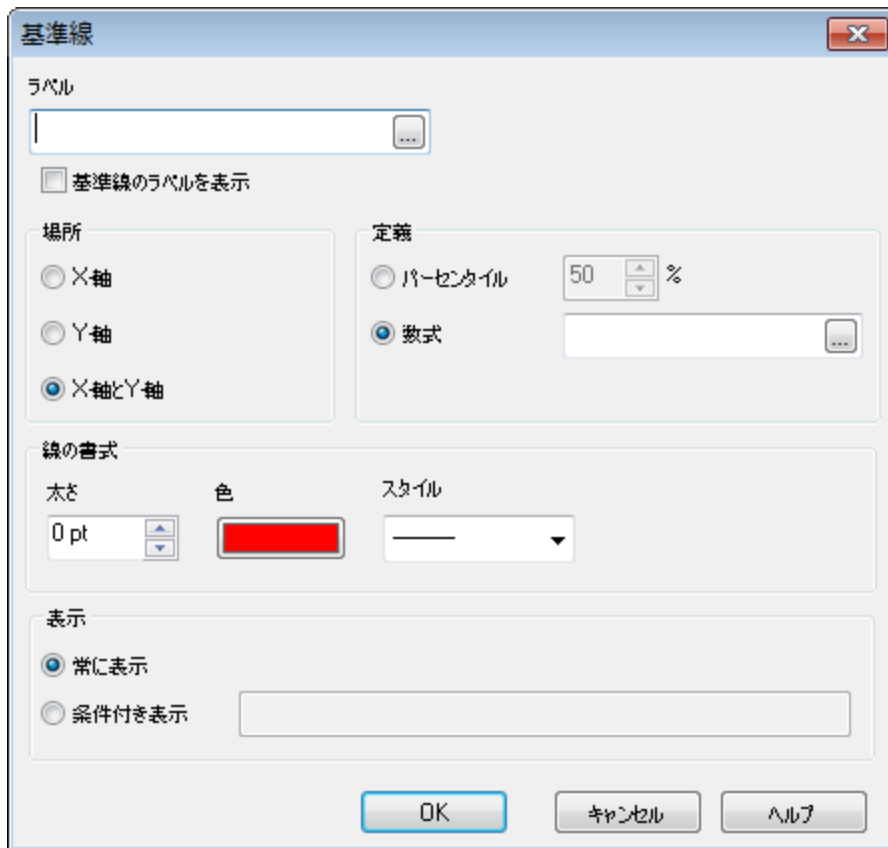
- | | |
|-----------|---|
| 追加 | チャートに新しい基準線を作成するための 基準線 (778 ページ) ダイアログ を開きます。 |
| 編集 | 基準線 (778 ページ) ダイアログ で既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |
| 削除 | 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |

チャートのテキスト グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

- | | |
|-----------|---|
| 追加 | チャートに新しいチャートテキストを作成するための チャートテキスト (780 ページ) ダイアログ を開きます。 |
| 編集 | チャートテキスト (780 ページ) ダイアログ で既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |
| 削除 | 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートが **チャートレイアウト編集モード** の場合、配置し直すことができます。 **チャートコンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ)** を参照してください。

基準線



散布図とグリッドチャートの [基準線] ダイアログ

ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロットエリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャートデータのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

- | | |
|-------------------|--|
| ラベル | 基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。 |
| 基準線のラベルを表示 | 基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| パス | 基準線の始点の軸を X-軸 、 Y-軸 および X-軸と Y-軸 から選択し、設定します。 |
| 定義 | 基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャートデータの固定 パーセンタイル (編集ボックスに 1 と 100 の間の数値を入力) または任意の数値の 数式 を指定できます。 |

線の書式

基準線のレイアウトを定義します。

太さ

基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

色

基準線の色を設定します。

スタイル

実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。

表示

基準線を表示する条件を指定します。

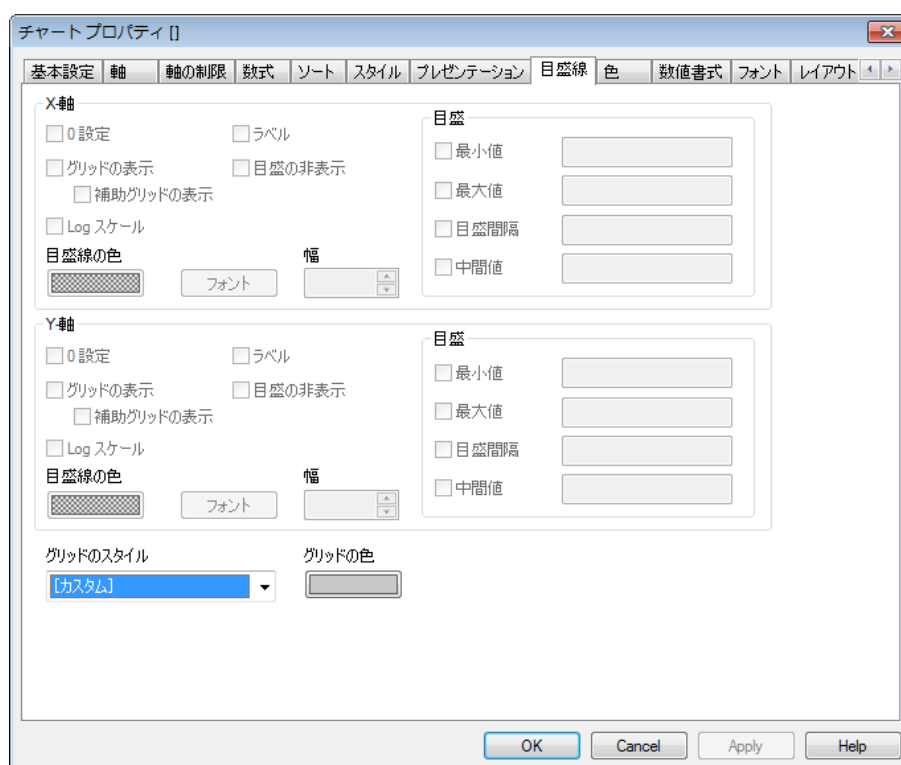
常に表示

基準線は常に表示されます。

条件付き表示

基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が true を返す場合にのみ表示されます。

54.9 チャートプロパティ: 目盛線 (散布図 - グリッド チャート)



チャートプロパティ : 目盛線 (散布図 - グリッド チャート)

このダイアログは、散布図とグリッド チャートの **チャートプロパティ** から開けます。

このダイアログでは、チャートの x 軸と y 軸の表現を設定できます。

ダイアログの内容：

X-軸

0 設定	y 軸は、 $x = 0$ に交差します。
グリッドの表示 / 補助 グリッドの表示	x 軸の目盛マークがグリッド線に拡張されます。[グリッドのスタイル] と [グリッドの色] 設定でさらに書式を設定できます。
Log スケール	Log スケールが使用されます。
ラベル	x- 軸のラベルの位置を変更します。
目盛の非表示	x 軸は表示されません。

x-軸の **目盛線の色** と **幅** は、目盛りの数値 **フォント** と同様に、適応するオプションをクリックして個々に設定します。

目盛

最小値

x-軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスで x 軸の最小値を固定値として設定できます。

最大値

このチェックボックスをオンにすると、x-軸の最大値を固定値として設定できます。

目盛間隔

このチェックボックスをオンにすると、x-軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。

中間値

このチェックボックスをオンにして、x-軸上の値を設定すると、その値の位置がプロットエリアの中心になります。[**中間値**] の値が [**最小値**] や [**最大値**] と競合する場合、[**中間値**] の値が優先されます。

目盛 グループで入力する値は、計算式 (1053 ページ) として指定できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [**数式の編集**] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

Y-軸

0 設定	x 軸は、 $y = 0$ に交差します。
グリッドの表示 / 補助 グリッドの表示	y 軸の目盛マークがグリッド線に拡張されます。[グリッドのスタイル] と [グリッドの色] 設定でさらに書式を設定できます。
Log スケール	Log スケールが使用されます。
目盛の非表示	y 軸は表示されません。
ラベル	y- 軸のラベルの位置と方向を変更します。

y-軸の **目盛線の色** と **幅** は、目盛りの数値 **フォント** と同様に、適応するオプションをクリックして個々に設定します。

目盛	<p>最小値 y-軸の目盛りは、ドキュメントの状態によって変更されません。このチェックボックスをオンにすると、編集ボックスで y 軸の最小値を固定値として設定できます。</p> <p>最大値 このチェックボックスをオンにすると、y-軸の最大値を固定値として設定できます。</p> <p>目盛間隔 このチェックボックスをオンにすると、y-軸の目盛マークの間隔を固定値として設定できます。</p> <p>中間値 このチェックボックスをオンにして、y-軸上の値を設定すると、その値の位置がプロットエリアの中心になります。[中間値] の値が [最小値] や [最大値] と競合する場合、[中間値] の値が優先されます。</p>
-----------	---

目盛 グループで入力する値は、計算式 (1053 ページ) として指定できます。[...] ボタンをクリックすると、完全な [**数式の編集**] ダイアログが開かれ、長い数式を簡単に編集できます。

グリッドのスタイル	[グリッドのスタイル] をオンにし、ドロップダウン リストの有効なグリッドスタイルから選択できます。
グリッドの色	グリッドの色を選択します。

54.10 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、**チャートプロパティ : 色** (785 ページ) と同じです。

54.11 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

54.12 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

54.13 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

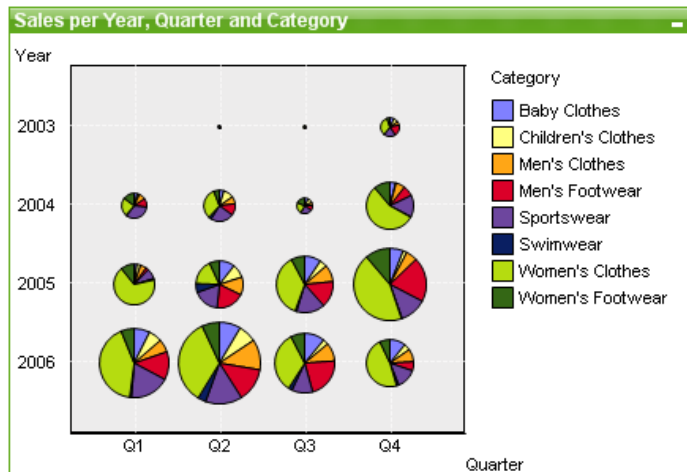
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

54.14 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。


55 グリッドチャート



グリッドチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ: 基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

グリッドチャートは散布図に似ていますが、軸に軸の値をプロットし、プロットマーカーを決定する数式を使用します。特別なモードでは、第3軸をプロットマーカーとして小さい円グラフ形式で表示できます。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいグリッドチャートを簡単に作成することができます。

グリッドチャートを右クリックすると、グリッドチャート: オブジェクトメニュー (835 ページ) が表示されます。グリッドチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

55.1 グリッドチャート: オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフローティングメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注: 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ：基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

55.2 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャート プロパティ : 軸** (747 ページ) と同じです。

55.3 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、チャートプロパティ：軸の制限 (753 ページ) と同じです。

55.4 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

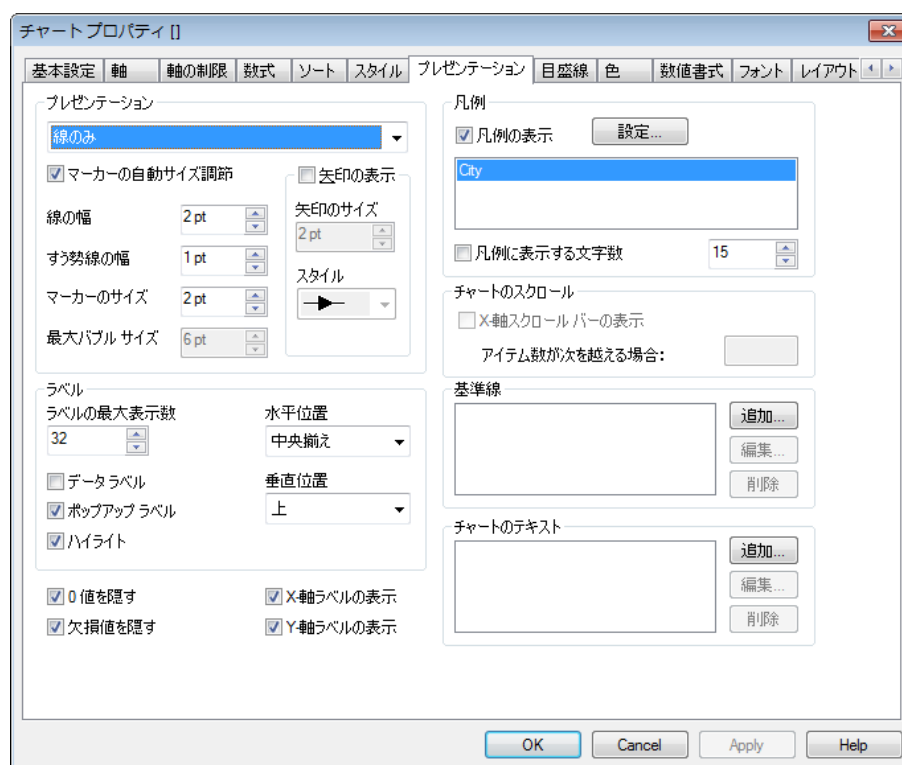
55.5 ソート

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフのソートページと同じです。チャートプロパティ：ソート (770 ページ) を参照してください。

55.6 スタイル

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、チャートプロパティ：スタイル (771 ページ) と同じです。

55.7 チャートプロパティ:プレゼンテーション (散布図 - グリッドチャート)



チャートプロパティ:プレゼンテーション (散布図 - グリッドチャート)

このプロパティ ページでは、散布図とグリッドチャートを総合的に使用できます。いくつかのオプションはいずれか1つに対してのみ使用できます。軸 ページで散布図に1つではなく2つの軸を定義した場合、第1軸の各値と、第2軸の関連付けられている各値から1つの散布データポイントが生成されます。生成されたデータポイントは、線で接続することができます。次の表示オプションが、**プレゼンテーション**グループで使用できます。

線のみ	データは、データ点を線で表示します。
マーカーのみ	データは、データ点をマーカーで表示します。
線とマーカー	上記オプションの組み合わせ
マーカーの自動サイズ調節	最大バブルサイズを散布図のサイズ/グリッドチャートの値に合わせます。
線の幅	線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。
すう勢線の幅	ここでは、すう勢線の幅を決定します。
マーカーのサイズ	マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。
最大バブルサイズ	チャートで使用する、最大のバブルのサイズを設定します。 [表示] グループの [マーカーのみ] または [線とマーカー] との組み合わせにより一部 ([スタイル] タブで選択した) の表示、ならびに [マーカーの自動サイズ調節] の選択が解除されている場合のみ使用できます。
矢印の表示	接続線に矢印の表示オプションを設定します (上記の プレゼンテーション グループを参照してください)。矢印は、第2軸のソート順で定義された順序で、次の散布点の方向を向きます。チェックボックスをオンにすると、接続線に矢印を表示します。
矢印のサイズ	矢印のサイズをここで編集できます。
スタイル	ドロップダウンリストにあるスタイルから選択します。
バブルスケール	グリッドチャートのバブルを次のどの方法に基づいて拡大縮小するかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">● 半径 バブルがこの半径に基づいて拡大縮小されます。● 領域 バブルがこの領域に基づいて拡大縮小されます。これがグリッドチャートのデフォルトのオプションです。ほとんどの場合、このオプションでデータが最適に表示されます。

ラベルグループでは、ラベルとデータポイントの表示オプションを設定できます。プロットされるラベルは、凡例と同じです。

ラベルの最大表示数	表示するラベルの数を制限します。設定した数値が大きすぎると、チャートが分かりにくくなります。
データ ラベル	チェックボックスをオンにすると、ラベルを表示します。
ポップアップ ラベル	チャートでマウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。
ハイライト	このオプションをオンにすると、マウス ポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から 1 つの値を同様にハイライト表示できます。
水平位置	ドロップダウンリストから水平方向 左揃え 、 中央揃え または 右揃え を選択します。
垂直位置	ドロップダウン リストから垂直方向 上 、 上下中央揃え または 下 を選択します。

0 値を隠す チェック ボックスと **欠損値を隠す** チェック ボックスをオンにすると、空値や 0 値の軸がテーブルから排除されます。

X- 軸ラベルの表示	チャートプロパティ：数式 (散布図) (825 ページ) ページの X グループで指定した x- 軸のラベルを x- 軸の終端に表示します。
Y- 軸ラベルの表示	チャートプロパティ：数式 (散布図) (825 ページ) ページの Y グループで指定した y- 軸のラベルを y- 軸の終端に表示します。

凡例グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてののみ表示されます。

凡例の表示	チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。 設定 ボタンをクリックし、 凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
凡例に表示する文字数	軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[**チャートのスクロール**] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

X- 軸スクロール バーの有効化	X- 軸の場所にスクロール コントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロール バーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、 [アイテム数が次を越える場合:] で設定した数になります。
-------------------------	---

基準線グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

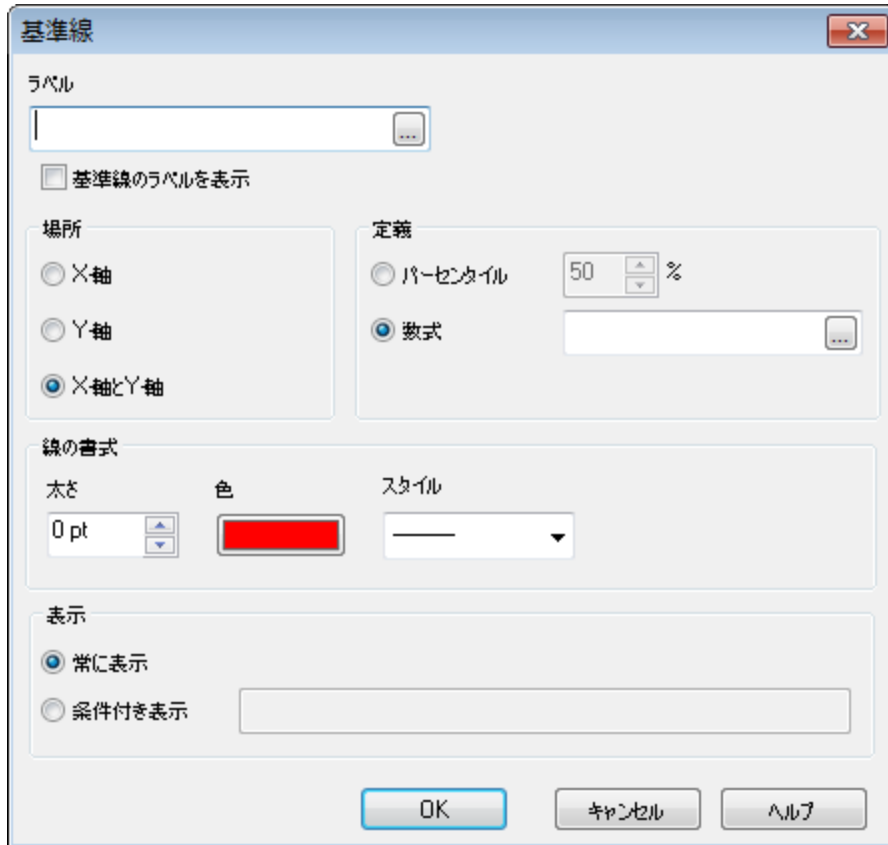
- | | |
|-----------|---|
| 追加 | チャートに新しい基準線を作成するための 基準線 (778 ページ) ダイアログ を開きます。 |
| 編集 | 基準線 (778 ページ) ダイアログ で既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |
| 削除 | 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

- | | |
|-----------|---|
| 追加 | チャートに新しいチャートテキストを作成するための チャートテキスト (780 ページ) ダイアログ を開きます。 |
| 編集 | チャートテキスト (780 ページ) ダイアログ で既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |
| 削除 | 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。 |

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートが **チャートレイアウト編集モード**の場合、配置し直すことができます。 **チャートコンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ)**を参照してください。

基準線



散布図とグリッドチャートの [基準線] ダイアログ

ダイアログは、使用するチャートの種類によって外観が少し異なります。基準線は、1つまたは両方の軸上の特定の地点からチャートのプロットエリアを横断する線です。たとえば、特定のレベルやチャートデータのパーセンタイルを示すために使用できます。基準線は、始点の軸の現在の範囲内にある場合にのみ引かれます。

- | | |
|-------------------|--|
| ラベル | 基準線の横に描画するラベルを指定します。使用されるデフォルト値は数式です。ラベルを計算式として定義できます。 |
| 基準線のラベルを表示 | 基準線の横にラベルを表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。 |
| パス | 基準線の始点の軸を X-軸 、 Y-軸 および X-軸と Y-軸 から選択し、設定します。 |
| 定義 | 基準線を描画する位置の値を設定します。値は、現在のチャートデータの固定 パーセンタイル (編集ボックスに 1 と 100 の間の数値を入力) または任意の数値の 数式 を指定できます。 |

線の書式

基準線のレイアウトを定義します。

太さ

基準線の太さを指定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

色

基準線の色を設定します。

スタイル

実線、破線、点線といったスタイルを基準線に指定します。

表示

基準線を表示する条件を指定します。

常に表示

基準線は常に表示されます。

条件付き表示

基準線は、チャートが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。基準線は、数式が true を返す場合にのみ表示されます。

55.8 目盛線

目盛線 ページでは、X-軸とY-軸の表示プロパティを設定できます。

このページは、チャートプロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ) と同じです。

55.9 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、チャートプロパティ：色 (785 ページ) と同じです。

55.10 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

55.11 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

55.12 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

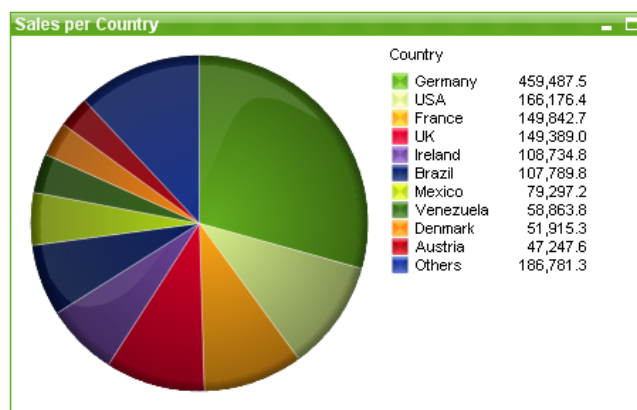
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

55.13 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

56 円グラフ



円グラフの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。通常、円グラフは 1 つの軸と 1 つの数式の間を表示しますが、2 つの軸を使用することもあります。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しい円グラフをすばやく作成することができます。

円グラフを右クリックすると、円グラフ：オブジェクトメニュー (847 ページ) が表示されます。円グラフがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

注：円グラフのオブジェクトの表示は 500 スライスに制限されています。

56.1 円グラフ:オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフローティングメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
参照設定	このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、 チャートプロパティ：基本設定 ページにある 参照機能のスタイル 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
参照解除	参照が設定されると、 参照設定 コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
複製	チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

56.2 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャート プロパティ : 軸** (747 ページ) と同じです。

56.3 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、チャートプロパティ：軸の制限 (753 ページ) と同じです。

56.4 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

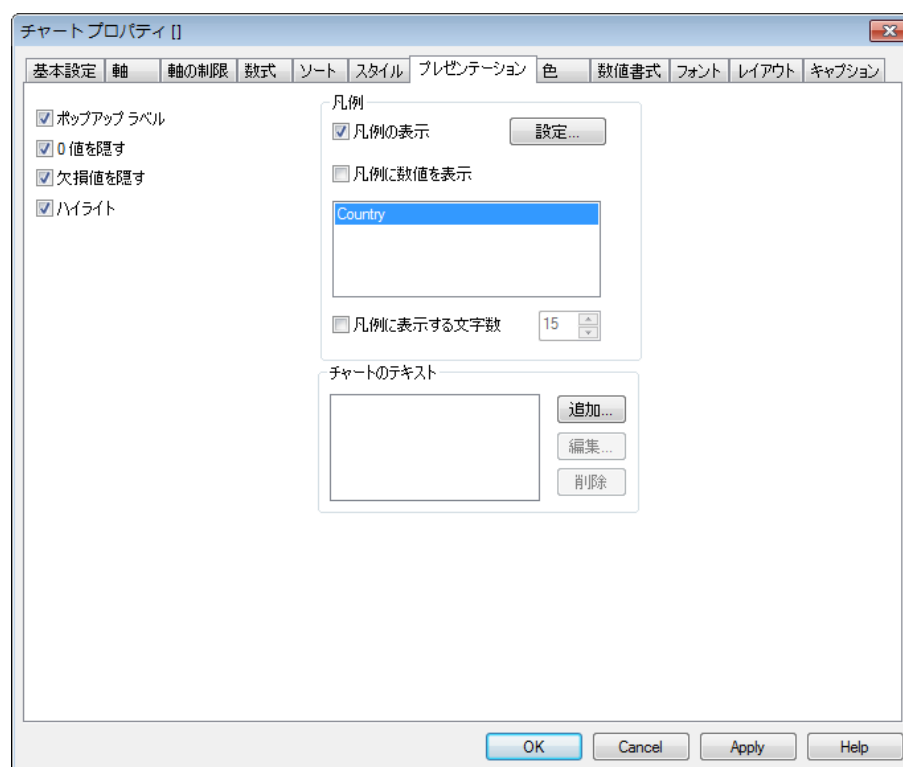
56.5 ソート

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフのソートページと同じです。チャートプロパティ：ソート (770 ページ) を参照してください。

56.6 スタイル

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、チャートプロパティ：スタイル (771 ページ) と同じです。

56.7 チャートプロパティ:プレゼンテーション(円グラフ)



チャートプロパティ：プレゼンテーション(円グラフ)

このダイアログでは、円グラフのスライスの表示方法を設定できます。
初期値は次のとおりです。

- ポップアップ ラベル** マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このチェックボックスをオンにします。
- 0 値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、すべての数式から 0 または null を返す軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。
- 欠損値を隠す** このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の null 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。
- ハイライト** これをオンにすると、円グラフのセグメント上にマウス ポインタを置いたときにセグメントが強調表示され、全体像を把握しやすくなります。強調表示は、凡例にも適用されます (適用可能な場合)。

凡例グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてののみ表示されます。

- 凡例の表示** チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**設定** ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。
- 凡例に数値を表示** これをオンにすると、数値を表示する凡例がチャートに表示されます。
- 凡例に表示する文字数** 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

- 追加** 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。
- 編集** **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
- 削除** 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャートレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャートコンポーネントのサイズ変更と移動(736ページ)を参照してください。

56.8 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、チャートプロパティ：色(785ページ)と同じです。

56.9 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの**数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式(789ページ)を参照してください。

56.10 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの**フォント** ページと同じです。

フォント(592ページ)を参照してください。

56.11 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの**レイアウト** ページと同じです。

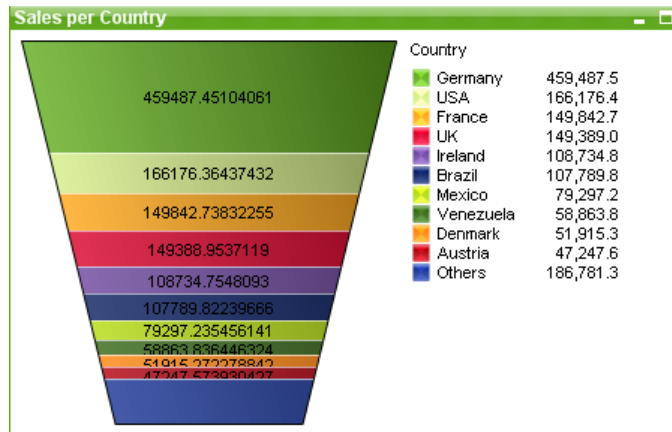
レイアウト(593ページ)を参照してください。

56.12 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの**キャプション** ページと同じです。

キャプション(597ページ)を参照してください。

57 ファネルチャート



ファネルチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ファネルチャートは通常、データをフローおよびプロセスで表示するために使用します。表示の観点から見ると、このチャートは円グラフ(847ページ)と関連しています。チャートは、データに比例したセグメントの高さ/幅またはセグメントの領域で表示されます。また、データポイントを無視して、セグメントの高さ/幅が均一なチャートを描画することもできます。

チャートプロパティ：基本設定(738ページ)ページの**チャートの種類**を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

ファネルチャートを右クリックすると、ファネルチャート：オブジェクトメニュー(855ページ)が表示されます。ファネルチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]**メニューからもアクセスできます。

QlikViewで使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類(740ページ)**を参照してください。

57.1 ファネルチャート：オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフローメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト**メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント(566ページ)**を参照してください。

- 分離設定** チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
- 分離解除** 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
- 参照設定** このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**チャートプロパティ：基本設定** ページにある **参照機能のスタイル** 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
- 参照解除** 参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
- 複製** チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートで軸として使用される項目の選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタが選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

57.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を参照してください。

57.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャートプロパティ：軸** (747 ページ) と同じです。

57.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、**チャートプロパティ：軸の制限** (753 ページ) と同じです。

57.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、**チャートプロパティ：数式** (757 ページ) と同じです。

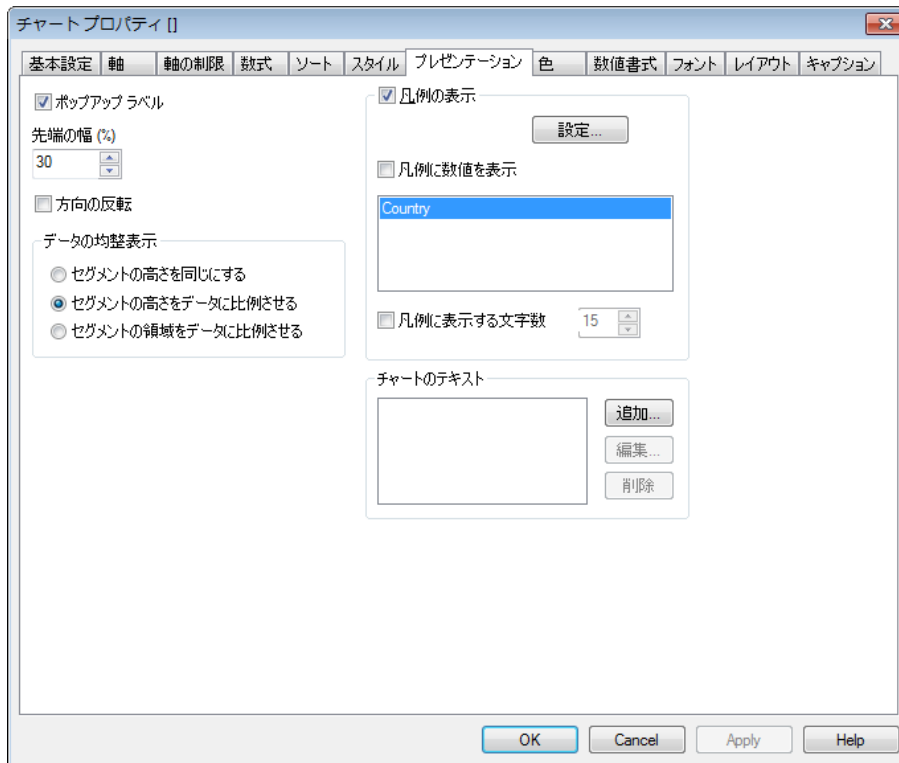
57.6 ソート

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの**ソート** ページと同じです。**チャートプロパティ：ソート** (770 ページ) を参照してください。

57.7 スタイル

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、**チャートプロパティ：スタイル** (771 ページ) と同じです。

57.8 チャートプロパティ: プレゼンテーション (ファネルチャート)



チャートプロパティ : プレゼンテーション (ファネルチャート)

このページの設定を変更して、ファネルチャートを画面に表示する方法を変更します。

ポップアップ ラベル カーソルをチャートのデータセグメント上に置いたときにポップアップバブルにデータが表示されるようにするには、このチェックボックスをオンにします。この設定は、ポップアップとして表示するように設定されている数式には影響しません。

先端の幅 (%) ファネルの先端の幅を入り口の幅に対するパーセンテージで定義します。

方向の反転 ファネルの先端を左または上向きにする場合は、このチェックボックスをオンにします。

- データの均整表示** この設定は、基底のデータにセグメントが比例する程度を制御します。
- セグメントの高さを同じにする**
データの均整表示を行いません。各セグメントは、他のすべてのセグメントと同じ高さ (水平のファネルの場合は、同じ幅) で描画されます。通常、チャートに数値が表示される場合のみ意味があります。
- セグメントの高さをデータに比例させる**
各セグメントは、基底のデータに比例した高さ (水平のファネルの場合は、幅) で描画されます。
- セグメントの領域をデータに比例させる**
各セグメントは、基底のデータに比例した合計面積で描画されます。
- 凡例の表示**
- 凡例の表示** グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。
- 設定**
凡例の書式 (777 ページ) ダイアログが開かれ、凡例の設定を変更できます。
- 凡例に数値を表示**
軸データ ラベルの横に値を表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。
- 凡例に表示する文字数**
軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。
- チャートのテキスト**
- [チャートのテキスト]** グループでは、チャートに自由に移動できるテキストを追加できます。
- 追加**
このボタンを押すと、チャートテキスト (780 ページ) ダイアログが開きます。ここでは、チャートに表示される自由に移動できるテキストを作成および編集できます。
- 編集**
チャートテキスト (780 ページ) ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。リストでテキストをダブルクリックしても同じです。
- 削除**
既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

57.9 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、チャートプロパティ：色 (785 ページ) と同じです。

57.10 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

57.11 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

57.12 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

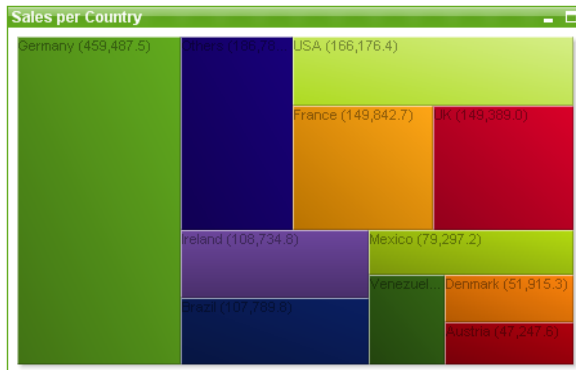
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

57.13 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。


キャプション (597 ページ) を参照してください。

58 ブロックチャート



ブロックチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。ブロックチャートは、数式の値と値の関係を大きさが異なる領域ブロックで表示します。最大 3 軸を表示でき、各軸がサブブロックに細分化されます。各ブロックの色を計算するために追加の数式が使用されることがあり、その場合、このチャートタイプはヒートチャートとも呼ばれます。

ツールバーの **チャートの追加**  ボタンをクリックすると、新しいブロックチャートを簡単に作成することができます。

ブロックチャートを右クリックすると、ブロックチャート：オブジェクトメニュー (863 ページ) が表示されます。ブロックチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

58.1 ブロックチャート：オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。




メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。

注： 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント** (566 ページ) を参照してください。

- 分離設定** チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
- 分離解除** 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。
- 参照設定** このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**チャートプロパティ：基本設定** ページにある **参照機能のスタイル** 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
- 参照解除** 参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
- 複製** チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
すべての選択をクリア	チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。</p>

58.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を参照してください。

58.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、チャートプロパティ：軸 (747 ページ) と同じです。

58.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、チャートプロパティ：軸の制限 (753 ページ) と同じです。

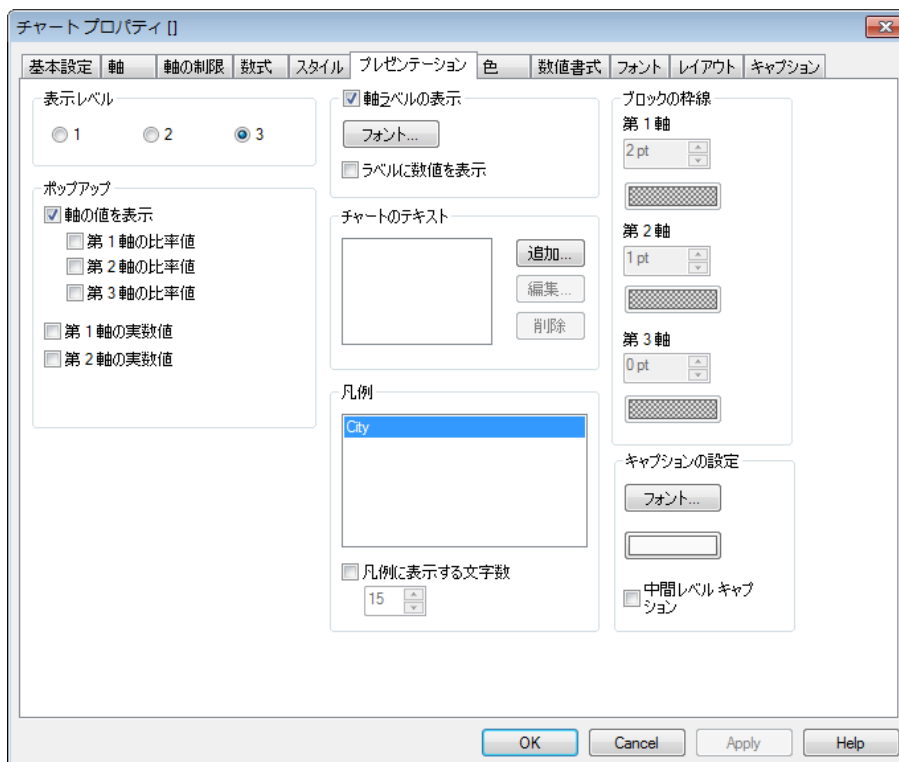
58.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

58.6 スタイル

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、チャートプロパティ：スタイル (771 ページ) と同じです。

58.7 チャートプロパティ:プレゼンテーション(ブロックチャート)



チャートプロパティ：プレゼンテーション(ブロックチャート)

このダイアログでは、データブロックの表示方法を設定できます。

初期値は次のとおりです。

表示レベル ブロックチャートは、最高3レベルのブロック(軸を3つ設定するのと同じ)で表示できます。**1**、**2**または**3**を選択し、実際に表示するレベル数を設定します。

[ポップアップ] グループの次のオプションを選択し、データにマウスポインターを近づけたときに表示されるポップアップでどの情報を表示するかを設定します。(注意!これらの設定は、ポップアップとして表示するように設定されている数式には影響しません。)

軸の値を表示 このチェックボックスをオンにすると、指定されたデータポイントのすべての軸値を表示します。次の最初の3つの設定を行うためにも必要です。

第1軸の比率値 指定された第1軸の値を合計と比較したパーセンテージをポップアップに表示します。

第2軸の比率値 指定された第1軸の値を定義したように、指定された第2軸の値を合計と比較したパーセンテージ。

第3軸の比率値 第3軸のレベルで上記と同じ。

第1軸の実数値 指定されたブロックを指定された第1軸の値の合計と比較したパーセンテージ。

第2軸の実数値 指定されたブロックを指定された第2軸の値の合計と比較したパーセンテージ。

軸ラベルの表示 チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします(デフォルトでオン)。フォント(592ページ)ボタンをクリックし、設定を変更することもできます。

ラベルに数値を表示 チェックボックスをオンにすると、ラベルに数値が表示されます。

チャートのテキスト グループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

追加 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト(780ページ)** ダイアログを開きます。

編集 **チャートテキスト(780ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャートレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャートコンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

凡例グループでは、チャートの軸データ ラベルの表示を制御できます。データ ラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データ ラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてのみ表示されます。

凡例の表示 チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。**設定** ボタンをクリックし、**凡例の書式** (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。

凡例に表示する文字数 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[ブロックの枠線] グループでは、3 つの異なる軸レベルのブロックの周りに描画される枠線の幅と色を設定できます。ブロックの枠線は、ブロックチャートのキャプションスタイルを使用する場合、適用できません。

いずれの軸も、スピナー コントロールで枠線の幅を変更し、**[色]** ボタンで枠に違う色を選択できます。

[キャプションの設定] グループでは、最上位および中間の軸レベルで使用されるキャプションのフォントと色を設定できます。これらの設定は、ブロックチャートのキャプションスタイルを使用する場合のみ適用できます。

フォント キャプションのフォントを設定するための **[フォント]** ダイアログを開きます。

色 キャプションの基本色を設定するための **[色の設定]** ダイアログを開きます。

中間レベル キャプション 3 軸のブロックチャートで中間軸レベルのキャプションを描画する場合は、このチェックボックスをオンにします。

58.8 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、チャートプロパティ : 色 (785 ページ) と同じです。

58.9 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

58.10 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

58.11 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

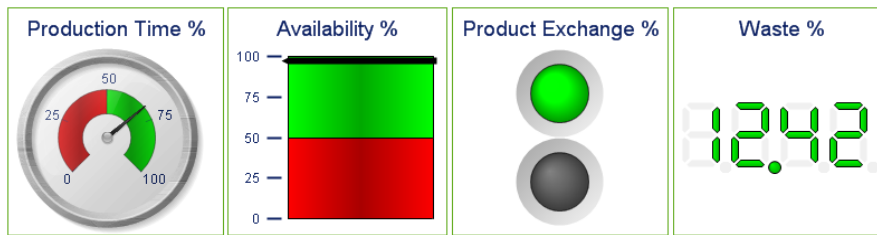
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

58.12 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

59 ゲージチャート



ゲージチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。ゲージチャートは、軸のない単一の数値の値を表示するために使用されます。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しいゲージチャートをすばやく作成することができます。

ゲージチャートを右クリックすると、**ゲージチャート：オブジェクトメニュー** (871 ページ) が表示されます。ゲージチャートがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。



59.1 ゲージチャート：オブジェクトメニュー


チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

- | | |
|--------------|---|
| プロパティ | プロパティ ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。 |
| 注： | 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。 |
| 分離設定 | チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。
チャートのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。 |
| 分離解除 | 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。 |

- 参照設定** このオプションを選択して、チャートの参照 (現在の選択を使用したチャートの固定プロット) を設定します。ドキュメントでさらに選択を行っても、参照プロットは残り、背景に淡色表示されます。チャートの軸等は、常に背景のデータセットと現在のデータセットの最大値に調整されます。現在のデータセットは、常に参照プロットの前面にプロットされます。つまり、参照プロットの一部は、現在のデータセットのプロットによって隠される場合があります。背景を淡色表示する方法は、**チャートプロパティ：基本設定** ページにある **参照機能のスタイル** 設定で制御できます。参照チャートプロットの表示は、一部のチャートの種類 (棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、散布図、グリッドチャート、および針を使用するゲージチャートなど) でのみ可能です。ドキュメントを閉じるか、データをリロードすると、参照は失われます。[参照設定] オプションの使用時に含めることができるオブジェクトの最大数は 500 です。
- 参照解除** 参照が設定されると、**参照設定** コマンドがこのコマンドに置き換えられます。これを選択すると、以前に設定した参照がクリアされ、チャートが通常のプロットモードに戻ります。
- 複製** チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
- 順序** このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
- 最前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- 最背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- 前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- 背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- 印刷** 印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。

PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。
クリップボードにコピー	このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。 値 値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。 画像 チャートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、 ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。 オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。
リンク オブジェクト	リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。 リンク オブジェクトを整理する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整理されます。 オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。
最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートからアクティブなシートオブジェクトを削除します。

59.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) を参照してください。

59.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、チャートプロパティ：軸 (747 ページ) と同じです。

59.4 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

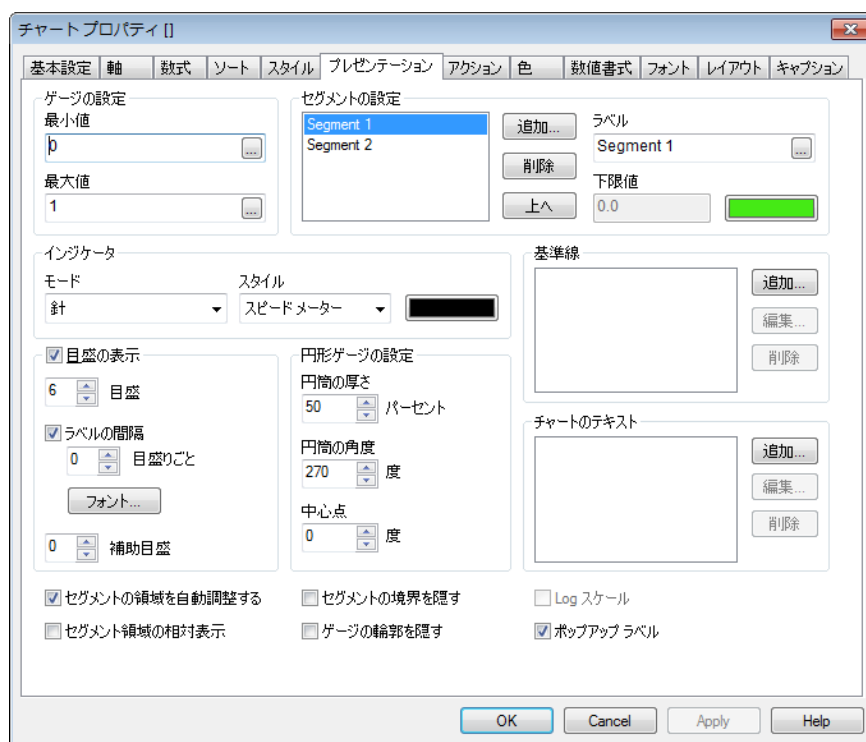
59.5 ソート

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの **ソート** ページと同じです。チャートプロパティ：ソート (770 ページ) を参照してください。

59.6 スタイル

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、チャートプロパティ：スタイル (771 ページ) と同じです。

59.7 チャートプロパティ:プレゼンテーション(ゲージチャート)



チャートプロパティ : プレゼンテーション (円形ゲージチャート)

ゲージの設定 グループは、ゲージの限度を決定するために使用されます。選択されたゲージの種類が、このダイアログで利用できるオプションを決定します。

Min (最小値) これは、ゲージの領域を制限する最小値です。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

最大値 これは、ゲージの領域を制限する最大値です。値は、計算式として入力できます。[...] ボタンをクリックすると、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログが開かれます。

セグメントの設定 グループは、ゲージを形成するセグメントの定義に使用されます。LED スタイルのゲージを除くすべてのゲージには、セグメントが少なくとも 1 つ必要です。円形および線形ゲージでは、セグメントは背景の色が異なる領域を構成します。信号機ゲージでは、各セグメントは 1 つのライトに対応します。

追加 ゲージに新しいセグメントを追加するには、このボタンをクリックします。

削除 ゲージから現在選択されているセグメントを削除するには、このボタンをクリックします。

上へ リストのセグメントをソートするには、このボタンを使用します。

ラベル	選択されているセグメントの名前を指定します。この名前は識別のみを目的としており、ゲージチャートを描画する際には使用されません。
下限値	選択されているセグメントの開始位置のゲージ値を指定します。 セグメントの領域を自動調整する チェックボックス (以下を参照) をオフにすると、このテキストボックスが有効になり選択されたセグメントの下限値の数値を編集できます。 [セグメント領域の相対表示] チェックボックス (以下を参照) がオンの場合、セグメントの領域は、 最小値 から 最大値 までの範囲全体に対する割合を示す 0 ~ 1 の数値で入力する必要があります。
色	色ボタンをクリックし、選択したセグメントに色を設定します。これは、色の設定 (515 ページ) ダイアログを開きます。

[インジケータ] グループでは、ゲージインジケータの表示オプションを設定します。このグループは、LED スタイルのゲージチャートでは使用できません。

モード	ドロップダウン リストからインジケータのモードをひとつ選択します。
スタイル	ドロップダウン リストからゲージの変異型をひとつ選択します。

目盛の表示	<p>n目盛に入力する数値で、ゲージの目盛の数を定義します。</p> <p>目盛りのラベルは、ラベルの間隔 の n目盛りごとと フォント ボタンで変更できます。</p> <p>目盛は、n補助目盛 設定でさらに詳細表示できます。</p>
-------	---

円形ゲージの設定 グループは、円形スタイルのゲージチャート専用で、ゲージの形のプロパティを指定します。

円筒の厚さ	円形ゲージは、通常、塗りつぶされた円または円のセグメントとして描画されます。大きい番号ほど円筒が太くなります。穴でくり抜かれる領域の半径のパーセンテージを示す値を、0 ~ 99 の範囲で指定します。
円柱の範囲	ゲージの [最小値] から [最大値] までの角度。45 ~ 360 の値を指定します。
中心点	ゲージの中央値を時計に当てはめたときの角度。0 ~ 360 の値を指定します。0 はゲージの上部の中心 (12 時) を示します。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

追加	チャートに新しい基準線を作成するための 基準線 (778 ページ) ダイアログを開きます。
----	--

- 編集** 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
- 削除** 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

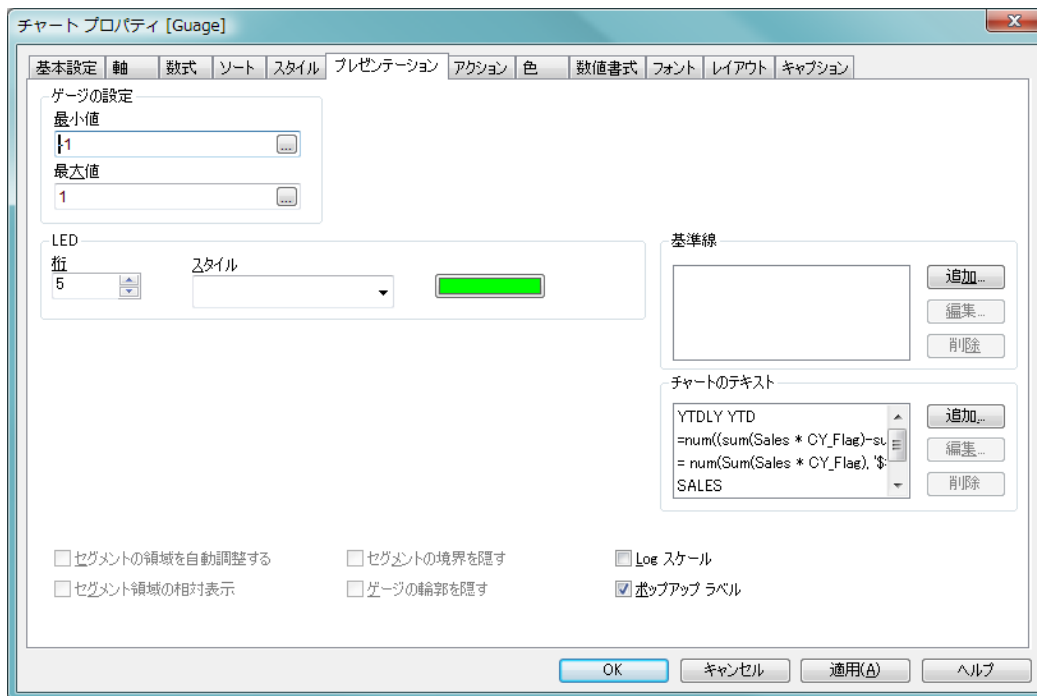
チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

- 追加** 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。
- 編集** **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。
- 削除** 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがチャートレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャートコンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

- セグメントの領域を自動調整する** このチェックボックスがオン (初期値) の場合、ゲージの **[最小値]**、**[最大値]**、および定義されているセグメント数に基づいてセグメントの領域が自動的に計算されます。このオプションをオフにすると、次のオプションが利用できます: **[セグメントの設定]** グループの **[下限値]**、**[セグメント領域の相対表示]** および **[Log スケール]**
- セグメント領域の相対表示** このオプションをオンにすると、セグメント領域を 0 ~ 1 の数値で入力できます。この数値は、**最小値**から**最大値**までの値の範囲全体に対する割合を示します。
- セグメントの境界を隠す** このオプションをオンにすると、円形および線形ゲージのセグメントの境界で輪郭が描画されず、3色以上の背景グラデーションを作成している場合に便利です。
- ゲージの輪郭を隠す** このオプションを選択すると、ゲージの輪郭が描画されません。
- Log スケール** Log スケールは、すべてのデータ点が正の数 (>0) である場合に使用できます。
- ポップアップ ラベル** このチェックボックスをオンにすると、チャートのデータ点上にカーソルを置いたときに、数値値がポップアップバルーンとして表示されます。

[LED] グループはLEDスタイルのゲージチャートに固有のグループで、LED表示の視覚プロパティを設定できます。



チャートプロパティ：プレゼンテーション (LED ゲージチャート)

- 桁** 表示する LED 表示の桁数を指定します。
- 色** 色ボタンをクリックし、選択した LED 用の色を指定します。これは、色の設定 (515 ページ) ダイアログを開きます。
- スタイル** ドロップダウン リストから LED の変異型をひとつ選択します。

59.8 アクション

[アクション] ページでは、オブジェクト上でクリックしたときに実行されるアクションを指定できます。ページは、ボタン オブジェクトの [アクション] ページと同じです。アクション (661 ページ) を参照してください。

59.9 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、チャートプロパティ：色 (785 ページ) と同じです。

59.10 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

59.11 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

59.12 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

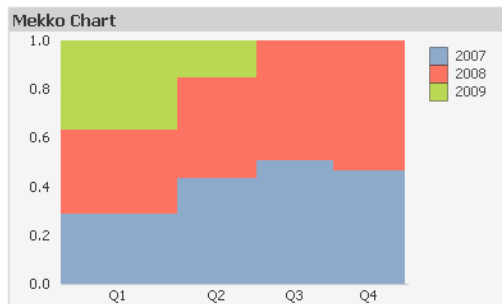
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

59.13 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

60 メッコチャート



メッコチャートの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。メッコチャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2軸のチャートでは、データを最大3レベルまで表示できます。メッコチャートは、マーケット分析などの領域で有効です。チャートを右クリックすると、メッコチャート：オブジェクトメニュー (881 ページ) が表示されます。チャートがアクティブなオブジェクトの場合、**オブジェクト** メニューからもアクセスできます。QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

60.1 メッコチャート：オブジェクトメニュー

メッコチャートでは、さまざまな幅の棒を使用してデータを表します。2軸のチャートでは、データを最大3レベルまで表示できます。メッコチャートは、マーケット分析などの領域で有効です。チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト** メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

- | | |
|--------------|--|
| プロパティ | プロパティ ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：ALT + ENTER。 |
| 注： | 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。 |
| 分離設定 | チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもチャートは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはチャートが分離されていない場合にのみ有効です。 |
| 分離解除 | 分離設定されたチャートを解除します。チャートは同時にデータにリンクされます。コマンドはチャートが分離されている場合にのみ有効です。 |

- 複製** チャートの全く同じコピーを作成します。分離設定されたチャートの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
- 順序** このカスケードメニューは、**デザイングリッド** コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。
- 最前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。
- 最背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。
- 前面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。
- 背面へ移動**
シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。
- すべての選択をクリア** チャートの軸と数式での選択をすべてクリアします。
- 印刷** 印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、チャートを印刷できます。
- PDF として印刷** PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で**印刷**ダイアログを開きます。
印刷ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。このコマンドは、PDF プリンタがシステムで使用可能な場合のみ使用できます。
- Excel 出力** 基底のデータ (チャートに相当するストレートテーブル) を Microsoft Excel にエクスポートします。Microsoft Excel が実行されていない場合は、自動的に起動されます。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
- エクスポート** チャートのイメージをファイルに保存するためのダイアログを開きます。イメージは、bmp、jpg、gif、または png 形式で保存できます。

クリップボードにコピー このメニューには、チャートのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。

値

値をテーブル形式でクリップボードにコピーします。

画像

チャート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、**ユーザー プロパティ : エクスポート** ページの設定に従います。

オブジェクト

シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。


リンク オブジェクト リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。


リンク オブジェクトを整列する


すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。

オブジェクトのリンクを解除する

オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。

最小化 オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が**オブジェクト プロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

最大化 オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が**オブジェクト プロパティ** ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。

元のサイズに戻す 最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。

ヘルプ QlikView ヘルプを開きます。

削除 シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。

60.2 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ : 基本設定 (738 ページ) を

参照してください。

60.3 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、**チャートプロパティ：軸** (747 ページ) と同じです。

60.4 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、**チャートプロパティ：軸の制限** (753 ページ) と同じです。

60.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、**チャートプロパティ：数式** (757 ページ) と同じです。

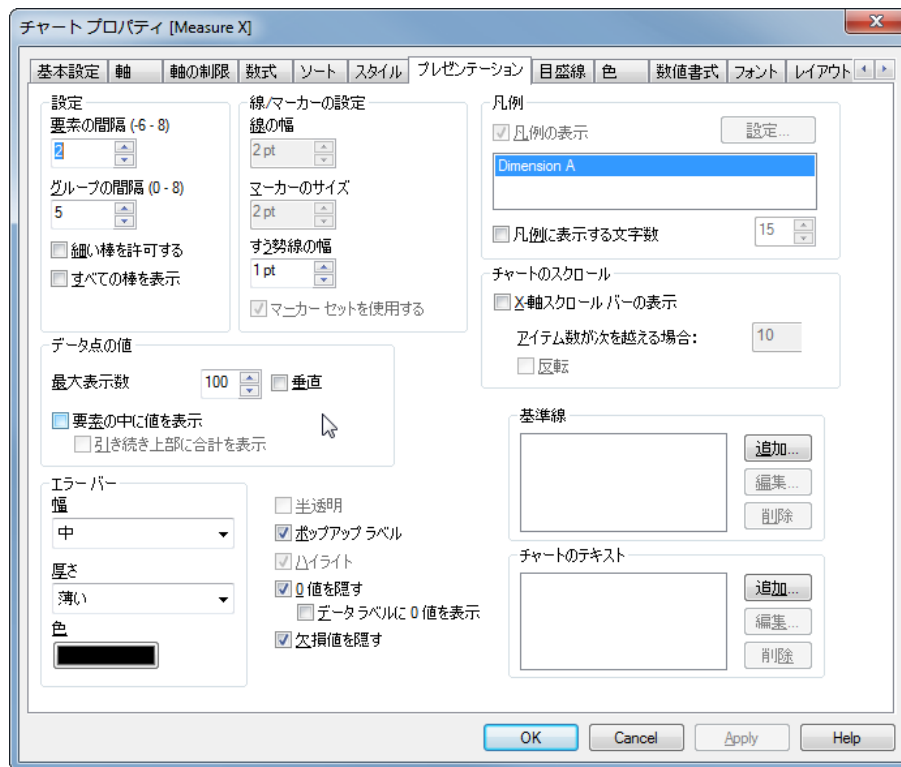
60.6 ソート

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの**ソート** ページと同じです。**チャートプロパティ：ソート** (770 ページ) を参照してください。

60.7 スタイル

このページでは、有効なソート順の1つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、**チャートプロパティ：スタイル** (771 ページ) と同じです。

60.8 チャートプロパティ:プレゼンテーション(棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート)



チャートプロパティ：プレゼンテーション

このページは、棒グラフ、折れ線グラフ、コンボチャート、レーダーチャート、メッコチャートに使用されます。

[棒設定] グループでは、棒グラフとコンボチャートで使用する棒に対して、さまざまな表示オプションを設定できます。

棒の間隔 (-6 - 8) クラスターの棒と棒の間の距離を設定します。負の数字では、棒が重なります。-6 ~ 8 の値を入力できます。

グループの間隔 (0 - 8) クラスター化された棒グラフでグループ化された値の間の距離を示します。0 ~ 8 の値を入力できます。

細い棒を許可する 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロットエリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。デフォルトでは、はっきり識別できるように少なくとも 4 ピクセル幅で棒が描画されます。このチェックボックスをオンにすると、1 ピクセル幅まで棒が圧縮されます。

すべての棒を表示 不連続 x- 軸を含むチャートの場合は、用意されているプロット エリアに収まるだけのデータ点が表示されます。残りのデータポイントは、チャートから削除されます。このチェックボックスをオンにするとすべてのデータ点を強制的に表示します。棒は圧縮され (**細い棒を許可する**) いくつかはその他によって部分的に隠されるかもしれません。

データ点の値 グループでは、in チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** で 1 つまたは複数のチャート式にこのオプションを選択した場合、データ点の値について表示オプションを設定できます。

最大表示数 このボックスでは、チャートに表示するデータ点の値の上限値を指定できます。制限を指定しない場合は、すべてのデータ点の値が表示されます。このため、チャートの読みやすさに影響することがあります。

垂直 値を縦に表示します。

要素の中に値を表示 このチェックボックスをオンにすると、要素の上に表示する代わりに、要素の中にデータ点の値を表示します。

引き続き上部に合計を表示 このチェックボックスをオンにすると、積み上げ棒グラフの各棒の上に合計の値が表示されます。このオプションは、**要素の中に値を表示** を選択したときにのみ使用できます。

エラー バー グループでは、チャートに使用されるエラーバーの表示オプションを決定します。

幅 エラーバーの幅を指定します。

厚さ エラーバーの厚さを指定します。

色 エラーバーの色を選択します。

線/マーカーの設定 グループでは、折れ線グラフとコンボチャートで使用される線とデータ点のマーカーの表示オプションを決定します。すう勢線の幅も決定できます。

線の幅 線の表示を指定した場合は、線の幅を決定します。値は、mm、cm、インチ ("、inch)、ピクセル (px、pxl、pixel)、ポイント (pt、pts、point)、または docunits (du、docunit) で指定できます。

マーカーのサイズ マーカーの表示を指定した場合は、マーカーのサイズを決定します。

すう勢線の幅 ここでは、すう勢線の幅を決定します。

マーカー セットを使用する このチェックボックスをオンにすると、マーカーの表示の種類 (リング、三角など) が増えます。

半透明 線を半透明に表示する場合は、このオプションをオンにします。

ポップアップ ラベル マウス ポインタを値に近づけたときに対応する軸の値をポップアップ ウィンドウに表示するには、このオプションをオンにします。

ハイライト このオプションをオンにすると、マウスポインタを近づけたときにマーカーや線をハイライト表示します。凡例がチャートに含まれている場合、複数の重なり合う値から1つの値を同様にハイライト表示できます。

0 値を隠す このチェックボックスをオンにすると、空値や0値の軸を排除します。このオプションは、デフォルトでオンになっています。

データラベルに0値を表示

このオプションは、**0 値を隠す** がオフの場合にのみ適用できます。チェックボックスがオンで、チャートプロパティ: 数式 (757 ページ) ページの **表示オプション** でチャート式の **データポイントの値** がオンの場合は、0 値がデータ点の上側にテキストとして表示されます。その他の場合は、0 値が隠されます。

欠損値を隠す このチェックボックスをオンにすると、すべての数式のすべての項目の NULL 値にのみ関連付けられた軸項目のすべての組み合わせが計算で無視されます。このオプションは、デフォルトでオンになっています。これをオフにすると、チャートで null 値をカウントするなど、特別な場合にのみ役立ちます。

凡例グループでは、チャートの軸データラベルの表示を制御できます。データラベルを表示するには、このチェックボックスをオンにします。データラベルは、チャートの現在の最上位レベルについてののみ表示されます。

凡例の表示 チャートにラベルを表示するにはこのチェックボックスをオンにします (デフォルトでオン)。設定ボタンをクリックし、凡例の書式 (777 ページ) を変更できます。チャートに軸の設定が無くても数式がいくつかある場合、このチェックボックスをオフにすると代わりに数式を X- 軸軸に表示します。

凡例に表示する文字数 軸およびチャートの凡例に表示する軸の値の文字列長を制限するには、このチェックボックスをオンにします。チャートでは、切り捨てられた値の後に、... が置かれます。

[チャートのスクロール] グループでは、チャート内でのスクロールについての設定を行えます。

X- 軸スクロールバーの有効化 X- 軸の場所にスクロールコントロールを表示するには、このチェックボックスをオンにします。スクロールバーを使用して、表示された X- 軸値の選択をスクロールできます。一度に表示される値の数は、**[アイテム数が次を越える場合:]** で設定した数になります。

反転 このボックスをチェックすると、数値の表示順序を反転できます。

基準線 グループでは、数値目盛の x- 軸または y- 軸の特定のポイントからチャートのプロットエリアを横断する基準線を定義できます。既存の基準線がウィンドウにリストされます。

追加 チャートに新しい基準線を作成するための **基準線 (778 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 基準線 (778 ページ) ダイアログで既存の基準線のプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存の基準線を削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

チャートのテキストグループは、自由に移動できるテキストをチャートに追加するために使用します。

追加 新しいチャートテキストを作成するための **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログを開きます。

編集 **チャートテキスト (780 ページ)** ダイアログで既存のテキストのプロパティを編集するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

削除 既存のテキストを削除するには、リスト内で強調表示してこのボタンをクリックします。

自由に移動できるテキストがチャートの左上に表示されますが、チャートがレイアウト編集モードの場合、配置し直すことができます。チャート コンポーネントのサイズ変更と移動 (736 ページ) を参照してください。

60.9 目盛線

目盛線 ページでは、X- 軸と Y- 軸の表示プロパティを設定できます。

このページは、**チャートプロパティ：目盛線 (棒 - 折れ線 - コンボ - レーダー - メッコチャート) (782 ページ)** と同じです。

60.10 色

色 ページでは表示色の設定を行えます。このページは、**チャートプロパティ：色 (785 ページ)** と同じです。

60.11 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

60.12 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

60.13 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

60.14 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

61 ピボットテーブル

Sales per CategoryName			
CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
Men's Clothes	Atles Lussekofta	\$30,126.55	1057
	Bow tie	\$9,534.57	1315
	Desperado Jeans	\$18,240.68	706
	Lenin Jeansshorts	\$14,900.64	828
	Mr2 Trousers	\$17,944.48	1067
	O-Man Underwear	\$1,649.87	298
	Rossi Bermuda Shorts	\$10,947.25	1397
	Samba Soccer Socks	\$4,941.14	1175
	US-Master Jeans	\$21,764.94	817
	Total	\$130,050.12	8660
Women's Clothes	Chantell Shirt	\$7,504.70	388
	Halter Dress	\$361,096.85	981
	Jack Flash Dress	\$42,638.00	722
	Langoste Shirt	\$4,433.35	246
	Le Baby Dress	\$47,571.88	623
	Minnki Pälsii	\$10,472.71	184
	Okkaba Skin Jackets	\$42,258.78	601
	Oyaki Kimono	\$9,084.42	806

ピボットテーブルの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ピボットテーブルやストレートテーブルは、チャートのプロパティをすべて保持しながらデータをテーブル形式に表示する特別なケースです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

ピボットテーブルは、最も強力なデータ分析ツールの 1 つです。多くの機能が備えられていますが、簡単に使用できます。ピボットテーブルは、クロステーブルのように、軸と数式を行と列に表示します。ピボットテーブルのデータは、グループ化できます。ピボットテーブルでは小計を表示できます。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しいピボットテーブルをすばやく作成することができます。

ピボットテーブルを右クリックすると、**ピボットテーブル：オブジェクトメニュー** (895 ページ) が表示されます。ピボットテーブルがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

61.1 ピボットテーブルの使用

ピボットテーブルでは、軸項目と数式軸を 1 つの垂直軸と 1 つの水平軸上に表示できます。軸は、垂直/水平軸間で、または同一軸内で自由に移動できます。これを「ピボット」と言います。QlikView では、マウスでドラッグアンドドロップすることでピボットできます。マウスでオブジェクトをポイントし、目的の位置にクリックアンドドラッグします。これを簡単にするために、項目が移動している間は、その枠線を青でハイライトしています。

注意！

ピボットを許可する チェックボックスを **チャートプロパティ：プレゼンテーション** (ピボットテーブル) (899 ページ) でオフにするとピボットできなくなります。

QlikView の複数軸ピボットテーブルは、その項目に小さな (+) と (-) アイコンを表示します。(+) アイコンは、テーブルが詳細を表示するためにさらに展開できることを示し、(-) アイコンは詳細を隠して明瞭性やスペースを確保するために折りたたむことを示します。

ピボットテーブル：オブジェクトメニュー (895 ページ) から **すべてを展開する**、**すべてを折りたたむ**、**軸 (行) を折りたたむ**、**軸 (列) を折りたたむ** コマンドにアクセスしてこれらの設定を変更することができます。

注意!

循環軸グループを使用する場合は、必ず最初に**すべてを展開**してから各軸レベルで展開するか折りたたみ、あらゆるレベル (表示されていないレベルを含む) が適切に展開されていることを確認してください。

例：

以下のピボットテーブルで、項目「*Product* (製品)」を垂直軸から水平軸に移動するには、マウスで「*Product* (製品)」列をポイントします。マウスの左ボタンを押しながら、カーソルを数式のラベル行の上側までドラッグします。ドラッグ中は、選択されている列とその移動先が青色で強調表示されます。

sum(Sales)				
Company	Product	Year	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	1998	3	3.0
		1999	2	2.0
		Total	5	2.5
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	2	1.0
Total			7	1.8
XYZ	A	1998	5	5.0
		1999	4	4.0
		Total	9	4.5
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	13	6.5
Total			22	5.5
Total			29	3.6

結果は次のようになります。

sum(Sales)							
Company	Product	A		B		Total	
	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8
	Total						7
XYZ	1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5
	Total						22
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6

軸項目だけでなく、数式行もピボットできます。

sum(Sales)		A		B		Total	
Company	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8
XYZ	1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6

結果は次のようになります。

sum(Sales)		Product	A	B	Total
ABC	1998	sum(Sales)	3	1	4
		avg(Sales)	3.0	1.0	2.0
	1999	sum(Sales)	2	1	3
		avg(Sales)	2.0	1.0	1.5
	Total	sum(Sales)	5	2	7
avg(Sales)	2.5	1.0	1.8		
XYZ	1998	sum(Sales)	5	7	12
		avg(Sales)	5.0	7.0	6.0
	1999	sum(Sales)	4	6	10
		avg(Sales)	4.0	6.0	5.0
	Total	sum(Sales)	9	13	22
avg(Sales)	4.5	6.5	5.5		
Total	sum(Sales)	14	15	29	
avg(Sales)	3.5	3.8	3.6		

軸の展開と折りたたみ

QlikView のピボットテーブルでは、軸を項目値単位で展開したり折りたたむことができます。これにより、他の項目値の合計を表示しながら、1 つまたは複数の項目値の詳細をドリルダウンすることができます。

注意！

ピボットテーブルの **チャートプロパティ : プレゼンテーションページ** で **常にすべて展開** チェックボックスをオンにすると、ピボットテーブルの展開/折りたたみオプションを無効にできます。

例 (展開):

以下のピボットテーブルで、*Company* (会社) 列の項目値の右にある (+) アイコンは、テーブルを展開して詳しい情報を参照できることを示しています。

sum(Sales)		
Company	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC <input type="checkbox"/>	7	1.8
XYZ <input type="checkbox"/>	22	5.5
Total	29	3.6

最初の (+) アイコンをクリックすると、会社 ABC の *Product* (製品) の詳細が表示されます。

sum(Sales)			
Company	Product	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC <input type="checkbox"/>	A <input type="checkbox"/>	5	2.5
	B <input type="checkbox"/>	2	1.0
	Total	7	1.8
XYZ <input type="checkbox"/>		22	5.5
Total		29	3.6

各項目値は個別に展開して、次のレベルの詳細を表示できます。特定の列のすべての項目

値を展開するには、その列を右クリックし、**オブジェクト**メニューから**すべてを展開する**を選択します。上記のテーブルの *Company* (会社) 列でこれを実行すると、結果は次のようになります。

sum(Sales)				
Company	Product		sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A		5	2.5
	B		2	1.0
	Total		7	1.8
XYZ	A		9	4.5
	B		13	6.5
	Total		22	5.5
Total			29	3.6

Product (製品) 列の (+) アイコンは、もう 1 つレベルがあることを示しています。*Product* (製品) 列で右クリックし、再度 **すべてを展開する** を選択します。結果は次のようになります。

sum(Sales)				
Company	Product	Year	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A	1998	3	3.0
		1999	2	2.0
		Total	5	2.5
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	2	1.0
Total			7	1.8
XYZ	A	1998	5	5.0
		1999	4	4.0
		Total	9	4.5
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	13	6.5
Total			22	5.5
Total			29	3.6

Year (年) 列には使用できる (+) アイコンがないので、このピボットテーブルでは 3 つの軸項目を使用できることがわかります。

例 (折りたたみ):

(+) アイコンで展開した場合と同様に、(-) アイコンをクリックすると、個々の値を折りたたむことができます。

上記のテーブルで、値 A の右の (-) アイコンをクリックすると、結果は次のようになります。

sum(Sales)				
Company	Product	Year	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	A		5	2.5
	B	1998	1	1.0
		1999	1	1.0
		Total	2	1.0
	Total			7
XYZ	A		9	4.5
	B	1998	7	7.0
		1999	6	6.0
		Total	13	6.5
	Total			22
Total			29	3.6

最終的には、最初の列すらも折りたたむことができ、垂直軸の数式の全合計だけが表示されるようになります。それには、軸項目の列のいずれかで右クリックし、**オブジェクト**メ

ニューから **軸 (列) を折りたたむ** を選択します。結果は次のようになります。

sum(Sales)		
	sum(Sales)	avg(Sales)
<input type="checkbox"/>	29	3.6

この状態から、再度展開できます。

展開/折りたたみ機能は、以下のピボットテーブルに示されているように、水平軸上の複数の軸項目に等しく適用されます。

sum(Sales)									
Product		A				B			Total
Company	Year	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)	sum(Sales)	avg(Sales)
ABC	<input type="checkbox"/> 1998	3	3.0	1	1.0	4	2.0		
	1999	2	2.0	1	1.0	3	1.5		
	Total	5	2.5	2	1.0	7	1.8		
XYZ	<input type="checkbox"/> 1998	5	5.0	7	7.0	12	6.0		
	1999	4	4.0	6	6.0	10	5.0		
	Total	9	4.5	13	6.5	22	5.5		
Total		14	3.5	15	3.8	29	3.6		

61.2 ピボットテーブル:オブジェクトメニュー

チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト**メニューでも表示されます。

ダイアログでは、次のコマンドを使用できます (コマンドはどの項目をクリックするかによります)。

プロパティ **プロパティ** ダイアログを開きます。ここから、チャートを定義する要素を設定できます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます: ALT+ENTER。

注: 現在のオブジェクトに関するノートを作成および共有ができます。詳細については、**ノートとコメント (566 ページ)**を参照してください。

すべてを展開する これらのコマンドは、展開 (+) と折りたたみ (-) アイコンで複数軸ピボットテーブルを操作します。

すべてを折りたたむ
軸 (行) を折りたたむ
軸 (列) を折りたたむ




分離設定 チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもテーブルは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはテーブルが分離されていない場合にのみ有効です。ピボットテーブルのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。

分離解除 分離設定されたピボットテーブルを解除します。ピボットテーブルは同時にデータにリンクされます。コマンドはピボットテーブルが分離されている場合にのみ有効です。

複製 ピボットテーブルの全く同じコピーを作成します。分離設定されたピボットテーブルの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。

順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動</p> <p>シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
データに列幅を合わせる	<p>テーブルの各列の幅をその最も長いデータ文字列に調整します。ヘッダーは計算に含まれます。</p>
列幅を同じにする	<p>ピボットテーブルの列上でマウスの右ボタンをクリックすると、このコマンドはフローメニューに表示されます。(メインメニューバーのオブジェクトメニューにはありません)</p> <p>テーブルのすべての列をポインタを置いた列の幅に設定します。</p> <p>列幅は、列の右端にポインタを置き (ポインタの表示が変わります)、ドラッグして個々に調整できます。</p>
カスタムセル書式	<p>[カスタムセル書式] ダイアログ (629 ページ) を開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合にのみ使用できます。</p>
値の変更	<p>入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。クリックされたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。</p>

値を元に戻す	入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。オプションが3つ入ったカスケードメニューを開きます。 ひとつの値を元に戻す クリックされたセルの基底となる項目値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 絞込値を元に戻す 絞り込まれたすべての基底となる項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。 すべての値を元に戻す すべての基底となる項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。
すべての選択をクリア	テーブルの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、ピボットテーブルを印刷できます。
PDF として印刷	PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で 印刷 ダイアログを開きます。 印刷 ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。
Excel 出力	テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。
エクスポート	名前を付けて保存 ダイアログが開き、出力されたテーブルを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。 提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキストファイル形式、HTML、XML、BIFF (Excel ネイティブ形式)、および QVD (QlikView データファイル) があります。

クリップボードにコピー	<p>このカスケードメニューには、シートオブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>テーブル全体をコピー ヘッダーと選択条件を含め、テーブルをクリップボードにコピーします。</p> <p>テーブルのデータのみをコピー テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。</p> <p>セルの値 (オブジェクトメニューを呼び出すときに) 右クリックしたセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。</p> <p>画像 シートオブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシートオブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ ダイアログのエクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト シートオブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンドメニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>
最小化	<p>オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
最大化	<p>オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化がオブジェクト プロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。</p>
元のサイズに戻す	<p>最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。</p>
ヘルプ	<p>QlikView ヘルプを開きます。</p>
削除	<p>シートからアクティブなシートオブジェクトを削除します。</p>

61.3 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) を参照してください。

61.4 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、チャートプロパティ：軸 (747 ページ) と同じです。

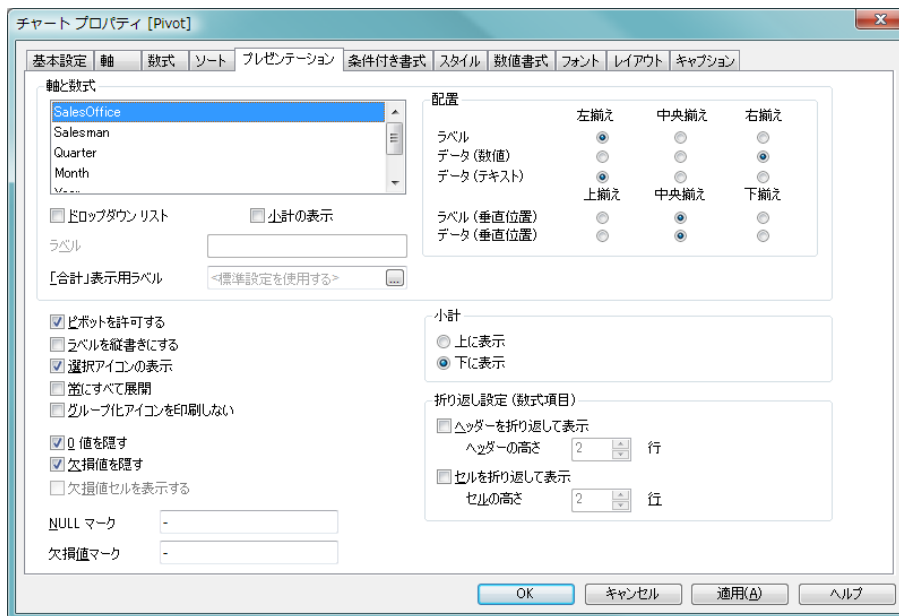
61.5 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

61.6 ソート

このページでは、有効なソート順の 1 つに基づいて軸の値をソートできます。このページは、棒グラフの **ソート** ページと同じです。チャートプロパティ：ソート (770 ページ) を参照してください。

61.7 チャートプロパティ:プレゼンテーション (ピボット テーブル)



チャートプロパティ：プレゼンテーション (ピボット テーブル)

[軸と数式] グループでは、ピボット テーブルの項目軸と数式がすべてリストされます。リストからひとつ選択し、個々にその配置を設定します。

ドロップダウン リスト	項目列に対してこのチェックボックスをオンにすると、ドロップダウンアイコンが列ヘッダーの右に表示されます。このアイコンをクリックすると、項目のすべての項目値を表示するリストボックスがテーブル上に開かれます。これで、項目がマルチボックスの行であるように選択と検索を行うことができます。
列/行のラベル	ここに入力したテキストは、選択した軸または数式のタイトルラベルとして表示されます (適用できる場合)。
「合計」表示用ラベル	ここでは、合計のラベルセルに表示するテキストを指定できます。明示的なラベルを指定しない場合、文字列「合計」が使用されます。
小計の表示	ピボットテーブルに小計を表示します。
配置	このグループでは、ピボットテーブル内の数式の値とそのラベルの配置を設定できます。 ラベル 、 データ (数値) 、 データ (テキスト) は個別に、 左揃え 、 中央揃え 、または 右揃え に設定できます。複数行のセルまたはラベルを使用する場合は、 ラベル (垂直位置) と データ (垂直位置) は 上揃え 、 中央揃え 、または 下揃え に設定できます。
ピボットを許可する	このオプションをオフにすると、ピボットテーブルの通常のピボット機能が無効にされます。
ラベルを縦書きにする	列ヘッダーのテキストが垂直に回転されます。
選択アイコンの表示	このチェックボックスをオンにすると、色の付いたインジケータが選択のある項目軸のヘッダーに表示されます。
常にすべて展開	このオプションを設定すると、[-] アイコンをクリックしても軸を折りたたむことができなくなります。
グループ化アイコンを印刷しない	ピボットテーブルを印刷する際に、部分的に展開または折りたたみを行うための [+] アイコンと [-] アイコンが印刷されないようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
0 値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、テーブルから 0 値を含む行や列を排除します。
欠損値を隠す	このチェックボックスをオンにすると、テーブルから空値を含む行や列を排除します。

欠損値セルを表示する このチェックボックスをオンにすると、クロステーブルで、軸の組み合わせが見つからないことを示すセルが通常の null 値にマップされます。これにより、null 値があるかどうか、または適用される属性式やスタイル書式に関して、数式をテストできます。この設定は、QlikView 7.5 以降で作成されたすべてのピボットテーブルでは、デフォルトでオンになっています。

NULL マーク ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。

欠損値マーク ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されます。

小計グループは、ピボットテーブルで合計と小計を表示するための設定に使用されます。

上に表示 このオプションをオンにすると、合計はピボットテーブルの上部または左側に表示されます。

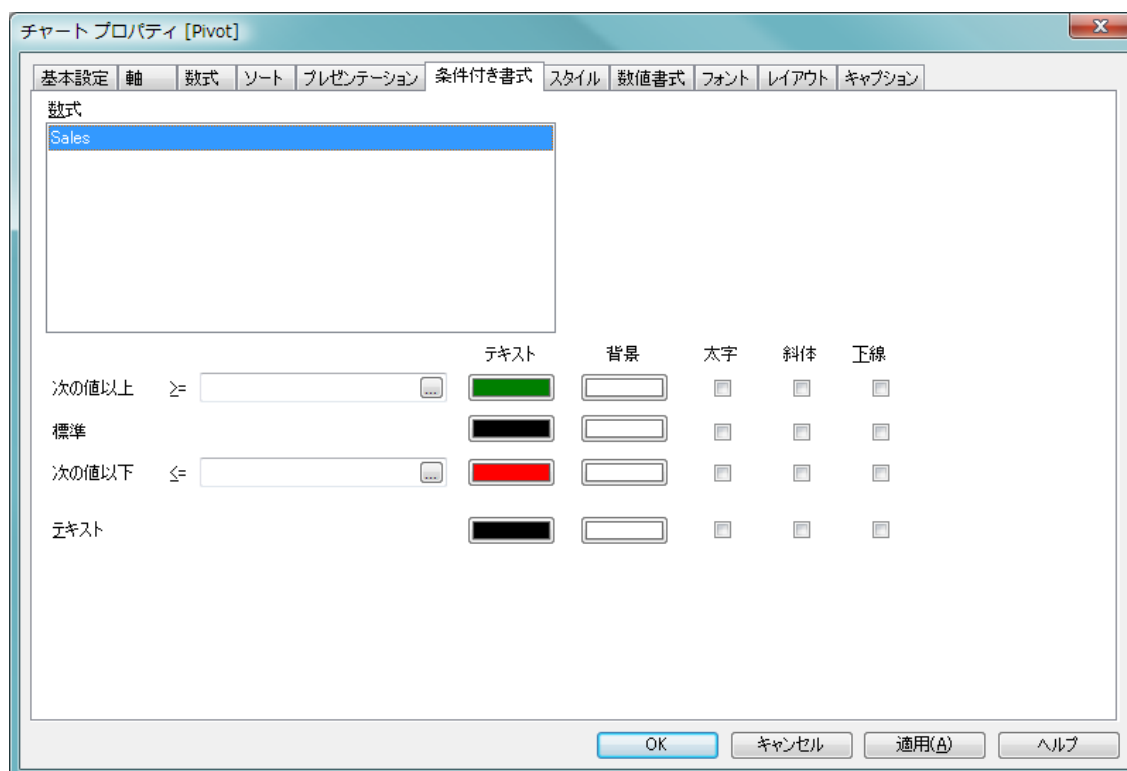
下に表示 このオプションを選択すると、合計は下部または右側に表示されます。

[折り返し設定 (数式項目)] グループでは、複数行に表示する値を指定できます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。

ヘッダーを折り返して表示 このオプションを選択した場合、ラベルの内容は 2 行以上で表示されます。[**ヘッダーの高さ (行)**] はセルの行数を決定します。

セルを折り返して表示 上記同様、その設定はデータセルに適用されます。値は、[**セルの高さ (行)**] で設定します。

61.8 チャートプロパティ: 条件付き書式

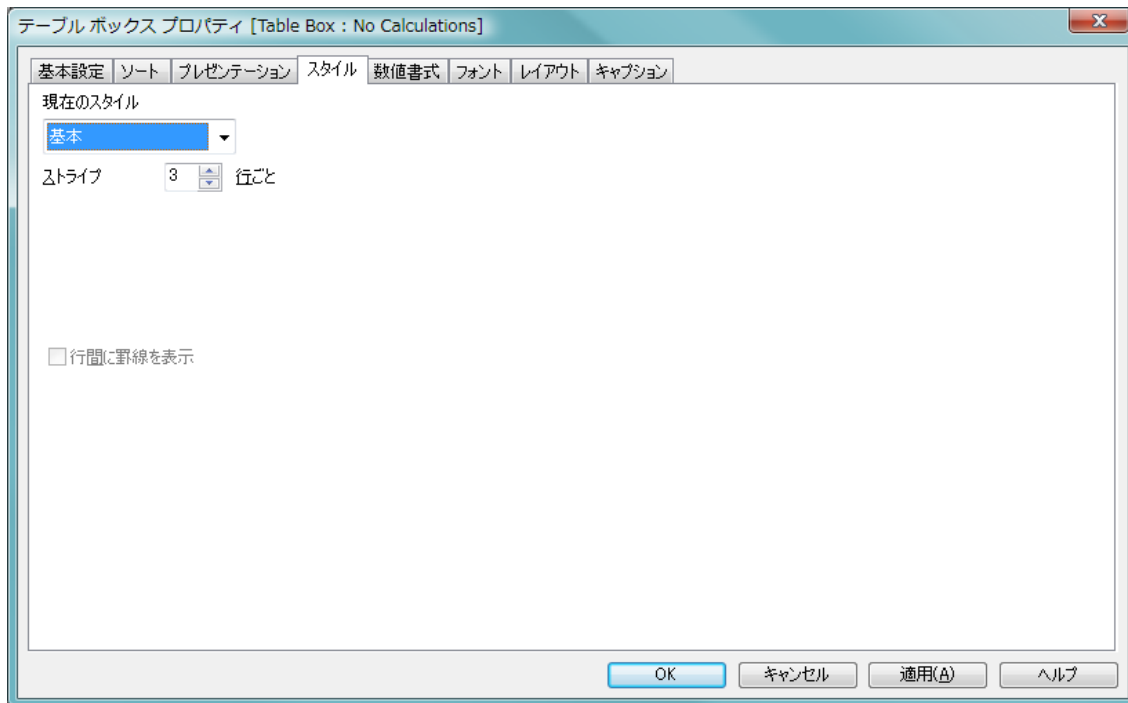


チャートプロパティ：条件付き書式

チャートプロパティ：条件付き書式 ページは、ピボットテーブルとストレートテーブルでのみ有効です。チャートウィンドウを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ** コマンドを選択して開きます。

[条件付き書式] は、値をハイライト表現するために使用され、異なるフォントスタイル、フォントの色、セルの色を適用して表示します。異なる区間に属する値には、通常、異なる表現が与えられます。値は、それぞれ異なる設定とともに **次の値以上**、**標準**、**次の値以下** オプションの3つの異なる区間を指定できます。[次の値以上] 区間は、編集ボックスに入力した数値で上区間となる値を指定し、[次の値以下] 区間は、入力した数値で下区間となる値を指定します。標準の値は、これら2つの制限の間となります。**テキスト** の値は、数値として解釈されなかった値です。

61.9 チャートプロパティ:スタイル



チャートプロパティ : スタイル

この[スタイル]ページは、テーブルボックス、ストレートテーブル、ピボットテーブルのQlikViewテーブルすべてに適用されます。ここでは、テーブル書式スタイルの設定を行います。

現在のスタイル ドロップダウン リストから適切なテーブルスタイルを選択します。ドロップダウン コントロールに値 **[カスタム]** が表示される場合は、テーブルにカスタムスタイルが適用されています。定義済みのスタイルの1つに設定を戻すと、カスタム書式が失われます。

ストライプ N 行ごと ここでは、影付きストライプを表示するかどうか、およびそれを表示する間隔を指定できます。

インデント モード この設定は、ピボットテーブルでのみ有効です。このチェックボックスをオンにすると、限定されたテーブル幅にいくつもの軸を置く場合に特に有用な少し異なるテーブルスタイルを設定できます。

第 1 軸のラベルのみを使用

この設定は、ピボットテーブルが **インデント モード** の場合のみ有効で、ピボットテーブルのスタイルをさらに修正できます。

軸項目に縦の罫線を表示 この設定は、縦のセルの境界線を軸列に表示するかどうかを決定します。

数式項目に縦の罫線を表示 上記と同じで、数式列に適用します。

行間に罫線を表示 項目詳細設定 (620 ページ) ダイアログで **段落後の行間** チェックボックスがオンの場合、このチェックボックスをオンにしてテーブルのスタイルをさらに変更することができます。

背景 背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。

セル背景色の透過性 色、または画像が **背景の設定** ダイアログで適用されている場合、ここでセルの背景の色、または画像の透過性を調整できます。

セルの枠線の透過性 セルの枠線をどのように表示するを設定します。

61.10 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

61.11 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

61.12 レイアウト

レイアウト ページでは、シートオブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

レイアウト (593 ページ) を参照してください。

61.13 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

62 ストレートテーブル

Sales per CategoryName			
CategoryName	ProductName	Sales	Quantity
		\$1,565,525.31	51952
Men's Clothes	Atlas Lussekofta	\$30,126.55	1057
Men's Clothes	Bow tie	\$9,534.57	1315
Men's Clothes	Desperado Jeans	\$18,240.68	706
Men's Clothes	Lenin Jeansshorts	\$14,900.64	826
Men's Clothes	Mr2 Trousers	\$17,944.48	1067
Men's Clothes	O-Man Underwear	\$1,649.87	298
Men's Clothes	Rossi Bermuda Shorts	\$10,947.25	1397
Men's Clothes	Samba Soccer Socks	\$4,941.14	1175
Men's Clothes	US-Master Jeans	\$21,764.94	817
Women's Clothes	Chartell Shirt	\$7,504.70	388
Women's Clothes	Halter Dress	\$361,096.85	981
Women's Clothes	Jack Flash Dress	\$42,638.00	722
Women's Clothes	Langoste Shirt	\$4,433.35	246
Women's Clothes	Le Baby Dress	\$47,571.88	623
Women's Clothes	Minnki Palsii	\$10,472.71	184
Women's Clothes	Okkaba Skin Jackets	\$42,258.78	601
Women's Clothes	Oyaki Kimono	\$9,084.42	806

ストレートテーブルの例

チャートは、数値データをグラフィカルに表現したものです。ピボットテーブルやストレートテーブルは、チャートのプロパティをすべて保持しながらデータをテーブル形式に表示する特別なケースです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) ページの **チャートの種類** を変更し、既存のチャートを別の表示に切り替えることができます。

ピボットテーブルとは異なり、ストレートテーブルは、小計を表示したり、クロステーブルとして動作することができません。しかし、列をソートしたり、各行に軸と数式の組み合わせを含めることができます。

ツール メニューから **クイックチャートウィザード** (927 ページ) を選択し、新しいストレートテーブルをすばやく作成することができます。

ストレートテーブルを右クリックすると、**ストレートテーブル：オブジェクトメニュー** (906 ページ) が表示されます。ストレートテーブルがアクティブなオブジェクトの場合、**[オブジェクト]** メニューからもアクセスできます。

QlikView で使用できるチャートの種類に関しては、**チャートの種類** (740 ページ) を参照してください。

62.1 ストレートテーブルの使用

ソート

任意の列でストレートテーブルをソートできます。列を右クリックし、コンテキストメニューから **[ソート]** を選択するだけです。これは、ストレートテーブルの **[プロパティ]** ダイアログの **[ソート]** ページで **[優先順位]** リストの上部に列を移動する場合と同じです。また、列ヘッダーをダブルクリックしてソートする方法もあります。

列の並べ替え

軸列と数式列は、マウスでドラッグアンドドロップすることで移動します。列のタイトルをポイントし、マウスボタンを押しながら、新しい位置に列をドラッグします。軸列と数式列は、任意の順序で組み合わせることができます。

62.2 ストレートテーブル:オブジェクトメニュー




チャートを右クリックするとフロートメニューが表示されます。このメニューは、チャートがアクティブな場合に、**オブジェクト**メニューでも表示されます。

メニューには以下のコマンドがあります。

プロパティ	プロパティ ダイアログを開きます。ここから、ストレートテーブルを定義する要素を設定できます。
注 :	現在のオブジェクトに関するノートの作成および共有ができます。詳細については、 ノートとコメント (566 ページ) を参照してください。
分離設定	チャートのタイトルに "(分離)" と表示され、ドキュメントで選択が行われてもテーブルは更新されません (チャートで選択を行うことは可能です)。コマンドはテーブルが分離されていない場合にのみ有効です。 ストレートテーブルのコピーを作成して分離すると、コピーとオリジナルで直接的な比較を行えます。
分離解除	分離設定されたストレートテーブルを解除します。ストレートテーブルは同時にデータにリンクされます。コマンドはストレートテーブルが分離されている場合にのみ有効です。
複製	ストレートテーブルの全く同じコピーを作成します。分離設定されたストレートテーブルの複製を作成すると、その複製の分離設定は解除されます。
データに列幅を合わせる	テーブルの各列の幅をその最も長いデータ文字列に調整します。ヘッダーは計算に含まれます。
列幅を同じにする	ストレートテーブルの列上でマウスの右ボタンをクリックすると、このコマンドはフロートメニューに表示されます。(メインメニューバーの オブジェクト メニューにはありません) テーブルのすべての列をポインタを置いた列の幅に設定します。 列幅は、列の右端にポインタを置き (ポインタの表示が変わります)、ドラッグして個々に調整できます。
ソート	ストレートテーブルの列上でマウスの右ボタンをクリックすると、このコマンドはフロートメニューに表示されます。(メインメニューバーの オブジェクト メニューにはありません)テーブルの行は、指定した列でソートされます。ソート順は、 チャートプロパティ : ソート ページで設定します。

カスタム セル書式	[カスタムセル書式] ダイアログ (629 ページ) を開きます。ここでは、クリックした列のセルの書式を設定できます。このカスケードメニューは、 デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合にのみ使用できます。
順序	<p>このカスケードメニューは、デザイングリッド コマンドが [表示] メニュー (62 ページ) でアクティブになっている場合や、コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示 (96 ページ) チェックボックスがオンの場合にのみ使用できます。シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを設定するためのコマンドが 4 つ含まれています。有効なレイヤー番号は -128 から 127 です。</p> <p>最前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最大値に設定します。</p> <p>最背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを、現在のシートの任意のシートオブジェクトで使用されている値の最小値に設定します。</p> <p>前面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ増やします。最大値は 127 です。</p> <p>背面へ移動 シートオブジェクトのレイアウトレイヤーを 1 つ減らします。最小値は -128 です。</p>
値の変更	入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。クリックされたセルを入力編集モードに設定します。セルで入力アイコンをクリックする場合と同じです。
値を元に戻す	<p>入力フィールドの inputsum 集計を含む数式列に対してのみ使用できます。オプションが 3 つあったカスケードメニューを開きます。</p> <p>ひとつの値を元に戻す クリックされたセルの基底となる項目値をスクリプトのデフォルト値に戻します。</p> <p>絞込値を元に戻す 絞り込まれたすべての基底となる項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。</p> <p>すべての値を元に戻す すべての基底となる項目値の値をスクリプトのデフォルト値に戻します。</p>
すべての選択をクリア	テーブルの軸と数式での選択をすべてクリアします。
印刷	印刷：基本設定 (111 ページ) ダイアログを表示し、ストレートテーブルを印刷できます。

PDF として印刷	<p>PDF-XChange 3.0 プリンタがあらかじめ選択された状態で印刷ダイアログを開きます。</p> <p>印刷ボタンをクリックすると、PDF 出力ファイルのファイル名を指定するように指示されます。</p>
Excel 出力	<p>テーブルを Microsoft Excel にエクスポートします。このとき Excel が実行していなければ自動的に起動されます。QlikView は BIFF 形式 (ネイティブ Excel 形式) でエクスポートします。テーブルは、新しい Excel ワークシートに表示されます。この機能が動作するには、コンピュータに Microsoft Excel 97 以降がインストールされている必要があります。</p>
エクスポート	<p>名前を付けて保存 ダイアログが開き、出力されたテーブルを保存する場所、ファイル名、ファイルの種類を指定できます。</p> <p>提供されるファイル形式には、さまざまな区切り記号付きテキストファイル形式、HTML、XML、BIFF (Excel ネイティブ形式)、および QVD (QlikView データ ファイル) があります。</p> <hr/> <p>注意!</p> <p>Excel に出力する場合、ミニ チャートは表示されません。</p> <hr/>
クリップボードにコピー	<p>このカスケード メニューには、シート オブジェクトのためのさまざまなコピー オプションが含まれています。</p> <p>テーブル全体をコピー</p> <p>ヘッダーと選択条件を含め、テーブルをクリップボードにコピーします。</p> <p>テーブルのデータのみをコピー</p> <p>テーブルの値のみをクリップボードにコピーします。</p> <p>セルの値</p> <p>(オブジェクト メニューを呼び出すときに) 右クリックしたセルのテキスト値をクリップボードにコピーします。</p> <p>画像</p> <p>シート オブジェクトの画像をクリップボードにコピーします。画像がシート オブジェクトのキャプションおよび枠線を含むか除外するかは、ユーザー プロパティ : エクスポート ページの設定に従います。</p> <p>オブジェクト</p> <p>シート オブジェクト全体をクリップボードにコピーし、レイアウトの別の場所や、QlikView の現在のインスタンス内で開いている他のドキュメントの別の場所に貼り付けることができます。</p>
リンク オブジェクト	<p>リンク オブジェクト用の次のコマンド メニューを開きます。</p> <p>リンク オブジェクトを整列する</p> <p>すべてのシート上にある他のリンク オブジェクトはすべて、選択されたオブジェクトと同じ位置、同じ大きさに整列されます。</p> <p>オブジェクトのリンクを解除する</p> <p>オブジェクト間のリンクを外し、異なるオブジェクトとしてそれぞれに異なるオブジェクト ID を付与します。</p>

最小化	オブジェクトをアイコン化します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最小化が オブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
最大化	オブジェクトをシート全体に拡大します。オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは、最大化が オブジェクトプロパティ ダイアログの キャプション (597 ページ) で許可されている場合にのみ使用できます。
元のサイズに戻す	最小化または最大化したオブジェクトを直前のサイズと場所に戻します。最小化オブジェクトのアイコンをダブルクリックする、または最大化オブジェクトのキャプション (表示されている場合) で  をクリックしても同じ結果になります。このコマンドは最小化または最大化オブジェクトでのみ使用できます。
ヘルプ	QlikView ヘルプを開きます。
削除	シートからアクティブなシート オブジェクトを削除します。

62.3 基本設定

基本設定 ページでは、チャートの種類を設定したり、チャートの名前を選択することなどが可能です。このページは、すべてのチャートの種類で同じです。チャートプロパティ：基本設定 (738 ページ) を参照してください。

62.4 軸

軸 ページでは、チャートに表示する軸を設定します。このページは、チャートプロパティ：軸 (747 ページ) と同じです。

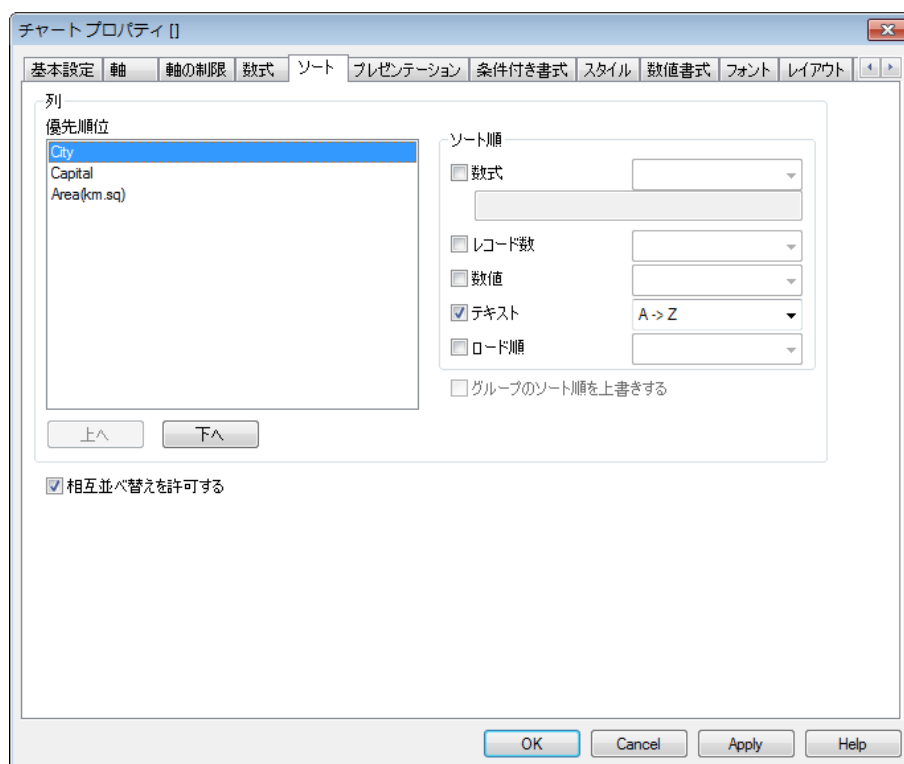
62.5 軸の制限

[軸の制限] ページには、チャートで軸項目の数を確認できるコントロールがあります。このページは、チャートプロパティ：軸の制限 (753 ページ) と同じです。

62.6 数式

[数式] ページでは、チャートに表示する数式を設定します。このページは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) と同じです。

62.7 チャートプロパティ: ソート(ストレートテーブル)



チャートプロパティ : ソート (ストレートテーブル)

チャートプロパティ : 軸 ページは、チャートを右クリックし、**オブジェクト** メニューの**プロパティ** を選択して開きます。

ここでは、利用できるソート順からチャートの軸のソート順を決めます。

ストレートテーブルに定義された変数と数式は、**列** グループにリストされます。

優先順位

ソート優先順にリストされる列として選択した軸/数式が含まれます。いずれかの列を選択すると、その列の値のソート順を **ソート順** グループで設定できます。

また、**上へ** ボタンまたは **下へ** ボタンのいずれかをクリックしてソートの優先順位を変更できます。

ソート順

このグループでは、列の値のソート順を設定できます。

数式

このソート オプションの下にあるテキスト編集ボックスに入力した数式に基づいて列の値をソートします。

レコード数

列の値をレコード数 (テーブル内に現れる数) でソートします。

数値

列の値を数値順にソートします。

テキスト

列の値をアルファベット順にソートします。

ロード順

列の値をその最初のロード順でソートします。

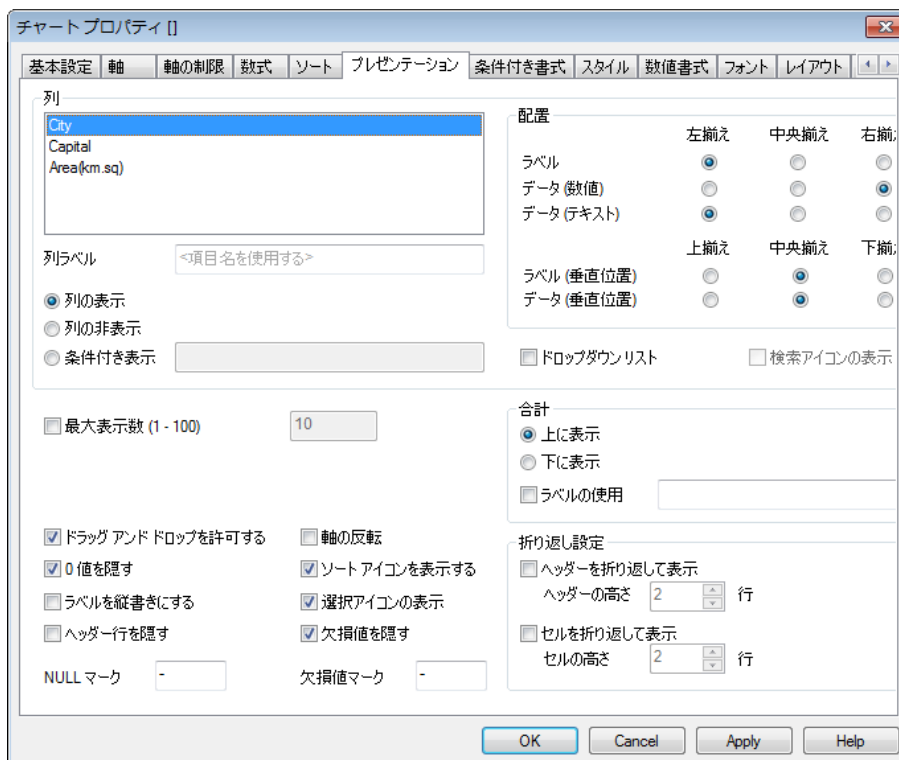
グループのソート順を上書きする

このチェックボックスは、**優先順位** リストでグループ軸を選択した場合にのみ有効です。通常、グループ軸のソート順は、グループプロパティを使用してグループの各項目に対して決定されます。このチェックボックスをオンにすると、グループレベルのこのような設定を上書きし、グループのアクティブな項目に関係なく、軸に1つのソート順を適用できます。

相互並べ替えを許可する

このチェックボックスをオフにすると、**オブジェクトのソート** コマンドを無効にします。

62.8 チャートプロパティ: プレゼンテーション (ストレートテーブル)



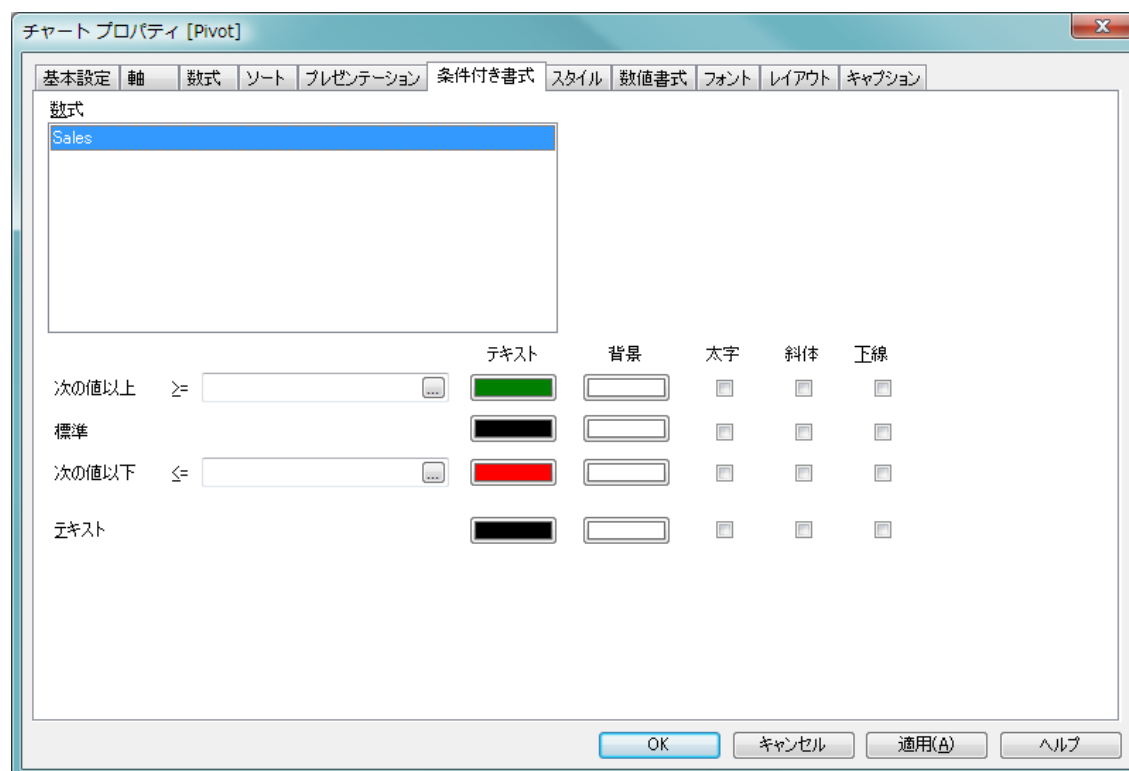
チャートプロパティ : プレゼンテーション (ストレートテーブル)

ストレートテーブルに定義された軸と数式は、**列** グループにリストされます。列をひとつ選択すると、その設定を変更できます。

列ラベル	列ラベルは、項目のラベルを表示し、編集することもできます。
列の表示	このラジオ ボタンを選択すると、テーブルがレイアウトに描画されるときに選択した列が表示されます。
列の非表示	ユーザーに非表示の項目でストレートテーブルをソートしたい場合があります。 列の非表示 オプションで、ソートを目的とした項目を有効にしたまま隠すことができます。ソートの設定は、チャートプロパティ：ソート(ストレートテーブル) (910 ページ)の 列グループの優先順位 で指定できます。
条件付き表示	列は、テーブルが描画されるたびに評価される条件式に基づいて表示/非表示にされます。条件が真の場合にのみ、列が表示されます。... ボタンをクリックすると、完全な [数式の編集] ダイアログ (917 ページ) が開かれ、長い数式を簡単に編集できます。
配置	このグループでは、ストレートテーブル内の軸値、数式の値およびそのラベルの配置を設定できます。 ラベル、データ (数値)、データ (テキスト) は個別に、 左揃え、中央揃え、または 右揃え に設定できます。複数行のセルまたはラベルを使用する場合は、 ラベル (垂直位置) と データ (垂直位置) は 上揃え、中央揃え、または 下揃え に設定できます。
ドロップダウン リスト	ドロップダウン リスト オプションは、選択した列のヘッダの左側にドロップダウン矢印アイコンを追加します。アイコンをクリックして、ドロップダウン データ リストからデータにアクセスします。これは、マルチ ボックスで選択するのとほぼ同じです。
検索アイコンの表示	数式列に対して 検索アイコンの表示 チェック ボックスをオンにすると、検索アイコンが列ヘッダーの左に表示されます。アイコンをクリックすると、検索ボックスが開きます。ここで、検索条件 (>100 000 など) を入力します。ENTER キーを押すと、検索条件と一致する数式値を持つすべてのテーブル行が選択されます。
最大表示数 (1 - 100)	ここには、表示する最大行数を設定します。
ドラッグ アンド ドロップを許可する	このオプションにより、ヘッダーをドラッグ アンド ドロップしてテーブルの項目順をソートできます。軸列と数式列は、任意の順序で組み合わせることができます。
軸の反転	このチェックボックスをオンにすると、ストレートテーブルは 90 度置換えられ、列データが水平に表示されます。
0 値を隠す	この[0 値を隠す]チェックボックスをオンにすると、テーブルから 0 値または NULL 値のみを含む数式を排除します。

ソート アイコンの表示	このオプションは、テーブルで現在ソートされている項目の列ヘッダーにソートアイコンを追加します。アイコンは、昇順と降順を反映して反転します。
ラベルを縦書きにする	列ヘッダーのラベルが垂直に回転されます。
選択アイコンの表示	このチェックボックスをオンにすると、色の付いたインジケータが選択のある項目列のヘッダーに表示されます。
ヘッダー行を隠す	このチェックボックスをオンにすると、ヘッダー (ラベル) 行がないテーブルが表示されます。
欠損値を隠す	このオプションは、ストレートテーブルでは機能しません。
NULL マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで NULL 値を表示する際に使用されます。
欠損値マーク	ここに入力されたマークは、テーブルで欠損値を表示する際に使用されます。
合計	合計は、次の設定に従った数式の列に表示します。 上に表示 合計は、テーブルの上部に表示されます。 下に表示 合計は、テーブルの下部に表示されます。 ラベルの使用 ここでは、合計のラベルを指定できます。
折り返し設定	このグループでは、テーブルのヘッダーとデータセルで複数行に値を表示する設定ができます。これは、長いテキスト文字列などの表示に役立ちます。 ヘッダーを折り返して表示 このオプションを選択すると、ヘッダーの内容を複数行で表示します。 ヘッダーの高さ _ 行 ここでは、ヘッダーの行数を指定できます。 セルを折り返して表示 このオプションを選択すると、セルの内容を複数行で表示します。 セルの高さ _ 行 ここでは、セルの行数を指定できます。

62.9 チャートプロパティ: 条件付き書式

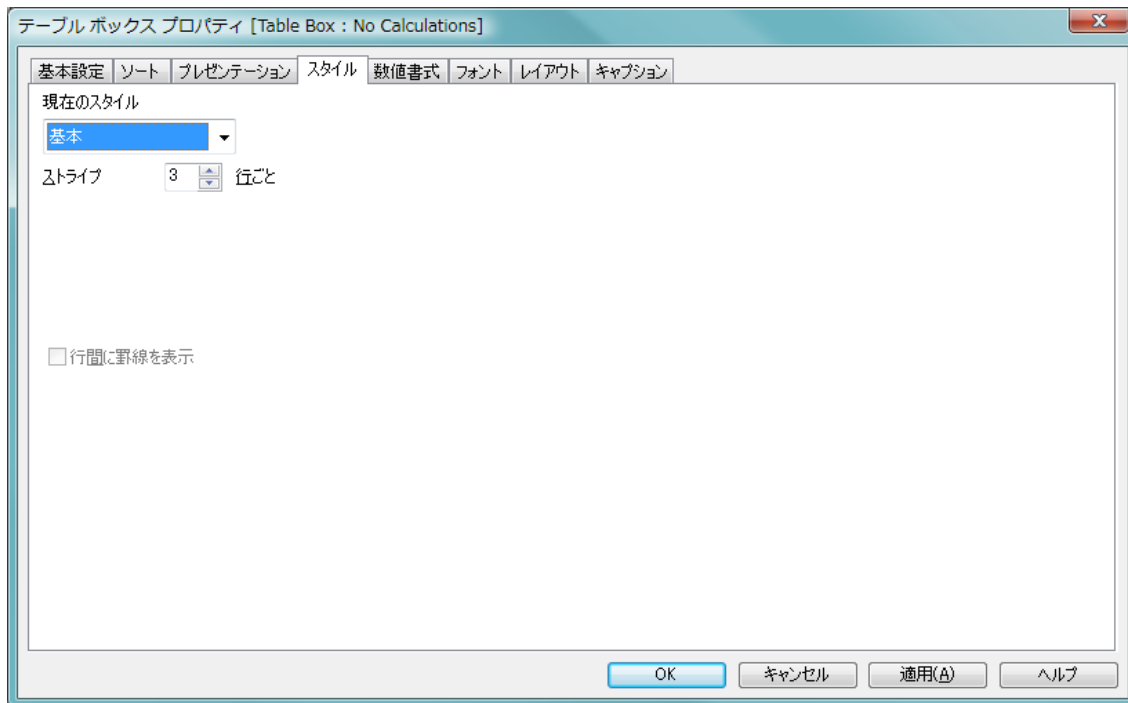


チャートプロパティ：条件付き書式

チャートプロパティ：条件付き書式 ページは、ピボットテーブルとストレートテーブルでのみ有効です。チャートウィンドウを右クリックし、フロードメニューから**プロパティ** コマンドを選択して開きます。

[条件付き書式] は、値をハイライト表現するために使用され、異なるフォントスタイル、フォントの色、セルの色を適用して表示します。異なる区間に属する値には、通常、異なる表現が与えられます。値は、それぞれ異なる設定とともに **次の値以上**、**標準**、**次の値以下** オプションの3つの異なる区間を指定できます。[次の値以上] 区間は、編集ボックスに入力した数値で上区間となる値を指定し、[次の値以下] 区間は、入力した数値で下区間となる値を指定します。標準の値は、これら2つの制限の間となります。**テキスト** の値は、数値として解釈されなかった値です。

62.10 チャートプロパティ:スタイル



チャートプロパティ : スタイル

この [スタイル] ページは、テーブルボックス、ストレートテーブル、ピボットテーブルの QlikView テーブルすべてに適用されます。ここでは、テーブル書式スタイルの設定を行います。

現在のスタイル ドロップダウン リストから適切なテーブルスタイルを選択します。ドロップダウン コントロールに値 **[カスタム]** が表示される場合は、テーブルにカスタムスタイルが適用されています。定義済みのスタイルの 1 つに設定を戻すと、カスタム書式が失われます。

ストライプ N 行ごと ここでは、影付きストライプを表示するかどうか、およびそれを表示する間隔を指定できます。

インデント モード この設定は、ピボットテーブルでのみ有効です。このチェックボックスをオンにすると、限定されたテーブル幅にいくつもの軸を置く場合に特に有用な少し異なるテーブルスタイルを設定できます。

第 1 軸のラベルのみを使用

この設定は、ピボットテーブルが **インデント モード** の場合のみ有効で、ピボットテーブルのスタイルをさらに修正できます。

軸項目に縦の罫線を表示 この設定は、縦のセルの境界線を軸列に表示するかどうかを決定します。

数式項目に縦の罫線を表示 上記と同じで、数式列に適用します。

行間に罫線を表示	項目詳細設定 (620 ページ) ダイアログで 段落後の行間 チェックボックスがオンの場合、このチェックボックスをオンにしてテーブルのスタイルをさらに変更することができます。
背景	背景の設定 (589 ページ) ダイアログを開きます。
セル背景色の透過性	色、または画像が 背景の設定 ダイアログで適用されている場合、ここでセルの背景の色、または画像の透過性を調整できます。
セルの枠線の透過性	セルの枠線をどのように表示するを設定します。

62.11 数値

数値書式 ページでは数値の表示形式の設定を行えます。このページは、棒グラフの **数値書式** ページとほぼ同じです。

チャートプロパティ：数値書式 (789 ページ) を参照してください。

62.12 フォント

フォント ページでは、チャート内のテキストのフォントを変更できます。このページは、リストボックスの **フォント** ページと同じです。

フォント (592 ページ) を参照してください。

62.13 レイアウト

レイアウト ページでは、シート オブジェクトをレイアウトに表示する方法を指定できます。これには、形、枠線、およびオブジェクトが存在するレイヤーの設定が含まれます。このページは、リストボックスの **レイアウト** ページと同じです。

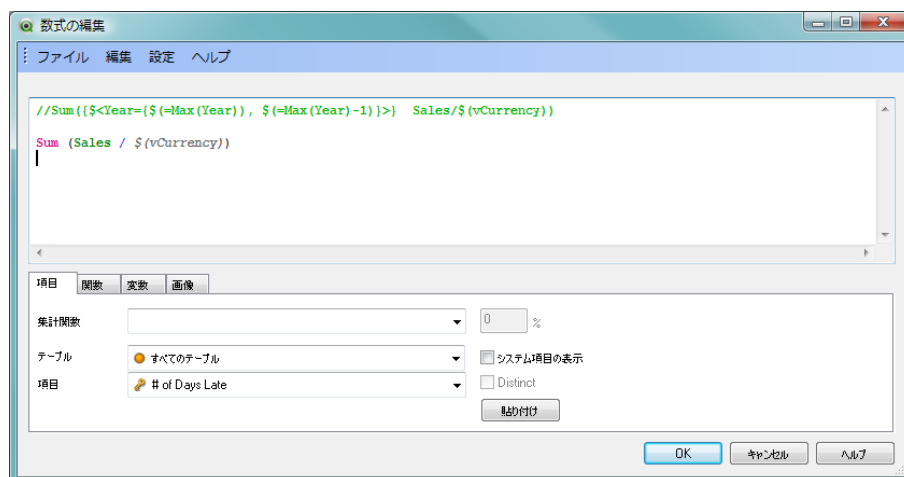
レイアウト (593 ページ) を参照してください。

62.14 キャプション

キャプション ページでは、背景色と前景テキストの色をアクティブな状態と非アクティブな状態で別々に設定するなど、キャプションの詳細設定を行えます。このページは、オブジェクト、シート、およびドキュメントレベルの **キャプション** ページと同じです。

キャプション (597 ページ) を参照してください。

63 [数式の編集] ダイアログ



[数式の編集] ダイアログ

このダイアログは、チャートプロパティ：数式 (757 ページ) ページの数式リストの下にある **追加** ボタンを選択するか、既存の数式を右クリックして **数式の追加** または **数式の編集** を選択すると開きます。

主にチャートの数式で使われますが、計算式 (1053 ページ) が必要なところであれば、他の数式の構築や編集にも同じダイアログが使用されます。プログラムを通じて、テキストの編集ボックスの隣りにある 3 つのドットシンボルのボタンをクリックすると、一様にアクセスできます。

ダイアログの主要部分は **数式** 編集領域で、大きな数式に対応するためにサイズを変更できます。その下には 4 つのタブ **項目**、**関数**、**変数**、**画像** があります。

数式 OK

選択した数式の編集領域です。数式全部をここに入力することもできますが、ほとんどの場合、以下に説明するタブを使用して数式を構築するのが便利です。

数式 OK のラベルは、プログラムによって数式の構文が正しい (有効である) と判断されると表示されます。そうでない場合は、ラベルに **[適切な項目名ではありません]**、**[Error in expression] (構文エラー)**、**[Garbage after expression] (不要なデータがあります)** といったエラーメッセージが表示されます。数式が有効でない限り、**[OK]** ボタンをクリックしてダイアログを閉じるのにはあまり意味がありません。

項目

[項目] タブには、項目データを基準に分析用の集計関数を作成するために使用するコントロールがあります。

集計 最初のドロップダウンには、利用できる分析用の集計関数のリストが含まれています。(例：**最初の文字列** や **最後の文字列** 関数は、ピボットテーブルにテキストを表示するために使用できます。)

テーブル このドロップダウン リストでは、下の **[項目]** リストに表示される項目をひとつの特定の内部テーブルに制限できます。

項目 このドロップダウンには、使用可能な項目名のリストが含まれています。を用いて MEASURE としてロードされた項目 *Direct Discovery* (193 ページ) 関数は、MEASURE の印が付いています。MEASURE 項目は、集計関数 (364 ページ) (集計関数)、Sum (合計値)、Avg (平均値)、Count (値の個数)、Min (最小値)、Max (最大値) に対してのみ使用できます。より高度な使用方法としては、またはデータベース特有の関数については、**SQL** ステートメントを使用して有効な SQL 関数を実行します。ただし、Direct Discovery でロードしたテーブルまたはビューしか参照できません。

システム項目の表示 このボックスをオンにすると、システム項目がダイアログの **項目** リストに表示されます。

Distinct デフォルトで、統計関数は出現数に基づいて計算されます。**[Distinct]** チェックボックスをオンにすると、数式は重複値を無視して計算されます。(**distinct** 修飾子の詳細情報に関しては *チャート集計関数* (957 ページ) を参照してください。)

貼り付け このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

関数

[関数] タブには、数式に一般的な QlikView 関数を入力するために使用するコントロールが含まれています。

関数の種類 このドロップダウンリストでは、下の **関数** のリストに一度に表示される関数をひとつの種類に制限できます。

関数 このドロップダウンは、有効な QlikView 関数のすべてのリストを含んできます (限定された専用のスクリプト関数以外)。
[関数] タブの下部にあるパネルに、選択した関数の引数の構文が表示されます。

貼り付け このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

変数

変数 タブには、数式に QlikView 変数を入力するために使用するコントロールが含まれています。

変数 ドロップダウンには、ドキュメントで現在定義されている変数すべてのリストが含まれます。

システム変数の表示 このボックスをオンにすると、システム変数が **変数** リストに表示されます。

貼り付け このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

[変数] タブに、**変数** リストで選択した変数の現在の値を表示するパネルがあります。

画像

画像 タブには、QlikView で使用できる 内部ファイル (187 ページ) にアクセスするために使用するコントロールが含まれます。他の連結された画像ファイルにアクセスすることも可能です。この機能はレイアウトの特定の部分に制限されます。

画像フォルダ	このドロップダウンには、使用可能な画像フォルダのリストが含まれています。
画像	このドロップダウンには、選択したフォルダにある画像のリストが含まれています。
詳細設定	このボタンをクリックすると、 [画像セレクト] ダイアログで画像グループから直接選択できます。
貼り付け	このボタンをクリックすると、数式のコンポーネントとして選択結果を入力します。

[画像] タブの右側に、現在選択されている画像が表示されるパネルがあります。

また、**[数式の編集]** ダイアログには次のメニュー コマンドとボタンが含まれます。

63.1 [ファイル] メニュー

数式ファイルにエクスポート	[数式ファイルにエクスポート] コマンドを使用して 数式 編集ボックスの内容をテーブル ファイルとして保存することができます。ファイルは拡張子 .qve で保存されます。
ファイルの挿入	先に作成された数式ファイルは、 [ファイルの挿入] コマンドを使用してスクリプトに挿入することができます。
配色ウィザード	配色ウィザード (921 ページ) を使用して配色の数式を作成できます。
印刷	数式を印刷するための Windows 標準の 印刷 ダイアログを開きます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます： CTRL+P。

63.2 [編集] メニュー

元に戻す	直前の変更を元に戻します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+Z。
やり直し	最後の[元に戻す]をやり直します。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+Y。
切り取り	強調表示されたテキストをクリップボードにエクスポートします。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+X。
コピー	強調表示されたテキストをクリップボードにコピーします。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+C。
貼り付け	クリップボードの内容をダイアログのカーソルの位置に貼り付けます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+V。
クリア	数式全体をクリアします。
すべて選択	数式全体を選択します。
検索/置換	ダイアログが開かれ、数式内の数字または文字を検索して置換することができます。このコマンドは、次のキーボードショートカットで呼び出すこともできます：CTRL+F。

63.3 [設定] メニュー

ユーザー プロパティ ユーザー プロパティ：エディタ (91 ページ) ページを開きます。

63.4 配色ウィザード

[数式の編集] ダイアログの [ファイル] メニューから開くことができる**配色ウィザード**を使用すると、配色の数式、つまり特定の計算基準から動的に色を計算する数式を作成できます。

たとえば、100 前後の値を持つ計算されたインデックスが表示されるピボットテーブルがあるとし、インデックスの値は、高いほどよいと判断できます。特定の軸の値が 100 を大きく超えるインデックスを持つ場合に、ピボットテーブルのその行が緑色でマークされるようにできます。一方で、インデックス値が 100 よりかなり低い場合は、赤色でマークされるのが適切です。また、100 を示す黄色を使用して、色が段階的に変化する動的な色にすることもできます。

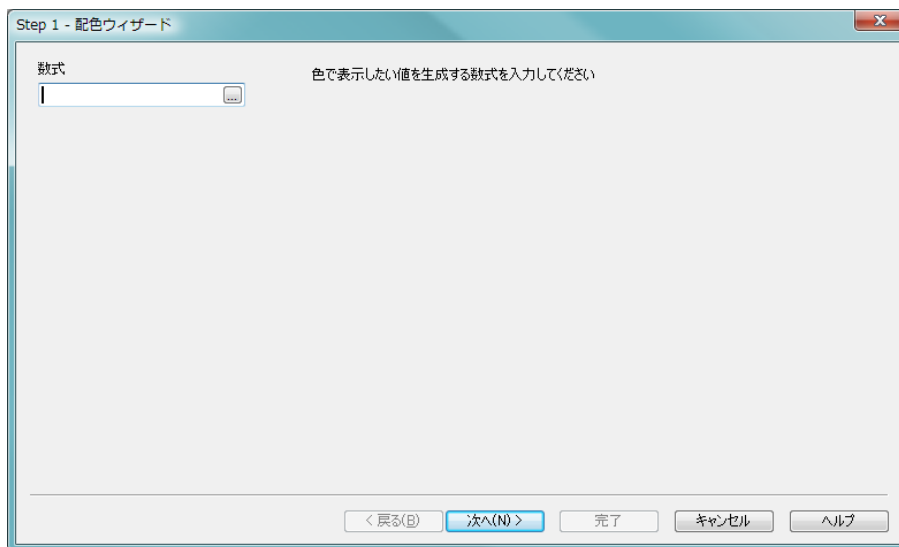
このような段階的に変化する色の計算は、QlikView の Colormix 関数を使用して実行できますが、Colormix 関数内で適切な数式を作成するのは面倒な作業です。このような場合に、[配色ウィザード] が役に立ちます。

第一に、カラー関数は(したがって **配色ウィザード** も)、QlikView がカラー関数を期待する箇所、つまり **背景色** の数式や **テキストの色** の数式でのみ使用され、チャート式内では使用されないことを理解しておくことが大切です。

[数式の編集] ダイアログの **[ファイル]** メニューから **配色ウィザード** を開くと、最初に動的な色を作成するために必要なものを示したページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。

次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ 1 - 色で表示したい値を生成する数式



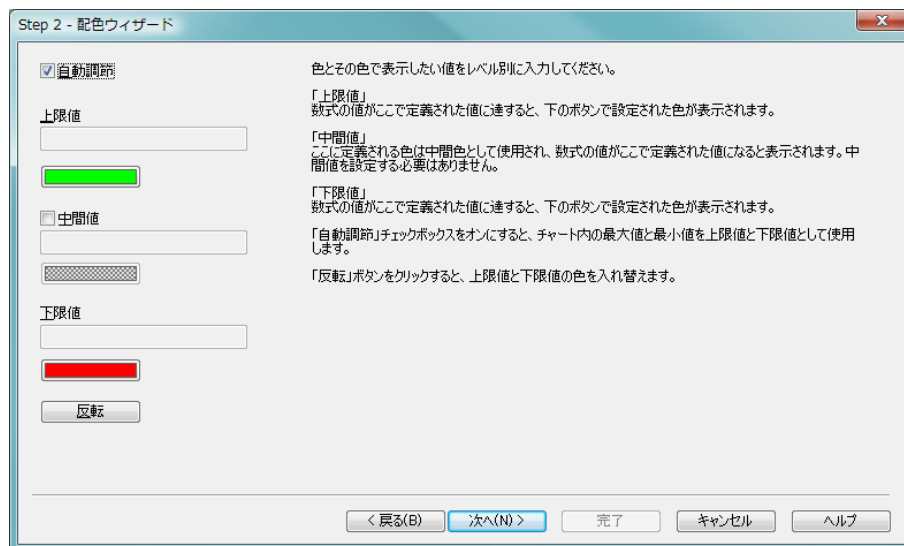
QlikView によって表示される色を制御する数式を入力します。典型的な数式の例を次に示します。

- $\text{Sum}(\text{Sales}) / \text{Sum}(\text{total Sales})$
- $\text{Sum}(\text{Sales}) / \text{Sum}(\text{Quota})$
- $\text{Avg}(\text{Age})$

これは、通常、選択するレコードの数に違いがあっても、重要度の変わらない値です。計算基準には、平均、パーセンテージ、インデックスなどを使用するとよいでしょう。

次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ 2 – 上限値と下限値の設定



このページでは、数式の上限值と下限値および対応する色を定義する必要があります。この場合の上限値(下限値)は絞込値の最大値(最小値)ではなく、その値に達すると、指定した色が表示される境界値です。典型的な数式の例を次に示します。

数式	上限値	下限値
Sum(Sales) / Sum(total Sales)	Sum(total Sales)	0
Sum(Sales) / Sum(Quota)	2 (=200%)	0
Avg(Age)	Max(total Age)	Min(total Age)

もちろん、上記以外の境界値も設定できます。

チャート内でカラーウィザードを使用する場合は、次の2つの数式を使用することをお勧めします。

- RangeMax (top(total <ValueExpression>,1,NoOfRows(total)))
- RangeMin (top(total <ValueExpression>,1,NoOfRows(total)))

これらの数式は、チャート内の <ValueExpression> の行の最大値と最小値を計算します。

自動調節

このチェックボックスをオンにすると、適切な上限値と下限値が自動的に設定されます。この場合、上限値と下限値の数式は手動で入力できません。

上限値

[自動調節] オプションがオフの場合は、ここに上限値の数式を入力します。

中間値

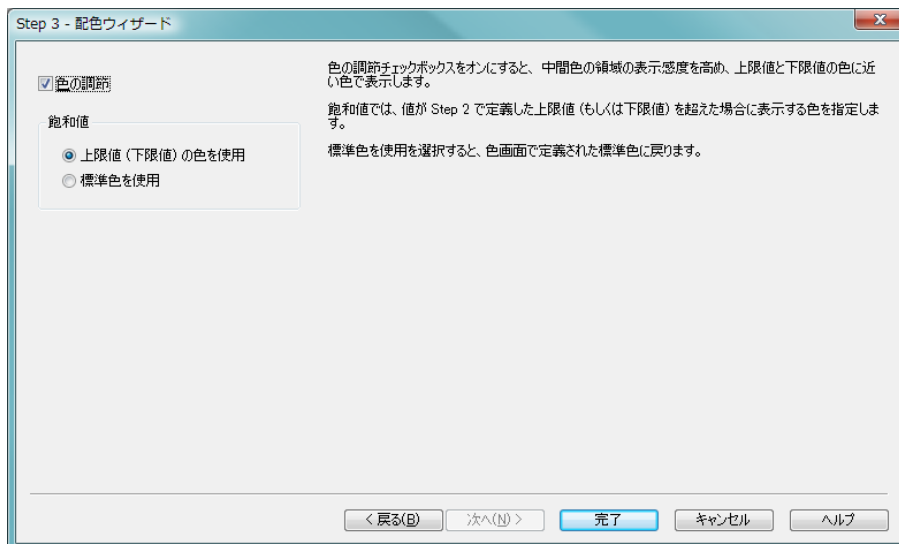
ここには、3番目の色にリンクされる中間レベルの数式を入力できます。

下限値 **[自動調節]** オプションがオフの場合は、ここに下限値の数式を入力します。

反転 このボタンは上限値と下限値の色を逆にします。

次へ ボタンをクリックして進みます。

ステップ3-仕上げ



このページで、配色の数式を完成させます。

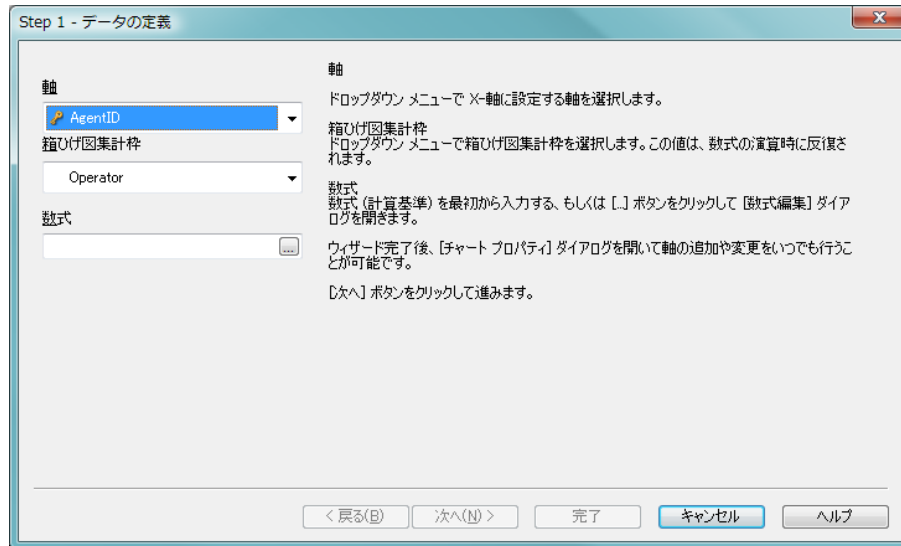
色の調節 このチェックボックスをオンにすると、数式にヒステリシス変換が適用されます。これにより、中間色の領域の表示感度が高まり、上限と下限の色に近い色になります。

飽和値 ここでは、数式が上限値または下限値を超えた場合の動作を制御できます。**上限値(下限値)の色を使用** をオンにすると、上限値または下限値に指定した色が使用されます。**標準色を使用** をオンにすると、色ページで定義した標準色に戻ります。

64 箱ひげ図ウィザード

ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。後でウィザードを使用するときに最初のページをスキップする場合は、**[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。

64.1 箱ひげ図ウィザードによるデータの定義



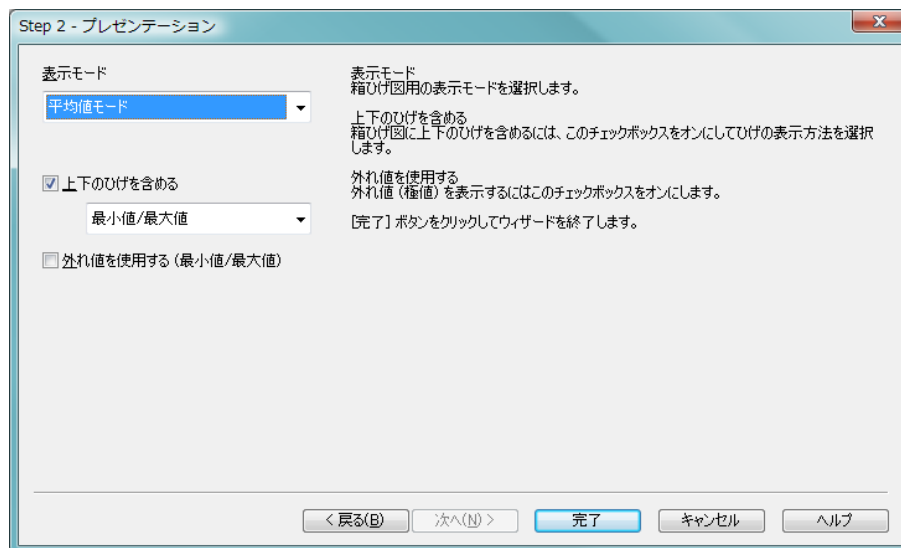
X-軸用の **軸** を選択します。このウィザード終了後は、**チャートプロパティ** ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。

箱ひげ図集計枠 を選択します。箱ひげ図集計枠は、数式が演算する場合に反復される値です。

最後に、**数式** を定義します。数式は、チャートに表示される計算値を定義します。数式は、通常、棒グラフの y-軸に表示されます。QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。ここでは自分で数式を最初から入力できます。

このウィザード終了後は、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでも数式を変更したり追加できます。

64.2 箱ひげ図ウィザードのプレゼンテーション



- 表示モード** 配分を決める **表示モード** である **平均値モード** または **中央値モード** を選択します。
- 上下のひげを含める** このチェックボックスをオンにすると、**最小値/最大値** または **5/95 パーセンタイル** のいずれかで上側と下側のひげを表示するチャートを作成できます。
- 外れ値を使用する (最小値/最大値)** 外れ値を表示するには、このチェックボックスをオンにします。

65 クイックチャートウィザード

クイックチャート機能は、多数のさまざまな設定やオプションを気にせずに簡単な方法で簡易チャートを作成したいユーザー向けに開発されました。

クイックチャートウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。

- 1) チャートの種類を選択する
- 2) チャート軸を定義する
- 3) チャート式を定義する
- 4) チャートの書式を設定する

選択によっては、上記の手順の一部がスキップされる場合があります。

65.1 クイックチャートウィザードの起動

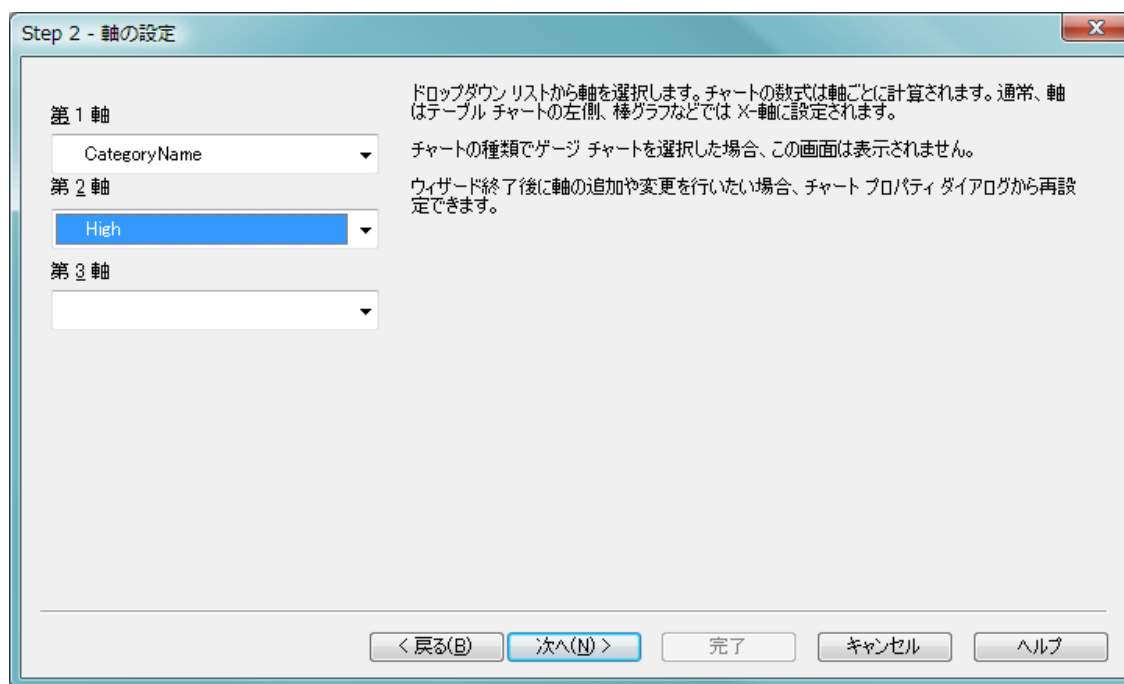
クイックチャートウィザードは、**ツールメニュー**から **クイックチャートウィザード** を選択するか、**標準** ツールバーで対応するボタンをクリックして起動します。

ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**次回からこの画面を表示しない** チェックボックスをオンにします。**次へ** ボタンをクリックして進みます。クイックチャートウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。



Step 1 - チャートの種類の選択

いずれかのアイコンをクリックして、作成するチャートの種類を選択します。QlikView で最もよく使用されるチャートの種類から選択できます。チャートは、ウィザード終了後に **チャートプロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類に変更できます。**次へ** ボタンをクリックして進みます。



Step 2 - 軸の設定

最初の手順でゲージチャートを選択した場合以外は、**軸の設定** ページが表示されます。ゲージチャートには、通常、軸がないため、このページは自動的にスキップされます。

ドロップダウンボックスで 1 つまたは複数の軸を選択します。軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義します。軸は、通常、テーブルチャートでは左側、棒グラフなどでは x- 軸に表示されます。

このウィザード終了後は、**チャートプロパティ** ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。

次へ ボタンをクリックして進みます。

Step 3 - 数式の定義

合計値
 平均値
 値の個数
項目: Sales
 カスタム

Sum(Sales)

チャートに表示する数式を定義します。通常、数式はテーブルチャートの右側、もしくは棒グラフなどの Y-軸に設定されます。

QlikView にはさまざまな数式を設定できます。この画面では、3つの一般的な表現から選択する、もしくは自分で作成することができます。

「合計値」
項目の合計値を表示する場合はこのオプションを選択します。例:sum(金額) 次に、下のドロップダウンリストから項目を選択します。

「平均値」
項目の平均値を表示する場合はこのオプションを選択します。次に、下のドロップダウンリストから項目を選択します。

「値の個数」
項目の値の個数を表示する場合はこのオプションを選択します。例:count(国名) 次に、下のドロップダウンリストから項目を選択します。

「カスタム」
自分で数式を作成したい場合はこのオプションを選択します。編集スペースが必要な場合は[...]ボタンをクリックして[数式の編集]ダイアログを開きます。

ウィザード終了後に数式の追加や変更を行いたい場合、チャートプロパティダイアログから再設定できます。

< 戻る(B) 次へ(N) > 完了 キャンセル ヘルプ

Step 3 - 数式の定義

チャート式は、チャートに表示される計算値を定義します。数式は、通常、テーブルチャートの右側、棒グラフなどでは y- 軸に表示されます。

QlikView では、短くて単純な数式から長くて複雑な数式までさまざまな数式を作成できます。このページでは、3 つのよく使用される基本の数式から選択するか、自分で数式を最初から入力できます。

Sum

項目の数値合計を表示する場合は、このオプションを選択します (例: sum(Sales))。次に、下のコンボボックスで合計する項目を選択します。

Average

項目の数値平均を表示する場合は、このオプションを選択します (例: avg(Score))。次に、下のコンボボックスで計算する項目を選択します。

Count

項目の値の数を表示する場合は、このオプションを選択します (例: count(OrderID))。次に、下のコンボボックスでカウントする項目を選択します。

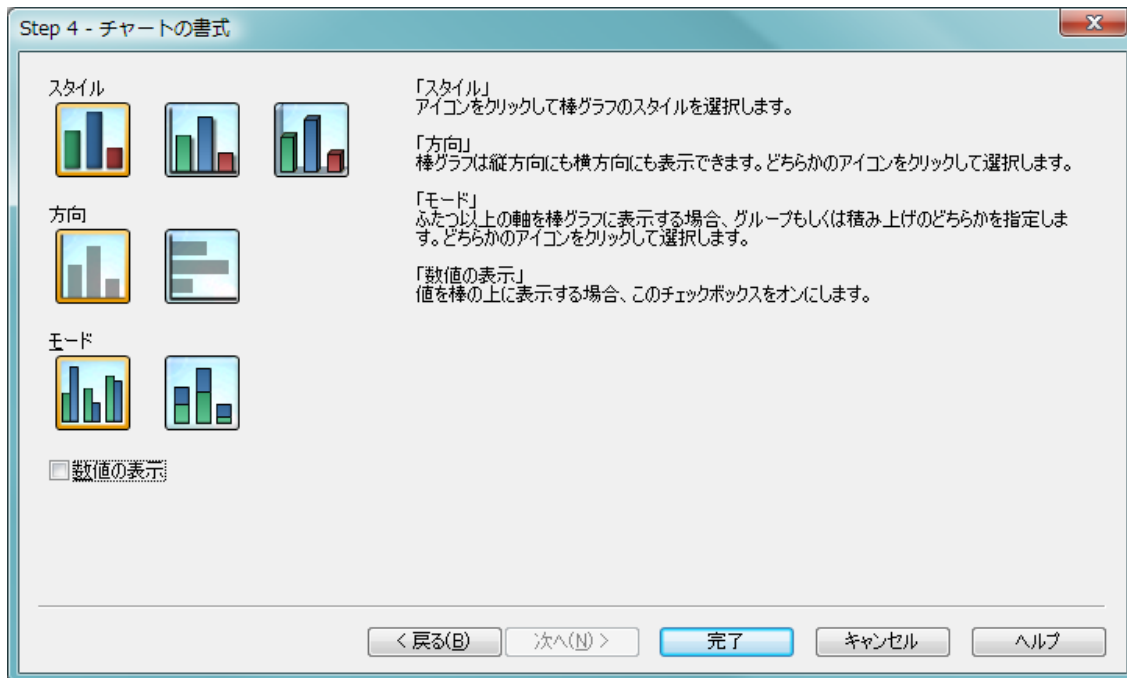
カスタム

自分で数式を最初から入力する場合は、このオプションを選択します。数式を編集するためにさらに大きなスペースが必要な場合は、[...] アイコンをクリックして **[数式の編集]** ダイアログを開きます。

このウィザード終了後は、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでも数式を変更したり追加できます。

次へ ボタンをクリックして進みます。

ウィザードの 4 番目の手順では、チャートの書式を調整できます。チャートの種類によって書式設定は異なるため、ページの内容はウィザードの Step 1 で選択したチャートの種類によって異なります。



Step 4 - チャートの書式 (棒グラフ)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

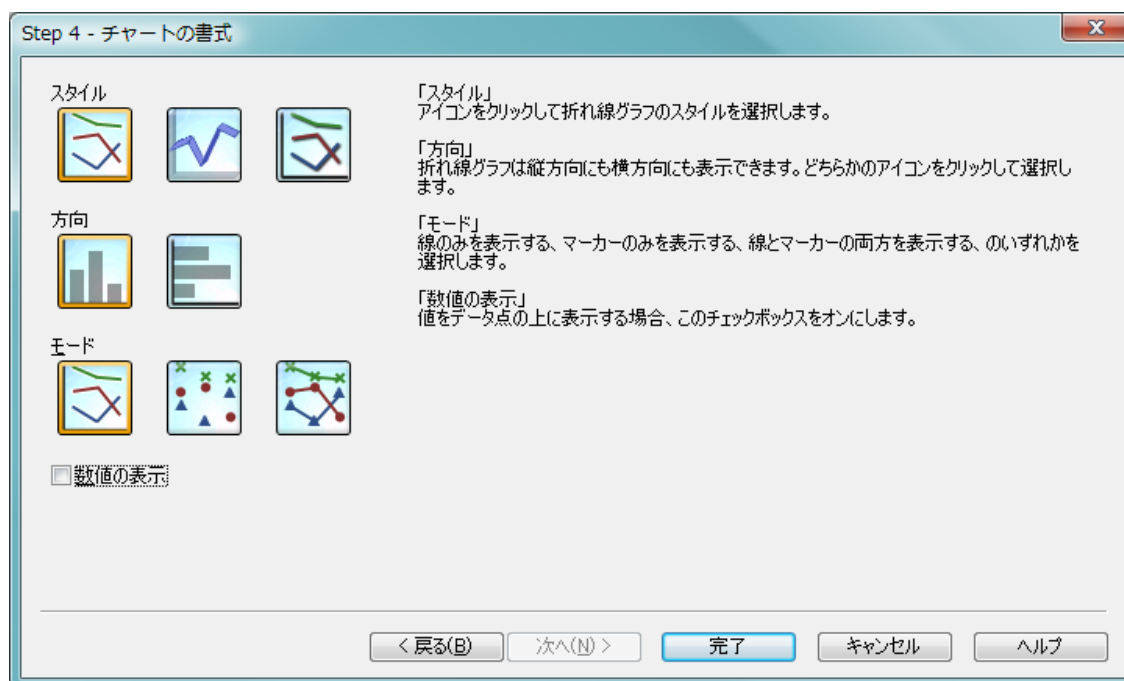
モード

棒グラフに3つ以上の軸がある場合、データポイントの表示方法として、積み上げまたはクラスター化(並べて表示)のどちらかを選択する必要があります。該当するアイコンをクリックして選択します。

数値の表示

棒の上に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、[チャートプロパティ] ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。



Step 4 - チャートの書式 (折れ線グラフ)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

モード

線、マーカー、またはそれらの組み合わせとしてデータポイントを表示します。該当するアイコンをクリックして選択します。

数値の表示

データポイントの上に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**チャートプロパティ** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。



Step 4 - チャートの書式 (円グラフ)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

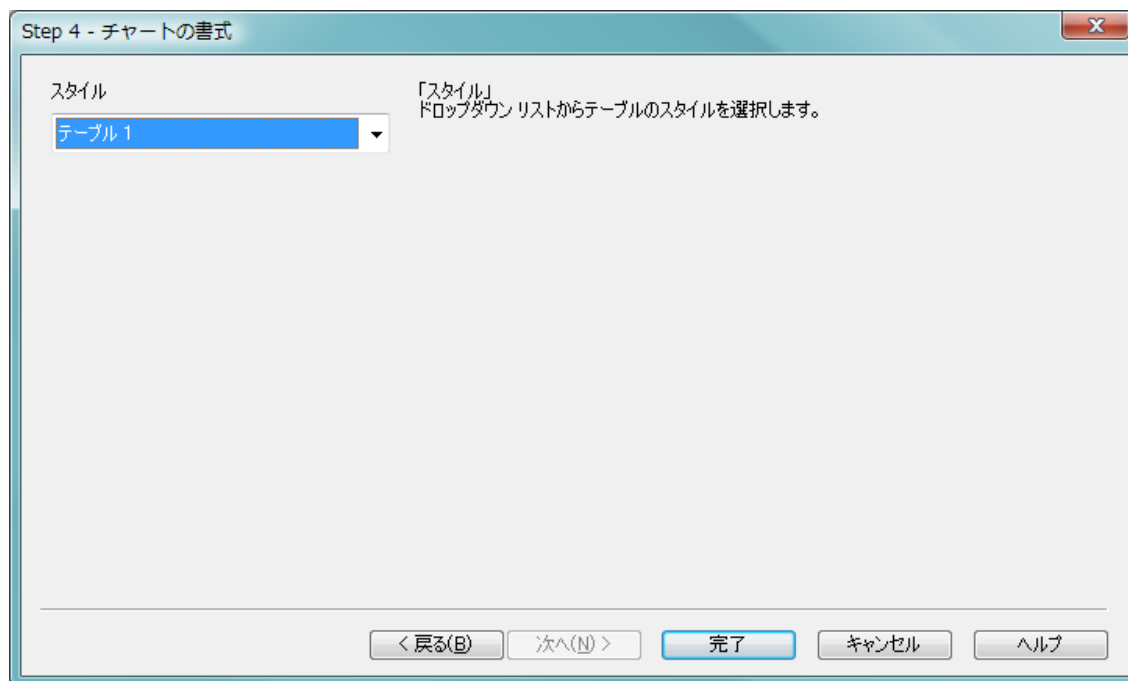
要素の最大表示数 (2-50)

円グラフのスライスの最大数を選択します。残りのデータポイントは"その他"セグメントにまとめられます。

凡例に数値を表示

チャートの凡例に数式の値を数値として表示する場合は、このチェックボックスをオンにします。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。



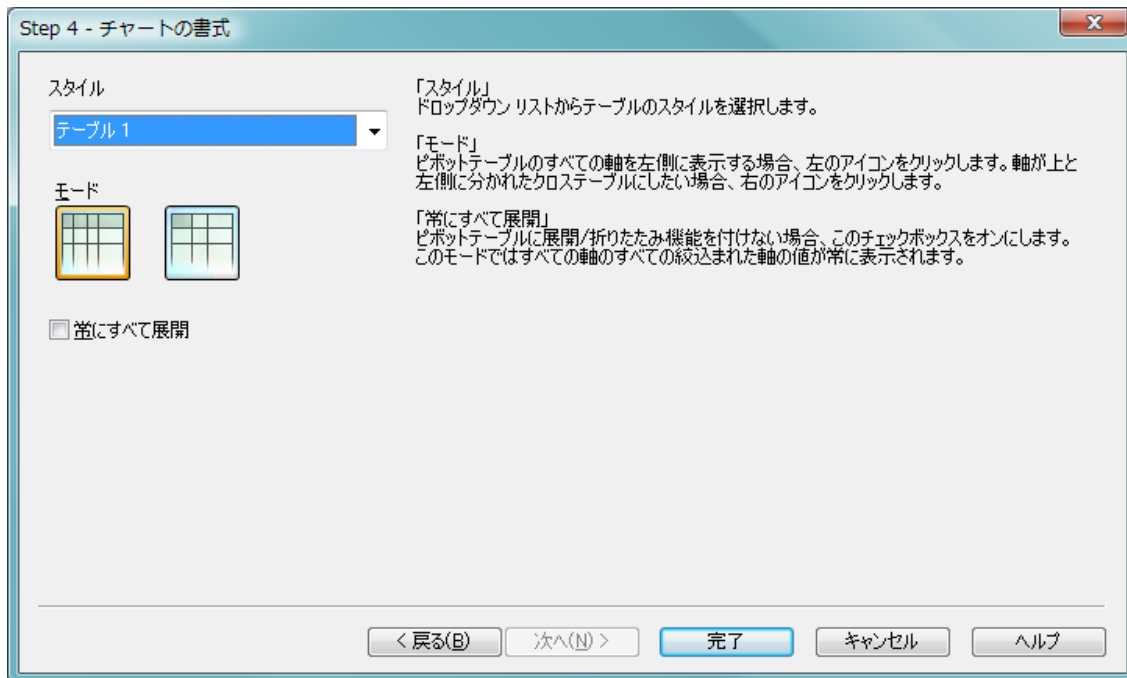
Step 4 - チャートの書式 (ストレート テーブル)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

スタイル

ドロップダウン ボックスからテーブルのスタイルを選択します。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。



Step 4 - チャートの書式 (ピボット テーブル)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

スタイル

ドロップダウン ボックスからテーブルのスタイルを選択します。

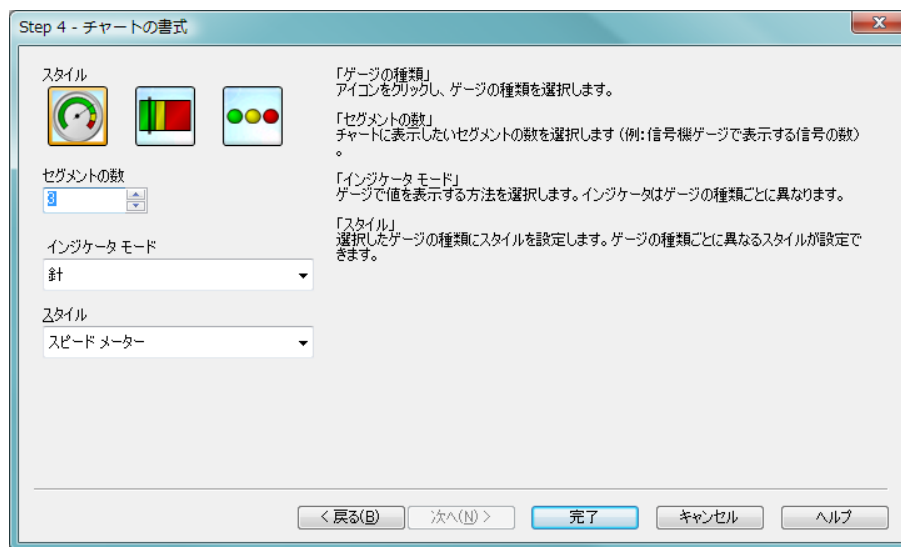
モード

ピボットテーブルのすべての軸を左側に表示する場合は、左のアイコンをクリックします。軸が左と上の両方に表示されるクロス テーブルにする場合は、右のアイコンをクリックします。

常にすべて展開

QlikView のピボットテーブルの展開/折りたたみ機能が必要ない場合は、このチェック ボックスをオンにします。このモードでは、すべての軸のすべての絞込値が常に表示されます。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。



Step 4 - チャートの書式 (ゲージ チャート)

このページでは、選択したチャートの種類の書式設定オプションを設定します。

セグメントの数

チャートに表示するセグメントの数 (たとえば、信号機ゲージではライトの数) を選択します。

インジケータモード

ゲージで現在の値を示す方法を選択します。それぞれのゲージの種類ごとに使用できるインジケータモードは異なります。

[終了] をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。前述のように、**[チャートプロパティ]** ダイアログからいつでもチャートに戻って、さらに調整することができます。

66 タイムチャートウィザード

タイムチャートウィザードでは、チャートを作成する共通のタスクで特定の計算基準(数式)を設定し、さまざまな期間で比較を行うチャートを作成できます。

たとえば、Sum(Sales)のような数式を表示したいが、昨年度または現四半期に期間を限定したい場合があります。また、その結果を以前の期間(前年度、前年同期など)の同じ計算基準と比較したい場合もあります。QlikViewでは、このような作業を行う数式を作成するための関数が数多く提供されていますが、初心者にとっては、それらを習得することは容易ではありません。タイムチャートウィザードは、ユーザーの仕様に基づいて、適切な時間関数を使用した基本的な指標となる計算式を作成する作業を支援することを目的に設計されています。

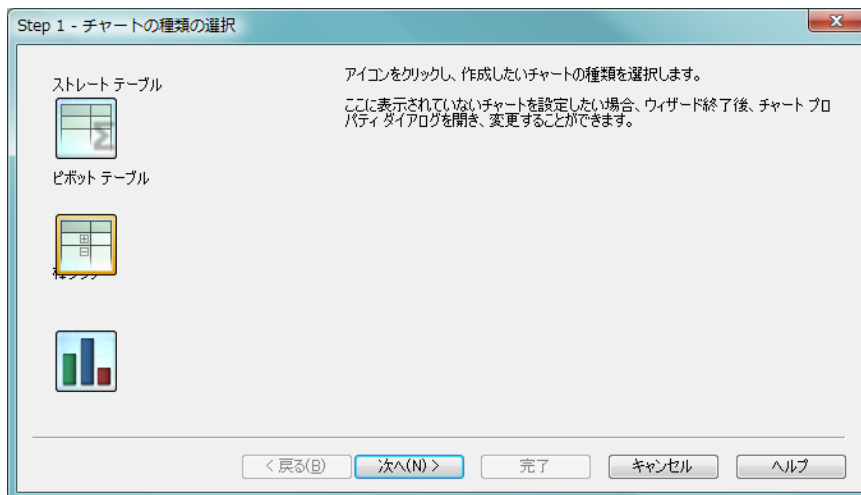
66.1 タイムチャートウィザードの起動

タイムチャートウィザードは、**ツールメニュー**から**タイムチャートウィザード**を選択するか、**デザイン**ツールバーで対応するボタンをクリックして起動します。

ウィザードを初めて起動したときは、ウィザードの目的と基本的な手順の概要を示すスタートページが表示されます。後でウィザードを使用するときに、最初のページをスキップする場合は、**[次回からこの画面を表示しない]** チェックボックスをオンにします。

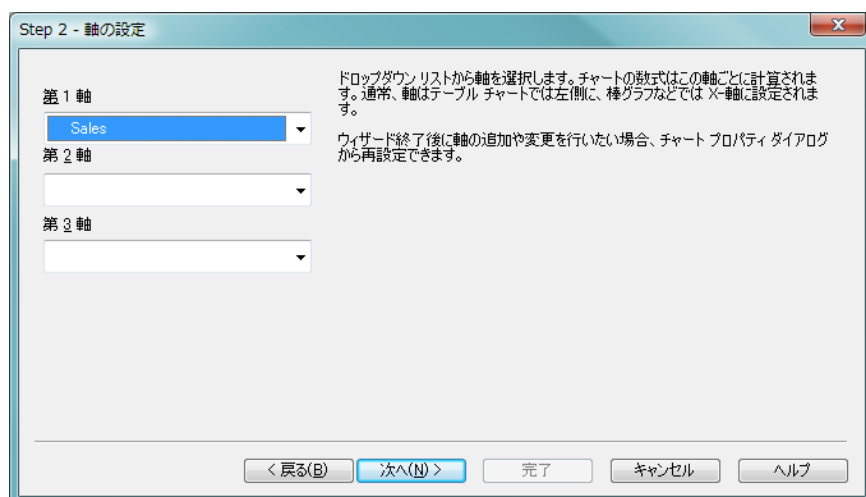
選択によっては、下記の手順の一部がスキップされる場合があります。**次へ** ボタンをクリックして、ウィザードを前に進めます。**[終了]** をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。さらに調整するには、いつでも **チャートプロパティ** ダイアログからチャートに戻ります。

タイムチャートウィザードは、次の基本的な手順に従ってチャートの作成をガイドします。



チャートの種類を選択する

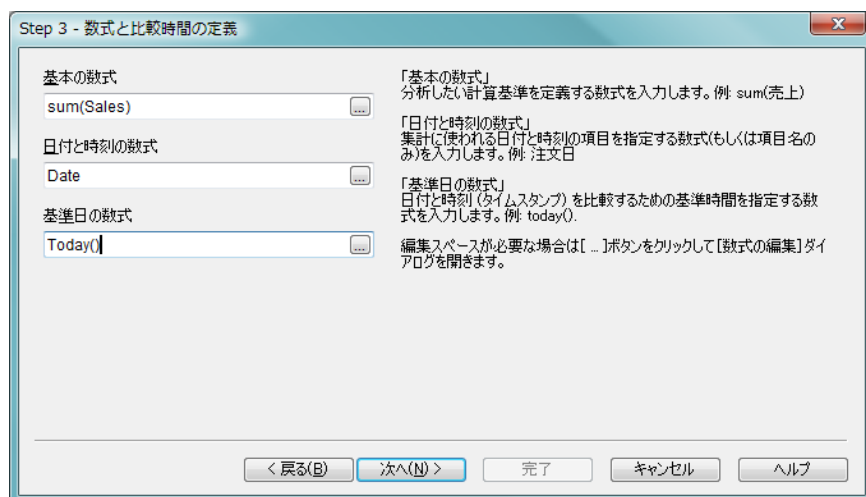
いずれかのアイコンをクリックして、作成するチャートの種類を選択します。選択できるのは、期間の修飾を伴うチャートで一般に使用されるチャートの種類です。チャートは、ウィザード終了後に **チャートプロパティ** ダイアログから、QlikView の他の種類に変更できます。



軸の設定

このページでは、チャートの軸を定義します。ドロップダウンボックスで1つまたは複数の軸を選択します。軸は、チャート式の計算の対象となる値を定義します。軸は、通常、テーブルチャートでは左側、棒グラフなどでは x- 軸に表示されます。

このウィザード終了後は、**チャートプロパティ** ダイアログからいつでも軸の追加や変更が可能です。



数式と比較時間の定義

このページでは、チャートの基底となる基本の数式と比較時間を定義します。

基本の数式

分析したい計算基準を定義する数式を入力します (例: sum(Sales))。

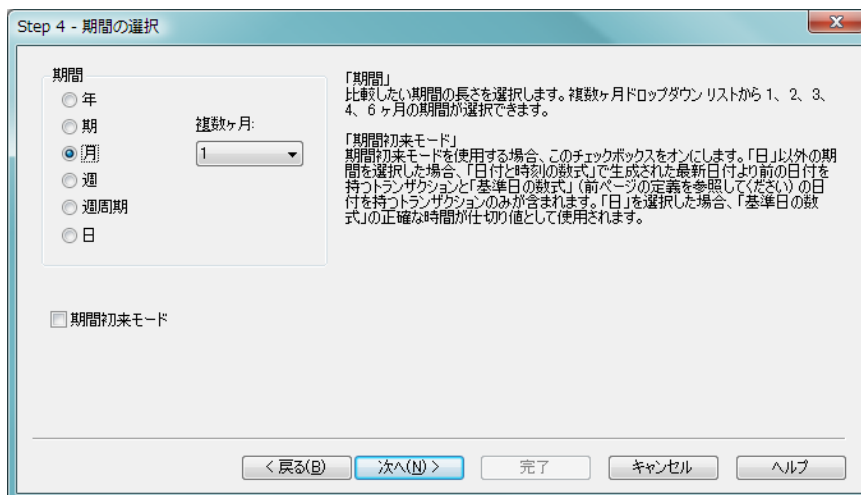
日付と時刻の数式

各トランザクションに関連付けられた日付と時刻 (通常、日付) の場所を示す数式 (または項目名のみ) を入力します (例: OrderDate)。

基準日の数式

すべてのトランザクションの日付と時刻の比較の基準となる時間を指定する数式を入力します (例: today())。

数式を編集するためにさらに大きなスペースが必要な場合は、[...] アイコンをクリックして **数式の編集** ダイアログを開きます。



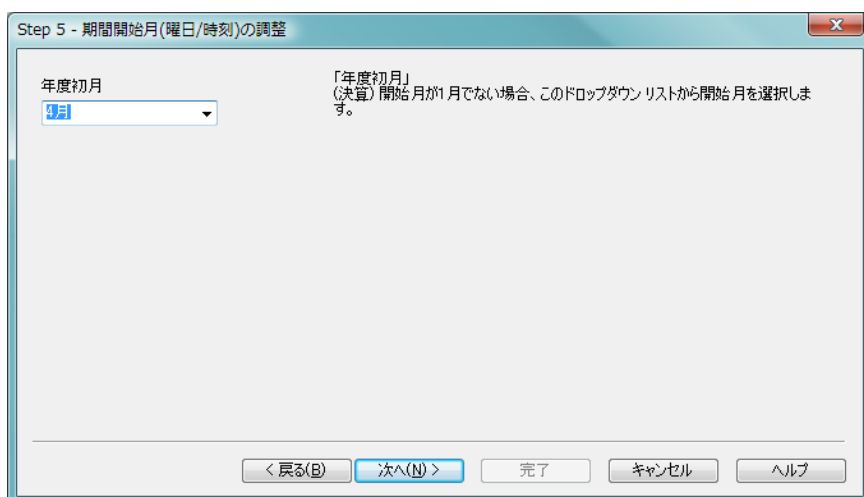
期間を選択する

このページでは、作成するチャートの基本的な期間単位を選択します。

期間で、チャート式を設定して比較を行う期間の長さを選択します。[月] オプションを使用する場合は、**[複数ヶ月]** ドロップダウンから、1、2、3、4、6ヶ月の期間を選択できます。値3を指定できますが、これは、**[期]** を選択するのと同様です。[週周期] は、毎年1月1日に始まる連続した週(7日間)です。1年には、常に、週周期が正確に52あり、52番目の週周期は8日もしくは9日となります。

To Date モードを使用したい場合は、**期間初来モード** チェックボックスをオンにします。[日] 以外の期間を選択した場合は、**日付と時刻の数式** の日付が、**基準日の数式** の日付(同日を含む)までの日付になっているトランザクションだけが含まれます(前ページの定義を参照)。日を選択した場合は、**基準日の数式** の時間が仕切りとして使用されます。

[最終確定期を基準とする] チェックボックスをオンにすると、Qlikview は、前期などの最終経過期間を基準として使用します。



期間開始月の調整

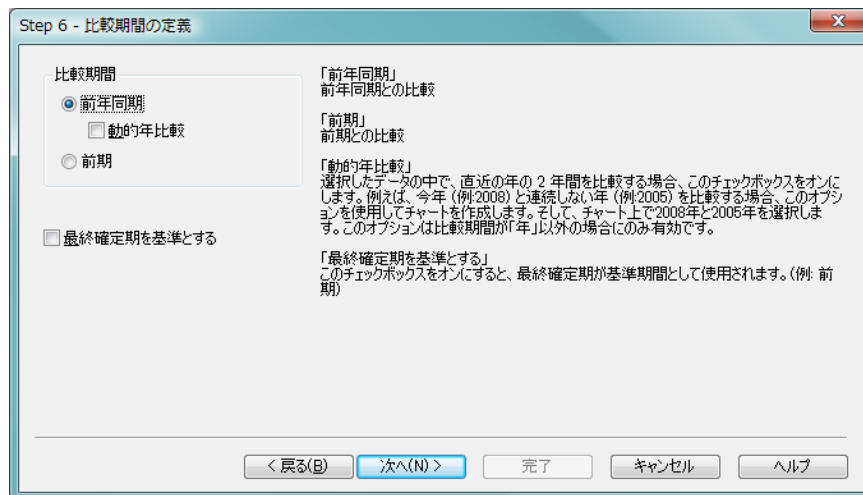
このページでは、選択した期間の開始月を調整できます。多くの場合、このページの設定は省略できます。上記の手順4で選択した【期間】に応じて、次の2つのオプションのいずれかを指定できます。

年度初月

(決算)年度の開始が1月でない場合、このドロップダウンから、(決算)年度の開始月を選択できます。このオプションは、上記の手順4で選択した【期間】が【年】、【期】、または【月】の場合のみ設定できます。

週の最初の曜日/開始時刻

週の最初の曜日や1日の開始時刻を調整する場合は、このオプションで行います。補正值は、日単位または日に対する割合で指定できます。たとえば、カレンダーの週に1を設定すると週は火曜日からの始まりになり、日に0.125を設定すると、1日は午前3時からの始まりになります。このオプションは、上記の手順4で選択した【期間】が【週】、【週周期】、または【日】の場合のみ設定できます。



比較期間を定義する

このページでは、比較期間を定義します。上記の手順4で【期間】に【年】を選択した場合、このページは自動的にスキップされます。

年

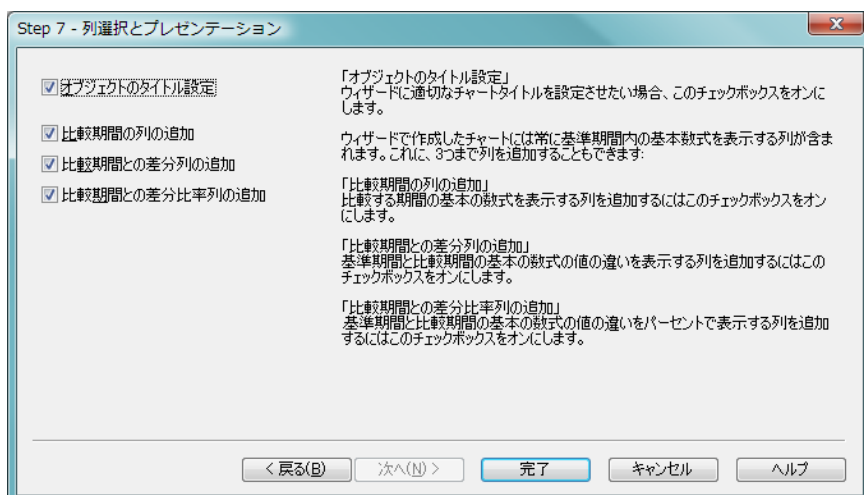
比較期間を前の年の同じ期間にします (例: 前年同期)。

期

比較期間を前の期にします (例: 特定の年の第2期と第3期)。

動的年比較

このオプションを使用すると、選択した年のうち、基準の年以前で、最も直近の年と比較できます。たとえば、今年(2006年)と連続しない年(2003年)を比較する場合は、アプリケーションでこのオプションを使用し、2006年と2003年を選択します。このオプションは、比較期間が「年」の場合にのみ使用できます。



列の選択とプレゼンテーション

このページでは、チャートにどの数式列を含めるか、およびウィザードを使用してチャートタイトルを設定するかどうかを選択します。

ウィザードを使用して適切なチャートタイトルを設定する場合は、**[オブジェクトのタイトル設定]** チェックボックスをオンにします。

ウィザードを使用して作成したチャートには、常に、基準期間内の基本数式を表示する列が含まれます。これに、さらに3つまで列を追加することができます。

比較期間の列の追加

比較期間内のチャートの基本数式を表示する列を追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。

比較期間との差分列の追加

チャートの基準期間内の基本数式と比較期間内の基本数式の絶対的変動値の違い(パーセント変化)を表示する列を追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。

比較期間との差分比率列の追加

チャートの基準期間内の基本数式と比較期間内の基本数式の値の違い(パーセント変化)を表示する列を追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。

67 統計チャートウィザード

統計チャートウィザードでは、QlikView で一般的な統計テストをデータに適用するためのガイダンスが提供されます。

67.1 統計チャートウィザードの起動

統計チャートウィザードを起動するには、**ツール**メニューから**統計チャートウィザード**を選択します。最初のページでは、統計テストを選択できます。適切なテストの種類を選択した後、**次へ**をクリックして続行します。

QlikView では、ウィザードで選択できる以上の種類のテストがサポートされています。これに関する詳細については、チャートの統計検定関数 (974 ページ) と ロードスクリプトの統計検定関数 (374 ページ) を参照してください。統計テストとその使用の詳細については、統計に関する書籍を参照してください。

67.2 カイ二乗検定

このオプションは、カイ二乗検定が返す値を使用してストレートテーブルを生成します。カイ二乗検定は、2つの値セットを比較して、2つのセットが同じ統計的分布に由来している可能性を判定するために使用されます。カイ二乗検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- 列** 検定標本データの列ヘッダーを返す項目または数式を指定します。
- 行** 検定標本データの行ヘッダーを返す項目または数式を指定します。
- 値** 検定値データを返す項目または数式を指定します。

- 期待値** 期待値との比較検証を行う場合は、このチェックボックスをオンにします。期待値を返す項目名または数式を下の編集ボックスに入力します。期待値が指定されていない場合、検定は、行/列内の差異に対して行われます。
- p (p- 値/有意性の表示)** 生成されるチャートに、**p** 値 (有意性) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- df (自由度の表示)** 生成されるチャートに **df** 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- Chi2 (カイ二乗値の表示)** 生成されるチャートに、検定値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。

終了をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ** ダイアログからさらに調整することができます。

67.3 2 標本 t 検定

このオプションは、対応のあるスチューデント t 検定が返す値でストレートテーブルを生成します。t 検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- 検定項目/数式** 検定値データ系列を返す項目または数式を指定します。
- 検定値** 検定値データを返す項目または数式を指定します。
- t (t- 値の表示)** 生成されるチャートに、**t** 値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。

- df (自由度の表示)** 生成されるチャートに df 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- p (p- 値/有意性 (両側検定) の表示)** 生成されるチャートに、p 値 (有意性、両側検定) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- 平均の差** 生成されるチャートに、平均の差の値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
- 最小値 (信用度 %)** 信頼区間の下限値 (下記の**信頼度**で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- 最大値 (信用度 %)** 信頼区間の上限値 (下記の**信頼度**で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
- 信頼度** 信頼度のパーセンテージを指定します。

終了をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ** ダイアログからさらに調整することができます。

67.4 独立標本 t 検定

このオプションは、独立2標本スチューデントt検定が返す値でストレートテーブルを生成します。t検定のチャートを作成するには、以下を指定する必要があります。

- グループ項目/数式** 検定グループデータ系列を返す項目または数式を指定します。正確に2つの値を返す必要があります。

検定項目/数式	検定値データ系列を返す項目または数式を指定します。
t (t- 値の表示)	生成されるチャートに、t 値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
df (自由度の表示)	生成されるチャートに df 値 (自由度) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
p (p- 値/有意性 (両側検定) の表示)	生成されるチャートに、p 値 (有意性、両側検定) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
平均の差	生成されるチャートに、平均の差の値を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。
最小値 (信用度 %)	信頼区間の下限値 (下記の 信頼度 で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
最大値 (信用度 %)	信頼区間の上限値 (下記の 信頼度 で指定) を生成されるチャートに含めるには、このチェックボックスをオンにします。
信頼度	信頼度のパーセンテージを指定します。

終了をクリックしてチャートを終了しレイアウトに戻ります。いつでもチャートに戻って、**チャートプロパティ** ダイアログからさらに調整することができます。

68 Direct Discovery を使用したチャート作成方法

チャート式におけるチャート軸やMEASURE 項目のように、DIMENSION 項目を使用してチャートを作成できます。チャートではDETAIL 項目は機能しないため、使用できません。

Direct Discovery の項目のみを使用する QlikView チャートの場合、データベースですべての集計関数を実行できます。チャートに Direct Discovery 項目とインメモリ項目の両方が存在する場合、まずデータベースの集計関数が実行され完了してから、次にチャートレベルの集計関数が実行されます。

以下の 集計関数 (364 ページ) は、MEASURE 項目に使用できます。

- Sum (合計値)
- Avg (平均値)
- Count (値の個数)
- Min (最小値)
- Max (最大値)

Direct Discovery を使用する際、ソースのデータベースがサポートする集計関数の種類を知ることが重要です。例えば、ほとんどの SQL データベースは、集計関数において DISTINCT をサポートしていますが、Google BigQuery は COUNT(DISTINCT ...) しかサポートしていません。

ほとんどの QlikView Chart 関数は、Direct Discovery 項目を使用するときに利用可能です (相互並べ替え、書式設定、視覚的な手がかり、軸制限など)。

Direct Discovery の SQL 構文特有の原理のため、ピボットテーブルとミニチャートは、Direct Discovery 項目には対応していません。

MEASURE 項目に引用が必要な場合、チャート式ではなく、**Direct Query** ステートメントで引用符を用いる必要があります。引用符で囲まれた識別子の使用時に大文字と小文字の区別を制御する、Oracle などのデータベースの場合、チャート式の列名は、データベースの列名の大文字と小文字と完全に一致している必要があります。

アンダースコアの文字から始まる MEASURE 項目は、チャート式では二重引用符で囲む必要があります。

チャートでの「欠損値を隠す」オプションは、Direct Discovery 項目では機能しないので、無効にします。このオプションを無効にすると、「NULL値を隠す」オプションが機能します。

69 チャートの数式

チャートでは、数式を使用して計算データ (標準の棒グラフや折れ線グラフの y- 軸に表示されるデータなど) を定義します。ほとんどの場合、[数式の編集] ダイアログ (917 ページ) ダイアログでクリックして最も基本的なチャート式を作成するだけで十分ですが、QlikView は、関数、項目および演算子を含む非常に複雑なチャート式をサポートします。スクリプト式とチャート式では、構文および有効な関数に、いくつかの違いがありますので注意してください。

注意

最も重要な違いは、集計関数の役割と項目参照の使用方法です。基本的なルールは、チャート式で 사용되는任意の項目名は、必ず 1 つの集計関数で囲む必要があることです。集計関数には、引数として集計関数を含む他の数式を含めることはできません。

- すべての数式は、数値と文字列のいずれか適切なものを返します。
- 論理関数と演算子は、false の場合 0、true の場合 -1 を返します。数値から文字列への変換およびその逆の変換は、暗黙に行われます。
- 論理演算子と関数は、0 を false と解釈し、それ以外のすべてを true と解釈します。
- 不正なパラメータや関数の結果など、数式が正しく評価されない場合は null を返します。

チャート式の一般的な構文は、次のとおりです。

```

expression ::= ( constant          |
expressionname          |
operator1 expression    |
expression operator2 expression |
function                |
集計関数                |
(expression)            )

```

ここで

constant は、ストレート単一引用符で囲まれた文字列 (テキスト、日付、または時刻) または数値です。定数は、桁区切り記号を使用せずに記述します。定数の小数点記号は小数点を使用します。

expressionname は、同じチャート内のもう 1 つの式の名前 (ラベル) です。

operator1 は、単項演算子 (右側にある 1 つの数式に対して作用する) です。

operator2 は、二項演算子 (両側にある 2 つの数式に対して作用する) です。

function ::= functionname (parameters)

parameters ::= expression { , expression }

パラメータの数と型は、任意ではありません。使用する関数によって異なります。

```
aggregationfunction ::= aggregationfunctionname ( parameters2 )
```

```
parameters2 ::= aggexpression { , aggexpression }
```

パラメータの数と型は、任意ではありません。使用する関数によって異なります。

集計関数の一般的な構文は、次のとおりです。

```
aggexpression ::= ( fieldref                |
operator1 aggexpression                |
aggexpression operator2 aggexpression  |
functioninaggr                          |
( aggexpression )                       )
```

fieldref はフィールド名です。

```
functionaggr ::= functionname ( parameters2 )
```

このように、数式と関数を自由にネストでき、*fieldref* が常に 1 つの集計関数を囲み、式が解釈可能な値を返す限り、QlikView はエラーメッセージを表示しません。

69.1 並列ステートとチャートの数式

チャートや他のオブジェクトの数式はその数式を含むオブジェクトのステートを継承します。

チャートやオブジェクトの数式は並列ステートを参照することが可能です。これは、数式がどこにあっても数式を含むオブジェクトと異なるステートを参照できることを意味します。この参照用の構文は Set 分析のセットを参照するのと同じです。Set 分析 (992 ページ) を参照すると、これがどのように機能するのかを理解するのに役立つ場合があります。

長い間使用されてきた QlikView の基本的な特徴のひとつとして、**初期ステート** を使用してデータのサブセットを起動し、チャートや集合を演算する能力があります。コア アルゴリズムは、フィールドごとに選択した値に関するステートの定義に基づきテーブルごとのサブセットに関するセットを決定します。Set 分析により、このデフォルトの動作を以下の 2 つの異なる点において変更することが可能になります：

- 現在の選択から独立したデータセットの定義。
- Union、Intersection、Exception などの数学演算子を用いた複数のセットの結合。

セットの生成が可能な選択状態を定義する最初のステップでは、並列ステートがその役割を果たします。Set 分析と同様、\$ と 1 には特別な意味があります。**初期ステート** は常に \$ で表され、状態や選択にかかわらずすべてのデータは 1 で表されます。

並列ステートを導入すると、以下の 2 つの新たな構文要素が導入されます。

数式の基準として並列ステートを使用できます。

例：

`sum({[Group 1]} Sales)`

ステート 'Group 1' での選択に基づき売上を計算します。

`sum({$} Sales)`

初期ステートでの選択に基づき売上を選択します。

これらの数式を単一のチャートで使用することが可能です。これにより、単一のオブジェクト内で複数のステートを比較できます。数式内のステートの参照は、オブジェクトのステートを上書きします。

1つのステートでのフィールドにおける選択は、別のステートの修飾子として用いられます。

例：

`sum({[Group 1]<Region = $::Region>} Sales)`

この構文では、**初期ステート**における Region 項目の選択条件を使用し、「Group 1」ステートを変更します。これにより、この数式の Region 項目を **初期ステート**と「Group 1」の間で同期した状態に保つことが可能になります。

69.2 テキスト展開変数

QlikView チャート内の数式または QlikView レイアウト内の任意の場所では、QlikView の変数を使用してテキスト展開できます。この目的で使用する場合、変数のテキスト値は、数式が評価される前にその数式に挿入されます。

ステートメント内部のテキスト展開に変数を使用する場合は、次の構文を使用します。

`$(variablename)`

`$(variablename)` により、*variablename* 内の値に展開されます。*variablename* が存在しない場合は、空の文字列に展開されます。

数値のテキスト展開マクロの場合は、次の構文が使用されます。

`$(#variablename)`

`$(#variablename)` により、常に *variablename* の数値に対応する有効な小数が生成されます。非常に大きい/小さい数値の場合は、指数表現が使用されることもあります。*variablename* が存在しない場合、または数値が含まれていない場合は、0 に展開されます。

チャート式では、数値展開はテキスト展開よりも使用頻度はかなり少ないですが、ここでは完全を期すために数値展開についても取り上げます。

例：

変数 *x* には、テキスト文字列 `sum(Sales)` が含まれます。

チャートで、数式 `$(x)/12` を定義します。結果は、チャート式に `sum(Sales)/12` と設定したのと同じになります。

ただし、変数 x の値を $sum(Budget)$ に変更すると、その数式は $sum(Budget)/12$ と解釈され、直ちにチャートが計算し直されます。

この機能を使用すると、入力ボックスで変数値を選択することによって、同時にチャートの領域に使用される数式を変更できます。

69.3 演算子

QlikView には、1つのオペランドのみを使用する単項演算子と、2つのオペランドを使用する二項演算子という2種類の演算子があります。ほとんどの演算子は、二項演算子です。

次の演算子を定義できます。

数値演算子	954 ページ
	ジ
文字列演算子	954 ページ
	ジ
論理演算子	955 ページ
	ジ
関係演算子	955 ページ
	ジ
ビット演算子	956 ページ
	ジ

数値演算子

すべての数値演算子はオペランドの数値を使用し、結果として数値を返します。

+	正の数値 (単項演算子) または加算を表す記号。この二項演算子は、2つのオペランドの和を返します。
-	負の数値 (単項演算子) または減算を表す記号。この単項演算子は -1 倍したオペランドを返し、二項演算子は2つのオペランドの差を返します。
*	乗算。この演算子は、2つのオペランドの積を返します。
/	除算。この演算子は、2つのオペランドの割合を返します。

文字列演算子

2つの文字列演算子があります。一方はオペランドの文字列値を使用し、結果として文字列を返します。他方はオペランドを比較し、一致したかどうかを示す論理値を返します。

&	文字列連結。この演算は、2つのオペランド文字列を順に連結したテキスト文字列を返します。
--------------	---

例：

'abc' & 'xyz' は、"abcxyz" を返します

like

ワイルドカード文字列を使用した文字列比較。演算子の前の文字列が演算子の後の文字列と一致した場合、この演算は論理値 true (-1) を返します。2 番目の文字列には、ワイルドカード文字 * (任意の数の任意の文字) または ? (1 つの任意の文字) が含まれることがあります。

例：

'abc' like 'a*' は、true (-1) を返します

'abcd' like 'a?c*' は、true (-1) を返します

'abc' like 'a??bc' は、false (0) を返します

論理演算子

すべての論理演算子は、オペランドを論理的に解釈し、結果として true (-1) または false (0) を返します。

not

論理否定。いくつかの単項演算子の 1 つ。この演算は、オペランドの論理否定を返します。

と

論理積 (and)。この演算は、オペランドの論理積を返します。

または

論理和 (or)。この演算は、オペランドの論理和を返します。

Xor

排他的論理和。この演算は、オペランドの排他的論理和を返します。つまり、論理和と似ていますが、両方のオペランドが true の場合は、結果が false であるという違いがあります。

関係演算子

すべての関係演算子はオペランドの値を比較し、結果として true (-1) または false (0) を返します。すべての関係演算子が二項演算子です。

<	未満	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<=	以下	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>	より大きい	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
>=	以上	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。

=	等しい	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
<>	等しくない	両方のオペランドが数値と解釈できる場合、数値比較が行われます。この演算は、比較の評価の論理値を返します。
precedes	ASCII 文字順序 でより小さい	<p>< 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが ASCII 比較で右側の値のテキスト表現の前に来る場合は true を返します。</p> <p>例：</p> <p style="padding-left: 2em;">' 11' precedes ' 2' は true を返します これを次の例と比較します。</p> <p style="padding-left: 2em;">' 11' < ' 2' は false を返します</p>
follows	ASCII 文字順序 でより大きい	<p>> 演算子とは異なり、比較の前に引数値の数値解釈は行われません。演算子の左側の値がテキスト表現で、それが ASCII 比較で右側の値のテキスト表現の後ろに来る場合は true を返します。</p> <p>例：</p> <p style="padding-left: 2em;">' 23' follows ' 111' は true を返します これを次の例と比較します。</p> <p style="padding-left: 2em;">' 23' > ' 111' は false を返します</p>

ビット演算子

すべてのビット演算子はオペランドを符号付き整数 (32 ビット) に変換し、同じ方法で結果を返します。すべての操作は、ビット単位で行われます。

bitnot	ビット反転。	単項演算子。この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理否定を返します。
bitand	ビット単位の論理積。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理積を返します。
bitor	ビット単位の論理和。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの論理和を返します。
bitxor	ビット単位の排他的論理和。	この演算は、ビットごとに行われるオペランドの排他的論理和を返します。
>>	ビット右シフト。	単項演算子。この演算は、1 つ右にシフトしたオペランドを返します。
<<	ビット左シフト。	単項演算子。この演算は、1 つ左にシフトしたオペランドを返します。

69.4 チャート集計関数

チャートの集計関数は、チャート式の項目で使用できます。1つの集計関数の引数式には、別の集計関数を含めることはできません。

集計関数は次のとおりです。

基本集計関数	958 ページ
文字列集計関数	960 ページ
カウンタ集計関数	961 ページ
チャートの統計集計関数	962 ページ
チャートの財務集計関数	971 ページ
統計的分布関数	974 ページ
特別な入力フィールドの集計関数	990 ページ
高度な集計	368 ページ
Set 分析	992 ページ
並列ステート	135 ページ

expression の前に **distinct** を配置した場合、この *expression* の評価によって生じた重複は無視されます。

expression の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸は無視されます。

total 修飾子の後には、1つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに1つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての軸をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

以前のバージョンの QlikView では、**all** 修飾子を *expression* の前に配置します。これは **{1} total** を使用すると同じです。この場合、チャートの軸や現在の選択を無視して、ドキュメント内の項目のすべての値に対して計算を行います。(ドキュメントの論理状態を無視して、常に同じ値を返します。) **all** 修飾子は、それ自身で SET を定義しますので、all 修飾子を使用する場合、SET 数式は使用できません。**all** 修飾子は、まだこのバージョンの QlikView で機能しますが、次のバージョンではサポートされなくなる可能性があります。

expression には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。ネストされた集計と関連事項 (1047 ページ) の例も参照してください。

デフォルトでは、集計関数は選択によって定義されたレコードのセットに対して集計します。SET 数式でレコードのセットを定義することも可能です。Set 分析 (992 ページ) も参照してください。

集計修飾子 (Total) の使い方についてさらに理解を深めるには、例 (1033 ページ) を参照してください。

基本集計関数

```
sum([{set_expression}][distinct][total [<fld {, fld}>]] expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の集計された合計を返します。

例：

```
sum(Sales)
```

```
sum(Price*Quantity)
```

```
sum(distinct Price)
```

```
sum(Sales)/sum(total Sales) は選択範囲内の集計を返します
```

```
sum(Sales)/sum(total <Month> Sales) は月ごとの選択範囲内の集計を返します
```

```
sum(Sales)/sum(total <Month,Grp> Sales) は月およびグループごとの選択範囲内の集計を返します
```

```
sum(Sales)/sum(total <Qtr,Month,Week> Sales) は時間のドリルダウングループで使用できる構文です
```

```
sum({1} total Sales) はドキュメント全体の Sales を返します
```

```
sum({BM01} Sales) はブックマーク BM01 で定義された選択範囲の Sales を返します
```

```
sum({$ <Year={2007,2008}>} Sales) は現在の選択に Year が 2007 もしくは 2008 の条件を追加した sales を返します。つまり、sum(if(Year=2007 or Year=2008, Sales)) と同じです。
```

```
min([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]  
expression [, rank])
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の数値の最小値を返します。*rank* のデフォルトは 1 で、これが最小値に対応します。*rank* を 2 と指定すると、2 番目に低い値が返されます。*rank* が 3 のときは 3 番目に低い値が返され、以下同様に値が返されます。

例：

```

min( Sales )
min( Sales, 2 )
min( Price*Quantity )
min( total Sales )
min( {1} total Sales )

```

```

max([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]
expression [, rank])

```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の数値の最大値を返します。*rank* のデフォルトは 1 で、これが最大値に対応します。*rank* を 2 と指定すると、2 番目に高い値が返されます。*rank* が 3 のときは 3 番目に高い値が返され、以下同様に値が返されます。

例 :

```

max( Sales )
max( Sales, 2 )
max( Price*Quantity )
max( total Sales )
max( {1} total Sales )

```

```

only([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]
expression)

```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* に 1 つだけ値が含まれる場合はその値が返されます。そうでない場合は、NULL が返されます。**only** は、数値とテキスト値のどちらも返すことができます。

例 :

```

only( Sales )
only( Price*Quantity )
only( total Salesman )

```

```

mode ([{set_expression}][ distinct ] expression)

```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の最頻値 (最も頻繁に発生する値) を返します。複数の値が同じ頻度で現れる場合は、NULL が返されます。**mode** は、数値とテキスト値のどちらも返すことができます。

Mode は、**total** 修飾子をサポートしません。

例 :

```

mode( Product )
mode( X*Y/3 )

```

```

firstsortedvalue([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {,
fld}>]] expression [, sort_weight [, n]])

```

expression がチャート軸で反復処理された場合に、対応する *sort-weight* によってソートされた *expression* の最初の値を返します。 *sort-weight* は、対応する *expression* の最初にソートされる値に重み付けの最も軽い値が対応するように、数値を返します。 *sort-value* 式の前にマイナス記号を入れると、関数は最後の値を返します。数式の複数の値が同じ最低の *sort-order* を持つ場合、関数は NULL を返します。 *n* を 1 より大きくすると、 *n* 番目の値が得られます。

例：

```
firstsortedvalue ( PurchasedArticle, OrderDate )
firstsortedvalue ( PurchasedArticle, -OrderDate, 2 )
firstsortedvalue ( A/B, X*Y/3 )
firstsortedvalue ( distinct PurchasedArticle, OrderDate )
firstsortedvalue ( total PurchasedArticle, OrderDate )
firstsortedvalue ( total <Grp> PurchasedArticle, OrderDate )
```

文字列集計関数

MinString([{set_expression}] [**total** [<fld {, fld}>]] expression)

チャート軸で反復処理された *expression* に、文字列表現 (任意のテキストまたは数値) を含む 1 つ以上の値が含まれる場合は、テキストのソート順の最初のテキスト値が返されます。そうでない場合は、NULL が返されます。

例：

```
MinString( Currency )
MinString( Left( abc,2 ) )
MinString( total Currency )
MinString( <X> Currency )
```

MaxString([{set_expression}] [**total** [<fld {, fld}>]] expression)

チャート軸で反復処理された *expression* に、文字列表現 (任意のテキストまたは数値) を含む 1 つ以上の値が含まれる場合は、テキストのソート順の最後のテキスト値が返されます。そうでない場合は、NULL が返されます。

例：

```
MaxString( Currency )
MaxString( Left( abc,2 ) )
MaxString( total Currency )
MaxString( total <X> Currency )
```

concat([{set_expression}] [**distinct**] [**total** [<fld {, fld}>]] expression[, delimiter[, sort_weight]])

チャート軸で反復処理された *expression* のすべての値の集計された文字列連結を返します。各値は、delimiter の文字列によって区切られます。連結の順序は、*sort-weight* によって決定されます。*sort-weight* は、最初にソートされる項目に重み付けの最も軽い値が対応するように、数値を返します。

例：


```
concat( Code, ';' )
concat( FirstName&' '&LastName, ', ' )
concat( distinct Code, ';' )
concat( total Name, ';' , Date )
concat( total <Grp> Name, ';' , Date)
```

カウンタ集計関数

```
count ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]
expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* からの値の集計されたレコード数を返します。

この関数では、**distinct** 修飾子を **total** 修飾子と組み合わせて使用することができます。この組み合わせは、他の集計関数では無効です。

例：

```
count(Sales)
count(Price*Quantity)
count(distinct Price)
count(Sales)/count(total Sales) は選択範囲内の Sales を返します
```

```
NumericCount ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {,
fld}>]] expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* からの値の集計された数値の数を返します。

例：

```
NumericCount(Sales)
NumericCount(Price*Quantity)
NumericCount(distinct Price)
NumericCount(Sales)/NumericCount(total Sales)
NumericCount(Sales)/NumericCount({1} total Sales) はドキュメント全体の Sales
を返します
```

```
TextCount ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]
expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* からの値の集計された英数字の数を返します。

例：

```
TextCount(Sales)
TextCount(Price*Quantity)
TextCount(distinct Price)
TextCount(Sales)/TextCount(total Sales) は選択範囲内の Sales を返します
TextCount(Sales)/TextCount({1} total Sales) はドキュメント全体の Sales を返し
ます
```

```
NullCount ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {, fld}>]]
expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* からの null 値の集計された数を返します。

例：

```
NullCount(Sales)
NullCount(Price*Quantity)
NullCount(distinct Price)
NullCount(Sales)/NullCount(total Sales) は選択範囲内の Sales を返します
NullCount(Sales)/NullCount({1} total Sales) はドキュメント全体の Sales を返します
```

```
MissingCount([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld { , fld } >]] expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* からの欠損値の集計された数を返します。欠損値は、いずれも数値ではありません。

例：

```
MissingCount(Sales)
MissingCount(if(Price>10, Price, 'invalid'))
MissingCount(distinct Price)
MissingCount(Sales)/MissingCount(total Sales) は選択範囲内の Sales を返します
MissingCount(Sales)/MissingCount({1} total Sales) はドキュメント全体の Sales を返します
```

チャートの統計集計関数

```
avg([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld { , fld } >]] expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の集計された平均を返します。

expression には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、**高度な集計 (368 ページ)** 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

関数の引数の前に **distinct** という語がある場合、関数の引数の評価から生じる重複は無視されます。

関数の引数の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1 つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```

avg(Sales)
avg(X*Y/3)
avg(distinct Price)
avg(total Sales)
avg({1} total Sales)

```

```

sterr ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {,fld}>] ]
expression )

```

チャート軸で反復処理された *expression* で表される一連の値の集計された標準誤差 (**stdev/sqrt(n)**) を返します。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][**distinct**][**total** [<fld {, fld } >]] *expression*) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**sterr**関数は、Set 分析 (992 ページ)関数と同様に *avg*([{set_expression}][**distinct**][**total** [<fld {, fld } >]] *expression*) (962 ページ) と**total**修飾子をサポートします。

例 :

```

sterr( X )
sterr( X*Y/3 )
sterr( total X ) >
sterr( total <Z> X )

```

```

steyx ([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {,fld}>] ] y-
expression, x-expression)

```

チャート軸に対して反復する *y-expression* と *x-expression* の一対の数で表される一連の座標について、回帰上の各 *x* 値に対して予想される *y* 値の集計された標準誤差を返します。一対のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][**distinct**][**total** [<fld {, fld } >]] *expression*) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**steyx**関数は、Set 分析 (992 ページ)関数と同様に *avg*([{set_expression}][**distinct**][**total** [<fld {, fld } >]] *expression*) (962 ページ) と**total**修飾子をサポートします。

例 :

```

steyx( Y, X )
steyx( A/B, X*Y/3 )
steyx( total Y, X )
steyx( total <Z> Y, X )

```

```

linest_m ([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {,fld}>] ] y-
expression, x-expression[, y0 [, x0 ]])

```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *m* 値 (傾き) を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_m**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_m( Y, X )
linest_m( A/B, X*Y/3 )
linest_m( total Y, X )
linest_m( total <Z> Y, X )
linest_m( Y, X, 0 )
linest_m( Y, X, 1, 1 )
```

```
linest_b ([set_expression][ distinct ] [ total [<fld {, fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ] ] )
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *b* 値 (*y* 切片) を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_b**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_b( Y, X ) >
linest_b( A/B, X*Y/3 )
linest_b( total Y, X )
linest_b( total <Z> Y, X )
linest_b( Y, X, 0 )
```

linest_b(Y, X, 1, 1

```
linest_r2 ( [{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {, fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ] ] )
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *r2* 値 (決定係数) を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][distinct][total [<fld {, fld}>]] expression) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_r2**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に *avg*([{set_expression}][distinct][total [<fld {, fld}>]] expression) (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

linest_r2(Y, X)

linest_r2(A/B, X*Y/3)

linest_r2(**total** Y, X)

linest_r2(**total** <Z> Y, X)

linest_r2(Y, X, 0)

linest_r2(Y, X, 1, 1)

```
linest_sem ( [{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld {, fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ] ] )
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *m* 値の標準誤差を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][distinct][total [<fld {, fld}>]] expression) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_sem**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に *avg*([{set_expression}][distinct][total [<fld {, fld}>]] expression) (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

linest_sem(Y, X)

linest_sem(A/B, X*Y/3)

```

linest_sem( total Y, X )
linest_sem( total <Z> Y, X )
linest_sem( Y, X, 0 )
linest_sem( Y, X, 1, 1 )

```

```

linest_seb ( [{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {,fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])

```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *b* 値の標準誤差を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total[<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_seb** 関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total[<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```

linest_seb( Y, X )
linest_seb( A/B, X*Y/3 )
linest_seb( total Y, X )
linest_seb( total <Z> Y, X )
linest_seb( Y, X, 0 )
linest_seb( Y, X, 1, 1 )

```

```

linest_sey ( [{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {,fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])

```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された *y* 予測値の標準誤差を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total[<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_sey** 関数は、Set 分析 (992 ページ)

ジ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_sey( Y, X )
linest_sey( A/B, X*Y/3 )
linest_sey( total Y, X )
linest_sey( total <Z> Y, X )
linest_sey( Y, X, 0 )
linest_sey( Y, X, 1, 1 )
```

```
linest_df ( [set_expression][ distinct ] [total [<fld {, fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された自由度を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_df** 関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_df( Y, X )
linest_df( A/B, X*Y/3 )
linest_df( total Y, X )
linest_df( total <Z> Y, X )
linest_df( Y, X, 0 )
linest_df( Y, X, 1, 1 )
```

```
linest_f ( [set_expression][ distinct ] [total [<fld {, fld}>] ]
y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ]])
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された F 統計量 ($r^2/(1-r^2)$) を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 y_0 を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 y_0 と x_0 の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y_0 と x_0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 y_0 と x_0 が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_f**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_f( Y, X )
linest_f( A/B, X*Y/3 )
linest_f( total Y, X )
linest_f( total <Z> Y, X )
linest_f( Y, X, 0 )
linest_f( Y, X, 1, 1 )
```

```
linest_ssreg ( [set_expression] [ distinct ] [ total [<fld {, fld } >] ] y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ] ] )
```

チャート軸で反復処理された x -expression と y -expression のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された回帰変動を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 y_0 を記述することにより、 y 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。 y_0 と x_0 の両方を記述すると、1つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y_0 と x_0 の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも2つの有効な対となるデータが必要です。 y_0 と x_0 が記述されている場合は、1組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_ssreg**関数は、Set 分析 (992 ページ)関数と同様に `avg([set_expression][distinct][total [<fld {, fld } >]] expression)` (962 ページ) と **total**修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_ssreg( Y, X )
linest_ssreg( A/B, X*Y/3 )
linest_ssreg( total Y, X )
linest_ssreg( total <Z> Y, X )
linest_ssreg( Y, X, 0 )
linest_ssreg( Y, X, 1, 1 )
```



```
linest_ssresid ( [ {set_expression} ] [ distinct ] [ total [ <fld {, fld}> ] ] y-expression, x-expression [, y0 [, x0 ] ] )
```

チャート軸で反復処理された *x-expression* と *y-expression* のペア数値で表される一連の座標の方程式 $y=mx+b$ で定義される直線回帰の集計された残差変動を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。

連結値 *y0* を記述することにより、*y* 軸上の与えられた点に回帰線を通すことができます。*y0* と *x0* の両方を記述すると、1 つの固定座標に回帰線を通すことができます。

y0 と *x0* の両方が記述されていない限り、この関数の計算には少なくとも 2 つの有効な対となるデータが必要です。*y0* と *x0* が記述されている場合は、1 組の対となるデータがあれば計算できます。

この関数には、ネストされた集計において `avg([{set_expression}] [distinct] [total [<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**linest_ssresid**関数は、Set 分析 (992 ページ)関数と同様に `avg([{set_expression}] [distinct] [total [<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) と**total**修飾子をサポートします。

例 :

```
linest_ssresid( Y, X )
linest_ssresid( A/B, X*Y/3 )
linest_ssresid( total Y, X )
linest_ssresid( total <Z> Y, X )
linest_ssresid( Y, X, 0 )
linest_ssresid( Y, X, 1, 1 )
```

```
correl ( [ {set_expression} ] [ distinct ] [ total [ <fld {, fld}> ] ] x-expression, y-expression )
```

チャート軸に対して反復する *x-expression* と *y-expression* の一对の数で表される一連の座標に関して集計された相関係数を返します。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。`rangecorrel(x-value, y-value {, x-value, y-value})` (1012 ページ) 関数も参照してください。

x-expression および *y-expression* には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

この関数には、ネストされた集計において `avg([{set_expression}] [distinct] [total [<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**correl**関数は、Set 分析 (992 ページ)関数と同様に `avg([{set_expression}] [distinct] [total [<fld {, fld}>]] expression)` (962 ページ) と**total**修飾子をサポートします。

例 :

```
correl( Payments, Dates )
correl( A/B, X*Y/3 )
correl( total Payments, Dates )
correl( total <Grp> Payments, Dates )
```

```
median ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld {, fld}>] ]
expression )
```

チャート軸で反復処理された *expression* の集計された中央値を返します。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**median** 関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
median( X )
median( X*Y/3 )
median( total X )
median( total <Group> Price )
```

```
stdev([{set_expression}][ distinct ] [ total [<fld { , fld } >] ]
expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の集計された標準偏差を返します。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**stdev** 関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
stdev(Sales)
stdev(X'Y/3)
stdev(distinct Price)
stdev(total Sales)
stdev({1} total Sales)
```

```
skew([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld { , fld } >] ]
expression )
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の集計された歪度を返します。

この関数には、ネストされた集計において *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**skew** 関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に *avg*([{set_expression}][*distinct*][*total* [<fld {, fld}>]] *expression*) (962 ページ) と **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
skew(Sales)
skew(X'Y/3)
skew(distinct Price)
```

```
skew(total Sales)
skew({1} total Sales)
```

```
kurtosis ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld { , fld } >]
] expression)
```

チャート軸で反復処理された *expression* または *field* の集計された尖度を返します。

この関数には、ネストされた集計において `avg([set_expression] [distinct] [total [<fld { , fld } >]] expression)` (962 ページ) 関数と同じ制限があります。**kurtosis**関数は、Set 分析 (992 ページ) 関数と同様に `avg([set_expression] [distinct] [total [<fld { , fld } >]] expression)` (962 ページ) と**total**修飾子をサポートします。

例 :

```
kurtosis(Sales)
kurtosis(X*Y/3)
kurtosis(distinct Price)
kurtosis(total Sales)
kurtosis({1} total Sales)
```

```
fractile ([{set_expression}] [ distinct ] [ total [<fld { , fld } >] ]
expression, fractile)
```

チャート軸で反復処理された *expression* の集計された分位数を返します。

関数の引数式には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

関数の引数の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1 つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例 :

```
fractile( Sales, 0.75 )
fractile( X*Y/3, 0.9 )
fractile( total Price, 0.25 )
fractile( total <Group> Price )
```

チャートの財務集計関数

```
irr ([[set_expression] total [<fld { , fld } >] ] expression)
```

チャート軸に対して反復する数式の数値で表される一連のキャッシュフローについて、集計された内部収益率を返します。これらのキャッシュフローは、年金の場合のように均等である必要はありません。ただし、このキャッシュフローは、毎月、毎年のように、定期的に発生する必要があります。内部収益率は、定期的に発生する支払い(負の値)と収入(正の値)からなる投資の利率です。この関数の計算には、少なくとも1つの正の値と1つの負の値が必要です。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されます。 `rangeirr(value { ,value })` (394 ページ) 関数も参照してください。

`expression` には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

`expression` の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに1つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```
irr( Payments )
irr( X*Y/3 )
irr( total Payments )
irr( total <Grp> Payments )
```

```
xirr ([set_expression][ total [<fld { ,fld}>] ] valueexpression,
dateexpression)
```

チャート軸で反復処理された `valueexpression` と `dateexpression` のペア数値で表されるキャッシュフロー明細表(必ずしも定期的ではない)の集計された内部収益率を返します。すべての支払いは、年365日計算で割引かれます。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべての対となるデータが無視されます。 `rangexirr(value, date { ,value, date })` (395 ページ) 関数も参照してください。

`Valueexpression` と `dateexpression` には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

関数の引数の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに1つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリスト

に含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```
xirr( Payments, Dates )
xirr( A/B, X*Y/3 )
xirr( total Payments, Dates )
xirr( total <Grp> Payments, Dates)
```

npv ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>]] rate, expression)

チャート軸に対して反復する *expression* 内の数として表される割引率、将来の支払い(負の値)、および収入(正の値)に基づく一連の投資について、集計された正味現在価値を返します。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。rate は、期間あたりの利率です。支払および入金は、各期間の最後に発生すると見なされます。テキスト値、null 値、および欠損値は無視されます。rangenvp 関数も参照してください。

Rate と *expression* には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせ使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

関数の引数の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1 つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```
npv( 0.1, Payments )
npv( 0.1, X*Y/3 )
npv( total 0.1, Payments )
npv( total <Grp> 0.1, Payments )
```

xnpv ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>]] rate, valueexpression, dateexpression)

チャート軸で反復処理された *valueexpression* と *dateexpression* のペア数値で表されるキャッシュフロー明細表 (必ずしも定期的ではない) の集計された正味現在価値を返します。rate は、期間あたりの利率です。結果は、金額のデフォルトの数値書式で返されます。すべての支払いは、年 365 日計算で割引かれます。一对のデータのどちらか、または両方にテキスト値、null 値、欠損値があると、すべ

ての対となるデータが無視されます。 `rangexnpv(rate, value, date {, value, date})` (395 ページ) 関数も参照してください。

`Rate`、`valueexpression` または `dateexpression` には、これらの内部の集計に `total` もしくは `all` 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

`field` の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1 つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```
xnpv( 0.1, Payments, Dates )
xnpv( 0.1, A/B, X*Y/3 )
xnpv(total 0.1, Payments, Dates )
xnpv(total <Grp> 0.1, Payments, Dates)
```

チャートの統計検定関数

カイ二乗検定関数

次の 3 つの関数は、カイ二乗検定に適用されます。

```
chi2test_p ([set_expression] [ total [<fld {,fld}>] col, row,
observed_value [, expected_value])
```

チャート軸で反復処理された 1 つまたは 2 つの一連の値の集計されたカイ二乗検定の p 値 (有意性) を返します。検定は、指定された `col` と `row` の行列上の変動を検定する `observed_value` の値、または `observed_value` の値と対応する `expected_values` の比較によって実行されます。数式にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

関数の引数式には、これらの内部の集計に **total** 修飾子が含まれない限り、集計関数を含めることはできません。高度なネストされた集計の場合は、高度な集計 (368 ページ) 関数と計算軸を組み合わせて使用してください。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

関数の引数の前に **total** を配置した場合、現在の選択範囲内のすべての絞込値に対して計算が行われますが、チャート軸の変数は無視されます。

total 修飾子の後には、1 つ以上の項目名のリストを山かっこで囲んで続けることができます。これらの項目名は、チャート軸の変数のサブセットにする必要があります。この場合、リストされているものを除く、すべてのチャート軸の変数は無視されて計算が行われます。つまり、リストされている軸項目の項目値の組み合わせごとに 1 つの値が返されます。また、現在、チャートの軸ではない項目もリストに含めることができます。これは、軸項目が固定されていない場合に、軸をグループ化する場合に役立

ちます。グループ内のすべての変数をリストした場合、この関数は、サイクリックまたはドリルダウンのレベルが変更されても機能します。

例：

```
chi2test_p( Grp, Grade, Count )
chi2test_p( Gender, Description, Observed, Expected )
```

```
chi2test_df ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] col, row,
observed_value [, expected_value] )
```

チャート軸で反復処理された 1 つまたは 2 つの一連の値の集計されたカイ二乗検定の df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
chi2test_df( Grp, Grade, Count )
chi2test_df( Gender, Description, Observed, Expected )
```

```
chi2test_chi2 ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] col, row,
observed_value [, expected_value])
```

チャート軸で反復処理された 1 つまたは 2 つの一連の値の集計されたカイ二乗検定値を返します。引数の記述については、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
chi2test_chi2( Grp, Grade, Count )
chi2test_chi2( Gender, Description, Observed, Expected )
```

t 検定関数

次の 8 つの関数は、独立標本のスチューデント t 検定に適用されます。

```
TTest_t ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_
var = true])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された t 値を返します。これらの値は、`values` によって返され、`group` の 2 つの値によって論理的にグループ分けされます。`eq_var` が偽と指定されている場合は 2 つの標本の個別分散と見なされ、そうでない場合は標本間の等分散と見なされます。`value` にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_t( Group, Value )
ttest_t( Group, Value, false )
```

```
TTest_df ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_df( Group, Value )
ttest_df( Group, Value, false )
```

```
TTest_sig ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_sig( Group, Value )
ttest_sig( Group, Value, false )
```

```
TTest_dif ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。こ

の関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_dif( Group, Value )
ttest_dif( Group, Value, false )
```

TTest_sterr ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された学生 t 検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_sterr( Group, Value )
ttest_sterr( Group, Value, false )
```

TTest_conf ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された t 値を返します。両側有意水準は、`sig` で指定します。指定されない場合、`sig` は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest_conf( Group, Value )
ttest_conf( Group, Value, false )
```

TTest_lower ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) および `TTest_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (977 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。こ

の関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest_lower( Group, Value )
ttest_lower( Group, Value, false )
```

```
TTest_upper ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、`TTest_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, eq_var = true])` (975 ページ) および `TTest_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (977 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest_upper( Group, Value )
ttest_upper( Group, Value, false )
```

t 検定加重関数

次の 8 つの関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる 2 つの独立標本スチューデント t 検定に適用されます。

```
TTestw_t ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された t 値を返します。これらの値は、`values` によって返され、`group` の 2 つの値によって論理的にグループ分けされます。`value` の各値は、`weight` の対応する値に従って 1 回または複数回カウントされます。`eq_var` が偽と指定されている場合は 2 つの標本の個別分散と見なされ、そうでない場合は標本間の等分散と見なされます。`value` にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
TTestw_t( Weight, Group, Value )
TTestw_t( Weight, Group, Value, false )
```

```
TTestw_df ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])
```

チャート軸で反復処理された2つの独立した一連の値の集計されたスチューデントt検定のdf値(自由度)を返します。引数の記述については、`TTestw_t([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_df( Weight, Group, Value )
TTestw_df( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_sig ([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])

チャート軸で反復処理された2つの独立した一連の値の集計されたスチューデントt検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、`TTestw_t([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_sig( Weight, Group, Value )
TTestw_sig( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_dif ([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])

チャート軸で反復処理された2つの独立した一連の値の集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。引数の記述については、`TTestw_t([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total[<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_dif( Weight, Group, Value )
TTestw_dif( Weight, Group, Value, false )
```

TTestw_sterr ([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])

チャート軸で反復処理された2つの独立した一連の値の集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、`TTestw_t([set_expression][total[<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_sterr( Weight, Group, Value )
TTestw_sterr( Weight, Group, Value, false )
```

```
TTestw_conf ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された t 値を返します。両側有意水準は、`sig` で指定します。指定されない場合、`sig` は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、`TTestw_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_conf( Weight, Group, Value )
TTestw_conf( Weight, Group, Value, false )
```

```
TTestw_lower ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、`TTestw_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) および `TTestw_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (980 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
TTestw_lower( Weight, Group, Value )
TTestw_lower( Weight, Group, Value, false )
```

```
TTestw_upper ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、`TTestw_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, eq_var = true])` (978 ページ) および `TTestw_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])` (980 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
TTestw_upper( Weight, Group, Value )
TTestw_upper( Weight, Group, Value, false )
```

1 標本 t 検定関数

次の 8 つの関数は、1 標本のスチューデント t 検定に適用されます。

TTest1_t ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] value)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された t 値を返します。値は、value によって返す必要があります。value にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_t( Value )
```

TTest1_df ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] value)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、`TTest1_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value)` (981 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_df( Value )
```

TTest1_sig ([set_expression][**total** [<fld {,fld}>] value)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、`TTest1_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value)` (981 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_sig( Value )
```

TTest1_dif ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデントt検定の平均の差を返します。引数の記述については、*TTest1_t*([set_expression][total [<fld {,fld}>] value) (981 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_dif( Value )
```

TTest1_sterr ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデントt検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、*TTest1_t*([set_expression][total [<fld {,fld}>] value) (981 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_sterr( Value )
```

TTest1_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sig = 0.025])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたt値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は0.025に設定され、その結果として信頼区間は95%になります。その他の引数の記述については、*TTest1_t*([set_expression][total [<fld {,fld}>] value) (981 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p*([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ttest1_conf( Value )
ttest1_conf( Value, 0.005 )
```

TTest1_lower ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sig = 0.025])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、*TTest1_t*([set_expression][total [<fld {,fld}>] value) (981 ページ) および *TTest1_conf*

(*[set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sig = 0.025]]*) (982 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1_lower( Value )
ttest1_lower( Value, 0.005 )
```

TTest1_upper (*[set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sig = 0.025]]*)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、*TTest1_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value)* (981 ページ) および *TTest1_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sig = 0.025]]* (982 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1_upper( Value )
ttest1_upper( Value, 0.005 )
```

1 標本 t 検定加重関数

次の 8 つの関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる 1 標本スチューデント t 検定に適用されます。

TTest1w_t (*[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)*)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された t 値を返します。値は、*value* によって返す必要があります。*value* の各値は、*weight* の対応する値に従って 1 回または複数回カウントされます。*value* にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])* (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_t( Weight, Value )
```

TTest1w_df (*[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)*)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の df 値 (自由度) を返します。引数の記述については、`TTest1w_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)` (983 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_df( Weight, Value )
```

TTest1w_sig (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、`TTest1w_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)` (983 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_sig( Weight, Value )
```

TTest1w_dif (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の平均の差を返します。引数の記述については、`TTest1w_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)` (983 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_dif( Weight, Value )
```

TTest1w_sterr (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計されたスチューデント t 検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、`TTest1w_t ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value)` (983 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_sterr( Weight, Value )
```

```
TTest1w_conf ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, value  
[, sig = 0.025 ])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された t 値を返します。両側有意水準は、*sig* で指定します。指定されない場合、*sig* は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、*TTest1w_t* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value) (983 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_conf( Weight, Value )  
ttest1w_conf( Weight, Value, 0.005 )
```

```
TTest1w_lower ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, value  
[, sig = 0.025 ])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、*TTest1w_t* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value) (983 ページ) および **TTest1w_conf** 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_lower( Weight, Value )  
ttest1w_lower( Weight, Value, 0.005 )
```

```
TTest1w_upper ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, value  
[, sig = 0.025 ])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、*TTest1w_t* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value) (983 ページ) および **Ttest1w_conf** 関数を参照してください。

ネストされた集計には、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、*chi2test_p* ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ttest1w_upper( Weight, Value )  
ttest1w_upper( Weight, Value, 0.005 )
```

z 検定関数

次の7つの関数は、z 検定に適用されます。

ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 値を返します。値は、value によって返す必要があります。母平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。標準偏差が既知の場合は、sigma に記述します。sigma の記述を省略すると、実際の標本標準偏差が使用されます。value にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ztest_z( Value-TestValue )
```

ZTest_sig ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma]) (986 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ztest_sig(Value-TestValue)
```

ZTest_dif ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の平均の差を返します。引数の記述については、ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma]) (986 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value]) (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例：

```
ztest_dif(Value-TestValue)
```

ZTest_sterr ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、`ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])` (986 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_sterr(Value-TestValue)
```

```
ZTest_conf ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] value [, sigma  
[, sig = 0.025 ]])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 値を返します。両側有意水準は、`sig` で指定します。指定されない場合、`sig` は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、`ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])` (986 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_conf(Value-TestValue)
```

```
ZTest_lower ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var =  
true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、`ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])` (986 ページ) および `ZTest_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma [, sig = 0.025]])` (987 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_lower( Group, Value )  
ztest_lower( Group, Value, false )
```

```
ZTest_upper ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [,  
sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、`ZTest_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma])` (986 ページ)

ジ) および `ZTest_conf([set_expression][total [<fld {,fld}>] value [, sigma [, sig = 0.025]])` (987 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztest_upper( Group, Value )
ztest_upper( Group, Value, false )
```

z 検定加重関数

次の 7 つの関数は、入力データ系列が加重 2 段組で与えられる z 検定に適用されます。

ZTestw_z (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma]`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 値を返します。値は、`value` によって返す必要があります。標本平均 0 が仮定されます。他の平均について検定する場合は、標本値からその値を減算します。`value` の各値は、`weight` の対応する値に従って 1 回または複数回カウントされます。標準偏差が既知の場合は、`sigma` に記述します。`sigma` の記述を省略すると、実際の標本標準偏差が使用されます。`value` にテキスト値、NULL 値、欠損値が含まれていると、関数は NULL を返します。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_z( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_sig (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma]`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の両側有意水準を返します。引数の記述については、`ZTestw_z([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_sig( Weight, Value-TestValue)
```

ZTestw_dif (`[set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma]`)

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の平均の差を返します。引数の記述については、`ZTestw_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_dif( Weight, Value-TestValue)
```

```
ZTestw_sterr ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 検定の平均の差の標準誤差を返します。引数の記述については、`ZTestw_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_sterr( Weight, Value-TestValue)
```

```
ZTestw_conf ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma [, sig = 0.025 ] ])
```

チャート軸で反復処理された一連の値の集計された z 値を返します。両側有意水準は、`sig` で指定します。指定されない場合、`sig` は 0.025 に設定され、その結果として信頼区間は 95% になります。その他の引数の記述については、`ZTestw_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_conf( Weight, Value-TestValue)
```

```
ZTestw_lower ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の下限値を返します。引数の記述については、`ZTestw_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) および `ZTestw_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma [, sig = 0.025]])` (989 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_lower( Group, Value )
ztestw_lower( Group, Value, false )
```

```
ZTestw_upper ([set_expression][ total [<fld {,fld}>] group, value [, sig = 0.025 [, eq_var = true]])
```

チャート軸で反復処理された 2 つの独立した一連の値の集計された信頼区間の上限値を返します。引数の記述については、`ZTestw_z ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma])` (988 ページ) および `ZTestw_conf ([set_expression][total [<fld {,fld}>] weight, value [, sigma [, sig = 0.025]])` (989 ページ) 関数を参照してください。

ネストされた集計には、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数でリストされている制限と同じ制限が適用されます。この関数は、`chi2test_p ([set_expression][total [<fld {,fld}>] col, row, observed_value [, expected_value])` (974 ページ) 関数の説明と同じように **total** 修飾子をサポートします。

例 :

```
ztestw_upper( Group, Value )
ztestw_upper( Group, Value, false )
```

特別な入力フィールドの集計関数

入力フィールドのための特別な集計関数があります。

`inputsum (inputfield[, distribution_mode][set_expression])` (990 ページ)

`inputavg(inputfield [, distribution_mode][set_expression])` (991 ページ)

```
inputsum (inputfield[, distribution_mode][set_expression])
```

チャート軸で反復処理された `inputfield` の集計された合計を返します。Inputfield は、スクリプトで入力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

この集計関数をテーブルチャートの数式として使用する場合は、集計された合計を対話式に編集することができます。数式のセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、そのセルは入力編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのままセル間を移動できます。集計された合計の変更は、選択された `distribution_mode` を使用して、基底の項目に配布されます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されます。

`distribution_mode` パラメータには、次の値を含めることができます。

- '+' デフォルトモード。変更に対応する部分がすべての基底の値に分配されます。
- '*' 変更が (既存の値に対する) 比例的に基底の値に分配されます。
- '=' 入力された値がすべての基底の値に与えられます。

'/' 前の分配は無視されますが、前の合計を保持しながら、値が基底の値の間で均等に分割されま
す。

前述の *distribution_mode* の値には、次の修飾子を追加できます。

T たとえば、'+T' は、入力フィールドの他の選択値に対して、入力された変更を埋め合わせます
(全合計はそのままです)。

A たとえば、'+A' は、他のすべての値に対して、入力された変更を埋め合わせます (全合計はそ
のままです)。

例：

```
inputsum( Budget )
inputsum( Budget, '+' )
inputsum( Budget, '*' )
inputsum( Budget, '=' )
inputsum( Budget, '/' )
inputsum( Budget, '+T' )
inputsum( Budget, '+A' )
```

inputavg(*inputfield* [, *distribution_mode*][*set_expression*])

チャート軸で反復処理された *inputfield* の集計された平均を返します。*Inputfield* は、スクリプトで入
力フィールドとして正しく宣言された項目の項目名にする必要があります。

この集計関数をテーブルチャートの数式として使用する場合は、集計された値を対話式に編集するこ
とができます。数式のセル上にポインタを置くと、入力アイコンが表示されます。アイコンをクリックす
ると、そのセルは入力編集モードに設定されます。上/下矢印キーを使用して、入力編集モードのまま
セル間を移動できます。集計された値の変更は、選択された *distribution_mode* を使用して、基底の項
目に配布されます。QlikView ドキュメント全体は、新しい値が入力されるたびに自動的に再計算されま
す。

distribution_mode パラメータには、次の値を含めることができます。

'+' デフォルトモード。変更に対応する部分がすべての基底の値に分配されます。

'*' 変更が (既存の値に対する) 比例的に基底の値に分配されます。

'=' 入力された値がすべての基底の値に与えられます。

'/' 前の分配は無視されますが、前の平均を保持しながら、値が基底の値の間で均等に分割されま
す。

前述の *distribution_mode* の値には、次の修飾子を追加できます。

T たとえば、'+T' は、入力フィールドの他の選択値に対して、入力された変更を埋め合わせます
(全合計はそのままです)。

A たとえば、'+A' は、他のすべての値に対して、入力された変更を埋め合わせます (全合計はそ
のままです)。

例：

```

inputavg( Budget )
inputavg ( Budget, '+' )
inputavg ( Budget, '*' )
inputavg ( Budget, '=' )
inputavg ( Budget, '/' )
inputavg ( Budget, '+T' )
inputavg ( Budget, '+A' )

```

Set 分析

集計関数はデフォルトで項目値の現在の選択条件に対して集計を行います。現在の選択条件は、1 セットの項目値として参照できます。現在の選択条件の代わりに、他のセットの項目値を定義して、チャートで使用することができます。たとえば、現在の選択に関わりなく、ダッシュボードであらゆる地域の製品の市場シェアを表示できます。

1 セットの項目値の定義は SET 数式の定義、データを分析するための SET 数式の使用は SET 分析と呼ばれます。

注意!

SET 数式はスクリプトではなく、チャートでのみ使用できます。

SET 数式は必ず中括弧で囲みます。たとえば、`sum({1} Sales)` では `{1}` が SET 数式です。

SET 数式の作成

SET 数式では、定義する項目値のセットが、評価対象の項目または数式にどのように関係しているのかを必ず識別する必要があります。たとえば、項目値の完全なセット、または現在の選択の逆を評価しているとします。この関係を識別した後、項目内で値の選択を修正できます (これはオプションです)。

つまり、SET 数式には識別子とオプションの修飾子が含まれています。修飾子は、以下のように山形括弧で識別子から区別されます。

```
{set_identifier<set_modifier>}
```

識別子と修飾子の双方で演算子を使うと、項目の関係と選択を操作できます。さらに、以下のトピックで説明されているように、QlikView では修飾子にドル記号展開や高度な検索、[implicit] 項目値定義を組み合わせることが可能です。

例：

SET 数式の基礎を理解するため、シンプルな使用例を見てみましょう。米国での売上値を示した以下のチャートを表示するダッシュボードを作成するとします。

1. 現在の選択に関わらず、米国での製品グループ別の売上合計値
2. 現在の選択を考慮に入れた、米国での製品グループ別の売上値

弊社の売上データは世界的な数値ですが、地域ごとに分割されています。製品グループは ProductGroup 項目にあり、売上値は Sales 項目に含まれています。

通常は、ProductGroup という軸と `sum(Sales)` というメジャーでチャートを 1 つ作成できます。ユーザーが Region と ProductGroup を選択すると、何が表示されるのかが決まります。ただし、上記のチャート (1) では常に同じ地域と選択を表示し、チャート (2) では常に同じ地域を表示するとします。SET 数式という点から各チャートで何を表示するのか見てみましょう。

1. `set_expression= {all of Sales <for RegionUSA>}`

2. set_expression= {current selection of Sales< for RegionUSA>}2. set_expression= {current selection of Sales< for RegionUSA>}

Given that the:

qualifier for "all" is 1

qualifier for current selection is \$

syntax for modifiers in this case is set_modifier = <field_name={field_value,[field_value]}>

SET 数式を使用するとチャートのメジャーは以下のようになります。

1. sum({1<Region={USA}>} Sales)

2. sum({\$<Region={USA}>} Sales)

SET 識別子

SET 識別子は、SET 数式と評価対象の項目値または数式の間を定義します。

SET 識別子は、SET 演算子を使用して組み合わせることができます。

識別子	説明
1	アプリケーションのすべてのレコードのセット一式を表します。
\$	現在の選択のレコードを表します。 SET 数式 { \$ } は、SET 数式を提示していないのと同じです。
	注意! { 1-\$ } では、現在の選択の逆、つまり現在の選択から除外されているものすべてが定義されます。
\$N	選択の [元に戻す] 履歴を SET 識別子として使用するには、ドル記号を使用します。 \$1 は「前の選択」を表し、[元に戻す] ボタンを押すのと同じです。 符号のないどの整数でも [元に戻す] 表記で使用できます。 \$0 は、現在の選択を表します。
\$_N	選択の [やり直し] 履歴を SET 識別子として使用するには、ドル記号を使用します。 \$_1 は「1 つ次の選択」を表し、[やり直し] ボタンを押すのと同じです。 符号のないどの整数でも [やり直し] 表記で使用できます。 \$0 は、現在の選択を表します。
bookmark_id bookmark_ name	サーバーとアプリのブックマークも SET 識別子として使用できます。ブックマーク ID またはブックマーク名のどちらかを使用します。 BM01 、 MyBookMark などです。 ブックマークの選択条件の部分のみ使用されます。値は含まれません。そのためブックマークの入力フィールドを SET 分析に使用することはできません。

例 :

sum({ \$ } Sales)

現在の選択における sales を返します。sum(Sales) と同じです。

sum({\$1} Sales)

"前の選択" における sales を返します。

sum({\$_2} Sales)

2つ次の選択 (2つ目の [やり直し]) における sales を返します。[元に戻す] を2回行ったときにのみ関連します。

sum({1} Sales)

選択を無視して、アプリケーション内の sales の合計を軸ごとに返します。製品を軸に持つチャートで使用すると、それぞれの製品には異なる値が返されます。

sum({1} Total Sales)

選択にも軸にも関係なく、アプリケーション内の sales の合計を返します。sum(All Sales) と同じです。

sum({BM01} Sales)

ブックマーク BM01 における sales を返します。

sum({MyBookMark} Sales)

ブックマーク名 "MyBookMark" における sales を返します。

sum({Server¥BM01} Sales)

サーバーブックマーク BM01 における sales を返します。

sum({Document¥MyBookmark} Sales)

ドキュメントブックマーク名 "MyBookmark" における sales を返します。

SET 演算子

SET 数式で使用できる SET 演算子はいくつかあります。すべての SET 演算子はオペランドとして SET を使用し、結果として SET を返します。

優先順位は、次のとおりです。

1. 単項演算子「-」(補集合)
2. Intersection 演算子と対称差演算子
3. Union 演算子と Exclusion 演算子

グループ内で、数式は左から右へ評価されます。標準の括弧を使用して順序を定義することもできます。SET 演算子で指定されていない場合は順序を決める必要があるかもしれません。たとえば、**A+(B-C)** は **(A+B)-C** とは異なる結果を返し、同様に **(A-C)+B** とも異なります。

注意!

複数の QlikView テーブルからの項目を含む基本集計関数とともに SET 演算子を使用すると、予測不能な結果の原因となるため、避けてください。たとえば、Quantity と Price が別々のテーブルの項目の場合、sum({\$*BM01} Quantity * Price) という数式は使用しないでください。

引数:

演算子	Description(説明)

- + Union。この二項演算子は、2つのSETオペランドのいずれかに属するレコードを含むSETを返します
- Exclusion。この二項演算子は、2つの内最初のSETオペランドにのみ属するレコードを含むSETを返します。また、単項演算子として使用する場合は、補集合を返します。
- * Intersection。この二項演算子は、2つのSETオペランドの両方に属するレコードを含むSETを返します。
- / 対称差(XOR)演算子。この二項演算子は、2つのSETオペランドのどちらかに属していて、両方に属していないレコードを含むSETを返します。

例：

sum({1-\$} Sales)

現在の選択のすべての除外値による sales を返します。

sum({\$*BM01} Sales)

現在の選択とブックマーク BM01 の共有部分における sales を返します。

sum({-(+\$BM01)} Sales)

現在の選択とブックマーク BM01 の除外値における sales を返します。

SET 修飾子

SET は選択の追加や変更で修飾できます。そういった修飾は、SET 数式に設定します。

修飾子は、項目名と項目の選択を定義する値を含み、すべてが < と > で囲まれます。

例：<Year={2007,+2008},Region={US}>.項目名と項目値は、<[Sales Region]={'West coast','South America'}> のように通常どおりに囲みます。

SET 修飾子は、SET 識別子や自分自身にも使用できます。SET 数式には使用できません。SET 識別子で使用する場合、修飾子は {\$<Year = {2007, 2008}>} のように SET 識別子のすぐ後ろに書き込む必要があります。自分自身に使用する場合、現在の選択の修飾子として解釈されます。

下記のように選択を定義する方法はいくつかあります。

別の項目に基づく

簡単なケースは、<OrderDate = DeliveryDate> のように、別の項目の選択値に基づいた選択です。

この修飾子は、**DeliveryDate** から選択値を取り、**OrderDate** に適用します。distinct 値がたくさん (200 以上) ある場合は、この操作の CPU にかかる負荷がかなり大きいため避けて下さい。

要素のセットに基づく(修飾子の項目値リスト)

最もよくあるケースは、<Year = {2007, 2008}> のように、コンマで区切られた値を中括弧で囲んだ項目値のリストに基づいた選択です。この中括弧は、要素のセットを定義します。要素は項目値もしくは項目の検索値です。検索値は常にダブルクォートを使用して定義します。たとえば、<Ingredient = {"*Garlic*"}> は、Garlic 文字列を含むすべての Ingredient を選択します。検索は大文字と小文字を区別し、除外値も含めて行われます。

空の要素のセットは、明確に $\langle \text{Product} = \{\} \rangle$ としたり、暗に $\langle \text{Product} = \{ \text{"Perpetuum Mobile"} \} \rangle$ (何も検索されない状態) として Product がないことを意味します。この結果、どの製品にも関連しないレコードのセットになります。このセットは、たとえば **TransactionID** などの他項目で選択が行われていなければ、通常の実行で実行できない点に留意してください。

強制除外

最後に、AND モードの項目では、強制排除も可能です。特定の項目値を強制排除したい場合は、項目名の前に "~" を使用する必要があります。

例：

sum({1<Region= {US}>} Sales)

現在の選択を無視して、Region が US の sales を返します。

sum({\$<Region = >} Sales)

Region での選択を除いた現在の選択における sales を返します。

sum({<Region = >} Sales)

すぐ上の例と同じ値を返します。SET 修飾子は、省略されると \$ とみなされる

注意！

前の2つの例にある構文は、Region での "選択がない" と解釈されますので、他の選択によって絞り込まれたすべての Region が絞込値となります。構文 $\langle \text{Region} = \{\} \rangle$ (また、イコールサインの右側のどんなテキストも、默示的に空の要素のセットとなります) は、Region なしと解釈されるため、同じではありません。

sum({\$<Year = {2000}, Region = {US, SE, DE, UK, FR}>} Sales)

現在の選択に Year と Region への新しい選択を追加した sales を返します。

sum({\$<~Ingredient = {"*garlic"}>} Sales)

現在の選択から文字列 garlic を含む Ingredients を強制排除した sales を返します。

sum({\$<Year = {"2*"}>} Sales)

現在の選択で Year が 2 で始まる sales を返します。つまり、Year 項目で 2000 年以降が選択されます。

sum({\$<Year = {"2*", "198*"}>} Sales)

上記に、1980 年代を追加した選択となります。

sum({\$<Year = {">1978<2004"}>} Sales)

数値検索で、任意の範囲を指定できます。

SET 演算子を使った SET 修飾子

既に説明したように、いろいろな要素のセットで SET 演算子を使用して項目内の選択を定義できます。例えば、修飾子 $\langle \text{Year} = \{ \text{"20*", 1997} \} - \{ 2000 \} \rangle$ は、2000 以外の 1997 と 20 で始まるすべての Year を選択します。

例：

sum({\$<Product = Product + {OurProduct1} - {OurProduct2}>} Sales)

現在の選択に、製品 (Product) の OurProduct1 を追加し、OurProduct2 を削除した sales を返します。

sum({\$<Year = Year + ({"20*",1997} - {2000}) >} Sales)

現在の選択に、1997 もしくは 20 で始まる 2000 以外の Year を追加した sales を返します。
2000 が現在の選択に含まれる場合は、変更後も含まれますので注意して下さい。

sum({\$<Year = (Year + {"20*",1997}) - {2000} >} Sales)

上記とほとんど同じ結果を返しますが、ここでは現在の選択に 2000 が含まれていても変更後は削除されます。優先順位を定義するためにかっこを使用する重要性の例となります。

sum({\$<Year = {"*"} - {2000}, Product = {"*bearing*"} >} Sales)

現在の選択に 2000 以外の Year と文字列 bearing を含む Product の新規選択を追加した Sales の合計を返します。

SET 代入演算子を使った SET 修飾子

上記の表記は、項目の現在の選択を無視して、新しい選択を定義します。しかし、項目の現在の選択を基準にして項目値を追加したい場合は、例えば、<Year = Year + {2007, 2008}> のように修飾子を設定します。これを同等でしかも短くすると、<Year += {2007, 2008}> になります。代入演算子は黙示的に union を定義します。また、黙示的な Intersection 演算子、Exclusion 演算子、そして対称差演算子は、"*="、"-="、"/=" を使用して定義できます。

例 :

sum({\$<Product += {OurProduct1, OurProduct2} >} Sales)

現在の選択に、製品 (Product) の OurProduct1 と OurProduct2 を追加した sales を返します。

sum({\$<Year += {"20*",1997} - {2000} >} Sales)

現在の選択に、1997 もしくは 20 で始まる 2000 以外の Year を追加した sales を返します。2000 が現在の選択に含まれる場合は、変更後も含まれますので注意して下さい。<Year=Year + ({"20*",1997}-{2000})> と同じです。

sum({\$<Product *= {OurProduct1} >} Sales)

現在の選択のうち Product の現在の選択値と OurProduct1 の共通部分における Sales の合計を返します。

高度な検索を使った SET 修飾子

ワイルドカードや集計を使用した高度な検索を使用して Set を定義できます。

例 :

sum({\$-1<Product = {"*Internal*", "*Domestic*"}>} Sales)

製品名に文字列 Internal もしくは Domestic が含まれている製品 (Product) の取引を除外した現在の選択の売上 (Sales) を返します。

sum({\$<Customer = {"=Sum({1<Year = {2007}>} Sales) > 1000000"}>} Sales)

現在の選択に Customer への新規選択 (2007 年の売上合計が 1,000,000 以上) を追加した売上 (Sales) の合計を返します。

ドル記号展開を使った SET 修飾子

変数と他のドル記号展開を Set 数式で使用できます。

例 :

sum({\$<Year = {\$(#vLastYear)}>} Sales)

現在の選択に対する前年の Sales の合計を返します。ここでは、対応する年を含む変数 vLastYear がドル記号展開に使用されています。

sum({\$<Year = {\$(#=Only(Year)-1)}>} Sales)

現在の選択に対する前年の Sales の合計を返します。ここでは、ドル記号展開は前年を計算するために使用されています。

暗黙的項目値定義を使った SET 修飾子

上記の例では、全ての項目値が明示的に定義、または検索を介して定義されています。ネストされた SET 定義を使用することによって項目値のセットを定義する方法もあります。

その場合、関数 P() と E() を使用し、絞込値の要素セットと項目の除外値をそれぞれ表す必要があります。括弧の中には、P({1} Customer) のように、ひとつの数式とひとつの項目を指定できます。これらの関数は、他の数式では使用できません。

例：

sum({\$<Customer = P({1<Product={‘Shoe’}>} Customer)>} Sales)

現在の選択のうち、製品 (Product) の靴 (Shoe) を購入した顧客 (Customer) の売上 (Sales) の合計を返します。要素関数 P() はここで、絞り込まれた顧客 (項目 Product の Shoe の選択によって暗黙に定義されます) のリストを返します。

sum({\$<Customer = P({1<Product={‘Shoe’}>})>} Sales)

上記と同じです。要素関数内の項目が省略されると、関数は外部で割り当てられた値に指定された項目の絞込値を返します。

sum({\$<Customer = P({1<Product={‘Shoe’}>} Supplier)>} Sales)

現在の選択のうち、製品 (product) の靴 (Shoe) を提供したことのある顧客 (customer) の売上 (Sales) の合計を返します。要素関数 P() はここで、絞り込まれた供給者 (項目 Product の Shoe の選択によって暗黙に定義されます) のリストを返します。供給者のリストは、次に、項目 Customer での選択に使用されます。

sum({\$<Customer = E({1<Product={‘Shoe’}>})>} Sales)

現在の選択のうち、製品 (Product) の靴 (Shoe) を購入したことのない顧客 (Customer) の売上 (Sales) の合計を返します。関数 E() は、このとき、Product 項目における Shoe の選択によって除外された Customer のリストを返します。

Set 関数用構文

構文 (優先を定義する標準のかっこオプション使用は含んでいません) は次のとおりです。

set_expression ::= { set_entity { set_operator set_entity } }

set_entity ::= set_identifier [set_modifier]

set_identifier ::= 1 | \$ | \$N | \$_N | bookmark_id | bookmark_name

*set_operator ::= + | - | * | /*

set_modifier ::= < field_selection {, field_selection} >

*field_selection ::= field_name [= | += | -= | *= | /=] element_set_expression*

element_set_expression ::= element_set { set_operator element_set }

```

element_set ::= [ field_name ] | { element_list } | element_function
element_list ::= element { , element }
element_function ::= ( P | E ) ( [ set_expression ] [ field_name ] )
element ::= field_value | " search_mask "

```

69.5 合成軸関数

ValueList (value { , value })

計算軸で使用される場合、合成軸を形成するリストされた値のセットを返します。**valuelist** 関数を使用して作成された合成軸を持つチャートでは、チャート式に同じパラメータを使用して **valuelist** 関数を再記述することで、特定の数式のセルに対応する軸の値を参照できます。もちろん、この関数はレイアウト内の任意の場所で使用できますが、合成軸に対して使用する場合を除き、この関数は集計関数内でのみ有効になります。

例：

```

valuelist ( 1, 10, 100 )
valuelist ( 'a', 'xyz', 55 )

```

ValueLoop (from [, to [, step = 1]])

計算軸で使用される場合、合成軸を形成する反復処理された値のセットを返します。生成される値は、**from** 値から始まり、step 増分の中間値を含み、**to** 値で終了します。**valueloop** 関数を使用して作成された合成軸を持つチャートでは、チャート式に同じパラメータを使用して **valueloop** 関数を再記述することで、特定の数式のセルに対応する軸の値を参照できます。もちろん、この関数はレイアウト内の任意の場所で使用できますが、合成軸に対して使用する場合を除き、この関数は集計関数内でのみ有効になります。

例：

```

valueloop ( 1, 3 ) は、1、2、および 3 を返します
valueloop ( 1, 5, 2 ) は、1、3、および 5 を返します
valueloop ( 11 ) は、11 を返します

```

69.6 その他の関数

QlikView チャートの数式は、上記で説明した集計関数以外にも、100 個近い標準関数をサポートします。以下の関数のうちいくつかはロードスクリプトと同じです。詳細はロードスクリプトのセクションを参照してください。関数は次のようにグループ分けされます。

チャートの一般的数値関数	1000 ページ
チャートの範囲関数	1005 ページ
指数関数と対数関数	396 ページ
三角関数と双曲線関数	397 ページ
統計的分布関数	397 ページ

財務関数	400 ページ
数学定数とパラメータ フリー関数	402 ページ
文字列関数	405 ページ
チャートのレコード関数	1013 ページ
ドキュメント関数	424 ページ
チャートの順位付け関数	1020 ページ
チャート項目関数	1023 ページ
条件付き関数	414 ページ
論理関数	416 ページ
Null 関数	416 ページ
システム関数	416 ページ
日付と時間関数	424 ページ
変換関数	1025 ページ
書式設定関数	447 ページ
カラー関数	453 ページ

チャートの一般的数値関数

次の関数では、パラメータは数式であり、 x は実際の数値と解釈されます。

div($x1$, $x2$)

整数除算です。パラメータは両方とも実数として解釈されます。したがって、パラメータは整数である必要はありません。除算によって得られる実数の整数部分が結果として返されます。

例 :

div(7,2) は、3 を返します。

div(9,3) は、3 を返します。

div(-4,3) は、-1 を返します。

div(4,-3) は、-1 を返します。

div(-4,-3) は、1 を返します。

mod($x1$, $x2$)

数学的モジュロ関数です。パラメータは両方とも整数値である必要があります。 $x2$ は 0 より大きくなければなりません。結果は、整数除算による負でない余りが返されます。

例 :

mod(7,2) は、1 を返します。
mod(7.5,2) は、NULL を返します。
mod(9,3) は、0 を返します。
mod(-4,3) は、2 を返します。
mod(4,-3) は、NULL を返します。
mod(-4,-3) は、NULL を返します。

fmod(x1 , x2)

一般化モジユロ関数です。パラメータは両方とも実数として解釈されます。したがって、パラメータは整数である必要はありません。結果は、整数除算の余りとして得られる実数です。

例 :

fmod(7,2) は、1 を返します。
fmod(7.5,2) は、1.5 を返します。
fmod(9,3) は、0 を返します。
fmod(-4,3) は、-1 を返します。
fmod(4,-3) は、1 を返します。
fmod(-4,-3) は、-1 を返します。

ceil(x [, base [, offset]])

端数 x は、*offset* に合わせて *base* の一番近い倍数まで切り上げられます。結果は数値です。

例 :

ceil(2.4) は、3 を返します。
ceil(2.6) は、3 を返します。
ceil(3.88 , 0.1) は、3.9 を返します。
ceil(3.88 , 5) は、5 を返します。
ceil(1.1 , 1 , 0.5) は、1.5 を返します。

floor(x [, base [, offset]])

端数 x は、*offset* に合わせて *base* の一番近い倍数まで切り捨てられます。結果は数値です。

例 :

floor(2.4) は、2 を返します。
floor(2.6) は、2 を返します。
floor(3.88 , 0.1) は、3.8 を返します。
floor(3.88 , 5) は、0 を返します。

floor(1.1 , 1 , 0.5) は、0.5 を返します。

frac(x)

x の小数部を返します。小数部は、**frac(x) + floor(x) = x** と定義されます。

例 :

frac(11.43) は、0.43 を返します。

frac(-1.4) は、0.6 を返します。

round(x [, base [, offset]])

端数 x は、*offset* に合わせて *base* の一番近い倍数まで切り上げ、または切り捨てられます。結果は数値です。x が区間の中心に位置する場合は、切り上げられます。

例 :

round(2.4) は、2 を返します。

round(2.6) は、3 を返します。

round(2.5) は、3 を返します。

round(3.88 , 0.1) は、3.9 を返します。

round(3.88 , 5) は、5 を返します。

round(1.1 , 1 , 0.5) は、1.5 を返します。

fabs(x)

x の絶対値です。結果は正の数値です。

例 :

fabs(2.4) は、2.4 を返します。

fabs(-3.8) は、3.8 を返します。

numsum(expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの数値の合計を返します。**numsum** では、+ 演算子とは対照的に、数値でない値はすべて 0 として処理されます。

例 :

numsum(1,2,4) は、7 を返します。

numsum(1,'xyz') は、1 を返します。

numsum(null()) は、0 を返します。

注意!

numsum 関数は、現在サポートされていません。*rangesum(expr1 [, expr2, ... exprN])* (1005 ページ) 関数をご使用ください。

numcount (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの数値の個数を返します。

例 :

numcount(1,2,4,) は、3 を返します。

numcount(2,xyz) は、1 を返します。

numcount(null()) は、0 を返します。

注意!

numcount 関数は、現在サポートされていません。 *rangecount*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (1006 ページ) 関数をご使用ください。

numavg (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの数値の平均を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

numavg(1,2,4) は、2.33333333 を返します。

numavg(1,'xyz') は、1 を返します。

numavg(null() 'abc') は、NULL を返します。

注意!

numavg 関数は、現在サポートされていません。 *rangeavg*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (1006 ページ) 関数をご使用ください。

nummin (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの最小値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

nummin(1,2,4) は、1 を返します。

nummin(1,'xyz') は、1 を返します。

nummin(null() 'abc') は、NULL を返します。

注意!

nummin 関数は、現在サポートされていません。 *rangemin*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (1007 ページ) 関数をご使用ください。

nummax (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの最大値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

nummax(1,2,4) は、4 を返します。

nummax(1,'xyz') は、1 を返します。

nummax(null() 'abc') は、NULL を返します。

注意!

nummax 関数は、現在サポートされていません。 *rangemax*(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*]) (1007 ページ) 関数をご使用ください。

fact (*n*)

正の整数 *n* の階乗を返します。数 *n* が整数でない場合は、切り捨てられます。正の数でない場合は、NULL が返されます。

例 :

fact(1) は、1 を返します。

fact(5) は、120 ($1 * 2 * 3 * 4 * 5 = 120$) を返します。

fact(-5) は、NULL を返します。

combin (*n1*, *n2*)

n1 項のグループから選択できる *n2* 項の組み合わせの数を返します。項の選択順は重要ではありません。整数でない項目は切り捨てられます。

例 :

全 35 のロトナンバーから 7 個の数を選ぶ場合の組み合わせは何とおりでしょうか。

combin(35,7) は、6 724 520 を返します。

permut (*n1*, *n2*)

n1 項のグループから選択できる *n2* 項の順列の数を返します。項の選択順は 重要 です。整数でない引数は切り捨てられます。

例 :

8 選手による 100m 決勝で、金、銀、銅のメダルの分配方法は何とおりあるでしょうか。

permut(8,3) は、336 を返します。

even (*n*)

n が偶数ならば true、*n* が奇数ならば false、また、*n* が整数でない場合は NULL を返します。

例 :

even(3) は、false を返します。
even(2 * 10) は、true を返します。
even(3.14) は、NULL を返します。

odd(*n*)

n が奇数ならば true、*n* が偶数ならば false、また、*n* が整数でない場合は NULL を返します。

例 :

odd(3) は、true を返します。
odd(2 * 10) は、false を返します。
odd(3.14) は、NULL を返します。

sign(*x*)

x が正の数か、0 か、負の数かにより、1、0、または -1 を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

sign(66) は、1 を返します。
sign(0) は、0 を返します。
sign(234) は、-1 を返します。

bitcount(*i*)

i に設定されたビット数を返します。*i* は符号付きの 32 ビットの整数と解釈されます。

例 :

bitcount (3) は、2 を返します。
bitcount (-1) は、32 を返します。
bitcount (*n*) + bitcount (bitnot *n*) は、32 を (*n* が有効な整数であるならば) 返します。

チャートの範囲関数

範囲関数は、チャートの一般的数値関数 (1000 ページ):

numsum、**numavg**、**numcount**、**nummin**、**nummax** (もうサポートされません) に置き換わります。

rangesum(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から *N* までの範囲の合計を返します。**rangesum** では、+ 演算子とは対照的に、数値でない値はすべて 0 として処理されます。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangesum (1,2,4) は、7 を返します。

rangesum (1,'xyz') は、1 を返します。

rangesum (null()) は、0 を返します。

rangesum (above(count(x),-1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **count(x)** 関数の 3 つの結果の合計を返します。

rangeavg (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の平均を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangeavg (1,2,4) は、2.33333333 を返します。

rangeavg (1,'xyz') は、1 を返します。

rangeavg (null(), 'abc') は、NULL を返します。

rangeavg (above(count(x),0,3)) は、現在行および現在行の上側の 2 行で計算された内部 **count(x)** 数式の結果のスライド平均を返します。

rangecount (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の値の数を返します。Null 値はカウントされません。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangecount (1,2,4) は、3 を返します。

rangecount (2,'xyz') は、2 を返します。

rangecount (null()) は、0 を返します。

rangecount は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **(above(sum(x),-1,3))** **sum(x)** 関数の 3 つの結果内の値の数を返します。

rangemin (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の最小数値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

rangemin (1,2,4) は、1 を返します。

rangemin (1,'xyz') は、1 を返します。

rangemin (null(), 'abc') は、NULL を返します。

rangemin は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **(above(sum(x),-1,3))** **sum(x)** 関数の 3 つの結果の最小値を返します。

rangemax (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の最大数値を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

例 :

rangemax (1,2,4) は、4 を返します。

rangemax (1,'xyz') は、1 を返します。

rangemax (null(), 'abc') は、NULL を返します。

rangemax は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **(above(sum(x),-1,3))** **sum(x)** 関数の 3 つの結果の最大値を返します。

rangestdev (*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の標準偏差を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangestdev (1,2,4) は、1.5275252316519 を返します。

rangestdev (null()) は、NULL を返します。

rangestdev (above(count(x),0,3)) は、現在行および現在行の上側の 2 行で計算された内部 **count(x)** 数式の結果のスライド標準誤差を返します。

rangeskew (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の歪度を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangeskew (1,2,4) は、0.93521952958283 を返します。

rangeskew (above(count(x),0,3)) は、現在行および現在行の上側の 2 行で計算された内部 **count(x)** 数式の結果のスライド歪度を返します。

rangekurtosis (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の尖度を返します。数値が見つからない場合は、NULL を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangekurtosis (1,2,4,7) は、-0.28571428571429 を返します。

rangekurtosis (above(count(x),0,3)) は、現在行および現在行の上側の 2 行で計算された内部 **count(x)** 数式の結果のスライド尖度を返します。

rangefractile (fractile, expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の数値の分位数を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangefractile (0.24,1,2,4,6) は、1 を返します。

rangefractile (0.5,1,2,3,4,6) は、3 を返します。

rangefractile は、3.5 を返します。
(0.5,1,2,5,6)

rangefractile (0.5, above(sum(x),- 1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果の中央値を返します。

rangenumericcount (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲の数値の個数を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangenumericcount は、3 を返します。
(1,2,4)

rangenumericcount は、1 を返します。
(2,'xyz')

rangenumericcount は、0 を返します。
(null())

rangenumericcount (above(sum(x),- 1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果内の数値の数を返します。

rangetextcount (expr1 [, expr2, ... exprN])

引数 1 から N までの範囲のテキスト値の数を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangetextcount は、0 を返します。
(1,2,4)

rangetextcount は、1 を返します。
(2,'xyz')

rangetextcount は、0 を返します。
(null())

rangetextcount (above(sum(x),- 1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果内のテキスト値の数を返します。

rangenullcount(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲のNULL値の数を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangenullcount (1,2,4) は、0 を返します。

rangenullcount (2,'xyz') は、0 を返します。

rangenullcount (null(),null()) は、2 を返します。

rangenullcount (above(sum(x),-1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果内のNULL値の数を返します。

rangemissingcount(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までのうち、数値でない値 (NULL値を含む) を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangemissingcount (1,2,4) は、0 を返します。

rangemissingcount (2,'xyz') は、1 を返します。

rangemissingcount (null()) は、1 を返します。

rangemissingcount (above(sum(x),-1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果内の数値でない値の数を返します。

rangeminstring(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までのテキストソート順で、最初の位置になるテキスト値を返します。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例：

rangeminstring (1,2,4) は、1 を返します。

rangeminstring ('xyz','abc') は、"abc" を返します。

rangeminstring (null()) は、NULL を返します。

rangeminstring (above(sum(x),-1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果の (テキスト順で) 1 つ目を返します。

rangemaxstring(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までのテキスト ソート順で、最後の位置になるテキスト値を返します。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例：

rangemaxstring (1,2,4) は、4 を返します。

rangemaxstring ('xyz','abc') は、'xyz' を返します。

rangemaxstring (null()) は、NULL を返します。

rangemaxstring (above(sum(x),-1,3)) は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された **sum(x)** 関数の 3 つの結果の (テキスト順で) 3 つ目を返します。

rangemode(*expr1* [, *expr2*, ... *exprN*])

引数 1 から N までの範囲の最頻値、つまり最もよく現れる値を返します。複数の値が同じ最大頻度を持つ場合は、NULL が返されます。

この関数の引数式には、3番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例：

rangemode (1,2,9,2,4)	は、2 を返します。
rangemode ('a',4,'a',4)	は、NULL を返します。
rangemode (null())	は、NULL を返します。
rangemode (above(sum(x),- 1,3))	は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された sum(x) 関数の 3 つの結果内の最もよく現れる値を返します。

rangeonly (expr1 [, expr2, ... exprN])

N 個の数式の値域に NULL でない値が 1 つだけ存在する場合には、その値を返します。それ以外の場合には、NULL を返します。

この関数の引数式には、3 番目のオプションのパラメータを含む チャートのレコード関数 (1013 ページ) を含めることができます。これら自体は、値域を返します。

例 :

rangeonly (1,2,4)	は、NULL を返します。
rangeonly (1,'xyz')	は、NULL を返します。
rangeonly (null(), 'abc')	は、"abc" を返します。
rangeonly (above(sum(x),- 1,3))	は、現在行の下側の行、現在行、および現在行の上側の行で評価された sum(x) 関数の 3 つの結果を使用します。値が 1 つしか含まれない場合は、その値が返されます。

rangecorrel (x-value , y-value { , x-value , y-value})

一連の座標の相関係数を返します。

X-value は、3 番目のオプションパラメータを持つ チャートのレコード関数 (1013 ページ) によって返される単一の値または値域です。

Y-value は、3 番目のオプションパラメータを持つレコード関数によって返される単一の値または値域です。各値、または値域は、x-values または x-value の値域に対応している必要があります。

この関数の計算には、少なくとも 2 組の座標が必要です。テキスト値、NULL 値、欠損値は無視されません。

例 :

rangecorrel (2,3,6,8,9,4) は、0.269 を返します。

```
rangecorrel (above(sum(X), 0, 10), above(Y, 0, 10))
rangecorrel (above(total X,0,rowno(total)),
above(total Y,0,rowno(total)))
```

チャートのレコード関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

注意:

チャートの数式でチャートのレコード関数を使用する場合、チャートのY値のソートおよびストレートテーブルの数式列のソートは許可されません。これらのソート機能は、そのため自動的に無効になります。

これらの関数が使用される場合、0 値を隠す機能は自動的に無効になります。

チャートのレコード関数の例 (1041 ページ) を参照してください。

Fieldvalue (*fieldname* , *n*)

項目 *fieldname* の *n* の位置にある項目値を返します (ロード順)。 *fieldname* は文字列値である必要があります。項目名はシングルクォートで囲みます。 *n* = 1 では、最初の項目値が返されます。 *n* が項目値より大きい場合は、NULL が返されます。

注：この関数は distinct 項目値でのみ使用できます。

例：

```
fieldvalue( 'Helptext', 5 )
```

FieldIndex (*fieldname* , *value*)

項目 *fieldname* 内の項目値 *value* の位置を返します (ロード順)。 *value* が項目 *fieldname* の項目値の中にある場合は、0 を返します。 *fieldname* は文字列値である必要があります。項目名はシングルクォートで囲みます。

例：

```
fieldindex( 'Name', 'John Doe' )
```

dimensionality ()

集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸列の数を返します。

一般に、データの集計レベルに基づいてさまざまなセル書式を適用する場合に、属性式で使用されません。

この関数は、チャートでのみ使用できます。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、合計行を除くすべての行の軸の数を返します。合計行の場合は 0 を返します。

チャートのレコード関数の例 (1041 ページ) を参照してください。

secondarydimensionality ()

集計以外の内容 (部分合計または折りたたまれた集計を含まない) を含む軸のピボットテーブル行の数を返します。この関数は、水平ピボットテーブル軸の `dimensionality()` 関数と同じです。

`secondarydimensionality()` 関数は、ピボットテーブルの外側で使用される場合には、常に 0 を返します。

チャートのレコード関数の例 (1041 ページ) を参照してください。

above([*total*] *expression* [, *offset* [, *n*]])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、列セグメントの現在行の上の行に表示されるチャートの軸値で評価された *expression* の値を返します。(実際、すべての QlikView チャートは、さらに複雑な構造を持つピボットテーブルを除いて、ストレートテーブルと同じです。)

列セグメントの最初の行では、上に行が存在しないため NULL 値が返されます。

チャートが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ: [ソート]** ダイアログで操作します。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を現在の行からさらに上側の行に移動できます。負の *offset* の場合、**above** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **below** 関数と同じです。*offset* に 0 を指定すると、現在の行で *expression* を評価します。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから上方向に *n* 行のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別なチャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
sum( Sales ) / above( sum( Sales ) )
above( sum( Sales ), 2 )
above( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在行のすぐ上の 3 つの行で評価された `sum(x)` 関数の 3 つの結果の平均 (**above(sum(x),1,3)**) を返します。

below([*total*] *expression* [, *offset* [, *n*]])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、列セグメントの現在行の下に行に表示されるチャートの軸値で評価された *expression* の値を返します。

列セグメントの最後の行では、これより下に行が存在しないため NULL 値が返されます。

チャートが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ : [ソート]** ダイアログで操作します。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を現在の行からさらに下側の行に移動できます。負の *offset* の場合、**below** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **above** 関数と同じです。*offset* に 0 を指定すると、現在の行で *expression* を評価します。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから下方向に *n* 行のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
below( sum( Sales ) )
below( sum( Sales ), 2 )
below( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在行のすぐ下の 3 つの行で評価された *sum(x)* 関数の 3 つの結果の平均 (**below(sum(x),1,3)**) を返します。

top([*total*] *expression* [, *offset* [, *n*]])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、列セグメントの最初の行に表示されるチャートの軸値で評価された *expression* の値を返します。

チャートが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ : [ソート]** ダイアログで操作します。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を先頭行から下側の行に移動できます。負の *offset* の場合、**top** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **bottom** 関数と同じです。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、現在の列セグメントの最初の *n* 行のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
sum( Sales ) / top( sum( Sales ) )
top( sum( Sales ), 2 )
top( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在の行セグメントの先頭 5 つの行で評価された *sum(x)* 関数の結果の平均 (**top(sum(x),1,5)**) を返します。

bottom([total] expression [, offset [, n]])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、列セグメントの最後の行に表示されるチャートの軸値で評価された *expression* の値を返します。

チャートが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ : [ソート]** ダイアログで操作します。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を最終行から上側の行に移動できます。負の *offset* の場合、**bottom** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **top** 関数と同じです。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、現在の列セグメントの最後の *n* 行のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別なチャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
bottom( sum( Sales ) )
bottom( sum( Sales ), 2 )
bottom( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在の行セグメントの 5 つの最下行で評価された *sum(x)* 関数の結果の平均を返します。
(**bottom(sum(x),1,5)**)

before([total] expression [, offset [, n]])

ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の前の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された *expression* の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

行セグメントの最初の列では、これより前に列が存在しないため NULL 値が返されます。

テーブルが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を現在の列からさらに左側の列に移動できます。負の *offset* の場合、**before** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **after** 関数と同じです。*offset* に 0 を指定すると、現在の列で *expression* を評価します。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3番目のパラメータ n を 1 より大きくした場合、この関数は、1つの値ではなく、 n 個の値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから左方向に n 列のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
before( sum( Sales ) )
before( sum( Sales ), 2 )
before( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在列のすぐ左の 3 つの列で評価された $\text{sum}(x)$ 関数の 3 つの結果の平均を返し
(**before(sum(x),1,3)**) ます。

after([total] expression [, offset [,n]])

ピボットテーブルの行セグメント内の現在列の後の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

行セグメントの最後の列では、これより後に列が存在しないため NULL 値が返されます。

テーブルが 1 軸の場合、または expression の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

offset を 1 より大きくすると、 expression の評価を現在の列からさらに右側の列に移動できます。負の offset の場合、**after** 関数は、対応する正の offset を使用した **before** 関数と同じです。 offset に 0 を指定すると、現在の列で expression を評価します。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3番目のパラメータ n を 1 より大きくした場合、この関数は、1つの値ではなく、 n 個の値の範囲を返します。つまり、オリジナルのテーブルのセルから右方向に n 列のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
after( sum( Sales ) )
after( sum( Sales ), 2 )
after( total sum( Sales ) )
```

rangeavg 現在列のすぐ右の 3 つの列で評価された $\text{sum}(x)$ 関数の 3 つの結果の平均
(**after(sum(x),1,3)**) を返します。

first([total] expression [, offset [,n]])

ピボットテーブルの現在の行セグメントの最初の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された expression の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

テーブルが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を最初の列からさらに右側の列に移動できます。負の *offset* の場合、**first** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **last** 関数と同じです。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、現在の行セグメントの最初の *n* 列のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
first( sum( Sales ) )
first( sum( Sales ), 2 )
first( total sum( Sales )
```

rangeavg 現在の行セグメントの左端 5 つの列で評価された sum(x) 関数の結果の平均を返します。
(**first(sum(x),1,5)**)

last([*total*] *expression* [, *offset* [, *n*]])

ピボットテーブルの現在の行セグメントの最初の列に、ピボットテーブルの軸値で評価された *expression* の値を返します。ピボットテーブル以外のすべてのチャートタイプの場合、この関数は NULL を返します。

テーブルが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

offset を 1 より大きくすると、*expression* の評価を最後の列からさらに左側の列に移動できます。負の *offset* の場合、**last** 関数は、対応する正の *offset* を使用した **first** 関数と同じです。再帰呼び出しは、NULL を返します。

3 番目のパラメータ *n* を 1 より大きくした場合、この関数は、1 つの値ではなく、*n* 個の値の範囲を返します。つまり、現在の行セグメントの最後の *n* 列のそれぞれの値を返します。この形式では、任意の特別な チャートの範囲関数 (1005 ページ) の引数として関数を使用できます。

例 :

```
last( sum( Sales ) )
last( sum( Sales ), 2 )
last( total sum( Sales )
```

rangeavg 現在の行セグメントの右端 5 つの列で評価された sum(x) 関数の結果の平均を返します。
(last(sum(x),1,5))

RowNo ([total])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、現在の列セグメント内の現在行の数を返します。最初の行の番号は 1 です。

テーブルが 1 軸の場合、または **total** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ : [ソート]** ダイアログで操作します。

例 :

```
if( RowNo( )=1, 0, sum( Sales ) / above( sum( Sales )))
```

ColumnNo ([total])

ピボットテーブルの現在の行セグメント内の現在列の数を返します。最初の列の番号は 1 です。

ピボットテーブルが 1 軸の場合、または **total** 修飾子が引数として出現する場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

例 :

```
if( ColumnNo( )=1, 0, sum( Sales ) / before( sum( Sales )))
```

NoOfRows ([total])

テーブルの、またはビットマップチャートの場合はチャートのストレートテーブルに相当する、現在の列セグメント内の行の数を返します。

チャートが 1 軸の場合、または **total** 修飾子が引数として使用される場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。

テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。ピボットテーブルの項目ソート順は、左から右への軸の順序で定義されます。他の種類のチャートでは、**チャートプロパティ : [ソート]** ダイアログで操作します。

例 :

```
if( RowNo( )=NoOfRows( ), 0, after( sum( Sales )))
```

NoOfColumns ([total])

ピボットテーブルの現在の行セグメント内の列の数を返します。

ピボットテーブルが 1 軸の場合、または **total** 修飾子が引数として出現する場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。

ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメントには、項目ソート順の最後の軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。ピボットテーブルの水平軸の項目ソート順は、上から下への軸の順序で定義されます。

例 :

```
if( ColumnNo( )=NoOfColumns( ), 0, after( sum( Sales )))
```

fieldvaluecount (fieldname)

項目内の固有の値の数を返します。fieldname は、文字列として指定する必要があります (たとえば、引用符で囲まれた文字)。

Column (ColumnNo)

ストレートテーブルまたはピボットテーブルの列の **ColumnNo** にある値を返します。

例 :

column(1)/column(2) は、指数を返します。

チャートの順位付け関数

これらの関数は、チャート式で使用できます。

注意 !

これらの関数が使用される場合、0 値を隠す機能は自動的に無効になります。NULL 値は無視されます。

チャートの順位付け関数の例 (1037 ページ)

rank ([total] expression [, mode [, format]])

expression を評価し、結果を現在の列セグメント内のその他の行の結果と比較して、セグメント内の現在行の順位付けを返します。ビットマップチャートにおける現在の列セグメントは、チャートのストレートテーブルに表示されるのと同様に定義されます。(実際、すべての QlikView チャートは、さらに複雑な構造を持つピボットテーブルを除いて、ストレートテーブルと同じです。)

チャートが 1 軸の場合、または expression の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の列セグメントは常に列全体になります。テーブルまたはチャートに相当するテーブルに複数の縦軸が含まれる場合、現在の列セグメントには、項目ソート順の最後の軸を表示する列を除くすべての軸列の現在行と同じ値を持つ行だけが含まれます。

順位付けは、デュアル値として返されます。行ごとに一意の順位付けがある場合は、1 と現在の列セグメント内の行数の間の整数になります。

複数の行が順位付けを共有する場合は、テキストおよび数値表現を次のように制御できます。

2 番目のパラメータ *mode* は、関数結果の数値表現を指定します。

mode

- 0** (デフォルト) 共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の間接値の下位側に入る場合は、すべての行は、共有グループ内の最も低い順位を取得します。共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の間接値の上位側に入る場合は、すべての行は、共有グループ内の最も高い順位を取得します。共有グループ内の順位が順位付け全体の間接値をまたぐ場合は、グループ内のすべての行は、列セグメント全体の最高順位と最低順位の平均に相当する値を取得します。
- 1** グループ内のすべての行における最も低い順位。
- 2** グループ内のすべての行における平均順位。
- 3** グループ内のすべての行における最も高い順位。
- 4** 最初の行における最も低い順位、その後は各行ごとに 1 ずつ増加。

3 番目のパラメータ *format* は、関数結果のテキスト表現を指定します。

書式

- 0** (デフォルト) グループ内のすべての行における小さい値 **&' - '&** 大きい値 (例: 3 - 4)。
- 1** グループ内のすべての行における小さい値。
- 2** 最初の行における小さい値、その後のグループ内の行は空白。

mode 4 と *format* 2 の行の順序は、チャート軸のソート順で決定されます。

例 :

```
rank( sum( Sales ) )
rank( sum( Sales ), 2 )
rank( sum( Sales ), 0, 1 )
```

HRank([*total*] *expression* [, *mode* [, *format*]])

expression を評価し、結果をピボットテーブルの現在の行セグメント内のその他の列の結果と比較して、セグメント内の現在列の順位付けを返します。

この関数は、ピボットテーブルでのみ有効です。他の種類のチャートでは、NULL を返します。

テーブルが 1 軸の場合、または *expression* の前に **total** 修飾子が配置されている場合は、現在の行セグメントは常に行全体になります。ピボットテーブルに複数の水平軸が存在する場合、現在の行セグメ

ントには、項目ソート順の最後の水平軸を示す行を除くすべての軸行の現在列と同じ値を持つ列だけが含まれます。

順位付けは、デュアル値として返されます。列ごとに一意の順位付けがある場合は、1 と現在の行セグメント内の列数の間の整数になります。

複数の列が順位付けを共有する場合は、テキストおよび数値表現を次のように制御できます。

2 番目のパラメータ *mode* は、関数結果の数値表現を指定します。

mode

- 0** (デフォルト) 共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の間接値の下位側に入る場合は、すべての列は、共有グループ内の最も低い順位を取得します。
共有グループ内のすべての順位が順位付け全体の間接値の上位側に入る場合は、すべての列は、共有グループ内の最も高い順位を取得します。
共有グループ内の順位が順位付け全体の間接値をまたぐ場合は、グループ内のすべての行は、列セグメント全体の最高順位と最低順位の平均に相当する値を取得します。
- 1** グループ内のすべての列における最も低い順位。
- 2** グループ内のすべての列における平均順位。
- 3** グループ内のすべての列における最も高い順位。
- 4** 最初の列における最も低い順位、その後はグループ内の列ごとに 1 ずつ増加。

3 番目のパラメータ *format* は、関数結果のテキスト表現を指定します。

書式

- 0** (デフォルト) グループ内のすべての列における小さい値 **&' - '&** 大きい値 (例: 3 - 4)。
- 1** グループ内のすべての列における小さい順位。
- 2** 最初の列における小さい値、その後のグループ内の列は空白。

mode 4 と *format* 2 の列の順序は、チャート軸のソート順で決定されます。

例 :

```
HRank( sum( Sales ) )
HRank( sum( Sales ), 2 )
HRank( sum( Sales ), 0, 1 )
```

VRank([*total*] expression [, mode [, format]])

VRank は、実際 **rank** 関数と同じで、どちらの方法も使用できます。

チャート項目関数

項目関数が利用可能です。

注意!

ステート引数のあるチャート項目関数は、並列ステート (135 ページ) と一緒にのみ使用できます。

getcurrentfield (*GroupName*)

グループ内の現在アクティブな項目名を返します。

例:

```
getcurrentfield( myGroup )
```

getfieldselections (*FieldName* [, *ValueSep* [, *MaxValues* [, *State*]])

項目内の現在の選択の文字列を返します。並列ステートを照会できます。

ValueSep は、項目値の間に置かれる区切り記号です。デフォルトは「,」です。

Maxvalues は、個々にリストされる項目値の最大数です。より多くの数の値が選択されると、「x of y」の形式が代わりに使用されます。デフォルトは 6 です。

State は、照会する並列ステートです。

次の形式の文字列が返されます。

- | | |
|---------------|--|
| 'x, y, z' | 選択された値の数が <i>Maxvalues</i> より少ない場合、 <i>Valuesep</i> を区切り記号として、選択された値のリストが返されます。 |
| 'NOT x, y, z' | 選択されていない値の数が <i>Maxvalues</i> より少ない場合、 <i>Valuesep</i> を区切り記号、NOT をプレフィックスとして、選択されていない値のリストが返されます。 |
| 'x of y' | 選択された値の数 (x) が <i>Maxvalues</i> より多く、値の合計数 (y) よりも少ない場合。 . |
| 'ALL' | すべての値が選択された場合。 |
| '-' | 値が 1 つも選択されていない場合。 |
| <検索文字列> | 検索によって選択を行った場合は、検索文字列が返されます。 |

例

```
getfieldselections ( Year )
getfieldselections ( Year, ';' )
getfieldselections ( Year, ';' , 10 )
```

```
getcurrentselections ([RecordSep [, TagSep [, ValueSep [, MaxValues [, State]]]])
```

ドキュメントの現在の選択の文字列を返します。並列ステートを照会できます。

RecordSep は、項目レコードの間に置かれる区切り記号です。デフォルトは <CR><LF> です。

TagSep は、項目名と値の間に置かれる区切り記号です。デフォルトは「:」です。

ValueSep は、項目値の間に置かれる区切り記号です。デフォルトは「,」です。

Maxvalues は、個々にリストされる項目値の最大数です。より多くの数の値が選択されると、「x of y」の形式が代わりに使用されます。デフォルトは6です。

State は、照会する並列ステートです。

例

```
getcurrentselections ( )
getcurrentselections ( chr(13)&chr(10) , ' = ' )
getcurrentselections ( chr(13)&chr(10) , ' : ' , ' ; ' )
getcurrentselections ( chr(13)&chr(10) , ' : ' , ' ; ' , 10 )
```

```
getselectedcount (FieldName [, IncludeExcluded [, State]])
```

項目内の現在の選択値の数を返します。並列ステートを照会できます。

IncludeExcluded が true の場合、カウントには別の項目の選択値で除外された選択値が含まれません。false や省略された場合、これらの値は含まれません。

State は、照会する並列ステートです。

例

```
getselectedcount ( Year )
getselectedcount ( Year, true( ) )
```

```
getnotselectedcount (FieldName [, IncludeExcluded])
```

リストボックスの AND モード (132 ページ) (リストボックスの赤い値) に設定された項目の選択されていない値の現在の数を返します。

IncludeExcluded が true の場合、カウントには別の項目の選択値で除外された選択値が含まれません。false や省略された場合、これらの値は含まれません。

例

```
getnotselectedcount ( Year )
getnotselectedcount ( Year, true( ) )
```

```
getpossiblecount (FieldName)
```

項目内の現在の絞込値の数を返します。

例:

```
getpossiblecount ( Year )
```


getexcludedcount (FieldName)

項目内の現在の除外値の数を返します。

例:

```
getexcludedcount ( Year )
```

getalternativecount (FieldName)

項目内の現在の選択肢の数を返します。

例:

```
getalternativecount ( Year )
```

変換関数

変換関数は、項目の内容または数式を変換します。これらの関数により、使用されているデータ型、小数点記号や桁区切り記号などの表示ができます。

変換関数が使用されない場合、QlikView は、スクリプトの変数とオペレーティングシステムによって定義されているデフォルトの数値書式、日付の書式、および時間の書式を使用して、データを数値、日付、時刻、日付と時刻、文字列の組み合わせとして解釈します。

注意!

わかりやすくするために、すべての数値表現で小数点記号として小数点を使用しています。

次の変換関数を使用できます。

Num#	1026 ページ
Money#	1027 ページ
Date#	1027 ページ
Time#	1028 ページ
Timestamp#	1028 ページ
Interval#	1029 ページ
テキスト	1030 ページ

Dual

1030

ページ

Num#

```
num#(expression [ , format-code[ , decimal-sep [ , thousands-sep ] ] )
```

num# 関数は、format-code で与えられる文字列に従って数值的に expression を評価します。小数点記号および桁区切り記号を 3 番目および 4 番目のパラメータとして設定することができます。パラメータ 2~4 が省略されていると、スクリプトの変数、またはオペレーティングシステムによって設定されているデフォルトの数値書式が使用されます。

例 :

この例では、次の 2 つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

数値書式 # ##0,# #,##0.#

num#(A, '#') は A=35,648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	35648,375	35648,375
数値	-	35648,375

num#(A, '#.#', ',', ',') は A=35,648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	35648,375	35648,375
数値	35648,375	35648,375

num#(A, '#.#', ',', ',') は A=35648.375 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	35648,375	35648,375
数値	35648375	35648375

num#(A, 'abc#,#') は A=abc123,4 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	abc123,4	abc123,4
数値	123,4	1234

Money#

```
money# (expression [ , format-code [ , decimal-sep [ , thousands-sep ] ] ] )
```

money# 関数は、*format-code* で与えられる文字列に従って、*expression* を数値として評価します。小数点記号および桁区切り記号を 3 番目および 4 番目のパラメータとして設定することができます。パラメータ 2~4 が省略されていると、スクリプトの変数、またはオペレーティングシステムによって設定されているデフォルトの数値書式が使用されます。

money# 関数は、原則として **num#** 関数と同じように機能しますが、小数点および桁区切り記号のデフォルト値をスクリプトの通貨の書式の変数または通貨のシステム設定から決定します。

例：

この例では、次の 2 つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

通貨の書式 kr # ##0,00 \$ #,##0.00

money#(, '# ##0,00 kr') は A=35 648,37 kr のとき、次を返します。

	設定 1	設定 2
文字列	35 648.37 kr	35 648.37 kr
数値	35648,37	3564837

money#(A, '\$#', '.', ',') は A= \$35,648.37 のとき、次を返します

	設定 1	設定 2
文字列	\$35,648.37	\$35,648.37
数値	35648,37	35648,37

Date#

```
date# (expression [ , format-code ] )
```

date# 関数は、*format-code* で与えられる文字列に従って、*expression* を日付として評価します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されているデフォルトの日付の書式が使用されます。

例：

この例では、次の 2 つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

日付書式 YY-MM-DD M/D/YY

`date#(A)` は、 $A=8/6/97$ のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	8/6/97	8/6/97
数値	-	35648

`date#(A, 'YYYY.MM.DD')` は、 $A=1997.08.06$ のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	1997.08.06	1997.08.06
数値	35648	35648

Time#

`time#(expression [, format-code])`

`time#` 関数は、`format-code` で与えられる文字列に従って、`expression` を時間として評価します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されているデフォルトの時間の書式が使用されます。

例：

この例では、次の2つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

	デフォルト設定 1	デフォルト設定 2
時間書式	hh:mm:ss	hh.mm.ss

`time#(A)` は、 $A=09:00:00$ のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	09:00:00	09:00:00
数値	0,375	-

`time#(A, 'hh.mm')` は、 $A=09.00$ のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	09,00	09,00
数値	0,375	0,375

Timestamp#

`timestamp#(expression [, format-code])`

timestamp# 関数は、*format-code* で与えられる文字列に従って、*expression* を日付および時間として評価します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されているデフォルトの日付と時間の書式が使用されます。

例：

この例では、次の2つのオペレーティングシステムの設定を前提としています。

デフォルト設定 1 デフォルト設定 2

日付書式	YY-MM-DD	M/D/YY
時間書式	hh:mm:ss	hh:mm:ss

timestamp#(A) は、A=8/6/97 09:00:00 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	8/6/97 09:00:00	8/6/97 09:00:00
数値	-	35648,375

timestamp#(A, 'YYYY-MM-DD hh_mm') は、A=8/6/97 09_00 のとき、次のようになります。

	設定 1	設定 2
文字列	1997-08-06 09_00	1997-08-06 09_00
数値	35648,375	35648,375

Interval#

interval#(expression [, format-code])

interval# 関数は、*format-code* によって与えられる文字列に従って、*expression* を時間間隔として評価します。書式コードが省略されている場合は、オペレーティングシステムで設定されている時間の書式が使用されます。

interval# 関数は、原則として **time#** 関数と同じように機能しますが、時間が 23:59:59 (数値 0.99999) より大きい値、および 00:00:00 (数値 0.00000) より小さい値を取れないのに対して、間隔はどのような値でも取ることができます。

例：

この例では、次のオペレーティングシステムの設定を前提としています。

短い日付の書式: **YY-MM-DD**

時間書式: **hh:mm:ss**

小数点記号: .

interval#(A, 'D hh:mm') は、A=1 09:00 のとき、次のようになります。

文字列 1 09:00

数値 1,375

interval#(A-B) は、A=97-08-06 09:00:00 かつ B=97-08-05 00:00:00 のとき、次のようになります。

文字列 1,375

数値 1,375

テキスト

text(expression)

text 関数は、expression を数値として解釈できるときも、テキストとして処理します。

例：

text(A) は、A=1234 のとき、次のようになります。

結果

文字列 1234

数値 -

text(pi()) は、次を返します。

結果

文字列 3,1415926535898

数値 -

Dual

dual(s , x)

任意の文字列表現 *s* と、与えられた数値表現 *x* とを関連付けます。QlikView では、1 つの項目に複数のデータが読み取られたとき、その文字列表現が異なっても同じ有効な数値表現を持つ場合、それらはすべて最初に現れた文字列表現を共有します。この関数は、スクリプト式とチャート式で使用できます。

スクリプトでは、**dual** 関数は、一般的にスクリプトの早い段階、関係する項目に他のデータが読み取られる前に使用され、リストボックスなどで表示される最初の文字列表現を作成します。

注意！

デュアル値が大きすぎて、項目オブジェクトに入りきらない場合、## と示されます。文字列のように ... と省略されることはありません。

例 (スクリプト) :

```
load dual ( string,numrep ) as DayOfWeek inline
[ string,numrep
Monday,0
Tuesday,1
Wednesday,2
Thursday,3
Friday,4
Saturday,5
Sunday,6 ];
load Date, weekday(Date) as DayOfWeek from afile.csv;
```

スクリプトの例は、曜日がプレーンテキストで書かれた項目 *DayOfWeek* を生成します。QlikView は、すべての目的について、項目を数値項目として扱います。

その他の関数 へ戻る

70 例

70.1 集計修飾子の例

これらの例は、`sum([set_expression][distinct][total[<fld {, fld}>]] expression)` (958 ページ) 関数で作成されていますが、*Set* 分析 (992 ページ) 定義 および **total** 修飾子をサポートするすべてのチャート集計関数に適用できます。

例 1:

選択を行う前の論理的な状態を描写する、次のストレート テーブルの表示を見てください。

Aggregation function with total qualifier				
Month	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
		21	21	21
1	A	1	21	21
1	B	2	21	21
2	A	3	21	21
2	B	4	21	21
3	A	5	21	21
3	B	6	21	21

2 番目と 3 番目の数式列には、すべての行に同じ数値が含まれています。この数値は、最初の数式列の計算された合計になります。

ここでは、Month 1 と 2 だけを選択します。結果は次のようになります。

Aggregation function with total qualifier				
Month	Group	Sum(Value)	sum(total Value)	sum({1} total Value)
		10	10	21
1	A	1	10	21
1	B	2	10	21
2	A	3	10	21
2	B	4	10	21

set 定義が現在の選択を無視するため、3 番目 (5 列目) の数式の結果は変更されません。**total** 修飾子を含む 2 番目の数式列 (4 列目) には、新しい合計値 10 が表示されます。これは、最初の数式列 (3 列目) で計算された合計になります。

例 2:

次のストレート テーブルの表示を見てください。

total qualifier with listed fields				
Month	Group	Sum(Value)	sum(total <Month> Value)	sum(total <Group> Value)
		21	21	21
1	A	1	3	9
1	B	2	3	12
2	A	3	7	9
2	B	4	7	12
3	A	5	11	9
3	B	6	11	12

3番目の数式列 (`sum(total<Month> Val)`) では、Monthごとに1つの合計が計算されます。

4番目の数式列 (`sum(total<Grp> Val)`) では、groupごとに1つの合計が計算されます。

70.2 concat関数の例

CONCAT() 関数は、**CONCATENATE** スクリプトのキーワードと、混同してはいけません。

最もシンプルな形では、値/ワード/選択をひとつの文字列に結合させるのに、**Concat()** が使用されます。しかし、異なる問題を解決するのに役立つ多数の方法で、活用することが可能です。すべての例は、下記のテーブルに基づいています：

Table	MyColumn	Date	Value
Data	JKL	01/01/2012	11
Data1	VWX	01/02/2012	13
Data	GHI	01/03/2012	13
Data	ABC	01/04/2012	15
Data1	STU	01/05/2012	18
Data1	PQR	01/06/2012	10
Data1	MNO	01/07/2012	25
Data	DEF	01/08/2012	11

シンプルな文字列連結

これまでに説明した通り、**concat** 関数は、リストされた値を連結することができます。これら値はハード・コード化されたり、選択/データによって駆動されます。

```
=CONCAT(MyColumn, ',')
```

```
=CONCAT(DISTINCT MyColumn, ',')
```

このシンプルな**concat** ステートメントで、列**MyColumn** の絞込値をすべて連結します。DISTINCT キーワードを追加した方がよい場合があります。追加すれば、各値は、文字列で一度のみ表示されるようになります。

```
ABC,DEF,GHI,JKL,MNO,PQR,STU,VWX
```

シンプルな**concat**を使用した場合、選択した列ごとに、文字列の値を順番に並べる関数に、**sort weight**を追加する選択肢が増えます。下記の例では、値をソートするために、データ列が追加されています。

```
=CONCAT(MyColumn, ', ', Date)
```

```
Result: JKL,VWX,GHI,ABC,STU,PQR,MNO,DEF
```

数式/Set ステートメント内の Concat()

Set 分析の数式に複数の動的な値を渡す

Set ステートメントに動的な値の選択を渡したい場合があります。そうするためには、**CONCAT()** 関数が 'JKL' や 'VWX' など返すように、文字列にシングルクォートを追加する必要があります。しかし、シングルクォートそのままでは、使用することはできません。なぜなら、Set 数式が評価されているときではなく、**Concat** が評価されている時に、シングルクォートが解釈されるからです。よって代わりに、下記のように**Chr()** 関数を使用します：

```
=CONCAT(Chr(39) & MyColumn & Chr(39), ',')
```

そして、この**concat** ステートメントを数式内に渡すことができます：

```
=Sum({<MyColumn={$(=CONCAT(Chr(39)&MyColumn&Chr(39),'')}>} Value)
```

このテクニックはほとんどの場合、データアイランドが存在するときに使用されます。データアイランドのテーブルがデータモデルに連結していないので、データモデルに何の影響を及ぼさない数式に、値が渡されます。

スクリプト内の Concat()

また、**Concat** は、他の集計関数と同じように、複数の行を単一の列の値にコンバートするために、スクリプト内で使用されます。

以前、使用されていたソースデータを把握している場合、スクリプト側**CONCAT**の結果は、以下の通りです：

```
ConcatExample:
Load Table,
Concat(MyColumn,'') as CombinedData
Resident Temp
Group By Table;
```

以下は、このスクリプト関数の結果です：

Table	CombinedData
Data	ABC,DEF,GHI,JKL
Data1	MNO,PQR,STU,VWX

Rank() を使用して、Concat() に影響を及ぼす

concat() と併せて、その他の関数を活用し始めると、うまく結果を達成できるようになります。この例では、(値に基づき) 上位3名のパフォーマンスを把握し、その結果を連結させるために、**Rank()** が使用されています。

```
=CONCAT(IF(aggr(Rank(sum(Value)),MyColumn)<=3,MyColumn),'')
```

Result: ABC,MNO,STU

70.3 チャート式における並列ステートの例

これらの例は、QlikView 開発者 および/または QlikView パワー ユーザーが用いる並列ステートのベストプラクティスを示すことを目的としています。これらの例は「Alternate States Functionality.qvw」ファイルにあります。

ステート間の選択を同期化

例：

次の数式をひとつのチャートの中で使用できます。

```
count({$} DISTINCT [Invoice Number])
```

```
count({State1} DISTINCT [Invoice Number])
```

```
count({State2} DISTINCT [Invoice Number])
```

この方法で問題となるのは、エンドユーザーが個々のステートでの確な選択を行うために QlikView 開発者は 3 つすべてのステートの選択 (リストボックスとマルチボックス) を重複させる必要があるということです。多くの場面で、QlikView 開発者はすべてのステートで利用できる "共通する" 選択条件を設定したいでしょう。これにより、エンドユーザーが個々のチャートにコンテキストを設定し、ステート間の差異を表示するための特定の選択条件を利用できるようになります。Set 分析をステートと共に使用し、ステート間で特定の選択条件の一貫性を保つことができます。

例 :

```
count({State1<Year = $::Year, Month = $::Month>} DISTINCT [Invoice Number])
```

```
count({State2<Year = $::Year, Month = $::Month>} DISTINCT [Invoice Number])
```

QlikView 開発者は、**初期ステート** の Year および Month と同期する State1 と State2 の Year および Month の選択条件を保ちます。QlikView 開発者は、ステート間でより多くの項目の一貫性を保つため、必要に応じて set 修飾子に要素を追加できます。

SET 演算子

ステートに Set 演算子 (+, *, -, /) を使用できます。次の数式は有効です。**初期ステート** または State1 のユニークな請求書番号をカウントします。

例 :

```
count({$ + State1} DISTINCT [Invoice Number])
```

は、初期ステートと State1 を合わせたユニークな請求書番号をカウントします。

```
count({1 - State1} DISTINCT [Invoice Number])
```

は、State1 に無いユニークな請求書番号をカウントします。

```
count({State1 * State2} DISTINCT [Invoice Number])
```

は、初期ステートと State1 の両方に存在するユニークな請求書番号をカウントします。

注意!

このように Set 演算子を使用する場合は注意が必要です。場合によっては、期待する結果が得られない可能性があります。これは、既定のステートにおいて選択によって生成されたデータセットが結合されたデータセットと完全に対応していないからかも知れません。これは、データモデルが複雑になるにつれてその傾向が強くなります。

暗黙的項目値定義

set 演算子に関数 P() や関数 E() と使用方法があります。これらの関数は Set 数式内でのみ利用できます。

例 :

```
count({$<[Invoice Number] = p({State1} [Invoice Number])>} DISTINCT [Invoice Number])
```

この数式は、State1 で絞り込まれた請求書番号に基づいた初期ステートのユニークな請求書番号をカウントします。

ほぼ次の数式と同じですが、全く同じという訳ではありません。

```
count({$<[Invoice Number] = State::[Invoice Number]>} DISTINCT [Invoice Number])
```

数式の違いは、最初の数式では請求書番号の絞込値が State1 から **初期ステート** に渡されます。2つめの数式では選択値が State1 から **初期ステート** に渡されます。ユーザーが State1 で請求書番号の選択を行わなかった場合、**初期ステート** に渡される請求書番号の値はありません。

Set 演算子は Set 修飾子内で使用するのが最適です。次の数式では、State1 と State2 から共通する請求書番号の絞込値を **初期ステート** の請求書番号に渡します。

例：

```
count({$<[Invoice Number] = p({State1} [Invoice Number]) * p({State2} [Invoice Number])>} DISTINCT [Invoice Number])
```

初期ステートと State1 の共通する請求書番号を返す数式は次の通りです。

```
count({$<[Invoice Number] = p({$} [Invoice Number]) * p({State1} [Invoice Number])>} DISTINCT [Invoice Number])
```

この数式では、要素関数と Set 識別子の両方にステート（この場合は初期ステート）使用されているため分かりにくいかも知れません。要素関数 p(\$) が **初期ステート** の絞込値を返していることを覚えておいてください。set/state 識別子 {\$} は要素関数の結果によって変更されています。現在 **初期ステート** に存在する請求書の選択条件は、要素関数の共通する値によって無効にされます。

上記数式は、**初期ステート** と State1 の共通する選択条件の同期に失敗するため、完全に正しいとは言えませんのでご注意ください。次の数式はそれを行います。

例：

```
count({$<[Invoice Number] = p({$} [Invoice Number]) * p({State1<Year = $::Year, Month = $::Month>} [Invoice Number])>} DISTINCT [Invoice Number])
```

すでに述べた通り、QlikView 開発者はステート間で選択条件の一貫性を保つため、修飾子に項目を追加できます。

70.4 チャートの順位付け関数の例

これらの例は **rank (VRank)** 関数で作成されていますが、**HRank** 関数にも同じように適用できます。ただし、**HRank** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

例 1:

次の2つの1軸ストレートテーブルを見てください。

Single dimension RANK		
Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
	110	-
1	17	3
2	9	7
3	22	1
4	16	4
5	10	6
6	5	8
7	11	5
8	20	2

Sorted by ranking column		
Month	sum(Val)	rank(sum(Val))
	110	-
3	22	1
8	20	2
1	17	3
4	16	4
7	11	5
5	10	6
2	9	7
6	5	8

2つのテーブルは同じですが、左側のテーブルは最初の列でソートされており、右側のテーブルは最後の列でソートされています。この例は、**rank**の基本機能を示します。最大値が最高順位になります(最小順位番号)になります。

rank関数は、合計行では常にNULLを返します。

例 2:

次の2軸ピボットテーブルを見てください。

Group	Month	sum(Val)	rank(sum(Val))	rank(total sum(Val))
A	1	17	2	3
	4	16	3	4
	7	11	4	5
	8	20	1	2
	Total	64	-	-
B	2	9	3	7
	3	22	1	1
	5	10	2	6
	6	5	4	8
	Total	46	-	-
Total		110	-	-

このテーブルは、例 1 の 2 つのテーブルと同じデータに基づきます。複数軸で、現在の列セグメントがどのように内側でグループ化されているかがわかります。Group A の Month 項目は、Group B の Month 項目とは別々に順位付けされています。total 修飾子を使用することで全体の順位付けを実現することができます。

例 3:

次の例は、順位付けの数値表現のさまざまなモードの効果について説明します。次のテーブルを見てください。

Month	sum(X)	rank(sum(X))	mode=0	mode=1	mode=2	mode=3	mode=4
	86	-	-	-	-	-	-
4	20	1	1	1	1	1	1
2	12	2-3	2	2	2.5	3	2
7	12	2-3	2	2	2.5	3	3
3	10	4-5	4.5	4	4.5	5	5
5	10	4-5	4.5	4	4.5	5	4
8	9	6	6	6	6	6	6
6	7	7	7	7	7	7	7
1	6	8	8	8	8	8	8

3 列目は、テキスト表現の順位付けを示し、4 ~ 8 列目は、同じ順位付けの数値表現をさまざまなモードで示します。各列の数式は、次のようになります。

$\text{num}(\text{rank}(\text{sum}(X), \text{mode}))$

ここで、mode は 0 ~ 4 になります。

Mode 0 (default) 2 行目と 3 行目は順位を共有しますが、明らかに総合順位の上位側に位置します。したがって、これらの数値表現は 2 に切り捨てられます。4 行目と 5 行目は順位を共有しますが、順位

付けテーブルの中央に位置するため、列の最初の順位と最後の順位の平均の数値表現を取得します ($(1+8)/2 = 4.5$)。このモードは、特に、**条件付き書式**を使用して、グループ内の最高および最低の順位データをマークする場合に便利です。

Mode 1 どちらの場合も、グループ内の小さい順位番号が使用されます。2行目と3行目の場合は2、4行目と5行目の場合は4になります。

Mode 2 どちらの場合も、グループ内の小さい順位番号と大きい順位番号の平均が使用されます。行2および3の場合は2.5 ($(2+3)/2$)、行4および5の場合は4.5 ($(4+5)/2$)になります。

Mode 3 どちらの場合も、グループ内の大きい順位番号が使用されます。2行目と3行目の場合は3、4行目と5行目の場合は5になります。

Mode 4 各行は、独自のユニークな数値を取得します。順位を共有するグループ内の順序は、チャートの軸のソート順によって決定されます。

例 4:

次の例は、順位付け関数のテキスト表現のさまざまな書式の効果について説明します。次のテーブルを見てください。

The effect of the format parameter on the result text representation				
Month	sum(X)	rank(sum(X),0,0)	rank(sum(X),0,1)	rank(sum(X),0,2)
	86	-	-	-
4	20	1	1	1
2	12	2-3	2	2
7	12	2-3	2	
3	10	4-5	4	
5	10	4-5	4	4
8	9	6	6	6
6	7	7	7	7
1	6	8	8	8

3～5列目は、異なる *format* パラメータの値を使用した同じ順位付け関数のテキスト表現を示します。

Format 0 (default) 順位を共有する行は、'小さい値 - 大きい値' (たとえば、'2 - 3' および '4 - 5') として表示されます。

Format 1 順位を共有する行は、常にテキスト表現として最も小さい順位番号を取得します。この場合は、2行目と3行目は2を取得します。

Format 2 順位を共有する各グループ内の1つの行は、テキスト表現として小さい順位番号を取得し、グループ内のその他の行は、空白文字列を取得します。順位を共有するグループ内の順序は、チャートの軸のソート順によって決定されます。

70.5 チャートのレコード関数の例

Top 関数の例

これらの例は、**top** 関数で作成されていますが、**bottom**、**first** および **last** 関数にも同じように適用できます。ただし、**first** と **last** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

例 1:

1 軸のテーブルで使用する **top** 関数を描写する、次のストレートテーブルの表示を見てください。

Month	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
	21	3	700%
1	3	3	100%
2	7	3	233%
3	11	3	367%

1 軸の場合、**top** 関数は、常にテーブルの最初のデータ行を参照します (合計行は含まれません)。

top 関数を使用する数式は、合計行でも正しく評価されます。合計は、特定の列セグメント (この例では、列全体) と明確な関係があるためです。

例 2:

これは、主に Grp 項目でソートされた 2 軸ストレートテーブルです。

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
		21	-	1
1	A	1	1	1
2	A	3	1	1
3	A	5	1	1
1	B	2	2	1
2	B	4	2	1
3	B	6	2	1

total 修飾子のない **top** 関数は、最も内側のソートグループ内 (この例では、Grp 軸) の先頭行で評価された数式を返します。Grp=A に 1 つの値、Grp=B に 1 つの値を返します。

複数軸の場合は、**total** 修飾子を使用することで、テーブル全体の先頭行を再度参照し、すべての行に同じ値を返すことができます。もちろん、数式は、列全体にわたる列セグメントで評価されます。

total 修飾子なしで **top** 関数を使用する数式は、合計行では NULL に評価されます。これは、特定の列セグメントに明確に関連付けられていないためです。

次は、上のストレートテーブルをすべての合計を表示するピボットテーブルに変換してみます。

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	top(total sum(Val))
1	A	1	1	1
	B	2	1	1
	Total	3	1	-
2	A	3	3	1
	B	4	3	1
	Total	7	3	-
3	A	5	5	1
	B	6	5	1
	Total	11	5	-
Total		21	-	1

total 修飾子なしで **top** 関数を使用する数式は、合計行では NULL に評価されます。これは、特定の列セグメントに明確に関連付けられていないためです。ただし、すべての部分合計は、列セグメントごとに評価されます。

total 修飾子を使用する数式は、部分合計に値を返しません、全合計行には値を返します。

例 3:

次の Grp 項目でソートされたストレートテーブルを見てください。

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
		21	-	-
1	A	1	1	100%
2	A	3	1	300%
3	A	5	1	500%
1	B	2	2	100%
2	B	4	2	200%
3	B	6	2	300%

次に、チャートが Month でソートされるように、項目ソート順を変更します。テーブルは次のようになります。

Month	Grp	sum(Val)	top(sum(Val))	sum(Val)/top(sum(Val))
		21	-	-
1	A	1	1	100%
1	B	2	1	200%
2	A	3	3	100%
2	B	4	3	133%
3	A	5	5	100%
3	B	6	5	120%

Above 関数の例

これらの例は、**above** 関数で作成されていますが、**below**、**before** および **after** 関数にも同じように適用できます。ただし、**before** と **after** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

例 1:

1 軸のテーブルで使用する **above** 関数を描写する、次のストレートテーブルの表示を見てください。

Month	sum(Val)	above(sum(Val))	sum(Val)/above(sum(Val))
	21	-	-
1	3	-	-
2	7	3	233%
3	11	7	157%

3 列目は、現在行の 1 つ上の行を評価する数式 **sum(Val)** を示します。これは、2 列目の **sum(Val)** の値と比較することで確認できます。最初の行では、**above** 関数は NULL を返します。数式が評価される上の行が存在しないためです。**above** 関数は、すべての合計行に対して常に NULL を返します。

4 列目は、この関数の最も一般的な使用方法を示します。つまり、さまざまな期間ごとの違いなどを計算します。

例 2:

次の 2 軸ピボットテーブルを見てください。

Grp	Month	sum(Val)	above(sum(Val))	above(total sum(Val))
A	1	1	-	-
	2	3	1	1
	3	5	3	3
	Total	9	-	-
B	1	2	-	5
	2	4	2	2
	3	6	4	4
	Total	12	-	-
Total		21	-	-

total 修飾子のない **above** 関数 (3 列目) は、各ソートグループ内でのみ機能します。各列セグメントの先頭行には、NULL 値が返されます。

total 修飾子を追加すると (4 列目)、列全体が 1 つの列セグメントと見なされます。一番上の先頭行だけが NULL を返します。すべての合計行は無視され、NULL を返します。

RowNo および NoOfRows 関数の例

この例は、**RowNo** および **NoOfRows** 関数で作成されていますが、**ColumnNo** および **NoOfColumns** 関数にも同じように適用できます。ただし、**ColumnNo** と **NoOfColumns** 関数は、ピボットテーブルにのみ関連します。

例 1:

次の 2 軸ピボットテーブルを見てください。

Month	Grp	rowno()	rowno(total)	noofrows()	noofrows(total)
1	A	1	1	2	6
	B	2	2	2	6
	Total	0	-	2	-
2	A	1	3	2	6
	B	2	4	2	6
	Total	0	-	2	-
3	A	1	5	2	6
	B	2	6	2	6
	Total	0	-	2	-
Total		-	0	-	6

3 列目 RowNo 関数は、各ソートグループの列セグメント内の行番号を返します。小計行では、行番号 0 が返されます。これらの合計は、特定の列セグメントに明確に属しているためです。全合計行には、NULL が返されます。

4 列目 total 修飾子を使用する **RowNo** 関数は、列全体内の行数を返します。小計行には、NULL 値が返されます。全合計行には、0 が返されます。

5 列目 **NoOfRows** 関数は、各ソートグループの列セグメント内のデータ行の数を返します。小計行では、データ行と同じ数が返されます。全合計行には、NULL が返されます。

6 列目 total を使用する **NoOfRows** 関数は、列全体内のデータ行の数を返します。この数は、全合計行にも返されます。小計行には、NULL が返されます。

dimensionality ()

左側に 3 つの軸列を含むピボットテーブルの場合は、次が返されます。

すべての通常のデータセルの場合は 3。

3 列目で展開されていない第 1 レベルの部分合計およびエントリの場合は 2。

1 列目のみで展開されている第 2 レベルの部分合計およびエントリの場合は 1。

全合計セルの場合は 0。

dimensionality ()

Pivot table			
Country	Team	Salesman	dimensionality()
Denmark	Copenhagen	Preben	3
		Total	2
	Total		1
Germany			1
Sweden	Gothenburg	John	3
		Total	2
	Lund		2
	Total		1
Total			0

Straight table			
Country	Team	Salesman	dimensionality()
			0
Denmark	Copenhagen	Preben	3
Germany	Berlin	Helga	3
Sweden	Gothenburg	John	3
Sweden	Lund	Ann	3
Sweden	Lund	Peter	3

secondarydimensionality ()

Pivot table				
Country		Denmark	Germany	
Salesman		Total	Preben	
Team			Total	Copenhagen
	0	1	2	3
				1

71 ネストされた集計と関連事項

この章では、ネストされた集計およびチャートでの 高度な集計 (368 ページ) 関数の使用に関する重要な使用例について説明します。

注意!

QlikView 9 以降では 100 以上のネストレベルは許可されていません。

ネストされた集計と total 修飾子

一般に、QlikView チャートの数式で集計をネストすることはできません。ただし、この規則には、バージョン 7.5 から 1 つの重要な例外が存在します。内部の集計関数で **total** 修飾子を使用する場合にはネストすることができます。

たとえば、Sales 項目の合計を計算し、去年の OrderDate と等しい取引だけを含めることにします。去年の取引は、集計関数 **max(total year(OrderDate))** を使用して取得できます。

次のような集計式になります。

```
sum( if(year(OrderDate)=max(total year(OrderDate)), Sales)).
```

total 修飾子を含めることは、QlikView でこのようなネストが適用されるためには絶対に必要ですが、比較をする場合にも必要となります。このようなタイプのネストは一般に使用されるため、適時使用する必要があります。

ネストされた集計と集計関数

total 関数を使用したネストは必ずしも十分ではありません。より一般的なネスト機能が必要な場合は、計算軸と組み合わせる 高度な集計 (368 ページ) 関数を使用する必要があります。計算軸の追加 (749 ページ) を参照してください。

例 :

次のデータは、スクリプトから読み取られています。

Original data from script	
SalesRep	Customer
Donna Brown	Bechtel Corporation
Karl Anderson	Berkeley Design
Donna Brown	Capitolnet Marketing Group (CMG)
Karl Anderson	Chas T. Main, Inc.
Karl Anderson	Degolyer and MacNaughton
Lisa Taylor	ediSys
John Doe	Fimetrics Systems
Kathy Clinton	HCS
Lisa Taylor	Homestead Custom
Lisa Taylor	Illuminati
John Doe	Metro-Goldwyn-Mayer, Inc.
Lisa Taylor	Onetouch Interactive
Peggie Hurt	Savetz Publishing
William Fisher	TECC
William Fisher	VA Research
Lisa Taylor	XYZ Operations

このデータからは、"各営業員が受け持つ顧客数は?" という回答を得ることができます。これは、標準チャートで取得できます。

First question: How many customer does each sales rep have?	
SalesRep	count(Customer)
Donna Brown	2
John Doe	2
Karl Anderson	3
Kathy Clinton	1
Lisa Taylor	5
Peggie Hurt	1
William Fisher	2

次に、取得した情報に基づいて、いくつかの新しい質問を作成します。"顧客を1人しか受け持たない販売員は何人いますか。3人以上の顧客を受け持つ販売員は何人いますか。"このような単純な例では、手動で数式列の数を数えることはできますが、通常、このような種類の質問をする場合は、2つ目の集計順序が必要となります。計算を行うために必要なデータは元の項目には存在せず、それらの項目から直接計算することもできません。

新しいチャートの軸として上記のチャートの数式列を使用する簡単な方法を見つける必要があります。このためには、高度な集計 (368 ページ) 関数を使用します。たとえば、軸として次のように指定します。

```
=aggr(count(Customer), SalesRep)
```

これで、新しいチャートの '内部のチャート計算' として最初のチャートの計算を実行できます。次に、新しいチャートで次の数式を指定できます。

```
count(distinct SalesRep)
```


これで終了です。QlikView は、基底のテーブル内の行数をカウントするため、**distinct** 修飾子が必要となります。結果のテーブルは次のようになります。

2nd question: How many salesreps have 1, 2, 3 etc customers?	
=aggr(count(Customer),SalesRep)	count(distinct SalesRep)
1	2
2	3
3	1
5	1

次の2つの点に注意してください。

2番目のチャートは、最初のチャートの存在は必要としません。このチャートには、その軸内に定義された最初の順序の集計が含まれています。

ネストの可能性はここまでではありません。もちろん、高度な集計 (368 ページ) 関数の軸引数には計算軸を含めることができるため、さらに 高度な集計 (368 ページ) 関数を使用できます。ただし、3つ目の集計レベルを渡そうとすると、行っていることを見失いがちになります。

ピボットテーブルの行の合計

QlikView ストレートテーブルでは、行の単純な合計と計算式の合計のいずれかを選択できます。QlikView ピボットテーブルではこの選択はできません。ピボットテーブルの合計は、常に数式の合計として計算されます。

この2つが異なる場合に行全体の合計が関連することはめったにないため、通常はこれで問題ありません。純粋な合計ではなく、任意の種類を集計で行の合計を使用する場合は、慎重に使用する必要があります。

そのことに注意をしながら、全体の列の合計が望み通りの結果となる例を見てみましょう。

例：

たとえば、3人のチームが3つの異なる教科の成績ごとにポイントを獲得するスクールコンテストがあるとします。チームは、各教科ごとにグループ内の最も高いスコアを選択し、この3つの上位のスコアを合計に追加します。次のデータは、スクリプトから読み取られています。

Original data from script		
Class	Name	Score
English	John	5
English	Karen	1
English	Lisa	4
History	John	3
History	Karen	3
History	Lisa	2
Math	John	3
Math	Karen	3
Math	Lisa	4

軸として Class を使用し、数式として **max(Score)** を使用したチャートを作成する必要があります。行の合計を含むストレートテーブルは次のようになります。

Straight table with sum of rows	
Class	max(Score)
History	3
Math	4
English	5
	12

何らかの理由で、これをピボットテーブルに表示する場合は (ここではほとんど使用されませんが、より多くの軸がある場合は意味があります)、問題が発生します。ピボットテーブルに変換された上記のストレートテーブルは、次のようになります。

Pivot table with expression total	
Class	max(Score)
English	5
History	3
Math	4
Total	5

この例の場合は、合計 12 が必要ですが、5 は目的とは異なります。ここでも、**aggr** 関数が役に立ちます。この場合は、軸ではなく、数式で **aggr** 関数を使用します。

囲まれているチャートの軸を **aggr** 関数の軸としても使用し、元の数式を **aggr** 関数で囲みます。次に、このバンドルを **sum** 集計の引数として使用します。結果は次のようになります。

Pivot table with sum of rows	
Class	sum(aggr(max(Score),Class))
English	5
History	3
Math	4
Total	12

ご覧のように、合計は目的の数になります。何が起こったのでしょうか。

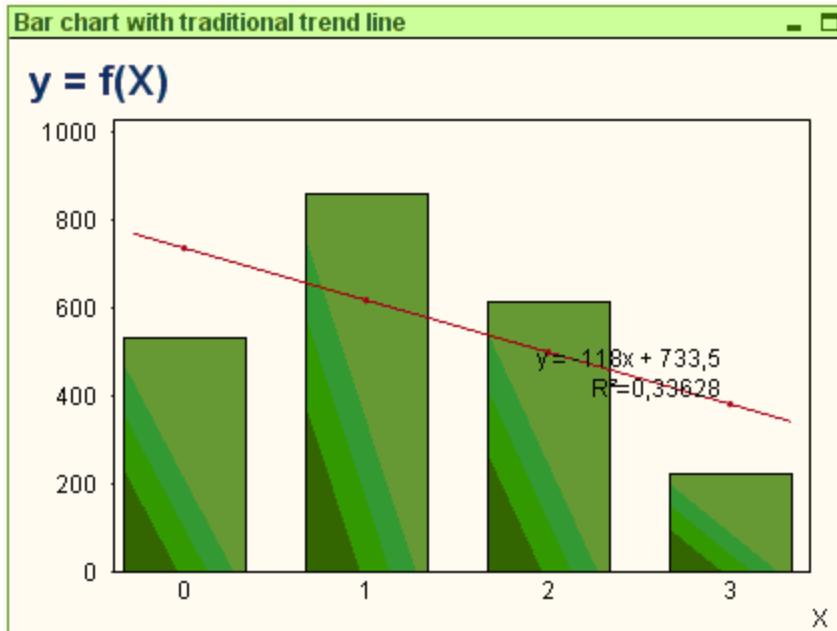
高度な集計 (368 ページ) 関数の利点は、個々の行では、1 つの値に評価されることです。これは、軸は通常のデータ行ごとに 1 つの絞込値だけを持つためです。内部の軸および数式は、囲まれているチャートの場合と同じであるため、各値は、もちろん、**sum** および 高度な集計 (368 ページ) 関数なしの結果とまったく同じになります。

ただし、合計行の場合、高度な集計 (368 ページ) 関数は、3 つの値 (軸項目の値ごとに 1 つ) を返します。これらは、**sum** 集計によって合計されます。正式には数式の合計ですが、結果は行の合計と等しくなります。

テーブルチャートの直線回帰

直線回帰のすう勢線は、**チャートプロパティ** の **数式** ページにある **すう勢線** オプションを使用して、QlikView ビットマップチャートに表示できます。また、回帰方程式を表示することもできます。

例：

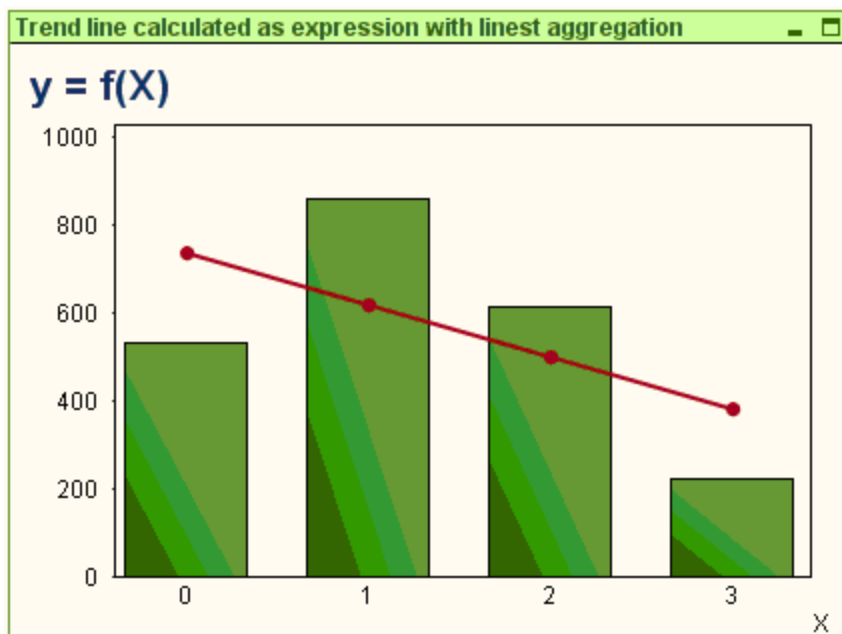


テーブルチャートなどで回帰データを表示する場合は、回帰が計算される必要があります。 `linest_m` (`[{set_expression}][distinct][total[<fld {,fld}>]]y-expression, x-expression[, y0[, x0]]`) (963 ページ) および `linest_b` (`[{set_expression}][distinct][total[<fld {,fld}>]]y-expression, x-expression[, y0[, x0]]`) (964 ページ) 集計関数は、直線回帰の必要な傾きと y 切片値を提供します。

正しく計算するには、これらの関数には、入力としてチャート集計全体 (軸で反復処理された数式) を含める必要があります。これは、含まれるチャートと同じ基本の数式と軸を含む 高度な集計 (368 ページ) 関数を定義することで実現できます。これで、高度な集計 (368 ページ) 関数は、**linest** 集計へのパラメータとして使用されます。結果の数式は、次のようになります。

```
linest_m(total aggr(Y,X),X)*X + linest_b(total aggr(Y,X),X)
```

only 関数は、X と Y のすべてのデータに基づいて示されます。**linest** 集計は、**total** 修飾子を使用して作成する必要があります。そうでない場合、データセット全体ではなく、データ点ごとに回帰パラメータが計算されます。結果は、回帰を通常の線の数式として表示する次のコンボチャートで見ることができます。



ここでのすう勢線は、従来のQlikView すう勢線ではなく、線としてプロットされる通常の数式です。従来のすう勢線とは対照的に、数式のプロットは、最初および最後のデータポイントの外部には外挿されないという違いがあります。

このチャートは、回帰値がセルに表示されるストレートテーブルに変換できます。

X	Y	linreg y=mx+b	R ²	m	b
0	533	733,5	0,33628	-118,0	733,5
1	859	615,5	0,33628	-118,0	733,5
2	612	497,5	0,33628	-118,0	733,5
3	222	379,5	0,33628	-118,0	733,5

上記のストレートテーブルでは、3つの列が追加され、m、b、およびR²の値が表示されています。これらは、もちろん、すべてのテーブル行の定数です。必要な数式は、出現順に次のようになります。

```
linest_r2(total aggr(Y,X),X)
linest_m(total aggr(Y,X),X)
linest_b(total aggr(Y,X),X)
```

72 計算式

QlikView シートおよびシート オブジェクトのプロパティ ダイアログでは、固定テキスト ラベルまたは固定番号のための多くのプロパティがあります。通常、これらは、ラベル、ウィンドウのタイトル、チャートのタイトルとして使用され、場合によっては固定数値範囲として使用されます。

上記で示した多くのプロパティ エントリには、定数テキストまたは番号ではなく、計算式を入力できます。この機能を "計算式" と言います。計算式を使用できる場合は、このマニュアルの該当する場所で示されます。

72.1 計算式の入力

計算式は、次の構文に基づいて入力します。

`= expression`

許可される数式の構文については、以下のセクションを参照してください。

エントリの最初の位置にあるイコールサインは、その後の入力が数式として解釈されることを示します。QlikView はこの数式の評価を試みます。不正な構文などで数式を評価できない場合は、イコールサインを含むラベル全体が表示されます。

計算式は、**[数式の編集]** ダイアログで生成することもできます。このダイアログは、編集ボックスの横にある [...] ボタンをクリックすると表示されます (詳細は **[数式の編集]** ダイアログ (917 ページ) を参照してください)。

72.2 エラー メッセージ

計算式が QlikView によって正しく評価されない場合は、その式自体が返され、式の後に 2 つのスラッシュとエラー メッセージが続きます。

例 :

```
= mode (x) //オブジェクト メモリが不足しています
```

各計算式は、特定のメモリ量を必要とします。余分なメモリを消費しないようにするため、各計算ラベルの許可されるメモリ割り当て量の制限がプログラムで指定されています。かなり複雑な数式を入力すると、QlikView は、その数式を返し、数式の後にエラー メッセージ "// オブジェクトメモリが不足しています" を表示します。

72.3 計算式

計算ラベルの *expression* の構文は、いくつかの例外を除いて チャートの数式 (951 ページ) とほとんど同じです。

- 反復処理する軸が存在しないため、チャート集計関数 (957 ページ) は、基本的には、すべての項目名の前に **total** 修飾子を含むチャート式を使用するように動作します。そのため **total** 修飾子はオプションであり、計算式では特別な意味はありません。**set** 定義は、チャートの数式と同様に動作します。現在の選択とは異なる選択で集計を行います。
- 計算式の場合は、任意で項目名を集計関数で囲まずに使用できます。この場合は、集計関数として **only** を使用します。

例：

= Currency

は、次の式と同じです。

= only(Currency)

73 項目グループ

QlikView と OLAP ツールなどのその他の多くのデータベース ビューアーの主な違いとして、QlikView では入力データの階層を事前定義する必要がありません。QlikView 固有の内部ロジックでは、完全な軸として任意の項目に任意の順序で自由にアクセスできます。ほとんどの目的において、この自由度はきわめて強力です。

ただし、事前定義された階層は、より効率よくデータを表示するために役立つ場合があります。このため、QlikView には、項目のグループを定義する機能が用意されています。グループは、階層 (ドリルダウン) または非階層 (サイクリック) で作成できます。

グループは、**[ドキュメント プロパティ]** ダイアログの **[グループ]** ページで作成されます。グループはチャートで使用することができ、**軸** (チャートプロパティ: 軸 (747 ページ) を参照) の軸ドロップダウンボックスの項目の有効な項目と共に表示されます。

任意の項目をグループ化することができます。

ドリルダウングループには、 アイコンが表示されます。

サイクリックグループには、 アイコンが表示されます。

階層グループ (ドリルダウン)

複数の項目が自然階層を形成する場合は、ドリルダウングループを作成することが適しています。一般的な例として、次のような階層グループがあります。

Time: Year, Quarter, Month

または

Geography: Continent, Country, State, City

ドリルダウングループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、複数の絞込値が存在する項目のグループ リスト内の最初の項目を使用します。項目が複数の絞込値を含む場合、選択によって項目に 1 つの絞込値だけが存在する場合は、代わりにリスト内の次の項目が使用されます。複数の絞込値を含む項目がリスト内に存在しない場合は、最後の項目が使用されます。

上記の最初の例では、1 つの年が選択されるまでは、Year がチャート軸として使用されます。次に、チャートでは Quarter が表示されます。1 つの四半期が選択された場合、チャートは Month に切り替えられます。

選択が解除され、グループの項目リストの上位の項目で複数の値が有効になると、チャートは自動的にドリルアップし直されます。強制的にドリルアップするには、チャートのドリルアップ アイコンをクリックします。

73.1 階層グループ (ドリルダウン)

複数の項目が自然階層を形成する場合は、ドリルダウングループを作成することが適しています。一般的な例として、次のような階層グループがあります。

Time: Year, Quarter, Month

または

Geography: Continent, Country, State, City

ドリルダウングループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、複数の絞込値が存在する項目のグループリスト内の最初の項目 (207 ページ) を使用します。項目が複数の絞込値を含む場合、選択によって項目に 1 つの絞込値だけが存在する場合は、代わりにリスト内の次の項目が使用されます。複数の絞込値を含む項目がリスト内に存在しない場合は、最後の項目が使用されます。

上記の最初の例では、1 つの年が選択されるまで *Year* がチャート軸として使用されます。次に、チャートでは *Quarter* が表示されます。1 つの四半期を選択すると、チャートは *Month* に切り替わります。

選択が解除され、グループの項目リストの上位の項目で複数の項目が有効になると、チャートは自動的にドリルアップし直されます。強制的にドリルアップするには、チャートのドリルアップアイコンをクリックします。

同じドリルダウングループを、チャートの軸に複数使用すると、特別な機能が現れます。2 つめのグループでは、自動的にグループの項目リストの 1 つ下の項目が表示されます。例えば、上記の *Geography* グループを第 1 軸と第 2 軸の両方に使用して 2 軸のチャートを作成すると、*Continent* と *Country* が最初に使用されます。ひとつの continent が選択されると、*Country* と *State* が代わりに使用されます。

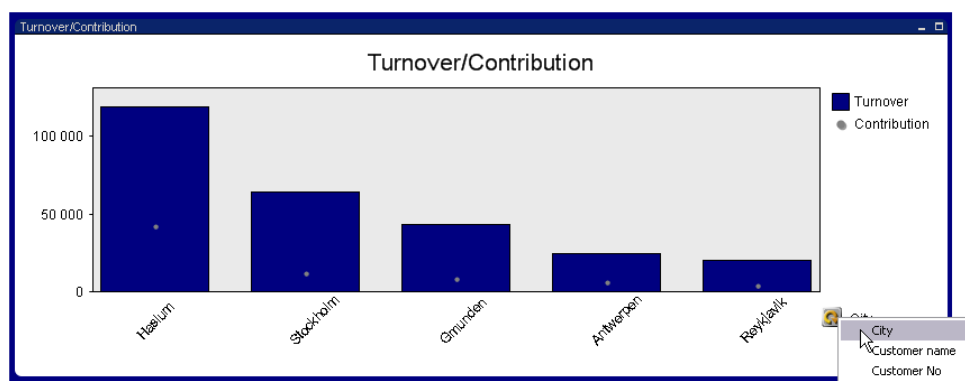
注意！

自然な階層でのこの特徴の使用は便利です。けれども、そうではない状況で同様に使用することを妨げるものではありません。

注意!

データアイランドが生じるような軸と数式を使用する場合は、有効な階層が必要なため、ドリルダウンできません。この場合は、数式を適合させて階層に値を組み込む必要があります。

73.2 非階層グループ (サイクリック)

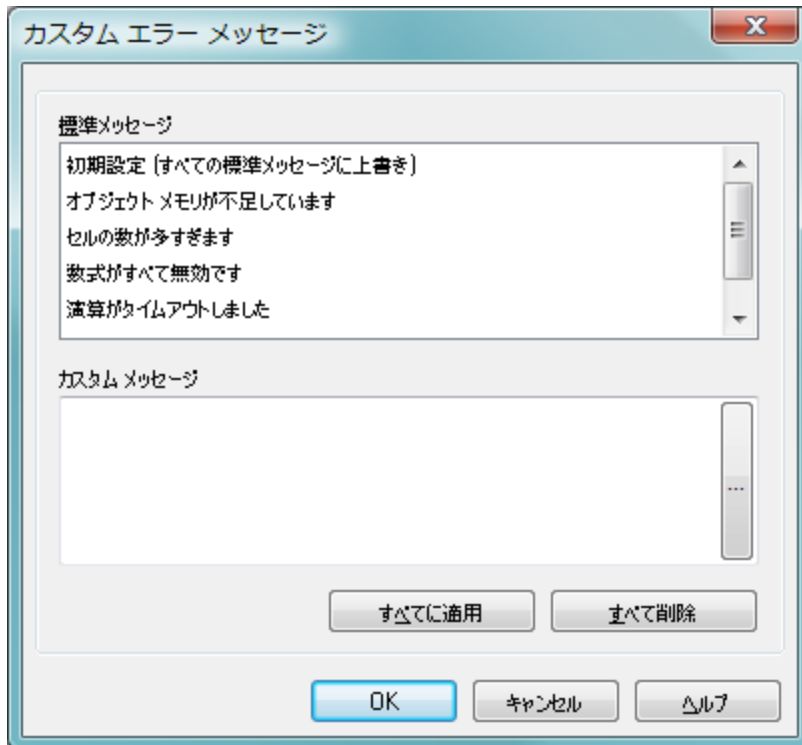


時に、自然な階層を構成しない項目をグループにすると便利な場合があります。それは、チャートやリストボックスに表示されるデータをすばやく変更できるようになるためです。

サイクリックグループでは、任意の項目をグループ化できます。サイクリックグループをチャートの軸として使用する場合、チャートは、リスト内の 1 つ目の項目を最初に使用します。次に、ユーザーがチャート内のサイクリックアイコンをクリックすると、別の項目に切り替わります。項目は、グループの項目リストに表示される順序に表示されます。リスト内の最後の項目が使用されると、また最初の項目に戻ります。この方法で、チャートはいつまでも項目を回します。

サイクリックグループを、チャート式のサイクリックグループと混同しないで下さい(チャートプロパティ: 数式 (757ページ) を参照してください)!軸のサイクリックグループは、いくつもの項目 (207ページ) でできていますが、チャート式のサイクリック表示は、いくつものチャートの数式 (951ページ) でできています。

74 カスタムエラーメッセージ



[カスタムエラーメッセージ]ダイアログ

QlikView には、チャートおよびテーブルボックスのエラーメッセージをカスタマイズできる機能が備わっています。[カスタムエラーメッセージ]ダイアログは、[チャートプロパティ]ダイアログの[基本設定]ページ、または[テーブルボックスプロパティ]ダイアログの[基本設定]ページにある[エラーメッセージ]ボタンを使用して開くことができます。

標準メッセージ エラーの標準メッセージがリストされます。メッセージをカスタマイズするには、メッセージを選択し、[カスタムメッセージ]テキストボックスに希望のテキストを入力します。

カスタムメッセージ ここでは、上記で選択した標準メッセージの代わりに表示するテキストを入力します。テキストは計算式にすることもできます。この機能によって、「ローカルのヒープ領域を使い果たしました」のような不可解なエラーメッセージを問題に対処するための助けとなるヒントに変えることができます(この場合:「...で選択を行ってください」や「...によるメモリ/セルの領域を増やして下さい」など。

すべてに適用 このボタンをクリックすると、ドキュメントのすべての計算オブジェクトにカスタムメッセージが適用されます。

すべての選択をクリア このボタンをクリックすると、すべてのカスタムエラーメッセージがクリアされます。

第7部数值書式

75 QlikView のデータ型

QlikView では、テキスト文字列、数字、日付、時刻、日時、通貨を正しく処理できます。さまざまな書式でソートおよび表示したり、計算に使用することができます。たとえば、日付、時刻、日時を相互に加算/減算できます。

75.1 QlikView 内のデータ表現

QlikView でのデータの解釈と数値書式を理解するには、データがプログラムで内部的にどのように保存されるかを知る必要があります。QlikView にロードされるすべてのデータは、文字列と数値の 2 つの表現で使用できます。

1. 文字列表現は常に使用でき、リストボックスなどのシートオブジェクトに表示されます。リストボックス内のデータの書式設定 (数値書式) は、文字列表現にのみ影響を与えます。
2. 数値表現は、データが有効な数値として解釈可能な場合に限り使用できます。数値表現は、すべての数値計算と数値のソートで使用できます。

1 つの項目に読み取られた複数のデータ項目の数値表現が同じ場合、それらは同じ値として処理され、検出された最初の文字列表現を共有します。例: 数値 1.0、1、および 1.000 がこの順序で読み取られた場合、これらの数値の数値表現はすべて 1 であり、文字列表現は最初の 1.0 となります。

75.2 データ型変換

型情報を持つデータ

ODBC からロードされるデータベースで、データ型が定義されている数値を含む項目は、それぞれの書式に従って QlikView によって処理されます。それらの文字列表現は、適切な書式が適用された数値になります。

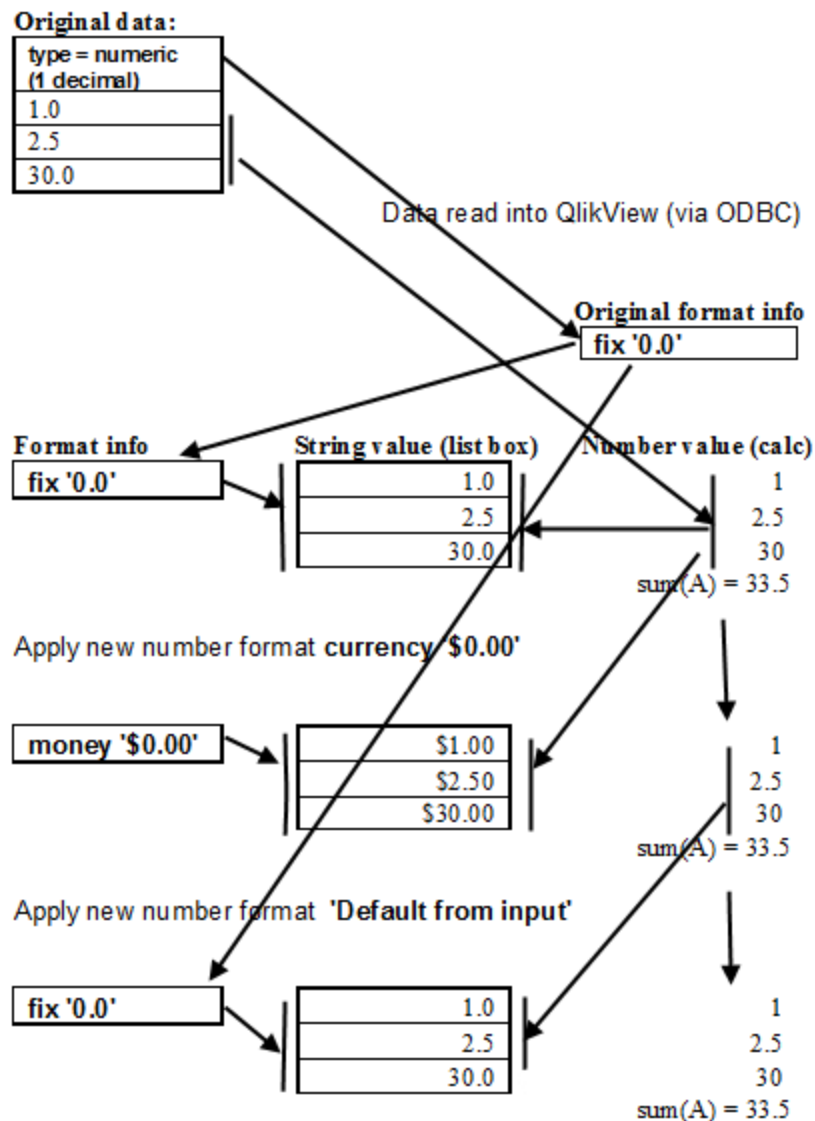
QlikView は、数値書式がアプリケーションの数値書式ダイアログで変更された場合でも、項目の元の数値書式を記憶します。数値書式ダイアログの **データロード時の設定に戻す** ボタンをクリックすると、元の書式をいつでも復元できます。

QlikView での各種データ型のデフォルトの書式は次のとおりです。

- 整数、浮動小数点数: 数値のデフォルト設定
- 通貨: 通貨のデフォルト設定
- 時刻、日付、日時: ISO 標準書式

数値と通貨のデフォルト設定は、スクリプトデータ型変換変数 (データ型変換変数 (444 ページ) を参照) またはオペレーティングシステム設定 (コントロールパネル) で定義されます。

例 :



型情報を持たないデータ

ソースに特定の書式情報がないデータ (テキスト ファイルのデータ、一般的な書式の ODBC データなど) では、状況が複雑になります。最終的な結果は、少なくとも次の 6 つの要因で決定されます。

1. ソースデータベースにデータが書き込まれている方法
2. 数値、時刻、日付などに対するオペレーティングシステムの設定(コントロールパネル)
3. スクリプトでのオプションのデータ型変換変数の使用
4. スクリプトでのオプションの変換関数の使用
5. スクリプトでのオプションの書式設定関数の使用
6. ドキュメント内の数値書式設定コントロール

QlikView で入力データは数字、日付、時刻などへの変換が試みられます。データでシステムのデフォルト設定が使用されている場合は、変換と表示書式設定は QlikView によって自動的に行われるため、自分でスクリプトや QlikView の設定を変更する必要はありません。入力データが正しく変換されている

かどうかを確認する方法は簡単です。数値はリストボックスで右寄せされ、テキスト文字列は左寄せされます。

デフォルトでは、完全な一致が見つかるまで、次の手順で書式が検索されます。デフォルトの書式とは、オペレーティングシステム (コントロールパネル) またはロード スクリプト内のデータ型変換変数 (データ型変換変数 (444 ページ) を参照) で指定される小数点記号、年、月、日の順序などの書式です。

QlikView は、データを次の書式のデータと解釈します。

1. 数値のデフォルトの書式に従った数値。
2. 日付のデフォルトの書式に従った日付。
3. 時刻と日付のデフォルトの書式に従った日時。
4. 時刻のデフォルトの書式に従った時刻。
5. yyyy-MM-dd 書式の日付。
6. YYYY-MM-DD hh:mm[:ss[.fff]] の書式に従った日時。
7. hh:mm[:ss[.fff]] の書式に従った時刻。
8. 通貨のデフォルトの書式に従った通貨。
9. 小数点記号と桁区切り記号がどちらも "," に設定されていない場合は、小数点記号が "."、桁区切り記号が "," である数値。
10. 小数点記号と桁区切り記号がどちらも "." に設定されていない場合は、小数点記号が ","、桁区切り記号が "." である数値。
11. テキスト文字列。この最後の条件が成り立たないことはありません。データを読み取ることができた場合は、常に文字列として解釈可能です。

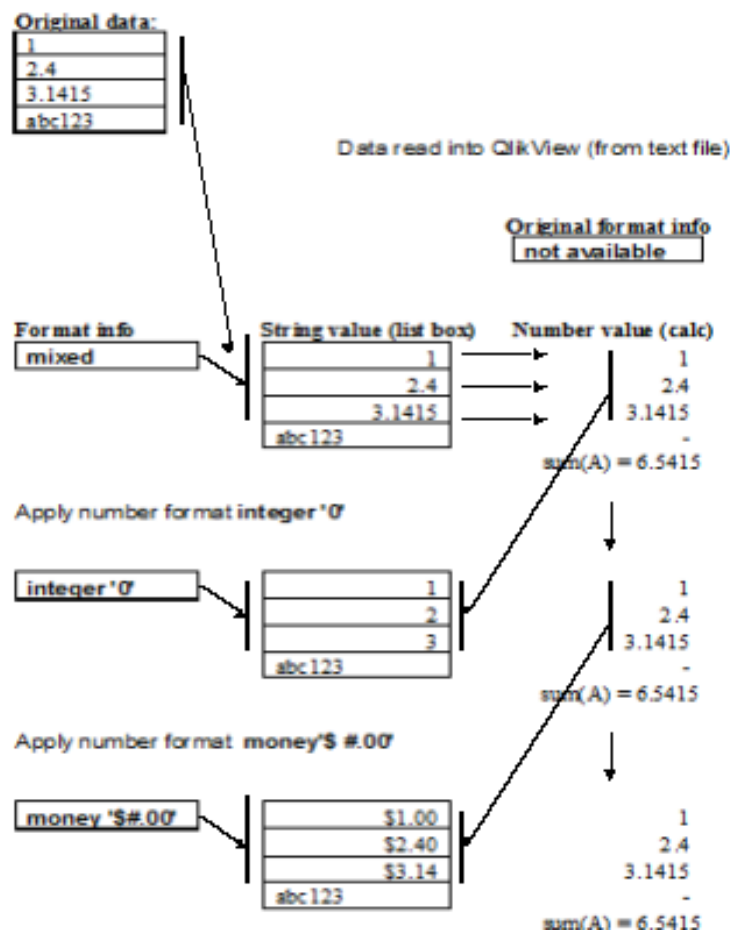
テキスト ファイルから数値をロードする場合は、変換の問題が発生する場合があります。たとえば、不適切な桁区切り記号や小数点記号によって、QlikView が数値を間違えて解釈する場合があります。最初に確認する必要があることは、スクリプト内のデータ型変換変数 (データ型変換変数 (444 ページ) を参照) が正しく定義されているかどうか、コントロールパネルのシステム設定が正しいかどうかです。

日付または時刻として解釈されたデータは、シート オブジェクトのプロパティ ダイアログで日付または時刻の他の書式に変更できます。

データに書式が定義されていないため、別のレコードには、同じ項目に別の書式のデータが含まれる場合があります。つまり、1つの項目に有効な日付、整数、およびテキストがある場合もあります。その場合、データは書式設定されず、リストボックスなどに元の形式で表示されます。

このような項目の数値書式ダイアログを始めて開くと、書式は **[混合]** に設定されます。フィールドの数値書式を変更すると、**[リロード時に現在の設定を保持する]** チェックボックスをオフにしてスクリプトを再実行しない限り、さまざまな項目値の元の書式には戻せなくなります。このような項目では、数値書式を変更すると、数値書式ダイアログの **データ ロード時の設定に戻す** ボタンは使用できなくなります。

例 :



75.3 日付と時刻

QlikView では、データ内の日付、時刻、日時が日付シリアル値として保存されます。日付シリアル値は、日付、時刻、および日時に使用され、日付と時刻に基づく算術計算で使用されます。これにより、日付や時刻を加算/減算したり、時間間隔を比較することができます。

日付シリアル値は、1899年12月30日からの経過日数(実数値)です。QlikView の書式は、Microsoft Excel for Windows、Lotus 1-2-3、Corel Quattro Pro などのプログラムで使用される 1900 日付システムと同じで、1900年3月1日から2100年2月28日までの範囲です。たとえば、33857 は、1992年8月10日に対応します。この範囲外では、同じ日付システムをグレゴリオ暦(西欧諸国の標準的な暦)に拡張して使用しています。

時刻シリアル値は0～1の間です。シリアル値 0.00000 は 00:00:00 に対応し、0.99999 は 23:59:59 に対応します。これらを合わせた数値は日付と時刻を示します。シリアル値 2.5 は、1900年1月1日の午後 12:00 を表します。

ただし、データは文字列の書式に従って表示されます。デフォルトでは、[コントロールパネル] の設定が使用されます。また、ロードスクリプトでデータ型変換変数(データ型変換変数(444 ページ)を参照)を使用するか、書式設定関数(書式設定関数(447 ページ)を参照)を使用して、データの書式を設定することもできます。さらに、シートオブジェクトのプロパティシートでデータの書式を再設定できます。

例：

8/6/97	の保存形式	35648
9:00	の保存形式	0,375
8/6/97 9:00	の保存形式	35648,375

またはその逆として

35648	"D/M/YY" 書式による 数値の表示	6/8/97
0,375	"hh.mm" 書式による 数値の表示	09,00

前述のように、日付、時刻などのデータ型は、一連の規則に従って解釈されます。ただし、最終的な結果は、既に説明したように多くの要素の影響を受けます。

例：

この例は、次のデフォルト設定を前提としています。

小数点記号：。

短い日付の書式：YY-MM-DD

時間の書式：hh:mm

次のデータが QlikView に項目 A として読み取られます。

Original data:

0.375
33857
97-08-06
970806
8/6/97

QlikView の内部では次の処理が行われます。

A1) QlikView による解釈 (スクリプト内で特殊な変換関数を使用しない)

String value (list box)	Number value
0.375	0.375
33857	33857
97-08-06	35648
970806	970806
8/6/97	-

A2) date "YYYY-MM-DD" の数値書式を使用

String value (list box)

1899-12-30
1992-09-10
1997-08-06
4557-12-21
8/6/97

Number value

0.375
33857
35648
970806
-

A3) date "MM/DD/YYYY" の数値書式を使用

String value (list box)

12/30/1899
09/10/1992
08/06/1997
12/21/4557
8/6/97

Number value

0.375
33857
35648
970806
-

A4) time "hh:mm" の数値書式を使用

String value (list box)

09:00
00:00
00:00
00:00
8/6/97

Number value

0.375
33857
35648
970806
-

A5) fix "# ##0.00" の数値書式を使用

String value (list box)

0.38
33 857.00
35 648.00
970 806.00
8/6/97

Number value

0.375
33857
35648
970806
-

B1) date# (A, 'M/D/YY') の特殊な変換関数を使用した QlikView による解釈

String value (list box)

0.375
33857
97-08-06
970806
8/6/97

Number value

-
-
-
-
35648

B2) date "YYYY-MM-DD" の数値書式を使用

String value (list box)	Number value
0.375	-
33857	-
97-08-06	-
970806	-
1997-08-06	35648

B3) date "MM/DD/YYYY" の数値書式を使用

String value (list box)	Number value
0.375	-
33857	-
97-08-06	-
970806	-
08/06/1997	35648

B4) time "hh:mm" の数値書式を使用

String value (list box)	Number value
0.375	-
33857	-
97-08-06	-
970806	-
00:00	35648

B5) fix "# # #0.00" の数値書式を使用

String value (list box)	Number value
0.375	-
33857	-
97-08-06	-
970806	-
35 648.00	35648

76 変換関数と書式設定関数の書式コード

数値書式コントロール、変換関数、書式設定関数では、書式コードを使用して数値や日付の書式を設定できます。ここでは、数値、日付、時刻、または日時 of 書式を設定する方法について説明します。

76.1 数値

- 数値の桁数を指定するには、各桁に記号 "0" を使用します。
- 使用可能な桁を表すには、記号 "#" を使用します。書式で小数点の左に # のみがある場合、1 より小さい値は小数点から始まります。
- 桁区切り記号と小数点記号の位置を指定するには、桁区切り記号と小数点記号を使用します。

書式コードは、区切り記号の位置の定義に使用されます。書式コードで区切り記号を設定することはできません。それには、対応するコントロール (ダイアログの場合) またはパラメータ (スクリプト関数の場合) を使用します。

桁区切り記号を使用して、任意の位置で桁をグループ化できます。たとえば、書式文字列 "0000-0000-0000" (桁区切り記号は "-") を使用して、12 桁の部品番号を "0012-4567-8912" のように表示できます。

特殊な数値書式

QlikView では、数値を 2 進数、8 進数、16 進数など、2 ~ 36 の間の任意の基数に変換して書式設定できます。ローマ数字も処理できます。

2 進数の書式コードを表すには、(bin) または (BIN) で開始します。

8 進数の書式コードを表すには、(oct) または (OCT) で開始します。

16 進数の書式コードを表すには、(hex) または (HEX) で開始します。大文字で指定すると、書式に A~F が使用されます (14FA など)。小文字の場合は、書式に a~f が使用されます (14fa など)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。

(dec) または (DEC) は、小数が使用可能で、必須ではないことを示します。

2 ~ 36 の間の任意の基数を示すには、書式コードを (rxx) または (Rxx) で開始します。ここで、xx は、使用する基数を示す 2 桁の数値です。大文字の R を使用すると、10 以上の数値が大文字で書式設定されます (14FA など)。小文字の r の場合は、書式に小文字が使用されます (14fa など)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。(r02) は (bin) と同じで、(R16) は (HEX) と同じです。

ローマ数字の書式コードを表すには、(rom) または (ROM) で開始します。大文字で指定すると、書式に大文字が使用されます (MMXVI など)。小文字の場合は、書式に小文字が使用されます (mmxvi)。書式コードが大文字でも小文字でも正しく変換されます。ローマ数字の場合、負の数値はマイナス記号、ゼロは 0 で示されます。小数点は無視されます。

76.2 日付

- 日を表示するには、各桁に記号 "D" を使用します。
- 月を数値で表示するには、1 桁や 2 桁に "M" や "MM" のシンボルを使用します。"MMM" は、オペレーティ

ングシステムまたはロードスクリプト内のシステム優先変数 `MonthNames` で定義されている月の省略名を文字列で表示します。"MMMM" は、オペレーティングシステムまたはロードスクリプト内のシステム優先変数 `LongMonthNames` で定義されている月の正式名を文字列で表示します。

- 年を表示するには、各桁に記号 "Y" を使用します。
- 曜日を表示するには、記号 "W" を使用します。1文字の W は、曜日を 1桁の数字として返します (月曜日は 0 など)。`"WW"` は、2桁の数字を返します (水曜日は 02 など)。`"WWW"` は、オペレーティングシステムまたはロードスクリプトのシステム上書き変数 `DayName` で定義されている曜日の省略名 (Mon など) を示します。`"WWWW"` は、オペレーティングシステムまたはロードスクリプトのシステム上書き変数 `LongDayName` で定義されている曜日の正式名 (Monday など) を示します。
- 任意の区切り記号を使用できます。

76.3 Times

- 時間を表示するには、各桁に記号 "h" を使用します。
- 分を表示するには、各桁に記号 "m" を使用します。
- 秒を表示するには、各桁に記号 "s" を使用します。
- 秒の小数部を表示するには、各桁に記号 "f" を使用します。
- 時刻を AM/PM 書式で表示するには、時刻の後に記号 "tt" を使用します。
- 任意の区切り記号を使用できます。

76.4 日時

上記と同じ日付と時刻の表記が使用されます。

書式コードの例

例 (数値):

`###0` は、桁区切り記号付きの整数で数値を表示します。

`##0` は、桁区切り記号なしの整数で数値を表示します。

`0000` は、4桁以上の整数で数値を表示します。たとえば、数値 123 は、0123 と表示されます。

`0.000` は、小数点以下 3桁で数値を表示します。

`0.0##` は、小数点以下 1桁以上 3桁以下で数値を表示します。

例 (特殊な数値書式):

<code>num(199, '(bin)')</code>	次のようになります。	11000111
<code>num(199, '(oct)')</code>	次のようになります。	307
<code>num(199, '(hex)')</code>	次のようになります。	c7
<code>num(199, '(HEX)')</code>	次のようになります。	C7
<code>num(199, '(r02)')</code>	次のようになります。	11000111

num(199, '(r16)')	次のようになります。	c7
num(199, '(R16)')	次のようになります。	C7
num(199, '(R36)')	次のようになります。	5J
num(199, '(rom)')	次のようになります。	cxcix
num(199, '(ROM)')	次のようになります。	CXCIX

例 (日付):

YY-MM-DD は、01-03-31 のように表されます。
YYYY-MM-DD は、2001-03-31 のように表されます。
YYYY-MMM-DD は、2001-Mar-31 のように表されます。
31 MMMM YYYY は、31 March 2001 のように表されます。
M/D/YY は、3/31/01 のように表されます。
W YY-MM-DD は、6 01-03-31 のように表されます。
WWW YY-MM-DD は、Sat 01-03-31 のように表されます。
WWWW YY-MM-DD は、Saturday 01-03-31 のように表されます。

例 (時刻):

hh:mm は、18:30 のように表されます。
hh.mm.ss.ff は、18.30.00.00 のように表されます。
hh:mm:tt は、06:30:pm のように表されます。

例 (タイムスタンプ):

YY-MM-DD hh:mm は、97-03-31 18:30 のように表されます。
M/D/Y hh.mm.ss.ffff は、3/31/97 18.30.00.0000 のように表されます。

第8部マクロと自動化

77 QlikView でのオートメーションとマクロの使用

77.1 QlikView オートメーション インターフェース

QlikView は、オートメーションインターフェースを備えています (オートメーションは、以前は OLE オートメーションと呼ばれていました)。このインターフェースを使用すると、外部プログラムまたは内部マクロから QlikView アプリケーションにアクセスして制御することができます。

QlikView オートメーションインターフェースの完全な仕様は、QlikView アプリケーションの Documentation フォルダに収録されています。

オートメーションインターフェースは QlikView に不可欠なので、アクティブにするために特別なタスクを実行する必要はありません。

77.2 オートメーションとマクロによる QlikView の制御

QlikView の外部制御

QlikView オブジェクトには、オートメーションによって外部プログラム (オートメーションをサポートする Visual Basic または C++ で記述されたプログラムなど) からアクセスできます。

このようなコードを使用して、他のアプリケーションまたはスタンドアロンプログラムから QlikView を制御することができます。

スタンドアロンの実行ファイルは、起動ボタンを使用して QlikView ドキュメントから呼び出すことができます。

内部マクロ インタープリタ

QlikView オブジェクトには、組み込みのマクロ インタープリタを使用して、QlikView 内からオートメーションを介してアクセスすることもできます。

現在、QlikView ドキュメント内の VBScript または JScript で記述されたマクロは、いくつかの方法で呼び出すことができます。

ドキュメント イベント:

1. QlikView ドキュメントを開いた後にマクロを実行できます。
2. スクリプトを再実行した後にマクロを実行できます。
3. **データの削除** コマンドの後にマクロを実行できます。
4. ドキュメント内の任意の項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。

シート イベント:

5. シートをアクティブにした後にマクロを実行できます。
6. シートを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートオブジェクト イベント:

7. シートオブジェクトをアクティブにした後にマクロを実行できます。
8. シートオブジェクトを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

ボタン イベント:

9. ボタンシートオブジェクトをマクロにリンクできます。

項目 イベント:

10. 指定された項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。
11. 指定され項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるときにマクロを実行できます。
12. 指定された項目で選択がロックされるときにマクロを実行できます。
13. 指定された項目で選択がアンロックされるときにマクロを実行できます。

変数 イベント:

14. 指定された変数に値が入力された後にマクロを実行できます。
15. 式値の変更によって式を含む指定された変数の値が変更されたときにマクロを実行できます。

78 内部マクロ インタープリタ

QlikView オブジェクトには、組み込みのスクリプト エンジンを使用して、QlikView 内からオートメーションを介してアクセスすることもできます。

78.1 マクロの呼び出し

QlikView ドキュメント内の VBScript または JScript で記述されたマクロは、いくつかの方法で呼び出すことができます。

ドキュメント イベント:

- QlikView ドキュメントを開いた後にマクロを実行できます。
- スクリプトを再実行した後にマクロを実行できます。
- **データの削除** コマンドの後にマクロを実行できます。
- ドキュメント内の任意の項目で選択が行われた後にマクロを実行できます。
- ドキュメント内の任意の変数値が変更されるとマクロを実行できます。

ドキュメントのイベントから呼ばれるマクロは、ドキュメントプロパティ：トリガー (530 ページ) ページから作成できます。

シート イベント:

- シートをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートのイベントから呼ばれるマクロは、シートプロパティ：トリガー (563 ページ) ページから作成できます。

シートオブジェクト イベント:

- シートオブジェクトをアクティブにした後にマクロを実行できます。
- シートオブジェクトを非アクティブにするときにマクロを実行できます。

シートオブジェクトのイベントから呼ばれるマクロは、シートプロパティ：トリガー (563 ページ) ページから作成できます。

ボタン イベント:

- ボタンをマクロ ボタンとして定義できます。

マクロ ボタンのイベントから呼ばれるマクロは、ボタンプロパティの アクション (661 ページ) ページから作成できます。

項目 イベント:

- 指定された項目で選択が行われた時にマクロを実行できます、項目 (207 ページ) を参照してください。
- 指定され項目に論理的に関連付けられている任意の項目で選択が行われるときにマクロを実行できます。

- 指定された項目で選択がロックされる時にマクロを実行できます。
- 指定された項目で選択がアンロックされる時にマクロを実行できます。

項目のイベントから呼ばれるマクロは、ドキュメントプロパティ：トリガー (530 ページ) ページから作成できます。

変数イベント:

- 指定された 変数 (209 ページ) に直接新しい値が入力されたときにマクロを実行できます。
- 他の変数またはドキュメントの論理状態が変化した結果として、指定した変数の値が変化したときに、このマクロ (存在する場合) が実行されます。

変数のイベントから呼ばれるマクロは、ドキュメントプロパティ：トリガー (530 ページ) ページから作成できます。

マクロ編集:

マクロは、そのトリガーの方法に関わりなく、モジュールの編集 (1079 ページ) ダイアログで作成、編集されます。

マクロの例

このセクションでは、とても役立つ VBScript マクロの例をいくつか提供します。

ユーザー操作のために VBScript 入力ボックスを使用する

```
rem ** 選択をクリアし、製品を尋ね、 **
rem ** その製品を選択し、 **
rem ** "Market" シートに移動し、 **
rem ** "Sales" ピボット テーブルを表示 **
Sub ChooseValue
Set q = ActiveDocument
q.ClearAll (false)
Set f = q.Fields("Model Name")
x = inputbox ("Enter product")
f.Select(x)
set s = q.Sheets("Market")
s.Activate
s.SheetObjects("Sales").Activate
end sub
```

78.2 JScript の特別なライブラリ関数

VBScript マクロでは、標準の VBScript 関数 InputBox および MsgBox を自由に使用できますが、JScript を使用する場合は、これらに直接対応する関数がありません。このため、これらのアクションのための特別なライブラリ関数 qvlib が追加されました。次に、この関数の例を示します。

```
// JScript
function Test()
{
personName = qvlib.InputBox("What is you name?")
```

```
msg = "Hello " + personName + " !"
qvlib.MsgBox(msg)
}
```

次の例に示すように、実際にはVBScript マクロでも qvlib 関数は機能しますが、この場合は、汎用のVBScript 関数である InputBox と MsgBox を使用することをお勧めします。

```
rem VBScript
sub TestModule
name = qvlib.InputBox("What is your name?")
msg = "Hello "
msg = msg + name + " !"
qvlib.MsgBox(msg)
end sub
```

78.3 モジュールの編集

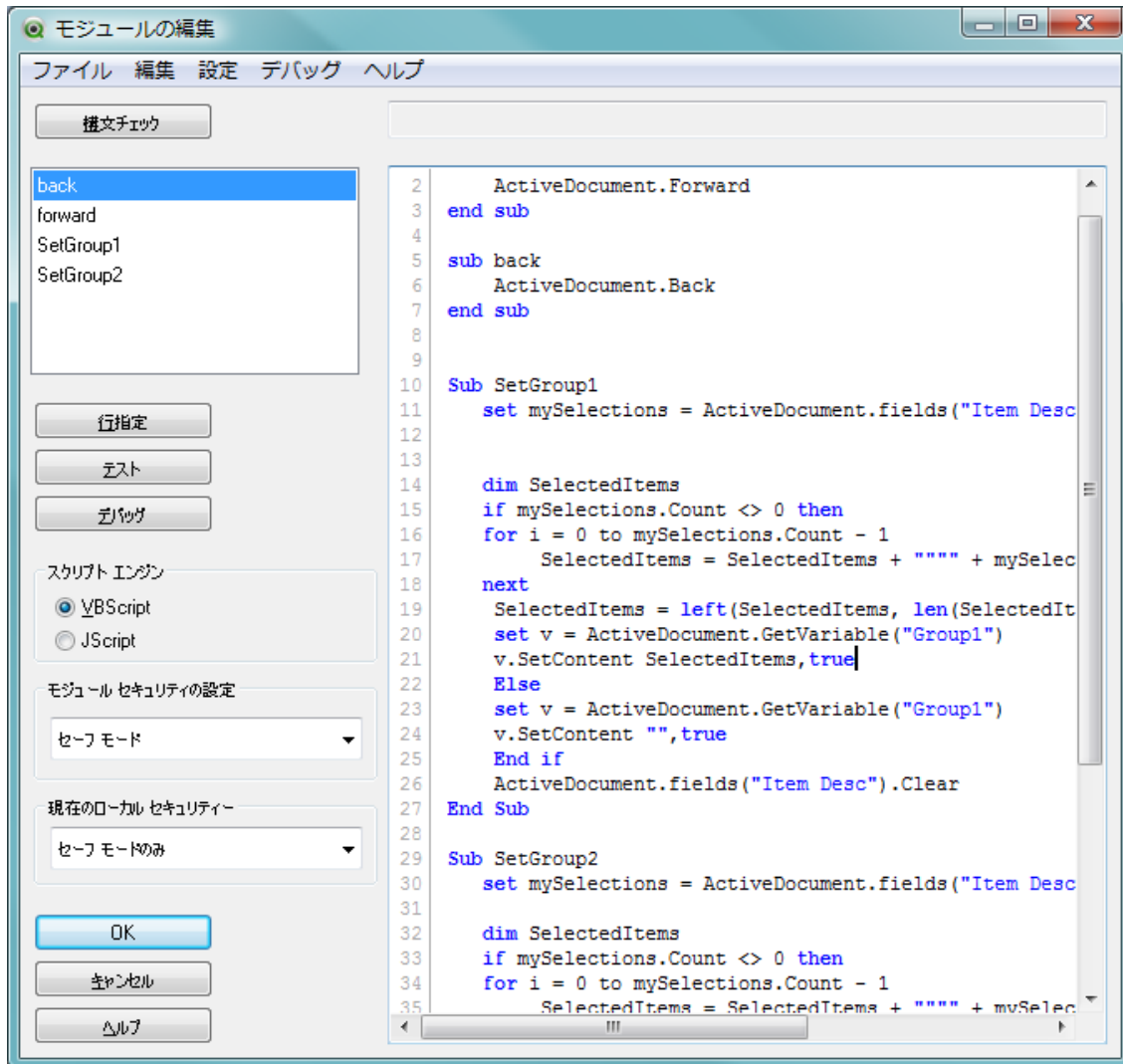
モジュールの編集 ダイアログを使用して、VBScript または JScript でマクロやカスタム定義関数を記述できます。モジュールは、ドキュメントと共に保存されます。

次のコマンドを使用できます。

ファイル メニューの **モジュール ファイルにエクスポート** コマンドを選択すると、スクリプトをファイルとして保存できます。スクリプトを **[印刷]** するオプションもあります。

編集 メニューには、**元に戻す**、**やり直し**、**コピー**、**切り取り**、**貼り付け**、**クリア**、**すべて選択**、**検索/置換** などの共通のオプションがあります。以前に保存したスクリプト ファイルをインポートするための **[ファイルの挿入]** オプションもあります。**コメント設定** コマンドを使用してスクリプトのテキスト行をコメントに変換し、**コメント解除** コマンドを使用して設定を元に戻します。

ユーザー プロパティ : エディタ (91 ページ) ダイアログを開くには、**選択** メニューから **ユーザー プロパティ** を選択します。



[モジュールの編集] ダイアログ

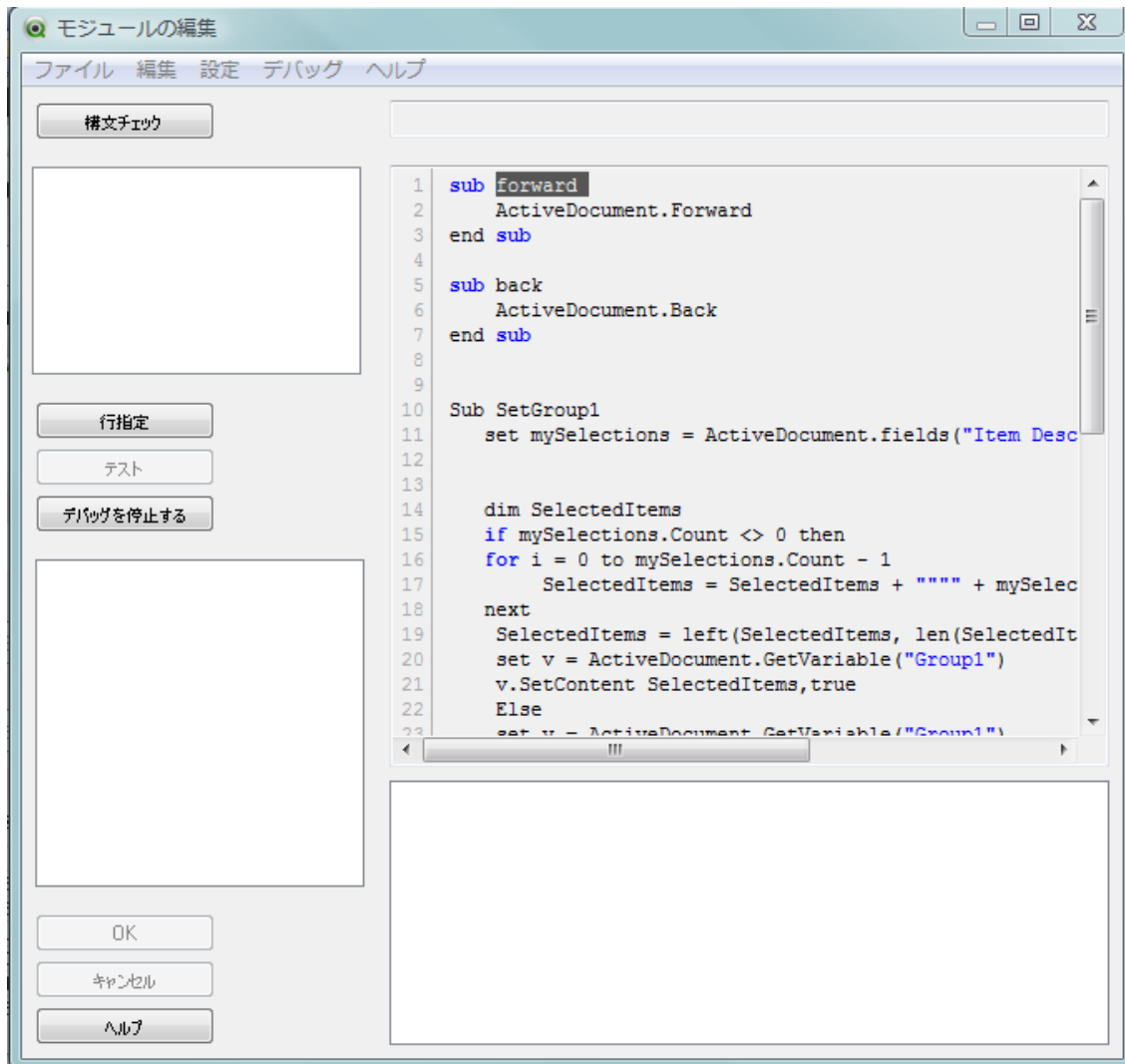
- (マクロの編集ボックス)** 大きな編集ボックスは、マクロを入力する場所です。すべてのマクロは、対応する sub .. end sub の間にサブルーチンとして記述する必要があります。
- (エントリポイントのリスト)** エントリポイントがスクリプトエンジンに認識されるとすぐに、左の小さなテキストボックスのリストに表示されます。このリストからエントリポイントを選択することもできます。
- (メッセージ)** マクロの編集ボックスの上の小さなボックスにエラーメッセージの現在の状態が表示されます。
- 構文チェック** サブルーチンを記述したら、このボタンをクリックして構文をチェックします。

行指定	[エン트리 ポイントのリスト] でエン트리 ポイントを強調表示し、 [行指定] ボタンをクリックすると、 [マクロの編集ボックス] にあるその位置に移動できます。
テスト	エン트리 ポイントを選択して テスト ボタンをクリックすると、マクロをテストできます。エラーは、 メッセージ ボックスに表示されます。
デバッグ	デバッグするサブルーチンをひとつ選択して始めます。 デバッグ ボタンをクリックすると、デバッグモードになります。
スクリプト エンジン	VBScript または JScript を選択します。
モジュール セキュリティの設定	[セーフ モード] を指定することで、この QlikView ドキュメントのマクロには、QlikView の外部のシステムまたはアプリケーションにアクセスできるコードが含まれていないことを示します。 [セーフ モード] として宣言されたドキュメント内のマクロの実行中にこのようなコードが検出された場合は、マクロの実行が失敗します。 一方、 [システム アクセス] モードを指定した場合は、エンド ユーザーがドキュメントを開くときにプロンプトが表示され、システム アクセスを許可するか ([システムアクセスを許可する])、ドキュメントのマクロをすべて無効にするか ([マクロを無効にする])、またはシステム アクセスなしのマクロのみを許可するか ([セーフ モード]) を指定できます。
現在のローカル セキュリティ	[セーフ モード] と宣言されているけれども "安全ではない" 可能性のあるマクロを含むドキュメントを開くと、プロンプトが表示されます。(上の [モジュール セキュリティの設定] を参照してください。) ユーザーの選択はシステムに記録されますが、設定はこのメニューから後で変更することができます。マクロ セキュリティ レベルとして、 実行しない 、 セーフ モードのみ または [システム アクセスを許可する] を設定できます。

注意！

これは、とても簡単な QlikView スクリプト エンジンの手引きです。VBScript や JScript をさらに理解するには、それぞれのハンドブックを参照してください。

78.4 マクロ デバッガ



[モジュールの編集] ダイアログのマクロ デバッグ ページ

マクロ デバッガを使用する前に、Microsoft Script Debugger をインストールする必要があります。

[モジュールの編集] ダイアログの **[デバッグ]** ボタンをクリックすると、マクロ デバッグ モードになります。このモードでは、マクロをステップ実行したり、ステップごとに変数の内容を確認することができます。

デバッグ モードに入る前に、リストからマクロ (パラメータなしのサブルーチンのみ) を選択し、コード内に 1 つ以上のブレイクポイントを設定する必要があります。ブレイクポイントは、コード内のブレイクポイント位置の横の行番号をクリックするか、行にカーソルを置いて F9 を押すことで、いつでも設定/設定解除できます。CTRL+SHIFT+F9 を押すと、すべてのブレイクポイントがクリアされます。

デバッグ モードに入ると、ダイアログ ウィンドウに 2 つの新しいパネルが表示されます。左下には、現在の呼び出し履歴を示すパネルが表示されます。このリスト内でダブルクリックすると、クリックした呼び出し位置までエディタ ウィンドウがスクロールします。ただし、実行ポインタは移動しません。

右下には、現在の変数を示すパネルが表示されます。変数の1つをダブルクリックすると、**[変数]** ダイアログが表示されます。ここで、変数のプロパティを詳細に調べたり、値を対話形式で変更することができます。

デバッグモードには固有のメニューがあります。このメニューの多くの項目には、対応するキーボードショートカットがあります。キーボードショートカットは、**[ユーザー プロパティ]** の**[エディタ]** ページで個別にカスタマイズできます。以下に示すショートカットは、インストール時の初期設定です。

開始	次のブレイクポイントまたはマクロの最後までマクロを実行し続けます。F5 を押しても同じです。
ステップ イン	1 行ごとにステップ実行します。次の行がサブルーチンの呼び出しである場合は、サブルーチンの最初の行がステップ実行されます。F8 を押しても同じです。
ステップ アウト	現在のサブルーチンの残りのステートメントを実行します。CTRL+SHIFT+F8 を押しても同じです。
ステップ オーバー	1 行ごとにステップ実行します。次の行がサブルーチンの呼び出しである場合は、そのサブルーチンが最後まで実行され、サブルーチンの呼び出し後の最初の行で停止します。SHIFT+F8 を押しても同じです。
変数ウィンドウ	さまざまな変数の値を確認および変更するためのウィンドウを開きます。
数式ウィンドウ	現在の変数値に基づいて、VBScript または JScript の数式を入力および評価するためのダイアログを開きます。
すべてのブレイクポイントの解除	コードに設定されたデバッグ用のブレイクポイントを解除します。CTRL+SHIFT+F9 を押しても同じです。
デバッグを停止する	デバッグモードを終了し、通常の [モジュールの編集] ダイアログに戻ります。

79 QlikView ドキュメントの取得

79.1 外部からの QlikView ドキュメントへのアクセス

QlikView ドキュメントには、オートメーション インターフェースを使用して、QlikView プログラムの外部からアクセスすることができます。

既存のドキュメントにアクセスするための直接的な方法の 1 つは、GetObject を使用することです。

例 (VBScript では機能しません):

```
Private Sub OpenAndReload_Click()  
Set QvDoc = GetObject  
("c:\windows\desktop\test.qvw")  
QvDoc.Reload  
End Sub
```

79.2 内部マクロ インタープリタからの QV ドキュメントへのアクセス

内部マクロ インタープリタを使用する場合は、Application クラスの ActiveDocument プロパティのみを参照として使用できます。すべての参照は、このプロパティから作成する必要があります。

例 :

```
Sub Clr  
Set QVDoc = ActiveDocument  
QvDoc.ClearAll(false)  
End sub  
Sub EndQV  
ActiveDocument.Application.Quit()  
End sub
```


80 スクリプトからのVBScript関数の呼び出し

QlikView ドキュメントのマクロ モジュールで定義されているVBScript または JScript 関数をスクリプトから呼び出すことができます。呼び出した関数が標準のスクリプト関数として認識されない場合は、モジュールにカスタム関数があるかどうかチェックされます。したがって、かなり自由に独自の関数を定義することができます。もちろん、カスタム マクロ関数を使用する場合は、標準の関数を実行する場合より多少速度が低下します。

```
rem *****
rem ***THIS IS VBSCRIPT CODE FROM THE MODULE*****
rem*****
rem ***** Global variables *****
dim flag
rem *****functions accessible from script *****
rem ***** wrap for input box *****
function VBin(prompt)
VBin=inputbox(prompt)
end function

rem ***** clear global flag *****
function VBClearFlag()
flag=0
end function
rem ***** test if reference has passed *****
function VBRelPos(Ref, Current)
if Ref=Current then
VBRelPos="Reference"
flag=1
elseif flag=0 then
VBRelPos="Before "&Ref&" in table"
else
VBRelPos="After "&Ref&" in table"
end if
end function
// *****
// *****THIS IS THE SCRIPT *****
// *****

let MaxPop=VBin('Max population in millions :');
// Ask limit

let RefCountry=VBin('Reference country :');
// Ask ref.
```

```
let dummy=VBclearFlag(); // Clears the global flag

Load
Country,recno(),
Capital,
"Area(km.sq)",
"Population(mio)",
VBrelPos('$ (RefCountry)',Country)
as RelativePos
from country1.csv
(ansi,txt,delimiter is ',', embedded labels)
where "Population(mio)" <= $(MaxPop);
```

80.1 パラメータの転送

ロードスクリプトとVBScriptの間のパラメータの転送には、次の規則が適用されます。

- 欠けているパラメータはNULLとして渡されます。
- 実際の数式が有効な数値と評価された場合は、その数値が渡されます。実際の数式が有効な文字列と評価された場合は、その文字列が渡されます。それ以外の場合は、NULLが渡されます。
- NULLはVT_EMPTYとして渡されます。
- 戻り値は、自然な形式で処理されます。

81 QV サーバー上の QV ドキュメントでのマクロの使用

81.1 QlikView Server 上のマクロ

QlikView Server が QlikView ドキュメント内のマクロを実行できるようになりました。クライアントサーバー環境でマクロを使用する際は、考慮する事項があります。

クライアントとして QlikView を使用している場合、すべてのマクロはクライアントで実行されます。この場合は、多くの操作が許可されます。

注意!

マクロを広範囲に渡って使用すると、設計者が意図/想定する連続的なマクロ実行の代わりに、並行的なマクロ実行という潜在的な問題を引き起こす可能性があります。

81.2 マクロ機能の制限

どのタイプのクライアントを使用する場合でも、QlikView Server 環境のマクロでは、次の機能が正しく機能します。

- 項目のクリア、選択などの論理操作
- 変数に関する操作

次の機能は、予期しない結果を招く可能性があるため、QlikView Server 環境では使用されません。

- SetProperty を使用して、シートやシート オブジェクトのプロパティを制御するレイアウト操作
- ドキュメントまたはユーザー設定を変更する操作
- スクリプトに関連するすべての操作 (Reload を含む)
- データ削除操作 (ReduceData など)
- ドキュメントの保存、開くなどの操作

注意!

サーバー オブジェクトのプロパティを制御するレイアウト操作がサポートされます。

81.3 マクロトリガーの制限

以下のトリガーは、あらゆるクライアントの QlikView Server 環境で通常どおり動作しますが、イベントトリガーをサポートしていない AJAX モードは例外です。

```
Document.OnAnySelect
Field.OnSelect
Field.OnChange
Field.OnUnlock
Document.OnPressMacroButton
Variable.OnChange
Variable.OnInput
```

次のトリガーは、意味がないか、予期しない結果を招く可能性があるため、QlikView Server 環境では使用されません。

OnPostReduceData

OnPostReload

81.4 VBScript 関数

QlikView ドキュメントのモジュールで定義される VBScript 関数は、一般に、QlikView Server で正しく機能します。前のセクションで説明した一般的な機能の制限が適用されます。

81.5 サーバー側エクスポート

ボタンに関連付けられたマクロを使用して、任意のチャートの内容をサーバーのテキスト ファイルにエクスポートすることができます。この機能は、QlikView ドキュメントに追加する必要があります。マクロは、Web ブラウザで QlikView Server から直接実行できます。

第9部付録

A 制限と要件

A.1 ロードされるデータ量の制限

QlikView ドキュメントには大量のデータをロードできます。データ量は、主にコンピュータのメインメモリの容量で制限されます。ただし、非常に大きなドキュメントを作成する場合は、QlikView 固有の制限に注意する必要があります。QlikView ドキュメントでは、1つの項目内の固有の値の数が 2,147,483,648 を超えてはなりません。

ロード可能な項目およびテーブルの数、テーブルのセルと列の数は RAM によってのみ制限されます。

QlikView 32 ビットバージョンを実行している場合、コンピュータの物理メモリには関係なく、オペレーティングシステムのバージョンと設定によって RAM は 2、3、4 GB に制限されます。64 ビットバージョンの QlikView を実行する場合は、この制限はありません。

A.2 システム要件

QlikView は Windows™ オペレーティングシステムで動作するように設計されています。

<http://www.qlikview.com/download>で、お使いのコンピューターで QlikView を動作するのに必要なハードウェアおよびソフトウェアの要件について、読むことができます。









A.3 必要なダイナミックリンクライブラリ (DLL)

すべてのクライアントの Windows システム ディレクトリに、多数の DLL が必要です。DLL は、インストール処理中にインストールされます。必要な dll の情報については、QlikView ディレクトリの ReadMe ファイルを参照してください。QlikView は、Windows インストーラと MSI 技術を使用してインストールを行います。これによって常に正しいバージョンのシステム DLL が使用されます。







B キーボード コマンド ショートカット

この章では、QlikView のキーボード コマンド ショートカットのリストを掲載します。


B.1 [ファイル] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+N	[ファイル] メニューの [新規作成] と同じです。	
CTRL+O	[ファイル] メニューの [開く] と同じです。	
CTRL+SHIFT+O	[ファイル] メニューの [サーバーから開く] と同じです。	
CTRL+S	[ファイル] メニューの [保存] と同じです。	
F12	ファイル メニューの 名前を付けて保存 と同じです。	
CTRL+P	[ファイル] メニューの [印刷] と同じです。	
CTRL+SHIFT+P	[ファイル] メニューの [PDF として印刷] と同じです。	
CTRL+E	[ファイル] メニューの [ロード スクリプトの編集] と同じです。	
CTRL+R	[ファイル] メニューの [リロード] と同じです。	
CTRL+SHIFT+R	[ファイル] メニューの [パーシャル リロード] と同じです。	
CTRL+T	[ファイル] メニューの [テーブル ビューアー] と同じです。	




B.2 [編集] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+Z	[編集] メニューの [レイアウト変更を元に戻す] と同じです。	
CTRL+Y	[編集] メニューの [レイアウト変更のやり直し] と同じです。	
CTRL+X	[編集] メニューの [切り取り] と同じです。	
CTRL+C	[編集] メニューの [コピー] と同じです。	
CTRL+V	[編集] メニューの [貼り付け] と同じです。	
DEL	[編集] メニューの [削除] と同じです。	
CTRL+A	[編集] メニューの [すべて選択] と同じです。	
CTRL+F	[編集] メニューの [検索] と同じです。	
CTRL+SHIFT+F	[編集] メニューの [高度な検索] と同じです。	





B.3 [表示] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+Q	[表示] メニューの [現在の選択条件] と同じです。	
CTRL+G	レイアウト用デザイングリッドのオン/オフを切り替えます。	



B.4 [選択] メニュー コマンドのショートカット

Shift+左矢印	[選択] メニューの [元に戻す] と同じです。	
Shift+右矢印	[選択] メニューの [やり直し] と同じです。	
CTRL+SHIFT+L	[選択] メニューの [ロック] と同じです。すべての選択がロックされます。	
CTRL+SHIFT+U	[選択] メニューの [アンロック] と同じです。すべての選択がアンロックされます。	
CTRL+SHIFT+D	[選択] メニューの [クリア] と同じです。すべての選択がクリアされます。	



B.5 [設定] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+ALT+U	[設定] メニューの [ユーザー プロパティ] と同じです。	
CTRL+ALT+D	[設定] メニューの [ドキュメント プロパティ] と同じです。	
CTRL+ALT+S	[設定] メニューの [シート プロパティ] と同じです。	
CTRL+ALT+V	[設定] メニューの [変数一覧] と同じです。	
CTRL+ALT+E	[設定] メニューの [数式一覧] と同じです。	

B.6 [ブックマーク] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+B	[ブックマーク] メニューの [ブックマークの追加] と同じです。	
CTRL+SHIFT+B	[ブックマーク] メニューの [ブックマークの整理] と同じです。	

B.7 [ツール] メニュー コマンドのショートカット

CTRL+M	[ツール] メニューの [モジュールの編集] と同じです。	
CTRL+ALT+A	[ツール] メニューの [アラート] と同じです。	

B.8 [オブジェクト] メニュー コマンドのショートカット (リスト ボックス、統計ボックス、開かれているマルチ ボックス)

CTRL+L	[オブジェクト] メニューの [ロック] と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をロックします。
CTRL+U	[オブジェクト] メニューの [アンロック] と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をアンロックします。
CTRL+D	[オブジェクト] メニューの [クリア] と同じです。アクティブなオブジェクトの選択をクリアします。
ALT+ENTER	[オブジェクト] メニューの [プロパティ] と同じです。アクティブなオブジェクトの [プロパティ] ダイアログを開きます。

B.9 スクリプト用キーボード ショートカット

スクリプト内で利用できるキーボード ショートカットのリストを生成するには、スクリプト パネルで Ctrl+qsc を入力します。

CTRL+G	ロード スクリプトの [指定行への移動] ダイアログを開きます。
CTRL+K、 C	スクリプトの行をコメント設定します。
CTRL+K、 U	スクリプトの行をコメント解除します。
CTRL+Q、 T、 A	スクリプト内にタブを追加します。
CTRL+Q、 T、 P	アクティブなタブを左へ移動します。
CTRL+Q、 T、 D	アクティブなタブを右へ移動します。
CTRL+Q、 T、 N	アクティブなタブの名前を変更します。
CTRL+Q、 T、 R	アクティブなタブを削除します。
CTRL+Q、 Q	自動生成スクリプトを作成します。
CTRL+Q、 U、 I	[Unicode input utility] ダイアログを開きます。
CTRL+Q、 J、 P、 G	jpeg ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。
CTRL+Q、 M、 P、 3	mp3 ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。
CTRL+Q、 W、 M、 A	wma ファイルから属性を読むためのスクリプトを作成します。

B.10 ファンクション キーのキーボード ショートカット

F1	コンテキスト依存ヘルプを起動します。
F3	検索可能なオブジェクトがアクティブな場合は、検索モードになります。
F6	現在アクティブなタブの左隣のシートタブをアクティブにします。
F7	現在アクティブなタブの右隣のシートタブをアクティブにします。
F12	ファイル メニューの 名前を付けて保存 と同じです。
CTRL+F6	左端のシートタブをアクティブにします。
CTRL+F7	右端のシートタブをアクティブにします。

C アプリケーションパフォーマンスの最適化

C.1 はじめに

一般に、小規模または中規模の QlikView アプリケーションでは、アプリケーションの設計中にパフォーマンスを心配する必要はありません。データが多くなるに従って、アプリケーションの設計が不十分だと、時間とメモリの制約が目立つ場合があります。簡単な設計の変更によって大幅にパフォーマンスを向上させることが可能です。この付録では、ありがちな落とし穴を指摘し、その改善法を提案します。

一般に、"問題" をアプリケーション オブジェクトからスクリプト ドリブン データベースに移動すると、パフォーマンスが向上します。多くの場合、これには長所と短所があります。応答時間は向上しますが、アドホックな機能は低下します。以下の推奨事項は、すべての場合に適しているわけではありません。アプリケーションの状態が一般的によくなる場合、または違いがあまりない場合に使用してください。

以下に、問題に対応するために適用する方法の例を示します。問題について説明し、便利な QlikView 機能を紹介します。どの方法が最適かを推奨することはできませんが、重要度が高い順に例を説明します。

C.2 Count (Distinct 'FieldName')

一般に、*Count(distinct fieldname)* は、特に検定項目では、パフォーマンスを必要とする操作です。可能な場合は、スクリプト内でユニークな値が読み取られるたびに値 "1" を割り当てることで、*count()* と *distinct* 修飾子を *sum()* に置き換えます。

スクリプトは次のようになります。

```
Load
Alfa,
if (peek('Alfa')=Alfa,0,1) as Flag1,
Num
resident table_1
order by Alfa Asc;
```

ここで、"peek" は、読み取った Alfa の値を直前に読み取った値と比較します。値が同じ場合は、"Flag" が 0 に設定されます。異なる場合は、"Flag" が 1 に設定されます。ユニークな値の数は、*sum(Flag)* と等しくなります。リストをソートする必要があることに注意してください。Load resident で "order by" を使用すると、読み取りを開始する前に QlikView によってリストがソートされます。

別の方法:

```
Load distinct
Alfa,
Alfa as AlfaDist
resident table_1;
```

ここでは、Count(DistinctAlfa) を単純なカウント Count(AlfaDist) に置き換えることができます。Alfa が 2 回読み取られることに注意してください。1 回目は元の名前で元のテーブルにリンクされ、もう 1 回は Count() のために新しい名前を読み込まれます (Count() では項目をリンクできません)。他のすべての項目は、distinct 句に悪影響を与えないように削除する必要があります。3 つ目の方法は "Alfa" のユニークな値にそれぞれ数値を付けます。

```
table_2:
Load
Alfa,
Autonumber(Alfa) as AlfaNum,
Num
resident table_1;
```

Count(Distinct AlfaNum) は、数値の比較なので、Count(Distinct Alfa) より負荷の小さい演算です。さらに簡単な方法は、autonumber 関数の最後の (最大の) 結果を調べることです。

```
set AlfaDistinctCount = peek( 'AlfaNum', -1, 'table_2' );
```

これはスクリプトまたは数式の場合です。

```
max( AlfaNum)
```

これはレイアウトオブジェクト内の場合です。

C.3 If(Condition(Text),....)

一般に、テキストを比較する句は時間がかかります。解決方法として、*autonumber* などを使用してテキストを数値にマップしたり (前のセクションの例を参照)、スクリプト内でテストを行います。

テキスト文字列のテストは、数値のテストより遅くなります。次の数式について考えます。

```
If (Alfa= 'ABC', 'ABC', left (Alfa, 2))
```

柔軟性を損なわずにスクリプト内で直接テストを実行できます。

```
Load
*,
If (Alfa = 'ABC', 1, 0) as Flag
```

```
resident table_1;
```

数式は次のようになります。

```
If ( Flag = 1, 'ABC', left (Alfa, 2))
```

テストはかなり簡単になります。

C.4 Sum(If(Condition, 'FieldName' ...))

ここでは、集計がテーブルの軸とは無関係で、結果がテーブルの複数の軸に分散します。この問題には、スクリプト内でテストを行い、テーブル内で集計するか、スクリプト内ですべての演算を行うことで対処できます。これには、*interval match*、*group by*、*peek*、*if...then....else* などの多くの方法があります。

この例では、"Condition" のテストと結果の集計の 2 つの手順を行います。前の例に集計を追加します。

```
Sum ( If(Alfa= 'ABC', Num*1.25, Num) )
```

```

Load
*,
If (Alfa = 'ABC', 1, 0) as Flag
resident table_1 ;

```

数式は次のようになります。

```
Sum ( If ( Flag = 1, Num* 1.25 , Num ) )
```

集計をスクリプト内で次のように直接実行することもできます。

table_2:

```

Load
*,
If (Alfa = 'ABC', 1, 0) as Flag
resident table_1 ;
table_3:
Load
Alfa,
If ( Flag = 1, Num* 1.25 , Num ) as NewNum
resident table_2 ;

```

table_4:

```

Load
Alfa,
Sum( NewNum ) as SumNum
resident table_3
group by Alfa ;

```

注意！

Alfa がテスト内の軸なので、集計は Alfa に対して行われます。

C.5 If (Condition, Sum('FieldName')..)

この構文は、前の例との違いを強調する目的でここに入れました。この集計は完全にコンテキスト目的です。一般にはパフォーマンスの問題が発生しません。

C.6 If (Condition1, Sum('FieldName'), If (Condition2, Sum('FieldName')... ..)

ネストされた *If...then else...* ロジックは、概念的には簡単ですが、しばしば対処しにくい問題の元になります。数百のネストレベルが含まれていた例もあります。これはメモリと CPU の両方を集中して使用します。この "Condition" は、変換によって置き換えが可能ながよくあります。典型的な例は、*quantity*price* の集計です。price は変数です。これは、"拡張 intervalmatch" で処理できます。たとえば、次の 2 つの条件 "A AND B" が満たされる場合、このテストは 1 つの条件 "C" に置き換えることができます。

例：

```
sum((GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY)
```

これは次を置き換えます。

```
Sum(
  If((GAC12_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT and
  GAC12_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT) and
  (GAC15_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT and GAC15_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT),
  GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY,
  Null())
```

と

```
Sum(
  If(GAC12_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT,
  If(GAC12_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT,
  If(GAC15_EFCT_DT<= GIV23_REJ_DT,
  If(GAC15_EXPIRE_DT>GIV23_REJ_DT,
  (GAC12_STD_COST * GAC15_EXCHANGE_RATE) * GIV24_DISP_QTY,
  Null())))))
```

そのために、項目 GAC12_STD_COST および GAC15_EXCHANGE_RATE を SCD (穏やかに変化する軸) として読み取ります(SCD (穏やかに変化する軸) の問題を拡張された *IntervalMatch* 構文を使用して解決(477ページ)を参照してください。)

C.7 テキストのソート

QlikView は、項目を数値、テキスト、汎用のどれとして処理するか自動的に評価します。テキストとして評価された項目は、ソート操作に最も時間がかかるテキストとしてソートされます。これを load order でソートするように手動で置き換えることができます。リストボックスなどでソートが必要でない場合は、無効にします。

QlikView は、文字と数値が混在する文字列を、アルファベット順にソートします。つまり、従来の ASCII コードのみのソート順とは異なり、数字は数値順にソートされ、非数字は ASCII コード順にソートされます。例：

ASCII ソート アルファベット ソート

A1	A1
A10	A4
A11	A5
A30	A6
A4	A10
A5	A11
A6	A30

C.8 動的なキャプションおよびテキストオブジェクト

テキストを入力できるほぼすべての場所に、動的計算式を入力できます。ただし、数式の評価に必要なリソースは、環境によって異なります。数式ダイアログで定義されるチャートおよびテーブル内の数式は、オブジェクトが表示されるときとデータが変更されるときにのみ計算されます。したがって、オブジェクトが最小化されている場合は計算されません。

一方、オブジェクトのタイトルが計算される場合は、何らかの変更が発生するたびに計算が実行されます。表示条件、計算条件などを定義する方法も多々あります。このようなテストも毎回実行されます。ある数式は他の数式より負荷が大きく、評価回数が多くなるとさらに負荷が大きくなります。非同期の計算の導入によってこの動作は変化しており、それらの効果もアプリケーション内でわかりやすくなっています。

Now()、**Today()** などの時間関数は、再計算が必要な場合に必ず評価されます。特に、**Now()** 関数は、毎秒アプリケーションで再計算されるため、負荷が大きくなります。

例を挙げます。

```
If ( ReloadTime()+3>Now(), 'Old Data', 'New Data')
```

次の例もあります。

```
If ( ReloadTime()+3>Today(), 'Old Data', 'New Data')
```

簡単なテストとして、これらの数式をテキストボックスに置きます。**Now()** が中にあるテキストボックスをサイズ変更してみてください。

C.9 マクロのトリガー (“変更時”)

マクロは、アプリケーション内で発生するほとんどのイベントでトリガーするように設定できます。あるイベントが次のイベントをトリガーし、それがさらに次のイベントをトリガーするようなイベントのカスケードまたは再帰的なイベントに注意してください。

D よくある質問

D.1 インストール

Q : QlikView をインストールするために必要なものは何ですか？

A : QlikView インストールパッケージは Windows インストーラ技術を使用します。システムでバージョン 3.1 以降が実行されている必要があります。このパッケージがシステム管理者によって導入ツールを使用して導入されていない場合、インストールを実行するアカウントは、管理者権限を持つ必要があります。

Q : Windows インストーラとは何ですか？

A : Windows インストーラは、Windows システム上のソフトウェアのインストール、変更、修復、および削除のために使用されるソフトウェア コンポーネントです。インストールパッケージ (msi) は、データベースとインストールされるファイルで構成されます。

Q : QlikView がインストールに msi と Windows インストーラを使用する理由は何ですか？

A : Windows インストーラと msi パッケージを使用すると、他のプログラムや Windows と競合しない方法でプログラムをインストールできます。後で QlikView を削除する場合も、確実にアンインストールできます。Windows インストーラと msi パッケージは、Microsoft が推奨するインストール方法です。Windows 用ソフトウェア製品の認証には、必ず Windows インストーラと msi パッケージが必要です。

Q : 自分の Windows インストーラのバージョンはどうすればわかりますか？

A : "Windows\system32" フォルダ内の "msi.dll" というファイルを探し、プロパティを開いて、[バージョン情報] もしくは同等のページに移動します。

Q : Windows インストーラのバージョンが古いのですが、どこで最新のバージョンを入手できますか？

A : 最新のバージョンは Microsoft ホーム ページにあります。

Q : インストールで重要なシステム ファイルが上書きされますか？

A : いいえ。ファイルの上書きは、Windows ファイル保護規則を使用する Windows インストーラ サービスによって処理されます。この規則の詳細については、Microsoft ホーム ページを参照してください。

Q : Windows インストーラに関する詳細な情報はどこで参照できますか？

A : インターネット上に Windows インストーラに関する役立つホームページがあります。いくつかを紹介합니다。

msdn.microsoft.com

www.itninja.com

D.2 QlikView ドキュメント

Q : 必要な RAM はどれくらいですか?必要な RAM をデータ容量から見積もる簡単な方法はありますか?

A : いいえ。必要な RAM はデータ構造とデータの種類によって異なります。データ行が増え、各レコードが大きくなると (項目の数が増えると)、必要な RAM も増えます。項目にユニーク値の数が増えると、ユニーク値の数が少ない場合より必要な RAM は増えます。計算時に RAM を多く必要とするチャートもあります。

Q : QlikView ではドキュメントサイズに論理的な制限がありますか?

A : 32 ビットの Windows 環境では、2 GB (Windows Advanced Server では 3 GB) 以上の仮想メモリが QlikView に割り当てられることはありません。そのため、これは非常に明確な制限です。この制限をレコード数に換算することはできません (上の質問を参照)。QlikView 64 ビット エディションでは、2 GB の制限はなくなります。通常、スクリプトの実行時には、レイアウトの作業時と比較して 3 ~ 4 倍のメモリを使用します。64 ビット エディションの QlikView でスクリプトを実行し、32 エディションの QlikView でドキュメントを使用する方法は、多くの場合有効です。

Q : 2 GB の RAM がありますが、1 GB のドキュメントを開こうとすると、"メモリ不足" というエラーメッセージが表示されます。何がいけないですか?

A : QlikView ドキュメント内の各テーブルには、連続したメモリを割り当てる必要があります。ロードされた dll などによってメモリが断片化すると、メモリの割り当てに失敗し、修正を求めるエラーメッセージが表示されます。この動作は、コンピュータによって異なります。

Q : QlikView で実際のユーザーはどれくらいの大きさのドキュメントを実行できますか?

A : 512 MB 程度の RAM を備えた標準的な PC で実行される場合、QlikView は標準的なトランザクションデータを数百万行処理できます。このマニュアルの作成時点 (2008 年 5 月) では、64 ビットバージョンの QlikView を数ギガバイトの RAM を搭載した大型サーバーで実行する場合、最大 10 億行 (集計なしの完全なトランザクション明細レベル) をカスタマアプリケーションで処理できます。

Q : 旧バージョンの QlikView で作成された QlikView ドキュメントを新しいバージョンの QlikView で実行できますか?

A : はい。バージョン 7.52 以降で作成されたすべてのファイルを読み取ることができます。それより前のバージョンの QlikView からファイルを変換する必要がある場合は、QlikView 7.52 が必要です。プログラムのベンダーから無料のコピーをお取り寄せください。QlikView 11 は、QlikView 7、8、9 および 10 とファイル形式が同じです。

Q : QlikView 11 で作成した QlikView ドキュメントを旧バージョンの QlikView で実行できますか?

A : 通常は「はい」です。QlikView 11 ファイルは、QlikView 10、9、8 および 7 で直接使用できます。また、QlikView 11 ではファイルを QlikView 10、9、8 および 7 形式で保存できますが、以前のバージョンでサポートされない書式や機能は失われます。

D.3 スクリプトとデータのロード

Q : QlikView スクリプトで複数の Binary ステートメントを使用できますか？

A : 残念ながら使用できません。バイナリロードは、非常に特殊なロジックを使用して既に一度処理されて QlikView に格納されているデータを他の QlikView ドキュメントに読み取ります。使用される "解凍" では、メモリを "白紙に戻す" 必要があるため、Binary ステートメントはスクリプト内の最初のステートメントでなくてはなりません。そのため、スクリプトで 2 回以上 Binary を使用することはできません。ただし、QVD ファイルを使用して、Binary と同じ速度で複数の QlikView ドキュメントからデータを取得して統合できます。

Q : 自動結合の要件は、項目名が同じであることだけですか？

A : はい。このような結合を関連付けと言います。

Q : 項目名が異なる 2 つの項目を自動結合できますか？

A : はい。ただし、スクリプト内で ALIAS ステートメントまたは AS 句を使用して、いずれかの項目を名前変更する必要があります。項目名の変更 (464 ページ) を参照してください。

Q : テキスト ファイルで、Where 句、Group by 句などの SQL 風の構文を使用できますか？

A : QlikView は、SQL 構文の大部分と他の機能を含む豊富なスクリプト言語をテキスト ファイルに提供します。

Q : バイナリの QlikView ファイルで、Where 句、Group by 句などの SQL 風の構文を使用できますか？

A : いいえ。

Q : 内部テーブル間の関連付けと、join 修飾子が前に置かれた load または select ステートメントと、select ステートメント内の join の違いは何ですか？

A : 関連付けは、ドキュメント内の項目値をクリックした場合に評価される内部テーブル間の結合です。QlikView は、異なるテーブルに共通する項目があった場合に自動的にこの関連付けを作成します。残りの 2 つの結合は、スクリプトの実行中に作成され、新しい論理テーブルが作成されます。このような場合、元のテーブルは論理テーブルとしてロードされません。

さらに、select ステートメント内の join では、通常はキー項目が両方のテーブルにあるレコードのみ (内部結合) をロードします。前の 2 つでは、いずれかのテーブルにキー項目があるレコードも含まれます (完全な外部結合)。

Q : 固定レコードのテキスト ファイルからデータをロードするにはどうすればよいですか？

A : QlikView のテーブル ファイル ウィザードを使用します。ファイル ウィザード : 種類 (243 ページ) および ファイル ウィザード : 種類 - 固定長レコード (245 ページ) を参照してください。

Q : 変更されたデータのみをロードして QlikView ドキュメントを更新できますか？

A : はい。増分リロードの手順については、QVD ファイル (493 ページ) を参照してください。

Q : Web ページから QlikView にテーブルを読み取れますか?

A : はい。HTML でテーブルとしてコーディングされている場合は、テーブルファイルウィザード (ファイルウィザード : 種類 - HTML (248 ページ) を参照) でテーブルを抽出できます。HTML ページに正確な書式のテーブルタグがない場合でも、通常は subfield および textbetween スクリプト関数を使用してデータを抽出できます。

D.4 QlikView ロジック

Q : 特定のリストボックスでレコード数を表示できないのはなぜですか?

A : このような問題が発生するリストボックスには、複数の内部テーブルに共通する項目が含まれます。そのため、QlikView には、項目のレコード数などの統計対象を計算する方法がわかりません。この問題を解決するには、メインのテーブルから新しい名前でもう一度ロードし (レコード数を表示するため)、リストボックス内に項目のレコード数を表示します。ラベル機能を使用すると、エンドユーザーにはこの仕組みがわかりません。

Q : 統計ボックスに n/a だけがたくさん表示されるのはなぜですか?

A : その統計ボックスには、複数の内部テーブルに共通する項目が含まれます。前の質問の回答を参考にしてください。

Q : チャート内の数式の特定の項目を使用できないのはなぜですか?

A : その項目は複数の内部テーブルに共通しています。前の 2 つの質問の回答を参照してください。

Q : 統計ボックスにユニーク値の数を表示するにはどうすればよいですか?

A : load / select ステートメントで distinct 句を使用します。

Q : [リストボックスプロパティ] ダイアログの AND モード オプションは、どのような場合に有効になりますか?

A : AND モード オプションは、QlikView ロジックの理論に従った非常に厳密な条件下でのみ使用できます。AND モードを有効にするには、項目が次の条件を満たす必要があります。

- 1 つの内部テーブルにのみ存在する
- 2 つの項目のみを持つテーブルの 2 つ目の項目である
- 重複したレコードが存在しない
- distinct 修飾子で始まる必要がある

Q : リストボックス内の値の選択に AND と OR のロジックを混在できますか?

A : いいえ。QlikView ロジックでは禁止されています。

Q: リストボックス間で OR ロジックを使用できますか?

A: 間接的にのみ使用できます。高度な代替案は、セマンティックリンクを使用してリストボックス内の選択を他の項目に変換することです。次に、元のボックスの選択を変更し、Ctrl を押しながらセマンティックリンクをクリックして、2つの選択間の OR を実現します。最終的な結果は、セマンティックリンクを逆にすると変換できます。

Q: 複数の info ファイルを画像やテキストファイルなどの 1 つの値にリンクできますか?

A: はい。ただし、項目の重複が使用される場合のみです。QlikView の各項目は、1 つの info ファイルにのみリンクできます。

Q: たとえば、"002"、"02"、"2" が同じ値として解釈される場合があるのはなぜですか?

A: QlikView ではこの例のすべての値は同じ数値となります。原則として、QlikView はすべてのデータを数値変換します。数値変換が可能な場合は、その数値が関連付けに使用されます。ただし、スクリプト内で項目に変換関数 `text()` を使用すると、値は厳密なテキスト値として扱われます。その場合、上の例の値は、異なる 3 つの値に変換されます。

Q: "ループ" または循環テーブル構造とは何ですか?

A: 項目の関連付けがテーブル構造間で永遠に終わらない循環になる場合は、ループと呼ばれます。この現象を説明するもう 1 つの方法は、2 つの項目間に、テーブル構造を経由する複数の異なるルートがあるということです。データの解釈方法があいまいになるため、可能な限りループを避ける必要があります。ほとんどの場合、ループはデータベース設計が適切でなかった結果として生じますが、避けられない場合もあります。QlikView は、スクリプトの実行中にループが発見された場合は警告を表示し、疎結合テーブルを使用して問題を解決するように求めます。詳細については、[循環参照 \(133 ページ\)](#)を参照してください。

D.5 レイアウト

Q: キャプションがないシート オブジェクトを上端でサイズ変更できないのはなぜですか?

A: シート オブジェクトのキャプションをオフにした場合、上枠線はシート オブジェクトの移動に使用されます。シート オブジェクトの上端角を代わりに使用してサイズ変更を行います。

Q: 枠線をドラッグしようとしてもテーブルを右に広げられないのはなぜですか?

A: テーブルの右枠線では、2 つの操作が行えます。テーブルの枠線をドラッグする場合は、テーブル内に表示できる外側の境界がサイズ変更されます。ただし、テーブル内のすべての列の幅の合計より外側フレームを大きくすることはできません。一番右の列をサイズ変更するには、外側の枠線のすぐ左にカーソルを置きます。外側フレームが列の中間に位置しないようにしてください。その場合は、スクロールバーを使用して、列の右枠線を外側フレーム上に置きます。シート オブジェクトの実際の外側フレームを確認するには、デザイングリッドを使用します。

Q: QlikView ドキュメントのシート オブジェクト内の項目の名前を変更できますか?

A : はい。各シート オブジェクト内の各項目のラベルを設定できます。

Q : 最小化できるシート オブジェクトはどれですか？

A : すべての種類のシート オブジェクトを最小化できます。ただし、ボタン、テキスト オブジェクト、線/矢印オブジェクトなどのシート オブジェクトは、このオプションがデフォルトでオフになっています。

Q : シート上で最小化されたオブジェクトを移動できますか？

A : はい。シート上の任意の場所に自由に移動でき、一定の制限内でサイズ変更もできます。

D.6 他のユーザーとの QlikView ドキュメントの共有

Q : 自分の QlikView ドキュメントをサーバーに置き、他のユーザーと共有できますか？

A : はい。登録されている QlikView ライセンスを所有する受信者がそのサーバー ディレクトリにアクセスする場合は可能です。

Q : QlikView を実際のクライアント/サーバー モードで使用できますか？

A : はい。QlikView Server が必要です。

Q : 自分のドキュメントへのリンクを Web ページに置き、他のユーザーにネットからアクセスしてもらうことはできますか？

A : はい。登録されている QlikView ライセンスを所有する受信者がその Web ページにアクセスする場合は可能です。

Q : 自分のドキュメントを他のユーザーに電子メールで送信できますか？

A : はい。受信者が登録されている QlikView ライセンスを所有している場合は可能です。

Q : 自分のドキュメントを特定のユーザーが使用できないようにすることはできますか？

A : はい。ドキュメントに "セクション アクセス" (*Section* (332 ページ) と アクセス制限テーブルウィザード (239 ページ) を参照) を追加すると、使用できるユーザーを定義できます。

Q : 他のユーザーがスクリプトを表示や変更できないようにすることはできますか？

A : はい。"セクション アクセス" では、一部のユーザーに ADMIN アクセス レベルを与え、他のユーザーには USER アクセス レベルを与えてスクリプトを隠すことができます。セキュリティ (501 ページ) を参照してください。

Q : アクセス権の情報はどこに保存するのですか？

A : 情報は保護されている装置上にテキストファイルとして、または、データベースのテーブルとして保存されます。ロードスクリプトに inline ステートメントとして保存することも可能です (インラインデータウィザード (237ページ) を参照してください)。

Q : 多人数のユーザーグループ向けに各個人用のコピーを自動的に作成できますか?

A : はい。QlikView Server の拡張モジュール機能である QlikView Publisher が必要です。

E データ保護問題

以下の説明は、既存のデータベース管理システム (DBMS) が存在し、QlikView が出力ツールとして使用されていることを前提としています。ただし、この説明は、テキスト ファイル形式の未加工データにも当てはまります。

E.1 データ セキュリティと統合

通常、データ保護には複数の意味があります。入力されたデータが誤って変更されたり破壊されないようにすること、データが正しい方法で入力されるようにすること、承認されていないユーザーにデータを共有されないようにすることなどを意味します。

整合性とセキュリティという用語は、しばしばこの文脈で使用され、2つの概念は一見同じようにも見えますが、実際にはかなり異なります。セキュリティは未承認のアクセスに対するデータの保護を意味し、整合性はデータの有効性を意味します。つまり、

- セキュリティは、ユーザーが実行しようとすることを実行できるように許可することです。
- 整合性は、ユーザーが実行しようとすることを正しく実行できるようにすることです。

データ整合性のための仕組みは DBMS から提供されるため、ここでは、主にデータセキュリティについて説明します。

E.2 データを変更する権限

セキュリティの最初のステップは、ユーザーが不注意でデータを消去したり、変更することができないようにすることです。マルチユーザー システムでは、これは適切に保護されたオペレーティング システムとデータベース管理システムを使用することを意味します。このような PC 用のオペレーティング システムの例としては、Windows NT や Novell があります。データベース管理システムの例としては、ORACLE、SQL Server、Informix があります。

データがオペレーティング システムによって保護されない場合は、常に誤ってデータが削除される可能性があります。このことは、ファイルがパスワード保護されている場合でも当てはまります。

次のステップは、認証されたユーザーの権限を設定することです。適切に設定されたシステムでは、適切なツールを使用しないとデータを操作できません。このツールとは、ユーザーが実行しようとしていることを実行することが許可されているかどうかをチェックするためのツールです。

シングルユーザーの場合は、セキュリティの問題の大部分は存在しません。通常は、定期的にデータ ファイルをバックアップするだけで十分です。

E.3 データを表示する権限

データセキュリティの最後の問題は、機密情報を処理する場合のセキュリティです。今までのセキュリティの問題はデータを変更する権限に関するものでしたが、この問題はデータを表示する権限に関するものです。大部分のデータベース管理システムには、データベース内のデータをユーザーから見えないようにする手段が組み込まれています。ただし、ユーザーが QlikView ファイル内のデータのコピーを見ることを防ぐことはできません。このため、QlikView は、承認されていないユーザーがデータを表示できないようにする手段を備えています。ただし、QlikView のアクセス制限ツールは、データを表示す

る権限のみを制御することに注意してください。QlikView では、他のツールでユーザーがデータを破壊することは防げません。これができるのはオペレーティングシステムだけです。

E.4 データ整合性

データの整合性は、構造化されたデータの流れを意味します。統一された方法でデータが入力されるようにデータの入力手順を設定する必要があります。このためのよい方法は、DBMS でフォームを設計することです。また、フォームでユーザーが無効な値 (存在しない顧客番号など) をデータベースに入力できないようにします。

シングルユーザーのデータベースで作業する場合は、複数の人間が同時にデータベースを使用しないように注意する必要もあります。マルチユーザーのデータベースでは、その名前からわかるように、複数のユーザーが同時にデータベースを編集しても処理できます。

この問題に関連する他の側面として、ファイルまたはデータベースがオリジナルか、それともコピーかを理解しておく必要があります。この理解がないと、間違いなくデータベースのコピーにデータを入力し始めるユーザーが出てきます。

F 疎結合テーブルの意図的な作成

いくつかの特別な状況では、一部のデータを通常の QlikView ロジックから切断した方がよいかもしれません。疎結合テーブルを使用すると、ひとつの項目の選択を制限してテーブル内の他の項目に伝達することができます。

テーブルを疎結合になるよう設定するには、[ドキュメント プロパティ] ダイアログを開いて [テーブル] タブを選択します。

この章には、疎結合テーブルで QlikView ロジックがどのように変わるかという例が含まれています。

次の3つのテーブルボックスは、それぞれ QlikView に読み取られるテーブルを表しています。

Table1		Table2		Table3	
B	A	A	C	C	D
1	x	x	6	6	a
2	y	y	7	7	b
3	z	z	8	8	c

項目 B の値 2 を選択した場合は、次のようになります。

Table1		Table2		Table3	
B	A	A	C	C	D
2	y	y	7	7	b

選択はすべてのテーブルに伝わり、関連のない値は除外されます。

ここでこの選択のまま、テーブル 2 を疎結合にしてみます。つまり、ロジックは、テーブル 2 の項目 A と C の間で切断されます。結果は次のようになります。

Table1		Table2		Table3	
B	A	A	C	C	D
2	y	y	6	6	a
		y	7	7	b
		y	8	8	c

ここでテーブル 2 はテーブルボックスであり、テーブルそのものではないことに注意してください。テーブルボックスには、テーブルの各列の各項目間のすべての可能な組み合わせが表示されます。項目 A と C の間にロジックが存在しないので、それぞれの絞込値のすべての組み合わせが表示されます。

例：

以下の3つのテーブルは典型的な構造です。1つのトランザクションテーブルと2つの軸テーブルがあり、それぞれが1つの項目で関連付けられています。

ピボットテーブルを使うと、毎年の売上と製品グループを視覚化できます。ピボットテーブルの隣にある2つのリストボックスには軸項目が含まれています。

sum(Amount)			Year	ProdGrp
Year	ProdGrp	sum(Amount)	2011	X
2011	X	36	2012	Y
	Z	14		Z
		50		
2012	X	45		
	Y	13		
		58		
Total		108		

これは正確なピボットテーブルですが、QlikView ロジックの効果により、望ましくない結果になる可能性があります。2012 年を選択すると、以下の結果を得られます。

sum(Amount)			Year	ProdGrp
Year	ProdGrp	sum(Amount)	2011	X
2012	X	45	2012	Y
	Y	13	Z	
		58		
Total		58		

製品グループ Z はピボットテーブルでは非表示になります。項目 ProdGrp の値 Z は、項目 Year の値 2012 を選択したことによって除外されているので、これは当然のことです。しかし、2012 年の売上を分析する際は、製品グループ Z が存在し、2012 年に売れなかったことを明らかにするために、チャートの sum(Amount) 列に Z を 0 で表示するとよいでしょう。

2 つの項目 Year と ProdGrp がお互いに関係なく、Trans テーブルを介して関連付けられているだけなので連携しないことを示すことができます。これは、Trans テーブルを疎結合として宣言し、ピボットテーブルのレイアウトを変更することによって対処できます。

sum(Amount)			Year	ProdGrp
Year	ProdGrp	sum(Amount)	2011	X
2012	X	45	2012	Y
	Y	13	Z	
	Z	0		
		58		
Total		58		

Year リストボックスの選択は、ProdGrp リストボックスのいかなる値にも影響しないことに注目してください。

注意：

[0 値を隠す] が、[チャートプロパティ] ダイアログの [プレゼンテーション] タブにある軸向けに選択されていないことを確認してください。

参照項目：

循環参照 (133 ページ)

G BNF

QlikView コマンドライン構文 (コマンドライン構文 (40 ページ) を参照) と スクリプト構文 (271 ページ) は、BNF (Backus-Naur Formalism: バッカスナウル形式) という表記で説明されます。このマニュアルで使用する BNF コードについて簡単に説明します。

シンボルの解釈

- | 論理 or。両側のいずれかのシンボルを使用できます。
- () カッコは手続きを定義します。BNF 構文の構造に使用されます。
- [] 角カッコ。囲まれた項目はオプションです。
- { } 中カッコ。囲まれた項目を 0 回以上繰り返せます。
- シンボル 非終端構文カテゴリ。さらに他のシンボルに分割できます。つまり、上の内容、他の非終端シンボル、テキストの文字列などの組み合わせです。
- ::= シンボルを定義するブロックの開始のマークです。
- load** 1 つのテキスト文字列からなる終端シンボル。このとおりにスクリプトに書き込む必要があります。

非終端シンボルは斜体で表記され、すべての終端シンボルは **太字** フォントで表記されます。たとえば、"*(*" は手続きを定義するかっことして解釈され、"**(**" はスクリプトで出力される文字として解釈されます。

例 :

alias ステートメントは次のように記述されます。

alias*fieldname***as***aliasname* { , *fieldname* **as** *aliasname* }

これは、テキスト文字列 **alias**、任意の項目名、テキスト文字列 **as**、任意のエイリアス名の順で続くと解釈されます。任意の数の *fieldnameasaliasname* の組み合わせをカンマで区切って指定できます。

たとえば、次のステートメントは有効です。

```
alias a as first;
alias a as first, b as second;
alias a as first, b as second, c as third;
```

次のステートメントは無効です。

```
alias a as first b as second;
alias a as first {, b as second};
```

用語集

[

[ロード スクリプトの編集] ダイアログ

ロード スクリプトを編集するためのテキスト エディタ。

A

aggr 関数

aggr() 関数は、ネストしている集計で使用される関数です。最初のパラメータは集計関数、つまり内側の集計関数である必要があります。その結果は、次に外側の集計関数によって集計されるレコードのセットです。例：
Sum(Aggr(Count(...), ...))

AJAX

"Asynchronous JavaScript and XML" の略。対話型の Web アプリケーションを作成する開発技術です。「QlikView AJAX Zero Footprint クライアント」も参照してください。

ASCII

American Standard Code for Information Interchange。コンピュータの標準文字セット。

B

biff

Excel ネイティブ形式。

C

crosstable

クロス テーブルをロードするために使用される QlikView スクリプトのプレフィックス。

CSV

CSV は、カンマ区切り値ファイルのファイル拡張子。テーブルをテキストファイルとして保存するときに使用されます。

D

DBMS

DBMS (データベース管理システム)。データベース内のデータの保存と変更
に使用されるデータベースプログラムです。

G

generic

汎用のデータベースを解凍してロードするために使用される QlikView スクリプトのプレフィックス。

I

intervalmatch

不連続値を間隔に対応させるために使用される QlikView スクリプトのプレフィックス。

J

join

2つのテーブルを使用し、それらを1つに結合する操作。作成されるテーブルのレコードは、通常、元の2つのテーブルのレコードの組み合わせです。このとき、生成されるテーブル内の特定の組み合わせに関係する2つのレコードが1つ以上の共通項目に共通の値を持っています。そのため、"自然結合"と言います。QlikViewでは、結合はスクリプトで実行され、論理テーブルが作成されます。Inner join、Left join、Right join、および Outer join の操作を使用できます。

K

keep

2つのテーブルを使用するスクリプト操作。joinと同様に、keep操作は、もう一方のテーブルに一致する値を持つ値を維持しますが、2つのテーブルを1つのテーブルに結合しません。Inner keep、Left keep、および Right keep の操作を使用できます。

L

load

ファイルまたは select ステートメントからデータをロードするために使用されるスクリプト ステートメント。Load ステートメントは QlikView によって評価され、Select ステートメントは ODBC ドライバまたは OLE DB プロバイダによって評価されます。

M

mapping

スクリプト開発者がルックアップ テーブルを使用できるようにする QlikView スクリプトのプレフィックス。

O

OCX 代替コントロール

カスタム オブジェクトを介して QlikView レイアウトに組み込まれるウィンドウなしの OCX コントロール。OCX 代替コントロールは、ユーザーまたはサードパーティによってプログラムできます。「カスタム オブジェクト」も参照してください。

ODBC

Open DataBase Connectivity。アプリケーションがデータベースと通信する方法の1つです。ODBC ドライバは、QlikView などの ODBC 対応プログラムが特定のデータ ソースにアクセスして dBASE などの他の形式で作成さ

れたデータを取得できるようにする 1 つ以上のシステム ダイナミックリンクライブラリ (DLL) です。

OLE DB

Object Linking and Embedding for Databases。アプリケーションがデータベースと通信する方法の 1 つです。このインターフェースを介してさまざまな種類のデータソース、特に ODBC データソースを読み取ることができます。

ooxml

Excel 2007 のファイル形式 (OpenXML)。

Q

QlikView (.qvw) ファイル

バイナリ形式で保存される、デフォルトの拡張子 qvw の QlikView ファイル。ドキュメントとも呼びます。

QlikView AccessPoint

社内 QlikView ドキュメントへの集中アクセスポイント。QlikView Server が必要です。

QlikView AJAX Zero Footprint クライアント

AJAX 技術に基づいた QlikView Server の軽量オブジェクトベースクライアント。

QlikView Desktop

ライセンスを登録した QlikView を使用して、ドキュメントの作成や他のユーザーが作成したドキュメントを開くことができます。

QlikView OCX

サードパーティ ソフトウェアに統合するための ActiveX コンポーネントとしてパッケージ化されている QlikView。OCX 代替コントロールと混同しないでください。

QlikView Personal Edition

ライセンスを購入しなくても起動できる QlikView デスクトップです。他のユーザーが作成した QlikView を開くことはできませんが、それ以外には制限はありません。

QlikView Publisher

QlikView ドキュメントの内容、アクセス、配布を管理。QlikView のサービスとユーザー インターフェースは完全に QlikView Server に統合 (ただし、追加ライセンスが必要)。

QlikView Server

クライアント サーバー アーキテクチャを使用して QlikView ドキュメントをオンラインユーザーに公開するためのソフトウェア。

QlikView プラグイン

QlikView Desktop for Microsoft Internet Explorer の略。

QlikX

他の製品または Web サイトに統合するためのオブジェクトベースの QlikView OCX。

QVD ファイル

ネイティブ QlikView ファイル形式。QVD ファイルには、1 つのデータテーブルが保存され、レイアウトやセキュリティは保存されません。基本的には、迅速にロードできるように最適化された "バイナリ csv ファイル" です。

R

RAM

Random Access Memory の略。通常は "メイン メモリ" と同義語です。

resident

スクリプト内の Load ... resident ステートメントを使用してアクセスできる、スクリプト内でロードされたテーブル。

RTF 形式

Rich Text Format (リッチ テキスト フォーマット)。書式設定されたテキストをアプリケーション間で簡単に変換できるようにエンコードする方法の 1 つです。RTF 形式で保存されたファイルでは、フォントやスタイルなどの属性が維持されます。

S

semantic

セマンティックリンクをロードするために使用される QlikView スクリプトのプレフィックス。項目間の自己参照など、1 つの選択を他の選択にリンクするために使用されます。

SQL

SQL (Structured Query Language) は、リレーショナル データベースでクエリを作成するための標準です。

U

URL

Universal Resource Locator。WWW で使用される汎用のアドレス。

X

X64

64 ビット技術のコンピュータ アーキテクチャ。

XML

Extended Markup Language。HTML より複雑ですが、SGML ほど複雑ではありません。1 つの XML ファイルに 1 つ以上のテーブルを保存できます。

ア

アクセス制限

ユーザー グループのユーザーごとに QlikView ドキュメントのアクセスを制限する方法。

アクティブ

現在使用中のウィンドウ、ダイアログ ボックス、タブ付きシート、またはシート オブジェクトは、"アクティブな" または、"現在の" と表現されます。

アプリケーション

データベースへのユーザー アクセスなど、特定の業務を実行するために設計されたソフトウェア。アプリケーションは、プログラムとドキュメントの組み合わせである場合もあります。通常、このマニュアルでは、アプリケーションとは Excel や QlikView などのプログラムを意味しますが、QlikView ドキュメントとしてプログラムされた特定のソリューションを意味する場合もあります。

アラート

データ内の何かが間違っているなど、特定の条件を満たした場合に警告メッセージを送信または表示できるエンティティ。

イ

インメモリ分析

メインメモリにデータセット全体を置き、すべての必要な集計を必要に応じて実行する BI ツールの用語。

ウ

ウィザード

チャートの作成など、特定の目標を達成できるようにユーザーを支援する一連のダイアログ。

オ

オプション

オプション項目値は、前の選択の状態を変更せずに選択できる項目値です。選択肢のセルと同様に、この状態を表すセルの色は白です。

カ

カスタム オブジェクト

QlikView コントロール内のカスタム OCX コントロール用のプレースホルダシート オブジェクト。

キ

キー項目

2 つのテーブルに存在し、両者を連結する項目

ク

クロス テーブル

複数の軸を持つテーブル。いくつかの軸は垂直、またいくつかの軸は水平です。QlikView では、クロス テーブルを入力テーブルとして使用できます。ピボット テーブルをクロス テーブルとして表示することもできます。

コ

コンテナ

コンテナ オブジェクトは、他のオブジェクトを格納するオブジェクトです。コンテナ オブジェクトは、他のすべてのシート オブジェクトを格納できます。オブジェクトはグループ化され、フォントとレイアウト、キャプションの設定を共有します。

シ

シート

最初の QlikView 画面には、タブ (名前タグ) が付いた空のシートが表示されます。リスト ボックス、チャートなどのさまざまなオブジェクトをシート上に配置できます。1 つのドキュメント内に複数のシートを作成できます。

システム変数

システム変数は、ドキュメント番号の形式など、特別な目的のために QlikView によって生成されるスクリプト内のパラメータです。

システム項目

QlikView によって生成される項目。システム項目には、QlikView に読み取られた項目の由来に関する情報が含まれます。この情報は、特定の項目名が見つかったデータソースのファイルまたはテーブルの識別に使用されます。

ス

スカラ関数

スカラ関数は、1つの値から1つの値を返す関数です。例: `chr()`、`sin()`、`applymap()`。「集計関数」と「範囲関数」も参照してください。

スクリプト

ロードするデータの記述。ロードスクリプトは、QlikView によって実行される小さなプログラムです。実行されると、QlikView ドキュメントを1つ以上のデータソースに接続するかテキストファイルを開き、指定された情報をQlikView に読み取ります。挿入されるデータソースと項目は、ここで定義します。

スクリプト内のタブ

スクリプトは複数のタブに分割できます。分割すると構造がわかりやすくなり、スクリプト内の移動が簡単になります。

スタート ページ

QlikView を起動すると、最初のウィンドウとしてスタートページが表示されます。ここから例、お気に入り、最近使用したドキュメントと接続にアクセスできます。

ステートメント

スクリプト コマンドは "ステートメント" ともいいます。すべてのステートメントは、セミコロン ";" で終わる必要があります。

ストアド プロシージャ

データベースに保存されて実行されるプログラム

ストレート テーブル

複数の軸、集計データを含む複数の数式、および高度なソート機能を備えたシート オブジェクト。

スライダー/カレンダー オブジェクト

項目内の値を選択したり 1 つ以上の変数に値を設定するために使用できるシート オブジェクト。

セ

セクション アクセス

アクセス制限に使用される QlikView ロード スクリプトのセクション。

ダ

ダイアログ ボックス

適切なコマンド ボタンを選択することにより、オプションを選択したりアクティブにすることができるウィンドウ。操作を実行する前に必要な警告やメッセージが表示されるダイアログ ボックスもあります。

タ

タブ付きシート

「シート」を参照してください。

チ

チャート

棒グラフ、円グラフ、ファネルチャート、折れ線グラフ、グリッドチャート、散布図、ピボットテーブル、およびストレートテーブルを表す共通の名前。チャートには、論理テーブル内の複数のレコードに対応するチャート内の 1 つの項目 (ピボットテーブルのセル、棒グラフの棒など) として、データの集計値が表示されます。

デ

データ ソース

データソースは、ODBC インターフェースによって定義される物理データベースの名前。

テ

テーブル ファイル

QlikView では、テーブル ファイルは、項目がコンマ、タブ、セミコロンなどで区切られたテーブルを表すテキスト ファイルを意味します。1 行目のデータは通常、項目名を表します。

テーブル ボックス

レコード中心のデータ ビューを含むシート オブジェクト。任意の項目のセットを列として選択でき、項目値の可能な組み合わせを別の行に表示できます。

テーマ

ドキュメント、シート、またはオブジェクトのプロパティと外観を含むファイル。テーマは QlikView 内部で作成して使用できます。

デュアル項目

日付、月、書式設定された数値など、テキストと数値の両方の表現を持つ項目。

ド

ドキュメント

バイナリ形式で保存される、デフォルトの拡張子 qvw の QlikView ファイル。"QlikView ファイル" ともいいます。

ドライバ

ドライバは、バックグラウンドで実行され、プリンタ、モニタなどの周辺デバイスまたは別のプログラムとの通信を制御するプログラムです。

ネ

ネストされた集計

2ステップの集計を使用する計算。「aggr 関数」を参照してください。

パ

パス

ディスク上のファイル、フォルダ、ディレクトリの場所。「絶対パス」/「相対パス」を参照してください。

ピ

ピボット テーブル

複数の軸、集計データを含む複数の数式、およびピボット/グループ化機能を備えたシート オブジェクト。

フ

フォント

文字とキャラクタの字体設定。フォントは "Arial bold 10pt" のように名前、スタイル、サイズで表されます。

ブ

ブックマーク

再度呼び出したり他のユーザーと共有するために保存された選択のセット。

ブックマーク オブジェクト

ブックマークを作成、削除、および再度呼び出すことができるシート オブジェクト。

へ

ヘルプ、HTML ヘルプ

[ヘルプ]メニューから、または F1 キーを押すと起動する通常の Windows ヘルプ。

マ

マルチ ボックス

1 列目の各行には項目名、2 列目には対応する項目値のドロップダウンが表示される 2 列のシート オブジェクト。

メ

メイン メモリ

コンピュータがプログラムの実行に使用するメモリ。通常は RAM で構成されます。

モ

モジュール

自分の VBScript マクロを入力、テスト、および保存するためのダイアログ。

リ

リスト ボックス

項目値のリストを表示するシート オブジェクト。リストが長すぎて一部の選択を表示できない場合は、スクロールバーが表示され、他の項目を表示できるようになります(「項目」と「値」も参照)。

リロード

QlikView ドキュメントのデータを更新するには、QlikView ロード スクリプトを実行する必要があります。手動でも、スケジュール タスクまたは QlikView Publisher を使用して自動的に実行できます。

レ

レコード

テーブル内の行と同じ。

レポート

通常、"レポート" は静的な紙または pdf のレポートを意味します。

レポート エディタ

QlikView には、標準的な紙のレポートを作成して印刷するためのレポートエディタが組み込まれています。

ロ

ログ ファイル

ログブックのように、スクリプトの実行中に発生したすべてを記録するファイル。

ロック

誤って選択解除されないように、項目をロックできます。レイアウトも誤って変更されないようにロックできます。

予

予約項目

アクセス制限管理に使用される項目： USERID、PASSWORD、SERIAL ACCESS、NTNAME、NTDOMAINSID、NTSID、OMIT。

値

値

項目は、QlikView の主要なデータ伝送エンティティです。項目には通常、項目値と呼ぶいくつかの値が含まれています。項目値には、数値データや英数字 (テキスト) データを含めることができます。デュアル項目を参照してください。

入

入力フィールド

入力フィールドとして宣言された項目は入力に使用できます。計画、予測、予算作成に適しています。

入力ボックス

QlikView 変数のデータ入力および値の表示に使用されるシート オブジェクト。

列

列

データベースの項目の代わりに一般に使用される用語。

区

区切り文字

列または項目を次と区切る文字またはコード。"区切り記号" ともいいます。

区切り記号

delimiter は、文、パラグラフ、ページ、レコード、項目、単語などの項目の開始または終わりを示す文字またはコード。この用語は、"区切り文字" の代わりに使用される場合もあります。

合

合成キー

テーブルをリンクする複数のキーが存在する場合に QlikView によって内部的に生成されるテーブル間のキー。合成キーは、表現が十分でない場合や、設計されたデータ モデルに対して正しくない場合があります。

変

変数

1つの値を割り当てられる名前付きのエンティティ。変数は、スクリプト、数式、チャートなどのシートオブジェクトで使用できます。

強

強制除外

"not 選択" ともいいます。and リストボックスでのみ可能です。セルが赤くなるまでマウスボタンを押したままにします。

循

循環参照

3つ以上のテーブルの間でキーが循環を形成するデータモデルの構造。通常、推測されるロジックがあいまいになるため、循環参照を断ち切る必要があります。そのために QlikView では、いずれかのテーブルを疎結合に設定します。

数

数式

式。ロードスクリプト、チャート、動的なラベル、テキストボックスなど QlikView のさまざまな場所で使用できます。

書

書式のコピー/貼り付け

ツールバー上のペイント ブラシ。1つのシートオブジェクトから別のシートオブジェクトにプロパティを転送するために使用できます。

書式設定

デュアル項目に必要な操作。通常は、format() 関数を使用して明示的に行う必要があります。

検

検索オブジェクト

検索オブジェクトはドキュメント内にあるあらゆる情報の検索に使用できません。

灰

灰色

除外されているセルの色。

相

相対パス

特定のディレクトリ (通常は QlikView ドキュメントのディレクトリ) から見たディスク上のファイル、フォルダ、ディレクトリの場所。「絶対パス」も参照してください。

範

範囲関数

範囲関数は、値のセット (複数のパラメータ) から 1 つのスカラー値を返します。「集計関数」と「スカラー関数」も参照してください。

統

統計ボックス

対応する項目の絞込値に対して計算された統計エンティティのセットを表示するシート オブジェクト。

絶

絶対パス

ルートまたは最上位レベルから見たディスク上のファイル、フォルダ、ディレクトリの場所。「相対パス」も参照してください。

緑

緑

選択されているセルの色。

線

線/矢印オブジェクト

レイアウトに線または矢印を追加するために使用されるシート オブジェクト。線/矢印オブジェクトは、他のシート オブジェクトに覆われている領域でも、シート領域であればどこにでも移動して配置できます。

計

計算軸

値のセットが項目の値でなく、数式の絞込値によって定義される軸。

論

論理テーブル

QlikView が評価するデータを含むテーブル。論理テーブルは、スクリプトの実行中に作成されるテーブルです。QlikView ドキュメント内に保存されません。

赤

赤

ユーザーによって明示的に除外されているセルの色。

軸

軸

チャート軸はチャートの値のセットであり、チャートでその数式の値が計算されるときに、繰り返し処理の対象になります。簡単なケースでは、チャート軸は標準の棒グラフの x 軸上に表示されるものです。通常、軸は 1 つの項目で構成されますが、グループまたは計算式の場合もあります。

連

連結 (1)

2つのテーブルを使用し、それらを1つに結合する操作。2つのテーブルは単純に足し合わされます。つまり、データは変更されず、作成されるテーブルには、元のテーブルの合計と同じ数のレコードが含まれます。複数の連結操作を同時に実行して、複数のテーブルを連結したテーブルを作成できます。

連結 (2)

2つのテキスト文字列を使用し、それらを1つに結合する操作。使用される演算子は、アンパサンド "&" です。

選

選択

クリックして項目を選択することは QlikView の重要な部分です。Select は、多くのクエリ ツールで使用される 1 つの SQL ステートメントでもあります。

選択のクリア

選択が実行されていない (どの項目も除外されていない) 状態に QlikView アプリケーションをリセットする操作。

選択肢の値

同じ項目内の選択によって除外される項目値。他の項目で行われた選択では除外されません。デフォルトでは、セルは淡色表示されますが、[リストボックス プロパティ] ダイアログの [選択状態の表示切替] を有効にすると、連結値のセルと同じように白で表示することができます。

選択表示ボックス

項目の選択とそれらの論理ステータスを表示するシート オブジェクト。

除

除外値

除外値は、以前の選択を 1 つ以上変更しないと選択できない項目値。この状態のセルは淡色表示されます。

隠

隠しスクリプト

非表示にしてパスワードで保護できるロード スクリプトの一部。

集

集計関数

集計関数は、値のセット (複数のレコード) から 1 つのスカラ値を返します。例：Sum()、Count()、Avg()。チャートでは集計関数を使用する必要があります。スクリプトでも "group by" 句を使用すると使用できます。「範囲関数」と「スカラ関数」も参照してください。

青

青

ロックされているセルの色。

項

項目

データベース内の列と同じ。通常、QlikView では、項目はリスト ボックスによって表されます (「値」と「リストボックス」も参照)。

索引

-	-	362, 954
	\$	
\$		346
\$fields		460
\$info		460
\$rows		460
\$table		460
\$variable		459
	&	
& (文字列演算子)		362, 954
	*	
*		362, 954
	/	
/		362, 954
	[
[アクションの追加] ダイアログ		662
[アニメーション] ダイアログ		751
[ウィンドウ] メニュー		68
[カスタムセル書式] ダイアログ		629
[ツール] メニュー		67
[ファイル] メニュー		55
[ブックマーク] メニュー		66
[ヘルプ] メニュー		69
[レイアウト] メニュー		64

[ロードスクリプトの編集] ダイアログ	211
[選択] ページ	165
[選択] メニュー	63
[編集] メニュー	60
	+
+	362, 954
	<
<	363, 955
<=	363, 955
<>	363, 955
	=
=	363, 955
	>
>	363, 955
>=	363, 955
	2
2 標本 t 検定	946
	A
above	1014, 1043
acos	397
AddMonths	428
AddYears	428
after	1017
age	441
aggr	368
Alias	277
alt	414
AND	363, 955

applymap	410
ARGB	454
as	314
asin	397
atan	397
atan2	397
attribute	419
autogenerate	314
AutoNumber	404
AutoNumberHash128	404
AutoNumberHash256	405
avg	369, 962

B

before	1016
below	1014
Binary	278
bitcount	390, 1005
Black and Schole	402
BlackAndSchole	401
BNF	1115
bottom	1016
Buffer	278
Bundle	279

C

Call	280
CD	347
ceil	386, 1001
chi2test_chi2	375, 975
chi2test_df	375, 975
chi2test_p	375, 974
chidist	398
chiinv	398
chr	405

class	415
ColorMapHue	457
ColorMapJet	458
ColorMix1	456
ColorMix2	456
ColumnNo	1019
combin	389, 1004
computername	416
concat	367, 957, 960
Concatenate	283
concat関数の例	1034
Connect	283
ConnectString	419-420
ConvertToLocalTime	442
correl	369, 969
cos	397
cosh	397
count	367, 957, 961
Crosstable	264, 285

D

date	449
date#	1027
dateformat	351, 445
day	425
DayEnd	440
DaylightSaving	429
DayName	441
DayNames	353, 446
DayStart	440
decimalsep	350, 444
detailのドリル	601
dimensionality	1013, 1045
Dimensions	286
Direct discovery	193

DirectCacheSeconds	291
DirectConnectionMax	291
DirectDateFormat	352, 445
DirectDistinctSupport	291
DirectFieldColumnDelimiter	292
DirectIdentifierQuoteStyle	292
DirectIdentifierQuoteChar	292
DirectMoneyDecimalSep	351, 445
DirectMoneyFormat	351, 445
Directory	293
DirectStringQuoteChar	292
DirectTableBoxListThreshold	292, 601
DirectTimeFormat	352, 445
DirectTimeStampFormat	352, 446
DirectUnicodeStrings	291
disconnect	293
distinct	313, 332
distinctrow	333
div	385, 1000
Do..loop	293
Drop Field	294
Drop Table	295
dual	451, 1030

E

e	402
embedded labels	320
ErrorMode	354
evaluate	409
even	390, 1004
Execute	295
exists	412
Exit script	296
exp	396
explicit labels	320

ExponentNumberNotation	353, 447
------------------------	----------

F

fabs	387, 1002
fact	389, 1004
false	403
fdist	399
FieldIndex	413, 1013
FieldName	423
FieldName()	423
FieldNumber	423
FieldNumber()	423
FieldValue	413, 1013
fieldvaluecount	405, 1020
filebasename	420
filedir	420
fileextension	420
filename	419
Filename	420
FileName	420
FilePath	421
FileSize	421
filetime	421
findoneof	409
finv	399
First	296, 1017
firstsortedvalue	366, 957, 959
FirstValue	367
firstworkdate	442
floor	387, 1001
floppy	347
fmod	386, 1001
For each..next	297
For..next	296
Force	299

frac	387, 1002
fractile	369, 971
from	314
FV	400

G

Generic	300
getalternativecount	1025
getcurrentfield	1023
getcurrentselections	1024
getexcludedcount	1025
getfieldselections	1023
getfolderpath	421
getnotselectedcount	1024
getpossiblecount	1024
GetRegistryString	417
getselectedcount	1024
GMT	429
group by	315, 333

H

hash128	409
Hash160	410
Hash256	410
having	333
hideprefix	347
hidesuffix	348
Hierarchy	300
HierarchyBelongsTo	301
hour	425
HRank	1021
HSL	454

I

if	414
----	-----

If..then..elseif..else..end if	302
Image_size	303
include	347
InDay	433
InDayToTime	434
index (文字列関数)	405-406
Info	303
inline	314
InLunarWeek	433
InLunarWeekToDate	433
InMonth	431
InMonths	431
InMonthsToDate	432
InMonthToDate	431
Inner	304
Input	418
inputavg	991
Inputfield	305
inputsum	990
InQuarter	430
InQuarterToDate	431
interval	452
interval#	1029
IntervalMatch	306, 308
InWeek	432
InWeekToDate	432
InYear	430
InYearToDate	430
IRR	373, 971
isnull	416
isnum	416
IsPartialReload	416
istext	416
iterno	404

J	
Join	309, 332-333

K	
Keep	309
keepchar	408
kurtosis	364, 369, 971

L	
last	1018
LastValue	367
lastworkdate	442
Left	310, 406
len	405
Let	312
linest	370
linest_b	371, 964
linest_df	372, 967
linest_f	373, 967
linest_m	370, 963
linest_r2	371, 965
linest_seb	372, 966
linest_sem	371, 965
linest_sey	372, 966
linest_ssreg	373, 968
linest_ssresid	373, 969
Load	313
Load inline	237
LocalTime	427
log	396
log10	396
LongDayNames	353, 446
LongMonthNames	352, 446
Lookup	413

Loosen Table	321
lower	407
ltrim	407
LunarweekEnd	439
LunarWeekName	440
LunarWeekStart	439

M

makedate	427
maketime	427
makeweekdate	427
Map ... using	323
Mapping	322
MapSubstring	411
match	415
max	365, 957, 959
MaxString	367, 957, 960
median	370, 970
Microsoft Office へのドラッグアンドドロップ	566
mid	406
min	365, 957-958
Minstring	957
MinString	366, 960
minute	425
missingCount	957
MissingCount	368, 962
mixmatch	415
mod	386, 1000
mode	366, 957, 959
money	448
money#	1027
moneydecimalsep	351, 444
MoneyFormat	351, 444
moneythousandsep	350, 444
month	425

MonthEnd	436
MonthName	437
MonthNames	352, 446
MonthsEnd	437
MonthsName	438
MonthsStart	437
MonthStart	436
MsgBox	417
msq	321
must_include	347

N

networkdays	441
no eof	319
no labels	319
no quotes	321
NoConcatenate	323
NoOfColumns	1020
NoOfFields	423
NoOfFields()	423
NoOfReports	424
NoOfRows	423, 1019, 1044
NoOfRows()	423
NoOfTables	424
NoOfTables()	424
normdist	398
norminv	398
not	363, 955
now	426
nPer	400
NPV	374, 973
null	416
Null 関数	416
NullAsNull	324
NullAsValue	324

nullcount	957
NullCount	368, 961
nulldisplay	349
nullinterpret	349
nullvalue	350
num	448
num#	1026
numavg	388, 1003
numcount	388, 1003
numericcount	957
NumericCount	368, 961
nummax	389, 1004
nummin	388, 1003
numsum	388, 1002

O

odd	390, 1005
only	366, 957, 959
OR	363, 955
ord	405
order by	315, 333
osuser	416
othersymbol	350
Outer	325

P

PDF として印刷	74
PDF として印刷 (オブジェクト)	74
peek	412
permut	389, 1004
pi	402
pick	414
Pmt	400
pow	396
previous	412

purgechar	408
PV	401

Q

Qliktech の灰色	456
Qliktech の青	456
QlikView Server 上のマクロ	1089
QlikView デスクトップ	29
QlikView パーソナル エディション	29
QlikView ファイル	51
QlikView プロジェクト ファイル	51
qlikviewversion	417
Qualify	326
QuarterEnd	435
QuarterName	436
QuarterStart	435
QVD ファイル	493
QVD ファイルと増分ロード	495
QvdCreateTime	422
QvdFieldName	422
QvdNoOfFields	422
QvdNoOfRecords	422
QvdTableName	422
QVPath	348
QVRoot	348
qvuser	416
QVWorkPath	348
QVWorkRoot	348

R

rand	402
RangeAvg	391, 1006
RangeCorrel	394, 1012
RangeCount	391, 1006
RangeFractile	392, 1008

RangeIRR	394
RangeKurtosis	392, 1008
RangeMax	392, 1007
RangeMaxString	393, 1011
RangeMin	391, 1007
RangeMinString	393, 1010
RangeMissingCount	393, 1010
RangeMode	394, 1011
RangeNPV	395
RangeNullCount	393, 1010
RangeNumericCount	392, 1009
RangeOnly	394, 1012
RangeSkew	392, 1008
RangeStdev	392, 1007
RangeSum	391, 1005
RangeTextCount	393, 1009
RangeXIRR	395
RangeXNPV	395
rank	1020
Rate	401
recno	403
reloadtime	416
Rem	327
Rename Field	327
Rename Table	328
repeat	407
Replace	330, 409
ReportComment	424
ReportID	424
ReportName	424
ReportNumber	424
resident	314
RGB	454
Right	329, 406
round	387, 1002

rowno	403, 1019, 1044
rtrim	407

S

Sample	331
ScriptError	354
ScriptErrorCount	356
ScriptErrorDetails	355
ScriptErrorList	356
second	424
secondarydimensionality	1013, 1045
Section	332
Select (SQL)	332
Select ステートメントの作成	230
Semantic	334
Set	335, 346
Set ステートメントウィザード	220
Set 分析	992
SetDateYear	429
SetDateYearMonth	429
ShowCalendarWeek	353, 447
sign	390, 1005
sin	397
sinh	397
skew	364, 370, 970
Sleep	335
SQL	335
SQLColumns	336
SQLTables	336
SQLTypes	337
sqr	396
sqrt	396
Star	338
stdev	364, 370, 970
stdv	369, 962

sterr	370, 963
steyx	370, 963
Store	339
StripComments	348
Sub..end sub	340
subfield	408
substringcount	410
sum	365, 957-958
Switch..case..default..end switch	341
SysColor	453, 457

T

TableName	424
TableName()	424
TableNumber	424
TableNumber()	424
tan	397
tanh	397
tdist	398
text	1030
TextBetween	409
textcount	957
TextCount	368, 961
thousandsep	350, 444
time	450
time#	1028
timeformat	351, 445
timestamp	453
timestamp#	1028
timestampformat	352, 446
TimeZone	429
tinvs	399
today	427
top	1015, 1041
Trace	342

trim	407
true	403
TTest_conf	376, 977
TTest_df	375, 976
TTest_dif	376, 976
TTest_lower	376, 977
TTest_sig	375, 976
TTest_sterr	376, 977
TTest_t	375, 975
TTest_upper	376, 978
TTest1_conf	379, 982
TTest1_df	378, 981
TTest1_dif	379, 982
TTest1_lower	379, 982
TTest1_sig	379, 981
TTest1_sterr	379, 982
TTest1_t	378, 981
TTest1_upper	379, 983
TTest1w_conf	381, 985
TTest1w_df	380, 983
TTest1w_dif	380, 984
TTest1w_lower	381, 985
TTest1w_sig	380, 984
TTest1w_sterr	380, 984
TTest1w_t	380, 983
TTest1w_upper	381, 985
TTestw_conf	378, 980
TTestw_df	377, 978
TTestw_dif	377, 979
TTestw_lower	378, 980
TTestw_sig	377, 979
TTestw_sterr	377, 979
TTestw_t	377, 978
TTestw_upper	378, 980

U	
Unless	343
Unmap	343
Unqualify	344
Untag field	344
upper	407
UTC	429
V	
Verbatim	349
VRank	1022
W	
week	425
weekday	426
WeekEnd	438
WeekName	439
WeekStart	438
weekyear	426
when	345
where	315
Where 条件	264
while	315
WildMatch	415
WinPath	349
WinRoot	349
X	
XIRR	374, 972
XML	51
XML ファイル	321
XNPV	374, 973
xor	363, 955

Y

year	426
year2date	428
YearEnd	434
YearName	435
YearStart	434

Z

ZTest_conf	382, 987
ZTest_dif	382, 986
ZTest_lower	382, 987
ZTest_sig	381, 986
ZTest_sterr	382, 986
ZTest_upper	382, 987
ZTest_z	381, 986
ZTestw_conf	384, 989
ZTestw_dif	383, 988
ZTestw_lower	384, 989
ZTestw_sig	383, 988
ZTestw_sterr	383, 989
ZTestw_upper	384, 990
ZTestw_z	383, 988

ア

アイテム設定	168
アクション	661-662
アクセス制限	239, 501
アクセス制限テーブルウィザード	239
アラート	171-172
アラートウィザード	176
アンロック	76, 124
アンロックとクリア	76

イ	
インジケータ	121
インターネットファイルを開く	235
インラインデータウィザード	237
ウ	
ウォーターフォールグラフ	759
エ	
エクスポート	118
エクスポートアクションの設定	669
エラーバー	757
エラー変数	354
オ	
オートメーション	1077
オートメーションとマクロ	1074
オブジェクトメニュー	68, 566
オブジェクトのキャプションスタイル	512
カ	
カイ二乗検定	945
カスタムエラーメッセージ	1059
カスタムオブジェクト	717
カスタムオブジェクトプロパティ¥：基本設定	719
カスタムオブジェクト¥：[オブジェクト]メニュー	717
カラーマップ詳細設定	787
キ	
キーボードコマンドショートカット	1093
キャプション	552, 597, 610, 624, 639, 646, 656, 671, 679, 684, 693, 700, 707, 716, 720, 790, 800, 810, 820, 834, 845, 853, 862, 870, 879, 889, 904, 916
キャプションと枠線	551, 599

ク	
クイックチャートウィザード	75, 927
クオート	321
クリア	76
クリア選択状態の解除	76
クリア選択状態の設定	76

グ	
グリッドチャート	835
グリッドチャート: オブジェクトメニュー	835
クリップボードコピーリスト	117
グループの設定	534

ゲ	
ゲージチャート	871
ゲージチャート: オブジェクトメニュー	871

こ	
ここで	333

コ	
コピーモード	117
コメント	566
コメントテーブル	282
コメントフィールド	281
コンテキストセルの展開	262
コンテキストメニューにデザインメニュー項目を常に表示	96
コンテキストの置換	263
コンテナ	709
コンテナオブジェクトプロパティ¥: 基本設定	711
コンテナオブジェクト: オブジェクトメニュー	709
コンテナプロパティ: プレゼンテーション	714
コンボチャート	801

コンボ チャート: オブジェクト メニュー	801
-----------------------	-----

サ

サーバー オブジェクト	566
サーバー オブジェクト パネル	721
サーバーへ接続	43

シ

シアン	455
シート ツールバー	62
シート プロパティ	556
シート プロパティ: セキュリティ	562
シート プロパティ: トリガー	563
シート プロパティ: 項目	559
シート プロパティ¥: オブジェクト	560
シート プロパティ¥: 基本設定	557
シート¥: オブジェクト メニュー	556
システム関数	416
システム項目	459
システム変数	347

ス

スクリプト エンジン	1077
スクリプト デバッグ	269
スクリプトでの統計検定関数	374
スクリプトのステートメントとキーワード	271
スクリプトの再実行	74
スクリプトの財務集計関数	373
スクリプト管理	211
スクリプト構文	271
スクリプト式	361
スクリプト制御ステートメント	276
スクリプト変数	346
スクリプト用パスワード	501

スタートページ	41
スタイル	636, 795, 805, 815, 826, 839, 851, 859, 867, 874, 884, 903, 915
ステータスバー	83
ストレートテーブル	905
ストレートテーブル: オブジェクトメニュー	906
ストレートボックスとしてのリストボックス	579
スパークライン	584, 757

す

すべての選択をクリア	76
スライダー/カレンダー オブジェクト	685
スライダー/カレンダー オブジェクトプロパティ::プレゼンテーション(カレンダーモード)	692
スライダー/カレンダー オブジェクトプロパティ::プレゼンテーション(スライダーモード)	690
スライダー/カレンダー オブジェクトプロパティ¥: 基本設定	687
スライダー/カレンダー オブジェクト: オブジェクトメニュー	685

セ

セキュリティ	239, 501
セキュリティ項目	239
セルの条件	260
セルの置換え	260

ソ

ソート	795, 805, 815, 826, 839, 851, 859, 874, 884, 899
-----	--

タ

タイトル設定	741
タイムチャートウィザード	937
タグ	342

チ

チャートコンポーネントのサイズ変更と移動	736
チャートテキスト	780
チャートプロパティ: 軸の制限	753

チャートプロパティ：数式	757
チャートプロパティ：スタイル	636, 903, 915
チャートプロパティ：スタイル(ビットマップチャート)	771
チャートプロパティ：プレゼンテーション(ゲージチャート)	875
チャートプロパティ：プレゼンテーション(ピボットテーブル)	899
チャートプロパティ：プレゼンテーション(ファネルチャート)	860
チャートプロパティ：プレゼンテーション(ブロックチャート)	867
チャートプロパティ：プレゼンテーション(メッコチャート)	774, 796, 806, 816, 885
チャートプロパティ：軸	747
チャートプロパティ：条件付き書式	902, 914
チャートプロパティ：色	785
チャートプロパティ：数式(散布図)	825
チャートプロパティ：目盛線	782
チャートプロパティ：目盛線(散布図)	831
チャートプロパティ¥：ソート	770
チャートプロパティ¥：ソート(ストレートテーブル)	910
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(コンボチャート)	774, 796, 806, 816, 885
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(ストレートテーブル)	911
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(円グラフ)	851
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(散布図)	826, 839
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(折れ線グラフ)	774, 796, 806, 816, 885
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(棒グラフ)	774, 796, 806, 816, 885
チャートプロパティ¥：基本設定	738
チャートプロパティ¥：数値書式	789
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(グリッドチャート)	826, 839
チャートプロパティ¥：プレゼンテーション(レーダーチャート)	774, 796, 806, 816, 885
チャートとテーブル内での選択	735
チャートのチャートカラー関数	453
チャートのレコード関数	1013
チャートのレコード関数の例	1041
チャートの印刷	74
チャートの財務集計関数	971
チャートの種類	740
チャートの順位付け関数	1020
チャートの順位付け関数の例	1037

チャートの数式	917
チャートの追加	47, 734, 743, 791
チャートの統計検定関数	974
チャートの範囲関数	1005
チャート項目関数	1023
チャート式	951
チャート集計関数	957

ツ

ツールバー	62, 79
ツリー 構造	600

デ

データソース	192, 242
データソースへの接続	229
データビューアー	222
データのロード	192-193
データベース	193
データベース ファイルを開く	235
データ型変換変数	350, 444
データ点のY-軸値	757
データ点の数式値	757

テ

テーブルビューアー	222
テーブルファイル	192
テーブルファイルウィザード：種類	243
テーブルボックス	625
テーブルボックスプロパティ：ソート	633
テーブルボックスプロパティ：プレゼンテーション	634
テーブルボックスプロパティ：数値書式	637
テーブルボックスプロパティ¥：基本設定	631
テーブルボックス: オブジェクトメニュー	625
テーブルラベル	346

テーブルの書式	318
テーブル変換ウィザード	249
テーマ	725
テーマ作成ウィザード	727-730
テキストオブジェクト	673
テキストオブジェクトプロパティ¥: 基本設定	675
テキストオブジェクト: オブジェクトメニュー	673
テキスト検索	127
デザインツールバー	62
デバッグ	269

ド

ドキュメント サポート情報	70
ドキュメントプロパティ	508
ドキュメントプロパティ: サーバー	521
ドキュメントプロパティ: キャプション	552, 597
ドキュメントプロパティ: グループ	533
ドキュメントプロパティ: セキュリティ	528
ドキュメントプロパティ: ソート	538
ドキュメントプロパティ: トリガー	530
ドキュメントプロパティ: フォント	98, 545, 592
ドキュメントプロパティ: プレゼンテーション	539
ドキュメントプロパティ: レイアウト	546, 593
ドキュメントプロパティ: 暗号化	543
ドキュメントプロパティ: 拡張機能	544
ドキュメントプロパティ: 数値書式	541
ドキュメントプロパティ: 変数	525, 653
ドキュメントプロパティ¥: シート	519
ドキュメントプロパティ¥: テーブル	535
ドキュメントプロパティ¥: 起動画面	517
ドキュメントプロパティ¥: 変数	525, 653
ドキュメントプロパティ¥: 基本設定	508
ドキュメントレポート	152
ドキュメントのデータソース	242
ドキュメント関数	424

ドル記号展開	356
ト	
トレリス	753
ナ	
ナビゲーションツールバー	62
ネ	
ネストされた集計	1047
ノ	
ノート	566
バ	
パーソナルエディション	29
ビ	
ビット演算子	364, 956
ピ	
ピボットテーブル	891
ピボットテーブル: オブジェクトメニュー	895
ピボットテーブルの使用	891
フ	
ファイルウィザード	241, 243-249, 257, 268
ファイルウィザード: ソース	241
ファイルウィザード: 種類	243
ファイルウィザード: 上級	257
ファイルウィザード: 変換	249
ファイルデータ	192
ファイルの印刷	74
ファイルの新規作成	73

ファイル関数	419
ファネルチャート	855
ファネルチャート: オブジェクトメニュー	855
フォント	98, 545, 592, 610, 624, 638, 646, 656, 671, 679, 693, 700, 707, 715, 790, 799, 809, 819, 834, 844, 853, 862, 870, 879, 888, 904, 916
フォント (チャートタイトル)	98, 545, 592

ブ

ブックマーク	139, 143
ブックマーク オブジェクト	695
ブックマーク オブジェクト プロパティ¥: 基本設定	697
ブックマーク オブジェクト¥: [オブジェクト]メニュー	695
ブックマーク ツールバー	62
ブックマークのインポート	146
ブックマークのエクスポート	146
ブックマークの追加	139
ブックマークの追加 (ブックマーク オブジェクト)	75
ブックマークを作成します	139

ブ

プロジェクト ファイル	51
ブロックチャート	863
ブロックチャート: オブジェクトメニュー	863
プロパティ ファイル	51

ペ

ページ設定	165
-------	-----

へ

ヘッダー サイズ	320
----------	-----

ボ

ボタン	657
[オブジェクト]メニュー	657

ボタンプロパティ: アクション	661-662
ボタンプロパティ: 基本設定	659
ポ	
ポップアップ ウィンドウ設定	514
マ	
マイレポート	152
マクロ	356, 530, 563, 661, 1077
マゼンタ	455
マップ関数	410
マルチ ボックス	611
マルチ ボックス プロパティ: ソート	617
マルチ ボックス プロパティ: プレゼンテーション	618
マルチ ボックス プロパティ: 数値書式	623
マルチ ボックス プロパティ¥: 基本設定	615
マルチ ボックス: オブジェクト メニュー	611
ミ	
ミニ チャートの設定	584
メ	
メッコチャート	881
メッコチャート: オブジェクト メニュー	881
モ	
モジュールの編集	1079
や	
やり直し	76
ユ	
ユーザー プロパティ: エディタ	91
ユーザー プロパティ: オブジェクト	96

ユーザープロパティ: パス	105
ユーザープロパティ: セキュリティ	107
ユーザープロパティ: デザイン	94
ユーザープロパティ: メール	104
ユーザープロパティ: 登録	108
ユーザープロパティ: 保存	89
ユーザープロパティ¥: エクスポート	100
ユーザープロパティ¥: 印刷	103
ユーザープロパティ¥: 基本設定	85
ユーザー設定	79
ユーザー設定 ツールバー	79

ラ

ラベル	319, 762
-----	----------

リ

リストボックス	569, 600
リストボックスプロパティ: ソート	586
リストボックスプロパティ: 基本設定	573
リストボックスプロパティ: 数式	579
リストボックスプロパティ¥: プレゼンテーション	587
リストボックスプロパティ¥: 数値書式	590
リストボックス: オブジェクトメニュー	569
リストボックス: ツリー構造	577
リストボックスのANDモード	132
リストボックスのツリー構造	573, 600
リストボックスの追加	559
リロード	74
リンクテーブル	193

レ

レイアウト 546, 593, 610, 624, 638, 646, 656, 671, 679, 684, 693, 700, 707, 715, 720, 790, 800, 810, 820, 834, 845, 853, 862, 870, 879, 889, 904, 916	
レイアウト変更のやり直し	74
レイアウト変更を元に戻す	74

レーダーチャート	811
レーダーチャート: オブジェクト メニュー	811
レコードの長さ	320
レコード関数	412
レポート	149-150
レポートメニュー	67, 150
レポート設定	162
レポート編集	150

□

ローカルオブジェクト	566
ロードスクリプトのチャートカラー関数	453
ロードスクリプトの編集	74
ロードレコード数の制限	270
ロック	76

暗

暗号化	543
-----	-----

一

一般的数値関数	385
一般的数値関数 (チャート)	1000

印

印刷	74
印刷: ヘッダー/フッター	114
印刷: レイアウト	112
印刷: 基本設定	111
印刷オプション: 基本設定	111
印刷オプション: 日付と時間	115
印刷プレビュー	116

引

引用符	358
-----	-----

隠	
隠しスクリプト	74, 221
円	
円グラフ	847
円グラフ: オブジェクトメニュー	847
演	
演算子	361, 954
黄	
黄	456
画	
画像拡大/縮小	677
開	
開いているドキュメント	69
開く	73
階	
階層グループ (ドリルダウン)	1055
階層パラメータ	266
環	
環境関数	416
関	
関係演算子	363, 955
基	
基準線	778, 830, 843
基本設定	746, 794, 804, 814, 824, 858, 866, 874, 883, 899, 909

	起	
起動		661
	共	
共有パネル		721
	区	
区切り記号		319
	計	
計算式の数式構文		1053
計算軸		749
	検	
検索		75, 127, 130
検索/置換		221
検索オブジェクト		701
検索オブジェクトプロパティ：ソート		706
検索オブジェクトプロパティ：基本設定		703
検索オブジェクトプロパティ：プレゼンテーション		705
検索オブジェクト：[オブジェクト]メニュー		701
	元	
元に戻す		76
	現	
現在の選択条件		124
	行	
行の選択条件の指定		258
	項	
項目		207

項目タグ	207
項目関数 (チャート)	1023
項目詳細設定	620
項目内の複数選択	122
項目名の変更	464

高

高度な検索	130
高度な集計	368

合

合成軸関数	999
-------	-----

黒

黒	454
---	-----

最

最新の情報に更新	73
----------	----

財

財務関数	400
------	-----

三

三角関数と双曲線関数	397
------------	-----

散

散布図	821
散布図: オブジェクトメニュー	821

指

指数関数と対数関数	396
-----------	-----

軸

軸	747, , 805, 815, 825, 838, 850, 859, 867, 874, 884, 899, 909
---	--

軸の制限 753, 795, 805, 815, 825, 839, 851, 859, 867, 884, 909

集

集計関数 364

集計修飾子の例 1033

循

循環参照 133

書

書式 591

書式コード 1069

書式指定アイテム 317

書式設定関数 447

条

条件付き関数 414

色

色 454, , 809, 819, 833, 844, 853, 862, 869, 878, 888

色の設定 515

色分け 119

新

新規作成ウィザード 47

新規列用セルの指定 261

数

数学定数とパラメータフリー関数 402

数式 757, 795, 805, 815, 839, 851, 859, 867, 874, 884, 899, 909

数式の定義 917

数式の編集 917

数式一覧 185

数値 591, 799, 809, 819, 834, 844, 853, 862, 869, 878, 888, 904, 916

数値演算子	362, 954
数値書式	541
青	
青	455
赤	
赤	455
接	
接続用疑似 URL	43
折	
折れ線グラフ	791
折れ線グラフ: オブジェクトメニュー	792
設	
設定メニュー	65
先	
先頭文字を大文字に設定	408
線	
線/矢印オブジェクト	681
線/矢印オブジェクトプロパティ¥: 基本設定	682
線/矢印オブジェクト: [オブジェクト]メニュー	681
選	
選択の移動	122
選択状態	119
選択表示ボックス	641
選択表示ボックスプロパティ¥: 基本設定	644
選択表示ボックス: オブジェクトメニュー	641

疎	
疎結合テーブル	133, 1113
組	
組込み値	527, 655
挿	
挿入、更新、および削除	498
挿入および更新	497
挿入のみ	496
他	
他のオブジェクトへのテーマの適用	727
大	
大規模な導入での QlikView ツールバーのカスタマイズ	82
値	
値を操作する変数	349
茶	
茶	455
追	
追加	276
追加のみ	496
定	
定義	760
統	
統計チャートウィザード	945
統計ボックス	603

統計ボックスプロパティ：数値書式	609
統計ボックスプロパティ¥：基本設定	606
統計ボックス: オブジェクトメニュー	603
統計関数	403
統計的分布関数	397
独	
独立標本 t 検定	947
内	
内部 VBScript インタープリタ	1077
内部ファイル	187
内部マクロ インタープリタ	1077
内容をエクスポート	118
日	
日付と時間関数	424
入	
入力フィールド	208, 305
入力フィールドの集計関数	990
入力ボックス	647
入力ボックスプロパティ：プレゼンテーション	652
入力ボックスプロパティ：数値書式	655
入力ボックスプロパティ：制約	525, 653
入力ボックスプロパティ¥：基本設定	650
入力ボックス: オブジェクトメニュー	647
濃	
濃い灰色	454
配	
配色	119
配色ウィザード	921

配置	677
白	
白	454
箱	
箱ひげ図	925-926
範	
範囲関数 (スクリプト)	391
範囲関数 (チャート)	1005
非	
非階層グループ (サイクリック)	1056
標	
標準ツールバー	62
表	
表関数	423
表示メニュー	62
文	
文字セット	317, 492
文字列演算子	362, 954
文字列関数	405
並	
並列ステート	135
変	
変換関数	1025
変数	209

変数の新規作成	525, 653
変数一覧	183
棒	
棒グラフ	743
棒グラフ: オブジェクトメニュー	743
凡	
凡例の書式	777
埋	
埋め込み画像ファイル	187
明	
明るいシアン	455
明るいマゼンタ	455
明るい灰色	454
明るい青	455
明るい赤	455
明るい緑	455
目	
目盛線	799, 809, 819, 844, 888
緑	
緑	455
累	
累積	768
列	
列	1020

論

論理演算子	363, 955
論理関数	416

